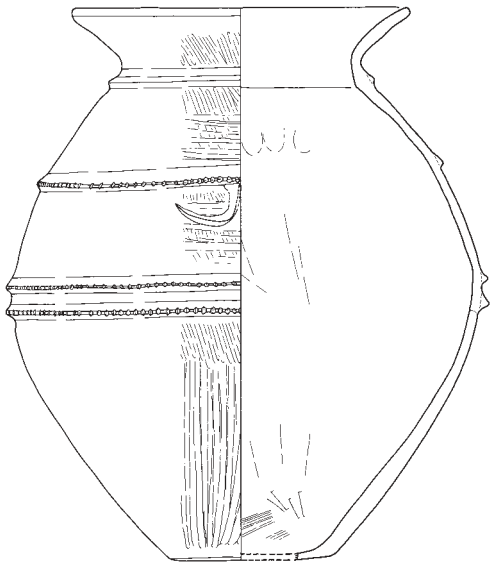
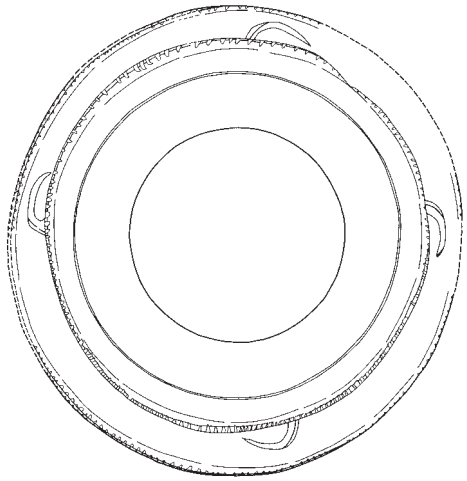
熊本県文化財調査報告第225集

前 田 遺 跡

国土交通省菊池川河川事務所月田地区排水樋管築堤等工事
及び県道玉名立花線単県道路改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査





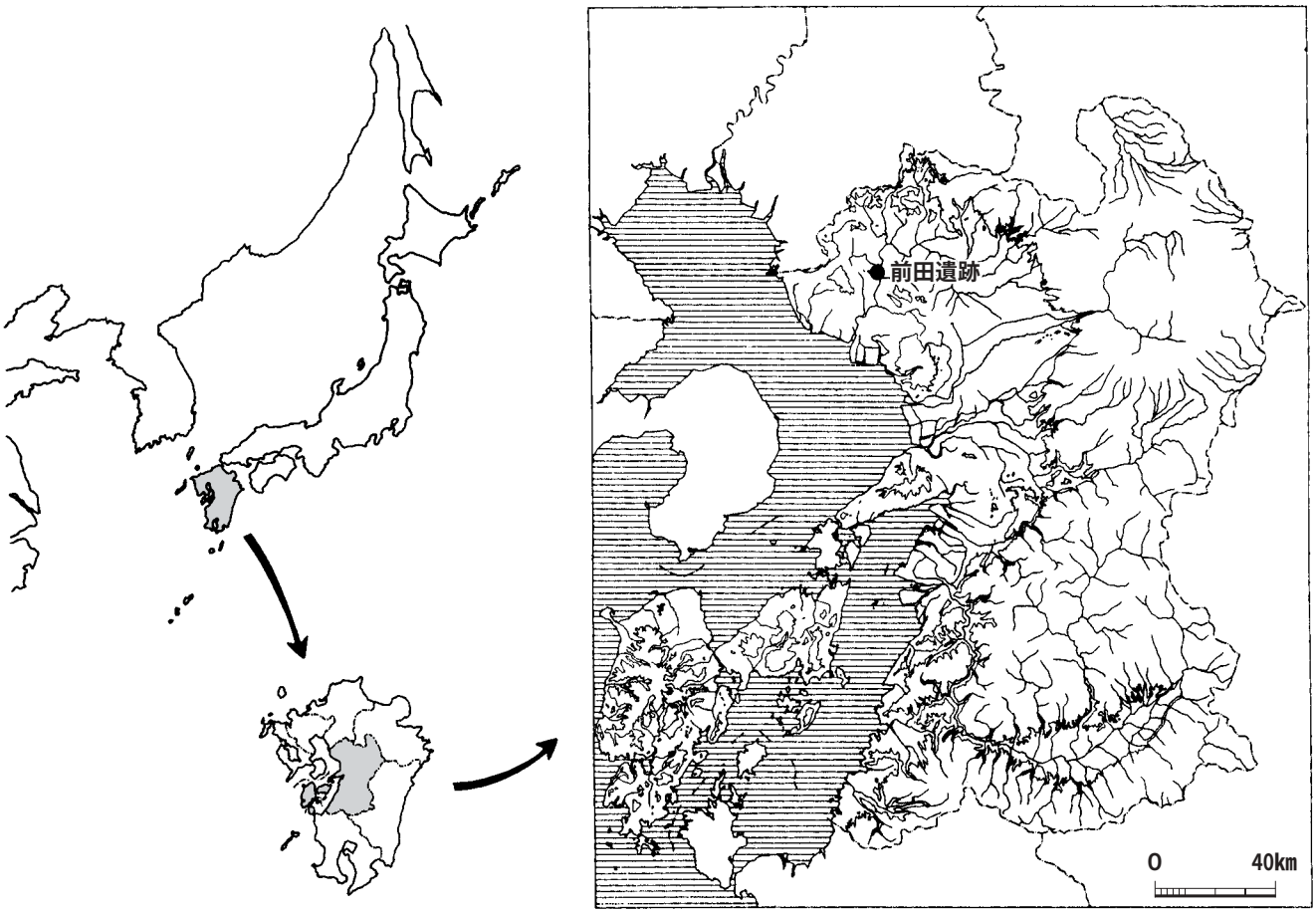
2005．3

熊本県教育委員会

Copyright by Board of Education, Kumamoto Prefectural Office

熊本県文化財調査報告書第225集

前　田　遺　跡



2005

熊本県教育委員会

写真（PL）1　空撮 1（遺跡上空より雲仙方面を望む）

写真（PL）２　空撮２（遺跡上空より久住・阿蘇方面を望む）

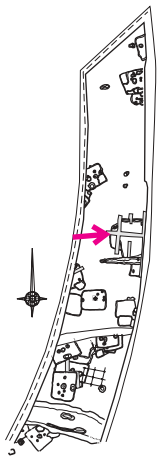
写真(PL) 3　空撮 3 （遺跡全景）

写真(PL) 4　空撮 4 （遺跡周辺）

写真(PL) 5　空撮 5 （調査 2 区全景）

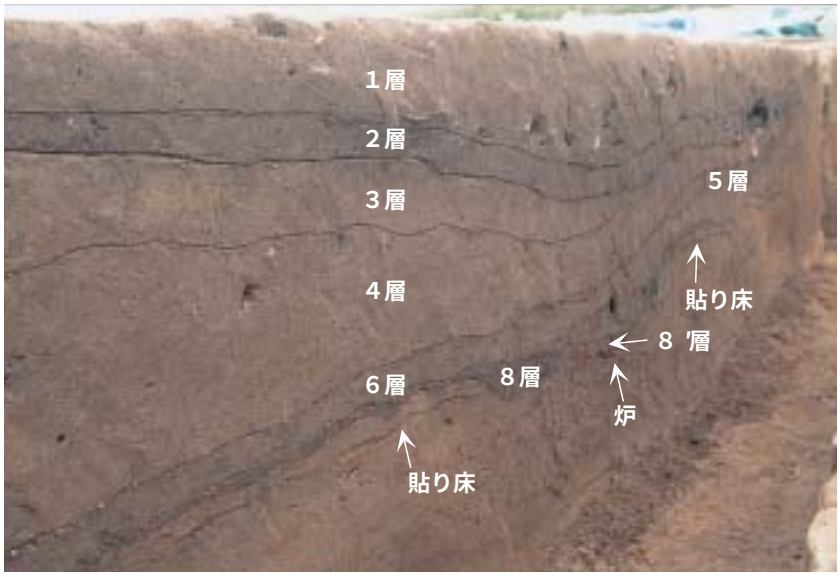
写真(PL) 6　空撮 6 （調査 1 区）

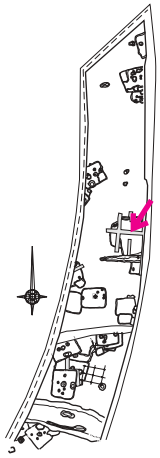
写真(PL) 7　空撮 7 （調査 1 区）



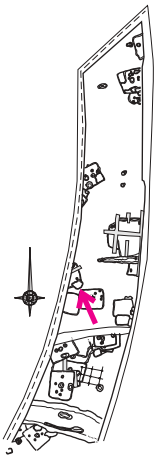
写真(PL)8
調査１区
S106,108遺物出土状況

写真(PL)9
調査１区
S106筒型器台出土状況

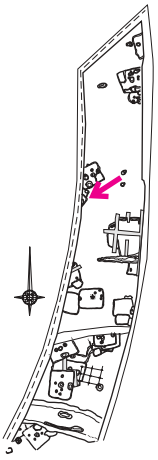




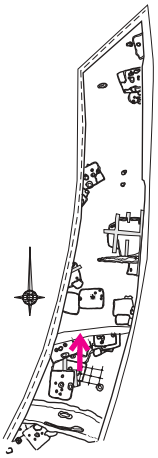
写真(PL)10
調査１区
S106土層断面
（炉と貼り床）

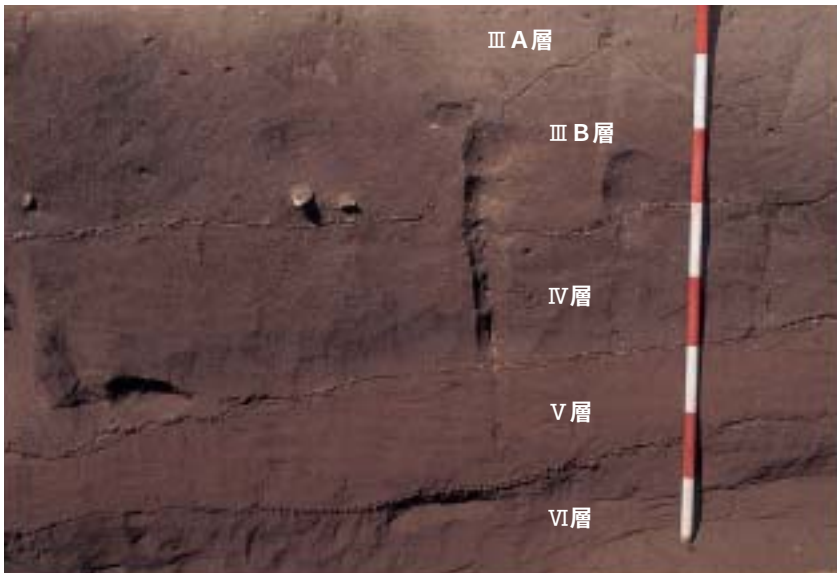


写真(PL)11
調査１区
S138遺物出土状況

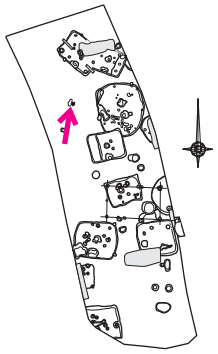


写真(PL)12
調査１区
S110銅鏃出土状況

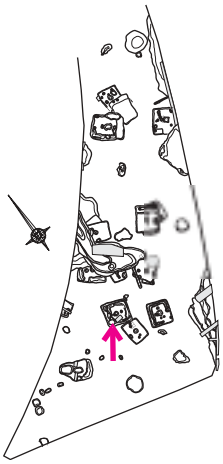




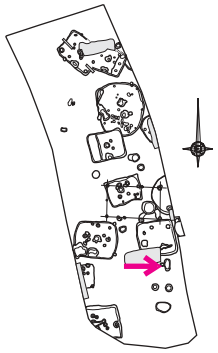
写真(PL)13
J-8グリッド基本土層



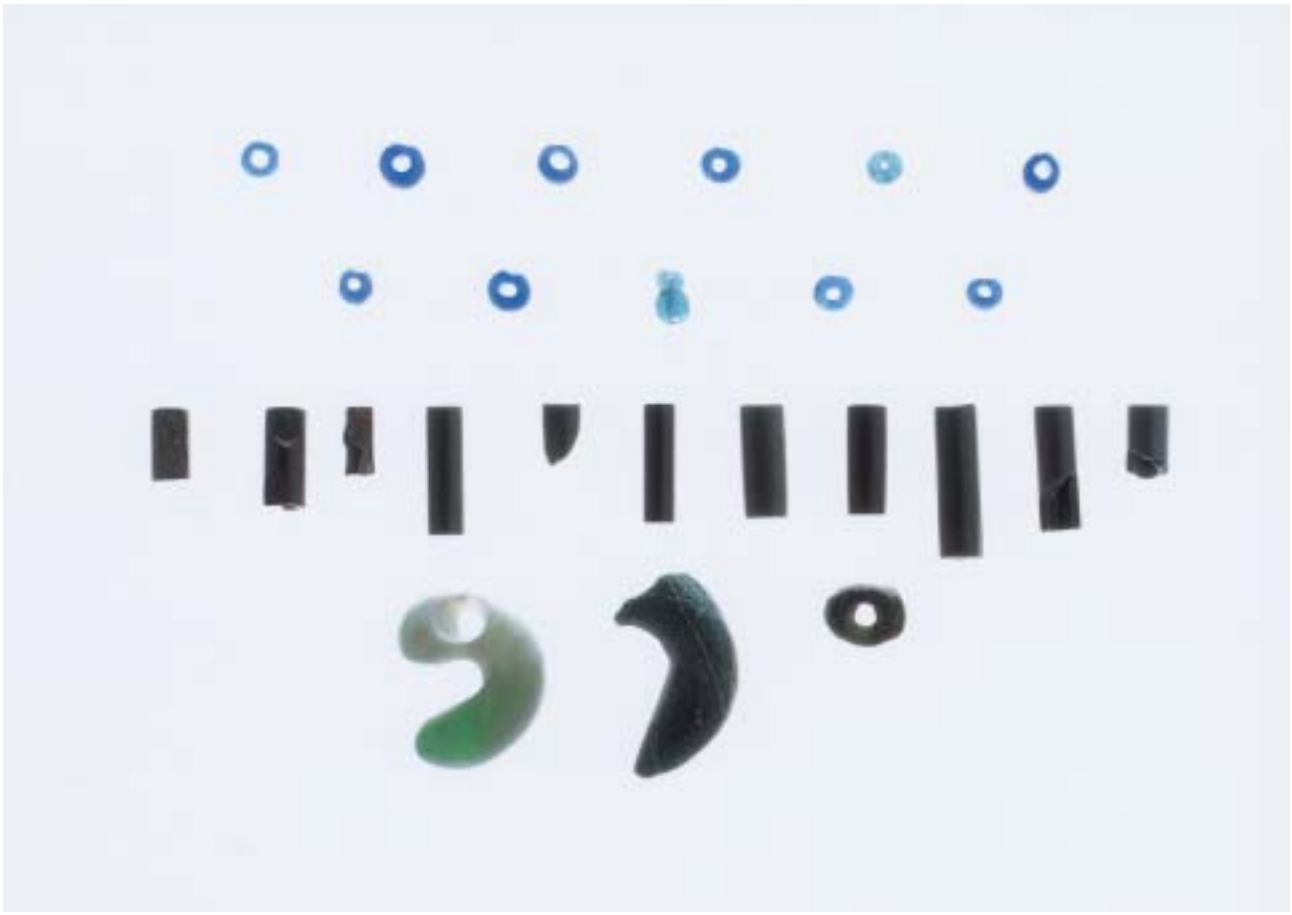
写真(PL)14
調査２区
S009粘土貼り付け状況



写真(PL)15
調査１区
S096中世墓
遺物・人骨出土状況



写真(PL)16
調査２区
S013遺物出土状況



写真(PL)17　出土遺物（ガラス小玉、石製管玉、石製勾玉、石製小玉）

写真(PL)18　出土青銅・鉄器（左：弥生、右：中世）

写真(PL)19　出土遺物（土製紡錘車、土製勾玉、土錘、刀の笄の留め具？、古銭）

写真(PL)20　弥生時代中期後半の土器（S106）

写真(PL)21　弥生時代中期後半の土器（左：S009、右：S008）

写真(PL)22　弥生時代中期後半の土器（S092）

写真(PL)23　弥生時代後期の土器（S138）

写真(PL)24　弥生時代後期の土器（S118）

写真(PL)25　弥生時代の石器（石包丁、紡錘車）

写真(PL)26　弥生時代の石器（磨製石鏃、石戈）

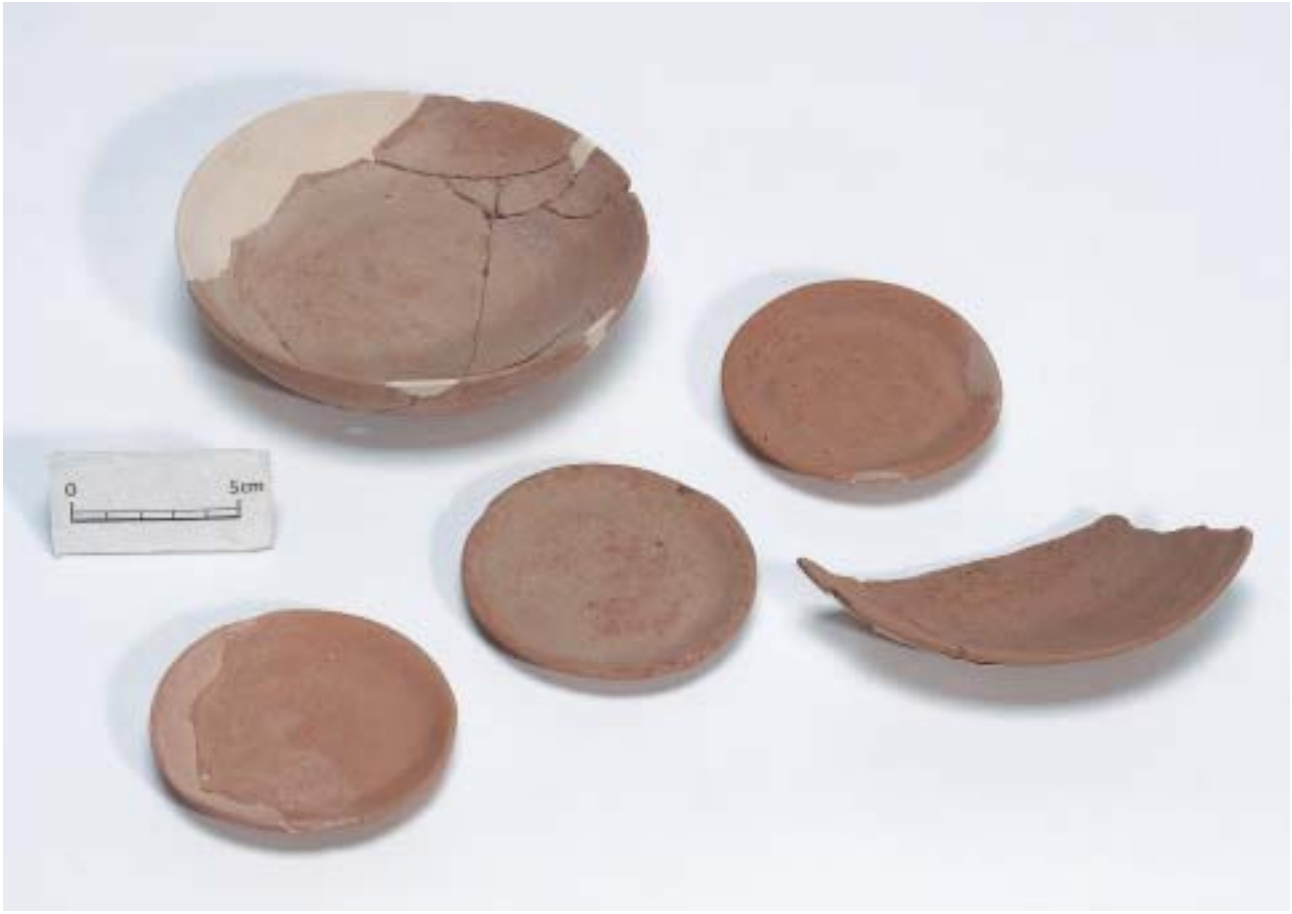
写真(PL)27　弥生時代の土器

写真(PL)28　縄文時代後期の土器

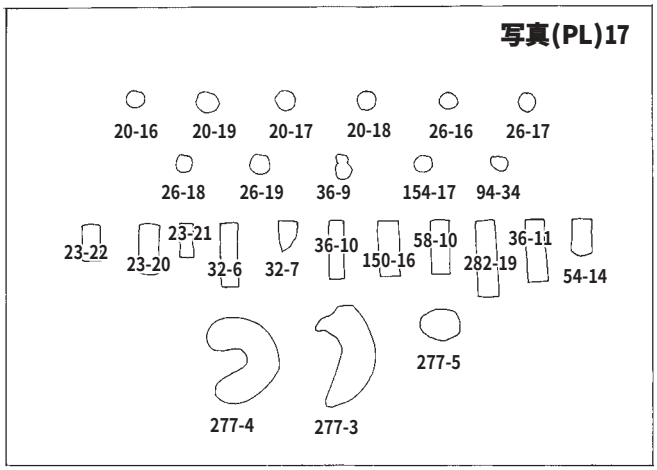
写真(PL)29　縄文時代の石器（打製石鏃、石匙、石斧、剥片）

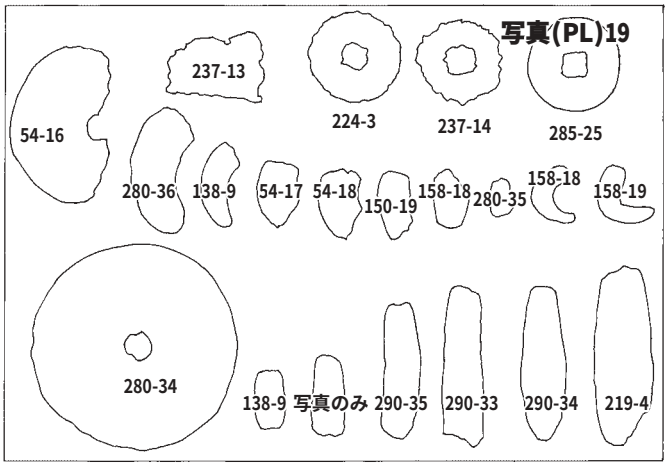
写真(PL)30　縄文時代晩期の土器（組織痕土器、赤彩土器）

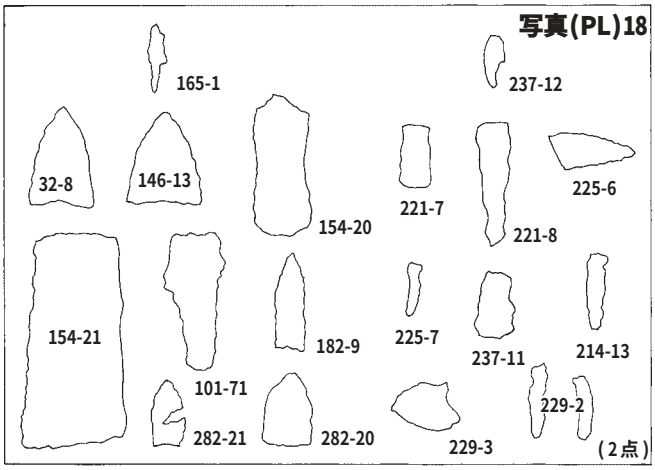
写真(PL)31　中世の青磁と土師皿（S096）

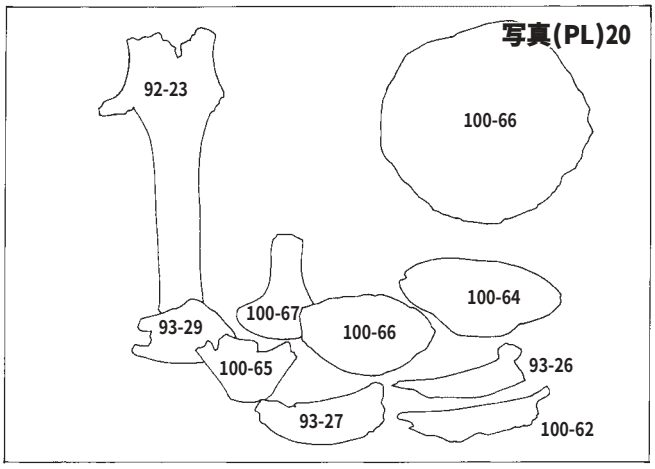


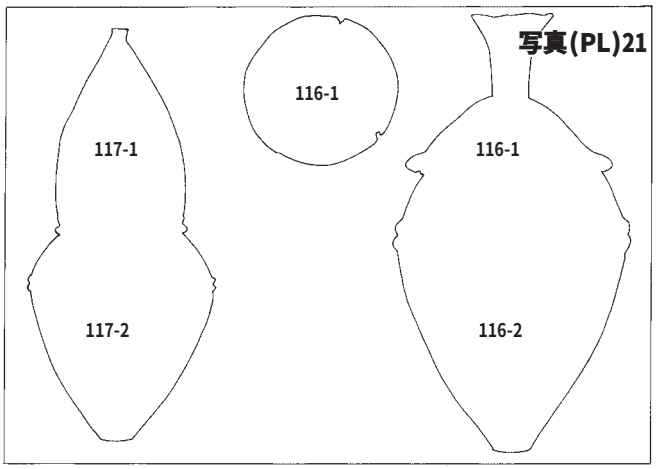
写真(PL)32　中世の土師皿と杯（S013）

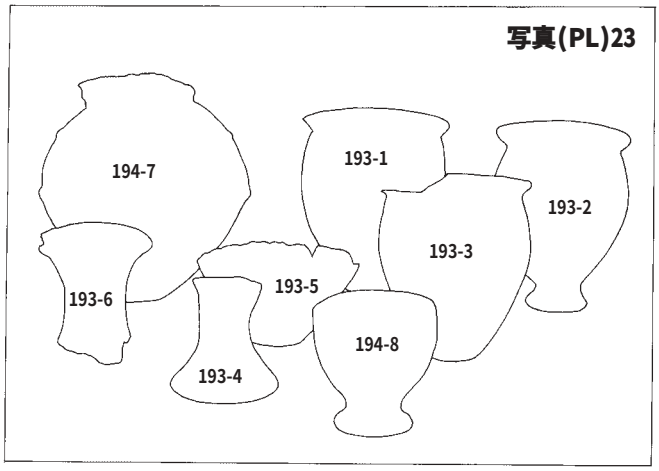


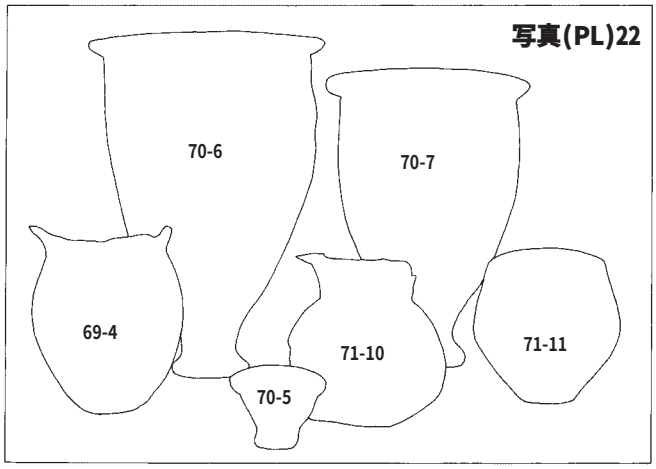


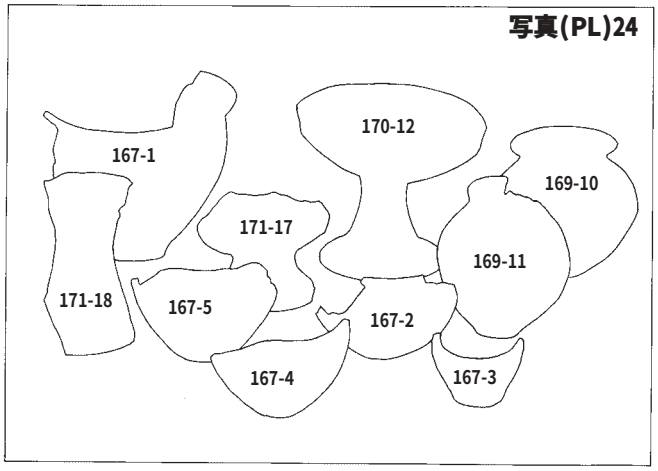




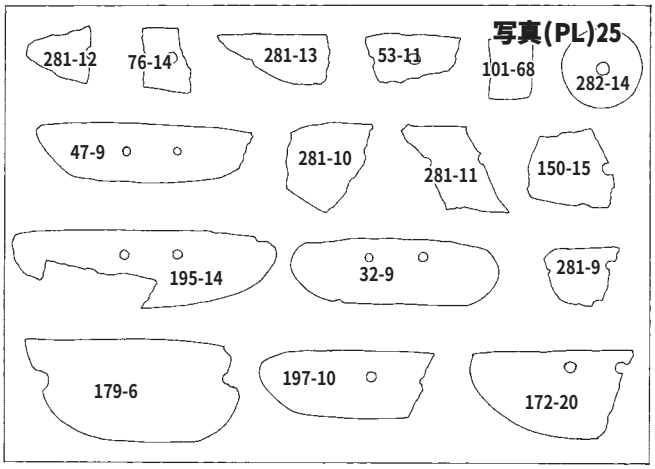


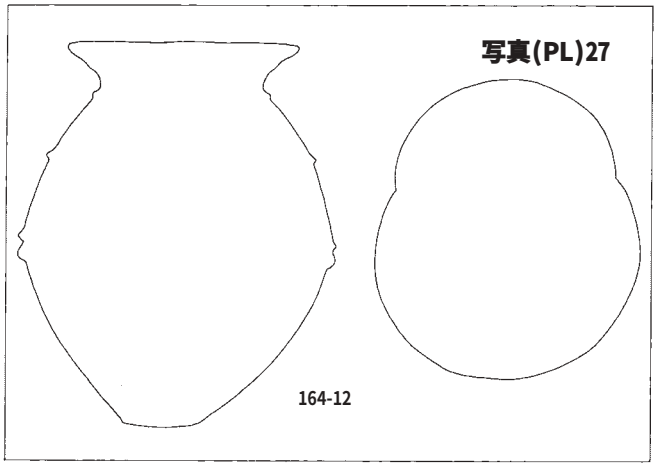


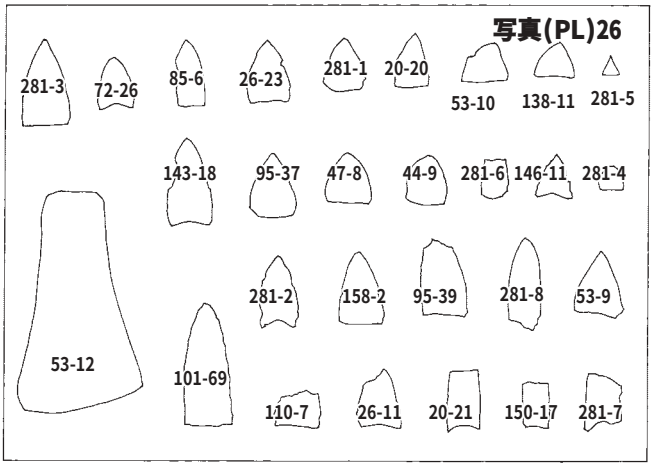


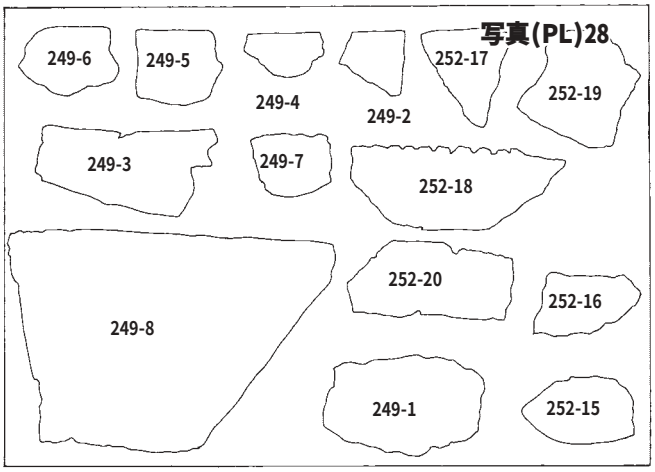


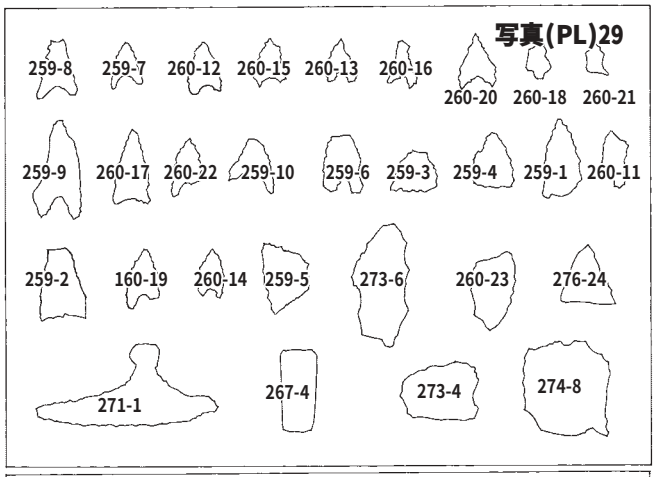
巻頭カラー　遺物番号（PL17～PL24）

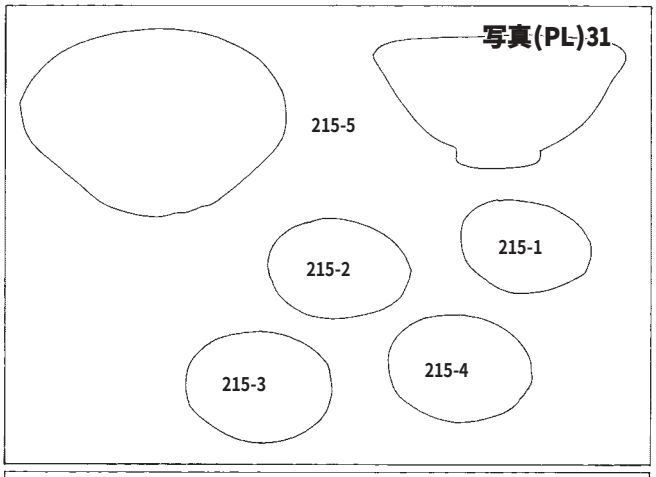


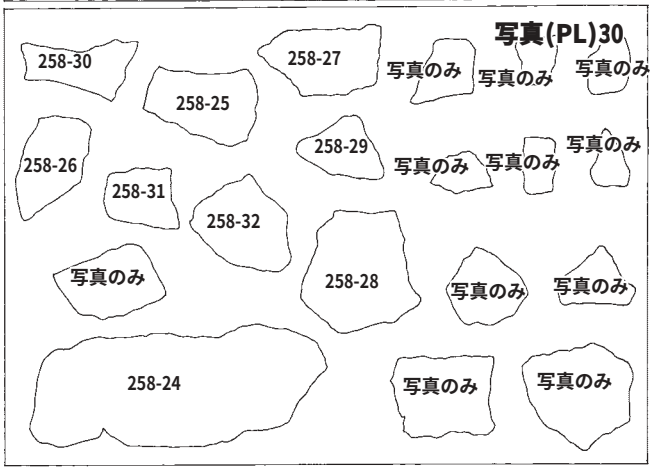


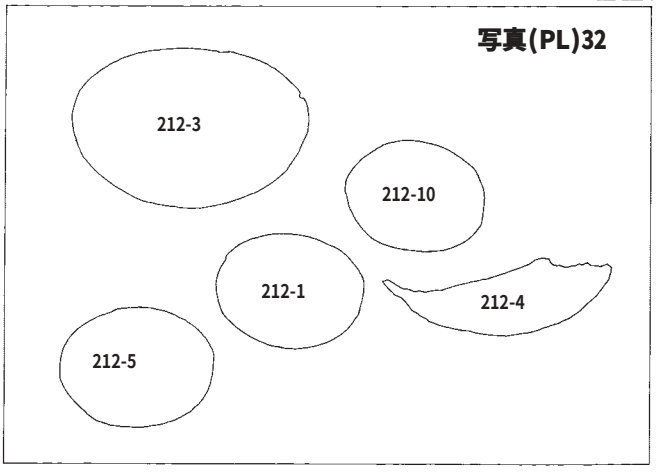












巻頭カラー　遺物番号（PL25～PL32）

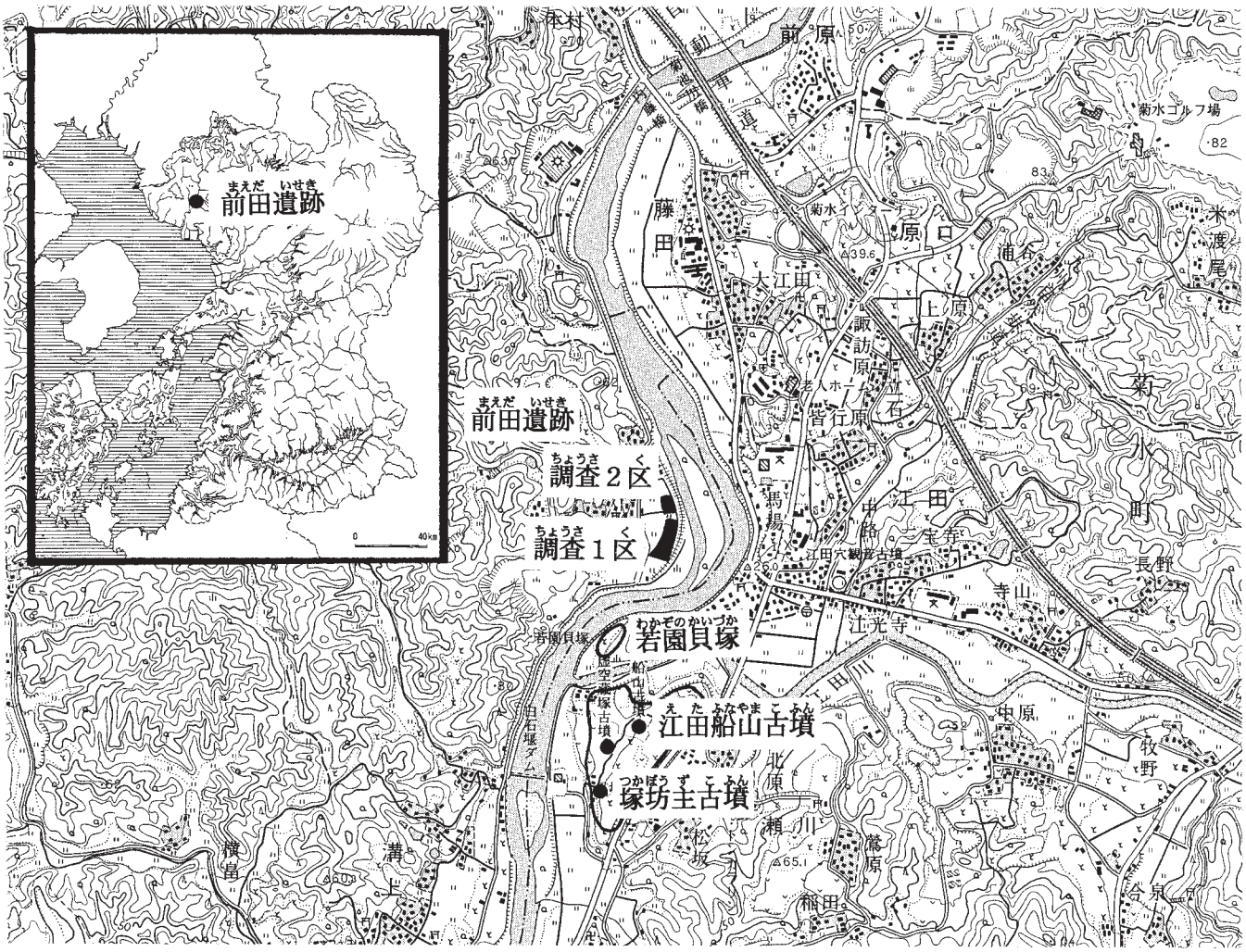
発掘調査でわかった前田遺跡の様子

【前田遺跡の紹介】

前田遺跡は、玉名市大字月田字前田にある菊池川の下流、右岸の自然堤防上に広がる遺跡です。標高は約10.5mです。この辺りは遺跡の密集地帯で、対岸の清原台地（菊水町）には江田船山古墳や塚坊主古墳などの前方後円墳、台地の中腹には縄文時代後期（今から約4,000年～3,000年前）の若園貝塚などがあります。

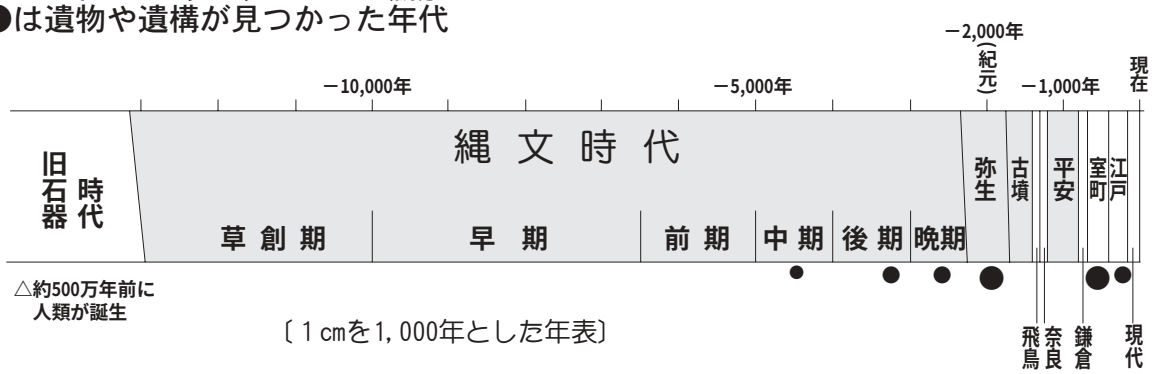
【調査のきっかけ】

この遺跡の上に菊池川の堤防と県道が建設される事になりました。堤防や県道が建設されると半永久的に遺跡が埋もれてしまったり、部分的に壊されることになります。この様な場合には「文化財保護法」に基づいて、事前に発掘調査を行い、遺跡の記録（報告書）を後世に残すための作業を行います。調査は、平成13年７月から平成14年８月まで行われ、約4,656㎡という範囲を対象としました。



図(Fig) 1　周辺遺跡地図　S＝1／25,000

●は遺物や遺構が見つかった年代

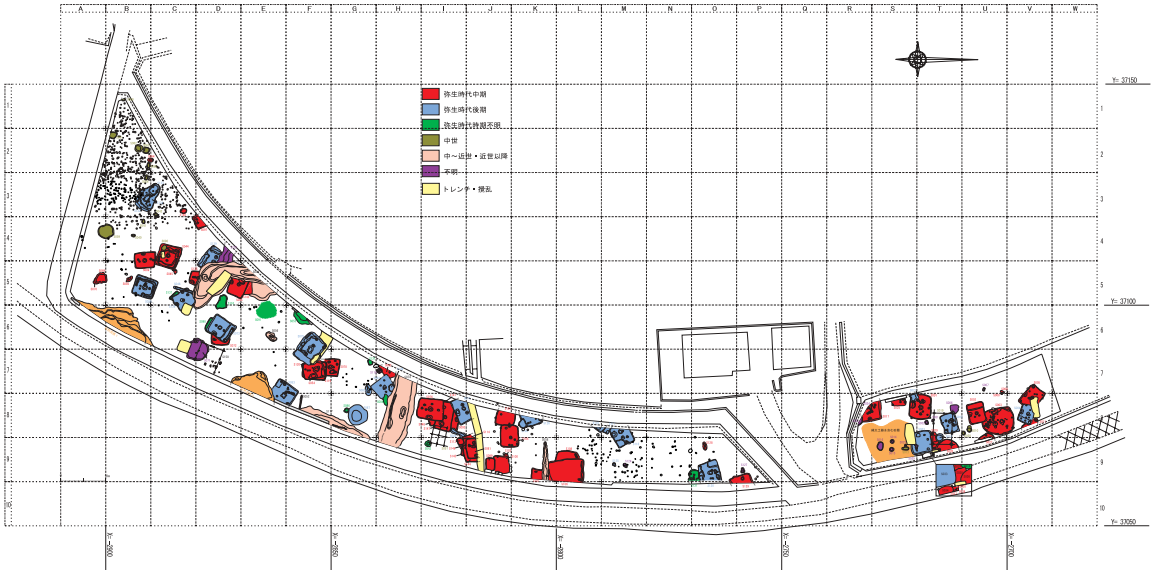


表(Tab)1　遺跡年表（網田 1995を改変）

【調査でわかったこと】

調査の結果、縄文時代の中期（今から約5,000年～4,000年前）から江戸時代（今から約400年～140年前）にかけての人々の生活の跡を確認することができました。

特に弥生時代中期後半から後期前半（今から約2,100年～1,900年前）と鎌倉時代の始めころ（今から約850年～800年前）は遺物や遺構が多く確認されており、この遺跡の中心となる時代であることが判明しました。



図(Fig)2　遺跡配置図

【用語の説明】

石器…石で作った道具のこと。例えば石鏃（矢じり）など。

土器…粘土を焼いて作った器のこと。

鉄器…鉄で作った道具のこと。

遺物…昔の人が使った土器、石器や鉄器などのこと。

遺構…昔の人が残した生活の跡。例えば住居跡（家の跡）など。

遺跡…遺構や遺物が発見された場所のこと。

①縄文時代

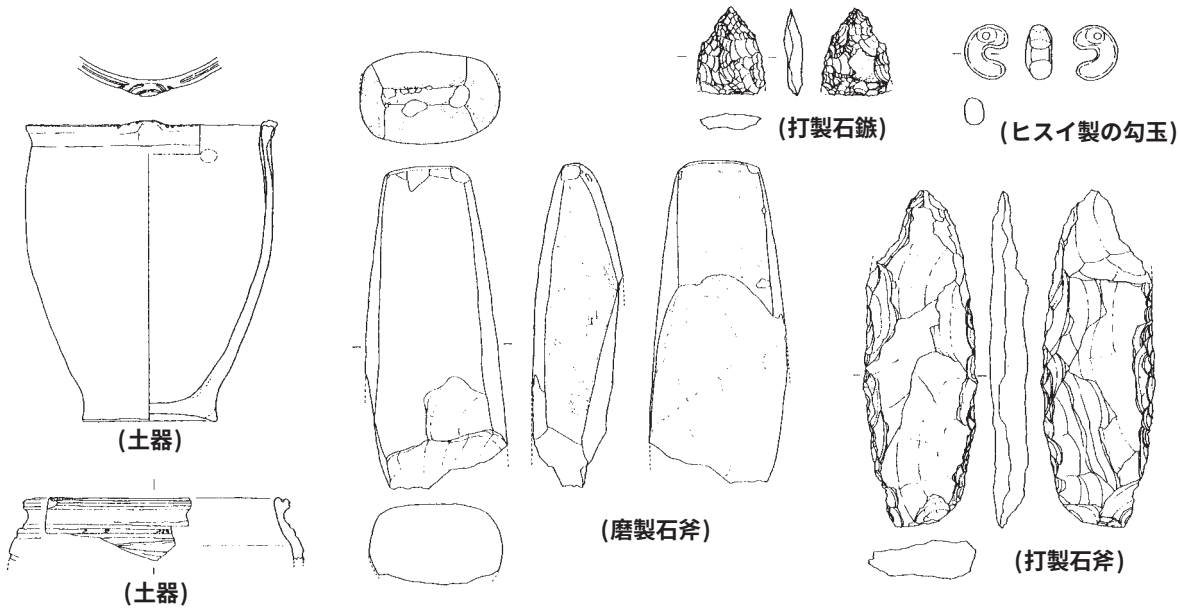
[生活の様子]

縄文時代は後期（今から約4,000年～3,000年前）から晩期（今から約3,000年～2,500年前）を中心に土器や石器が残されていました。当時は、山での木の実などの採集や狩猟、海や川での漁などが生活の中心だったと考えられます。

食べ物を煮炊きしたり、貯蔵するための土器、狩りをするための打製石鏃、木を伐採するための磨製石斧、土を掘るための打製石斧などが出土しています。

[物語る交流]

打製石鏃などの石器は、主に黒曜石という割るとガラスのような鋭い石で作られています。この黒曜石は現在の佐賀県の腰岳という山で産出される石材であり、当時の人々の幅広い交流を物語ってくれます。また、ヒスイ製の勾玉は、現在の富山県や新潟県で産出される石材で作られており、誰が、なぜ、どのようにして運んで来たのか興味が尽きません。

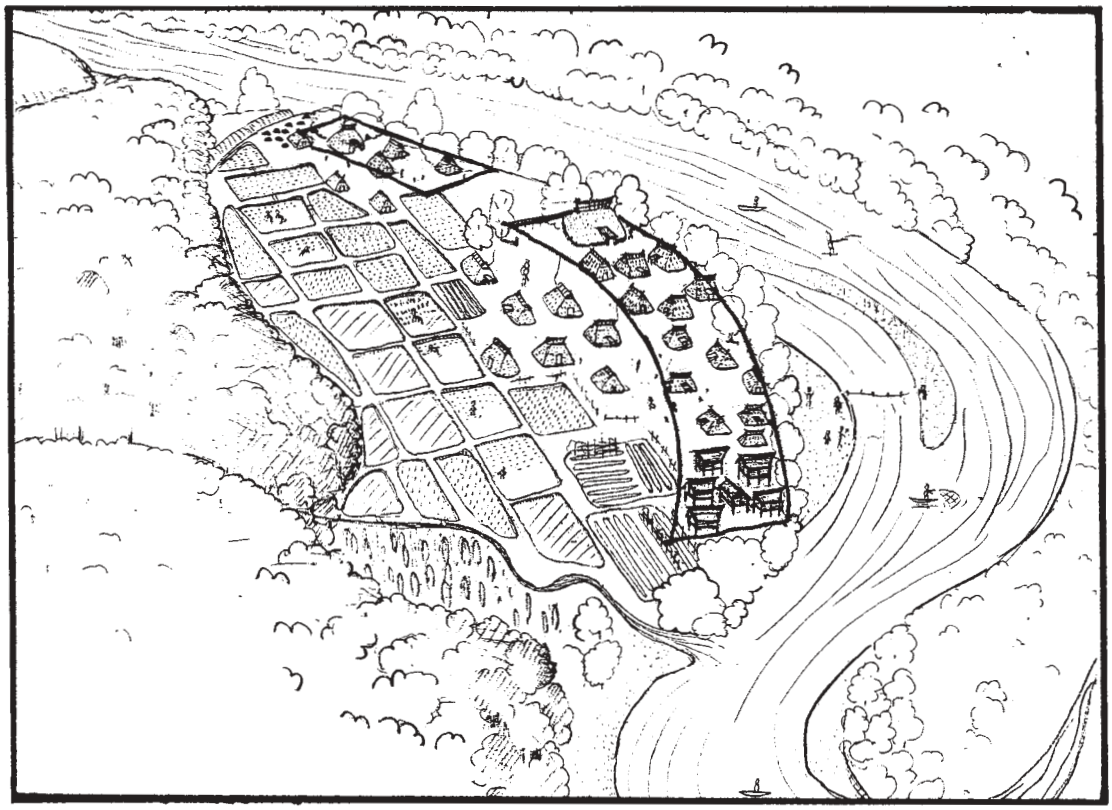


図(Fig)３　縄文時代の出土遺物

②弥生時代（図４～８を参照）

[集落の存在]

弥生時代は、中期後半から後期前半（今から約2,100年～1,900年前）にかけて集落が存在したことが判明しました。遺構は95基あり、住居跡は59軒、甕棺という土器



図(Fig)４　弥生時代中期後半～後期前半における前田遺跡の想像図　（絵：阿南麻衣氏）

を棺にしたお墓が２基、貝殻を捨てた穴が１基、掘られた穴が30基、溝が２条、不明遺構が１基確認されました。

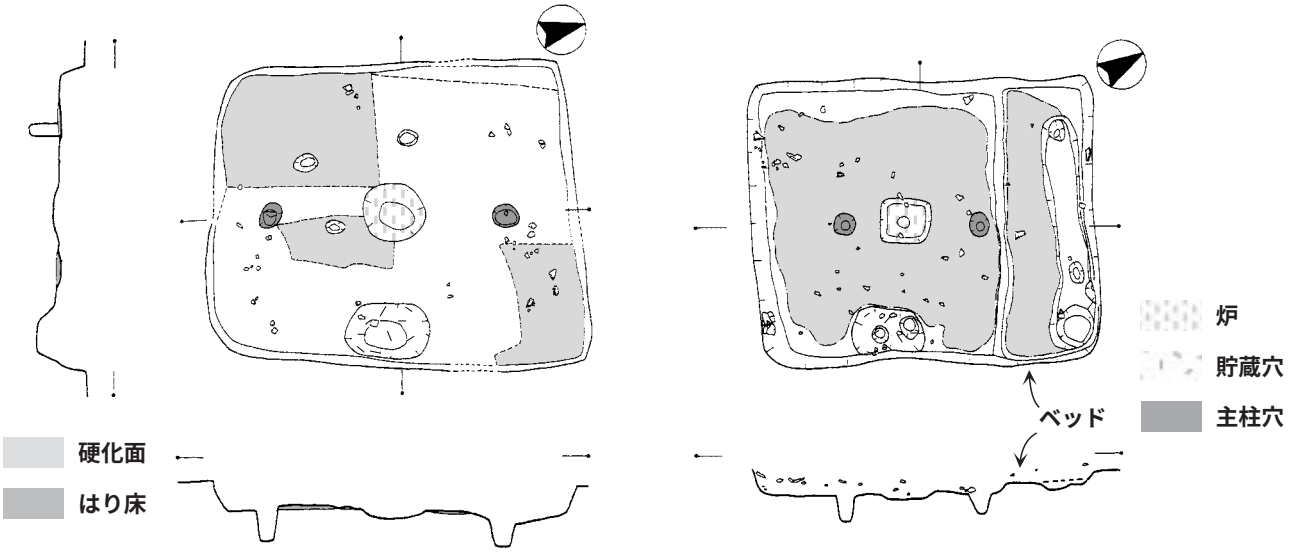
調査区の北側の端には甕棺が２基確認されていることから、調査区外に墓域が広がる可能性が考えられます。また、北側や西側はもともと標高が高く、微高地であったと考えられます。

[住居の様子]

住居は、基本的に幅約４～５ｍの長方形で、深さ約30～50？㎝ほどの掘り込みを行い、近くに産出する山砂を敷いた後、中央に炉、中央端に貯蔵穴を掘り込んで、両端に２本の柱を立て、家を建てたと推定されます。中には、隅にベッド状の高まりをもつものもありました。後期前半になると住居と住居の間隔が、10～15mほど空けて建てられていることも判明しました。

[出土遺物が物語るもの]

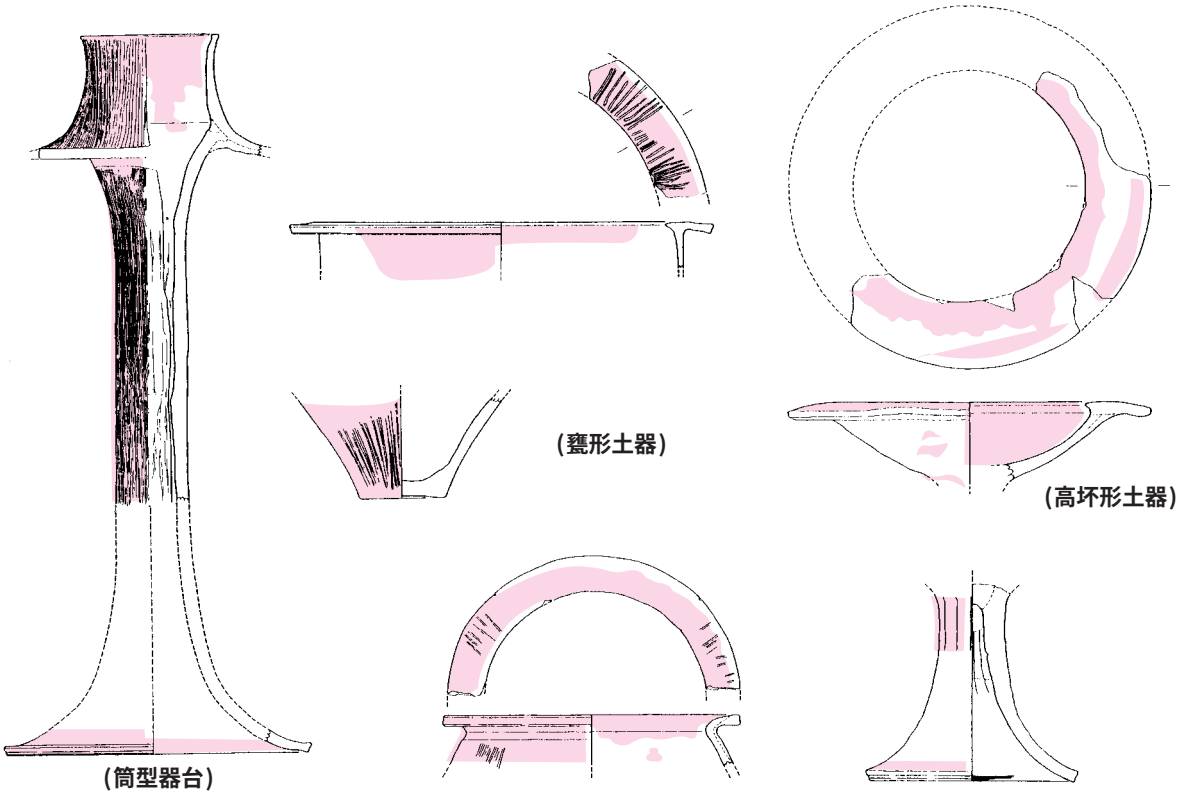
出土した土器には、物の煮炊きや貯蔵などに使用する甕、壺、鉢、高杯形土器が多くありました。その中には赤い色を塗った土器が見られました。これらの土器は



図(Fig) 5　弥生時代の住居

当時の北部九州の影響を受けた土器で、主に祭りに使用されていたと推定されます。また、住居から出土した鉄斧は、当時の韓半島との交流を物語るものです。

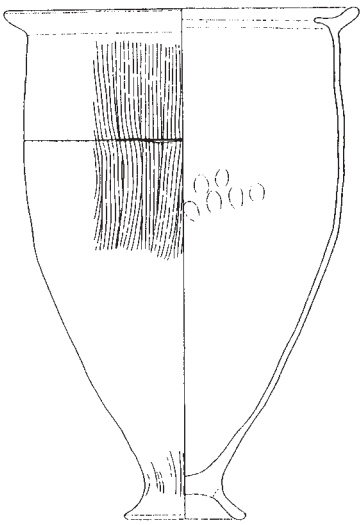
石器には、武器としての石剣、石戈や磨製石鏃、収穫具としての石包丁、糸を紡ぐための石製紡錘車、伐採具としての太形蛤刃石斧、鉄や石を磨ぐための砥石がありました。特に石包丁の存在は、当時稲が栽培されていたことを物語ってくれます。土器についた稲籾の圧痕や住居中から出土した炭化した稲は、その証拠の裏付けとなります。

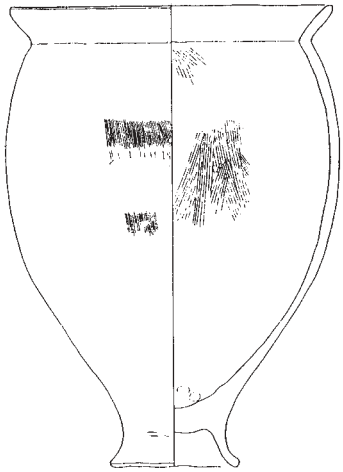


図(Fig) 6　弥生時代の出土丹塗り土器

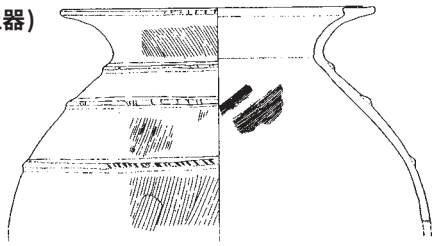
(弥生時代中期後半)　　(弥生時代後期前半)

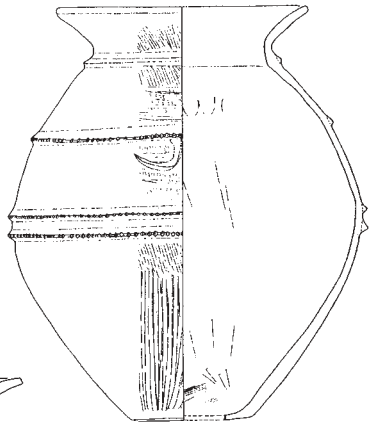
(甕形土器)



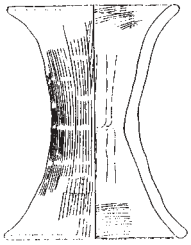


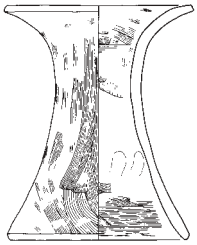
(壺形土器)



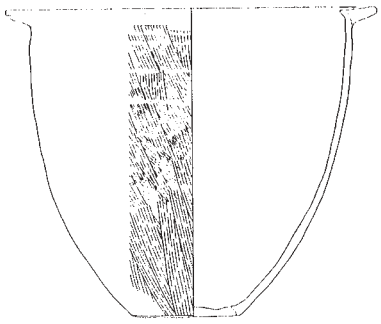


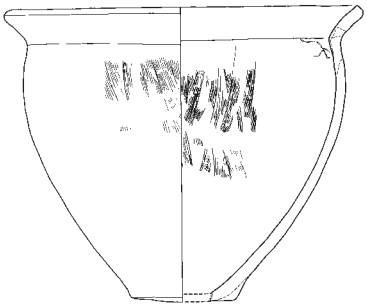
(器台)



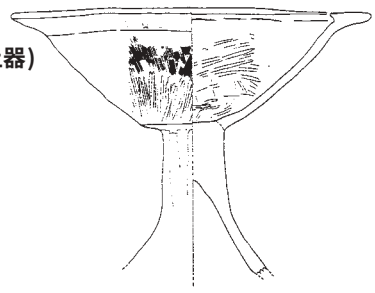


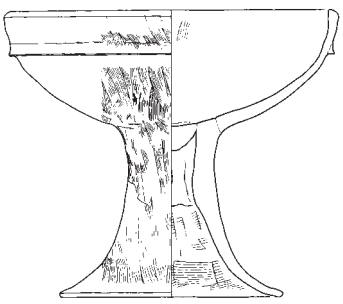
(鉢形土器)



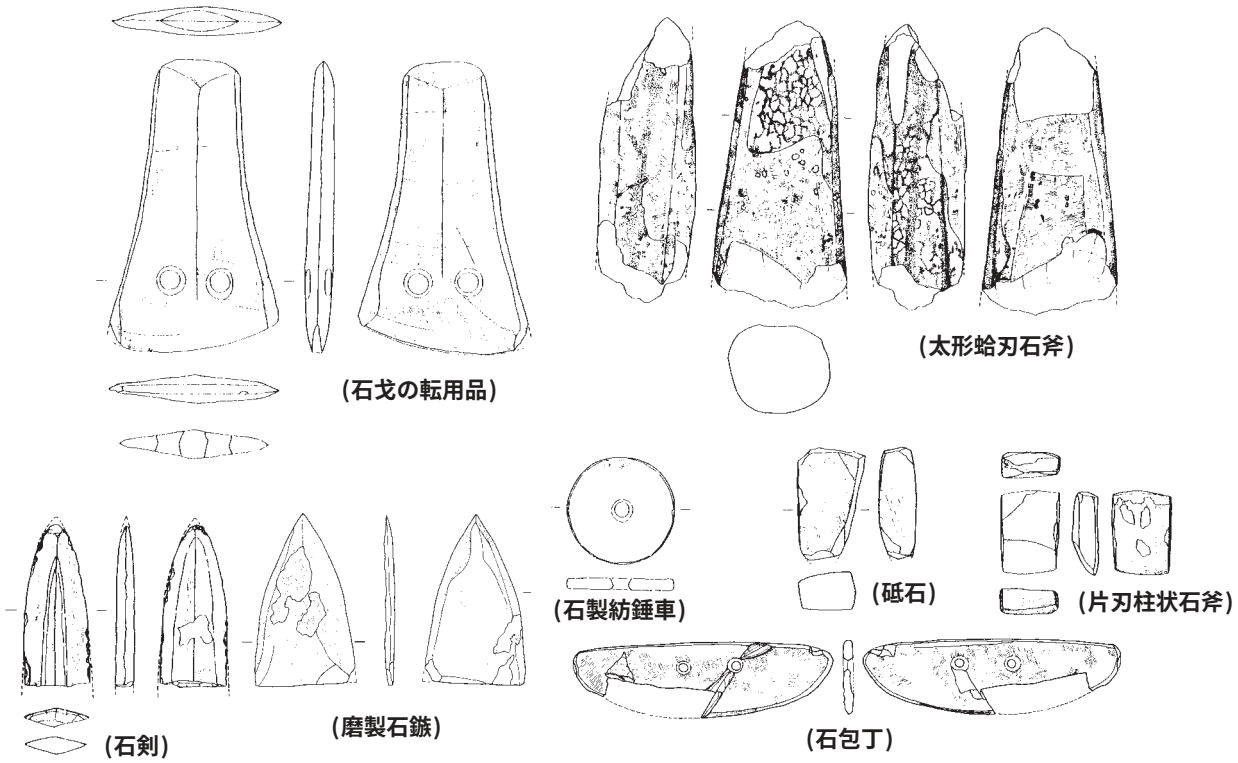


(高杯形土器)





図(Fig) 7　弥生時代の出土土器



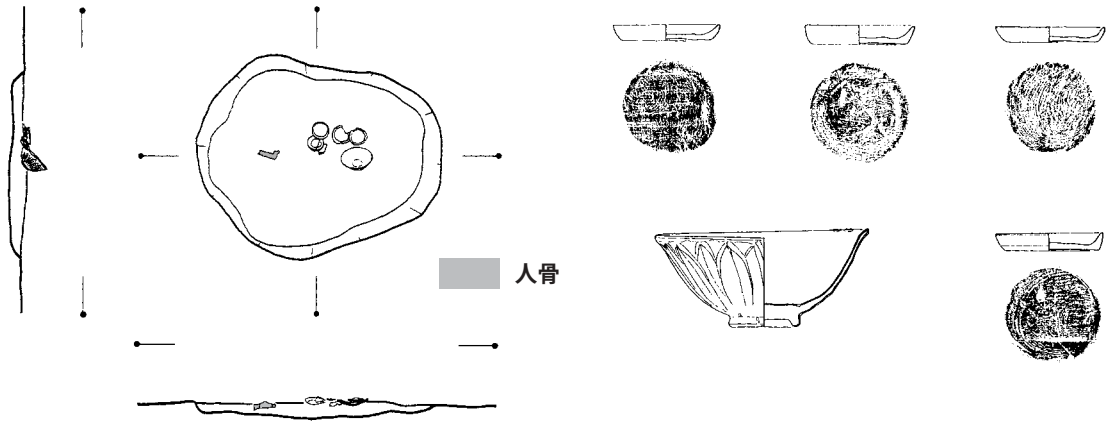
図(Fig)８　弥生時代の出土石器

③鎌倉時代（図９～10を参照）

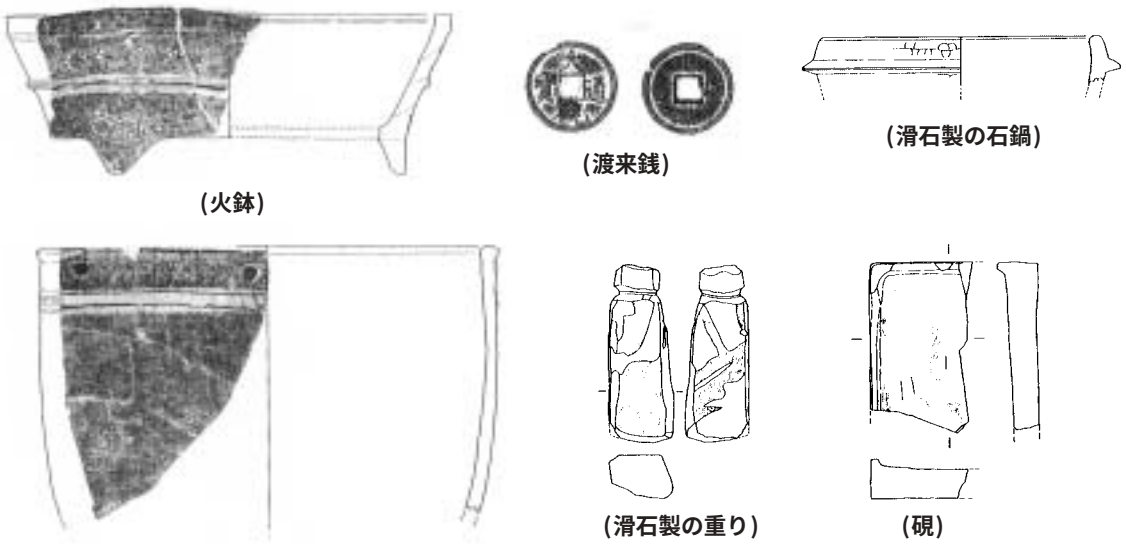
[屋敷の存在]

確認された遺物や遺構から鎌倉時代の始めころ（今から約850年～800年前）を中心とした集落が存在したことが判明しました。遺構は16基あり、土壙墓が４基、掘られた穴が11基、掘立柱建物が１棟確認されました。

１基の土壙墓には、当時の中国からもたらされた青磁という焼き物や地元で焼かれた土師器の小皿が副葬品として備えられ、一部の人骨も残っていました。当時、



図(Fig)９　鎌倉時代の土壙墓と出土遺物



図(Fig)10　鎌倉時代の出土遺物

屋敷を構えた初代の人の墓と推定されます。近くの武士であった江田氏との関連も考えられます。

その他の出土遺物としては、火鉢、硯、滑石という軟らかい石で作られた石鍋や重り、中国からの渡来銭、鉄製品などがありました。

④江戸時代（図11を参照）

[耕地の存在]

明治時代に作成された「玉名郡村図」【明治12年 (1879) から明治15年 (1882)】では、前田遺跡は耕地（畑か水田）と表記されており、江戸時代も耕地であった可能性が高いと考えられます。確認された遺構が、溝が多いこともその裏付けとなるでしょう。溝の中からは17～18世紀の古伊万里の焼き物などが出土しています。

図(Fig)11　江戸時代の出土古伊万里

序　　文

熊本県教育委員会では、平成13年６月26日から平成14年８月10日まで、国土交通省菊池川河川事務所月田地区排水樋管築堤工事及び県道玉名立花線単県道路改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査として、熊本県玉名市大字月田字前田に所在する前田遺跡の発掘調査を実施しました。

調査の結果、弥生時代中期後半から後期前半、中世、近世の遺構を中心として、縄文時代中期から晩期、弥生時代中期後半から後期前半、古代、中世、近世の遺物が発見されました。特に弥生時代中期後半の竪穴式住居跡が41軒確認されたことは、当時の集落の様子を示す非常に重要な発見と言えるでしょう。

この報告書が県民の皆様を始め多くの方々に活用され、埋蔵文化財に対する関心と理解を深めて頂く一助となれば、喜びに堪えません。

なお、調査の円滑な実施に御理解と御協力をいただいた地元の方々、並びに関係機関、そして調査に対する指導、助言をいただいた諸先生方に対して厚くお礼申し上げます。

平成17年３月31日

熊本県教育長　　柿　塚　純　男

例　　言

1．本書は、平成13年（2001）６月26日～平成14年（2002）８月10日にかけて実施した熊本県玉名市大字月田字前田に所在する前田遺跡の発掘調査報告書であり、熊本県文化財調査報告書第225集である。
2．調査は、平成13年度国土交通省菊池川河川事務所月田地区排水樋管築堤工事及び県道玉名立花線単県道路改良事業に伴い実施した。
3．調査は、国土交通省菊池川河川事務所及び熊本県土木部の依頼を受け、熊本県教育庁文化課が実施し、遺物の整理・保管は熊本県文化財資料室で行った。
4．整理報告は平成15年度（2002）に行った。
5．国土座標軸による測量基準杭の設定は、(株) 有明測量開発社に委託した。
6．本書で使用した航空写真は、九州航空株式会社に委託撮影したものである。
7．現場での遺構実測・写真撮影・遺物取り上げは、主に岡本真也、高田英樹、荒木隆宏、阿南麻衣、北原美和子が行い、坂田和弘、水野哲郎、坂口圭太郎、和田敏郎、宇田員将、西口貴志がこれを補助した。遺物実測は、西村和美、三宅由華、松本裕子、井島秀子、金子美代子、坂本貴美子、宮崎典子、士野雄貴、橋口剛士、上田龍児、岡本が行い、一部を九州文化財研究所、埋蔵文化財サポート、アジア航測に委託した。遺構製図及び遺物製図は、西村、三宅、松本、士野、橋口、竹原麻美が行い、一部を九州文化財リサーチに委託した。図版の作成にあたっては、松本、坂本、佐藤淳子、平川恵里子が中心に行い、後藤克博、河原京子、高野信子、中尾健照、川俣幸次、多賀晴司、福田匡朗、戸田英佑、江頭俊介、末永浩平、手柴智晴、沖謙介、加藤早織、伊藤友美子がこれを補助した。遺物写真撮影は、村田百合子が中心に行った。
8．英文要約は、目次を村田が、本文を岡本が作成し、村田がこれを訂正した。
9．本文の執筆は、第Ⅴ章を (株) 古環境研究所、(株) パレオ・ラボ、パリノ・サーヴェイ（株)、藁科哲男氏（京都大学原子炉実験所)、平尾良光氏・淀川奈緒子氏（別府大学文学部)・谷水雅治氏（高知大学海洋コア総合研究センター)、山崎純男氏（福岡市教育委員会）に委託し、それ以外を岡本が行った。
10．本書の編集は、岡本があたり、校正等に際しては松本、佐藤、平川がこれを補助した。
11．遺物は、熊本県文化財資料室に保管している。

凡　　例

1．写真図版のキャプションにある矢印は撮影方向を示す。
2．本書で使用している方位は、座標軸を基準とした北を示している。
3．報告書に掲載した実測図の縮尺は不統一であるため、おのおのの頁に明記した。
4．出土遺物のデータについては、全て巻末の出土遺物観察表に掲載している。

本 文 目 次

口絵カラー写真
発掘調査でわかった前田遺跡の様子
序文
例言・凡例・本文目次
第Ⅰ章　調査の経過 …… 1～4
第１節　調査に至る経緯 …… 1
第２節　調査の組織 …… 2
第３節　調査の過程 …… 3
第Ⅱ章　位置と環境 …… 5～23
第１節　地理的環境 …… 5
第２節　歴史的環境 …… 5
第Ⅲ章　調査の概要 …… 24～26
第１節　調査の方法 …… 24
第２節　調査区の設定 …… 24
第３節　層位と包含層 …… 25
第Ⅳ章　調査の結果 …… 27
第１節　はじめに …… 27
第２節　遺構 …… 32～289
１）弥生時代中期後半 …… 32
２）弥生時代後期前半 …… 160
３）弥生時代時期不明 …… 233
４）中世 …… 244
５）近世以降 …… 268
６）時期不明 …… 278
第３節　遺物 …… 290～338
１）縄文時代 …… 290
２）弥生時代 …… 322
３）古代 …… 329
４）中世 …… 329
５）近世 …… 332
６）時期不明 …… 332
第４節　その他 …… 339～344
１）縄文時代の遺物を含む砂層 …… 339
２）自然流路① …… 341
３）自然流路② …… 343
第Ⅴ章　諸分析 …… 344～418
【(株)古環境研究所】 …… 345

１．植物珪酸体分析　　２．種実同定（炭化種子）
【(株)パレオ・ラボ】……360
１．種実同定（炭化種子）　２．放射性炭素年代測定（ＡＭＳ法）
３．ガラス小玉の蛍光X線分析　４．管玉、石製小玉の蛍光X線分析
【パリノ・サーヴェイ(株)】……377
１．弥生土器の胎土分析　　２．ガラス小玉、管玉の蛍光X線分析
３．種実同定（炭化種子）
【京都大学原子炉実験所　藁科　哲男氏】……393
１．石製勾玉の原材産地分析
【別府大学文学部　平尾良光氏、淀川奈緒子氏】……409
【高知大学海洋コア総合研究所センター　谷川雅冶氏】
１．青銅製品の鉛同位体比法による青銅材料の産地推定
【福岡市教育委員会　文化財部長　山崎　純男氏】……415
１．レプリカ法による土器圧痕種子の同定
【東京文化財研究所　　朽津　信明氏】……417
１．熊本県彩色文化財調査結果報告
第Ⅵ章　総括……419～442
第１節　はじめに……419
第２節　各時代の考察……419
１）縄文時代……419
２）弥生時代……423
３）古代……436
４）中世……436
５）近世……441
遺物観察表……443～489
引用・参考文献……490～491
summary……492～508
―　附　論　―　(凱旋門)……509～514
写真図版……515～638
あとがき……639
報告書抄録……640

挿 図 目 次

図(Fig) 1　周辺遺跡地図　S=1/25,000 ……巻頭
図(Fig) 2　遺構配置図 ……巻頭
図(Fig) 3　縄文時代の出土遺物 ……巻頭
図(Fig) 4　弥生時代中期後半～後期前半における前田遺跡の想像図　(絵：阿南麻衣氏) ……巻頭
図(Fig) 5　弥生時代の住居 ……巻頭
図(Fig) 6　弥生時代の出土丹塗り土器 ……巻頭
図(Fig) 7　弥生時代の出土土器 ……巻頭
図(Fig) 8　弥生時代の出土石器 ……巻頭
図(Fig) 9　鎌倉時代の土壙墓と出土遺物 ……巻頭
図(Fig)10　鎌倉時代の出土遺物 ……巻頭
図(Fig)11　江戸時代の出土古伊万里 ……巻頭
図(Fig)12　周辺遺跡地図　S=1/10,000 …… 7
図(Fig)13　地形断面図 …… 9
図(Fig)14　前田遺跡土層図及び土壌サンプリング位置図 ……25
図(Fig)15　前田遺跡周辺調査区配置図 ……26
図(Fig)16　遺構配置図 ……29～30
図(Fig)17　住居跡（S001）実測図（１） ……32
図(Fig)18　住居跡（S001）実測図（２） ……33
図(Fig)19　S001出土遺物実測図（１） ……34
図(Fig)20　S001出土遺物実測図（２） ……35
図(Fig)21　S001出土遺物実測図（３） ……36
図(Fig)22　住居跡（S002）実測図及び出土遺物実測図 ……37
図(Fig)23　住居跡（S003）実測図（１） ……38
図(Fig)24　住居跡（S003）実測図（２） ……39
図(Fig)25　S003出土遺物実測図（１） ……40
図(Fig)26　S003出土遺物実測図（２） ……41
図(Fig)27　住居跡（S005）実測図 ……43
図(Fig)28　S005出土遺物実測図 ……44
図(Fig)29　住居跡（S011）実測図 ……45
図(Fig)30　S011出土遺物実測図 ……46
図(Fig)31　住居跡（S017）実測図 ……47
図(Fig)32　S017出土遺物実測図 ……48
図(Fig)33　住居跡（S025）実測図及び出土遺物実測図 ……49
図(Fig)34　住居跡（S026）実測図 ……50
図(Fig)35　S026出土遺物実測図（１） ……51
図(Fig)36　S026出土遺物実測図（２） ……52
図(Fig)37　住居跡（S027）実測図及び出土遺物実測図 ……53
図(Fig)38　住居跡（S029・S038）実測図 ……54

図(Fig)39　S029・S038出土遺物実測図（１）……55
図(Fig)40　S029・S038出土遺物実測図（２）……56
図(Fig)41　住居跡（S044）実測図……57
図(Fig)42　S044出土遺物実測図（１）……58
図(Fig)43　S044出土遺物実測図（２）……59
図(Fig)44　S044出土遺物実測図（３）……60
図(Fig)45　住居跡（S054）実測図……61
図(Fig)46　S054出土遺物実測図（１）……62
図(Fig)47　S054出土遺物実測図（２）……63
図(Fig)48　住居跡（S072）実測図……64
図(Fig)49　S072出土遺物実測図（１）……65
図(Fig)50　S072出土遺物実測図（２）……66
図(Fig)51　住居跡（S076）実測図……67
図(Fig)52　S076出土遺物実測図（１）……68
図(Fig)53　S076出土遺物実測図（２）……69
図(Fig)54　S076出土遺物実測図（３）……70
図(Fig)55　住居跡（S078）実測図……71
図(Fig)56　S078出土遺物実測図……72
図(Fig)57　住居跡（S081・S114・S144・S145・S146）実測図……74
図(Fig)58　S081・S114・S144・S145 出土遺物実測図（１）……75
図(Fig)59　S081・S145 出土遺物実測図（２）……76
図(Fig)60　S146　出土遺物実測図……78
図(Fig)61　住居跡（S082）実測図……79
図(Fig)62　S082出土遺物実測図（１）……80
図(Fig)63　S082出土遺物実測図（２）……81
図(Fig)64　住居跡（S089）実測図……82
図(Fig)65　S089出土遺物実測図（１）……83
図(Fig)66　S089出土遺物実測図（２）……84
図(Fig)67　S089出土遺物実測図（３）……85
図(Fig)68　住居跡（S092・S141・S147・S148・S149）実測図……87
図(Fig)69　S147出土遺物実測図（１）……88
図(Fig)70　S092・S147出土遺物実測図（２）……89
図(Fig)71　S092・S141・S147出土遺物実測図（３）……91
図(Fig)72　S147・S148出土遺物実測図（４）……92
図(Fig)73　S147出土遺物実測図（５）……93
図(Fig)74　住居跡（S095・S142）土坑（S123）実測図……94
図(Fig)75　S095出土遺物実測図（１）……95
図(Fig)76　S095出土遺物実測図（２）……96
図(Fig)77　S095出土遺物実測図（３）……97
図(Fig)78　住居跡（S097）実測図及び出土遺物実測図……98

図(Fig)79　住居跡（S100）実測図 ……99
図(Fig)80　S100出土遺物実測図（１）……100
図(Fig)81　S100出土遺物実測図（２）……101
図(Fig)82　住居跡（S101）実測図 ……102
図(Fig)83　S101出土遺物実測図（１）……103
図(Fig)84　S101出土遺物実測図（２）……104
図(Fig)85　住居跡（S105）実測図及び出土遺物実測図 ……105
図(Fig)86　住居跡（S106）実測図（１）……107
図(Fig)87　住居跡（S106）実測図（２）……108
図(Fig)88　S106上層出土遺物実測図（１）……110
図(Fig)89　S106上層出土遺物実測図（２）……111
図(Fig)90　S106上層出土遺物実測図（３）……112
図(Fig)91　S106上層出土遺物実測図（４）……113
図(Fig)92　S106上層出土遺物実測図（５）……114
図(Fig)93　S106上層出土遺物実測図（６）……115
図(Fig)94　S106上層出土遺物実測図（７）……116
図(Fig)95　S106上層出土遺物実測図（８）……117
図(Fig)96　S106上層出土遺物実測図（９）……118
図(Fig)97　S106下層出土遺物実測図（10）……120
図(Fig)98　S106下層出土遺物実測図（11）……121
図(Fig)99　S106下層出土遺物実測図（12）……122
図(Fig)100　S106下層出土遺物実測図（13）……123
図(Fig)101　S106下層出土遺物実測図（14）……124
図(Fig)102　S106下層出土遺物実測図（15）……125
図(Fig)103　S106下層出土遺物実測図（16）……126
図(Fig)104　住居跡（S107）実測図 ……127
図(Fig)105　S107出土遺物実測図 ……128
図(Fig)106　住居跡（S119）実測図 ……129
図(Fig)107　S119出土遺物実測図 ……130
図(Fig)108　住居跡（S120）実測図 ……131
図(Fig)109　住居跡（S129）実測図 ……132
図(Fig)110　S129出土遺物実測図 ……133
図(Fig)111　住居跡（S135）実測図 ……134
図(Fig)112　S135出土遺物実測図 ……135
図(Fig)113　住居跡（S108）実測図 ……136
図(Fig)114　S108出土遺物実測図 ……137
図(Fig)115　甕棺墓（S008・S009）実測図 ……138
図(Fig)116　S008出土遺物実測図 ……139
図(Fig)117　S009出土遺物実測図 ……140
図(Fig)118　ポケット貝塚（S093）実測図 ……141

図(Fig)119　土坑（S030・S034・S037・S039）実測図及び出土遺物実測図……143
図(Fig)120　土坑（S045）実測図及び出土遺物実測図……144
図(Fig)121　土坑（S056）実測図及び出土遺物実測図……145
図(Fig)122　土坑（S064）実測図及び出土遺物実測図……146
図(Fig)123　土坑（S069・S070）実測図……148
図(Fig)124　S069・S070出土遺物実測図……149
図(Fig)125　土坑（S099・S103）実測図……150
図(Fig)126　S099出土遺物実測図……151
図(Fig)127　土坑（S113）実測図……152
図(Fig)128　土坑（S128）実測図及び出土遺物実測図……153
図(Fig)129　土坑（S140）実測図……154
図(Fig)130　S140出土遺物実測図（１）……156
図(Fig)131　S140出土遺物実測図（２）……157
図(Fig)132　S140出土遺物実測図（３）……158
図(Fig)133　ピット1757位置図及び実測図……159
図(Fig)134　ピット1757出土遺物実測図……159
図(Fig)135　住居跡（S004）実測図……160
図(Fig)136　S004出土遺物実測図……161
図(Fig)137　住居跡（S012）実測図……162
図(Fig)138　S012出土遺物実測図……163
図(Fig)139　住居跡（S033）土坑（S036）実測図……165
図(Fig)140　S033出土遺物実測図（１）……166
図(Fig)141　S033出土遺物実測図（２）……167
図(Fig)142　S033出土遺物実測図（３）……168
図(Fig)143　S033出土遺物実測図（４）……169
図(Fig)144　S033出土遺物実測図（５）……170
図(Fig)145　住居跡（S053）実測図……171
図(Fig)146　S053出土遺物実測図……172
図(Fig)147　住居跡（S073）土壙墓（S098）実測図……174
図(Fig)148　S073出土遺物実測図（１）……175
図(Fig)149　S073出土遺物実測図（２）……176
図(Fig)150　S073出土遺物実測図（３）……177
図(Fig)151　住居跡（S075）実測図・炉周辺の焼土、カーボン広がり状況……178
図(Fig)152　S075出土遺物実測図（１）……179
図(Fig)153　S075出土遺物実測図（２）……180
図(Fig)154　S075出土遺物実測図（３）……181
図(Fig)155　S075出土遺物実測図（４）……182
図(Fig)156　住居跡（S077）実測図……184
図(Fig)157　S077出土遺物実測図（１）……185
図(Fig)158　S077出土遺物実測図（２）……186

図(Fig)159　住居跡（S083）土坑（S109）実測図 ……188
図(Fig)160　S083出土遺物実測図 ……189
図(Fig)161　住居跡（S090）実測図 ……190
図(Fig)162　S090出土遺物実測図（１） ……191
図(Fig)163　S090出土遺物実測図（２） ……192
図(Fig)164　S090出土遺物実測図（３） ……193
図(Fig)165　住居跡（S110・S111）実測図及び出土遺物実測図 ……195
図(Fig)166　住居跡（S118）実測図 ……196
図(Fig)167　S118出土遺物実測図（１） ……197
図(Fig)168　S118出土遺物実測図（２） ……198
図(Fig)169　S118出土遺物実測図（３） ……199
図(Fig)170　S118出土遺物実測図（４） ……200
図(Fig)171　S118出土遺物実測図（５） ……201
図(Fig)172　S118出土遺物実測図（６） ……202
図(Fig)173　住居跡（S126）土坑（S138）実測図 ……203
図(Fig)174　S126出土遺物実測図 ……204
図(Fig)175　住居跡（S130）土坑（S131）実測図 ……206
図(Fig)176　S130出土遺物実測図（１） ……207
図(Fig)177　S130出土遺物実測図（２） ……208
図(Fig)178　住居跡（S136）溝（S046）土坑（S137）実測図 ……209
図(Fig)179　S136出土遺物実測図 ……210
図(Fig)180　住居跡（S139）実測図 ……211
図(Fig)181　S139出土遺物実測図（１） ……212
図(Fig)182　S139出土遺物実測図（２） ……213
図(Fig)183　S036出土遺物実測図 ……214
図(Fig)184　土坑（S067・S086）実測図及び出土遺物実測図 ……215
図(Fig)185　土坑（S085）実測図 ……216
図(Fig)186　S085出土遺物実測図 ……217
図(Fig)187　S109出土遺物実測図 ……218
図(Fig)188　土坑（S125）実測図 ……219
図(Fig)189　S125出土遺物実測図 ……220
図(Fig)190　土坑（S132・S133・S134）実測図 ……221
図(Fig)191　S133出土遺物実測図（１） ……222
図(Fig)192　S133・S134出土遺物実測図（２） ……223
図(Fig)193　S138出土遺物実測図（１） ……225
図(Fig)194　S138出土遺物実測図（２） ……226
図(Fig)195　S138出土遺物実測図（３） ……227
図(Fig)196　S046出土遺物実測図（１） ……228
図(Fig)197　S046出土遺物実測図（２） ……229
図(Fig)198　不明遺構（S088）実測図 ……230

図(Fig)199　S088出土遺物実測図（１）……231
図(Fig)200　S088出土遺物実測図（２）……232
図(Fig)201　土坑（S021）実測図……234
図(Fig)202　土坑（S043）実測図……235
図(Fig)203　土坑（S084・S116）実測図……236
図(Fig)204　土坑（S121）実測図及び出土遺物実測図……237
図(Fig)205　不明遺構（S091）実測図……238
図(Fig)206　S091出土遺物実測図（１）……239
図(Fig)207　S091出土遺物実測図（２）……240
図(Fig)208　S091出土遺物実測図（３）……241
図(Fig)209　S091出土遺物実測図（４）……242
図(Fig)210　ピット1668位置図及び実測図……243
図(Fig)211　ピット1668出土遺物実測図……243
図(Fig)212　土壙墓（S013）実測図及び出土遺物実測図……246
図(Fig)213　土壙墓（S065・S066）実測図……247
図(Fig)214　S065・S066出土遺物実測図……248
図(Fig)215　土壙墓（S096）実測図及び出土遺物実測図……249
図(Fig)216　土坑（S010）実測図及び出土遺物実測図……251
図(Fig)217　土坑（S041）実測図及び出土遺物実測図……252
図(Fig)218　土坑（S061）実測図及び出土遺物実測図……253
図(Fig)219　土坑（S062）実測図及び出土遺物実測図……254
図(Fig)220　土坑（S063）実測図及び出土遺物実測図……256
図(Fig)221　土坑（S018）実測図及び出土遺物実測図……257
図(Fig)222　土坑（S020・S042）実測図……259
図(Fig)223　土坑（S055）実測図及び出土遺物実測図……260
図(Fig)224　土坑（S059）実測図及び出土遺物実測図（１）……261
図(Fig)225　S059出土遺物実測図（２）……262
図(Fig)226　土坑（S060）実測図……263
図(Fig)227　掘立柱建物（S019）実測図……264
図(Fig)228　ピット実測図……266
図(Fig)229　ピット出土遺物実測図（１）……266
図(Fig)230　ピット出土遺物実測図（２）……267
図(Fig)231　溝状遺構（S024）土坑（S022）実測図……269
図(Fig)232　溝状遺構（S058）実測図及び出土遺物実測図……270
図(Fig)233　溝状遺構（S052・S117）実測図及び出土遺物実測図……271
図(Fig)234　溝状遺構（S074）実測図……272
図(Fig)235　S074出土遺物実測図……273
図(Fig)236　溝状遺構（S094）実測図……275
図(Fig)237　S094出土遺物実測図（１）……277
図(Fig)238　S094出土遺物実測図（２）……278

図(Fig)239　礎石柱建物（S150）実測図 ……279
図(Fig)240　土壙墓（S006・S007）実測図 ……280
図(Fig)241　土坑（S014・S015・S016）実測図 ……281
図(Fig)242　土坑（S040・S115）実測図 ……283
図(Fig)243　土坑（S124・S127）実測図 ……284
図(Fig)244　土坑（S031・S032）実測図 ……285
図(Fig)245　堀立柱建物（S057）実測図 ……286
図(Fig)246　溝状遺構（S122）実測図及び出土遺物実測図 ……287
図(Fig)247　不明遺構（S035）実測図及び出土遺物実測図 ……288
図(Fig)248　土坑（S071）実測図及び出土遺物実測図 ……289
図(Fig)249　縄文土器実測図（１） ……291
図(Fig)250　縄文土器実測図（２） ……292
図(Fig)251　縄文土器実測図（３） ……293
図(Fig)252　縄文土器実測図（４） ……294
図(Fig)253　縄文土器実測図（５） ……295
図(Fig)254　縄文土器実測図（６） ……296
図(Fig)255　縄文土器実測図（７） ……297
図(Fig)256　縄文土器実測図（８） ……298
図(Fig)257　縄文土器実測図（９） ……299
図(Fig)258　縄文土器実測図（10） ……300
図(Fig)259　縄文石器実測図（１） ……302
図(Fig)260　縄文石器実測図（２） ……303
図(Fig)261　縄文石器実測図（３） ……305
図(Fig)262　縄文石器実測図（４） ……306
図(Fig)263　縄文石器実測図（５） ……307
図(Fig)264　縄文石器実測図（６） ……308
図(Fig)265　縄文石器実測図（７） ……309
図(Fig)266　縄文石器実測図（８） ……310
図(Fig)267　縄文石器実測図（９） ……311
図(Fig)268　縄文石器実測図（10） ……312
図(Fig)269　縄文石器実測図（11） ……313
図(Fig)270　縄文石器実測図（12） ……314
図(Fig)271　縄文石器実測図（13） ……315
図(Fig)272　縄文石器実測図（14） ……316
図(Fig)273　縄文石器実測図（15） ……317
図(Fig)274　縄文石器実測図（16） ……318
図(Fig)275　縄文石器実測図（17） ……319
図(Fig)276　縄文石器実測図（18） ……320
図(Fig)277　縄文石器実測図（19） ……321
図(Fig)278　包含層出土遺物実測図（弥生）（１） ……323

図(Fig)279　包含層出土遺物実測図（弥生）（２）……324
図(Fig)280　包含層出土遺物実測図（弥生）（３）……325
図(Fig)281　包含層出土遺物実測図（弥生）（４）……327
図(Fig)282　包含層出土遺物実測図（弥生）（５）……328
図(Fig)283　包含層出土遺物実測図（古代・中世）（１）……330
図(Fig)284　包含層出土遺物実測図（中世）（２）……331
図(Fig)285　包含層出土遺物実測図（中世・近世）（３）……333
図(Fig)286　包含層出土遺物実測図（時期不明）（１）……334
図(Fig)287　包含層出土遺物実測図（時期不明）（２）……335
図(Fig)288　包含層出土遺物実測図（時期不明）（３）……336
図(Fig)289　包含層出土遺物実測図（時期不明）（４）……337
図(Fig)290　包含層出土遺物実測図（時期不明）（５）……338
図(Fig)291　縄文砂層　断面図及び位置図……339
図(Fig)292　自然流路①実測図……340
図(Fig)293　自然流路①出土遺物実測図……341
図(Fig)294　自然流路②実測図……342
図(Fig)295　自然流路②出土遺物実測図……343
図(Fig)296　グリッド別縄文土器出土点数と重量……419
図(Fig)297　熊本地方の縄文土器　模式実測図（冨田　1996）……420
図(Fig)298　グリッド別石器出土数（１）……421
図(Fig)299　剥片鏃出土遺跡分布図（冨田　2001　を改変）……422
図(Fig)300　グリッド別石器出土数（２）……423
図(Fig)301　弥生時代中期後半期の遺構配置図……424
図(Fig)302　弥生時代後期前半期の遺構配置図……424
図(Fig)303　弥生時代中期後半～後期前半期の住居形態の分類……426
図(Fig)304　弥生中期後半期の土器（１）：甕……427
図(Fig)305　弥生中期後半期の土器（２）：壷……428
図(Fig)306　弥生中期後半期の土器（３）：鉢、器台、甕棺……429
図(Fig)307　弥生中期後半期の土器（４）：須玖Ⅱ式土器……430
図(Fig)308　弥生中期後半期の土器（５）：須玖Ⅱ式土器、黒髪式土器、その他……431
図(Fig)309　弥生中期後半期と後期前半期の過渡期的な様相を示す土器……432
図(Fig)310　弥生時代後期前半期の土器（１）：甕、器台……433
図(Fig)311　弥生時代後期前半期の土器（２）：壷、鉢、台付鉢、高杯……434
図(Fig)312　菊池川口の港の変遷要図（田辺　1988）……437
図(Fig)313　中世の遺構配置図……438
図(Fig)314　時期不明の遺構配置図……438
図(Fig)315　自然流路及び縄文土器を含む砂層の遺構配置図……438
図(Fig)316　湊関係施設位置図（田辺　1988に追筆）……439
図(Fig)317　近世の遺構配置図……441
図(Fig)318　前田遺跡周辺字図（玉名郡村図　月田村『玉名市史　資料篇１　絵図・地図』に追筆）…441

図(Fig)319　日清・日露戦争凱旋門位置図 ……510
図(Fig)320　日清・日露戦争凱旋門位置図（拡大） ……510
図(Fig)321　凱旋門A平面・断面図 ……511
図(Fig)322　凱旋門B平面 ……512
図(Fig)323　従軍姓名碑C平面・断面図 ……513
図(Fig)324　従軍姓名碑文 ……514

表　目　次

表(Tab)１　遺跡年表（網田　1995　を改変) ……10
表(Tab)２　周辺遺跡一覧表（１） ……10
表(Tab)３　周辺遺跡一覧表（２） ……11
表(Tab)４　周辺遺跡一覧表（３） ……12
表(Tab)５　周辺遺跡一覧表（４） ……13
表(Tab)６　周辺遺跡一覧表（５） ……14
表(Tab)７　周辺遺跡一覧表（６） ……15
表(Tab)８　周辺遺跡一覧表（７） ……16
表(Tab)９　周辺遺跡一覧表（８） ……17
表(Tab)10　周辺遺跡一覧表（９） ……18
表(Tab)11　周辺遺跡一覧表（10） ……19
表(Tab)12　周辺遺跡一覧表（11） ……20
表(Tab)13　周辺遺跡一覧表（12） ……21
表(Tab)14　周辺遺跡一覧表（13） ……22
表(Tab)15　周辺遺跡一覧表（14） ……23
表(Tab)16　熊本県北部～中央部編年概略（美濃口　1994) ……435
表(Tab)17　大宰府土器型式と国産陶器・貿易陶器編年（山本　1995) ……436
表(Tab)18　菊池川口の諸港の推定年代（田辺　1988) ……440
表(Tab)19～50　土器観察表（１）～（32） ……443～474
表(Tab)51　石器観察表（１) ……475
表(Tab)52　石器観察表（２) ……476
表(Tab)53　石器観察表（３) ……477
表(Tab)54　石器観察表（４) ……478
表(Tab)55　石器観察表（５) ……479
表(Tab)56　石器観察表（６) ……480
表(Tab)57　古銭観察表 ……480
表(Tab)58　ガラス小玉・石製小玉観察表 ……481
表(Tab)59　管玉観察表 ……481
表(Tab)60　鉄器観察表（１) ……482
表(Tab)61　鉄器観察表（２) ……483

表(Tab)62　青銅器観察表 ……483
表(Tab)63　紡錘車・勾玉・土錘観察表 ……483
表(Tab)64　ピット集計表（１区－１）……484
表(Tab)65　ピット集計表（１区－２）……485
表(Tab)66　ピット集計表（１区－３）……486
表(Tab)67　ピット集計表（１区－４）……487
表(Tab)68　ピット集計表（１区－５）……488
表(Tab)69　ピット集計表（２区）……489

写　真　図　版

写真(PL)１　空撮１（遺跡上空より雲仙方面を望む）……巻頭カラー
写真(PL)２　空撮２（遺跡上空より久住・阿蘇方面を望む）……巻頭カラー
写真(PL)３　空撮３（遺跡全景）……巻頭カラー
写真(PL)４　空撮４（遺跡周辺）……巻頭カラー
写真(PL)５　空撮５（調査２区全景）……巻頭カラー
写真(PL)６　空撮６（調査１区）……巻頭カラー
写真(PL)７　空撮７（調査１区）……巻頭カラー
写真(PL)８　調査１区　S106、108遺物出土状況……巻頭カラー
写真(PL)９　調査１区　S106筒型器台出土状況 ……巻頭カラー
写真(PL)10　調査１区　S106土層断面（炉と貼り床）……巻頭カラー
写真(PL)11　調査１区　S138遺物出土状況 ……巻頭カラー
写真(PL)12　調査１区　S110銅鏃出土状況 ……巻頭カラー
写真(PL)13　J－８グリッド基本土層 ……巻頭カラー
写真(PL)14　調査２区　S009粘土貼り付け状況 ……巻頭カラー
写真(PL)15　調査１区　S096中世墓遺物・人骨出土状況 ……巻頭カラー
写真(PL)16　調査２区　S013遺物出土状況 ……巻頭カラー
写真(PL)17　出土遺物（ガラス小玉、石製管玉、石製勾玉、石製小玉）……巻頭カラー
写真(PL)18　出土青銅・鉄器（左：弥生、右：中世）……巻頭カラー
写真(PL)19　出土遺物（土製紡錘車、土製勾玉、土錘、刀の笄の留め具？、古銭）……巻頭カラー
写真(PL)20　弥生時代中期後半の土器（S106）……巻頭カラー
写真(PL)21　弥生時代中期後半の土器（左：S009、右：S008）……巻頭カラー
写真(PL)22　弥生時代中期後半の土器（S092）……巻頭カラー
写真(PL)23　弥生時代後期の土器（S138）……巻頭カラー
写真(PL)24　弥生時代後期の土器（S118）……巻頭カラー
写真(PL)25　弥生時代の石器（石包丁、紡錘車）……巻頭カラー
写真(PL)26　弥生時代の石器（磨製石鏃、石戈）……巻頭カラー
写真(PL)27　弥生時代の土器 ……巻頭カラー
写真(PL)28　縄文時代後期の土器 ……巻頭カラー

写真(PL)29　縄文時代の石器（打製石鏃、石匙、石斧、剥片）……巻頭カラー
写真(PL)30　縄文時代晩期の土器（組織痕土器、赤彩土器）……巻頭カラー
写真(PL)31　中世の青磁と土師皿（S096）……巻頭カラー
写真(PL)32　中世の土師皿と杯（S013）……巻頭カラー
写真(PL)33　調査区全景（対岸より）……515
写真(PL)34　調査２区（表土剥ぎ後）……515
写真(PL)35　調査２区全景１（空撮時）……515
写真(PL)36　調査２区全景２（空撮時）……516
写真(PL)37　調査２区遺構遺物検出状況（中央がS002とS003）……516
写真(PL)38　調査２区遺構遺物出土状況（中央手前がS001）……516
写真(PL)39　調査２区　S001遺物出土状況１……517
写真(PL)40　調査２区　S001遺物出土状況２……517
写真(PL)41　調査２区　S001完掘状況……517
写真(PL)42　調査２区　S002完掘状況……518
写真(PL)43　調査２区　S002ベッド状遺構土層断面……518
写真(PL)44　調査２区　S003掘り下げ状況……518
写真(PL)45　調査２区　S003完掘状況……519
写真(PL)46　調査２区　S004、005、011遺物出土状況……519
写真(PL)47　調査２区　S004完掘状況……519
写真(PL)48　調査２区　S005遺物出土状況……520
写真(PL)49　調査２区　S008、009検出状況１……520
写真(PL)50　調査２区　S008、009検出状況２……520
写真(PL)51　調査２区　S008、009検出状況３……521
写真(PL)52　調査２区　S008、009切り合い状況……521
写真(PL)53　調査２区　S008粘土貼り付けと掘り方痕跡……521
写真(PL)54　調査２区　S012遺物出土状況……522
写真(PL)55　調査２区　S012手捏土器出土状況……522
写真(PL)56　調査２区　S012中央炉半裁状況……522
写真(PL)57　調査２区　S012完掘状況……523
写真(PL)58　調査２区　S012、023完掘状況……523
写真(PL)59　調査２区　S013、016完掘状況……523
写真(PL)60　調査２区　S017土層および硬化面の検出状況……524
写真(PL)61　調査２区　S018遺物出土状況……524
写真(PL)62　調査２区　S018完掘状況……524
写真(PL)63　調査２区　S019完掘状況……525
写真(PL)64　調査２区　S022完掘状況……525
写真(PL)65　調査２区　S025遺物出土状況……525
写真(PL)66　調査２区　S026遺物出土状況……526
写真(PL)67　調査２区　S026土層断面状況……526
写真(PL)68　調査２区　S026完掘状況……526

写真(PL)69　調査２区　S027土層断面状況……527
写真(PL)70　調査２区　S033遺構検出状況……527
写真(PL)71　調査２区　S033遺物出土状況……527
写真(PL)72　調査２区　S034遺物出土状況……528
写真(PL)73　調査２区　S035鉄器出土状況……528
写真(PL)74　調査２区　S036遺物出土状況……528
写真(PL)75　調査２区　S036完掘状況……529
写真(PL)76　調査２区　S038完掘状況……529
写真(PL)77　調査２区　S026、033、038完掘状況……529
写真(PL)78　調査２区縄文土器を包含する砂層中の遺物出土状況……530
写真(PL)79　調査１区B－1グリッド遺構・ピット検出状況……530
写真(PL)80　調査１区A、B、Cグリッド、ピット群完掘状況……530
写真(PL)81　調査１区遺構完掘状況……531
写真(PL)82　調査１区　S094周辺完掘状況……531
写真(PL)83　調査１区　S076、077、092周辺完掘状況……531
写真(PL)84　調査１区　S105、126、138周辺完掘状況……532
写真(PL)85　調査１区　S054、075、078完掘状況……532
写真(PL)86　調査１区　S040完掘状況……532
写真(PL)87　調査１区　S041遺物検出状況……533
写真(PL)88　調査１区　S041完掘状況……533
写真(PL)89　調査１区　S042完掘状況……533
写真(PL)90　調査１区　S044検出状況……534
写真(PL)91　調査１区　S044遺物出土状況……534
写真(PL)92　調査１区　S044完掘状況……534
写真(PL)93　調査１区　S045遺物出土状況……535
写真(PL)94　調査１区　J－８、９グリッド土層断面……535
写真(PL)95　調査１区　S050半裁状況……535
写真(PL)96　調査１区　S051半裁状況……536
写真(PL)97　調査１区　S053鉄鏃出土状況……536
写真(PL)98　調査１区　S053完掘状況……536
写真(PL)99　調査１区　S054遺物出土状況……537
写真(PL)100　調査１区　S054完掘状況……537
写真(PL)101　調査１区　S055完掘状況……537
写真(PL)102　調査１区　S056遺物出土状況……538
写真(PL)103　調査１区　S056完掘状況……538
写真(PL)104　調査１区　S058半裁状況……538
写真(PL)105　調査１区　S058土層断面状況……539
写真(PL)106　調査１区　S059完掘状況……539
写真(PL)107　調査１区　S060検出状況……539
写真(PL)108　調査１区　S060土層断面及び半裁状況……540

写真(PL)109　調査１区　S061検出状況 ……540
写真(PL)110　調査１区　S062遺物出土状況 ……540
写真(PL)111　調査１区　S063遺物出土状況 ……541
写真(PL)112　調査１区　S064遺物出土状況 ……541
写真(PL)113　調査１区　S065遺物出土状況 ……541
写真(PL)114　調査１区　S066遺物出土状況 ……542
写真(PL)115　調査１区　S067完掘状況 ……542
写真(PL)116　調査１区　S069、070遺物出土状況……542
写真(PL)117　調査１区　S071検出状況 ……543
写真(PL)118　調査１区　S071遺物出土状況 ……543
写真(PL)119　調査１区　S071完掘状況 ……543
写真(PL)120　調査１区　S072遺物出土状況 ……544
写真(PL)121　調査１区　S072、073完掘状況……544
写真(PL)122　調査１区　S074土層断面状況 ……544
写真(PL)123　調査１区　S074獣骨出土状況（遠景）……545
写真(PL)124　調査１区　S074獣骨出土状況（近景）……545
写真(PL)125　調査１区　S074、075検出状況……545
写真(PL)126　調査１区　S075鉄器出土状況 ……546
写真(PL)127　調査１区　S075ミニチュア土器出土状況 ……546
写真(PL)128　調査１区　S075完掘状況 ……546
写真(PL)129　調査１区　S076遺物出土状況 ……547
写真(PL)130　調査１区　S076完掘状況 ……547
写真(PL)131　調査１区　S077掘削状況 ……547
写真(PL)132　調査１区　S078完掘状況 ……548
写真(PL)133　調査１区　S078遺物出土状況 ……548
写真(PL)134　調査１区　S081周辺完掘状況 ……548
写真(PL)135　調査１区　S082遺物出土状況 ……549
写真(PL)136　調査１区　S082完掘状況 ……549
写真(PL)137　調査１区　S083、109遺物出土状況……549
写真(PL)138　調査１区　S083完掘状況 ……550
写真(PL)139　調査１区　S085遺物出土状況 ……550
写真(PL)140　調査１区　S086完掘状況 ……550
写真(PL)141　調査１区　S088遺物出土状況 ……551
写真(PL)142　調査１区　S089遺物出土状況 ……551
写真(PL)143　調査１区　S090完掘状況 ……551
写真(PL)144　調査１区　S090遺物出土状況 ……552
写真(PL)145　調査１区　S090南西土坑内高杯出土状況 ……552
写真(PL)146　調査１区　S106、108切り合い土層断面……552
写真(PL)147　調査１区　S076石戈出土状況 ……553
写真(PL)148　調査１区　S092、147遺物出土状況……553

写真(PL)149　調査１区　S093貝層検出状況 ……553
写真(PL)150　調査１区　S094周辺完掘状況 ……554
写真(PL)151　調査１区　S095検出状況 ……554
写真(PL)152　調査１区　S095、142、146完掘状況 ……554
写真(PL)153　調査１区　S095遺物出土状況 ……555
写真(PL)154　調査１区　S097検出状況 ……555
写真(PL)155　調査１区　S097完掘状況 ……555
写真(PL)156　調査１区　S098検出状況 ……556
写真(PL)157　調査１区　S099、100遺物出土状況……556
写真(PL)158　調査１区　S099遺物出土状況 ……556
写真(PL)159　調査１区　S099、100完掘状況……557
写真(PL)160　調査１区　S101遺物出土状況 ……557
写真(PL)161　調査１区　S101完掘状況 ……557
写真(PL)162　調査１区　S105完掘状況 ……558
写真(PL)163　調査１区　S106鉄器出土状況（遠景）……558
写真(PL)164　調査１区　S106鉄器出土状況（近景）……558
写真(PL)165　調査１区　S106、108完掘状況……559
写真(PL)166　調査１区　S107完掘状況 ……559
写真(PL)167　調査１区　S109遺物出土状況 ……559
写真(PL)168　調査１区　S110検出状況 ……560
写真(PL)169　調査１区　S110完掘状況 ……560
写真(PL)170　調査１区　S117完掘状況 ……560
写真(PL)171　調査１区　S118検出状況 ……561
写真(PL)172　調査１区　S118貝殻廃棄状況１ ……561
写真(PL)173　調査１区　S118貝殻廃棄状況２ ……561
写真(PL)174　調査１区　S118石包丁出土状況 ……562
写真(PL)175　調査１区　S118遺物出土状況 ……562
写真(PL)176　調査１区　S118完掘状況 ……562
写真(PL)177　調査１区　S119完掘状況 ……563
写真(PL)178　調査１区　S120完掘状況 ……563
写真(PL)179　調査１区　S121遺物出土状況 ……563
写真(PL)180　調査１区　S121土坑完掘状況 ……564
写真(PL)181　調査１区　S122土層断面状況 ……564
写真(PL)182　調査１区　S122完掘状況 ……564
写真(PL)183　調査１区　S124完掘状況 ……565
写真(PL)184　調査１区　S125遺物出土状況 ……565
写真(PL)185　調査１区　S125完掘状況 ……565
写真(PL)186　調査１区　S126、138完掘状況……566
写真(PL)187　調査１区　S128遺物出土状況 ……566
写真(PL)188　調査１区　S128完掘状況 ……566

写真(PL)189　調査１区　S129土層断面状況 ……567
写真(PL)190　調査１区　S129遺物出土状況 ……567
写真(PL)191　調査１区　S129、130、131検出状況 ……567
写真(PL)192　調査１区　S129、130、131完掘状況 ……568
写真(PL)193　調査１区　S130、131遺物出土状況……568
写真(PL)194　調査１区　S131完掘状況 ……568
写真(PL)195　調査１区　S133、134完掘状況……569
写真(PL)196　調査１区　S135遺物出土状況 ……569
写真(PL)197　調査１区　S135完掘状況 ……569
写真(PL)198　調査１区　S136、137完掘状況１……570
写真(PL)199　調査１区　S136、137完掘状況２……570
写真(PL)200　調査１区　S139遺物出土状況 ……570
写真(PL)201　調査１区　S139完掘状況 ……571
写真(PL)202　調査１区　S140遺物出土状況 ……571
写真(PL)203　調査１区　S140完掘状況 ……571
写真(PL)204　調査１区　S094火輪出土状況 ……572
写真(PL)205　調査１区　S091遺物出土状況 ……572
写真(PL)206　調査１区ピット1156遺物出土状況 ……572
写真(PL)207　調査１区ピット1167遺物出土状況 ……573
写真(PL)208　調査１区ピット1286検出状況 ……573
写真(PL)209　調査風景（調査２区)……573
写真(PL)210　作業風景（調査１区)……574
写真(PL)211　作業風景（S106)……574
写真(PL)212　作業風景（調査１区)……574
写真(PL)213　月瀬小学校３、４年生体験発掘風景（2001年11月13日)……575
写真(PL)214　月瀬小学校体験発掘参加者（2001年11月13日)……575
写真(PL)215　実測風景（調査１区)……575
写真(PL)216　住居内覆土水洗状況 ……576
写真(PL)217　現地説明会の様子（2002年６月８～９日) ……576
写真(PL)218　作業員さん方との集合写真 ……576
写真(PL)219　日清、日露戦争の従軍姓名碑 ……577
写真(PL)220　凱旋門（右：A・左：B) ……577
写真(PL)221　凱旋門（Bの④方向より)……577
写真(PL)222　凱旋門（Bの③方向より)……578
写真(PL)223　凱旋門（Aの①方向より)……578
写真(PL)224　凱旋門（Aの②方向より)……578
写真(PL)225　縄文土器１ ……579
写真(PL)226　縄文土器２ ……579
写真(PL)227　縄文土器３ ……580
写真(PL)228　縄文土器４ ……580

写真(PL)229　縄文土器５ ……581
写真(PL)230　縄文土器６ ……581
写真(PL)231　縄文土器７ ……582
写真(PL)232　縄文時代の石器（楔形石器、スクレイパー、二次加工ある石器) ……582
写真(PL)233　縄文時代の石器（剥片の背面) ……583
写真(PL)234　縄文時代の石器（剥片の腹面) ……583
写真(PL)235　縄文時代の石器（剥片・石核) ……584
写真(PL)236　縄文時代の石器（磨製石斧１) ……584
写真(PL)237　縄文時代の石器（磨製石斧２) ……585
写真(PL)238　縄文時代の石器（打製石斧１) ……585
写真(PL)239　縄文時代の石器（打製石斧２) ……586
写真(PL)240　出土石器（磨石、敲石類１) ……586
写真(PL)241　出土石器（磨石、敲石類２) ……587
写真(PL)242　出土石器（磨石、敲石類３) ……587
写真(PL)243　出土石器（磨石、敲石類４) ……588
写真(PL)244　出土石器（石皿） ……588
写真(PL)245　弥生時代の土器（S001) ……589
写真(PL)246　弥生時代の土器（S011) ……589
写真(PL)247　弥生時代の土器（S002、005) ……590
写真(PL)248　弥生時代の土器（S003) ……590
写真(PL)249　弥生時代の土器（S025、026、027) ……591
写真(PL)250　弥生時代の土器（S029、044、069) ……591
写真(PL)251　弥生時代の土器（S054) ……592
写真(PL)252　弥生時代の土器（S076) ……592
写真(PL)253　弥生時代の土器（S078) ……593
写真(PL)254　弥生時代の土器（S081、082) ……593
写真(PL)255　弥生時代の土器（S089、092) ……594
写真(PL)256　弥生時代の土器（S101、105) ……594
写真(PL)257　弥生時代の土器（S099、100) ……595
写真(PL)258　弥生時代の土器（S095) ……595
写真(PL)259　弥生時代の土器（S106) ……596
写真(PL)260　弥生時代の土器（S106、107、108) ……596
写真(PL)261　弥生時代の土器（S106) ……597
写真(PL)262　弥生時代の土器（S129、ピット1757) ……597
写真(PL)263　弥生時代の土器（S147、148) ……598
写真(PL)264　弥生時代の土器（S135、140) ……598
写真(PL)265　弥生時代の土器（S135、140) ……599
写真(PL)266　弥生時代の土器（S004、012、033) ……599
写真(PL)267　弥生時代の土器（S046、053) ……600
写真(PL)268　弥生時代の土器（S072、073、075) ……600

写真(PL)269　弥生時代の土器（S075、077）……601
写真(PL)270　弥生時代の土器（S083、085、088）……601
写真(PL)271　弥生時代の土器（S088）……602
写真(PL)272　弥生時代の土器（S088、090、109）……602
写真(PL)273　弥生時代の土器（S126、128）……603
写真(PL)274　弥生時代の土器（S091）……603
写真(PL)275　弥生時代の土器（S097、133、134）……604
写真(PL)276　弥生時代の土器（S130、134、145）……604
写真(PL)277　弥生時代の土器（S136、138、139）……605
写真(PL)278　弥生時代の土器（S091、包含層）……605
写真(PL)279　弥生時代の土器（包含層）……606
写真(PL)280　弥生時代の土器（S017、091）……606
写真(PL)281　弥生時代の土器（S076、096、099、包含層）……607
写真(PL)282　弥生時代の土器（S077）……607
写真(PL)283　弥生時代の土器（S090）……608
写真(PL)284　弥生時代の土器（S001）……608
写真(PL)285　弥生時代の土器（S003）……609
写真(PL)286　弥生時代の土器（S011、020）……609
写真(PL)287　弥生時代の土器（S095、100）……610
写真(PL)288　弥生時代の土器（S081、082）……610
写真(PL)289　弥生時代の土器（S101）……611
写真(PL)290　弥生時代の土器（S147）……611
写真(PL)291　弥生時代の土器（S026、029）……612
写真(PL)292　弥生時代の土器（S089）……612
写真(PL)293　弥生時代の土器（S076、078）……613
写真(PL)294　弥生時代の土器（S044、054）……613
写真(PL)295　弥生時代の土器（S092、099）……614
写真(PL)296　弥生時代の土器（S092、147）……614
写真(PL)297　弥生時代の土器（S140）……615
写真(PL)298　弥生時代の土器（S090、100）……615
写真(PL)299　弥生時代の土器（S095）……616
写真(PL)300　弥生時代の土器（S106）……616
写真(PL)301　弥生時代の土器（S106）……617
写真(PL)302　弥生時代の土器（S106）……617
写真(PL)303　弥生時代の土器（S106）……618
写真(PL)304　弥生時代の土器（S129、130、135、140、146）……618
写真(PL)305　弥生時代の土器（S033）……619
写真(PL)306　弥生時代の土器（S012、033、036、053、067）……619
写真(PL)307　弥生時代の土器（S046、053、067）……620
写真(PL)308　弥生時代の土器（S072、073）……620

写真(PL)309　弥生時代の土器（S075）……621
写真(PL)310　弥生時代の土器（S075、077）……621
写真(PL)311　弥生時代の土器（S083、088）……622
写真(PL)312　弥生時代の土器（S090、109）……622
写真(PL)313　弥生時代の土器（S118）……623
写真(PL)314　弥生時代の土器（S118）……623
写真(PL)315　弥生時代の土器（S118、125）……624
写真(PL)316　弥生時代の土器（S136、138、139）……624
写真(PL)317　弥生時代の土器（S139）……625
写真(PL)318　弥生時代の土器（S091、133）……625
写真(PL)319　弥生時代の土器（S091、包含層）……626
写真(PL)320　弥生時代、時期不明の土器（包含層）……626
写真(PL)321　弥生時代の石器（砥石）……627
写真(PL)322　弥生時代の石器（石皿）……627
写真(PL)323　弥生時代の石器（太型蛤刃石斧、磨石、浮子、両面加工石器）……628
写真(PL)324　弥生時代の石器（石皿、砥石）……628
写真(PL)325　出土石器（砥石、軽石有溝製品）……629
写真(PL)326　出土石器（支脚、軽石製品、石錐、尖頭状石器）……629
写真(PL)327　出土貝類・骨類（写真のみ：S093）……630
写真(PL)328　出土貝類・骨類（写真のみ：S118）……630
写真(PL)329　中世の石器（砥石）……631
写真(PL)330　中世の石器（滑石製品、滑石石鍋、硯）……631
写真(PL)331　中世の出土遺物（S065）……632
写真(PL)332　中世の出土遺物（S009、011、ピット1292、包含層、その他）……632
写真(PL)333　中世の出土遺物（S010、018、061、062）……633
写真(PL)334　中世の出土遺物（S011、ピット1452、ピット1560、ピット1570）……633
写真(PL)335　古代・中世の出土遺物（S046、055、094、包含層、その他）……634
写真(PL)336　中世・近世の出土遺物（S094、ピット1452、包含層、その他）……634
写真(PL)337　中世の出土遺物（S074）……635
写真(PL)338　中世の出土遺物（S094）……635
写真(PL)339　近世の出土遺物（S051、094、包含層）……636
写真(PL)340　中世の五輪塔の火輪（S094）……636
写真(PL)341　粘土塊（S106　下層：写真のみ）……637
写真(PL)342　浮子（S101　下層：写真のみ）…… 637
写真(PL)343　出土遺物のＸ線写真（鉄器、青銅鏡、古銭）……638

第Ⅰ章　調査の経過

第１節　調査に至る経緯

本遺跡の調査は、国土交通省菊池川河川事務所月田地区排水樋管築堤等工事及び県道玉名立花線単県道路改良事業に伴う事前の記録保存を目的とした発掘調査である。

事業の実施に先立ち予定地内に埋蔵文化財が存在する可能性が高いことから、試掘調査を実施した。その結果、弥生時代の遺構や遺物が発見され、遺跡の存在が確認された。その後、埋蔵文化財の発掘調査が必要な範囲を国土交通省（当時建設省）へ連絡し、協議を重ねた上で、調査を行う運びとなった。

費用負担については、１年目は国、２年目以降は工事範囲の面積比から、国が69.23%、県が30.77%の費用負担となった。

第２節　調査の組織

試掘調査は平成12年度、発掘調査は、平成13～14年度、報告書作成は平成14～15年度に行い、報告書の印刷製本を平成16年度に行った。

【平成12年度（2000）　試掘調査】

調査主体　熊本県教育委員会
調査責任者　阪井大文（文化課長）
　　島津義昭（課長補佐）
調査総括　高木正文（主幹兼調査第１係長）
調査事務局　川上康治（課長補佐）
　　中村幸宏（主幹兼総務係長）
　　廣瀬泰之（参　事）
　　上村修治（参　事）
　　杉村輝彦（主　事）
調査担当　長谷部善一（主任学芸員）
　　緒方智子（嘱　託）

【平成13年度（2001）　本調査】

調査主体　熊本県教育委員会
調査責任者　阪井大文（文化課長）
　　島津義昭（課長補佐）
調査総括　高木正文（主幹兼調査第１係長）
調査事務局　小田信也（課長補佐）
　　中村幸宏（主幹兼総務係長）
　　廣瀬泰之（参　事）
　　杉村輝彦（主　事）
調査担当　岡本真也（文化財保護主事）
　　荒木隆宏（嘱　託）

【平成14年度（2002）　本調査】

調査主体　熊本県教育委員会
調査責任者　成瀬烈大（文化課長）
　　島津義昭（教育審議員・課長補佐）
調査総括　高木正文（主幹兼調査第１係長）
調査事務局　小田信也（教育審議員・課長補佐）
　　中村幸宏（主幹兼総務係長）
　　天野寿久（主任主事）
　　杉村輝彦（主　事）
調査担当　岡本真也（参　事）
　　高田英樹（主任主事）
　　阿南麻衣（嘱　託）
　　北原美和子（嘱　託）

【平成14年度（2002）　報告書作成】

調査主体　熊本県教育委員会
調査責任者　成瀬烈大（文化課長）
　　島津義昭（教育審議員・課長補佐）
調査総括　高木正文（主幹兼調査第１係長）
調査事務局　小田信也（教育審議員・課長補佐）
　　中村幸宏（主幹兼総務係長）
　　天野寿久（主任主事）
　　杉村輝彦（主　事）
調査担当　岡本真也（参　事）
　　阿南麻衣（嘱　託）
　　西村和美（嘱　託）
　　三宅由華（嘱　託）

【平成15年度（2003）　報告書作成】

調査主体　熊本県教育委員会
調査責任者　成瀬烈大（文化課長）
　　島津義昭（教育審議員・課長補佐）
調査総括　高木正文（主幹兼調査第１係長）
調査事務局　小田信也（教育審議員・課長補佐）
　　欄杭正義（主幹兼総務係長）
　　天野寿久（主任主事）
　　杉村輝彦（主　事）
調査担当　岡本真也（参　事）
　　西村和美（嘱　託）

三宅由華（嘱　託）

専門調査員（順不同・敬称略）

武末純一（福岡大学人文学部　教授)、狭川真一(財団法人　元興寺文化財研究所　考古学研究室長)、村上恭通（愛媛大学法文学部　助教授)、山崎純男(福岡市教育委員会　文化財部長)、藁科哲男（京都大学原子炉実験所)、平尾良光（別府大学文学部　教授)、淀川奈緒子（別府大学文学部　文化財学科４年生)、谷川雅治（高知大学　海洋コア総合研究センター)、朽津信明（東京文化財研究所)

調査指導及び協力者（順不同・敬称略）

上田龍児（福岡大学大学院生)、比佐陽一郎・片多雅樹（福岡市埋蔵文化財センター)、小畑弘己･杉井　健（熊本大学文学部　助教授)、大坪志子（熊本大学文学部　助手)、渡辺一徳（熊本大学教育学部　教授)、宮縁育夫・大丸裕武（森林総合研究所)、中村修身（北九州市芸術文化振興財団　埋蔵文化財調査室長)、今田秀樹（天ヶ瀬町教育委員会)、清田純一（城南町教育委員会)、竹田宏司・末永　崇(玉名市教育委員会)、青木勝士（熊本県私学文書課)、河合章行・橋口剛士（熊本大学大学院生)、高谷和生（荒尾養護学校)、古森政次（熊本県文化企画課)、江本　直・木崎康弘・角田賢治・池田朋生（熊本県立装飾古墳館)、村崎孝宏（歴史公園鞠智城・温故創生館)、熊本市教育委員会、玉名市教育委員会

第３節　調査の過程

本調査は平成13（2001）年６月26日（火）から平成14（2002）年８月10日（土）まで行った。

以下に各月を前半と後半に分けて、調査日誌の中から特筆すべき事項や内容を簡単に述べたい。

【６月】

（後半）

26日～、調査区内の表土剥ぎ。弥生だけでなく、中世の遺物も確認。甕棺２基確認。

【７月】

（前半）

調査区内の表土剥ぎ。縄文晩期の浅鉢が出土。弥生時代中期後半期の黒髪式土器に伴う住居跡と考えられる遺構を確認。資料室より機材を搬入。

（後半）

16日、作業開始。調査２区の清掃から始める。業者がメッシュ杭と４級基準点の作業に来跡。

19日～25日。連日厳しい暑さが続く。基本土層を確認し、掘り下げに入る。

30日、遺構が数多く検出される。

日よけのために寒冷遮を張り、作業を進める。

【８月】

（前半）

６日、熊大大院生河合氏が、学部生４名を連れて来跡。平板実測の実習を行う。

土層確認を兼ねて、調査区の周りにトレンチを入れる。

15日、作業員の金森さんから近世墓を見せてもらう。以前調査１区の南側にあったが、移設されたもの。元禄五年、正徳三年、享保４年の銘があり、1692～1719年の墓石と判断。この時期の遺構や遺物が確認される可能性の考えられる。

（後半）

調査１区の清掃とトレンチ掘りに入る。暑さが厳しい。

【９月】

（前半）

砂質土のため、雨によるトレンチ内壁の崩落が激しい。トレンチ掘りとトレンチ土層断面図を書く作業を並行して行う。残暑が厳しい。

（後半）

20日、Ｃ－４グリッドで中世の青磁（龍泉窯系）碗が完形で出土。おそらく墓の可能性が高いと考えられる。Ａ，Ｂ，Ｃグリッド周辺は中世の遺物・遺構が多い。

25日、昼食時に地元の料理である「どじょう汁」をいただく。初めて食べたが、どじょうの原形は無く、小骨がわずかに残るのみだったが、非常に美味だった。

調査１区の清掃とトレンチ掘り終了。

【10月】

（前半）

３日、甕棺２基は、いずれも合せ口の小児甕棺であることが判明。

10日、S007の土坑から軟玉の小玉が１点出土。

土坑墓である可能性が高い。

11日、S007の土坑や住居跡の覆土を水洗いする班を作り、掘り下げ班と並行して作業を進める。

（後半）

調査２区の住居跡の掘り下げを行う。

23日、S017の住居跡から石包丁が出土。しかし、やや浮いている。

30日、玉名市立月瀬小学校３，４年生、11人が総合的な学習の一環で来跡。説明を行う。

【11月】

（前半）

１日、住居跡覆土水洗いで、ガラス小玉１点(S001)、管玉片１点（S017）が出土。調査員、作業員共に喜ぶ。鉄製品等や種子、カーボンにも注意をしてもらう様に説明する。

７日、S002の住居跡覆土（B－２、３層）から炭化米１点が確認。

12日、S002の住居跡はベッド付きで、床面は貼り床であることが判明。その土は付近にある花崗岩のバイランドに酷似。

13日、玉名市立月瀬小学校３，４年生、11人が発掘体験学習で再来跡。土器を発見して喜ぶ子ども達の顔が印象的であった。

（後半）

調査２区の住居跡の掘り下げを行う。住居跡覆土水洗いによりガラス小玉、管玉、鉄鏃などが確認。

21日、元興寺文化財研究所の狭川真一氏が鹿児島の帰りに来跡される。調査指導は２月の予定。

【12月】

（前半）

調査２区を早く済ませて、調査１区に移りたいと思っているのだが、なかなか遺構の掘り下げが思うように進まない。住居跡覆土水洗いによりガラス小玉、管玉、炭化種子などが確認。

（後半）

調査２区の遺構数が32になる。まだ増える可能性大。28日まで仕事を行う。

【1月】

（前半）

７日から作業開始。S033の住居跡の切りあいに悩む。土が見難く、その日その日で、見え方が異なる。土の感触も砂質土であり、差異が見出せない。

（後半）

19日から調査１区の掘り下げに入る。

24日、S034の土坑から石製の勾玉が出土。長崎産ヒスイと考えられる。今後の調査工程を考慮して２月より作業員さんを増員することに決定。ハローワークに作業員さんの募集手続きに行く。

25日、第１回目の空中写真撮影を実施。

26日、新年会を兼ねて豚汁での昼食会を行う。午後の作業に気合が入る。

【２月】

（前半）

1日、福岡大学武末純一教授の調査指導。

調査１区でも次々と遺構が検出され、掘り下げを行う。水洗いも並行して進める。L, M－８、９グリッド周辺に遺構が複数に切りあっていることが判明。

15日、E－５グリッドより、青銅製の鏡片が出土。掘削によるガジリが見られる。

（後半）

19日、鏡片が出土した周辺の廃土を水洗いして、その他の鏡片やガジリ片がないかを調べたが、発見できず。

20日、調査指導で元興寺文化財研究所の狭川真一氏が来跡。中世の遺構については、屋敷墓や土坑墓について指導される。

【３月】

（前半）

近世の大溝（S074）の掘り下げに入る。弥生、中世、近世の遺物が混入している。

7日、水洗いによりS081から管玉１点が確認。ガラス小玉や管玉が調査１区の遺構にも含まれることが判明。

12日、S071としていた弥生土器が集中する遺構はプランが不明。困惑する。

（後半）

調査２区の甕棺の実測が終わる。最後に張りつめた粘土の写真を写して終了。

28日、平成13年度の作業を終了する。

荒木氏は、４月より熊大の大学院に進学するため

に３月で県の嘱託を辞職。

【４月】

（前半）

調査１区と２区の間も調査を行うことになり、表土剥ぎを実施。

４日、作業開始。平成14年度は阿南氏と１年間パートナーを組むが、夏までは高田氏、北原氏の応援もいただく。

遺構数が多いので作業員さんの中から、数名実測をお願いする。しかし、なかなか実測が追いつかない。

（後半）

19日、熊大の渡辺教授が来跡。自然流路の可能性が高いS050とS051を見ていただき、指導を受ける。

24日、S096から人骨が出土。完形の青磁碗や土師器の小皿も伴っている事から中世の土坑墓であることが判明。

【５月】

（前半）

２日、玉名市立月瀬小学校６年生、７人が発掘体験学習で来跡。

14日、住居跡（S076）から石戈の転用品と考えられる石器が出土。

（後半）

17日、S106より丹塗り筒型器台が出土。後日、ミニチュア土器や鉄製品が出土。

遺構があるのはわかるのだが、切り合いが判然としない。遺構掘削と実測の繰り返し。人手足りず。

【６月】

（前半）

高木、木崎両係長にも遺構検出に手伝ってもらう。

８、９日、現地説明会を実施。２日間で374名の方々に見ていただく。

14日、S106より磨製石剣が出土。基部が欠損。

坂田、坂口、和田、宇田の各氏に応援に来てもらう。各自に遺構担当を設けて、掘削・実測をお願いする。

（後半）

27日、北九州市芸術文化振興財団の中村修身氏が来跡。石かを見ていただき、指導を受ける。全国で280例、熊本県内で４例目ということが判明。

【７月】

（前半）

３日、水野氏合流。玉陵中学３年生８名が、担当教諭と来跡。説明を受け、体験発掘を行う。

遺構実測が間に合わず、一部を九州文化財研究所に委託する。

15日、九州ルーテル大学の板楠教授、熊本市教育委員会の網田氏、赤星氏が来跡。宇田氏合流。

（後半）

いよいよ大詰めに入る。しかし、部分的に遺構の切り合いが判らずに難航する個所が残る。遺構数が多いために、実測や写真撮影などの見落としがないように再チェックを行う。

【８月】

（前半）

８日、２回目の空撮を行う。資料室へ機材等を午前、午後の２回に分けて運ぶ。

10日、全ての実測作業が終了。

11日、対岸の清原台地より完掘後の写真を撮影し、前田遺跡の調査全てを終了する。

第Ⅱ章　位置と環境

第１節　地理的環境

玉名平野は熊本県の北部に位置し、菊池川下流域に広がった面積49㎢を有する沖積平野である。この平野では玉名市の市街地を頂点として典型的な三角州を形成し、前縁には藩政時代より進められてきた干拓地が豊穣の海である有明海に向かって広がっている。対岸は長崎県の島原半島である。一方平野の東部は金峰山系山麓に限られ、北側は花崗岩山塊からなる小岱山に続く洪積台地と接している。

市街地は北側の花崗岩風化土壌で形成された丘陵地帯、沖積面よりの比高５m程度の低位洪積段丘、弥生海退による海岸線の後退と河川の働きによって形成された自然陸化箇所、広大で肥沃な臨海沖積平野とに大きく分けられる。玉名市街中央を貫流して有明海に注ぐ菊池川は、幹線の流路延長61.2km、阿蘇外輪山北西部に源を発し、菊池渓谷をはじめ山間地を流下、中流の菊鹿盆地を経て下流の玉名平野に至り、有明海に注ぐ。下流域では和仁川、内田川、江田川、木葉川、繁根木川などの諸支流が合わさり、特に玉名平野南部の本遺跡周辺部で大きく蛇行し、屈曲している。(2000　高谷)

また、26,300haという日本一広大な干潟を持つ有明海は、全国の海岸に分布する干潟の約42%にもおよび、東京湾より大きく伊勢湾や陸奥湾に匹敵する大きさの内海である。特に潮の干満の差が日本一大きく、大潮時には最大６～７mに達する。潮は菊池川の支流、木葉川に隣接する本遺跡の横を上がり、約12km程度を逆流する。(熊日　1997)

前田遺跡は熊本県玉名市大字月田字前田に所在する。菊池川の下流域、河口から約16km上流に位置し、菊池川の自然堤防上、川の蛇行した内側にあり、標高は約20mである。対岸が菊水町江田地区であり、菊池川と江田川の合流地点より約１km上流にあたる。付近は雨期には数年に一度は河川の水位が上がり、氾濫原となる地帯である。最近では平成２年(1995) ７月２日の大水害が記憶に新しい。

第２節　歴史的環境

ここでは図　玉名・山鹿・植木地域を中心に前田遺跡周辺の各時代の歴史的環境を概観してみたい。

【旧石器時代】（ ～約13,000年前）

現在、熊本県下には300を越える旧石器時代の遺跡が確認されている。河川流域に集中しており、その中でも白川を中心とする阿蘇外輪山一帯や球磨川上流域を中心とする球磨盆地一帯などが特に集中した地域である。

菊池川も例外ではなく、流域沿いに玉名、山鹿、菊池周辺に点在している。菊地川上流の伊野遺跡では、ナイフ形石器、剥片尖頭器、細石刃核、細石刃などが出土（1985　江本）しており、中流域の松島遺跡では多量の細石刃核や細石刃が採集されている。周辺では菊水町の下津原遺跡があり、剥片尖頭器が、中原遺跡ではナイフ形石器、台形様石器、細石刃、細石核等が採集されている。また、荒尾市の平山宿遺跡では礫層からチャート製のチョッパー、陣屋敷遺跡では粘土層から西洋梨形のハンダックスと考えられる両面加工石器が採集されている。これらはいずれも前期旧石器時代の可能性がある石器と捉えられている。荒尾市周辺は約９万年前の阿蘇４火砕流堆積物が堆積していない地域だと言われており、その可能性は考えられるであろう。小岱山が盾となって阿蘇４火砕流をくい止めたと考えられている。

【縄文時代】（約13,000年前～2,300年前）

縄文時代前期には気候の温暖化に伴い海水面が現在より３～５m上昇（縄文海進）し、その後も気候の変動によりわずかな海進、海退を繰り返している。玉名市周辺の縄文時代の遺跡は古玉杵名湾が台地裾部にかかる場所を中心に貝塚が多い。繁根木貝塚、保田木貝塚、桃田貝塚などの縄文中期の集落・貝塚である。天水町には縄文時代前期の尾田貝塚、菊水町江田船山古墳の位置する清原台地の菊池川隣接部には縄文時代後期の若園貝塚がある。

若園貝塚は本遺跡の対岸部に位置しており、本遺跡と同時期の縄文時代後期の土器片が出土していることから、その関連性が考えられる。

山鹿や植木地区にも台地上を中心に縄文時代の遺跡が点在する。

また、低湿地遺跡として、菊池川下流左岸に位置する上小田宮の前遺跡では縄文時代後期～晩期の弓

の一部や炭化したドングリが付着した深鉢型土器の破片などが出土[1]している。狩猟や採集（ドングリのあく抜き作業）を裏付けできる良好な資料として非常に重要な遺物である。

【弥生時代】（約2,300年前～1,700年前）

弥生時代になると遺跡の数も増加し、菊池川流域の低湿地や台地上に集落が営まれる。付近を概観すると弥生時代前期については天水町の斉藤山貝塚があり、多くの突帯文土器、日本最古とされる鉄斧が出土している。中期以降では、当地が北部九州の影響を受けやすい地理的要因もあることから、甕棺墓や支石墓群が多く発見されており、もっぱら台地上に分布域を示している。高岡原遺跡は立願寺台地に位置する弥生時代後期から古墳時代前期頃の集落跡であり、内行花文鏡２面が出土している。(2000　高谷)

本遺跡の対岸に位置する菊水町の諏訪原遺跡では弥生時代後期の住居跡や環濠が確認されている。[2]上流の左岸側の竈門寺原遺跡は中期の甕棺墓群が確認されている（1995長谷部）　山鹿地区では、舶載鏡、彷製鏡や巴形銅器が出土した方保田東原遺跡が弥生時代後期の拠点集落として有名であり、邪馬台国と比定する研究者もいる。[3]

近年の調査では玉東町の稲佐津留遺跡で弥生時代後期の集落跡が彷製鏡や巴形銅器と共に検出されている。

【古墳時代】（約1,700年前～1,400年前）

菊池川流域は古墳の密集地帯である。特に遺跡の北側丘陵部には中期から後期にかけての装飾古墳や横穴墓が数多く分布する。

菊池川流域で最も古い前方後円墳は、畿内編年３期の左岸下流域にある玉名市の山下古墳（４世紀末)である。院塚古墳は４世紀末～５世紀初頭で、畿内編年４～５期の前方後円墳である。玉名市の繁根木(伝左山）古墳は径35mの円墳であるが、最古の複式横穴式石室と舟形石棺も直葬し、６世紀初頭と考えられている。

畿内編年７期後半には銀象嵌太刀や冠などの豊富な副葬品を持つ菊水町の江田船山古墳（５世紀末)が築造される。畿内編年８～９期では、内部主体部が石棺に代わって石屋形が登場し、装飾古墳の最盛期となる。玉名市にある大坊古墳（国史跡)、永安寺東古墳・永安寺西古墳（いずれも県史跡)、石貫穴観音横穴・石貫ナギノ横穴群（いずれも国史跡)はその代表である。(2000　高谷)

菊池川中流域の山鹿地区にはチブサン古墳、弁慶ヶ穴古墳、鍋田横穴群、馬塚古墳、長岩横穴群、臼塚古墳などの装飾古墳が卓越する。

植木地区にも横穴式複室墳を持つ石川山古墳群、舟形石棺を持つ慈恩寺経塚古墳があり、高隈古墳、塚園古墳などの前方後円墳や近年発見された山口横穴群は装飾古墳として脚光を浴びた。

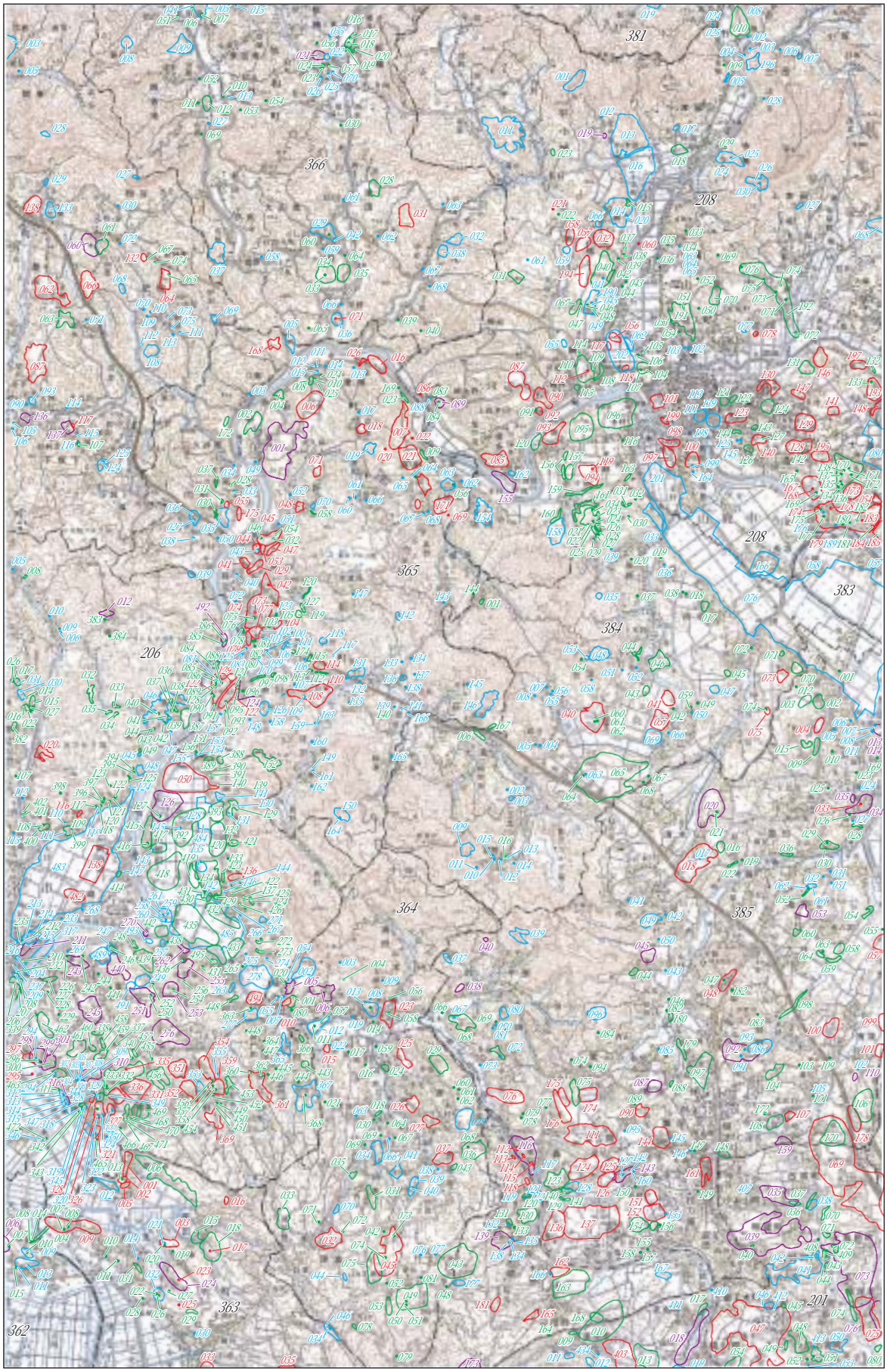
近年の調査において天水町の大塚古墳では、径が100mを超える前方後円墳である可能性が指摘されている。また、玉名市の城ヶ辻古墳群の７号墳では北部九州の影響を受けた県内初の竪穴系横穴式石室墓が確認された。

これらの古墳の存在から古墳時代の菊池川流域やその周辺には、かなりの勢力をもった豪族が存在したことが窺える。

【歴史時代】（約1,400年前～　）

古代律令制下、玉名地区は玉名郡（日本書記では玉杵名郡）に属し、「和名抄」に見える日置・下宅・宗部・大町・江田の各郷に属していたと考えられる。植木地区は古くは山本郡に属していたが、同郡は貞観元年（859）に合志郡から分かれて郡となった。「和名抄」に見える飽田郡の天田郷・殖木郷は、のちに山本郡に属したものとされ、天田郷を鐙田に、殖木郷を旧植木町付近に、また山鹿郡伊智郷を伊知坊に、山本郡高原郷を五両付近に比定する説がある。(1987　村上)

昭和29年、31年、玉名市立願寺地区の発掘調査により礎石群が確認され、布目瓦が出土したことから玉名郡が跡と推定された。その付近からは多量の焼米と７個の礎石や炭化材が出土し、「三代実録」貞観17年（875）６月20日条に見える玉名郡倉に比定された。また、奈良中期から平安中期に至る軒平瓦・鬼面瓦などが出土し、法起寺様式の伽藍配置をもつ寺跡であることが確認され、玉名郡寺跡と考えられている。このように郡の中心ともいうべき３つの建



赤―弥生時代　　青―中世　　緑―その他の時代　　紫―弥生時代・中世を両方とも含む

図(Fig)12　周辺遺跡地図　S＝1／10,000

造物の遺構がまとまった形で発見されたのは、全国的にも珍しく、梅林から元玉名にかけての条里制遺構とともに、まさしく玉名郡の中心地にふさわしい条件を備えている。

寛政６年（1794）菊水町江田の鴬原から出土した火葬骨蔵壺の墓誌銅板から、玉名郡司日置氏の存在が明らかになった。同氏は古墳時代から古代を通して、玉名郡内に勢力を有しており、現在疋野原付近に伝承される疋野長者伝説や装飾古墳に代表される古墳群の築造者も日置氏にかかわるものと推定される。(1987　村上)

中世に入ると多くの荘園が成立する。すでに11世紀はじめには、玉名市南東部の菊池川左岸に太宰府天満宮安楽寺領の玉名荘が成立し、伊倉には12世紀前半に宇佐宮領伊倉別符が成立した。また、鎌倉期には市東部に仁和寺仏母領の玉名荘があった。南北朝期には菊池郡を拠点とする菊池氏が南朝方として活動し、天正年間（1346〜1370）には菊池武光の弟武尚が大野荘まで進出している。大野荘には、肥後の対明貿易港の１つとして、中国明の類書「図書篇」に「達加什（たかせ)」と見える高瀬があり、菊池一族が同港を通じて明や朝鮮と貿易活動をしていたことが判明する（海東諸国記)。また、伊倉荘では、本堂山の板碑群の中に渡海行者の存在を示すものや、「大明振倉謝公墳」と刻まれた明人墓碑があり、中国との交流があったことを示している。このような港を制圧し、自己の管理下に置くことは、菊池氏にとって非常に重大な課題であり、高瀬進出のねらいもそこにあったといえよう。(1987　村上)

現在玉名市には10の中世城が確認されている。

天正15年（1587）豊臣秀吉の九州仕置後、当市域は佐々成政、翌年には加藤清正の支配に属した。清正は菊池川の流路を変更し、大干拓事業を行い、新地を開いた。当時の千田川原一帯は、菊池川の三角州とした川が分流し、長年にわたる土砂の堆積が進行していた。清正は現在の伊倉船津へ流れていた菊池川本流を、大浜方面へ付け替えるため東塘・西塘を造り、さらに上流左岸の桃田・千田・小島に堤防を築き、旧本流を締め切り、菊池川の流路を変えたと伝えられる。この事業は天正17年に着工され、完成までに17年を要し、慶長10年（1605）に完成したと言われるが（藤公偉業記)、なお検討が費用用とされる。この大改修工事ならびに干拓事業により、伊倉への船の交通は絶たれ、伊倉は港としての機能を失った。その代償として、当市域では小野尻・千田川原・小島・川島・北牟田・大浜の６か村にわたって広大な牟田新田が生まれ、後世の村の成立の基礎となった。横島・大園（現横島町）両村を加えれば、合計870町９反歩、石高5,976石の小田牟田新地が出現したといわれる。(1987　村上)

山鹿も中世には菊池氏の統治下にあり、城・方保田・平山などに菊池氏の支城があった。

寛政９年（1632）加藤氏に代わって細川氏が入封し、玉名地域も同氏の支配に属した。同12年には郡と村の中間に手永という肥後藩特有の行政区を設けた。玉名郡内には坂下、小田、伊倉、内田など14の手永が入り組む形で成立し、それぞれ伊倉孫左衛門手永のように、手永名を姓とした惣庄屋が支配した。しかし、寛文年間（1661〜1673）頃には整理され、６手永となり、当市域は小田、内田、坂下、南関の４手永に文属し、高瀬だけは高瀬町として独立した行政単位であった。同町は加藤清正の菊池川改修により、地位が向上し、城北地方の一大中心地となった。菊鹿盆地や玉名平野の産地を控え、寛政12年(1800）ころには12にも及ぶ手永の年貢米が舟で菊池川を下り、高瀬に集約された。荷は舟から直接に町家の倉へ運び入れられた。現在でもその遺構の一部は残っている。また、同町は高瀬町奉行の支配下に置かれ、同町の隆盛に伴い商工業は活気を呈し、幕末期には菓物商、豆腐商、大工、舟乗、穀物商、桶屋、仕立屋、左官、畳職、鍛冶職、風呂職、薬店などの職業が見られたといわれる。(1987　村上)

山鹿郡は山鹿・中村の両手永に属し、会所ははじめ両手永とも山鹿に置かれたが、のちに中村手永の会所は山鹿新町（鹿本町）に移った。(1987　原口)

山鹿は、菊池川舟運の盆地における中心地であった。陸上交通では、熊本から豊前小倉へ通じる豊前街道の宿駅の１つとなり、助郷制度も整備された。温泉も特に藩主のための御前湯が用意された。街道の両脇には櫨並木があり、夏は往来の旅人のための

緑陰となり、秋は櫨の実が蝋燭の原料として収穫され、藩は櫨方会所を置いた。熊本藩領内に設けられた５ヶ所の製蝋所の１つが山鹿手永の鍋田村に置かれた。また、菊池川流域で生産された米の大部分は菊池川によって河口の永徳寺御蔵に集められ、遠く大坂に送られ市場価格の標準米になった。(1987　原口)

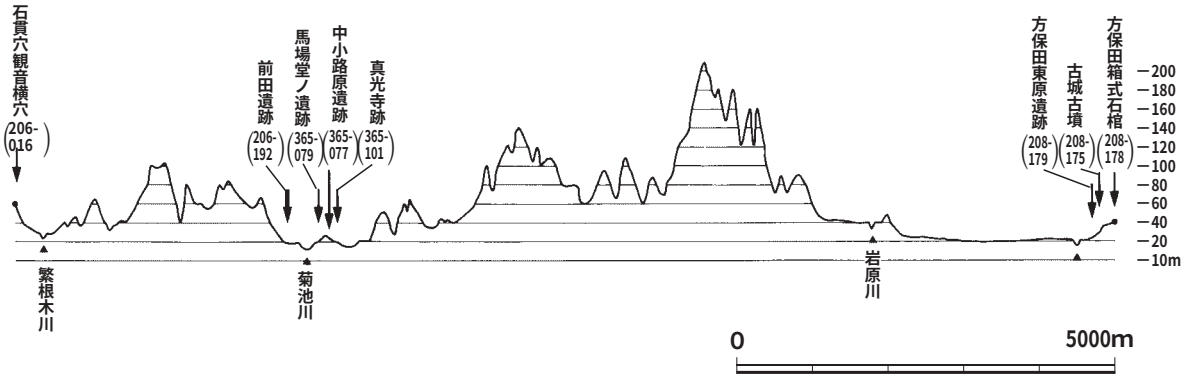
植木は、豊前街道に沿い、三池・高瀬･菊池各往還の分岐点にあたるので、敵の来攻に備えて特別の軍事的考慮が払われた。当地域は、正院手永に編成され、旧植木町に会所が置かれた。細川氏の時代に入って台地面の開拓が進んだものとみえ、寛永11年(1634) には33か村であったものが、宝暦年間 (1751～64) には60か村、小村は129村、町は味取町・味取新町の2町となっている。集落の台地面への進出について一例をあげると、鐙田村はもともと台地の崖下、牛の首という湧水を中心に発生し、人口の増加と井戸掘り技術の進歩によって台地面に進出したことが、伝承や祠堂・井戸の共同使用などから推定できる。菊池川・合志川の氾濫原にも微高地を求めて移住が行われた。しかし、氾濫原といっても必ずしも用水灌漑の便はよくなく、橋田村 (現七城町) などとしばしば水引きをめぐって争いを繰り返している。(1987　原口)

【註】

⑴　廣田静学　2001「上小田宮の前遺跡現地説明会資料」 熊本県教育委員会による。

⑵　高木正文氏のご教示による。

⑶　今村和徳・尾方圭子　2004「稲佐津留前遺跡現地説明会　資料」熊本県教育委員会による。



図(Fig)13　地形断面図　S＝１／10,000

地図12（山鹿）

熊本県（43）山鹿市（208）

遺跡番号	遺跡名	所在地	時代	種別	指定	備考
208-001	塩蔵跡	平山　塩蔵	中世	城		鶴山城に付設の塩貯蔵庫か？
208-002	野辺田磨崖仏	小坂　野辺田	中世	石造物		
208-003	柳井寺跡	小坂　桑津留	中世	寺社		
208-004	津留磨崖仏	小坂　桑津留	中世	石造物		
208-005	今寺窯跡	津留　今寺	古代・中世	生産		
208-006	小坂の六地蔵	小坂	中世	石造物	市	
208-007	小坂城跡	小坂　胡麻野	中世	城		
208-008	小坂の経塚	小坂	中世	経塚		
208-009	津留番所跡	津留　桜野	近世	交通		
208-010	小坂・野辺田	小坂　野辺田	縄文	包蔵地		
208-011	平山城跡	平山　陣ノ内	中世	城	市	平山備後秀世築く
208-012	千福寺跡	城（通称堂の原）	中世	寺社	市	臨済宗禅、神亀４年建立、本尊市指定千手観音
208-013	鶴山城跡	津留　津留山	中世	城		宇野七郎親治築く、津留山とも書く
208-014	城村城跡（舞鶴城）	城　城	中世	城	市	城氏代々居住、別名舞鶴城
208-015	城横穴群	城　城	古墳	古墳	県	大小20基余り、外壁に靭・楯・人物の装飾浮彫
208-016	津留の条里跡	津留　一町田・八反田	古代・中世	生産		
208-017	下宮	津留　下宮	古代・中世	包蔵地		
208-018	天神ノ本	津留　天神ノ本	縄文	包蔵地		石鏃
208-019	堂ノ原	城　東谷	縄文～中世	包蔵地		
208-020	岩地蔵	城　円通寺	中世	石造物	市	
208-021	久保地蔵	小群　久保	弥生	石造物		
208-022	北原	小群　北原	縄文	包蔵地		
208-023	舞野石棺	平山　舞野	古墳	埋葬		
208-024	寺島城跡	寺島　堂ノ下・古城	中世	城		宇野七郎親治が築いた説有り
208-025	明星寺跡	寺島　堂ノ下	中世	寺社		
208-026	古城跡	寺島・古城など	中世	城		城氏代々の居城
208-027	上吉田	上吉田　茅場	古代・中世	包蔵地		和鏡１、銭貨６、鉢１出土
208-028	法華寺の石塔々身	寺島　法華寺	中世	石造物	市	
208-029	宮地岳社	寺島		寺社		
208-030	白山権現	寺島	中世	寺社		
208-031	大原	城　大原	縄文	包蔵地		
208-032	原口	城　原口	弥生	包蔵地		甕棺
208-033	竜王山古墳	杉　小峯	古墳	古墳	市	竜王山頂にあり
208-034	赤穂義士遺髪塔	杉　小峯	近世	石造物	市	大石義雄以下17名の遺髪を葬る
208-035	日輪寺窯跡	杉　小峯	古墳	生産		日輪寺参道沿い
208-036	京塚古墳	杉　平原	古墳	古墳		国道３号線沿い、杉神社境内、円墳
208-037	鬼天神古墳	城　鬼天神	古墳	古墳		
208-038	馬塚古墳	城　鬼天神	古墳	古墳	県	円墳、横穴小口積石室、内部装飾あり
208-039	馬塚南古墳	城　鬼天神	古墳	古墳		
208-040	付城	城　付城	古代	包蔵地		
208-041	東付城跡	城　付城	中世	城		
208-042	付城横穴群	城　付城・小原	古墳	古墳	県	岩壁に10数基
208-043	河童塚古墳	杉　古屋敷	古墳	古墳		円墳、切石小口積石室、人骨２
208-044	姫塚古墳	杉　古屋敷	古墳	古墳		
208-045	西福寺跡	城　西福寺	中世	寺社		禅の古刹
208-046	西福寺古墳	城　西福寺	古墳	古墳		
208-047	オブサン古墳	城　西福寺	古墳	古墳	県	円墳、横穴単式小口積石室、装飾
208-048	チブサン古墳	城　西福寺	古墳	古墳	国	前方後円墳、横穴式小口積、複石室、厨子、装飾
208-049	西福寺磨崖仏	城　西福寺	中世	石造物	市	
208-050	ビシャモン塚古墳	熊入　北原	古墳	古墳		円墳、巨石単室、羨道なし、出土品等不明
208-051	乳母塚古墳	熊入　北原	古墳	古墳		円墳、御霊塚主の乳母を葬むるの伝承
208-052	御霊塚古墳	熊入　北原	古墳	古墳		円墳
208-053	倉塚古墳	熊入　戌亥原	古墳	古墳		円墳、金環・須恵器
208-054	弁慶ヶ穴古墳	熊入　竹の下	古墳	古墳	国	前方後円墳、複式横穴石室、人・舟・馬等壁画
208-055	野中	鍋田　野中	縄文～中世	包蔵地		
208-056	石村	石	弥生	包蔵地		
208-057	梅迫	城　梅迫	弥生	包蔵地		
208-058	松ノ木原	城　松の木原	弥生	包蔵地		
208-059	西付城跡	城　付城	中世	城	市	
208-060	川原	杉　川原	弥生	包蔵地		
208-061	経塚	城　経塚	中世	経塚		
208-062	下田	石　下田	中世	包蔵地		
208-063	日輪寺	杉　小峯	中世	寺社	県	素覚尼五輪塔、梵鐘、芭蕉碑、石体観音三十三墓、湯町橋が県指定
208-064	芭蕉碑	杉　小峯	中世	石造物		
208-065	石体観音三十三墓	杉　小峯	中世	石造物		塔
208-066	町	城　町	縄文～中世	包蔵地		
208-067	西福寺古墳群	城　西福寺	古墳	古墳		
	西福寺１号墳	城　西福寺	古墳	古墳		箱式石棺
	西福寺２号墳	城　西福寺	古墳	古墳		石棺残欠
	西福寺３号墳	城　西福寺	古墳	古墳		石室型石棺
	西福寺４号墳	城　西福寺	古墳	古墳		
	西福寺５号墳	城　西福寺	古墳	古墳		円墳
	西福寺６号墳	城　仁田・窪	古墳	古墳		円墳
208-068	久原城跡	久原　首石	中世	城		山城
208-069	銭亀塚古墳	名塚	古墳	古墳		前方後円墳
208-070	水神	熊入　水神	古墳	包蔵地		
208-071	名塚古墳群猿楽塚	名塚　権現尾	古墳	古墳		円墳、直刀出土
208-072	名塚古墳群第２号墳	名塚　権現尾	古墳	古墳		円墳
208-073	名塚古墳群第３号墳	名塚　権現尾	古墳	寺社		円墳
208-074	名塚古墳群第４号墳	名塚　権現尾	古墳	寺社		円墳
208-075	名塚古墳群真塚	名塚　野馬見	古墳	寺社		円墳
208-076	名塚古墳群第６号墳	名塚　野馬見	古墳	寺社		円墳
208-077	下吉田城跡	下吉田　城内	中世	寺社		
208-078	松ノ本	下吉田　松ノ本	縄文～古墳	包蔵地		
208-080	不動岩	蒲生	古代～現代	祭祀	市	
208-083	椿井箱式石棺（椿井古墳）	椿井　東屋敷	古墳	埋葬		人骨２体、小刀出土、石祠をまつる
208-084	御園古墳	椿井　東屋敷	古墳	古墳		箱式石棺
208-085	西牧石棺群	西牧　上の山	弥生～古墳	埋葬		箱式石棺群
208-086	御園石棺	椿井（通称御園）	弥生～古墳	埋葬		石棺

表(Tab)２　周辺遺跡一覧表（１）

地図12（山鹿）						
熊本県（43）山鹿市（208）						
遺跡番号	遺跡名	所在地	時代	種別	指定	備考
208-087	西原	鍋田　西原	縄文～古墳	包蔵地		
208-088	則重館跡	椿井　東屋敷	中世	館		
208-089	東屋敷	椿井　東屋敷	弥生～中世	埋葬		
208-090	川辺小学校	鍋田　八幡林	弥生	包蔵地		甕棺
208-091	保多田古墳	保多田　常福寺	古墳	古墳		円墳、家型石棺
208-092	八幡林	鍋田　八幡林	弥生	埋葬		甕棺群
208-093	竜宮石棺群	小原　龍宮	弥生～古墳	埋葬		箱式石棺群
208-094	中尾	小原　中尾	弥生	包蔵地		弥生土器、野辺田式
208-095	原ン山	小原　原の山	古墳～古代	包蔵地		
208-096	牛草	志々岐　牛草	縄文	包蔵地		縄文晩期土器片、たたき石、他
208-097	内曲	南島　内曲	弥生	埋葬		甕棺
208-098	南島	南島　内曲	弥生	包蔵地		甕棺、内曲遺跡と同一
208-099	伝在原業平の墓	南島　内曲	中世	墳墓		五輪塔、７基の内中央
208-100	笠仏	南島　笠仏	弥生	埋葬		甕棺
208-101	宗方	宗方　前田	弥生	包蔵地		
208-102	観念寺跡	熊入　三ツ名	中世	寺社	市	市指定十一面観音像あり
208-103	熊入城跡（隈入城跡）	熊入　三ツ名・竹ノ下	中世	城		多久宗貞在城
208-104	金屋塚	石　金屋塚	古墳	包蔵地		
208-105	臼塚古墳	石　臼塚	古墳	古墳	市	円墳、横穴単式石室、装飾あり、石人
208-106	臼塚西古墳	石　臼塚	古墳	古墳		円墳
208-107	金屋塚古墳	石　金屋塚	古墳	古墳		円筒埴輪出土
208-108	鍋田横穴群	鍋田　荒瀬	古墳	古墳	国	53基、装飾浮彫
208-109	鍋田東古墳	鍋田　東	古墳	古墳		石（原本文字不明　櫃では？）・鉄剣
208-110	東鍋田	鍋田　東原	縄文	包蔵地		縄文土器・布目瓦
208-111	清滝城跡（湯町城跡）	山鹿　温泉	中世	城		城主山鹿彦次郎重安、清滝神社々地
208-112	五神宮石蓋土壙墓	鍋田　馬場	弥生	埋葬		
208-113	金剛乗寺の石門	山鹿　九日町	中世	建造物	市	文化元年（1803）
208-114	年の神	鍋田　年の神	縄文	包蔵地		
208-115	中村	鍋田　中村	縄文	包蔵地		
208-116	宮脇古墳	志々岐　宮ノ脇	古墳	古墳		円墳
208-117	窪田	石　窪田	弥生	包蔵地		
208-118	荒瀬	石　荒瀬	縄文・弥生	包蔵地		
208-119	中尾石棺群	小原　中尾	弥生～古墳	埋葬		
208-120	北畑	小原　北畑	古墳	包蔵地		
208-121	花塚	山鹿　花塚	古墳	包蔵地		土師器片一括
208-122	桜町（東原）	山鹿　東原	古墳	包蔵地		土師器片一括
208-123	大宮神社	山鹿　大宮通	弥生・古墳	包蔵地	市	大宮神社猿田彦群（市指定）
208-124	車地	中　車地	縄文	包蔵地		
208-125	宇野親治五輪塔	中　皆本	中世	石造物	市	天台宗雲閑寺、久寿元建立云
208-126	中村廃寺	中（通称権現森）	古代	寺社	市	平安時代、塔心礎・布目瓦
208-127	双子塚古墳	中　双子塚	古墳	古墳		前方後円墳、稲荷社をまつる
208-128	白石・古閑ノ上	古閑	弥生～古代	包蔵地		野辺田式土器、箱式石棺
208-129	鹿本高校校庭	古閑　十三部	縄文・弥生	包蔵地		
208-130	栗林	中　栗林	弥生	包蔵地		
208-131	長沖貝塚	古閑（通称長沖）	旧石器・縄文	包蔵地		貝塚の下層に縄文早期土器、細石刃核
208-132	八の峯横穴群	久原　八の峯	古墳	古墳		５～６基、須恵器出土
208-133	八の峯古墳	久原　吹上	古墳	古墳		円墳、箱式石棺群
208-134	馬見塚古墳群１号墳	方保田　馬見塚	古墳	古墳		７基、辻古墳を含む円墳
208-135	馬見塚古墳群２号墳	方保田　馬見塚	古墳	古墳		
208-136	馬見塚古墳群３号墳	方保田　馬見塚	古墳	古墳		
208-137	馬見塚古墳群４号墳	方保田　権現の前	古墳	古墳		
208-138	馬見塚古墳群５号墳	方保田　権現の前	古墳	古墳		
208-139	竹林寺跡	山鹿	中世	寺社		
208-140	古閑ノ上	中　古閑ノ上、古閑	縄文・弥生	包蔵地		
208-141	天の川	古閑　天の川	縄文・弥生	包蔵地		甕棺２基
208-142	白石ノ上古墳	古閑　白石ノ上	古墳	古墳		円墳
208-143	市目	中　市目	古墳	包蔵地		土師器
208-144	中横穴群	中　本村	古墳	古墳		
208-145	雲閑寺跡	中	中世	寺社		
208-146	沖	古閑　沖	縄文～古代	包蔵地		
208-147	長沖甕棺出土地	中　長沖	弥生	埋葬		
208-148	中尾・下原	蒲生　下原・御宇田	弥生	埋葬		甕棺
208-154	坂田城跡	坂田　厄神	中世	城		城主名、年代等不明
208-155	上津留	西牧　上津留	縄文～中世	包蔵地		
208-156	小原大塚横穴群	小原　大塚	古墳	古墳		小円墳
208-157	小原大塚古墳群	小原　大塚	古墳	古墳		小円墳、１基は箱式石棺
208-158	小原城跡	小原　浦田	中世	城		昨日城、井戸あり
208-159	長岩横穴群	小原　猫の火ほか	古墳	古墳	県	118基、装飾８
208-160	小原浦田横穴群	小原　浦田	古墳	古墳		内装飾２基
208-161	岩原横穴群	岩原	古墳	古墳	県	装飾１基を含む
208-162	隈部親広館跡	西牧　居屋敷	中世	包蔵地		
208-163	志々岐大塚横穴群	志々岐　大塚	古墳	古墳		
208-164	楊柳寺跡	南島　笠仏	中世	寺社		
208-165	木下古墳	方保田　木下	古墳	古墳		円墳
208-166	長坂城跡	長坂　土居ノ上	中世	城		星子中務鎮永、天正16年落城
208-167	方保田	方保田　六田ほか	弥生	包蔵地		弥生土器一括
208-168	方保田箱式石棺	方保田　東原	弥生・古墳	埋葬		箱式石棺、多数の弥生後期土器片
208-169	神社裏古墳	方保田　宮田	古墳	古墳		円墳、小前方後円墳１基
208-170	馬見塚古墳群	方保田　馬見塚	古墳	古墳		円墳、３基、２基（計５）
208-171	馬見塚辻古墳	方保田　辻	古墳	古墳		円墳１、舟・家・箱等の石棺４、人骨９
208-172	馬見塚	方保田　辻	古墳	古墳		円墳１基
208-173	馬見塚	方保田　馬見塚ほか	弥生・古墳	包蔵地		弥生・土師・須恵多数、石庖丁
208-174	大道小学校校庭	方保田　本村	弥生	埋葬		甕棺
208-175	古城古墳	方保田	古墳	古墳		城跡内にあり
208-176	方保田城跡	方保田　六田	中世	城		方保田重兼、同武明在城という
208-177	方保田古墳	方保田　本村	古墳	古墳		円墳、巨石横穴石室
208-178	方保田箱式石棺	方保田　東原	弥生	埋葬		弥生後期土器片多数、移転復元
208-179	方保田東原	方保田　東原	弥生～古墳	集落	国	方保田古墳石室、巴形銅器市指定・石包丁形鉄器
208-180	端山塚古墳	方保田　塚ノ本	古墳	古墳	市	円墳、内部不明

表(Tab)３　周辺遺跡一覧表（２）

地図12（山鹿）

熊本県（43）山鹿市（208）

遺跡番号	遺跡名	所在地	時代	種別	指定	備考
208-181	亀塚古墳	方保田　塚ノ本	古墳	古墳	市	前方後円墳、後円部消滅、直刀
208-182	清水山古墳	方保田　一本杉	古墳	古墳		円墳、主体部は石棺か
208-183	一本杉石棺	方保田　一本杉	弥生・古墳	埋葬		
208-184	日置石棺	方保田　日置	弥生・古墳	古墳		
208-185	日置	方保田　日置	弥生・古墳	包蔵地		
208-189	専立寺板碑	方保田　本村	中世	石造物	市	
208-190	西福寺	城　西福寺	中世	寺社		
208-191	乳田塚	熊入	古墳	古墳		
208-192	名塚古墳群	名塚　野馬見	古墳	古墳		
208-193	八峯	久原　吹上	縄文～弥生	包蔵地		
208-194	城下原	城　付城	縄文～古代	包蔵地		
208-195	白石	方保田　白石	縄文～古代	包蔵地		
208-196	柳井城	小坂	中世	城		
208-197	八の峰	蒲生　八の峯	弥生	包蔵地		
208-198	竹林寺跡	山鹿	中世	寺社		
208-199	宗方	宗方	弥生・古墳	包蔵地		
208-201	条里跡		古代・中世	生産		
208-202	条里跡		古代・中世	生産		

熊本県（43）鹿北町（381）

遺跡番号	遺跡名	所在地	時代	種別	指定	備考
381-019	芋生城（松ヶ浦の城の尾）	芋生　松ヶ浦	中世	城		
381-024	善吉の塔	芋生　釘の花	中世	石造物	町	
381-025	北山同心の碑	芋生　釘の花	中世	石造物	町	

地図11（関町）

熊本県（43）三加和町（366）

遺跡番号	遺跡名	所在地	時代	種別	指定	備考
366-005	田中城跡	和仁　古城	中世	城	県	和仁氏の居城、天正十五年十二月五日落城
366-006	田中城下横穴(特)群	和仁　古城	古墳	古墳		14基、小型もあり、風化が多い
366-007	田中城下横穴(監)群	和仁　古城	古墳	古墳		14基、小型もあり、風化が多い
366-008	簾置城跡	西吉地　簾置	中世	城		
366-009	今古閑城跡	西吉地　竹本	中世	城		小森城の別名あり、伊津野氏居住
366-010	中林横穴群	中林　辻	古墳	古墳		３基（中林六地蔵が含まれる）
366-011	辺春能登守親行の墓	西吉地　村	中世	墓		坂本城主、和仁氏の姉婿、国衆一揆に加担
366-012	村	西吉地　村	古墳	包蔵地		昭和45年古墳時代の土師器出土
366-013	中林六地蔵	中林　辻	中世	石造物		中林横穴群３基中の１つに破片あり
366-015	柳川惟満の墓	上板楠　浦部	中世	墓		城の平城関係の武士か
366-016	桜町古墳群	板楠　桜町	古墳	古墳		消滅
366-017	幽霊塚古墳	板楠　桜町	古墳	古墳		
366-018	火の出塚古墳	板楠　桜町	古墳	古墳		
366-019	第３号古墳	板楠　桜町	古墳	古墳		
366-020	桜町横穴群	板楠　桜町	古墳	古墳		３基
366-021	岡原	上板楠　岡の原	弥生～近世	包蔵地		弥生後期の土器中心
366-022	岡原城跡	上板楠　岡の原	中世	城		天文年間､板楠豊後守平景貞などが在城
366-023	岡横穴群	上板楠　岡の原	古墳	古墳		10数基、ほとんどは防空壕・物置に転用
366-024	岡古墳	上板楠　岡の原	古墳	古墳		安山岩板石露出
366-025	門出の六地蔵	上板楠　門出	中世	石造物		六地蔵板碑
366-026	畔地の六地蔵	上板楠　畔地	中世	石造物		
366-027	大津山家稜の墓	西吉地　古閑	中世	墓地		大津山城主
366-028	上津田	津田　東ノ前	縄文	包蔵地		縄文土器・磨製石器
366-029	神尾城跡	大田黒　東川	中世	城		大津山氏の城といわれる
366-030	西光寺	板楠	古代	寺社	県	木造薬師如来座像が県指定
366-031	伊勢が原	津田　伊勢が原	弥生	包蔵物		弥生時代後期の土器が出土
366-032	前城跡	岩　立山	中世	城		
366-033	唸の前支石墓群	平野　唸の前	古墳	埋葬		20数基、未調査のため詳細は不明
366-034	唸の前	平野　唸の前	古墳	古墳		数基あるといわれるが、詳細は不明
366-035	松尾	平野　松尾	縄文～古墳	埋葬		黒髪式の甕棺３基､縄文早･晩期､弥生後期
366-036	城ン原城跡	平野　年の神	中世	城		年の神城跡、城主、年代不明
366-037	石坂城跡	大田黒　石坂	中世	城		88mの山頂近くに伝藤原藤房墓あり
366-038	岩村城跡	岩　上岩	中世	城		
366-039	下岩の官軍墓地	岩　河井ヶ浦	近代	墓地	県	将兵133名、軍夫16名が葬られている
366-040	薩軍墓地	岩　河井ヶ浦	近代	墓地		西南の役、林中に塚あり
366-041	田中城岩地蔵	和仁　古城	中世	石造物	町	一尊六地蔵、文明三年の碑
366-042	高畑の六地蔵	大田黒　東川	中世	石造物		奉寄進六地蔵、文政三年七月吉日左三次銘
366-051	六四郎眼鏡橋	西吉地　福田	近代	建造物		大正４年３月、小山世作・小山市松の作
366-052	山森横穴	西吉地　山森	古墳	古墳		１基
366-053	金栗瀬助翁の墓	中林　杉谷	近代	墓	町	
366-054	坂梨弥吾助の墓	中林　豆塚	近世	墓		山森阿蘇神社を勧請
366-055	上東六地蔵	上板楠　宮前	中世	石造物		奉建立文政三歳正月吉日陶山鞘工門と刻む
366-056	上東の眼鏡橋	上板楠　宮前	近世	建造物		上板楠神社の参道に架かる
366-057	陣内横穴群	上板楠　陣内	古墳	古墳		２基
366-058	小次郎丸の石塔群	大田黒　小次郎丸	中世	石造物		約40基の五輪塔、宝篋印塔の一部など
366-059	小屋敷の六地蔵	大田黒　小屋敷	中世	石造物		大田黒黒原三右衛門、享保十九年銘
366-060	神尾山墓地	大田黒　東川	近世	墓地		吉弘加左衛門尉源正直夫妻および正葉の墓
366-061	上津田(苧生田)の六地蔵	上津田　陳内	中世	石造物	町	文明八年丙申十二月十四日の銘記あり
366-062	本村の六地蔵	津田　室園	中世	石造物		『肥後國誌』に「文明十三年辛巳三月十四日」の記事
366-063	殿様の墓	岩　西丸	中世	墓		享禄三年と刻まれた板碑、文明十六年と刻まれた石などがある
366-064	北原松右衛門堰	津田　下津留	近世	建造物	町	享和三年～文化六年の６年で築造
366-065	糸川少助源直道の墓	平野　出目	近世	墓		細川家に仕えた糸川直光の7代目
366-066	中原地蔵板碑	平野　中原	中世	石造物	町	長禄２年、為妙祐禅尼廿五回也の銘
366-067	中岩の六地蔵	岩　六地蔵	中世	石造物		奉安置六地蔵、願主瑞岩寺三所、元禄八年十二月
366-068	孫丸太師堂の古塔群	岩　桑ノ木田	中世	石造物		室町時代の板碑および宝篋印塔の一部残存
366-069	七郎神	西吉地　塩井谷	近世	石造物		坂梨七郎右衛門を祀る。
366-070	岡の六地蔵	上板楠　岡の原	中世	石造物		檀邦平景貞､景次その他数十名の法名
366-071	城ン原	平野　年の神	弥生	包蔵地		昭和43年、甕棺数基出土

表(Tab)４　周辺遺跡一覧表（３）

地図11（関町）
熊本県（43）南関町（367）

遺跡番号	遺跡名	所在地	時代	種別	指定	備考
367-003	大津山城跡	関東　城平	中世	城		大津山氏居城
367-005	毘沙門堂跡	関東　楮原	中世	寺社		
367-027	鯉の鮓城跡	相谷　峠	中世	城		天文年中、臼間野宗郷築く（五位の巣）
367-028	小原城跡	小原　小山	中世	城		中世丘城
367-029	光善寺跡	小原　光善寺	中世	寺社		
367-030	清東寺跡	相谷　清東寺	中世	寺社		
367-060	豊永	東豊永　向原	縄文～中世	包蔵地		
367-061	相谷向原	相谷　向原	縄文	包蔵地		十字石・石斧・砥石・石包丁・環状石器
367-062	北坂の上	東豊永　馬場ほか	弥生	包蔵地		弥生土器片多数
367-063	油出	東豊永　油出	縄文	包蔵地		縄文（押型）
367-064	塚原	肥猪　塚原	弥生～平安	包蔵地		弥生後期、土師器
367-065	塚原古墳	肥猪　塚原	古墳	古墳		円墳・『玉名郡誌』に見る丹子塚か
367-066	向原	東豊永　向原	縄文～弥生	包蔵地		縄文・弥生土器
367-067	肥猪町官軍墓地	肥猪町　十時	近代	墓地	県	明治25年５月14日建設・墓碑139基
367-068	境原屋敷跡	肥猪町　境原	中世	包蔵地		
367-069	面頓寺跡	肥猪町　面頓寺	中世	寺社		
367-070	天福寺跡	肥猪　鰹尻	中世	寺社		
367-071	禅安寺跡	東豊永　桑水	中世	寺社		
367-072	相谷の山伏塚	相谷　堂突	中世	墳墓		
367-073	二百国司の館跡	肥猪　中原	中世	包蔵地		
367-074	肥猪町御茶屋跡	肥猪町　居屋敷	近世	包蔵地		
367-075	禅了寺跡	肥猪　前畑	中世	寺社		
367-087	宮の前	東豊永　宮の前	弥生	包蔵地		弥生櫛目文・石鏃
367-090	阿蘇神社三重石塔	下坂下　宮島	中世	石造物		小塔ながら整美・上層補作
367-093	坂下城跡（カブラヤ城）	下坂下　城の平	中世	城		
367-105	宗正寺跡	下坂下（通称中原）	中世	寺社		
367-106	長福寺跡	下坂下（通称中原）	中世	寺社		
367-107	大場横穴群	下坂下　浄光寺	古墳	古墳		
367-108	駄の草城跡	肥猪　駄草	中世	城		
367-109	日光山済福寺跡	肥猪　西居屋敷	中世	寺社		
367-110	五葉山寛元寺跡	肥猪　西居屋敷	中世	寺社		
367-111	平等寺跡	肥猪　池井川	中世	寺社		
367-112	清浄寺跡	肥猪　三ツ枝	中世	寺社		
367-113	三宝寺跡	肥猪　上猿ヶ浦	中世	寺社		
367-114	円福寺跡	下坂下　中ノ瀬	中世	寺社		
367-115	永福寺跡	下坂下　大場	中世	寺社		
367-116	浄光寺跡	下坂下　浄光寺	中世	寺社		
367-117	大場石棺群	下坂下　立林	弥生・古墳	埋葬		箱式石棺４基、青銅鏡・土師器・弥生土器
367-119	小代焼窯跡小代瓶焼窯跡	宮尾　東山田		生産	県	小代山北中腹、保存良好、５連房
367-120	大谷製鉄跡	宮尾　西小代・東小代		生産		３基発見、２基消滅
367-124	坂下城（トビノヲの城）	下坂下　米田・柳葉	中世	城		
367-125	米田山宝泉寺跡	下坂下　米田・柳葉	中世	寺社		
367-131	東小代製鉄跡	官尾　東小代	古代	生産		２ヵ所スラッグあり
367-132	十時	肥猪町　十時	弥生	包蔵地		
367-133	奈木野城跡	小原　城ヶ下	中世	城		
367-136	宗曽里	下坂下　宗曽里	縄文～中世	包蔵地		
367-137	大場	下坂下	縄文～中世	包蔵地		
367-138	小原	小原	弥生～古代	包蔵地		弥生・須恵器・土師器

地図18（玉名）
熊本県（43）菊水町（365）

遺跡番号	遺跡名	所在地	時代	種別	指定	備考
365-001	志口永赤穂原	志口永　大久保	旧石器～中世	包蔵地		縄文土器
365-002	竈門寺原	竈門　寺原	縄文～古墳	埋葬		弥生甕棺・箱式石棺・古墳
365-003	隆恩寺跡	江栗　浦川	中世	寺社		
365-004	西山田	下津原　山田	縄文	包蔵地		縄文
365-005	江栗・城の尾城跡	江栗　城尾	中世	城		
365-006	下津原赤穂原	下津原　赤穂原	弥生	包蔵地		弥生中後期
365-007	上原	下津原　上原	弥生～古代	包蔵地		
365-008	下津原	下津原　西原	古墳	埋葬		
365-009	大屋横穴群	大屋　宮前	古墳	古墳		
365-010	西葉山塚箱式石棺群	下津原　堂の上	古墳	埋葬		箱式石棺
365-011	下津原西六地蔵	下津原　西原	中世	石造物	町	１基
365-012	西五輪塔	下津原　西原	中世	石造物		
365-013	古閑屋敷五輪塔	下津原　古閑屋敷	中世	石造物		
365-014	金光寺跡	下津原　本村	中世	寺社		
365-015	堂の上寺跡	下津原　堂の上	中世	寺社		
365-016	東別当原	下津原　別当原	旧石器～弥生	包蔵地		旧石器、縄文、弥生
365-017	塔面五輪塔	志口永　北屋敷	中世	石造物		
365-018	本村	志口永（通称本村）	弥生	包蔵地		弥生後期
365-019	城の尾城跡	志口永　城尾	中世	城		
365-020	高野騒喚洞穴	高野（通称古閑）	縄文・弥生	住居		縄文土器・弥生土器
365-021	高野古閑奥原	高野　奥原	縄文・弥生	包蔵地		縄文、弥生土器
365-022	大屋洞穴	大屋　薬師脇	弥生～古代	住居		
365-023	下津原東三瀬横穴	下津原　三ツ瀬	古墳	古墳		
365-024	下津原上西原箱式石棺群	下津原　上西原	古墳	埋葬		
365-025	堂の上古墳	下津原　堂の上	古墳	古墳		
365-026	下津原東	下津原　東	弥生～古代	包蔵地		
365-027	内田五輪塔群	内田　宮ノ脇	中世	石造物	町	８基
365-028	高野寺跡	久井原　高野	中世	寺社		
365-029	前原宮田	前原　宮田・後田	弥生～古墳	埋葬		弥生中期、甕棺群
365-030	内田深田浦横穴群	内田　古閑	古墳	古墳		
365-031	内田古閑横穴群	内田　古閑	古墳	古墳		
365-032	天御子山石棺群	竈門　天御子	古墳	埋葬		箱式石棺群
365-033	永泉寺の木造薬師如来坐像	久井原　高野	中世	寺社	県	天台宗、薬師堂あり『玉名郡誌』
365-034	久井原六地蔵	久井原	中世	石造物	町	
365-035	内田の今城跡	内田　今城	中世	城		
365-036	内田宮山の城跡	内田（通称宮山）	中世	城		
365-037	久井原高野横穴群	久井原　高野	古墳	古墳		

表(Tab)５　周辺遺跡一覧表（４）

地図18（玉名）

熊本県（43）菊水町（365）

遺跡番号	遺跡名	所在地	時代	種別	指定	備考
365-038	堂頭寺跡	内田　石小田	中世	寺社		
365-039	和仁石山の城跡	内田	中世	城		内田城山城跡
365-040	西藤寺跡	藤田　古屋敷	中世	寺社		
365-041	前原西原	前原　西原	弥生～古墳	包蔵地		弥生中期、甕棺
365-042	原口長溝甕棺群	原口　長溝	弥生	埋葬		
365-043	東安寺跡	前原　本居屋敷	中世	寺社		
365-044	前原東安寺	前原　本居屋敷	弥生～古墳	包蔵地		弥生中期、甕棺
365-045	天御子	竃門　天御子	弥生	包蔵地		
365-046	前原石棺群	竃門　天御子	古墳	埋葬		
365-047	牟田	竃門　牟田	弥生・古墳	包蔵地		
365-048	久米野奥原	久米野　奥原	弥生	包蔵地		弥生後期
365-049	高福寺跡	竃門　緑田	中世	寺社		
365-050	内田眼鏡橋	内田　久保など	中世	建造物		
365-051	蛇田橋	竃門　蛇田　外	中世	建造物		
365-052	久米野眼鏡橋	久米野　中島ほか	中世	建造物		
365-053	前原陣	前原　本居屋敷	弥生・古墳	包蔵地		弥生中期、甕棺
365-054	蛇田石棺群	竃門　蛇田	古墳	埋葬		家形･舟形石棺墓
365-055	内田深田浦	内田	弥生・古墳	包蔵地		
365-056	焼米五輪塔群	焼米　城	鎌倉	石造物		20基
365-057	高野古閑	高野　古閑	縄文・弥生	包蔵地		縄文中後期土器、弥生後期
365-058	千ヶ谷横穴群	久米野　後田	古墳	古墳		久米野横穴群
365-059	高野古閑古墳	高野　古閑屋敷	古墳	古墳		円墳
365-060	岩尻五輪塔	岩尻　上村	中世	石造物		
365-061	岩尻六地蔵	岩尻　源藤	中世	石造物	町	１基
365-062	焼米六地蔵	焼米　橋詰	中世	石造物	町	１基
365-063	焼米城跡	焼米　城	中世	城		
365-064	古閑五輪塔	高野　古閑	中世	石造物		
365-065	高薬寺跡	高野　護麻堂	中世	寺社		
365-066	西頭（巌）寺跡	岩尻　源藤	中世	寺社		
365-067	高乗寺跡	高野　西本村	中世	寺社		
365-068	本村五輪塔	高野　西本村	中世	石造物		
365-069	焼米梅木町洞穴	焼米　梅木町	弥生	集落		弥生後期
365-070	久米野永泉寺跡	久米野　千が谷	中世	寺社		
365-071	岩尻大杉	岩尻　大杉原	弥生	包蔵地		弥生
365-072	観音堂五輪塔	原口　大江田	中世	石造物		
365-073	諏訪原	江田　諏訪原	弥生～平安	集落		弥生土器・須恵器・土師器
365-074	札木甕棺群	江田　皆行原	弥生	埋葬		弥生中期
365-075	江田駅跡推定地	江田　東	古代	包蔵地		
365-076	皆行原狸が浦横穴群	江田　狸ヶ浦	古墳	古墳		
365-077	中小路原	江田　中小路原	古代	包蔵地		
365-078	いご浦横穴	江田　氏無	古墳	古墳		
365-079	馬場堂ノ上	江田　堂ノ上	弥生・古墳	埋葬		弥生後期　甕棺群
365-080	若宮古墳	江田　中小路	古墳	古墳	県	前方後円墳
365-081	若宮舟形石棺	江田　中小路	古墳	埋葬		
365-082	江田穴観音古墳	江田　中小路	古墳	古墳	国	勾玉・金環、円墳
365-083	堂ノ上宝篋印塔	江田　堂ノ上	中世	石造物		
365-084	若園貝塚	江田　若園	縄文	貝塚		
365-085	清原石人	江田　清原	古墳	石造物	県	石製腰掛、石殿
365-086	京塚古墳	江田　清原	古墳	古墳		清原舟形石棺を含む、『玉名郡誌』
365-087	清原五輪塔	江田　清原	中世	石造物		
365-088	江田船山古墳	江田　大久保原	古墳	古墳	国	銅鏡・銀象嵌銘文太刀・剣・鎧・冠・沓など
365-089	虚空蔵塚古墳	江田　清原平	古墳	古墳	国	
365-090	塚坊主古墳	瀬川　清水原	古墳	古墳	国	
365-091	清水原家型石棺	瀬川　清水原	古墳	埋葬		家形石棺
365-092	松坂横穴群	瀬川　松坂	古墳	古墳		
365-093	姫塚古墳	瀬川　松坂	古墳	古墳		土器
365-094	清原	江田　大久保原ほか	縄文・弥生	包蔵地		縄文後期、弥生後期
365-095	北原横穴群	瀬川　北原	古墳	古墳		
365-096	長刀横穴群	瀬川　長力	古墳	古墳	県	１号が県指定・線刻の装飾がある
365-097	鴬原入口横穴	瀬川　東長力	古墳	古墳		
365-098	中原ボーシ下横穴群	瀬川　北帽子	古墳	古墳		
365-099	江光寺跡・江光寺五輪塔群	江田　江光寺	中世	寺社		50基
365-100	江田城跡（城山城跡）	江田　江光寺	中世	城		
365-101	真光寺跡	江田　中小路	中世	寺社		
365-102	光徳寺跡	江田　皆行原	中世	寺社		
365-103	天神平石棺墓	江田　天神平	古墳	埋葬		
365-104	立石島崎	原口　立石	弥生	埋葬		弥生中後期
365-105	立石寺跡	原口　野付		寺社		
365-106	三宝寺跡	江田　三宝寺	中世	寺社		
365-107	中原寺跡	瀬川　中原	中世	寺社		石塔群
365-108	西中原	瀬川　西中原	旧石器～古代	包蔵地		旧石器・マイクロコア・ナイフ
365-109	西原長者屋敷跡	瀬川　西原	中世	包蔵地		
365-110	中原北池の本石棺	瀬川　池元	弥生～古墳	埋葬		家形石棺
365-111	城讃岐守墓	江田　三宝寺	中世	墓		
365-112	牧野横穴群	江田　牧野	古墳	古墳		
365-113	寺山小原坂横穴群	江田　小原	古墳	古墳		
365-114	寺山小原	江田　小原	弥生	包蔵地		弥生中期
365-115	寺山宮の東横穴群	江田　寺山	古墳	古墳		
365-116	寺山寺跡	江田　寺山	中世	寺社		
365-117	園五輪塔	江田　長野	中世	石造物		
365-118	乙城跡	江田　長野	中世	城		
365-119	江田土喰箱式石棺群	江田　土喰	古墳	埋葬		鉄鏃・鉇
365-120	どんこ山横穴群	原口　浦谷	古墳	古墳		
365-121	北原寺跡	瀬川　北原	縄文	包蔵地		縄文土器・石器・矢じり
365-122	大久保舟形石棺	江田　大久保	弥生・古墳	埋葬		
365-123	立石城跡	原口　野付	中世	城		
365-124	トンカラリン	瀬川　長力	縄文～近代	建造物		
365-125	熊野宮宝塔	江田　神屋敷	中世	石造物	県	
365-126	鴬原城・館跡	瀬川　鴬原	中世	城		

表(Tab)６　周辺遺跡一覧表（５）

地図18（玉名）

熊本県（43）菊水町（365）

遺跡番号	遺跡名	所在地	時代	種別	指定	備考
365-127	土喰古墳	江田　土喰	古墳	古墳		
365-128	旧境家住宅	瀬川　清水原	近世	建造物	国	玉東町から移築
365-129	清原船形石棺	江田　清原	古墳	埋葬		舟形石棺
365-130	松坂原	瀬川　松坂原	弥生～古代	包蔵地		
365-131	牧野城跡	江田　牧野	中世	城		中世城、『玉名郡誌』
365-132	古閑の五輪塔群	用木　北富尾	中世	石造物		五輪塔
365-133	法蓮寺跡	用木（通称法蓮寺）	中世	寺社		
365-134	七曲り五輪塔群	用木　観音平	中世	石造物		
365-135	田川寺跡	日平　田川	中世	寺社		
365-136	用木城跡	用木（通称城の尾）	中世	城		
365-137	観音平寺跡	用木（通称観音平）	中世	寺社		
365-138	宗林庵跡	用木（通称立山）	中世	寺社		
365-139	徳丸六地蔵	用木　徳丸	中世	石造物	町	
365-140	徳丸寺跡	用木　徳丸		寺社		
365-141	宝蓮寺跡	用木　徳丸	中世	寺社		
365-142	米渡尾城跡	米渡尾	中世	城		
365-143	前野五輪塔	高野　前野	中世	石造物		
365-144	彼岸寺跡	榎原　迫		寺社		
365-145	萩原宝篋印塔	萩原　本村	中世	石造物		
365-146	萩原城跡	萩原　城山	中世	城		
365-147	西塔寺跡	米渡尾　東屋敷	中世	寺社		
365-148	イッチョ墓	瀬川　鴬原	中世	墳墓		日置郡公を葬る、銅版墓誌２出土
365-149	日平の宝篋印塔	日平	中世	石造物	町	
365-150	日平城跡（花簇城跡）	日平　城	中世	城		花簇城ともいう、小森氏代々在城
365-151	椿山古墳	瀬川　古寺原	古墳	古墳		円墳、前方後円形
365-152	禿石	日平　本谷・笹原		祭祀		山上に立つ自然石祭祠説あり
365-153	椿山五輪塔	瀬川　白石	中世	石造物		
365-154	西福寺跡	瀬川　古寺原	中世	寺社		
365-155	会所跡五輪塔	瀬川　古寺原	中世	包蔵地		
365-156	内田郷会所跡	瀬川　本村	近世	包蔵地		
365-157	龍善寺跡	瀬川　浦	中世	寺社		
365-158	鴬原五輪塔	瀬川　鴬原	中世	石造物		
365-159	山下五輪塔	瀬川　中原	中世	石造物		
365-160	畑五輪塔	日平　畑	中世	石造物		
365-161	月浦明泉寺跡	日平（通称月浦）	中世	寺社		月浦宅敷地が寺跡、という古老の話
365-162	花簇寺跡	日平　瀬戸	中世	寺社		
365-163	田川寺跡	日平　田川	中世	寺社		
365-164	花簇山吉祥寺跡	日平　城	中世	寺社		
365-165	大木戸五輪塔	蜻浦　大木戸	中世	石造物		
365-166	徳丸五輪塔	用木　徳丸	中世	石造物		
365-167	諸井横穴群	萩原　諸井	古墳	古墳		
365-168	江栗面頓寺	江栗	弥生時代中期	包蔵地		
365-169	東深倉橋	下津原	近代	建造物		大正10年
365-170	横枕宝塔	江田　横枕	中世	石造物	町	延慶三年の銘
365-171	焼米柳林	焼米　柳林	弥生	埋葬		弥生中期
365-172	傾成が塔	久井原　傾成が塔	古墳	包蔵地		石棺群
365-173	高野本村	高野　本村	弥生	包蔵地		弥生中期
365-174	寺上前	江田　寺上前	旧石器	包蔵地		
365-175	宮の前	内田　宮の前	弥生	埋葬		甕棺群

熊本県（43）玉名（206）

遺跡番号	遺跡名	所在地	時代	種別	指定	備考
206-005	三ツ川経塚	三ツ川　京塚	中世	経塚		大乗妙典埋納、円封土、地蔵石祠
206-006	川床磨崖五輪塔	三ツ川（通称川床）	中世	石造物		磨崖線刻五輪塔片多数
206-008	三ツ川横穴群	三ツ川　出目	古墳	古墳		県道端４基
206-009	玉蓮寺跡	三ツ川　前田	中世	寺社		最近まで阿弥陀堂・堂守があった
206-010	西福寺跡	三ツ川　権現尾	中世	寺社		
206-012	前平	箱谷　前平	縄文-中世	包蔵地		表面採取品、細長両刃尖頭器
206-014	石貫ナギノ横穴群	石貫　ナギノ	古墳	古墳	国	繁根木川上流域45個、８個装飾
206-015	後田古墳	石貫　後田	古墳	古墳		舟形石棺現存、鉄器副葬
206-016	石貫穴観音横穴	石貫　安世寺	古墳	古墳	国	５基内２基装飾、千手観音像あり
206-017	太平寺横穴群	石貫　太平寺	古墳	古墳		７基、角形羨門、妻入り天井
206-020	石貫葉柊	石貫　葉柊	弥生・古墳	包蔵地		弥生土器片多量、土師器
206-022	藤原為安の墓	石貫　榔野原	古代	墓		菊池氏の一族
206-026	堪空上人墓	石貫　太平寺	古代	墓		
206-027	ナギノ	石貫　榔野原	古墳	包蔵地		土師器・須恵器
206-030	安世寺跡	石貫　安世寺	中世	寺社	市	第１・２世墓市指定
206-031	太平寺跡	石貫　太平寺	中世	寺社		
206-032	塔の尾横穴	石貫　塔の尾	古墳	古墳		１基、風化
206-033	横畠横穴群	青木　横畠	古墳	古墳		８基、５・６号に円文を認める
206-034	六反横穴群	青木　六反	古墳	古墳		４基
206-035	二俣横穴群	青木　二俣	古墳	古墳		２基、保存度概してよし
206-036	水尻横穴群	溝上　水尻	古墳	古墳		２基
206-037	城迫間横穴群	溝上　城迫間	古墳	古墳		７基、４号三角線刻、６号舟浮彫
206-038	真福寺東古墳	溝上　前田	古墳	古墳		舟形石棺蓋発見
206-039	真福寺古墳	溝上　前田	古墳	古墳		墳丘を失う、舟形石棺遺存、鉄斧出土
206-040	赤禿古墳	溝上（通称赤禿）	古墳	古墳		小山の頂上にあり、人骨・鉄剣出土
206-041	前田古墳	溝上　前田	古墳	古墳		割に大型の舟形石棺のこる
206-042	宮の後古墳	溝上　下前田	古墳	古墳		円墳、舟形石棺、寄棟屋根蓋
206-043	田代阿弥陀塚古墳	溝上　田代	古墳	古墳		円墳、箱式棺、舟形系の蓋石
206-044	田代中の塚古墳	溝上　田代	古墳	古墳		円墳、舌状台地突端、小墳丘石材露出
206-045	青木磨崖梵字群	青木　田代上前田	中世	石造物	県	熊野社境内20数個の梵字あり
206-046	溝の上城跡	溝上　城の原	中世	城		山城、本丸跡に社、近くに清泉あり
206-047	溝の上六地蔵	溝上　下前田	中世	石造物		玉名市内最古、延徳３年10月４日
206-048	玉名の平城跡	玉名　平城	中世	城		菊池川右岸に屹立、眺望地
206-049	青木横穴	青木　上前田	古墳	古墳		青木梵字の北40m１基、羨門損壊
206-050	上小田宮の前	上小田　宮の前など	弥生	包蔵地		弥生土器・石斧・土師器・須恵器
206-107	石貫の十字ある板石	石貫　六枝		石造物		上部に十字陰刻あり
206-108	西原古墳参考地	玉名　西原	古墳	古墳		玉名山西端部、楕円状の封土

表(Tab)７　周辺遺跡一覧表（６）

地図18（玉名）

熊本県（43）玉名（206）

遺跡番号	遺跡名	所在地	時代	種別	指定	備考
206-109	大坊古墳	玉名　出口	古墳	古墳	国	横穴２室、三角連続彩色あり
206-110	大坊寺跡	玉名　東屋敷	中世	寺社		大坊前天満宮社地、糸切皿が出土する
206-111	大坊五輪塔群	玉名　大坊	中世	石造物		部落中５～６基祀る
206-112	小畑六地蔵塔	石貫　小畑	中世	石造物		玉名～南関県道端
206-115	富尾磨崖阿弥陀	富尾　原	中世	石造物		磨崖仏
206-116	岡箱式石棺群	玉名　上原	弥生	埋葬		妙修寺の墓地内３基・２基保存
206-117	永安寺西古墳	玉名（通称永安寺）	古墳	古墳	国	横穴単式、円文線刻
206-118	永安寺東古墳	玉名（通称永安寺）	古墳	古墳	国	横穴複式、円・三角・舟・馬を描く
206-119	永安寺跡・永安寺古塔碑群	玉名（通称永安寺）	中世	寺社		東古墳の東隣、玉名大神宮西、五輪塔・宝塔、在銘
206-120	伝玉依姫塚	玉名　釈迦		石造物		社伝で上記古塔群をいう
206-121	馬出古墳（１～２号）	玉名　馬出	古墳	古墳	市	円墳、横穴式、舟形・箱式石棺。出土品市指定
206-122	小路古墳	玉名　小路	古墳	古墳	市	27mの山上にあった。他へ復元。出土品市指定
206-123	絵下経塚古墳	玉名　絵下	古墳	古墳		玉名大神宮裏山にあり、封土・周溝あり
206-124	大永・弘治の板碑群	玉名　浦小路	中世	石造物		元玉名の地蔵堂前に２基あり
206-125	元玉名横穴群	玉名　実極田	古墳	古墳		風化、２基
206-126	上小田古屋敷	上小田　古屋敷	縄文～中世	包蔵地		土師器・須恵器片散布
206-127	下小田西丸塚	下小田　陣の浦	古墳	古墳		五輪塔部分あり、中世墳墓か
206-128	下小田養寺丸塚	下小田　養寺	中世	墳墓		養音寺跡という、板碑あり
206-129	小森田松	山部田　猿喰	古代	包蔵地		墓標に「金誉秀清尼」とあり
206-130	長建寺跡	山部田　瀬戸坂	中世	寺社		木葉山の西裾、現在形跡なし
206-131	諏訪宮跡	山部田　出羽	中世	寺社		熊野宮に合祀、現在形跡なし
206-132	小森田七右衛門墓	山部田　新宮	近世	墓		内田郷惣庄屋、旧白石堰建設者
206-133	山下古墳・山下古墳碑	山部田　山下	古墳	古墳		前方後円墳、舟形棺。弘化５年石碑前方部石棺上
206-134	高城	下　高城	古墳	包蔵地		土師器・須恵器・青磁片少量散布
206-135	下村城跡	下　高城	中世	城		本丸跡に薬師堂・五輪塔群あり
206-136	秋丸	下　秋丸	弥生	包蔵地		弥生土器多量出土
206-137	松村・永鳥兄弟墓地	下　井尻	近世	墓		幕末勤王志士兄弟
206-138	両迫間日渡	両迫間　日渡	弥生・古墳	包蔵地		弥生土器・土師器・須恵器包含、水田中
206-139	徳丸古墳群	上小田　下徳丸など	古墳	古墳		前方後円墳３基並列、舟形石棺１
206-140	上小田下丸塚	上小田　堂の後	古代	墳墓		円墳状を呈する
206-141	上小田城跡	上小田下　徳丸など	中世	城		中世丘城古墳、改造の形跡
206-142	大宝院跡	下　和田	中世	寺社		
206-143	金光寺跡	川部田　東屋敷	中世	寺社		
206-144	海福寺跡	下　白丸	中世	寺社		
206-145	養音寺跡	下小田　養寺	中世	寺社		
206-146	普門寺跡	下　田中	中世	寺社		
206-147	長慶寺跡	両迫間　上川端	中世	寺社		
206-204	宝成就寺跡（古塔碑群・石仏群）	高瀬　下町	中世	包蔵地	市	多くの古塔碑・石仏を残す、跡地小学校建つ
206-206	高瀬御蔵・御米山床跡	永徳寺　馬場など	近世	蔵跡		藩営、慶長年、明治10年蔵跡・礎石・山床・石垣
206-207	高瀬船着場跡（高瀬津跡）	永徳寺　東河原	近世	包蔵地	市	蔵下川岸、２箇所石組、石畳現存
206-208	高瀬御茶屋跡	永徳寺　出口	近世	包蔵地		蔵跡北隣の地、井戸残る
206-209	大倉山永徳寺跡	永徳寺　出口	中世	寺社		蔵跡北隣の地、形跡なし
206-210	高瀬眼鏡橋	高瀬　下町	近世	建造物	県	高瀬裏川にかかる、嘉永元年二重拱橋
206-211	高瀬本町通	高瀬　保田木町など	縄文～近世	包蔵地		地道路3.5mの下層、鎌倉期の遺物大量出土
206-212	保田木貝塚	高瀬　保田木町	縄文	貝塚		城跡神社境内全域、阿高式中心
206-213	保田木城跡･高瀬町奉行所跡	高瀬　保田木町	中世～近世	城		保田木神社内、外濠一部残存、高瀬城ともいう
206-214	高瀬山清源寺跡	高瀬　保田木町	中世	寺社		保田木城西隣、墓地のみ残る
206-215	龍造寺隆信首塚	高瀬　横町	中世	墳墓		願行寺境内、主体は明治４年佐賀に移す
206-216	大覚寺豪潮宝篋印塔	高瀬　横町	中世	石造物		大覚寺本堂前、市内３基の１つ
206-217	高瀬菊池川河床	菊池川河床	古代・中世	包蔵地		
206-226	松林寺山古墳	向津留　下	古墳	古墳		大型舟形石棺露出、棺蓋不明
206-227	桃田貝塚	大倉　桃田原	縄文	貝塚		ＪＲ線北２箇所、阿高式～土師器・須恵器
206-228	桃田古墳	大倉　桃田原	古墳	古墳		伝箱石棺出土
206-229	高田古墳	大倉　高田	古墳	古墳		台地頂上、円墳内部不明
206-232	芭蕉句碑（時雨塚）	高瀬　横町	近世	石造物		繁根木川左岸明教寺内、自然石に刻句
206-233	金盆山玉飯寺跡	川崎　出の上	中世	寺社		川崎八幡神宮寺墓地のみのこる
206-235	高瀬官軍墓地	高瀬　横町	近代	墓地		昭和36年発掘改葬、合祀する
206-237	長福寺跡	高瀬　八日町	中世	寺社		
206-242	飯塚古墳	向津留　飯塚	古墳	古墳		円墳、保存度良し
206-243	亀頭迫	大倉　亀頭迫など	弥生～中世	包蔵地		土師器、弥生後期
206-244	木村鉄太の墓	大倉　亀頭迫	近代	墓		木村家墓地内、日本最初世界一周者
206-245	立山	大倉（通称立山）	弥生～中世	包蔵地		弥生後期、土師器等散布
206-246	城が辻古墳群（１～５号）	寺田　城が辻	古墳	古墳		１号箱式石棺・２号円墳、完形遺存・５号丘陵先端
206-247	城が辻城跡	寺田　城が辻	中世	城		
206-248	寺田古墳群（１～４号）	寺田　宇土	古墳	古墳		１号台地北端、２号舟形、３号箱式石棺、４号処女墳
206-249	吉丸	寺田　吉丸	古代・中世	包蔵地		菊花文入瓦器多量出土
206-250	ナカント塚古墳	寺田　吉丸	古墳	古墳		部落西南畑中、封土あり、内部不明
206-251	吉丸西	寺田　吉丸	縄文～中世	包蔵地		
206-252	久保地下式横穴	寺田　久保	古墳	古墳		国道208号線の北大穴窟、出土品なし
206-253	寺田久保	寺田　久保	縄文～中世	包蔵地		
206-254	世間部塚古墳	寺田　世間部	古墳	古墳		「塚さん」という、山伏塚か
206-255	部田	津留　部田	弥生～中世	包蔵地		高台畑地、磨製大型石鏃出土
206-256	上津留古墳	津留　小部田	古墳	古墳		円墳、高台北端に位置、径25mの封土遺存
206-257	花群山吉祥寺跡	津留　堂園	中世	寺社		峡い高台上、跡地に毘沙門天を祀る
206-258	安楽寺跡	津留　太郎丸	中世	寺社		跡地に氏神菅原神社を祀る
206-259	安楽寺居館跡	津留　太郎丸	中世	包蔵地		跡地に氏神菅原神社を祀る、
206-260	菅原神社の六地蔵	津留　白柏子	中世	石造物		
206-261	安楽寺	津留	中世	寺社		
206-262	上津留	津留　部田	縄文～中世	包蔵地		付近畑地耕作で発見と伝えられる
206-263	朝日寺跡	安楽寺　生見	中世	寺社		跡地に観音堂・板碑あり、規模拡大
206-264	田崎横穴群	田崎　楢山	古墳	古墳		国道208号沿い、３基と造りかけ
206-265	随月古墳	安楽寺　随月	古墳	古墳		
206-266	善応寺跡	下　平野	中世	寺社		
206-267	賢長寺跡	下　桑迫	中世	寺社		
206-268	金盆山玉飯寺跡	川崎　畑尾	中世	寺社		
206-269	金地山松林寺跡	向津留　下	中世	寺社		
206-270	津留中林	津留　中林	縄文～中世	包蔵地		
206-271	随岸寺跡	安楽寺　陀羅原	中世	寺社		境内の洞穴中に不動尊を祀る
206-272	浦方染山横穴群	安楽寺（通称裏方）	古墳	古墳		梅林小学校裏手谷合い、４基風化する

表(Tab)８　周辺遺跡一覧表（７）

地図18（玉名）
熊本県（43）玉名（206）

遺跡番号	遺跡名	所在地	時代	種別	指定	備考
206-273	蓑田横穴群	安楽寺　蓑田	古墳	古墳		稲佐への県道東入り、数基
206-274	長福寺跡	安楽寺　蓑田	中世	寺社		横穴近くの藪中跡地に観音堂・五輪塔
206-275	安楽寺京塚	安楽寺　京塚	中世	経塚		十王社を祀る
206-276	一本松	田崎　一本松ほか	弥生～中世	包蔵地		甕棺群あり
206-277	田崎	田崎　天神原・辻	古墳～中世	包蔵地		台地畑、土師器・須恵器片少量散布
206-278	中神久	安楽寺　中神久	古代・中世	包蔵地		古代・中世遺物散布
206-294	城が崎城跡	伊倉北方　五社	中世	城		町北端舌状丘陵地、城の遺構は残らない
206-295	五社支石墓参考地	伊倉北方　五社	弥生	埋葬		十五社石祠、旧城跡にあり、台石は掌石か
206-296	中北古墳	伊倉北方　五社	古墳	古墳		県道に面する南小突端に箱式石棺をもつ
206-297	城が崎貝塚	伊倉北方　五社下	弥生	貝塚		町北端舌状台地上、南裾一帯弥生貝層出土多量
206-298	城が崎	伊倉北方　五社	弥生～中世	包蔵地		町北端舌状台地上、広範に弥生中期遺物を含む
206-299	中北Ａ	伊倉北方	弥生～中世	埋葬		小児合口式４基出土、１期鉄斧、外副葬品
206-300	名称不明					
206-301	中北	伊倉北方　五社	縄文～中世	包蔵地		
206-302	振倉謝公墳	伊倉北方	中世	墓		安山岩自然石板碑形式、本堂山にあり
206-303	大宮司宇佐一族の墓・石碑	伊倉北方　堂山	中世	石造物	市	７基あり、市指定３基
206-304	中尾山報恩寺跡	伊倉北方　堂山	中世	寺社		本堂山、墓地だけが残る
206-305	補陀落渡海碑	伊倉北方　堂山	中世	石造物		本堂山墓地内にあり、日照渡海、天正４年建立
206-306	本堂山古塔碑群	伊倉北方　堂山	中世	石造物		本堂山報恩寺跡あり、板碑12基、外塔
206-307	本村屋敷古塔碑群	伊倉北方　本村屋敷	中世	石造物		板碑１基、五輪塔部分多数散乱
206-308	福田寺跡	伊倉北方　本村屋敷	中世	寺社		跡地に豪壮な地蔵堂・宝篋印塔・五輪塔あり
206-309	福田寺跡宝篋印塔	伊倉北方　本村屋敷	中世	石造物		地蔵堂前にあり、「文政十有一年戊子春」
206-310	本村	伊倉北方　本村	縄文～中世	包蔵地		
206-311	吉利支丹墓碑	伊倉北方　北方・八龍	近世	墓	市	蒲鉾型、花崗岩、華十字を一方に刻む
206-312	桜井川製鉄跡	伊倉北方　西屋敷	古代・中世	生産		鉱滓散布する
206-313	桜井山安住寺跡	伊倉南方　西屋敷	中世	寺社		伊倉五山の一、祠・大銀杏（県指）あり
206-314	伊倉丹倍津跡	伊倉北方　八龍など	中世	包蔵地		天正以前まで貿易港をして栄えた
206-315	唐人町	伊倉　　唐人町	中世	包蔵地		
206-316	唐人町貝塚	北方	弥生～中世	貝塚		
206-317	鍛冶屋町	伊倉南方　西屋敷		貝塚		貝塚散布地、鉱滓多く散布
206-318	肥後四位宮の墓	伊倉南方　東屋敷	中世	墓	市	浜沂郭公、中国式の異形壮重な型、元和５年建立
206-319	西屋敷六地蔵塔	伊倉南方　西屋敷	中世	石造物		民家の一角、石垣中にたたみこむ
206-320	片諏訪貝塚	片諏訪　屋敷	縄文～鎌倉	貝塚		中世含む
206-321	片諏訪	片諏訪　屋敷	弥生	包蔵地		貝塚のある台地一帯
206-322	清国父恵助の墓	伊倉南方　片諏訪	中世	墓		刀匠清国の墓といっているが疑問あり
206-323	伊倉城跡古碑	片諏訪　中城	中世	石造物		伊倉台地南端、五輪塔片がある
206-324	中ん城跡	片諏訪　中城	中世	城		伊倉台地南端、眺望地、形跡を止めぬ
206-325	印鑰神社古墳	宮原　土井内	古墳	古墳		円筒埴輪・須恵器・土師器出土
206-326	宮原土井の内	宮原　土井内	弥生	包蔵地		弥生石器・土器出土
206-327	禮社	宮原　禮社	弥生	包蔵地		弥生土器散布
206-328	伊倉宮原町	宮原　屋敷	弥生	包蔵地		弥生土器散布
206-329	屋敷古塔碑群	宮原　屋敷	中世	石造物		五輪塔・重塔部分あり
206-330	伊倉南八幡宮社寺古塔碑群	宮原　屋敷	中世	石造物		板碑・五輪塔・宝篋印塔部分
206-331	伊倉宮川	宮原　宮川	弥生	包蔵地		弥生土器・石器
206-332	伊倉八幡宮境内	宮原　北方ほか	縄文	包蔵地		縄文土器、阿高式・御領式を多く含む
206-333	伊倉八幡古墳	伊倉北方　宮の後		古墳		北八幡宮境内、社前に巨石材２個あり
206-334	伊倉宮の後	伊倉北方　宮の後	縄文	包蔵地		縄文、阿高式・御領式土器・石斧・石鏃
206-335	伊倉宮の後甕棺群	伊倉北方　宮の後	弥生	埋葬		合口甕棺多数
206-336	伊倉古宮原	宮原　古宮原	弥生	包蔵地		弥生土器・土師器・須恵器散布
206-337	垣塚古墳	伊倉北方　東垣塚	古墳	古墳		くり抜き石棺形式出土、封土不明
206-338	岩井口横穴	伊倉北方　岩井口	古墳	古墳		伊倉台西端崖面、かなり崩壊
206-339	中北アカハゲ古墳	伊倉北方（通称赤禿）	古墳	古墳		高田古墳下に一封土あり、古墳と思われる
206-340	伊倉犬塚古墳	伊倉北方　鳥越	古墳	古墳		現在封土を失う
206-341	中北長照寺跡	伊倉北方　伊倉屋敷	中世	寺社		跡地に観音堂あり、寺の遺構なし
206-342	老女つやの墓	伊倉南方　西屋敷		墓		法号釈妙香年三倹賜文化元年三月没、六十八才
206-343	鍛冶屋町製鉄跡	伊倉南方　東屋敷	古墳	生産		土師器・須恵器、伊倉刀を打つ
206-344	伊倉山太平寺跡	宮原　屋敷	中世	寺社		伊倉五山の一、観音堂あり
206-345	長福寺跡	伊倉南方　東屋敷	中世	寺社		伊倉五山の一、観音堂あり
206-346	北牟田塚１号・２号	北牟田　居屋敷	中世	墳墓		２基中世墳墓、木棺・完全人骨、昭和53年発見
206-347	福願寺跡	伊倉北方　馬場屋敷	中世	寺社		
206-348	潮音寺跡	宮原	中世	寺社		
206-349	神宮寺跡	宮原　屋敷	中世	寺社		
206-350	青雲寺跡	片諏訪　屋敷	中世	寺社		
206-351	青野原	青野　原・北原	弥生・古墳	包蔵地		
206-352	合田	青野　合田	弥生・古墳	包蔵地		
206-353	青野屋敷跡	青野　合田・田の尻	中世	包蔵地		古井戸、現在雑木林
206-354	青野本村曲畑	青野　本村・田の尻	弥生・古墳	包蔵地		弥生～古墳土器多量包含
206-355	七浦経塚	青野　本村・七浦	中世	経塚		内容不明
206-356	青野古墳	青野　本村	古墳	古墳		
206-357	青野地下式横穴	青野　田の尻	古墳	古墳		現在埋没する
206-358	青野天神原古墳	青野　天神原	古墳	古墳		現在天神石祠建つ
206-359	青野天神原	青野　天神原	弥生・古墳	包蔵地		弥生～古墳期土器包含
206-360	青野火葬墓跡	青野　天神原・辻	古代	包蔵地		八弁花文瓦器蓋付深鉢（火葬骨入）、蓋付碗
206-361	中坂門田	中坂門田　西	弥生・古墳	包蔵地		
206-362	京塚古墳	中坂門田　京塚	古墳	古墳		内容不明
206-363	島田一族墳墓地	北坂門田　水落		墓地		宮大工、自然石切石５基
206-364	白骨どん古墳	北坂門田　井戸	古墳	古墳		小円墳、箱型石棺露出
206-365	古閑	中坂門田　古閑	古墳～中世	包蔵地		須恵器・土師器片
206-366	鎧田横穴群	中坂門田　古閑	古墳	古墳		数基、１基は保存良好
206-367	開野内原	中坂門田、開野ほか	古墳～中世	包蔵地		須恵器・土師器
206-368	落武者竹村治兵一門の墓	中坂門田、開野　内原		墓		稲荷神社前にあり
206-369	青野本村堂の久保	青野　本村堂の久保	弥生・古墳	包蔵地		
206-382	名称不明					玉名市遺跡地図にあり
206-383	名称不明					玉名市遺跡地図にあり
206-384	名称不明					玉名市遺跡地図にあり
206-385	名称不明					玉名市遺跡地図にあり
206-386	名称不明					玉名市遺跡地図にあり
206-387	名称不明					玉名市遺跡地図にあり
206-388	名称不明					玉名市遺跡地図にあり

表(Tab)９　周辺遺跡一覧表（８）

地図18（玉名）
熊本県（43）玉名（206）

遺跡番号	遺跡名	所在地	時代	種別	指定	備考
206-389	名称不明					玉名市遺跡地図にあり
206-390	名称不明					玉名市遺跡地図にあり
206-391	名称不明					玉名市遺跡地図にあり
206-392	名称不明					玉名市遺跡地図にあり
206-393	名称不明					玉名市遺跡地図にあり
206-394	名称不明					玉名市遺跡地図にあり
206-395	名称不明					玉名市遺跡地図にあり
206-396	名称不明					玉名市遺跡地図にあり
206-397	名称不明					玉名市遺跡地図にあり
206-398	名称不明					玉名市遺跡地図にあり
206-399	名称不明					玉名市遺跡地図にあり
206-400	名称不明					玉名市遺跡地図にあり
206-401	名称不明					玉名市遺跡地図にあり
206-402	名称不明					玉名市遺跡地図にあり
206-414	名称不明					玉名市遺跡地図にあり
206-415	名称不明					玉名市遺跡地図にあり
206-416	名称不明					玉名市遺跡地図にあり
206-417	名称不明					玉名市遺跡地図にあり
206-418	名称不明					玉名市遺跡地図にあり
206-419	名称不明					玉名市遺跡地図にあり
206-420	名称不明					玉名市遺跡地図にあり
206-421	名称不明					玉名市遺跡地図にあり
206-422	名称不明					玉名市遺跡地図にあり
206-423	名称不明					玉名市遺跡地図にあり
206-424	名称不明					玉名市遺跡地図にあり
206-425	名称不明					玉名市遺跡地図にあり
206-426	名称不明					玉名市遺跡地図にあり
206-427	名称不明					玉名市遺跡地図にあり
206-428	名称不明					玉名市遺跡地図にあり
206-429	名称不明					玉名市遺跡地図にあり
206-430	名称不明					玉名市遺跡地図にあり
206-431	名称不明					玉名市遺跡地図にあり
206-432	名称不明					玉名市遺跡地図にあり
206-433	名称不明					玉名市遺跡地図にあり
206-434	名称不明					玉名市遺跡地図にあり
206-435	名称不明					玉名市遺跡地図にあり
206-436	名称不明					玉名市遺跡地図にあり
206-437	名称不明					玉名市遺跡地図にあり
206-438	名称不明					玉名市遺跡地図にあり
206-439	名称不明					玉名市遺跡地図にあり
206-440	寺田山口	寺田山口	縄文～中世	包蔵地		玉名市遺跡地図にあり
206-441	名称不明					玉名市遺跡地図にあり
206-442	名称不明					玉名市遺跡地図にあり
206-443	名称不明					玉名市遺跡地図にあり
206-444	名称不明					玉名市遺跡地図にあり
206-445	名称不明					玉名市遺跡地図にあり
206-446	名称不明					玉名市遺跡地図にあり
206-447	名称不明					玉名市遺跡地図にあり
206-448	名称不明					玉名市遺跡地図にあり
206-449	名称不明					玉名市遺跡地図にあり
206-450	名称不明					玉名市遺跡地図にあり
206-451	名称不明					玉名市遺跡地図にあり
206-452	名称不明					玉名市遺跡地図にあり
206-453	名称不明					玉名市遺跡地図にあり
206-454	名称不明					玉名市遺跡地図にあり
206-455	名称不明					玉名市遺跡地図にあり
206-456	名称不明					玉名市遺跡地図にあり
206-457	名称不明					玉名市遺跡地図にあり
206-458	名称不明					玉名市遺跡地図にあり
206-459	名称不明					玉名市遺跡地図にあり
206-460	名称不明					玉名市遺跡地図にあり
206-461	名称不明					玉名市遺跡地図にあり
206-462	名称不明					玉名市遺跡地図にあり
206-463	名称不明					玉名市遺跡地図にあり
206-464	名称不明					玉名市遺跡地図にあり
206-465	名称不明					玉名市遺跡地図にあり
206-466	名称不明					玉名市遺跡地図にあり
206-467	名称不明					玉名市遺跡地図にあり
206-468	名称不明					玉名市遺跡地図にあり
206-469	名称不明					玉名市遺跡地図にあり
206-470	名称不明					玉名市遺跡地図にあり
206-471	名称不明					玉名市遺跡地図にあり
206-472	名称不明					玉名市遺跡地図にあり
206-482	柳町	玉名市河崎柳町	縄文～平安	集落		県調査、文字資料
206-483	玉名平野条里跡	玉名、迫間ほか	古代・中世	生産		
206-484	玉名平野条里跡		古代・中世	生産		
206-485	玉名平野条里跡		古代・中世	生産		
206-487	玉名平野条里跡		古代・中世	生産		
206-489	玉名平野条里跡		古代・中世	生産		
206-490	平嶋遺跡	山田	弥生後期	集落		H11年調査
206-491	吉丸前	寺田吉丸前	縄文・弥生	包蔵地		
206-492	前田	日田前田	縄文～近世	集落		
206-493	群前	津留群前	中世	集落		
206-494	北の崎	玉名市大字安楽寺田崎	弥生～古代	集落		
206-495	剣抜	玉名市大字安楽寺船島	古代	包蔵地		

表(Tab)10　周辺遺跡一覧表（９）

地図19（来民）

熊本県（43）鹿央町（384）

遺跡番号	遺跡名	所在地	時代	種別	指定	備考
384-001	岩倉の磐坐	合里　立石		祭祀		七五三縄を張り、信仰の対象にする
384-002	新宮次郎藤原忠親の墓	北谷	中世	墓		
384-003	長福寺跡	北谷　三郎丸	中世	寺社	町	
384-004	姫井六地蔵	合里　鳥井原	中世	石造物	町	
384-005	顕西寺跡	合里　上井	中世	寺社		
384-006	梅の木谷横穴群	梅の木谷　古閑	古墳	古墳		
384-007	建立寺跡	合里　田鶴原	中世	寺社		
384-008	龍福寺跡	合里　中尾	中世	寺社		
384-009	霜野城跡	霜野　真堂浦	中世	城		牧野弾正、居城近くに墓あり
384-010	霜野山康平寺跡	霜野　水ノ手	中世	寺社	県	康平元年草創、本尊千手観音、仏像多し
384-011	真堂浦如法経塔	霜野　真堂浦	中世	石造物	町	
384-012	霜野宮前六地蔵	霜野　本村	中世	石造物	町	
384-013	霜野六地蔵	霜野　本村	中世	石造物	町	
384-014	牧野弾正の墓	霜野　小路	中世	墓		
384-015	霜野阿弥陀堂古塔碑群	霜野　本村	中世	石造物		墓地内に多くの五輪塔・板碑あり
384-016	日吉神社前木造地蔵	霜野	近世	石造物		
384-017	持松中屋敷古墳群	持松　中屋敷	古墳	古墳		別名千田持松古墳群、円墳群、家形石棺あり
384-018	持松塚原古墳群	持松　塚原	古墳	古墳	県	千田塚原古墳群、家形石棺、櫛・刀子
384-019	久保原古墳	岩原　久保原	古墳	古墳		箱式石棺・刀子・鍬先・珠文鏡
384-020	鬼塚古墳	岩原　青苔	古墳	古墳	町	箱式石棺・刀子・鍬先・珠文鏡、円墳
384-021	岩原古墳群	岩原	古墳	古墳	国	
384-022	岩原二子塚古墳	岩原	古墳	古墳	国	前方後円墳・円墳
384-023	狐塚古墳	岩原	古墳	古墳		
384-024	下原古墳	岩原　寒原	古墳	古墳	町	
384-025	塚原古墳	岩原　寒原	古墳	古墳		
384-026	馬不向古墳群	岩原　馬不向	古墳	古墳		（1～3号）
384-027	寒原第１号古墳	岩原　寒原	古墳	古墳	町	
384-028	寒原第２号古墳	岩原　寒原	古墳	古墳		家型石棺、剣・刀子
384-029	寒原小円墳群	岩原　寒原	古墳	古墳		（1～3号）
384-030	岩原の土馬出土地	岩原　塚原	古代	包蔵地		１点
384-031	桜の上横穴群	岩原　大野原・清水	古墳	古墳	県	金鎖・丸玉・鉄鏃・鋤先
384-032	塚さん古墳	岩原　桜の上	古墳	古墳		箱式石棺主体
384-033	城ヶ鼻城跡	岩原　城ヶ鼻	中世	城		中世抗、稲荷社あり
384-034	岩原横穴群	岩原　塚原	古墳	古墳		
384-035	岩原城跡	岩原　東古城	中世	城		
384-036	郷原石地蔵	岩原　郷原	中世	石造物		
384-037	田代横穴	岩原　上岩原	古墳	古墳		
384-038	持松塚原古墳	持松　塚原	古墳	古墳	県	円墳
384-039	若竹の原城跡	岩原　若竹	中世	城		
384-040	吉井原	合里　吉井原・堤	弥生	包蔵地		甕棺群
384-041	天神免（広垣の内）	広　天神免	弥生	包蔵地		甕棺群、細形銅剣
384-042	下原古墳	広　天神免	古墳	古墳		
384-043	双塚古墳群	合里　青井	古墳	古墳	町	円墳（1号・2号）
384-044	下米野横穴群	合里　前畑・立足	古墳	古墳	町	
384-045	千田浦大間古墳群	千田　浦大間	古墳	古墳	町	家形石棺、櫛・刀子・直刀・玉
384-046	向原	合里　向原	縄文	包蔵地		縄文土器、甕棺群、弥生、家形石棺
384-047	廣城跡	広　城尾屋敷	中世	城		中世丘城城主、千田伊豫守
384-048	米野山城跡	合里　米野山	中世	城		米野岳山上、年代不明、佐伯氏居城
384-049	広の里数木跡	広　一里塚	近世	交通	町	
384-050	城越前守親冬の墓	広　寺の上	中世	墳墓		
384-051	堂米野六地蔵	合里　中井	中世	石造物	町	
384-052	島己ケイの墓	合里　屈足	中世	墓	町	
384-053	能満寺跡	合里　米野山	中世	寺社		
384-054	白山石段	合里　米野山		石段	町	
384-055	永野入道宗孚の墓	合里　米野	中世	墓		
384-056	真学寺跡	合里　田鶴原	中世	寺社		
384-057	上迫	広　上迫	弥生・古墳	包蔵地		
384-058	正元寺跡	合里　扇平	中世	寺社		
384-059	寺の上石棺群	広　寺の上	古墳	埋葬		
384-060	堤第１号古墳	合里　堤	古墳	古墳	町	円墳
384-061	堤第２号古墳	合里　吉井原	古墳	古墳	町	円墳
384-062	堤第３号古墳	合里　堤	古墳	古墳	町	円墳
384-063	駄の原長者屋敷跡	合里　駄の原	古代・中世	包蔵地		古墳長者伝説地
384-064	駄の原長者古墳	合里　東駄の原	古墳	古墳	町	
384-065	駄の原	合里　東駄の原	縄文	包蔵地		縄文後期～晩期土器
384-066	広六地蔵	広　北屋敷	中世	石造物	町	
384-067	上谷官古墳	広　上谷官	古墳	古墳		円墳
384-068	芹ヶ迫古墳	広　芹ヶ迫	古墳	古墳	町	
384-069	西屋敷	広　西屋敷	平安～中世	包蔵地		
384-070	土蔵塚	宮原　久野	古墳	古墳		
384-071	久野古墳	千田　辺田	古墳	古墳		
384-072	千田の追分石	千田　宮	近世	石造物		
384-073	千田中尾	千田　中尾	弥生	埋葬		甕棺（10）・木棺（43）
384-074	早馬塚古墳	千田　早馬塚	古墳	古墳		円墳
384-075	早馬	千田　早馬	弥生	埋葬		弥生土器、甕棺（54）・木棺（11）
384-076	条里跡		古代・中世	生産		

熊本県（43）鹿本町（383）

遺跡番号	遺跡名	所在地	時代	種別	指定	備考
383-054	大道中学校	来民　今古閑	弥生	包蔵地		
383-057	光運寺跡	下分田　下河原	中世	寺社		
383-058	源堂寺跡	小柳　屋敷	中世	寺社		

地図26（伊倉）

熊本県（43）横島町（362）

遺跡番号	遺跡名	所在地	時代	種別	指定	備考
362-006	外平貝塚	横島　外平	弥生・中世	貝塚		主に土師器
362-007	池辺吉十郎の墓	横島　外平	近世	墓	町	西南役薩軍熊本隊長、長崎で刑死
362-008	人柱の跡	横島　京泊	近世	縁地	町	石塘築堤の犠牲

表(Tab)11　周辺遺跡一覧表（10）

地図26（伊倉）

熊本県（43）横島町（362）

遺跡番号	遺跡名	所在地	時代	種別	指定	備考
362-009	横島城跡	横島　京泊	中世	城		加藤求馬助の居城という
362-010	横島経塚	横島　京泊	近世	経塚	町	石塘築堤の折の経文を納める
362-011	京泊	横島　京泊	中世	包蔵地		中世遺物分布
362-013	顕松寺跡（見正寺跡）	横島　京泊	中世	寺社	町	島津対竜造寺軍との戦火で焼失、再建立
362-014	まぶ（水路）	横島　京泊	近世	建造物	町	三村章太郎の掘穿、80m
362-015	津波石	横島　京泊	近世	石造物	町	

熊本県（43）天水町（363）

遺跡番号	遺跡名	所在地	時代	種別	指定	備考
363-001	野部田	野部田　前田・平	弥生	包蔵地		弥生、住居･集落
363-002	竹崎貝塚	竹崎　山崎	縄文・弥生	貝塚		阿高式土器・石斧・石錘
363-003	斉藤山貝塚	尾田　正法寺平	弥生前期	貝塚		鉄斧
363-004	石塘	部田見　石塘	近世	建造物		加藤清正干拓工事、十八間堤の称あり
363-005	竹崎	竹崎　本村屋敷	弥生	埋葬		甕棺散布地
363-006	野部田東	野部田　平	縄文	包蔵地		縄文末期、御領式土器
363-007	久島貝塚	部田見　久島原	縄文	貝塚		縄文土器
363-008	久島古墳	部田見　久島	古墳	古墳		参考地・久島山東中腹
363-009	久島	部田見　久島	縄文～古墳	包蔵地		
363-010	塚の神西古墳	部田見　徳丸	古墳	古墳		箱式石棺
363-011	塚の神古墳	部田見　徳丸	古墳	古墳		円墳、円筒埴輪片散乱、塚の神石祠あり
363-012	海奇山遍照院金剛寺跡	竹崎　山崎	中世	寺社		真言宗、跡新寺建つ
363-013	野部田石畳道	野部田　際目	近世	建造物		約110m旧野部田より伊倉への街道
363-014	空西寺跡（宏済寺跡）	部田見　寺原	中世	寺社		
363-015	尾田貝塚	尾田　本村屋敷	縄文	貝塚		曾畑式・阿高式土器、人骨、獣骨
363-016	山神平	野部田　山神平	弥生	包蔵地		弥生中期の土器片出土
363-017	下強当石棺群	尾田　下強当	弥生～古墳	埋葬		箱式石棺群
363-018	尾田	尾田　尾田原ほか	古墳	包蔵地		土師器・須恵器
363-019	正法寺平古墳	尾田　正法寺平	古墳	古墳		箱式石棺破損
363-020	正法寺平地下式横穴	尾田　正法寺平	古墳	古墳		一部埋没、内部不明
363-021	正法寺跡	立花　正法寺	中世	寺社		板碑２基あり
363-022	経塚古墳	部田見　城の平	古墳	古墳	町	円墳、陪塚小塚、鏡・剣・玉・円筒埴輪
363-023	米ノ山石棺	立花　米ノ山	弥生～古墳	埋葬		箱式石棺
363-024	米ノ山	立花　米ノ山	縄文～中世	包蔵地		
363-025	大塚古墳	立花　中田	古墳	古墳		大円墳、陪塚箱式石棺、４円筒片
	大塚箱式石棺群	部田見　中田	弥生	埋葬		４基の内２基完形、内行花文鏡
363-026	小塚古墳	部田見　城の平	古墳	古墳		円墳
363-027	明人林均吾墓	立花　米ノ山	近世	墓		明人３官、元和７年建
363-028	経塚西古墳	部田見　赤崎	古墳	古墳		円墳、径26m
363-029	立花横穴群	立花　桜坂	古墳	古墳		２基並列、屋根型の天井
363-030	立花貝塚	立花　本村屋敷	古墳～中世	貝塚		中世瓦器・土師器・須恵器　他
363-031	迫横穴群	部田見　迫	古墳	古墳		５基
363-032	赤崎城跡	部田見　赤崎・城の平	中世	城		
363-033	柳林	小天　柳林	弥生	包蔵地		弥生土器・石器
363-034	かなくそ谷製鉄跡	小天　小平	古代・中世	生産		完形炉１基
363-035	赤仁田	小天　赤仁田	弥生	包蔵地		弥生土器・石器

地図27（植木）

熊本県（43）玉東町（364）

遺跡番号	遺跡名	所在地	時代	種別	指定	備考
364-001	稲佐廃寺跡	稲佐　切畑	古代	寺社	県	塔礎石・金堂基壇の一部、布目瓦多量
364-002	稲佐城跡	稲佐	中世	城		同上地、本丸跡に熊野神を祀る
364-003	伊形霊兩の墓	木葉　往生松	中世	墓	町	時習館居寮、詩作、国文に長じた
364-004	宇蘇浦官軍墓地	木葉　宇蘇	近代	墓地	県	西南役戦死者333を葬る、谷村計介墓もあり
364-005	宮の元	稲佐　切畑	弥生～中世	包蔵地		
364-006	山口	山口　長宗	弥生～中世	包蔵地		
364-007	立福寺跡	稲佐	中世	寺社		
364-008	円久寺跡	上木葉	中世	寺社		
364-009	大城寺跡	上木葉	中世	寺社		
364-010	稲佐切畑	稲佐　切畑	弥生	包蔵地		熊野神社全域、弥生土器片多量
364-011	窪田越前塚	木葉　久保田	古墳	古墳		墳丘上に箱式石棺の一部露出
364-012	町下	木葉　町下	古代・中世	包蔵地		青磁・土師器・須恵器・瓦器破片
364-013	木葉宇都宮城跡	木葉　丸田	中世	城		小森田城跡、役場裏手
364-014	高月官軍墓地	木葉　高月	近代	墓地	県	西南役戦死者976柱を葬る
364-015	音丸	白木　上古閑	弥生・古墳	包蔵地		弥生土器・土師器
364-016	箱井古墳	白木　箱井	古墳	古墳		高台上小円墳、石材露出する
364-017	上古閑古墳	白木　上古閑	古墳	古墳		箱形、蓋入母屋の石棺
364-018	二郎丸横穴群	白木　二郎丸	古墳	古墳		２基
364-019	揚の六地蔵	木葉　前田	中世	石造物		銘があるが風化し、不詳
364-020	有栖川宮督戦地	木葉　丸田	近代	縁地	町	碑あり
364-021	白木柏軒の墓	白木　口の坪	近世	墓		
364-022	世尊寺跡	木葉　世尊寺	中世	寺社		真言宗、寺号築地蓮華院に移す
364-023	土生野	木葉　土生野	縄文～古代	包蔵地		部落内に須恵器・土師器を包含する
364-024	助吉古墳	二俣　助吉	古墳	古墳		封土を失い、石材堆積
364-025	陣林	二俣　陣林	縄文～古代	包蔵地		
364-026	堂の元	二俣　堂の元	縄文～古代	包蔵地		
364-027	京塚	二俣　京塚	縄文～古代	包蔵地		
364-028	前久保古塔碑群	二俣　前久保ほか	中世	石造物		
364-029	辻	二俣　辻	縄文後晩期	包蔵地		
364-030	小清水横穴	白木　小清水	古墳	古墳		風化深い、２基
364-031	西原製鉄跡	原倉　西原	古代	生産	県	鉱滓・焼灰あり
364-032	原倉	原倉　畑ほか	弥生	包蔵地		弥生土器・石器
364-033	原倉西	原倉　建が迫ほか	古墳	包蔵地		須恵器
364-034	城山城跡	上白木　城山ほか	中世	城		山北小校地一帯
364-035	太朗丸権現山	上白木　太朗丸	古代	生産		スラッグ・ふいごの羽口
364-036	横平山戦跡	二俣　中道ほか	近代	戦跡	町	西南役、濠跡、記念碑あり
364-037	西安寺	西安寺　上の原ほか	弥生末	包蔵地		土師器・須恵器片、住居跡
364-038	久満坊埋蔵銭出土地	西安寺　吉丸	古代・中世	包蔵地		中国唐～明479個
364-039	西安寺跡	西安寺　寺中尾ほか	中世	寺社	県	礎石・排水溝
364-040	西安寺五輪塔群付板碑群	西安寺　寺中尾	中世	石造物	県	相良氏五輪塔　外、板碑

表(Tab)12　周辺遺跡一覧表（11）

地図27（植木）

熊本県（43）玉東町（364）

遺跡番号	遺跡名	所在地	時代	種別	指定	備考
364-041	座主古塔碑群	上白木　座主	中世	石造物		笠塔婆・五輪塔
364-042	立岩石器製作	原倉　立岩屋敷	縄文	生産		石斧・剥片多数
364-043	西安寺製鉄	西安寺　寺中尾	古代	生産		スラッグ
364-044	釜の口製鉄跡	原倉　山口原	古代・中世	生産		鉱滓多量散布、ふいごの羽口、焼土
364-045	東山西	原倉　荒平	縄文?弥生	包蔵地		縄文後晩期御領式、弥生
364-046	金糞谷製鉄跡	原倉　藤原	古代・中世	生産		
364-048	吉次峠戦跡	原倉　荒強当	近代	戦跡	町	西南役、佐々軍駐屯地、谷村計介捕まる
364-049	東山	原倉　荒強当	縄文	包蔵地		縄文後期の土器・石器包含
364-050	むくろじ製鉄跡	原倉　荒強当	古代	生産	町	鉱滓・羽口多量
364-051	むくろじかじ墓群	原倉　荒強当	古代	墳墓		山林中にいくつもの小墳丘点在
364-052	篠原国幹戦死地	原倉　大谷	近代	縁地		石標柱、薩軍武将、明治10年３月４日戦死
364-053	大谷石器製作	原倉　大谷	縄文	生産	町	安山岩石器多量出土
364-054	寺山板碑	稲佐　寺口	中世	石造物		
364-055	ガランさん板碑	稲佐　馬場屋敷	中世	石造物		
364-056	官軍本営跡	木葉　部田見	近代	戦跡		
364-057	天神山古墳	木葉　町下	古墳	古墳		
364-058	官軍病院跡（正念寺）	木葉　生野	近代	包蔵地		
364-059	眼鑑橋跡	二俣　鍛冶場	近世	包蔵地		
364-060	歯吹如来	二俣　北原		建造物		
364-061	官軍砲台跡	二俣　瓜生田	近代	戦跡		
364-062	官軍本営出帳所	二俣　瓜生田	近代	戦跡		
364-063	山北八幡宮仁王像	白木　栗地原	中世	建造物		
364-064	阿蘇火砕流埋没炭化木出土地	上白木　小林		記念物		
364-065	阿蘇火砕流埋没炭化木出土地	上白木　黒牟田		記念物		
364-066	即身成仏の碑	上白木　小林	中世	石造物		
364-067	弾痕の家	上白木　小林	近代	建造物		
364-068	薩軍仮埋葬地	二俣　峠	近代	墓地		
364-069	眼鑑橋跡	上白木　鐘丸	近世	包蔵地		
364-070	清田原製鉄	原倉　清田原	古代・中世	生産		
364-071	官軍砲台跡	原倉　七ツ松	近代	軍事		
364-072	道標（追分石）	原倉　清田原	近世	石造物		
364-073	薩軍砲台跡	原倉　立岩原	近代	戦跡		
364-074	菖蒲谷製鉄所跡	原倉　荒平	古代	生産		
364-075	六本楠	原倉	縄文	包蔵地		
364-076	原倉清田氏板碑群	原倉　登立	中世	建造物	町	
364-077	原倉清田氏五輪塔	原倉　尾池	中世	建造物	町	
364-078	馬伏製鉄	原倉　馬伏	古代	生産		
364-079	官軍砲台跡	原倉　大谷	近代	戦跡		
364-080	乃木少佐奮戦の地	稲佐　平迫	近代	軍事		
364-081	名称不明					
364-356	吉次峠戦跡	円台寺木留　大迫葛山他	明治	戦跡		弾丸

熊本県（43）植木町（385）

遺跡番号	遺跡名	所在地	時代	種別	指定	備考
385-001	涵養斉塾跡	宮原　大坪	近世	包蔵地		
385-002	山上古墳群	宮原　山上	古墳	古墳		石棺墓出土
385-003	宮上古墳群	宮原　宮の上	古墳	古墳		石棺墓出土
385-004	浦田	正清　桑の木	弥生	埋葬		甕棺
385-005	享禄板碑	正清　大塚・本村	中世	石造物		大塚の板碑、『田底村誌』
385-006	二田の六地蔵	正清　二田	中世	石造物	町	
385-007	永正の板碑	田底　荒牧	中世	石造物		永正14年銘
385-008	山城の板碑	田底　本村	中世	石造物		
385-009	南平横穴群	正清　南平	古墳	古墳		
385-010	大塚古墳	正清　登立	古墳	古墳		
385-011	如来の板碑	田底　山城・平昌	中世	石造物		
385-012	八久保古墳	宮原　八久保	古墳	古墳		
385-013	大橋	田底　八郎丸	縄文～古代	包蔵地		
385-014	大橋城跡	田底　八郎丸	中世	城	町	
385-015	桑の木横穴群	正清　桑の木	古墳	古墳		
385-016	粕道石棺群	内　粕道	古墳	埋葬		箱式石棺
385-017	ササ塚	内　粕道	古代・中世	包蔵地		
385-018	小原	内　小原	弥生	埋葬		甕棺
385-019	げんば（玄蕃）塚古墳	今藤　向田	古墳	古墳	町	
385-020	伝習農場	清水　堤が平	縄文・古代	包蔵地		縄文早期・前期土器
385-021	伝習農場火葬墓地	清水　堤が平	古代	埋葬		蔵骨器
385-022	今藤横穴群	今藤　向原	古墳	古墳		横穴約15基、五輪塔
385-023	慈恩寺経塚古墳	米塚　井川平	古墳	古墳	県	円墳、舟形石棺
385-024	慈恩寺の板碑	米塚　松葉	中世	石造物		『田底村誌』
385-025	米塚古墳	米塚　米塚	古墳	古墳		
385-026	余内の経塚古墳	豊田　余内	古墳	古墳		
385-027	余内の板碑	豊田　余内	中世	石造物		永禄12年８月
385-028	余内の横穴群	豊田　余内	古墳	古墳		
385-029	豊田古墳	豊田　宗像	古墳	古墳		円墳
385-030	加茂横穴群	豊田　宗像	古墳	古墳	町	約40基
385-031	加茂の六地蔵付板碑	豊田　後田	中世	石造物	町	永正11年甲戌２月吉日
385-032	雪堂板碑・木造仏	豊田　本村	中世	石造物	町	大永２壬年、永正13年
385-033	伊知坊甕棺群	伊知坊　辻・本村	弥生	埋葬		
385-034	伊知坊	伊知坊　辻・本村	縄文～中世	包蔵地		
385-035	筒川	伊知坊　筒川	縄文～中世	包蔵地		
385-036	乗越横穴群	豊田　横尾・乗越	古墳	古墳		
385-037	平須恵窯跡	鈴麦　平	古代・中世	生産		４基以上
385-038	下鈴麦	鈴麦　天神原	縄文～中世	包蔵地		布目瓦出土地
385-039	尾（大）平城跡	平原　城の尾	中世	城		
385-040	浦田	平原　浦田	縄文～中世	包蔵地		布目瓦出土地・土師器片有
385-041	砥石の宝篋印塔群	清水　前畑	中世	石造物	町	神社境内、在銘同形２基
385-042	内の板碑	内　本村	中世	石造物		永正13年
385-043	正院の五輪塔	山本　宮前	中世	石造物	町	
385-044	南楠原	山本　南楠原		寺社		布目瓦出土地
385-045	草葉	山本　草葉	縄文～中世	包蔵地		布目瓦出土地

表(Tab)13　周辺遺跡一覧表（12）

地図27（植木）

熊本県（43）植木町（385）

遺跡番号	遺跡名	所在地	時代	種別	指定	備考
385-046	正院の眼鏡橋	小野　七国	近世	建造物	町	移転
385-047	味取観音古墳	味取　観音平	古墳	古墳		鉄鏃
385-048	味取	味取　観音平	弥生・古代	包蔵地		須恵器・土師器
385-049	内村城跡（内空閑城）	内　岩松寺ほか	中世	城	町	
385-050	岩松寺跡	内　岩松寺	中世	寺社		
385-051	服部の五輪塔	豊田　服部	中世	石造物	町	
385-052	及谷貝塚	亀甲　及谷		貝塚		
385-053	堂付	亀甲　堂付	縄文～中世	包蔵地		
385-054	宝田横穴群	亀甲　高原	古墳	古墳		
385-055	高熊２号古墳	古閑　天神平	古墳	古墳		
385-057	高熊	古閑　天神平	弥生・古墳	集落		住居跡
385-058	請の原古墳群	亀甲　請の原	古墳	古墳		円墳２基
385-059	亀甲東横穴群	亀甲　請の原	古墳	古墳	町	装飾らしきものあり
385-060	新村	亀甲　堂付	縄文	包蔵地		縄文土器
385-061	上の原城跡	豊田　上の原	中世	城		加茂城・城山城
385-062	上の原五輪塔	豊田　上の原	中世	石造物		
385-063	原古墳	亀甲　原	古墳	古墳		
385-064	原横穴群	亀甲　原	古墳	包蔵地		
385-066	豊岡の眼鏡橋	豊岡	近世	建造物	町	
385-067	谷板碑	豊岡　谷	中世	石造物		
385-068	田原一の坂	豊岡　西原・岡林	縄文	包蔵地		縄文土器
385-069	田原古墳（参考地）	豊岡　上の原	古墳	古墳		円墳状を呈する
385-070	田原の五輪塔付板碑	豊岡　栗木平	中世	石造物	町	田原寺跡、在銘板碑、塔片あり
385-071	公園	豊岡　船底	古墳・古代	包蔵地	町	須恵器・土師器
385-072	公園板碑	豊岡　船底	中世	石造物		石造物
385-073	船底の五輪塔付板碑	豊岡　船底	中世	石造物	県	
385-074	穴カンノン古墳	富応　西原	古墳	古墳		
385-075	外土井	富応　外土井	縄文	包蔵地		
385-076	中久保	豊岡　橘木	縄文・弥生	包蔵地		
385-077	七本官軍墓地	轟　多尾	近代	墓地	県	西南役戦死者、門柱に官修墓地とあり
385-078	七本薩軍墓地	轟　鎌地	近代	墓地		西南役薩軍熊本隊戦死者共同墓１基
385-079	熊本諸隊奮戦地碑	轟　鎌地	近代	石造物		１基、薩軍墓地内
385-080	城山城跡（田原城）	豊岡　本村	中世	城		
385-081	田原寺跡	豊岡　宮の原	中世	寺社		
385-082	高瓜の眼鏡橋	山本　高瓜	近世	建造物		石造物、移転
385-083	岩野山経塚古墳	味取　君が塚	古墳	古墳		
385-084	富応廃寺跡	富応　谷浦	古代	寺社	町	
385-085	古閑板碑	鞍掛　阿弥陀堂	中世	石造物	町	（鞍掛阿弥陀堂の板碑）
385-086	岩野城跡（道祖城）	岩野（城山）　馬場	中世	城		
385-087	古閑	鞍掛　古閑屋敷・辻畑	縄文～中世	包蔵地		
385-088	鞍掛横穴群	鞍掛　古閑屋敷	古墳	古墳		４基
385-089	諏訪原石棺	鞍掛　諏訪原	古墳	埋葬		組合箱式石棺
385-090	諏訪原	鞍掛　諏訪原	縄文～古代	包蔵地		
385-091	次郎丸屋敷	岩野　馬場・一町畑	古代・中世	屋敷		
385-092	馬場	岩野　馬場	縄文～中世	包蔵地		馬場小路、三重土塁
385-093	福乗寺	岩野　馬場	中世	寺社		
385-094	丸塚古墳	富応　市尾	古墳	古墳		
385-095	鞍掛山城跡	鞍掛　萩尾屋敷	中世	城		
385-096	荒平城跡	山本　荒平	中世	城		
385-097	一ツ木	山本　一木	縄文	包蔵地		
385-098	山口横穴群	岩野　山口・山口原	古墳	古墳		
385-099	白石	有泉　白石	縄文～古代	包蔵地		
385-100	小畑	有泉　小畑	縄文～古代	包蔵地		
385-101	石川	石川　小迫	弥生	包蔵地		
385-102	石川の板碑群	石川　小迫	中世	石造物		
385-103	鬼のいわや古墳	小野　横山	古墳	古墳	町	
385-104	塚園古墳群	岩野　塚園	古墳	古墳		
385-105	小野の宝塔	小野　居屋敷	中世	石造物		板碑あり
385-106	石川山古墳群	石川　塚山	古墳	古墳		
385-107	烏帽子	小野　烏帽子	弥生・他	包蔵地		弥生、土師器
385-108	広住	広住　向原・浦田	古墳・古代	包蔵地		土師器壺
385-109	横山古墳	有泉　中野	古墳	古墳		
385-110	石川松葉	石川　松葉	弥生・中世	包蔵地		
385-111	塔の本	轟　乗尾・塔の本	弥生	埋葬		甕棺
385-112	埋原１号岩陰	轟　埋原屋敷	弥生～古代	包蔵地		
385-113	那知１号岩陰	那知　夫婦木	弥生～古代	包蔵地		
385-114	埋原２号岩陰	轟　埋原屋敷	弥生～古代	包蔵地		
385-115	埋原３号岩陰	轟　埋原屋敷	弥生～古代	包蔵地		
385-116	埋原	轟　埋原屋敷	縄文～中世	包蔵地		
385-117	埋原城跡	轟　埋原屋敷	中世	城		
385-118	那知２号岩陰	那知　本村	弥生～古代	包蔵地		
385-119	龍源寺跡十二仏龕佛	那知　本村	中世	石造物		
385-120	那知３号岩陰	那知　本村		集落跡		
385-121	龍源寺跡	那知　本村	中世	寺社		
385-122	龍源寺跡板碑	那知　本村	中世	石造物		
385-123	辻畑	轟　辻畑	縄文	包蔵地		縄文土器
385-124	今古閑・久保	轟　今古閑・久保	弥生後期	包蔵地		
385-125	轟	轟　今古閑	弥生	包蔵地		銅鉾４本・鉄斧１
385-126	滴水	滴水（通称大道端）西原	弥生	埋葬		甕棺
385-127	滴水阿弥陀板碑	滴水	中世	石造物		
385-128	轟城跡	轟　城の内	中世	城		城関係墓地あり
385-129	内目横穴群	滴水　ヲスギ	古墳	古墳		
385-130	生野	円台寺　生野原	縄文	包蔵地		
385-131	円台寺岩陰	円台寺　菱形		集落跡		
385-132	円台寺五輪塔群	円台寺　菱形	中世	石造物		八幡宮西に多く埋没
385-133	白竜洞	円台寺　菱形		包蔵地		円台寺菱形八幡本殿裏にある大洞穴
385-134	円台寺の石造笠塔婆	円台寺　本村	中世	石造物	県	(円台寺古塔碑群)２基、建久４年２月銘、建久７年２月銘
385-135	円台寺磨崖仏群	円台寺　本村	中世	石造物	県	浮彫、龕色仏画
385-136	河原立	円台寺　河原立	縄文・弥生	包蔵地		縄文・弥生、抉人石斧

表(Tab)14　周辺遺跡一覧表（13）

地図27（植木）						
熊本県（43）植木町（385）						
遺跡番号	遺跡名	所在地	時代	種別	指定	備考
385-137	ヲスギ	滴水　ヲスギほか	縄文・弥生・他	包蔵地		縄文晩期・弥生・須恵器
385-138	円台寺跡廃寺跡	円台寺　本村	中世	寺社	町	一堂に薬師・十二神将・金剛力士あり
385-139	円台寺	円台寺　本村	縄文～中世	包蔵地		
385-140	轟横穴群	滴水　ヲスギ	古墳	古墳		
385-141	内目	轟　ヲスギ	縄文	包蔵地		
385-142	滴水館跡	滴水　東屋敷・原口	中世	館跡		居館、土塁
385-143	滴水館	滴水　東屋敷・原口	縄文～中世	包蔵地		
385-144	二葉パン工場	舞尾　西原・前畑	縄文・弥生	包蔵地		縄文後期・弥生後期・晩期
385-145	舞尾薬師堂板碑	舞尾　本村屋敷	中世	石造物		
385-146	舞尾の板碑	舞尾　石仏	中世	石造物	町	千本桜乃木記念碑と並ぶ、六地蔵線刻
385-147	乃木大将記念碑	舞尾　石仏	近代	石造物		西南役向坂戦、人員点呼の地に建つ
385-148	植木中学校跡	植木　五反畑	近代	包蔵地		植木小校庭に碑あり
385-149	投刀塚古墳	滴水　大塚	古墳	古墳		円墳、内部不明
385-150	松村刀鍛冶跡	平野　居屋敷ほか	近世	生産		植木刀松村直昌の鍛冶場
385-151	東原	平野　東原	弥生	埋葬		甕棺２
385-152	平野	平野　東原・東中原	弥生～古墳	包蔵地		弥生?古墳期土器、甕棺
385-153	平野五輪塔群	平野　東谷	中世	石造物		五輪塔片多数、瓦器・甕棺
385-154	荻迫	荻迫　表畑・萩原ほか	縄文・他	包蔵地		縄文後期土師器片・須恵器・石鏃・石斧
385-155	四ツ塚古墳群	荻迫　四ツ塚・居屋敷	古墳	古墳		いずれも小円墳、４基
385-156	荻迫柿木台場薩軍墓地	荻迫　四ツ塚・居屋敷	近代	墓地		１基、封土上に建つ、新設の墓標もある
385-157	鬼のかま古墳	荻迫　萩原	古墳	古墳	町	２基、石材露出
385-158	荻迫狐塚古墳	荻迫　萩原	古墳	古墳		円墳完形周溝、外堤があったが現在なし
385-159	植木草場	広住　向原ほか	縄文～中世	包蔵地		
385-160	滴水東屋敷の板碑	滴水　東屋敷	中世	石造物	町	
385-161	植木町三丁目	植木町３丁目	弥生	埋葬		甕棺
385-162	木留	木留　北中原	縄文～古代	包蔵地		
385-163	笹尾Ａ	木留　笹尾	縄文	包蔵地		縄文早期後期晩期土器・石器
385-164	向山古墳	辺田野　向山	古墳	古墳		円墳径20m、高さ１ｍ
385-165	笹尾Ｂ	木留　笹尾	弥生・縄文	包蔵地		集落、縄文早期土器・石斧・石棒、甕棺
385-166	木留城跡（推定地）	木留　本村・北中原	中世	城		
385-167	服仏長	鐙田　服仏長	古代・中世	包蔵地		瓦器　外
385-168	山海道	辺田野　山海道	縄文	包蔵地		縄文後・晩期土器
385-169	加村古墳	米塚　加村	古墳	古墳		円墳１基石棺片（凝灰岩）
385-170	小道	小野　小道	古代	集落跡		断面に竪穴住居跡（カマド付）
385-171	小野箱式石棺	小野	古墳	埋葬		箱式石箱一基、断面に確認
385-172	岩野箱式石棺	岩野	古墳	埋葬		箱式石箱一基
385-173	山口迫	木留　山口迫	縄文～中世	包蔵地		
385-174	久保	富応　久保	弥生～古代	包蔵地		
385-175	田中原	富応　田中原	弥生～古代	包蔵地		
385-176	沖野	轟　沖野	弥生～古代	包蔵地		
385-177	葛山製鉄跡	木留　葛山	古代・中世	生産		
385-178	柳迫	石川　柳迫	弥生～古代	包蔵地		
385-179	一木横穴群	一木　中尾	古墳	古墳		
385-180	崩平横穴墓	山本　崩平	古墳	古墳		
385-181	茶山	木留　樫山	縄文～古代	包蔵地		
385-182	経塚古墳	味取　君塚	古墳	古墳		

表(Tab)15　周辺遺跡一覧表（14）

第Ⅲ章　調査の概要

第１節　調査の方法

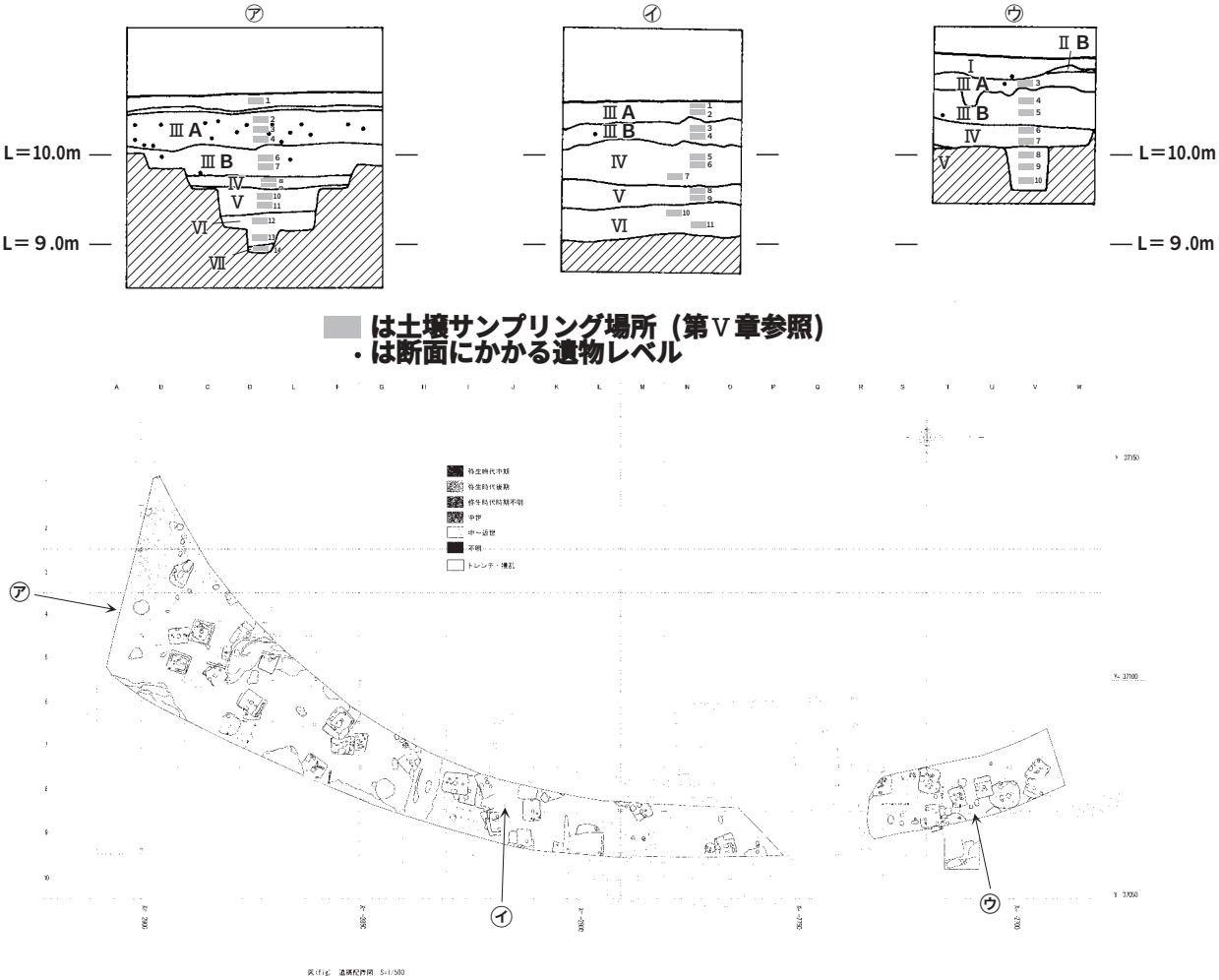
調査方法は、10m四方のグリッド法を採用した。

まず、約4,656㎡について基本土層のⅠ、ⅡＡ，Ｂ層までを重機で除去した後、ⅢA層以下を土層観察用ベルト（幅80㎝）を残しながら、一区画（10m×10m）毎に人力で掘り下げていく方法をとった。こうして掘り出した遺物は、必要に応じて一括取り上げまたは出土位置及び高度を記入した上で、取り上げを行った。ベルトは土層の確認をしながら遺物を取り上げた後に取り外した。存在が確認された遺構については、その都度調査を行い、全体を1／10、1／20の縮尺で実測図を作成したほか、遺構の配置を確認するための全体図としては、1／100の地形測量図を作成した。また、それぞれの調査段階において、適宜モノクロとカラースライドの２種類を用いて写真撮影（35㎜又は中版）を実施した。空中写真撮影も２回行い、調査1区と２区の完掘状況をデジタルモザイクで合成写真を作成した。コンタ図は、河川の側であるため、同じⅢA層とはいいながらも、若干性質が異なることやほ場整備により削平が進んでいたことから当時の地形を反映することが困難と判断して図化しなかった。表土剥ぎは、約40～50㎝掘削して、中世・弥生の包含層及び遺構確認面であるⅢA層に達した。ⅢA層上層は、標高約10.5m前後であった。

第２節　調査区の設定

本調査に先立ち平成12年度（2000）に事業予定地内において試掘調査が可能な場所に任意に試掘坑を設定し、重機を用いて遺跡の分布調査を実施した。その結果弥生時代の遺物や遺構が確認され、約4,356㎡が本調査対象範囲となった。調査区は、道路と未調査範囲により寸断されていることから南側を調査１区（3,579㎡）、北側を調査２区（777㎡）とした。しかし、最終的には未調査範囲（約300㎡）も本調査範囲に組み込む必要性が出てきたことから、本調査範囲は4,656㎡【調査１区（3,879㎡）、調査２区(777㎡)】となった。

なお、調査区には、測量の基準とするための調査用グリッド（区画）を10m間隔で設置した。グリッド設定は、４級基準点測量によって導き出された国土座標Ⅱ系のメッシュの方向に沿ったもので、(株)有明測量開発への業務委託で行い、東西軸をアルファベット大文字で、南北軸を算用数字で示した。尚、今回の調査は旧日本測地系で行った。よって図で示したグリッドは旧日本測地系の座標値である。



図(Fig)14　前田遺跡土層図及び土壌サンプリング位置図

第３節　層位と包含層（図14参照）

本遺跡の基本的な土層は以下のとおりである。但し調査区内で同一層がうまく続かなかったり、若干性質が異なったりすることが見られる。これは沖積地の特性といえるだろう。ただ、黒褐色土層で中世・弥生の包含層及び遺構確認面にあたる層が調査１区・２区に広がることから、若干の性質差はあるもののその黒褐色土層をⅢA層として捉えた。その上下層についても同様な層として捉えた。

ここでは、調査１区を２箇所、調査２区を１箇所取り上げて、土壌分析のサンプリング位置と合せて図３に土層断面図を示したい。

Ⅰ　層　灰色砂質土（Hue 7.5YR 5/1：10～20cm）
　　旧耕作土層。

ⅡA層　明褐色砂質土(Hue 5YR 5/8：0～5cm)
　　酸化鉄が集中している層。床土。

ⅡB層　暗褐色砂質土(Hue 7.5YR 3/3：0～5cm)
　　マンガンが集中して非常に硬い層。床土。

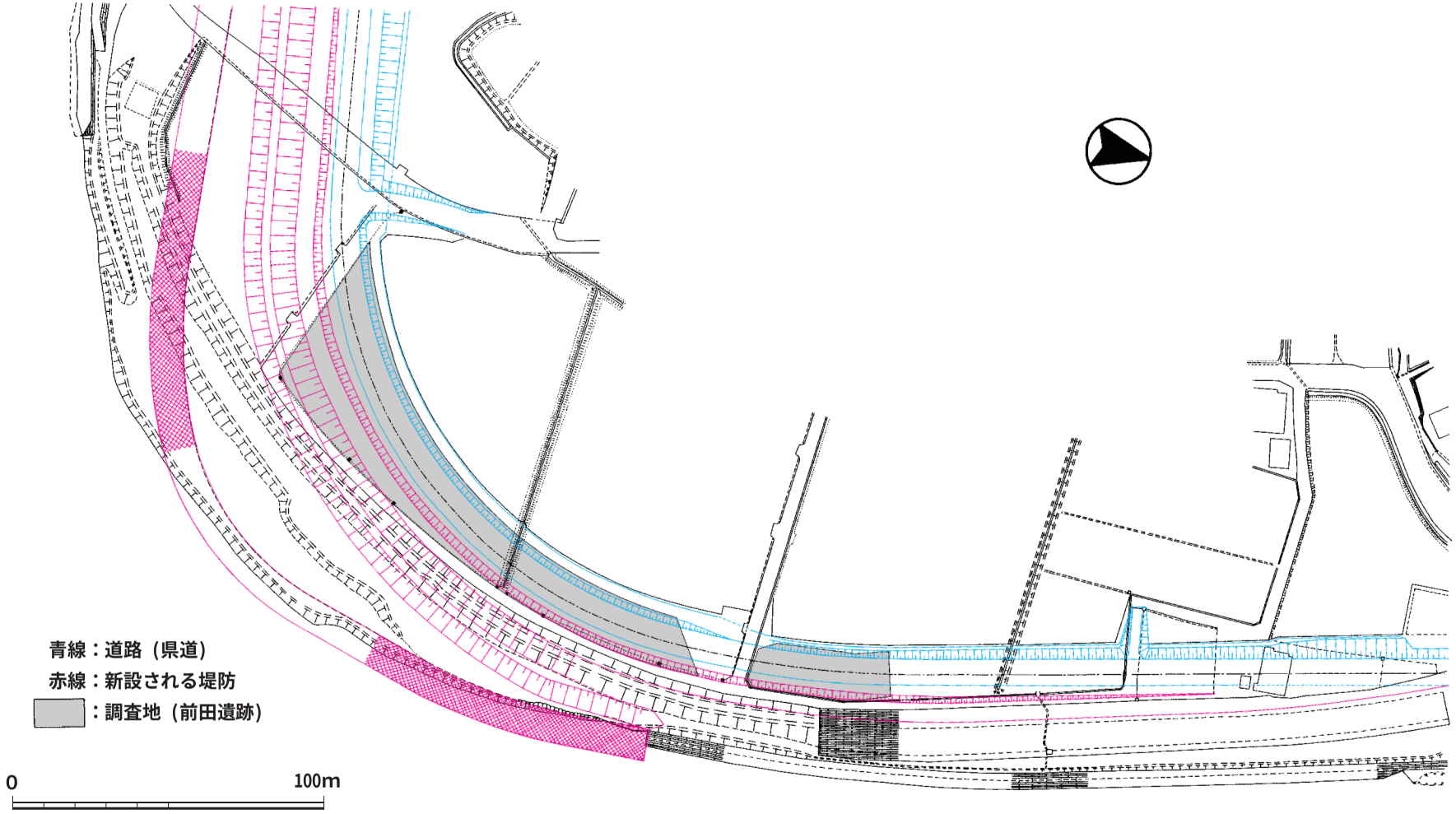
ⅢA層　黒褐色砂質土(Hue 7.5YR 3/2：20～35cm)
　　粒子が細かく、非常に硬くしまる砂質土。
　　主に弥生時代中期～中世の遺物を含む。

ⅢB層　暗褐色砂質土(Hue 10YR 4/3：20～40cm)
　　粒子が細かく、非常に硬くしまる砂質土。
　　主に縄文時代後期～晩期の遺物を含む。

Ⅳ　層　暗褐色砂質土(Hue 10YR 4/3：20～40cm)
　　粒子が大きくやわらかい砂質土。

Ⅴ　層　暗褐色粘質土(Hue 7.5YR 4/4：20～40cm)
　　全体的には粘性のある層。

Ⅵ　層　暗褐色砂質土（Hue 10YR 3/4：20～cm）
　　粒子が細やかでやわらかい砂質土。



図(Fig)15　前田遺跡周辺調査区配置図　S＝1／2000

第Ⅳ章　調査の結果

第１節　はじめに

【遺　構】

この遺跡で確認された遺構は、ピットを省いて138基である。遺構番号はＳ001からＳ150までつけているが、欠番が12ある。

検出したピットは、1040基（調査１区：763基、調査２区：277基）にのぼる。ピットの時期はその覆土の状況から大まかに弥生時代と中世の２時期に分別可能と考えるが、そのほとんどが掘立柱建物等を検出するまでには至っていない。そこで、遺物を含んだピットのデータのみを巻末に一覧表で示した。ピットの遺構としては、明らかに時期が限定できて、主要なものだけを取りあげた。遺構確認面は、近世以降を省き、弥生時代・中世のほとんどがⅢＡ層上層～中層である。縄文時代の遺物はⅢＢ層が多い。

遺構内から出土した遺物については、基本的に主要な遺物、床面近くの遺物や遺構に伴うと考えられる遺物を平面図に実測し、レベルを記録して、点上げ遺物とした。しかし、中には一括で遺物を上げてしまった遺構もある。

遺構の時期区分としては、大まかに１）弥生時代中期後半、２）弥生時代後期前半、３）弥生時代時期不明、４）中世、５）中～近世。近世以降、６）時期不明の順に扱うことにした。

【遺　物】

出土遺物は、遺構、包含層を含めて、網コンテナ(46㎝×61㎝×20㎝の大きさ）に約120箱分の量であった。弥生時代中期後半期の土器が最も多かった。包含層遺物は、縄文時代後期・晩期、弥生時代中期後半・後期前半、古代、中世、近世以降に及んでいる。これらも時代別にとりあげた。

【その他】

その他として、遺構ではないが、調査区内で検出した縄文時代の遺物を含む砂層や自然流路を扱った。

【遺構覆土の水洗】

竪穴住居跡や土坑墓などの覆土を水洗いして、主にガラス小玉や管玉などの装身具の検出を試みた。その中に炭化種子なども含まれていたため、委託業者に同定を依頼した。当初から炭化種子検出のための水洗ではなかったので、炭化種子は少量であり、遺構により偏りがある。

また、調査２区の住居跡は大方水洗することができたが、調査１区については時間が不足して、主要な住居跡のみしか実施できなかった。また、底面に近い覆土を中心に水洗したが、その量はまちまちであった。篩は、５㎜、３㎜と１㎜の大きさのものを使用した。

水洗で使用する水は、菊池川からポンプで揚げて使用した。川から揚げるときに１㎜の金網のメッシュで水を濾して使用したが、完全とは言えず、川からのコンタミの可能性も否定できない。

水洗を行った遺構は、次のとおりである。

[弥生時代中期後半]

（竪穴住居跡）Ｓ001、２、３、５、17、25、26、27、44、76、106

（甕　棺）Ｓ008、９

[弥生時代後期前半]

（竪穴住居跡）Ｓ004、12、33、53、73、75、77、90、

（土　坑）Ｓ085、138

[中世]

（土坑墓）Ｓ065

（土　坑）Ｓ055、61

[時期不明]

（土　坑）Ｓ014

（ピット）№1460（Ｂ－３グリッド）

取りあげる遺構を時期別、種別毎に並べると以下のとおりになる。

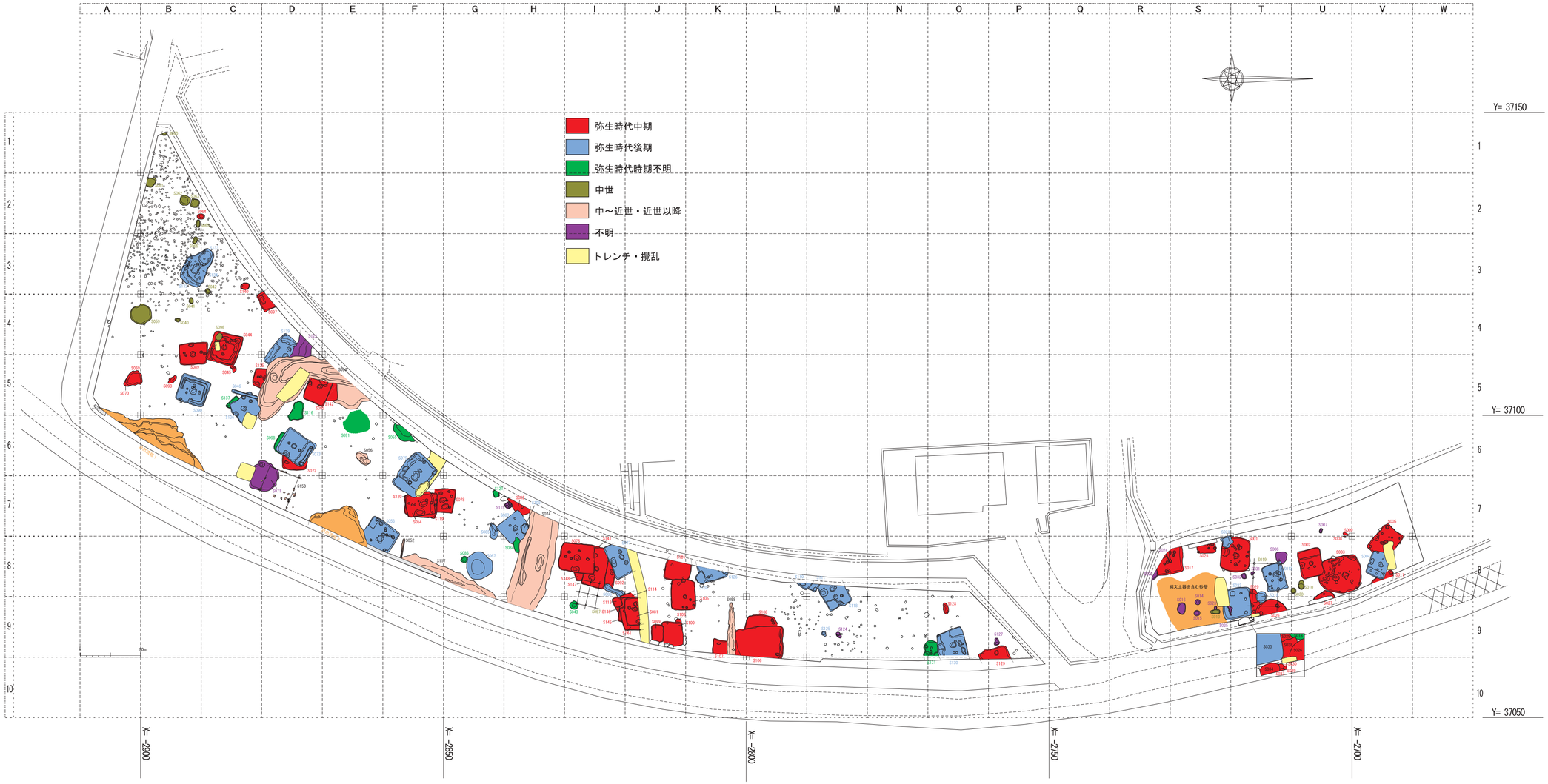
１）弥生時代中期後半（58基）

①竪穴住居跡（41軒）

Ｓ001、２、３、５、11、17、25、26、27、29、38、44、54、72、76、78、81、82、89、92、95、97、100、101、105、106、107、108、114、119、120、129、135、141、142、144、145、146、147、148、149

②甕棺（２基）

Ｓ008、９



図(Fig)16　遺構配置図　S＝1／500

③ポケット貝塚（１基）

Ｓ093

④土坑（14基）

Ｓ030、34、37、39、45、56、64、69、70、99、103、113、128、140

〔⑤ピット〕

№1757

2）弥生時代後期前半（27基）

①竪穴住居跡（16軒）

Ｓ004、12、33、53、73、75、77、83、90、110、111、118、126、130、136、139

②土坑（９基）

Ｓ036、67、85、109、125、132、133、134、138

③溝（１条）

Ｓ046

④不明（１基）

Ｓ088

3）弥生時代時期不明（10基）

①竪穴住居跡（２軒）

Ｓ098、131

②土坑（７基）

Ｓ021、43、84、86、116、121、137

③不明（１基）

Ｓ091

〔④ピット〕

№1668

4）中世（16基）

①土坑墓（４基）

Ｓ013、65、66、96

②土坑（11基）

Ｓ010、41、61、62、63、18、20、42、55、59、60

③掘立柱建物（１軒）

Ｓ019

〔④ピット〕

№1156、1167、1202、1228、1286、1292、1362、1381、1452、1489、1535、1560、1570

5）近世以降（７基）

①溝（６条）

Ｓ024、52、58、74、94、117

②礎石建物（１軒）

Ｓ150

6）時期不明（18基）

①土坑（12基）

Ｓ006、７、14、15、16、22、23、40、115、123、124、127

②焼土坑（２基）

Ｓ031、32

③掘立柱建物（１軒）

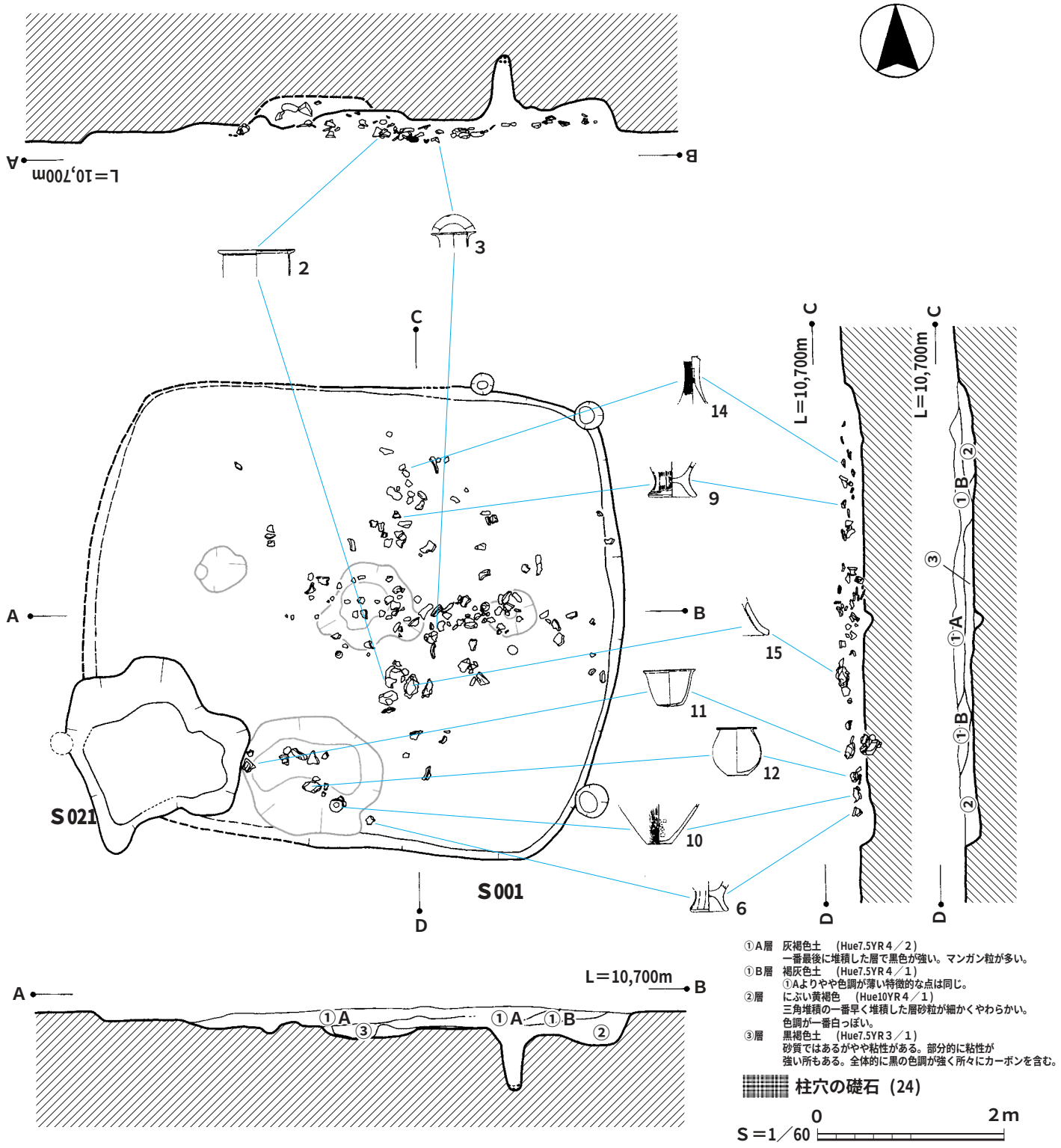
Ｓ057

④溝（１条）

Ｓ122

⑤不明遺構（２基）

Ｓ035、71



図(Fig)17　住居跡（S001）実測図（１）

第２節　遺　構

１）弥生時代中期後半（57基）

①竪穴中居跡（41軒）

【S001】（図17～21参照）

［確認位置］調査２区、S、T－８グリッド。

標高約10.55m。

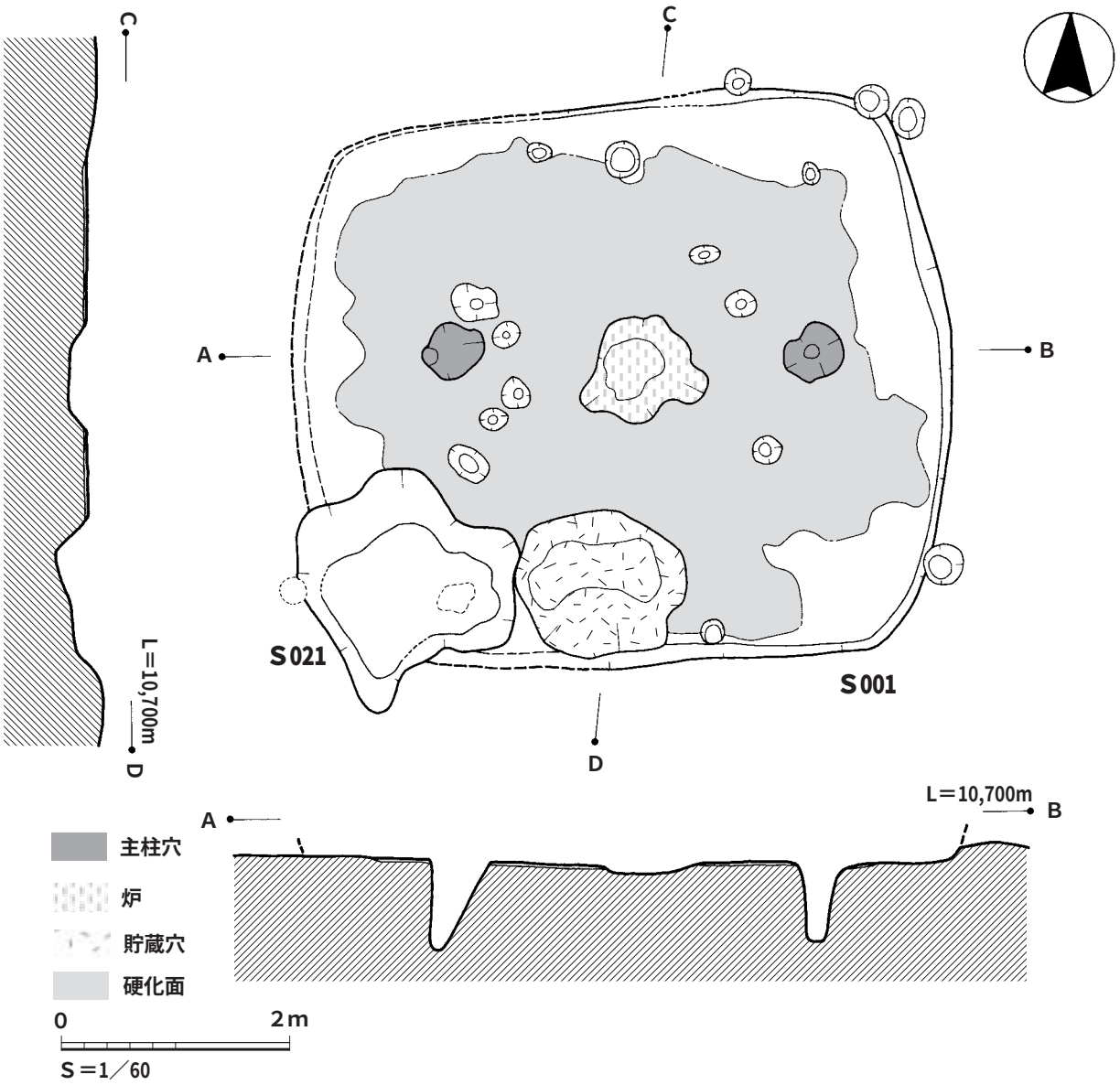
［形状］やや隅丸方形

［大きさ］長軸：450cm、短軸：440cm、深さ：26～36cm。

［住居内覆土］大別して３層。細分で４層に分層。

［主柱穴］２本。径30～44cm。深さ60～80cm。

東側の主柱穴底部には、被熱した石皿片（24）を



図(Fig)18　住居跡（S001）実測図（２）

柱の礎石として使用した痕跡があった。

［炉］１つ有り。大きさ80×100㎝。深さ16～20㎝。

［貯蔵穴］１つ有り。大きさ124×150㎝。深さ20～36㎝。

［硬化面］有り。

［張り床］無し。

［切り合い関係］S021から切られる。

［遺物の出土状況］床面からやや浮いた状態で出土。遺構廃絶後間もない遺物として捉えたい。

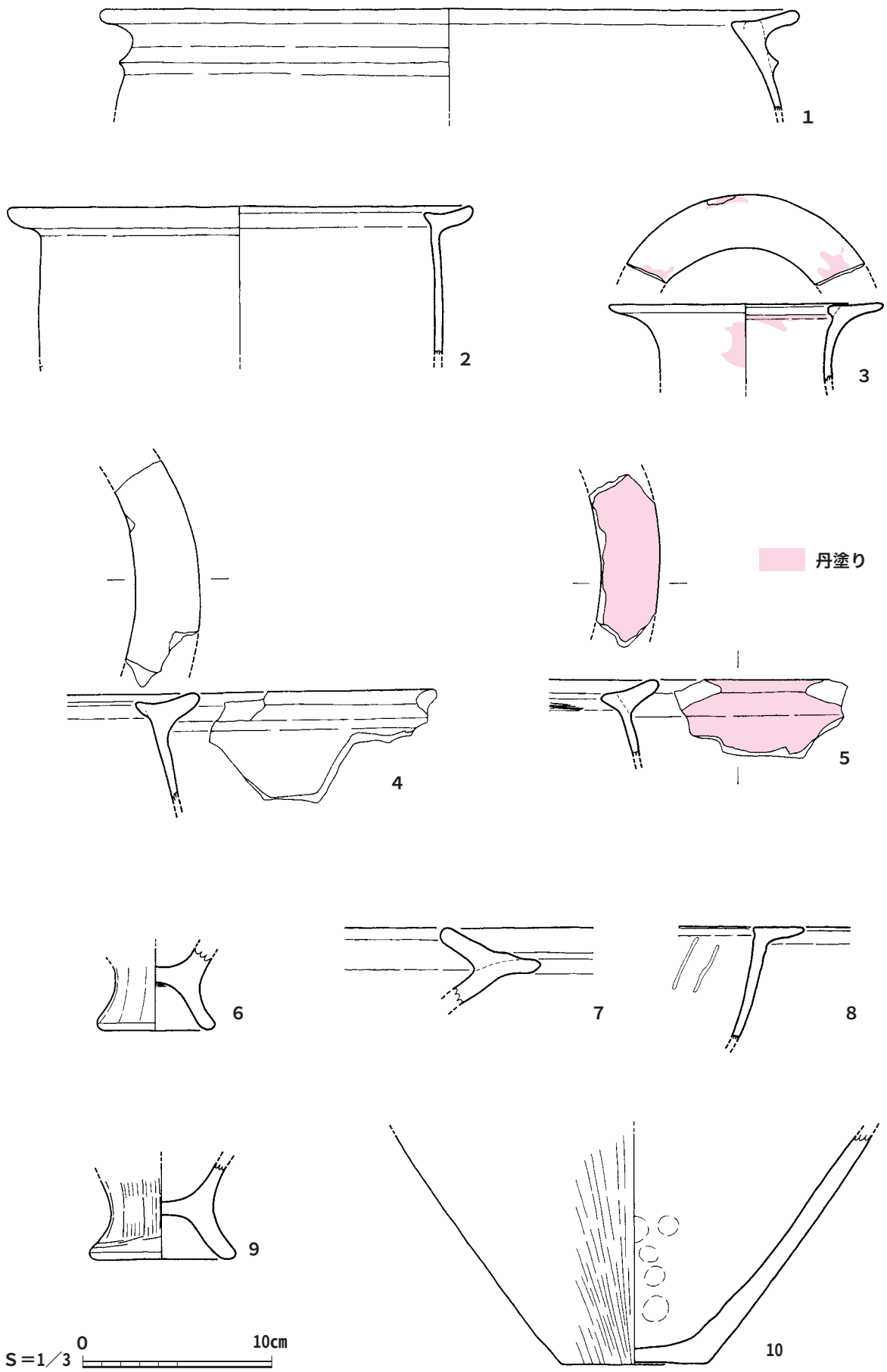
［出土遺物量］

S001から出土した遺物は、小グレーコンテナ（38㎝×58㎝×５㎝）に約８箱分で、総重量25,232gであった。内訳は縄文土器173g（８片）、弥生土器25,059g（内丹塗り土器は1,139g）であった。丹塗りの土器片が、小グレーコンテナに約１／２箱を占めた。

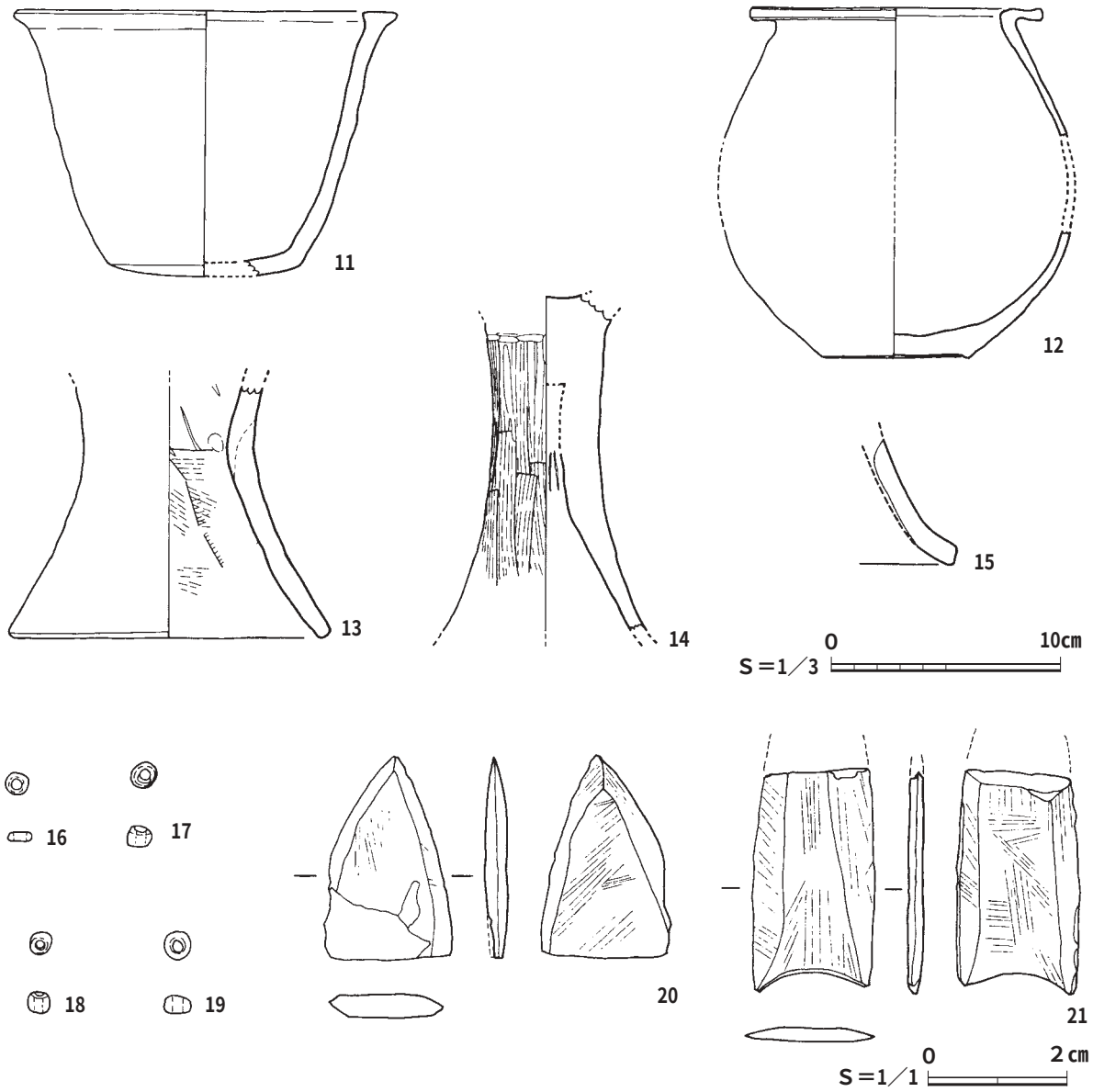
［出土遺物の観察］

土器の様相は、甕や壺の口縁部は、全て黒髪式土器の範疇で捉えられるものであったことから、弥生時代中期後半期の土器と判断した。なお、出土土器の大方は、焼きが悪いために調整痕がほとんど残っていない。

ここでは、15点の土器、４個のガラス小玉、５点の石器を紹介する。５、13、20、21、22、24は、一括上げ、16～19は覆土水洗にて検出、23は、柱穴底面から出土、それ以外は全て点上げ遺物である。



図(Fig)19　S001出土遺物実測図（１）



図(Fig)20　S001出土遺物実測図（２）

１、２、４、７、８は、甕形土器の口縁部である。いずれも口縁部が内側に細長く突起が伸び、外側にほぼ同じ厚さで細長く伸びるという黒髪式土器の特徴を備えている。１には口縁のすぐ下に突帯が１条めぐる。７は甕棺に使用されるものであろう。

３は、壺形土器の口縁部である。黒髪式土器の特徴を備えており、内外面に赤彩が残る。

５は、甕形土器の口縁部である。黒髪式土器の特徴を備えており、口縁と外面に赤彩が残る。

６、９は、甕形土器の脚台部である。外面にハケ目が残る。

10は、壺形土器の底部である。外面にハケ目、内面に指頭圧痕が残る。

11は、鉢形土器である。底部が一部欠損しているが、全体の約１／２が残る。

12は、壺形土器である。胴部中位が欠損しているが、復元を試みた。胎土が他の土器と非常に異なっており、搬入された可能性が考えられる。

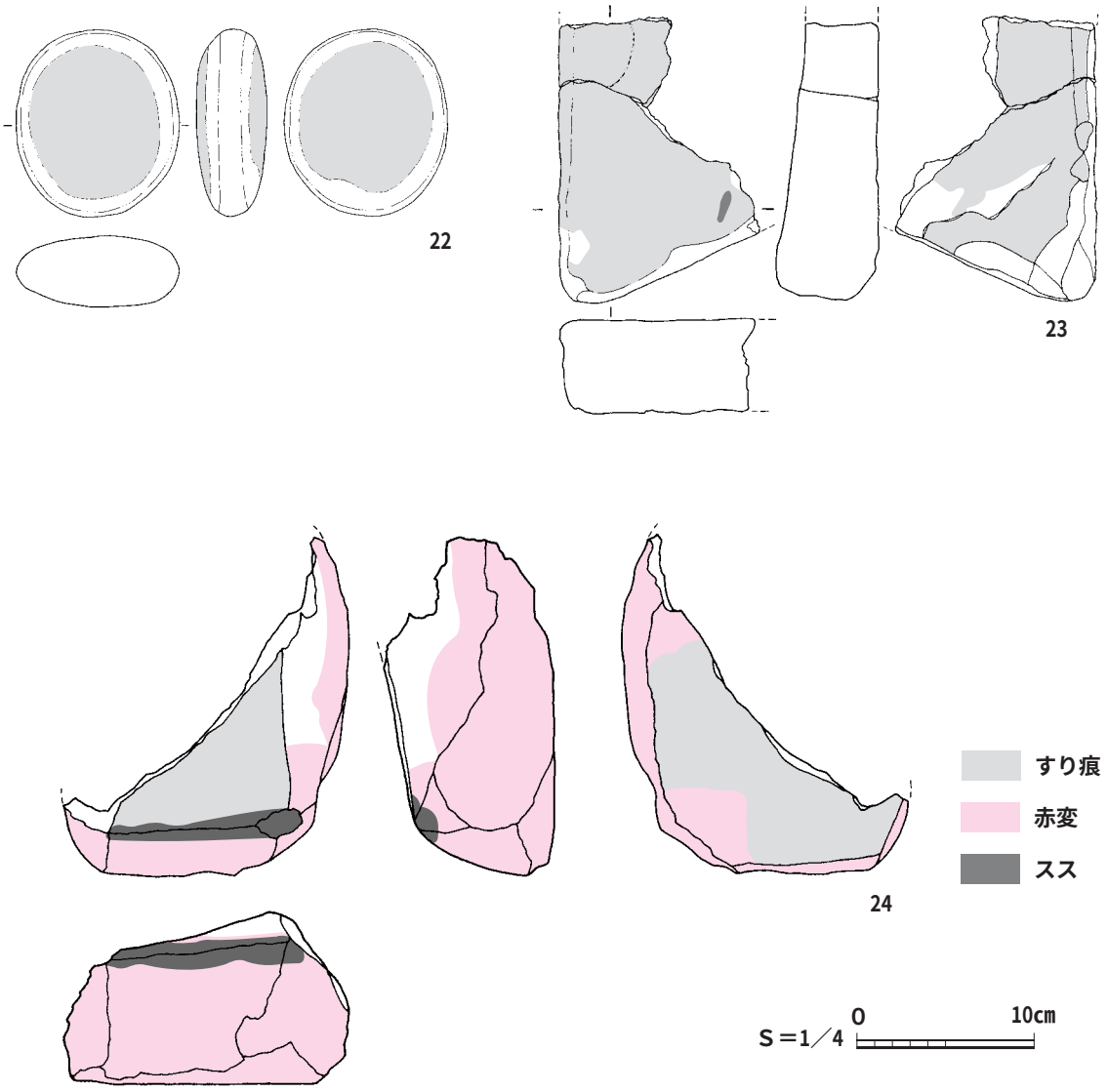
13は、器台の下半部である。内面にハケ目が残る。

14、15は、高杯の脚部である。14には外面にハケ目、内面に絞り痕が残る。

16～19は、ガラス小玉である。径は、約３㎜、厚さは、約１～３㎜である。分析の結果、いずれもカリガラスであった。16は中層、17と18は中～下層、19は一括覆土の水洗で出土した。

20、21は、磨製石鏃である。石材は、20は粘板岩で21はチャートである。

22は、磨り石である。両面に磨り痕跡が見られる。



図(Fig)21　S001出土遺物実測図（３）

石材は火山岩である。

23は、石皿の破片である。両面に磨り痕跡が見られる。また、被熱による赤変もみられ、ススも付着している。東側の主柱穴の底に礎石として置かれていたものである。

24は、石皿の破片である。２片が接合している。両面に磨り痕跡、部分的に被熱による赤変やススの付着が観察される。東側の柱穴の礎石として使用されていたと考えられる。

【S002】（図22参照）

［確認位置］調査２区、Ｕ－８グリッド。

標高約10.6m。

［形状］やや隅丸方形（西側にベッド状遺構付き）

［大きさ］長軸：460cm、短軸：370cm、深さ：40cm。ベッド部は、幅110cm、高さ約13～14cm。

［住居内覆土］大別して３層。中層にカーボンと焼土を多く含む層あり。埋没過程での堆積。

［主柱穴］２本。径10～20cm。深さ44～60cm。

［炉］１つ有り。径64cm。深さ12cm。

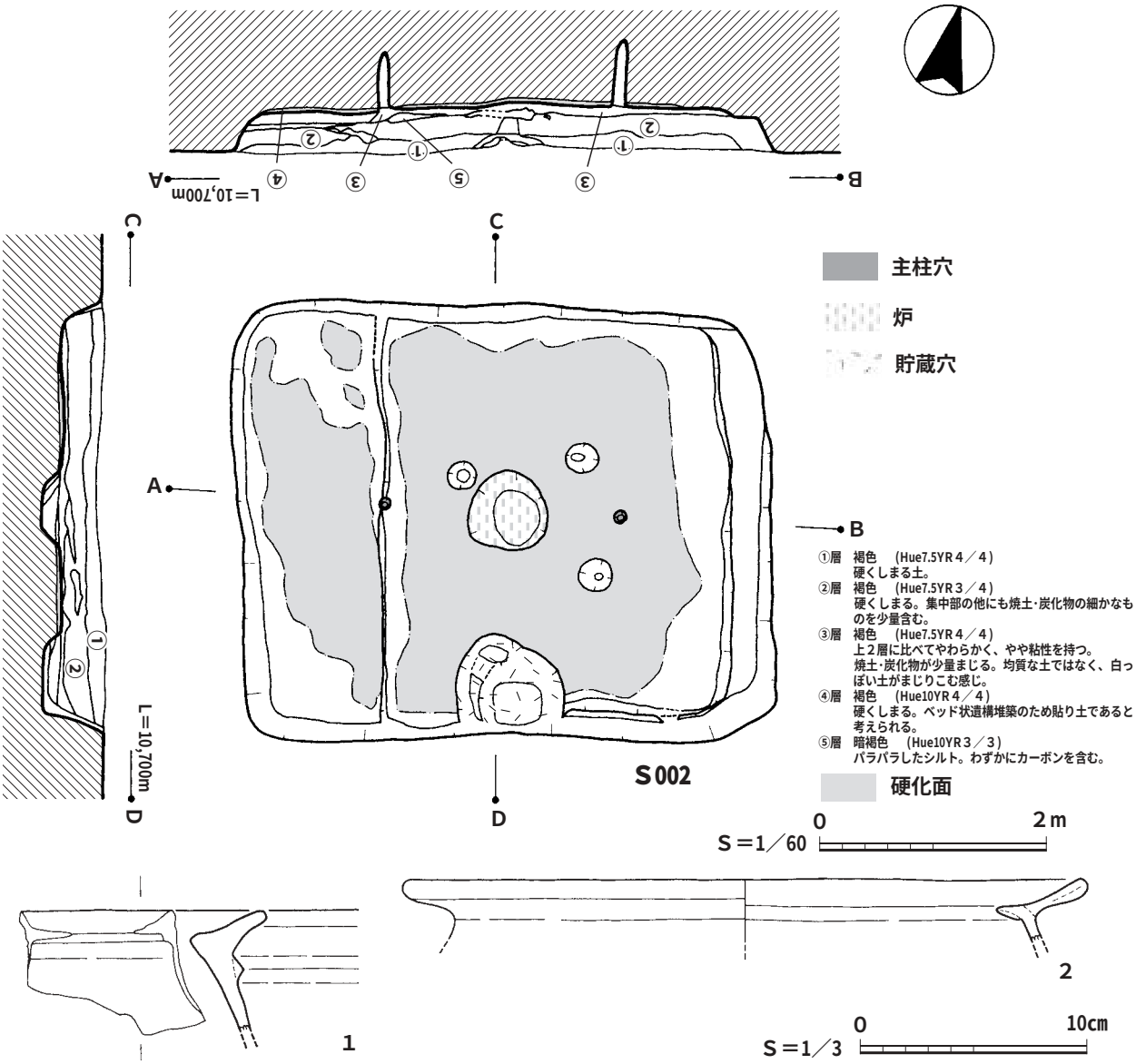
［貯蔵穴］１つ有り。大きさ88×96cm。深さ６～８cm。

［硬化面］有り。

［張り床］有り。

［切り合い関係］S003を切る。

［遺物の出土状況］床面からやや浮いた状態で出土。



図(Fig)22　住居跡（S002）実測図及び出土遺物実測図

遺構廃絶後間もない遺物として捉えたい。

［出土遺物量］

S002から出土した遺物は、小グレーコンテナ（38㎝×58㎝×５㎝）に1.5箱分で、総重量4,835gであった。内訳は縄文土器201g（13片)、弥生土器4,634g(内丹塗り土器は194g）であった。ほとんどが小片であった。

［出土遺物の観察］

土器の様相は、甕や壺の口縁部は、全て黒髪式土器の範疇で捉えられるものであったことから、弥生時代中期後半期の土器と判断した。

しかし、ベッド状遺構が付いている住居形態から考えれば後期である可能性も否定できないが、ここでは出土遺物から中期後半として捉えておきたい。

ここでは、２点を紹介する。

１、２は、甕形土器の口縁部である。いずれも口縁部が内側に細長く突起が伸び、外側にほぼ同じ厚さで細長く伸びるという黒髪式土器の特徴を備えている。１は３層から、２は２層上面から出土している。２は、内部への突起の伸びが大きい。１は２層上層の一括遺物、２は点上げ遺物である。

【S003】（図23～26参照）

［確認位置］調査２区、Ｕ－８グリッド。

標高約10.6m。

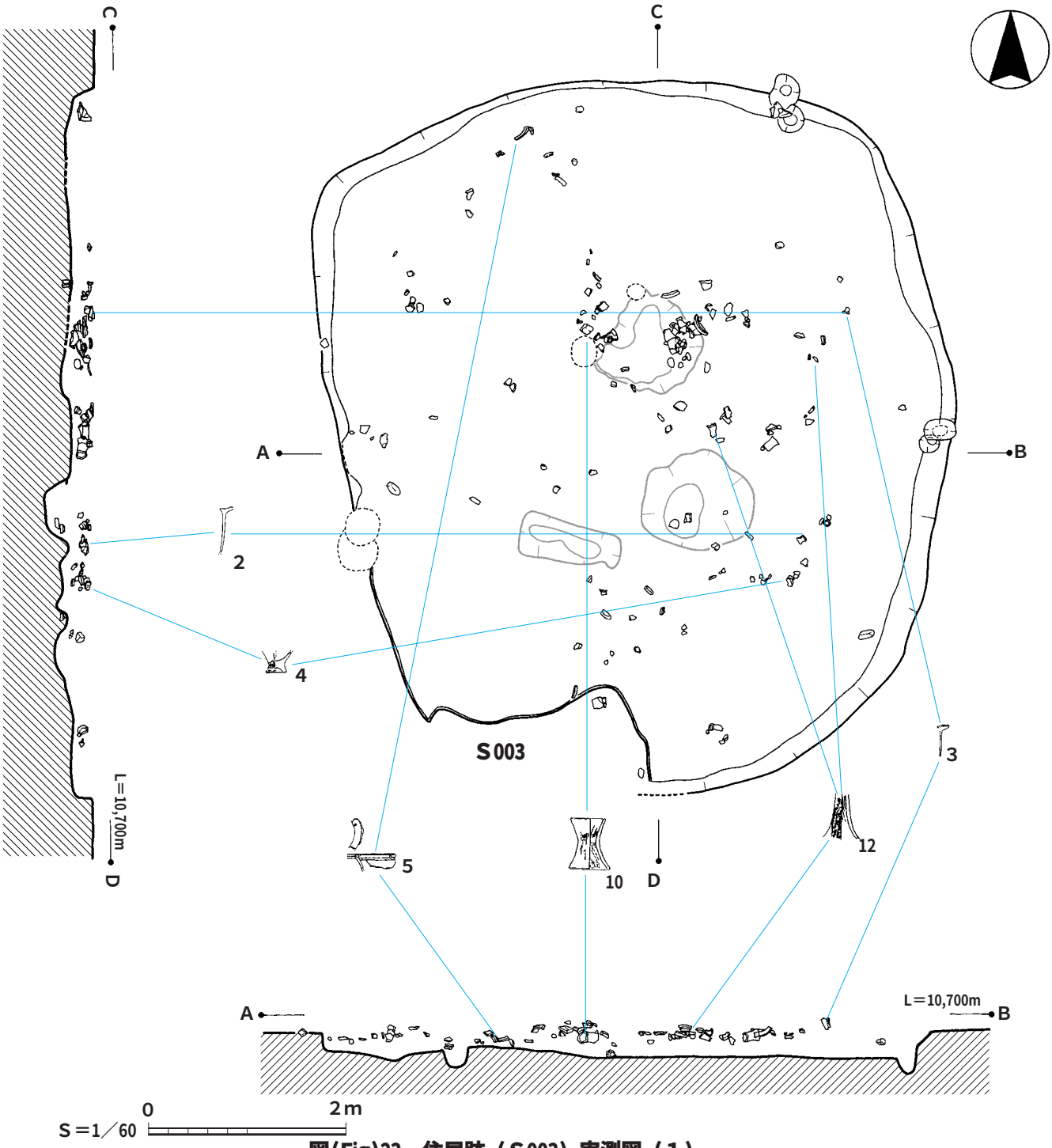
［形状］楕円形

［大きさ］長軸：700㎝、短軸：620㎝、深さ：20～22㎝。

［住居内覆土］大別して３層。細分５層。

［主柱穴］６本。径16～22㎝。深さ12～30㎝。

(平均の深さ：25㎝)



図(Fig)23　住居跡（S003）実測図（1）

［炉］２つ有り。１つは、大きさ24×26cmで深さ約10cm。焼土が盛り上がっている形状で、普段に見られる掘りこみを持つ炉ではない。おそらく遺構内で焚き火の様なものをした跡か？

２つ目は、大きさ90×104cmで深さ約10～12cm。掘り込みを持つ炉で、こちらがメインの炉であろう。底部から動物骨片が出土。(３×２×10㎜大)

［貯蔵穴］無し。

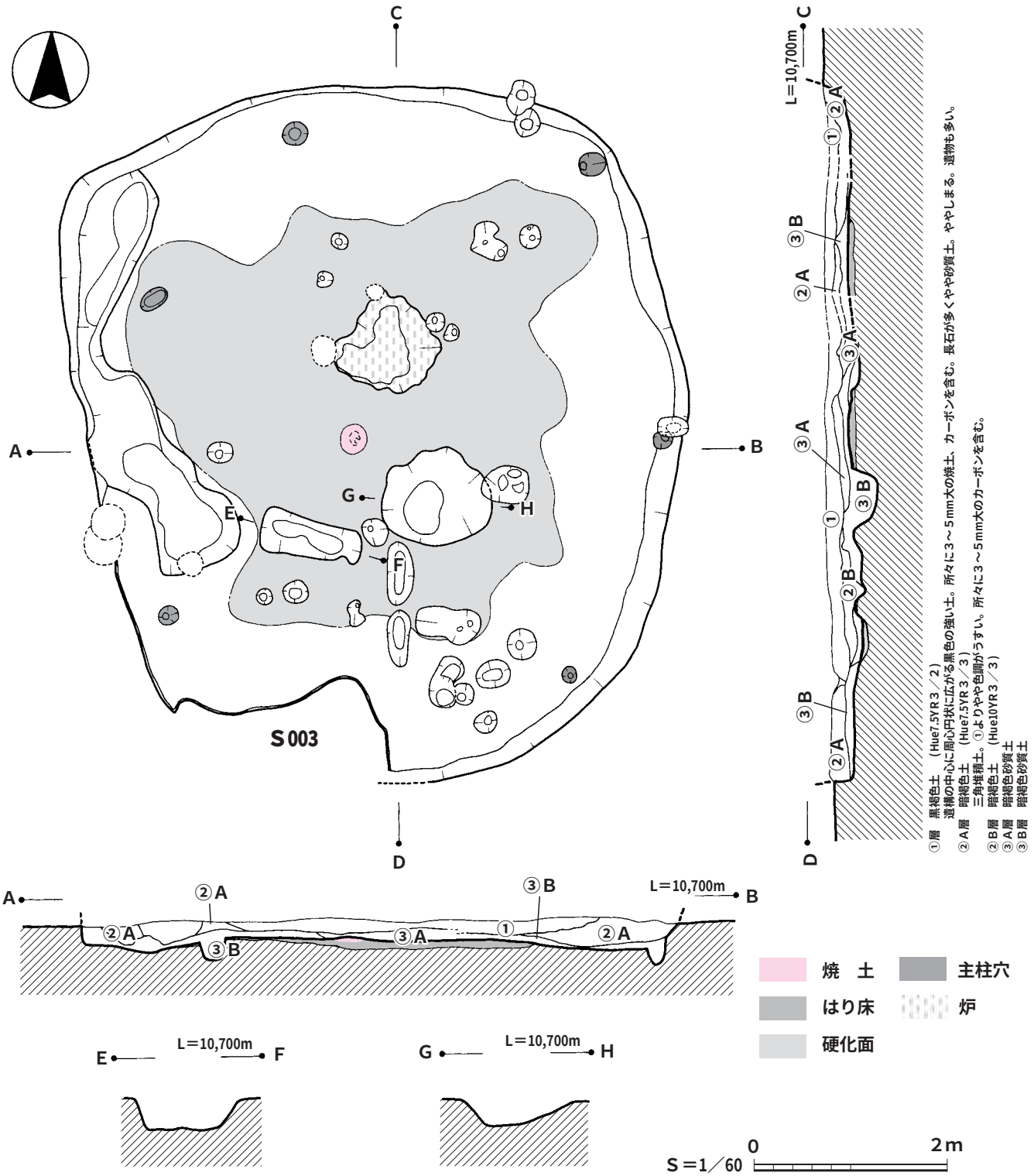
［硬化面］有り。

［張り床］有り。

［切り合い関係］S002から切られる。

［特記事項］溝状の浅い掘り込みや深い掘り込みがみられる。住居形態が楕円形で主柱穴が６本円形状に巡ることから、弥生時代中期後半期の竪穴住居跡として判断した。

［遺物の出土状況］床面からやや浮いた状態で出土。



図(Fig)24　住居跡（S003）実測図（２）

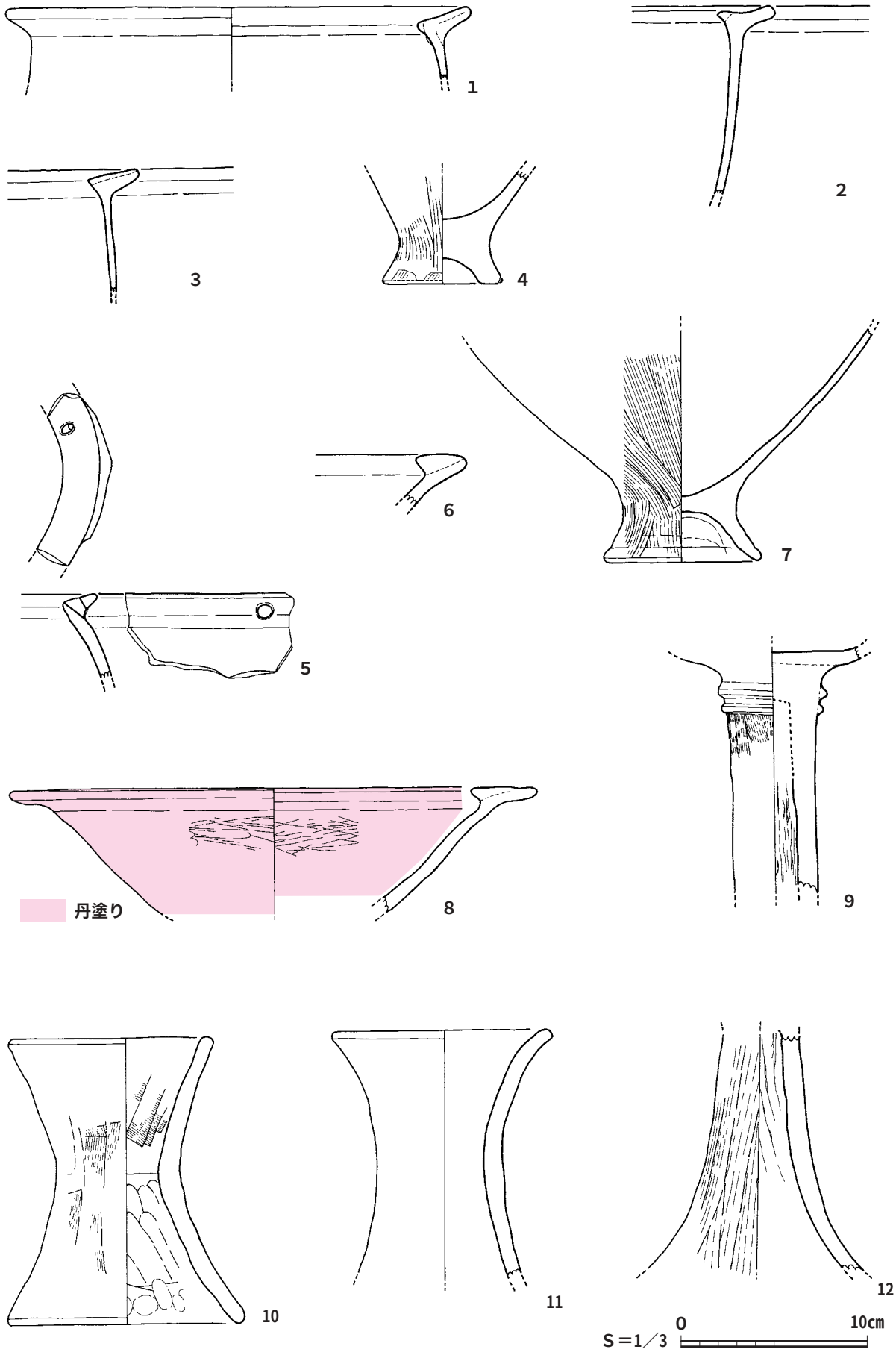
遺構廃絶後間もない遺物として捉えたい。

［出土遺物量］

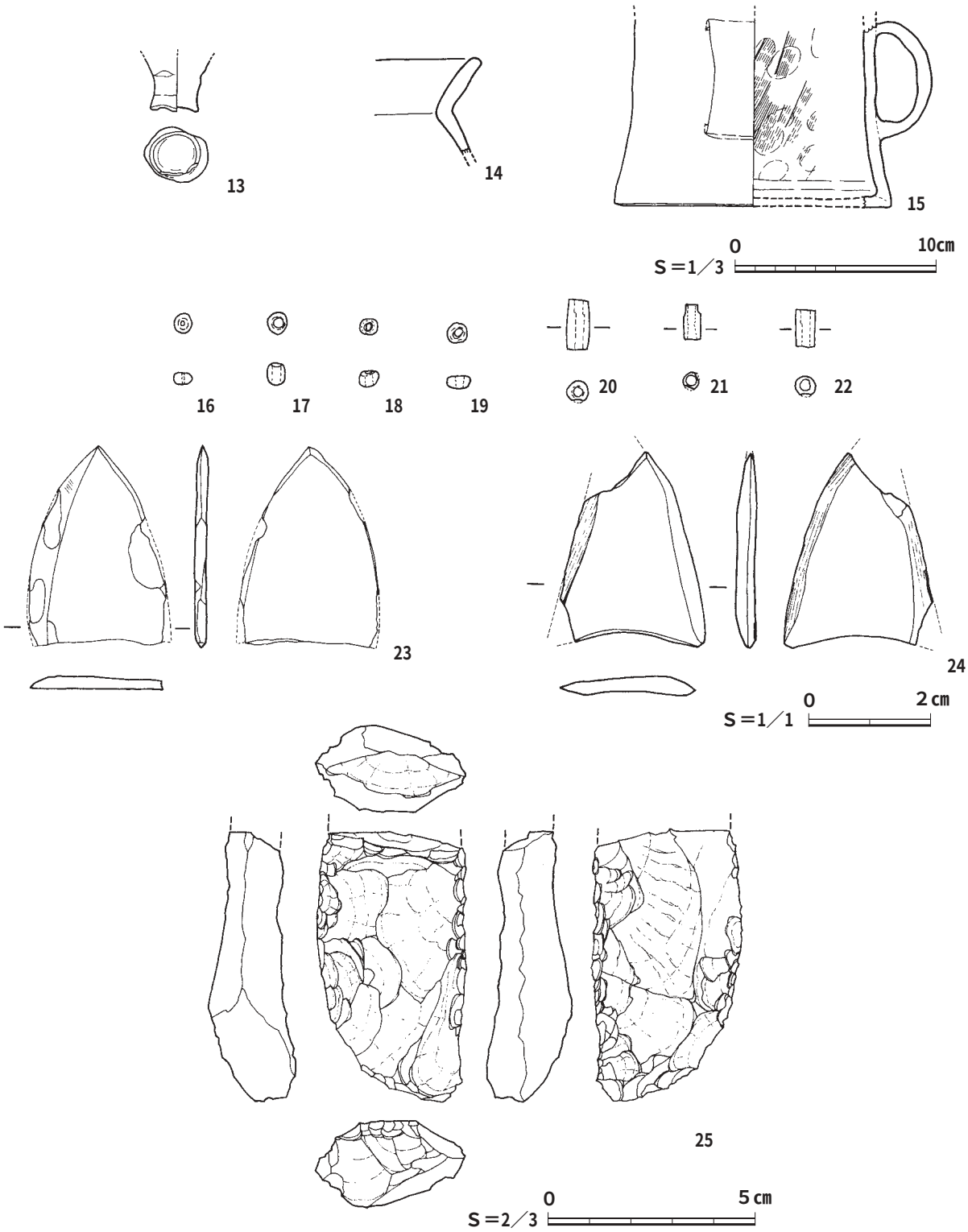
S003から出土した遺物は、小グレーコンテナ（38㎝×58㎝×５㎝）に12箱分で、総重量33,590gであった。内訳は縄文土器465g（21片）、弥生土器33,120g(内丹塗り土器は178g)、中世の白磁２ｇ、青磁３ｇ、近世の陶器７ｇであった。丹塗りの土器片が、小グレーコンテナに約１／２箱を占めるが小片が多い。

［出土遺物の観察］

土器の様相は、甕や壺の口縁部は２点以外、全て黒髪式土器の範疇で捉えられるものであったことから弥生時代中期後半期のものとして判断した。２点の後期の土器は、後世に上層に紛れ込みであろう。



図(Fig)25　S003出土遺物実測図（１）



図(Fig)26　S003出土遺物実測図（２）

ここでは、15点の土器、４個のガラス小玉、３点の管玉、３点の石器を紹介する。

１、２、３は、甕形土器の口縁部である。いずれも口縁部が内側に細長く突起が伸び、外側にほぼ同じ厚さで細長く伸びるという黒髪式土器の特徴を備えている。いずれも点上げ遺物である。

４、７は、甕形土器の脚台部である。外面にハケ目が残る。いずれも点上げ遺物で、７は、５片が接合している。

５は、無頸壺の口縁部である。口縁部の穴は蓋を固定するためのものであろう。点上げ遺物。

６は、壺形土器の口縁部である。これも黒髪式土

器の特徴を備えている。点上げ遺物。

８は、丹塗りの高杯の杯部である。内外面にハケ目が残る。１層からの出土である。黒髪式土器の特徴を備えている。点上げ遺物。

９、12は、高杯の脚部である。内面にハケ目、外面に絞り痕跡が残る。９には杯部も一部残り、２重の突帯が巡る。いずれも点上げ遺物であり、12は、８点が接合している。

10、11は、器台である。10は、内外面にハケ目が残り、内部にはナデ痕跡や指頭圧痕が観察される。

10は、一括遺物、11は点上げ遺物であり、それぞれ３点、11点が接合している。

13は、ミニチュア土器である。甕形土器を模した底部であろう。北側の土層確認トレンチから出土している。

14は、甕形土器の口縁部である。くの字口縁を呈しており、後期の土器である。後世の紛れ込みであろう。点上げ遺物である。

15は、ジョッキ形土器の胴部下半部である。上層から出土している。14と同様、後期の土器で後世の紛れ込みであろう。

上層からの出土である。

16～19は、ガラス小玉である。径は、約３㎜、厚さは、約１～３㎜である。分析の結果、いずれもカリガラスであった。16は一括層、17は１層、18は上層、19はトレンチ層の覆土水洗により出土。

20～22は、碧玉製の管玉である。径は、約３㎜、長さは、約６～８㎜である。いずれも両側から穿孔した痕跡が窺える。21は、一部欠損している。いずれも上層の水洗で出土した。20と21は１層、22は上層からの出土である。

23、24は、粘板岩製の磨製石鏃である。23はピット内から、24は２層から出土している。24は、先端部と左側縁ぶが一部欠損している。23はピット内、24は中層からの出土である。

25は、安山岩製の両面加工石器である。先端部が欠損しているが、石槍の可能性が考えられる。上層からの出土である。

【S005】（図27、28参照）

［確認位置］調査２区、Ｖ－７、８グリッド。

標高約10.6m。

［形状］隅丸方形

［大きさ］長軸：530㎝、短軸：394㎝、深さ：６～７㎝。削平されていたために浅い。

［住居内覆土］細分して３層。

［主柱穴］２本。径20～30㎝。深さ18～28㎝。

［炉］２つ有り。１つは、大きさ50×70㎝で深さ約８㎝。２つ目は、大きさ40×60㎝で深さ約８㎝。

中央部の炉がメインであろう。

［貯蔵穴］有り。大きさ70×110㎝で深さ約30㎝。

３層に分層可能。

［硬化面］有り。

［張り床］有り。

［切り合い関係］S002から切られる。

［遺物の出土状況］削平されていたため、残存する覆土が約６～７㎝と浅い。床面からやや浮いた状態で出土。遺構廃絶後間もない遺物として捉えたい。

［出土遺物量］

S005から出土した遺物は、小グレーコンテナ（38㎝×58㎝×５㎝）に３箱分で、総重量9,052gであった。内訳は弥生土器9,021g（内丹塗り土器は1,324g)、中世の瓦質土器（31g）であった。

［出土遺物の観察］

土器の様相は、甕や壺の口縁部は全て黒髪式土器の範疇で捉えられるものであったことから、弥生時代中期後半期の土器と判断した。全て点上げ遺物である。

ここでは、４点の土器と１点の石器を紹介する。

１、２、４は、甕形土器の口縁部である。いずれも口縁部が内側に細長く突起が伸び、外側にほぼ同じ厚さで細長く伸びるという黒髪式土器の特徴を備えている。１は５点、４は４点が接合している。

３は、甕形土器の脚台部である。

５は、石皿の破片である。両面に磨り痕跡が残る。

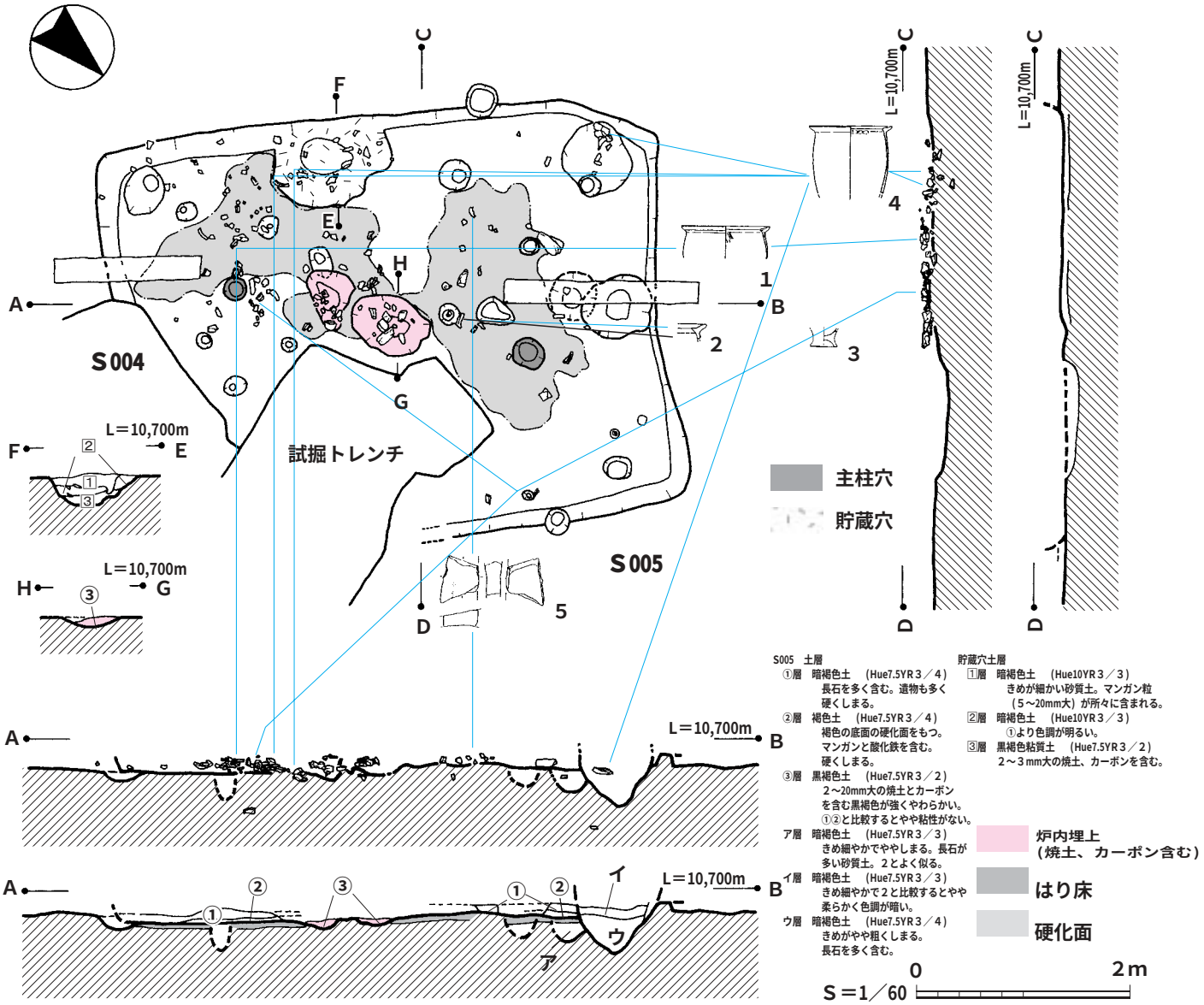
【S011】（図29、30参照）

［確認位置］調査２区、Ｖ－８グリッド。

標高約10.5m。

［形状］不定形（菱形？楕円？）

［大きさ］長軸：420㎝程度、短軸：130㎝～、深さ：10～15㎝。



図(Fig)27　住居跡（S005）実測図

［住居内覆土］大別して２層。

［主柱穴］不明。

［炉］不明。

［貯蔵穴］隅ではあるが、可能性有り。大きさ70×90cmで深さ約32～35cm。遺物も伴う。

［硬化面］有り。

［張り床］有り。

［切り合い関係］S004から切られる。

［特記事項］。硬化面と張り床の存在から住居跡と判断した。

［遺物の出土状況］床面からやや浮いた状態で出土。

遺構廃絶後間もない遺物として捉えたい。貯蔵穴状の土抗内の遺物は住居に伴う遺物と考えられる。

［出土遺物量］

S011から出土した遺物は、小グレーコンテナ(38cm×58cm×５cm）に３箱分で、総重量7,246gであった。内訳は弥生土器7,246g（内丹塗り土器は246g）であった。

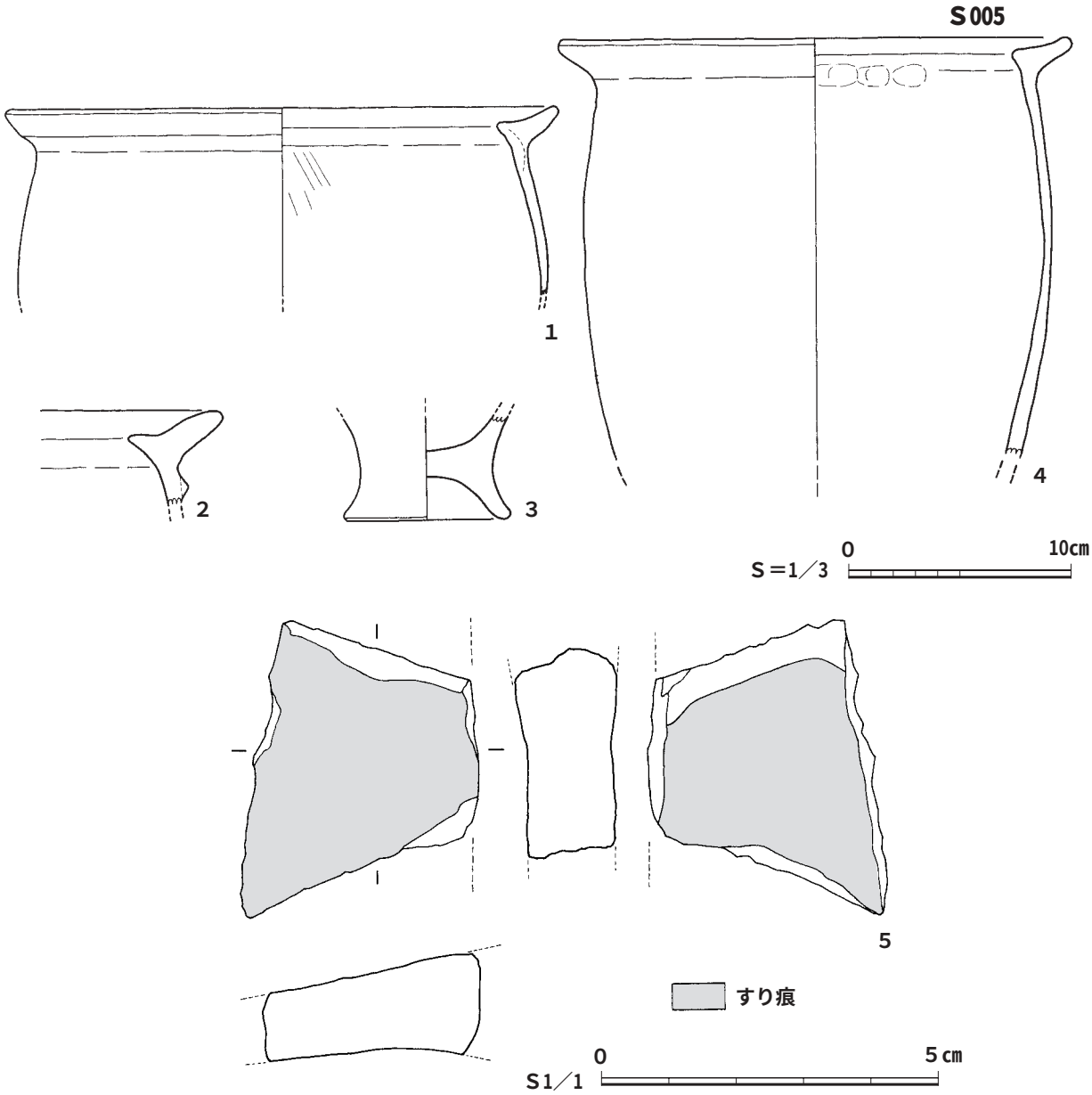
［出土遺物の観察］

全体的な様相として、甕や壺の口縁部は全て黒髪式土器の範疇で捉えられるものであったことから、弥生時代中期後半期の竪穴住居跡として判断した。

ここでは、10点の土器を紹介する。

１、２、４は、甕形土器の口縁部及び胴部上半部である。いずれも口縁部が内側に細長く突起が伸び、外側にほぼ同じ厚さで細長く伸びるという黒髪式土器の特徴を備えている。１は一括遺物、２は点上げ遺物、４は、貯蔵穴状の土抗から出土である。

３は、壺形土器の口縁部である。頸部に１条の突帯が巡る。口縁部は黒髪式土器の特徴を備えている。



図(Fig)28　S005出土遺物実測図

点上げ遺物である。

５は、丹塗りの壺形土器の胴部である。１条の突帯が巡る。点上げ遺物である。

６は、壺形土器の口縁部から胴部上半部である。内外面にハケ目が残る。点上げ遺物で、３点が接合。

７は、甕形土器の脚台部である。外面にハケ目、内面に指頭圧痕が残る。点上げ遺物である。

８は、壺形土器の胴部上半部である。M字状の突帯が１条巡る。須玖Ⅱ式土器の影響を受けた土器と考えられる。床上の遺物である。

９は、壺形土器の底部と考えられる。外面にハケ目、内面に指頭圧痕が残る。貯蔵穴内の遺物である。

10は、器台の下半部で、内外面にハケ目が残る。点上げ遺物２点が接合している。

【S017】（図31、32参照）

［確認位置］調査２区、R、Ｓ－８グリッド。

標高約10.56m。

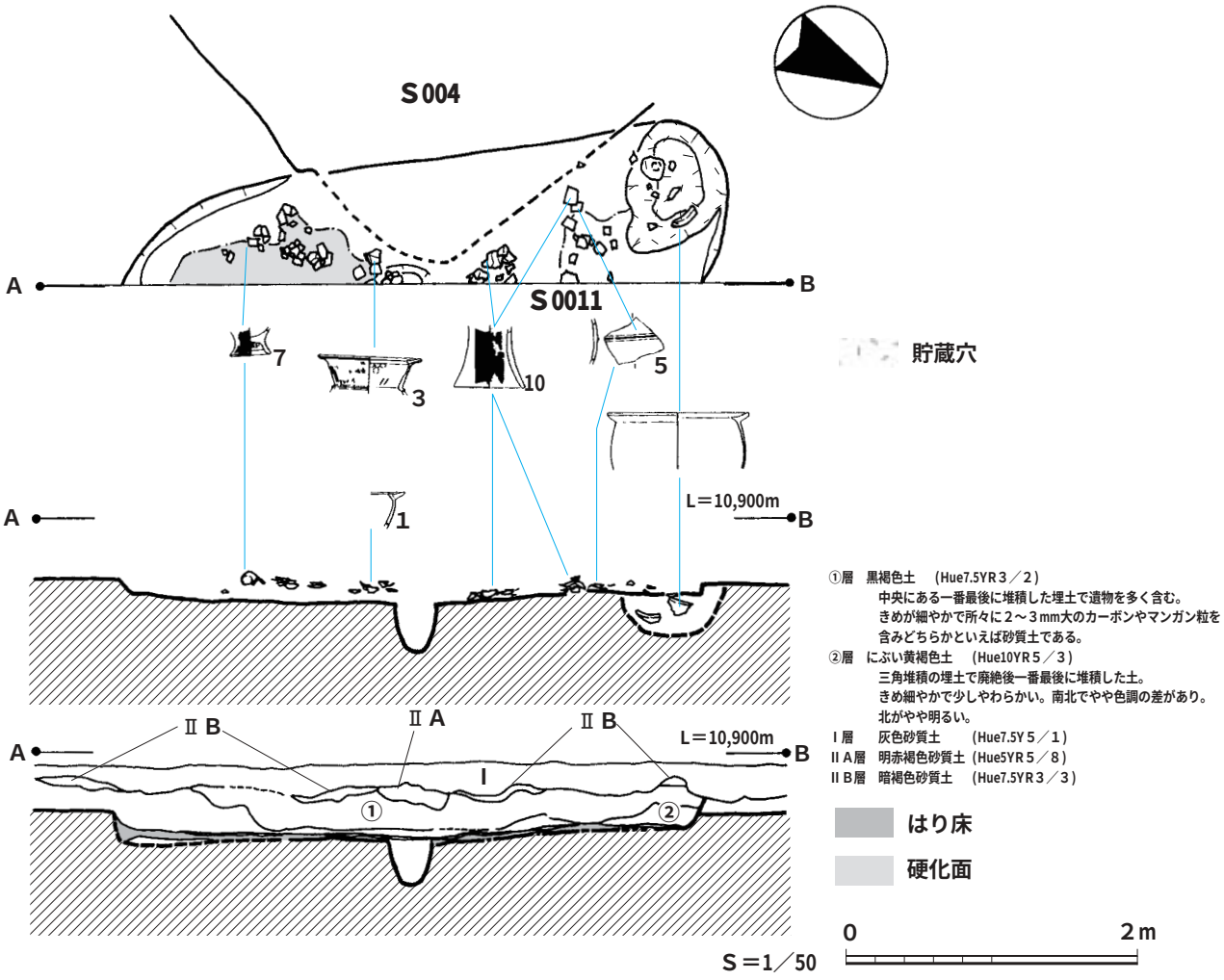
［形状］方形だが、ややいびつ。

［大きさ］長軸：430cm～、短軸：420cm～、深さ：58～60cm。

［住居内覆土］大別して３層。

［主柱穴］２本？１本あるが、浅い。径36～40cm。深さ10～12cm。

［炉］１つ有り。大きさ30～×80～cmで深さ約15～18cm。炉内の黒色粘質土から小動物と考えられる骨片が出土。



図(Fig)29　住居跡（S011）実測図

［貯蔵穴］有り。大きさ70×80cmで深さ約19～31cm。

［硬化面］有り。

［張り床］有り。

［切り合い関係］S022から切られる。

［遺物の出土状況］床面からやや浮いた状態で出土。遺構廃絶後間もない遺物として捉えたい。しかし、小片が多い。

［出土遺物量］

S017から出土した遺物は、小グレーコンテナ(38cm×58cm×５cm）に４箱分で、総重量10,189gであった。内訳は、縄文土器294g（21片)、弥生土器9,895g（内丹塗り土器は740g）であった。

［出土遺物の観察］

土器の様相は、甕や壺の口縁部はほとんどが黒髪式土器の範疇で捉えられるものであったことから、弥生時代中期後半期の土器と判断した。

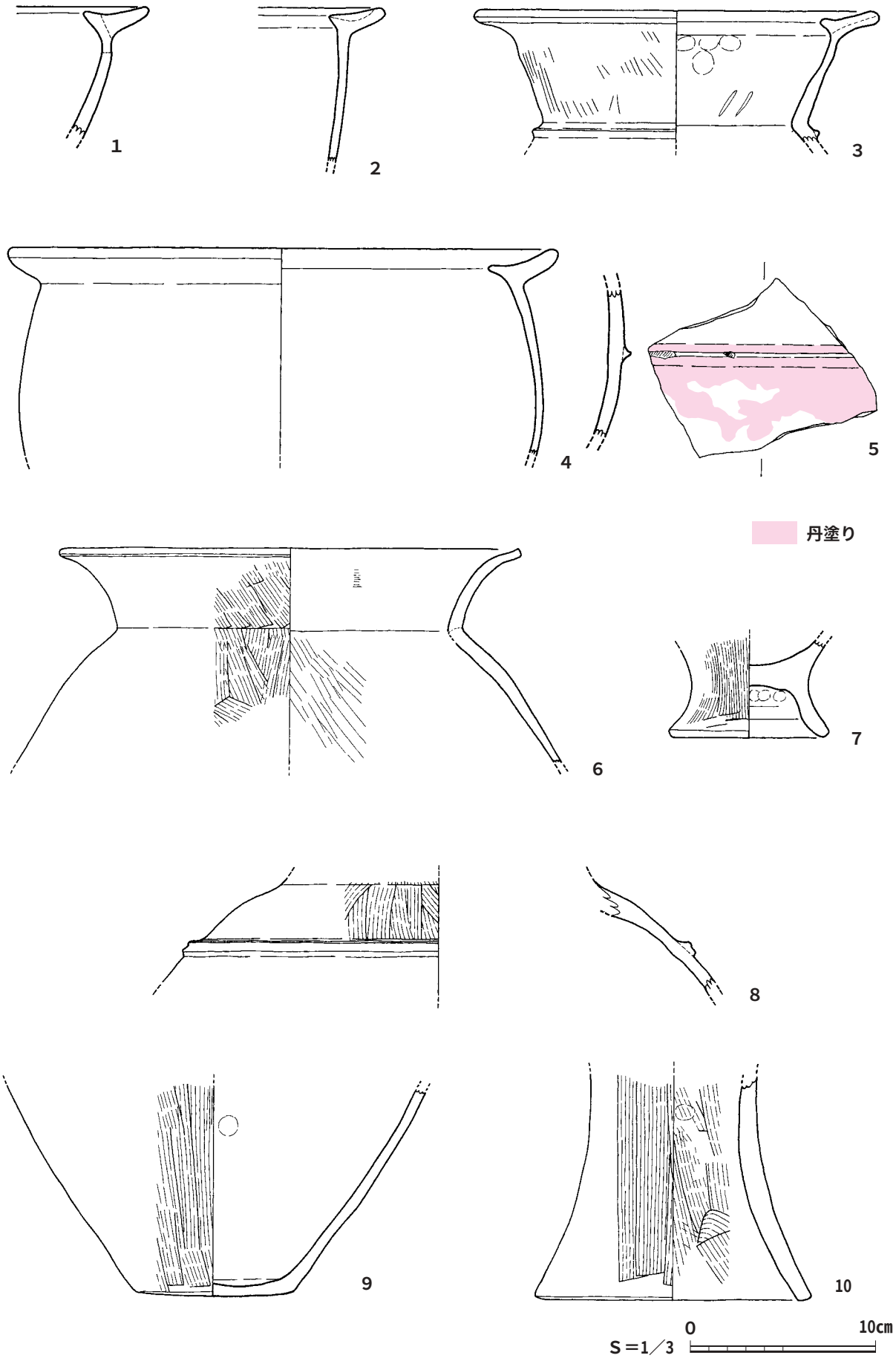
ここでは、５点の土器、２点の管玉、１点の鉄器、１点の石器を紹介する。

１、３は、壺形土器の口縁部と考えられる。黒髪式土器の特徴を備えている。１は上層、３はトレンチ一括遺物である。

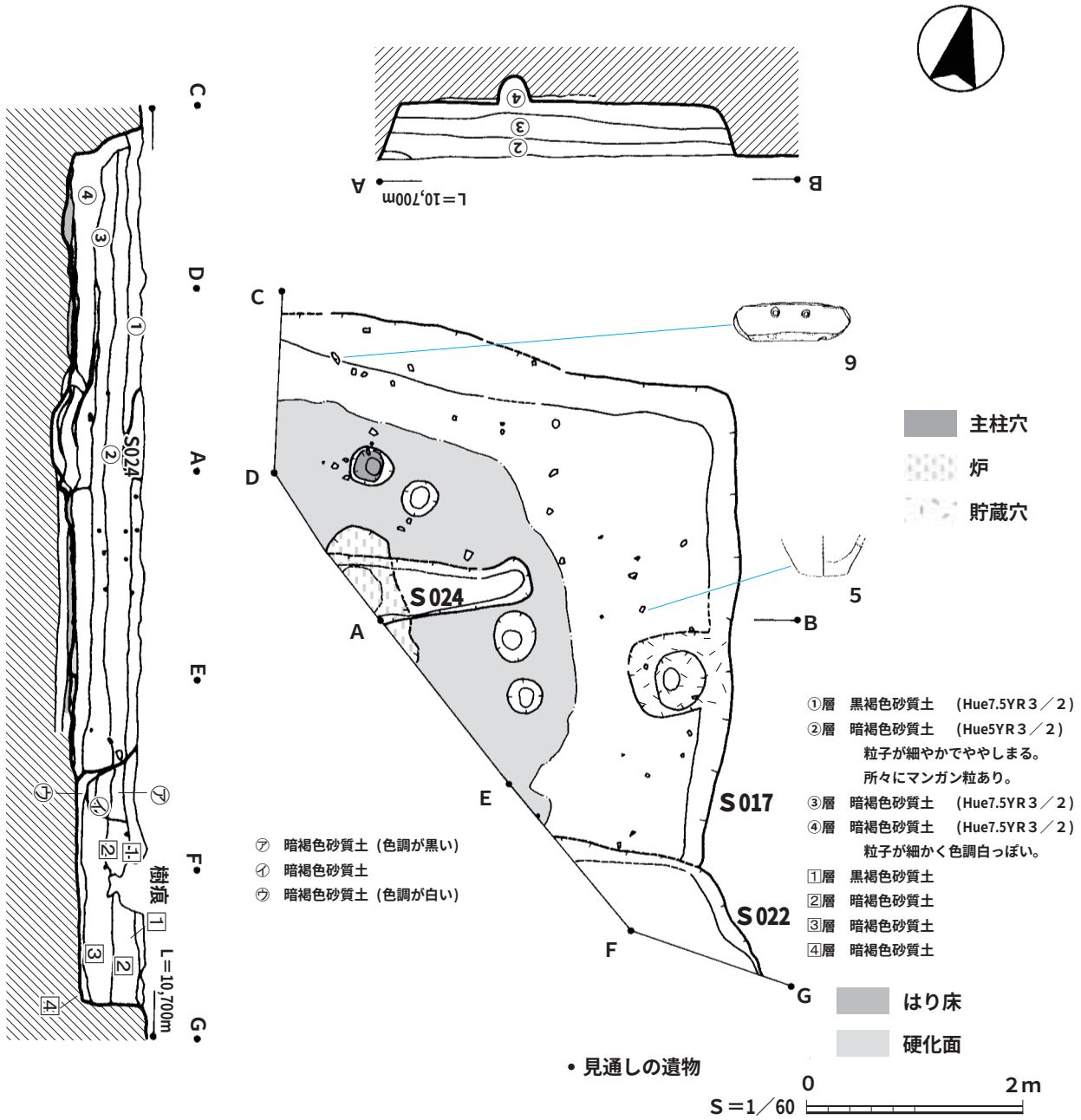
２は、甕形土器の口縁部である。口縁部が内側に細長く突起が伸び、外側にほぼ同じ厚さで細長く伸びるという黒髪式土器の特徴を備えている。３層からの出土である。

４は、甕形土器の口縁部であるが、くの字状に屈曲しており、後期の様相が強い。１層からの出土である。

５は、ミニチュア土器で、甕の底部と考えられる。点上げ遺物である。



図(Fig)30　S011出土遺物実測図



図(Fig)31　住居跡（Ｓ017）実測図

６、７は、碧玉製の管玉である。径は、約３㎜、長さは、約５～11㎜である。いずれも両側から穿孔した痕跡が窺える。７は、一部欠損している。６は３層、７は中～下層の水洗で出土した。

８は、鉄鏃である。両面に木質で挟んでいた痕跡が窺える。おそらく竹であろうか？３層から出土。

９は、粘板岩製と考えられる石包丁である。点上げ遺物で、３層のやや浮いた状態で出土した。

【S025】（図33参照）

［確認位置］調査２区、Ｓ－８グリッド。

標高約10.5m。

［形状］方形。

［大きさ］長軸：284cm程度、短軸：150cm～、深さ：25～30cm。

［住居内覆土］１層。

［主柱穴］不明。

［炉］不明。

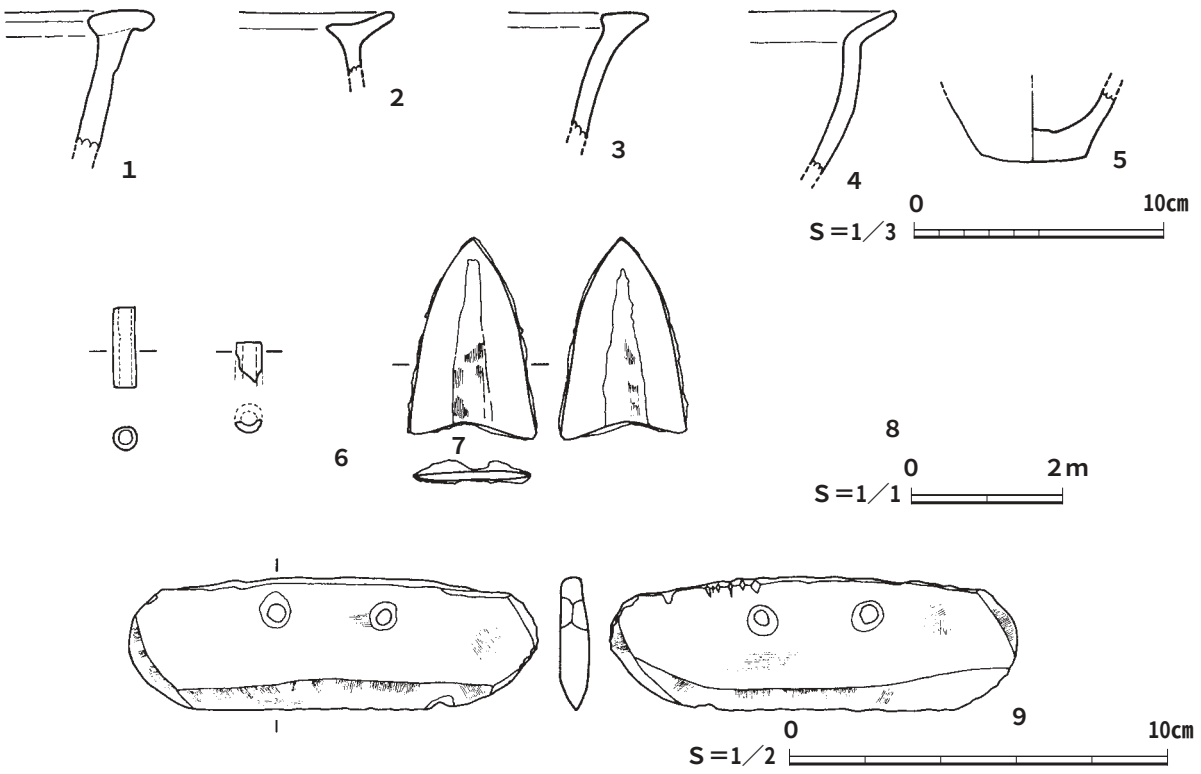
［貯蔵穴］不明

［硬化面］有り。

［張り床］無し。

［切り合い関係］無し。

［特記事項］硬化面が全面に広がることから住居跡



図(Fig)32　S017出土遺物実測図

と判断。

［遺物の出土状況］床面からやや浮いた状態で出土。遺構廃絶後間もない遺物として捉えたい。しかし、

［出土遺物量］

S025から出土した遺物は、小グレーコンテナ(38㎝×58㎝×５㎝）に約１／２箱分で総重量10,189gであった。内訳は、弥生土器476g（内丹塗り土器は26g）であった。ほとんどが小片である。

［出土遺物の観察］

甕や壺の口縁部は少なかったが、ほとんどが黒髪式土器の範疇で捉えられるものであったことから、弥生時代中期後半期の竪穴住居跡として判断した。

ここでは、１点の土器、を紹介する。

１は、甕形土器の口縁部と考えられる。黒髪式土器の特徴を備えている。点上げ遺物である。

【S026】（図34～36参照）

［確認位置］調査２区、R、S－８グリッド。

標高約10.4m。

［形状］円形。

［大きさ］直径：約480㎝、深さ：45～50㎝。

［住居内覆土］大別して３層。

［主柱穴］不明。

［炉］１つ有り。大きさ50×50㎝で深さ約５～６㎝。

［貯蔵穴］有り。大きさ56～60㎝で深さ約30～32㎝。

［硬化面］有り。

［張り床］有り。

［切り合い関係］S029を切る。

［特記事項］壺形土器の出土状況やガラス小玉が２個つながった状態で床面から出土していることは、住居の廃棄儀礼との関連を想像させる。

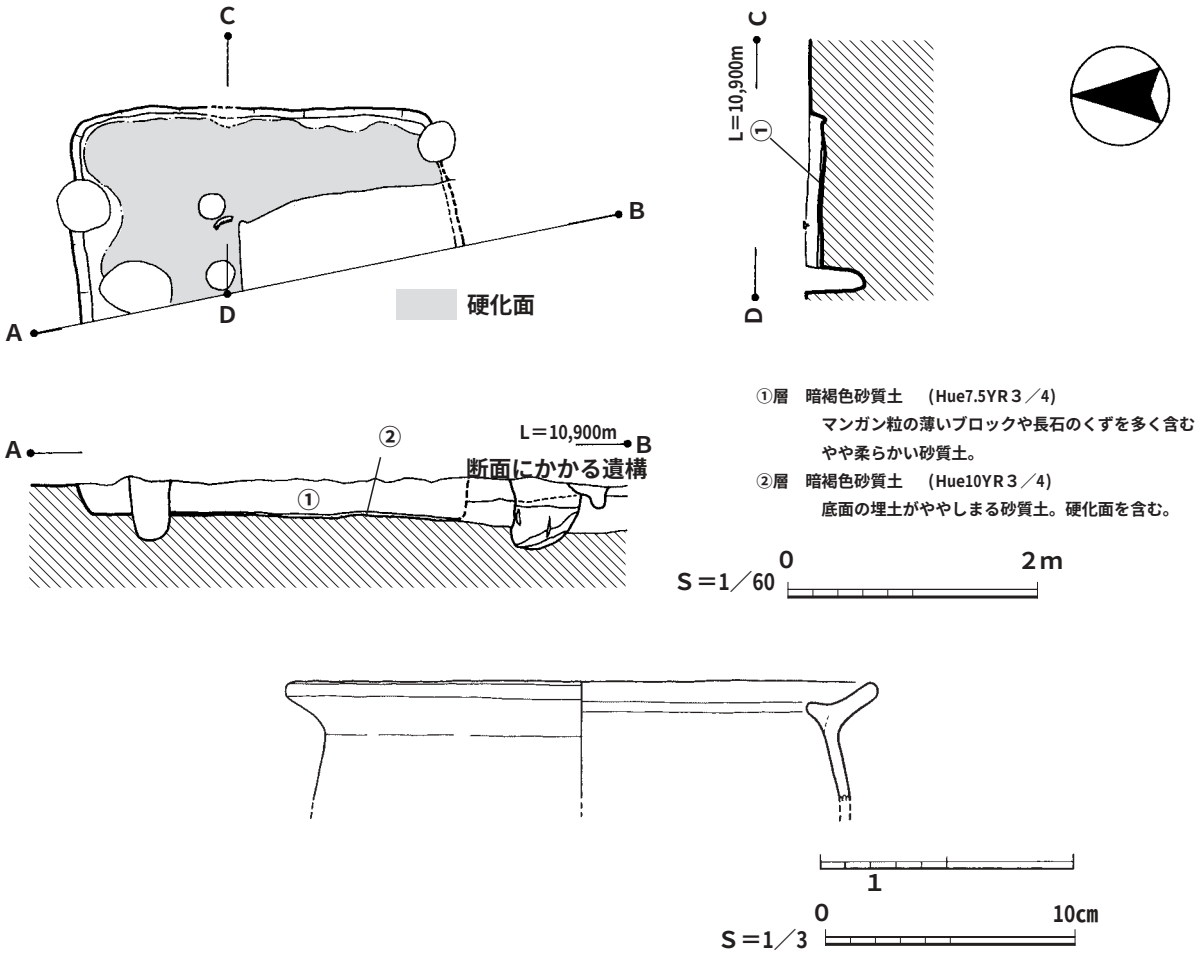
［遺物の出土状況］床面からやや浮いた状態で出土。遺構廃絶後間もない遺物として捉えたい。しかし、壺形土器は遺構廃絶時に伴うものと判断している。

［出土遺物量］

S026から出土した遺物は、小グレーコンテナ(38㎝×58㎝×５㎝）に５箱分で、総重量10,189gであった。内訳は、弥生土器15,643g（内丹塗り土器は264g）であった。

［出土遺物の観察］

土器の様相は、甕や壺の口縁部は全てが黒髪式土器の範疇で捉えられるものであったことから、弥生時代中期後半期の土器と判断した。



図(Fig)33　住居跡（Ｓ025）実測図及び出土遺物実測図

ここでは、７点の土器、２点のガラス小玉、２点の管玉、１点の鉄器、２点の石器を紹介する。

１は、袋状口縁壺の口縁部である。内外面に指頭圧痕が残る。点上げ遺物である。

２、３は、甕形土器の口縁部及び胴部である。口縁から約５㎝下に、１条の沈線が巡る。外面にハケ目が残る。２は点上げ、１、２層、一括遺物の26点が接合している。３は、点上げ28点、２層４点の合計32点が接合している。

４は、壺形土器である。口縁部を下に伏せて出土しているという状況もさることながら、底部は故意に割られたものと推測する。住居廃絶時の儀礼によるものであろうか。胴部のやや上部に刻み目突帯を巡らし、内外面は、丁寧な磨きがみられる。口縁部の外側は暗文が見られる。口縁部形態は、黒髪式土器の特徴を備えている。住居廃絶時に伴う遺物である。

５は、甕形土器の脚台部及び胴部下半部である。外面にハケ目、内面にハケ後、指頭圧痕が見られる。床上の遺物である、

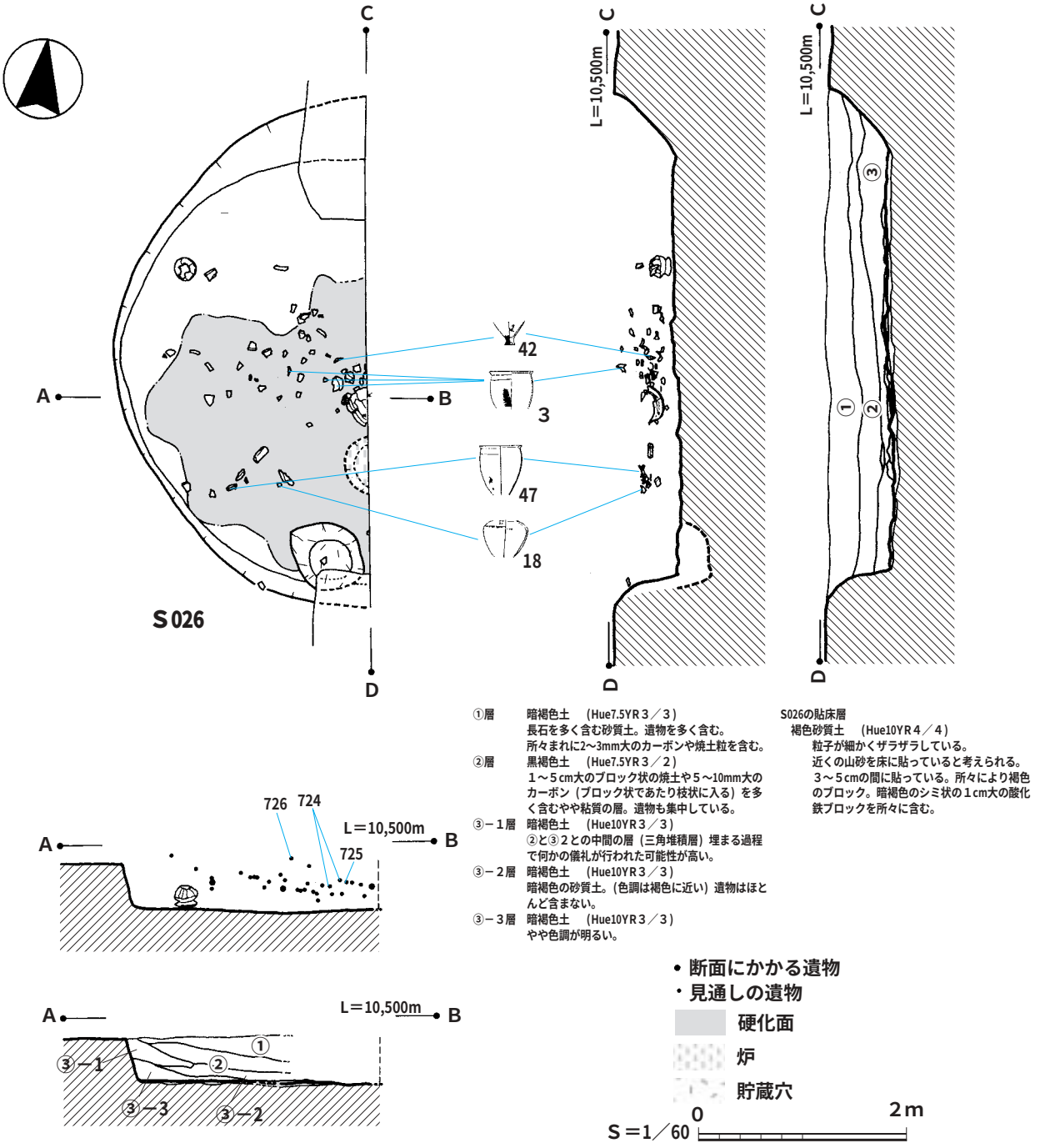
６は、壺形土器の底部と考えられる。外面に丁寧な磨きが見られる。床上の遺物である。

７は、壺形土器の胴部である。上半部に１条の突帯が巡る。外面にハケ目、内面に指頭圧痕がわずかに残る。点上げ遺物13点が接合している。

８は、鉄片である。径約２㎜と非常に細い。針金状のものであろうか？トレンチ一括の遺物である。

９は、ガラス小玉が２個連結したものである。住居床面から出土した。おそらく糸で繋がっていたものであろう。色調は、藍色ではなく薄緑色である。床面覆土の水洗いで出土した。

10、11は、碧玉製の管玉である。径は、約２～３㎜、長さは、約９～10㎜である。いずれも両側から穿孔した痕跡が窺える。11は、一部欠損している。



図(Fig)34　住居跡（S0026）実測図

10は、一括覆土、上層の水洗で出土した。11は１層の水洗いで出土した。

12は、板状の石皿である。石材は火成岩と考えられる。欠損しているが、上面に磨り痕が見られる。１層からの出土である。

13は、磨り石と凹石の両方の機能を持つ石器である。石材は、安山岩質であると考えられる。表裏面には磨り痕、上面には敲打痕による凹面、そして側面には敲打痕が見られる。出土層不明遺物である。

【S027】（図37参照）

［確認位置］調査２区、Ｕ－８、９グリッド。

標高約10.45m。

［形状］楕円形。

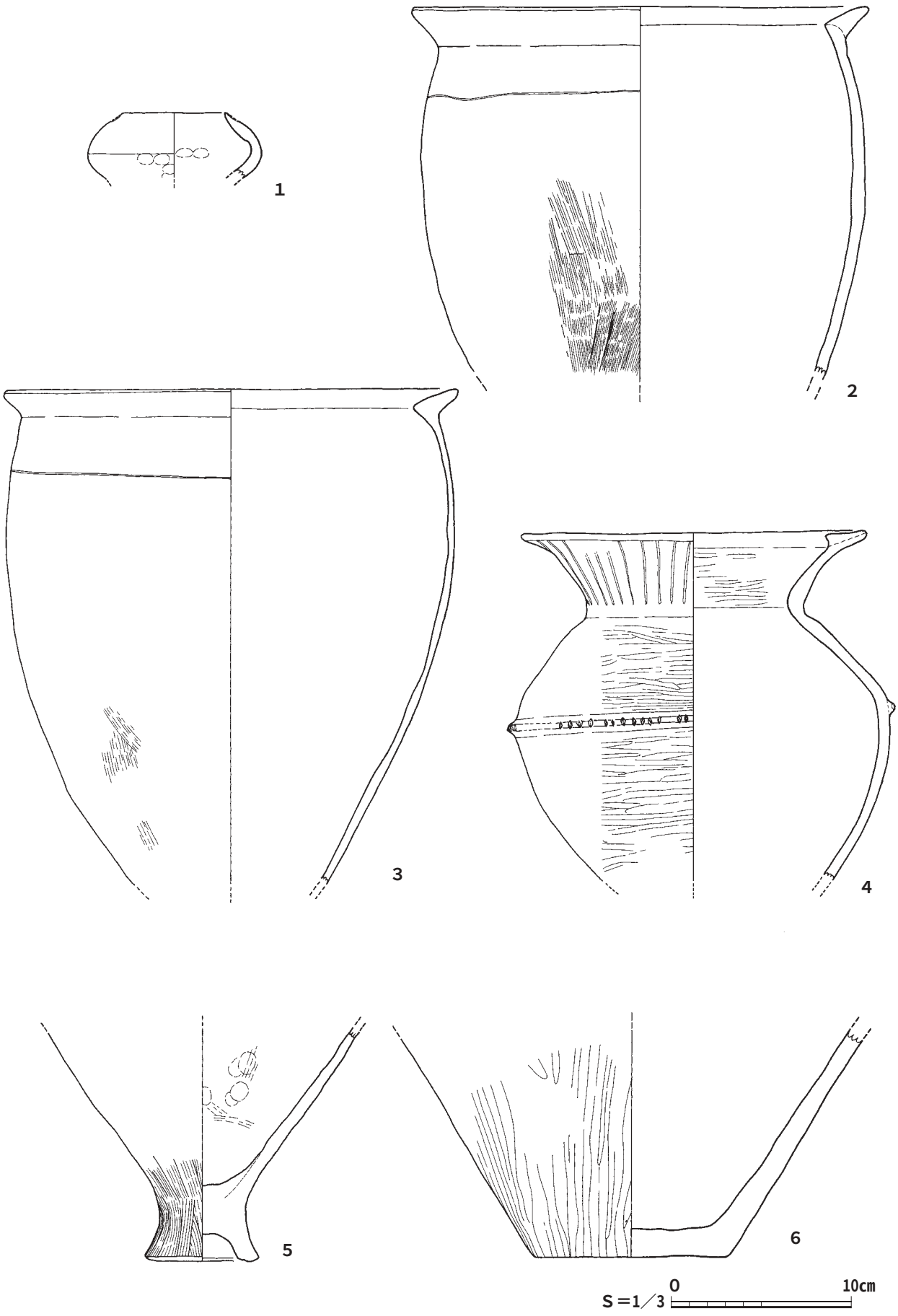
［大きさ］直径：約368㎝、深さ：32～40㎝。

［住居内覆土］大別して３層。

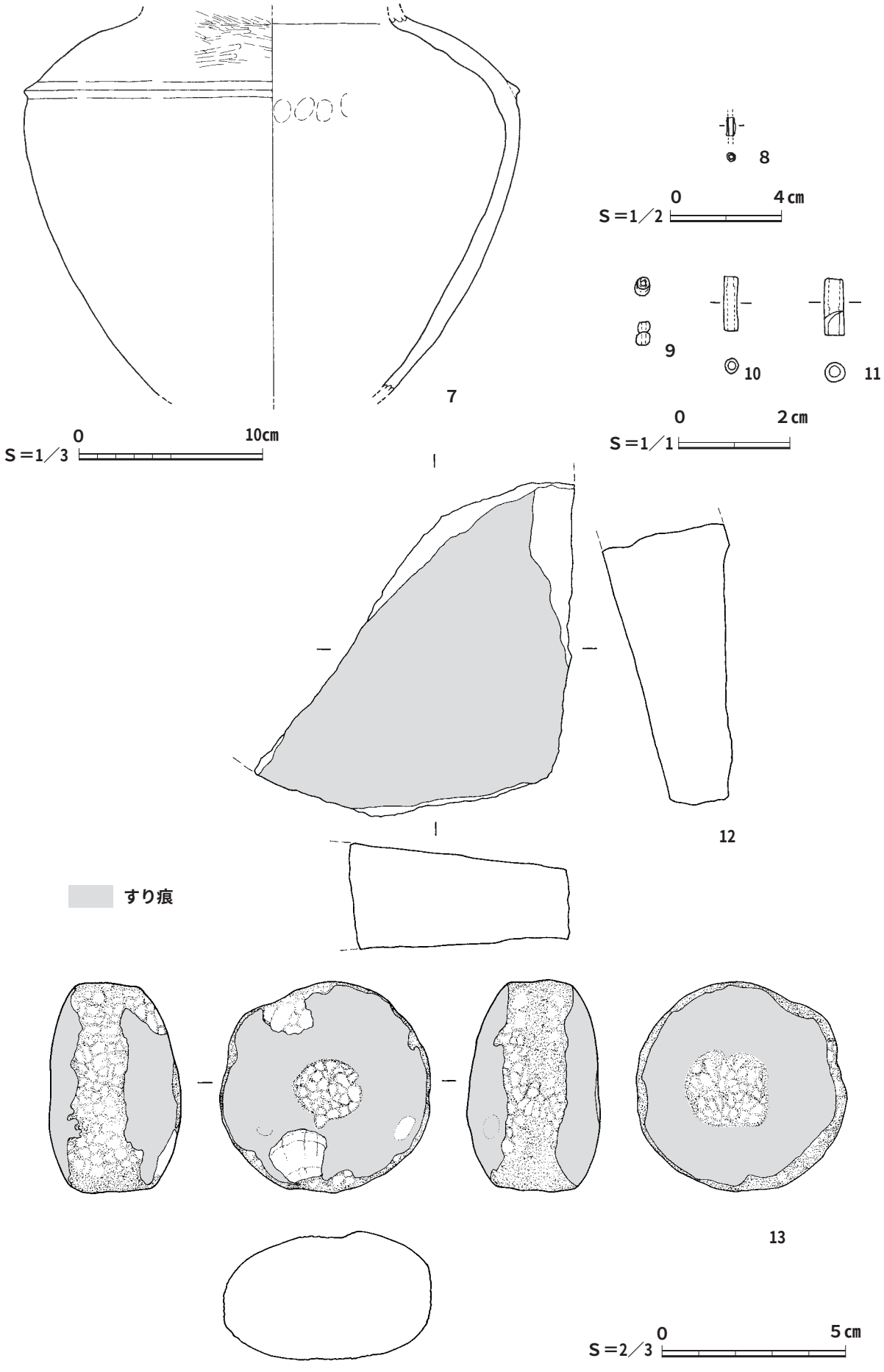
［主柱穴］不明。

［炉］不明。

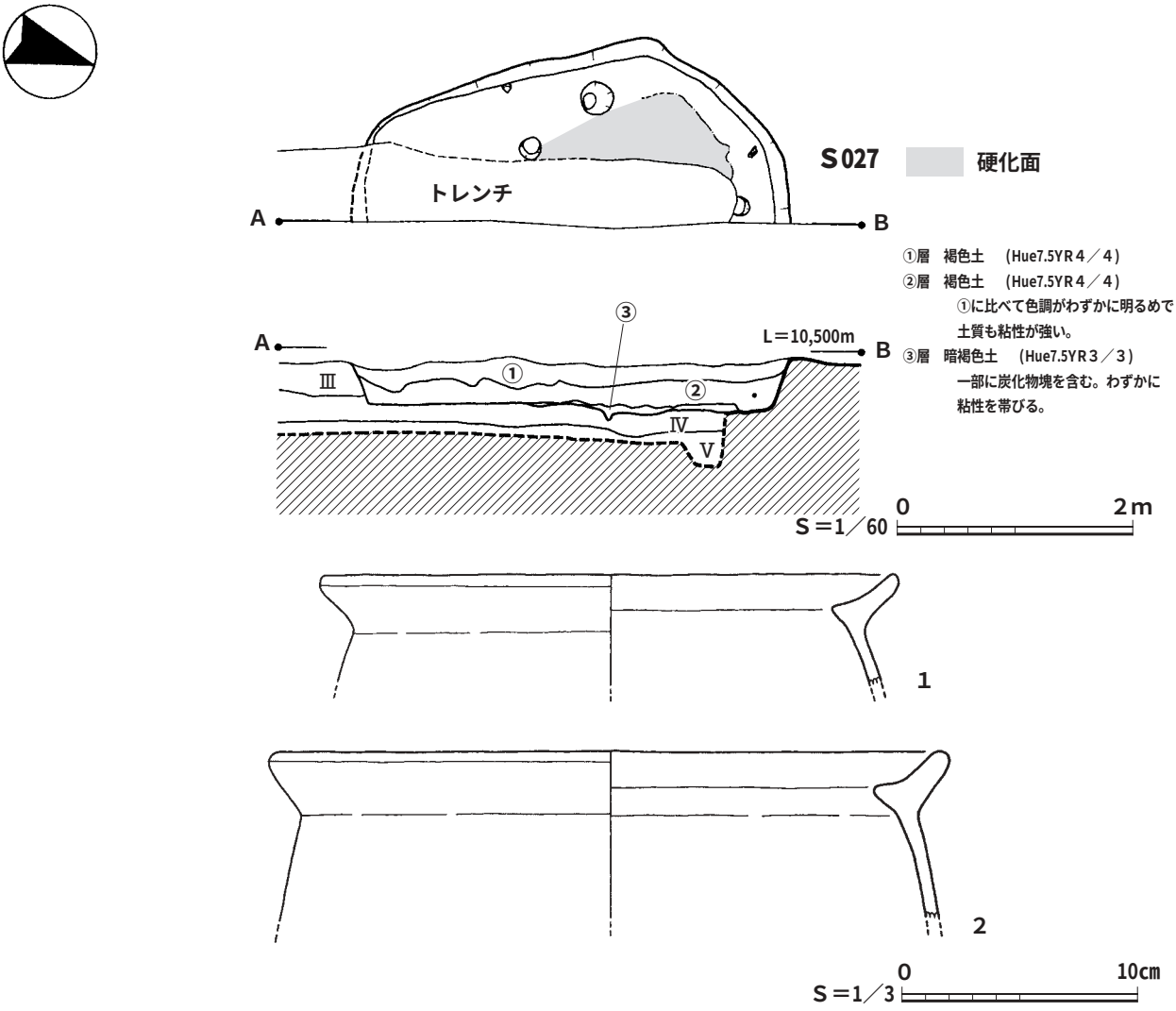
［貯蔵穴］不明。



図(Fig)35　S026出土遺物実測図（1）



図(Fig)36　S026出土遺物実測図（２）



図(Fig)37　住居跡（S027）実測図及び出土遺物実測図

［硬化面］有り。

［張り床］無し。

［切り合い関係］無し。

［特記事項］硬化面が中央部に広がることから住居跡と判断。

［遺物の出土状況］床面からやや浮いた状態で出土。遺構廃絶後間もない遺物として捉えたい。

［出土遺物量］

S027から出土した遺物は、小グレーコンテナ（38㎝×58㎝×５㎝）に約１／３箱と少量で、総重量827gであった。内訳は、弥生土器800g（内丹塗り土器は27g）であった。

［出土遺物の観察］

土器の様相は、甕や壺の口縁部は全てが黒髪式土器の範疇で捉えられるものであったことから、弥生時代中期後半期の土器と判断した。

ここでは、２点の土器を紹介する。

１、２は、甕形土器の口縁部である。口縁部が内側に細長く突起が伸び、外側にほぼ同じ厚さで細長く伸びるという黒髪式土器の特徴を備えている。１は、一括遺物、２はトレンチ一括遺物の６点が接合している。

【S029】（図38、39参照）

［確認位置］調査２区、Ｔ－８、９グリッド。

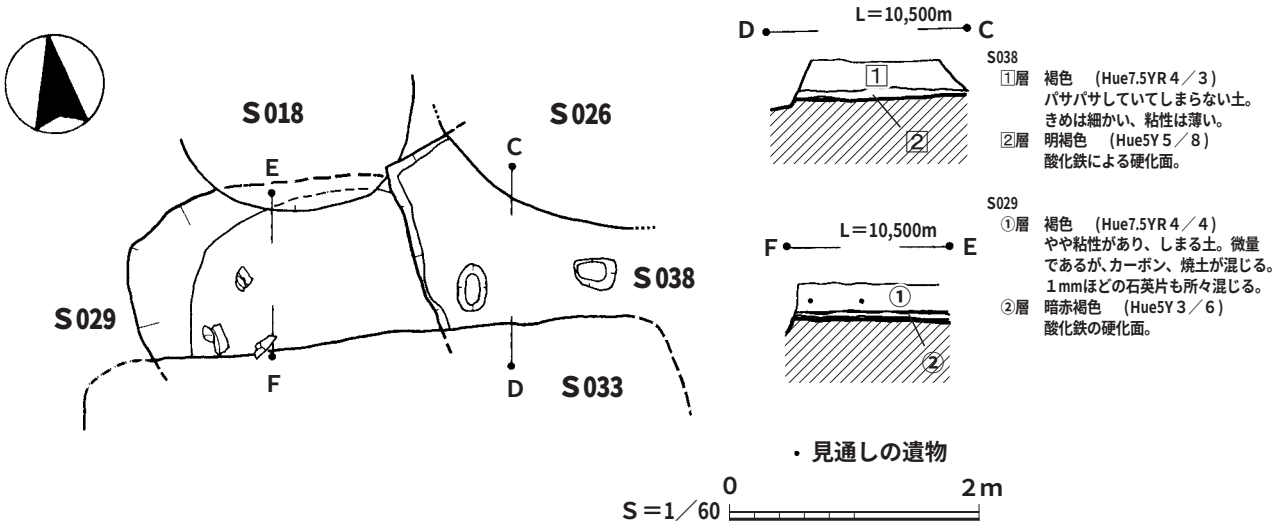
標高約10.24m。

［形状］隅丸方形。

［大きさ］長軸：120㎝～、短軸：104㎝～、深さ：22㎝。

［住居内覆土］１層のみ。

［主柱穴］不明。



図(Fig)38　住居跡（S029・S038）実測図

［炉］不明。

［貯蔵穴］不明。

［硬化面］有り。

［張り床］有り。

［切り合い関係］S018、33、38に切られる。

［特記事項］硬化面や張り床があることから住居跡と判断。

［遺物の出土状況］床面からやや浮いた状態で出土。遺構廃絶後間もない遺物として捉えたい。

［出土遺物量］

S029から出土した遺物は、小グレーコンテナ(38㎝×58㎝×５㎝）に約１箱で、総重量2,121gであった。内訳は、弥生土器2,121g（内丹塗り土器は184g）であった。

［出土遺物の観察］

土器の様相は、甕や壺の口縁部のほとんどが黒髪式土器の範疇で捉えられるものであったことから、弥生時代中期後半期の土器と判断した。

ここでは、５点の土器を紹介する。

１、２、４は、甕形土器の口縁部である。口縁部が内側に細長く突起が伸び、外側にほぼ同じ厚さで細長く伸びるという黒髪式土器の特徴を備えている。

１、２は点上げ遺物、４は床上遺物である。

３は、甕形土器の脚台部である。内外面にハケ目が残る。点上げ遺物である。

５は、甕形土器の口縁部である。口縁が、くの字になりつつあり、やや後期の様相を呈している。S029と33の点上げ遺物が接合している。

【S038】（図38～40参照）

［確認位置］調査２区、Ｔ－９グリッド。

標高約10.24m。

［形状］方形。

［大きさ］長軸：160㎝～、短軸：160㎝～、深さ：24㎝。

［住居内覆土］１層のみ。

［主柱穴］不明。

［炉］不明。

［貯蔵穴］不明。

［硬化面］有り。

［張り床］有り。

［切り合い関係］S029を切り、S018、26、33に切られる。

［特記事項］硬化面や張り床があることから住居跡と判断。

［遺物の出土状況］床面から浮いた状態で出土。

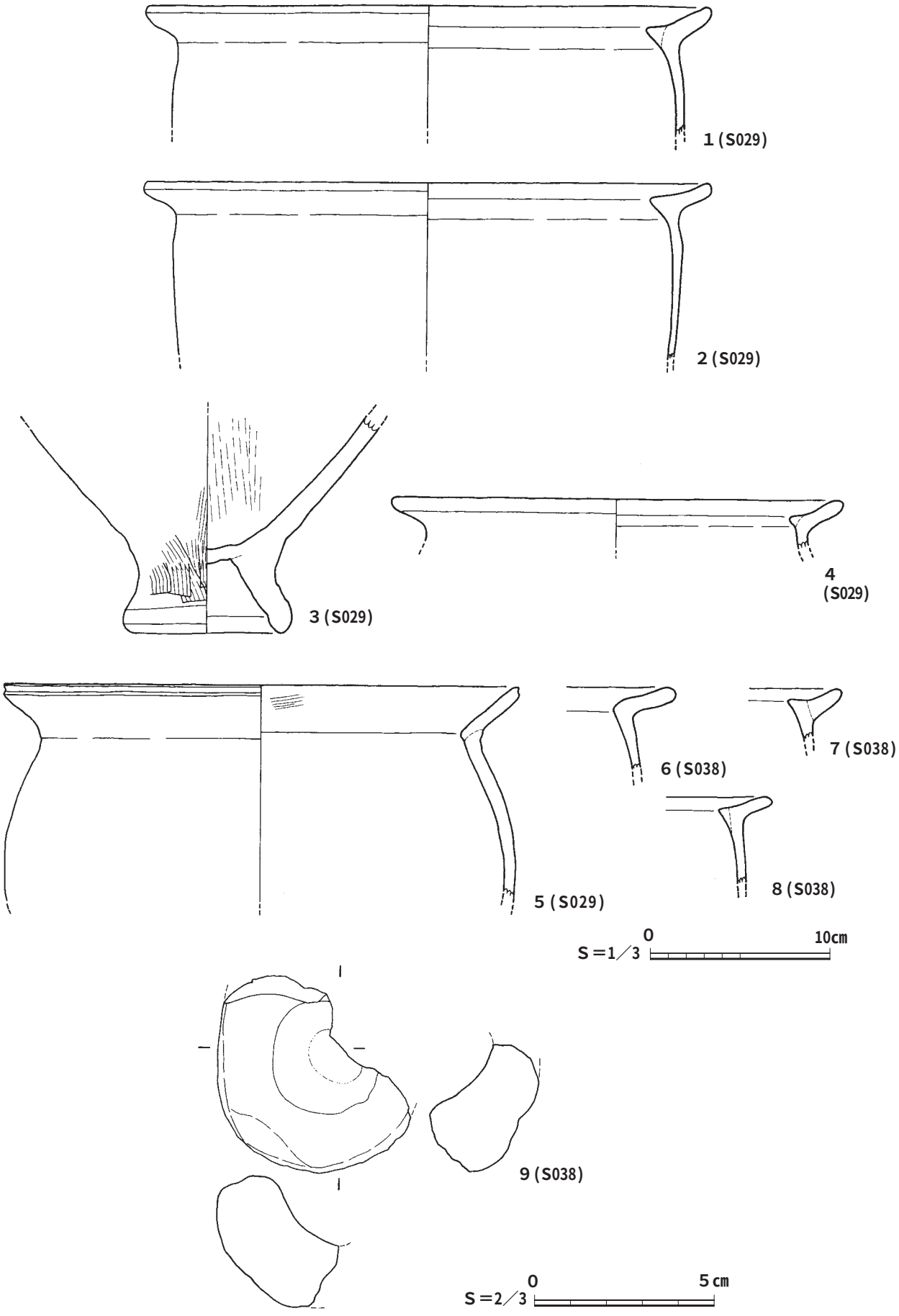
［出土遺物量］

S038から出土した遺物は、小グレーコンテナ(38㎝×58㎝×５㎝）に約１箱で、総重量1,544gであった。内訳は、縄文土器44g、弥生土器1,500g(内丹塗り土器は141g）であった。

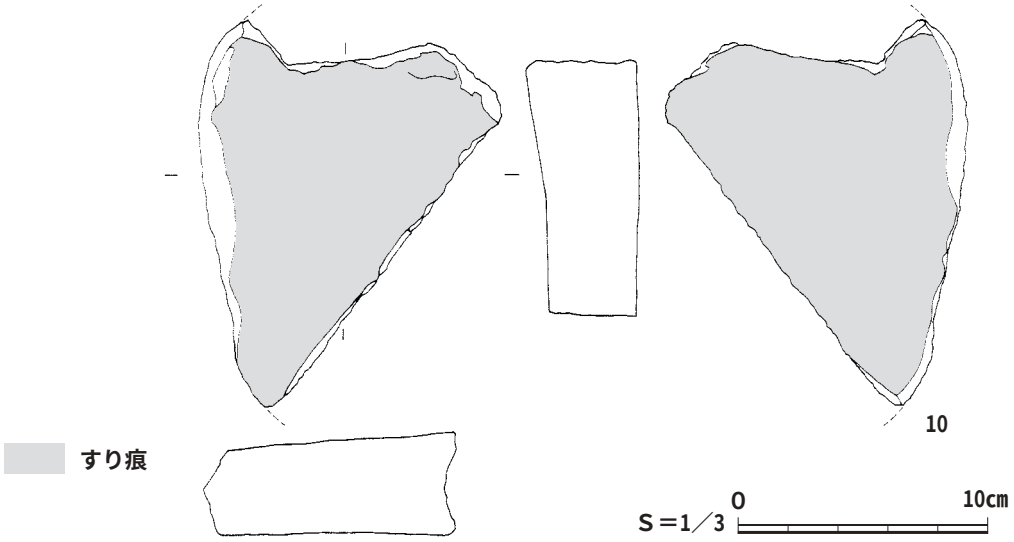
［出土遺物の観察］

土器の様相は、甕や壺の口縁部のほとんどが黒髪式土器の範疇で捉えられるものであったことから、弥生時代中期後半期の土器と判断した。しかし、ほとんどが小片であった。

ここでは、３点の土器と２点の石器を紹介する。



図(Fig)39　S029・S038出土遺物実測図（1）



図(Fig)40　S038出土遺物実測図（２）

６、７、８は、甕形土器の口縁部である。７、８は黒髪式土器の特徴を備えているが、６は、内側への突起がやや少ない。いずれも上層からの出土している。

９は、玉砥石と考えられる。石材は、凝灰岩の軽石である。約１／３が欠損している。１層上からの出土である。

10は、板状の石皿である。石材は安山岩質と考えられる。欠損しているが、上下面に磨り痕が見られる。１層上層からの出土である。

【S044】（図41～44参照）

［確認位置］調査１区、Ｃ－４、５グリッド。

標高約10.2m。

［形状］隅丸方形

［大きさ］長軸：510㎝、短軸：490㎝、深さ：35～38㎝。

［住居内覆土］２層に分層。

［主柱穴］２本。径22～26㎝。深さ18～22㎝。

［炉］１つ有り。大きさ80×80㎝。深さ６～10㎝。

［貯蔵穴］１つ有り。大きさ60×100㎝。深さ50㎝。

［硬化面］有り。

［張り床］有り。

［切り合い関係］S089を切る。

［特記事項］住居内を幅約30～50㎝、深さ約10～20㎝の溝が巡る。

［遺物の出土状況］床面からやや浮いた状態で出土。遺構廃絶後間もない遺物として捉えたい。

［出土遺物量］

S044から出土した遺物は、中グレーコンテナ（38㎝×58㎝×15㎝）に約３箱分であった。

［出土遺物の観察］

土器の様相は、甕や壺の口縁部は、ほとんどが黒髪式土器の範疇で捉えられるものであったことから、弥生時代中期後半期の土器と判断した。

ここでは、８点の土器、１点の石器を紹介する。

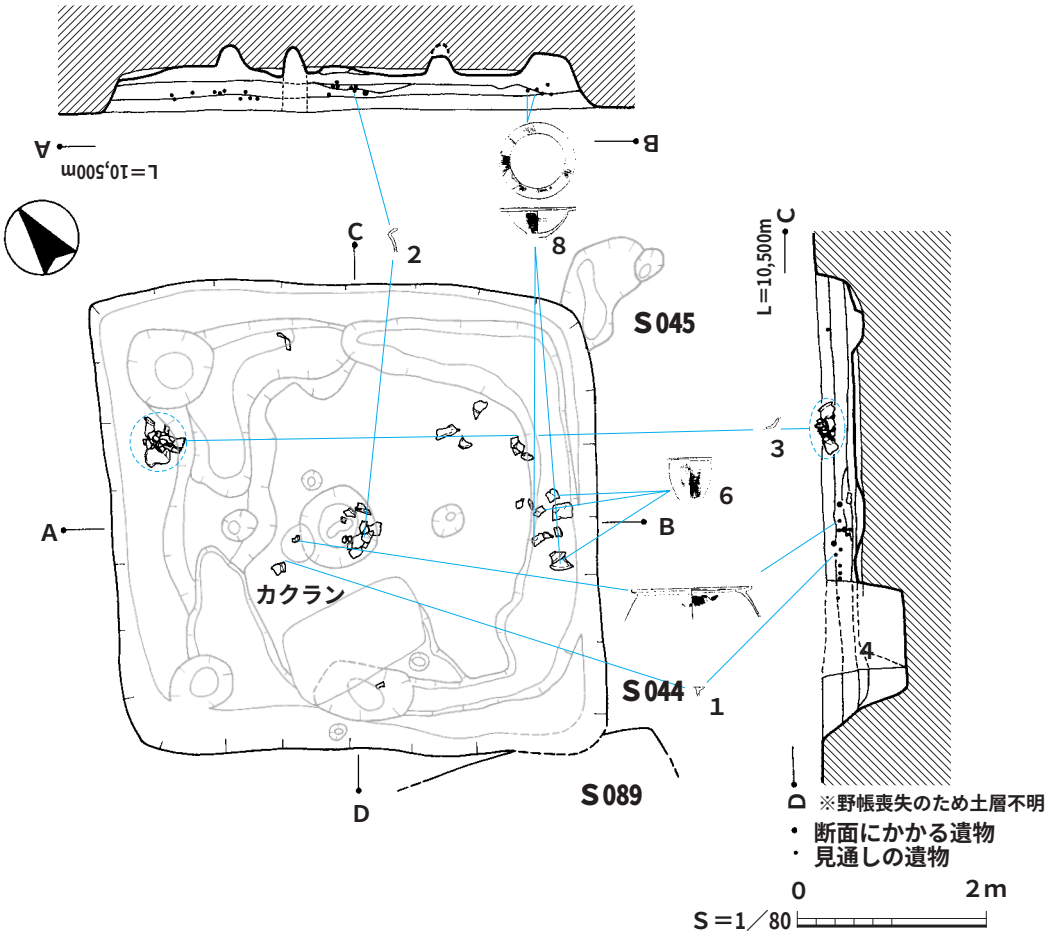
１、２は、甕形土器の口縁部である。１は、黒髪式土器の特徴を備えているが、２はやや後期の様相を示しつつある口縁形態である。いずれも点上げ遺物である。

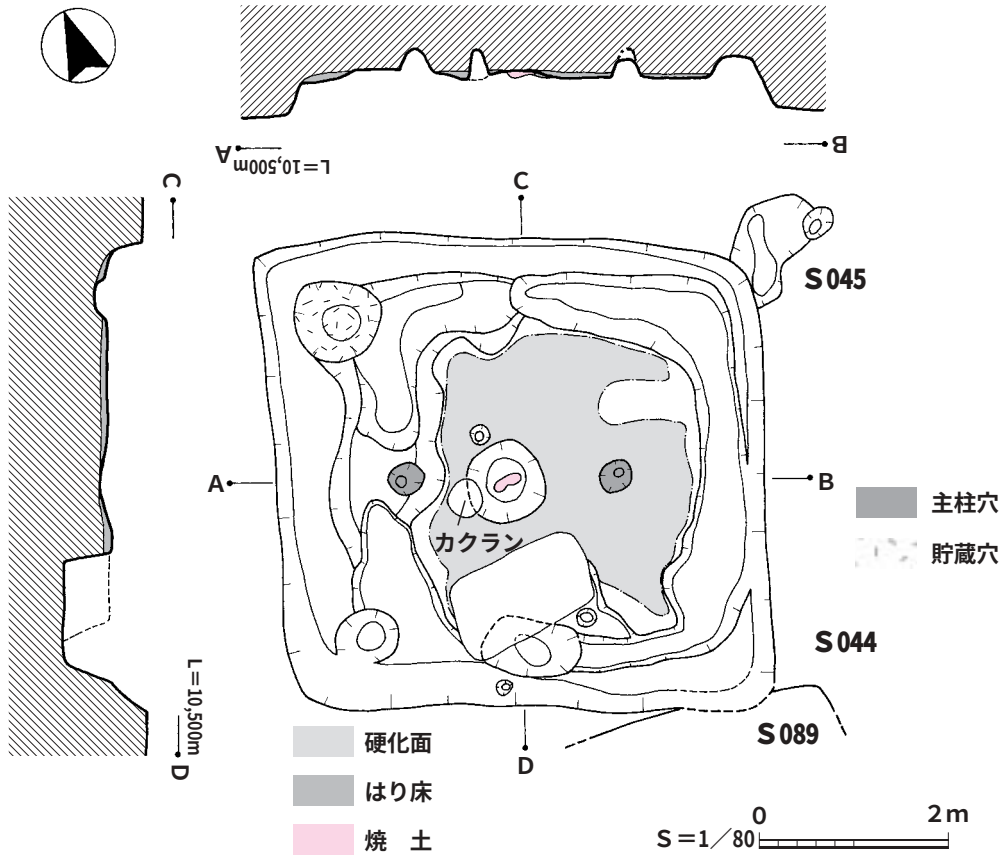
３は、壺形土器の底部である。底面に種子状の圧痕が観察されるが、詳細は不明である。点上げ遺物である。

４は、甕形土器の口縁部である。鋤先状の口縁で、立岩式土器の範疇で捉えられる甕棺であろう。点上げ遺物である。

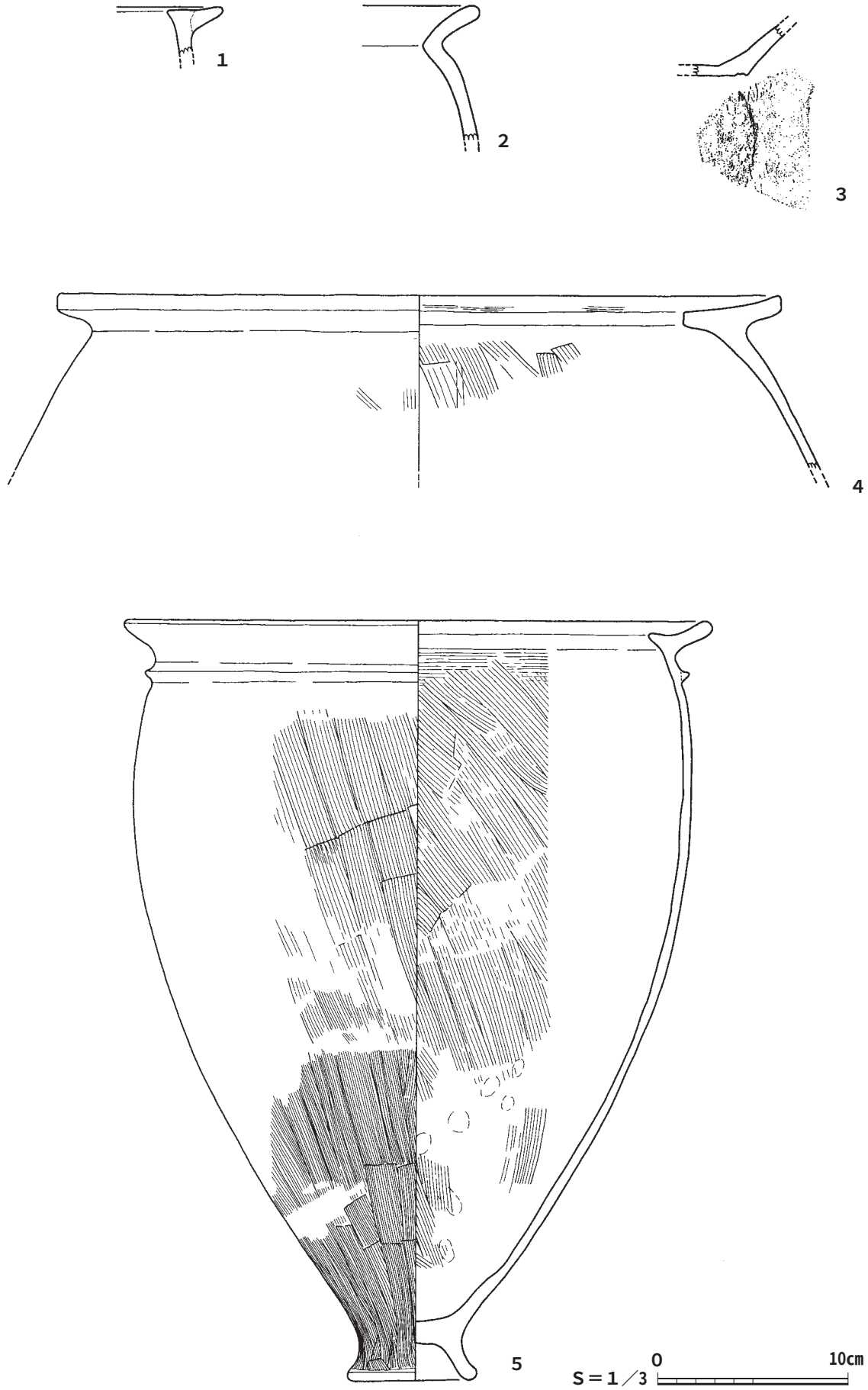
５、６、７は、甕形土器である。内外面には刷毛目が残る。５と７は１条の突帯を巡らせている。５は１、２層、ベルト、点上げ遺物の74点が接合している。６は、１、２層、ベルト、点上げ遺物の24点が接合している。７は１、２層、ベルト、点上げ遺物の99点が接合している。

８は、高杯の杯部である。外面にハケ目、内面に指頭圧痕、口縁部には暗文が見られる。口縁形態は黒髪式土器の特徴を備えている。断面の観察から円

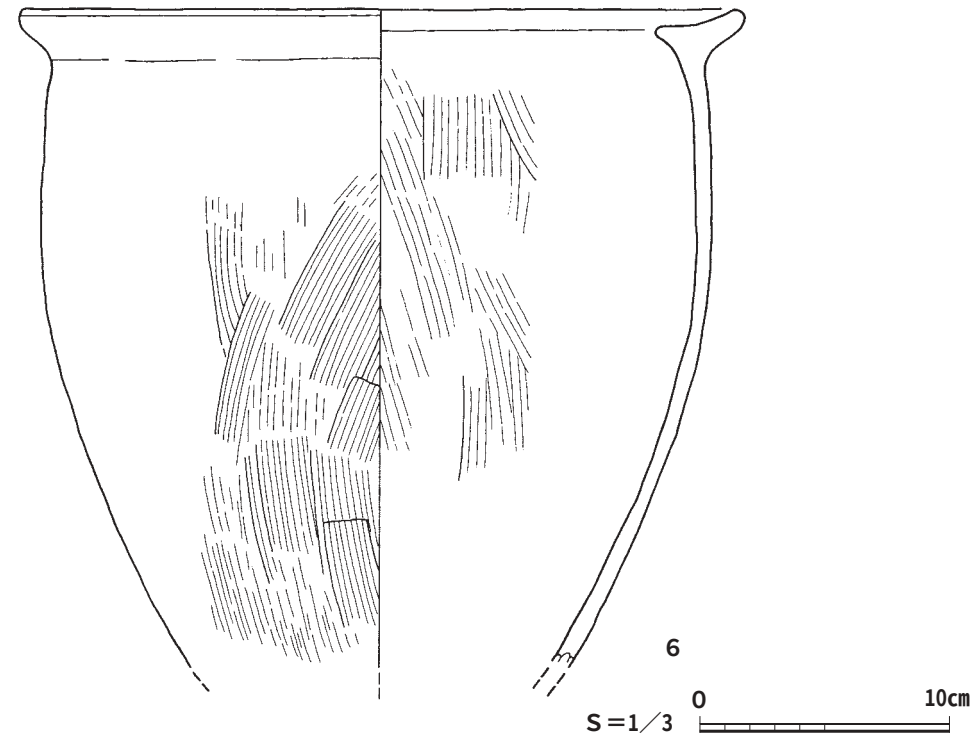


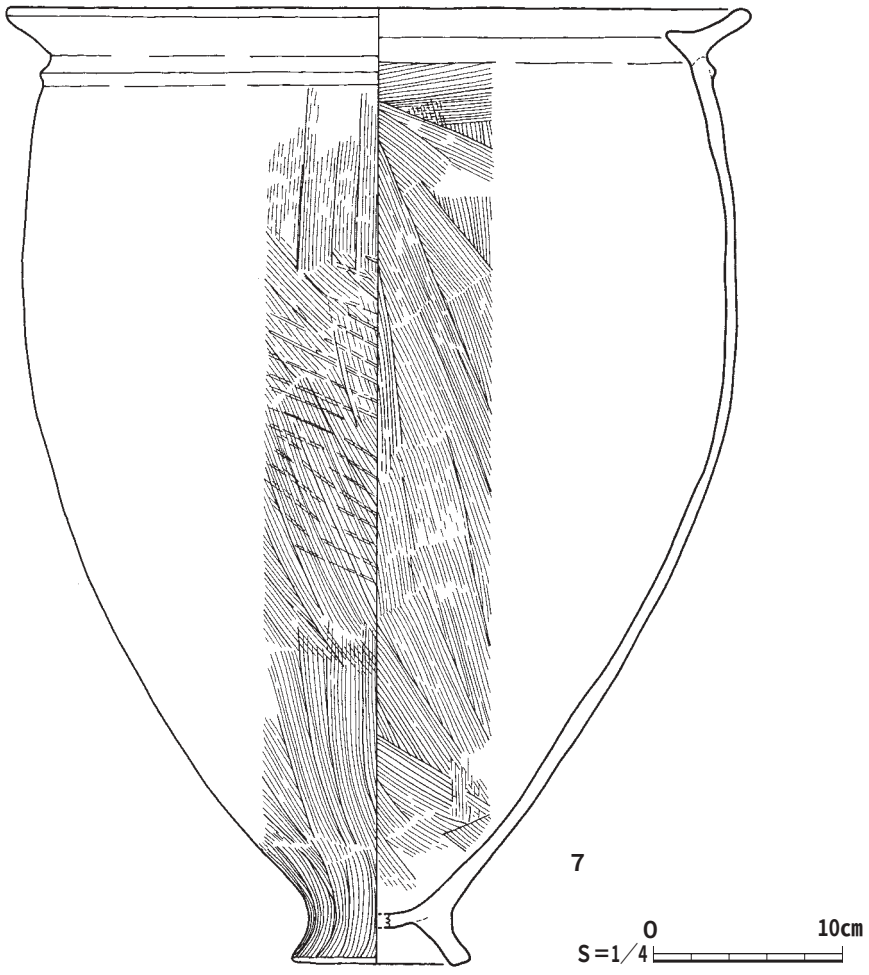


図(Fig)41　住居跡（S044）実測図

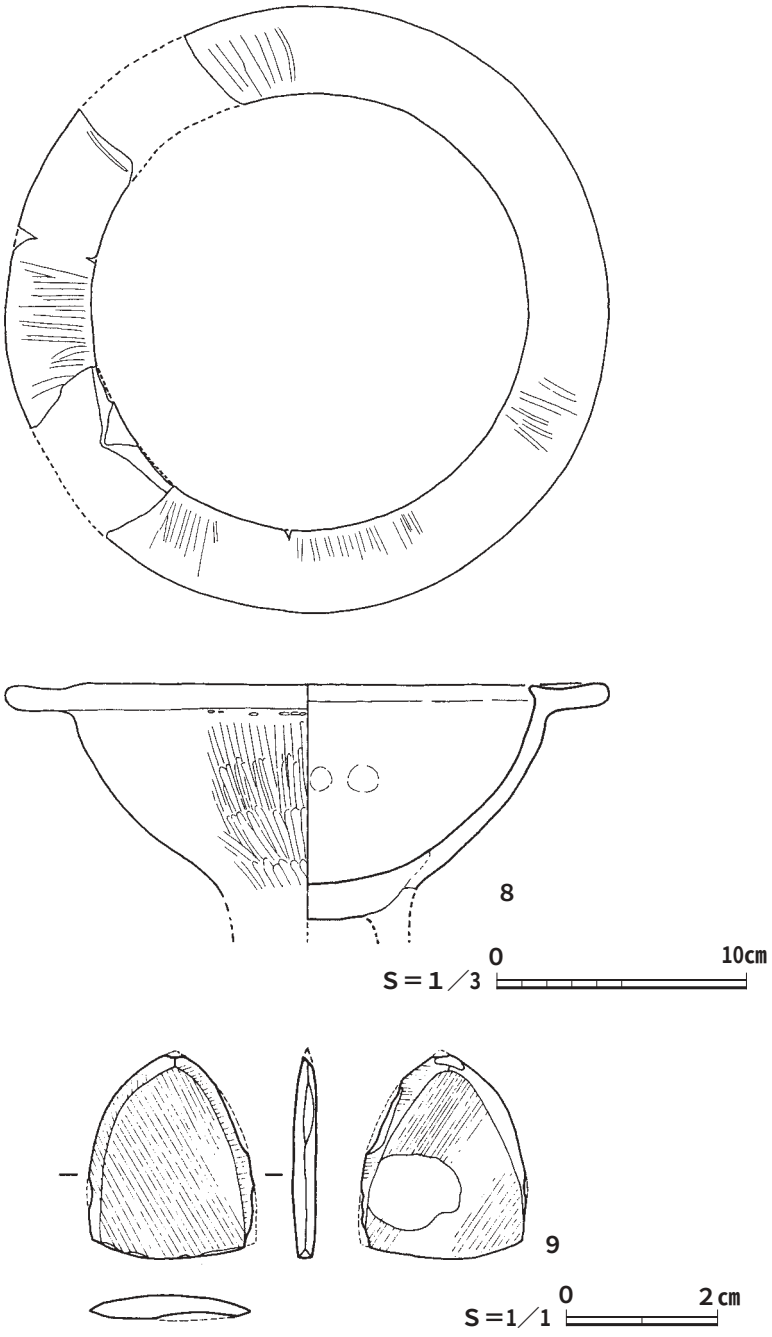


図(Fig)42　S044出土遺物実測図（1）





図(Fig)43　S044出土遺物実測図（２）



図(Fig)44　S044出土遺物実測図（３）

盤充填技法が窺える。１、２層、点上げ遺物の15点が接合している。

９は、粘板岩製の磨製石鏃である。先端部がやや欠損している。床面からの出土である。

【S054】（図45～47参照）

［確認位置］調査１区、Ｆ－７グリッド。

標高約10.28m。

［形状］方形

［大きさ］長軸：510㎝、短軸：340㎝、深さ：30～35㎝。

［住居内覆土］３層に分層。

［主柱穴］２本。径24～28㎝。深さ58～86㎝。

［炉］１つ有り。大きさ108×86㎝。深さ12～14㎝。

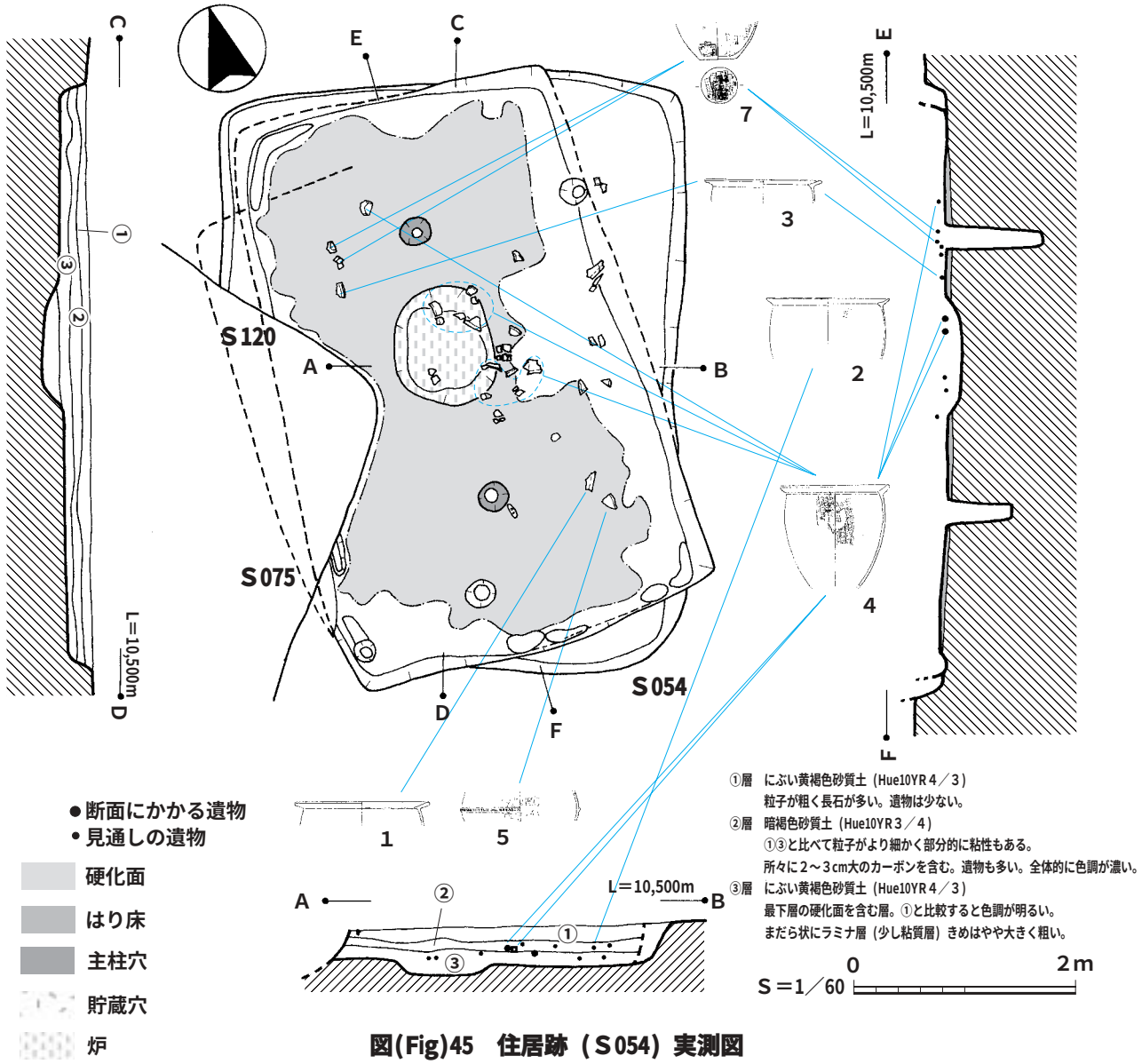
［貯蔵穴］不明。

［硬化面］有り。

［張り床］有り。

［切り合い関係］S089を切る。

［遺物の出土状況］床面からやや浮いた状態で出土。遺構廃絶後間もない遺物として捉えたい。



図(Fig)45　住居跡（S054）実測図

［出土遺物量］

S054から出土した遺物は、小グレーコンテナ(38㎝×58㎝×５㎝）に約６箱分で、総重量11,609gであった。内訳は、弥生土器11,380g（内丹塗り土器は229g）であった。

［出土遺物の観察］

土器の様相は、甕や壺の口縁部は、ほとんどが黒髪式土器の範疇で捉えられるものであったことから、弥生時代中期後半期の土器と判断した。

ここでは、７点の土器、２の石器を紹介する。

１～４は、甕形土器の口縁部である。いずれも口縁部が内側に細長く突起が伸び、外側にほぼ同じ厚さで細長く伸びるという黒髪式土器の特徴を備えている。１、３は点上げ遺物、２は点上げ遺物が８点接合、４は点上げ遺物、一括遺物、３層及び炉内出土遺物の27点が接合している。

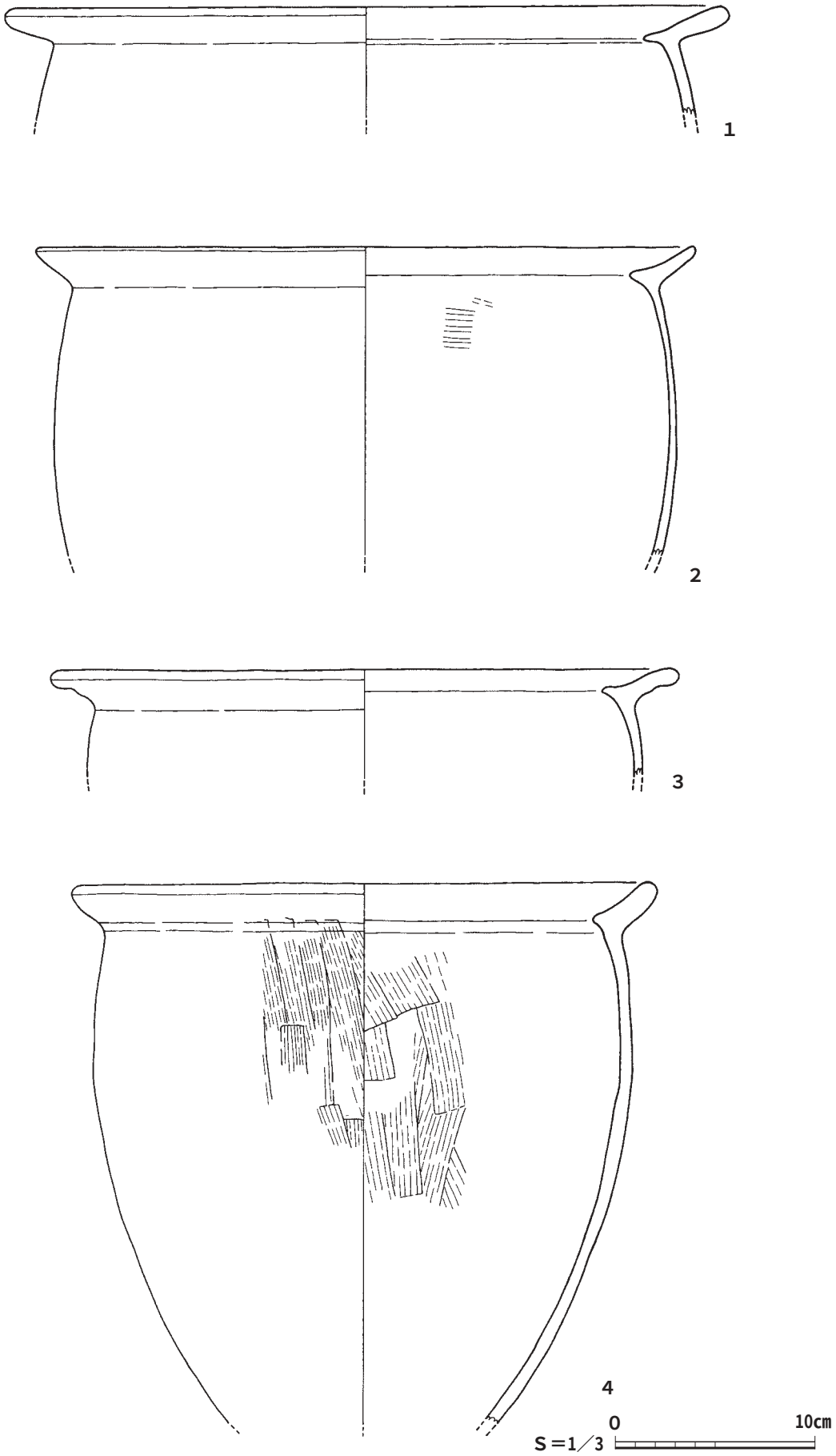
５は、壺形土器の胴部である。内外面にハケ目が残り、胴部の中央には、１条の刻み目突帯が巡る。点上げ遺物である。

６は、高杯の口縁部である。口舌部には１条の刻み目が巡る。一括遺物である。

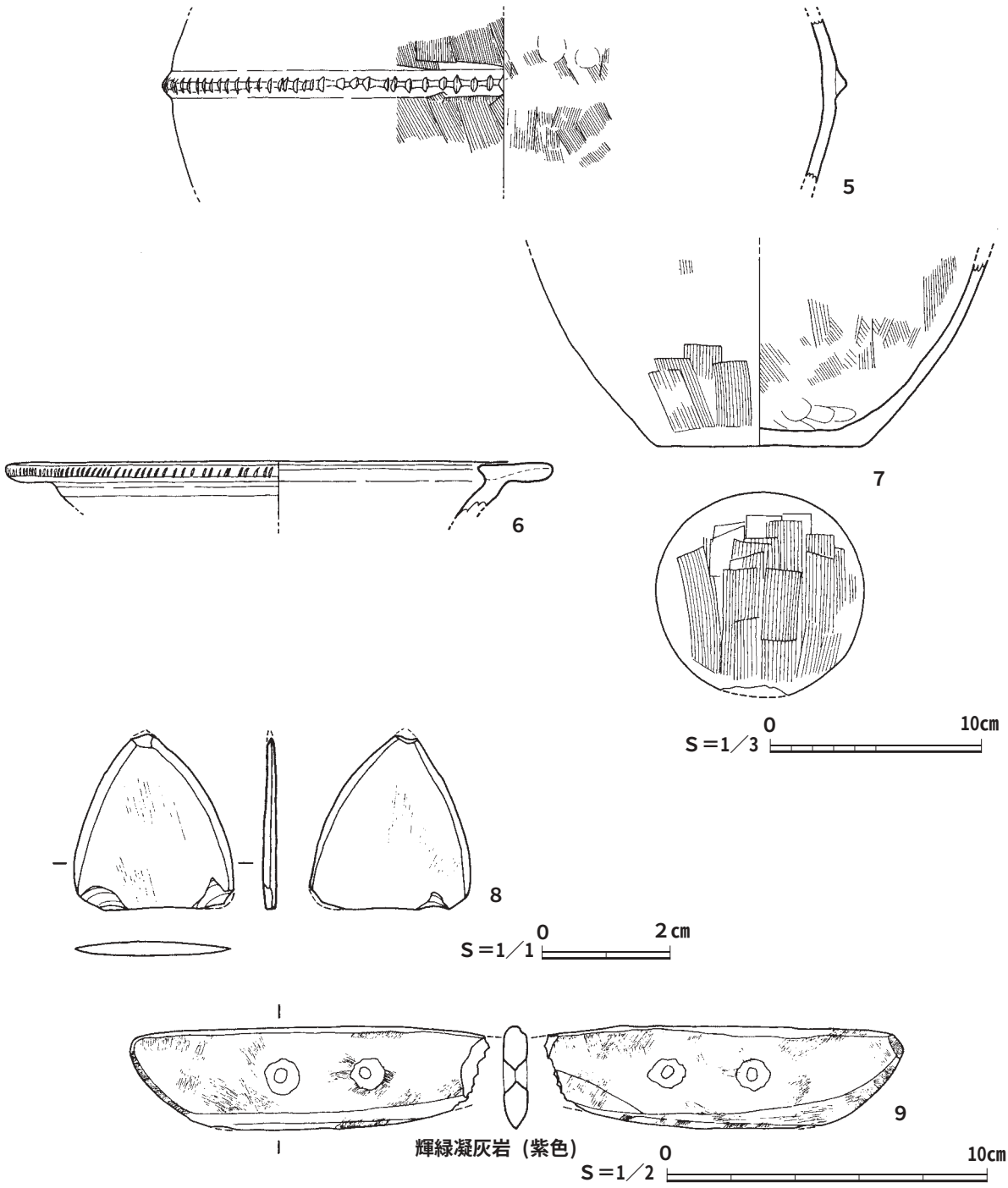
７は、壺形土器の底部と考えられる。内外面にハケ目が残っており、内部底面付近には指頭圧痕が見られる。点上げ遺物７点、一括遺物２点の計９点が接合している。

８は、緑泥変岩製の磨製石鏃である。先端部が欠損している。一括遺物である。

９は、輝緑凝灰岩製（紫色）の石包丁である。端



図(Fig)46　S054出土遺物実測図



図(Fig)47　S054出土遺物実測図

部が欠損している。おそらく、福岡県宮田町周辺で産出される輝緑凝灰岩製の立岩産石包丁の可能性が高いと考えられる。一括遺物である。

【S072】（図48～50参照）

［確認位置］調査１区、Ｄ－６グリッド。
標高約10.28m。

［形状］隅丸方形

［大きさ］長軸：220cm～、短軸：400cm、深さ：20～24cm。

［住居内覆土］１層のみ。

［主柱穴］不明。

［炉］不明。

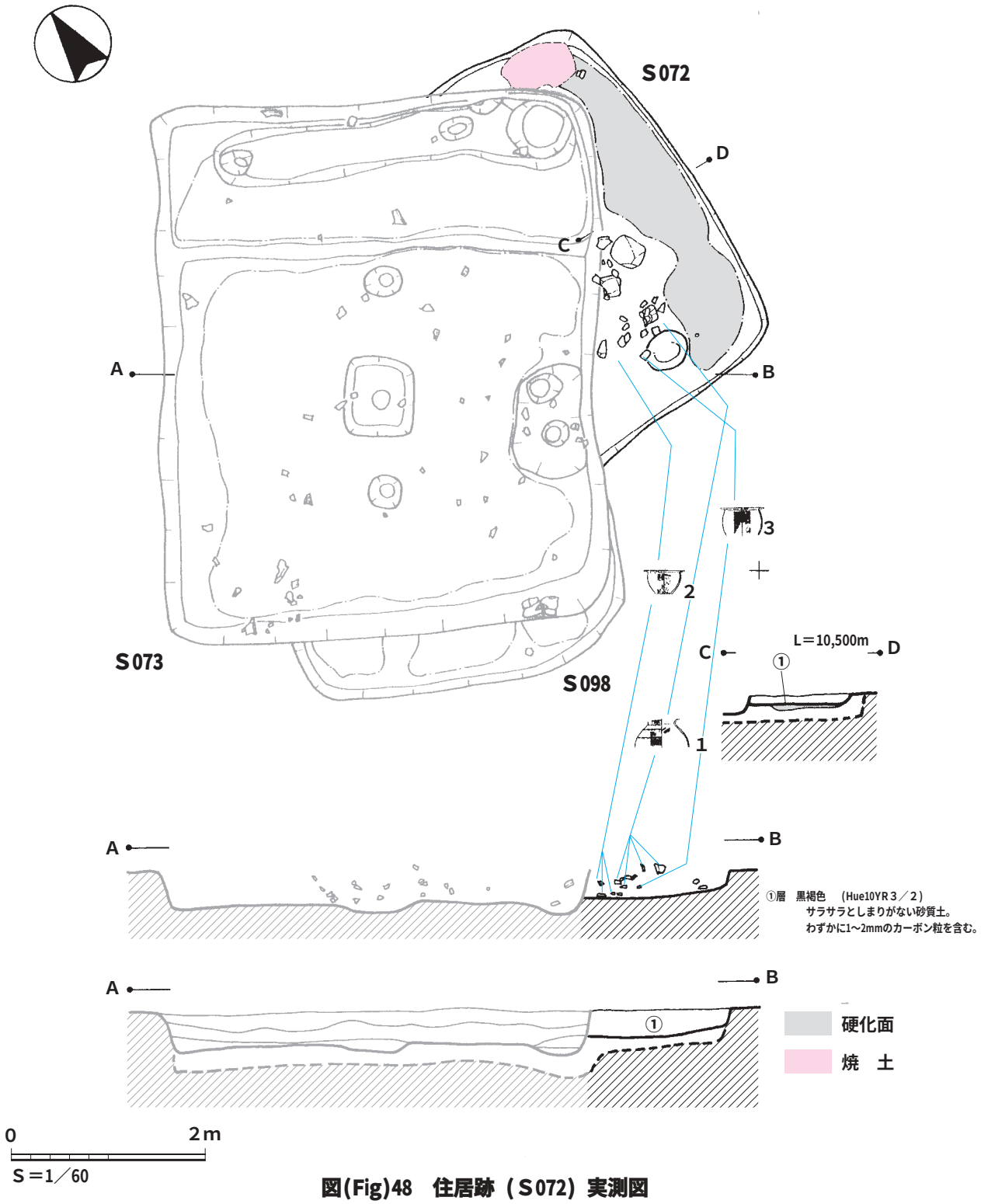
［貯蔵穴］不明。

［硬化面］有り。

［張り床］不明。

［切り合い関係］S073に切られる。

［遺物の出土状況］床面からやや浮いた状態で出土。遺構廃絶後間もない遺物として捉えたい。



図(Fig)48　住居跡（S072）実測図

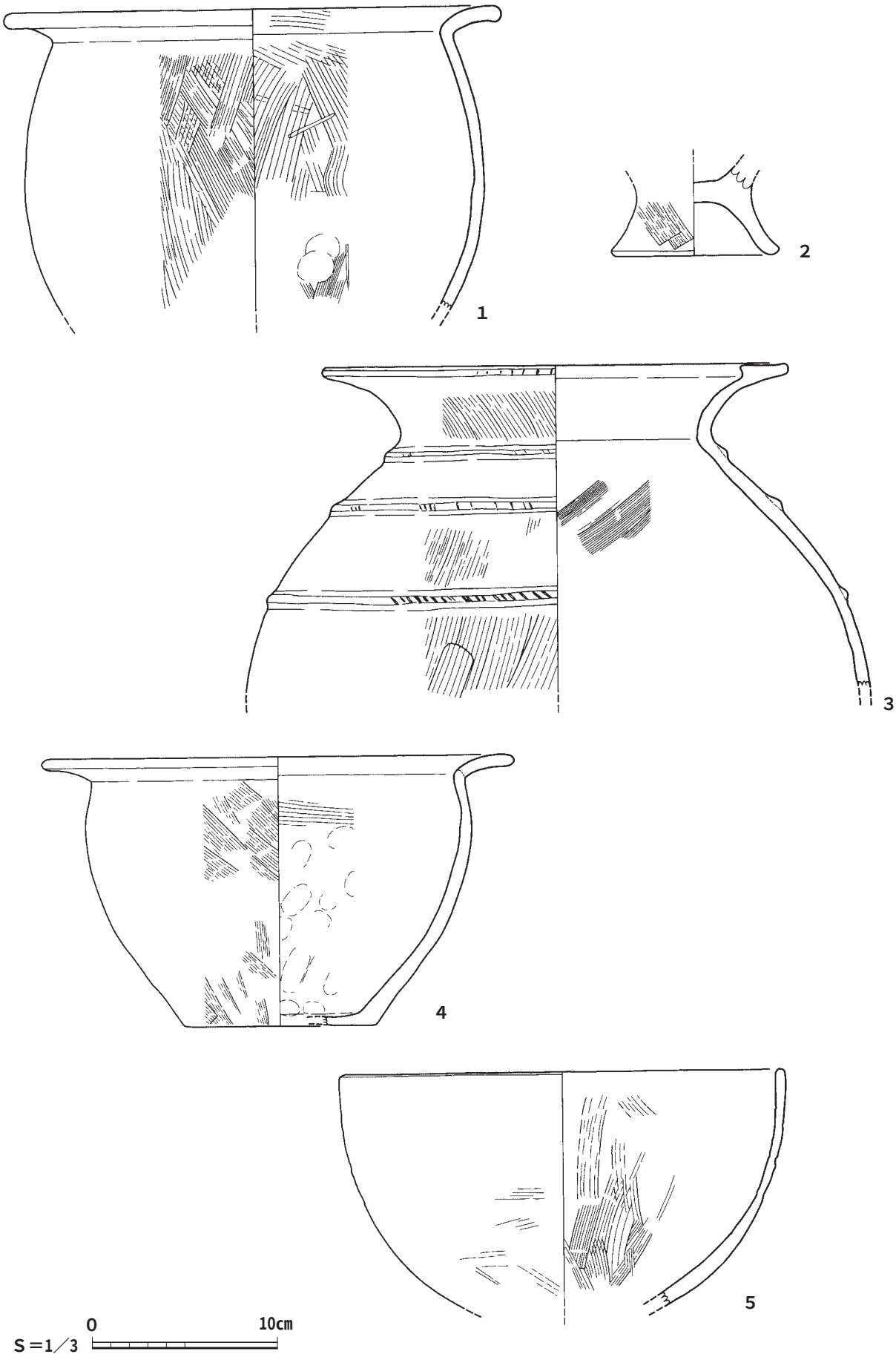
［出土遺物量］

S072から出土した遺物は、小グレーコンテナ（38cm×58cm×５cm）に約1.5箱分で、総重量3,095gであった。内訳は、縄文土器37g（１片）、弥生土器3,058g(内丹塗り土器は58g）であった。

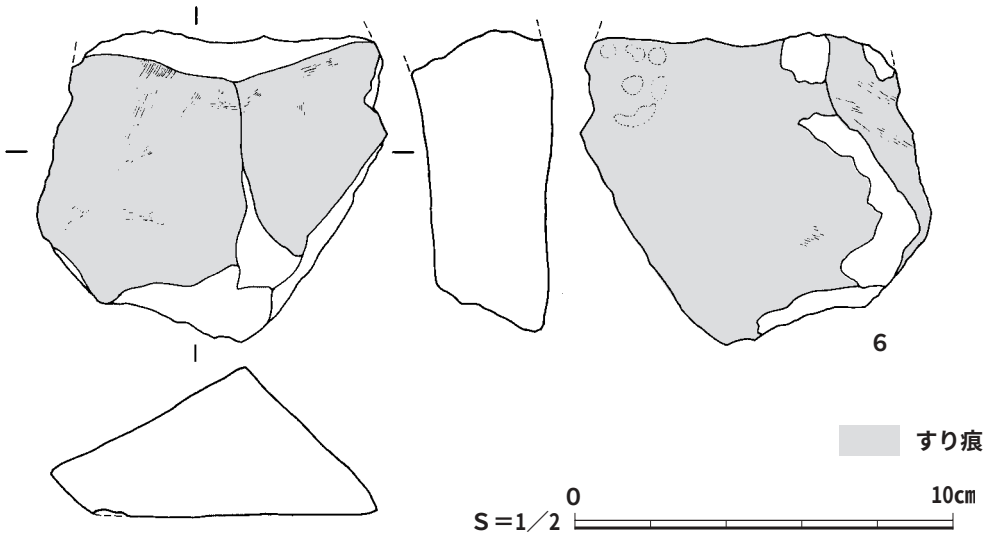
［出土遺物の観察］

土器の様相は、甕や壺の口縁部は、ほとんどが黒髪式土器の範疇で捉えられるものであったことから、弥生時代中期後半期の土器と判断した。

ここでは、５点の土器、１点の石器を紹介する。



図(Fig)49　S072出土遺物実測図（1）



図(Fig)50　S072出土遺物実測図（２）

１は、甕形土器の口縁部と胴部である。外面には、ハケ目が、内面にはハケ目後、ナデや指頭圧痕が見られる。内側への細長い突起がなくなりかけており、後期への移行期の土器として捉えることができようか。点上げ遺物である。

２は、甕形土器の脚台部である。点上げ遺物。

３は、壺形土器の口縁部と胴部上半部である。内外面にハケ目が残り、頸部から胴部にかけて、３条の刻み目突帯が巡る。口舌部には１条の刻み目が巡る。口縁部は、黒髪式土器の特徴を備えている。点上げ遺物18点が接合している。

４は、鉢形土器である。完形の約２／５が残存している。外面には、ハケ目が、内面にはハケ目後、ナデや指頭圧痕が見られる。１と同様に内側への細長い突起がなくなりかけており、後期への移行期の土器として捉えることができようか？点上げ遺物９点と１層出土遺物２点の計11点が接合している。

５は、高杯形土器の杯部と考えられる。内外面にハケ目が残る。一括遺物14点が接合している。

６は、砥石である。石材は流紋岩で、天草砥石と呼ばれるものである。一部欠損しているが、３面に研ぎ痕跡が見られる。点上げ遺物である。

【S076】（図51～54参照）

［確認位置］調査１区、H、Ｉ－８グリッド。

標高約10.4m。

［形状］隅丸方形

［大きさ］長軸：580㎝、短軸：485㎝、深さ：40㎝。

［住居内覆土］大別３層、細分５層のみ。

［主柱穴］２本。径32～43㎝。深さ40～46㎝。

［炉］１つ有り。大きさ93×100㎝で深さ約15㎝。

［貯蔵穴］１つ有り。大きさ83×130㎝で深さ約33㎝。

［硬化面］部分的に有り。

［張り床］部分的に有り。

［切り合い関係］S147を切ってS148に切られる。

［遺物の出土状況］床面張り付き及び床からやや浮いた状態で出土。遺構廃絶後間もない遺物として捉えたい。

［出土遺物量］

S076から出土した遺物は、小グレーコンテナ（38㎝×58㎝×５㎝）に約10箱分で、総重量53,396gであった。内訳は、縄文土器191g（10片）、弥生土器53,205g（内丹塗り土器は1,398g）であった。

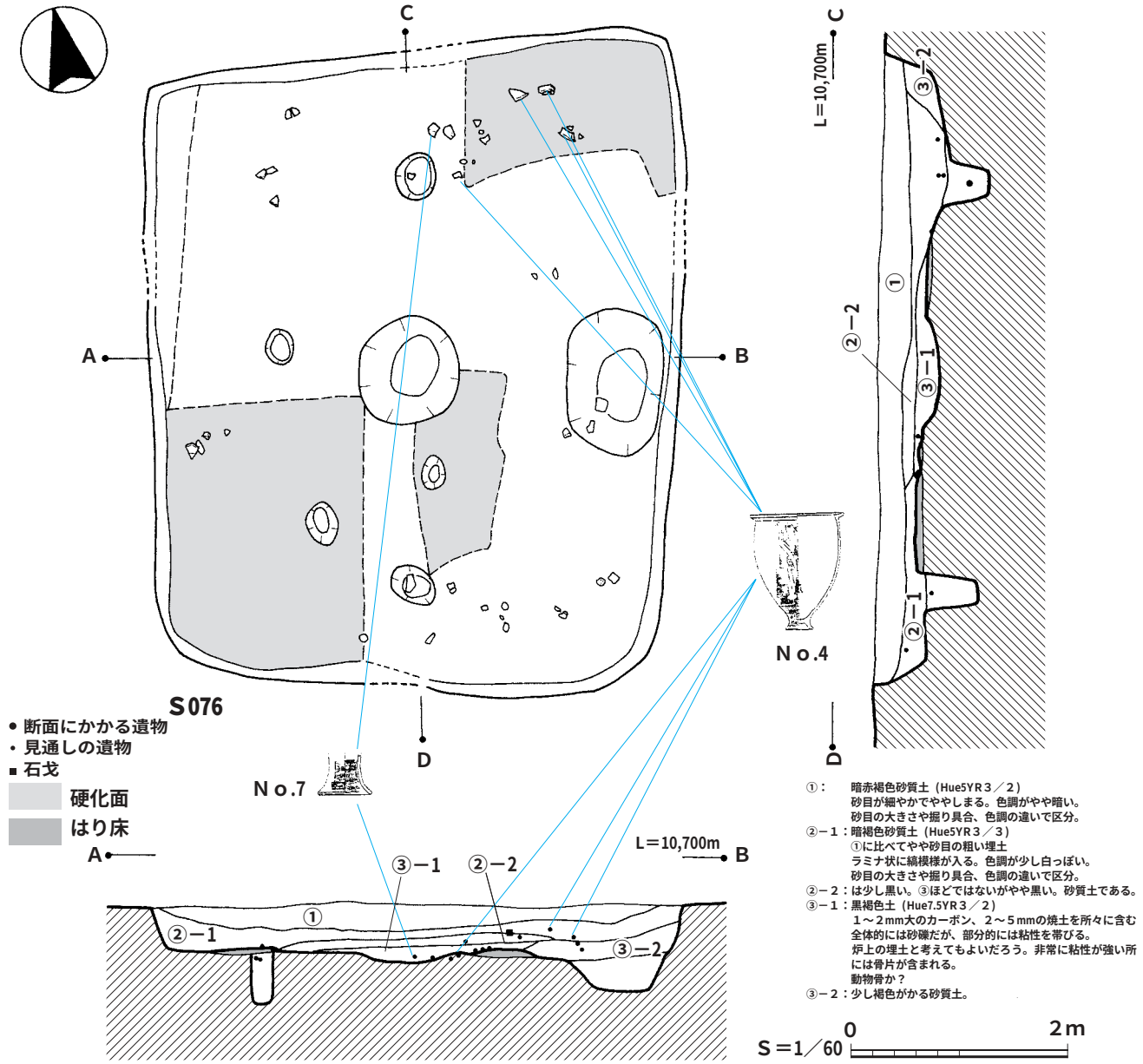
［出土遺物の観察］

土器の様相は、甕や壺の口縁部は、ほとんどが黒髪式土器の範疇で捉えられるものであったことから、弥生時代中期後半期の土器と判断した。

ここでは、８点の土器、７点の石器、２点土製品のを紹介する。

１は、壺形土器の口縁部である。口縁部は、黒髪式土器の特徴を備えている。ピット内から出土。

２、４は、甕形土器である。内外面には、ハケ目



図(Fig)51　住居跡（S076）実測図

が見られる。２は貯蔵穴から出土。３は貯蔵穴（４点)、点上げ（16点)、下層（３点)、２層（３点）から出土した遺物26点が接合している。

３は、小型の鉢である。内外面には、ハケ目が見られる。口縁部はかなり後期に近い様相が窺える。内側への細長い突起がなくなりかけており、後期への移行期の土器として捉えることができようか。貯蔵穴と２層ベルトから出土した遺物が接合している。

５は、小型無頸壺の蓋である。外面はミガキ、内面に指頭圧痕が残る。丹塗りは両面に及んでいる。須玖Ⅱ式土器で、２層ベルトからの出土である。

６は、甕形土器の脚台部である。外面にハケ目、内面に指頭圧痕と指ナデ痕が残る。貯蔵穴からの出土である。

７は、器台の胴部下半部である。内外面にハケ目が残る。点上げ遺物２点が接合している。

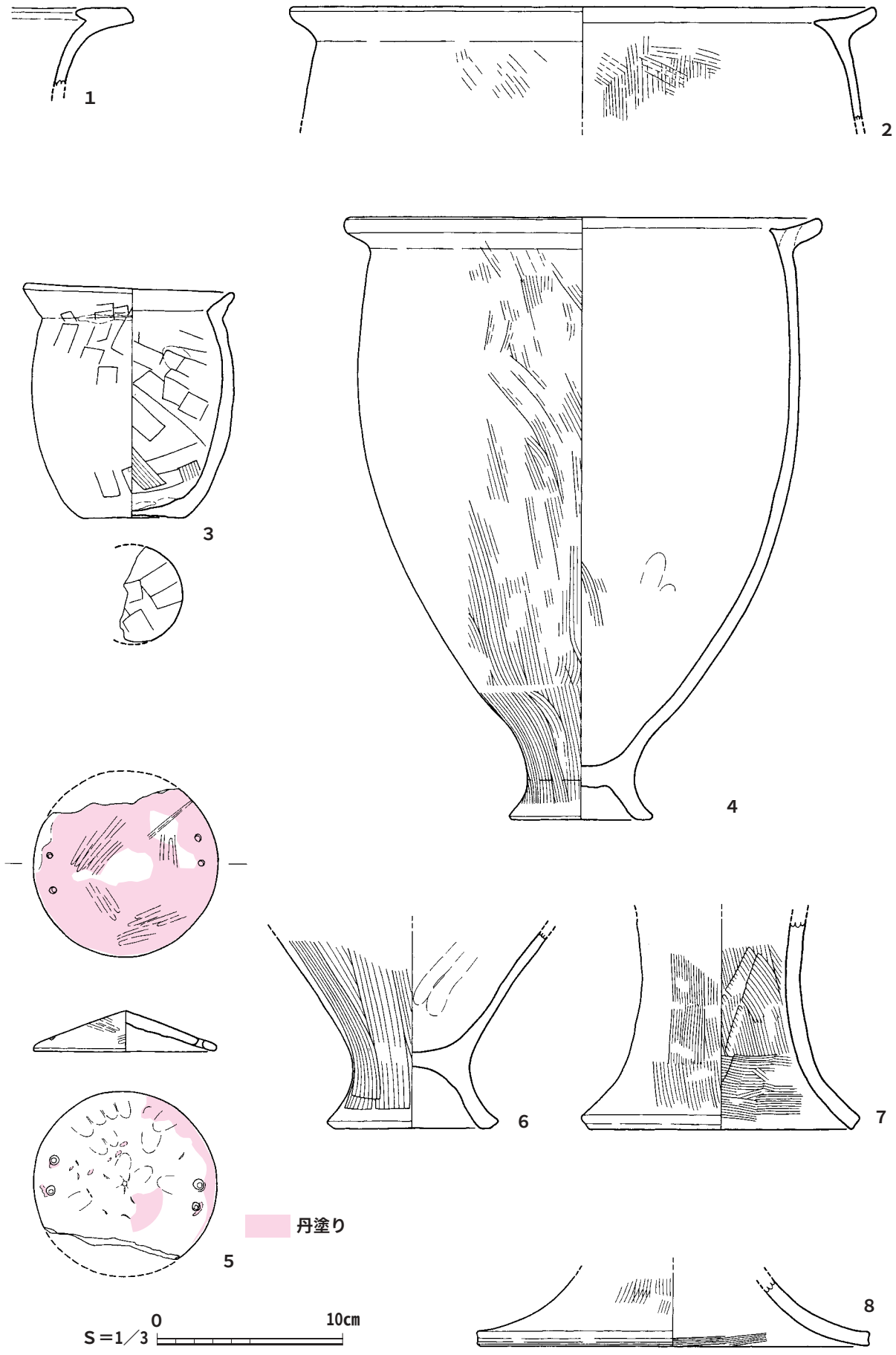
８は、高杯形土器の脚部である。内面にハケ目が残る。貯蔵穴から出土した３点が接合。

９は、磨製石鏃である。石材は蛇紋岩である。

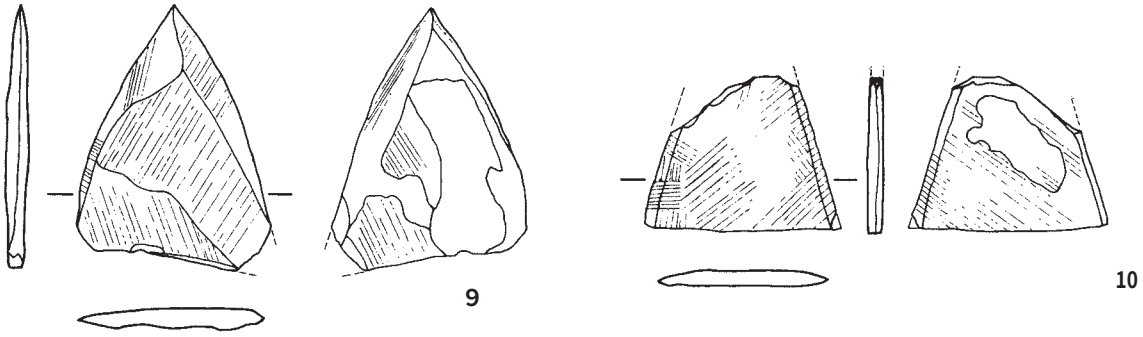
10は、磨製石器である。石材は粘板岩である。

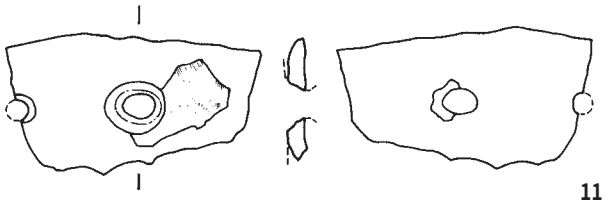
11は、石包丁の破片である。磨り痕跡及び穿孔穴がわずかに残る程度で、表裏面が剥落している。石材は粘板岩である。１層からの出土である。

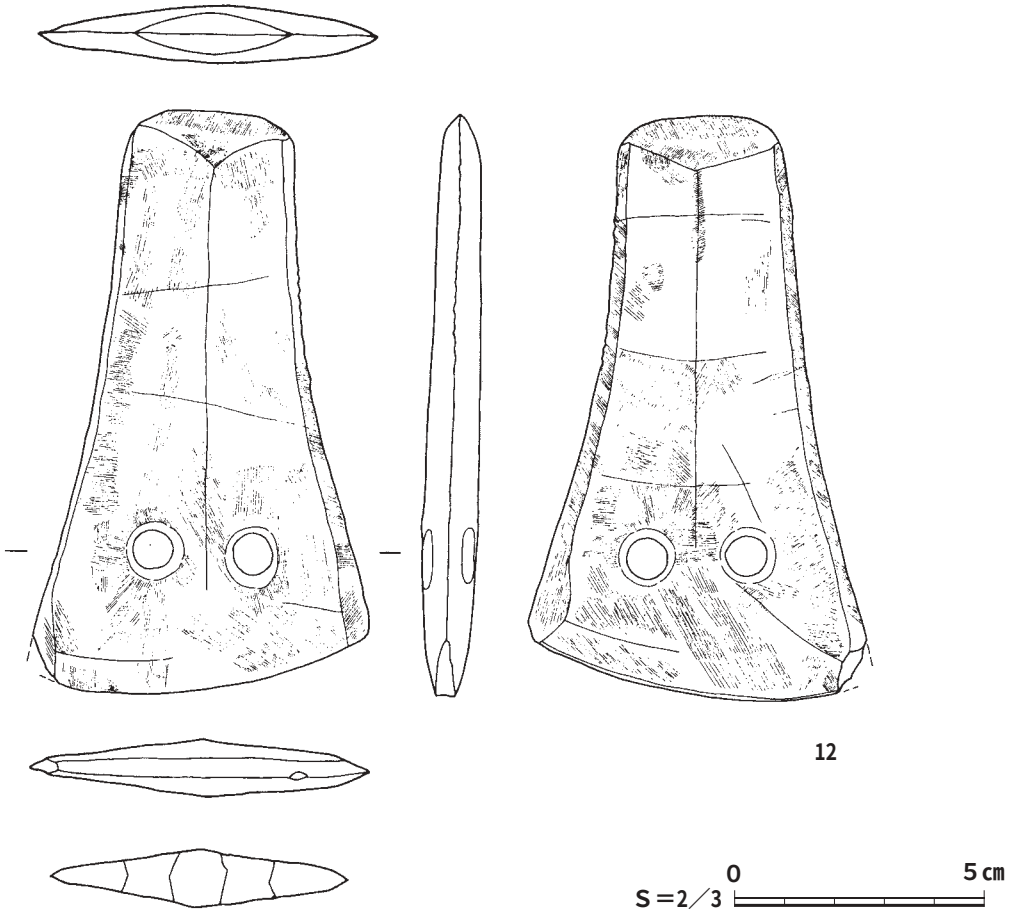
12は、石戈の転用品と考えられる。先端部と基部



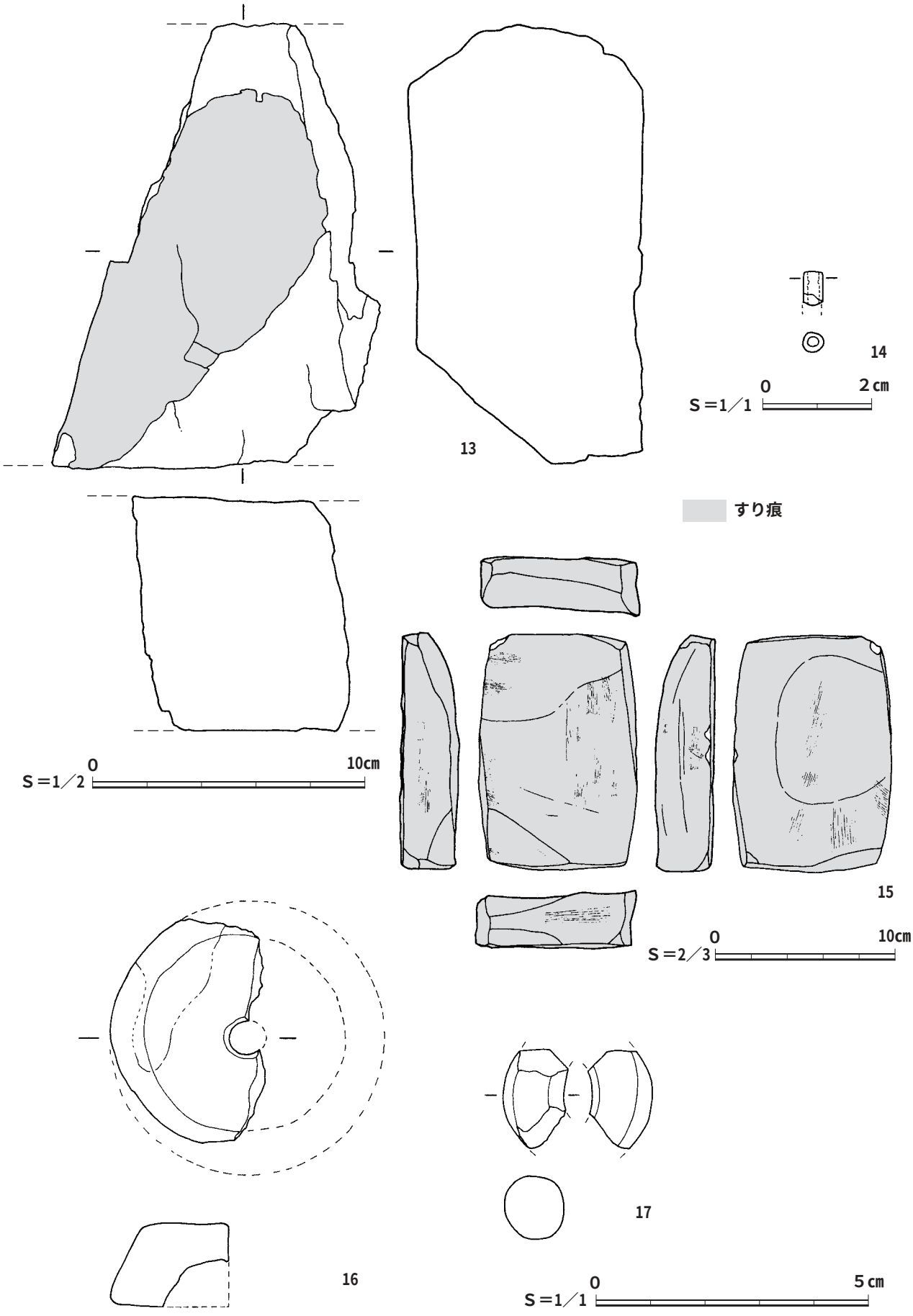
図(Fig)52　S076出土遺物実測図（１）



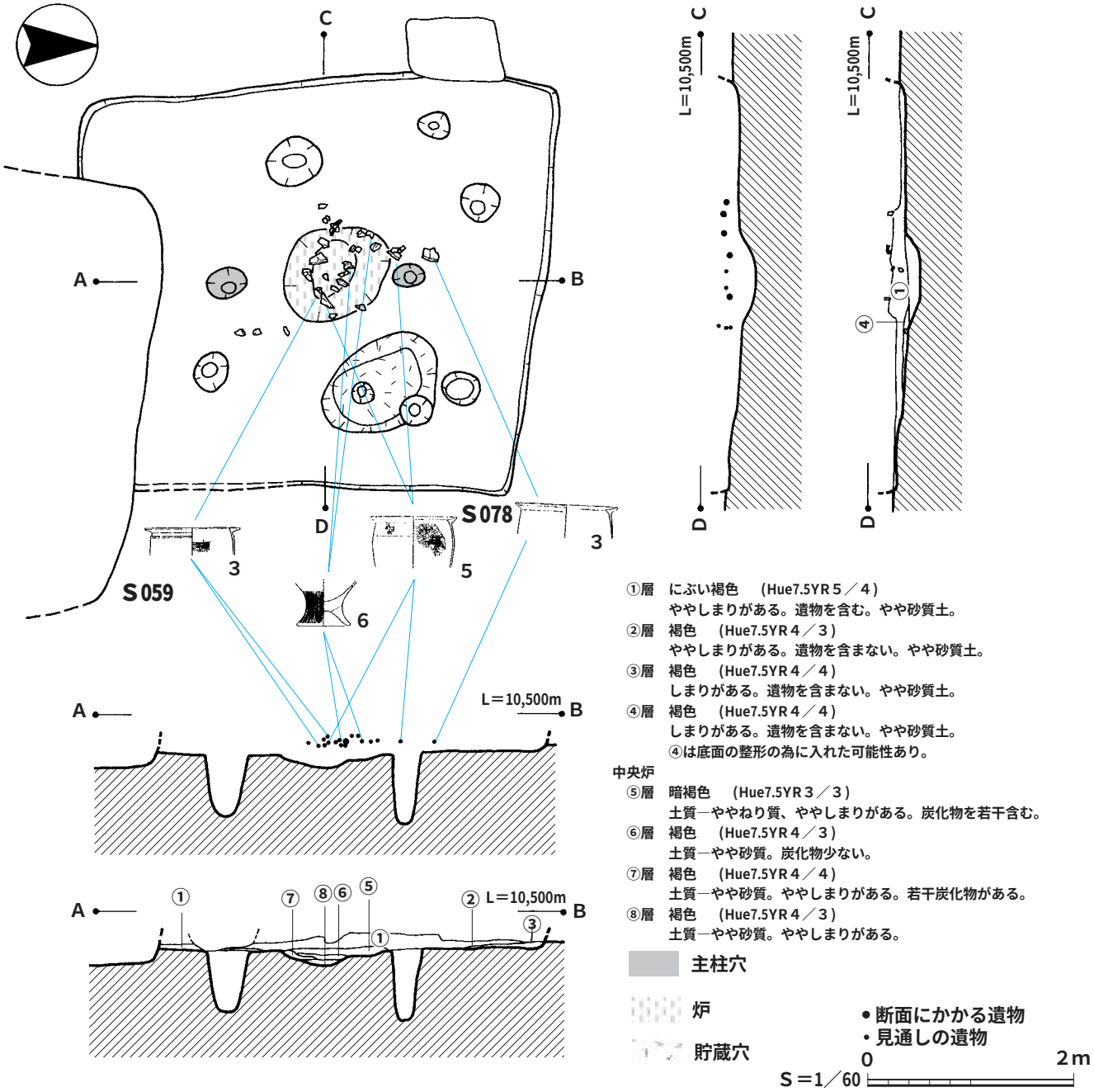




図(Fig)53　S076出土遺物実測図（２）



図(Fig)54　S076出土遺物実測図



図(Fig)55　住居跡（S078）実測図

が欠損したために、研ぎ直したものであろう。表裏面に２～３本の区画線がみられる。使用用途は不明である。２層から出土。

13は、石皿片である。欠損しており、磨り面は１面のみに観察される。石材は、花崗岩と考えられる。

14は、碧玉製の管玉である。１層の住居覆土を水洗中に確認した。下部が欠損しているが、両側から穿孔した痕跡が窺える。

15は、流紋岩（いわゆる天草砥石）の砥石である。６面全面に研ぎ痕跡が残っており、厚さからみてもかなり使い込まれている。上層一括の遺物である。

16は、土製の紡錘車である。約２／３が欠損しているが中央の穴の径は６㎜である。点上げ遺物である。

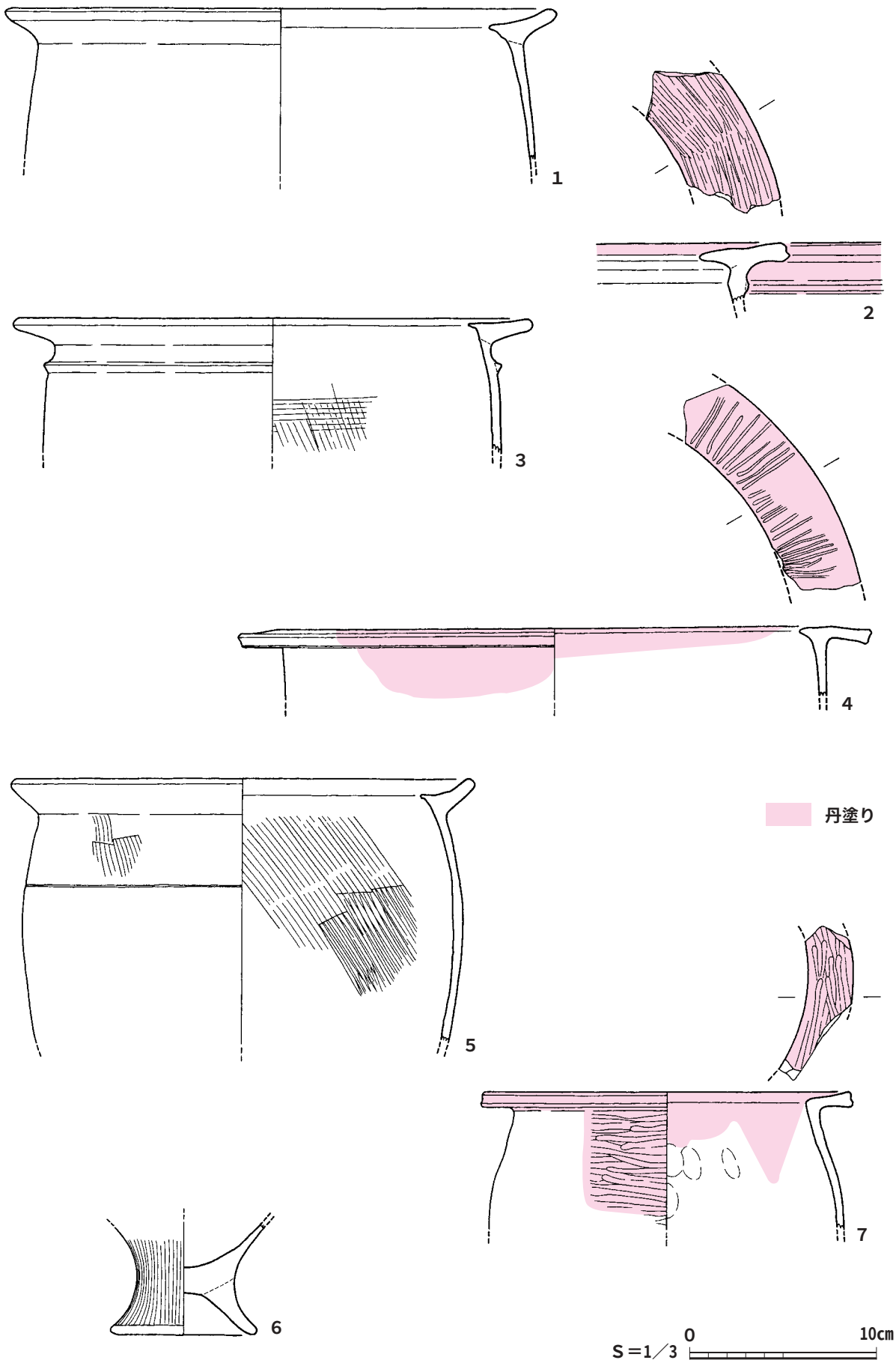
17は、土製勾玉である。上下が欠損している。点上げ遺物である。

【S078】（図55、56参照）

［確認位置］調査１区、Ｆ、Ｇ－７グリッド。

標高約10.26m。

［形状］方形



図(Fig)56　S078出土遺物実測図

［大きさ］長軸：455㎝、短軸：390㎝、深さ：15㎝。
［住居内覆土］細分８層。
［主柱穴］２本。径30～40。深さ63～66㎝。
［炉］大きさ85×100㎝で深さ約15㎝。
［貯蔵穴］大きさ83×130㎝で深さ約33㎝。
［硬化面］無し。
［張り床］無し。
［切り合い関係］S119、54、75に切られる。
［特記事項］貯蔵穴は壁から少し離れた場所にある。
［遺物の出土状況］床面張り付き及び床からやや浮いた状態で出土。遺構廃絶後の遺物として捉えたい。
［出土遺物量］

S078から出土した遺物は、小グレーコンテナ(38㎝×58㎝×５㎝）に約２箱分で、総重量5,681gであった。内訳は、縄文土器236g（７片)、弥生土器5,445g（内丹塗り土器は266g）であった。

［出土遺物の観察］

土器の様相は、甕や壺の口縁部は、全てが黒髪式土器の範疇で捉えられるものであったことから、弥生時代中期後半期の土器と判断した。

ここでは、７点の土器を紹介する。

１、３、５は、甕形土器の口縁部及び胴部上半部である。３は、１条の突帯、５は沈線が巡る。いずれもいずれも口縁部が内側に細長く突起が伸び、外側にほぼ同じ厚さで細長く伸びるという黒髪式土器の特徴を備えている。１、３、５いずれも点上げ遺物である。

２、４、７は、丹塗りの甕形土器の口縁部である。いずれも口縁部が鋤先状になり、端部の真中がややくぼんでM字状を呈しており、須玖Ⅱ式土器といえよう。外面には、ミガキが見られ、特に４には暗文が見られる。いずれも上層から出土している。S078の遺物全体が、やや浮いた状態での出土であることから、点上げ遺物も上層遺物も同時期と考えれば、住居廃絶後に混在して破棄されたと考えることができよう。

６は、甕形土器の底部である。外面にはハケ目が残る。点上げ遺物２点が接合している。

【S081】（図57～59参照）

［確認位置］調査１区、Ｊ－９グリッド。
標高約10.26m。
［形状］方形
［大きさ］長軸：450㎝、短軸：230㎝～、深さ：40㎝。
［住居内覆土］大別２層。
［主柱穴］１本しか確認できないが。径40×50㎝。深さ40㎝。
［炉］大きさ65×95㎝で深さ約25㎝。
［貯蔵穴］大きさ65×90㎝で深さ約55㎝。
［硬化面］有り。
［張り床］不明。
［切り合い関係］S114、144、145を切る。
［特記事項］

・炉の近くに土抗がある。

・土器は中期ばかりではなく、後期の様相を持つ土器も混在しているが全体的な様相と住居形態から弥生時代中期後半期の可能性が高いと判断した。この住居は、最近まで使用されていた用水路により切られていることを考えると何らかの理由で混在した可能性も考えられる。

［遺物の出土状況］床面張り付き及び床からやや浮いた状態で出土。遺構廃絶後の間もない遺物として捉えたい。
［出土遺物量］

S081から出土した遺物は、小グレーコンテナ(38㎝×58㎝×５㎝）に約10箱分で、総重量20,157gであった。内訳は、縄文土器40g（３片)、弥生土器20,157g（内丹塗り土器は955g）であった。

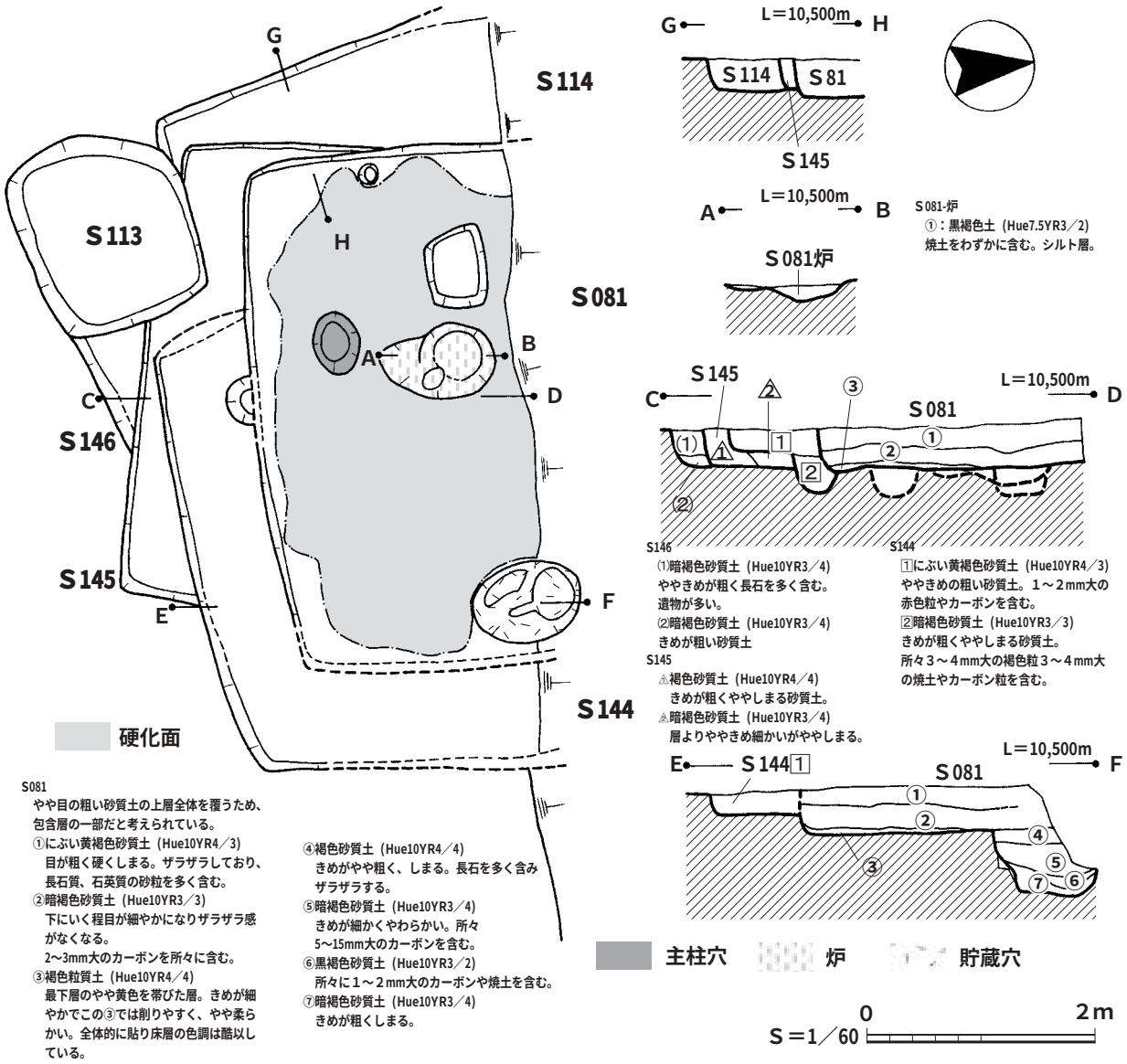
[出土遺物の観察]

土器の様相は、甕や壺の口縁部は、後期の様相を持つものと中期の形態が混在していたが、大方が黒髪式土器の範疇で捉えられるものであったことから、弥生時代中期後半期の土器が中心と判断した。

ここでは、９点の土器と１点の管玉と２点の石器を紹介する。

１、２、５、６は、甕形土器の口縁部である。いずれも黒髪式土器の特徴を備えている。１は１層、２、５、６は２層からの出土である。

３、４も甕形土器の口縁部であるが、内側への戸突起がなくなり、ややくの字形に外反してきている



図(Fig)57　住居跡（S081・S114・S144・S145・S146）実測図

ことから後期の様相を呈している。３は１層、４は２層からの出土である。

７は、壺形土器の口縁部である。黒髪式土器の特徴を備えており、２層から出土している。

８は、完形のミニチュア土器である。点上げの遺物であり、床面から出土しており、この住居廃絶時に伴う遺物であると考えられる。

９は、鉢形土器である。２片が接合しており、反転復元を試みた。内外面共にハケ目が残る。遺構一括遺物である。

10は、碧玉製の管玉である。覆土１層の水洗で出土した。径３～3.5㎜、長さ９㎜である。

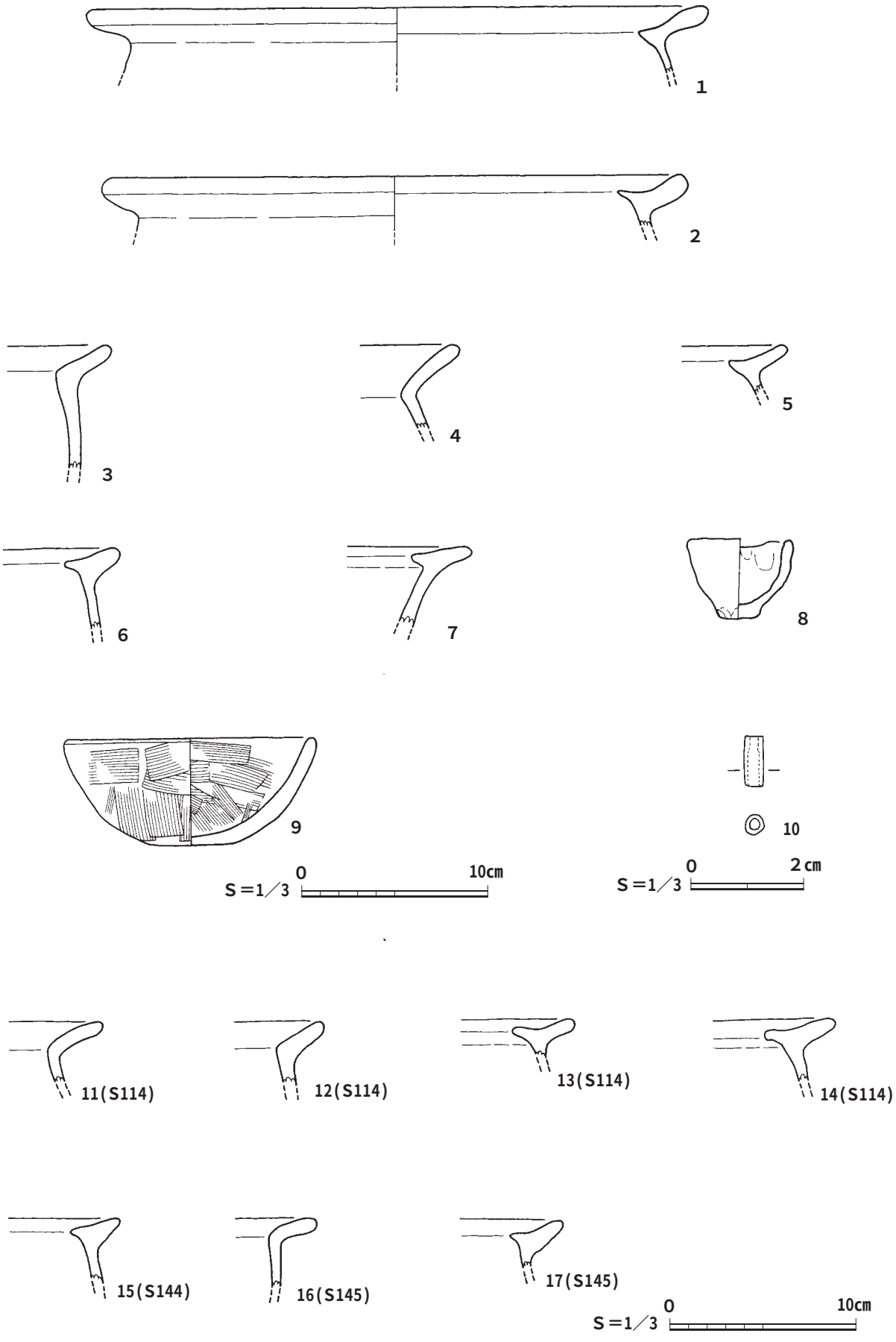
18は、棒状の敲石である。石材は、安山岩質であると考えられる。上下側面に敲打痕が見られる。形状は民俗例で挙げられるトチを割るための石器に酷似する。堅果類の加工具に利用されたものかもしれない。１層出土遺物である。

19は、棒状の敲石である。石材は、安山岩質であると考えられる。上下側面に敲打痕、下側面には磨り痕が見られる。形状は民俗例で挙げられるトチを割るための石器に酷似する。堅果類の加工具に利用されたものかもしれない。１層出土遺物である。

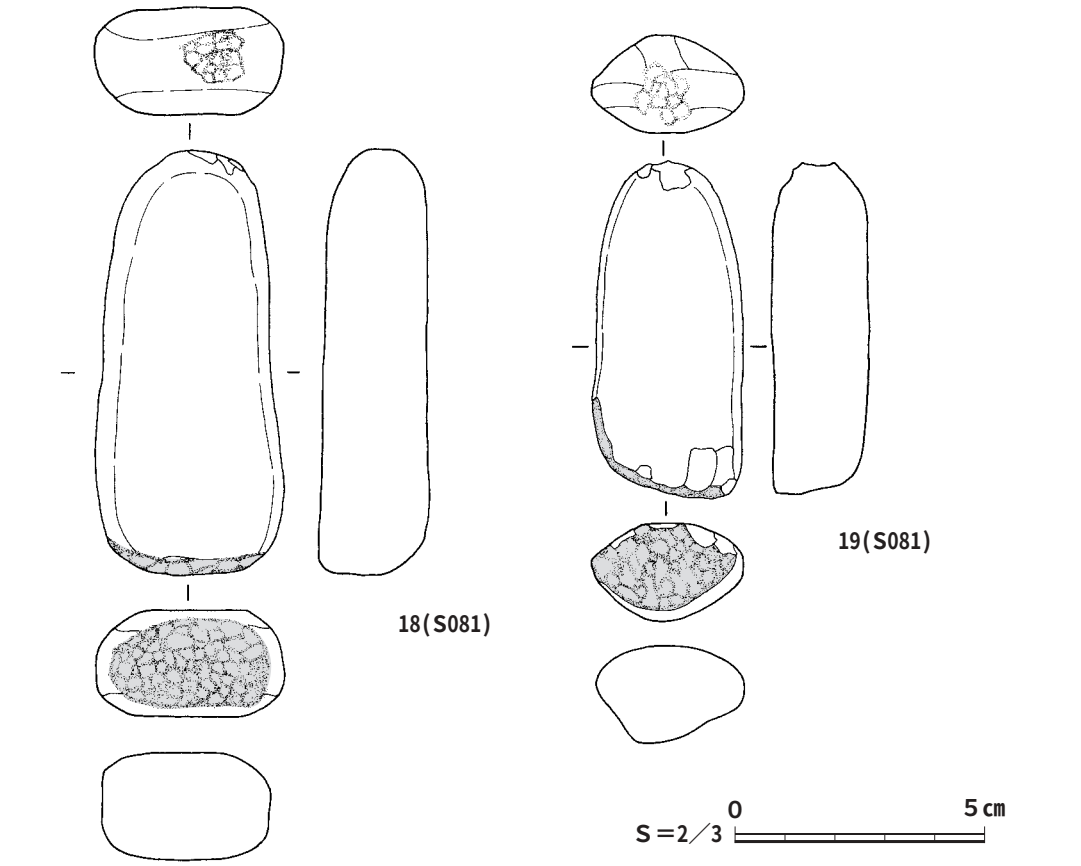
【S114】（図57、58参照）

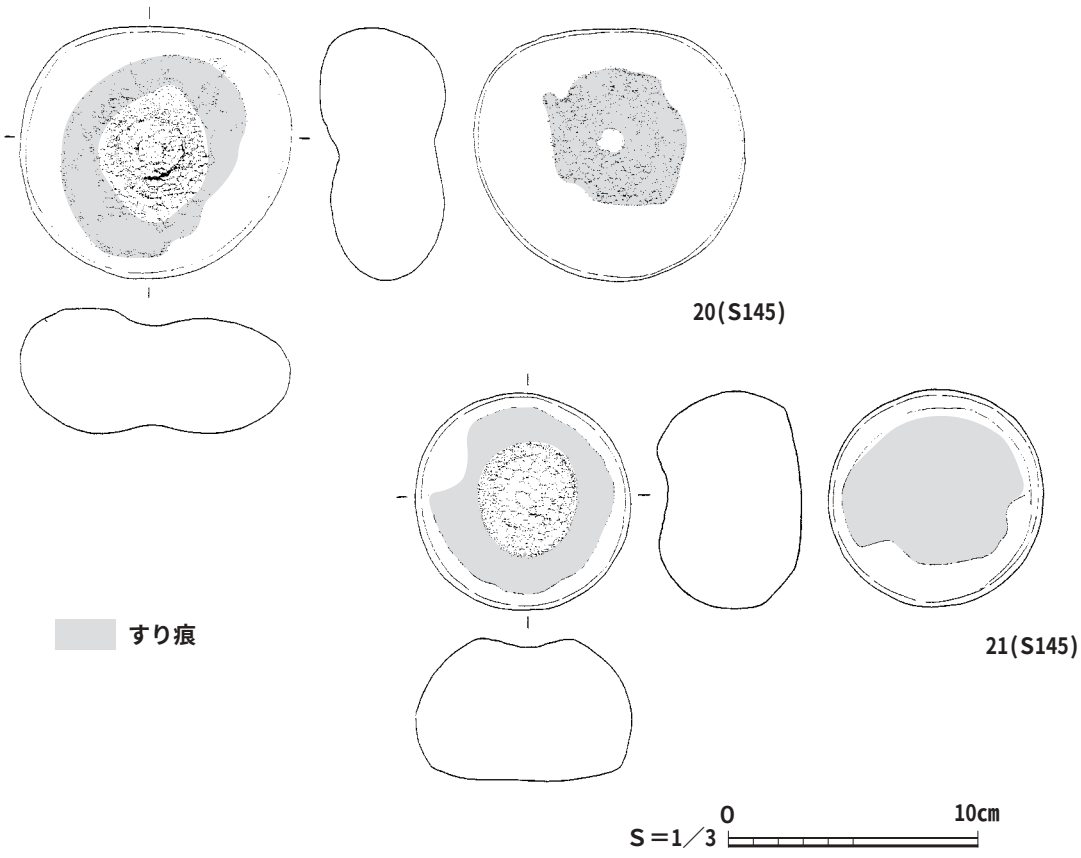
［確認位置］調査１区、Ⅰ、Ｊ－８、９グリッド。

標高約10.26m。



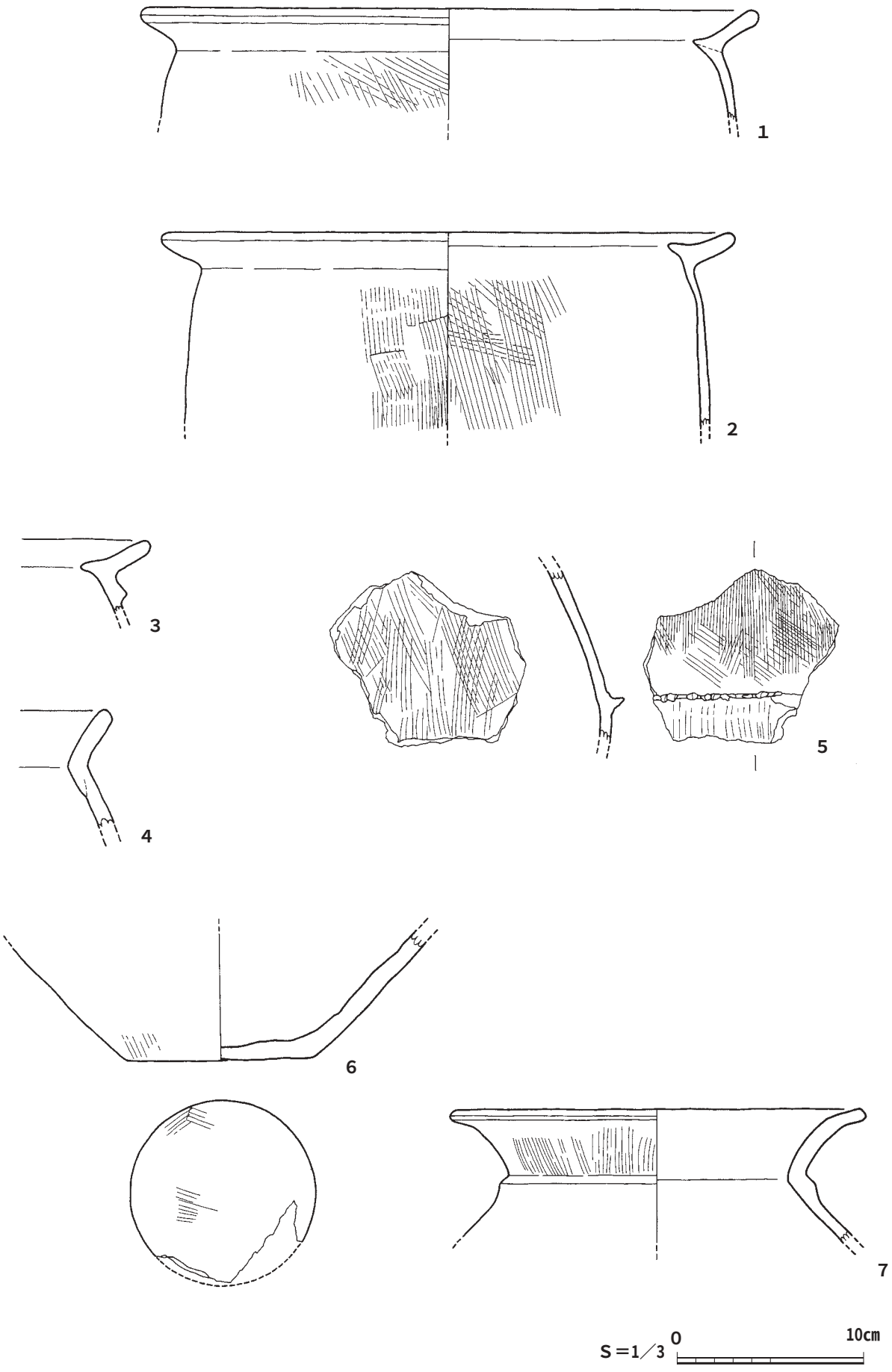
図(Fig)58　S081・S114・S144・S145出土遺物実測図（１）



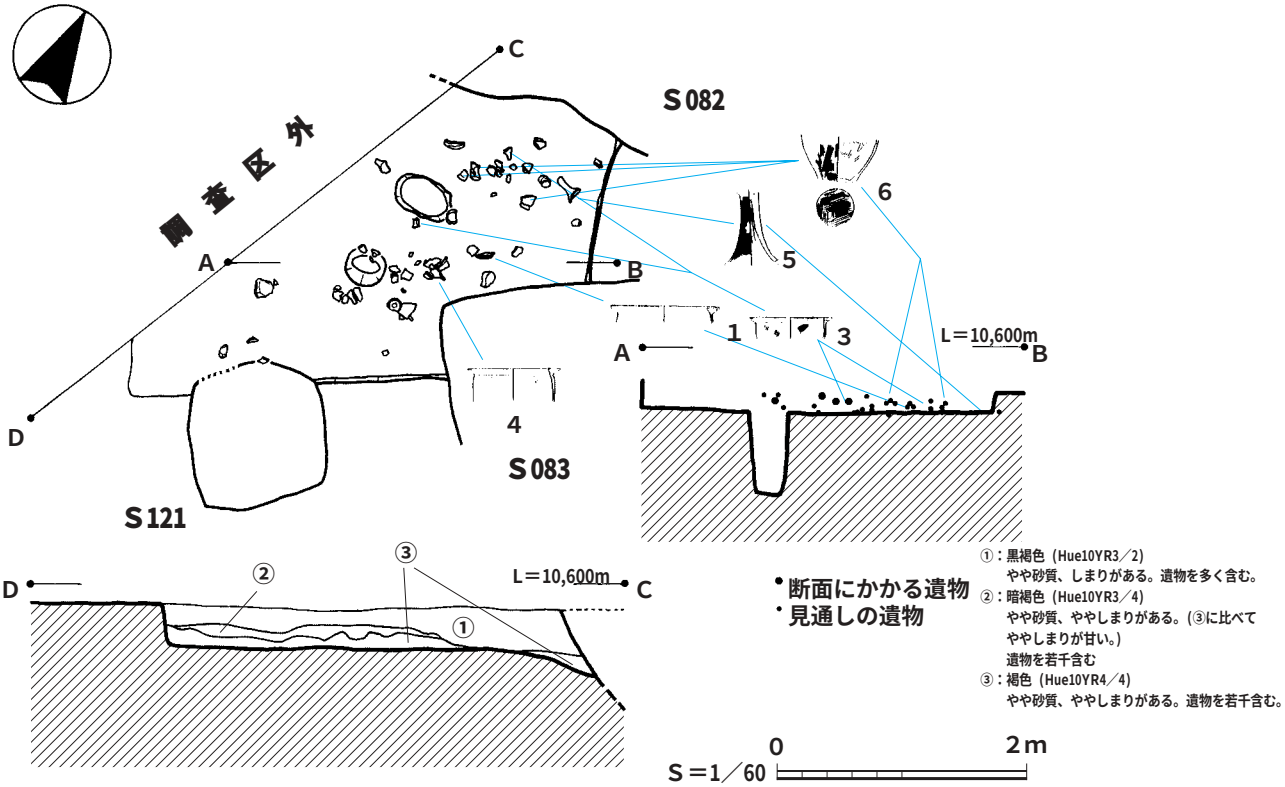


図(Fig)59　S081・S145出土遺物実測図（２）

［形状］方形？（詳細は不明）
［大きさ］１辺の大きさ300㎝～、深さ：25㎝。
［住居内覆土］１層。
［主柱穴］不明。
［炉］不明。
［貯蔵穴］不明。
［硬化面］無し。
［張り床］無し。
［切り合い関係］S081、113、144、145から切られる。
［特記事項］
・遺構は一部しかなく全体像を把握することは不可能。しかし、形態から住居跡と推定した。
・土器は中期ばかりではなく、後期の様相を持つ土器も混在しているが全体的な様相と切り合い関係から弥生時代中期後半期の可能性が高いと判断した。この住居は、最近まで使用されていた用水路により切られていることから遺物が混在した可能性も考えられる。
［遺物の出土状況］床面張り付き及び床からやや浮いた状態で出土。遺構廃絶後の間もない遺物として捉えたい。
［出土遺物量］
S114から出土した遺物は、小グレーコンテナ(38㎝×58㎝×５㎝）に約１箱分で、弥生土器のみの総重量1,700gであった。
［出土遺物の観察］
ここでは、４点の土器を紹介する。
11～14は、甕形土器の口縁部である。13、14は黒髪式土器の特徴を備えているが、11、12は後期の様相が強い。いずれも上層からの出土である。
【S144】（図57、58参照）
［確認位置］調査１区、Ⅰ、Ｊ－９グリッド。
標高約10.26m。
［形状］方形？（詳細は不明）
［大きさ］長軸：400㎝、短軸：260㎝～、深さ：15～20㎝。
［住居内覆土］１層。
［主柱穴］不明。
［炉］不明。
［貯蔵穴］不明。
［硬化面］無し。
［張り床］無し。
［切り合い関係］S145を切り、S081から切られる。
［特記事項］
・遺構は一部しかなく全体像を把握することは不可能。しかし、形態から住居跡と推定した。
［遺物の出土状況］床面張り付き及び床からやや浮いた状態で出土。遺構廃絶後の間もない遺物として捉えたい。
［出土遺物量］
S144から出土した遺物は、小グレーコンテナ(38㎝×58㎝×５㎝）に約１／２箱分で、総重量521gであった。
内訳は、縄文土器21g（２片)、弥生土器500g(内丹塗り土器は35g）であった。
［出土遺物の観察］
出土土器の口縁部は全て黒髪式土器であった。
ここでは、１点の土器を紹介する。
15は、甕形土器の口縁部である。黒髪式土器の特徴を備えている。下層からの出土である。
【S145】（図57～59参照）
［確認位置］調査１区、Ⅰ、Ｊ－９グリッド。
標高約10.26m。
［形状］方形？（詳細は不明）
［大きさ］長軸：400㎝、短軸：160㎝～、深さ：25㎝。
［住居内覆土］１層。
［主柱穴］不明。
［炉］不明。
［貯蔵穴］不明。
［硬化面］無し。
［張り床］無し。
［切り合い関係］S114、146を切り、S081、113、144から切られる。
［特記事項］
・遺構は一部しかなく全体像を把握することは不可能。しかし、形態から住居跡と推定した。
・土器は中期ばかりではなく、後期の様相を持つ土器も混在しているが全体的な様相と切り合い関係



図(Fig)60　S146出土遺物実測図



図(Fig)61　住居跡（S082）実測図

から弥生時代中期後半期の可能性が高いと判断した。

［遺物の出土状況］床面張り付き及び床からやや浮いた状態で出土。遺構廃絶後の間もない遺物として捉えたい。

［出土遺物量］

S145から出土した遺物は、小グレーコンテナ(38㎝×58㎝×５㎝）に約１／２箱分で、総重量600gであった。

内訳は、弥生土器600g（内丹塗り土器は15g）であった。

［出土遺物の観察］

ここでは、２点の土器２点の石器を紹介する。

16、17は、甕形土器の口縁部である。17は、黒髪式土器の特徴を備えているが、16は、やや後期の様相を呈している。いずれも点上げの遺物である。

20は、凹石である。石材は、安山岩質であると考えられる。表裏面に敲打痕による凹面と磨り痕が見られる。点上げ遺物である。

21は、磨り石と凹石の両方の機能を持つ石器である。石材は、火成岩である。表裏面には磨り痕、表面には敲打痕による凹面が見られる。点上げ遺物である。

【S146】（図57、60参照）

［確認位置］調査１区、Ⅰ－９グリッド。

標高約10.26m。

［形状］方形？（詳細は不明）

［大きさ］１辺の大きさ118㎝～、深さ：26㎝。

［住居内覆土］２層。

［主柱穴］不明。

［炉］不明。

［貯蔵穴］不明。

［硬化面］無し。

［張り床］無し。

［切り合い関係］S113、145から切られる。

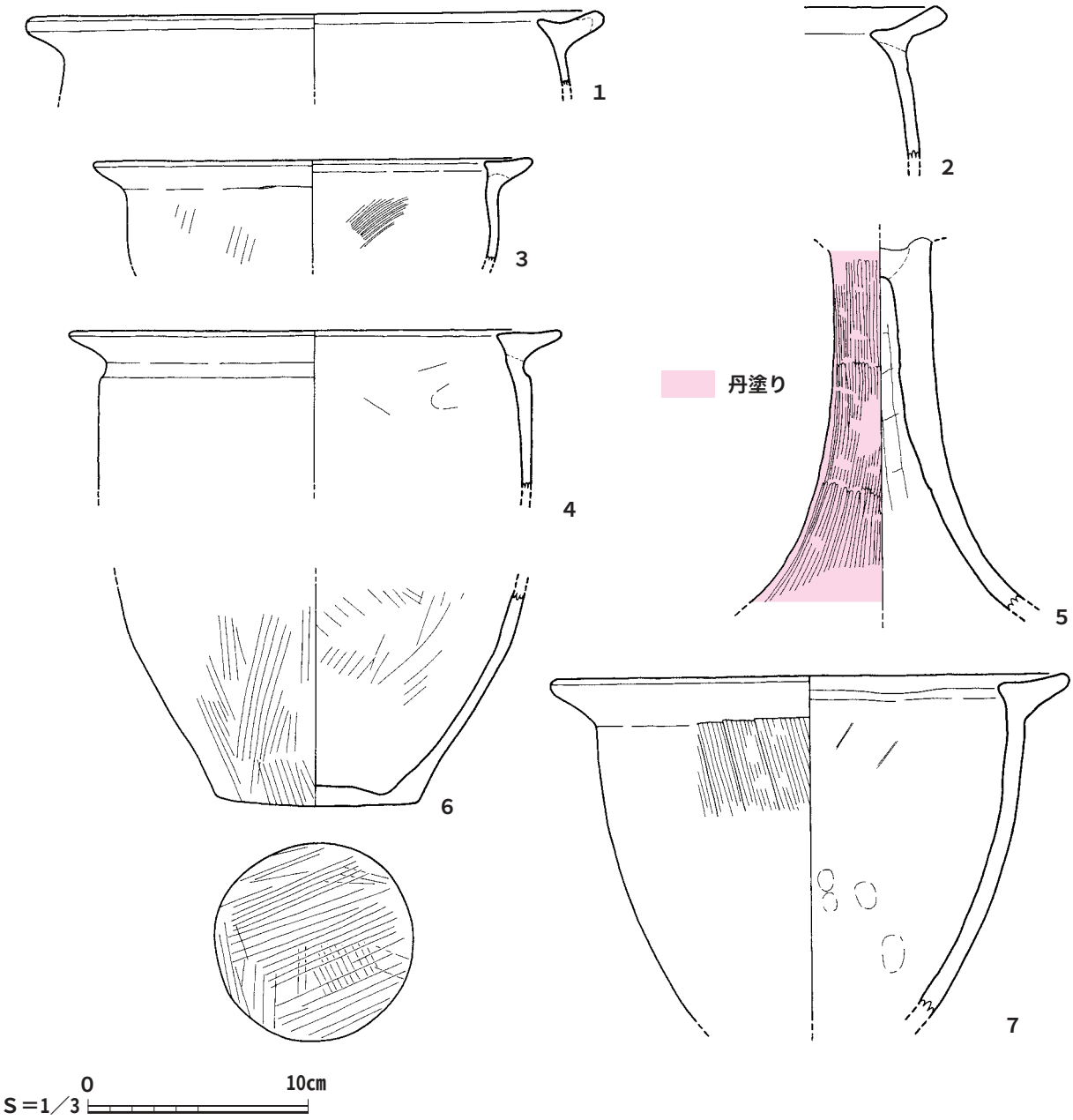
［特記事項］

・遺構は一部しかなく全体像を把握することは不可能。しかし、形態から住居跡と推定した。

［遺物の出土状況］出土状況は不明。全て一括上げ。

［出土遺物量］

S146から出土した遺物は、小グレーコンテナ(38㎝×58㎝×５㎝）に約２箱分で、総重量6,200g



図(Fig)62　S082出土遺物実測図（１）

であった。内訳は、弥生土器6,182g（内丹塗り土器は18g）であった。

［出土遺物の観察］

土器の様相は、甕や壺の口縁部は、１点以外は黒髪式土器の範疇で捉えられるものであったことから、弥生時代中期後半期の土器と判断した。

ここでは、７点の土器を紹介する。全て一括上げ。

１～３は、甕形土器の口縁部である。いずれも黒髪式土器の特徴を備えている。３は、頸部下に１条の突帯が巡る。

４は、甕形土器の口縁部であるが、くの字形に屈曲し、後期の様相が強い。

５は、壺形土器の胴部である。内外面にハケ目が残る。外面に１条の刻み目突帯が巡る。

６は、壺形土器の底部と考えられる。外面にハケ目が残る。

７は、壺形土器の口縁部である。外面にハケ目、頸部下に１条の突帯が巡る。

【S082】（図61～63参照）

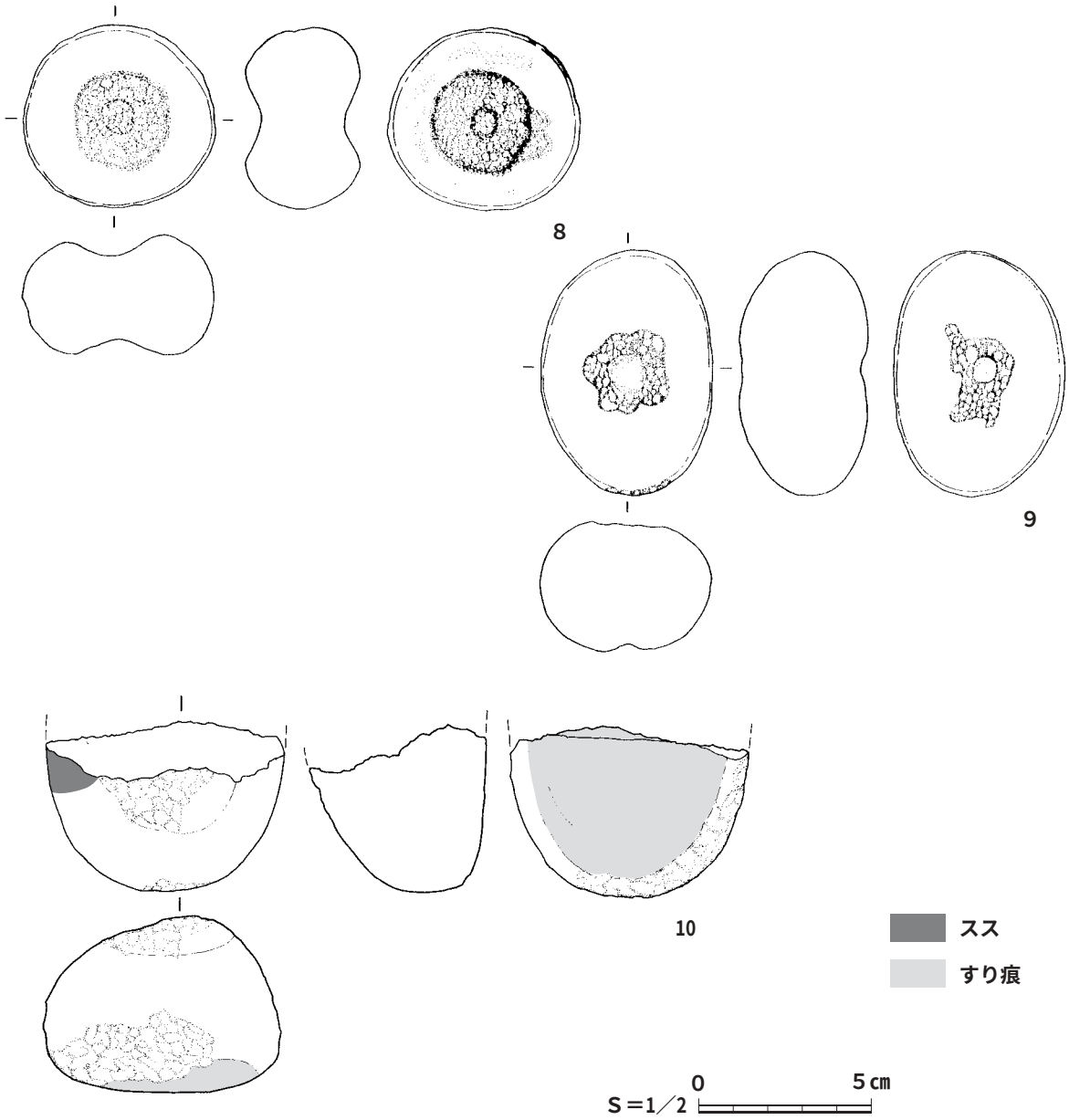
［確認位置］調査１区、Ｈ－７グリッド。

標高約10.5m。

［形状］方形

［大きさ］長軸：350㎝、短軸：200㎝、深さ：30㎝。

［住居内覆土］３層に分層。



図(Fig)63　S082出土遺物実測図（２）

［主柱穴］２本？。１本のみ確認。径24cm。深さ62cm。

［炉］不明。

［貯蔵穴］不明。

［硬化面］無し。

［張り床］無し。

［切り合い関係］S121、83に切られる。

［遺物の出土状況］床面張り付き及び床からやや浮いた状態で出土。遺構廃絶後の間もない遺物として捉えたい。

［出土遺物量］

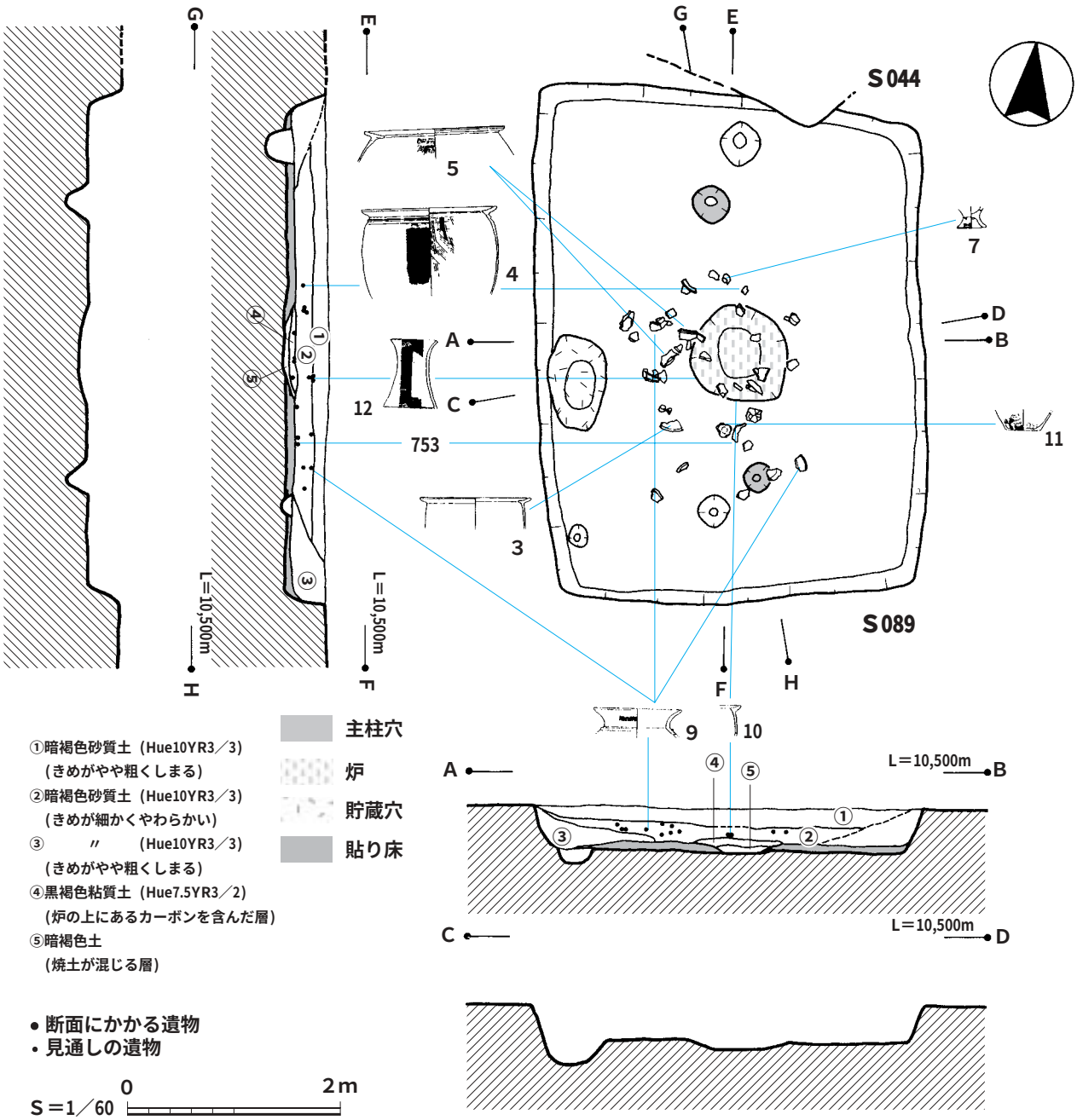
S082から出土した遺物は、小グレーコンテナ（38cm×58cm×５cm）に約２箱分で、総重量7,034gであった。内訳は、縄文土器134g（２片）、弥生土器6,900g（内丹塗り土器は1,098g）であった。

［出土遺物の観察］

土器の様相は、甕や壺の口縁部は、全てが黒髪式土器の範疇で捉えられるものであったことから、弥生時代中期後半期の土器と判断した。

ここでは、７点の土器と３点の石器を紹介する。

１、２、４は、甕形土器の口縁部及び胴部上半部である。いずれもいずれも口縁部が内側に細長く突起が伸び、外側にほぼ同じ厚さで細長く伸びるとい



図(Fig)64　住居跡（S089）実測図

う黒髪式土器の特徴を備えている。４は、指押さえが強かったためか、頸部外面がややへこんでいる。いずれも点上げ遺物である。

３は、鉢形土器と考えられる。黒髪式土器の特徴を備えている。点上げ遺物である。

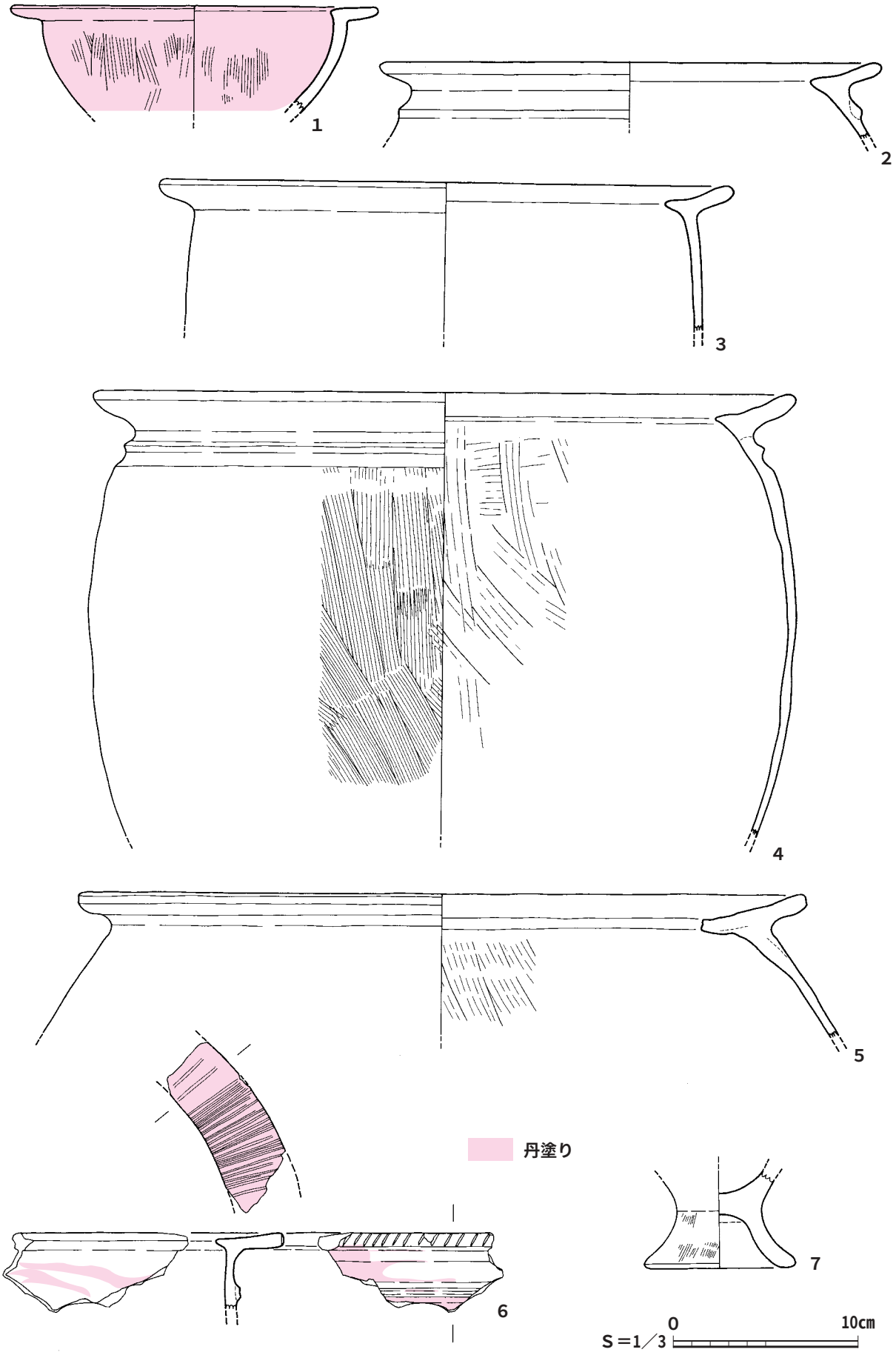
５は、高杯形土器の脚部である。外面はハケ目後、丹塗りが施されており、内面には絞り痕が残る。脚部と坏部の接合面に円盤充填技法が見られる。点上げ遺物である。

６は、壺形土器か鉢形土器の底部である。内外面にハケ目が残る。点上げ遺物が８点接合している。

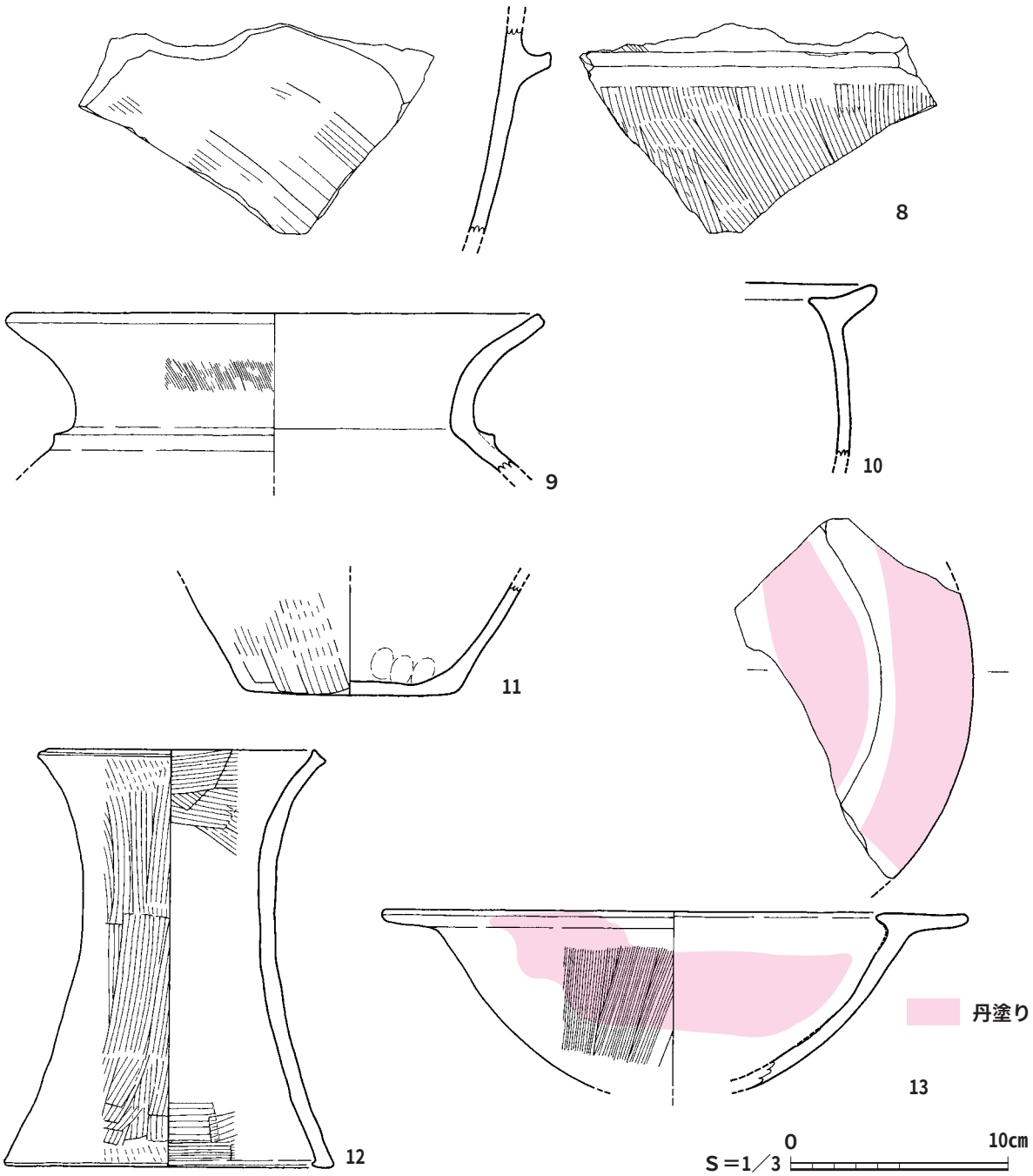
７は、甕形土器か鉢形土器の口縁部及び胴部である。外面にハケ目、内面にハケ目痕跡と指頭圧痕が残る。黒髪式土器の特徴を備えている。点上げ遺物。

８は、凹石である。石材は、安山岩質であると考えられる。表裏面に敲打痕による凹面が見られる。点上げ遺物である。

９は、凹石である。石材は、安山岩質であると考えられる。表裏面に敲打痕による凹面と側面に一部敲打痕が見られる。点上げ遺物である。



図(Fig)65　S089出土遺物実測図（１）



図(Fig)66　S089出土遺物実測図（２）

10は磨り石である。石材は安山岩質と考えられる。裏面に磨り痕が見られ、表面の中央部と側面には敲打痕が見られる。表側面には被熱による赤変が見られる。点上げ遺物である。

【S089】（図64～67参照）

［確認位置］調査１区、Ｂ、Ｃ－４、５グリッド。標高約10.15m。

［形状］方形

［大きさ］長軸：482㎝、短軸：358㎝、深さ：34㎝。

［住居内覆土］５層に細分。

［主柱穴］２本。径24～30㎝。深さ17～18㎝。

［炉］大きさ85×100㎝で深さ約15㎝。

［貯蔵穴］有り。大きさ85×54㎝で深さ約17㎝。

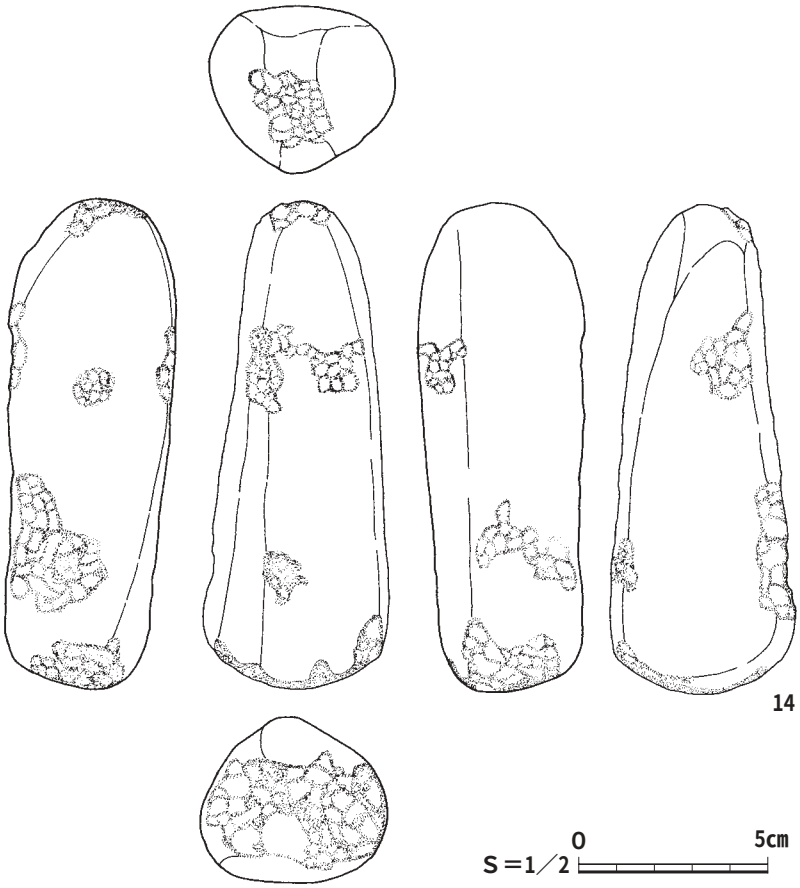
［硬化面］無し。

［張り床］有り。

［切り合い関係］S044に切られる。

［特記事項］

・黒髪式土器に立岩式甕棺、須玖Ⅱ式土器の影響を



図(Fig)67 S089出土遺物実測図（３）

強く受けた土器が伴っている可能性が高い。

［遺物の出土状況］床面張り付き及び床からやや浮いた状態で出土。遺構廃絶後の間もない遺物として捉えたい。

［出土遺物量］

S089から出土した遺物は、小グレーコンテナ(38㎝×58㎝×５㎝）に約６箱分で、総重量17,133gであった。内訳は、縄文土器84g（１片)、弥生土器17,049g（内丹塗り土器は1,349g）であった。

［出土遺物の観察］

土器の様相は、甕や壺の口縁部は、全てが黒髪式土器の範疇で捉えられるものであったことから、弥生時代中期後半期の土器と判断した。

ここでは、13点の土器と１点の石器を紹介する。

１は、高杯形土器の杯部である。内外面にはハケ目後、丹塗りが施されている。２層からの出土。

２、３、４は、甕形土器の口縁部及び胴部上半部である。いずれも点上げ遺物で黒髪式土器の特徴を呈している。２は、頸部の下に１条の突帯が巡る。

４は、内外面にハケ目が残り、頸部の下に１条の突帯が巡る。２層が３点、３層が１点、点上げが６点、一括遺物16点の合計26点が接合している。

５は、立岩式といわれる甕棺の口縁部である。点上げが３点と一括遺物１点の４点が接合している。内面にハケ目が残る。

６は、甕の口縁部である。形態や丹塗りであることから須玖Ⅱ式土器の影響を強く受けた土器といえる。口縁部に暗文、口縁端部に刻み目、頸部下にM字状の突帯が１条巡っている。赤彩は、内面にも部分的に及んでいる。土層確認用トレンチからの出土である。胎土の色調は肌色で明るい。

７は、甕形土器の脚台部である。外面にハケ目が残る。点上げ遺物である。

８は、甕棺の胴部と考えられる。内外面には刷毛目が残り、突帯が１条巡っている。点上げ遺物。

９は、壺形土器の口縁部である。外面には刷毛目が残り、頸部には突帯が１条巡る。点上げ遺物。

10は、甕形土器の口縁部及び胴部上半部である。

８２点上げ遺物で黒髪式土器の特徴を呈している。

11は、壺形土器の底部である。外面には刷毛目、内面には指頭圧痕が残る。点上げと２層出土の遺物２点が接合している。

12は、ほぼ完形の器台である。内外面にハケ目が残る。点上げ、１～３層までの遺物が23点接合。

13は、丹塗りの高杯形土器の杯部である。外面にハケ目が残る。形態や丹塗りであることから須玖Ⅱ式土器の影響を強く受けた土器といえる。赤彩は内外面に及んでいる。２層からの出土である。

14は、棒状の敲石である。石材は、安山岩質であると考えられる。全面に敲打痕が見られる。形状は民俗例で挙げられるトチを割るための石器に酷似する。堅果類の加工具に利用されたものかもしれない。１層出土遺物である。

【S092】（図68、70、71参照）

［確認位置］調査１区、Ｉ－８グリッド。

標高約10.2m。

［形状］方形

［大きさ］長軸：440㎝～、短軸：150㎝～、深さ：20㎝。

［住居内覆土］１層に分層。

［主柱穴］不明。

［炉］不明。

［貯蔵穴］有り。大きさ90×80㎝で深さ約30㎝。

［硬化面］無し。

［張り床］無し。

［切り合い関係］S077、147に切られる。

［遺物の出土状況］床面張り付き及び床からやや浮いた状態で出土。遺構廃絶後の間もない遺物として捉えたい。

［出土遺物量］

S092から出土した遺物は、小グレーコンテナ（38㎝×58㎝×５㎝）に約２箱分で、総重量5,059gであった。内訳は、縄文土器59g（３片）、弥生土器5,000g(内丹塗り土器は218g）であった。

［出土遺物の観察］

土器の様相は、甕の口縁部は、黒髪式土器の範疇で捉えられるものであったことから、弥生時代中期後半期の土器と判断した。

ここでは、２点の土器を紹介する。

７（図70）はほぼ完形の甕形土器である。胴部上半部に１条の沈線が巡る。一括遺物３点、土抗内遺物１点と点上げ遺物46点の計50点が接合。

９（図71）は、甕棺の胴部である。残存部位から復原を試みた。胴部の復原最大径は、約55.2㎝である。外面には、ハケ後ミガキが見られ、胴部中央部と下半部に刻み目突帯が２条巡る。内面にはハケ目が残る。一括遺物１点、土抗内遺物３点と点上げ遺物15点の計19点が接合している。

【S141】（図68、71参照）

［確認位置］調査１区、Ｉ－８グリッド。

標高約10.2m。

［形状］方形

［大きさ］大きさ：60㎝～、深さ：10㎝。

［住居内覆土］１層に分層。

［主柱穴］不明。

［炉］不明。

［貯蔵穴］不明。

［硬化面］不明。

［張り床］不明。

［切り合い関係］S147に切られる。

［特記事項］

・切り合いが大きいが、S147との関係から弥生時代中期後半期と判断。

［遺物の出土状況］一括で上げたため不明。

［出土遺物量］

S141から出土した遺物は、小グレーコンテナ（38㎝×58㎝×５㎝）に約１／４箱分で、総重量700gであった。内訳は、弥生土器700g（内丹塗り土器は22g）であった。

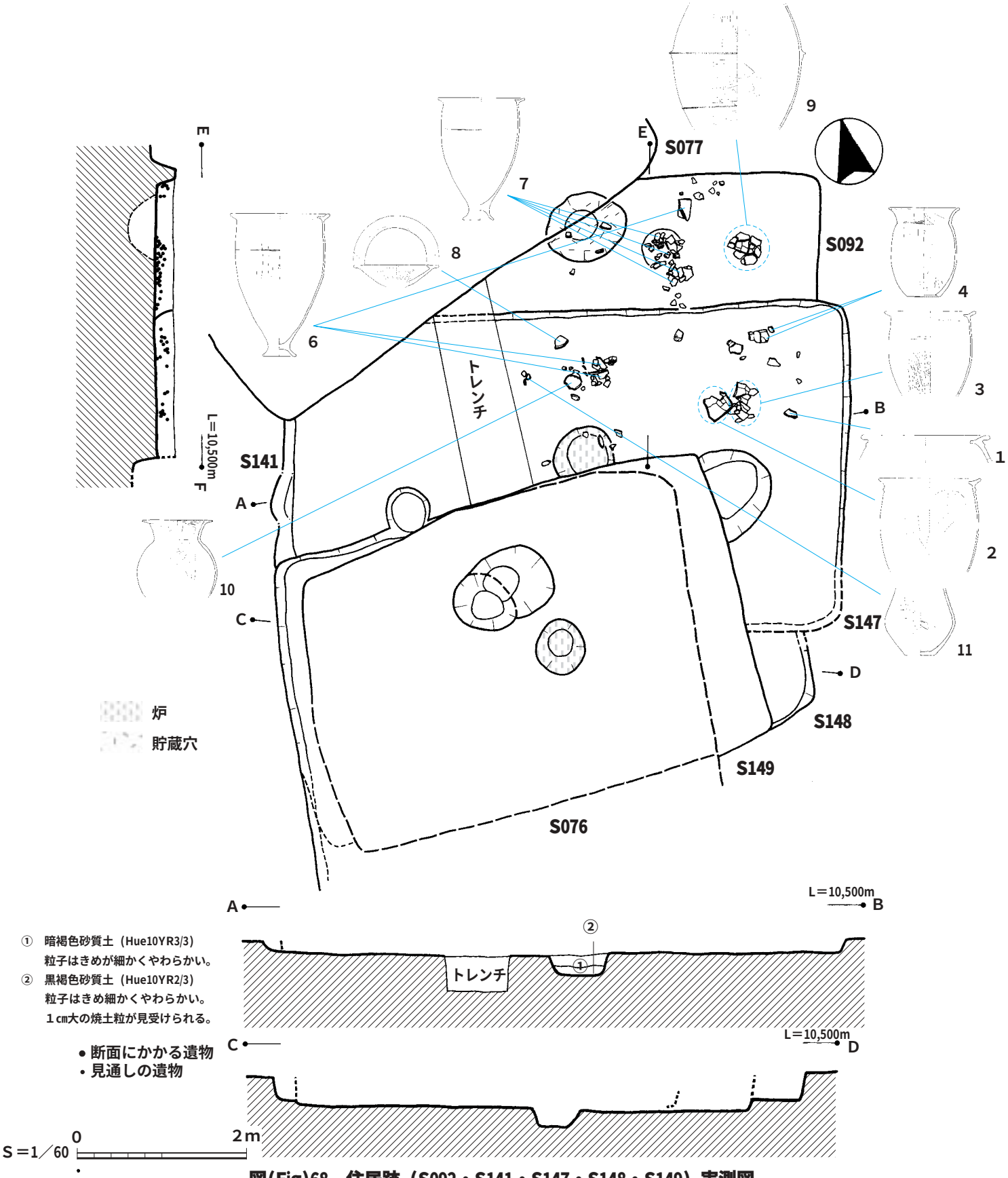
［出土遺物の観察］

土器の様相は、出土した甕の口縁部が、全て黒髪式土器の範疇で捉えられるものであったことから、弥生時代中期後半期の土器と判断した。

ここでは、２点の土器を紹介する。

12（図71）は、壺形土器の口縁部である。口縁部の厚さが一様ではない。一括遺物である。

13（図71）は、甕形土器の口縁部である。黒髪式土器の特徴を呈している。一括遺物である。



図(Fig)68　住居跡（S092・S141・S147・S148・S149）実測図

【S147】（図68～73参照）

［確認位置］調査１区、Ｉ－８グリッド。

標高約10.2m。

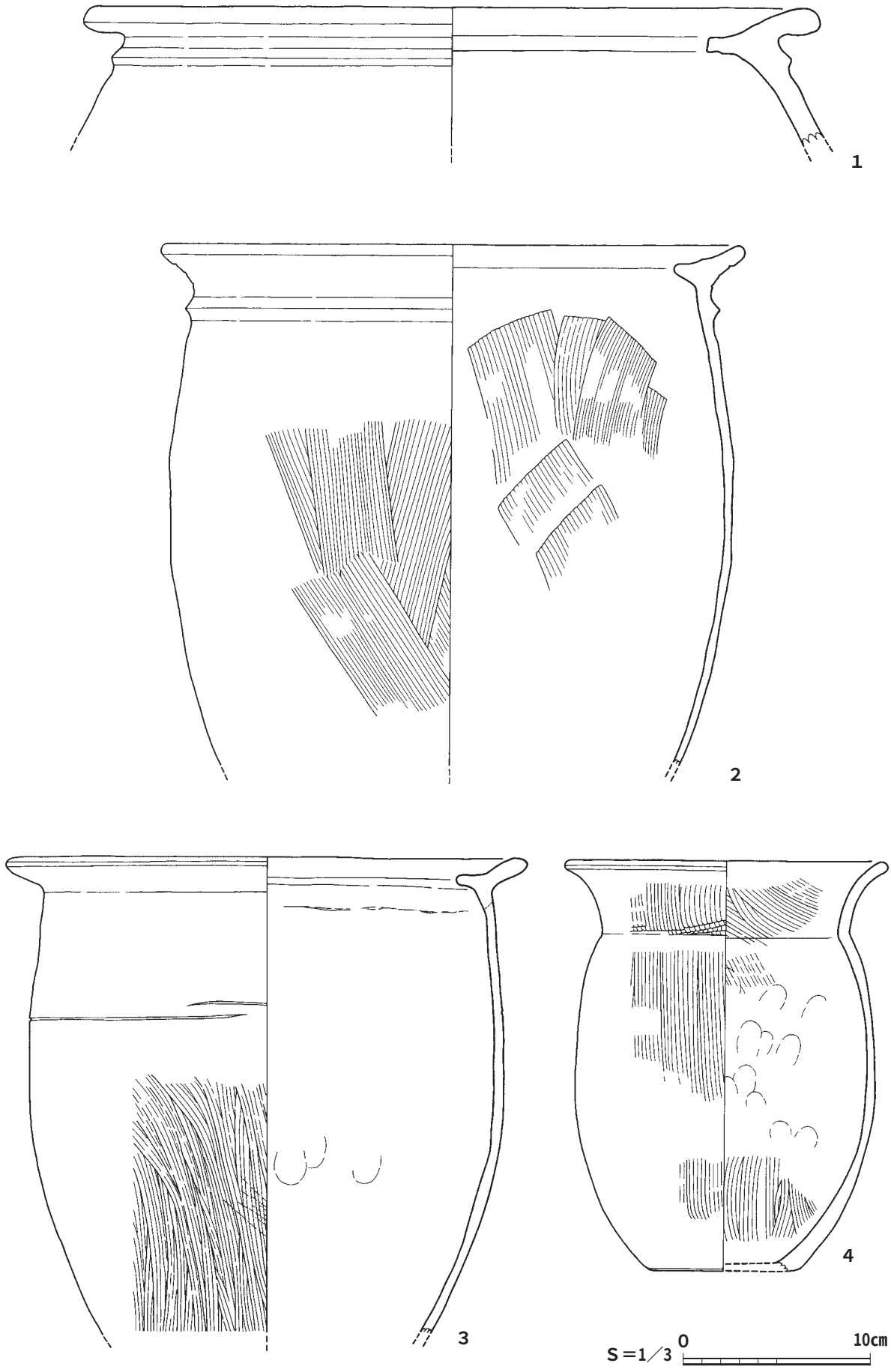
［形状］長方形

［大きさ］長軸：655cm、短軸：380cm、深さ20cm。

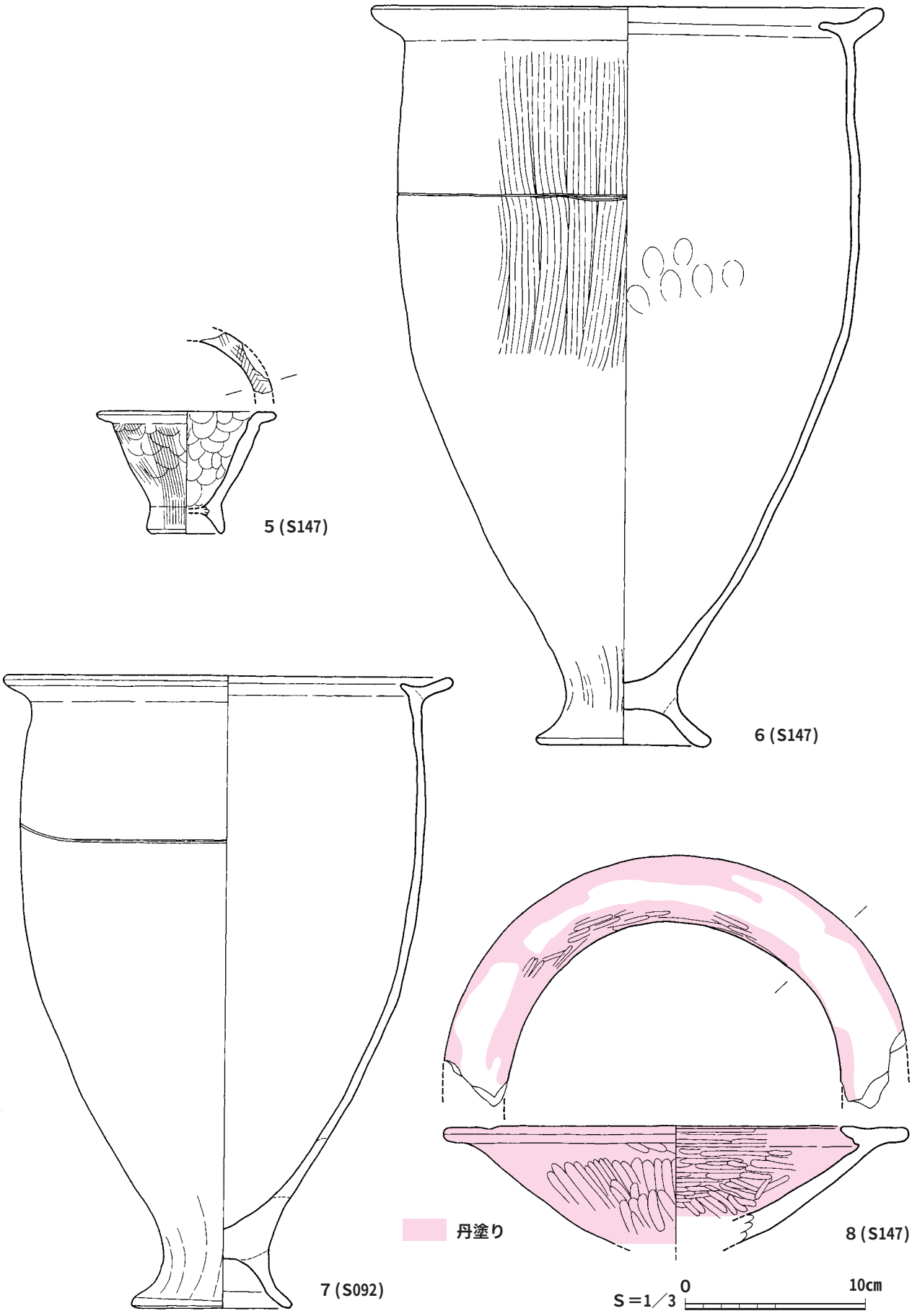
［住居内覆土］１層。

［主柱穴］不明。

［炉］大きさ70×50cmで深さ約25cm。



図(Fig)69　S147出土遺物実測図（１）



図(Fig)70　S092・S147出土遺物実測図（２）

［貯蔵穴］不明。

［硬化面］無し。

［張り床］有り。

［切り合い関係］S092、148を切り、149に切られる。

［特記事項］

・柱穴は、やや大きいが、雨の影響で検出時より崩れて大きくなってている可能性が高い。もう１つの柱穴はトレンチで消滅した可能性がある。

・器形の異なる土器が出土。(図69-4)

［遺物の出土状況］床面からやや浮いた状態で出土。遺構排絶後の間もない遺物として捉えたい。

［出土遺物量］

S147から出土した遺物は、小グレーコンテナ（38㎝×58㎝×５㎝）に約10箱分で、総重量23,999gであった。内訳は、縄文土器199g（６片)、弥生土器23,800g（内丹塗り土器は1,399g）であった。

［出土遺物の観察］

土器の様相は、甕や壺の口縁部は、全てが黒髪式土器の範疇で捉えられるものであったことから、弥生時代中期後半期の土器と判断した。

ここでは、16点の土器と２点の石器を紹介する。

１は、甕形土器の口縁部である。用途としては小型の甕棺で、立岩式の範疇で捉える事ができよう。点上げと上層遺物の計２点が接合している。

２は、甕形土器の口縁部及び胴部である。黒髪式土器の特徴を呈している。内外面にハケ目が残り、頸部下に１条の突帯が巡る。口縁部に指ナデに伴う凹凸が残る。点上げ遺物16点が接合している。

３は、甕形土器の口縁部及び胴部である。黒髪式土器の特徴を呈している。外面には、ハケ目が残り、胴部上半部に１条の沈線、内面には、指頭圧痕が残る。頸部下に１条の突帯が巡る。一括遺物８点、床面遺物１点と点上げ遺物21点の計30点が接合。

４は、甕形土器と考えられる。口縁部は壺形土器の特徴を呈しているが、胴部のふくらみがない。外面にはハケ目、内面にはハケ目及び指頭圧痕跡が残る。北九州地方の影響を受けた土器であろうか？一括遺物１点、床面遺物１点と点上げ遺物12点の計14点が接合。

５は、甕形のミニチュア土器である。外面にはハケ目後指頭圧痕が、内面には指頭圧痕が残る。一括遺物３点が接合している。

６はほぼ完形の甕形土器である。胴部上半部に１条の沈線が巡る。一括遺物３点、一括遺物６点と点上げ遺物31点の計40点が接合している。

８は、高杯形土器の杯部である。内外面にミガキ後丹塗りが施されている。黒髪式土器の範疇で捉える事ができよう。３層遺物２点と点上げ遺物３点の計５点が接合している。

10は、壺形土器の口縁部及び胴部である。外面には、ハケ後ミガキが見られ、内面にはハケ目後指頭圧痕が残る。黒髪式土器の特徴を呈している。一括遺物１点と点上げ遺物11点の計12点が接合。

11は、壺形土器の胴部下半部である。外面には、ミガキ後丹塗りが施され、内面にはハケ目後指頭圧痕が残る。点上げ遺物５点が接合している。

以下に紹介する遺物は、全て一括である。図版番号は72及び73である。

19、20、21は、甕形土器の口縁部である。いずれも黒髪式土器の様相を呈しているが、20は、頸部からやや屈曲が見られ、21には１条の突帯が巡る。

22は、甕形土器の口縁部である。口縁端部に特徴があり、立岩式土器の範疇で捉える事ができよう。内面にハケ目が残る。

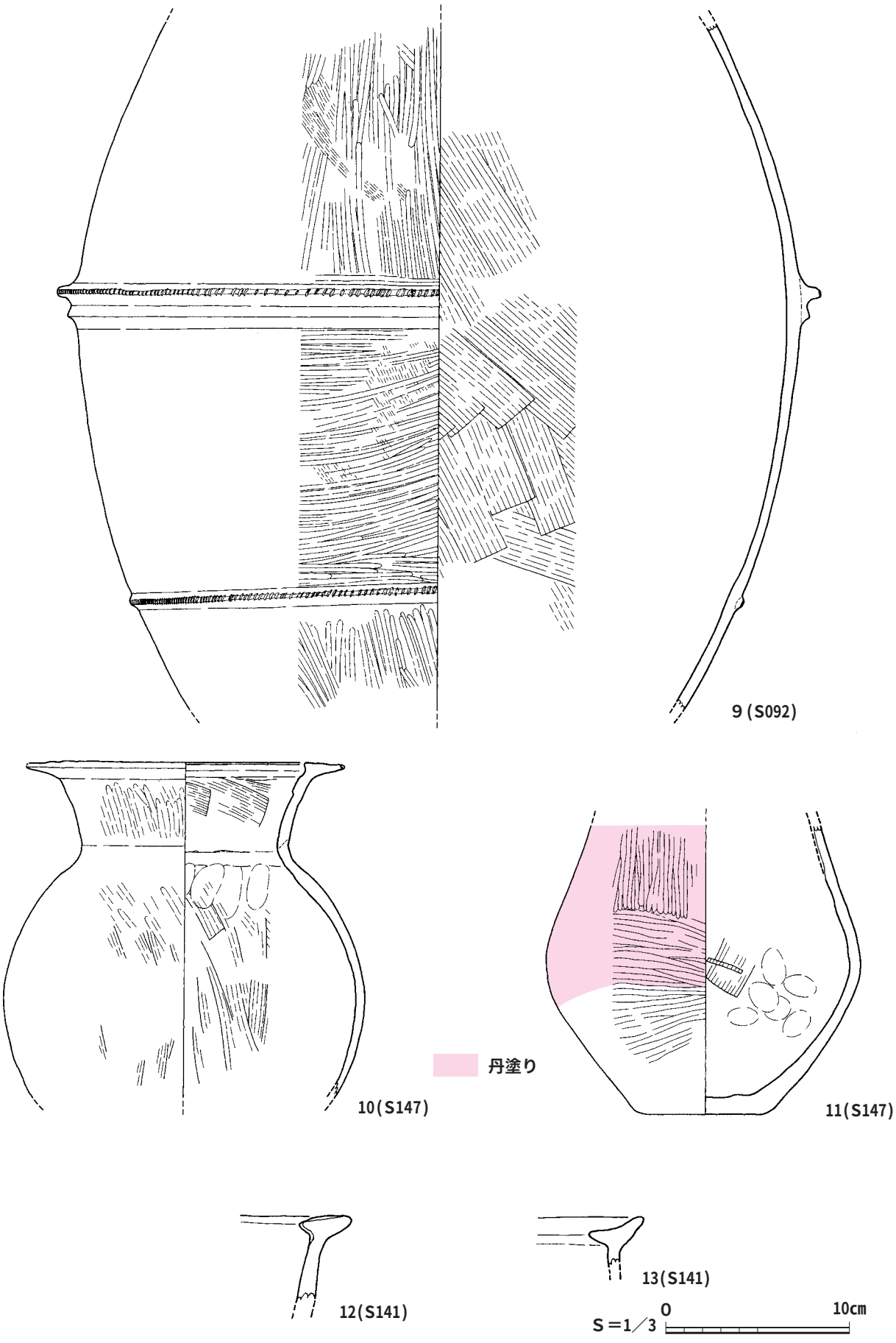
23は、鉢形土器である。４点が接合している。

24は、高杯形土器の杯部である。内外面にミガキ痕が残る。口縁端部に特徴があるが、黒髪式土器の範疇で捉える事ができようか。

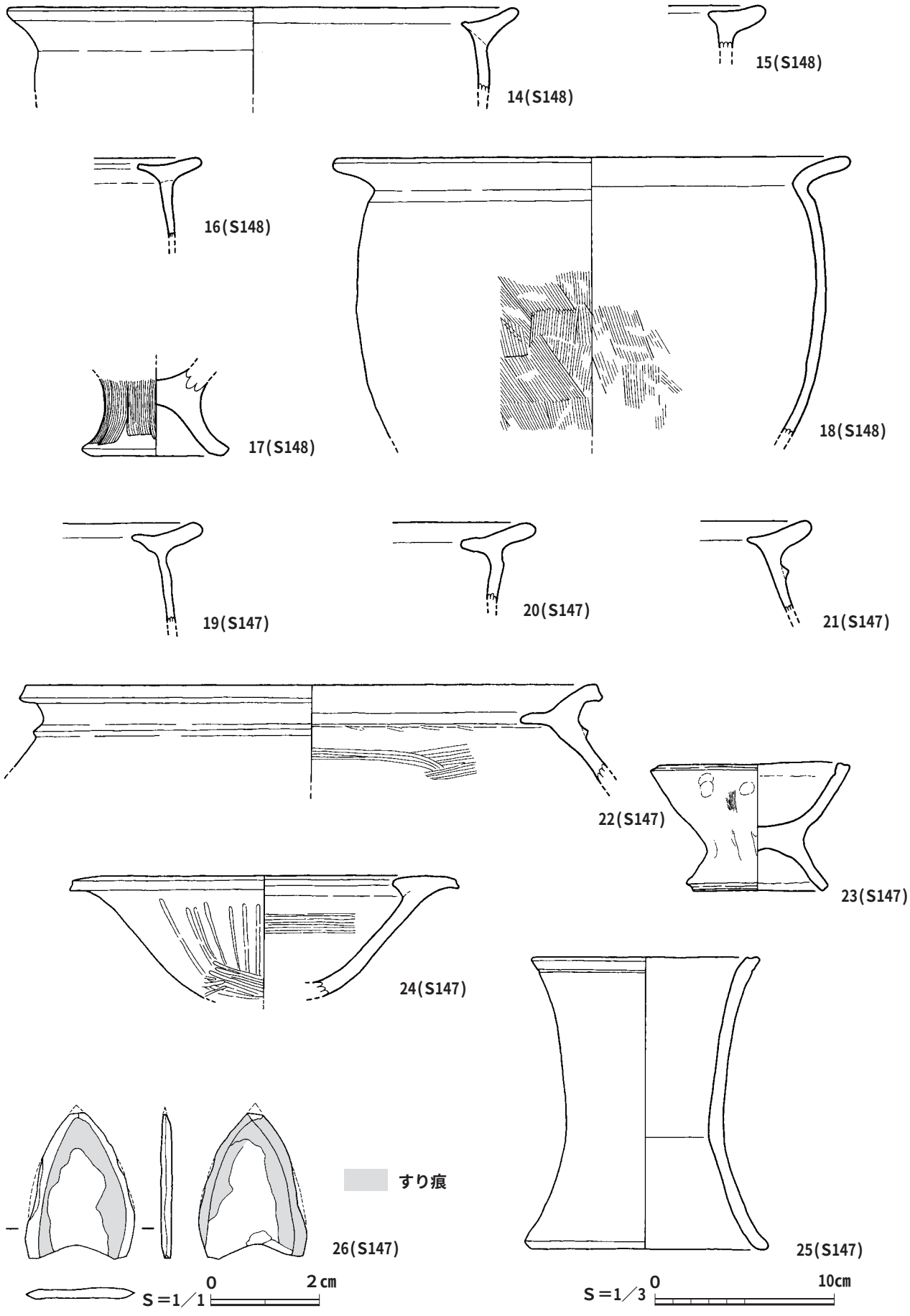
25は、器台である。S077一括が1点、S147が７点の計８点が接合している。口縁部から約８㎜の位置に沈線が１条巡る。

26は、緑泥変岩製の磨製石鏃である。先端部が一部欠損しているが、両面に製作時の磨り痕が観察される。

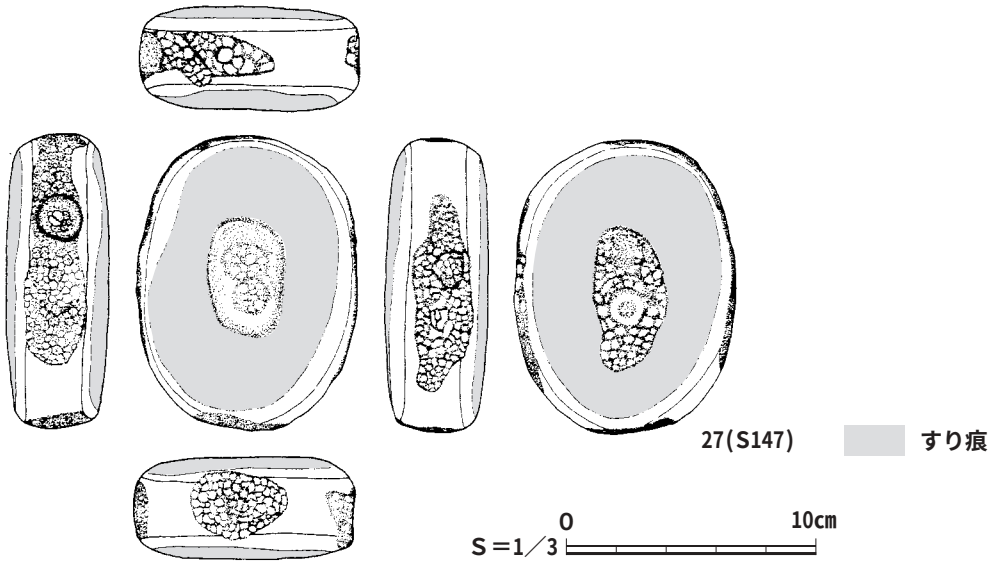
27は、磨り石と凹石の両方の機能を持つ石器である。石材は、安山岩質であると考えられる。表裏面には磨り痕と敲打痕による凹面、そして側面には敲打痕が見られる。上層出土遺物である。



図(Fig)71　S092・S141・S147出土遺物実測図（３）



図(Fig)72　S147・S148出土遺物実測図（４）



図(Fig)73 S147 出土遺物実測図（５）

【S148】（図68、72参照）

［確認位置］調査１区、Ｉ－８グリッド。

標高約10.2m。

［形状］方形

［大きさ］大きさ：60㎝～、深さ：30～33㎝。

［住居内覆土］１層に分層。

［主柱穴］不明。

［炉］不明。

［貯蔵穴］不明。

［硬化面］不明。

［張り床］不明。

［切り合い関係］S147、149に切られる。

［特記事項］

・切り合いが大きいが、S147との関係から弥生時代中期後半期と判断。

［遺物の出土状況］一括で上げたため詳細は不明だが、床面に張り付いた遺物が多い。

［出土遺物量］

S148から出土した遺物は、小グレーコンテナ(38㎝×58㎝×５㎝）に約１箱分で、総重量3,096gであった。内訳は、縄文土器96g（３片)、弥生土器3,000g（内丹塗り土器は33g）であった。

［出土遺物の観察］

土器の様相は、出土した甕の口縁部が、ほとんど黒髪式土器の範疇で捉えられるものであったことから、弥生時代中期後半期の土器と判断した。

ここでは、５点の土器を紹介する。

14～16は、甕形土器の口縁部である。いずれも黒髪式土器の特徴を呈している。14、15は床面から、16は、一括遺物である。

17は、甕形土器の脚台部である。内外面にハケ目が残る。床面から出土している。

18は、甕形土器の口縁部及び胴部である。口縁部形態がややくの字状になり、後期の特徴を呈している。移行期の土器として把握できようか。床面からの出土である。

【S149】（図68参照）

［確認位置］調査１区、Ｉ－８グリッド。

標高約10.2m。

［形状］方形

［大きさ］長軸：520㎝、短軸：360㎝、深さ：40～50㎝。

［住居内覆土］１層のみ。

［主柱穴］不明。

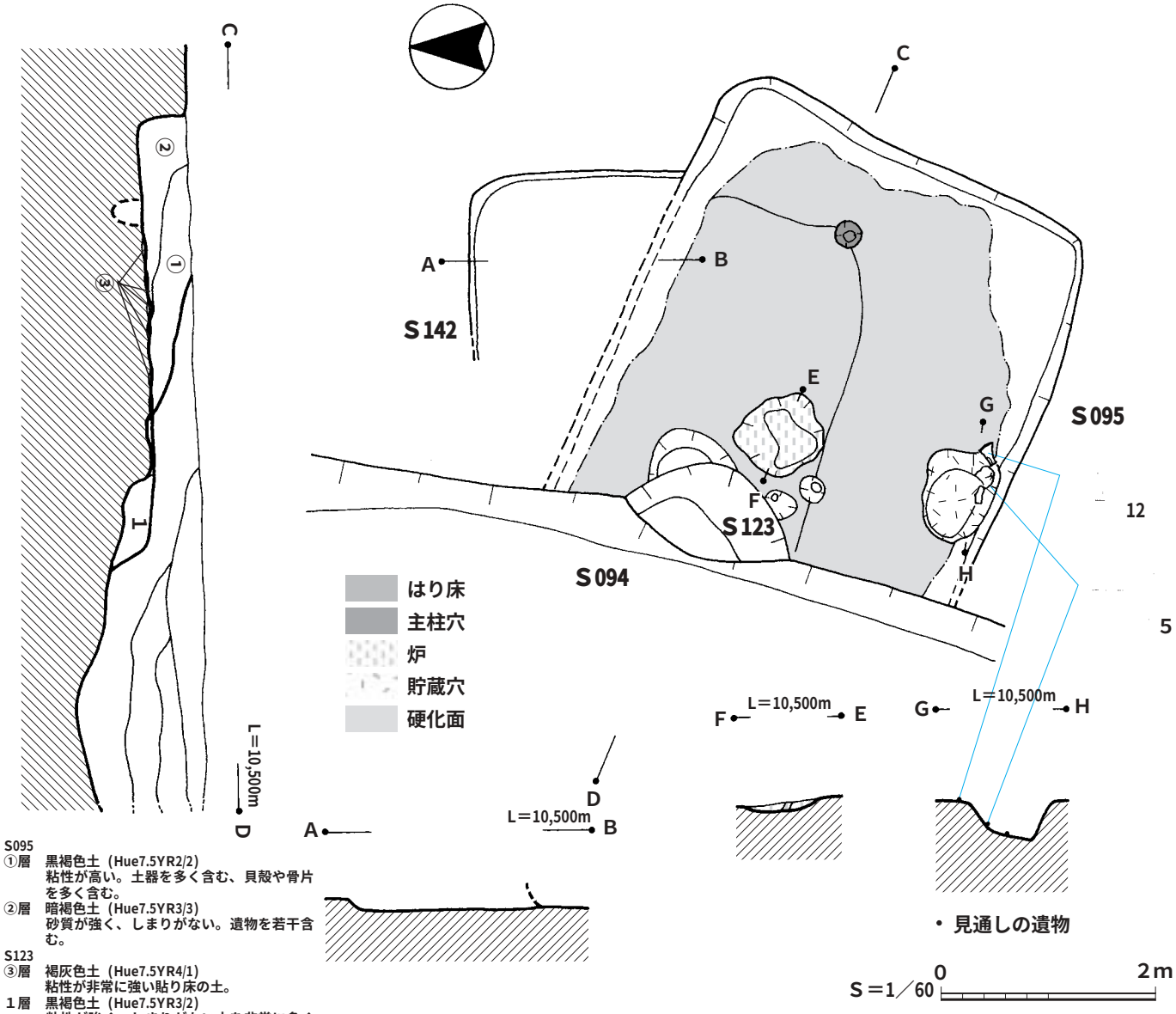
［炉］大きさ55×65㎝で深さ約20㎝。２層に分層可能。

［貯蔵穴］不明。

［硬化面］不明。

［張り床］不明。

［切り合い関係］S147、148、76を切る。



図(Fig)74　住居跡（S095・S142）土坑（S123）実測図

［遺物の出土状況］出土遺物無し。

【S095】（図74～77参照）

［確認位置］調査１区、D、E－５グリッド。

標高約10.2m。

［形状］方形

［大きさ］長軸：420cm～、短軸：390cm、深さ：40～45cm。

［住居内覆土］２層。

［主柱穴］１本は確認。径25cm。深さ25cm。

［炉］大きさ80×85cmで深さ約10cm。

［貯蔵穴］有り。大きさ70×100cmで深さ約25～35cm。

［硬化面］有り。

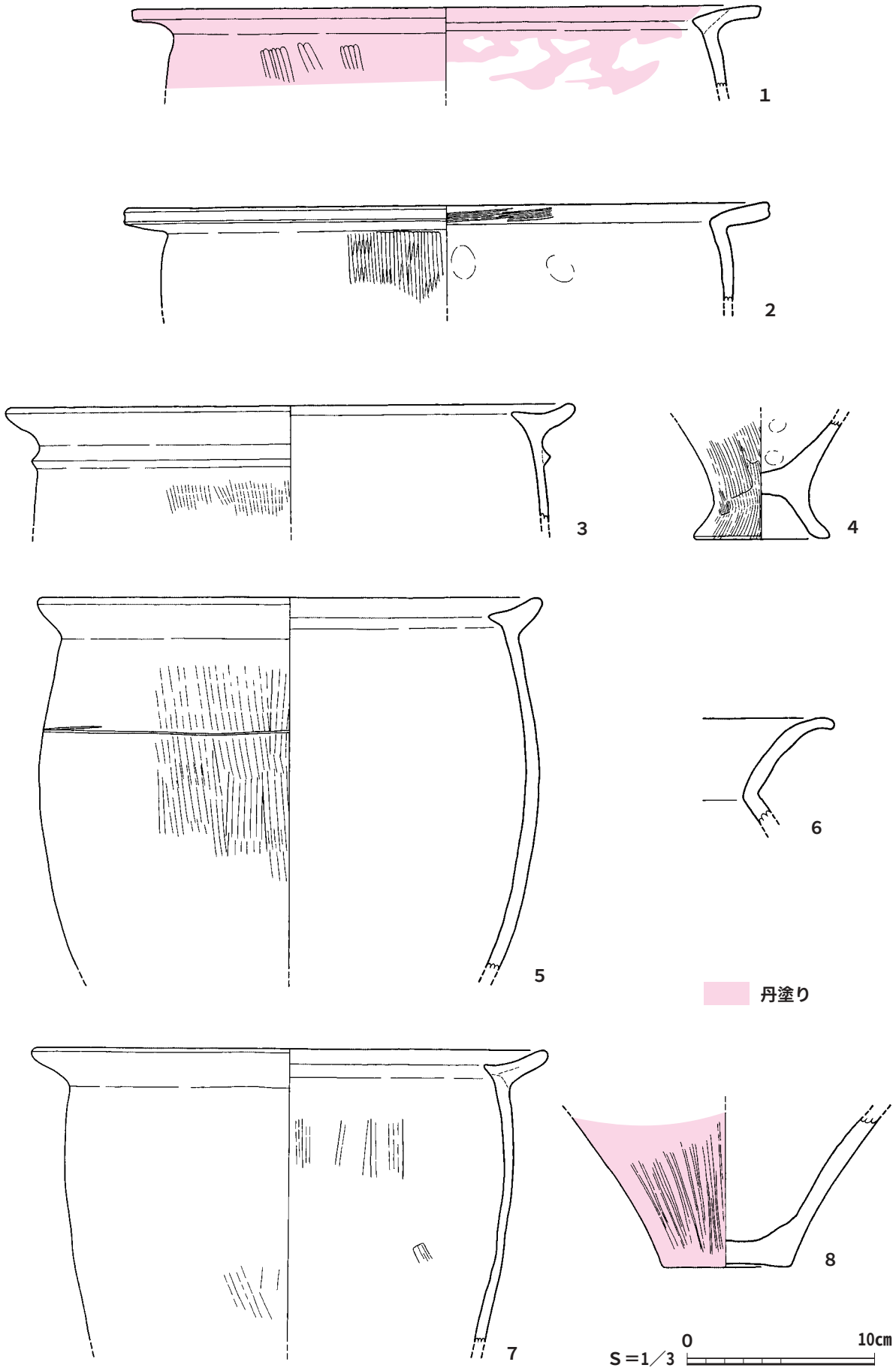
［張り床］有り。

［切り合い関係］S142を切り、123、94に切られる。

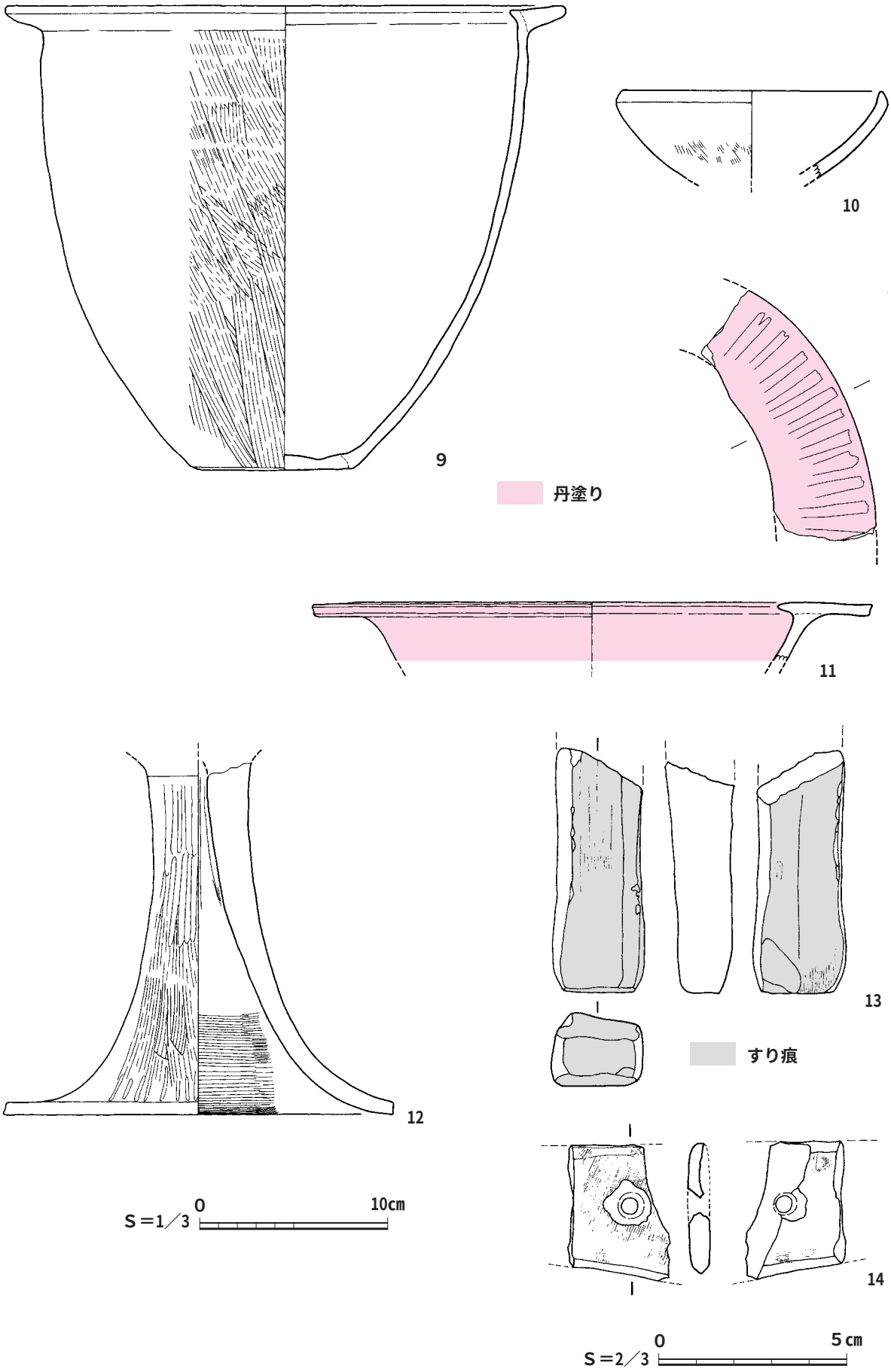
［遺物の出土状況］床面貼り付け及び床からやや浮いた状態で出土。遺構廃絶後の間もない遺物として捉えたい。貯蔵穴内の遺物もこの住居廃絶時に伴う遺物と考えて良いであろう。

［出土遺物量］

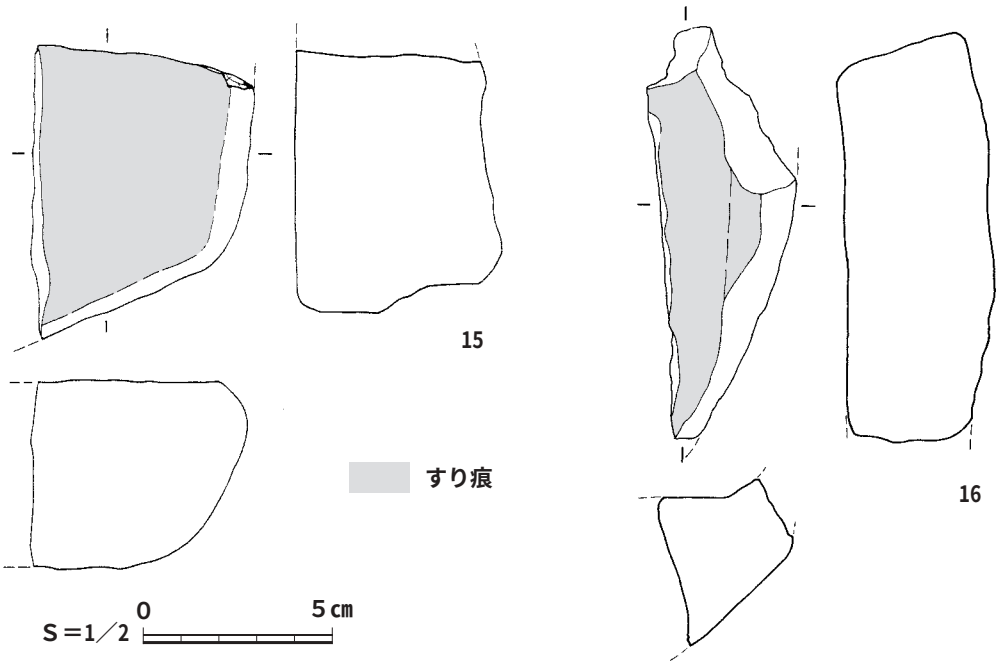
S095から出土した遺物は、小グレーコンテナ(38cm×58cm×５cm）に約４箱分で、総重量21,484gであった。内訳は、縄文土器42g（２片)、弥生土器21,021g（内丹塗り土器は1,321g)、中世の瓦質土器397g・須恵質土器24gであった。



図(Fig)75　S095出土遺物実測図（１）



図(Fig)76　S095出土遺物実測図（２）



図(Fig)77 S095出土遺物実測図（３）

［出土遺物の観察］

土器の様相は、甕や壺の口縁部は、ほとんどが黒髪式土器の範疇で捉えられるものであったことから、弥生時代中期後半期の土器と判断した。

ここでは、12点の土器と４点の土器を紹介する。

１、８は、甕形土器の口縁部と底部である。丹塗りが施され、いずれも須玖Ⅱ式土器であり、同一固体の可能性がある。いずれも一括資料である。

２は、甕形土器の口縁部である。丹塗りは施されていないが、口縁端部がややM字状にくぼんでおり、須玖Ⅱ式土器の影響が強い。

３、５、７は、甕形土器の口縁部と胴部である。口縁形態が黒髪式土器の特徴を呈している。３は、頸部下に１条の突帯が巡る。５は、胴部上半部に１条の沈線が巡る。５は、点上げ遺物であるが、３、７は一括遺物である。

４は、甕形土器の脚台部である。外面にハケ目、内面に指頭圧痕が残る。一括資料である。

６は、壺形土器の口縁部であり、一括資料である。

９、10は、鉢形土器である。９は、口縁形態から黒髪式土器の特徴を呈している。10は、ボール状の形態を呈している。いずれも一括遺物である。

11は、高杯形土器の杯部である。内外面ともに丹塗りが施されている。口縁部に暗文が残る。口縁部が鋤先状にやや曲がり、端部がややM字状にくぼんでいることから、須玖Ⅱ式土器の特徴と捉えることができよう。胎土の色調は肌色で明るい。

12は、高杯形土器の脚部である。外面にはミガキ痕、内面にはハケ目と絞り痕が残る。点上げ遺物。

13は、変成岩の砥石である。３面に研ぎ痕が観察される。一括資料である。

14は、頁岩製の石包丁である。両端が欠損している。穿孔された穴が１ヶ所のみ残っている。点上げ遺物である。

15は、板状の石皿である。石材は流紋岩質と考えられる。欠損しているが、上面に磨り痕が見られる。一括資料で、出土層位は不明である。

16は淵有りの石皿である。石材は安山岩質と考えられる。ほとんどが欠損しており、部分的しか残存していないが、上面に磨り痕が見られる。一括資料で層位は不明である。

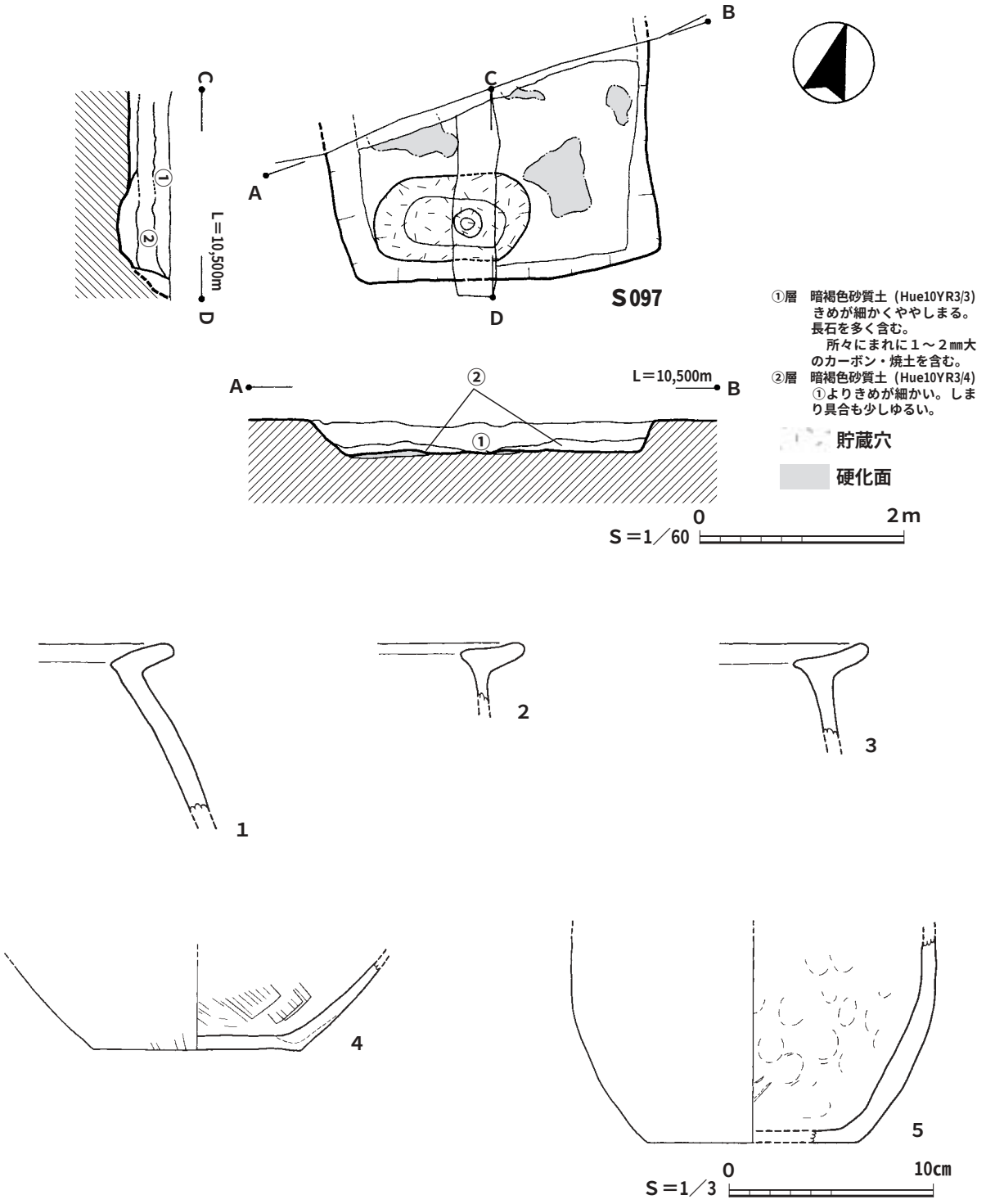
【S142】（図74参照）

［確認位置］調査１区、Ｅ－５グリッド。

標高約10.26m。

［形状］方形？（詳細は不明）

［大きさ］１辺の大きさ185㎝～、深さ：10㎝。



図(Fig)78　住居跡（S097）実測図及び出土遺物実測図

［住居内覆土］１層。

［主柱穴］不明。

［炉］不明。

［貯蔵穴］不明。

［硬化面］無し。

［張り床］無し。

［切り合い関係］S094、95から切られる。

［特記事項］

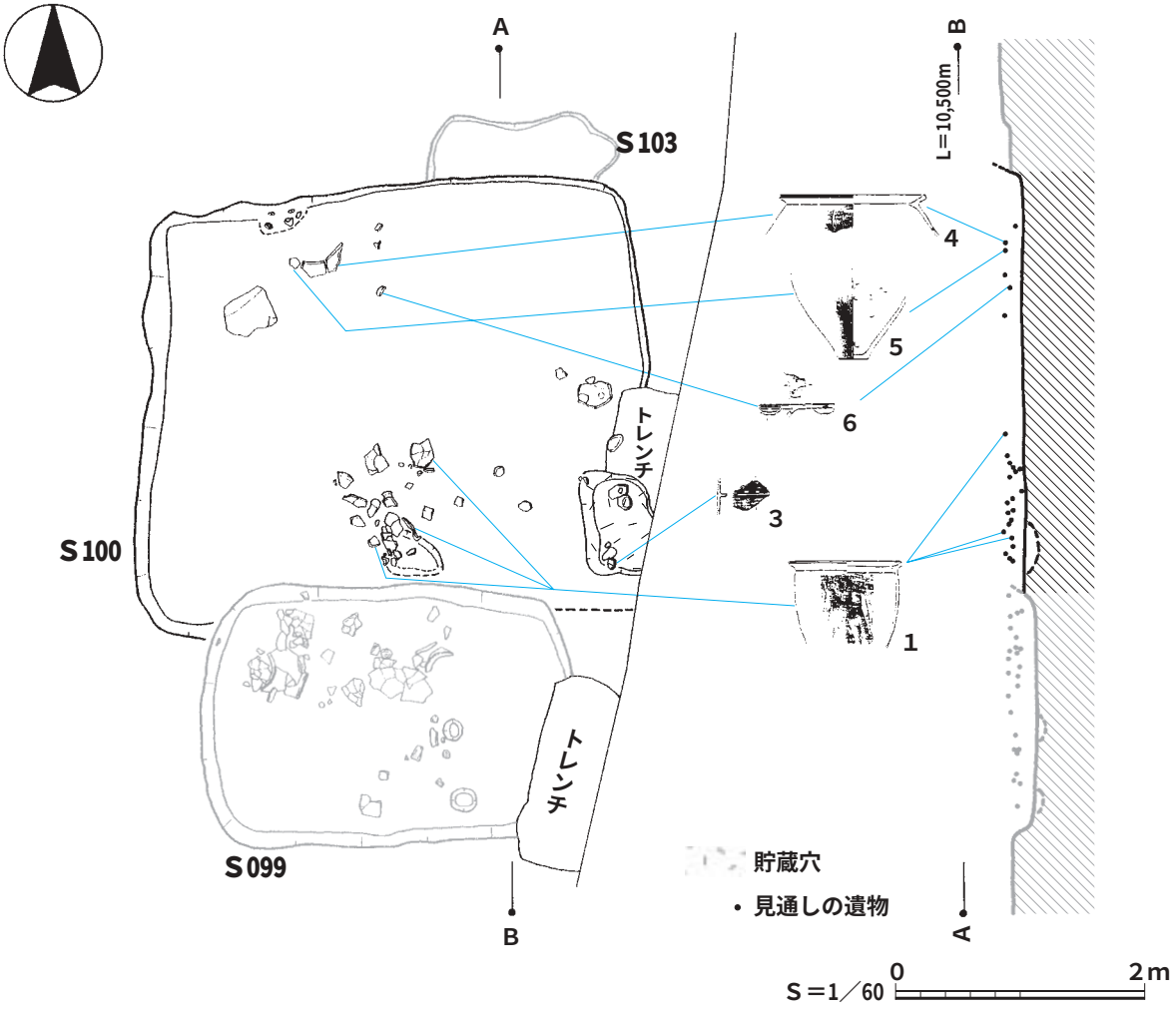
・出土遺物はない。切り合い関係から弥生時代中期後半期と判断した。

［遺物の出土状況］出土遺物無し。

【S097】（図78参照）

［確認位置］調査１区、C、D－４、５グリッド。

標高約10.2m。



図(Fig)79　住居跡（S100）実測図

［形状］方形

［大きさ］長軸：400cm、短軸：355cm、深さ：15～17cm。

［住居内覆土］１層。

［主柱穴］不明。

［炉］不明。

［貯蔵穴］有り。大きさ155×80cmで深さ約18cm。中に焼土、カーボンが混入。

［硬化面］無し。

［張り床］無し。

［切り合い関係］S103を切り、S099に切られる。

［遺物の出土状況］床面からやや浮いた状態で出土。遺構廃絶後の遺物として捉えたい。

［出土遺物量］

S097から出土した遺物は、小グレーコンテナ（38cm×58cm×５cm）に約１箱分で、総重量2,356gであった。内訳は、縄文土器179g（14片）、弥生土器2,177g（内丹塗り土器は77g）であった。

［出土遺物の観察］

土器の様相は、甕や壺の口縁部は、ほとんどが黒髪式土器の範疇で捉えられるものであったことから、弥生時代中期後半期の土器と判断した。

ここでは、５点の土器を紹介する。

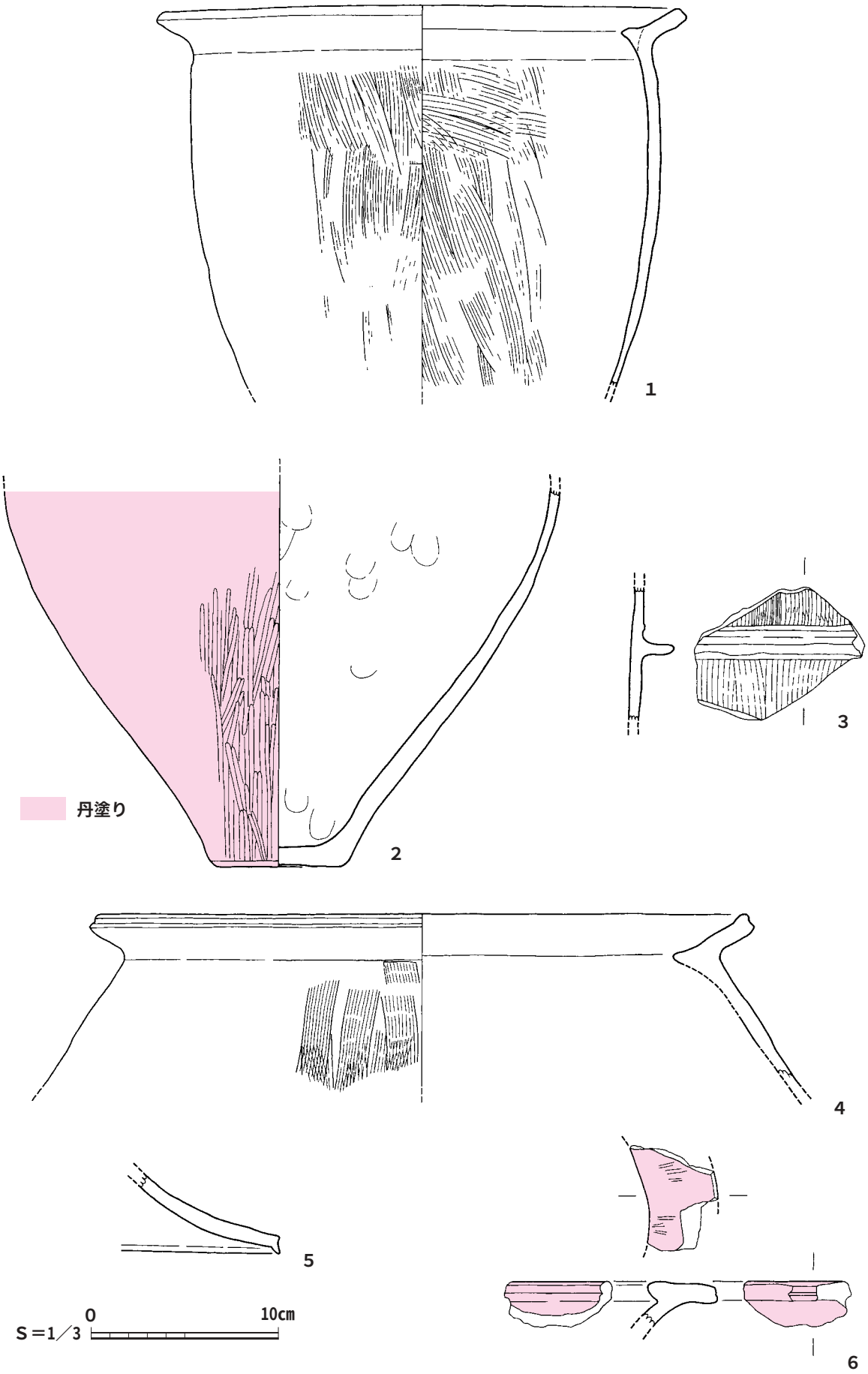
１、２、３は、甕形土器の口縁部である。２、３は黒髪式土器の特徴を呈しているが、１はやや後期的な様相を感じさせる。いずれも一括資料である。

４は、壺形土器の底部と考えられる。内面にハケ目が残る。１層からの出土である。

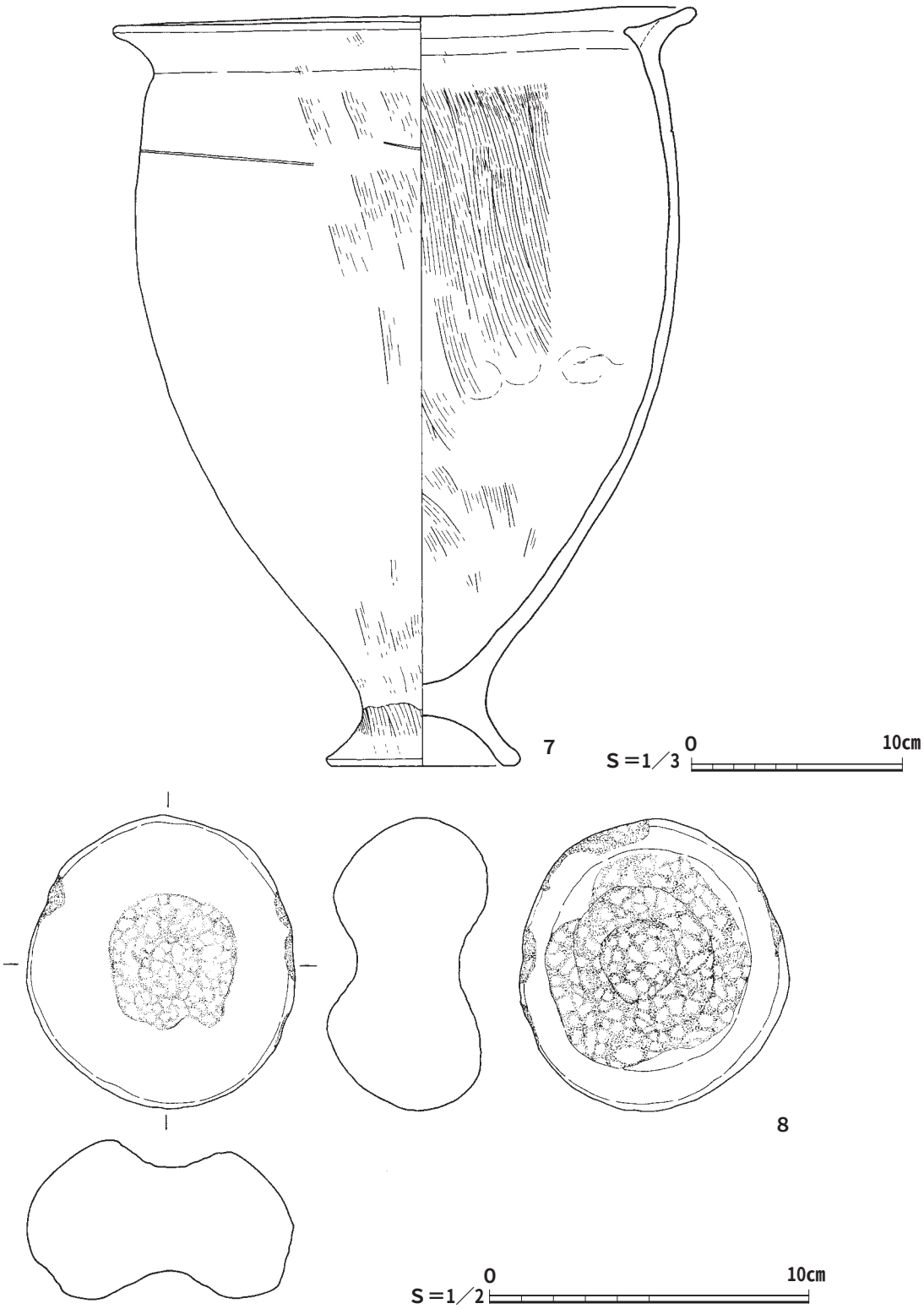
５は、壺形土器の底部及び胴部下半部である。内面に指頭圧痕が残る。１層からの出土である。

【S100】（図79～81参照）

［確認位置］調査１区、C、D－４、５グリッド。標高約10.2m。



図(Fig)80　S100出遺物実測図（１）



図(Fig)81　S100出土遺物実測図（２）

［形状］方形

［大きさ］長軸：300cm、短軸：205cm～、深さ：40cm。

［住居内覆土］３層。

［主柱穴］不明。

［炉］不明。

［貯蔵穴］有り。大きさ70×100cmで深さ約20cm。

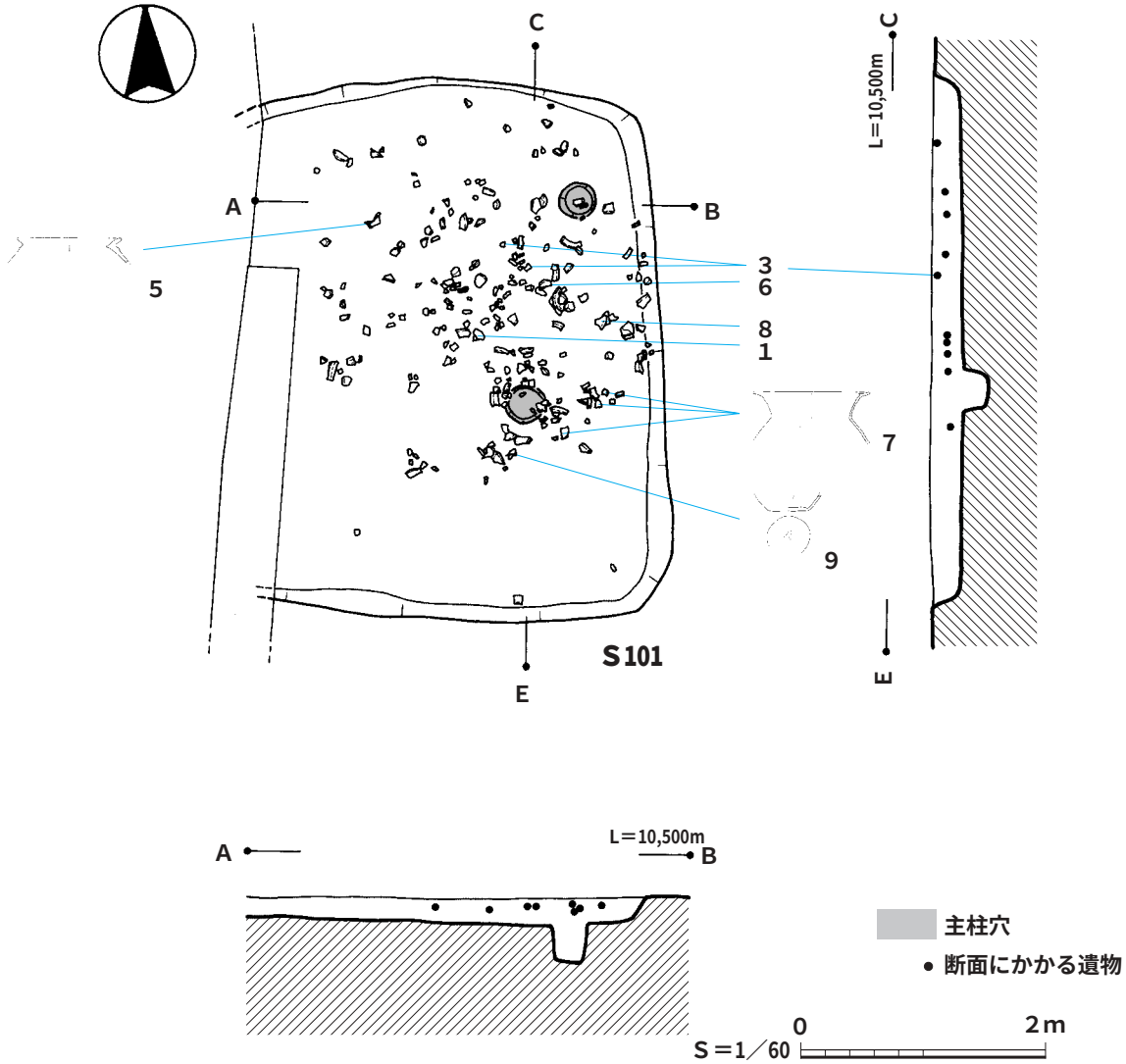
［硬化面］有り。

［張り床］部分的に確認。

［切り合い関係］無し。

［特記事項］

・形態及び貯蔵穴から住居跡と判断。



図(Fig)82　住居跡（S101）実測図

［遺物の出土状況］床面で出土。遺構に伴うか廃絶後間もない遺物として捉えたい。

［出土遺物量］

S100から出土した遺物は、小グレーコンテナ(38㎝×58㎝×５㎝）に約１箱分で、総重量17,808gであった。内訳は、縄文土器８ｇ（１片)、弥生土器17,800g（内丹塗り土器は2,688g）であった。

［出土遺物の観察］

土器の様相は、甕や壺の口縁部は、ほとんどが黒髪式土器の範疇で捉えられるものであったことから、弥生時代中期後半期の土器と判断した。

ここでは、７点の土器と１点の石器を紹介する。

１は、甕形土器の口縁部及び胴部である。内外面にハケ目が残り、黒髪式土器の特徴を呈している。点上げ遺物29点、上層１点、S099上層１点の計31点が接合している。

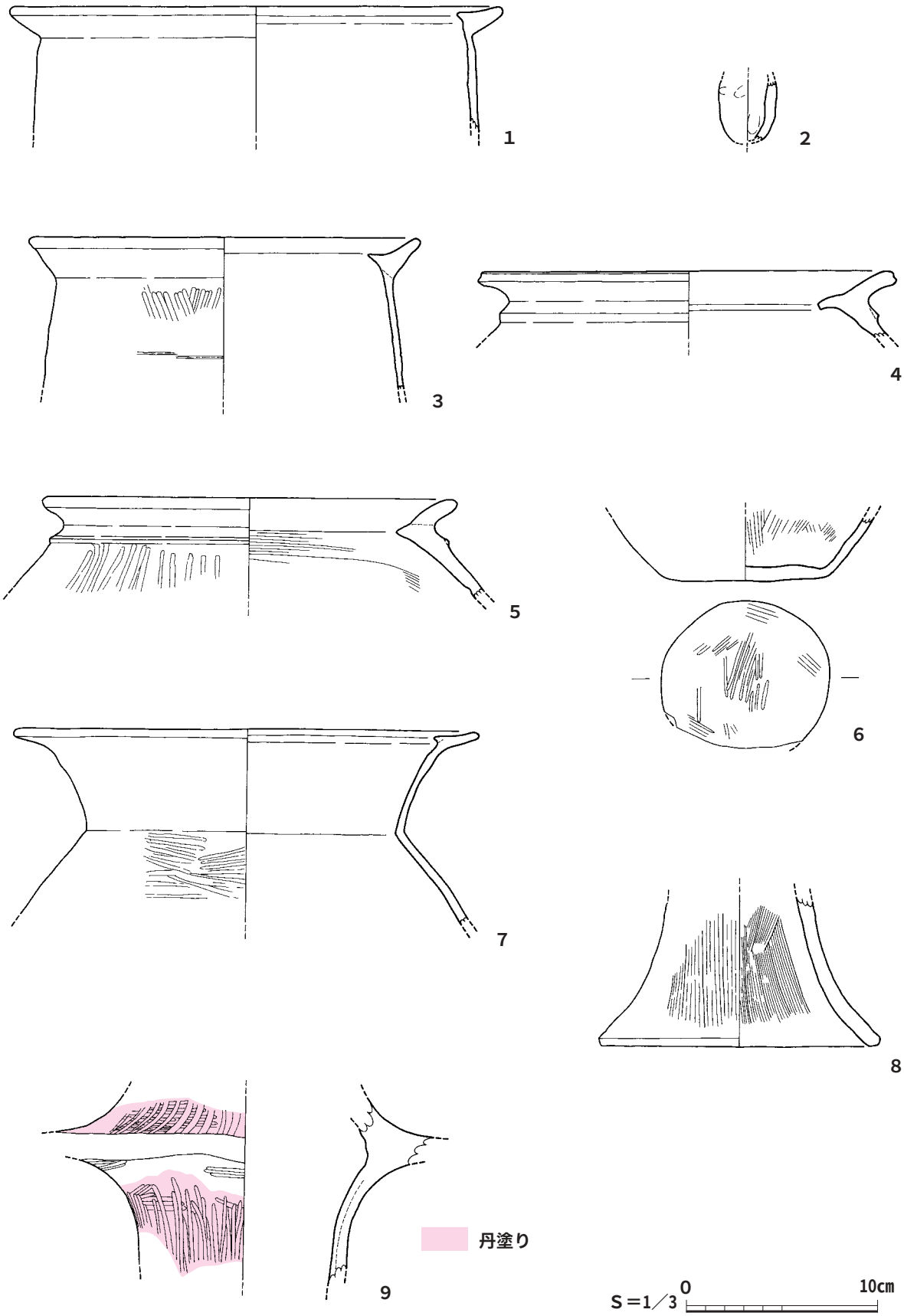
２は、甕形土器の胴部下半部である。外面はミガキ後丹塗りが施され、内面は指頭圧痕が残る。須玖Ⅱ式土器といえよう。一括遺物５点が接合している。

３は、壺形土器の胴部である。約1.5㎝の突帯が巡る。点上げ遺物である。

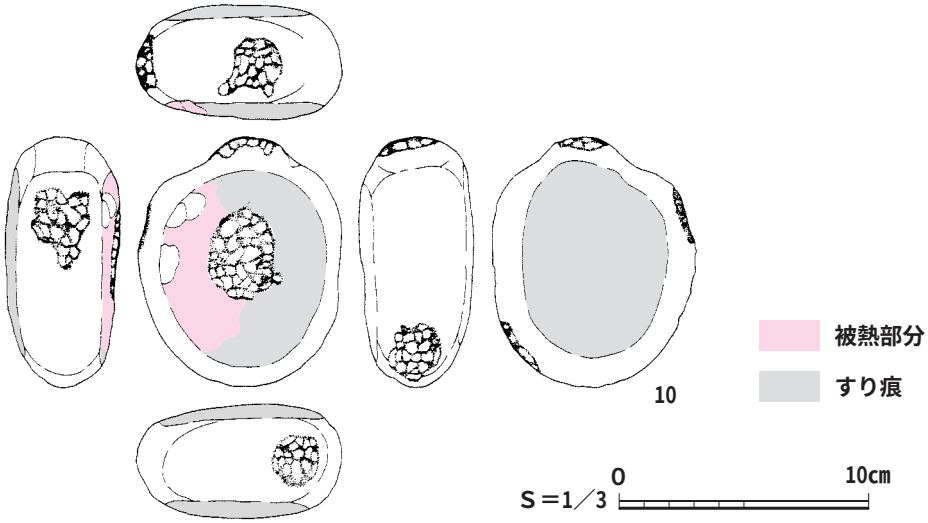
４は、甕形土器の口縁部である。外面にハケ目が残る。口縁端部がややM字状にくぼむ。立岩式の甕感といえよう。点上げ遺物３点が接合している。

５は、高杯形土器の脚部である。端部が先細りする。点上げ遺物である。

６は、高杯形土器の口縁部である。内外面ともに丹塗りが施されている。口縁部に暗文が残る。口縁部が鋤先状にやや曲がり、端部がややM字状にくぼんでいることから、須玖Ⅱ式土器の特徴と捉えることができよう。



図(Fig)83　S101出土遺物実測図（１）



図(Fig)84　S101出土遺物実測図（２）

７は、黒髪式土器の特徴を呈している甕形土器のほぼ完形固体である。内外面にハケ目が残る。外面の胴部上半部に沈線が１条巡るが、完全につながっていない。点上げ遺物と一括遺物の計48点が接合している。

８は、凹石である。石材は、安山岩質であると考えられる。表裏面に敲打痕による凹面と側面に敲打痕が見られる。点上げ遺物である。

【S101】（図82～84参照）

［確認位置］調査１区、Ｊ、Ｋ－８グリッド。
標高約10.13m。

［形状］方形

［大きさ］長軸：425㎝、短軸：325㎝～、深さ：20～25㎝。

［住居内覆土］１層。

［主柱穴］位置が少しずれるが２本？。だとすれば全体では４本か？径25～30㎝。深さ20～30㎝。

［炉］無し。

［貯蔵穴］無し。

［硬化面］無し。

［張り床］無し。

［切り合い関係］無し。

［特記事項］

・形態から住居跡と判断した。しかしいささか疑問は残る。

［遺物の出土状況］床面からやや浮いた状態で出土。遺構廃絶後の遺物として捉えたい。

［出土遺物量］

S101から出土した遺物は、小グレーコンテナ(38㎝×58㎝×５㎝）に約２箱分で、総重量20,640gであった。内訳は、縄文土器40g（３片)、弥生土器20,600g（内丹塗り土器は2,268g）であった。

［出土遺物の観察］

土器の様相は、甕や壺の口縁部は、全て黒髪式土器の範疇で捉えられるものであったことから、弥生時代中期後半期の土器と判断した。

ここでは、９点の土器と１点の石器を紹介する。

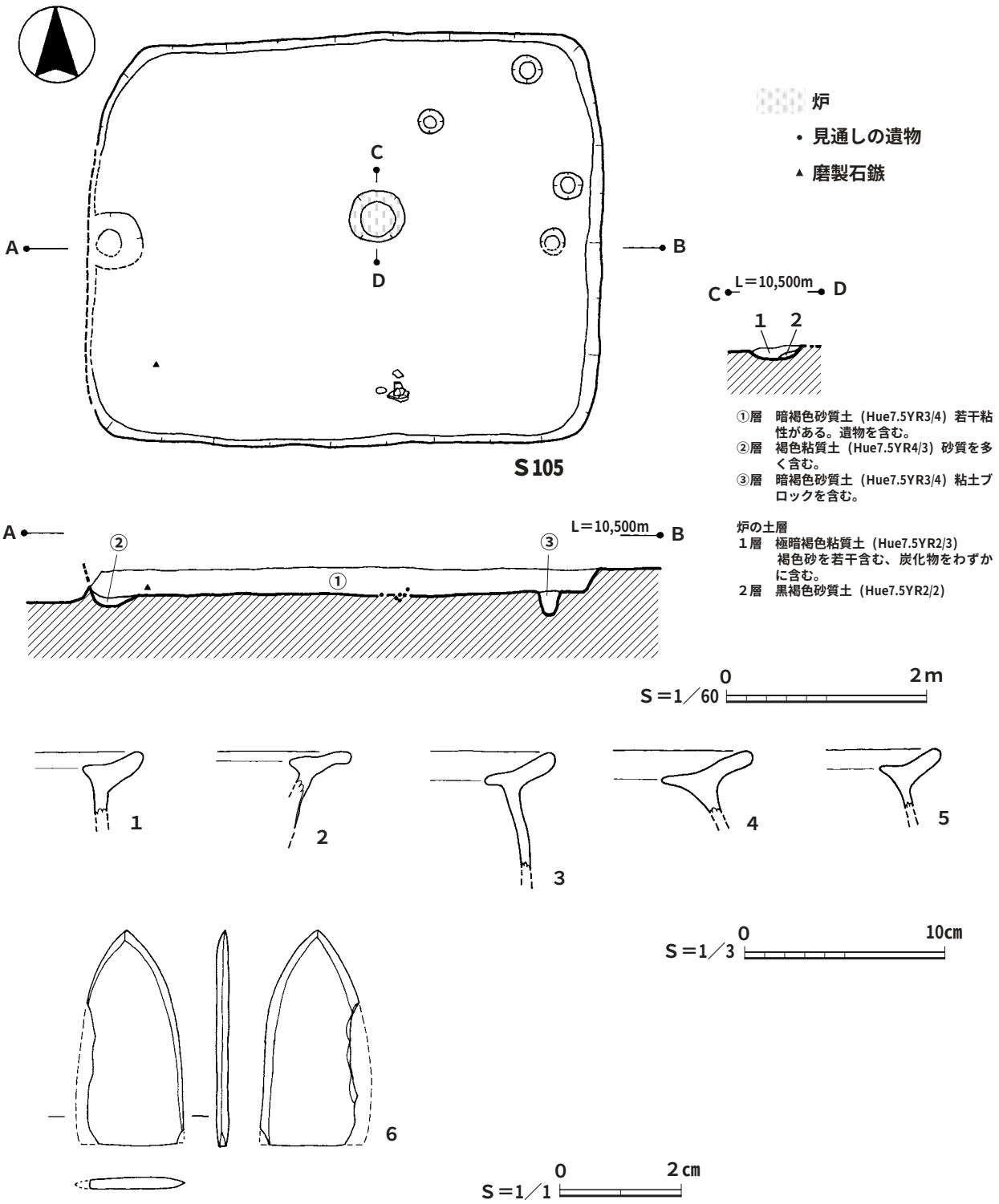
１、３は、甕形土器の口縁部及び胴部である。３には外面に沈線とミガキ痕が残る。いずれも点上げ遺物で、黒髪式土器の特徴を呈している。３は５点が接合している。

２は、ミニチュア土器の胴部と考えられる。上層からの出土である。

４、５は、甕形土器の口縁部である。４の口縁部は、立岩式甕棺の特徴を表している。５は、外面にミガキ痕、内面にハケ目が残る。４、５いずれも頸部に１条の突帯が１条巡っている。点上げ遺物であるが、５は５点が接合している。

６は、壺形土器の底部である。内面と底部にハケ目が残る。点上げ遺物である。

７は、壺形土器の口縁部及び胴部上半部である。外面にはミガキ痕が残る。上層遺物１点と点上げ遺



図(Fig)85　住居跡（S105）実測図及び出土遺物実測図

物13点の計14点が接合している。

８は、器台の胴部下半部である。内外面にハケ目が残る。点上げ遺物である。

９は、丹塗りの筒型器台の環部である。外面にはミガキ後、丹塗りが施されている。須玖Ⅱ式土器として把握可能であろう。点上げ遺物である。胎土の色調は肌色で明るい。胎土分析の資料である。

10は磨り石である。石材は安山岩質と考えられる。表裏面に磨り痕が見られ、表面の中央部と側面には敲打痕が見られる。また、表面には被熱による赤変が見られる。点上げ遺物である。

【S105】（図85参照）

［確認位置］調査１区、Ｊ、Ｋ－８、９グリッド。

標高約10.20m。

［形状］方形

［大きさ］長軸：500㎝、短軸：400㎝、深さ：25㎝。

［住居内覆土］１層。

［主柱穴］不明。(付近の４つのピットは径25～30㎝。深さ21～25㎝。)

［炉］大きさ50×55㎝で深さ約12㎝。２層に分層可能。

［貯蔵穴］無し。

［硬化面］無し。

［張り床］無し。

［切り合い関係］S101から切られる。

［特記事項］

・炉の存在から住居跡と判断した。平面図にある南側隅の土器集中部は、甕の胴部片である。

［遺物の出土状況］ほぼ床面から出土。遺構廃絶直後の遺物として捉えたい。

［出土遺物量］

S105から出土した遺物は、小グレーコンテナ(38㎝×58㎝×５㎝）に約２箱分で、総重量6,973gであった。内訳は、縄文土器673g（31片)、弥生土器6,300g（内丹塗り土器は322g）であった。

［出土遺物の観察］

土器の様相は、甕や壺の口縁部は、全て黒髪式土器の範疇で捉えられるものであったことから、弥生時代中期後半期の土器と判断した。

ここでは、５点の土器と１点の石器を紹介する。

１、３、４、５は、甕形土器の口縁部である。いずれも一括遺物で、黒髪式土器の特徴を呈している。

２は、高杯形土器の口縁部である。一括遺物で、黒髪式土器の特徴を呈している。

６は、蛇紋岩製の磨製石鏃である。

【S106】（図86～103参照）

［確認位置］調査１区、K、Ｌ－９、10グリッド。標高約10.0m。但し断面では、10.1m。

［形状］ややいびつな方形

［大きさ］長軸：815㎝、短軸：500㎝～、深さ：約60㎝。

［住居内覆土］９層に細分。１～３層を上層、４～７層を下層、８層を炉内の焼土、９層を張り床層とした。床面を最下層と表現した。色調的には１、２層が暗褐色～黒褐色で、黒っぽく見える。４層は、やや粗めの砂質土で、ラミナ構造が見られることから、洪水などで流されて一気に堆積した可能性が考えられる。

［主柱穴］全体で４本と考えられる。３本は確認。

Ｐ１：径60×65㎝。深さ45～50㎝。

Ｐ２：径60×40㎝～。深さ35～40㎝。

Ｐ３：径65×60㎝～。深さ30～40㎝。

［炉］大きさ37～×107㎝で深さ約20㎝。

［貯蔵穴］不明。

［硬化面］有り。

［張り床］有り。断面観察により、花崗岩のバイランドである山砂を５～10㎝敷き詰めてあった。

［切り合い関係］S092、148を切り、58に切られる。

［特記事項］

・遺物の出土層位については、上層（①～③層、④上層)、下層（④下層、⑤～⑦層)、最下層（床面及び⑧、⑨層上面）という表記を行った。

・炉内出土の炭化物で^{14}Ｃ年代（AMS法）を行った結果、Cal BC 205-95（85%）の年代が出ている。

［遺物の出土状況］床面直上及び床面からやや浮いた状態で出土。上層は住居廃絶後しばらく経ってからの遺物、下層は住居廃絶後の間もない遺物、床面直上は住居廃絶時の遺物として捉えたい。

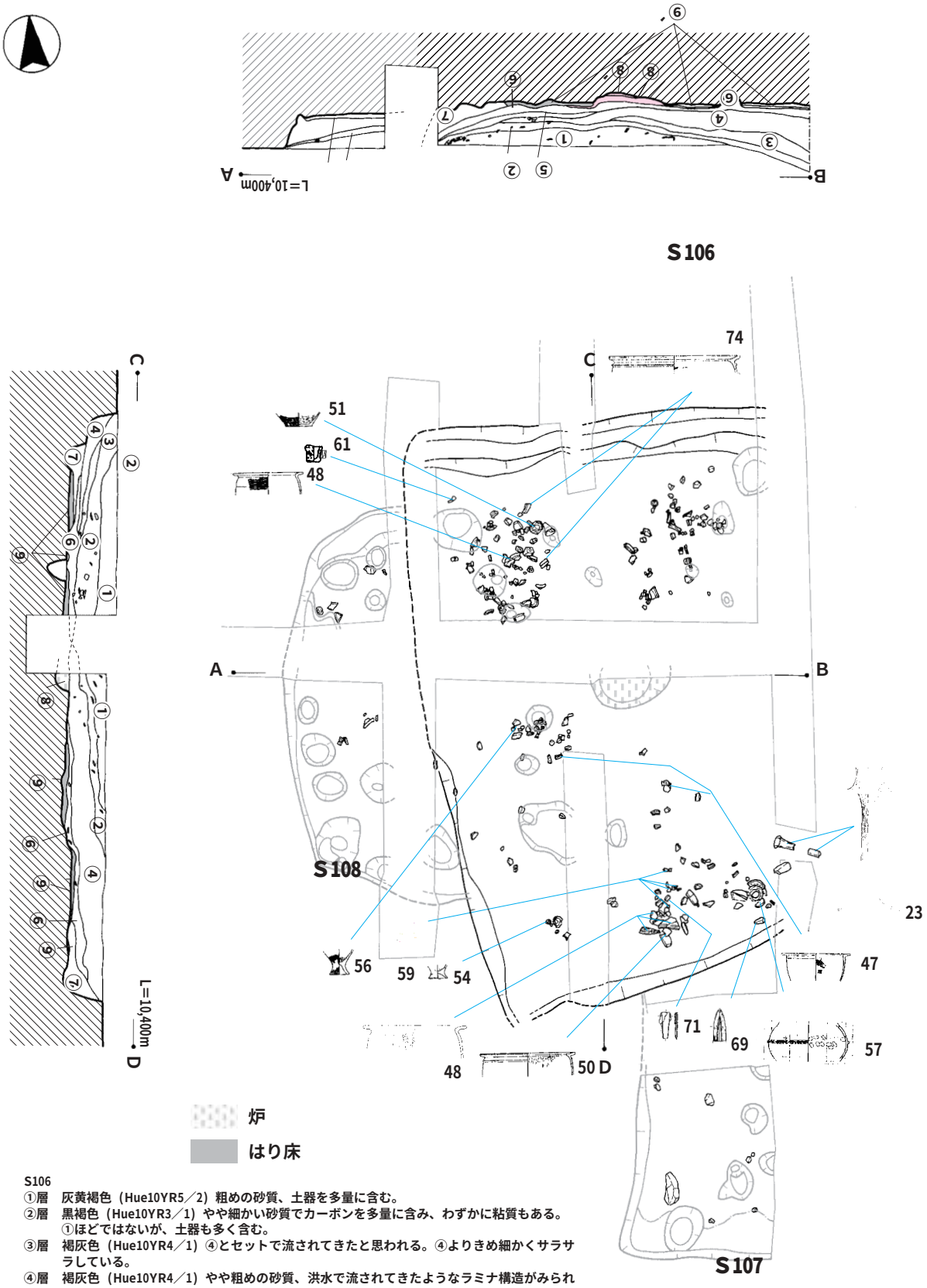
［出土遺物量］

S106から出土した遺物は、中グレーコンテナ(38㎝×58㎝×15㎝)に約30箱程度で、総重量166,094gであった。内訳は、縄文土器1,140g（20片)、弥生土器164,939g（内丹塗り土器は13,650g）中世の青磁15gであった。

［出土遺物の観察］

土器の様相は、甕や壺の口縁部は、ほとんど全てが黒髪式土器の範疇で捉えられるものであったことから、弥生時代中期後半期の土器と判断した。但し、口縁部形態を観察する限りでは、中期から後期への移行期ともとれる土器も数点含まれている。

上層、下層の中には丹塗りの須玖Ⅱ式土器が含まれており、特に上層からは丹塗りの筒型器台やガラス小玉が出土していることを考えれば、埋没過程で祭祀行為が行われたことを推測させる。



S106
①層　灰黄褐色（Hue10YR5／2）粗めの砂質、土器を多量に含む。
②層　黒褐色（Hue10YR3／1）やや細かい砂質でカーボンを多量に含み、わずかに粘質もある。①ほどではないが、土器も多く含む。
③層　褐灰色（Hue10YR4／1）④とセットで流されてきたと思われる。④よりきめ細かくサラサラしている。
④層　褐灰色（Hue10YR4／1）やや粗めの砂質、洪水で流されてきたようなラミナ構造がみられる。土器をほとんど含まない。
⑤層　黒褐色（Hue10YR3／1）カーボンや灰を多く含んでいるためか粘質があり、きめが細かい。
⑥層　灰黄褐色（Hue10YR4／2）粗めの砂質で黄色っぽい地山が山砂をブロック状に含む。また、カーボンを多量に含む。
⑦層　灰黄褐色（Hue10YR4／2）粗めの砂質で黄色っぽい地山が山砂をブロック状に含む。
⑧層　黒色（Hue10YR2／1）灰とカーボンを多量に含むため、ペタペタするほどきめが細かい。
⑧′層　赤褐色（Hue2.5YR4／6）焼土。
⑨層　褐色（Hue10YR4／6）山砂のはり床である。砂質であるが粘質もみられ、床面に張ってあるため硬くしまっている。

図(Fig)86　住居跡（S106）実測図（１）

図(Fig)87　住居跡（S106）実測図（２）

最下層出土の黒髪式土器の中には、口縁基部が厚い古手の様相を示す土器も混在している。しかしS108から出土した黒髪式土器の口縁蓋部は、それほど肥厚しておらず、新旧関係より不明な点が残る。

【上層】

ここでは、36点の土器と10点の石器を紹介する。

１、２、４は、甕形土器の口縁部及び胴部上半部である。内外面にはハケ目が残り、口縁部は黒髪式土器の特徴を呈しているが、２は非常に器壁が薄い。１は12点、４は、10点が接合している。

３は、甕形土器の口縁部である。頸部下に１条の突帯が巡る。口縁部は立岩式土器の特徴を呈する。

５、６は、甕形土器の底部である。内外面にはハケ目、内面には指頭圧痕が残る。上層一括の遺物で

ある。６は、４点が接合している。

７は、甕形土器の口縁部であるが、やや後期の様相を呈する。外面にはハケ目後、沈線が１条巡る。

８は、甕形土器の口縁部及び胴部である。外面にはハケ目、内面には指頭圧痕が残る。10点が接合。

９は、非常に特殊な突手を持つ甕形土器の口縁部である。類例が南小国町の地蔵原遺跡で出土している。実用的でないことから、祭祀等の儀式に使用された可能性が高い。黒髪式土器の特徴を呈している。

10は、甕形土器の口縁部であるが、口縁部がやや片口状にへこみを持つ。焼く前に偶然へこんだのか、水などを注ぎやすくするために故意にへこみを持たせたのかは不明である。黒髪式土器の特徴を呈している。

11、12は、甕形土器の口縁部及び胴部上半部である。いずれも頸部下に１条の突帯を持つが、口縁部形態に差異がある。11は、黒髪式土器の様相を呈するが、12は、やや後期的な様相を呈する。11は２点が接合している。

13は、壺形土器の口縁部である。頸部下に１条の突帯を持ち、黒髪式土器の様相を呈する。２点が接合している。

14は、壺形土器の底部及び胴部である。胴部中央部にややM字状の突帯が１条巡る。中央部付近に丹塗りの可能性がある赤いシミ状のものが確認できる。

15は、壺形土器の底部及び胴部下半部である。外面にはハケ目が残る。３点が接合している。

16は、壺形土器の底部及び胴部下半部と考えられる。内外面にハケ目が残る。底面がややレンズ状に膨らむことから後期的な様相が強い。６点が接合。

17は、無頸壺の口縁部及び胴部上半部と考えられる。外面にはハケ目後ミガキ痕が残り、内面には指頭圧痕が残る。また、蓋を結ぶために穿孔がみられる。６点が接合している。

18、21は、甕形土器の口縁部及び胴部上半部である。18は、外面はハケ目後、ミガキ痕が、内面はハケ目が残る。３点が接合している。21は、外面にミガキ痕が残る。口縁部形態は、立岩式に酷似する。

19、20、22は、壺形土器の口縁部及び胴部上半部である。19は、内外面にハケ目が残り、口縁は真っ直ぐに外反する。20は、内外面にハケ目が残り、口縁はやや屈曲しながら外反する。22は、外面にハケ目、内面に指頭圧痕が残り、頸部に１条の突帯、胴部上半部と胴部中央に１条ずつの刻み目突帯が巡る。７点が接合している。

23は、丹塗りの筒型器台である。出土した部位は円筒部の上半部から環部及び口縁部、裾部の破片である。円筒部の上半部から環部の一部はほぼつながって出土した。裾部の破片については、胎土が同じであることや、環部の笠の部分には暗文があるのに対してこの破片には無いことから裾部と判断した。そして、円筒部の下半部から脚部が発見されていないが、吉野ヶ里遺跡や、地蔵原遺跡出土の丹塗り筒型器台の例を参考にして、復原を試みた。胎土の色調は、暗く、在地の様相を示す。胎土分析の資料である。

その結果、残存部の器高49.7㎝、筒部幅7.6㎝、環部残存幅23.8㎝、口縁部直径14.8㎝であり、復原高：約76㎝、復原裾部直径：約32.5㎝、復原環部笠直径：28.6㎝という数値を得た。

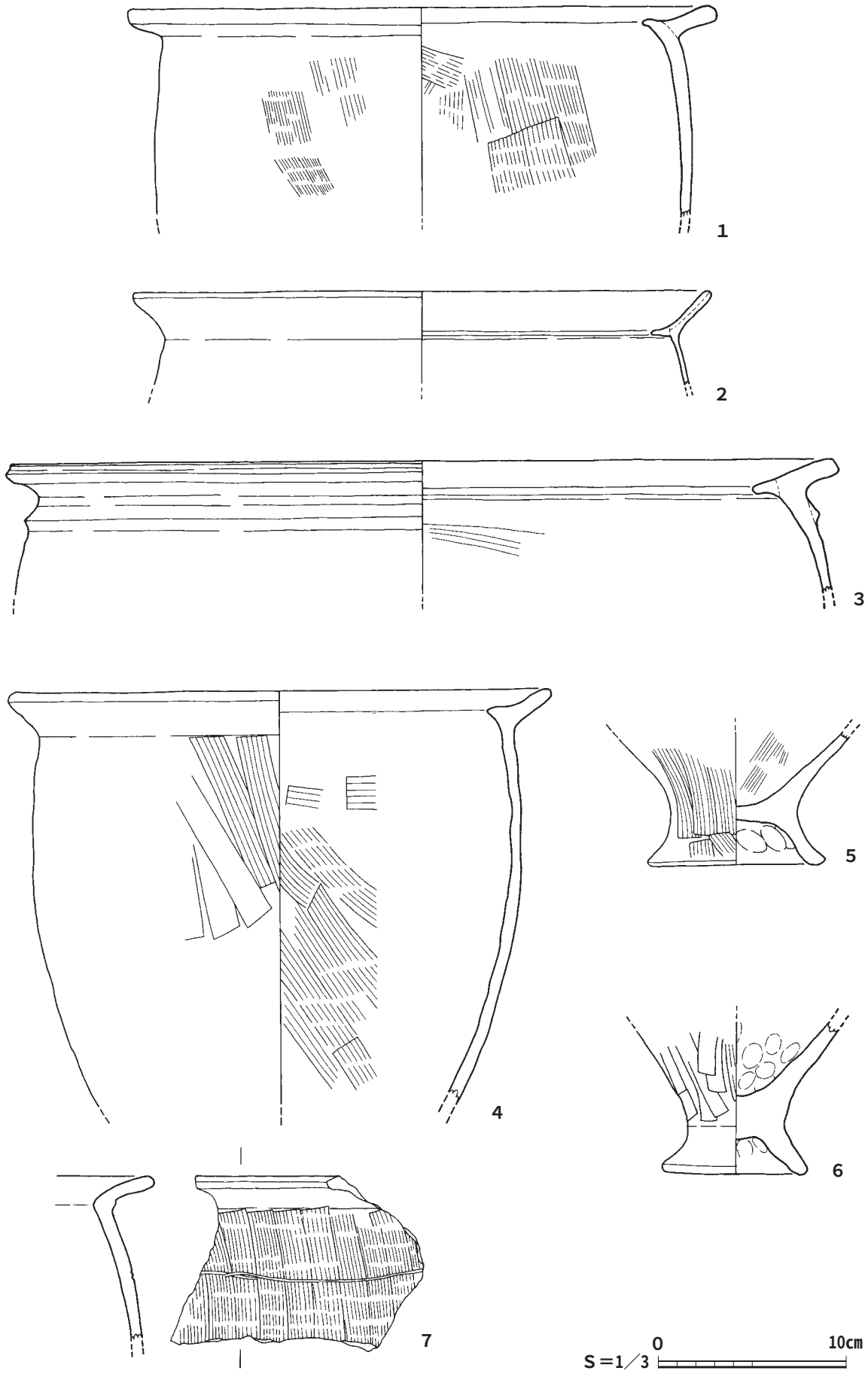
外面は丁寧なミガキ後、丹塗りが施されている。内面は口縁部や裾部はナデ後、一部丹塗りが施されているが、円筒部は、しぼりの後ナデや工具による調整痕が見られる。

24、25は、ミニチュア土器である。24は、壺か甕の胴部下半部であると考えられる。25は完形である。鉢を模したものであろうか。

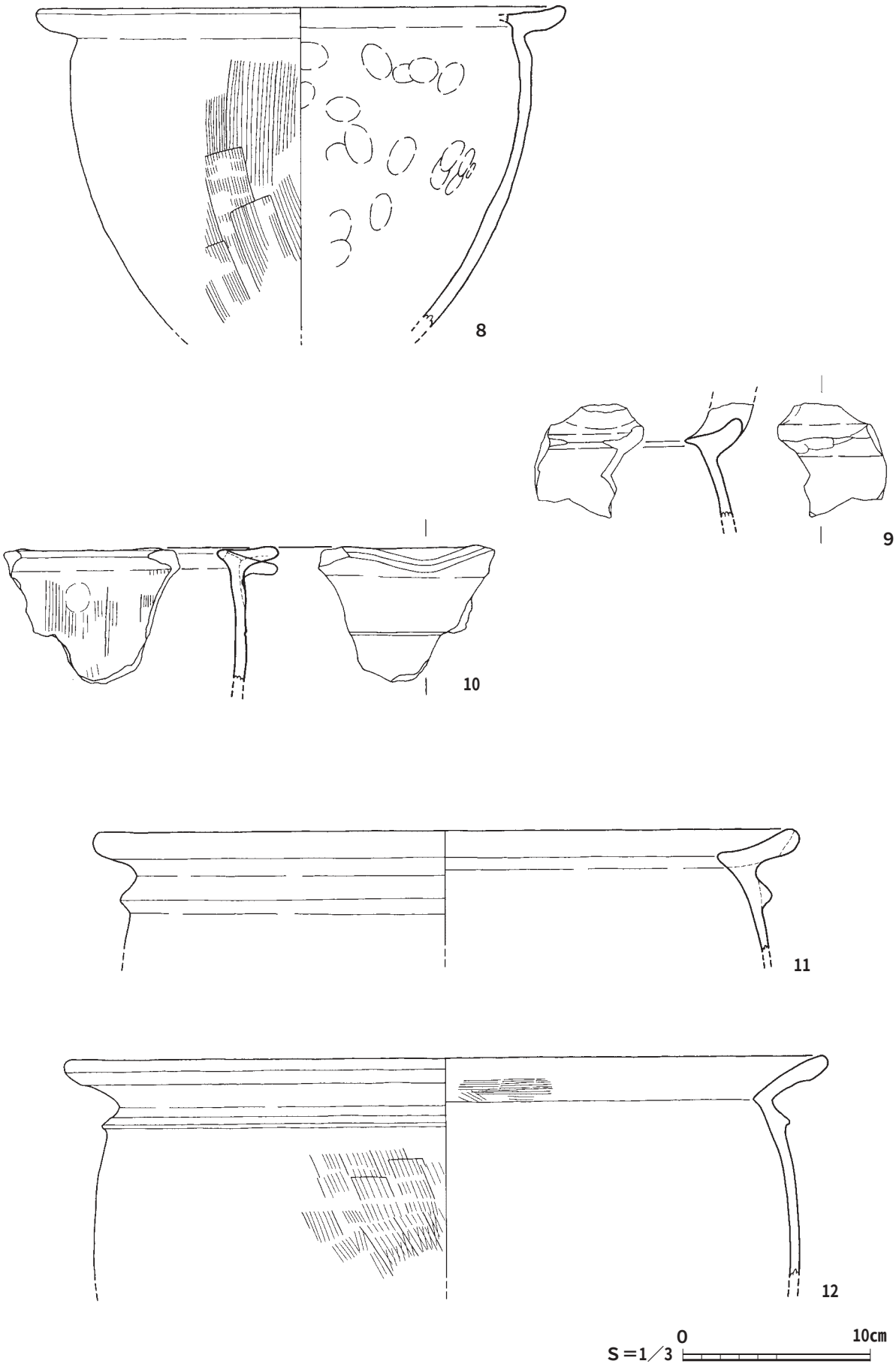
26は、丹塗りの甕形土器の口縁部である。外面にハケ目、口縁部には暗文が見られる。丹塗りは一部内面にも及んでいる。須玖Ⅱ式土器の影響を受けた土器であろう。４点が接合している。胎土の色調は、肌色で明るい。

27は、丹塗りの高杯形土器の杯部である。外面はハケ目後丹塗り、内面はミガキ後丹塗りが施されている。口縁部の形態から、須玖Ⅱ式土器の範疇で捉える事ができる土器であるといえよう。胎土の色調は、肌色で明るい。

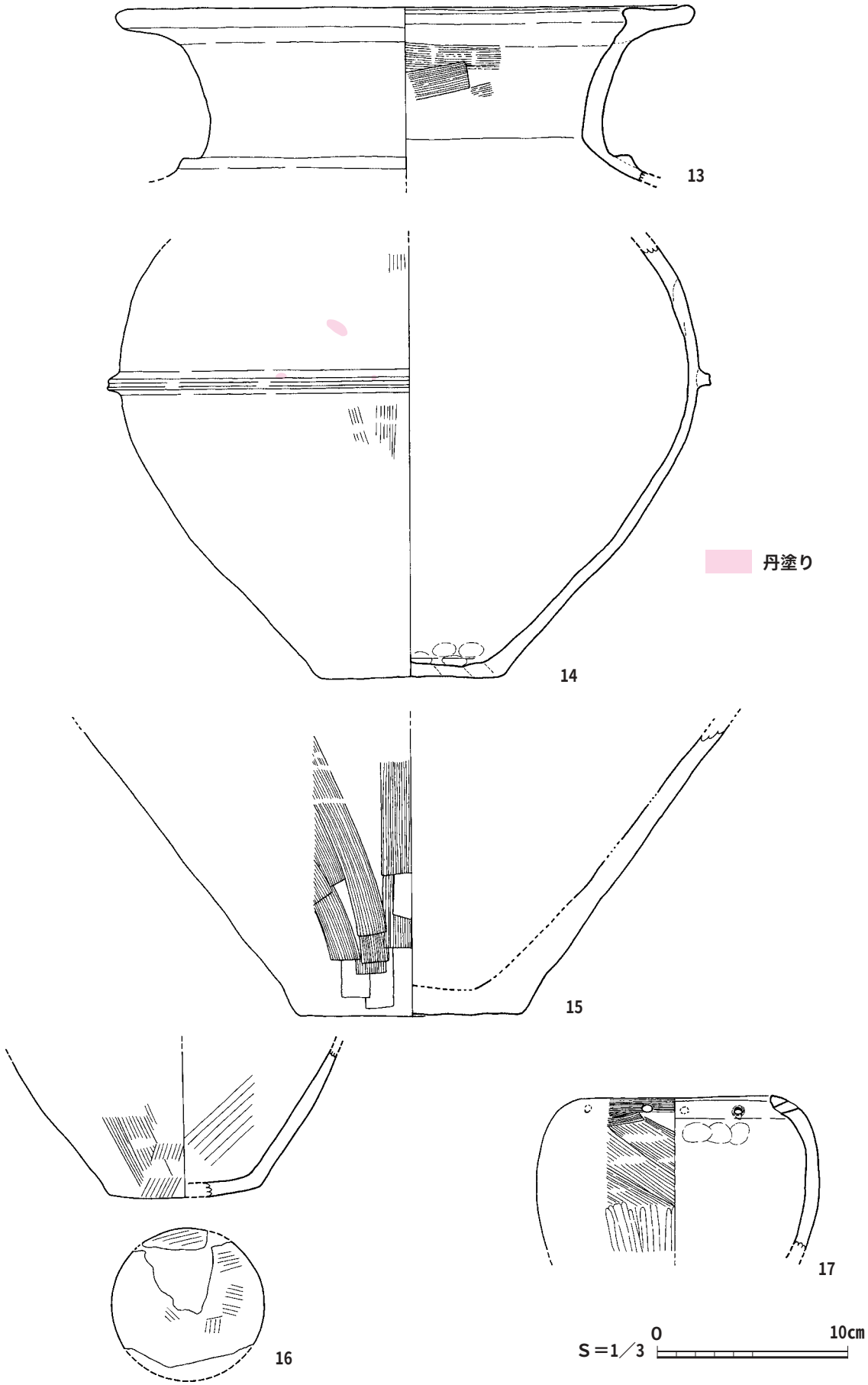
28は、丹塗りの高杯形土器の杯部である。外面はハケ目後丹塗り、内面は丹塗りが部分的にしか残存していない。口縁部の形態から、黒髪式土器の影響



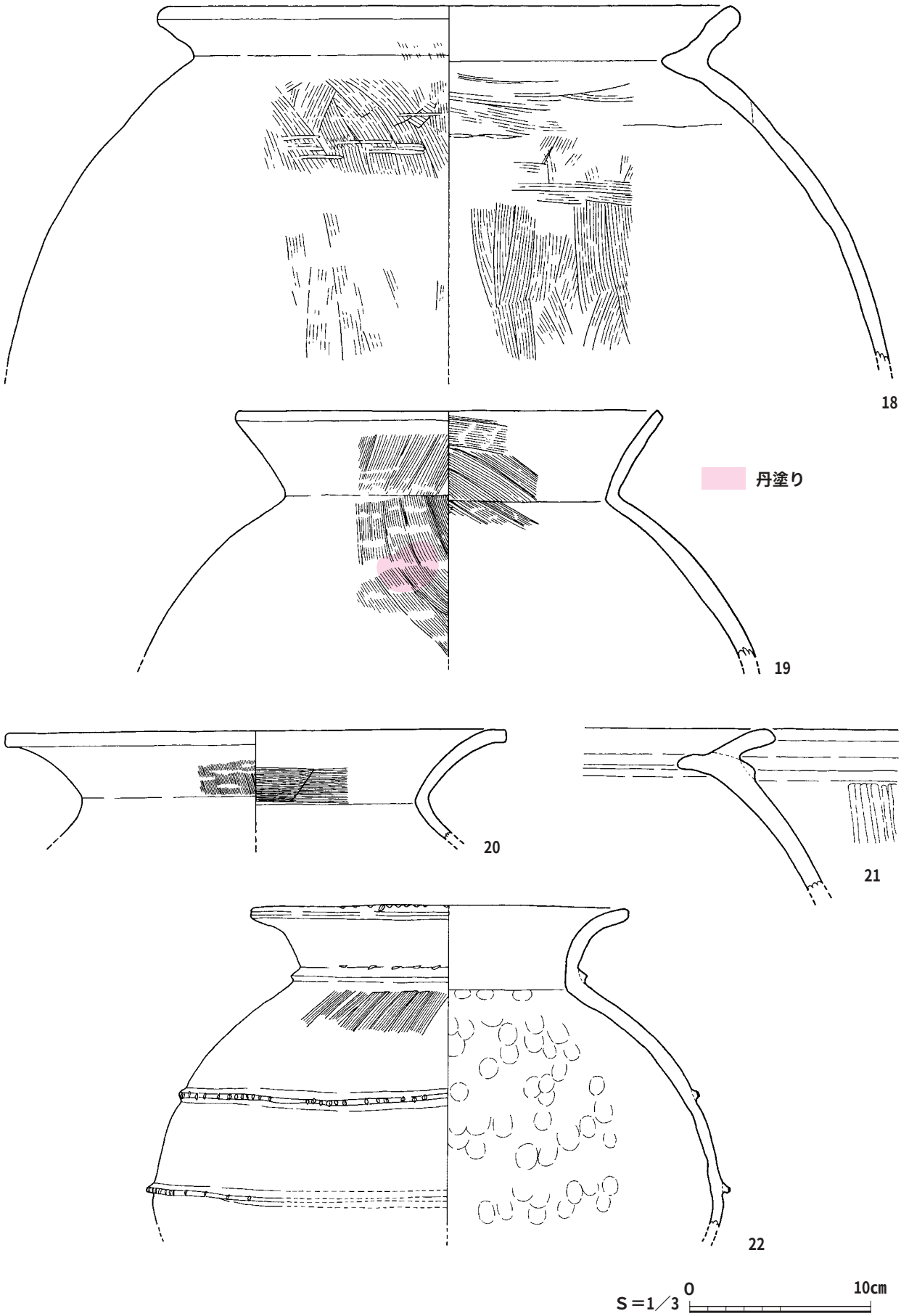
図(Fig)88　S106上層出土遺物実測図（１）



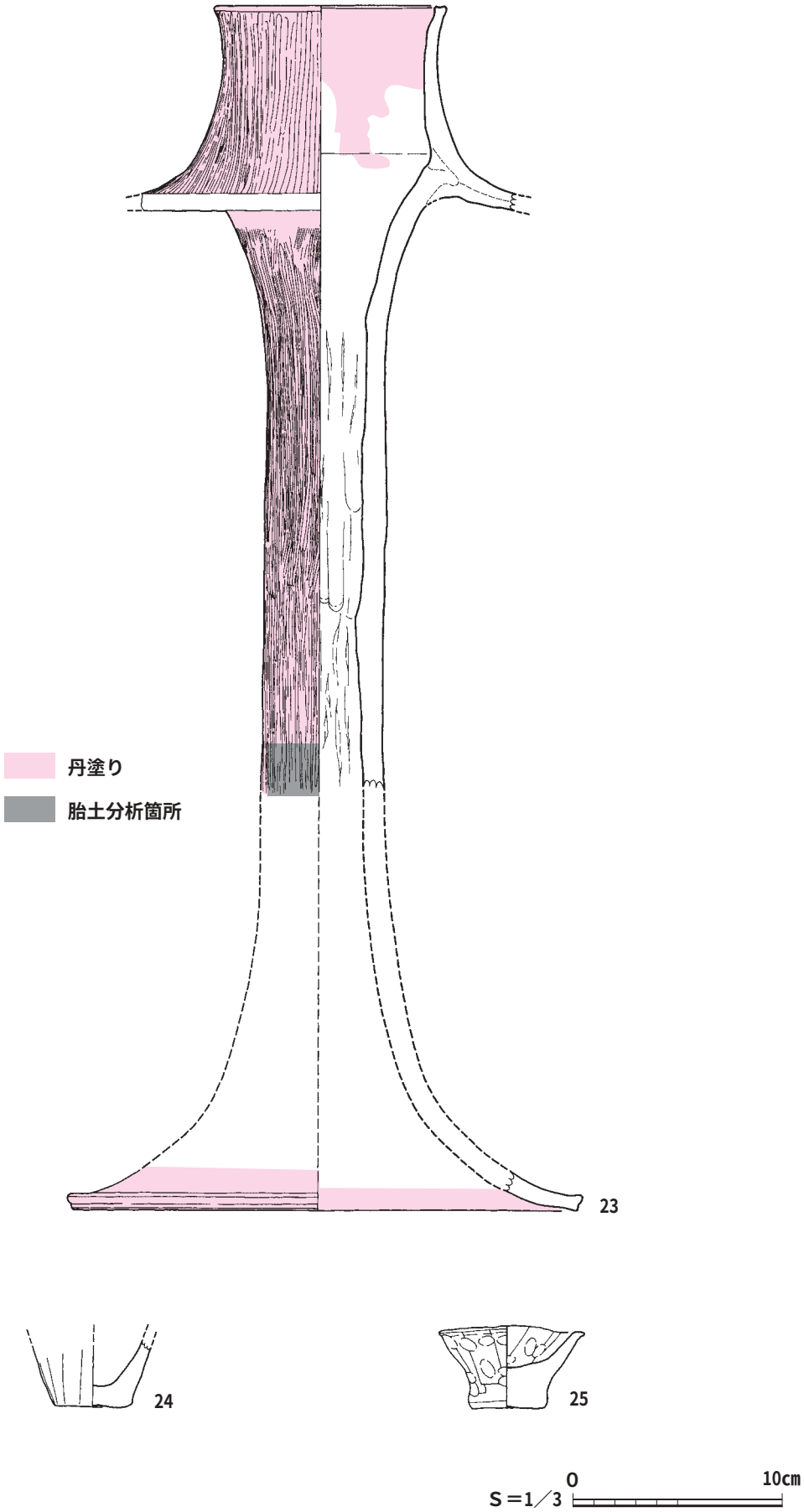
図(Fig)89　S106上層出土遺物実測図（２）



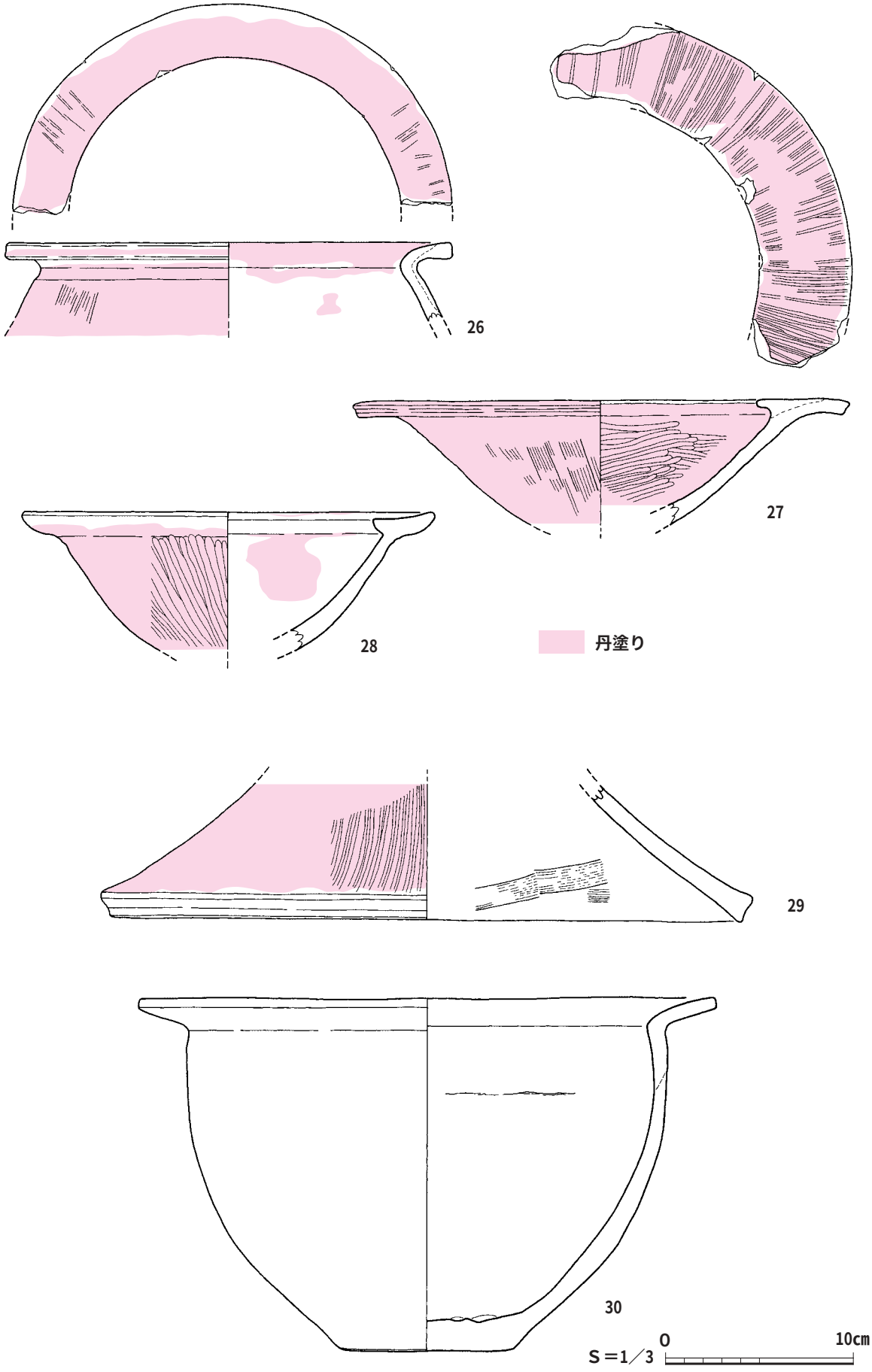
図(Fig)90　S106上層出土遺物実測図（３）



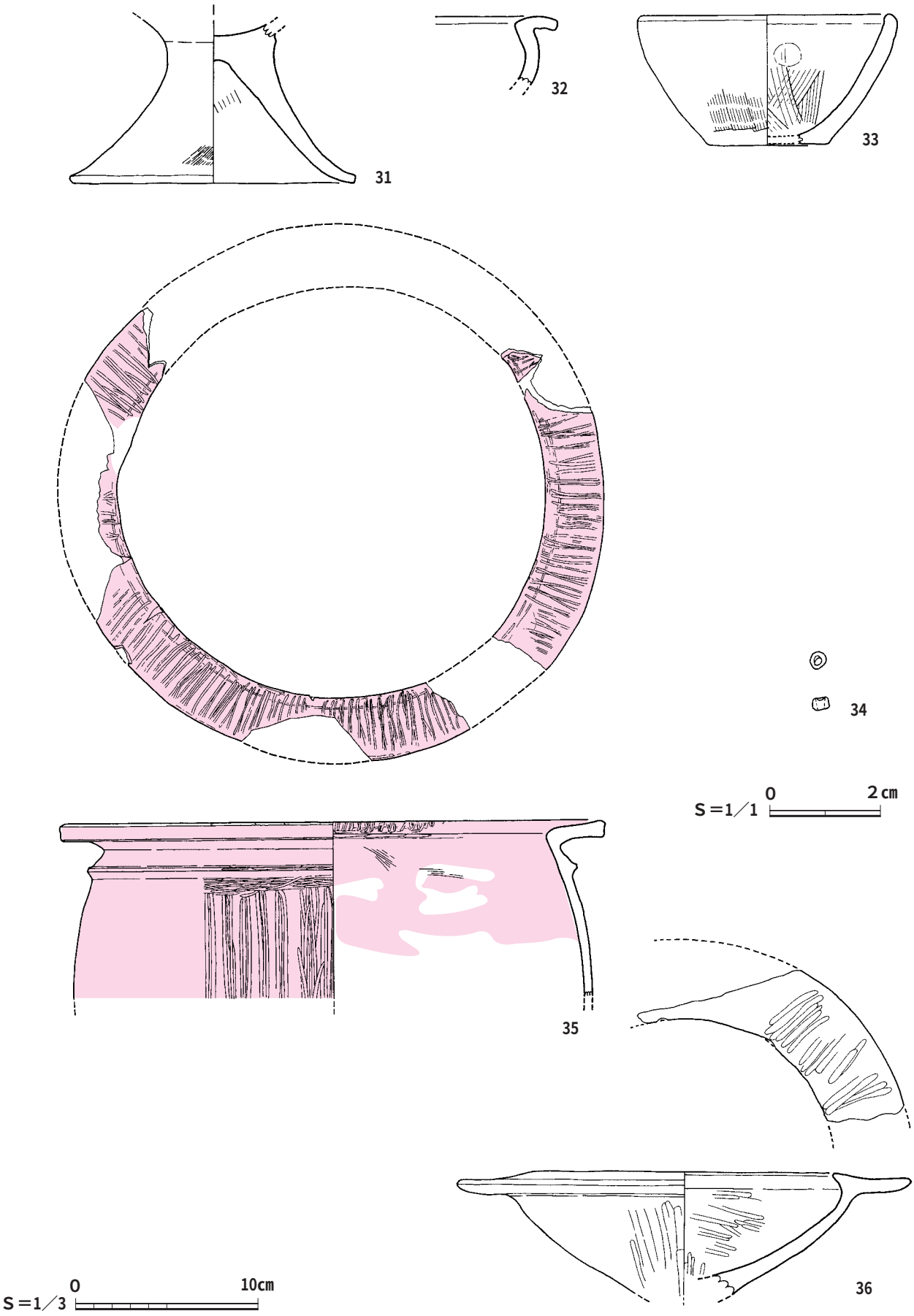
図(Fig)91　S106上層出土遺物実測図（４）



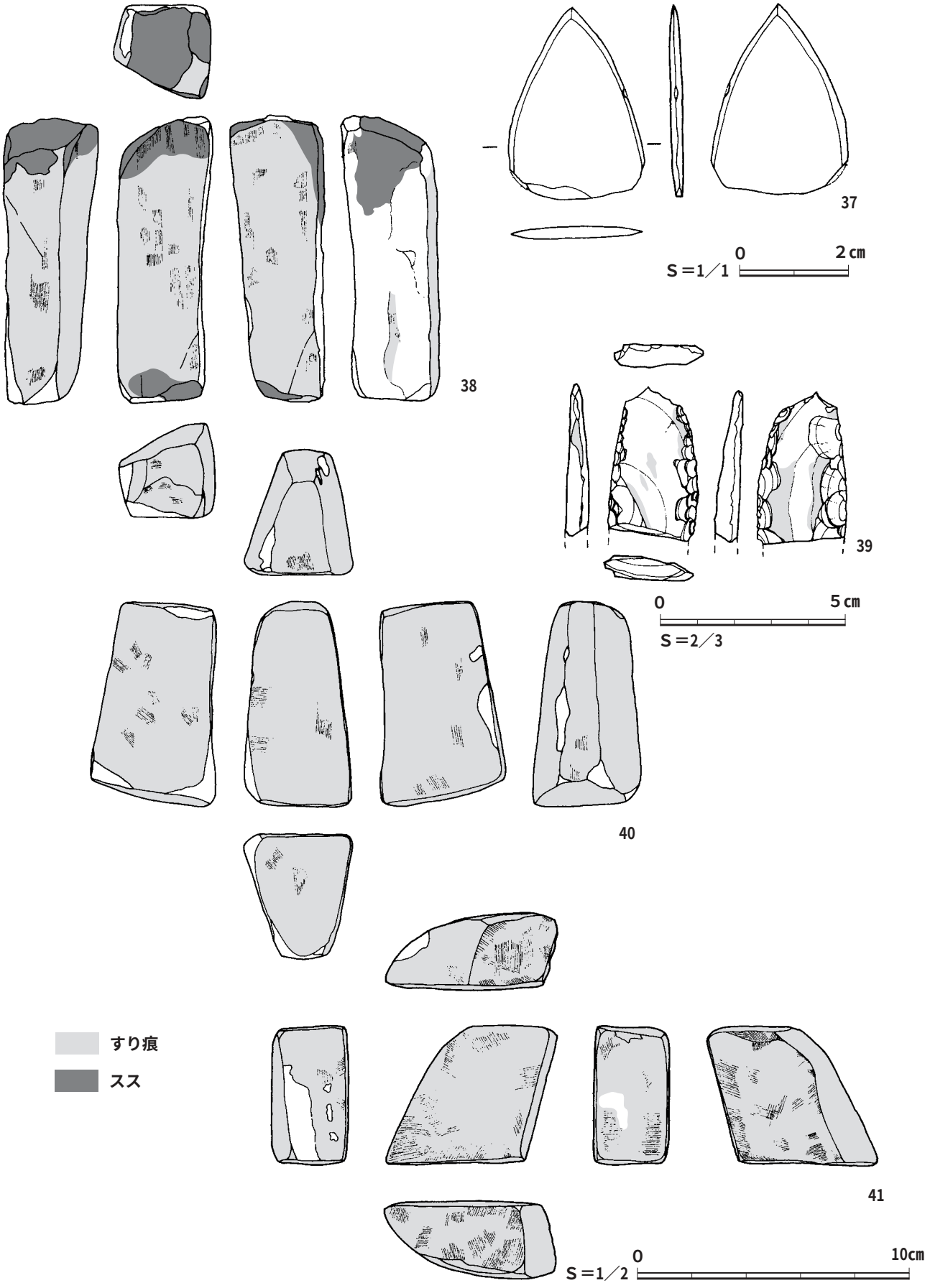
図(Fig)92　S106上層出土遺物実測図（５）



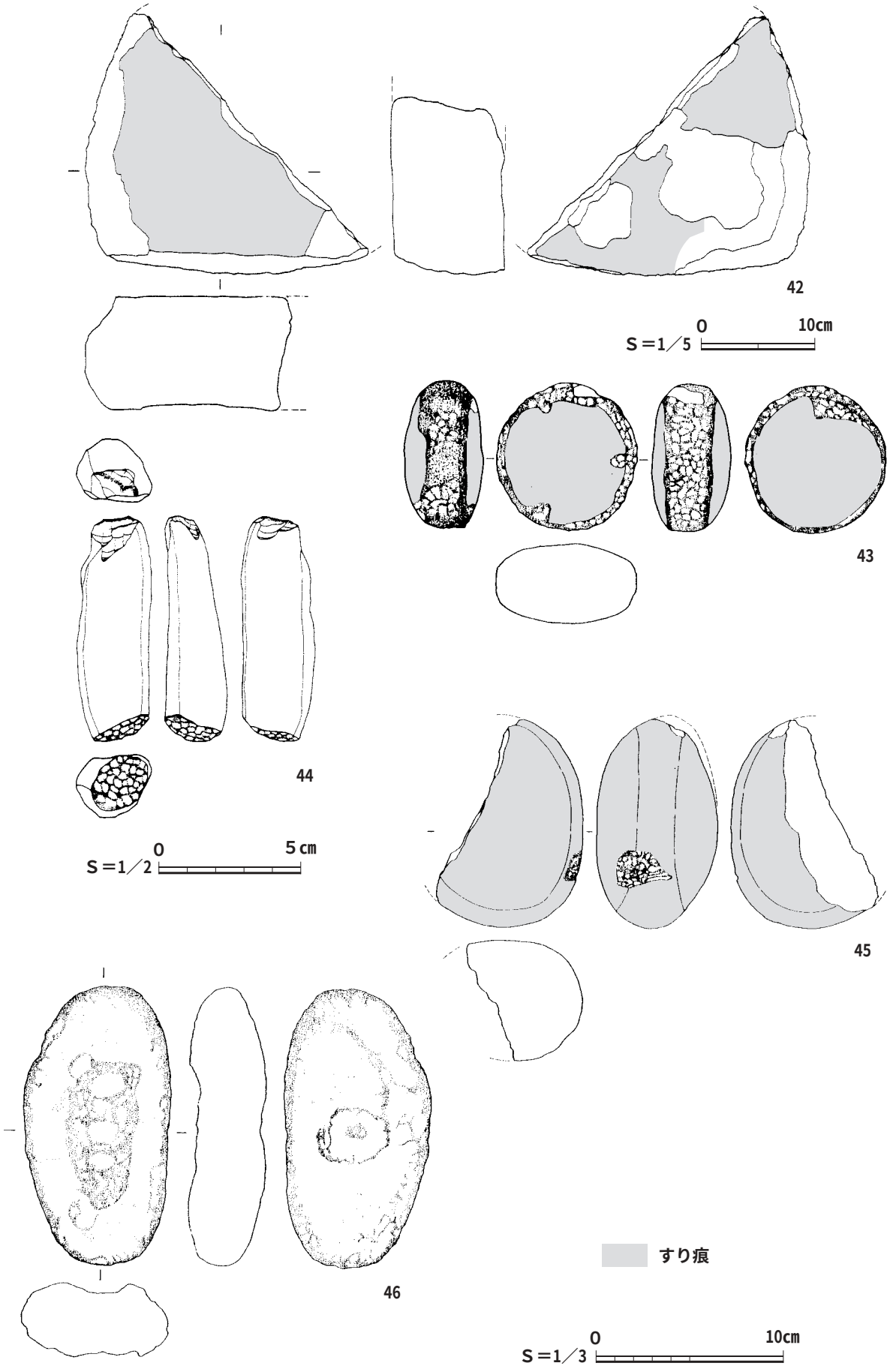
図(Fig)93　S106上層出土遺物実測図（６）



図(Fig)94　S106上層出土遺物実測図（７）



図(Fig)95　S106上層出土遺物実測図（８）



図(Fig)96　S106上層出土遺物実測図（９）

が強いと考えられる。８点が接合している。

29は、丹塗りの筒形器台の脚部と考えられる。外面はミガキ後丹塗りが施され、内面にはハケ目が残る。２点が接合している。胎土の色調は、肌色で明るい。胎土分析の資料である。

30は、鉢形土器である。約１／２が残存している。内面には接合痕が残る。口縁部形態は中期から後期への過渡期の様相を示していると考える。18点が接合している。

31は、台付き鉢の脚部である。内外面にハケ目が残る。

32は、鉢形土器の鉢の口縁部であると考えられる。

33は、鉢形土器の鉢の口縁部である内外面にハケ目が残る。

34は、ガラス小玉である。径約３㎜、厚さ約２㎜。上層の住居覆土の水洗いで確認された。

35は、丹塗り甕形土器の口縁部及び胴部上半部である。頸部下にややM字状にくぼみを持つ１条の突帯が巡る。外面には丁寧なミガキ、口縁部には放射状の暗文が見られる。丹塗りがなく、口縁形態がやや異なるが、須玖Ⅱ式土器の範疇で捉える事ができる土器だと考えられる。５点が接合している。胎土分析を行った資料である。

36は、高杯形土器の杯部である。内外面ともにミガキが施され、口縁部には、暗文が見られる。

37は、蛇紋岩製の磨製石鏃である。

38は、砥石である。石材は流紋岩と考えられるが、天草砥石とは異なる。５面に磨り痕が残る。部分的にススや赤変がみられることから、被熱している。目が細かいことから仕上げ用の砥石であろう。

39は、ガラス質安山岩の二次加工石器である。素材は、やや寸詰まりの剥片を背腹両面から二次加工が加えられた後、両面と左側面に磨り痕が観察される。また、基部が欠損している。磨製石器の未製品の可能性も考えられるが、石材が異なるため、磨製石鏃ではないであろう。

40は、砥石である。石材は目の細かい砂岩と考えられる。６面全てに磨り痕が残る。目が細かいことから仕上げ用の砥石であろう。

41は、砥石である。石材は流紋岩で、天草砥石と考えられる。６面全てに磨り痕が残る。目が細かいことから仕上げ用の砥石であろう。

42は、板状の石皿である。石材は安山岩質と考えられる。約半分が欠損しているが、上下面に磨り痕が見られる。一括資料で、出土層位は不明である。

43は、磨り石である。石材は安山岩質と考えられる。表裏面に磨り痕、側面には敲打痕が見られる。上層出土遺物である。

44は、棒状の敲石である。石材は、安山岩質であると考えられる。上側面に剥離痕、下側面に敲打痕が見られる。形状は民俗例で挙げられるトチを割るための石器に酷似する。堅果類の加工具に利用されたものかもしれない。上層出土遺物である。

45は、磨り石である。石材は、安山岩であると考えられる。欠損しているが、全面に磨り痕、側面の一部には敲打痕が見られる。点上げ遺物である。

46は、凹石である。石材は、凝灰岩である。表裏面に敲打痕による凹面が見られる。上層出土遺物である。

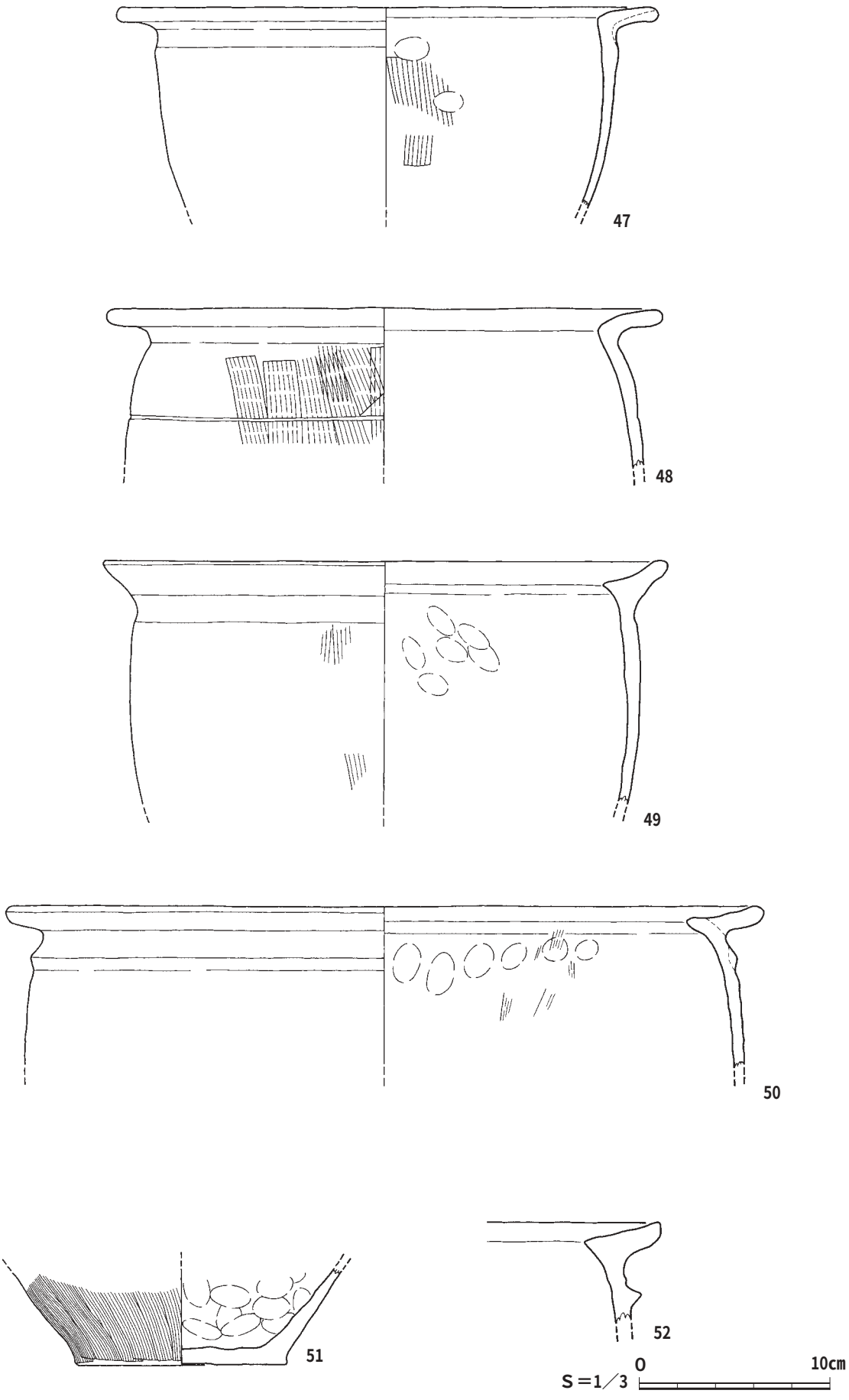
【下層】

ここでは、２１点の土器、５点の石器と１点の鉄器を紹介する。

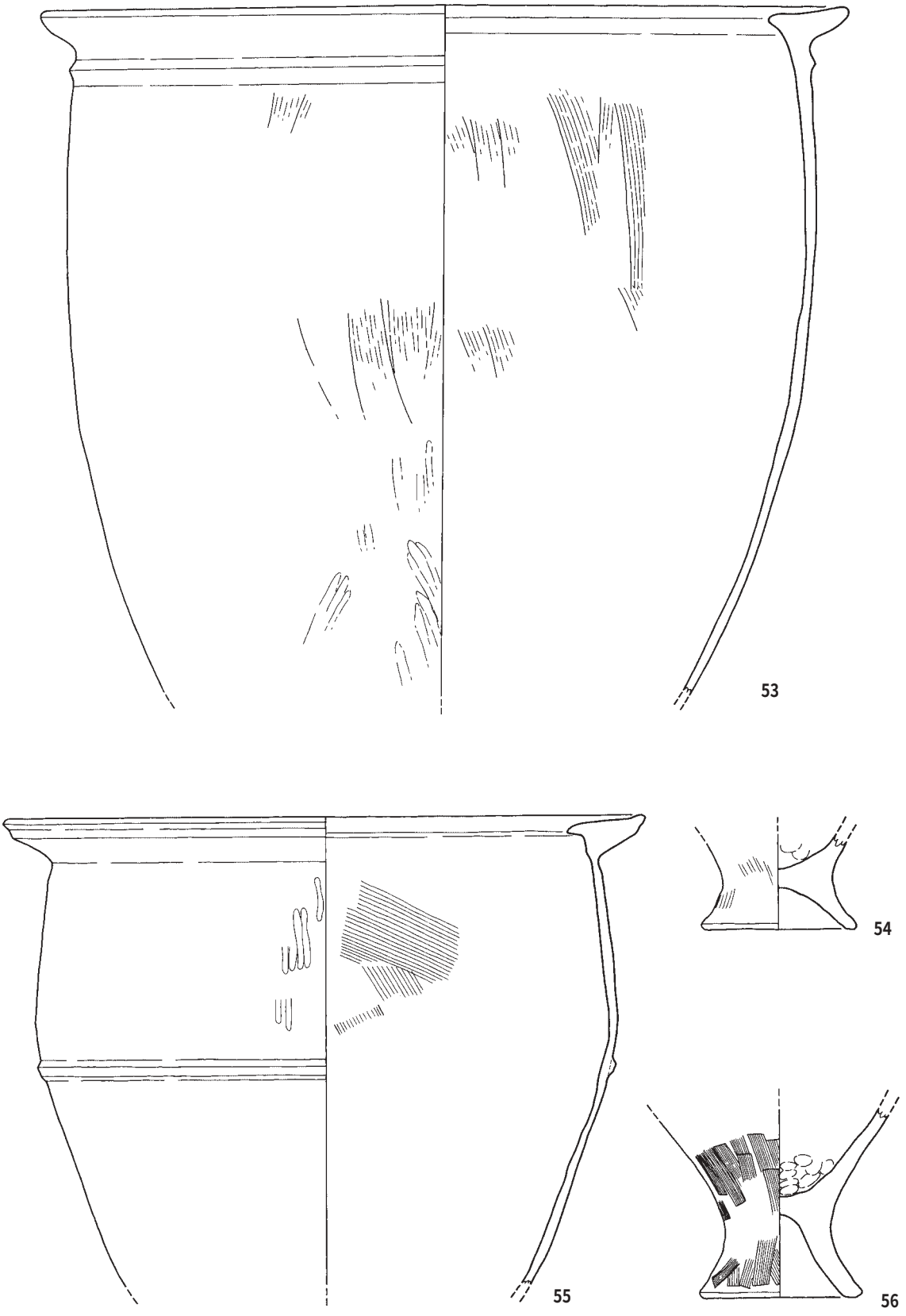
47、48、49、50、52は、甕形土器の口縁部及び胴部上半部である。内外面にはハケ目や指頭圧痕が残る。47、48の口縁部形態は中期の黒髪式とは異なり、内側への突起が無くなり外側へ外反しながら立ちあがっていく様相を示していることから、中期から後期への移行期の特徴を示しているのではないかと考える。49、50、52の口縁部は黒髪式土器の特徴を呈している。48は、点上げ遺物３点が接合しており、胴部上半部に１条の沈線が巡る。47、49、50、52も点上げ遺物である。

51は、壺形土器の底部と考えられる。内面にはハケ目、外面には指頭圧痕が残る。点上げ遺物である。

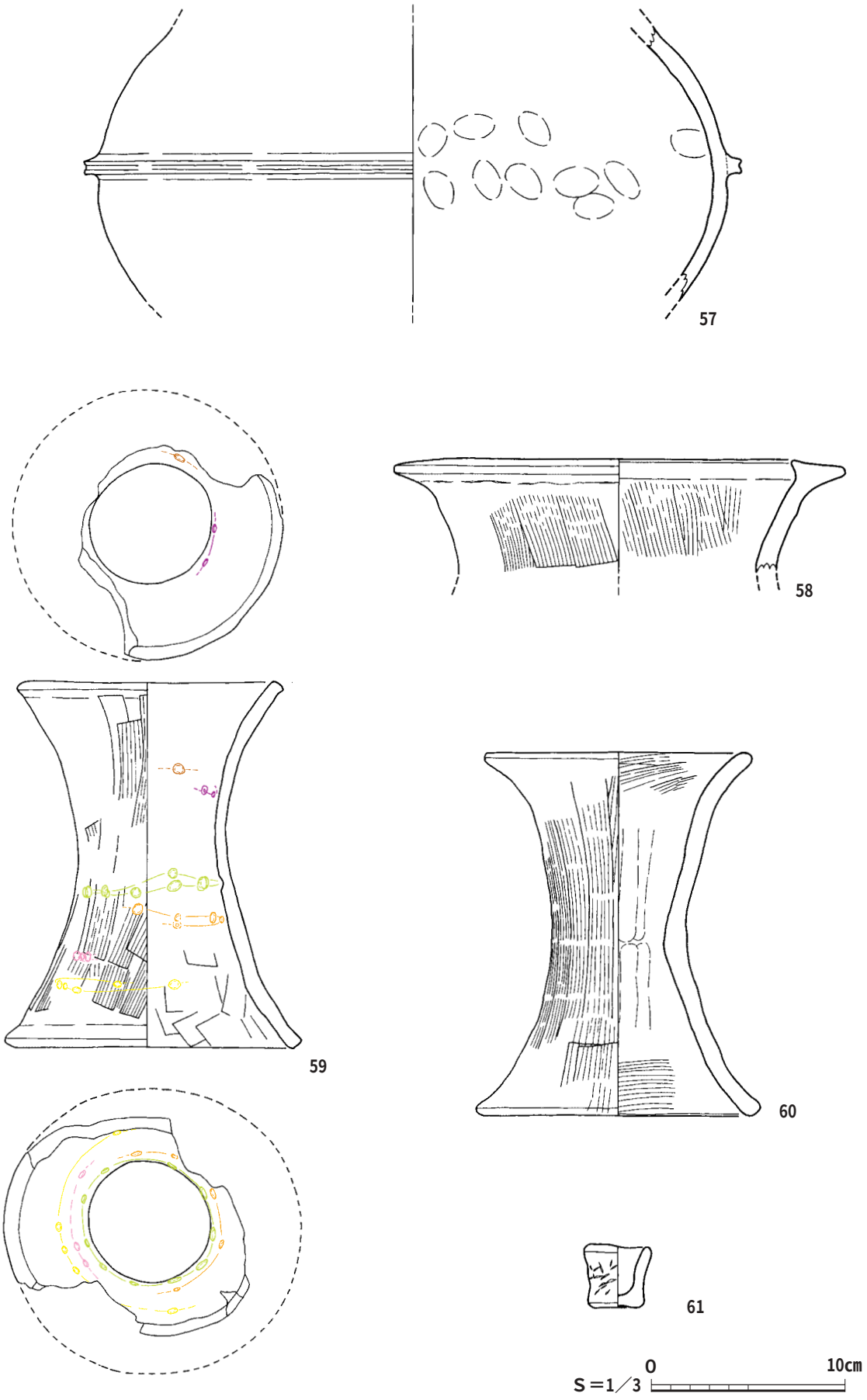
53、55は、甕形土器の口縁部及び胴部である。外面にはハケ目後ミガキ、内面にはハケ目が残る。また、53は頸部下に、55は胴部上半部に１条の突帯が１条巡る。口縁部形態と器形は多少異なるが、黒髪式土器の範疇で捉える事ができる土器である。53は下層一括遺物３点、点上げ遺物35点の計38点が接合



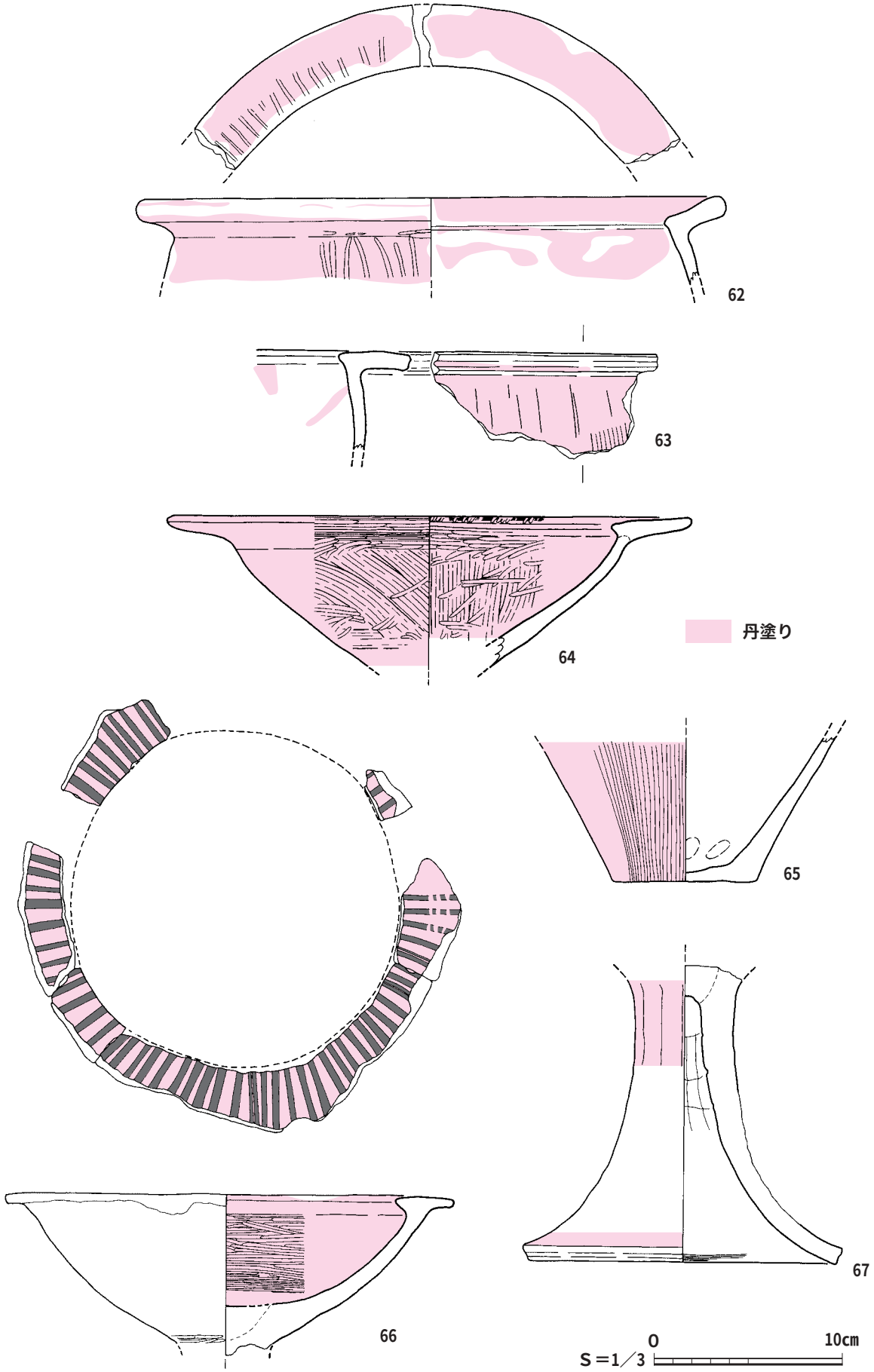
図(Fig)97　S106下層出土遺物実測図（10)



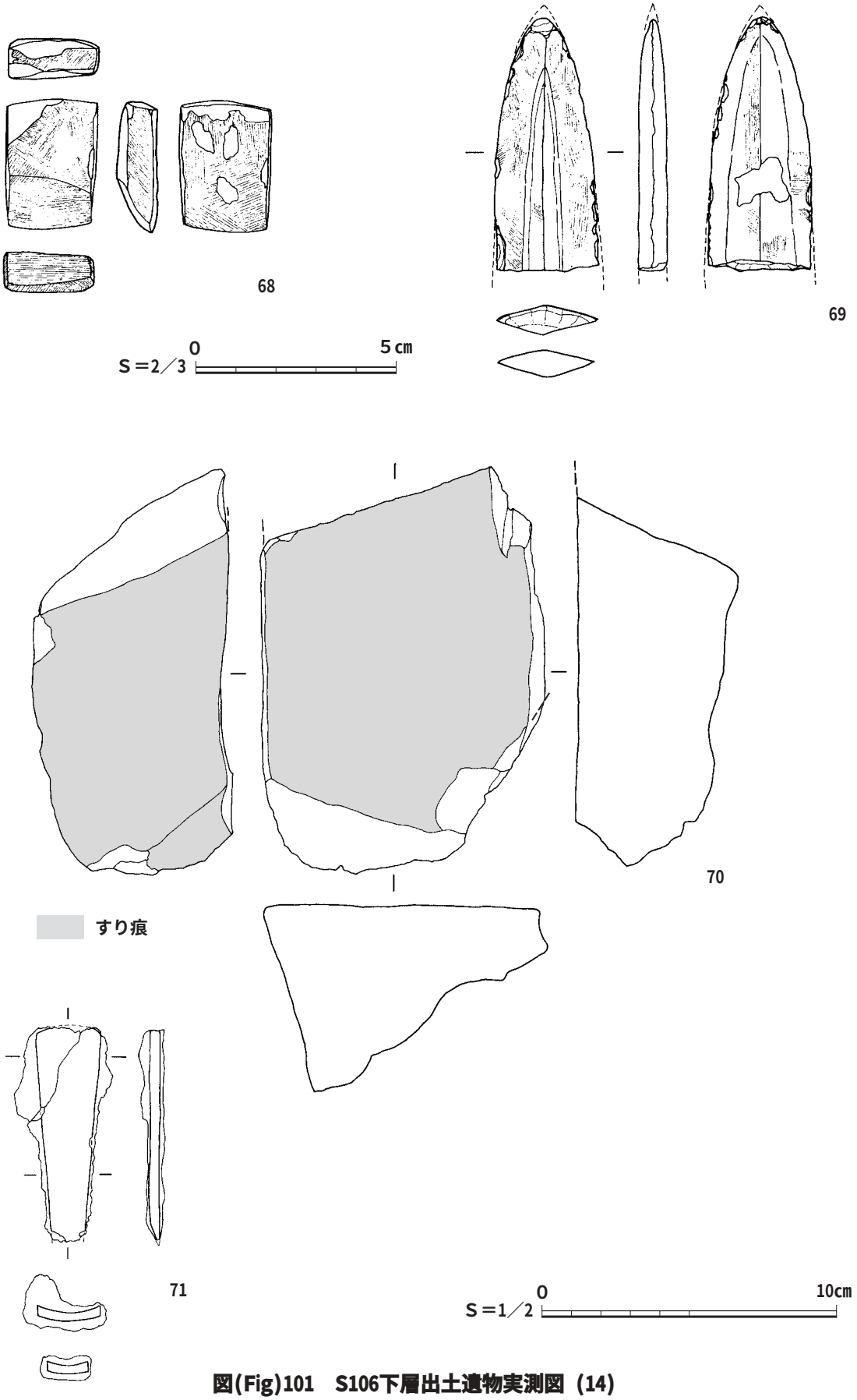
図(Fig)98　S106下層出土遺物実測図（11)



図(Fig)99　S106下層出土遺物実測図（12）



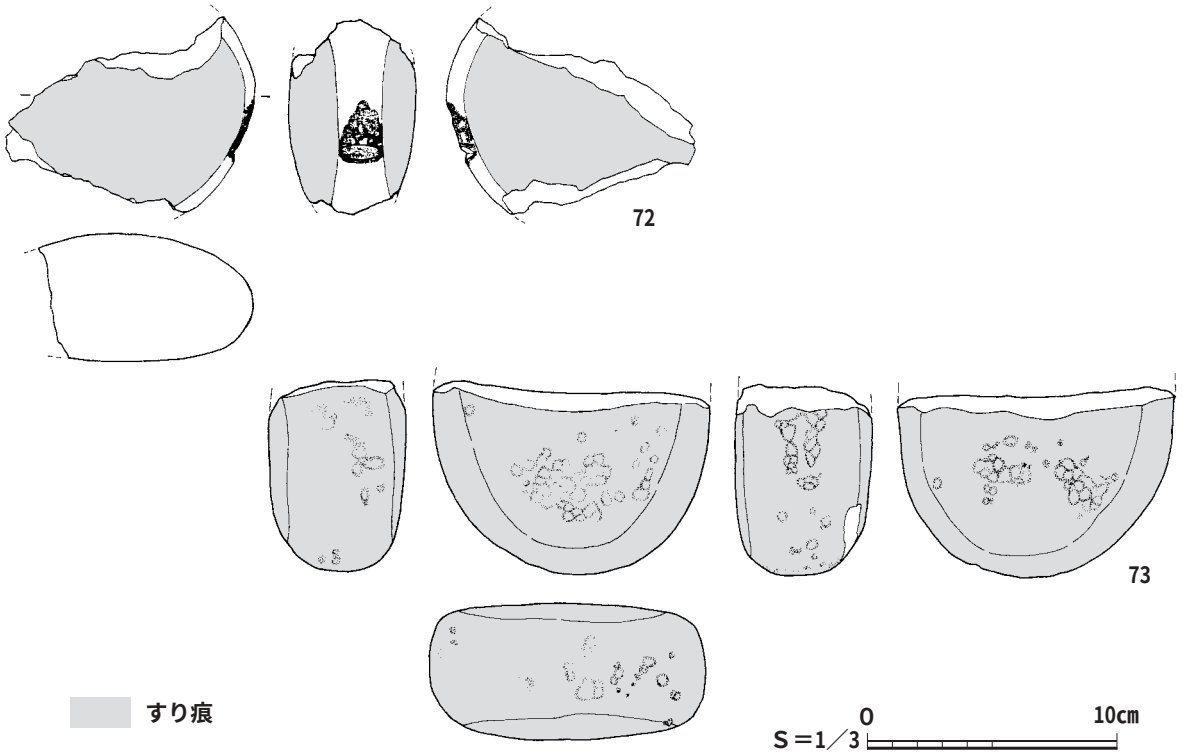
図(Fig)100　S106下層出土遺物実測図（13）



図(Fig)101　S106下層出土遺物実測図（14）

し、55は、下層一括遺物15点が接合している。

54、56は、甕形土器の脚台部である。いずれも外面にハケ目、内面に指頭圧痕が残る。点上げ遺物である。



図(Fig)102　S106下層出土遺物実測図（15)

57は、壺形土器の胴部と考えられる。外面には最大径のある中央部にM字状の突帯が１条巡る。内面には指頭圧痕が残る。点上げ遺物である。

58は、壺形土器の口縁部である。内外面にはハケ目が残る。点上げ遺物である。

59は、器台である。外面はハケ目、内面はハケ目と径３～６㎜、深さ２～３㎜大のやや楕円の穴が７列にわたり、観察される。列同士の間隔、１列内の幅や穴の数も異なるが、製作時の痕跡を残すものではないかと考える。すなわちこの穴は、器台を作成する際に木枠を止めた結び目ではないかということである。型枠が外れるように布がかぶせてあれば、布目が残ると考え、福岡市埋蔵文化財センターの比佐氏・片多氏のご協力を得て、レプリカ法で繊維痕の確認を試みたが、検出できなかった。この様な内部に穴の列を持つ遺物は、１点のみであったので、はっきりしたことは言えないが、今後類例が増えてくれば非常に興味深い。点上げ遺物６点が接合。

60は、器台である。外面はハケ目、内面はハケ目後ナデ痕が残る。点上げ遺物５点が接合。

61は、ミニチュア土器である。縦、横、高さは約３㎝程の大きさである。点上げ遺物である。

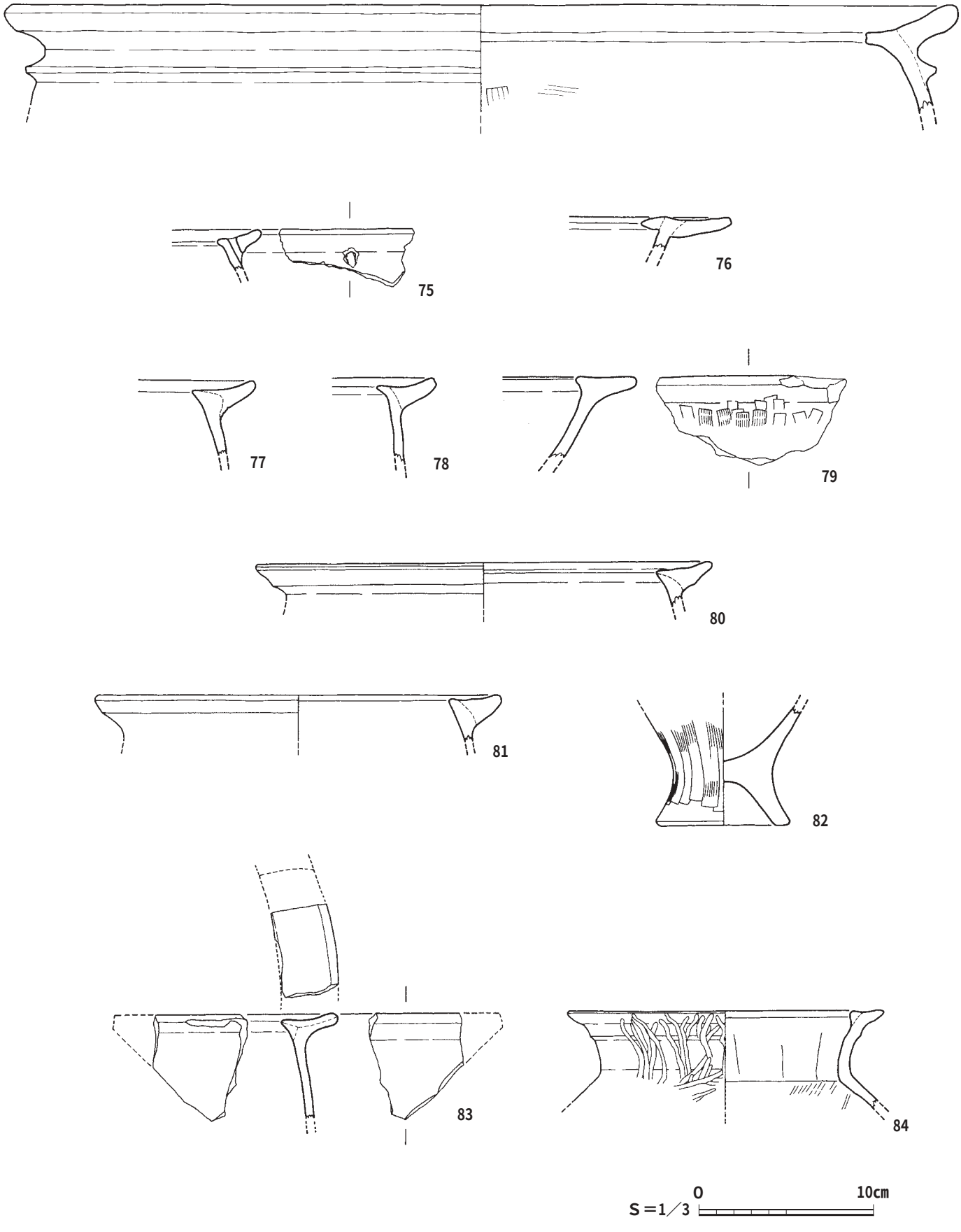
62は、丹塗りの甕形土器の口縁部である。外面にミガキ、口縁部には暗文が見られる。口縁部形態がやや異なるが、須玖Ⅱ式土器の影響を受けた土器といえるだろう。下層遺物２点が接合している。

63は、丹塗りの甕形土器の口縁部である。外面にハケ目が見られる。丹塗りは一部内面まで及んでいる。口縁部形態は須玖Ⅱ式土器との共通点が多い。点上げ遺物である。胎土の色調は肌色で明るい。

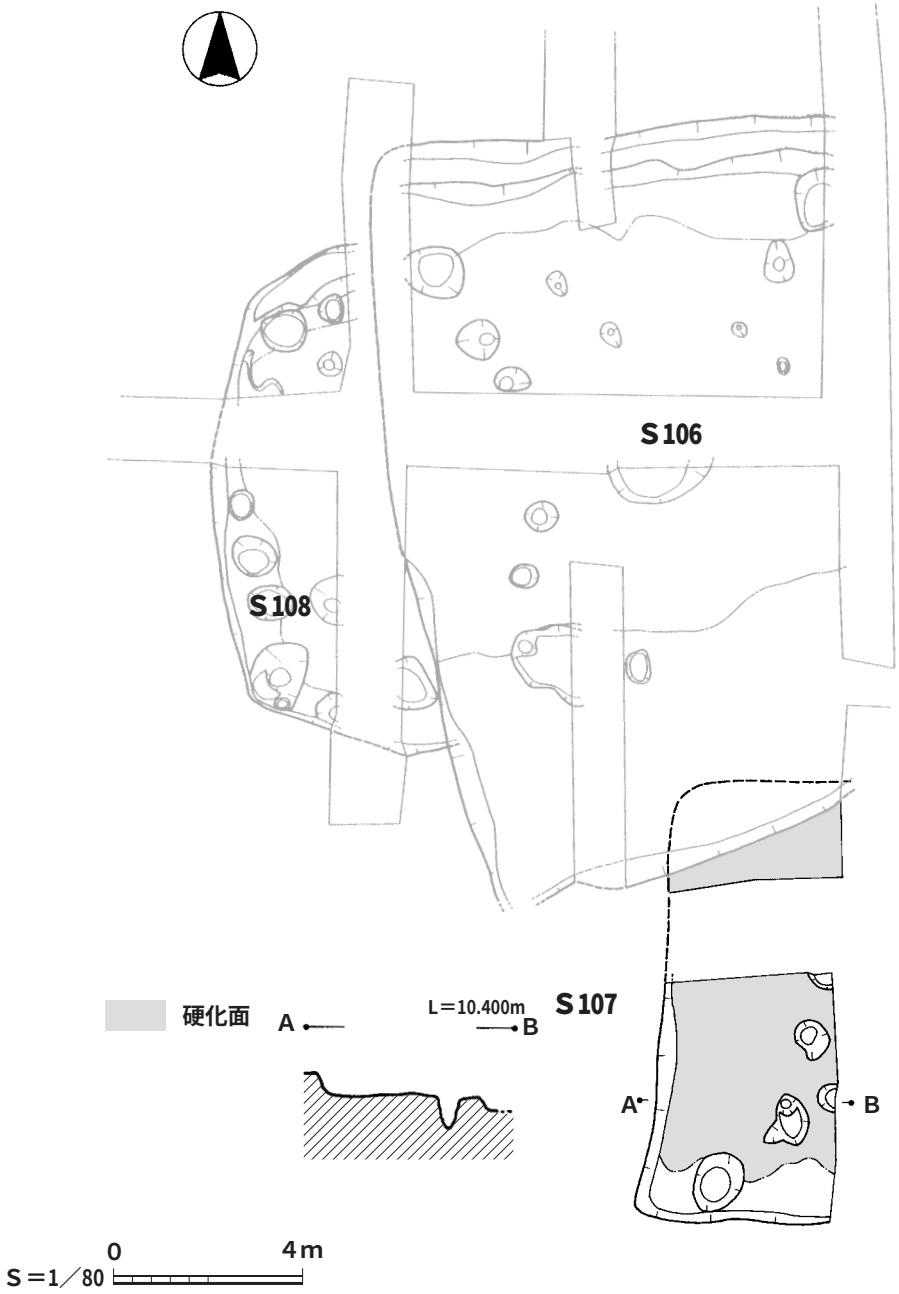
64は、丹塗りの高杯形土器の杯部である。内外面ともハケ目、ミガキ後丹塗りが施されている。口縁部の形態から、須玖Ⅱ式土器の範疇で捉える事ができる土器であるといえよう。下層一括遺物７点が接合している。

65は、丹塗りの甕形土器の底部である。外面にミガキ、内面には指頭圧痕が見られる。須玖Ⅱ式土器の範疇で捉える事ができる土器であるといえよう。点上げ遺物である。胎土の色調は肌色で明るい。

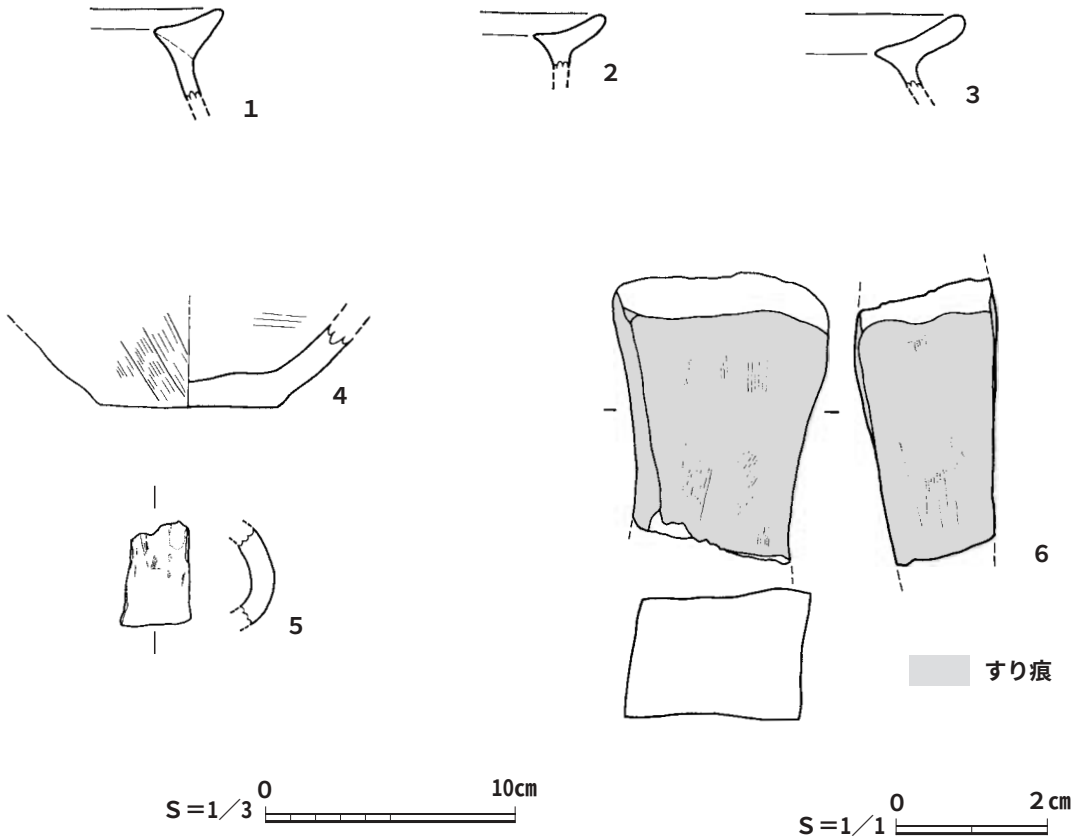
66は、丹塗りの高杯形土器の杯部である。内面にはミガキ後丹塗りが施されている。特に口縁部は暗文部に黒の顔料が塗られている。外面は熱による剥落が見られるが、もともとはミガキ後丹塗りが施されていたものと考えられる。口縁部の形態から、須玖Ⅱ式土器の範疇で捉える事ができる土器であるといえよう。下層一括遺物９点、５・６層一括遺物３点、点上げ遺物２点の計14点が接合している。独立行政法人文化財研究所東京文化財研究所の朽津信明



図(Fig)103　S106下層出土遺物実測図（16)



図(Fig)104　住居跡（S107）実測図



図(Fig)105　S107出土遺物実測図

氏によれば、この土器の丹（赤色顔料）はベンガラであり、その上に黒の顔料が塗ってあること判明した。しかし、黒の顔料は領域が狭く現地での分析は困難であったというコメントをいただいた。(P417～418参照)

67は、丹塗りの高杯形土器の脚部である。外面にはミガキ後丹塗りが施されている。内面にはしぼり痕が残り、杯部と脚部の接合部に円盤充填技法の痕跡が窺える。須玖Ⅱ式土器の範疇で捉える事ができる土器であるといえよう。点上げ遺物である。

68は、柱状片刃石斧である。完形であるが、使い込まれて、長さが3.3㎝しか残存していない。石材は蛇紋岩である。下層一括遺物である。

69は、磨製石剣の先端部である。残存長は6.2㎝、幅2.2㎝、厚さ0.7㎝である。石材は粘板岩と考えられる。土層確認トレンチの下層一括遺物である。

70は、砥石である。２面に磨り痕が残る。節理面で欠損しているが、元々形状は安定していなかったであろう。石材は変成岩である。点上げ遺物である。

71は、鉄製のノミと考えられる。一部欠損しているが、原形は留めている。長さ7.2㎝、最大幅2.2㎝、厚さ２㎜である。点上げ遺物である。

72は、磨り石である。石材は火成岩である。欠損しているが、表裏面に磨り痕、右側面には敲打痕が見られる。点上げ遺物である。

73は磨り石である。石材は火成岩である。上半部は欠損しているが、全面に磨り痕が見られ、部分的に敲打痕が見られる。また、表面には被熱による赤変が見られる。南北ベルト北側下層出土遺物である。

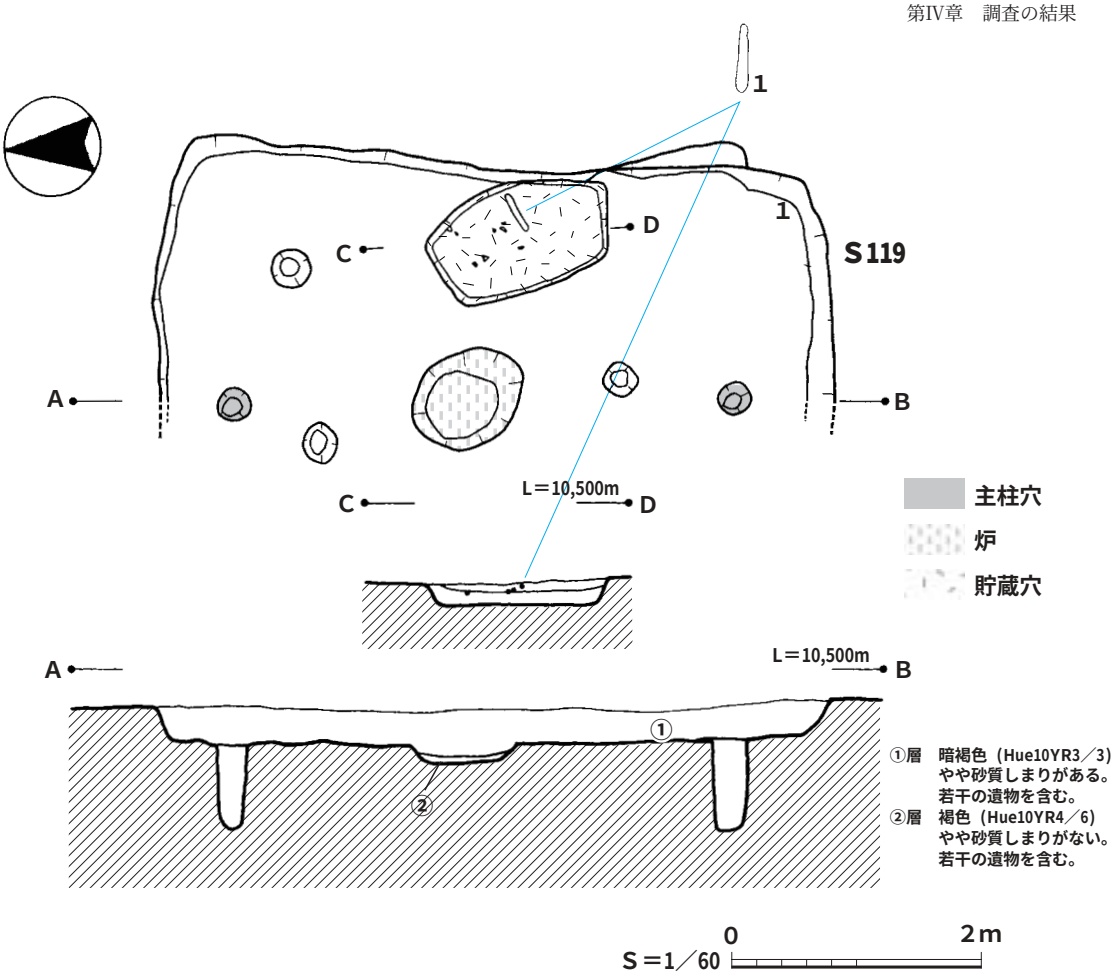
【最下層】

ここでは、11点の土器を紹介する。ほとんどが床面で、一括遺物である。

74は、甕形土器の口縁部である。頸部下に１条の突帯が巡る。口縁部形態は、黒髪式土器の特徴を呈している。最下層一括遺物２点と点上げ遺物２点の計４点が接合している。

75は、無頸壺か甕形土器の口縁部と考えられる。蓋を固定するための穴が確認できる。

76、79は、高杯形土器の杯の口縁部である。口縁形態を観察すると、76は須玖Ⅱ式土器、79は黒髪式



図(Fig)106　住居跡（S119）実測図

土器の範疇で捉える事が可能であろう。

77、78、80、81、83は、甕形土器の口縁部である。いずれも黒髪式土器の範疇で捉えることは可能と考えるが、口縁部形態はやや古手の様相を示す。特に80、81口縁基部が厚く、古い様相を示す。81は、張り床をはがした面で出土した。

82は、甕形土器の底部である。外面にハケ目が残る。

84は、壺形土器の口縁部及び胴部上半部である。外面はミガキ痕と口舌部の下に突帯状のふくらみがみられる。内面はハケ目が部分的に残る。

【S107】（図104、105参照）

［確認位置］調査１区、Ｋ－９グリッド。

標高約10.00m。

［形状］方形

［大きさ］長軸：442cm～、短軸：207cm～、深さ：20cm。

［住居内覆土］１層。

［主柱穴］不明。（付近の５つのピットは径25～30cm。深さ16～58cm。）

［炉］不明。

［貯蔵穴］不明。

［硬化面］有り。

［張り床］有り。

［切り合い関係］S106、58から切られる。

［特記事項］

・硬化面及び張り床の存在から住居跡と判断した。また、出土遺物やS106から切られていることから弥生時代中期後半と判断した。

［遺物の出土状況］床面からやや浮いた状態で出土。遺構廃絶後の遺物として捉えたい。

［出土遺物量］

S107から出土した遺物は、小グレーコンテナ（38cm×58cm×５cm）に約３箱分で、総重量4,400gであった。内訳は、弥生土器4,277g（内丹塗り土器は123g）であった。

［出土遺物の観察］

土器の様相は、甕や壺の口縁部は、全て黒髪式土器の範疇で捉えられるものであったことから、弥生時代中期後半期の土器と判断した。

ここでは、５点の土器と１点の石器を紹介する。

１、２、３は、甕形土器の口縁部である。１は、一括遺物、２は、点上げ遺物、３は上層一括遺物であり、いずれも黒髪式土器の特徴を呈している。

３は、壺形土器の底部であると考えられる。内外面にハケ目が残る。点上げ遺物であり、床直上からの出土である。

５は、ミニチュア土器で、ジョッキ形土器の突手と考えられる。ジョッキ形土器の突手だとすれば、後期の遺物と考えられるので、何らかの理由で混入したものであろう。一括遺物である。

６は、砥石である。石材は流紋岩で、天草砥石と考えられる。４面に磨り痕が残るが、両端が欠損している。点上げ遺物であるが、床面から約10cm程浮いている。

【S119】（図106、107参照）

［確認位置］調査１区、Ｆ－７グリッド。
標高約10.25m。

［形状］方形

［大きさ］長軸：535cm、短軸：240cm～、深さ：25cm。

［住居内覆土］１層。

［主柱穴］２本。径24～25cm。深さ74cm。

［炉］有り。大きさ90×75cmで深さ約13～15cm。

［貯蔵穴］有り。大きさ80×150cmで深さ約15cm。

［硬化面］不明。

［張り床］不明。

［切り合い関係］S120を切り、54から切られる。

［遺物の出土状況］床面からやや浮いた状態で出土。遺構廃絶後の遺物として捉えたい。

［出土遺物量］

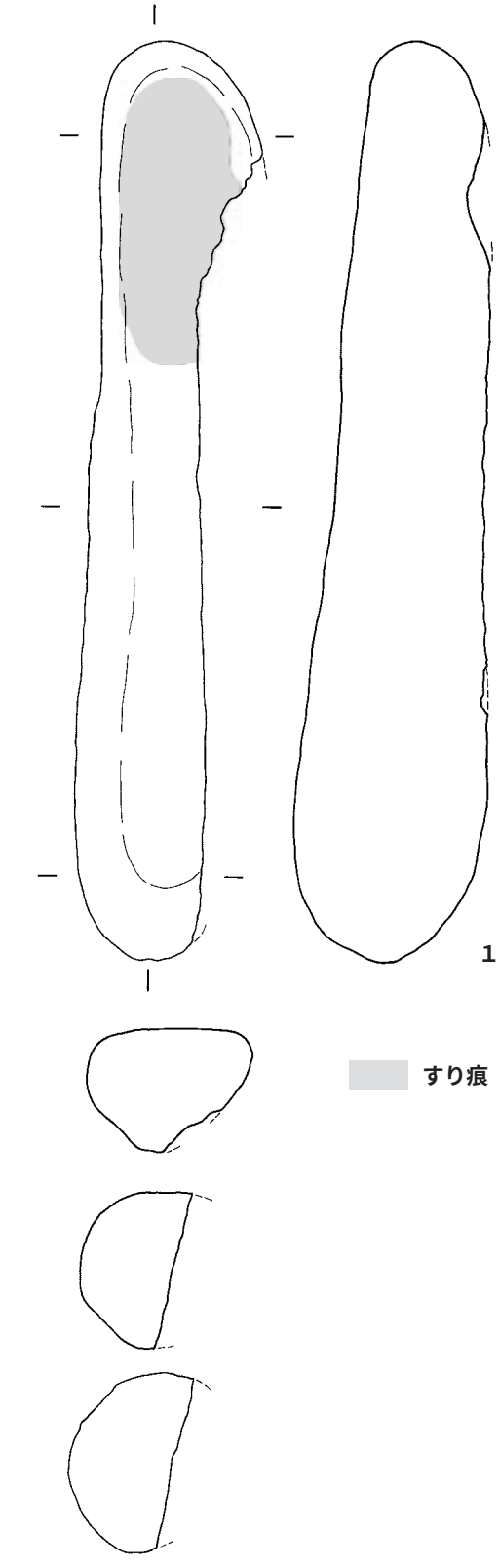
S119から出土した遺物は、総重量1,089gであった。内訳は、縄文土器89g（２片）、弥生土器1,000gであった。

［出土遺物の観察］

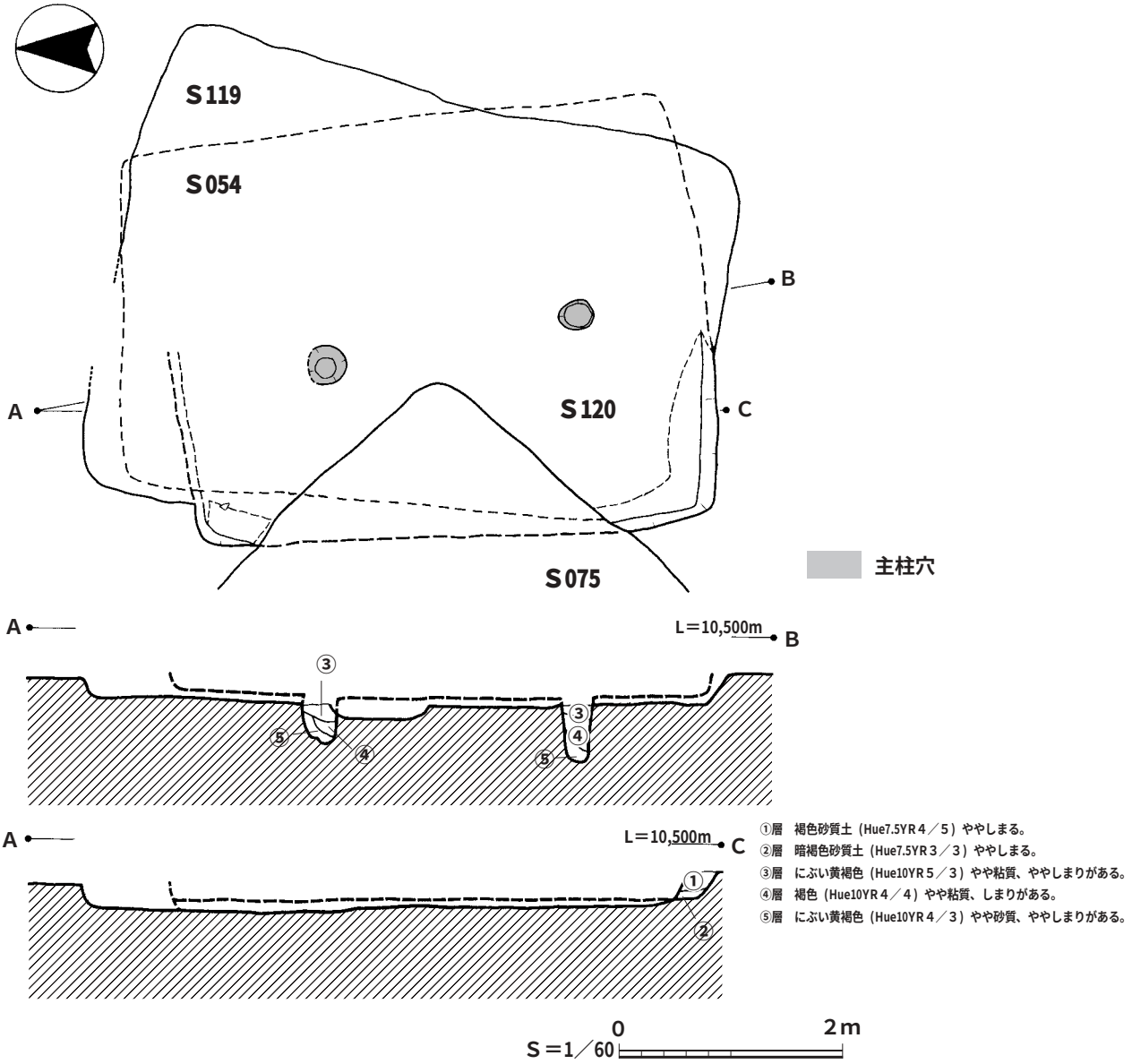
土器の様相は、甕や壺の口縁部は、３点全て黒髪式土器の範疇で捉えられるものであったことから、弥生時代中期後半期の土器と判断した。

ここでは、１点の石器を紹介する。

１は、棒状の砥石である。大きさは、長さ25cm、



図(Fig)107　S119出土遺物実測図



図(Fig)108　住居跡（S120）実測図

幅5.2㎝厚み3.4～５㎝で、磨り面が残存しているのは１面のみで、約１／３に及ぶ。石材は安山岩質である。節理面で欠損している。点上げ遺物で貯蔵穴の上面から出土している。

【S120】（図108参照）

［確認位置］調査１区、Ｆ－７グリッド。

標高約10.25m。

［形状］方形

［大きさ］長軸：460㎝、短軸：175㎝～、深さ：25㎝。

［住居内覆土］２層。

［主柱穴］２本。径22～35㎝。深さ40～50㎝。

［炉］不明。

［貯蔵穴］不明。

［硬化面］不明。

［張り床］不明。

［切り合い関係］S54、119から切られる。

［特記事項］

・切り合いが激しく、住居の隅がわずかに残るのみである。

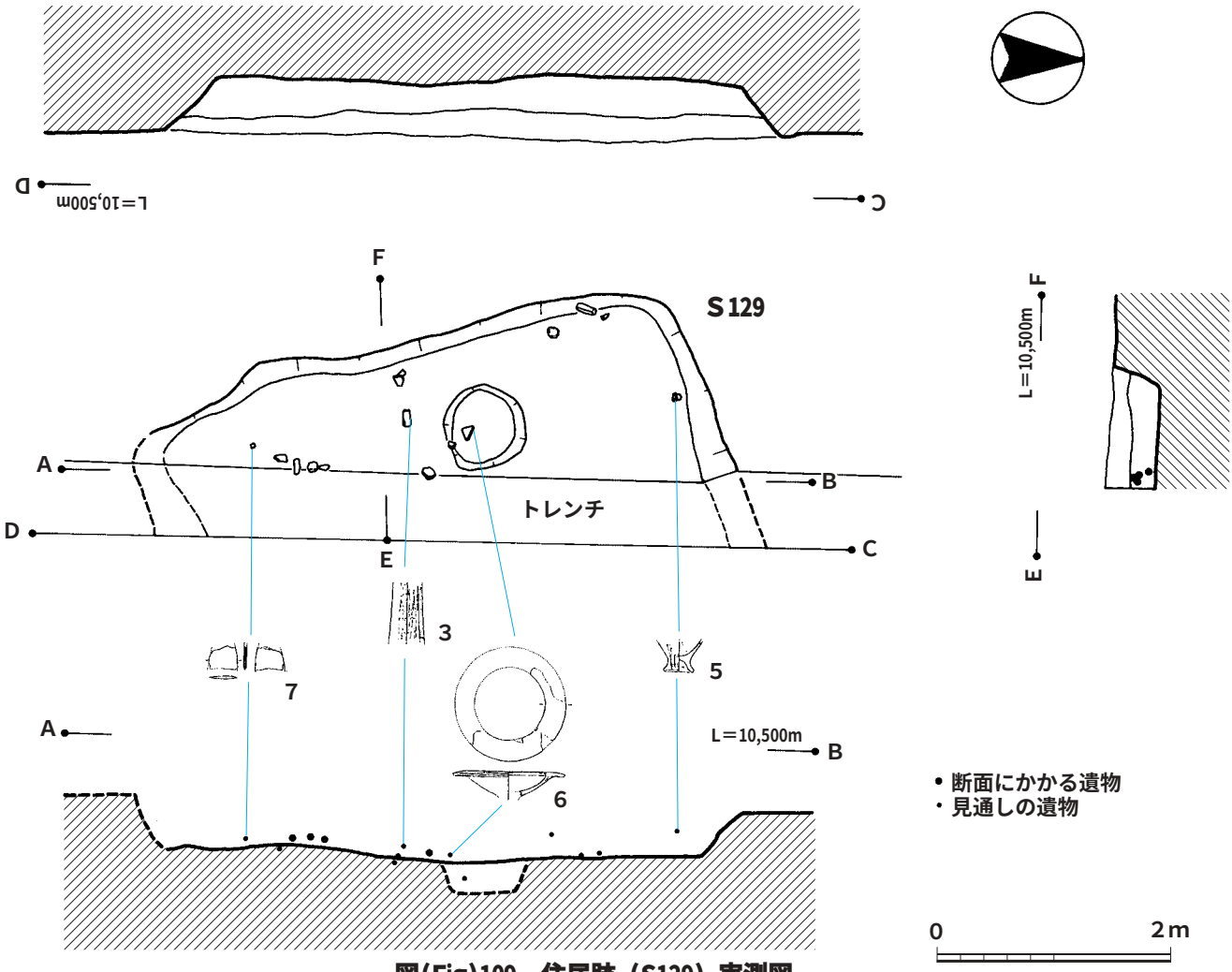
［遺物の出土状況］床面からやや浮いた状態で出土。遺構廃絶後の遺物として捉えたい。

［出土遺物量］

S120から出土した遺物は、小片の土器４点でのみで、総重量145gであった。

［出土遺物の観察］

小片のため、時期などは不明であるが、切りあい関係から弥生時代中期後半期の土器であろう。



図(Fig)109　住居跡（S129）実測図

紹介遺物はない。

【S129】（図109、110参照）

［確認位置］調査１区、O、Ｐ－９、10グリッド。標高約10.10m。

［形状］方形

［大きさ］長軸：500cm～、短軸：180cm～、深さ：40～50cm。

［住居内覆土］２層。

［主柱穴］不明。

［炉］不明。

［貯蔵穴］不明。

［硬化面］無し。

［張り床］無し。

［切り合い関係］無し。

［特記事項］

・方形のプランであることから住居跡と判断した。しかし、明確な炉、柱穴、貯蔵穴、硬化面や張り床などが見当たらないことから疑問は残る。

［遺物の出土状況］床面からやや浮いた状態で出土。遺構廃絶後の遺物として捉えたい。

［出土遺物量］

S129から出土した遺物は、中グレーコンテナ(38cm×58cm×15cm）２箱分で、総重量10,733gであった。内訳は、縄文土器208g（４片)、弥生土器10,525g（内丹塗り土器は513g）であった。

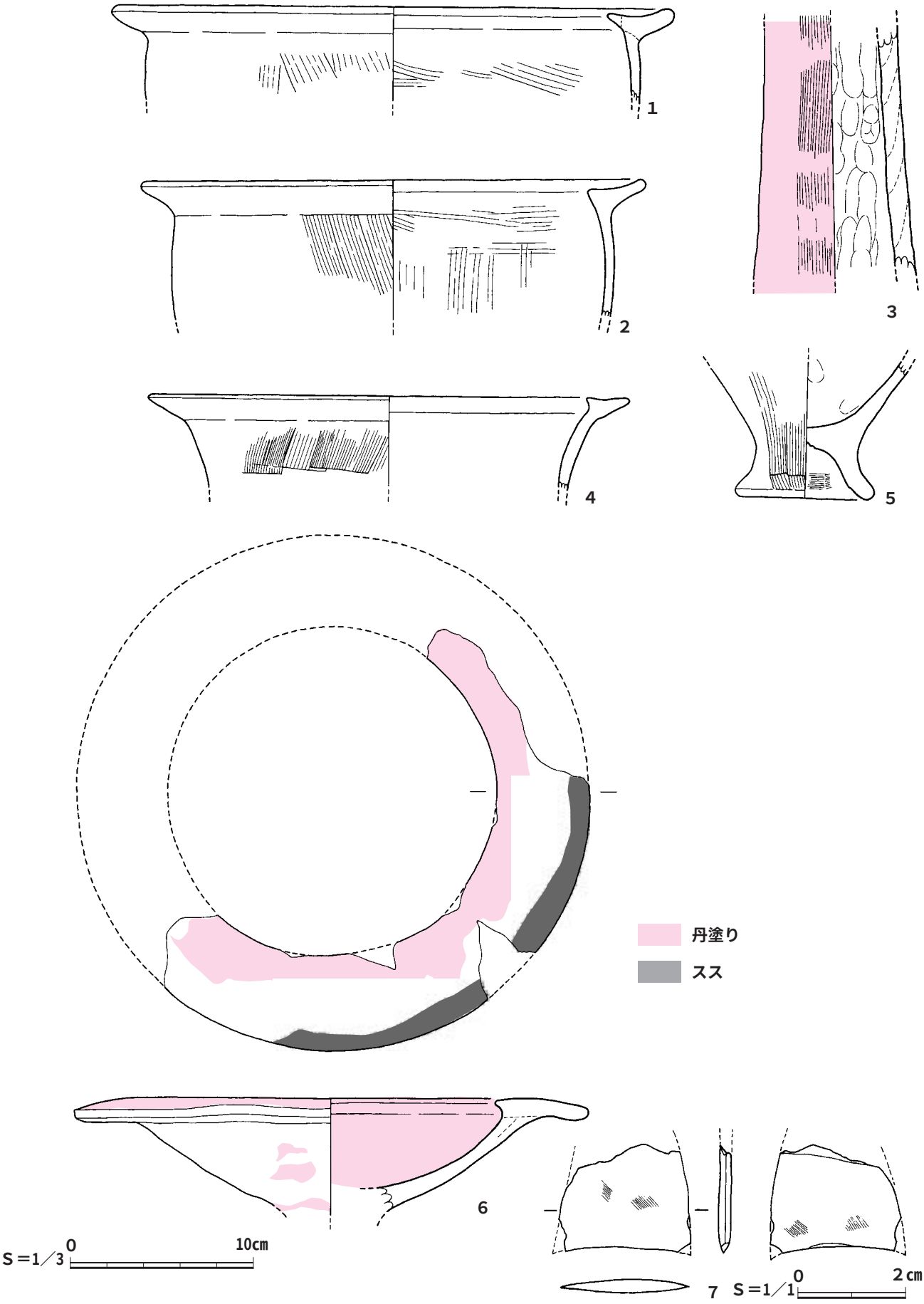
［出土遺物の観察］

土器の様相は、甕や壺の口縁部は、全て黒髪式土器の範疇で捉えられるものであったことから、弥生時代中期後半期の土器と判断した。

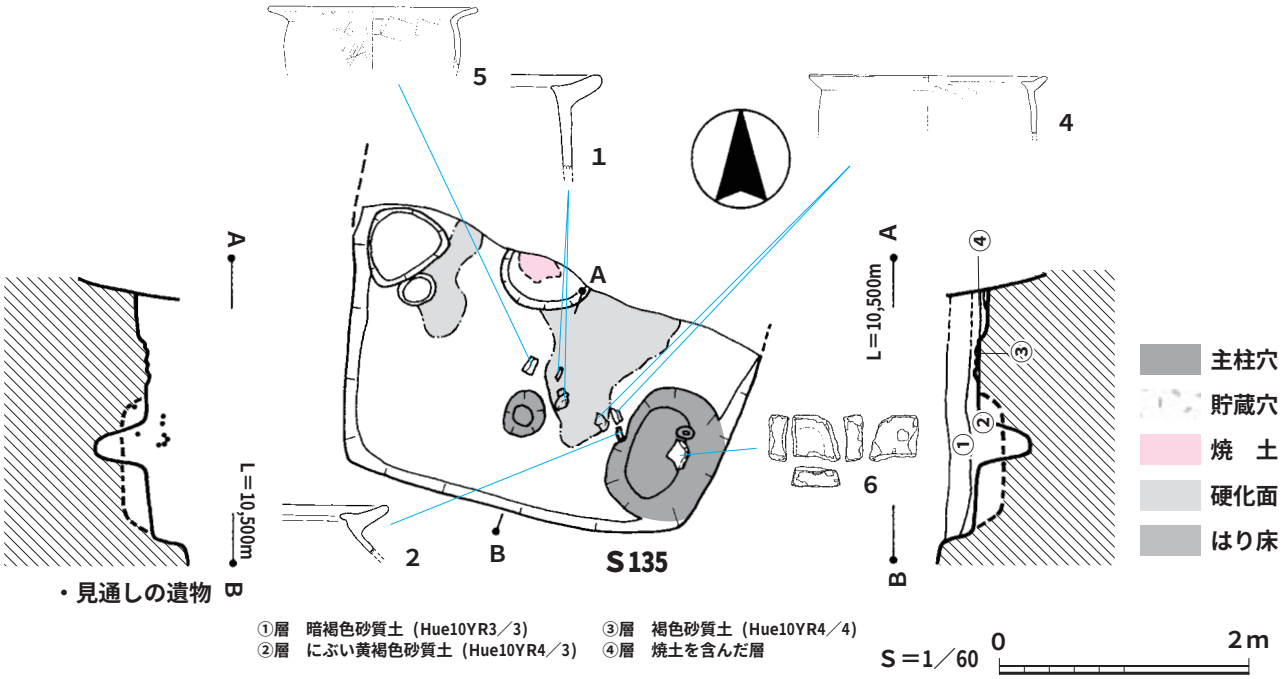
ここでは、６点の土器と１点の石器を紹介する。

１、２は、甕形土器の口縁部及び胴部上半部である。内外面にハケ目が残る。口縁部は、いずれも黒髪式土器の特徴を呈している。２層から出土。

３は、丹塗りの筒型器台の円筒部である。外面に



図(Fig)110　S129出土遺物実測図



図(Fig)111　住居跡（S135）実測図

はハケ目後ミガキ痕が残り、その後丹塗りが施されている。須玖Ⅱ式土器の範疇で捉える事が可能である。内面は指頭圧痕が残る。点上げ遺物１点とトレンチ一括遺物１点の計２点が接合している。胎土の色調は肌色で明るい。

４は、壺形土器の口縁部である。外面にハケ目が残る。口縁形態は黒髪式土器の特徴を呈している。一括遺物である。

５は、甕形土器の脚台部である。内外面にハケ目が残る。点上げ遺物である。

６は、丹塗りの高杯形土器の杯部である。内外面に丹塗りが施されているが、外面は被熱によりそのほとんどが剥落している。口縁形態からも須玖Ⅱ式土器の範疇で捉える事が可能である。点上げ遺物１点と一括遺物３点の計４点が接合している。

７は、粘板岩製の磨製石鏃である。先端及び両端が欠損している。点上げ遺物である。

【S135】（図111、112参照）

［確認位置］調査１区、C、D－５グリッド。

標高約10.12m。

［形状］方形

［大きさ］長軸：320cm、短軸：200cm～、深さ：20cm。

［住居内覆土］２層。

［主柱穴］２本？。１本だけ確認。径35cm。深さ40cm。

［炉］有り。大きさ40～×70cmで深さ約５cm。

［貯蔵穴］有り。大きさ60×10５cmで深さ約20cm。

［硬化面］有り。

［張り床］有り。

［切り合い関係］S094から切られる。

［遺物の出土状況］床面からやや浮いた状態で出土。遺構廃絶後の遺物として捉えたい。

［出土遺物量］

S135から出土した遺物は、小グレーコンテナ(38cm×58cm×５cm）１箱分で、総重量3,232gであった。内訳は、弥生土器3,232g（内丹塗り土器は32g）であった。

［出土遺物の観察］

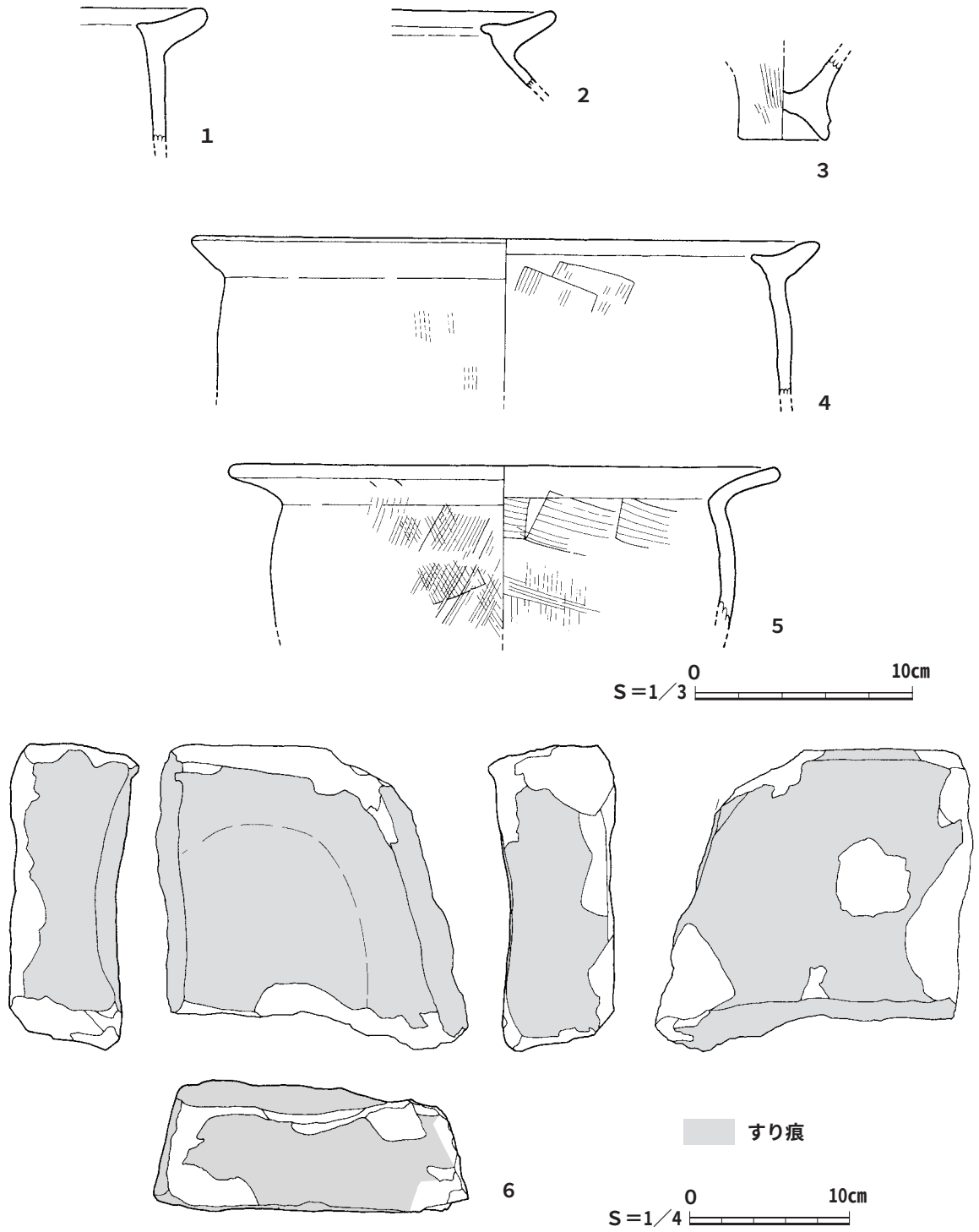
土器の様相は、甕や壺の口縁部は、ほとんどが黒髪式土器の範疇で捉えられるものであった。

ここでは、５点の土器と１点の石器を紹介する。

１、２、４は、甕形土器の口縁部及び胴部上半部である。２は胴部がかなりはるが、口縁部形態からいずれも黒髪式土器の特徴を呈している。全て点上げ遺物である。

３は、甕形土器の脚台部である。底があまり上がらず、開きが無い形態からやや古手の様相を示す。２層からの出土である。

５は、甕形土器の口縁部及び胴部上半部であるが、



図(Fig)112　S135出土遺物実測図

口縁部形態はやや後期の様相を示している。無い外面にハケ目が残る。点上げ遺物である。

６は、砂岩の砥石である。５面に磨り痕跡がある。全体的に被熱による赤変が見られる。点上げ遺物で貯蔵穴の上面から出土している。

【S108】（図113、114参照）

［確認位置］調査１区、Ｋ、Ｌ－９グリッド。

標高約10.15m。

［形状］楕円形

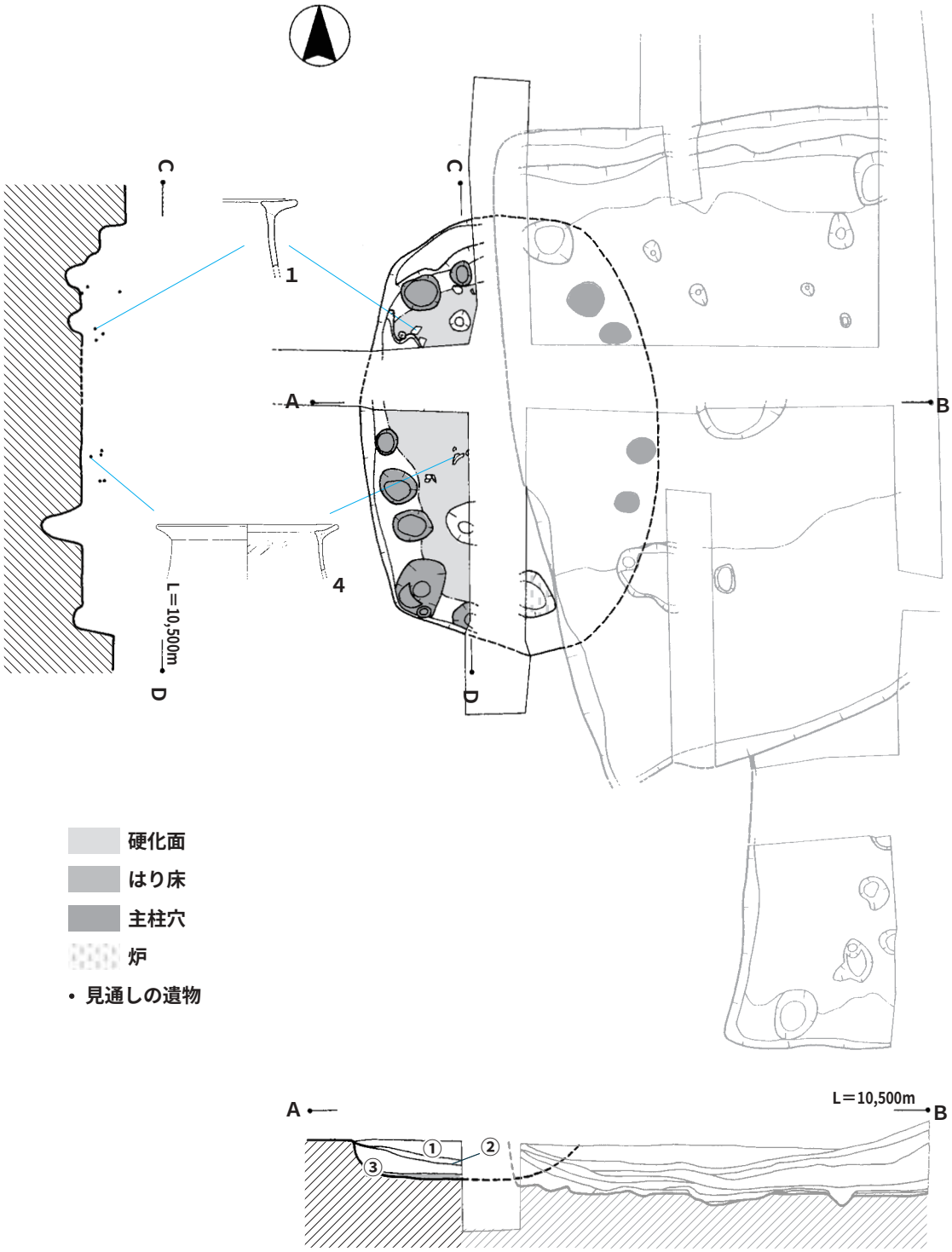
［大きさ］長軸：550cm、短軸：380cm程度、深さ：40～45cm。

［住居内覆土］３層。

［主柱穴］12本。径30～70cm（平均35cm)。深さ11～59.4cm（平均36.2cm)。

［炉］不明。

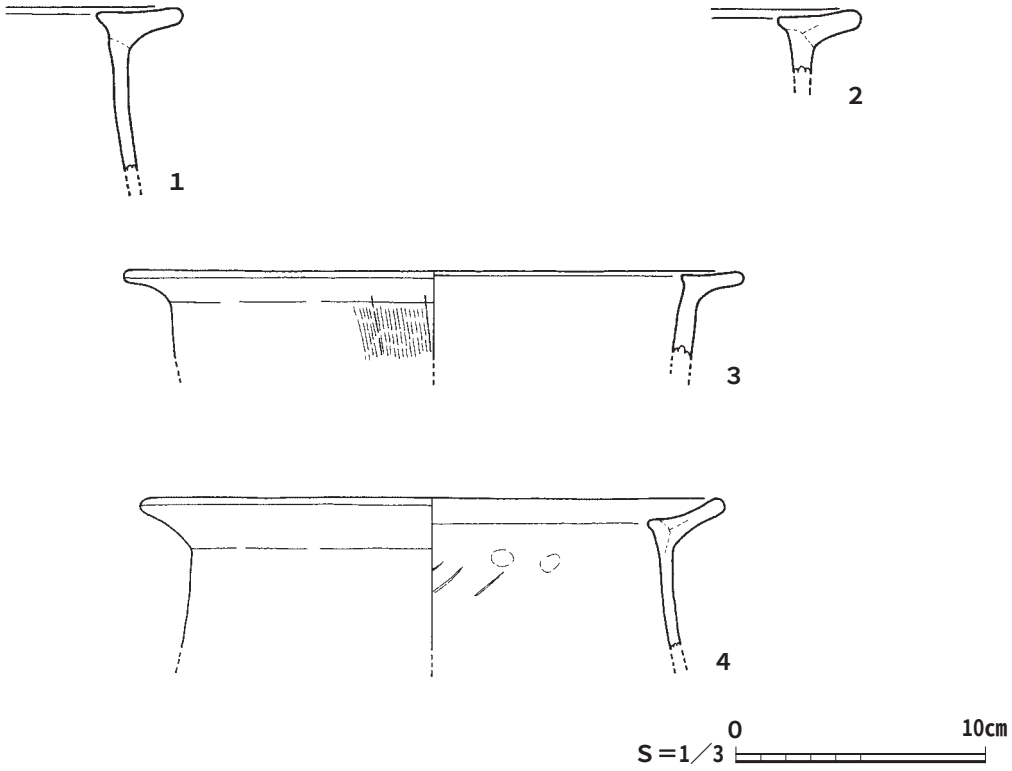
［貯蔵穴］無し。



①層　灰黄褐色（Hue10YR5／2）
　　粗めの砂質。
②層　黒褐色（Hue10YR3／1）
　　粗めの砂質でカーボンを多く含み、黒っぽく見える。
③層　灰黄褐色（Hue10YR4／2）
　　粗めの砂質でカーボン・焼土を含む、黄色っぽい地山の土の山砂をブロック状に含む。

S＝1／80　0　2m

図(Fig)113　住居跡（S108）実測図



図(Fig)114　S108出土遺物実測図

［硬化面］有り。

［張り床］有り。

［切り合い関係］S106から切られる。

［特記事項］

・柱穴、硬化面、張り床があることから住居跡の可能性が高いと判断した。

［遺物の出土状況］床面からやや浮いた状態で出土。遺構廃絶後の遺物として捉えたい。

［出土遺物量］

S108から出土した遺物は、20点ほどで、弥生土器382gのみであった。

［出土遺物の観察］

土器の様相は、甕や壺の口縁部は、全てが黒髪式土器の範疇で捉えられるものであった。

ここでは、４点の土器を紹介する。

１、２、３、４は、甕形土器の口縁部である。口縁部形態からいずれも黒髪式土器の特徴を呈している。３は中層からの出土で、１、２、４は点上げ遺物である。

②甕棺（２基）

【S008】（図115～117参照）

［確認位置］調査２区、Ｕ－７、８グリッド。

標高約10.5m。

［形態］合せ口の小児用甕棺

［掘り込み］断面で一部確認。

［上甕］丹塗りの高杯。脚部が一部欠損しているもののほぼ完形。口径28.5㎝、残存高21.5㎝。内外面にはハケ目後、ミガキ痕が観察され、その上から丹塗りが施されている。器形と口縁部形態から黒髪式土器の範疇で捉える事ができると考える。

［下甕］壺形土器の胴部。口縁部及び胴部上部は、故意に打ち欠いて上甕との合せを良くするために欠損させている。最大胴部径は33.0㎝、残存高41.0㎝。外面にはハケ目後ミガキ痕、内面にはハケ目が観察される。胴部上半部には幅８㎜、高さ８㎜で２重の突帯が巡る。器形から黒髪式土器の範疇で捉える事ができると考える。

［粘土痕跡］上甕と下甕の合わせ部分に目張り用の粘土あり。

［棺の内部］水洗いをしたが、骨片や副葬品は確認できなかった。

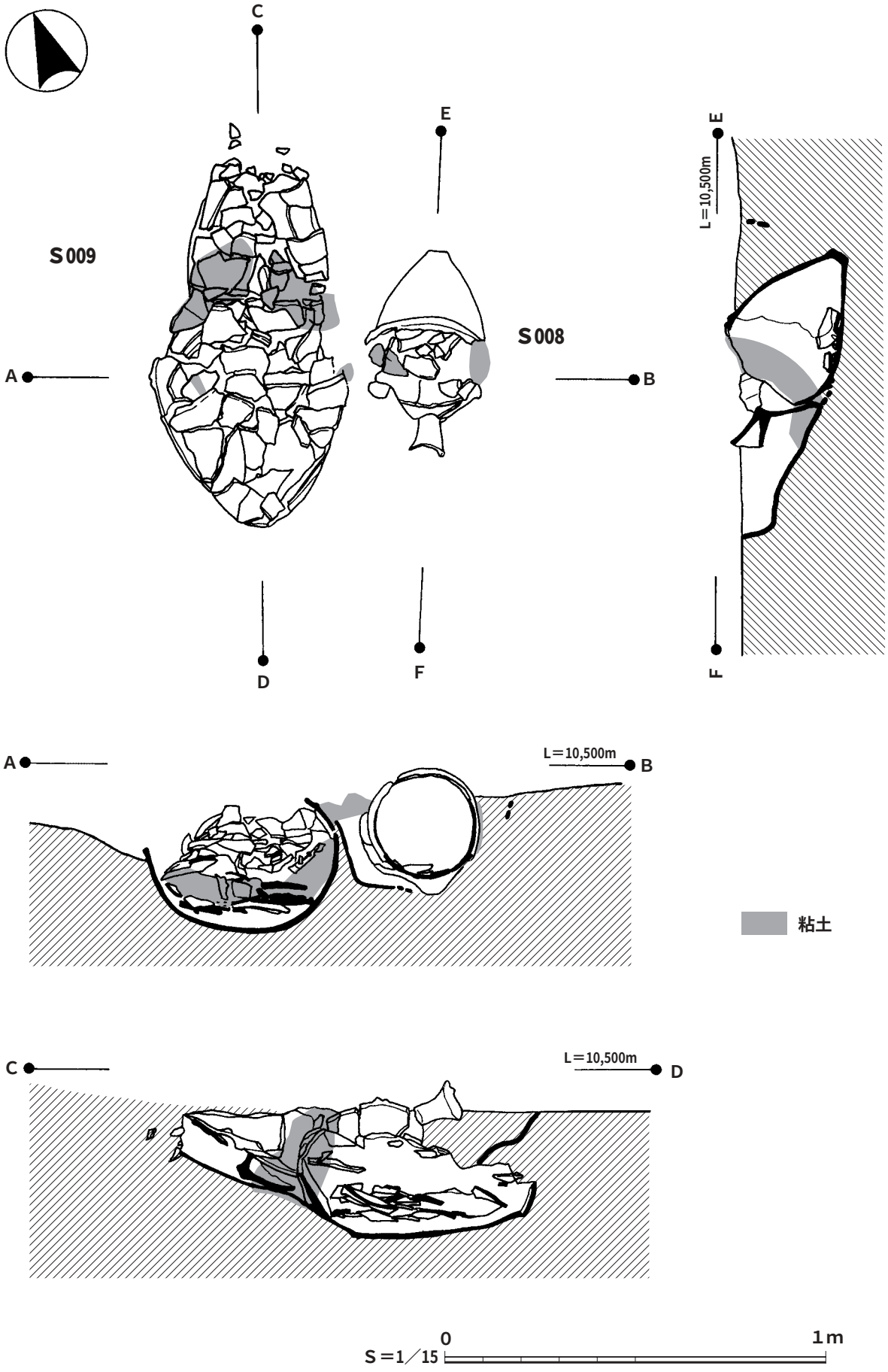
［切り合い関係］S008がS009を切る。

【S009】（図115参照）

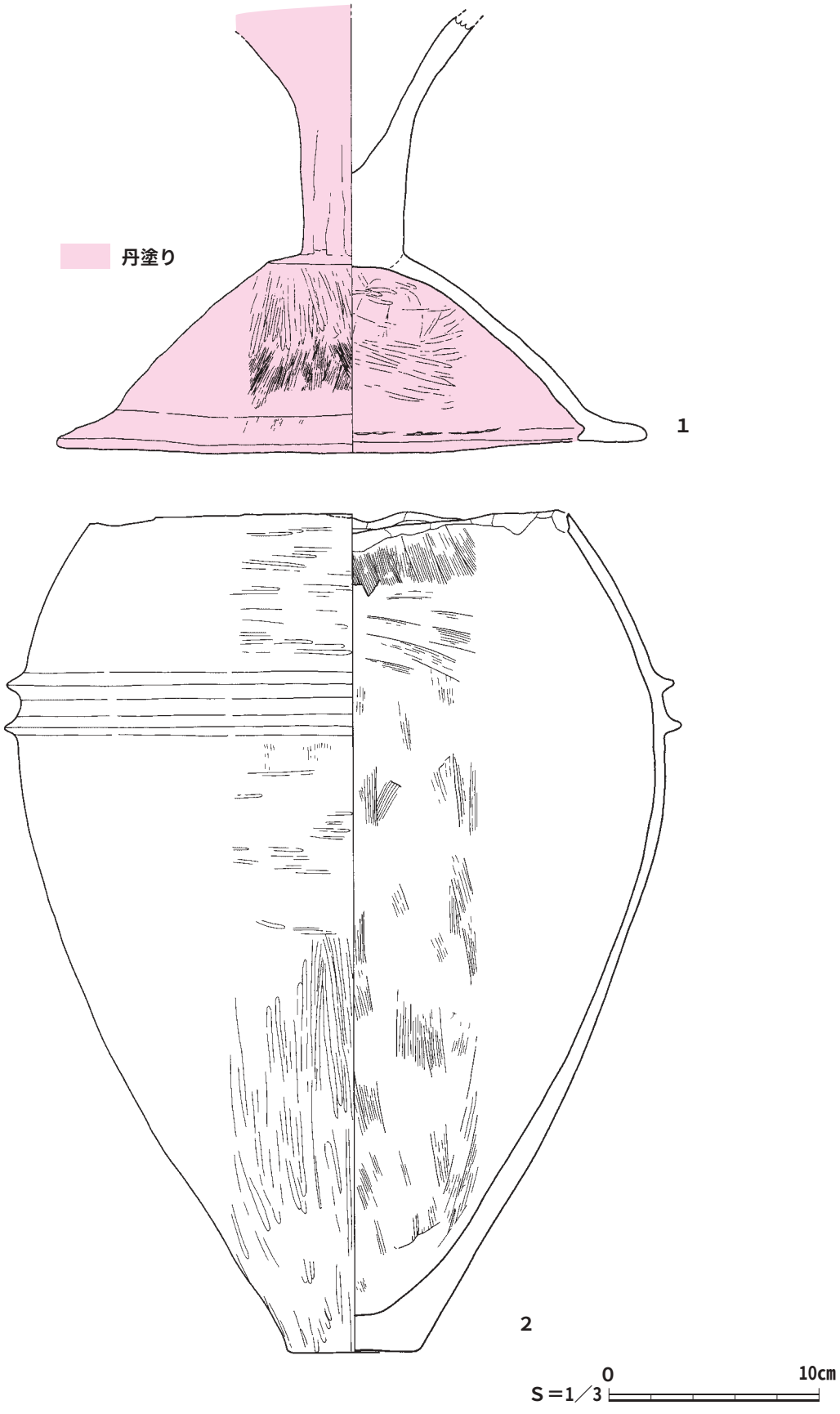
［確認位置］調査２区、Ｕ－７グリッド。

標高約10.5m。

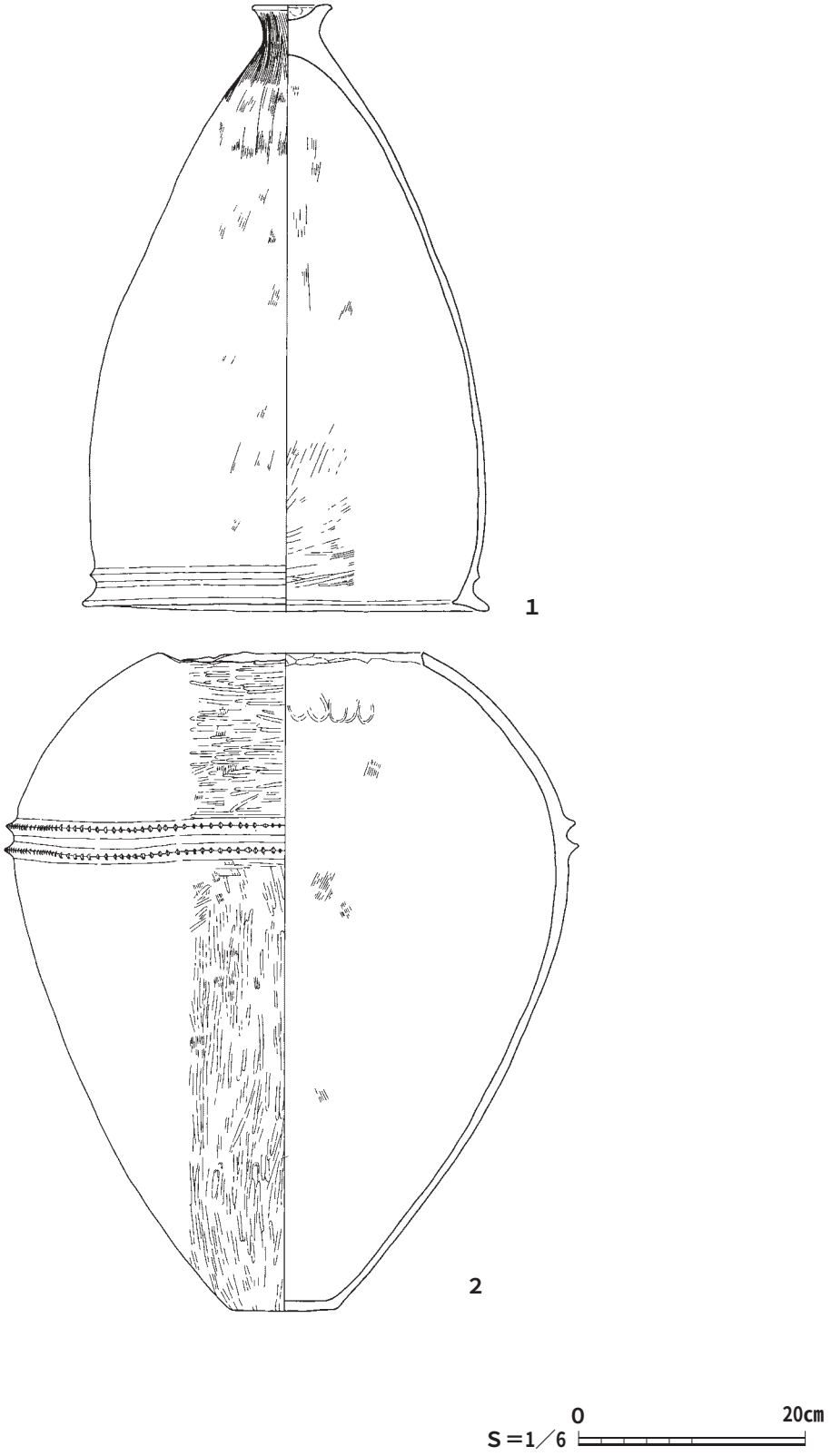
［形態］合せ口の小児用甕棺



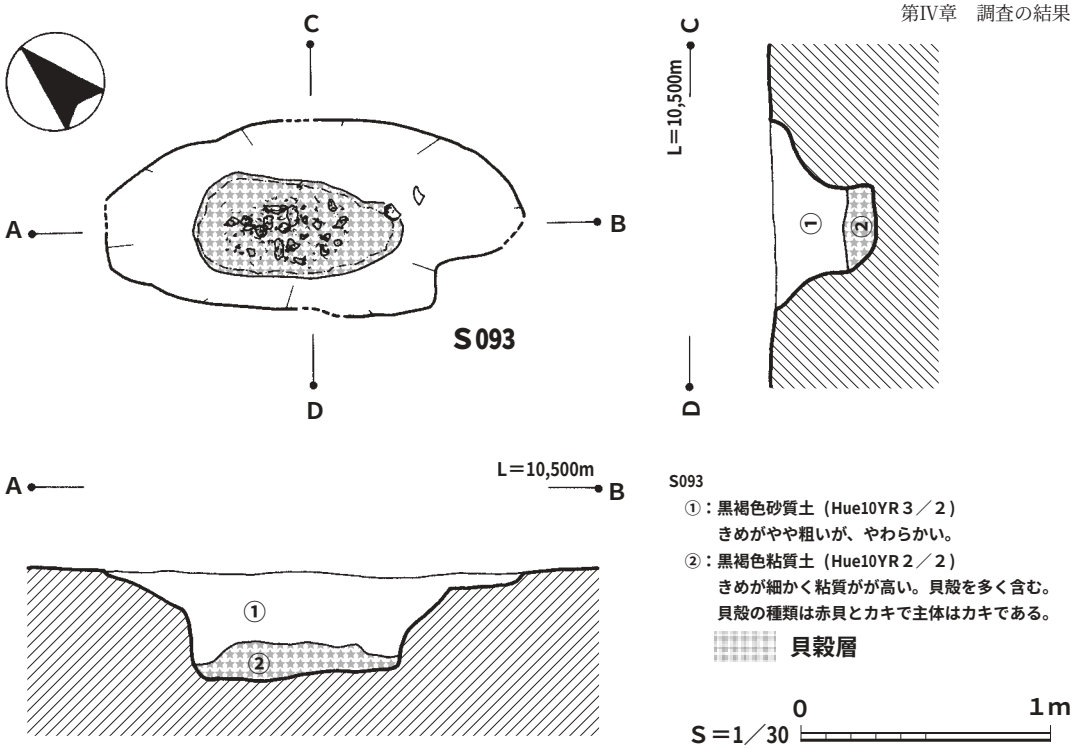
図(Fig)115　甕棺墓（S008・S009）実測図



図(Fig)116　S008出土遺物実測図



図(Fig)117　S009出土遺物実測図



図(Fig)118　ポケット貝塚（S093）実測図

［掘り込み］未確認。

［上甕］完形の甕形土器。口径36.1㎝、残存高53.8㎝。内外面にはハケ目が残るが、焼きが甘いせいか器面が粗く、調整痕が部分的にしか残存していない。口縁部の約２㎝下に幅１㎝、高さ0.5㎝の１重の突帯が巡る。口縁部形態から黒髪式土器の範疇で捉える事ができる。胎土分析の資料である。

［下甕］壺形土器の胴部。口縁部は、故意に打ち欠いて上甕との合せを良くするために欠損させている。最大胴部径は50.2㎝、残存高58.2㎝。外面にはハケ目後ミガキ痕、内面にはハケ目や指頭圧痕が観察される。胴部上半部には幅１～1.5㎝、高さ0.8～１㎝で２重の刻み目突帯が巡る。器形から黒髪式土器の範疇で捉える事ができると考える。

［粘土痕跡］上甕と下甕の合わせ部分に目張り用の粘土あり。

［棺の内部］水洗いをしたが、骨片や副葬品は確認できなかった。

［切り合い関係］S008がS009を切る。

［考察］

・S008とS009の調査により、２基とも小児用甕棺で側に並んで切り合いながら埋葬されていることから、間もなく亡くなった幼い兄弟の墓である可能性が高い。軸は北東方向にきれいに並んでいるが、頭の方向が逆である。幼い子どもを失った親（弥生人）の悲しみは絶えがたきものであったであろう。

③ポケット貝塚（１基）

【S093】（図118参照）

［確認位置］調査１区、Ｂ－５グリッド。
標高約10.2m。

［形状］長楕円形

［大きさ］長軸：165㎝、短軸：75㎝、深さ：43㎝。

［覆土］２層。

［遺物］

①貝殻。マガキの貝殻が主体を占める。左殻は52枚確認。わずかにハイガイを含み、左殻は５枚確認。また、被熱したカキの貝殻数は６枚あった。

②土器。小片が50点ほど。弥生土器片が中心で縄文土器片が混入する。

③魚骨。１点確認。間棘の可能性あり。(帆足俊文氏のご教示による)

［切り合い関係］無し。単独で存在。

［考察］

・長楕円形の穴（ゴミ穴）を掘り、貝殻等を捨てたポケット貝塚（いわゆるゴミ捨て場）と考えられる。その時に魚の食べ滓や土器の小片も捨てたのであろう。当時は近くでカキが採集できる環境であった可能性が高い。出土土器は小片であり、年代の決め手となる口縁部がない。カキを放射性炭

素年代測定にかけて14C年代を暦年代に較正した年代が、cal BC 75－cal AD 35（100%）であった。この年代を信用すると弥生中期にあたる。

④土坑（13基）

【S030】（図119参照）

［確認位置］調査２区、Ｔ－９グリッド。

標高約10.2m。

［形状］楕円形

［大きさ］長軸：55㎝～深さ：約34㎝。

［覆土］３層。

［切り合い関係］S034、37から切られる。

［遺物の出土状況］床面及び床面からやや浮いた状態で出土。遺構廃絶後間もない遺物として捉えたい。

［出土遺物量］

S030から出土した遺物は、弥生土器２点のみであった。

［出土遺物の観察］

土器の様相は、甕の口縁部は、黒髪式土器の範疇で捉えられるものであったことから、弥生時代中期後半期の土器と判断した。

ここでは、１点の土器を紹介する。

１は、甕形土器の口縁部である。黒髪式土器の特徴を呈する。点上げ遺物である。

［遺構の性格］

・切り合いがあり、全体のプランは不明だが、住居と考えるには小さすぎる。遺物は２点であり、性格は不明である。

【S034】（図119参照）

［確認位置］調査２区、Ｔ－９グリッド。

標高約10.2m。

［形状］楕円形

［大きさ］長軸：170㎝～、短軸：150㎝～、深さ：51～65㎝。

［覆土］３層。

［切り合い関係］S030、37から切られる。

［遺物の出土状況］床面及び床面からやや浮いた状態で出土。遺構廃絶後間もない遺物として捉えたい。

［出土遺物量］

S034から出土した遺物は、小グレーコンテナ(38㎝×58㎝×５㎝）２箱分で、総重量5,516gであった。内訳は、縄文土器121g（10片）、弥生土器5,374g（内丹塗り土器は272g)、青磁（３片）21gであった。

［出土遺物の観察］

土器の様相は、甕や壺の口縁部は、やや後期の様相を持つものとが混在するが、床面近くはほとんど黒髪式土器の範疇で捉えられるものであったことから、弥生時代中期後半期の土器と判断した。青磁片３点は上層の遺物で混入であろう。

ここでは、２点の土器を紹介する。

２は、無頸壺か甕形土器の口縁部である。甕形土器であれば、やや後期的な様相を呈する。点上げ遺物である。

３は、甕形土器の口縁部である。黒髪式土器の特徴を呈する。点上げ遺物である。

［遺構の性格］

・当初は住居跡の可能性も考えたが、硬化面や柱穴、炉などが無いことから土抗とした。遺物は散在するが性格は不明である。

【S037】（図119参照）

［確認位置］調査２区、Ｔ－９グリッド。

標高約10.2m。

［形状］楕円形

［大きさ］長軸：60㎝～深さ：約10㎝。

［覆土］１層。

［切り合い関係］S034、37から切られる。

［遺物の出土状況］床面からやや浮いた状態で出土。遺構廃絶後の遺物として捉えたい。

［出土遺物量］

S037から出土した遺物は、丹塗りの弥生土器120gのみであった。小片のため、紹介はしない。

［遺構の性格］

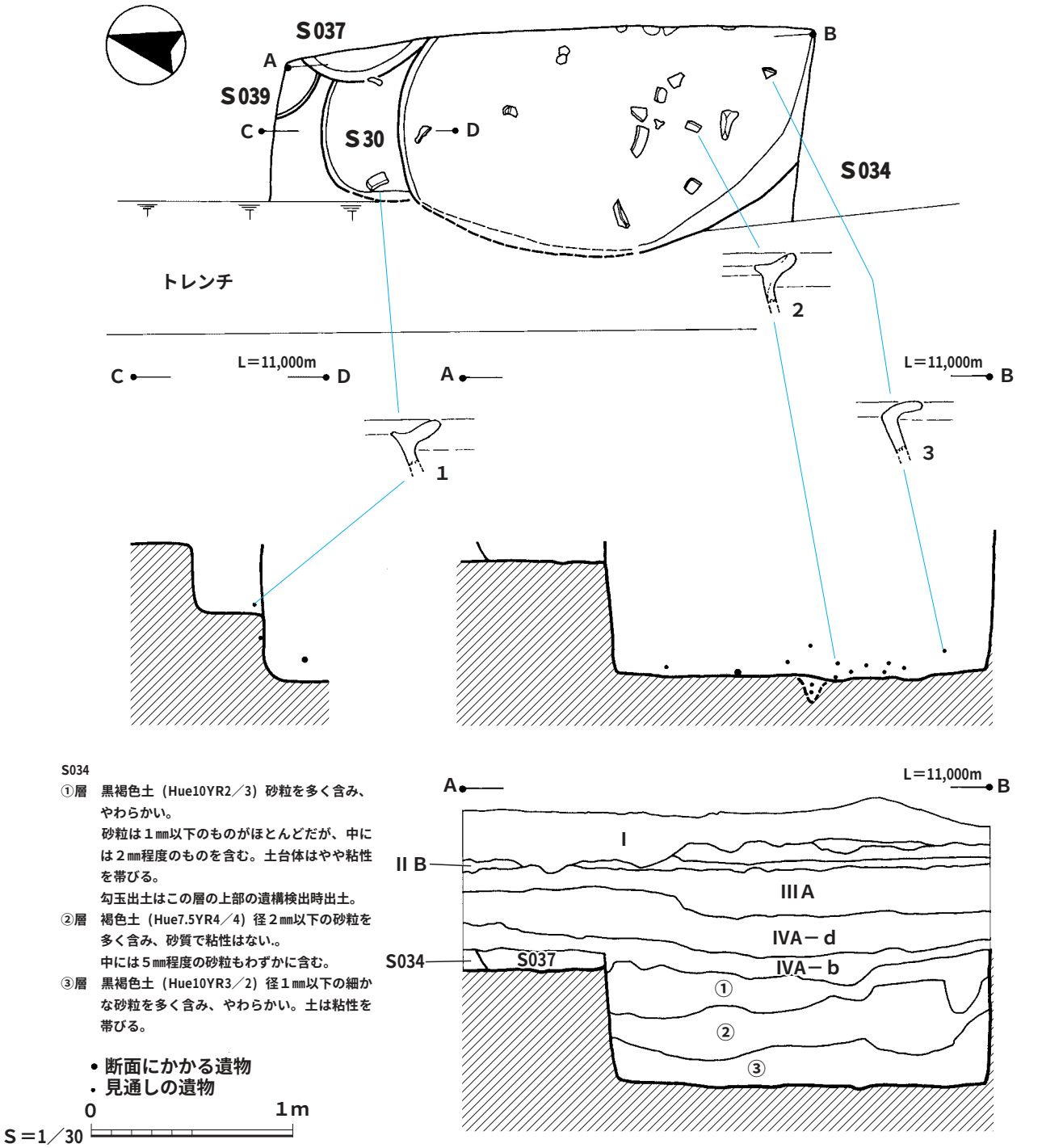
・切り合いがあり、全体のプランは不明だが、住居と考えるには小さすぎる。遺物は小片であり、性格は不明である。切りあい関係から弥生時代中期後半期の土抗と判断した。

【S039】（図119参照）

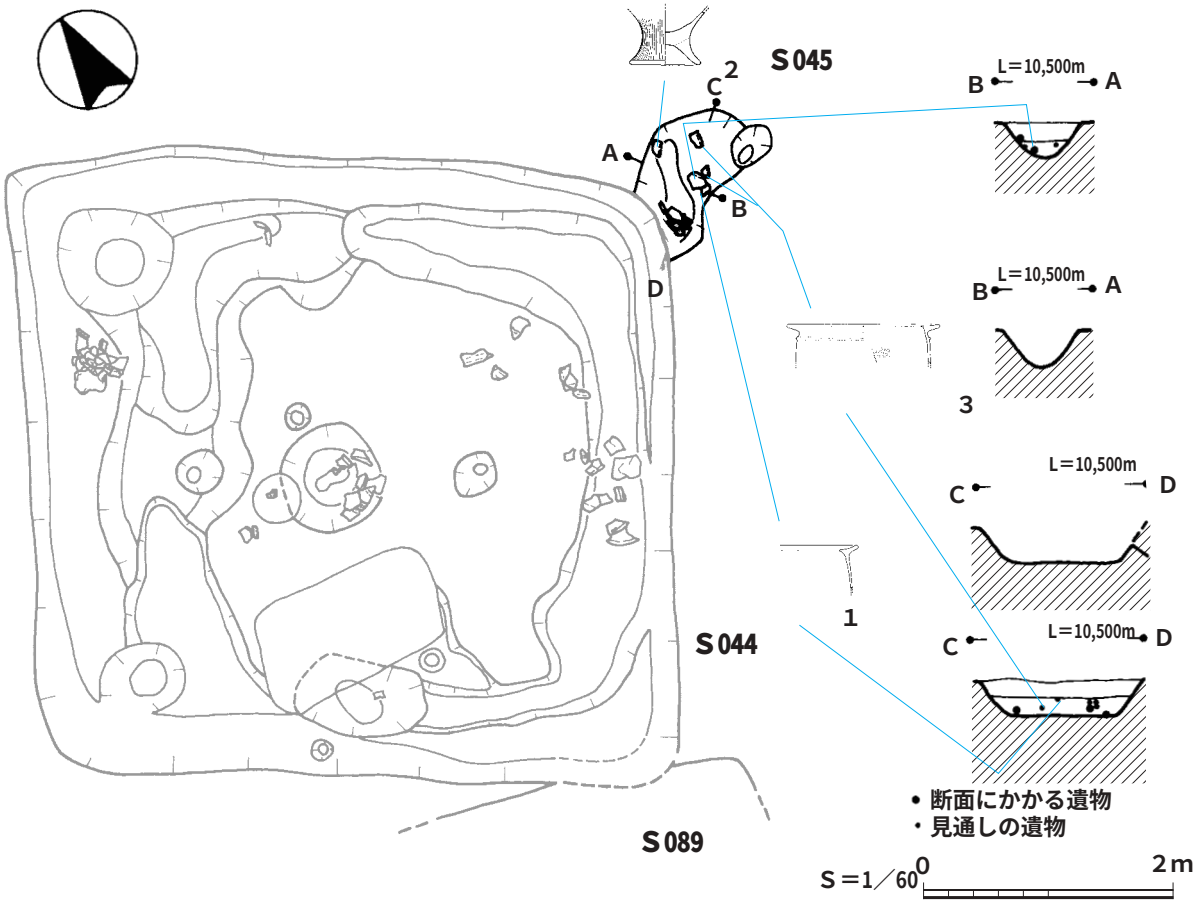
［確認位置］調査２区、Ｔ－９グリッド。

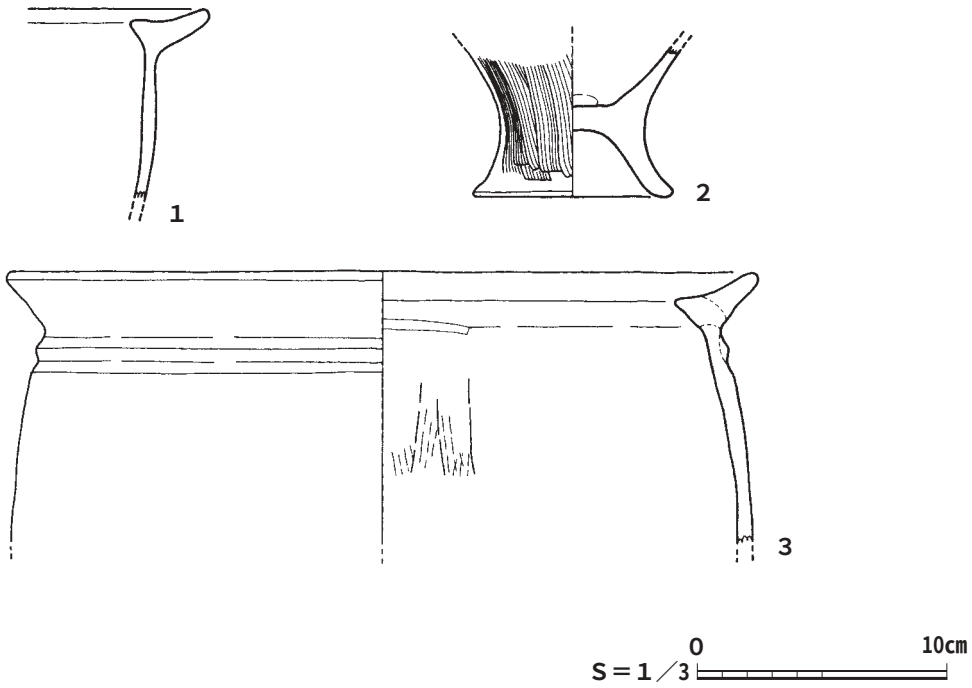
標高約10.2m。

［形状］楕円形

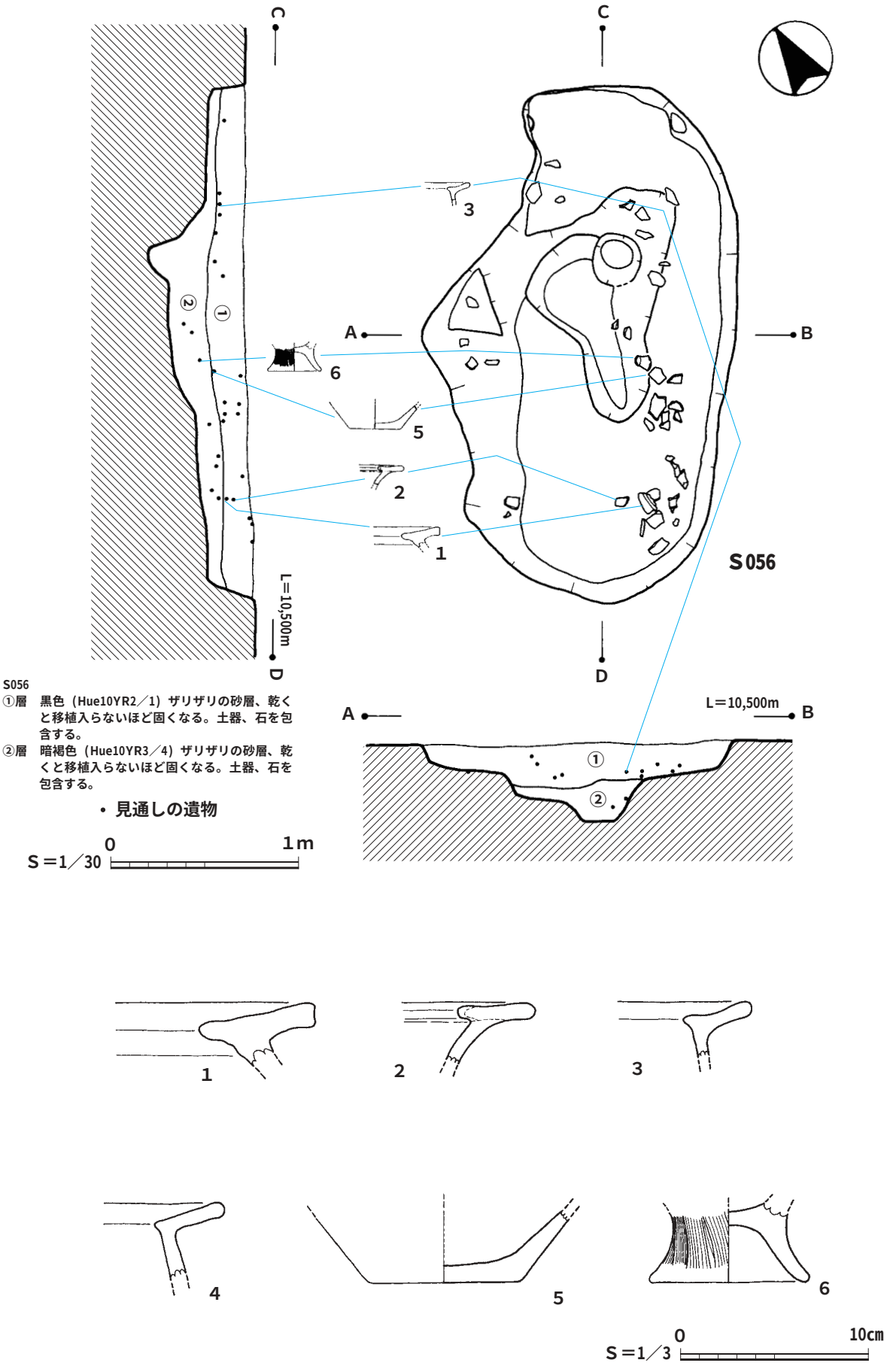


図(Fig)119　土坑（S030・S034・S037・S039）実測図及び出土遺物実測図

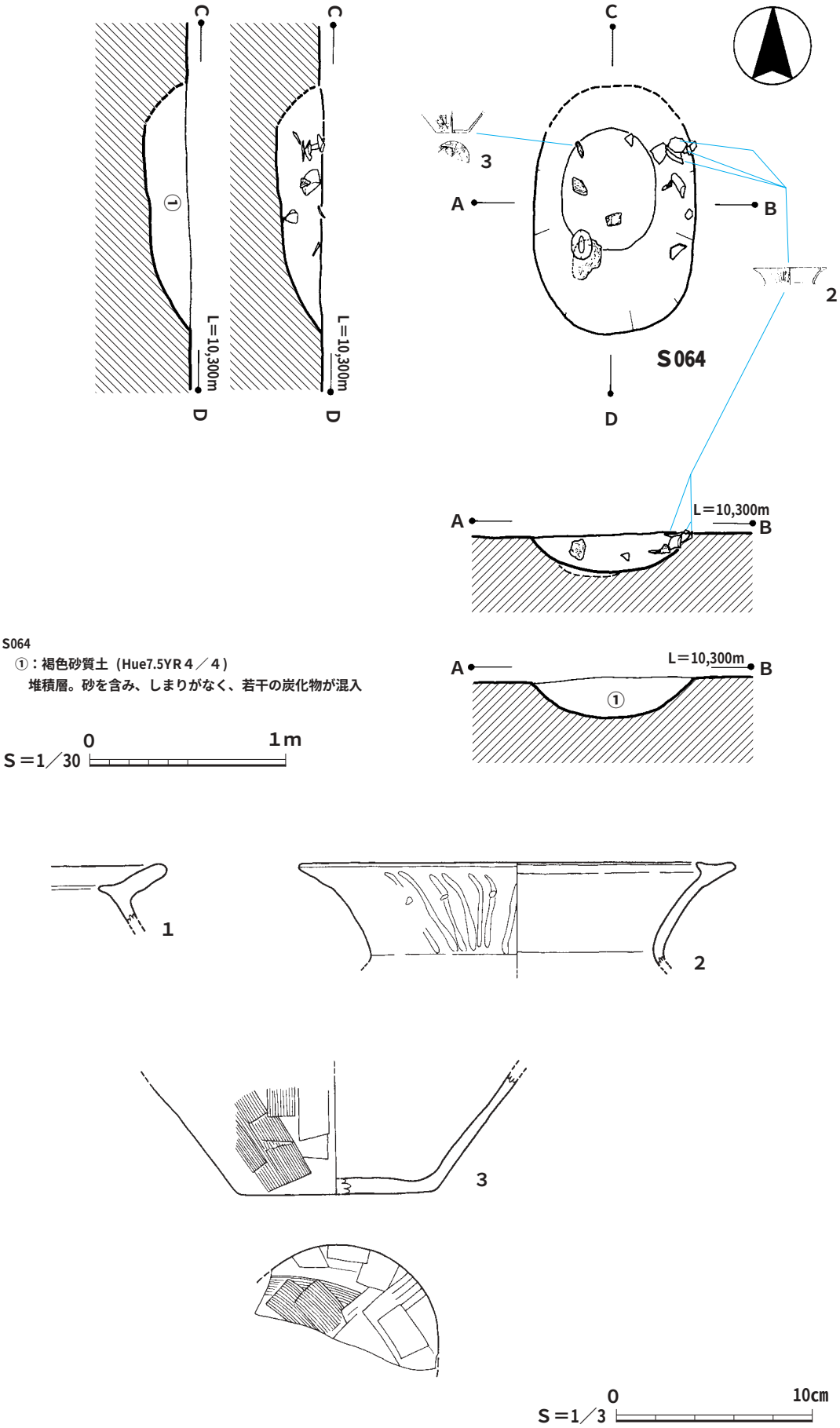




図(Fig)120　土坑（S045）実測図及び出土遺物実測図



図(Fig)121　土坑（S056）実測図及び出土遺物実測図



S064
①：褐色砂質土（Hue7.5YR４／４）
堆積層。砂を含み、しまりがなく、若干の炭化物が混入

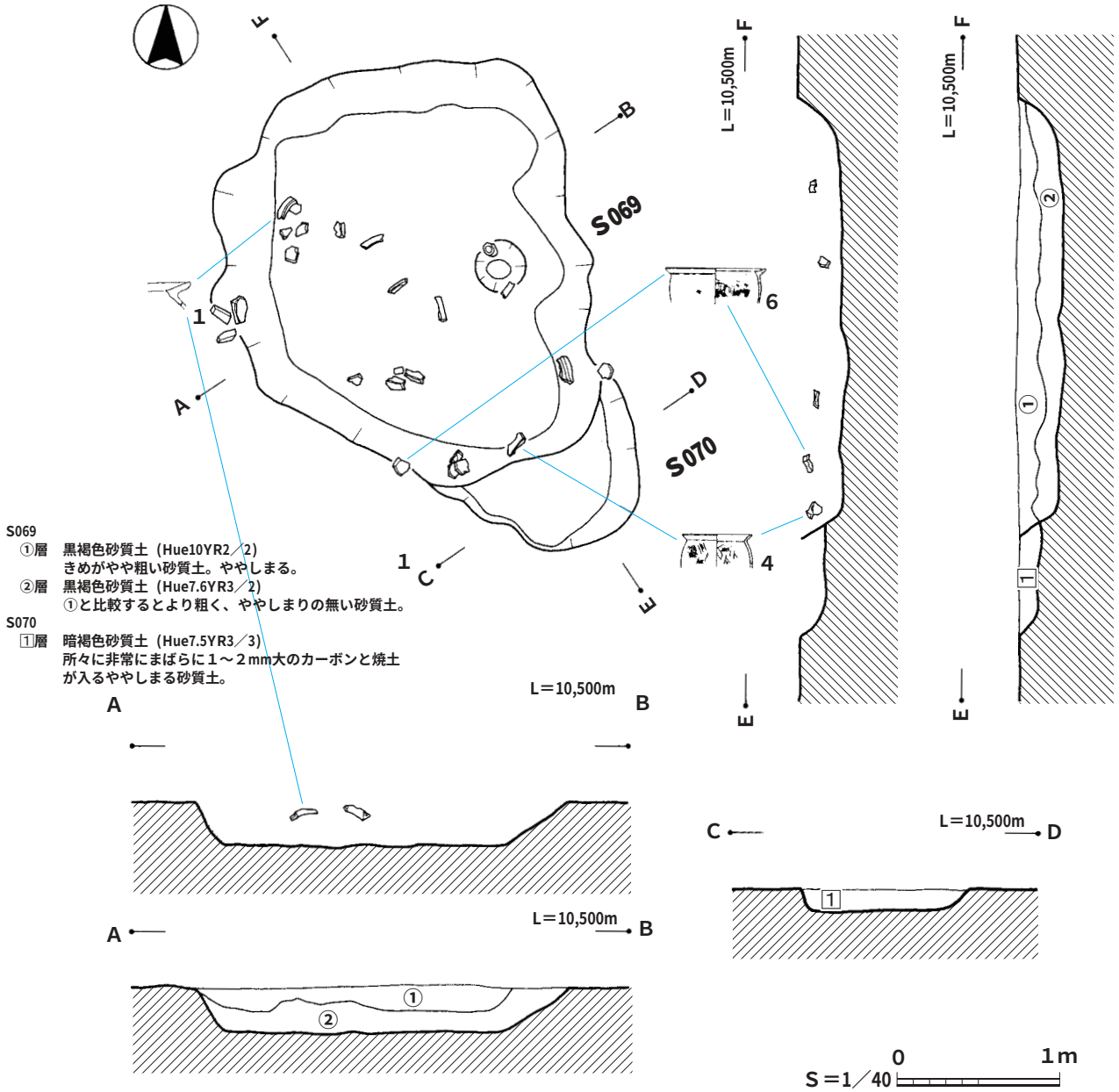
図(Fig)122　土坑（S064）実測図及び出土遺物実測図

［大きさ］長軸：30㎝～深さ：約10㎝。
［覆土］１層。
［切り合い関係］S037から切られる。
［遺物の出土状況］出土遺物はない。
［遺構の性格］
・切り合いがあり、全体のプランは不明だが、住居と考えるには小さすぎる。切りあい関係から弥生時代中期後半期の土抗と判断した。性格も不明。

【S045】（図120参照）
［確認位置］調査１区、Ｃ－５グリッド。
標高約10.16m。
［形状］不定形
［大きさ］長軸：128㎝～、短軸：53～60㎝、深さ：25～27㎝。
［覆土］２層。
［切り合い関係］S044から切られる。
［遺物の出土状況］ほぼ床面から出土。遺構廃絶時の遺物として捉えたい。
［出土遺物量］
S045から出土した遺物は、小グレーコンテナ(38㎝×58㎝×５㎝）約１／２箱分で、総重量366gであった。内訳は、縄文土器16g（１片)、弥生土器350g（内丹塗り土器は77g）であった。
［出土遺物の観察］
土器の様相は、甕の口縁部は、全て黒髪式土器の範疇で捉えられるものであったことから、弥生時代中期後半期の土器と判断した。
ここでは、３点の土器を紹介する。
１、３は、甕形土器の口縁部及び胴部上半部である。いずれも黒髪式土器の特徴を呈している。２は、内面にハケ目が残り、いずれも頸部下に１条の突帯が巡る。いずれも点上げ遺物である。
２は、甕形土器の底部である。外面にハケ目が残る。点上げ遺物である。
［遺構の性格］
・詳細は不明である。

【S056】（図121参照）
［確認位置］調査１区、Ｅ－６グリッド。
標高約10.40m。
［形状］楕円
［大きさ］長軸：270㎝、短軸：164㎝、深さ：40～44㎝。
［覆土］２層。
［切り合い関係］無し。
［遺物の出土状況］床面から浮いた状態で出土。遺構廃絶後の遺物として捉えたい。
［出土遺物量］
S056から出土した遺物は、小グレーコンテナ(38㎝×58㎝×５㎝）約３箱分で、総重量5,716gであった。内訳は、縄文土器20g（１片)、弥生土器5,696g（内丹塗り土器は96g）であった。
［出土遺物の観察］
弥生土器の様相は、甕の口縁部は、全て黒髪式土器の範疇で捉えられるものであったことから、弥生時代中期後半期の土器と判断した。中世の遺物は上層から出土した。紛れ込みであろう。
ここでは、６点の土器を紹介する。
１、３、４は、甕形土器の口縁部である。口縁部形態でみると１は、立岩式甕棺、３、４は黒髪式土器の範疇で捉えられる特徴を呈している。１、３は点上げ遺物であり、４は、一括遺物である。
２は、壺形土器の口縁部である。黒髪式土器の特徴を呈している。点上げ遺物である。
５は、甕形土器か壺形土器の底部である。点上げ遺物である。
６は、甕形土器の脚台部である。外面にハケ目が残る。点上げ遺物である。
［遺構の性格］
・詳細は不明である。

【S064】（図122参照）
［確認位置］調査１区、Ｂ、Ｃ－２グリッド。
標高約10.25m。
［形状］長楕円
［大きさ］長軸：124㎝、短軸：87㎝、深さ：30～34㎝。
［覆土］１層。
［切り合い関係］無し。
［遺物の出土状況］床面から浮いた状態で出土。遺構廃絶後の遺物として捉えたい。
［出土遺物量］
S064から出土した遺物は、小グレーコンテナ(38㎝×58㎝×５㎝）約１／２箱分で、総重量1,221



図(Fig)123　土坑（S069・S070）実測図

gであった。内訳は、弥生土器1,221g（内丹塗り土器は21g）であった。

［出土遺物の観察］

土器の様相は、甕の口縁部は、全て黒髪式土器の範疇で捉えられるものであったことから、弥生時代中期後半期の土器と判断した。

ここでは、３点の土器を紹介する。

１は、甕形土器の口縁部である。黒髪式土器の特徴を呈している。一括遺物である。

２は、壺形土器の口縁部である。外面には放射状にミガキ痕が見られる。黒髪式土器の特徴を呈している。点上げ遺物３点が接合している。

３は、甕形土器か壺形土器の底部である。内外面にハケ目が残る。点上げ遺物である。

６は、甕形土器の脚台部である。外面にハケ目が残る。点上げ遺物である。

［遺構の性格］

・詳細は不明である。

【S069】（図123・124参照）

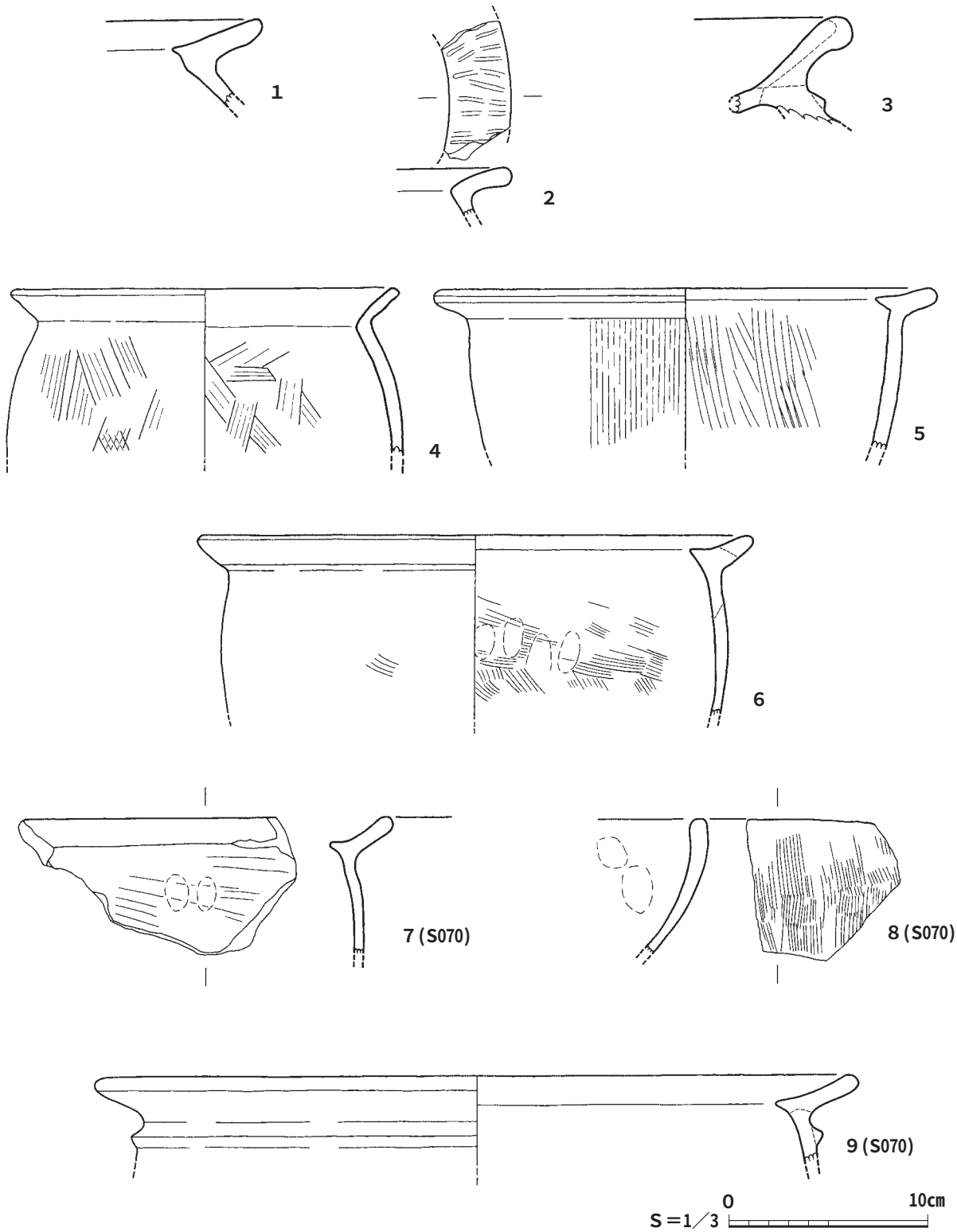
［確認位置］調査１区、A、B－５グリッド。
標高約10.2m。

［形状］楕円？

［大きさ］長軸：230㎝、短軸：230㎝、深さ：25～30㎝。

［覆土］２層。

［切り合い関係］S070を切る。



図(Fig)124　S069・S070出土遺物実測図

［遺物の出土状況］床面から浮いた状態で出土。遺構廃絶後の遺物として捉えたい。

［出土遺物量］

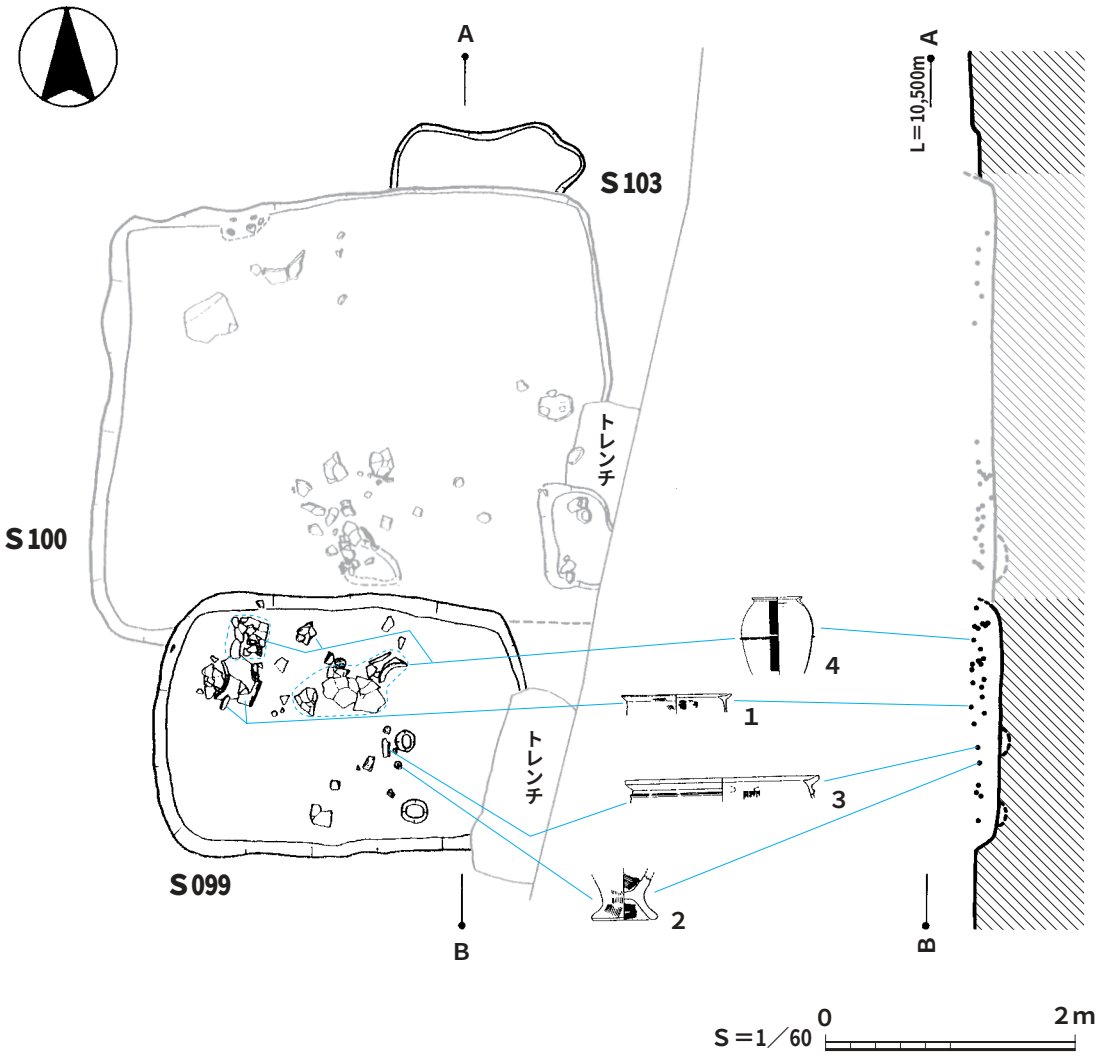
S069から出土した遺物は、小グレーコンテナ(38㎝×58㎝×５㎝）約２箱分で、総重量8,276gであった。内訳は、弥生土器8,276g（内丹塗り土器は376g）であった。

［出土遺物の観察］

土器の様相は、甕の口縁部は、１点を除き全て黒髪式土器の範疇で捉えられるものであったことから、弥生時代中期後半期の土器と判断した。

ここでは、６点の土器を紹介する。

１、４、５、６は、甕形土器の口縁部及び胴部上半部である。口縁部形態は、黒髪式土器の特徴を呈



図(Fig)125　土坑（S099・S103）実測図

している。５、６は、内外面にハケ目が残る。いずれも点上げ遺物である。４は、後期の様相を示す。

２は、無頸壺か鉢形土器の口縁部と考えられる。

口縁部には放射状のミガキ痕が見られる。須玖Ⅱ式土器の影響を受けた土器と考えられる。一括遺物、ハケ目が残る。点上げ遺物であるが、一部遺構外にかかる。

３は、立岩式甕棺の口縁部と考えられる。頸部に１条の突帯が巡る。点上げ遺物である。

【S070】（図123、124参照）

［確認位置］調査１区、Ａ－５グリッド。

標高約10.2m。

［形状］楕円？

［大きさ］長軸：90㎝、短軸：125㎝、深さ：13㎝。

［覆土］１層。

［切り合い関係］S069に切られる。

［遺物の出土状況］床面から浮いた状態で出土。遺構廃絶後の遺物として捉えたい。

［出土遺物量］

S070から出土した遺物は、小グレーコンテナ(38㎝×58㎝×５㎝）約１箱分で、総重量2,386gであった。内訳は、縄文土器86g（１片）、弥生土器2,300gであった。

［出土遺物の観察］

土器の様相は、甕の口縁部は、除き全て黒髪式土器の範疇で捉えられるものであったことから、弥生時代中期後半期の土器と判断した。

ここでは、３点の土器を紹介する。

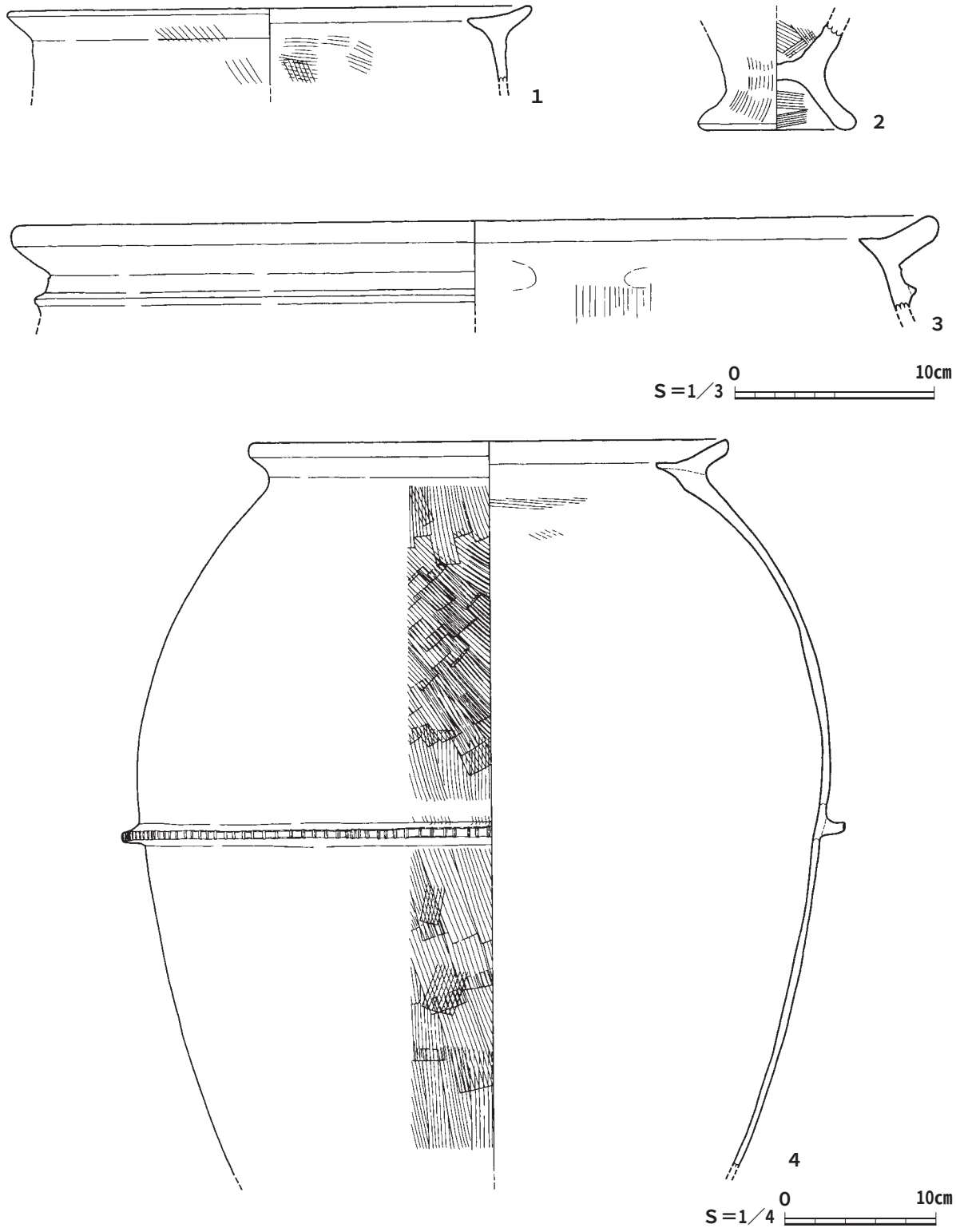
７、９は、甕形土器の口縁部である。口縁部形態は、黒髪式土器の特徴を呈している。９は、頸部下に１条の突帯が巡る。いずれも一括遺物である。

８は、鉢形土器の口縁部と考えられる。口縁部には放射状のミガキ痕が見られる。外面にはハケ目、内面には指頭圧痕が残る。点上げ遺物である。

【S099】（図125参照）

［確認位置］調査１区、Ｊ－９グリッド。

標高約10.13m。



図(Fig)126　S099出土遺物実測図

［形状］長楕円

［大きさ］長軸：290㎝、短軸：206㎝、深さ：20～23㎝。

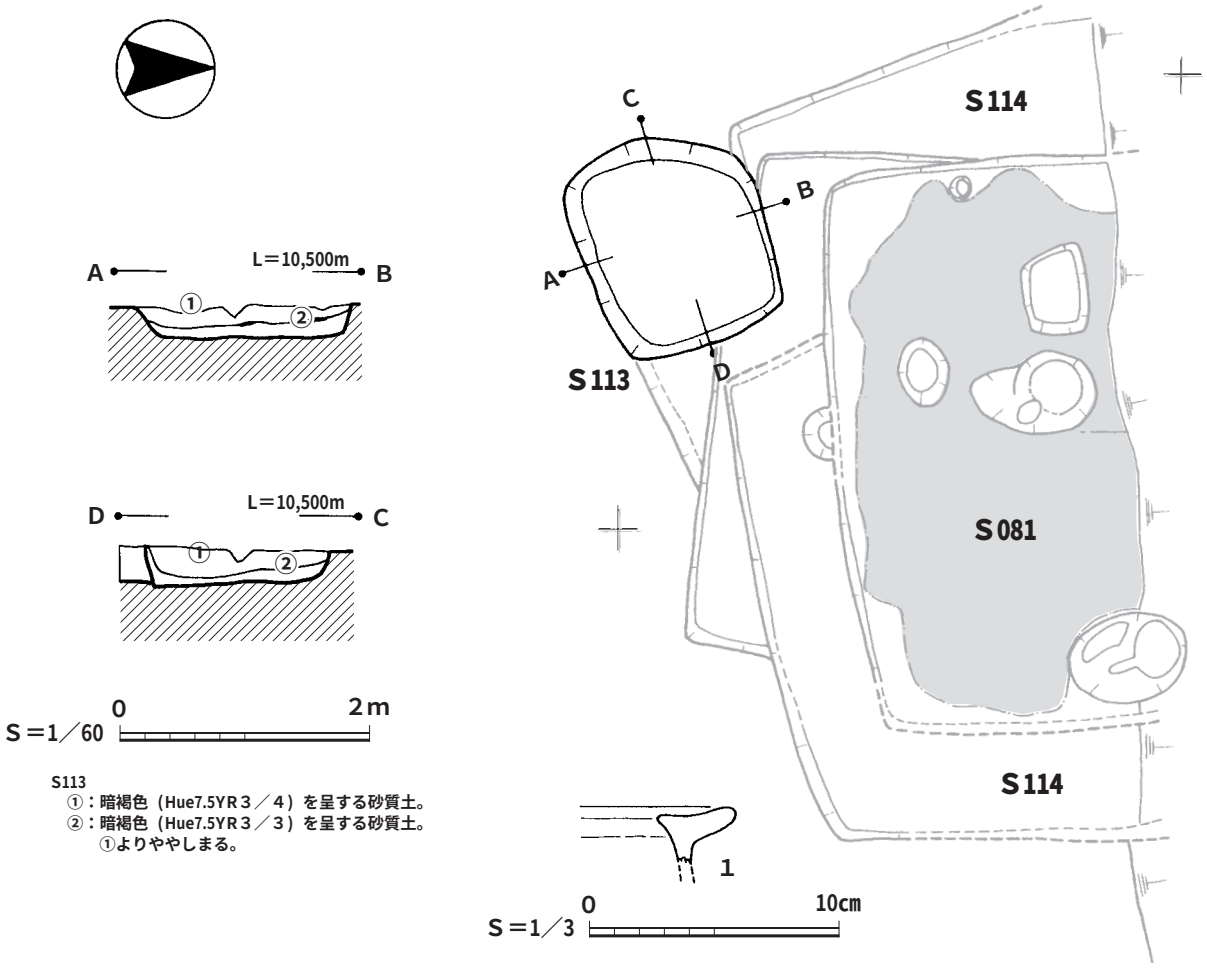
［覆土］１層。

［切り合い関係］S100を切る。

［遺物の出土状況］床面直上及び床面から浮いた状態で出土。遺構廃絶後間もない遺物として捉えたい。

［出土遺物量］

S099から出土した遺物は、小グレーコンテナ(38㎝×58㎝×５㎝）約１箱分で、総重量9,000gであった。内訳は、弥生土器9,000g（内丹塗り土器は138g）であった。



図(Fig)127　土坑（S113）実測図

［出土遺物の観察］

土器の様相は、甕や壺の口縁部は、大半が黒髪式土器の範疇で捉えられるものであった。

ここでは、４点の土器を紹介する。

１、３は、甕形土器の口縁部及である。内外面はハケ目が残る。３は、頸部下に１条の突帯が巡る。口縁部形態は、いずれも黒髪式土器の特徴を呈しており、点上げ遺物である。

２は、甕形土器の脚台部である。内外面はハケ目が残る。点上げ遺物である。

４は、甕形土器で小児用の甕棺であろう。内外面にハケ目が残り、外面胴部中央には１条の刻み目突帯が巡る。口縁部形態は、黒髪式土器の特徴を呈しており、点上げ遺物が接合している。

［遺構の性格］

・住居と考えるには小さすぎる。床面付近は、黒髪式土器の特徴を呈する土器であったことから弥生時代中期後半期の土抗と判断した。

【S103】（図125参照）

［確認位置］調査１区、Ｊ－９グリッド。

標高約10.13m。

［形状］楕円

［大きさ］長軸：130㎝、短軸：50㎝～、深さ：７㎝。

［覆土］１層。

［切り合い関係］S100に切られる。

［出土遺物量］出土遺物なし。

【S113】（図127参照）

［確認位置］調査１区、Ｉ－９グリッド。

標高約10.25m。

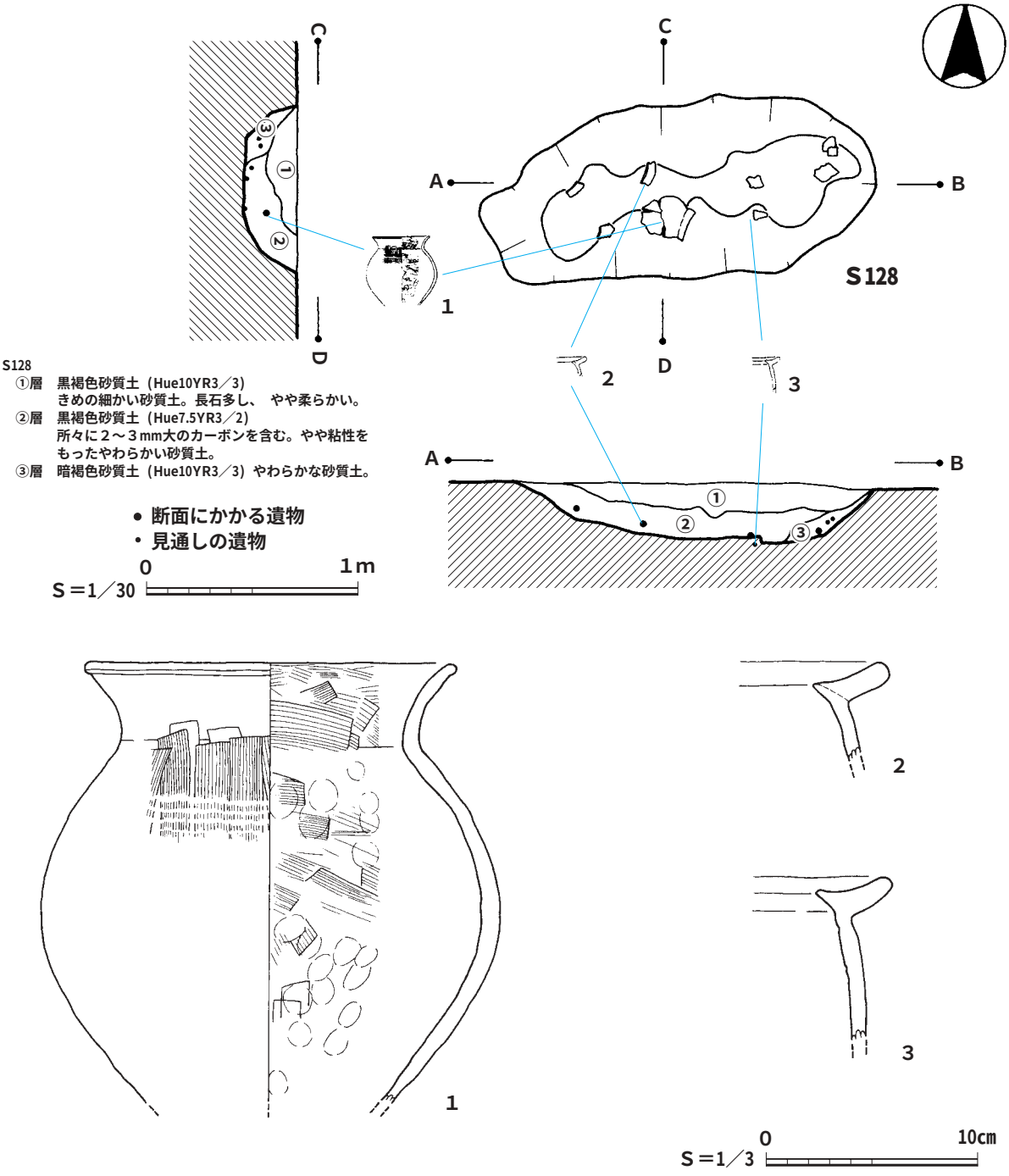
［形状］楕円

［大きさ］長軸：160㎝、短軸：150㎝、深さ：25㎝。

［覆土］１層。

［切り合い関係］S114、145、146を切る。

［遺物の出土状況］床面から浮いた状態で出土。遺



図(Fig)128　土坑（S128）実測図及び出土遺物実測図

構廃絶後の遺物として捉えたい。

［出土遺物量］

S113から出土した遺物は、小グレーコンテナ(38㎝×58㎝×５㎝）約１／２箱分で、総重量9,000gであった。内訳は、弥生土器700g（内丹塗り土器は40g）であった。

［出土遺物の観察］

出土遺物は少なかったが、甕の口縁部は、全て黒髪式土器の範疇で捉えられるものであった。

ここでは、１点の土器を紹介する。

１は、甕形土器の口縁部及である。口縁部形態は、黒髪式土器の特徴を呈している。一括遺物である。

［遺構の性格］不明。

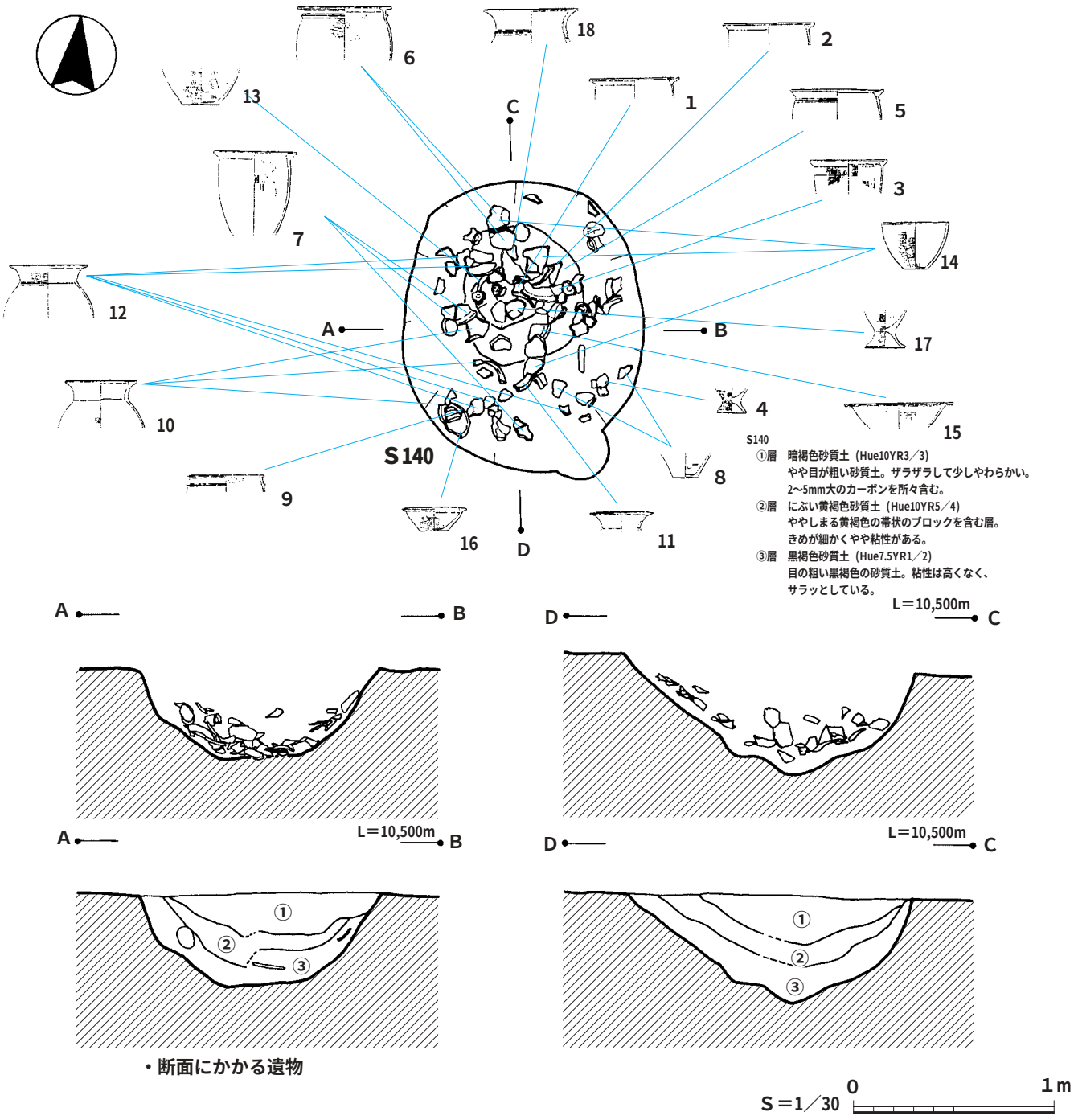
【S128】（図128参照）

［確認位置］調査１区、Ｏ－９グリッド。

標高約10.00m。

［形状］長楕円

［大きさ］長軸：185㎝、短軸：80㎝、深さ：26㎝。



図(Fig)129　土坑（S140）実測図

［覆土］２層。

［切り合い関係］無し。

［遺物の出土状況］床面直上及び床面から浮いた状態で出土。遺構廃絶後間もない遺物として捉えたい。

［出土遺物量］

S128から出土した遺物は、小グレーコンテナ(38㎝×58㎝×５㎝）約１／２箱分で、総重量2,180gであった。内訳は、弥生土器2,180g（内丹塗り土器は41g）であった。

［出土遺物の観察］

土器の様相は、甕や壺の口縁部は、ほとんどが黒髪式土器の範疇で捉えられるものであった。

ここでは、３点の土器を紹介する。

１は、壺形土器である。外面はハケ目、内面はハケ目及びハケ目後指頭圧痕が残る。点上げ遺物である。

２、３は、甕形土器の口縁部である。口縁部形態は、いずれも黒髪式土器の特徴を呈しており、点上げ遺物である。

［遺構の性格］不明。

【S140】（図129～132参照）

［確認位置］調査１区、Ｃ－３グリッド。

標高約10.25m。

［形状］楕円形

［大きさ］長軸：141㎝、短軸：117㎝、深さ：45㎝。

［覆土］３層。

［切り合い関係］無し。

［遺物の出土状況］遺構底直上に投げ込まれた状態で出土。遺構廃絶時の遺物として捉えたい。非常に一括性の高い遺物である。

［出土遺物量］

S140から出土した遺物は、中グレーコンテナ(38㎝×58㎝×15㎝）３箱分で、弥生土器10,333g(内丹塗り土器は2,233g）であった。

［出土遺物の観察］

土器の様相は、甕や壺の口縁部は、全て黒髪式土器の範疇で捉えられるものであり、非常に一括性の高い土器である。

ここでは、18点の土器を紹介する。全て点上げ遺物である。

１、２は、甕形土器の口縁部である。口縁部形態は、いずれも黒髪式土器の特徴を呈している。

３、５は、甕形土器の口縁部である。口縁部形態は、いずれも黒髪式土器の特徴を呈している。３は、内外面にハケ目が残り、外面には胴部上半部に１条の沈線が巡る。５は、頸部下に１条の突帯が巡る。

４は、甕形土器の脚台部である。外面にハケ目が残る。

６は、甕形土器の口縁部及び胴部上半部である。甕の形態は黒髪式土器の影響が強いが、口縁部形態は、須玖Ⅱ式土器の影響を呈している。外面にはハケ目が残り頸部下に１条の突帯が巡る。内面は指頭圧痕が残る。

７は、甕形土器の口縁部及び胴部である。口縁形態は黒髪式土器の特徴を呈するが、口縁基部が厚く、やや古手の様相を示す。

８は、丹塗りの甕形土器の底部である。須玖Ⅱ式土器の特徴を呈している。

９は、２条の刻み目突帯を持つ甕形土器の口縁部である。従来、弥生時代前期後半に位置付けされてきた形態の土器である。中期の段階までこの土器形式が残っていたとは考えにくく、当時拾われたものが混入した可能性が高いと考える。

10、11、12は、壺形土器の口縁部及び胴部上半部である。口縁部は黒髪式土器の特徴を呈している。12は、外面にハケ目が残り、頸部に１条の突帯が巡る。

13は、甕形土器か壺形土器の底部と考えられる。内外面にハケ目が残る。

14は、鉢形土器である。全体の約／３が残存している。外面にハケ目、内面に指頭圧痕が残る。

15は、丹塗りの高杯形土器の杯部である。内外面にミガキ痕が残り、特に口縁部には暗文が残る。口縁形態から須玖Ⅱ式土器の特徴が窺える。

16は、鉢形土器である。全体の約１／２が残存している。外面にハケ目、内面にハケ目後指頭圧痕が残る。形状が黒髪式土器の壺形土器口縁部に酷似している。

17は、鉢形土器の脚台部と考えられる。外面にハケ目、内面に指頭圧痕が残る。

18は、丹塗りの壺形土器の口縁部である。口縁形態は、10、11、12と違いくぼみが無くややなめらかである。また、口縁部に放射状の暗文が見られることから、黒髪式と須玖Ⅱ式のいずれの影響も受けた土器と考えられる。

〔⑤ピット〕

【№1757】（図133参照）

［確認位置］調査１区、Ｇ－７グリッド。

標高約10.23m。

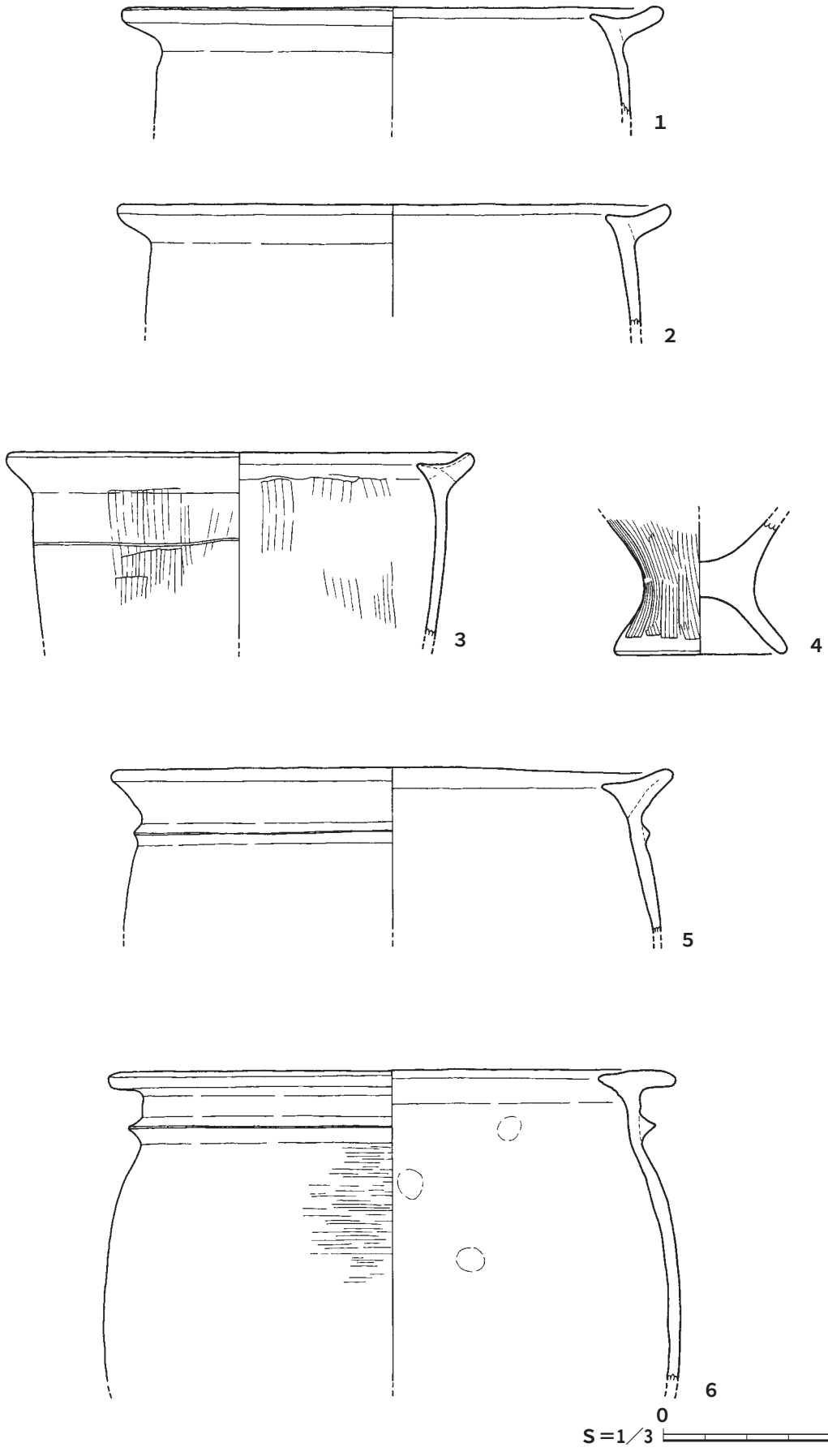
［形状］楕円形

［大きさ］長軸：33㎝、短軸：29㎝、深さ：15.1㎝。

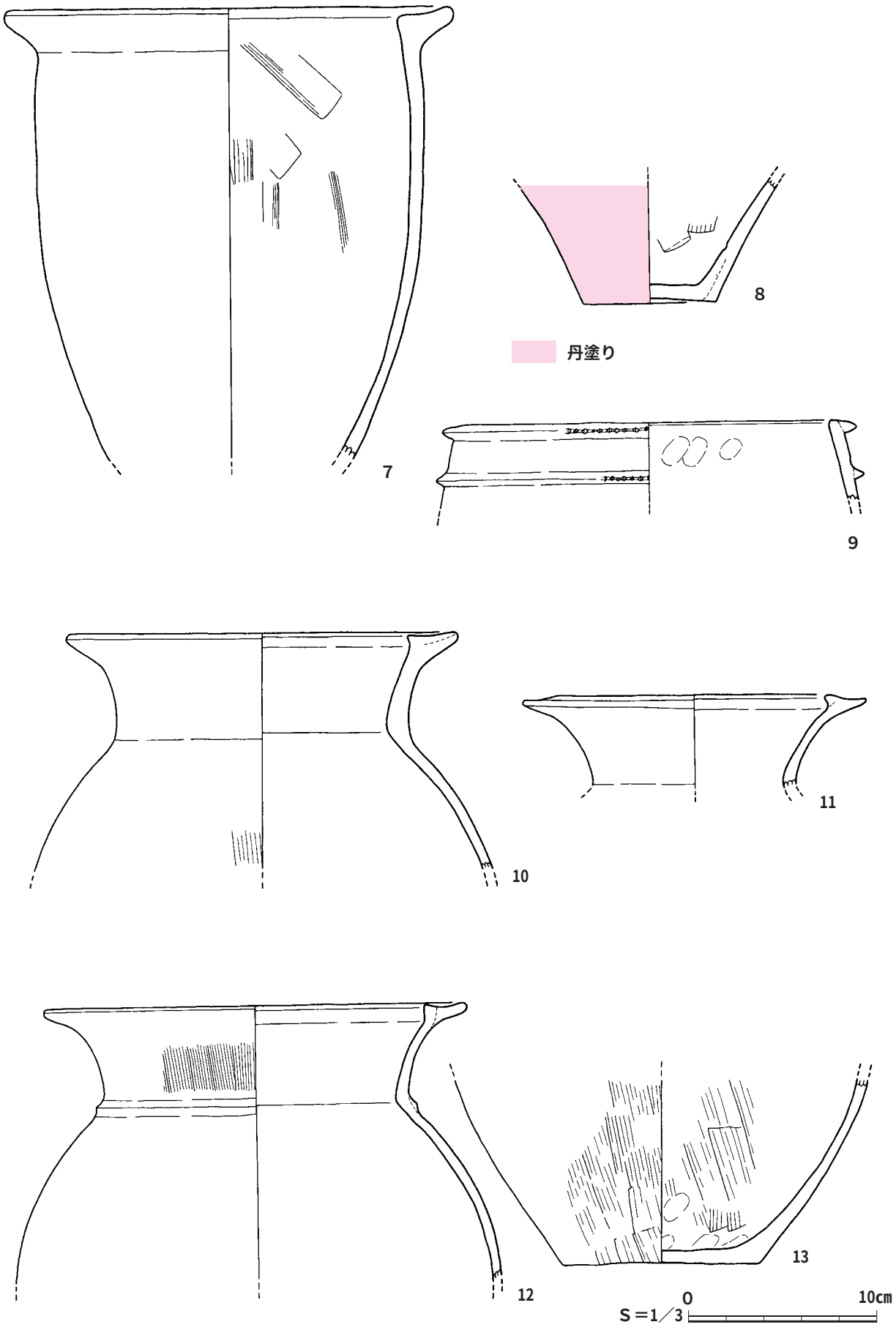
［覆土］１層。

［切り合い関係］無し。

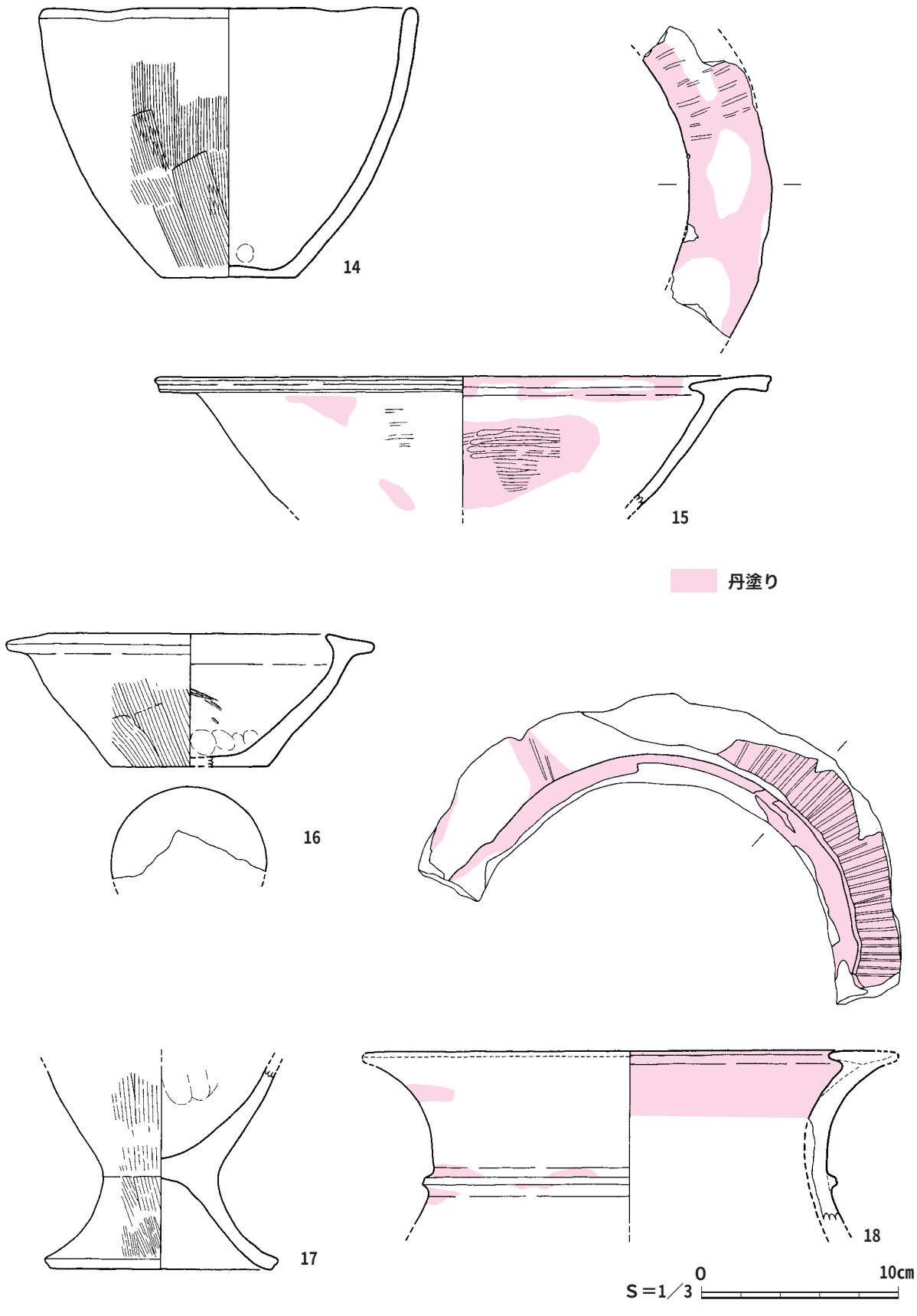
［遺物の出土状況］深さの浅いピットに投げ込まれた状態で出土。遺構廃絶時の遺物として捉えたい。



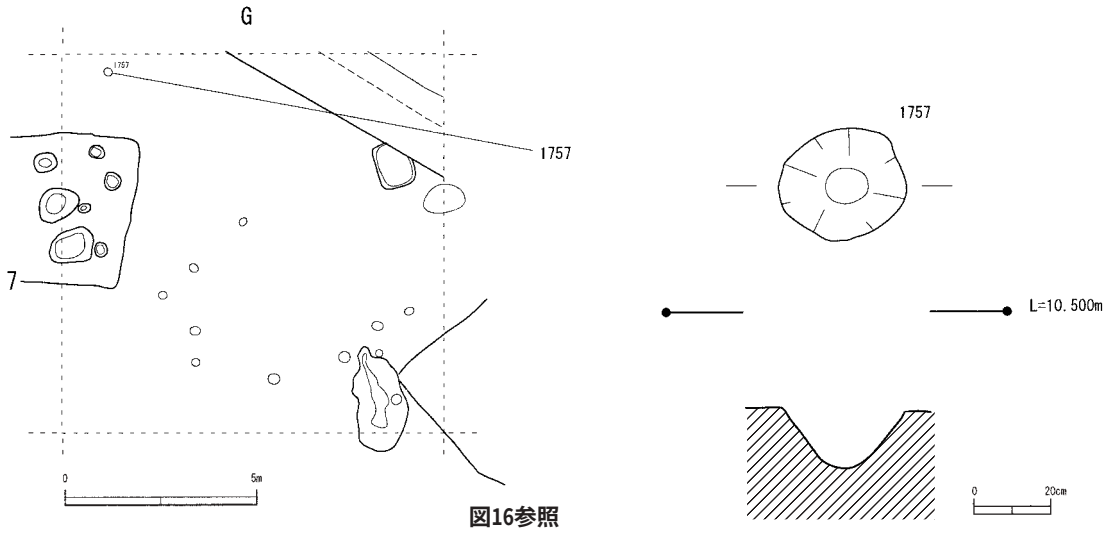
図(Fig)130　S140出土遺物実測図（１）



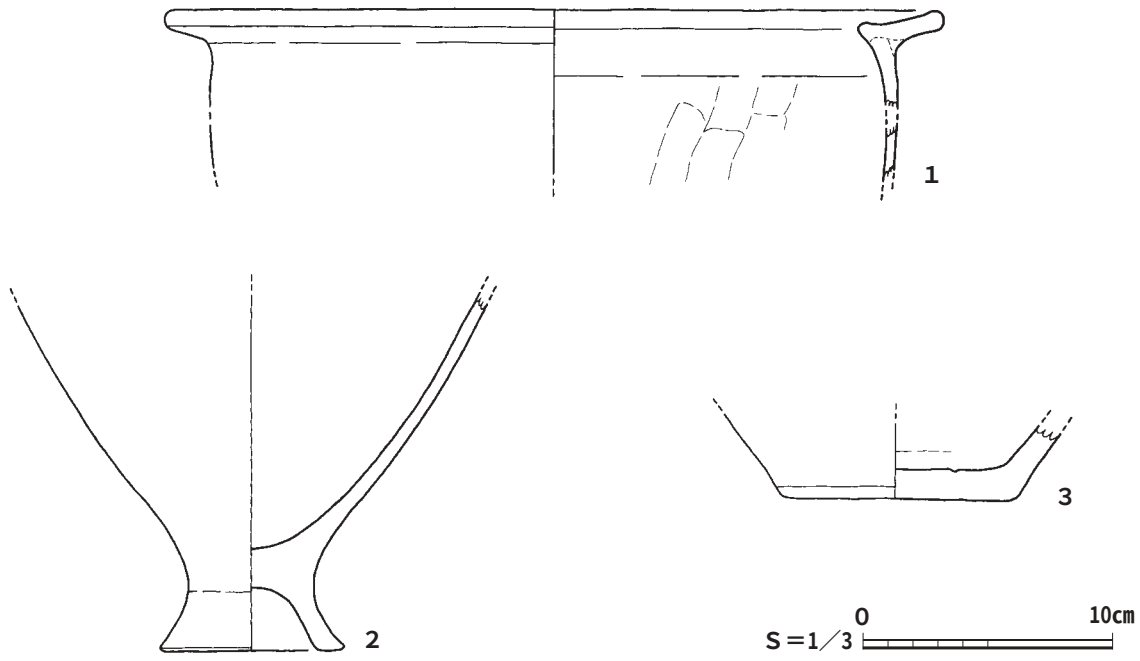
図(Fig)131　S140出土遺物実測図（２）



図(Fig)132　S140出土遺物実測図（３）



図(Fig)133　ピット1757位置図及び実測図



図(Fig)134　ピット1757出土遺物実測図

［出土遺物量］

No.1757から出土した遺物は、弥生土器のみでここに紹介する資料である。

［出土遺物の観察］

土器の様相は、甕の口縁部は、黒髪式土器の範疇で捉えられるものである。

ここでは、３点の土器を紹介する。全て一括上げ。

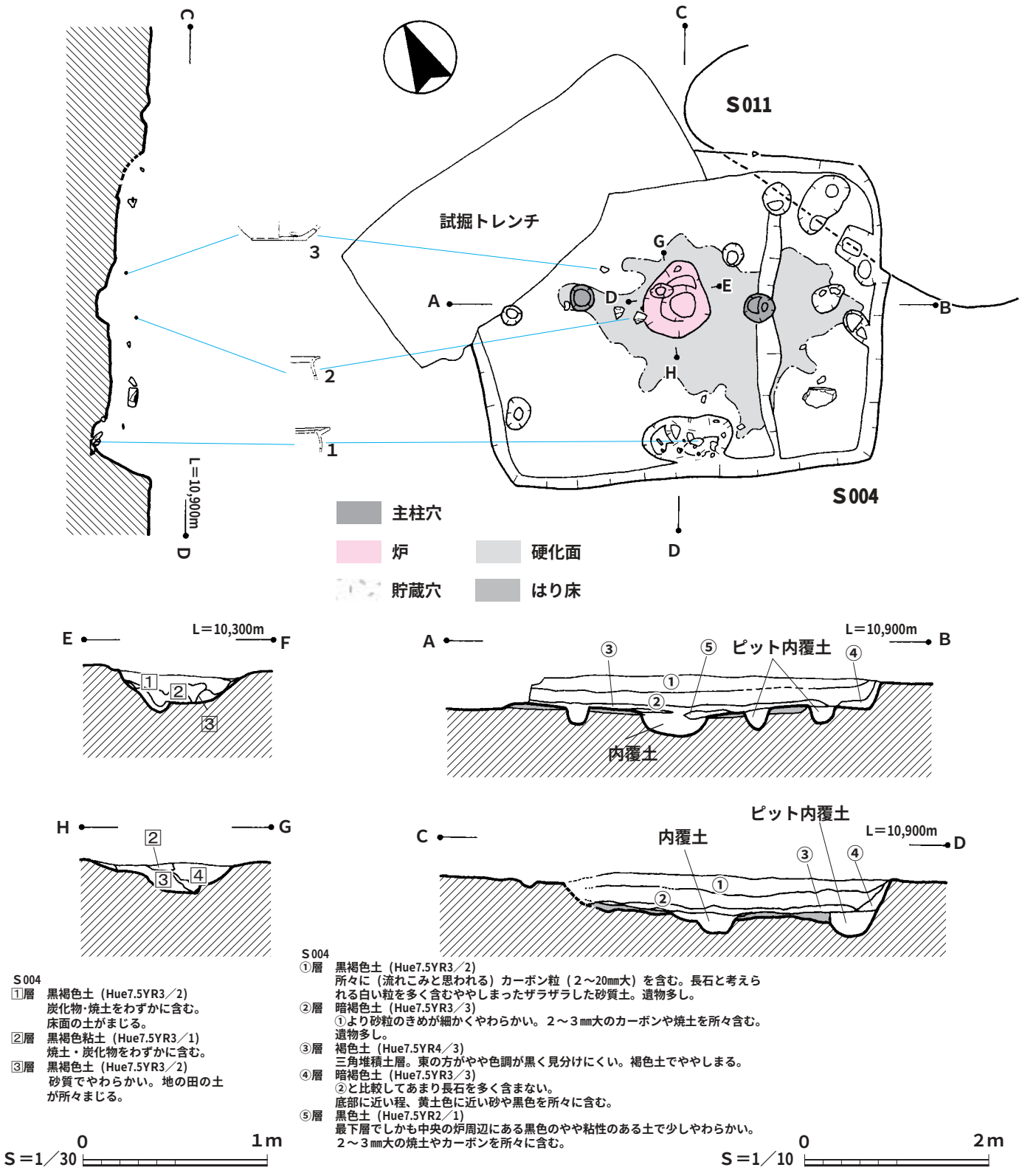
１は、甕形土器の口縁部である。口縁部形態は、黒髪式土器の特徴を呈している。

２は、甕形土器の脚台部及び胴部下半部である。

３は、甕形土器か壺形土器の底部である。

［遺構の性格］

・投げ捨てる様に破棄してある様相から土器溜めの可能性が高い。一括性の高い遺物と考えたい。



図(Fig)135　住居跡（S004）実測図

２）弥生時代後期前半（27基）

①竪穴住居跡（16軒）からの出土である。

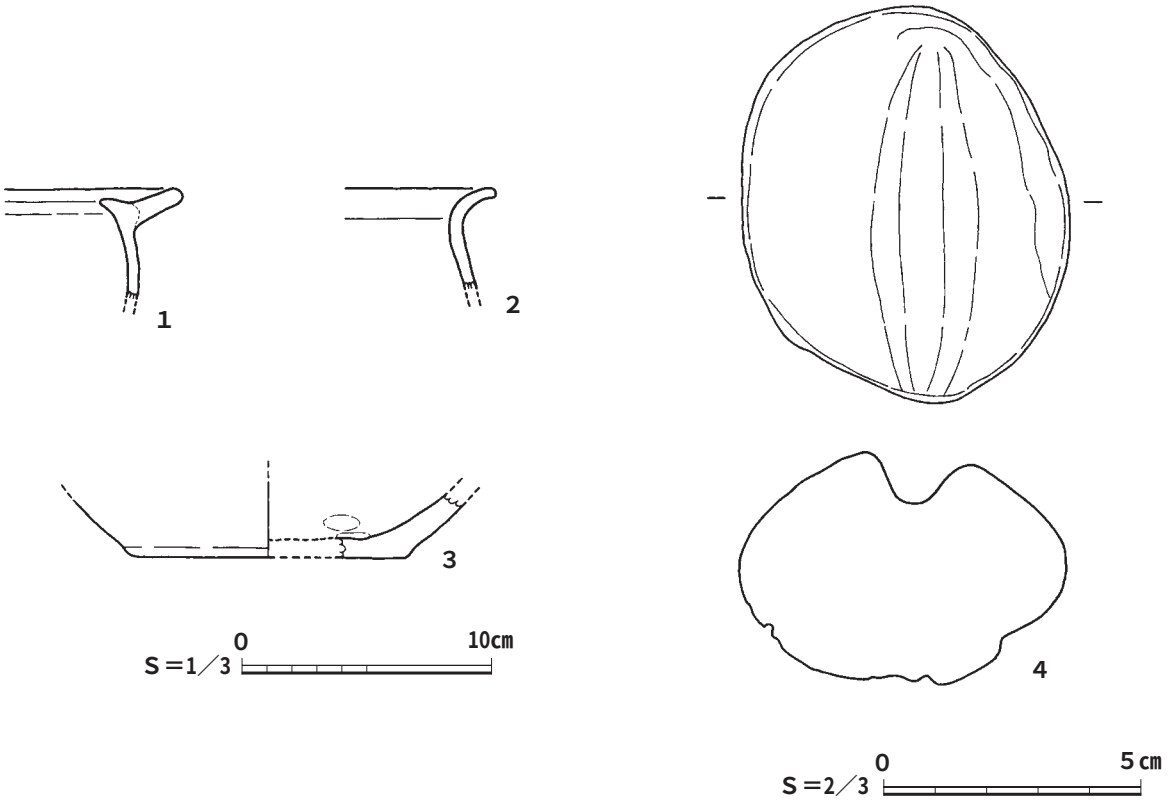
【S004】（図135～136参照）

［確認位置］調査２区、Ｖ－８グリッド。

標高約10.6m。

［形状］隅丸方形

［大きさ］長軸：432㎝、短軸：318㎝、深さ：25～35㎝。



図(Fig)136　S004出土遺物実測図

［住居内覆土］細分して５層。

［主柱穴］２本。径25～35cm。深さ18～20cm。

［炉］有り。大きさ50×70cmで深さ約8cm。

［貯蔵穴］有り。大きさ75×83cmで深さ約25cm。３層に分層可能。

［硬化面］有り。

［張り床］有り。

［切り合い関係］S011から切られる。

［遺物の出土状況］床面から浮いた状態で出土。遺構廃絶の遺物として捉えたい。貯蔵穴の中はほとんど礫。

［出土遺物量］

S004から出土した遺物は、小グレーコンテナ(38cm×58cm×5cm）に２箱分で、総重量7,064ｇであった。内訳は縄文土器（２片：16ｇ）弥生土器7,048ｇ（内丹塗り土器は248ｇ）であった。

［出土遺物の観察］

土器の様相は、甕や壺の口縁部は、中期の黒髪式土器と後期の様相を持つものが混在していた。全て点上げ遺物である。

ここでは、３点の土器と１点の石器を紹介する。

１は、甕形土器の口縁部である。口縁部が内側に細長く突起が伸び、外側にほぼ同じ厚さで細長く伸びるという黒髪式土器の特徴を備えている。点上げ遺物である。

２は、無頸壺の口縁部であると考えられる。中期から後期への過渡期の様相が窺える。点上げ遺物である。

３は、甕形土器か壺形土器の底部である。内面に指頭圧痕が残る。点上げ遺物である。

４は、砥石である。石材は凝灰岩質の軽石である。玉などを研ぐためのものであろう。貯蔵穴から出土している。

【S012】（図137～138参照）

［確認位置］調査２区、Ｔ－８グリッド。

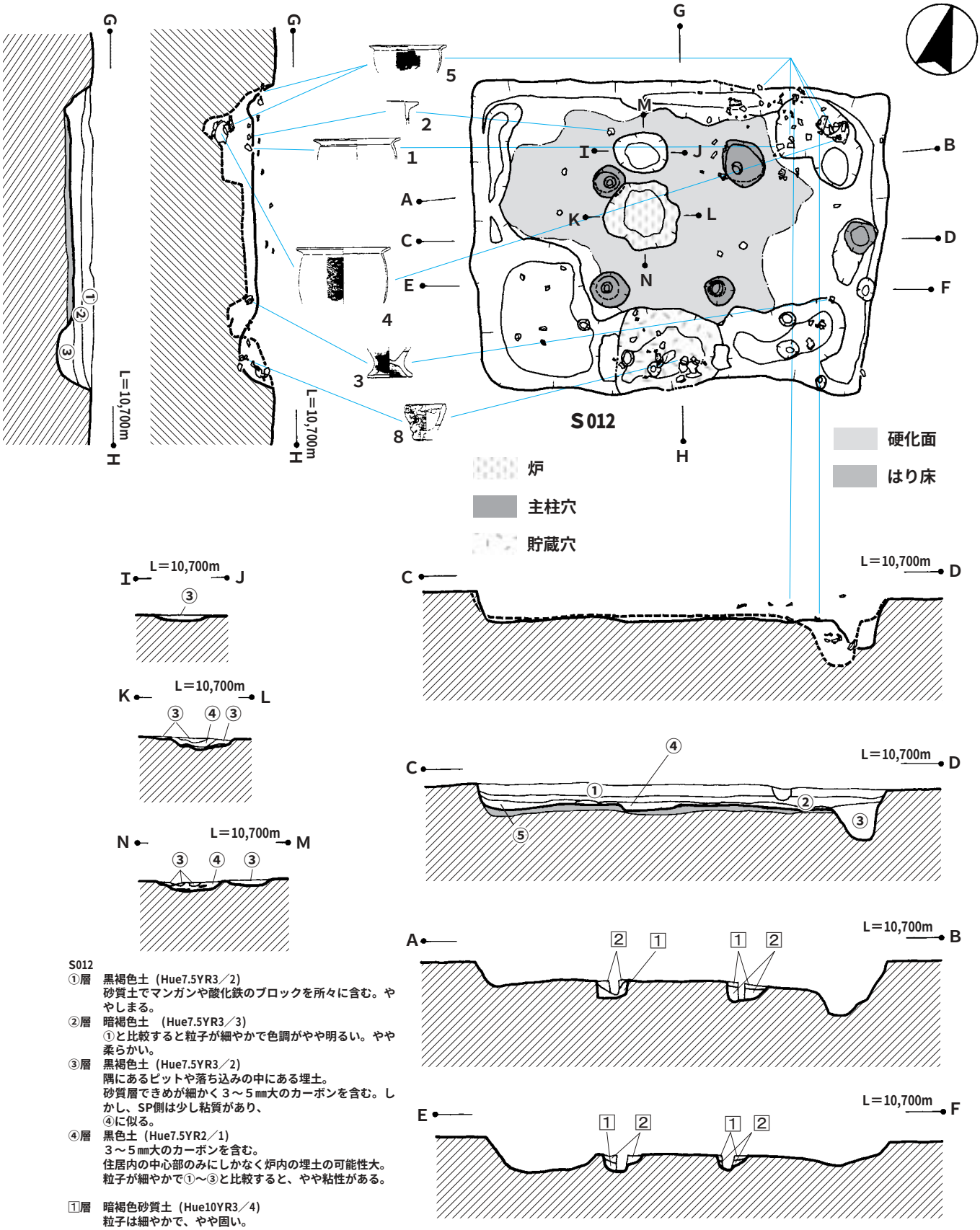
標高約10.55m。

［形状］隅丸方形

［大きさ］長軸：450cm、軸：335cm、深さ：25cm。

［住居内覆土］細分して３層。

［主柱穴］４本？もしくは５、６本？径約20～50cm。深さ約15～30cm。

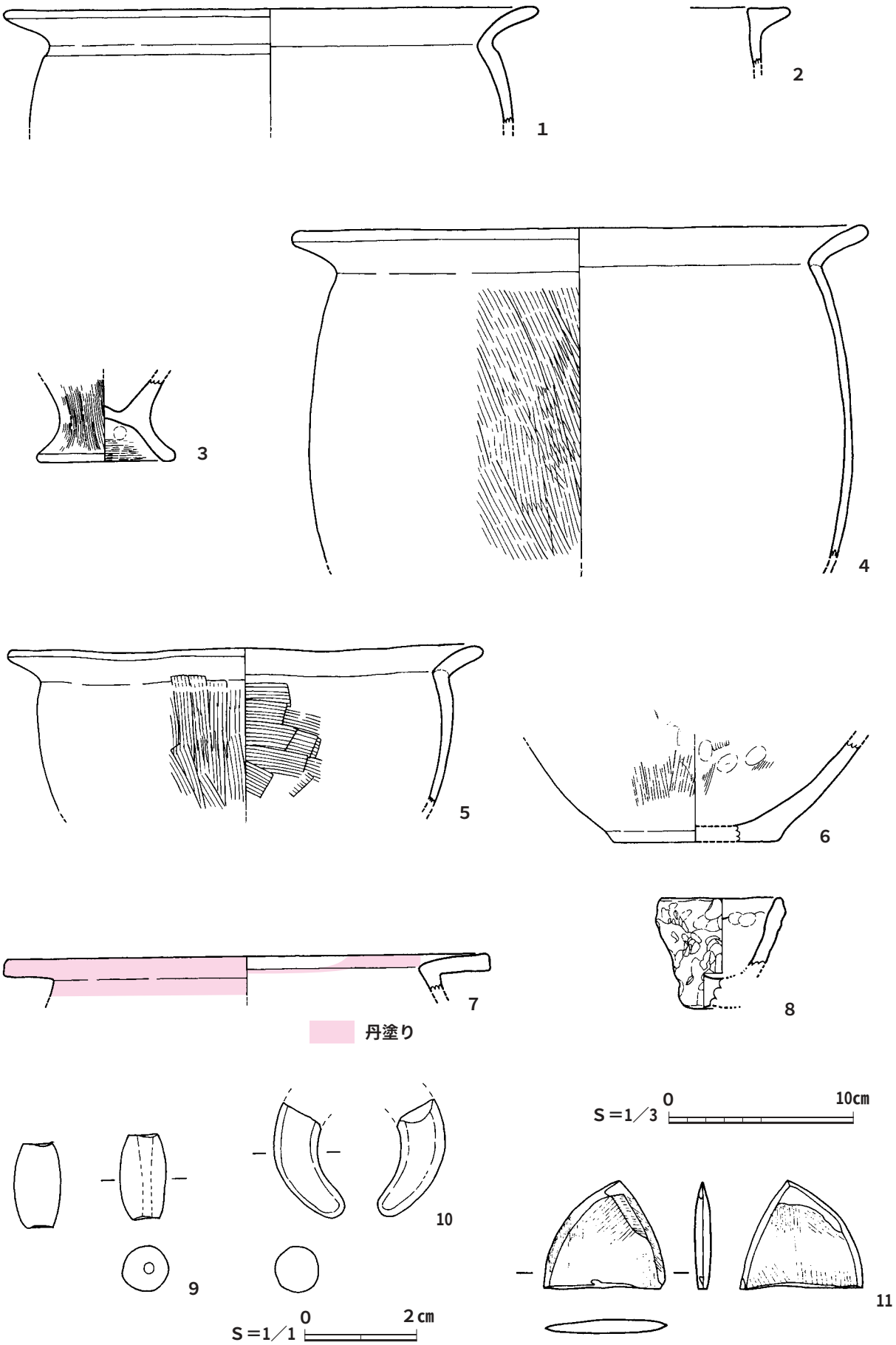


S012
①層　黒褐色土（Hue7.5YR3／2）
砂質土でマンガンや酸化鉄のブロックを所々に含む。やや しまる。
②層　暗褐色土　（Hue7.5YR3／3）
①と比較すると粒子が細やかで色調がやや明るい。やや 柔らかい。
③層　黒褐色土（Hue7.5YR3／2）
隅にあるピットや落ち込みの中にある埋土。
砂質層できめが細かく３～５㎜大のカーボンを含む。しかし、SP側は少し粘質があり、
④に似る。
④層　黒色土（Hue7.5YR2／1）
３～５㎜大のカーボンを含む。
住居内の中心部のみにしかなく炉内の埋土の可能性大。
粒子が細やかで①～③と比較すると、やや粘性がある。

1層　暗褐色砂質土（Hue10YR3／4）
粒子は細やかで、やや固い。
1.5cm大のカーボンがまばらにある。
2層　暗褐色砂質土（Hue10YR3／3）
粒子は1㎜程度でやわらかい。

S＝1／60　0　2m

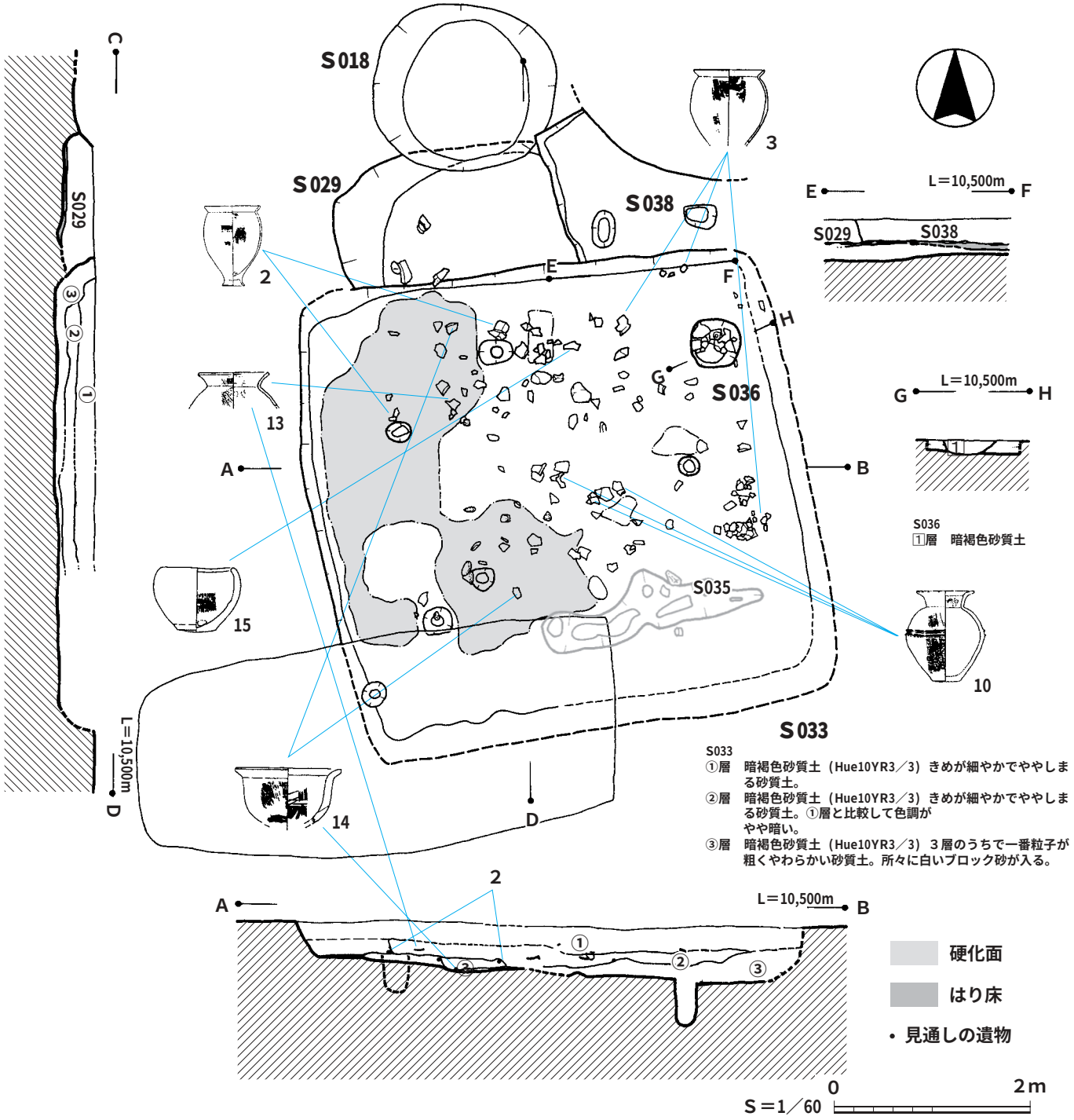
図(Fig)137　住居跡（S012）実測図



図(Fig)138　S012出土遺物実測図

［炉］有り。大きさ85×70㎝で深さ約10㎝。
［貯蔵穴］有り。大きさ115×85㎝で深さ約15㎝。
［硬化面］有り。
［張り床］有り。
［切り合い関係］S019から切られる。
［特記事項］
・柱穴は、柱痕跡を確認したので、４本と考える。しかし、１本は炉と接するため、不安は残る。可能性として、東西隅の２本柱も考えられるが、１本しか確認されていない。
・住居内を起伏をもった溝が巡る。貯蔵穴は南側に位置するが、溝とややつながる。
［遺物の出土状況］床面から浮いた状態で出土。遺構廃絶の遺物として捉えたい。貯蔵穴中の遺物は廃絶間もない遺物として捉えたい。
［出土遺物量］
S012から出土した遺物は、小グレーコンテナ(38㎝×58㎝×5㎝）に４箱分で、総重量10,726ｇであった。内訳は縄文土器（21片：340ｇ）弥生土器10,386ｇ（内丹塗り土器は236ｇ）であった。
［出土遺物の観察］
土器の様相は、甕や壺の口縁部は、中期の黒髪式土器と後期の様相を持つものが混在していたが、後期の様相を持つものが多かった。
ここでは、８点の土器、２点の土製品、１点の石器を紹介する。
１、４は、甕形土器の口縁部及び胴部上半部である。口縁部形態がややくの字状に外反し、後期の様相を呈している。４は内面にハケ目が残る。10点が接合している。いずれも点上げ遺物である。
２は、甕形土器の口縁部である。黒髪式土器の特徴を呈している。点上げ遺物である。
３は、甕形土器の脚台部である。内外面にハケ目が残る。点上げ遺物である。
５は、鉢形土器の口縁部及び胴部上半部である。口縁部形態がややくの字状に外反し、後期の様相を呈している。内外面にハケ目が残る。７点が接合している。点上げ遺物である
６は、甕形土器か壺形土器の底部である。内外面にハケ目が残る。点上げ遺物である。
７は、鉢形土器の口縁部である。内外面に丹塗りが施されている。一括遺物である。
８は、ミニチュア土器である。内外面に指頭圧痕が残る。点上げ遺物である。
９は、土錘である。１層から出土している。
10は、土製の勾玉である。頭部が欠損している。２層から出土している。
11は、磨製石族である。石材は、粘板岩か結晶片岩と考えられる。１層からの出土である。

【S033】（図139～144参照）
［確認位置］調査２区、Ｓ、Ｔ－８、９グリッド。標高約10.30ｍ。
［形状］方形
［大きさ］長軸：470㎝、短軸：460㎝、深さ：38～55㎝。
［住居内覆土］３層。
［主柱穴］径約25～30㎝のピットは６本あるが不明。Ｐ１～Ｐ６の深さは、34、24、42、17、10、16㎝。
［炉］不明
［貯蔵穴］不明。
［硬化面］有り。
［張り床］不明。
［切り合い関係］Ｓ029、30を切り、S035、36から切られる。
［特記事項］
・方形プランであることと、一部硬化面が確認されることから住居跡としたが、不安は残る。検出時から遺構ラインが非常に見難く、掘削も難航した遺構であった。
［遺物の出土状況］床面から浮いた状態で出土。遺構廃絶後の遺物として捉えたい。
［出土遺物量］
S033から出土した遺物は、小グレーコンテナ(38㎝×58㎝×5㎝）に15箱分で、総重量40,837ｇであった。内訳は縄文土器（32片：454ｇ）弥生土器40,367ｇ（内丹塗り土器は1112ｇ）であった。
［出土遺物の観察］
土器の様相は、甕や壺の口縁部は、中期の黒髪式土器と後期の様相を持つものが混在していたが、後期の様相を持つものが多かった。



図(Fig)139　住居跡（S033）土坑（S036）実測図

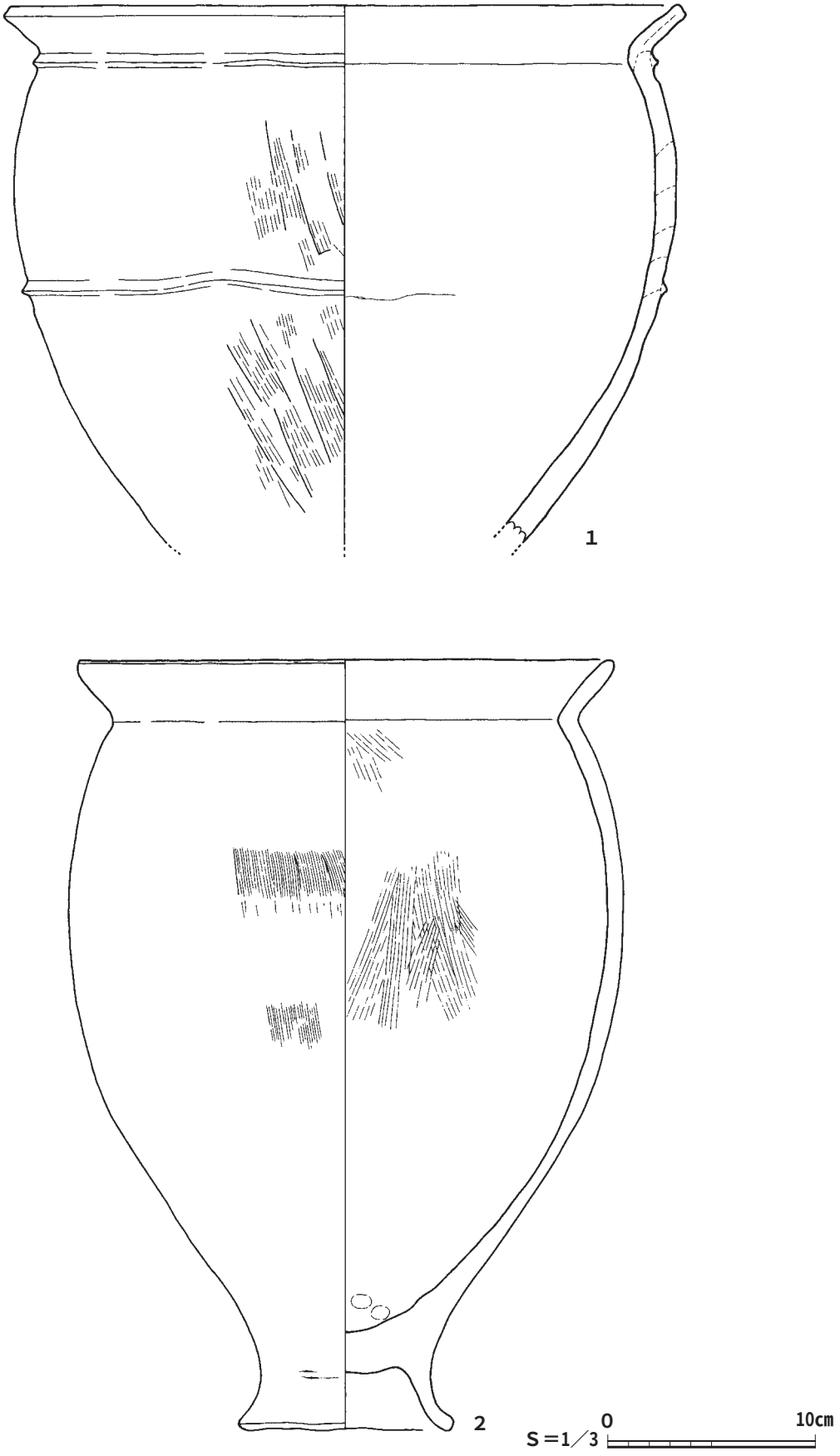
ここでは、17点の土器、３点の石器を紹介する。

１は、甕形土器の口縁部及び胴部である。外面には、頸部と胴部中央部に１条ずつの突帯が巡り、ハケ目が残る。内面には接合痕が残る。口縁部は後期の特徴である「くの字」の形状を呈する。トレンチ一括遺物が接合している。

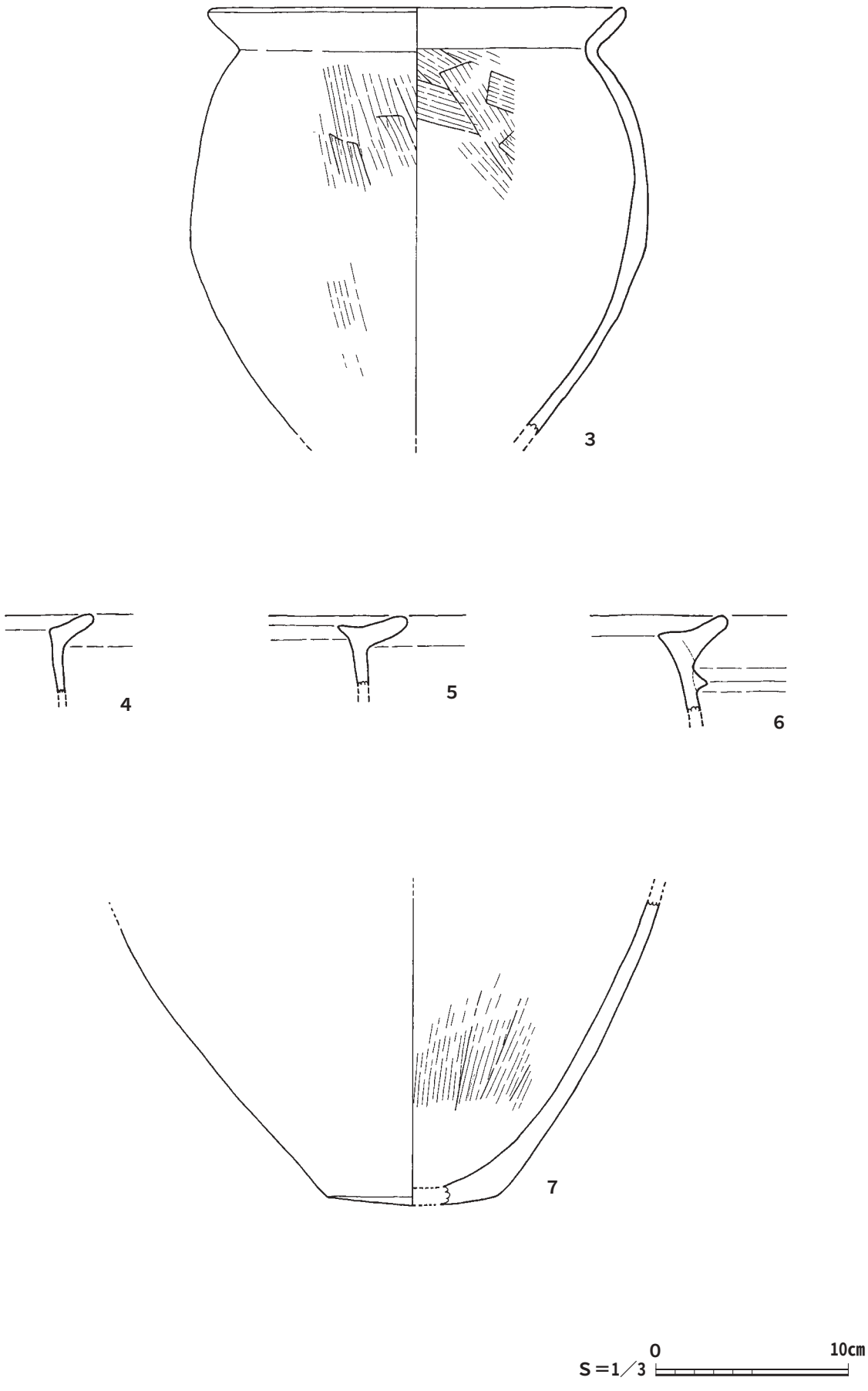
２は、ほぼ完形な甕形土器である。１、２層一括、点上げ遺物など21点が接合している。内外面にハケ目が残る。口縁部は完全な「くの字」の形状を呈する。

３は、甕形土器の口縁部及び胴部である。１、２層一括、点上げ遺物など19点が接合している。内外面にハケ目が残るが、胴部中央部がやや肥厚する。口縁部は「くの字」の形状を呈する。

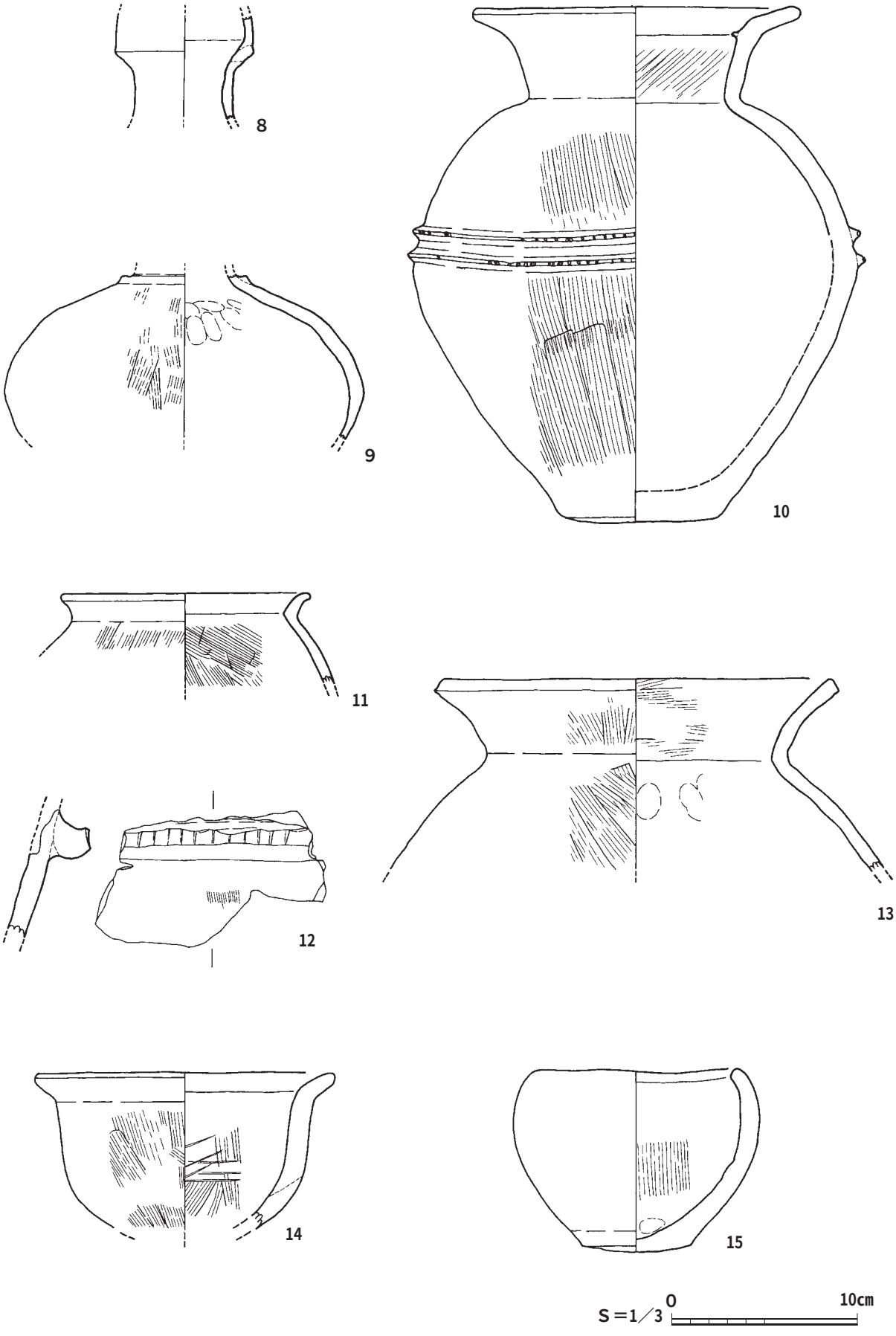
４、５、６は、甕形土器の口縁部である。いずれも点上げ遺物であり、黒髪式土器の特徴を呈してい



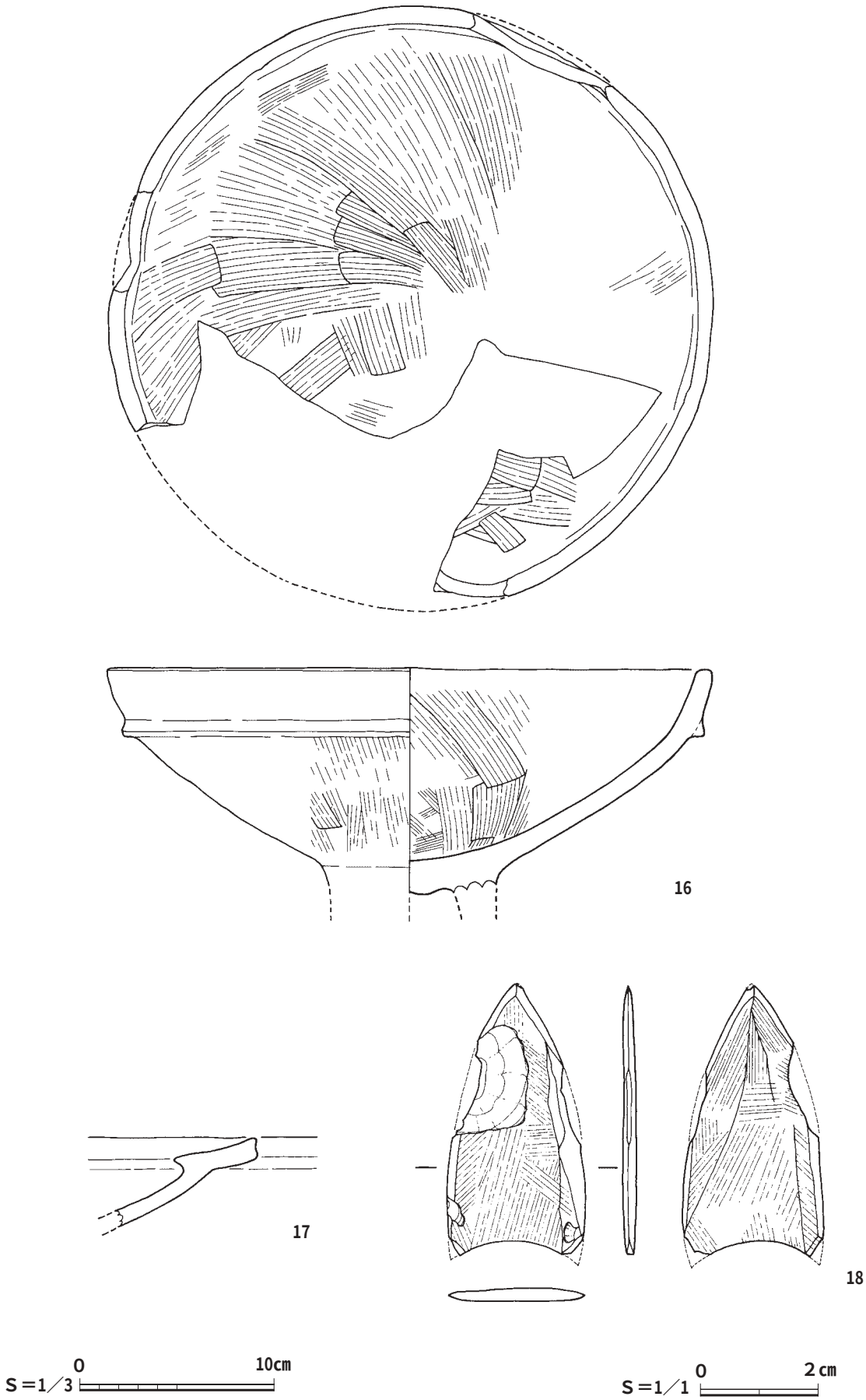
図(Fig)140　S033出土遺物実測図（１）



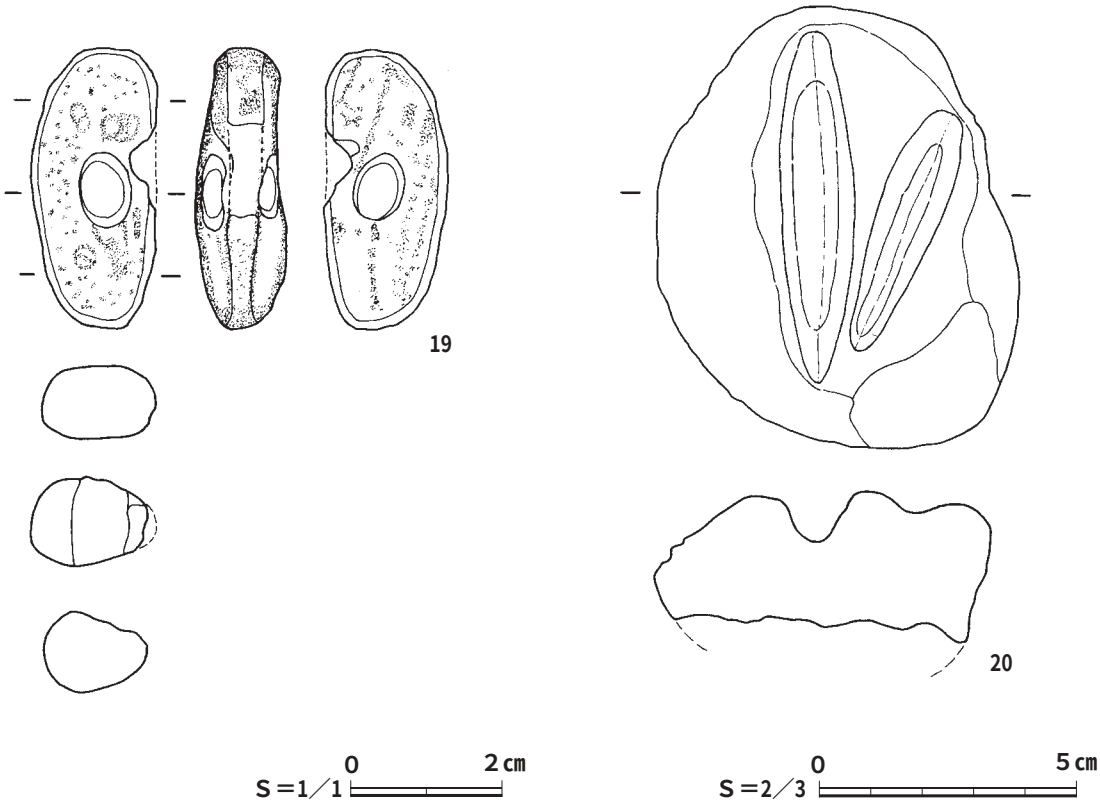
図(Fig)141　S033出土遺物実測図（２）



図(Fig)142　S033出土遺物実測図（３）



図(Fig)143　S033出土遺物実測図（４）



図（Fig)144　S033出土遺物実測図（５）

る。４は内部への突起あまりが見られず、６は頸部に１条の突帯が１条巡る。

７は、甕形土器か壺形土器の底部及び胴部下半部である。内面にハケ目が残り、底部や後期の特徴であるレンズ状のふくらみが見られる。

８、９は、袋状口縁壺の口縁部と胴部上半部である。同一固体の可能性がある。８は２層一括遺物４点、９は点上げ遺物と２層一括遺物の計２点が接合している。

10は壺形土器のほぼ完形である。外面はハケ目と胴部に２条の刻み目突帯が巡る。内面はハケ目が残り、口縁内部にわずかな突起が残る。黒髪式土器のなごりであろうか。底部は後期の特徴であるレンズ状のふくらみがある。点上げ遺物と一括遺物の25点が接合している。

11は甕形土器か無頸壺の口縁部と考えられる。内外面にハケ目が残る。１、２層一括遺物が８点接合している。

12は甕棺の胴部の突帯部である。幅約2.5㎝、高さ約1.8㎝の刻み目突帯である。外面にはわずかにハケ目も残る。点上げ遺物と２層一括遺物の計２点が接合している。

13は壺形土器の口縁部である。外面にハケ目、内面にはハケ目と指頭圧痕が残る。点上げ遺物である。

14、15は壺形土器である。14は内外面にハケ目が残り、口縁部はやや外反する。15は内面にハケ目が残り、底部はレンズ状にややふくらむ。いずれも点上げ遺物である。

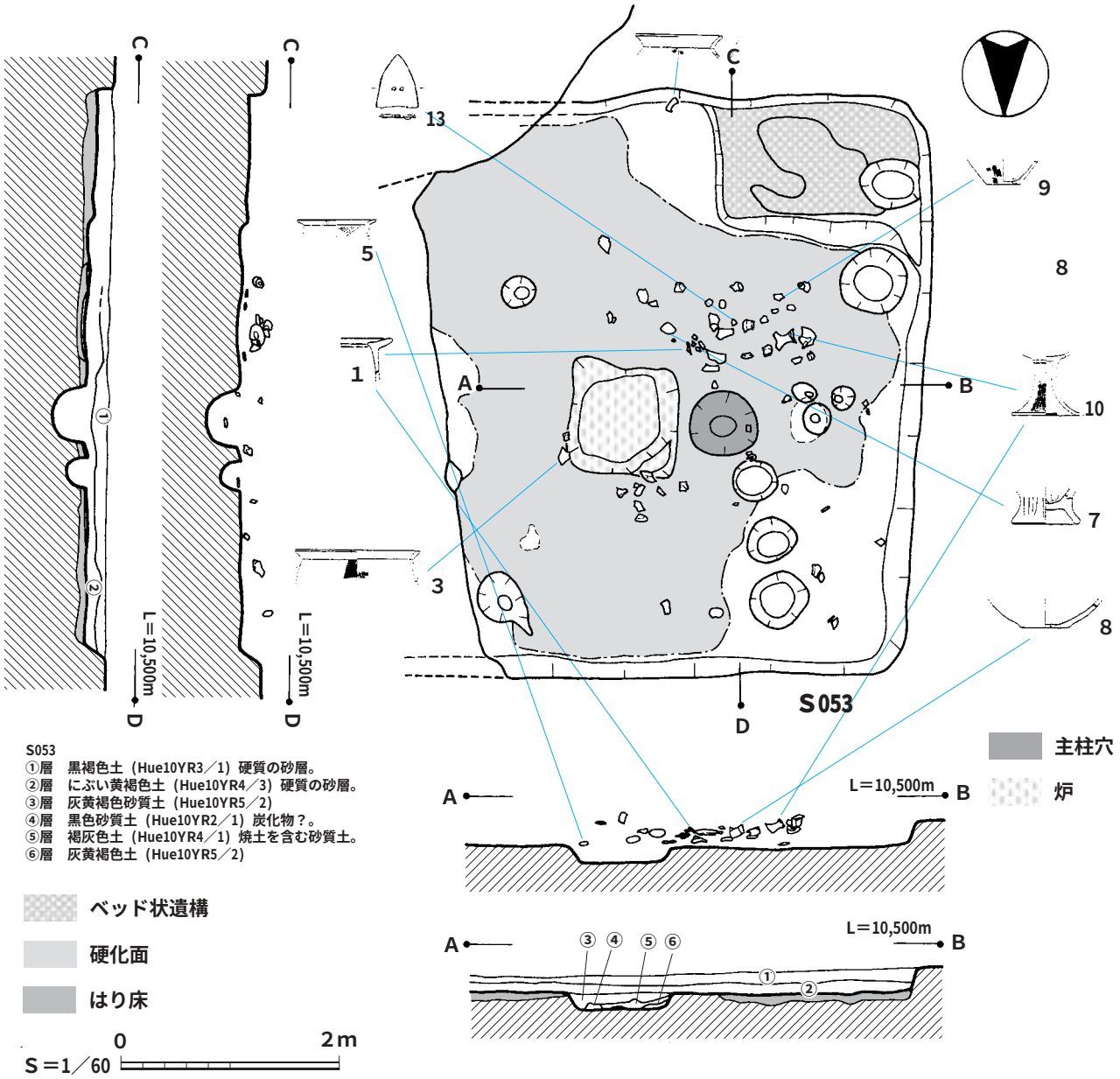
16は高杯形土器の杯部である。外面にはハケ目が残り、口縁部から約３㎝下に１条の突帯が巡る。

17は高杯形土器の口縁部である。内外面に丹塗りが残る。１層の一括遺物である。

18は磨製石鏃である。石材はチャートである。部分的に欠損しているが、形状は保っている。１層の一括遺物である。

19は軽石製の浮きと考えられる。２層の一括遺物である。

20は砥石と考えられる。石材は赤色の軽石である。２条の溝が観察される。おそらく玉類の砥石であろう。点上げ遺物である。



図(Fig)145　住居跡（S053）実測図

【S053】（図145～146参照）

［確認位置］調査１区、Ｅ、Ｆ－７、８グリッド。
標高約10.30m。

［形状］方形（ベッド付き）

［大きさ］長軸：530cm、短軸：470～cm、深さ：20～25cm。

［住居内覆土］細分６層。

［主柱穴］２本？１本しか確認できない。径約32cm。深さ約25cm。

［炉］有り。大きさ95×100cmで深さ約10～13cm。

［貯蔵穴］不明。

［硬化面］有り。

［張り床］有り。

［切り合い関係］自然流路２から切られる。

［特記事項］

・柱穴と炉が近すぎるきらいがある。

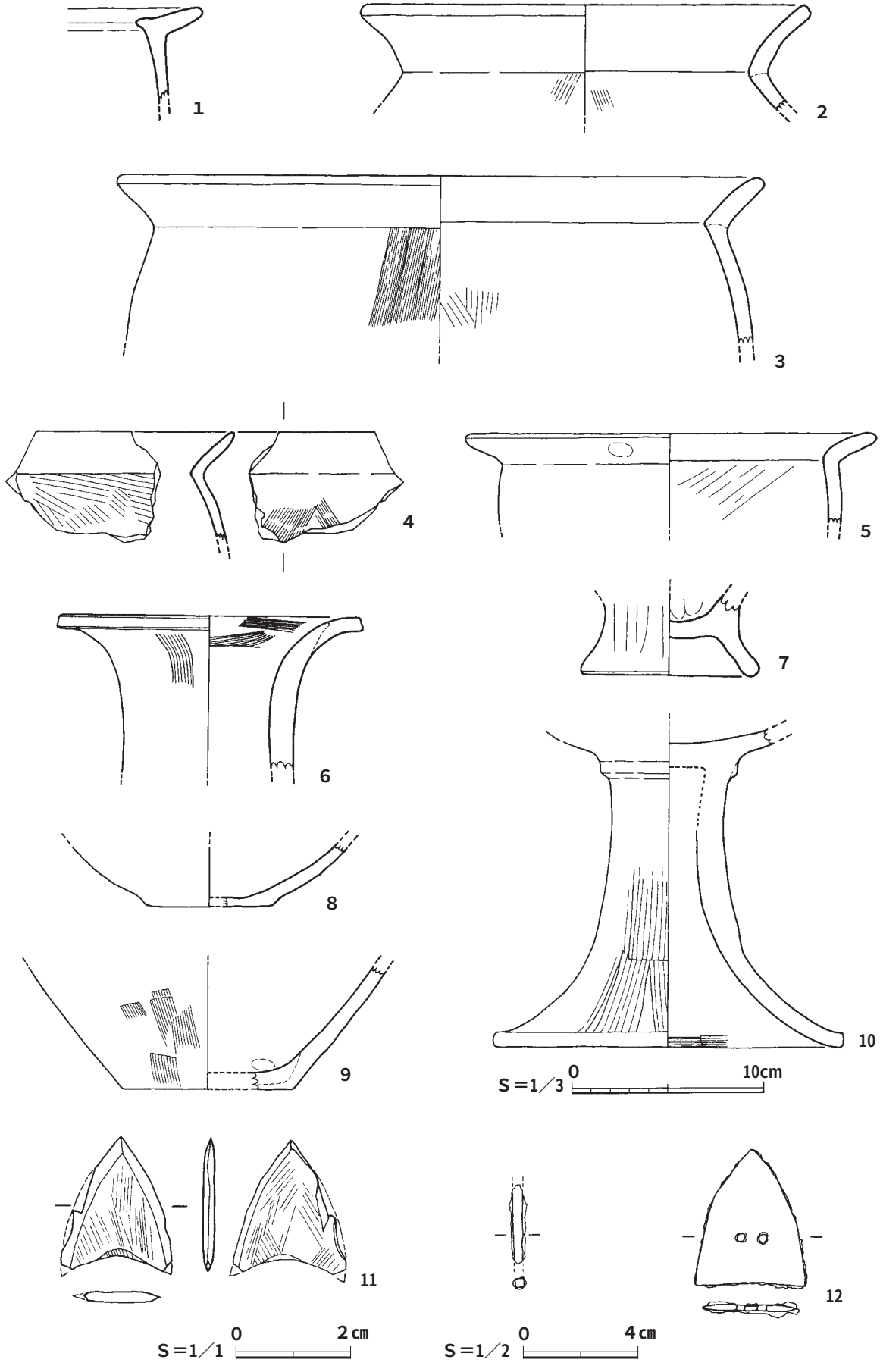
［遺物の出土状況］床面から浮いた状態で出土。遺構廃絶後の遺物として捉えたい。

［出土遺物量］

S053から出土した遺物は、小グレーコンテナ（38cm×58cm×5cm）に５箱分で、総重量10,651gであった。内訳は縄文土器（１片：21ｇ）弥生土器10,615ｇ（内丹塗り土器は77ｇ）、中世の白磁は３ｇ、青磁は３ｇ、近世以降の陶器は８ｇ、磁器は１ｇであった。中世や近世以降の遺物は自然流路で切られた時に混入したものと考えられる。

［出土遺物の観察］

土器の様相は、甕や壺の口縁部は、ほとんどが後



図(Fig)146　S053出土遺物実測図

期の様相を持つものであった。

ここでは、10点の土器、１点の石器、２点の鉄器を紹介する。

１は、甕形土器の口縁部である。点上げ遺物であり、黒髪式土器の特徴を呈している。

２は、壺形土器の口縁部である。外面には、頸部と胴部中央部に１条ずつの突帯が巡り、ハケ目が残る。内面には接合痕が残る。口縁部は後期の特徴である「くの字」の形状を呈する。トレンチ一括遺物が接合している。

３、４、５は、甕形土器の口縁部である。いずれも内外面にハケ目が残り、口縁部は後期の特徴である「くの字」の形状を呈する。点上げ遺物である。

８、９は、甕形土器か壺形土器の底部である。９には外面にハケ目、内面に指頭圧痕が残る。いずれも点上げ遺物である。

７は、甕形土器の底部である。外面にハケ目の単位、内面に指頭圧痕が残る。点上げ遺物である。

６は、器台の口縁部及び胴部上半部である。内外面にハケ目が残る。点上げ遺物である。

10は、高坏形土器の杯底部と脚部である。内外面にハケ目が残り、杯底部と脚部の接合部に１条の突帯が巡る。点上げ遺物である。

11は、磨製石鏃である。石材は緑泥変岩と考えられる。部分的に欠損しているが、原形はつかめる。トレンチ一括の遺物である。

12は、鉄釘と考えられる。点上げ遺物である。

13は、鉄鏃である。X線により中央部に２つの穴があることが判明した。矢柄との固定のために穿孔された穴と考えられる。

【S073】（図147～150参照）

［確認位置］調査１区、D－６グリッド。

標高約10.30m。

［形状］方形（ベッド付き）

［大きさ］長軸：540㎝、短軸：440㎝、深さ：35㎝。

［住居内覆土］細分６層。

［主柱穴］２本。径約35～40㎝。深さ40㎝。

［炉］有り。大きさ70×80㎝で深さ約10～15㎝。

［貯蔵穴］有り。大きさ115×65㎝で深さ約15～20㎝。

［硬化面］有り。

［張り床］有り。

［切り合い関係］S072、98を切る。

［遺物の出土状況］床面からやや浮いた状態で出土。遺構廃絶後の遺物として捉えたい。

［出土遺物量］

S073から出土した遺物は、小グレーコンテナ(38㎝×58㎝×５㎝）に７箱分で、総重量10,651ｇであった。内訳は縄文土器（12片：227ｇ）弥生土器18,996ｇ（内丹塗り土器は596ｇ）、中世の白磁は３ｇ、青磁は３ｇ、近世以降の陶器は２ｇであった。中世や近世以降の遺物は後世に混入したものであろう。

［出土遺物の観察］

土器の様相は、甕や壺の口縁部は,中期の黒髪式土器と後期の様相を持つものが混在していたが、後期の様相を持つものが多かった。

ここでは、13点の土器、３点の石器、２点の土製品、１点の石製品を紹介する。

１、２、３は、甕形土器の口縁部である。口縁部形態は黒髪式土器の特徴を呈している。１は２層から、２、３は点上げ遺物である。

４は、鉢形土器の口縁部と考えられる。内面には、指頭圧痕が残る。２層一括遺物である。

５は、丹塗り甕形土器の口縁部である。丹塗りは一部内面にも及んでいる。口縁部には放射状の暗文が施されている。点上げ遺物である。

６は、甕形土器の口縁部と胴部上半部である。内面に指頭圧痕が残り、頸部に１条の突帯が巡る。２層一括遺物である。黒髪式土器の特徴を呈している。

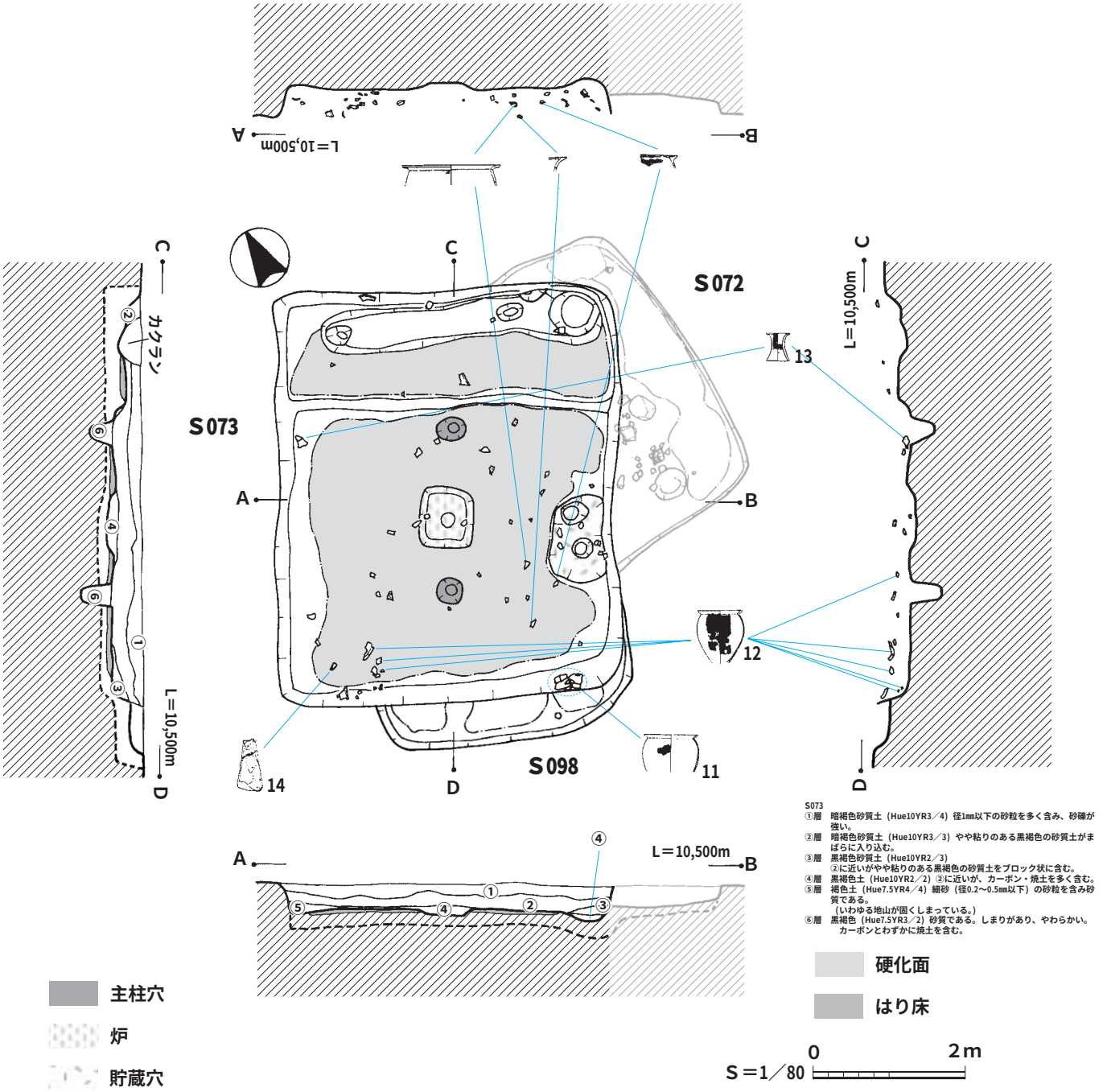
７は、壺形土器の口演部である。口縁部形態は黒髪式土器の特徴を呈している。点上げ遺物である。

８は、短頸壺の口縁部と胴部上半部と考えられる。一括遺物である。

９は、鉢形土器である。内外面にハケ目が残る。一括遺物17点が接合している。

10は、高杯形土器の杯部である。外面には、口縁から４㎝下に１条の突帯が巡り、一部ハケ目が残る。内面はハケ目が残る。一括遺物４点が接合している。

11、12は、甕形土器の口縁部及び胴部である。内



図(Fig)147　住居跡（S073）土壙墓（S098）実測図

外面にハケ目が残るり、口縁部は後期の特徴である「くの字」の形状を呈する。11は点上げ遺物、12は、一括遺物11点、１層一括遺物８点、２層一括遺物13点、点上げ遺物26点の計58点が接合している。

13は、器台である。外面にはハケ目、内面には絞り痕が残る。２層一括遺物２点、点上げ遺物８点の計10点が接合している。

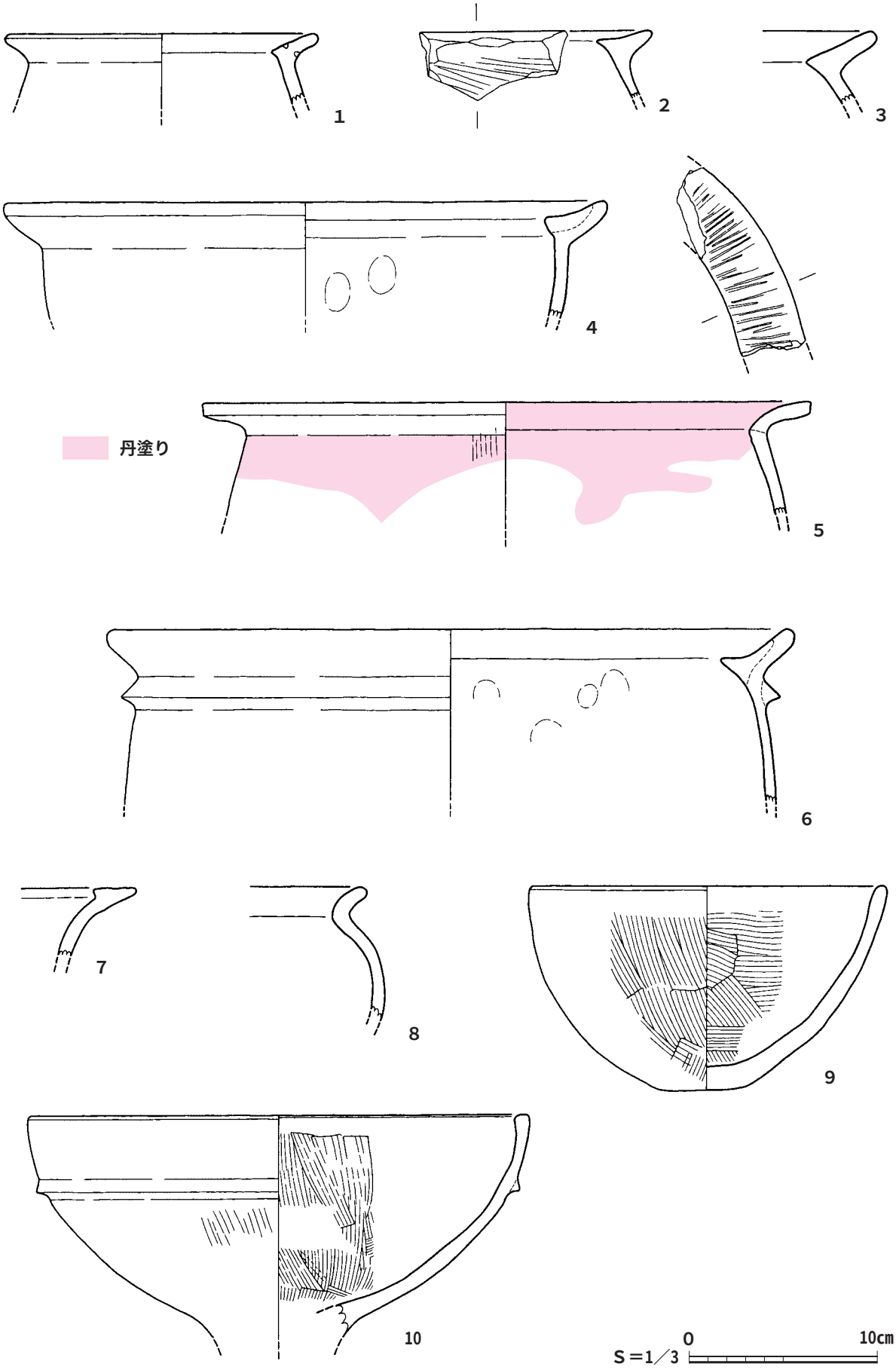
14は、砥石である。石材は流紋岩で、天草砥石と考えられる。点上げ遺物で２点が接合している。磨り面は４面に見られる。

15は、石包丁である。欠損しており、１つの穿孔の径がかろうじてわかる程度である。石材は輝緑凝灰岩で、立岩産石包丁の可能性が高い。上層からの出土である。

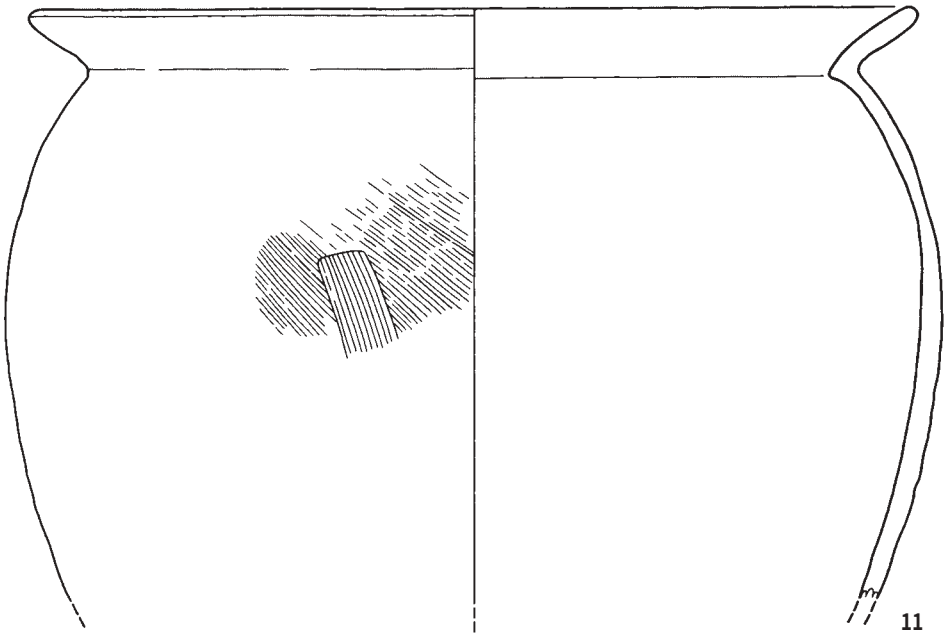
16は、碧玉製の管玉である。住居覆土１層の水洗により検出。

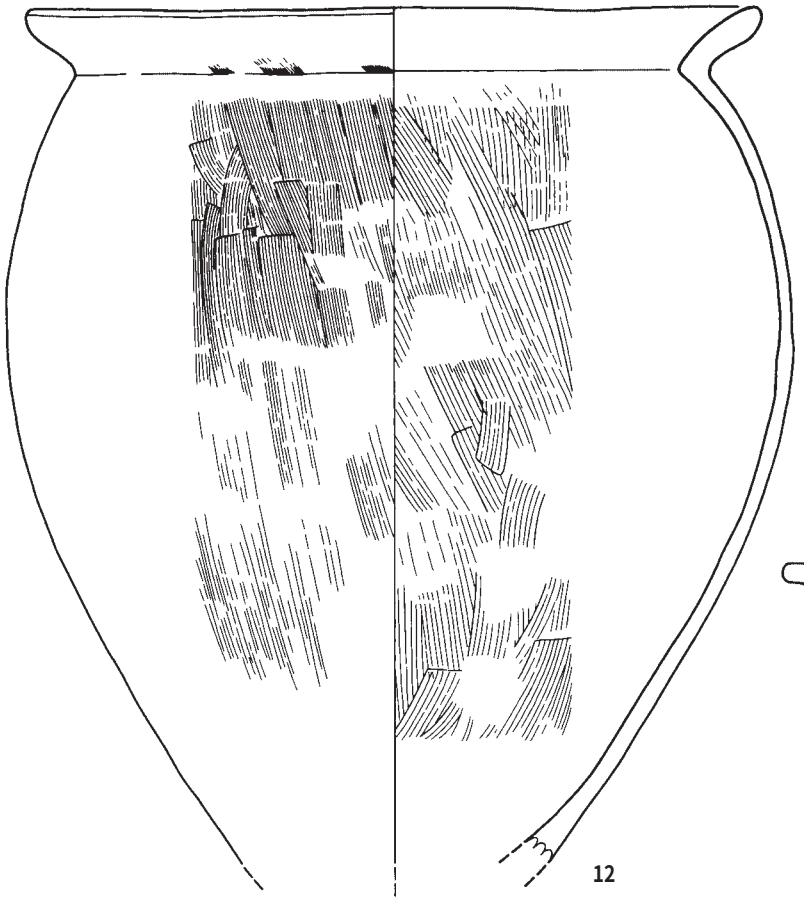
17は、粘板岩製の磨製石鏃である。先端部及び側縁部が欠損している。一括遺物である。

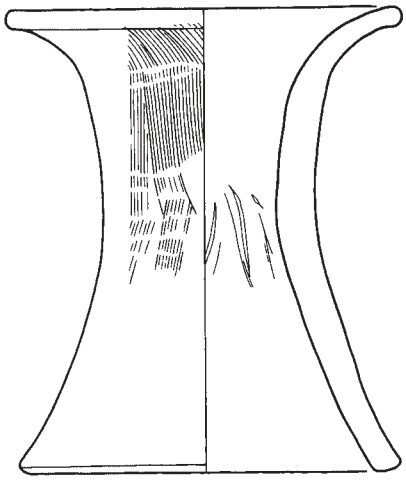
18、19は、土製勾玉の破片である。17は基部、18は頭部であり、穿孔がある。形状がやや異なること



図(Fig)148　S073出土遺物実測図（１）

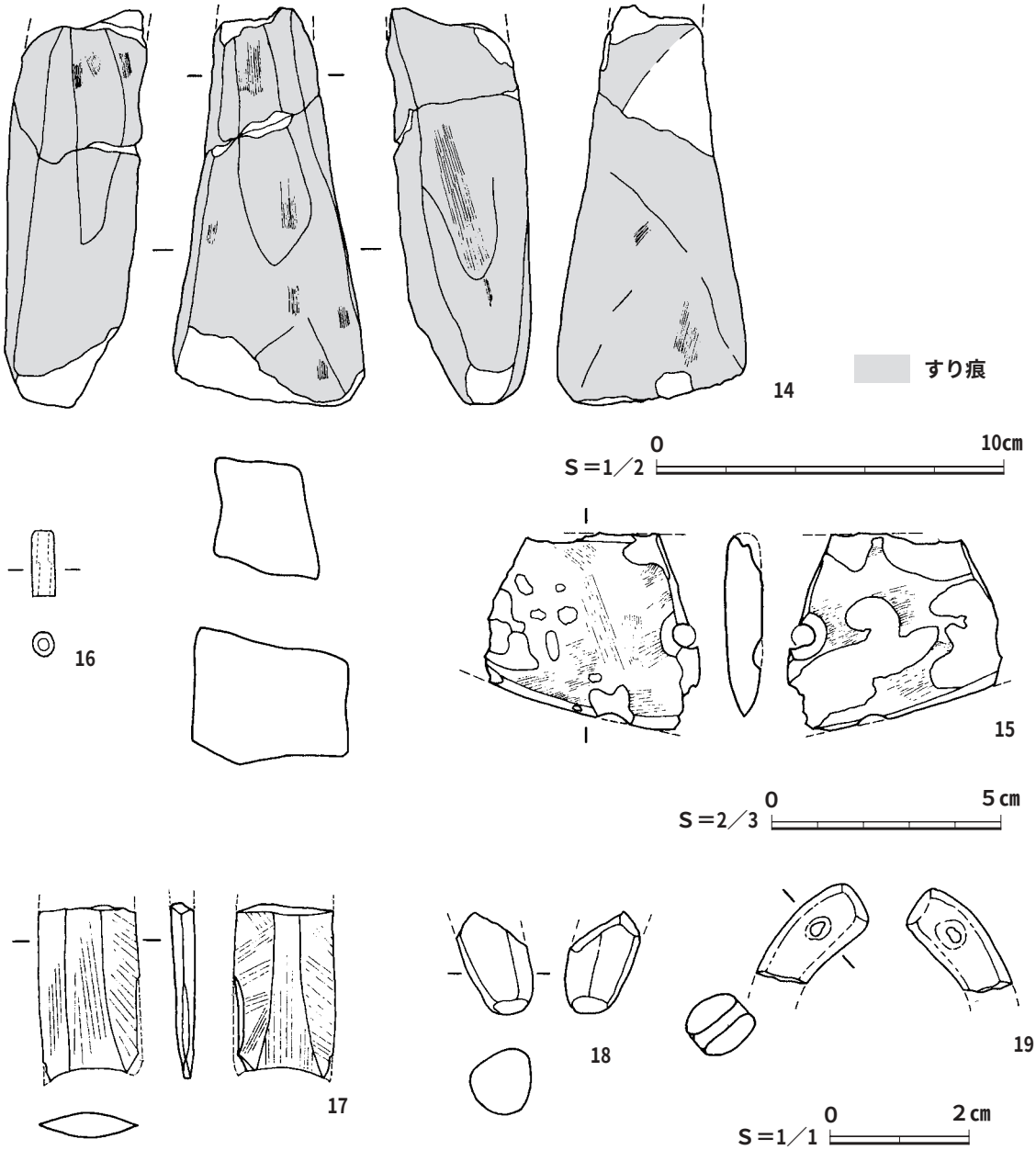






0 10cm
S＝1／3

図(Fig)149　S073出土遺物実測図（２）



図(Fig)150　S073出土遺物実測図（３）

から別個体の可能性が高い。18は２層一括、19は一括遺物である。

【S075】（図151～155参照）

［確認位置］調査１区、Ｆ－６、７グリッド。
標高約10.30m。

［形状］方形（ベッド付き）

［大きさ］長軸：670㎝、短軸：475㎝、深さ：35～45㎝。

［住居内覆土］３層。

［主柱穴］２本。径約35～50㎝。深さ43～49㎝。

［炉］有り。大きさ170×110㎝で深さ約10～15㎝。

［貯蔵穴］有り。大きさ105×70㎝で深さ約15㎝。

［硬化面］不明。

［張り床］不明。

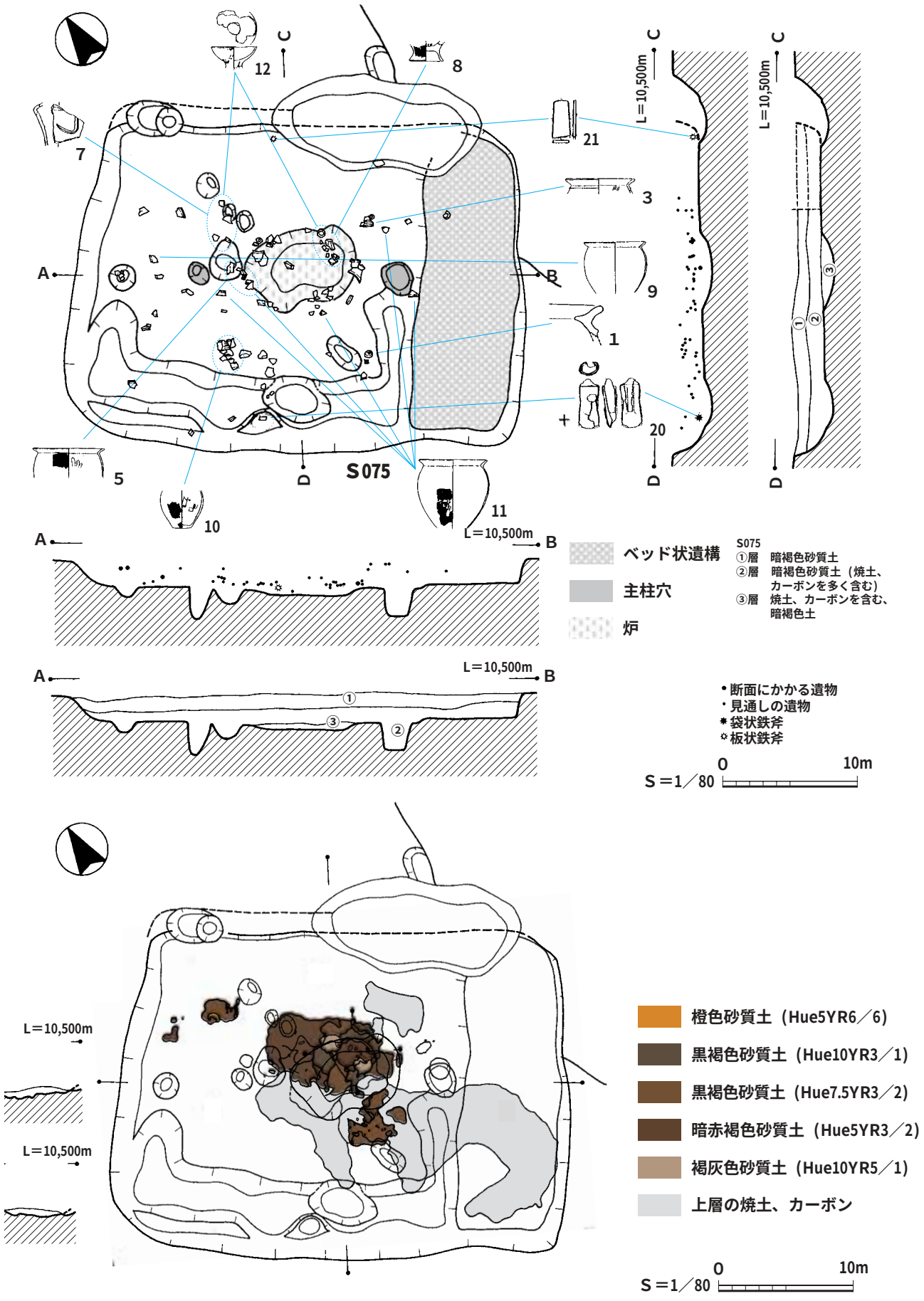
［切り合い関係］S054、78、119、120を切る。

［特記事項］

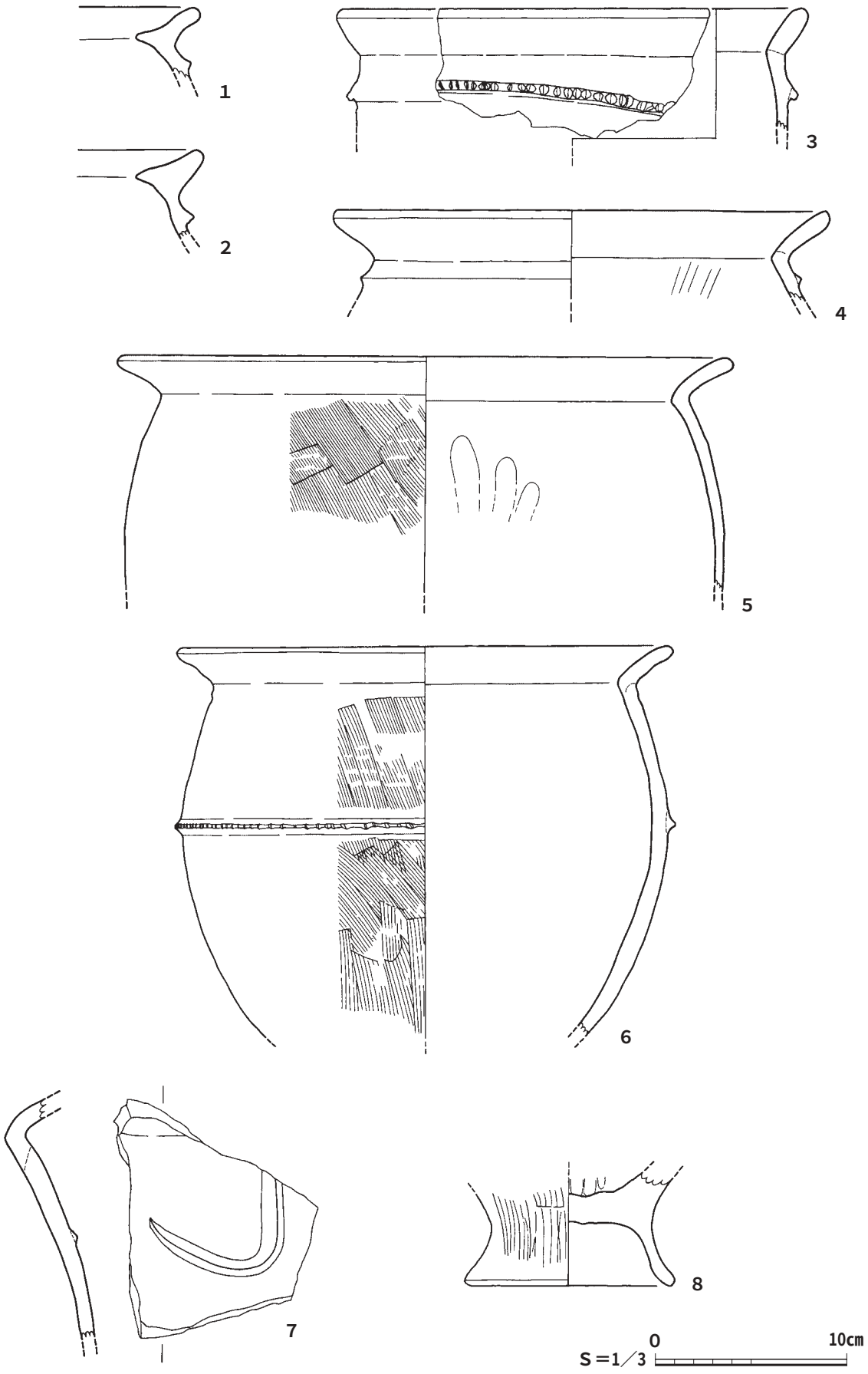
・２層（床面及び床面から15㎝上までの間）にカーボンや焼土が多い。鉄斧が２点出土していることから小鍛冶が行われた可能性も否定できない。

・住居内に浅い溝状のものが部分的に見られる。

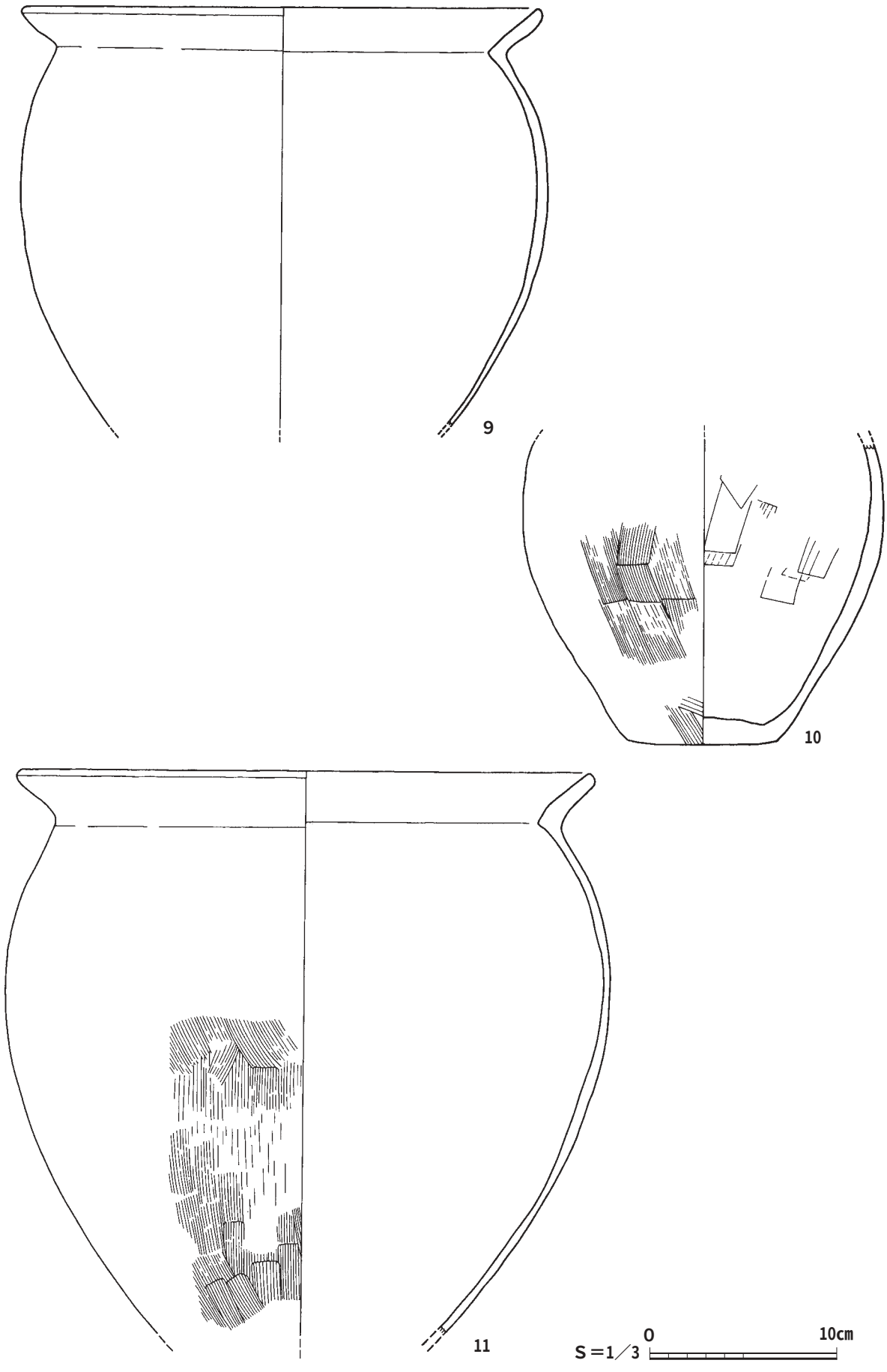
［遺物の出土状況］床面及び床からやや浮いた状態で出土。遺構廃絶時及び廃絶後間もない遺物として



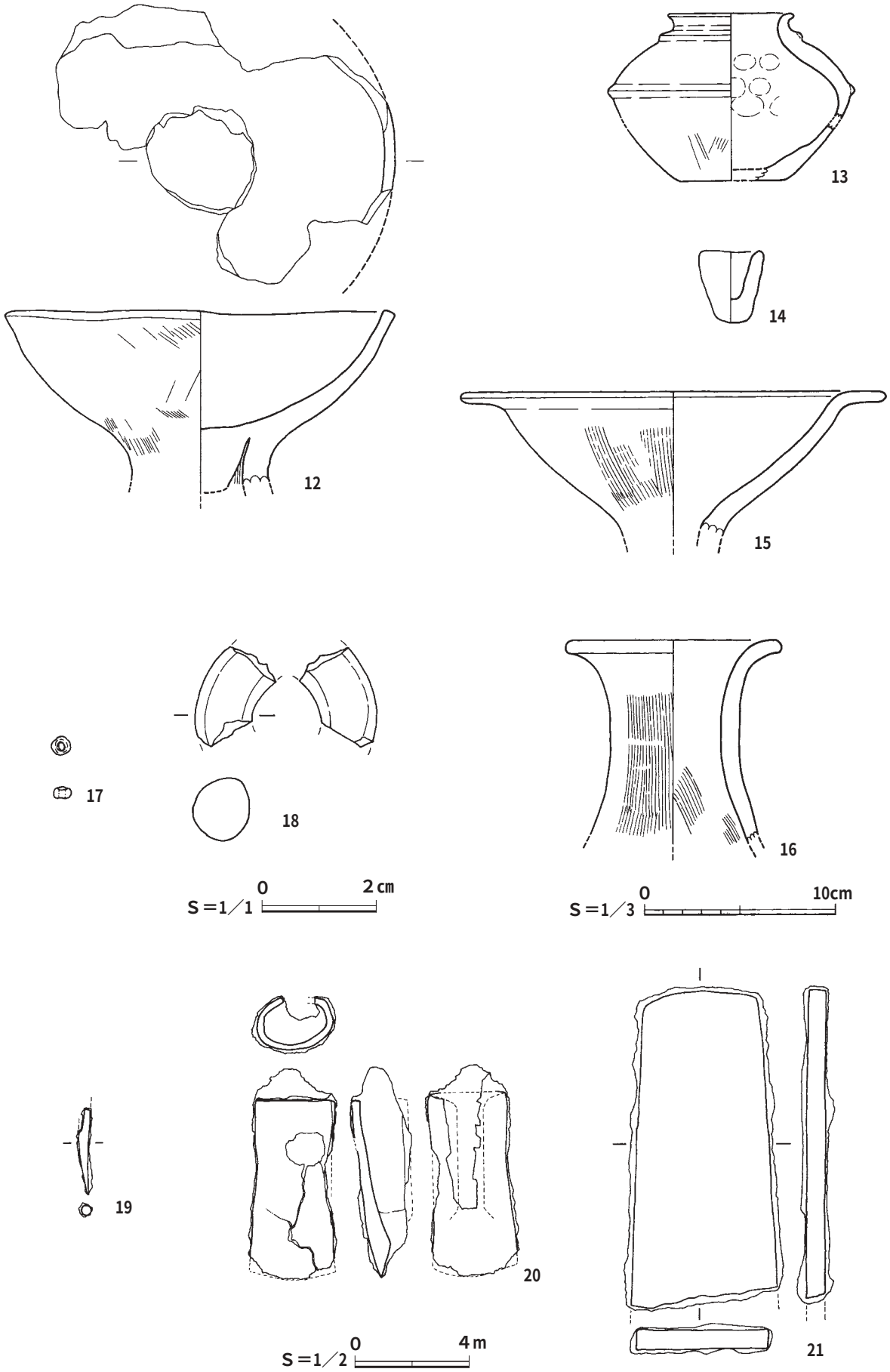
図(Fig)151　住居跡（S075）実測図・炉周辺の焼土、カーボン広がり状況



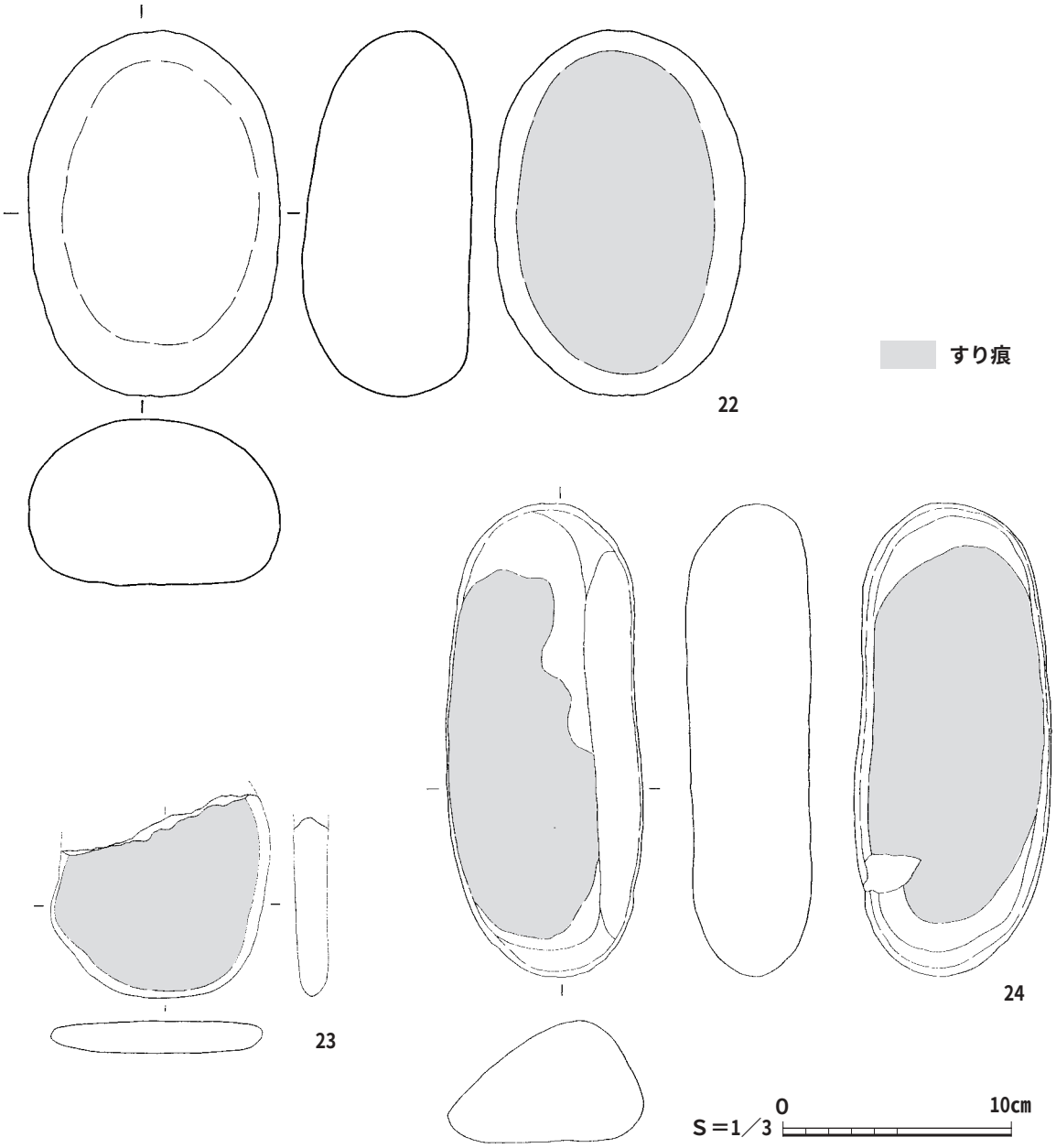
図(Fig)152　S075出土遺物実測図（１）



図(Fig)153　S075出土遺物実測図（２）



図(Fig)154　S075出土遺物実測図（３）



図(Fig)155　S075出土遺物実測図（４）

捉えたい。

［出土遺物量］

S075から出土した遺物は、小グレーコンテナ(38㎝×58㎝×５㎝）に10箱分で、総重量27,460ｇであった。内訳は縄文土器（18片：426ｇ）弥生土器27,028ｇ（内丹塗り土器は452ｇ)、中世の青磁が６ｇであった。中世の遺物は後世に混入したものであろう。

［出土遺物の観察］

土器の様相は、甕や壺の口縁部はほぼ後期の様相を持つものであった。

ここでは、16点の土器、１点のガラス小玉、３点の鉄器、１点の土製品、３点の石器を紹介する。

１、２は、甕形土器の口縁部である。口縁部形態は黒髪式土器の特徴を呈している。１は点上げ遺物から、２は床面から出土した遺物である。

３、４は、甕形土器の口縁部である。いずれも口縁部は後期の特徴である「くの字」の形状を呈するが、３はやや直立気味である。３は頸部下に１条の刻み目突帯、４は１条の突帯が巡る。３は点上げ遺物、４は２層出土遺物である。

５は、甕形土器の口縁部と胴部上半部である。口縁はやや後期的な様相を呈する。外面はハケ目、内面はナデ痕が見られる。点上げ遺物である。

６は、甕形土器の口縁部と胴部である。口縁はやや後期的な様相を呈する。外面はハケ目が残り、胴

部中央部に１条の刻み目突帯が巡る。一括遺物６点、床上遺物２点、点上げ遺物13点の計21点が接合している。

７は、壺形土器の頸部及び胴部上半部である。外面には鉤の手状の貼り付けを持つ。点上げ遺物である。

８は、甕形土器の脚台部である。外面にはハケ目、内面にはナデ痕が残る。点上げ遺物である。

９、11は、甕形土器の口縁部と胴部である。口縁はやや後期的な様相を呈する。９は、一括遺物25点が接合している。11は、外面にハケ目が残り、１層一括遺物２点、２層一括遺物２点、一括遺物15点、点上げ遺物17点の計35点が接合している。

10は、甕形土器か壺形土器の胴部および底部である。内外面にハケ目が残る。低部ややレンズ状のふくらみが見られる。点上げ遺物である。

12は、高杯形土器の杯部である。外面にはハケ目、内面には絞り痕が残る。杯部と脚部の境目には円盤充填技法が見られる。２層一括遺物１点、一括遺物２点、点上げ遺物２点の計５点が接合している。

13は、無頸壺である。外面には部分的にハケ目が残り、口縁部下と胴部中央部にそれぞれ一条ずつ突帯が巡る。内面には指頭圧痕が残る。完全にはつながらないが、復原を試みた。１層一括遺物２点、２層一括遺物２点、一括遺物２点、点上げ遺物３点の計９点が接合している。

14は、ミニチュア土器である。一括遺物である。

15は、高杯形土器の杯部である。外面にはハケ目が残る。点上げ遺物である。

16は、器台である。脚部が欠損しているが、内外面にハケ目が残る。一括遺物４点が接合している。

17は、ガラス小玉である。住居覆土下層（２層）の水洗で確認した。

18は、土製勾玉である。両端部が欠損している。点上げ遺物である。

19は、鉄釘と考えられる。１層から出土した。後世の流れ込みの可能性も否定できない。

20は、袋状鉄斧である。一部欠損しているが、X線撮影によりその形状が推測できる。住居南側の壁最下面で出土した。廃絶時の遺物と考えられる。

21は、板状鉄斧である。住居北側の壁最下面で出土した。20と同様、廃絶時の遺物と考えられる。20と21は出土位置が対峙しており、非常に興味深い。この板状鉄斧について村上恭通氏から朝鮮半島産であるとのご教示をいただいた。

22は磨り石である。石材は安山岩質と考えられる。裏面に磨り痕が見られる。一括資料で層位は不明である。

23は磨り石と考えられる。石材は安山岩質と考えられる。一部欠損しているが、表面に磨り痕が見られる。一括資料で層位は不明である。

24は磨り石である。石材は安山岩質と考えられる。表裏面に磨り痕が見られる。一括資料で層位は不明である。

【S077】（図156～158参照）

［確認位置］調査１区、Ⅰ、Ｊ－８グリッド。
標高約10.20m。

［形状］方形

［大きさ］長軸：565㎝、短軸：345㎝～、深さ：40～50㎝。

［住居内覆土］３層。

［主柱穴］２本。径約50～60㎝。深さ45～50㎝。

［炉］有り。大きさ75×75㎝で深さ約10～13㎝。

［貯蔵穴］有り。大きさ75×150㎝で深さ約35㎝。

［硬化面］不明。

［張り床］不明。

［切り合い関係］S092、147を切り、74から切られる。

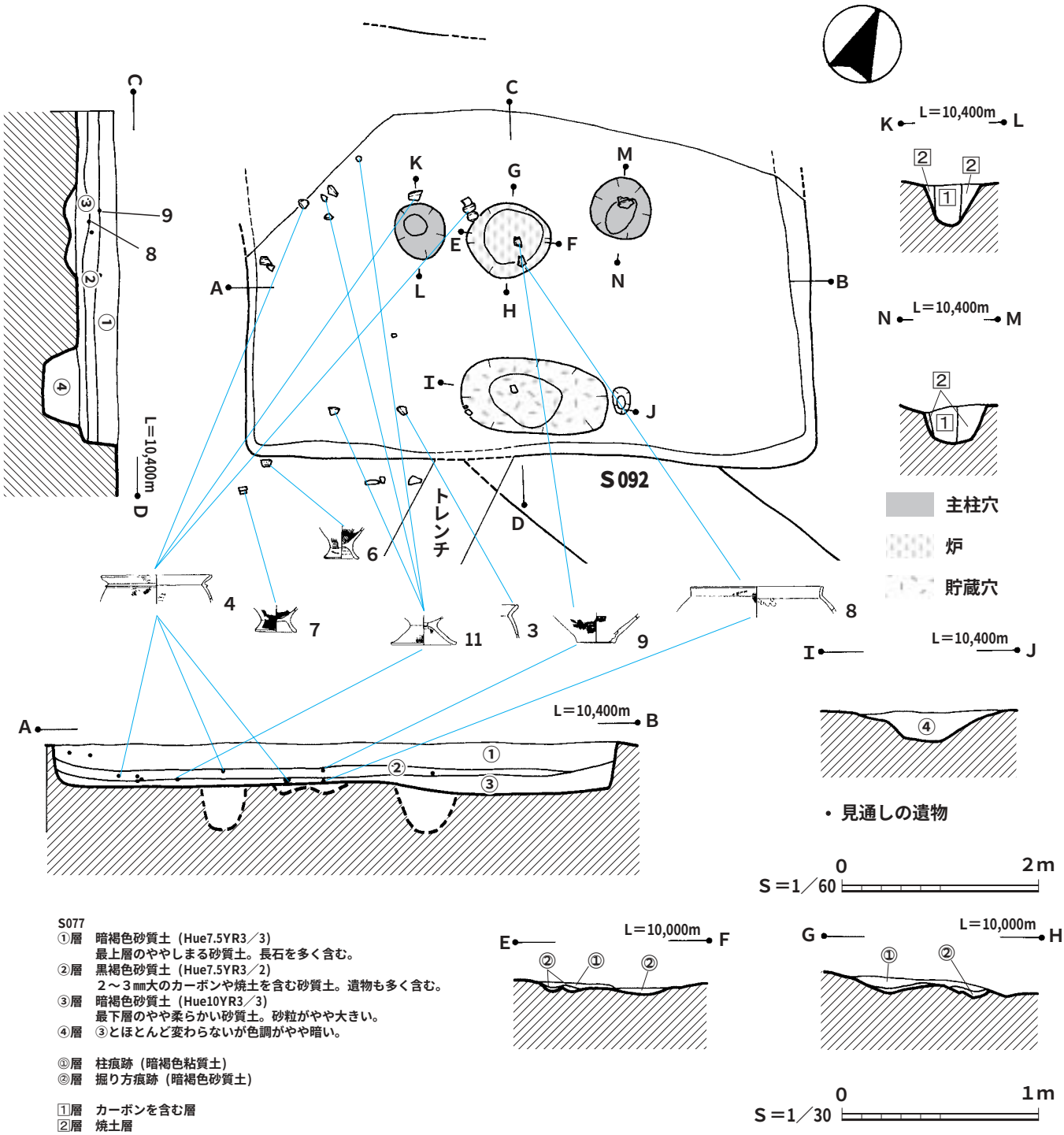
［遺物の出土状況］床から浮いた状態で出土。遺構廃絶後の遺物として捉えたい。

［出土遺物量］

S077から出土した遺物は、小グレーコンテナ（38㎝×58㎝×5㎝）に10箱分で、総重量13,575ｇであった。内訳は縄文土器（５片：51ｇ）弥生土器13,501ｇ（内丹塗り土器は1,090ｇ）、近世以降の陶器が23ｇであった。近世以降の遺物は何らかの理由で後世に混入したものである。

［出土遺物の観察］

土器の様相は、甕や壺の口縁部はほとんどが後期の様相を持つものであった。



S077
①層　暗褐色砂質土（Hue7.5YR3／3）
最上層のややしまる砂質土。長石を多く含む。
②層　黒褐色砂質土（Hue7.5YR3／2）
2～3㎜大のカーボンや焼土を含む砂質土。遺物も多く含む。
③層　暗褐色砂質土（Hue10YR3／3）
最下層のやや柔らかい砂質土。砂粒がやや大きい。
④層　③とほとんど変わらないが色調がやや暗い。

ⓐ層　柱痕跡（暗褐色粘質土）
ⓑ層　掘り方痕跡（暗褐色砂質土）

1層　カーボンを含む層
2層　焼土層

図(Fig)156　住居跡（S077）実測図

ここでは、16点の土器、２点の石器、２点の土製品を紹介する。

１は、甕形土器の口縁部である。口縁部形態は黒髪式土器の特徴を呈している。３層出土遺物である。

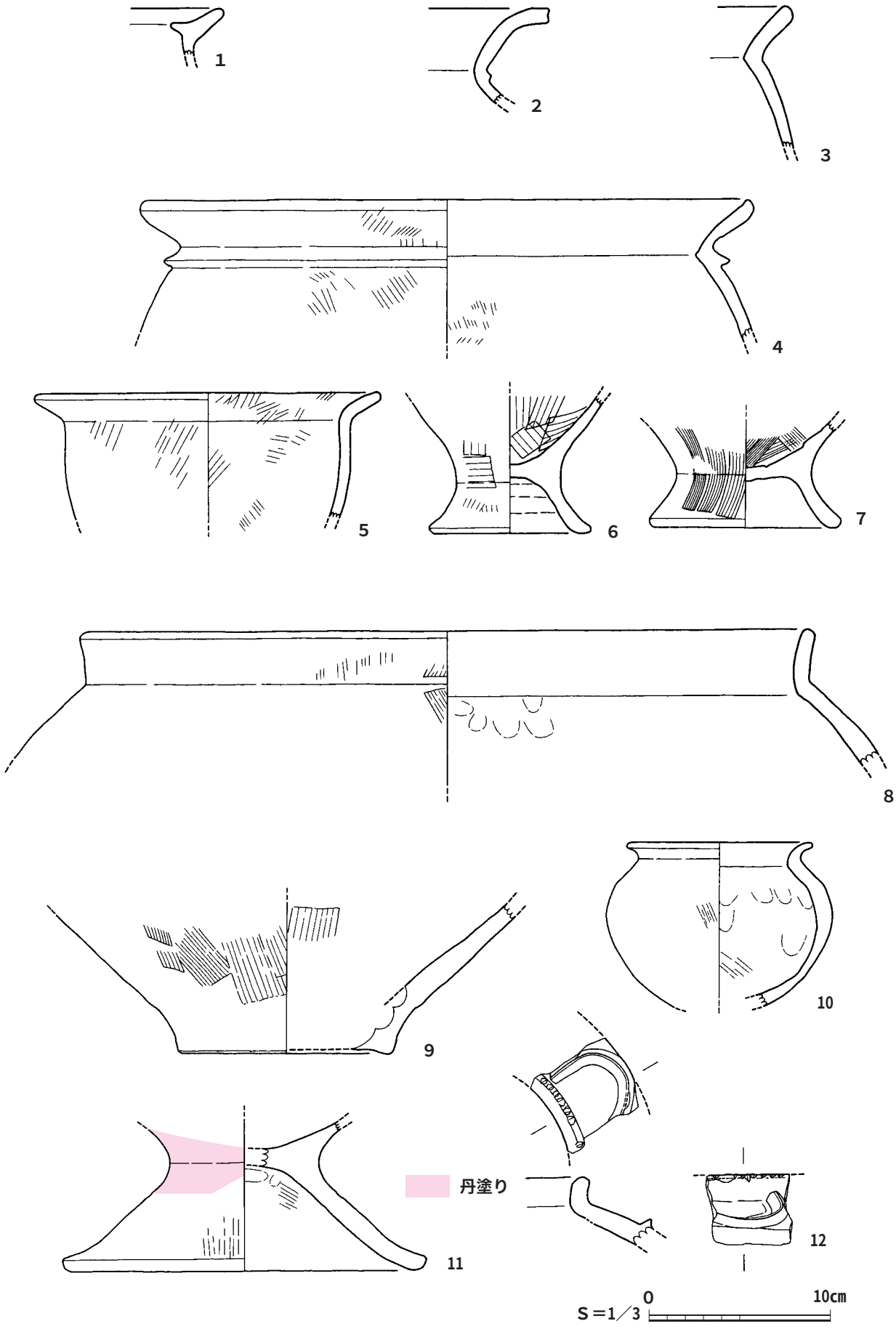
２は、壺形土器の口縁部である。頸部に１条の突帯が巡る。一括遺物である。

３は、甕形土器の口縁部である。口縁部形態は「くの字」状に外反し、後期の土器の特徴を呈している。一括遺物である。

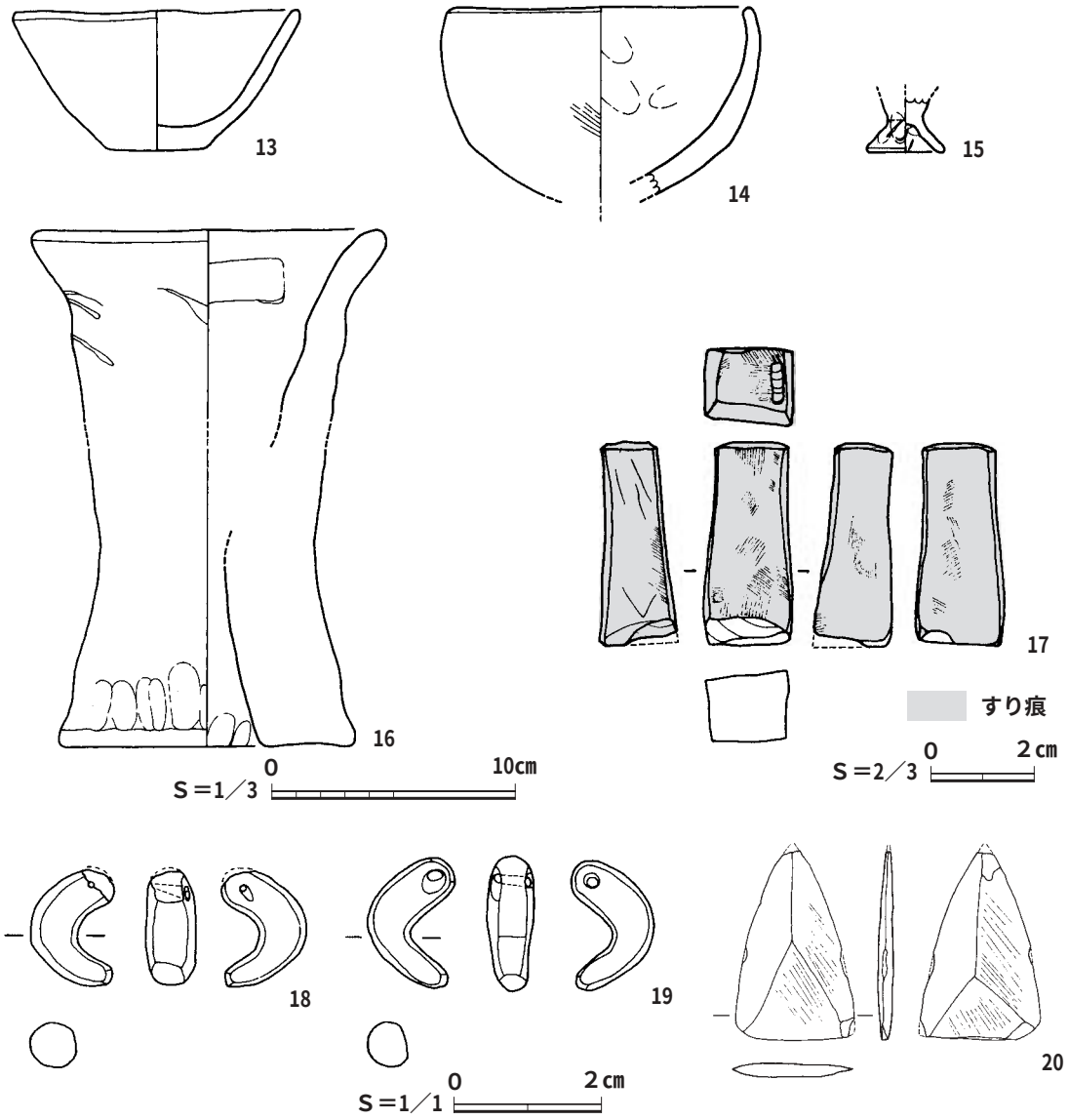
４は、甕形土器の口縁部である。内外面にハケ目が残る。口縁部形態は「くの字」状に外反し、後期の土器の特徴を呈している。頸部に１条の突帯が巡る。点上げ遺物４点が接合している

５は、鉢形土器の口縁部及び胴部上半部である。内外面にハケ目が残る。２層出土遺物である。

６、７は、甕形土器の脚台部である。いずれも内



図(Fig)157　S077出土遺物実測図（１）



図(Fig)158　S077出土遺物実測図（２）

外面にハケ目が残る点上げ遺物である。

８は、壺形土器の口縁部である。口縁が直立する。外面にハケ目、内面に指頭圧痕が残る。点上げ遺物である。

９は、壺形土器の底部である。内外面にハケ目が残り、やや上げ底である。１層出土遺物と点上げ遺物の計２点が接合している

10は、無頸壺である。底部が欠損しているが器形は把握できる。外面にハケ目、内面にハケ目と指頭圧痕が残る。１、２、３層出土遺物の計５点が接合している。

11は、脚台付き鉢の脚台部である。内外面にハケ目と丹塗りが残る。点上げ遺物３点が接合している。

12は、無頸壺の口縁部である。口唇部には刻み目、頸部下には鉤の手状の貼り付け紋様を持つ。１層出土遺物である。

13は、鉢形土器である。１、２層出土遺物の計３点が接合している。

14は、鉢形土器である。内面にハケ目、外面に指頭圧痕が残る。１層出土遺物である。

15は、ミニチュア土器である。甕形土器の脚台部であろう。内外面に指頭圧痕が残る。３層出土遺物である。

16は、器台である。内外面に指頭圧痕が残る。他の器台と比較して、胎土が粉状で細かく、器壁も厚いことで非常に異なる器台である。同一個体である

が、上下が接合しなかったので、復原を試みた。１層出土遺物計５点が接合している。

17は、砥石である。石材は流紋岩である。５面に磨り痕が観察される。非常に目が細かいことから仕上げ用の砥石だと考えられる。一括遺物である。

18、19は、土製の勾玉である。いずれも頭部に穿孔がある。18は点上げ遺物、19はトレンチ一括遺物である。

20は粘板岩製の磨製石鏃であり、２層からの出土である。

【S083】（図159、160参照）

［確認位置］調査１区、G、Ｈ－７、８グリッド。標高約10.25m。

［形状］方形

［大きさ］長軸：445cm、短軸：405cm、深さ：15～20cm。

［住居内覆土］４層に細分。

［主柱穴］４本。径約25～30cm。深さ60～70cm。

［炉］有り。大きさ70×90cmで深さ約15cm。

［貯蔵穴］無し。

［硬化面］有り。

［張り床］不明。

［切り合い関係］S082を切り、74、84、85、109から切られる。

［遺物の出土状況］床から浮いた状態で出土。遺構廃絶後の遺物として捉えたい。

［出土遺物量］

S083から出土した遺物は、小グレーコンテナ(38cm×58cm×5cm）に５箱分で、総重量10,283ｇであった。内訳は縄文土器（２片：63ｇ）弥生土器10,220ｇ（内丹塗り土器は345ｇ)、であった。

［出土遺物の観察］

土器の様相は、甕や壺の口縁部は黒髪式と後期が混在していたが、後期の様相を示す遺物が多かった。

ここでは、６点の土器、１点の石器を紹介する。

１、２、は、甕形土器の口縁部である。口縁部形態は黒髪式土器の特徴を呈している。いずれも点上げ遺物である。

３は、甕形土器の口縁部である。内外面にハケ目が残る口縁部はやや後期の様相を呈している。点上げ遺物である。

４は、甕形土器の口縁部及び胴部である。口縁部形態は「くの字」状に外反し、後期の土器の特徴を呈している。内外面にハケ目が残る。上層一括遺物15点、点上げ遺物12点の計27点が接合している。

５は、ミニチュア土器である。甕形土器か壺形土器を模した底部である。一括遺物である。

６は、甕形土器の脚台部である。外面にハケ目、内面に指頭圧痕が残る点上げ遺物である。

７は、砥石である。石材は砂岩である。上部は欠損しており、４面に磨り痕が観察される。点上げ遺物である。

【S090】（図161～164参照）

［確認位置］調査１区、B、Ｃ－５グリッド。標高約10.28m。

［形状］方形

［大きさ］長軸：485cm、短軸：445cm、深さ：35cm。

［住居内覆土］５層に細分。

［主柱穴］２本。径約23～30cm。深さ70～78cm。

［炉］有り。大きさ95×108cmで深さ約15cm。

［貯蔵穴］有り。大きさ75×100cmで深さ約15cm。

［硬化面］有り。

［張り床］有り。

［切り合い関係］無し。

［遺物の出土状況］床から浮いた状態で出土。遺構廃絶後の遺物として捉えたい。

［出土遺物量］

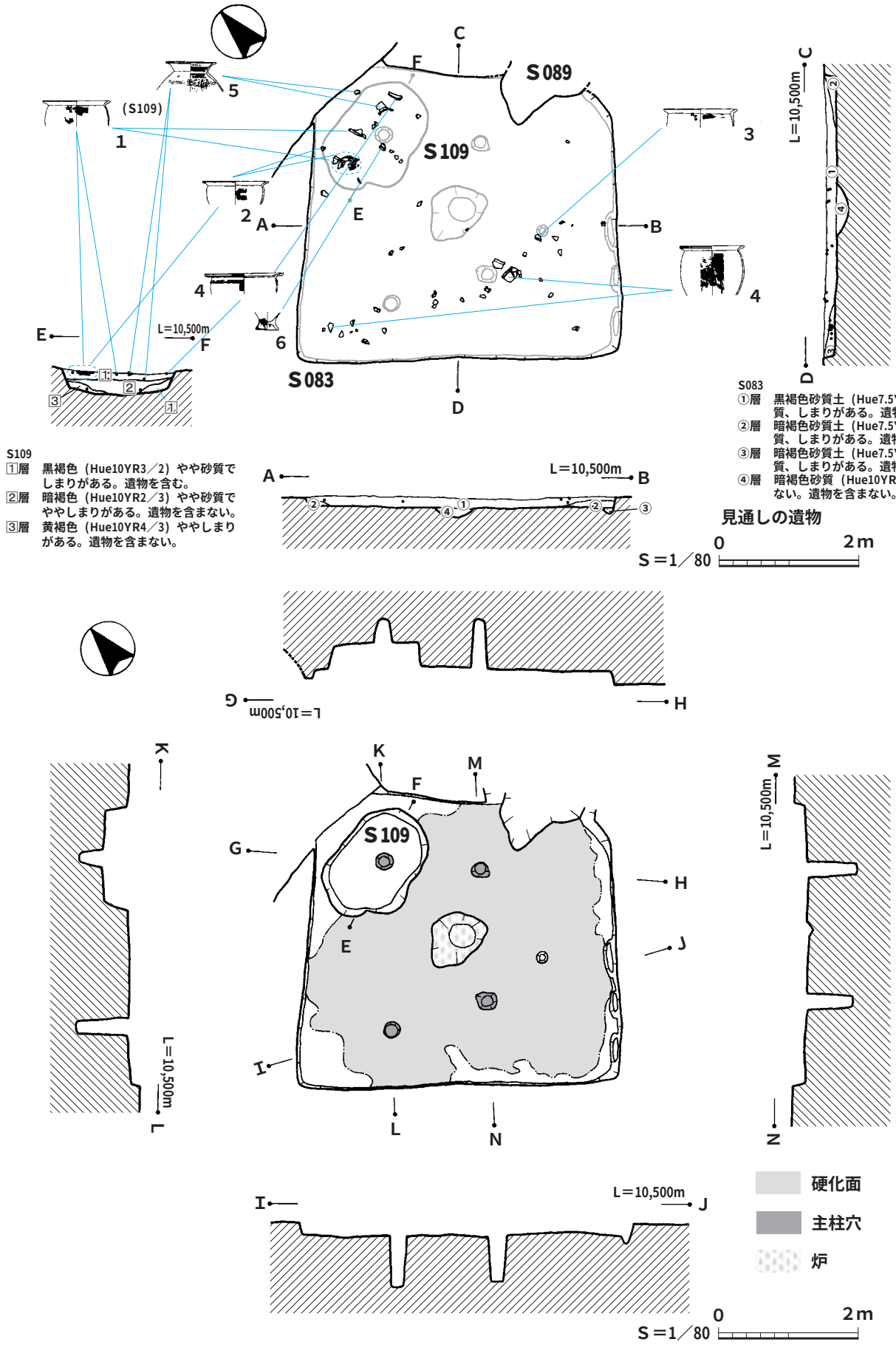
S090から出土した遺物は、中グレーコンテナ(38cm×58cm×15cm）に12箱分で、総重量34,930ｇであった。内訳は縄文土器（28片：429ｇ）弥生土器34,501ｇ（内丹塗り土器は5,501ｇ）であった。

［出土遺物の観察］

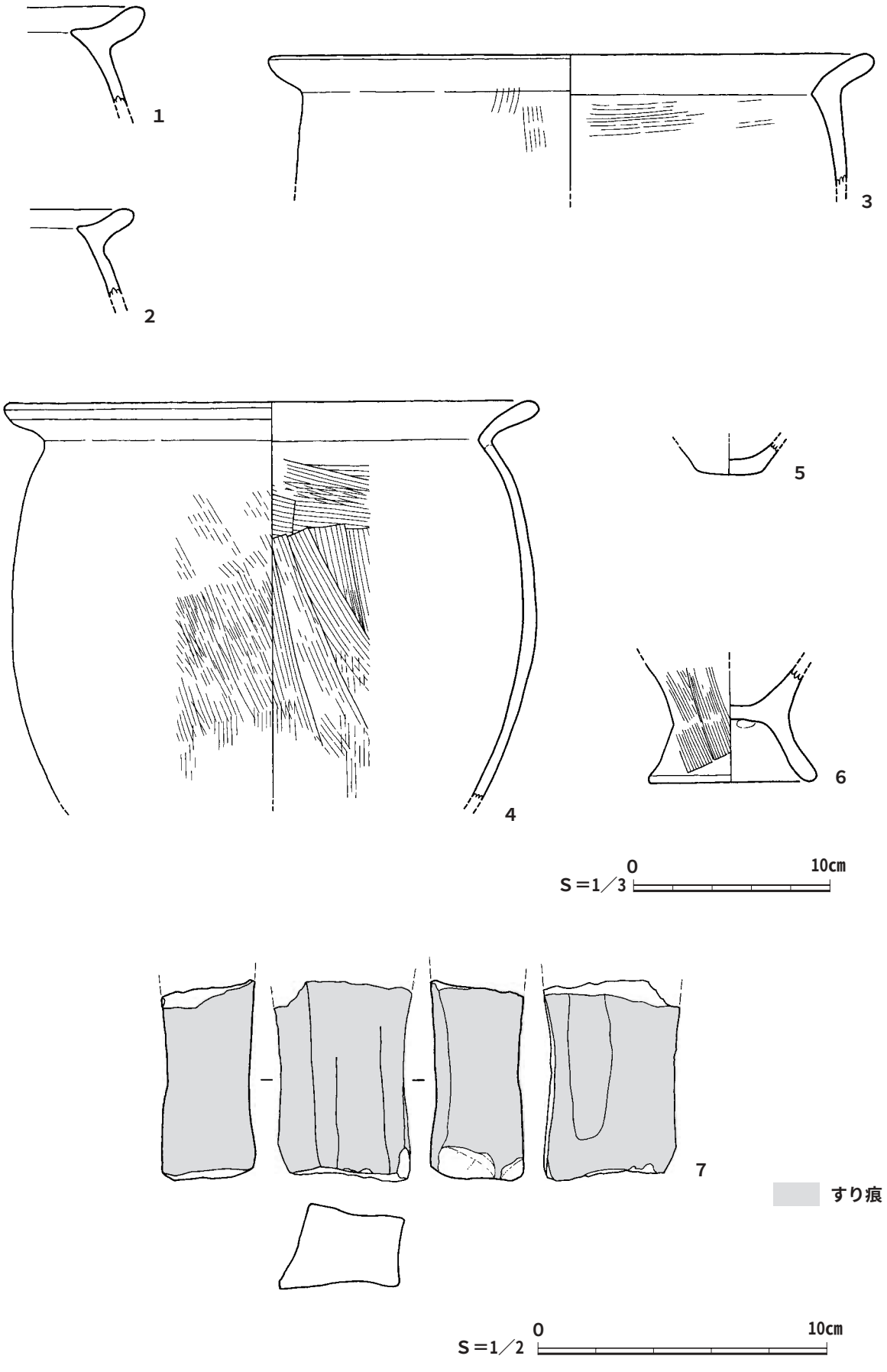
土器の様相は、甕や壺の口縁部は黒髪式と後期が混在していたが、後期の様相を示す遺物が多かった。

ここでは、12点の土器を紹介する。

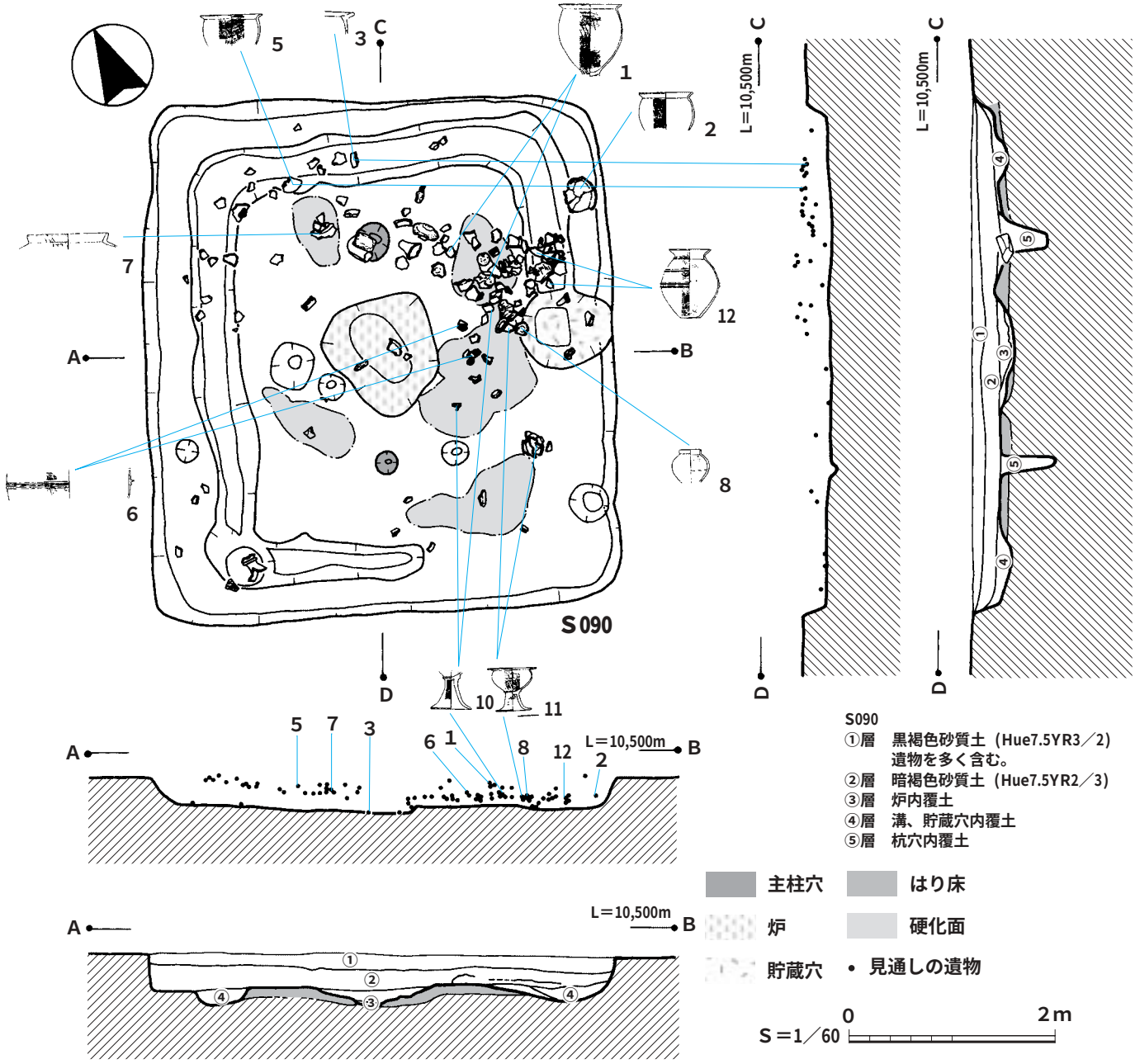
１は、甕形土器である。脚台部を欠損している。口縁部形態は「くの字」状に外反し、後期の土器の特徴を呈している。内外面にハケ目が残る。一括遺物、床面遺物、２層遺物、点上げ遺物の計46点が接合している。



図(Fig)159　住居跡（S083）土坑（S109）実測図



図(Fig)160　S083出土遺物実測図



図(Fig)161　住居跡（S090）実測図

２は、甕形土器の口縁部及び胴部である。外面にはハケ目が残る。後期の様相を呈す。点上げ遺物９点が接合している。

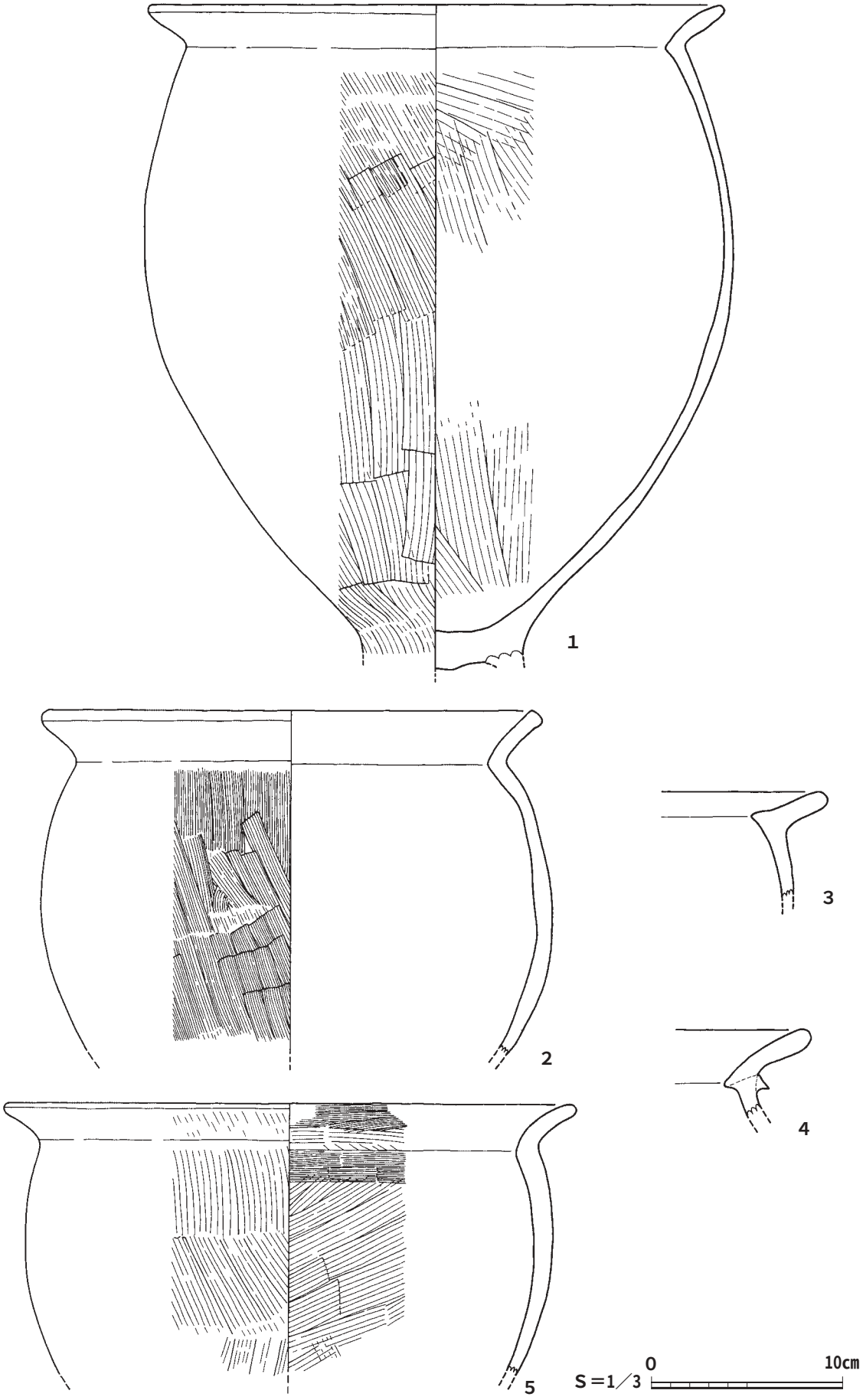
３は、甕形土器の口縁部である。黒髪式土器の特徴を呈している。点上げ遺物である。

４は、甕形土器の口縁部である。外面頸部に１条の突帯が巡る。口縁部は黒髪式の特徴である内面への突起が残り、後期の様相である「くの字」形を呈している。点上げ遺物である。

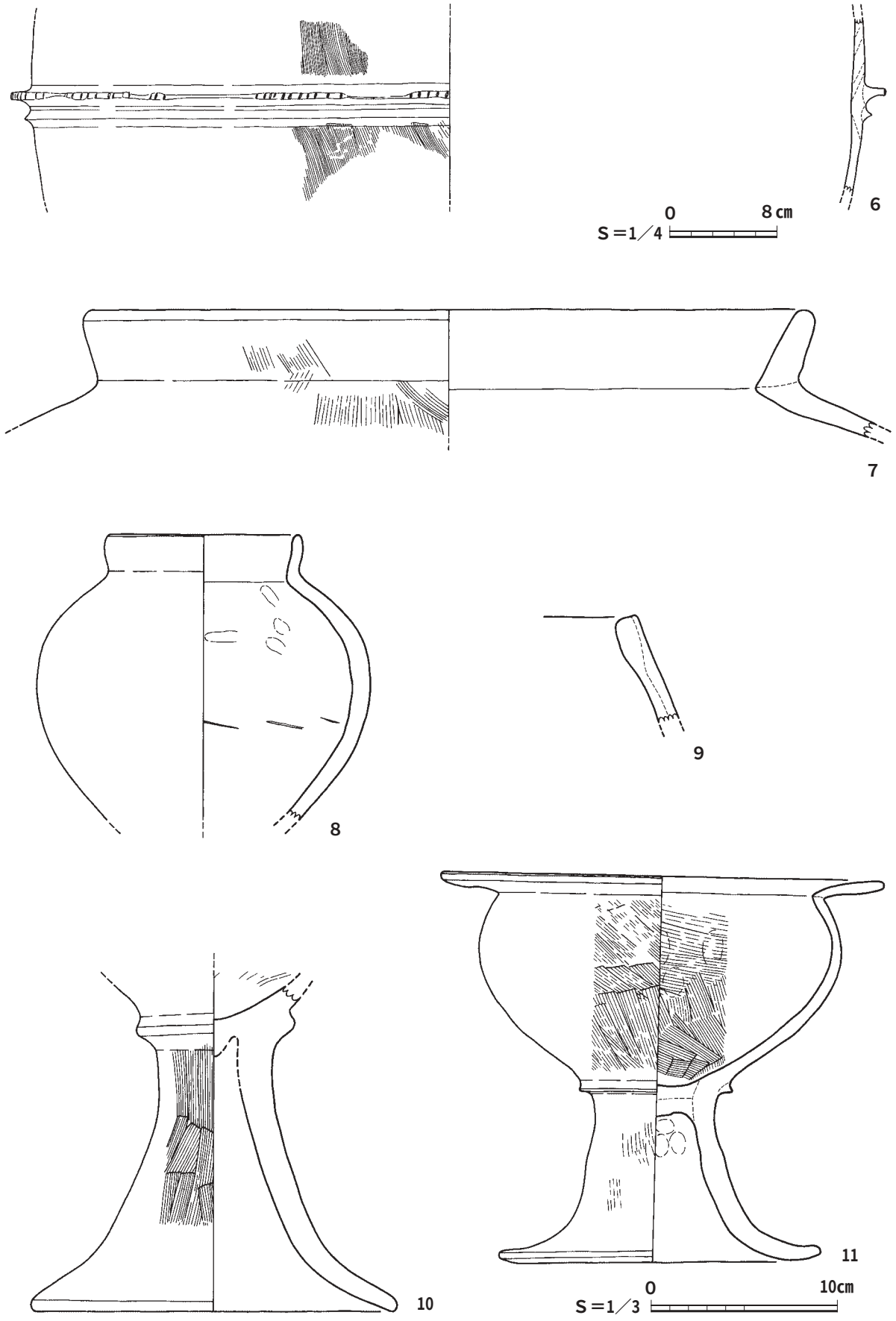
５は、甕形土器の口縁部及び胴部である。口縁部形態は「くの字」状にやや外反し、後期の土器の特徴を呈している。内外面にハケ目が残る。点上げ遺物である。

６は、甕棺の胴部中央部である。外面にハケ目と２条の突帯がある。以上は刻み目突帯で約２㎝程伸びる。復元胴部最大径は約83㎝である。１層遺物１点と点上げ遺物２点の計３点が接合している。

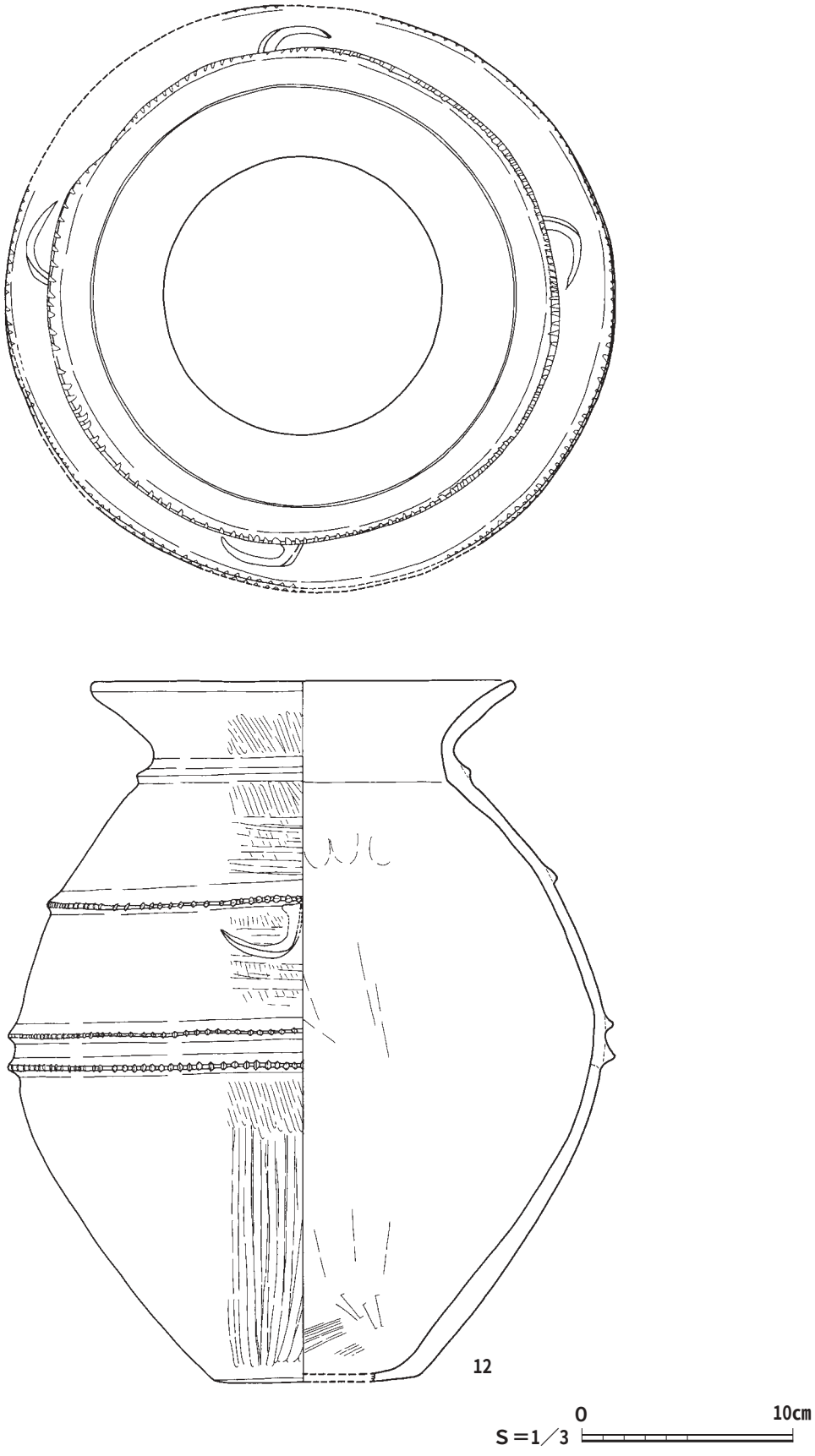
７は、壺形土器の口縁部である。口縁がほぼ直立に近い状態で立つ。外面にハケ目が残る。点上げ遺物である。



図（Fig)162　S090出土遺物実測図（1）



図(Fig)163　S090出土遺物実測図（２）



図(Fig)164　S090出土遺物実測図（３）

８は、壺形土器である。底部が欠損しているが器形は把握できる。口縁がほぼお直立する。床面遺物１点、点上げ遺物２点の計３点が接合する。

９は、樽型土器の口縁部である。一括遺物である。

10は、高杯形土器の脚部と杯の底部である。外面にハケ目が残り、脚部と杯部との接合部に１条の突帯が巡る。点上げ遺物が接合している。

11は、鉢形土器である。ほぼ完形である。外面にはハケ目が残り、鉢部と脚部と接合部に１条の突帯が巡る。内面はハケ目と指頭圧痕が残る。点上げ遺物７点が接合している。

12は、壺形土器のほぼ完形の土器である。外面はミガキ痕が施され、鉤の手状の貼り付けが４箇所にある。さらに、３条の刻み目突帯と１条の突帯が巡る。内面はハケ目や指頭圧痕が残る。また、内外面に丹塗りと考えられる赤色が観察されるが、丹塗り土器とは断定できない。底部は若干レンズ状のふくらみを持つ。

【S111】（図165参照）

［確認位置］調査１区、Ｌ、Ｍ－８グリッド。
標高約10.2m。

［形状］方形

［大きさ］長軸：300㎝～、短軸：180㎝～、深さ：30～40㎝。

［住居内覆土］２層。

［主柱穴］不明。

［炉］不明。

［貯蔵穴］不明。

［硬化面］有り。

［張り床］有り。

［切り合い関係］S110を切る。

［特記事項］S110を弥生後期と判断したため、S111も切り合い関係から弥生後期と判断した。

［遺物の出土状況］床から浮いた状態で出土。遺構廃絶後の遺物として捉えたい。

［出土遺物量］

S111から出土した遺物は、弥生土器100gであった。

［出土遺物の観察］

土器は小片のため不明である。紹介遺物はない。

【S110】（図165参照）

［確認位置］調査１区、Ｌ、Ｍ－８グリッド。
標高約10.2m。

［形状］方形

［大きさ］長軸：200㎝～、短軸：150㎝～、深さ：30㎝。

［住居内覆土］１層。

［主柱穴］不明。

［炉］不明。

［貯蔵穴］有り。大きさ60×105㎝で深さ約20㎝。

［硬化面］有り。

［張り床］有り。

［切り合い関係］S111から切られる。

［特記事項］S110から出土した銅鏃の鉛同位体分析結果から弥生時代後期の可能性が高いことがわかったため、S110自体も弥生時代後期と推定した。

［遺物の出土状況］土器は床から浮いた状態で出土。遺構廃絶後の遺物として捉えたい。但し銅鏃は貯蔵穴の上面で確認した。

［出土遺物量］

S110から出土した遺物は、総重量1,200ｇであった。内訳は縄文土器（１片：54ｇ）弥生土器1,146ｇ（内丹塗り土器は67ｇ）であった。

［出土遺物の観察］

土器は口縁部もなく、小片であり、紹介できない。ここでは、銅鏃１点を紹介する。

１は、銅鏃である。先端部や側面が一部欠損しているが、同時期の銅鏃の形態で復元を試みた。鉛同位体分析の結果、弥生時代後期に広形銅矛や広形銅戈を製作していた材料と類似している可能性が高いというデータが出た。(第５章参照)

【S118】（図166～172参照）

［確認位置］調査１区、Ｍ－８、９グリッド。
標高約10.15m。

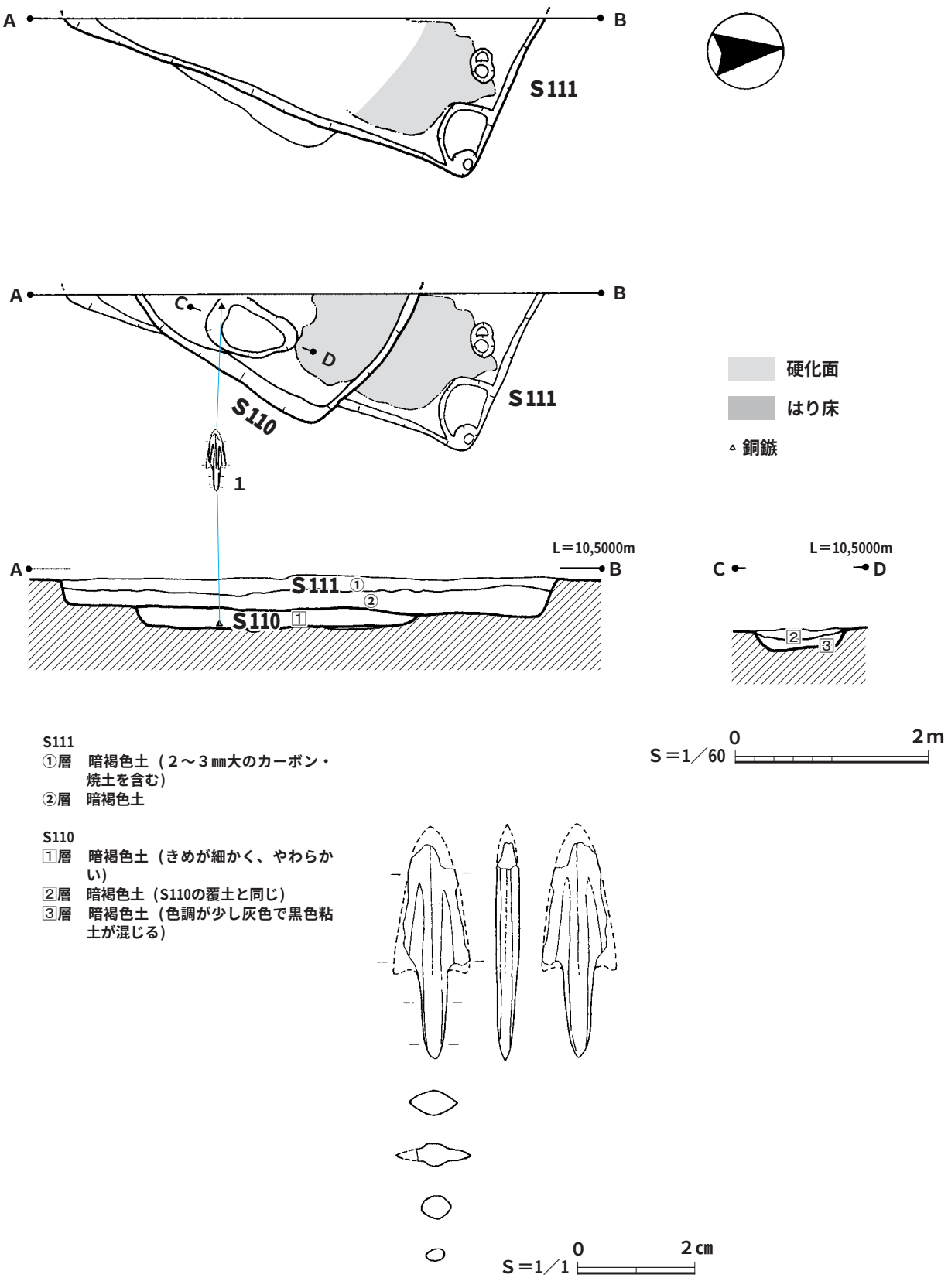
［形状］長方形(ベッド付き)

［大きさ］長軸：530㎝～、短軸：405㎝、深さ：45㎝。

［住居内覆土］５層に細分。

［主柱穴］２本？。１本しか確認できず。径約70㎝。深さ約110㎝。

［炉］有り。大きさ95×108㎝で深さ約15㎝。



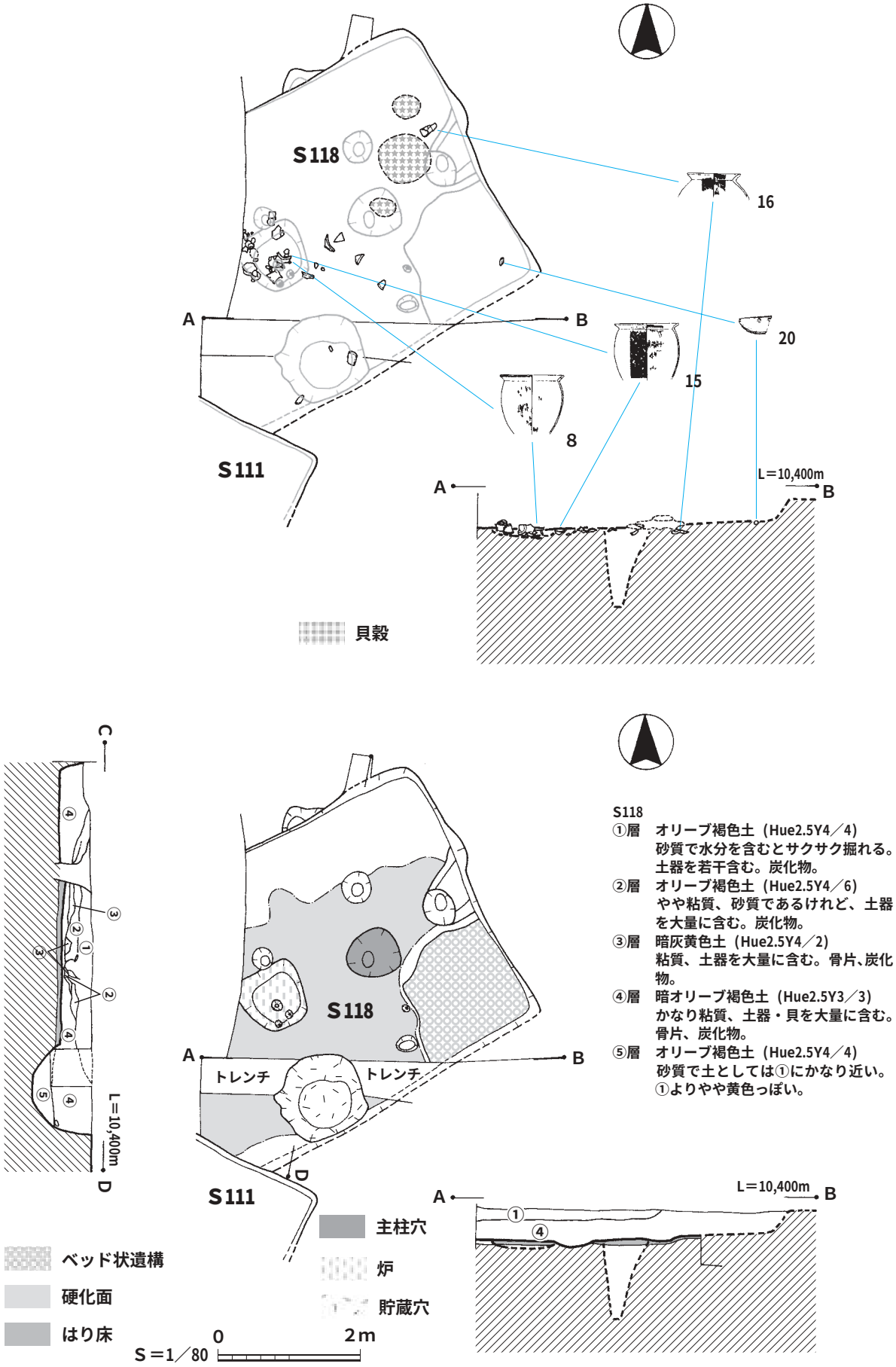
図(Fig)165　住居跡（S110・S111）実測図及び出土遺物実測図

［貯蔵穴］有り。大きさ85×90㎝で深さ約15㎝。

［硬化面］有り。

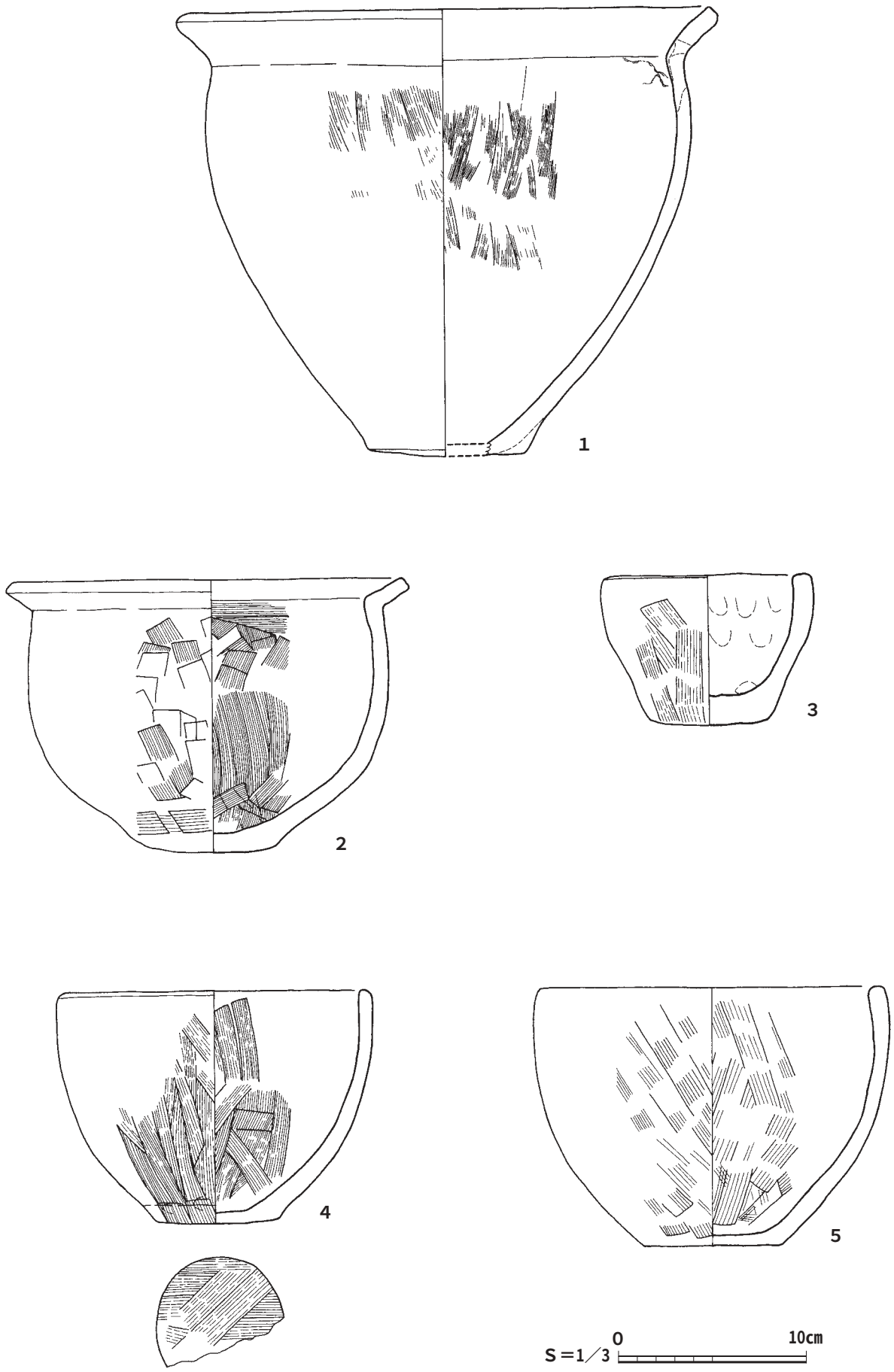
［張り床］有り。

［切り合い関係］S111に切られる。

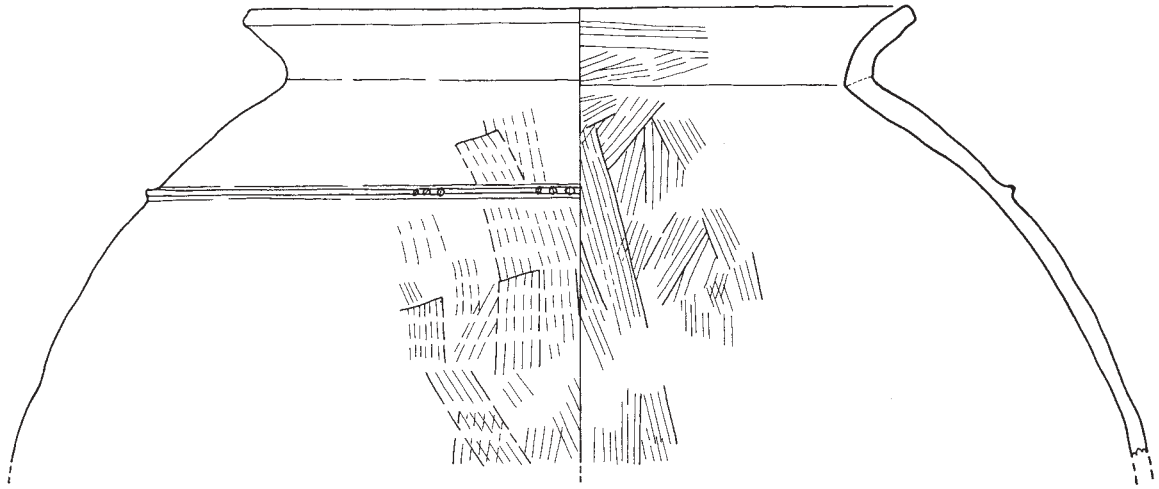


S118
①層　オリーブ褐色土（Hue2.5Y4／4）
砂質で水分を含むとサクサク掘れる。
土器を若干含む。炭化物。
②層　オリーブ褐色土（Hue2.5Y4／6）
やや粘質、砂質であるけれど、土器
を大量に含む。炭化物。
③層　暗灰黄色土（Hue2.5Y4／2）
粘質、土器を大量に含む。骨片、炭化
物。
④層　暗オリーブ褐色土（Hue2.5Y3／3）
かなり粘質、土器・貝を大量に含む。
骨片、炭化物。
⑤層　オリーブ褐色土（Hue2.5Y4／4）
砂質で土としては①にかなり近い。
①よりやや黄色っぽい。

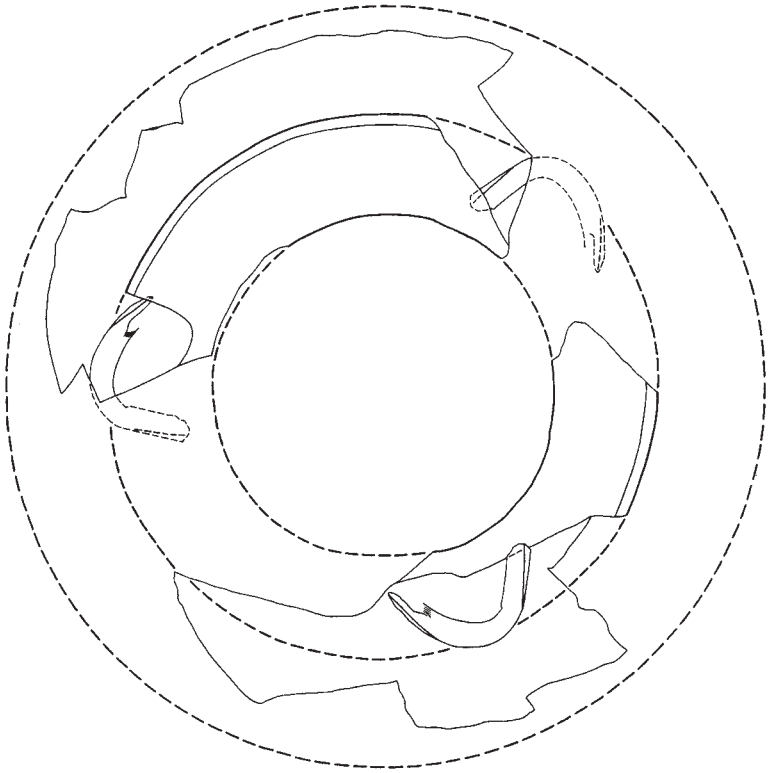
図(Fig)166　住居跡（S118）実測図

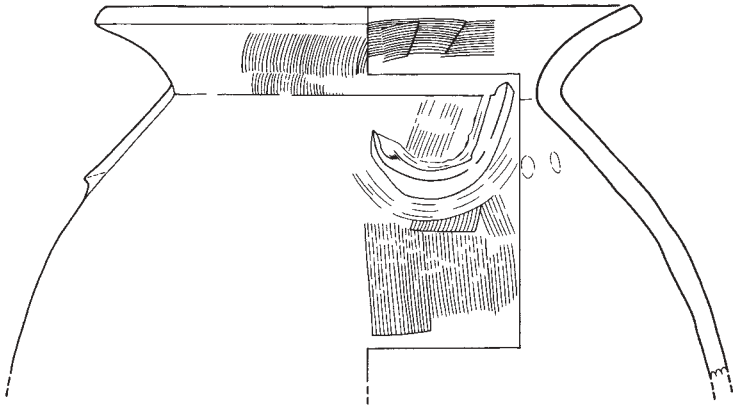


図(Fig)167　S118出土遺物実測図（1）



6



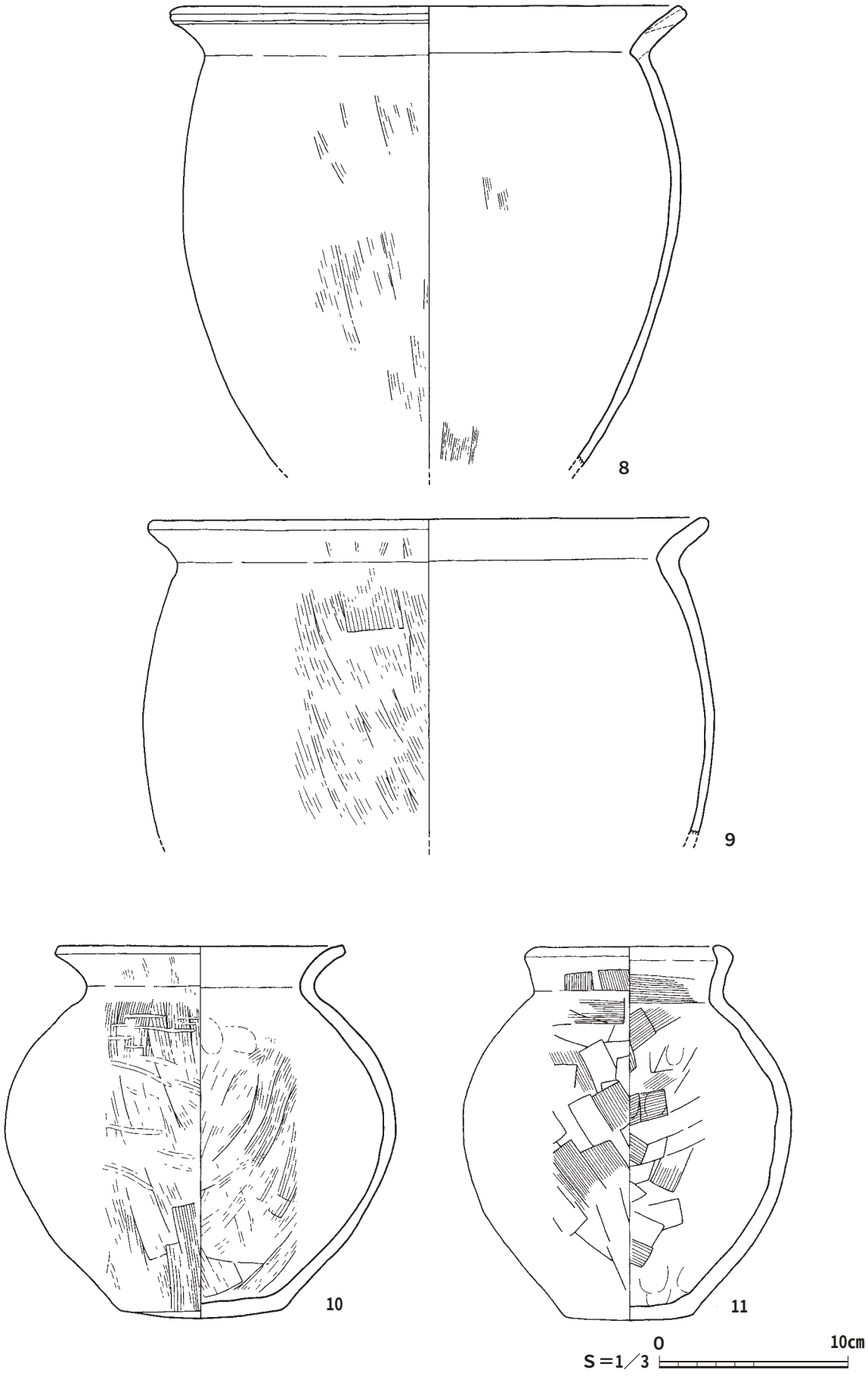


7

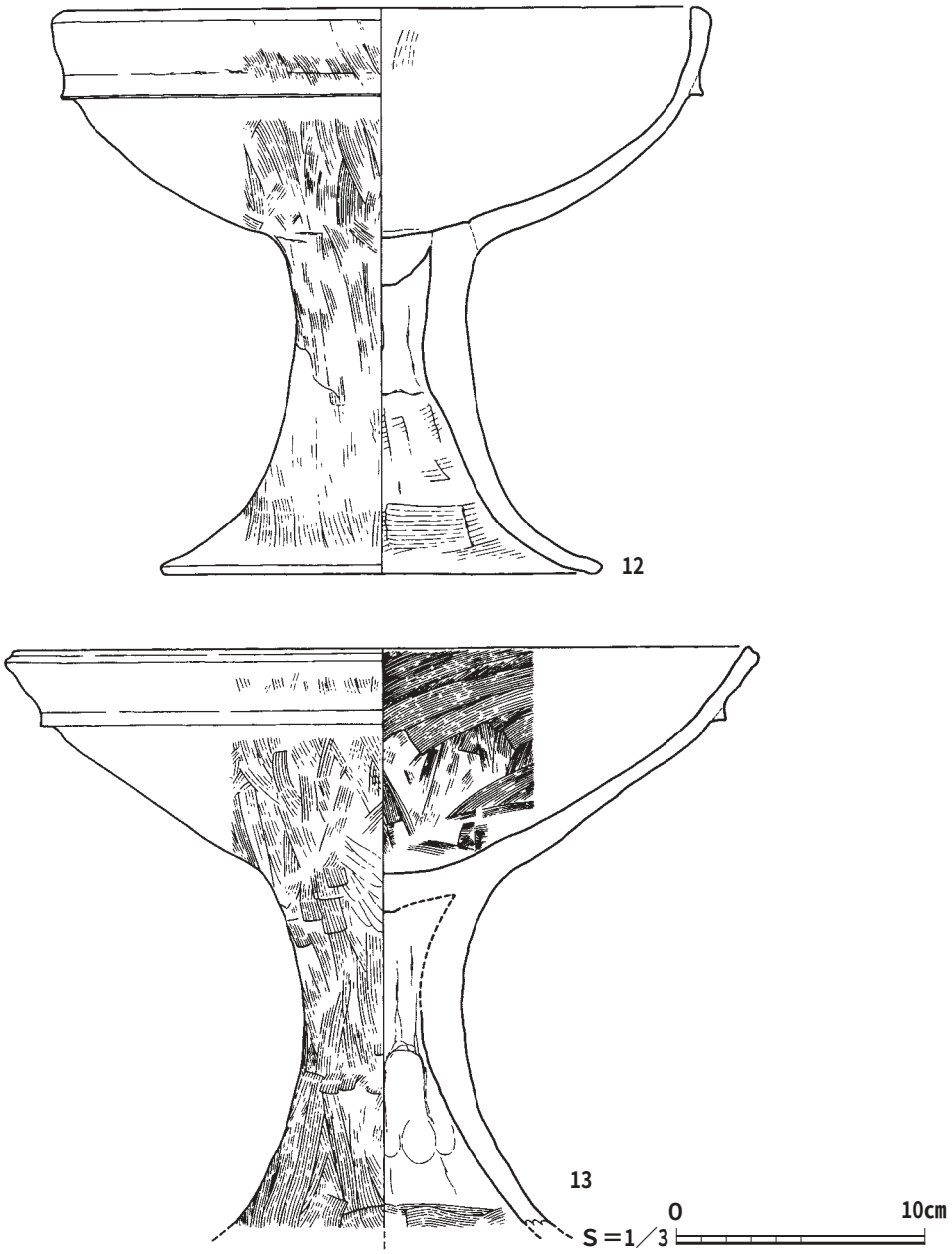
0 10cm

S＝1／3

図(Fig)168　S118出土遺物実測図（２）



図(Fig)169　S118出土遺物実測図（３）



図(Fig)170　S118出土遺物実測図（４）

［特記事項］S118の４層中層から大量の貝殻（マガキ）、魚骨、獣骨片が出土。マガキは、左殻を32枚確認。被熱したものも含まれていた。住居の埋没過程で廃棄されたものであろう。

［遺物の出土状況］床面及び床からやや浮いた状態で出土床面の遺物は遺構廃絶時の遺物として、床面からやや浮いた遺物は遺構廃絶後間もない遺物として捉えたい。

［出土遺物量］

S118から出土した遺物は、中グレーコンテナ(38㎝×58㎝×15㎝）に７箱分で、総重量27,748ｇであった。内訳は縄文土器（13片：239ｇ）弥生土器27,509ｇであった。

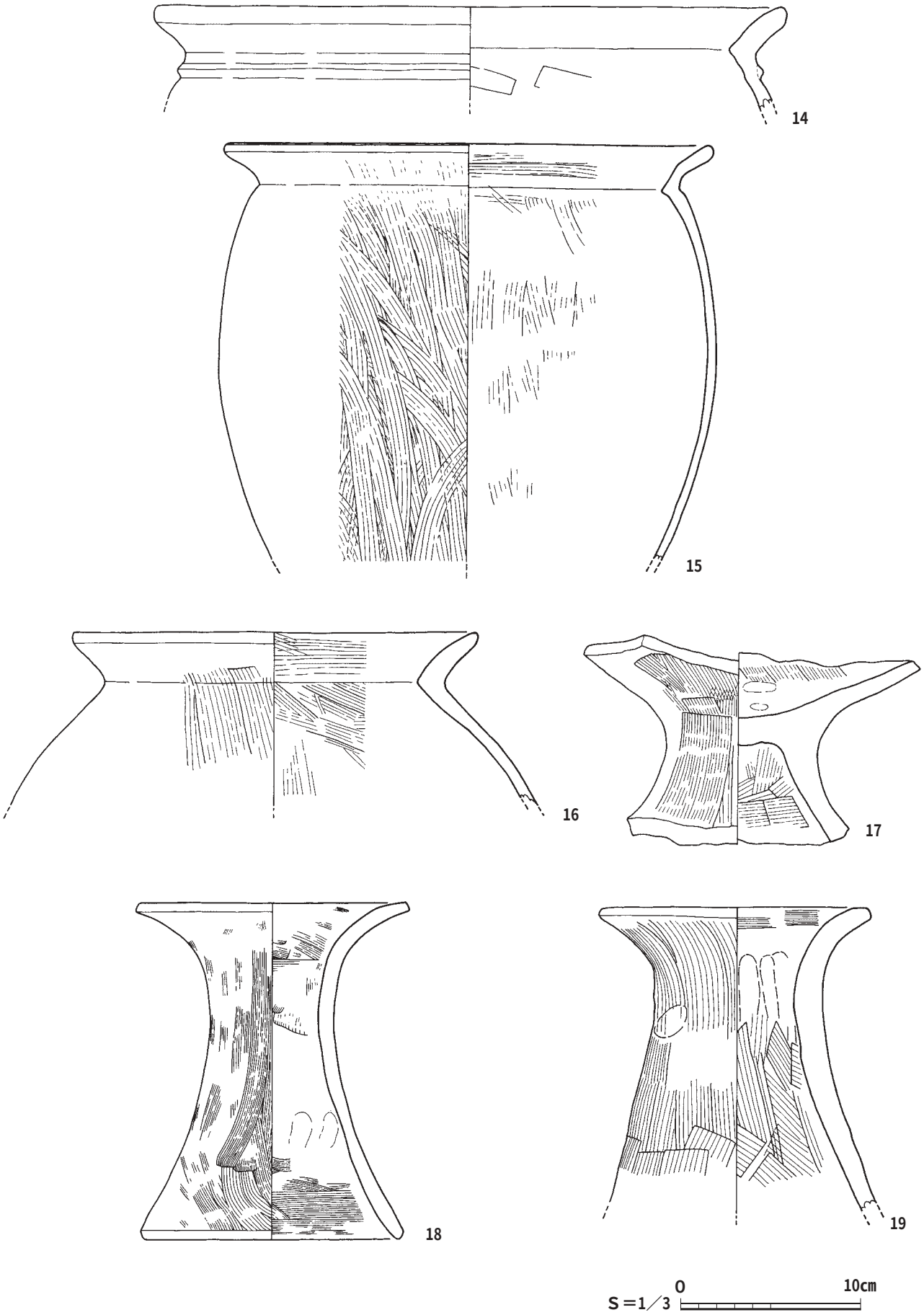
［出土遺物の観察］

土器の様相は、甕や壺の口縁部はほとんどが後期の様相を示す遺物であった。

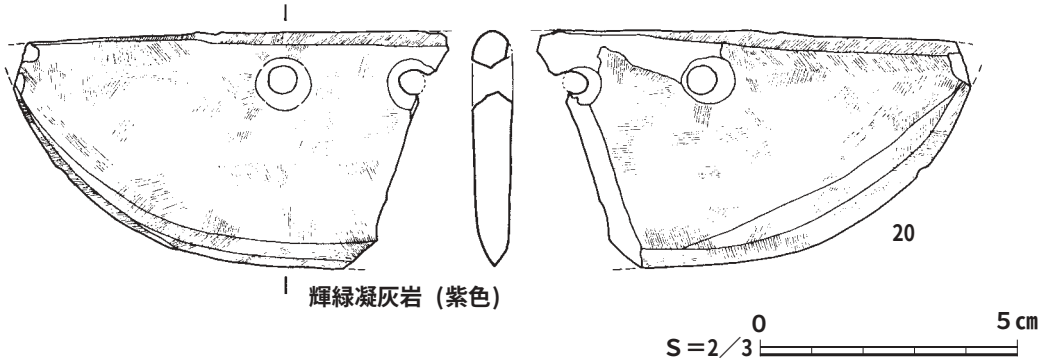
ここでは、上層（１、２層）と下層（３、４層）に分けて19点の土器と１点の石器を紹介する。

【上層】土器：13点

１は、甕形土器である。口縁部形態は「くの字」状に外反し、後期の土器の特徴を呈している。内外面にハケ目が残る。上層遺物46点が接合している。



図(Fig)171　S118出土遺物実測図（５）



図(Fig)172　S118出土遺物実測図（６）

２、４、５は、鉢形土器である。いずれも内外面にはハケ目が残る。２は、口縁部が「くの字」状に外反するが、４、５はそのまま直立する。２は上層遺物が、６点、４は４点、５は７点が接合している。

３は、鉢形土器である。外面にハケ目、内面に指頭圧痕が残る。上層遺物５点が接合している。

６は、壺形土器である。外面はハケ目が残り、頸部下約７㎝に１条の突帯が巡る。内面はハケ目が残る。上層遺物６点が接合している。

７は、壺形土器である。外面はハケ目が残り、頸部下に鉤の手状の貼り付けがある。復元口縁の径から３つあった可能性が高い。内面はハケ目が残る。上層遺物９点が接合している。

８、９は、甕形土器である。口縁部形態は「くの字」状に外反し、後期の土器の特徴を呈している。内外面にハケ目が残る。８は、上層遺物17点が接合している。９は、上層遺物８点と下層遺物２点の計10点が接合している。

10は、壺形土器である。外面はハケ目後ミガキ痕が残り、内面はハケ目と指頭圧痕が残る。底部やレンズ状にふくらむ。上層遺物14点と下層遺物１点の計15点が接合している。

11は、壺形土器である。外面はハケ目が残り、内面はハケ目と指頭圧痕が残る。底部ややレンズ状にふくらむ。口縁部の先端が内径してやや尖る。上層遺物15点が接合している。

12、13は、高杯形土器である。内外面にはタケ目が残り、脚部の内面にはしぼり痕が確認できる。12は上層遺物22点と点上げ遺物１点の計23点が接合している。13は上層遺物４点と下層遺物１点の計５点が接合している。

【下層】土器：６点、石器：１点

14は、甕形土器の口縁部である。頸部下に１条の突帯が巡る。点上げ遺物１点と下層遺物１点の計２点が接合している。

15は、甕形土器の口縁部と胴部である。口縁部形態は「くの字」状に外反し、後期の土器の特徴を呈している。内外面にハケ目が残る。点上げ遺物３点と下層遺物６点の計９点が接合している。

16は、壺形土器の口縁部及び胴部上半部である。内外面はハケ目が残る。上層遺物１点と点上げ遺物３点の計４点が接合している。

17は、鉢形土器の脚部と鉢底部である。上下を故意に割り、形を整えている。いわゆる転用品だが、用途は不明である。点上げ遺物である。

18、19は、器台である。外面にハケ目、内面にハケ目とナデ痕がある。いずれも胴部上半部でくびれる。18は上層遺物１点と点上げ遺物10点の計11点が接合、19は点上げ遺物と下層遺物が接合している。

20は、紫色の輝緑凝灰岩製の石包丁である。立岩産の石包丁と考えられる。約1/3が欠損している。点上げ遺物である。

【S126】（図173、174参照）

［確認位置］調査１区、Ｋ－８グリッド。

標高約10.12m。

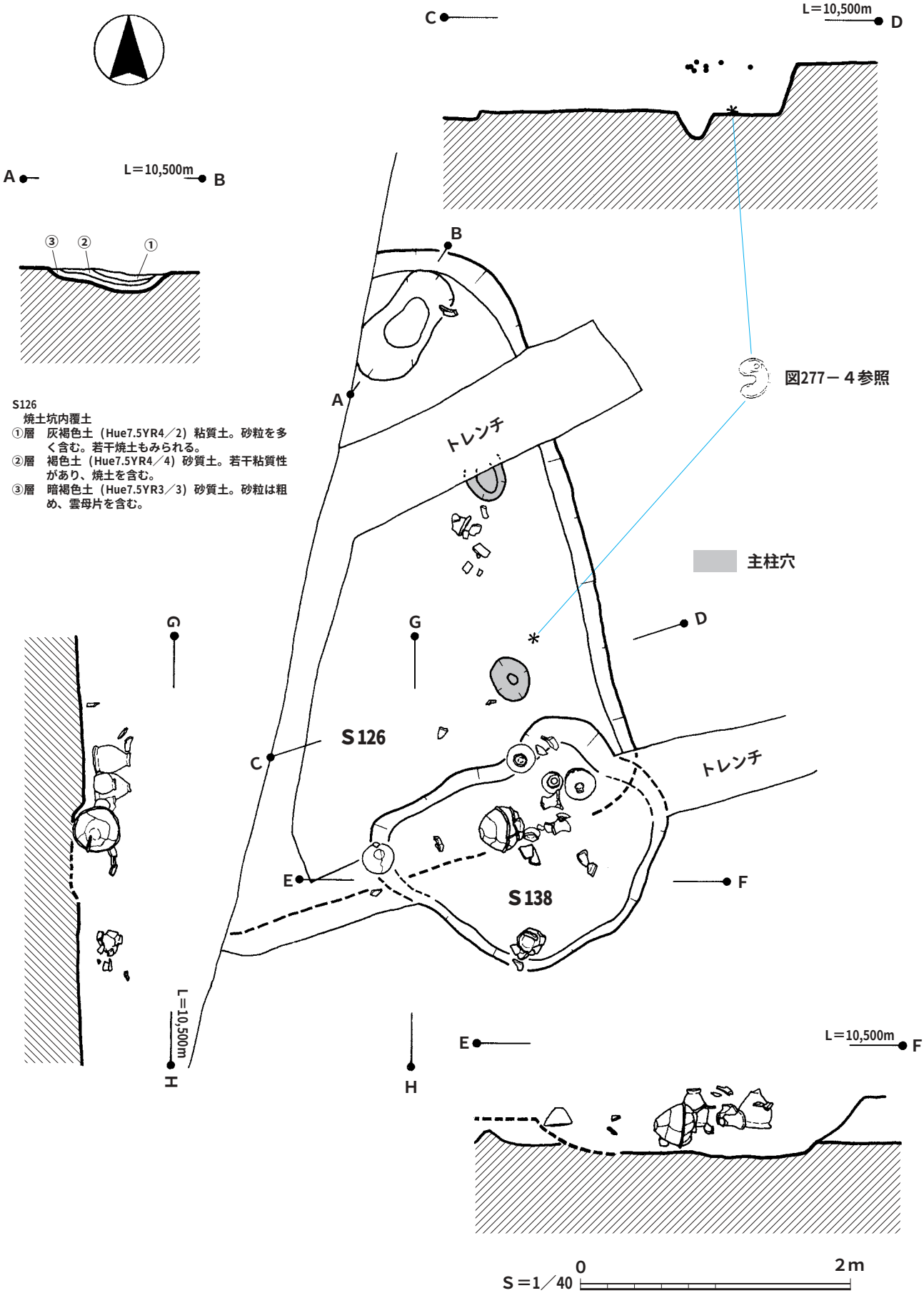
［形状］方形

［大きさ］長軸：400㎝～、短軸：280㎝、深さ：40㎝。

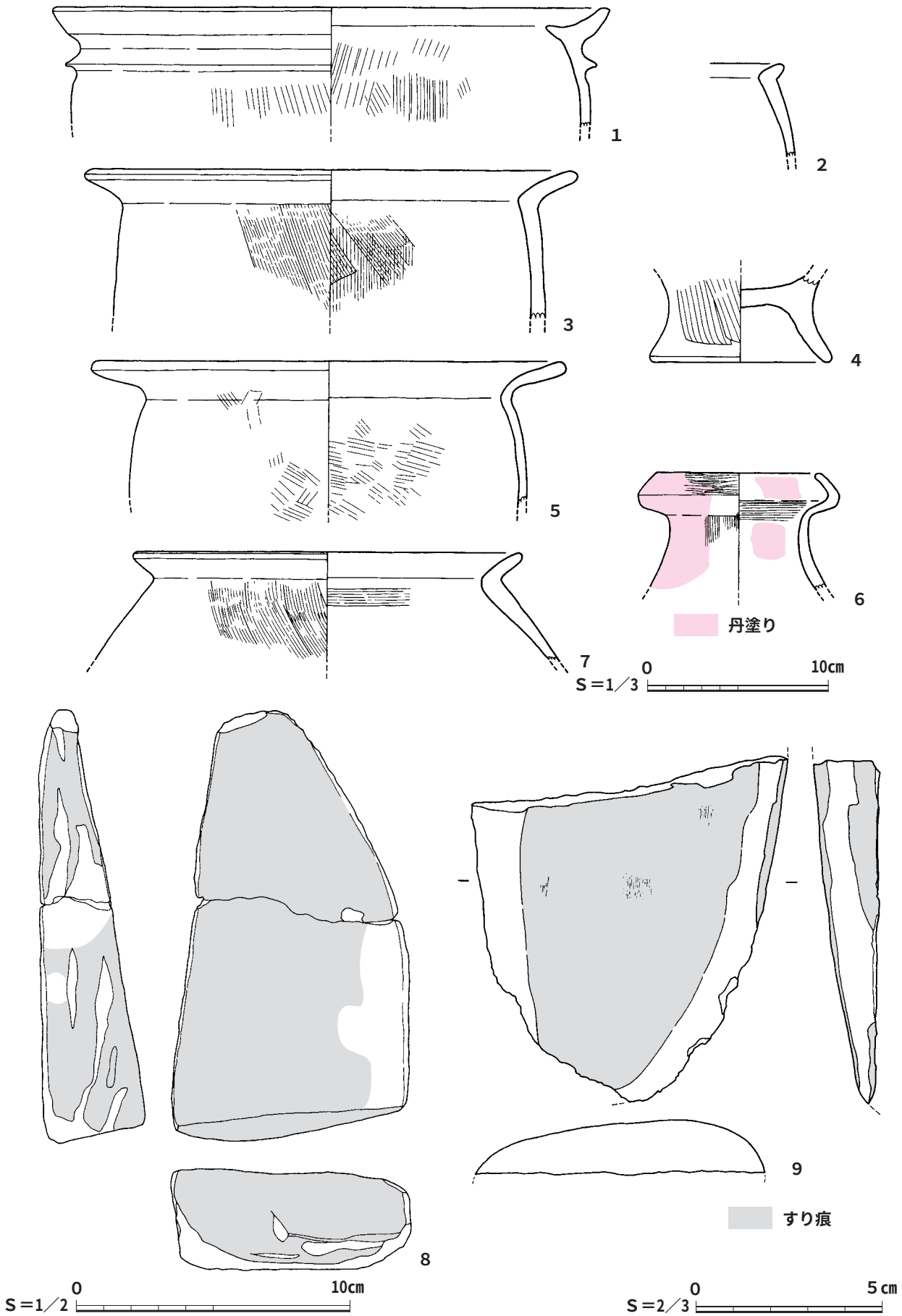
［住居内覆土］１層。

［主柱穴］４本？。２本しか確認できず。径約27～32㎝。深さ約18～19㎝。

［炉］不明。



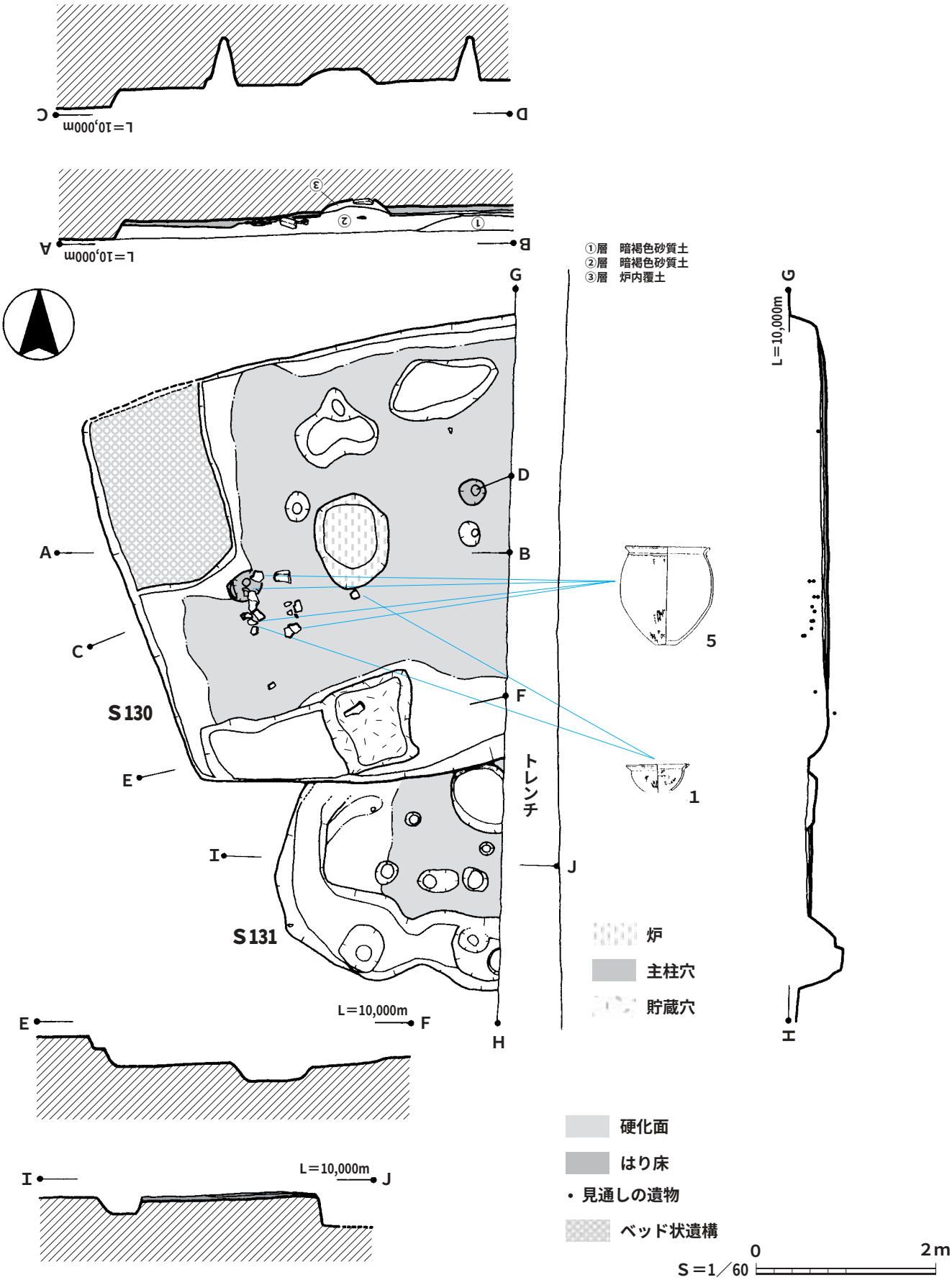
図(Fig)173　住居跡（S126）土坑（S138）実測図



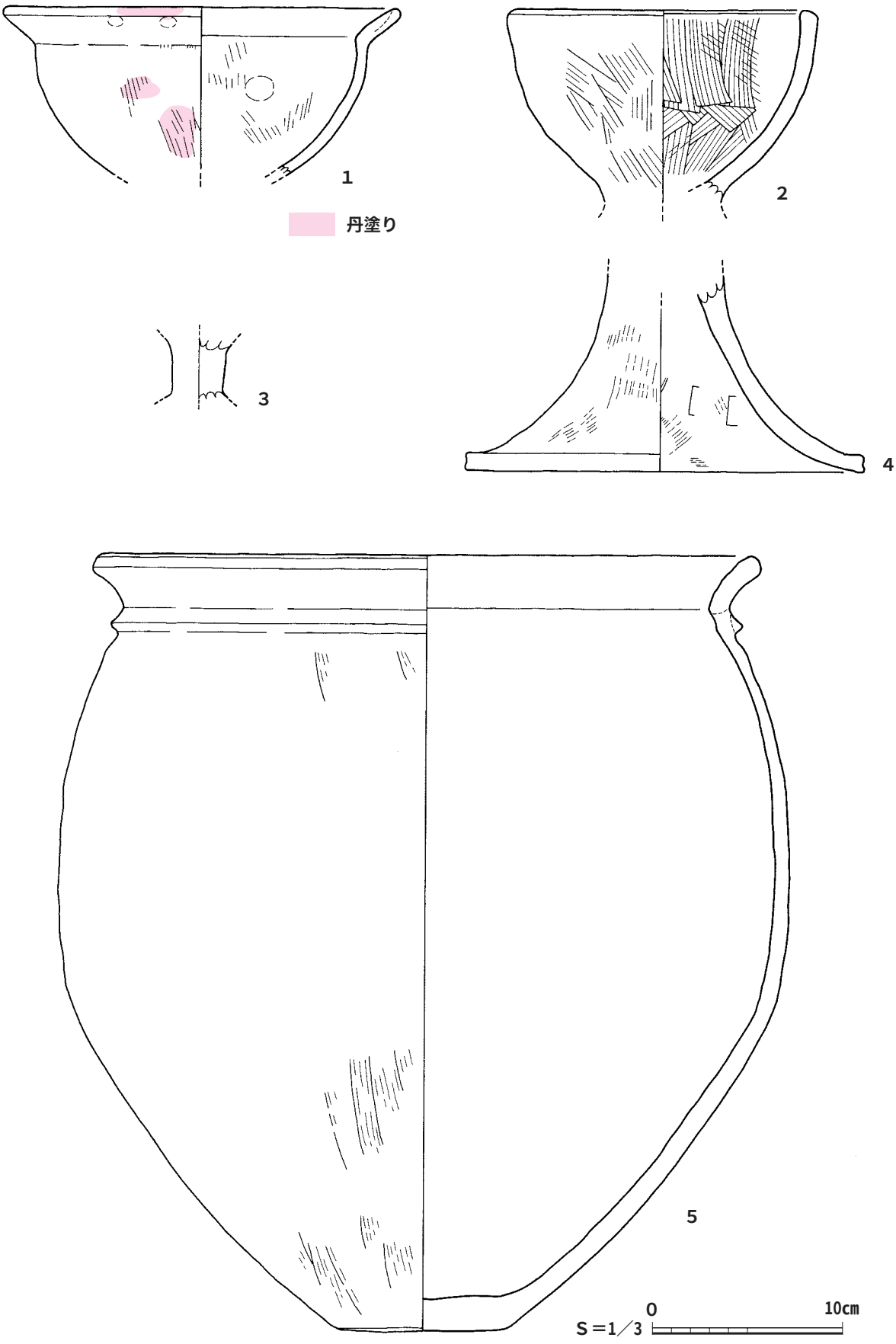
図(Fig)174　S126出土遺物実測図

［貯蔵穴］不明。
［硬化面］不明。
［張り床］不明。
［切り合い関係］S138に切られる。
［特記事項］
・北側隅に焼土坑あり（大きさ40×90㎝で深さ約15㎝）。
・柱痕と考えられる穴の存在とプランから竪穴式住居跡と判断した。
［遺物の出土状況］床から浮いた状態で出土。遺物は遺構廃絶後しばらく時間が経ってからの遺物として捉えたい。
［出土遺物量］
S126から出土した遺物は、小グレーコンテナ(38㎝×58㎝×５㎝）に３箱分で、総重量6,997ｇであった。内訳は縄文土器（４片：97ｇ）弥生土器6,900ｇ（内丹塗り土器は467ｇ）であった。
［出土遺物の観察］
土器の様相は、甕や壺の口縁部はほとんどが後期の様相を示す遺物であった。
ここでは７点の土器と２点の石器を紹介する。
１は、甕形土器の口縁部である。内外面にハケ目を残し、外面頸部下に１条の突帯が巡る。口縁部形態は黒髪式土器の様相を呈する。トレンチ一括遺物である。
２は、無頸壺の口縁部である。一括遺物である。
３、５は、甕形土器の口縁部である。内外面にハケ目を残る。口縁部形態は後期の様相を呈する。点上げ遺物である。
４は、甕形土器の脚台部である。外面にハケ目が残る。トレンチ一括遺物である。
６は、袋状口縁壺の口縁部である。外面はハケ目や磨き痕が残り、内面はハケ目が残る。丹塗りも内外面に見られる。トレンチ一括遺物である。
７は、短頸壺の口縁部及び胴部上半部である。
８、９は砥石である。いずれも石材は砂岩である。８は点上げ遺物で、４面に磨り面がある。９は一括遺物で、欠損しており、２面だけに磨り面が残る。また、一部は被熱して赤変している。

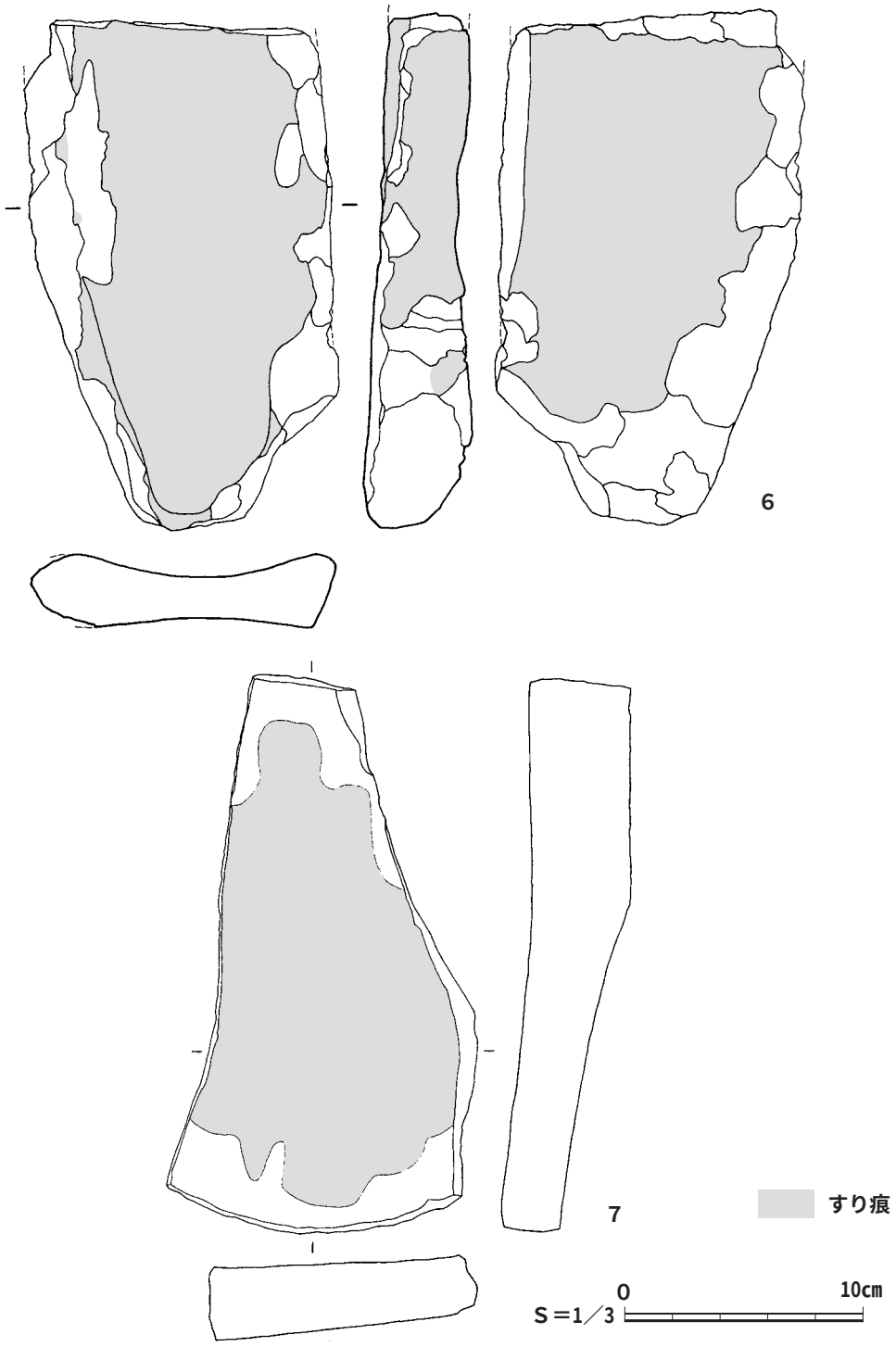
【S130】（図175～177参照）
［確認位置］調査１区、Ｏ－９、10グリッド。
標高約10.00ｍ。
［形状］方形（ベッド付き）
［大きさ］長軸：495㎝～、短軸：430～482㎝、深さ：20㎝。
［住居内覆土］３層。
［主柱穴］２本。径約30～35㎝。深さ約50～55㎝。
［炉］有り。大きさ85×105㎝で深さ約17㎝。
［貯蔵穴］有り。大きさ90×100㎝で深さ約15～20㎝。
［硬化面］有り。
［張り床］有り。
［切り合い関係］S131を切る。
［特記事項］
・ベッドが西隅に１つ付く。
［遺物の出土状況］床からやや浮いた状態で出土。遺構廃絶後間もない遺物として捉えたい。
［出土遺物量］
S130から出土した遺物は、小グレーコンテナ(38㎝×58㎝×５㎝）に10箱分で、総重量19,586ｇであった。内訳は縄文土器（２片：50ｇ）弥生土器19,531ｇ（内丹塗り土器は239ｇ）、中世の瓦質土器５ｇであった。
［出土遺物の観察］
土器の様相は、甕や壺の口縁部は中期と後期の様相を示す遺物が混在しているが、ほとんどが後期の様相を示す遺物であった。
ここでは５点の土器と２点の石器を紹介する。
１は、鉢形土器の鉢部である。内外面にハケ目と指頭圧痕を残す。外面に一部丹塗りが残る。口縁部形態は後期の様相を呈する。２層一括遺物11点が接合している。
２は、鉢形土器の鉢部である。内外面にハケ目を残す。点上げ遺物11点が接合している。
３は、ミニチュア土器である。高杯形土器を模した脚部であると考えられる。１層出土遺物である。
４は、高杯形土器の脚部と考えられる。内外面にハケ目を残す。２層出土遺物５点とS118の点上げ遺物１点の計６点が接合している。S130からS118



図(Fig)175　住居跡（S130）土坑（S131）実測図



図(Fig)176　S130出土遺物実測図（１）



図(Fig)177　S130出土遺物実測図（２）

まで約15mあるが、流されたものであろう。

５は、甕形土器である。外面にハケ目が残る。口縁は、後期の様相を示し、頸部下に１条の突帯が巡る。一括遺物29点が接合している。

６、７は砥石である。６は、砂岩製で３面に磨り痕がある。一括遺物で一部欠損している。７は、安山岩製と推定され、１面にしか磨り痕が確認できない。点上げ遺物である。

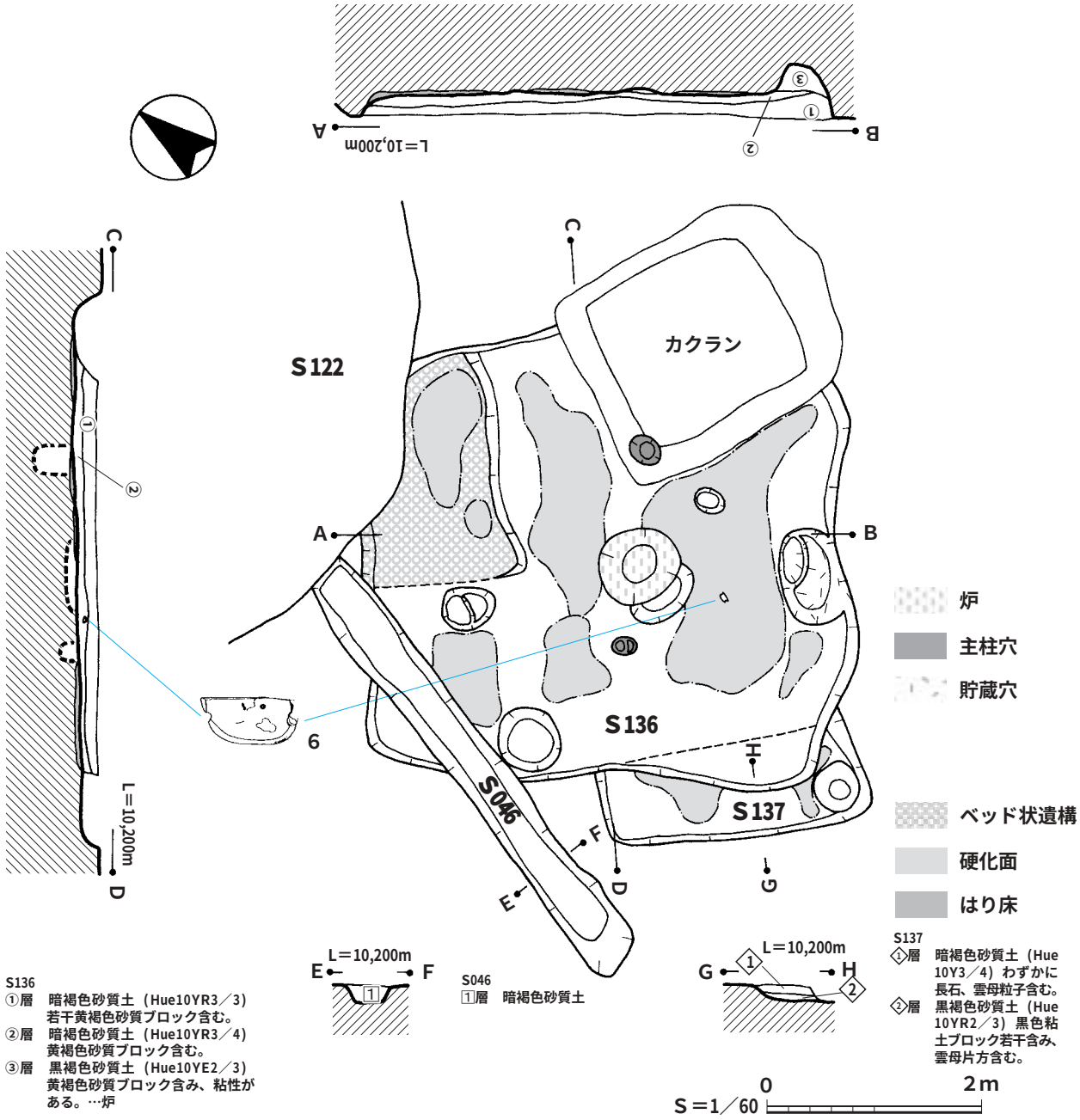
【S136】（図178、179参照）

［確認位置］調査１区、Ｃ－５、６グリッド。
標高約10.10m。

［形状］方形（ベッド付き）

［大きさ］長軸：440㎝、短軸：420㎝、深さ：20㎝。

［住居内覆土］３層。



図(Fig)178　住居跡（S136）溝（S046）土坑（S137）実測図

［主柱穴］２本。径約20～30cm。深さ約15～29cm。

［炉］有り。大きさ65×75cmで深さ約13cm。

［貯蔵穴］有り。大きさ90×60cmで深さ約25cm。

［硬化面］有り。

［張り床］有り。

［切り合い関係］S137を切り、S046から切られる。

［特記事項］

・ベッドが北隅に１つ付く。

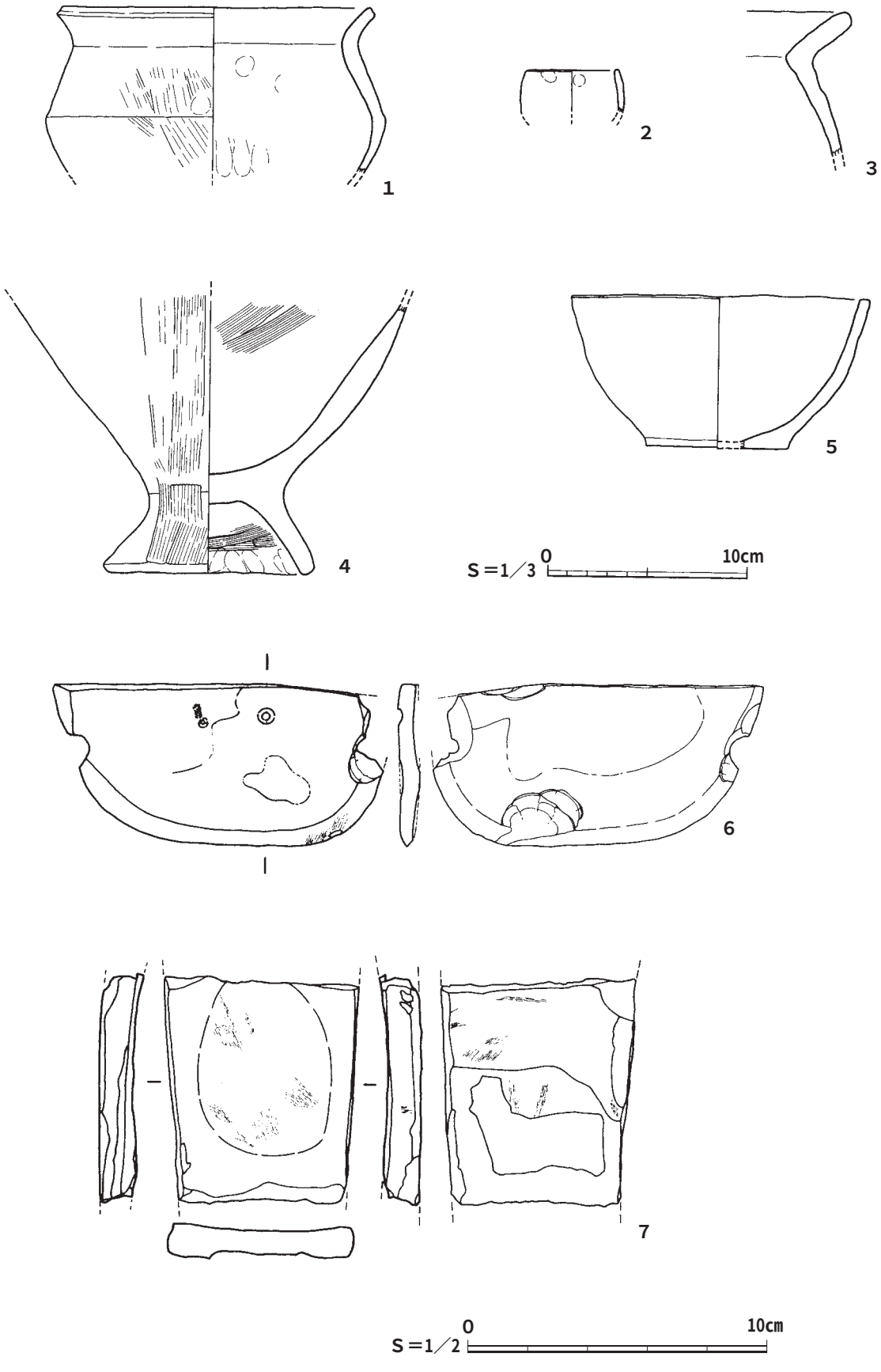
［遺物の出土状況］石包丁以外は、一括遺物であるために不明。

［出土遺物量］

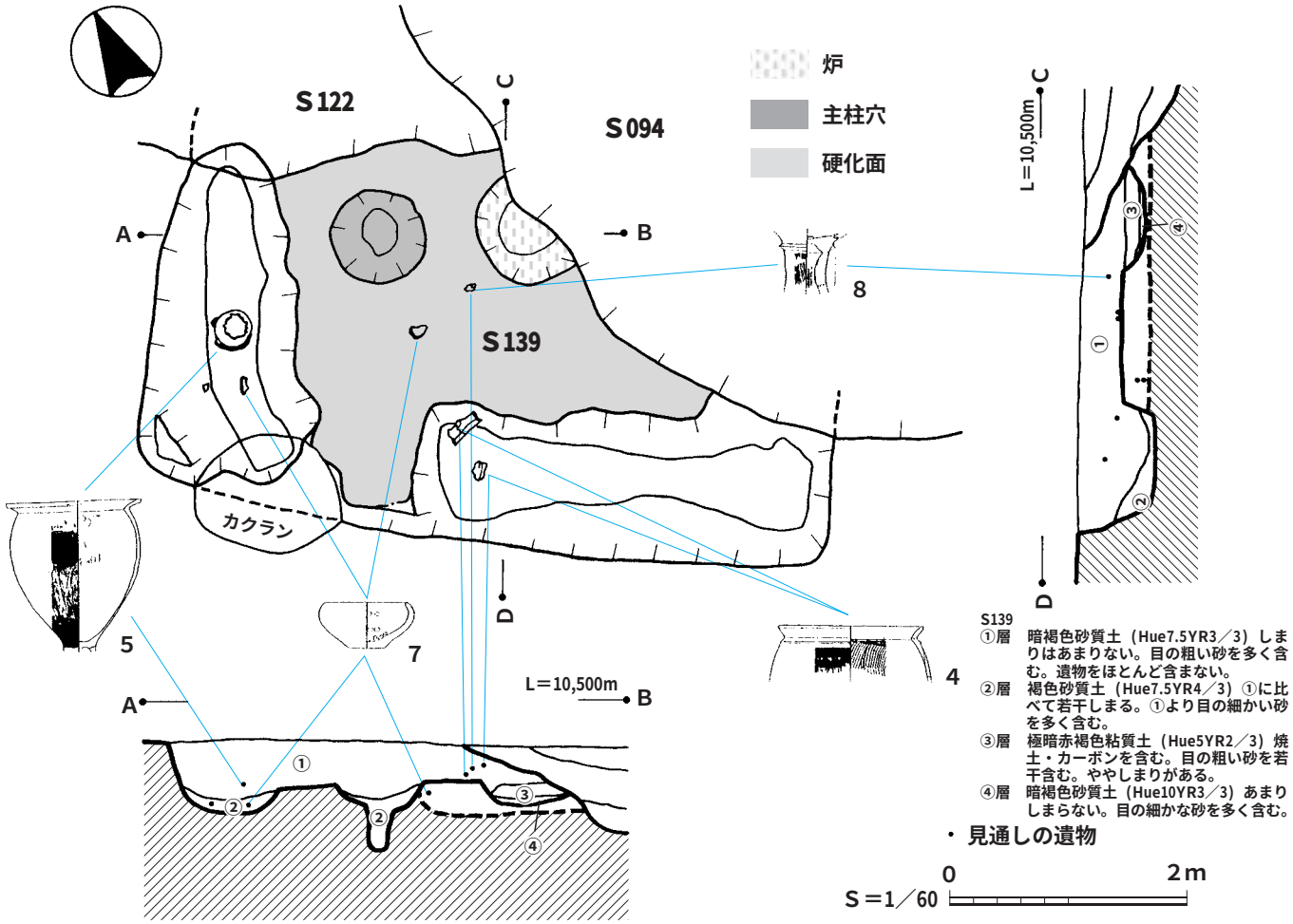
S136から出土した遺物は、中グレーコンテナ（38cm×58cm×15cm）に２箱分で、総重量5,365ｇであった。内訳は縄文土器（３片：43ｇ）弥生土器5,322ｇ（内丹塗り土器は822ｇ）、中世の瓦質土器５ｇであった。

［出土遺物の観察］

土器の様相は、甕や壺の口縁部は中期と後期の様相を示す遺物が混在しているが、そのほとんどが後期の様相を示す遺物であった。



図(Fig)179　S136出土遺物実測図



図(Fig)180　住居跡（S139）実測図

ここでは５点の土器と２点の石器を紹介する。６以外は一括遺物である。

１は、壺形土器の口縁部及び胴部上半部である。外面にハケ目と指頭圧痕、内面には指頭圧痕を残す。

２は、ミニチュア土器である。鉢形土器を模した口縁部と考えられる。

３は、甕形土器の口縁部である。口縁部形態は「くの字」状を呈し、後期の様相を呈している。

４は、甕形土器の脚台部及び胴部下半部である。内外面にハケ目が残る。

５は、鉢形土器である。底部が欠損しているが、復元を試みた。1/4ほどしか残存していない。

６は、石包丁である。石材は、変成岩である。触るとツルツルして滑石の様相を呈するが、非常に硬い。穿孔の痕跡も窺えるが、硬くて穿孔できなかったために、両側にえぐりを入れて使用したものと推定される。床面近くの点上げ遺物である。

７は、砥石である。石材はきめの細かい砂岩である。上下が欠損しているが、４面に磨り痕が残る。

【S139】（図180～182参照）

［確認位置］調査１区、Ｄ－４、５グリッド。
標高約10.20m。

［形状］方形

［大きさ］長軸：575cm、短軸：325cm～、深さ：30～35cm。

［住居内覆土］４層に細分。

［主柱穴］２本？。１本しか確認できず。径約75～80cm。深さ約50～55cm。

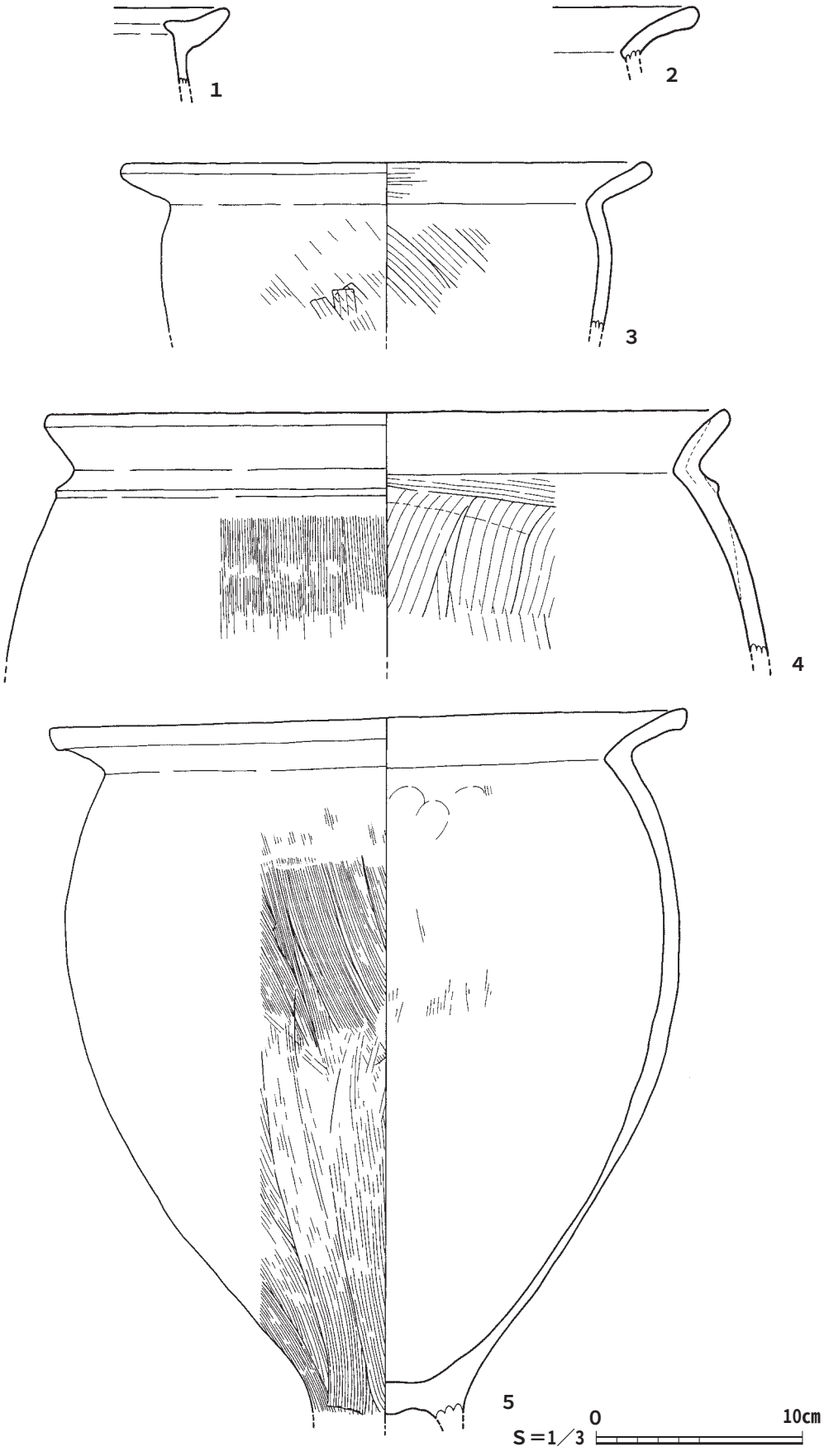
［炉］有り。大きさ95×50～cmで深さ約23cm。

［貯蔵穴］不明。

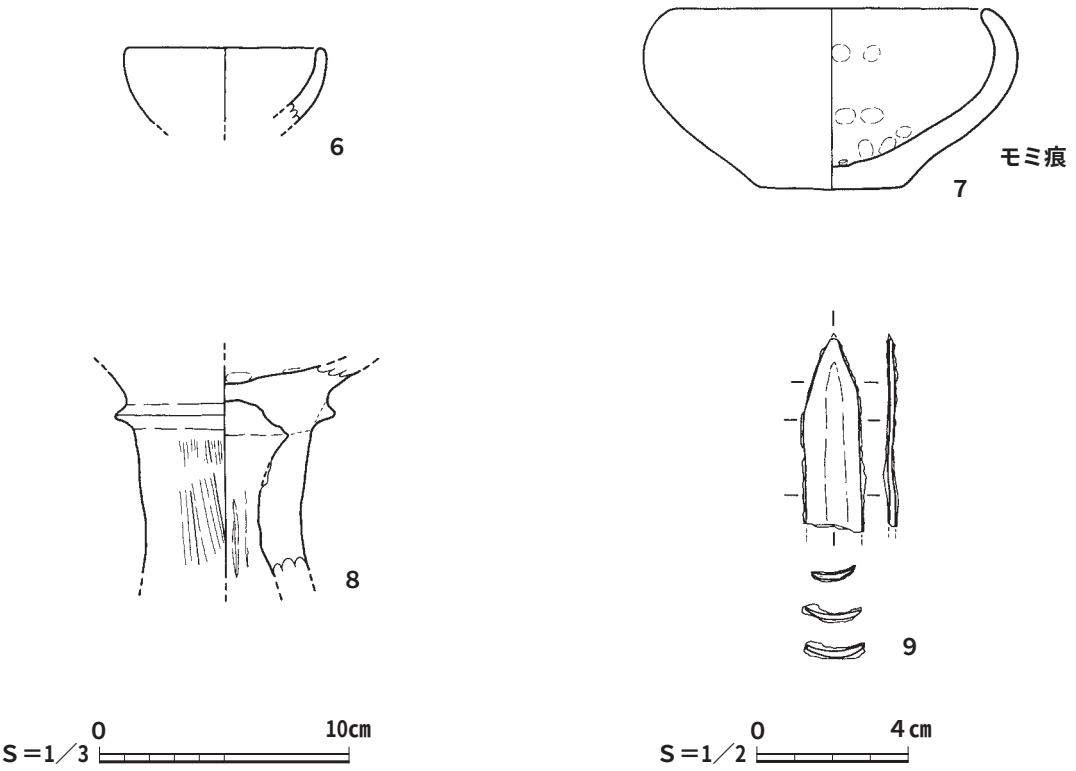
［硬化面］有り。

［張り床］無し。

［切り合い関係］S094、122から切られる。



図(Fig)181　S139出土遺物実測図（１）



図(Fig)182　S139出土遺物実測図（２）

［特記事項］

・住居内に溝状の掘り込みがある。大きさ100～150×290～350cmで深さ約20～30cm

［遺物の出土状況］溝状の掘り込みの中の遺物はほぼこの住居に伴う遺物と考えられる。それ以外の遺物も床面に近いことから廃絶時間もない遺物と考えたい。

［出土遺物量］

S139から出土した遺物は、中グレーコンテナ(38cm×58cm×15cm）に２箱分で、総重量7,416ｇであった。内訳は縄文土器（２片：36ｇ）弥生土器7,380ｇ（内丹塗り土器は30ｇ）であった。

［出土遺物の観察］

土器の様相は、甕や壺の口縁部は中期と後期の様相を示す遺物が混在しているが、ほとんどが後期の様相を示す遺物であった。

ここでは８点の土器と１点の鉄器を紹介する。

１は、甕形土器の口縁部である。口縁部形態は黒髪式土器の様相を呈している。一括遺物である。

２は、甕形土器の口縁部である。口縁部形態は後期の様相を呈している。点上げ遺物である。

３、４は、甕形土器の口縁部及び胴部上半部である。内外面はハケ目が残る。４は、頸部下に１条の突帯が巡る。また、内面と外面のハケ目の大きさが異なることから、ハケの使い分けをしていると考えられる。口縁部形態は後期の様相を呈している。点上げ遺物で３点が接合している。

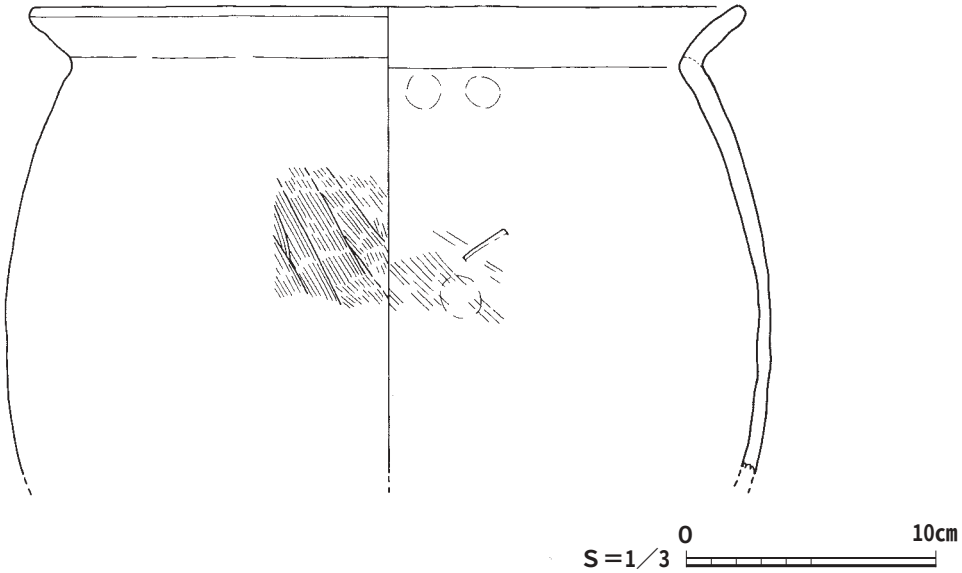
５は、脚台が欠けるものの口縁部や胴部はほぼ原形を留めて、伏せられた状態で出土した甕形土器である。外面はハケ目、内面にはハケ目と指頭圧痕が残る口縁部の形態は後期的な様相を示す。点上げ遺物である。

６は、ミニチュア土器で、鉢形土器を模した口縁部と考えられる。一括遺物である。

７は、鉢形土器である。全体の約2/5が残存している。内面には籾の圧痕が観察される。このことから当時稲の栽培が行われていたことは疑いのない事実である。詳細は第Ⅴ章（P.415～416）を参照されたい。点上げ遺物５点が接合している。

８は、高杯形土器の杯底部と脚部の接合部である。外面にはハケ目、内面にはしぼり痕が残る。また、接合部には１条の突帯が巡る。点上げ遺物である。

９は、鉄製品で槍鉋と考えられる。基部が欠損している。点上げ遺物である。



図(Fig)183　S036出土遺物実測図

②土坑（９基）

【S036】（図139、183参照）

［確認位置］調査１区、Ｔ－９グリッド。

標高約10.30m。

［形状］ほぼ円形

［大きさ］１辺：約50㎝、深さ：15㎝。

［覆土］１層。

［切り合い関係］S033を切る。

［遺物の出土状況］放り込まれた状態で出土。遺構廃絶時の遺物として捉えたい。

［出土遺物量］

S036から出土した遺物は、小グレーコンテナ(38㎝×58㎝×５㎝）約1/2箱分で、総重量756ｇであった。内訳は、弥生土器756ｇ（内丹塗り土器は56ｇ）であった。

［出土遺物の観察］

出土土器は、ほぼ１個体の土器で甕の口縁部は、後期の様相を示すものであった。

ここでは、１点の土器を紹介する。

１は、甕形土器の口縁部である。外面にはハケ目、内面にはハケ目と指頭圧痕が残る。口縁部形態は、後期の様相を呈しており、点上げ遺物３点が接合している。

［遺構の性格］ほぼ１個体の甕を埋めたものと考えられる。

【S067】（図184参照）

［確認位置］調査１区、Ｇ－８グリッド。

標高約10.30m。

［形状］ほぼ円形

［大きさ］長軸：450㎝、短軸：425㎝、深さ：60～63㎝。

［覆土］３層。

［切り合い関係］S086と接する。

［特記事項］

・３層が黒褐色土であり、砂質土とは明らかに違う覆土である。人為的な掘り込みがあると判断した。

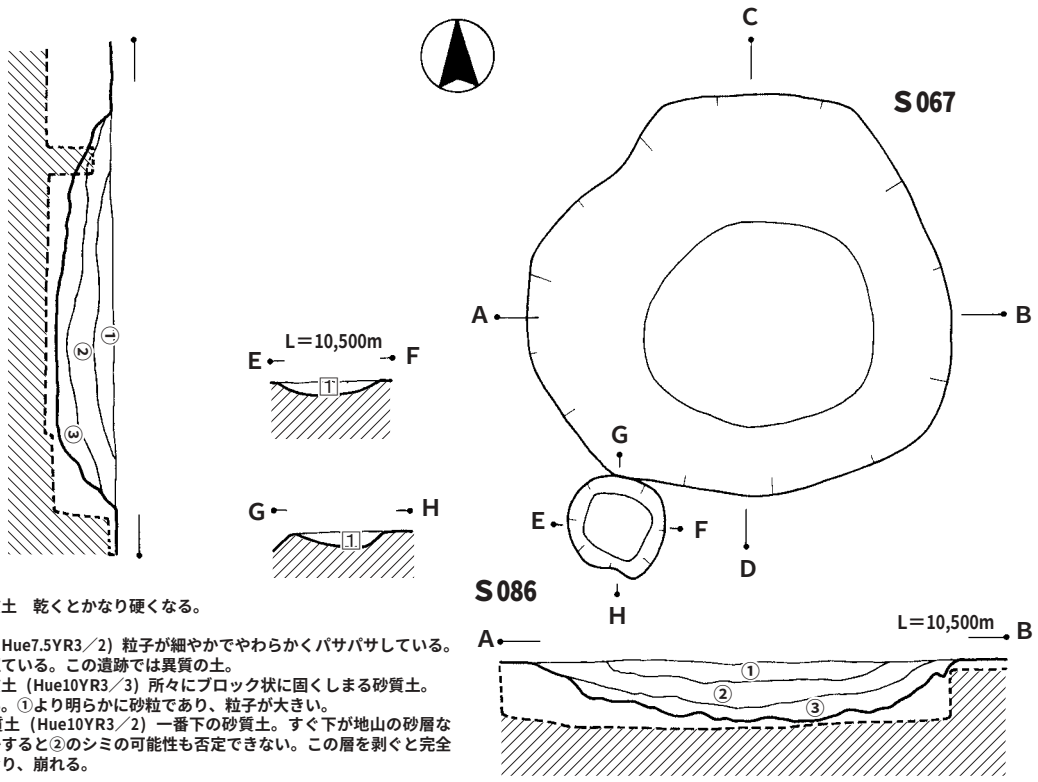
２、３層は弥生時代後期の遺物が中心であることから弥生時代後期の遺構と判断した。

［遺構の性格］不明である。

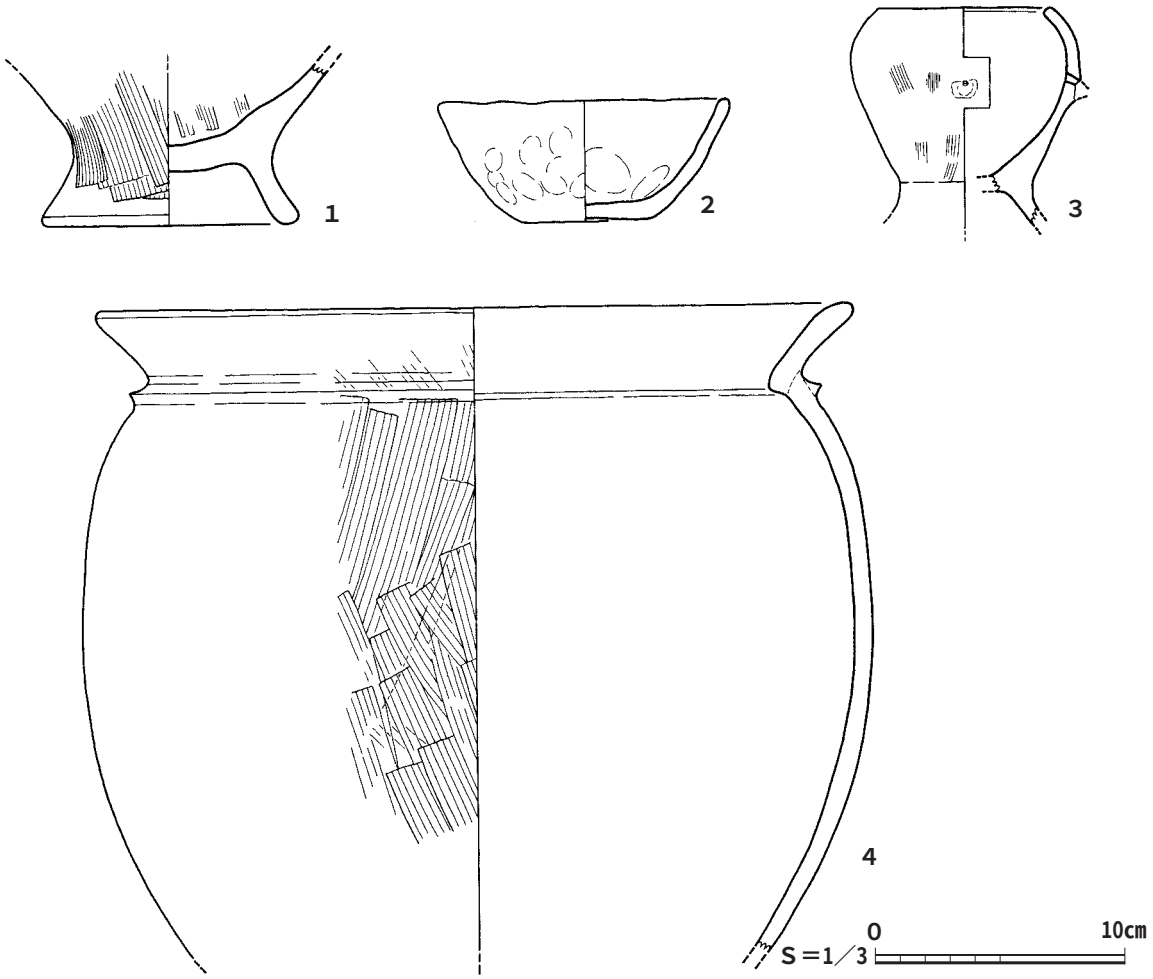
［遺物の出土状況］主に２、３層で確認。廃絶後間もない遺物として捉えたい。

［出土遺物量］

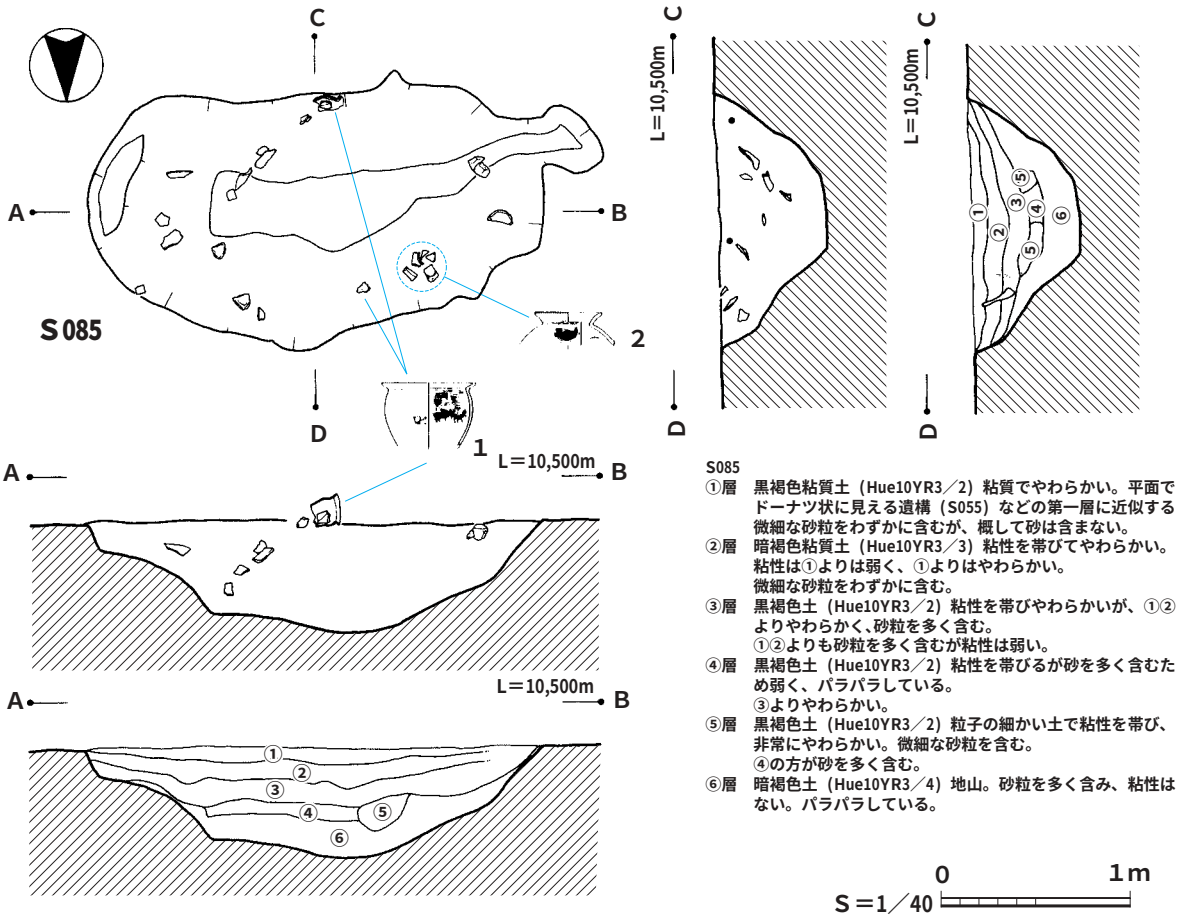
S067から出土した遺物は、小グレーコンテナ(38㎝×58㎝×５㎝）約２箱分で、総重量4,840ｇであった。内訳は、縄文土器（４片：230ｇ)、弥生土器4,400ｇ（内丹塗り土器は71ｇ)、中世の須恵器12ｇ、白磁19ｇ、青磁41ｇ、瓦質土器135ｇ、近世以降の磁器３ｇであった。中世や近世以降の遺物は上層にあったことからS117やS74からの流れ込み遺物と考えられる。



S086
1層　黒褐色砂質土　乾くとかなり硬くなる。
S067
①層　黒褐色土（Hue7.5YR3／2）粒子が細やかでやわらかくパサパサしている。畑の土に似ている。この遺跡では異質の土。
②層　暗褐色砂質土（Hue10YR3／3）所々にブロック状に固くしまる砂質土。やわらかい。①より明らかに砂粒であり、粒子が大きい。
③層　暗褐色砂質土（Hue10YR3／2）一番下の砂質土。すぐ下が地山の砂層なのでもしかすると②のシミの可能性も否定できない。この層を剥ぐと完全な砂層になり、崩れる。



図(Fig)184　土坑（S067・S086）実測図及び出土遺物実測図



図(Fig)185　土坑（S085）実測図

［出土遺物の観察］

弥生土器の様相は、甕や壺の口縁部は中期と後期の様相を示す遺物が混在していたが、大半が後期の様相を示す遺物であった。

ここでは４点の土器を紹介する。

１は、甕形土器の脚台部である。内外面にはハケ目が残る。３層出土遺物である。

２は、鉢形土器である。ない外面に指頭圧痕が残る。２層出土遺物である。

３は、小型注口台付き鉢である。注口部と脚台部が欠損している。外面にハケ目が残る。３層からの出土である。

４は、甕形土器の口縁部と胴部である。頸部に１条の突帯が巡る。外面にはハケ目が残る。３層出土遺物９点、トレンチ一括遺物１点、Ｇ－８グリッド出土遺物４点、隣の遺構であるS085出土遺物３点の計17点が接合している。

【S085】（図185、186参照）

［確認位置］調査１区、Ｇ－７、８グリッド。

標高約10.30m。

［形状］不定形

［大きさ］長軸：241㎝、短軸：135㎝、深さ：58㎝。

［覆土］６層。

［切り合い関係］S083と接する。

［遺構の性格］不明である。

［遺物の出土状況］浮いた状態で出土。廃絶後の遺物として捉えたい。

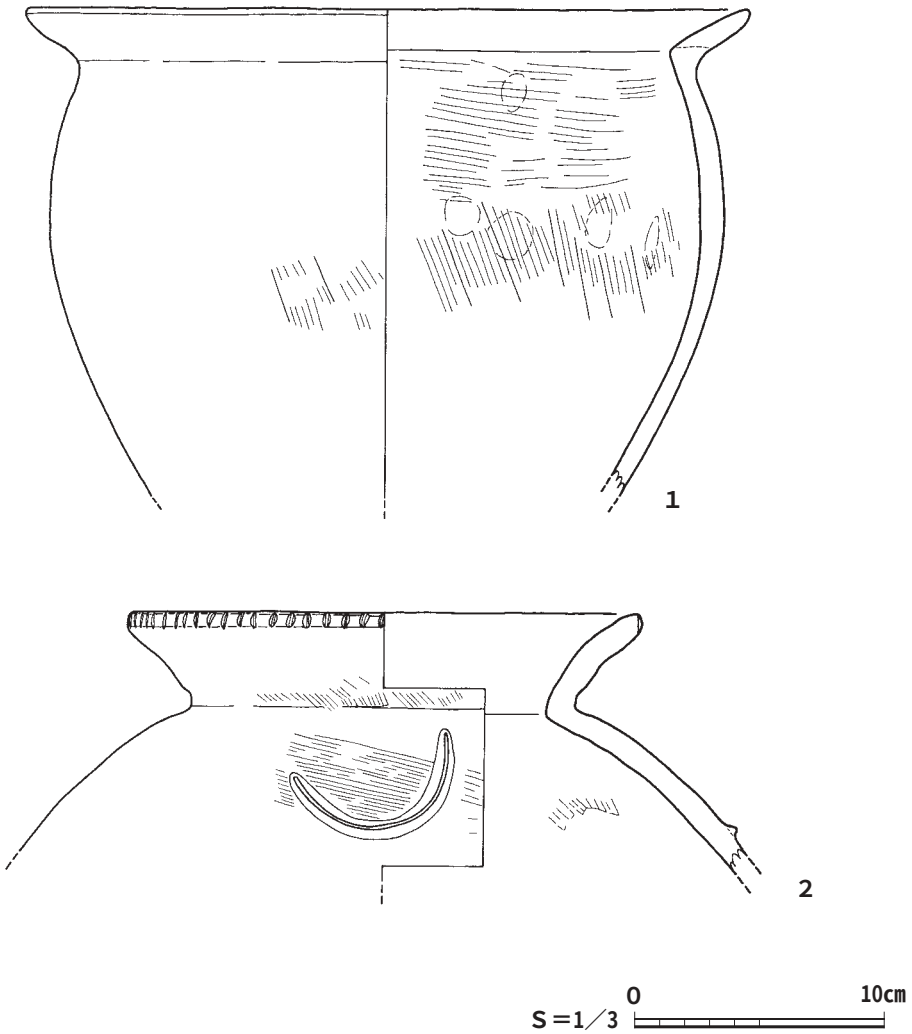
［出土遺物量］

S085から出土した遺物は、小グレーコンテナ(38㎝×58㎝×５㎝）約２箱分で、総重量3,626ｇであった。内訳は、縄文土器（１片：28ｇ)、弥生土器3,596ｇ（内丹塗り土器は64ｇ)、中世の須恵器２ｇであった。中世の遺物は上層にあったことから流れ込み遺物と考えられる。

［出土遺物の観察］

弥生土器の様相は、甕や壺の口縁部ほとんどが後期の様相を示す遺物であった。

ここでは２点の土器を紹介する。



図(Fig)186　S085出土遺物実測図

１は、甕形土器の口縁部及び胴部である。外面にはハケ目、内面にはハケ目と指頭圧痕が残る。点上げ遺物２点が接合している。

２は、壺形土器の口縁部及び胴部である。外面にはハケ目が残り、指頭圧痕が残る。２層出土遺物である。頸部下に鉤の手状の貼り付けがある。口唇部には刻み目が入る。点上げ遺物４点（１層）、S067出土遺物２点、Ｈ－８グリッド出土遺物１点の計７点が接合している。上流から流されてきた遺物であろう。

【S109】（図159、187参照）

［確認位置］調査１区、Ｈ－７グリッド。

標高約10.25m。

［形状］不定形

［大きさ］長軸：173㎝、短軸：110～120㎝、深さ：35㎝。

［覆土］３層。

［切り合い関係］S083と接する。

［遺構の性格］不明である。

［遺物の出土状況］ほとんどは浮いた状態で出土。一部は底周辺で出土。大半が廃絶後の遺物として捉えたい。

［出土遺物量］

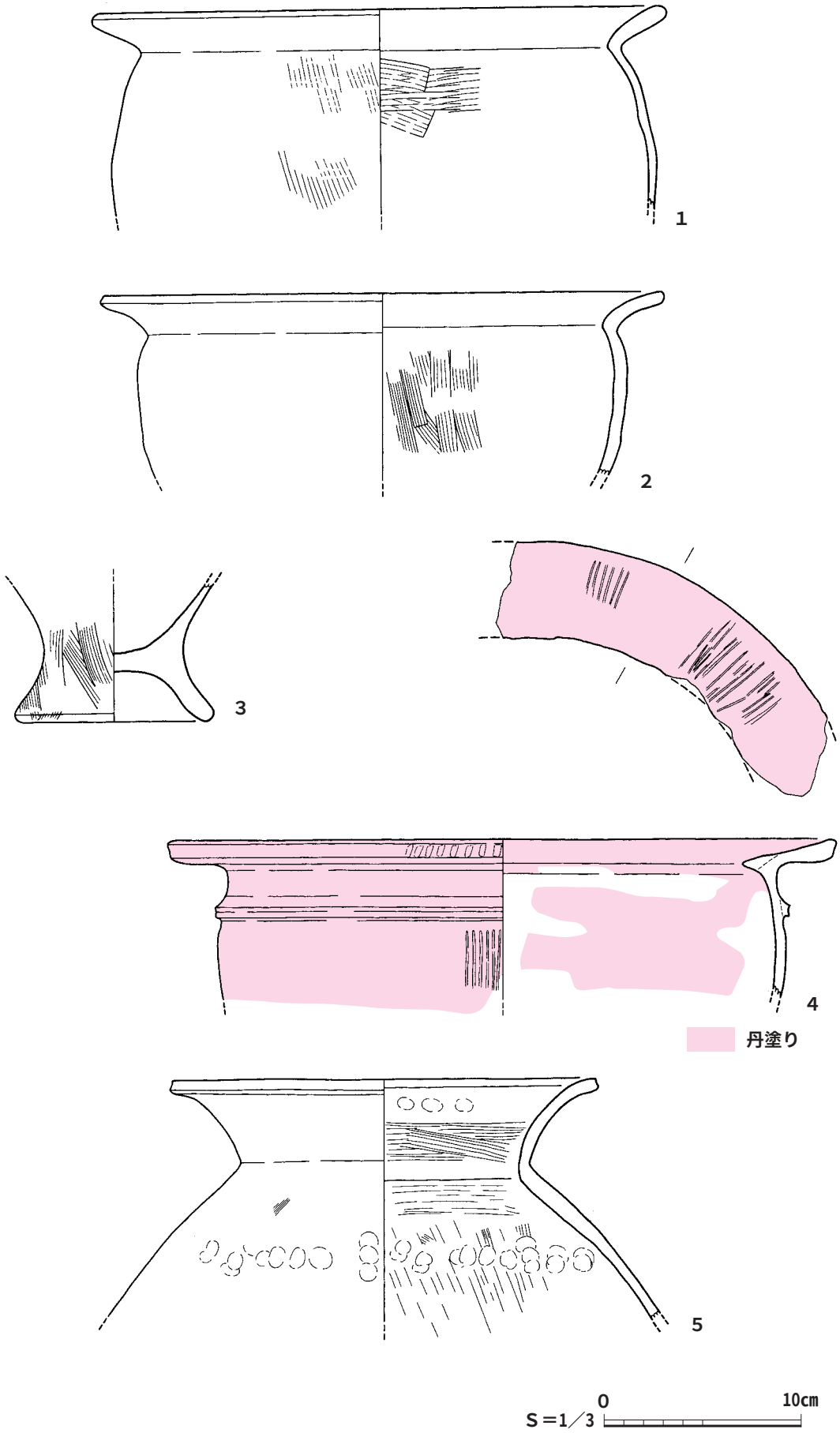
S109から出土した遺物は、小グレーコンテナ(38㎝×58㎝×５㎝）約１箱分で、総重量2,595ｇであった。内訳は、縄文土器（３片：45ｇ)、弥生土器2,500ｇ（内丹塗り土器は274ｇ）であった。

［出土遺物の観察］

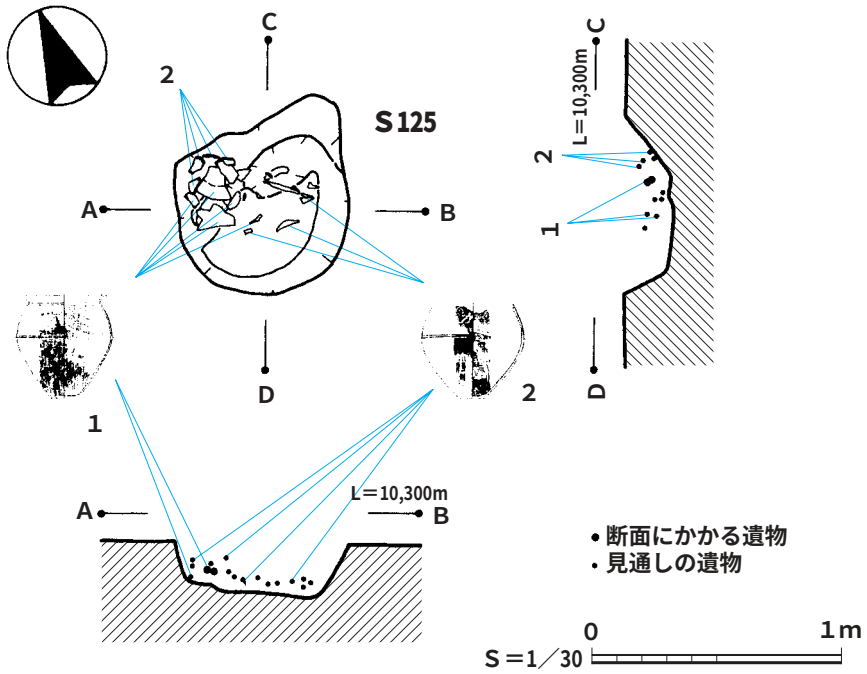
弥生土器の様相は、甕や壺の口縁部ほとんどが後期の様相を示す遺物であった。

ここでは５点の土器を紹介する。

１、２は、甕形土器の口縁部及び胴部上半部であ



図(Fig)187　S109出土遺物実測図



図(Fig)188　土坑（S125）実測図

る。内外面にはハケ目が残る。口縁部形態は後期の様相を呈している。いずれも点上げ遺物で、１は３点、２は２点が接合している。

３は、甕形土器の底部である。外面にはハケ目が残る。点上げ遺物である。

４は、丹塗りの甕形土器の口縁部である。外面には、ミガキ痕と頸部下に１条のM字状の突帯が巡る。口縁部には放射状の暗文、口唇部には刻み目が施されている。丹塗りは内面にも及んでいる。須玖Ⅱ式土器の範疇で捉える事ができる土器である。点上げ遺物である。

５は、壺形土器の口縁部と胴部上半部である。ない外面ともにハケ目や指頭圧痕が残る。点上げ遺物２点が接合している。

【S125】（図188、189参照）

［確認位置］調査１区、M－９グリッド。

標高約10.20m。

［形状］不定形

［大きさ］長軸：84cm、短軸：70cm、深さ：22cm。

［覆土］１層。

［切り合い関係］無し。

［遺構の性格］不明である。

［遺物の出土状況］床面からやや浮いた状態で出土。廃絶後間もない遺物として捉えたい。

［出土遺物量］

S125から出土した遺物は、小グレーコンテナ(38cm×58cm×５cm）約２箱分で、総重量6,534ｇであった。内訳は、弥生土器6,534ｇ（内丹塗り土器は44ｇ）であった。

［出土遺物の観察］

弥生土器の様相はほとんどが胴部で、数点の甕や壺の口縁部は後期の様相を示す遺物であった。

ここでは２点の土器を紹介する。

１は、壺形土器である。外面にはハケ目が残り、胴部中央やや上方に１条の刻み目突帯が巡る。頸部にも１条の突帯が巡る。内面にはハケ目と指頭圧痕が残る。底部はレンズ状にややふくらみが見られる。一括遺物34点が接合している。

２は、１と同様な壺形土器の底部及び胴部である。外面にはハケ目が残り、胴部中央やや上方に１条の刻み目突帯が巡る。内面にはハケ目が残る。点上げ遺物９点と一括遺物１２点の計21点が接合している。

【S132】（図190参照）

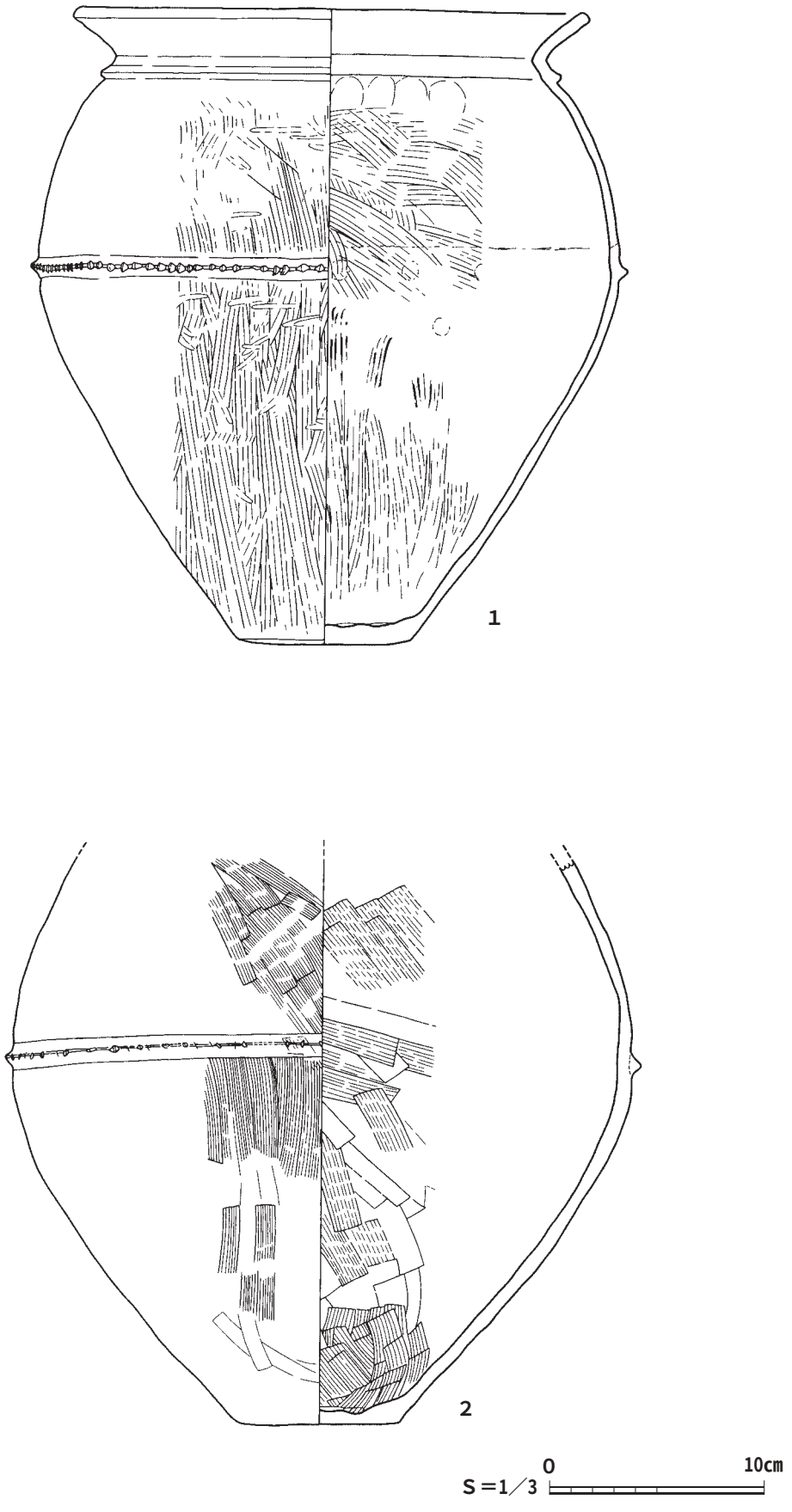
［確認位置］調査１区、B、C－３グリッド。

標高約10.20m。

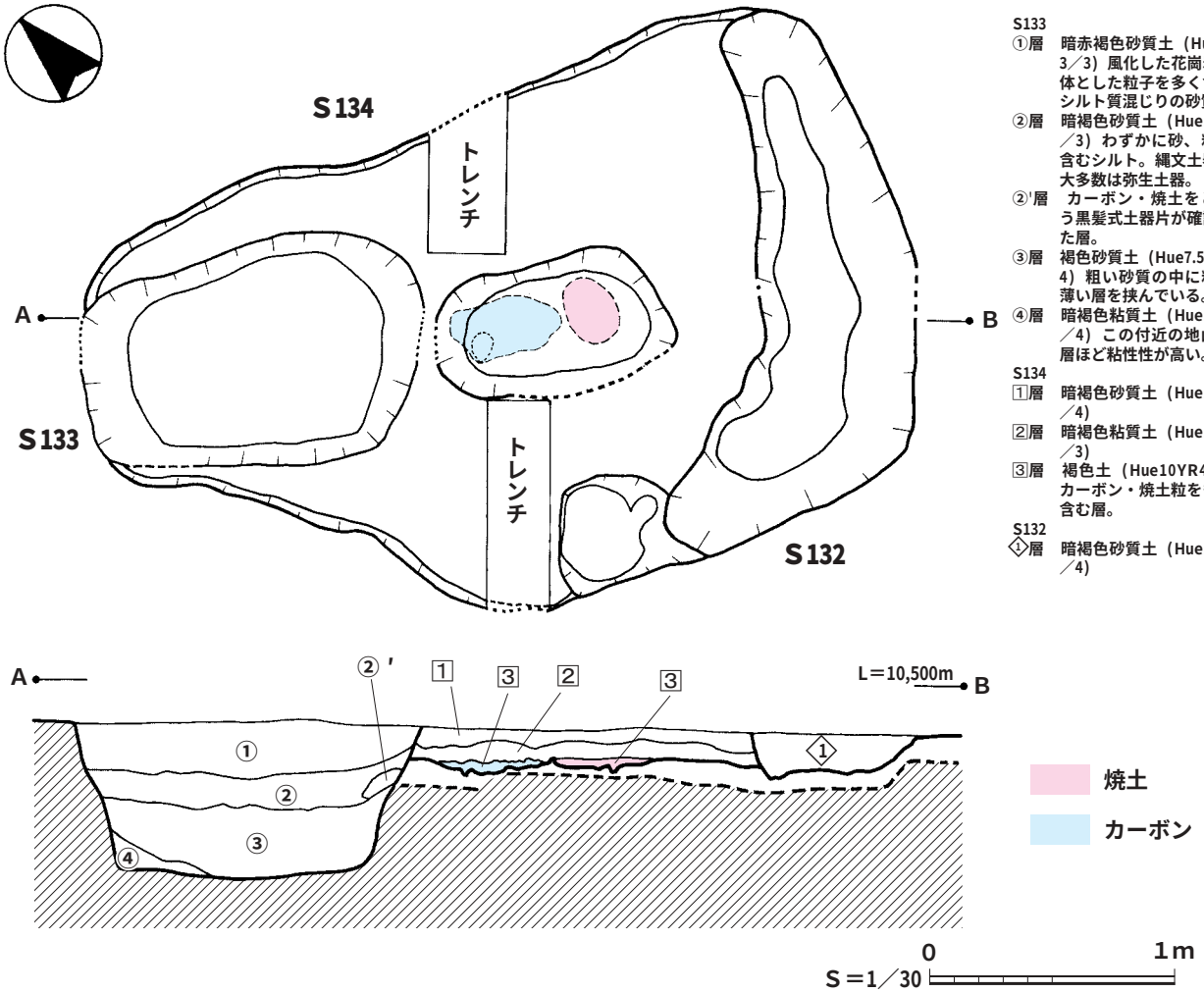
［形状］不定形

［大きさ］長軸：440cm、短軸：130cm、深さ：35cm。

［覆土］１層。



図(Fig)189　S125出土遺物実測図



図(Fig)190　土坑（S132・S133・S134）実測図

［切り合い関係］S134を切る。

［遺構の性格］不明であるが、溝状に連なる。

［特記事項］切り合い関係から弥生時代後期の遺構と判断した。

［遺物の出土状況］一括遺物であげたために詳細は不明。

［出土遺物量］

S132から出土した遺物は、小グレーコンテナ(38㎝×58㎝×５㎝）約１箱分で、弥生土器3,100ｇであった。

［出土遺物の観察］

弥生土器の様相はほとんどが胴部で、時期の様相を示す遺物見当たらなかった。紹介遺物はない。

【S133】（図190～192参照）

［確認位置］調査１区、Ｂ、Ｃ－３グリッド。

標高約10.20m。

［形状］不定形

［大きさ］長軸：270㎝、短軸：180㎝、深さ：125㎝。

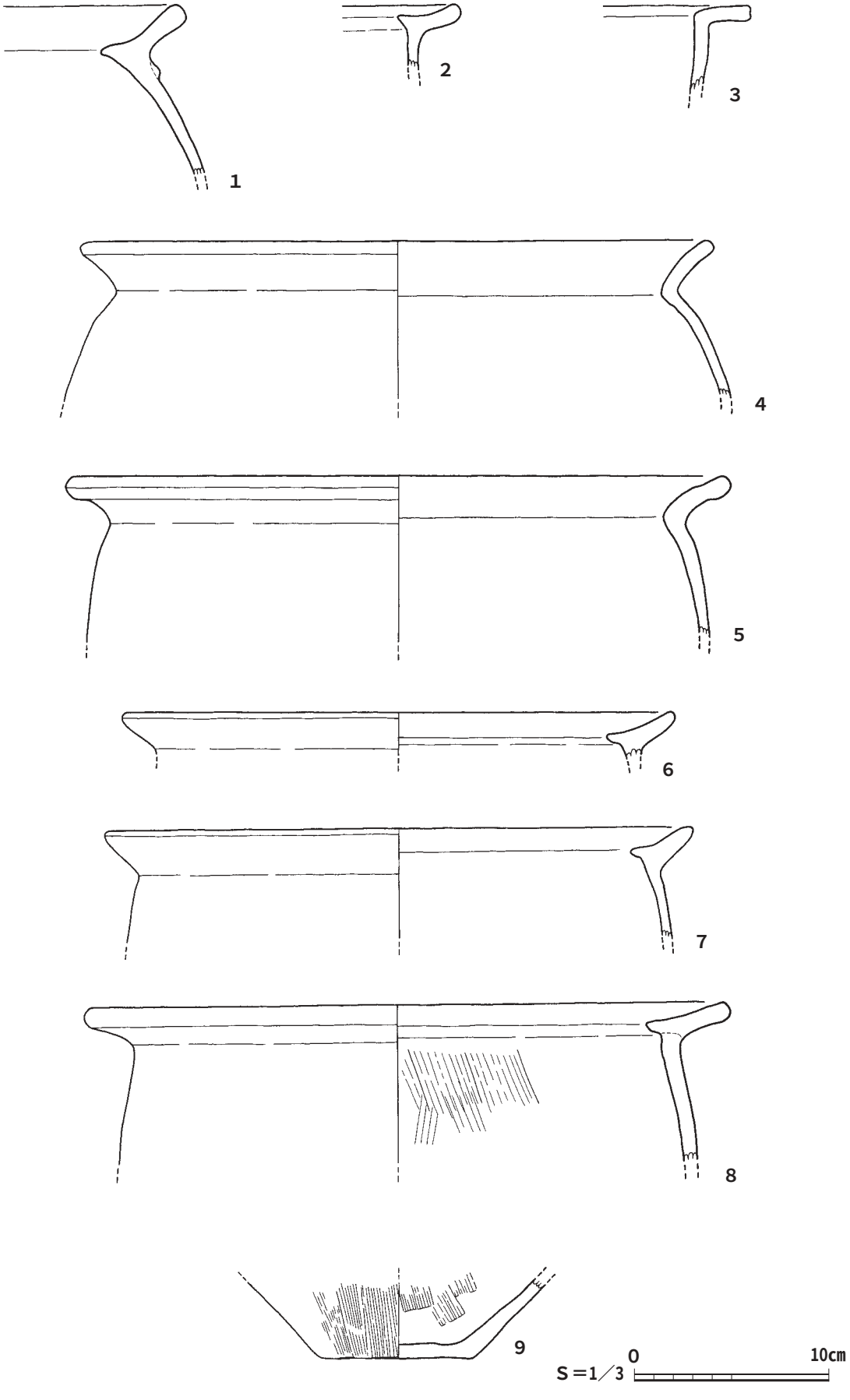
［覆土］５層に細分。全体的に焼土やカーボンが含まれている。

［切り合い関係］S134を切る。

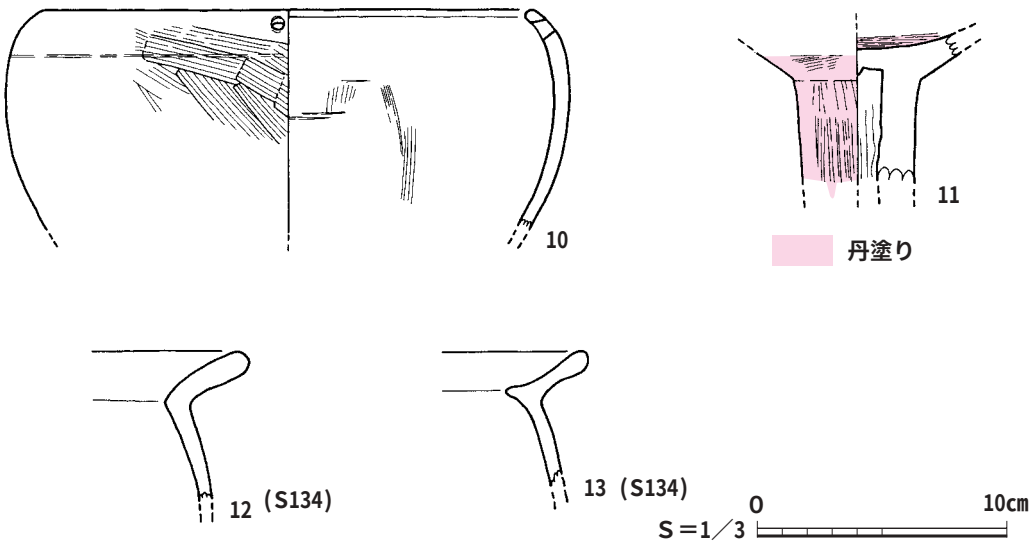
［遺構の性格］詳細は不明であるが、最下層の外側がⅤ層の粘質土であることから、粘土の採掘坑の可能性も否定できない。

［特記事項］黒髪式土器も混在しているが、切り合い関係及び出土遺物から弥生時代後期の遺構と判断した。

［遺物の出土状況］１、２層を中心に遺物が多く含まれており、２′層の中に斜めから放り込まれた形で土器が出土している。



図(Fig)191　S133出土遺物実測図（１）



図(Fig)192　S133・S134出土遺物実測図（２）

［出土遺物量］

S133から出土した遺物は、小グレーコンテナ(38㎝×58㎝×５㎝）約２箱分で、総重量5,389ｇであった。内訳は、縄文土器（２片：68ｇ)、弥生土器5,000ｇ（内丹塗り土器は256ｇ)、中世の瓦質土器８ｇであった。

［出土遺物の観察］

弥生土器の様相は、口縁部の様相は中期と後期が混在している。

11点の土器を紹介する。

１、２は、甕形土器の口縁部である。口縁形態は黒髪式土器の様相を呈している。１は、頸部下に１条の突帯が巡る。いずれも一括遺物である。

３は、鉢形土器の口縁部と考えられる。一括遺物である。

４、５は甕形土器の口縁部及び胴部上半部である。口演形態は後期の様相を呈している。４は、一括遺物、５は、２層出土遺物が２点接合している。

６、７、８は、甕形土器の口縁部である。口縁形態は黒髪式土器の様相を呈している。いずれも１～２層出土の一括遺物である。

９は甕形土器の底部である。内外面にハケ目が残る。１～２層出土の一括遺物である。

10は、無頸壺の胴部上半部である。内外面にはハケ目があり、蓋を止めるための穿孔が見られる。１～２層出土の一括遺物である。

11は、丹塗りの高杯形土器の脚部と杯部の接合部である。内外面にはハケ目が残る。脚部内面にはしぼり痕が残る。３～４層出土の一括遺物である

【S134】（図190、192参照）

［確認位置］調査１区、Ｂ、Ｃ－３グリッド。

標高約10.20m。

［形状］不定形

［大きさ］長軸：670㎝、短軸：420㎝、深さ：25～30㎝。

［覆土］３層に細分。

［切り合い関係］S132、133に切られる。

［遺構の性格］詳細は不明であるが、中央に炉と考えられる焼土とカーボンの集中区域がある。形状から住居跡とは考えにくい。

［特記事項］焼土とカーボンの集中区域がある。

［遺物の出土状況］床面からやや浮いた状態で出土した。遺構廃絶後の遺物として捉えたい。

［出土遺物量］

S134　から出土した遺物は、小グレーコンテナ(38㎝×58㎝×５㎝）約1/3箱分で、総重量407ｇであった。内訳は、縄文土器（１片：77ｇ)、弥生土器300ｇ（内丹塗り土器は68ｇ）であった。

［出土遺物の観察］

弥生土器の様相は、口縁部の様相は中期と後期が混在している。

２点の土器を紹介する。

12、13は、甕形土器の口縁部である。12の口縁形態はやや後期の様相、13は黒髪式土器の様相を呈している。いずれも２層一括遺物である。

【S138】（図173、193～195参照）

［確認位置］調査１区、Ｋ－８グリッド。

標高約10.12m。

［形状］不定形

［大きさ］長軸：220㎝、短軸：190㎝、深さ：40㎝～。

［覆土］１層に細分。

［切り合い関係］S126を切る。

［遺構の性格］土器を一括に埋納した土坑と考えられる。祭祀的な様相が強い遺構である。掘り込みのプランが非常にわかり辛かったことから埋納してすぐに埋めた可能性が高い。

［遺物の出土状況］土器を伏せた状態、倒した状態、甕の胴部を故意に割って伏せた状態で出土した。数少ない遺構に伴う遺物である。遺物から弥生時代後期の遺構と判断した。

［出土遺物量］

S138から出土した遺物は、小グレーコンテナ（38㎝×58㎝×５㎝）約５箱分で、総重量12,459ｇであった。内訳は、弥生土器12,425ｇ（内丹塗り土器は34ｇ）であった。

［出土遺物の観察］

弥生土器は、後期の様相を示すものである。一部中期の黒髪式土器の様相を示す土器が混入している。

13点の土器と２点の石器を紹介する。９、12、13以外は点上げ遺物である。

１は甕形土器である。外面は、横方向のタタキの後、縦方向のハケ目が残り、内面はハケ目や指頭圧痕が残る。後期の様相を呈する土器である。脚台部がないが、故意に欠損させている可能性も考えられる。口縁部を下に伏せた状態で出土した。

２は、脚台のある甕形土器である。内外面ともに、ハケ目が残る。完形である。口縁部を下に伏せた状態で出土した。

３は、脚台のない甕形土器である。内外面ともに、ハケ目が残る。ほぼ完形である。

４は、器台である。外面にハケ目、内面にハケ目としぼり痕が残る。口縁部が一部しているが復元可能な器台である。

５は、壺形土器か甕形土器の底部である。故意に割り、伏せた状態で出土した。

６は、器台である。外面にハケ目、内面にハケ目とナデ痕が残る。底部が一部欠損している。

７は、壺形土器である。口縁部を一部欠くがほぼ完形に近い。外面にはハケ目，ミガキ痕、２条の刻み目突帯が巡る。内面はハケ目や粘土の接合痕が残る。横に倒れた状態で出土した。

８は、台付き鉢である。内外面にハケ目が残る完形である。口縁を下に伏せた状態で出土した。

９は、甕形土器の口縁部である。口縁の形態は黒髪式土器である。一括遺物であり、混入した可能性が考えられる。

10は、甕形土器の口縁部である。

11は、袋状口縁壺の口縁部である。

12は、甕形土器か壺形土器の底部である。内外面にハケ目が残る。一括遺物である。

13は、甕形土器の脚台部である。外面にハケ目が残る。一括遺物である。

14は、輝緑凝灰岩製の石包丁である。欠損しているが２点が接合している。色調は緑色を呈している。

15は、砥石である。石材は砂岩である。磨り面は平面と側面に一部認められる。欠損している。

③溝（１条）

【S046】（図178、196～197参照）

［確認位置］調査１区、Ｃ－５グリッド。

標高約10.1m。

［形状］溝状

［大きさ］長軸：450㎝～、短軸：45～50㎝、深さ：15～20㎝。

［覆土］１層に細分。

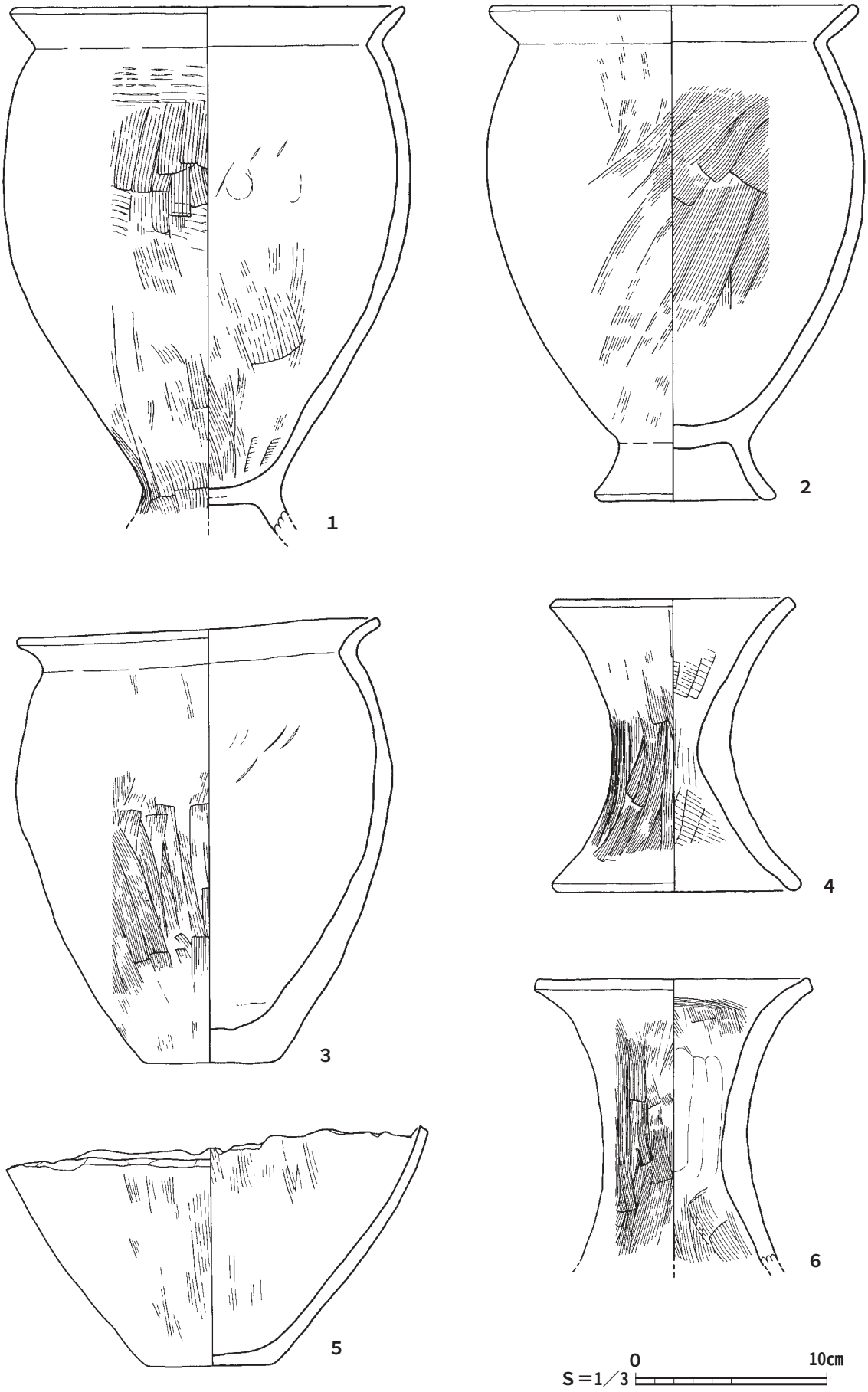
［切り合い関係］S136を切り、94に切られる。

［遺構の性格］詳細は不明であるが、形状から溝と考えられる。

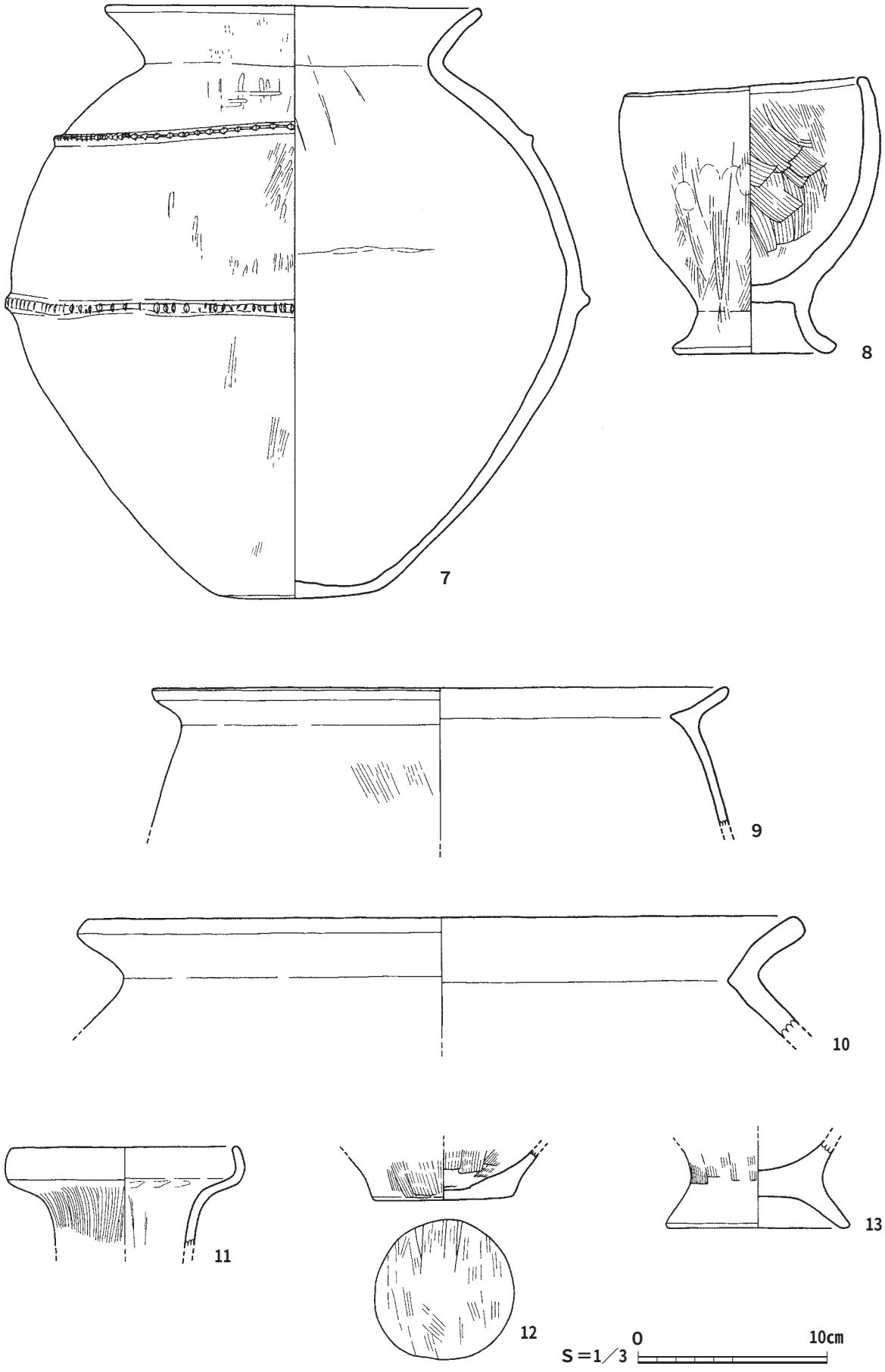
［遺物の出土状況］底からやや浮いた状態で出土した。遺構廃絶後の遺物である。

［出土遺物量］

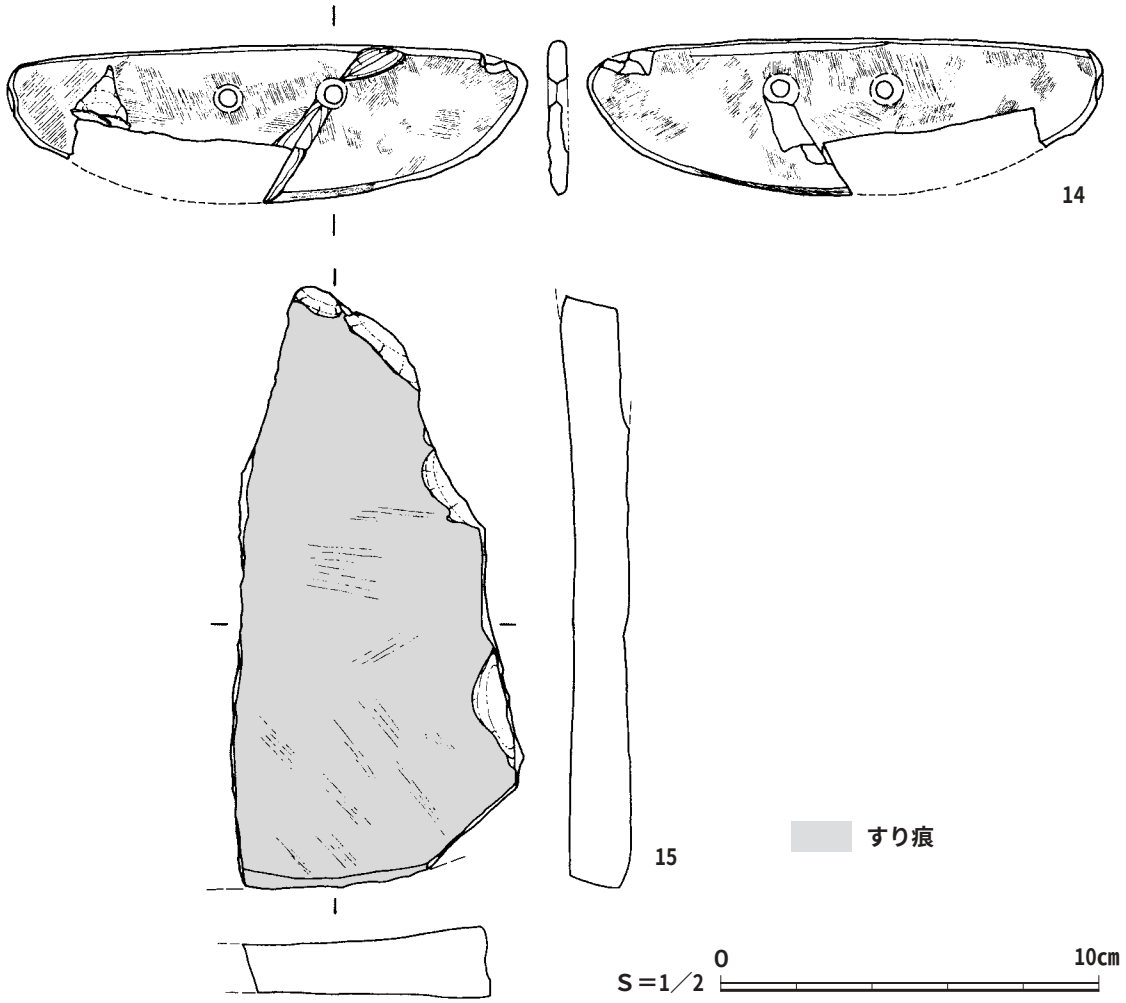
S046から出土した遺物は、中グレーコンテナ



図(Fig)193　S138出土遺物実測図（１）



図(Fig)194　S138出土遺物実測図（２）



図（Fig)195　S138出土遺物実測図（３）

(38㎝×58㎝×15㎝）約３箱分で、総重量7,809ｇであった。内訳は縄文土器（５片：181ｇ)、弥生土器7,370ｇ、中世の瓦質土器258ｇであった。

［出土遺物の観察］

出土した弥生土器の壺や甕の口縁部は、中期の黒髪式土器や後期の様相を示すものが混在していたが、大半が後期の様相を呈していた。

９点の土器と１点の石器を紹介する。全て一括遺物である。

１は、甕形土器の口縁部である。口縁形態は黒髪式土器の様相を呈している。

２は、壺形土器の口縁部である。

３は、甕形土器の脚台部である。外面にハケ目、内面に指頭圧痕が残る。

４、５は、甕形土器の口縁部と胴部である。内外面ともに、ハケ目が残る。口縁部は「くの字」状で、後期の様相を呈する。４は９点、５は６点が接合している。

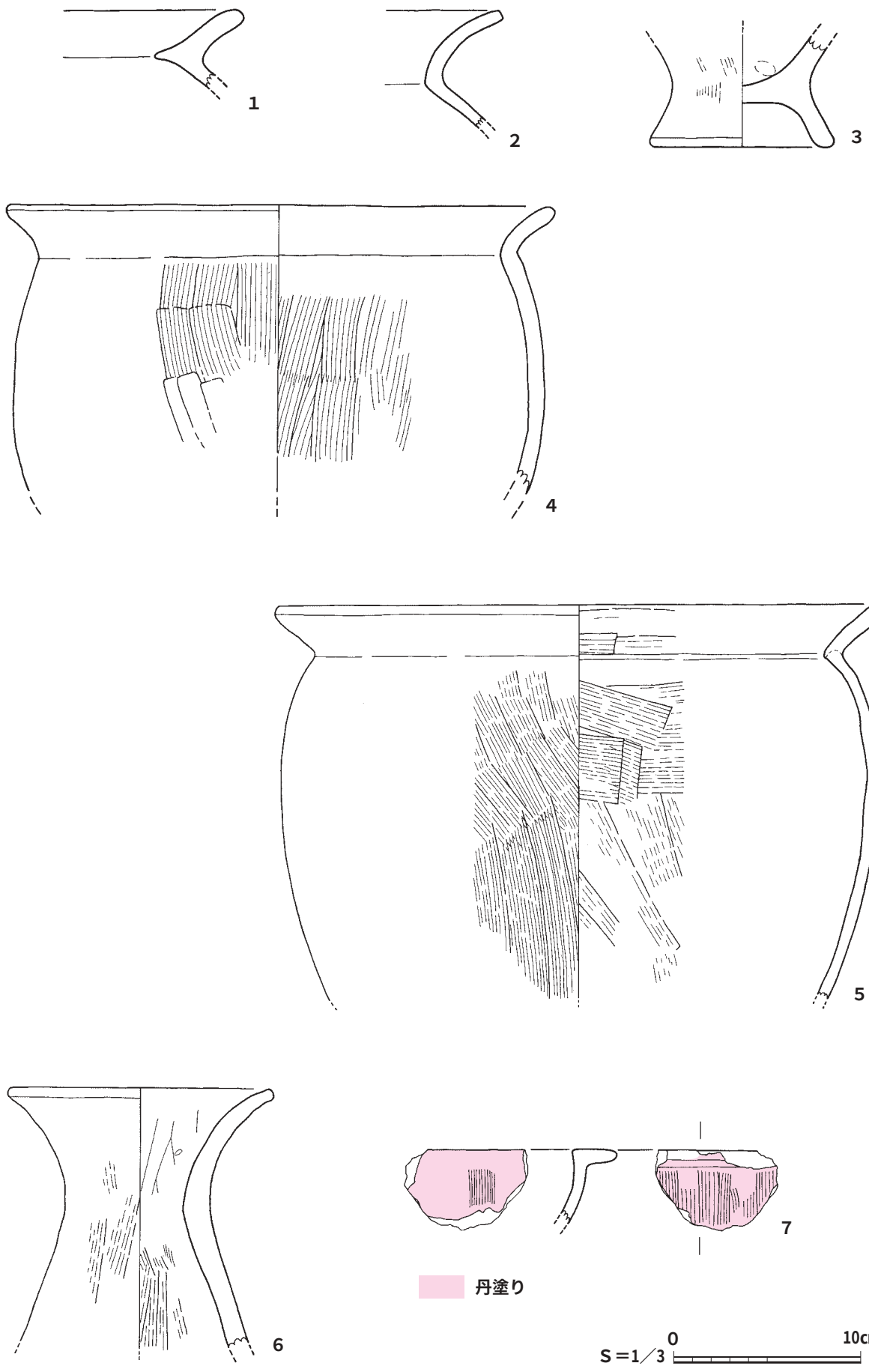
６は、器台である。内外面ともに、ハケ目が残る。７点が接合している。

７は、丹塗りの鉢形土器の口縁部である。内外面ともにハケ目が残り、丹塗りは内面にも及んでいる。

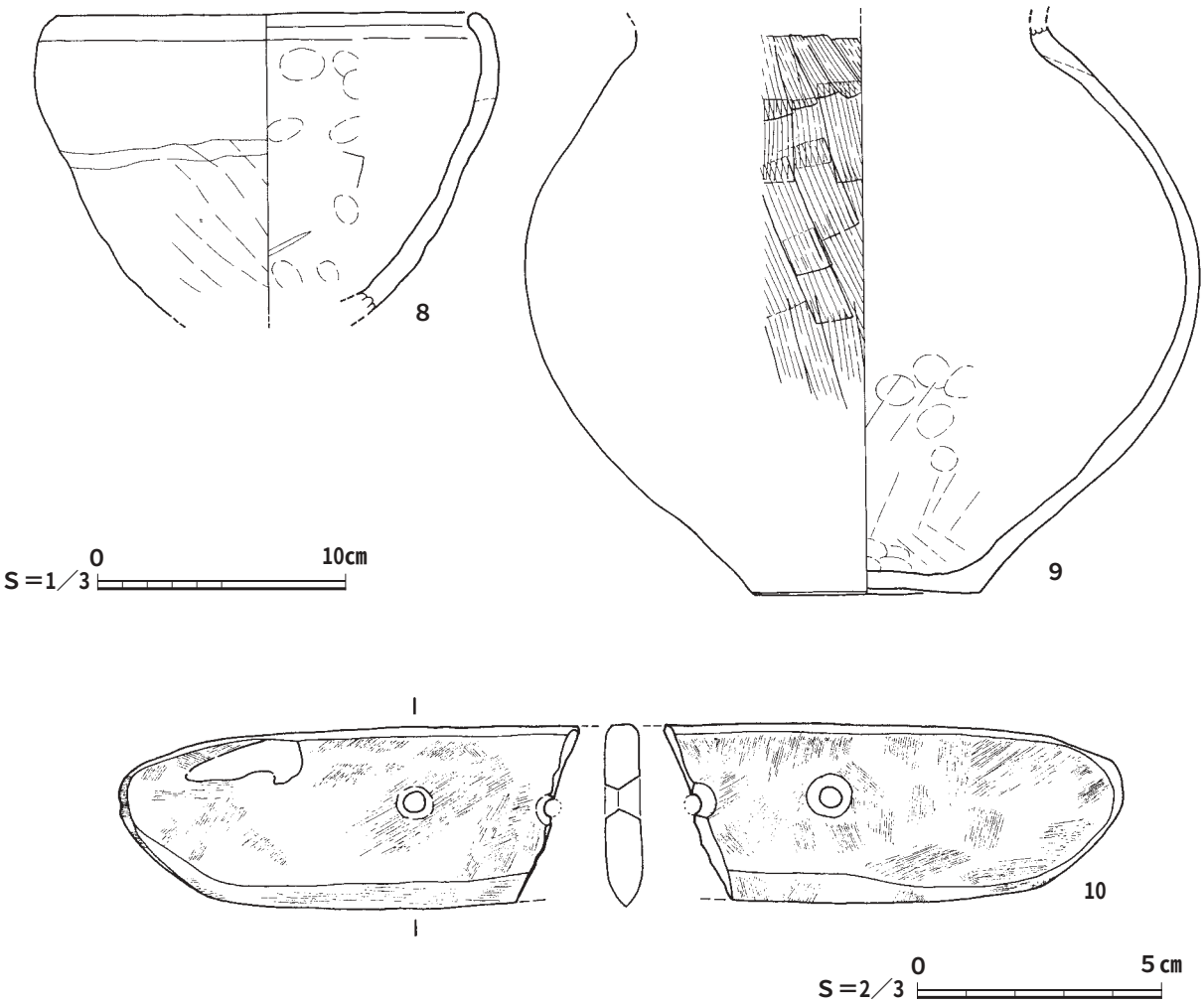
８は、鉢形土器である。外面には接合痕跡やナデ痕が残り、内面には指頭圧痕が残る。

９は、壺形土器の胴部及び底部である。外面にはハケ目、内面には指頭圧痕やハケ目の輪郭がわずかに残る。底は、やや上げ底である。25点が接合している。

10は、石包丁である。石材は輝緑凝灰岩で、色調は緑色を呈する。一部は欠損している。



図(Fig)196　S046出土遺物実測図（１）



図(Fig)197　S046出土遺物実測図（２）

④不明遺構（１基）

【S088】（図198～200参照）

［確認位置］調査１区、Ⅰ－８、９グリッド。

標高約10.3m。

［形状］溝状

［大きさ］長軸：390㎝～、短軸：55～105㎝、深さ：３～22㎝。

［覆土］１層に細分。

［切り合い関係］S114、92を切る。

［遺構の性格］詳細は不明である。

［遺物の出土状況］底から浮いた状態で出土した。遺構廃絶後の遺物である。遺物の様相から弥生時代後期の遺構と判断した。

［出土遺物量］

S088から出土した遺物は、中グレーコンテナ(38㎝×58㎝×15㎝）約５箱分で、総重量13,137ｇであった。内訳は縄文土器（４片：37ｇ)、弥生土器13,100ｇ（内丹塗り土器は160ｇ）であった。

［出土遺物の観察］

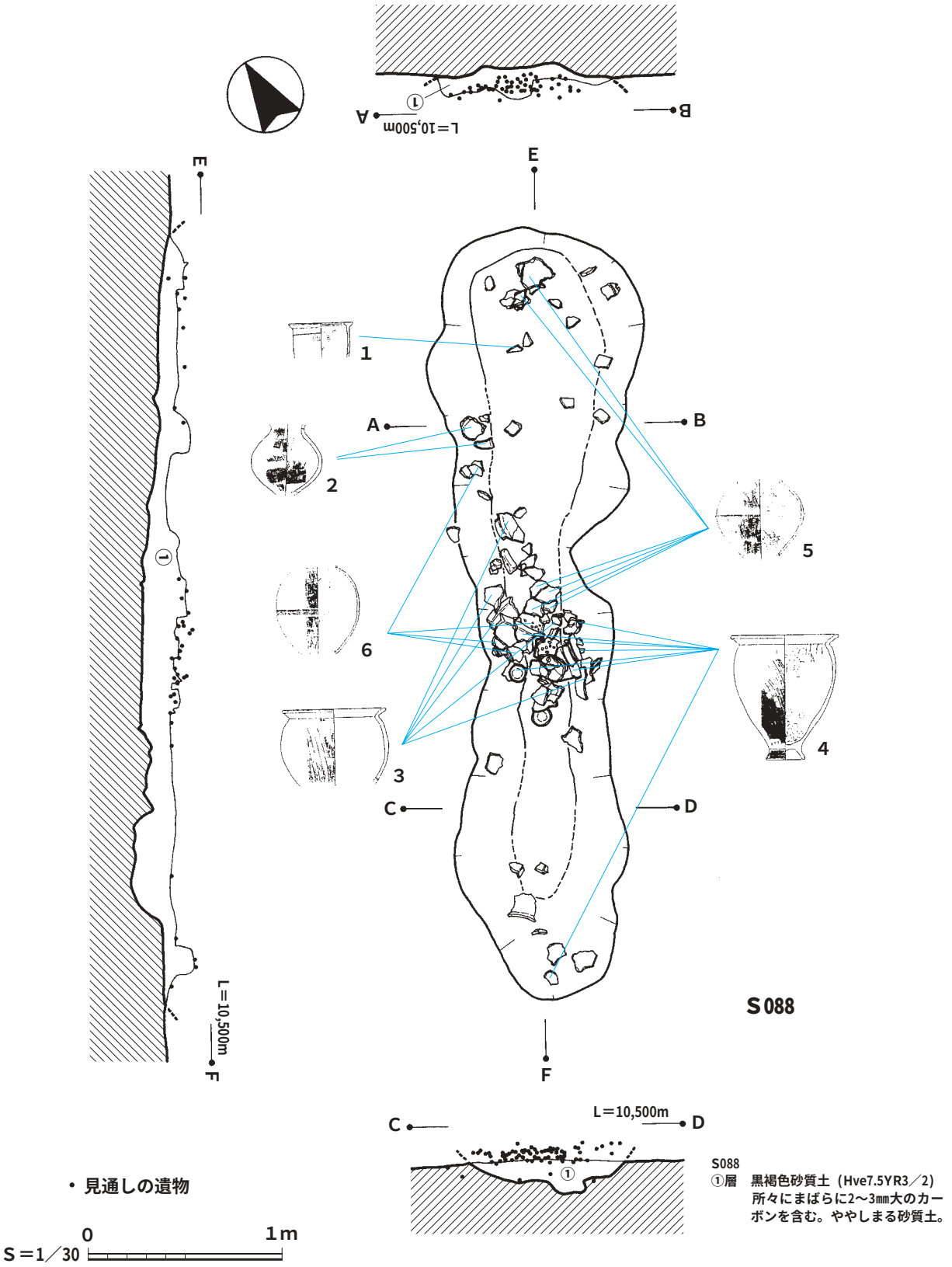
出土した弥生土器の壺や甕の口縁部は、中期の黒髪式土器や後期の様相を示すものが混在していたが、大半が後期の様相を呈していた。

６点の土器を紹介する。

１は、小型の甕形土器の口縁部及び胴部上半部である。口縁部形態は、中期前半の様相を呈する。外面にはハケ目が残り、頸部下1.7㎝には１条の沈線が残る。点上げ遺物である。

２は、丹塗りの壺の胴部である。外面にはハケ目、内面にはハケ目と指頭圧痕が残る。点上げ遺物３点が接合している。

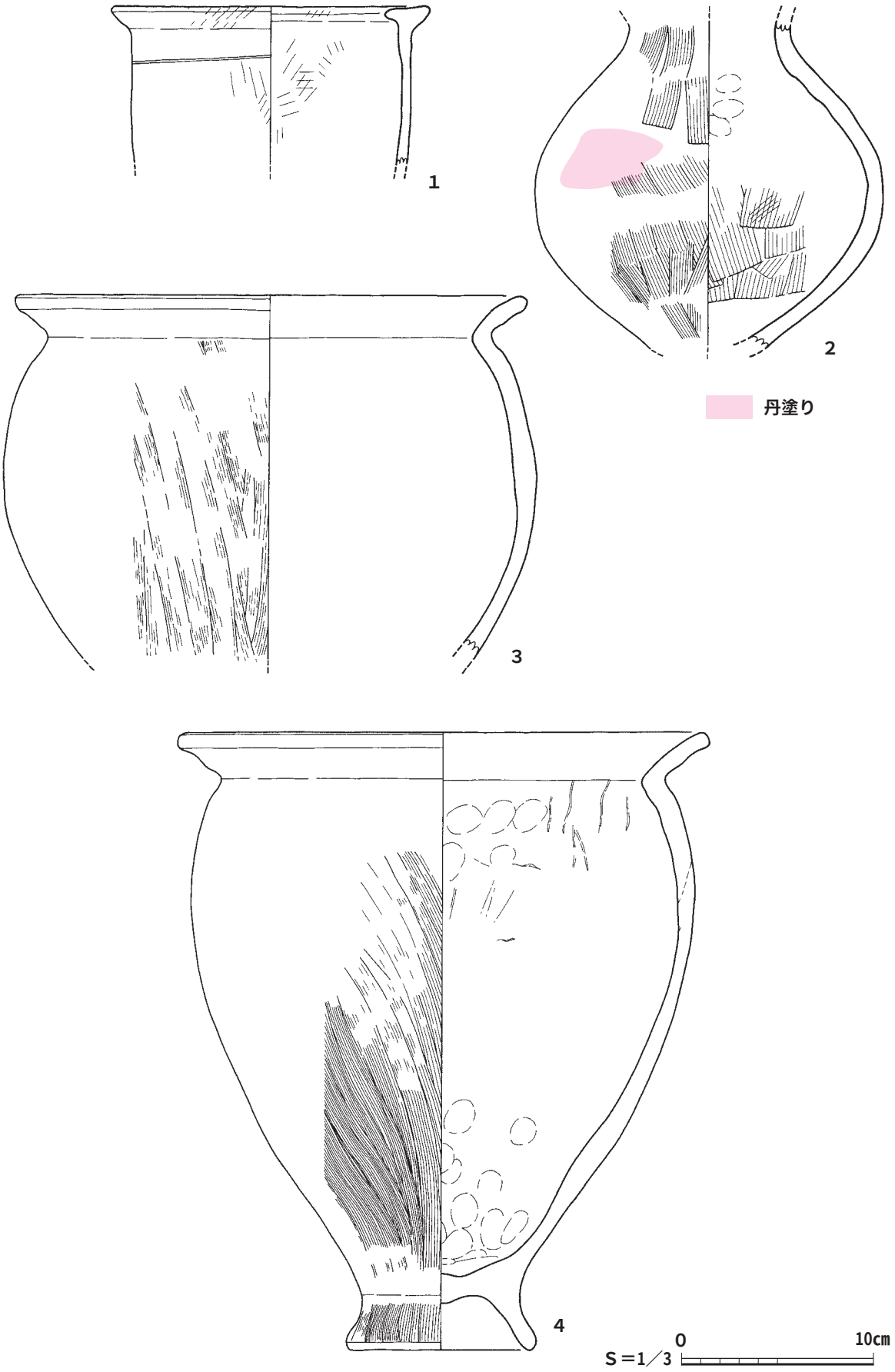
３は、甕形土器の口縁部及び胴部上半部である。口縁部形態は、「くの字」状に屈曲し後期の様相を



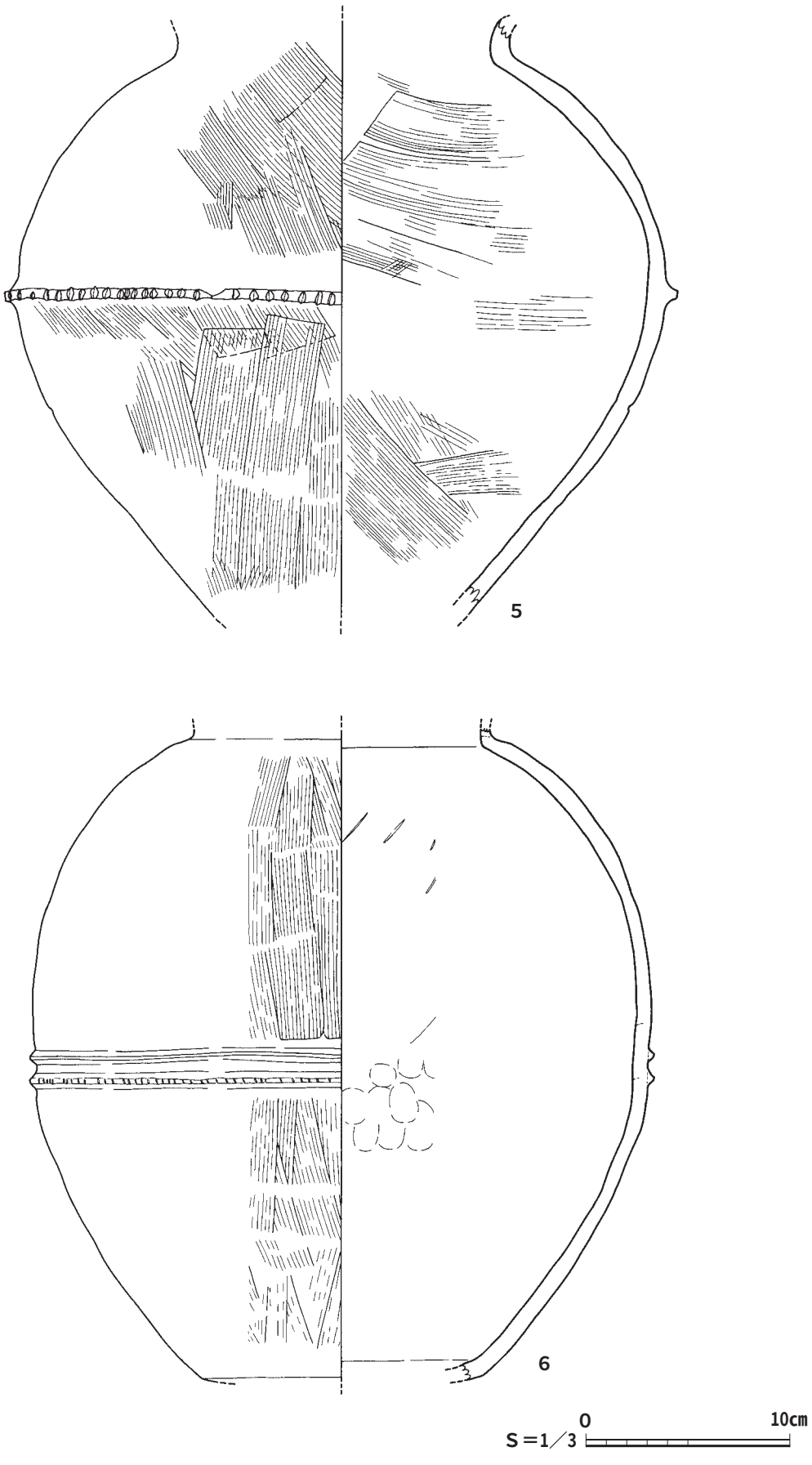
図(Fig)198　不明遺構（S088）実測図

呈する。外面にはハケ目が残る。点上げ遺物22点と　　る。

Ｊ－８グリッド出土遺物１点の計23点が接合してい　　４は、甕形土器である。口縁部の一部を残してほ



図(Fig)199　S088出土遺物実測図（１）



図（Fig)200　S088出土遺物実測図（２）

ぼ完形である。口縁部形態は、「くの字」状に屈曲し後期の様相を呈する。外面にはハケ目、内面には指頭圧痕が残る。点上げ遺物27点が接合している。

５は、壺形土器の胴部である。外面はハケ目が残り、胴部中央部に刻み目突帯が１条巡る。内面はハケ目が残る。胴部下半部は、底部から斜め方向に真っ直ぐに立ち上がる。点上げ遺物５点、一括遺物３点の計８点が接合している。

６は、壺形土器の胴部である。外面はハケ目が残り、胴部中央部に刻み目突帯が１条と刻み目の無い突帯が１条巡る。内面は指頭圧痕が残る。胴部下半部は、底部から斜め方向に屈曲を保ちながら立ち上がり、５とは形状が異なる。点上げ遺物39点、一括遺物２点の計41が接合している。

３）弥生時代時期不明（10基）

①竪穴住居跡（２軒）

【S098】（図147参照）

［確認位置］調査１区、Ｄ－６グリッド。

標高約10.2m。

［形状］方形

［大きさ］長軸：150㎝～、短軸：340㎝、深さ：20㎝。

［住居内覆土］１層。

［主柱穴］不明。

［炉］不明。

［貯蔵穴］不明。

［硬化面］有り。

［張り床］不明。

［切り合い関係］S073から切られる。

［特記事項］S073が弥生時代後期の住居跡であり、それに切られることから、弥生時代後期以前であることは明らかである。しかし、遺物が小片であるために判断はできない。また、硬化面が残存することから、住居跡と判断した。

［遺物の出土状況］不明。

［出土遺物量］

S098から出土した遺物は、総重量101ｇであった。内訳は縄文土器（１片：48g）弥生土器53ｇであった。

［出土遺物の観察］

弥生時代の土器は小片であるために様相は不明である。紹介資料はない。

【Ｓ131】（図175参照）

［確認位置］調査１区、Ｎ、Ｏ－９、10グリッド。

標高約10.00m。

［形状］不定形

［大きさ］長軸：250㎝～、短軸：246㎝～、深さ：10㎝～。

［住居内覆土］１層。

［主柱穴］不明。

［炉］有り。大きさ：50×50㎝、深さ：10㎝。

［貯蔵穴］不明。

［硬化面］有り。

［張り床］有り。

［切り合い関係］S130から切られる。

［特記事項］S130が弥生時代後期の住居跡であり、それに切られることから、弥生時代後期以前であることは明らかである。しかし、遺物が小片であるため、判断はできない。また、張り床や硬化面が残存することから、住居跡と判断した。幅30～70㎝、長さ200㎝以上、深さ約10～15㎝の溝が巡る。

［遺物の出土状況］や浮いた状態で出土。遺構廃絶後の遺物として捉えたい。

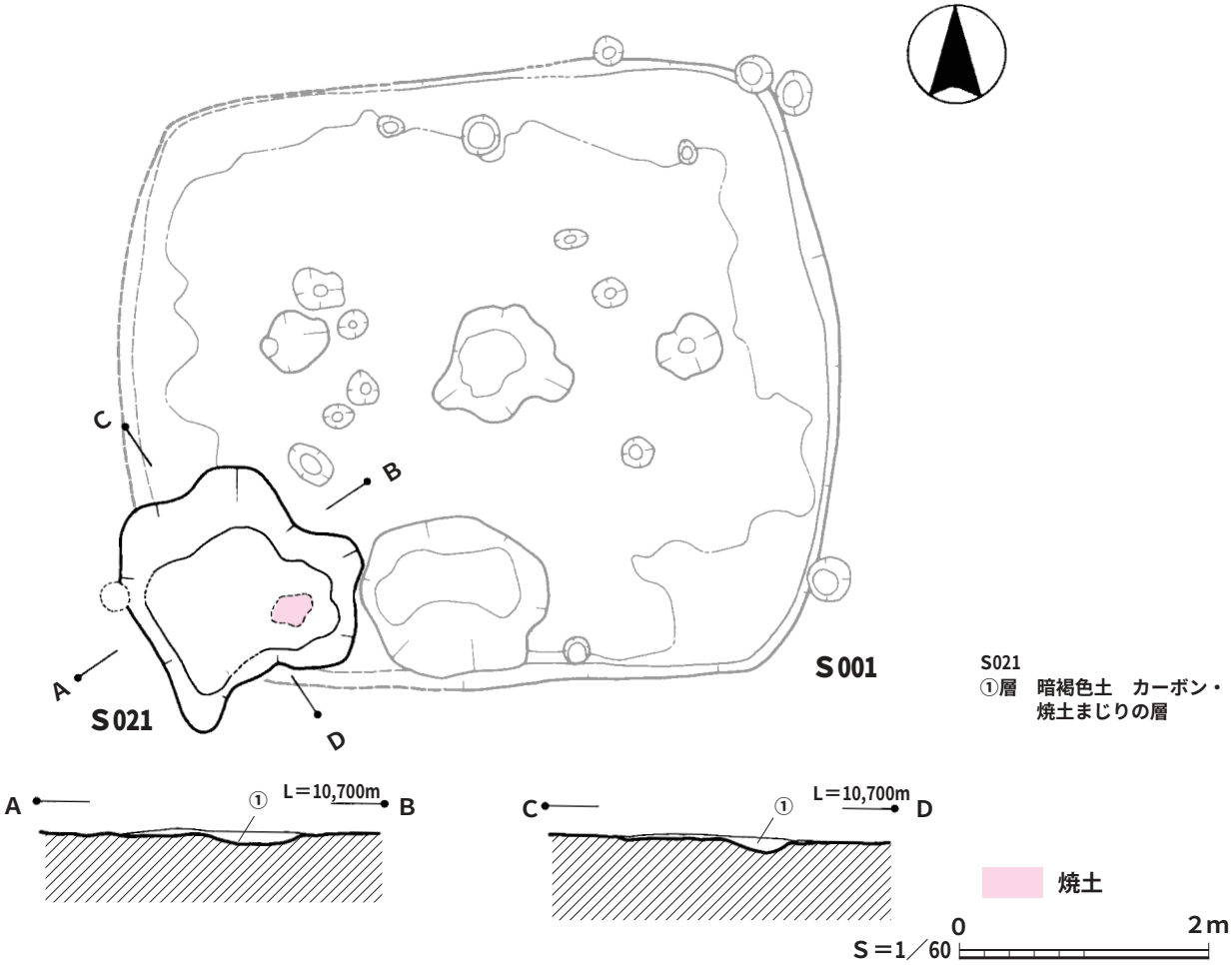
［出土遺物量］

S131から出土した遺物は、小グレーコンテナ（38㎝×58㎝×５㎝）約５箱分で、総重量8,750ｇであった。内訳は縄文土器（１片：28ｇ）、弥生土器8,722ｇ（内丹塗り土器は49ｇ）であった。

［出土遺物の観察］

弥生時代の土器は小片であるために様相は不明であるが、残存する口縁部は

黒髪式土器の様相が強いが断定できない。写真資料のみで紹介資料はない。



図(Fig)201　土坑（S021）実測図

②土坑　（７基）

【S021】（図201参照）

［確認位置］調査１区、Ｓ、Ｔ－７、８グリッド。
標高約10.45m。

［形状］不定形

［大きさ］長軸：210㎝、短軸：196㎝、深さ：２～11㎝。

［覆土］１層に細分。

［切り合い関係］S001を切る。

［遺構の性格］焼土を伴うことから、焼土坑の可能性も考えられる。S001を切ることから弥生時代中期後半以降であることは明らかである。

［遺物の出土状況］小片がやや浮いた状態で出土。

［出土遺物量］

S021から出土した遺物は、弥生土器90ｇのみであった。

［出土遺物の観察］

出土した弥生土器片は口縁部を含まずに、小片のため、時期の同定は不明。紹介遺物はない。

【S043】（図202参照）

［確認位置］調査１区、Ｉ－９グリッド。
標高約10.32m。

［形状］不定形

［大きさ］長軸：275㎝、短軸：243㎝、深さ：110～123㎝。

［覆土］２層に細分。

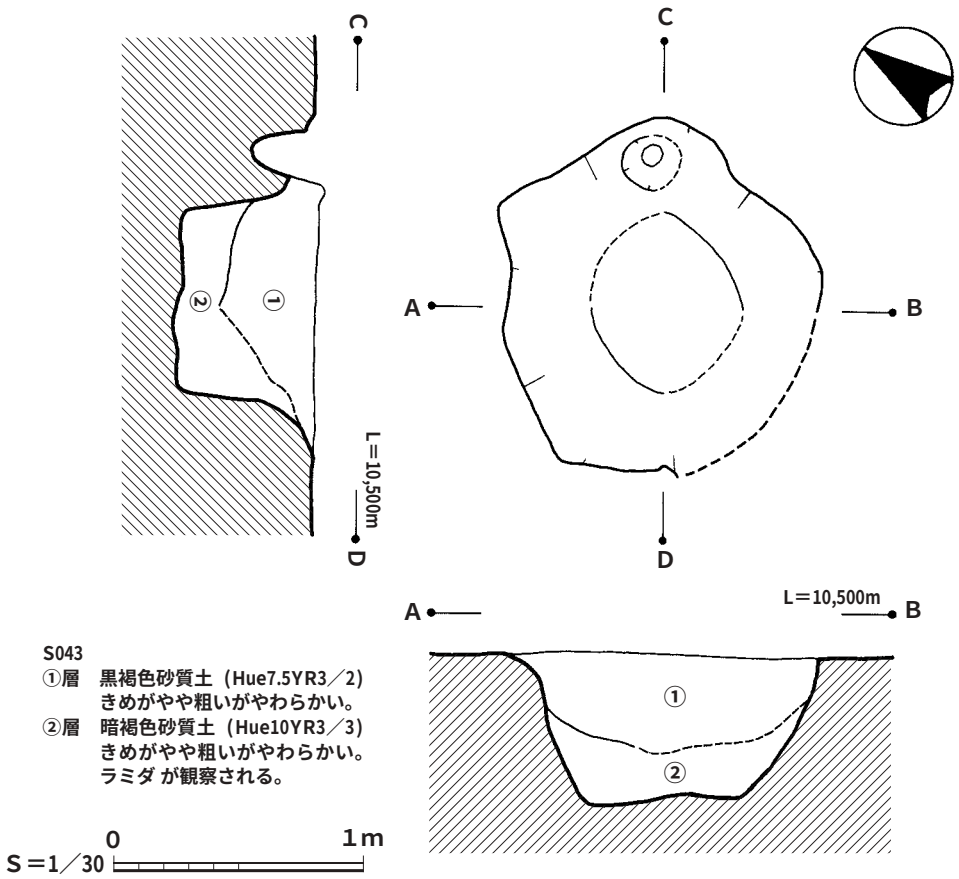
［切り合い関係］ピットから切る。

［遺構の性格］不明。弥生時代の遺物が２層の底部で検出されたことから弥生時代の遺構であると判断したが、詳細な時期は不明である。

［遺物の出土状況］１、２層より出土。やや浮いた遺物もあったが、底部近くでも出土。

［出土遺物量］

S043から出土した遺物は、小グレーコンテナ(38㎝×58㎝×５㎝）約１箱分で、総重量1,989ｇであった。内訳は縄文土器（４片：113ｇ)、弥生土器



図(Fig)202　土坑（S043）実測図

1,876ｇであった。

［出土遺物の観察］

出土した弥生土器片は口縁部を含まずに、胴部のため、時期の同定は不明。紹介遺物はない。

【S084】（図203参照）

［確認位置］調査１区、Ｈ－８グリッド。

標高約10.32m。

［形状］不定形

［大きさ］長軸：220㎝、短軸：150㎝、深さ：５～20㎝。

［覆土］２層。

［切り合い関係］S083を切り、74から切られる。

［遺構の性格］不明。弥生時代の遺物が多いため、弥生時代の遺構であると判断したが、詳細な時期は不明である。

［遺物の出土状況］一括取り上げのため不明。

［出土遺物量］

S084から出土した遺物は、小グレーコンテナ(38㎝×58㎝×５㎝）約1/2箱分で、総重量905ｇであった。内訳は縄文土器（２片：34ｇ)、弥生土器800ｇ（内丹塗り土器は27ｇ)、中世の瓦質土器71ｇであった。

［出土遺物の観察］

出土した弥生土器片は口縁部を含まずに、胴部のため、時期の同定は不明。紹介遺物はない。

【S086】（図184参照）

［確認位置］調査１区、Ｇ－８グリッド。

標高約10.3m。

［形状］円形

［大きさ］長軸：101㎝、短軸：97㎝、深さ：18㎝。

［覆土］１層。

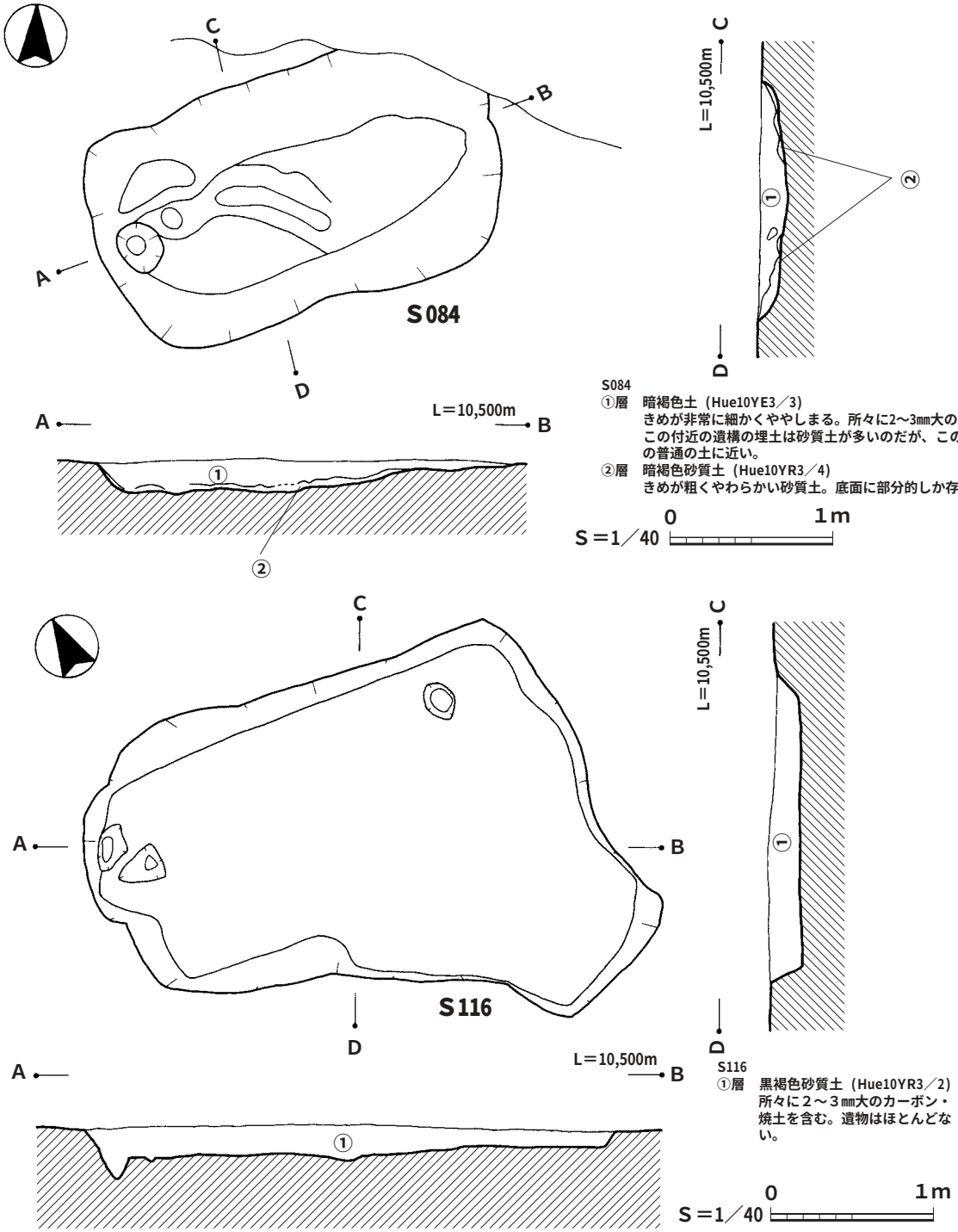
［切り合い関係］S067と接する。

［遺構の性格］不明。出土遺物が弥生時代の遺物のみであるため、弥生時代の遺構であると判断したが、詳細な時期は不明である。

［遺物の出土状況］一括取り上げのため不明。

［出土遺物量］

S086から出土した遺物は、弥生土器30ｇのみで



図(Fig)203　土坑（S084・S116）実測図

あった。

［出土遺物の観察］

出土した弥生土器片は口縁部を含まずに、小片であるため、時期の同定は不明。紹介遺物はない。

【S116】（図203参照）

［確認位置］調査１区、Ｄ－５、６グリッド。

標高約10.2m。

［形状］不定形

［大きさ］長軸：355㎝、短軸：220㎝、深さ：12～22㎝。

［覆土］１層。S091の覆土と同様に黒色。

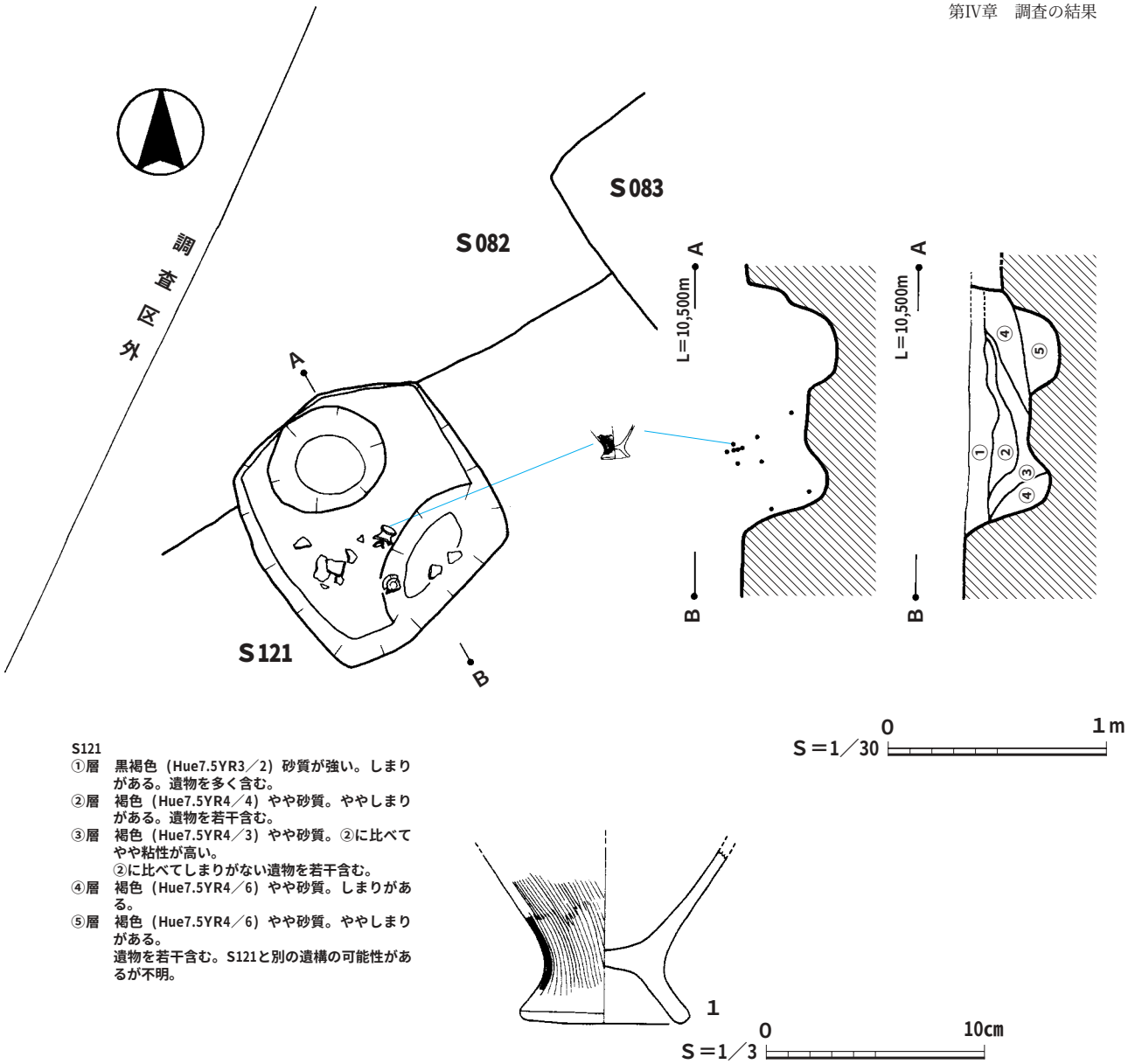
［切り合い関係］無し。

［遺構の性格］不明。出土遺物が弥生時代の遺物のみであるため、弥生時代の遺構であると判断したが、詳細な時期は不明である。

［遺物の出土状況］一括取り上げのため不明。

［出土遺物量］

S116から出土した遺物は、弥生土器100ｇのみで



S121
①層　黒褐色（Hue7.5YR3／2）砂質が強い。しまりがある。遺物を多く含む。
②層　褐色（Hue7.5YR4／4）やや砂質。ややしまりがある。遺物を若干含む。
③層　褐色（Hue7.5YR4／3）やや砂質。②に比べてやや粘性が高い。
②に比べてしまりがない遺物を若干含む。
④層　褐色（Hue7.5YR4／6）やや砂質。しまりがある。
⑤層　褐色（Hue7.5YR4／6）やや砂質。ややしまりがある。
遺物を若干含む。S121と別の遺構の可能性があるが不明。

図(Fig)204　土坑（S121）実測図及び出土遺物実測図

あった。

［出土遺物の観察］

出土した弥生土器片は口縁部を含まずに、小片であるため、時期の同定は不明。紹介遺物はない。

【S121】（図204参照）

［確認位置］調査１区、Ｇ－７グリッド。

標高約10.3m。

［形状］円形

［大きさ］長軸：110㎝、短軸：110㎝、深さ：26～42㎝。

［覆土］５層。

［切り合い関係］S082を切る。

［遺構の性格］不明。出土遺物は弥生時代の遺物が主体であったため、弥生時代の遺構であると判断したが、詳細な時期は不明である。

［遺物の出土状況］かなり浮いた状態で出土している。。

［出土遺物量］

S121から出土した遺物は、小グレーコンテナ(38㎝×58㎝×５㎝）約１箱分で、総重量1,514ｇであった。内訳は縄文土器（１片：14ｇ)、弥生土器1,500g（内丹塗り土器は29ｇ）であった。

［出土遺物の観察］

弥生土器１点を紹介する。

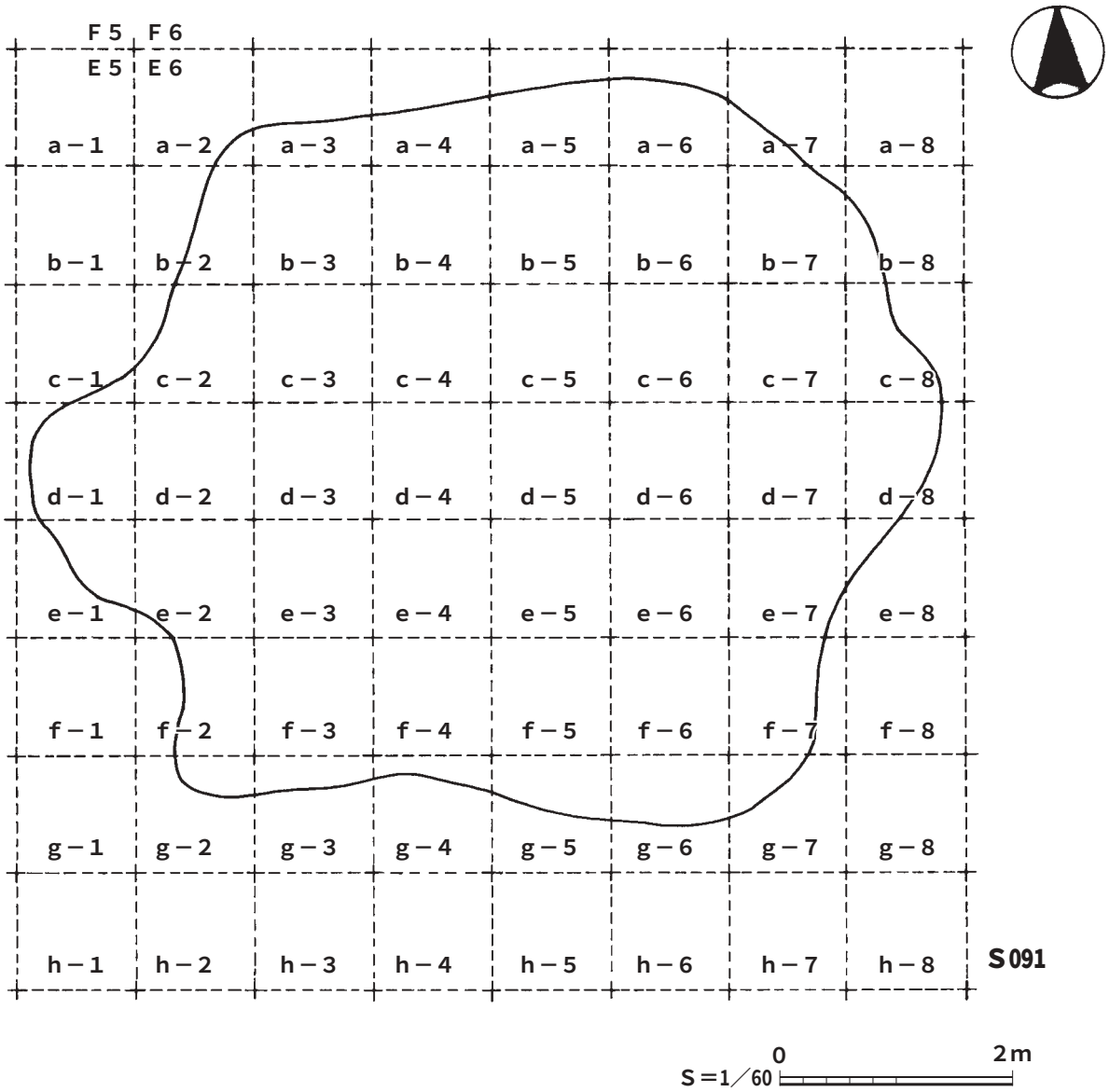
１は、甕形土器の脚台部である。外面にハケ目が残る。点上げ遺物である。

【S137】（図178参照）

［確認位置］調査１区、Ｃ－５グリッド。

標高約10.1m。

［形状］方形



図(Fig)205　不明遺構（S091）実測図

［**大きさ**］長軸：240㎝、短軸：70㎝～、深さ：15㎝。

［**覆土**］２層。

［**切り合い関係**］S136から切られる。

［**遺構の性格**］不明。硬化面があるが、住居跡にしては小さすぎるので、土坑として取り扱った。切り合い関係から弥生時代後期より以前であることは明らかである。

［**出土遺物**］無し。

③不明遺構（１基）

【S091】（図205～209参照）

［**確認位置**］調査１区、Ｅ－５、６グリッド。

標高約10.2m。

［**形状**］不定形

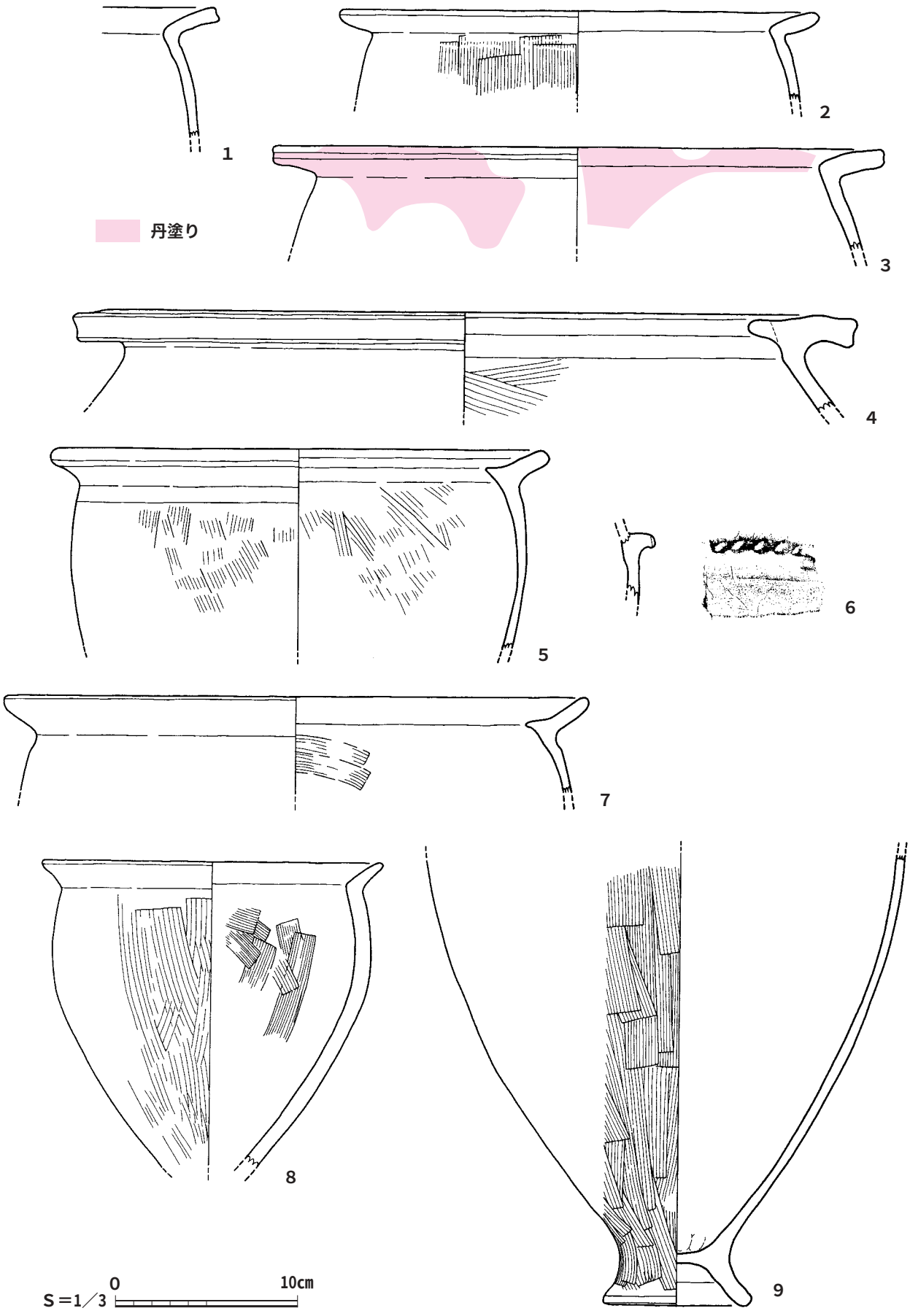
［**大きさ**］長軸：740㎝、短軸：620㎝、深さ：約10㎝。

［**覆土**］１層（黒色砂質土）。

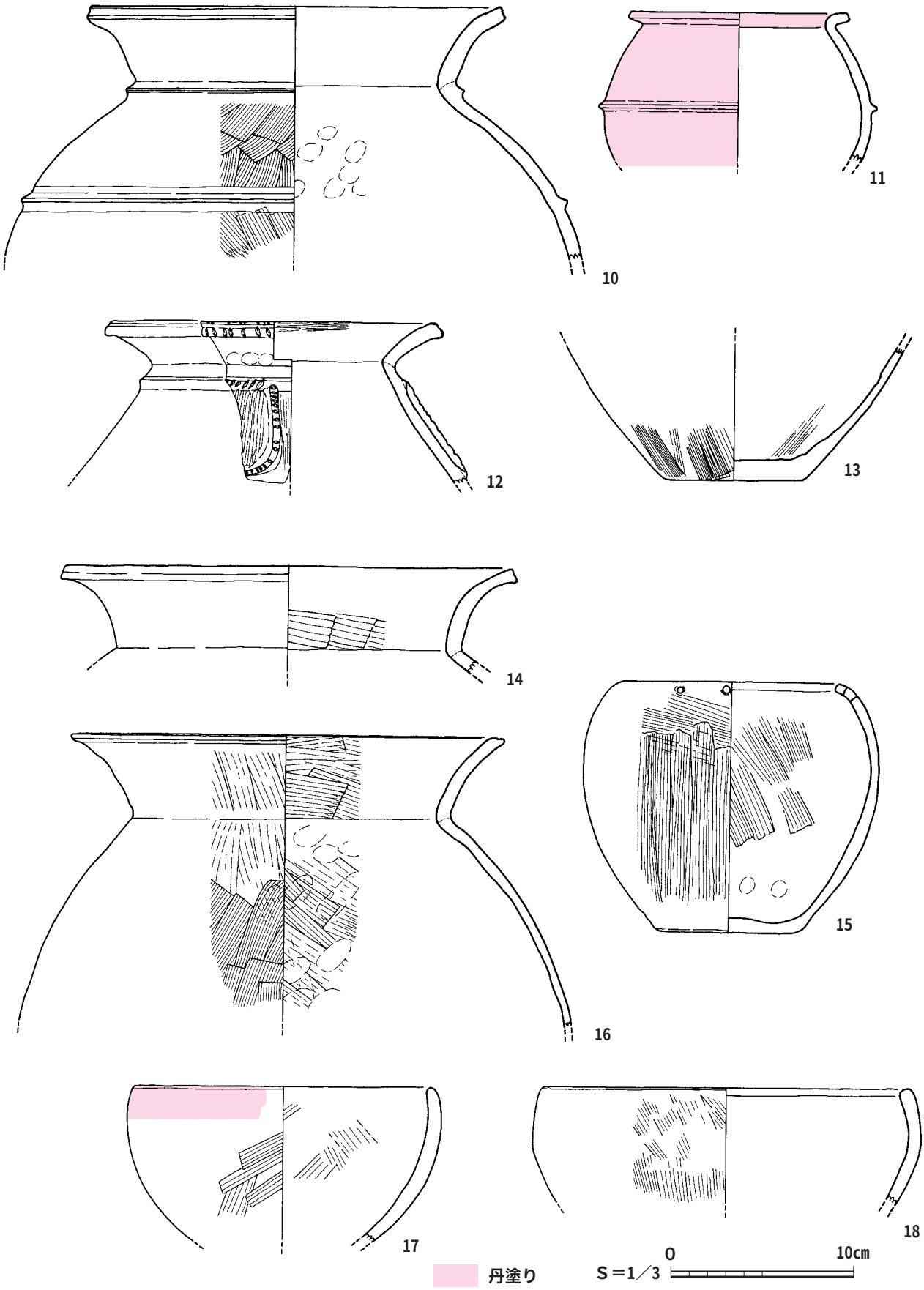
［**切り合い関係**］無し。

［**遺構の性格**］土器の集中部があったが、プランがつかめなかった。土器溜め、あるいはただ単に窪地に土器が流されて溜まっただけの可能性も否定できないが、土器が破棄された様相を示すため、弥生時代の何らかの遺構であると考えたい。プランが判明しなかったため、１ｍごとのメッシュで一括取り上げを行った。

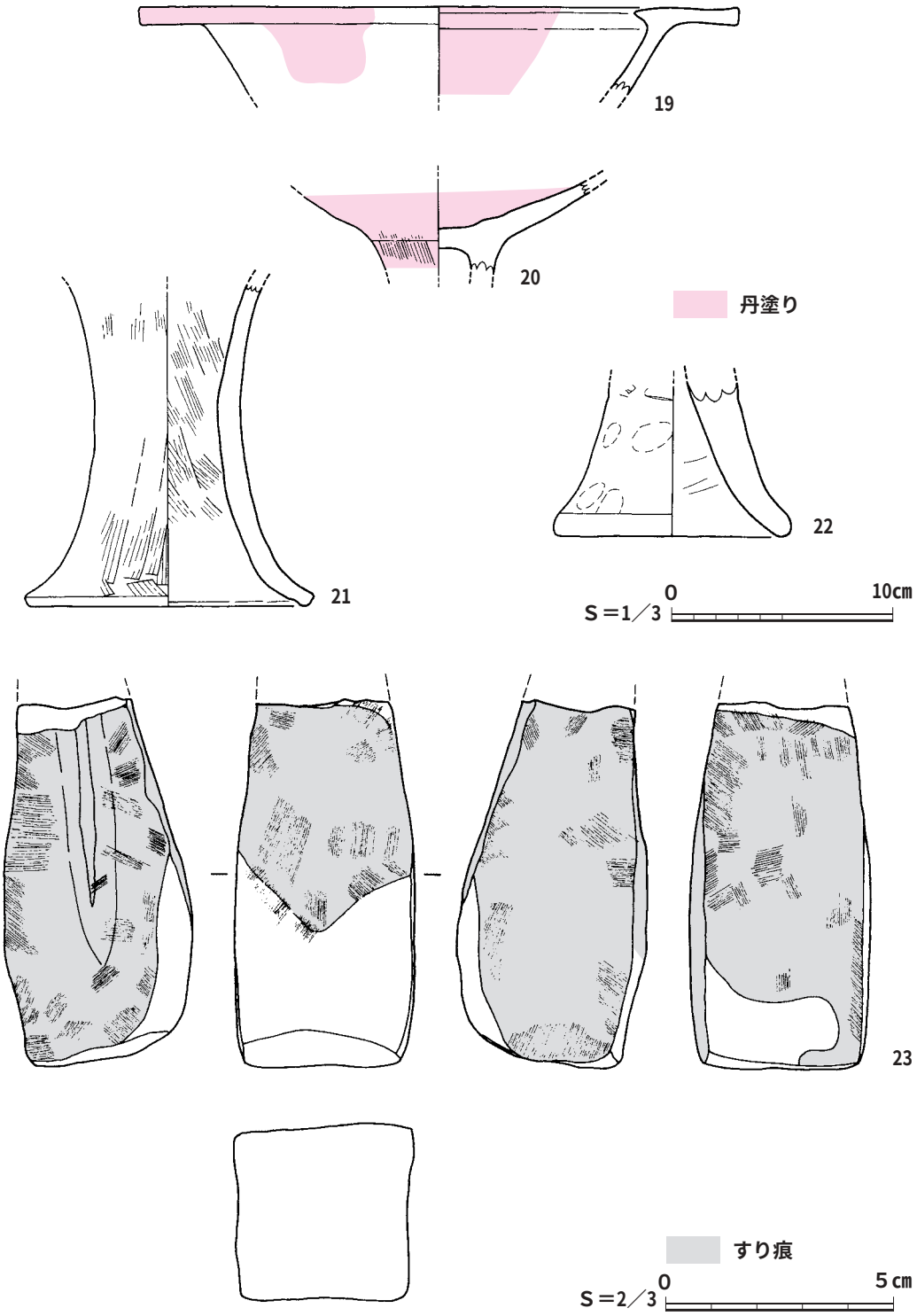
［**遺物の出土状況**］１層の中に捨てられた様な状態で出土した。



図(Fig)206　S091出土遺物実測図（１）



図(Fig)207　S091出土遺物実測図（２）



図(Fig)208　S091出土遺物実測図（３）

［出土遺物量］

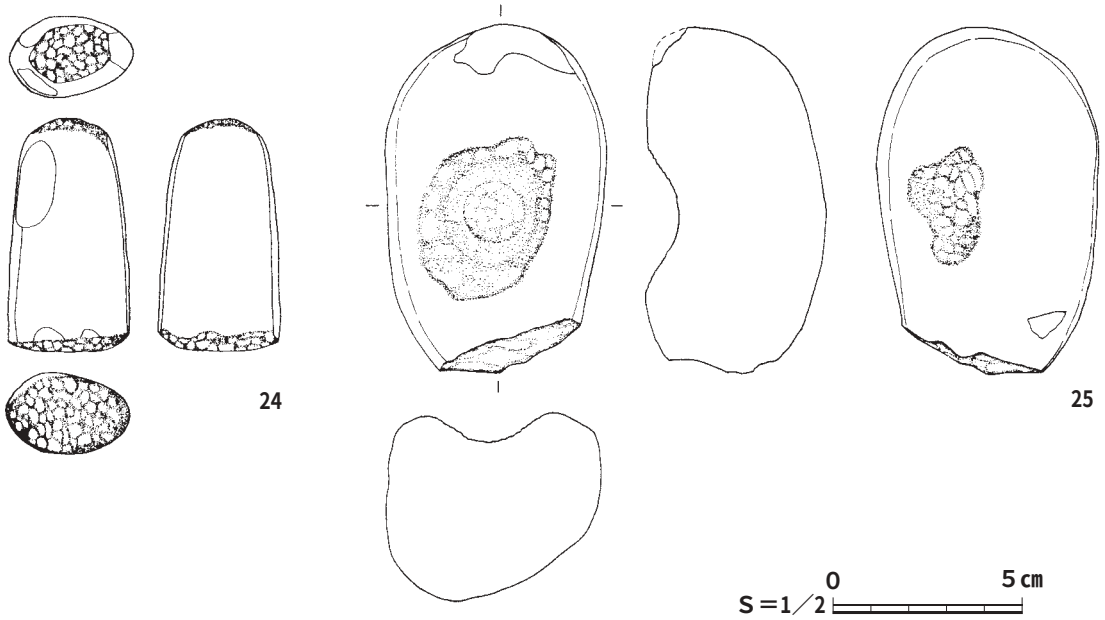
S091から出土した遺物は、中グレーコンテナ(38㎝×58㎝×15㎝）約12箱分で、総重量63,059ｇであった。内訳は縄文土器（21片：370ｇ)、弥生土器62,428ｇ（内丹塗り土器は3,528ｇ)、中世の白磁２ｇ、青磁51ｇ、瓦質土器170ｇ、近世以降の陶器５ｇ、磁器10ｇであった。

［出土遺物の観察］

出土した弥生土器片は口縁部の様相は中期と後期の様相を示すものが混在していたが、中期の様相が主体的を占めた。

ここでは22点の土器と３点の石器を紹介する。

１は、甕形土器の口縁部である。やや後期的な様相を示すが、口唇部はM字状にややくぼむ。ｃ－３



図(Fig)209　S091出土遺物実測図（４）

からの出土である。

２は、甕形土器の口縁部である。外面にハケ目が残る。口縁部形態はやや後期的な様相を示す。ｄ－１からの出土である。

３は、甕形土器は壺形土器のの口縁部である。丹塗りと思われる赤い色調が内外面に見られる。須玖Ⅱ式土器の範疇で捉えられる土器と考えられる。ｄ－３から２点、ｅ－３から１点の計３点が接合している。

４は、甕形土器の口縁部である。外面にハケ目が残る。口縁部形態は立岩式の様相を示す。ｆ－２からの出土である。

５、７は、甕形土器の口縁部である。内外面にハケ目が残る。口縁部形態は黒髪式の様相を示す。５は、ｅ－４、５、６から１点ずつ、ｆ－４から２点の計５点が接合している。７は、ｄ－５からの出土である。

６は、甕形土器の口縁部である。刻み目突帯になっている。ベルト一括遺物である。

８は、甕形土器の口縁部及び胴部である。内外面にハケ目が残る。口縁部形態は後期的な様相を示す。ｇ－２から１点、ｆ－２から１点、ｅ－５から２点の計４点が接合している。

９は、甕形土器の脚台部及び胴部である。外面にハケ目が残る。計29点が接合している。

10は、壺形土器の口縁部及び胴部上半部である。外面にはハケ目が残り、頸部と胴部に1条ずつの突帯が巡る。内面は指頭圧痕が残る。ベルトから６点、ｆ－１から３点、ｆ－２から4点、ｇ－２から１点の計14点が接合している。

11は、壺形土器である。外面の胴部中央部には１条の突帯が巡る。丹塗りは外面と内面の口縁部にも見られる。ｄ－２から出土している。

12は、壺形土器の口縁部及び胴部上半部である。外面にはハケ目が残り、刻み目のついた鉤の手状の貼り付けが見られる。また、頸部下には1条の刻み目突帯が巡る。口唇部にも刻み目が見られる。ｄ－５からの出土である。

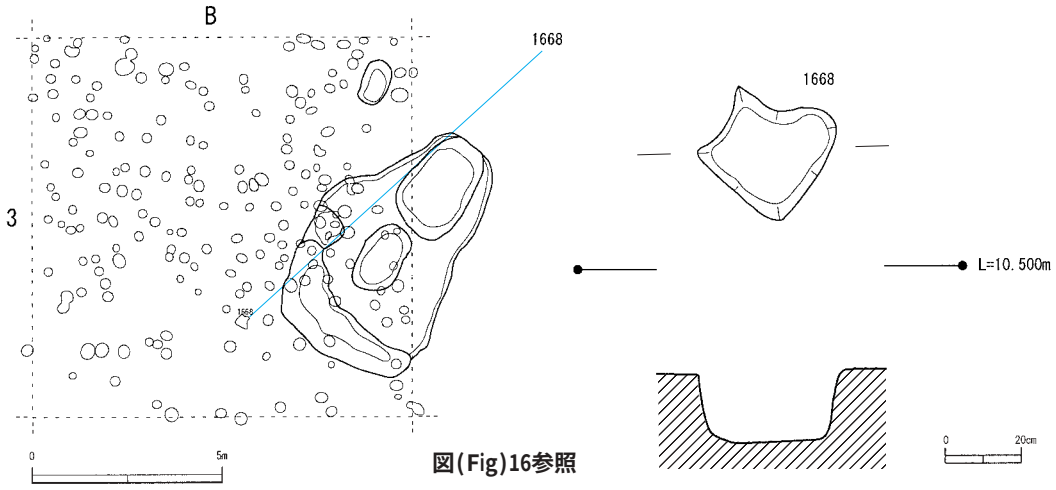
13は、甕形土器か壺形土器の底部である。内外面にハケ目が残る。ｆ－２から１点とｅ－２から１点の計２点が接合している。

14は、壺形土器の口縁部である。内面にはハケ目が残る。ｅ－３から３点、ｆ－３から１点の計４点が接合している。

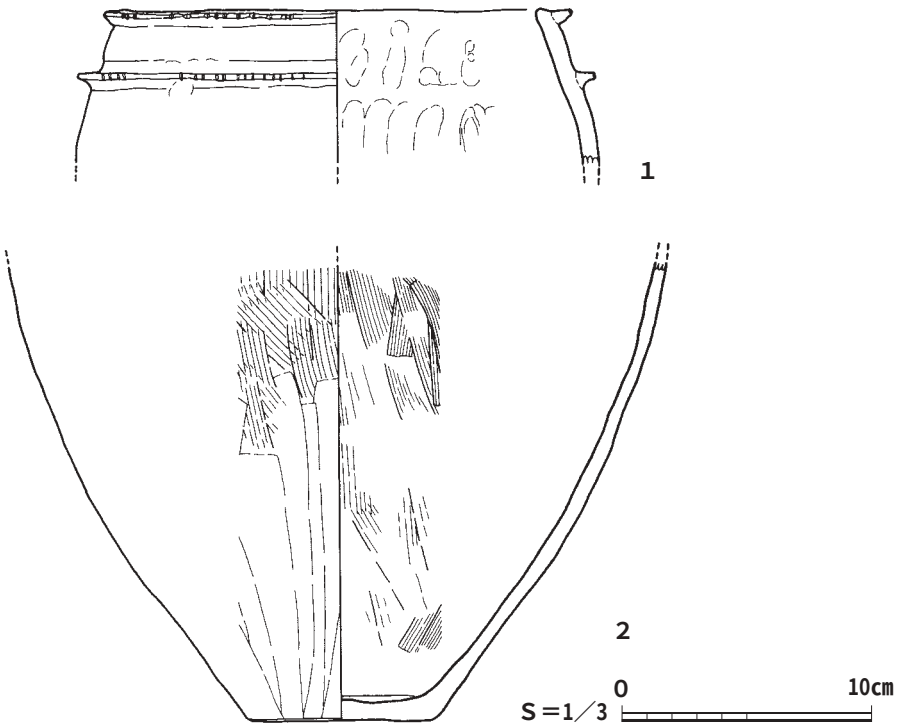
15は、無頸壺である。内外面にはハケ目が残る。また、蓋を固定するための穿孔が２箇所に見られる。ｅ－５出土10点が接合している。

16は、壺形土器の口縁部及び胴部上半部である。外面にハケ目、内面にはハケ目後の指頭圧痕が残る。ｌ－４とｅ－５出土遺物の17点が接合している。

17は、鉢形土器である。内外面にハケ目が残る。外面には丹塗りと思われる色調の赤い部分が見られ



図(Fig)210　ピット1668位置図及び実測図



図(Fig)211　ピット1668出土遺物実測図

る。ａ－６から出土している。

18は、鉢形土器の胴部上半部である。外面にハケ目が残る。ｆ－４から出土している。

19は、丹塗り高杯形土器の口縁部である。須玖Ⅱ式土器の範疇で捉える事ができよう。ｅ－３から出土している。

20は、丹塗り高杯形土器の杯部と脚部の接合部である。外面にハケ目が残る。19と同一個体の可能性が高い。ｆ－８から出土している。

21は、器台である。上部が一部欠損している。内外面にハケ目が残る。ｅ－３から出土している。

22は、器台の下半部である。外面には指頭圧痕が残る。21と比較してやや作りが雑で器壁が厚い。ｂ－１から出土している。

23は、砥石である。石材は砂岩である。全体的に被熱による赤変が見られ、上部が一部欠損している。磨り面は４面に観察され、１面には細長い筋状の磨り痕も見られる。ベルト出土遺物である。

24は、棒状の敲石である。石材は、安山岩質であると考えられる。上下側面に敲打痕が見られる。形

状は民俗例で挙げられるトチを割るための石器に酷似する。堅果類の加工具に利用されたものかもしれない。出土層不明遺物である。

25は、凹石である。石材は、火成岩である。表裏面に敲打痕による凹面が見られる。下側面には敲打痕が顕著に残ることから敲石としての機能も併せ持つ石器であるといえる。出土層不明遺物である。

〔④ピット〕

【NO.1668】（図210、211参照）

［確認位置］調査１区、Ｂ－３グリッド。

標高約10.23m。

［形状］不定形

［大きさ］長軸：30㎝、短軸：27㎝、深さ：約18㎝。

［覆土］１層（黒褐色砂質土）。

［切り合い関係］無し。

［遺構の性格］不明。時期は弥生前期後半期と考えられる遺物を持つが不明である。

［遺物の出土状況］ピットの中に捨てられた様な状態で出土した。

［出土遺物量］

出土した遺物は、小グレーコンテナ（38㎝×58㎝×５㎝）約1/2箱分で全て弥生土器であった。

［出土遺物の観察］

ここでは２点の弥生土器を紹介する。

１は、甕形土器の口縁部及び胴部上半部である。復元口径は、18.4㎝。口縁部と胴部上部にそれぞれ１条ずつの刻み目突帯を持つ。内面には指頭圧痕が見られる。弥生時代前期後半期の土器と考える。S140で出土した甕形土器と同様に、この遺跡で弥生時代の土器の中では一番古いものである。

２は、甕形土器か壺形土器の底部及び胴部下半部である。内外面にはハケ目が残る。26点が接合している。

４）中世（16基）

①土壙墓（４軒）

【S013】（図212参照）

［確認位置］調査２区、Ｓ－９グリッド。

標高約10.3m。

［形状］楕円形

［大きさ］長軸：152㎝、短軸：73㎝、深さ：10㎝。

［覆土］１層。

［切り合い関係］S023を切る。

［遺構の性格・年代］人骨は確認できなかったが、遺構の形状や土師皿及び土師杯が並べられた状態で出土していることから土壙墓と判断した。出土遺物はスラグも含まれており、熱による赤変が見られる礫なども確認された。推定埋葬状態は、頭部を北にした屈葬ではなかったかと考えられる。

出土した土師皿や杯の口径から美濃口氏の編年案による６期（12世紀後半）にあたると考えられる。

［遺物の出土状況］ほぼ完形の土師皿及び土師杯が並べられた状態で出土。遺構に伴う遺物と考えられる。

［出土遺物量］

S013から出土した遺物は土師皿３点、土師杯２点、スラグ１点のほか、弥生土器195g（内丹塗り土器は20g）が混入した状態で出土した。

［出土遺物の観察］

ここでは土師皿３点と土師杯２点の計５点をを紹介する。スラグは写真のみで紹介する。

１は、土師器の小皿で完形の資料である。口径は8.5㎝、底径は5.8㎝、器高は1.2㎝。見込み部はナデ調整、底部は糸切り離し。

２は、土師器の小皿で完形の資料である。口径は8.8㎝、底径は6.3㎝、器高は1.6㎝。見込み部はナデ調整、底部は糸切り離し。

３は、土師器の杯でほぼ完形の資料である。口径は14.9㎝、底径は8.8㎝、器高は3.5㎝。見込み部はナデ調整、底部はヘラ離しと考えられる。

４は、土師器の杯でほぼ完形の資料ある。復元口径は15.0㎝、復元底径は9.7㎝、器高は2.7㎝。見込み部はナデ調整、底部は糸切り離しかヘラ離しと考えられるが不明である。

５は、土師器の小皿でほぼ完形の資料である。口径は8.3㎝、底径は6.0㎝、器高は1.2㎝。見込み部はナデ調整で、底部は糸切り離しと考えられる。

【S065】（図213、214参照）

［確認位置］調査１区、Ｂ－２グリッド。

標高約10.32m。

［形状］楕円形

［大きさ］長軸：125㎝、短軸：68㎝、深さ：10～12㎝。

［切り合い関係］無し。

［遺構の性格・年代］人骨は確認できなかったが、遺構の形状、土師皿及び土師杯の出土状態や鉄釘が出土していることから土壙墓と判断した。推定埋葬状態は、頭部を西にした屈葬ではなかったかと考えられる。

出土した土師皿や杯の口径から美濃口氏の編年案による９期（13世紀前半～中葉）にあたる。また、出土青磁は、山本氏の太宰府土器型式と国産陶器・貿易陶器編年による時期区分でＥ期（13世紀前後～前半）にあたる。よって13世紀前半の時期と推定されよう。

［遺物の出土状況］礫が混ざりながら、完形遺物を含んで出土。やや浮いた状況であるが、遺構に伴う遺物と考えられる。

［出土遺物量］

S065から出土した遺物は土師皿３点、土師杯４点、鉄釘１点、中世須恵器57g、青磁212g、瓦質土器40gのほか、縄文土器152g（１点）と弥生土器1,000gが混入した状態で出土した。

［出土遺物の観察］

ここでは土師皿３点、土師杯４点、青磁２点、瓦器椀１点、瓦質の鉢１点と鉄釘１点の計12点を紹介する。

１は、土師器の小皿で完形の資料である。口径は7.5㎝、底径は6.3㎝、器高は1.1㎝。見込み部はナデ調整、底部は糸切り離し。

２は、土師器の小皿で完形の資料である。口径は8.1㎝、底径は7.0㎝、器高は1.3㎝。見込み部はナデ調整、底部は切り離し後、板状の圧痕が観察される。

３は、土師器の小皿で完形の資料である。口径は8.2㎝、底径は7.5㎝、器高は1.4㎝。見込み部はナデ調整、底部は切り離し後、簾状の圧痕が観察される。

４は、瓦器椀の体部下半部である。内面はナデ、外面は回転ヘラ削り調整である。

５は輸入磁器で龍泉窯系青磁椀Ⅱ－ｂ類の底部及び体部下半部である。内外面共に釉がかかり、外面にはヘラの片彫りによる鎬蓮弁文が確認される。山本氏の太宰府土器型式と国産陶器・貿易陶器編年による時期区分でＥ期（13世紀前後～前半）にあたる。

６は輸入磁器で龍泉窯系青磁椀Ⅱ－ｂ類の口縁部である。内外面共に釉がかかり、外面にはヘラの片彫りによる鎬蓮弁文が確認される。山本氏の太宰府土器型式と国産陶器・貿易陶器編年による時期区分でＥ期（13世紀前後～前半）にあたる。

７は、瓦質の鉢で、底部の一部である。外面にハケ目と指頭圧痕が観察される。

８は、土師器の杯でほぼ完形の資料ある。口径は12.4㎝、底径は10.0㎝、器高は2.8㎝。見込み部はナデ調整、底部は糸切り離しと考えられる。左右非対称である。

９は、土師器の杯でほぼ完形の資料ある。口径は13.0㎝、底径は11.1㎝、器高は2.4㎝。見込み部はナデ調整、底部は糸切り離し後板状の圧痕が残る。左右非対称である。

10は、土師器の杯でほぼ完形の資料ある。口径は12.2㎝、底径は10.3㎝、器高は2.4㎝。見込み部はナデ調整、底部は不明である。

12は、土師器の杯でほぼ完形の資料である。口径は12.9㎝、底径は10.9㎝、器高は3.2㎝。見込み部はナデ調整、底部は糸切り離し後板状の圧痕が残る。

13は、鉄釘である。残存3.6㎝、厚さ0.4～0.8㎝であるが、下半部が欠損している。木棺に使用された可能性が考えられる。

【S066】（図213、214参照）

［確認位置］調査１区、Ｂ－３グリッド。

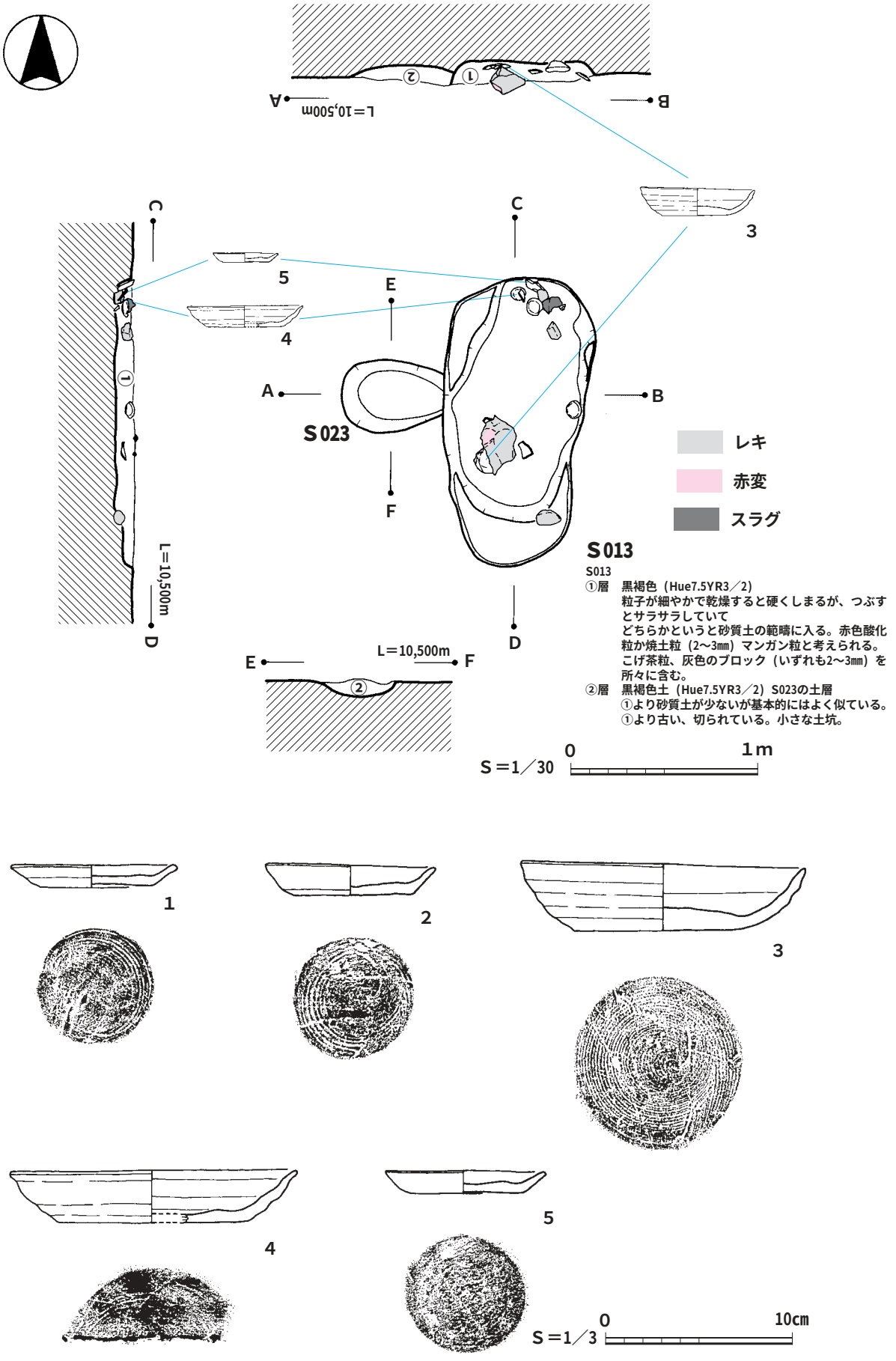
標高約10.3m。

［形状］楕円形

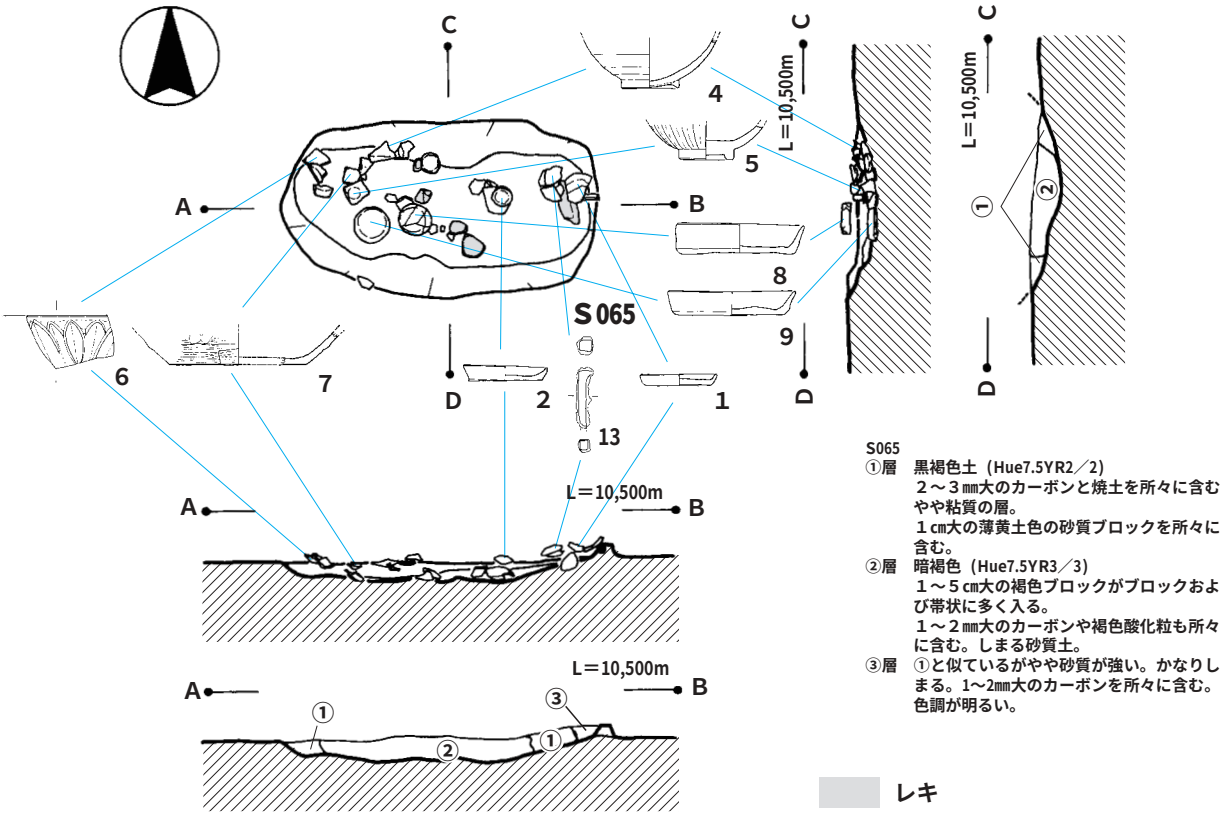
［大きさ］長軸：152㎝、短軸：73㎝、深さ：10㎝。

［覆土］１層。

［切り合い関係］無し。

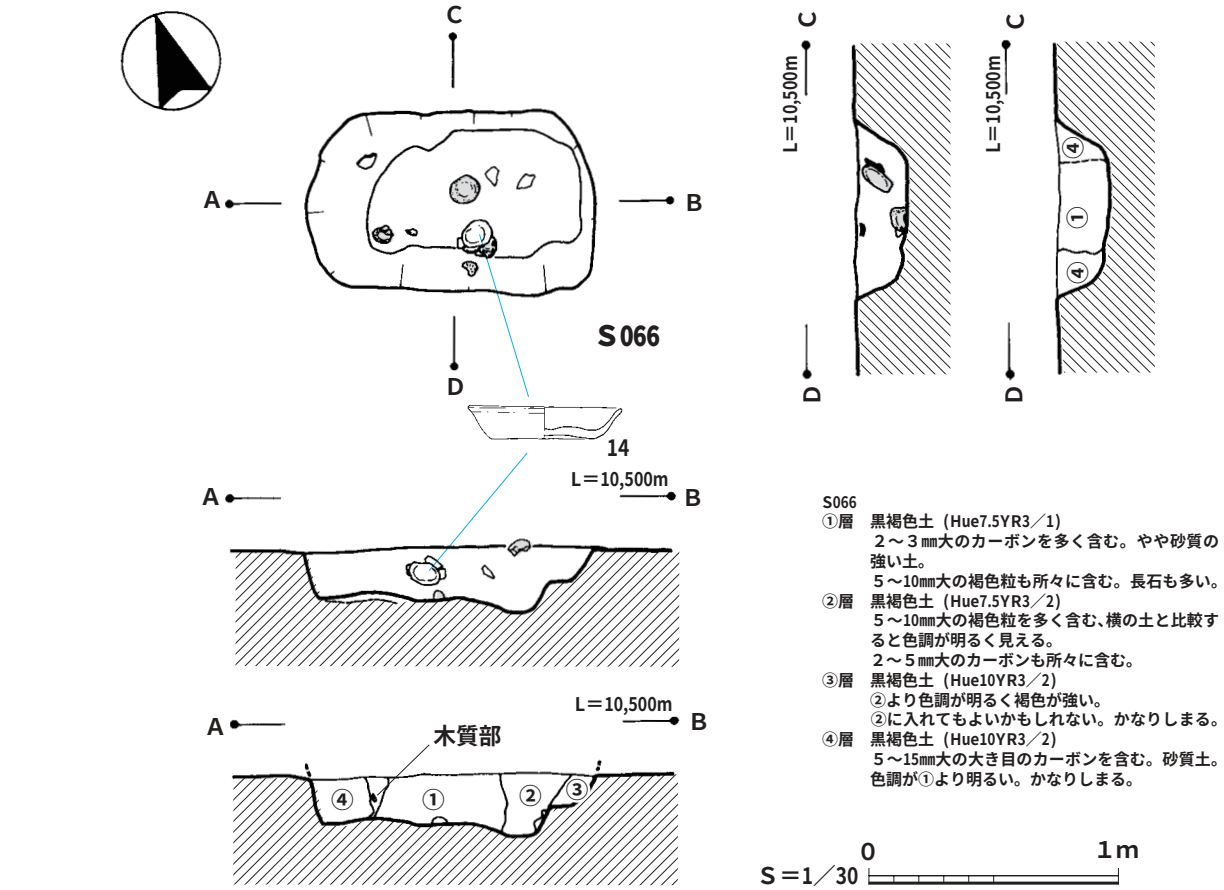


図(Fig)212　土壙墓（S013）土坑（S023）実測図及び出土遺物実測図



S065
①層　黒褐色土（Hue7.5YR2／2）
２～３㎜大のカーボンと焼土を所々に含むやや粘質の層。
１㎝大の薄黄土色の砂質ブロックを所々に含む。
②層　暗褐色（Hue7.5YR3／3）
１～５㎝大の褐色ブロックがブロックおよび帯状に多く入る。
１～２㎜大のカーボンや褐色酸化粒も所々に含む。しまる砂質土。
③層　①と似ているがやや砂質が強い。かなりしまる。1～2㎜大のカーボンを所々に含む。色調が明るい。

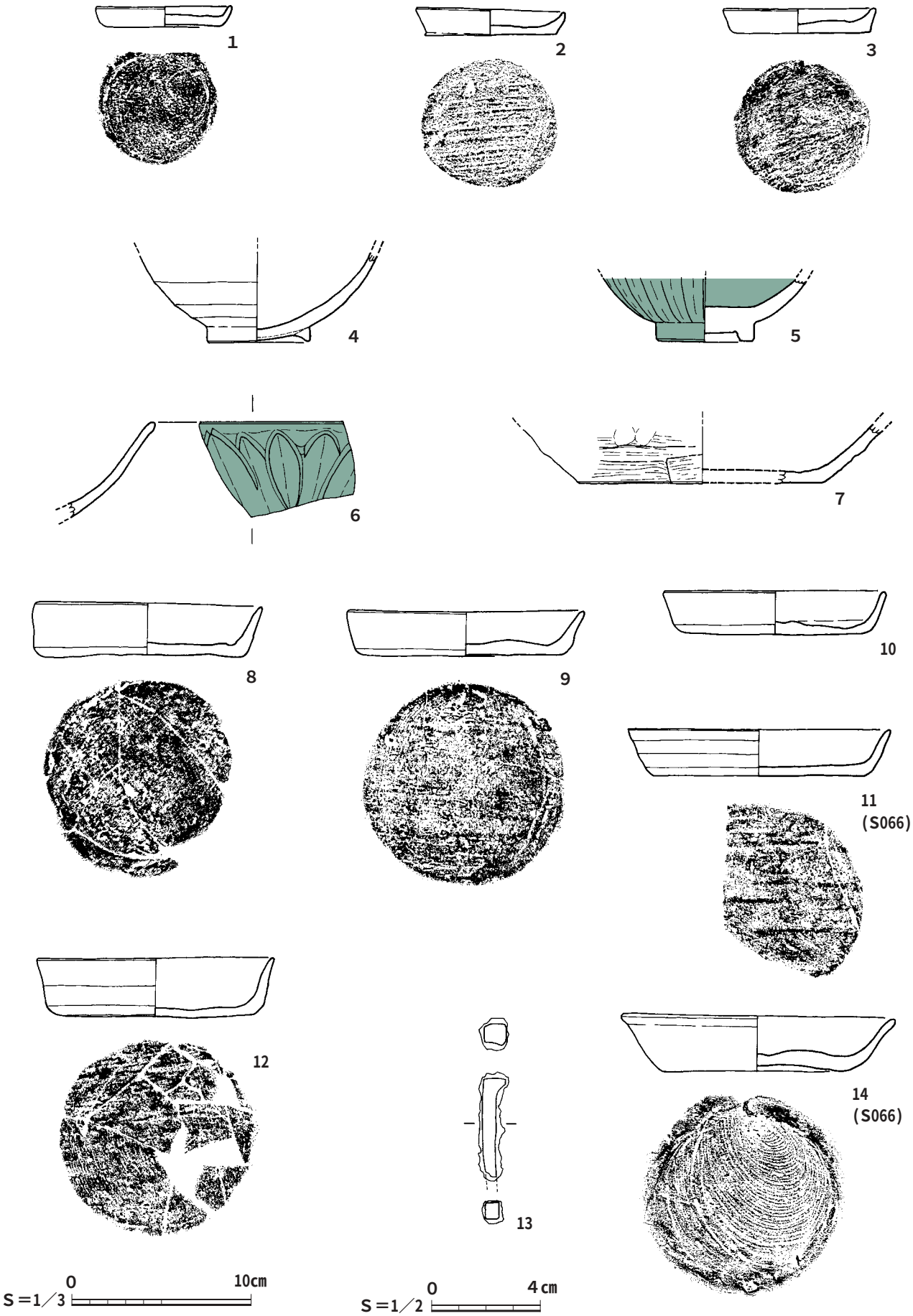
レキ



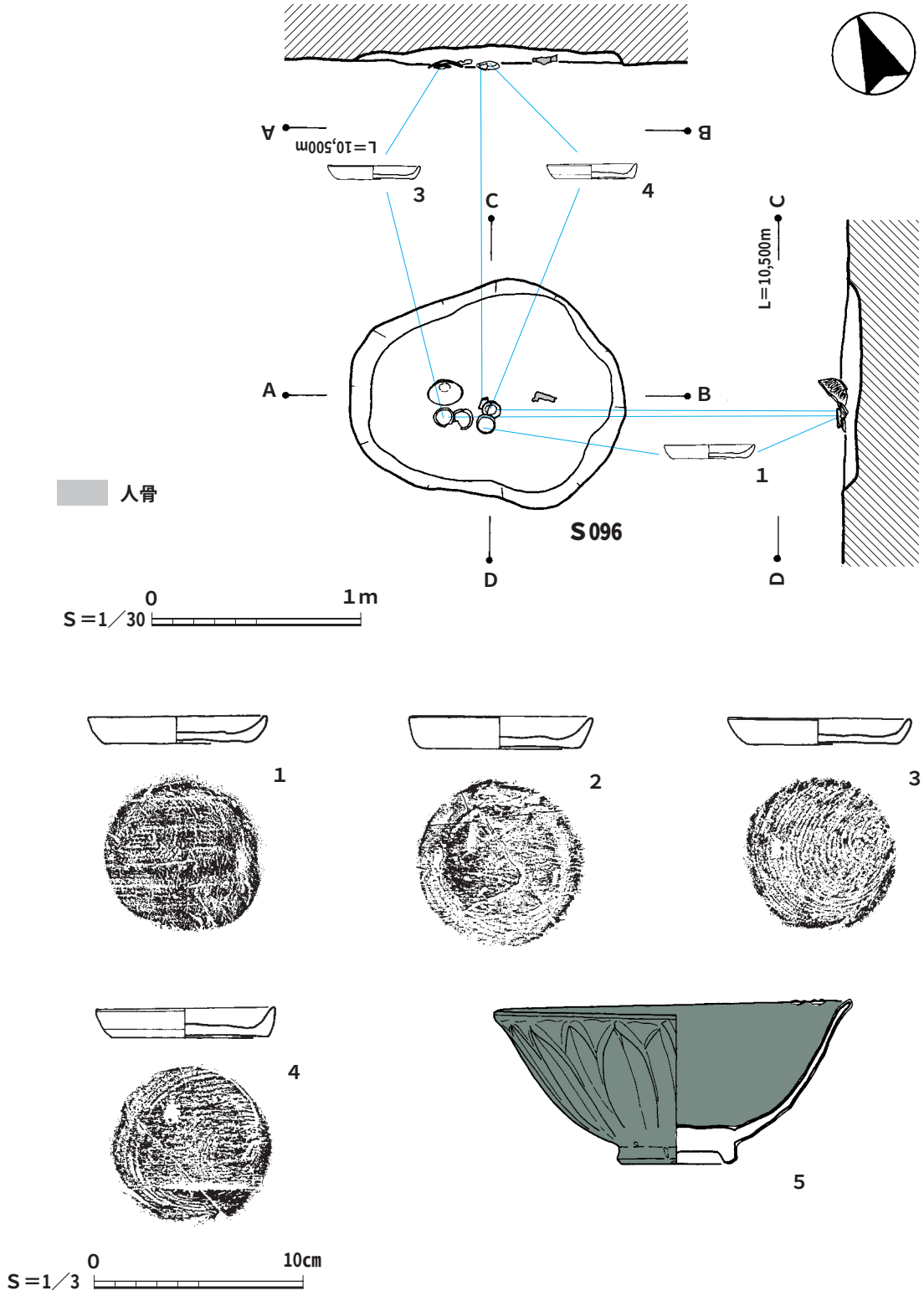
S066
①層　黒褐色土（Hue7.5YR3／1）
２～３㎜大のカーボンを多く含む。やや砂質の強い土。
５～10㎜大の褐色粒も所々に含む。長石も多い。
②層　黒褐色土（Hue7.5YR3／2）
５～10㎜大の褐色粒を多く含む、横の土と比較すると色調が明るく見える。
２～５㎜大のカーボンも所々に含む。
③層　黒褐色土（Hue10YR3／2）
②より色調が明るく褐色が強い。
②に入れてもよいかもしれない。かなりしまる。
④層　黒褐色土（Hue10YR3／2）
５～15㎜大の大き目のカーボンを含む。砂質土。色調が①より明るい。かなりしまる。

S＝1／30　0　1m

図(Fig)213　土壙墓（S065・S066）実測図



図(Fig)214　S065・S066出土遺物実測図



図(Fig)215　土壙墓（S096)実測図及び出土遺物実測図

［遺構の性格・年代］人骨は確認できなかったが、遺構の形状、完形土師皿の出土、覆土が縦に分層できることや木質部が残存していたことから土壙墓と判断した。また、木質部が残存していたことは木棺墓であった可能性を示唆するものと考える。推定埋葬状態は、頭部の位置は不明だが、屈葬ではなかったかと考えられる。

出土した土師杯２点だけでは、時期の推定は難し

いが、口径が15.0㎝であることを考慮して美濃口氏の編年案にあてはめると４期（11世紀末～12世紀初頭）～７期（12世紀末）の間に推定されよう。

［遺物の出土状況］完形の土師杯がやや浮いた状態で出土しているが、遺構に伴う遺物と考えられる。

［出土遺物量］

S066から出土した遺物は土師杯２点と瓦質土器60gのほか、弥生土器272gが混入した状態で出土した。

［出土遺物の観察］

ここでは土師杯２点を紹介する。

11は、土師器の杯である。復元口径は14.3㎝、復元底径は11.7㎝、器高は2.5㎝。見込み部はナデ調整、底部は糸切り離し後板状の圧痕が残る。

14は、土師器の杯でほぼ完形の資料ある。口径は15.0㎝、底径は10.0㎝、器高は3.0㎝。見込み部はナデ調整、底部は糸切り離しである。

【S096】（図215参照）

［確認位置］調査１区、Ｃ－４グリッド。

標高約10.2m。

［形状］楕円形

［大きさ］長軸：130㎝、短軸：110㎝、深さ：10～14㎝。

［覆土］１層。

［切り合い関係］S044を切る。

［遺構の性格・年代］人骨の一部が残存していた。形状から大腿骨の上部（寛骨との付け根部分？）ではないかと考えられる。土師皿４枚及び龍泉窯系青磁碗の完形が並べられた状態で出土していることから土壙墓と判断した。副葬品として龍泉窯系青磁碗の完形が納めされていることから、屋敷墓と考えられる。推定埋葬状態は、頭部を北西にした屈葬ではなかったかと考えられる。

出土した土師皿の口径から美濃口氏の編年案による８期（13世紀初頭）～９期（12世紀前半～中葉）にあたると考えられる。一方、出土龍泉窯系青磁碗は、山本氏の太宰府土器型式と国産陶器・貿易陶器編年による時期区分でＥ期（13世紀前後～前半）にあたる。よって13世紀初頭～前半の時期と推定されよう。

［遺物の出土状況］完形の土師皿４枚及び完形の龍泉窯系青磁碗１点が並べられた状態で出土。

［出土遺物量］

S096から出土した遺物は土師皿４点と完形の龍泉窯系青磁碗１点のみである。

［出土遺物の観察］

ここでは土師皿４点と龍泉窯系青磁碗１点の計５点を紹介する。

１は、土師器の小皿で完形である。口径は8.3㎝、底径は6.8㎝、器高は1.3㎝。見込み部はナデ調整、底部は糸切り離し後板状の圧痕が残る。また、切り離し時についたと考えられる指頭圧痕も見られる。

２は、土師器の小皿でほぼ完形である。口径は8.5㎝、底径は7.3㎝、器高は1.5㎝。見込み部はナデ調整、底部は糸切り離しの痕跡が残る。

３は、土師器の小皿でほぼ完形である。口径は8.5㎝、底径は6.0㎝、器高は1.2㎝。見込み部はナデ調整、底部は糸切り離しの圧痕が残る。

４は、土師器の小皿で完形である。口径は8.4㎝、底径は7.3㎝、器高は1.4㎝。見込み部はナデ調整、底部は糸切り離し後板状の圧痕が残る。

５は輸入磁器で龍泉窯系青磁椀Ⅱ－ｂ類の完形品である。口径は16.8㎝、底径は5.0㎝、器高は7.7㎝。ひずみとひびが見られるが、内外面共に釉がかかり、外面にはヘラの片彫りによる鎬蓮弁文が確認される。山本氏の太宰府土器型式と国産陶器・貿易陶器編年による時期区分でＥ期（13世紀前後～前半）にあたる。

②土坑（11基）

【S010】（図216参照）

［確認位置］調査２区、Ｕ－８グリッド。

標高約10.5m。

［形状］楕円形

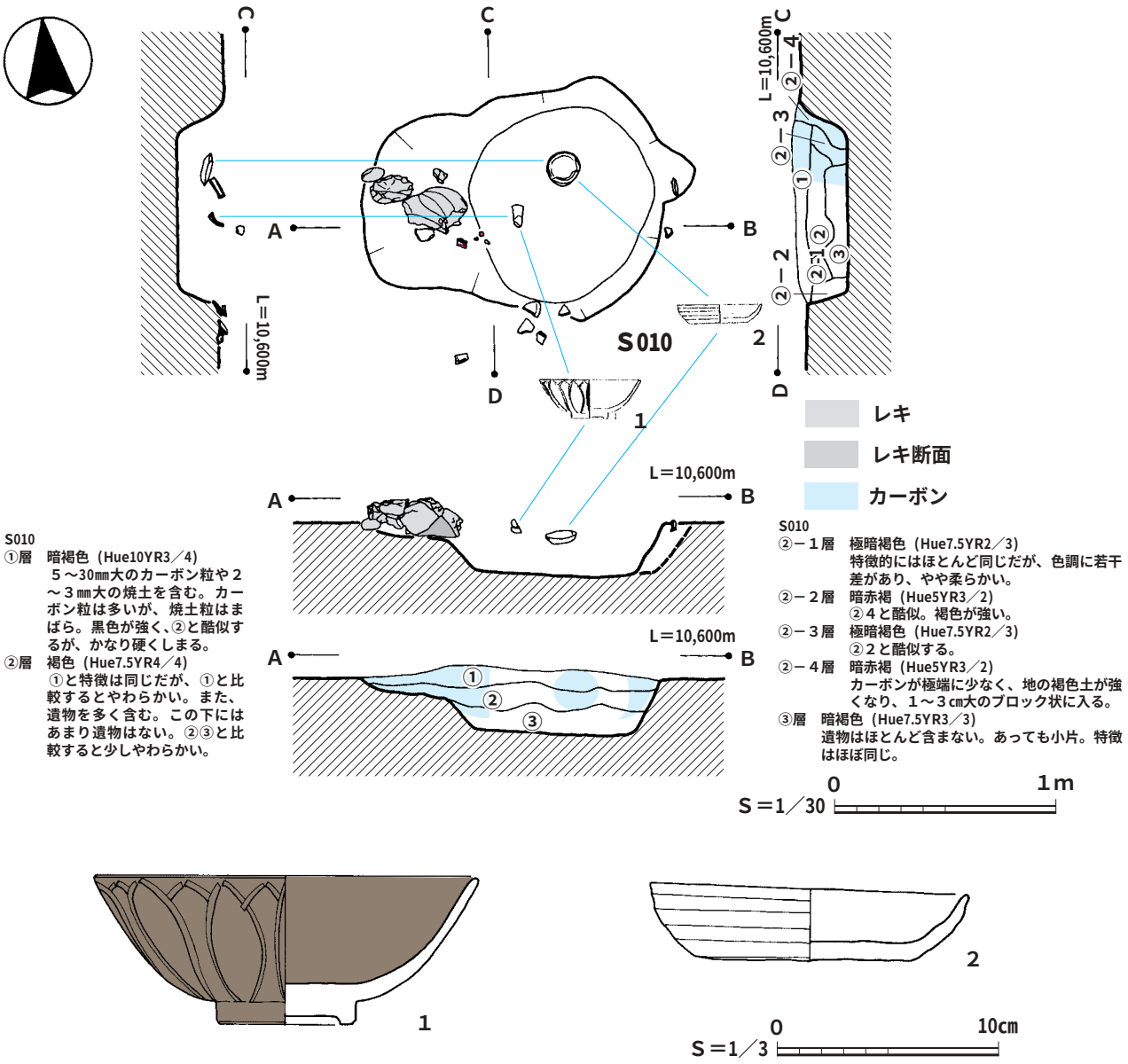
［大きさ］長軸：134㎝、短軸：110㎝、深さ：28㎝。

［覆土］大別３層、細分７層。

［切り合い関係］無し。

［遺構の性格・年代］覆土にはカーボンが多く混じっており、上面には大きな礫も観察された。土壙墓の可能性も考えられるが、詳細は不明である。

出土した土師杯の口径から美濃口氏の編年案によ



図(Fig)216　土坑（S010)実測図及び出土遺物実測図

る８期（13世紀初頭）にあたると考えられる。一方、出土龍泉窯系青磁碗は、山本氏の太宰府土器型式と国産陶器・貿易陶器編年による時期区分でＥ期（13世紀前後～前半）にあたる。よって13世紀初頭の時期と推定されよう。

［遺物の出土状況］ほぼ完形の土師杯等がやや浮いた状態で出土しているが、遺構に伴う遺物と考えられる。

［出土遺物量］

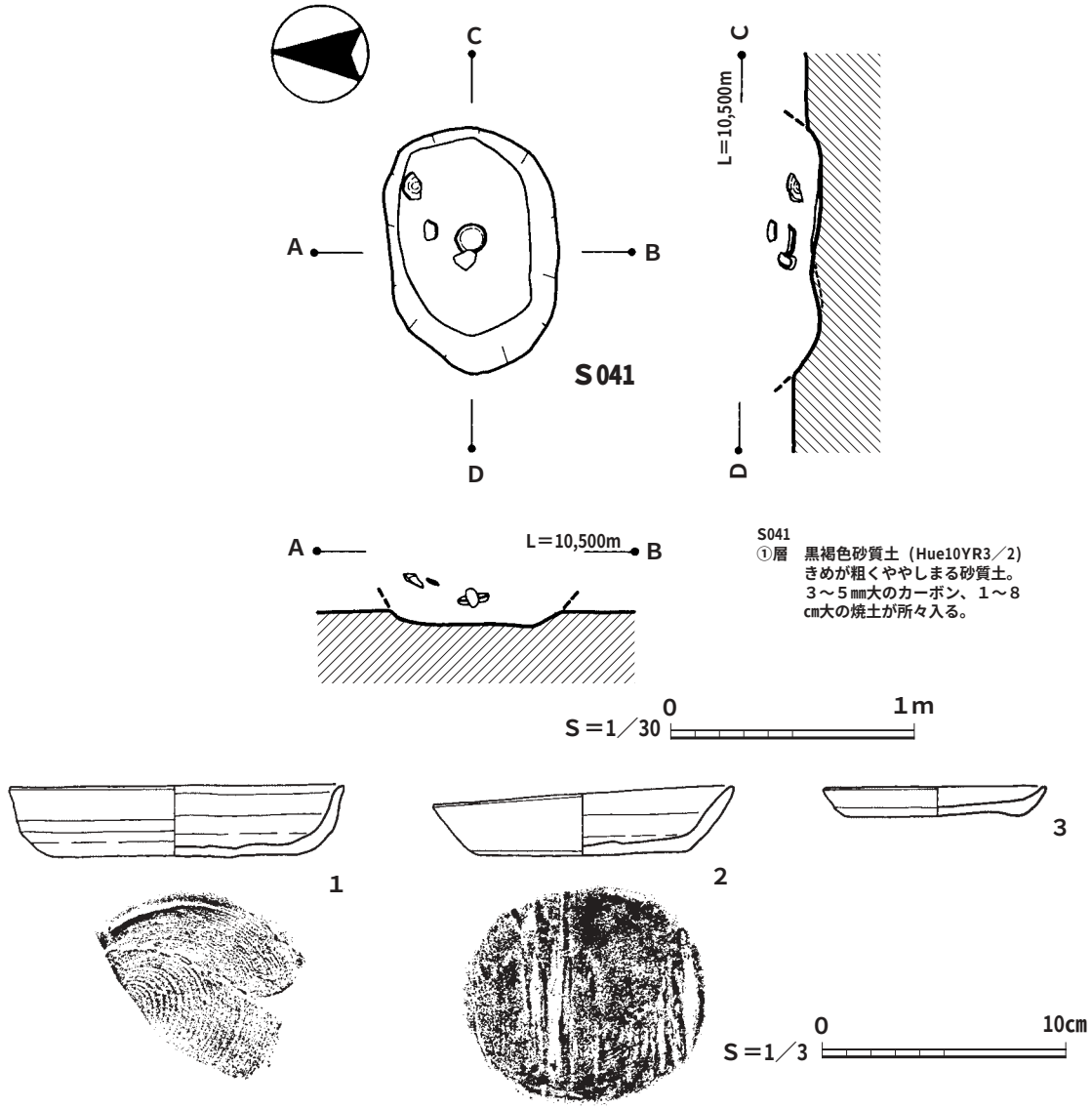
S010から出土した遺物は土師杯１点、青磁片１点、瓦器碗片１点、中世須恵器37gのほか、弥生土器679g（内丹塗り土器は21g）が混入した状態で出土した。

［出土遺物の観察］

ここでは土師杯１点と龍泉窯系青磁碗１点の計２点を紹介する。

１は輸入磁器で龍泉窯系青磁椀Ⅱ－ａ類の破片である。復元口径は17.2㎝、復元底径は6.7㎝、器高は6.3㎝。内外面共に釉がかかり、外面にはヘラの片彫りによる鎬のない蓮弁文が確認される。山本氏の太宰府土器型式と国産陶器・貿易陶器編年による時期区分でＥ期（13世紀前後～前半）にあたる。

２は、土師器の杯でほぼ完形の資料である。口径は14.0㎝、底径は9.7㎝、器高は3.1㎝。見込み部はナデ調整であるが、底部は不明である。



図(Fig)217　土坑（S041)実測図及び出土遺物実測図

【S041】（図217参照）

［確認位置］調査１区、Ｂ－４グリッド。

標高約10.25m。

［形状］楕円形

［大きさ］長軸：197㎝、短軸：136㎝、深さ：10～17㎝。

［覆土］１層。

［切り合い関係］無し。

［遺構の性格・年代］土壙墓の可能性も考えられるが、詳細は不明である。

出土した土師杯の口径から美濃口氏の編年案による９期（13世紀前半～中葉）にあたる。土師皿は復元口径のため正確ではないので、同じ９期でも良いのではないかと考えられる。

［遺物の出土状況］ほぼ完形の土師杯等がやや浮いた状態で出土。遺構に伴う遺物と考えられる。

［出土遺物量］

S041から出土した遺物は土師杯２点と土師皿１点のほか、弥生土器378gが混入した状態で出土した。

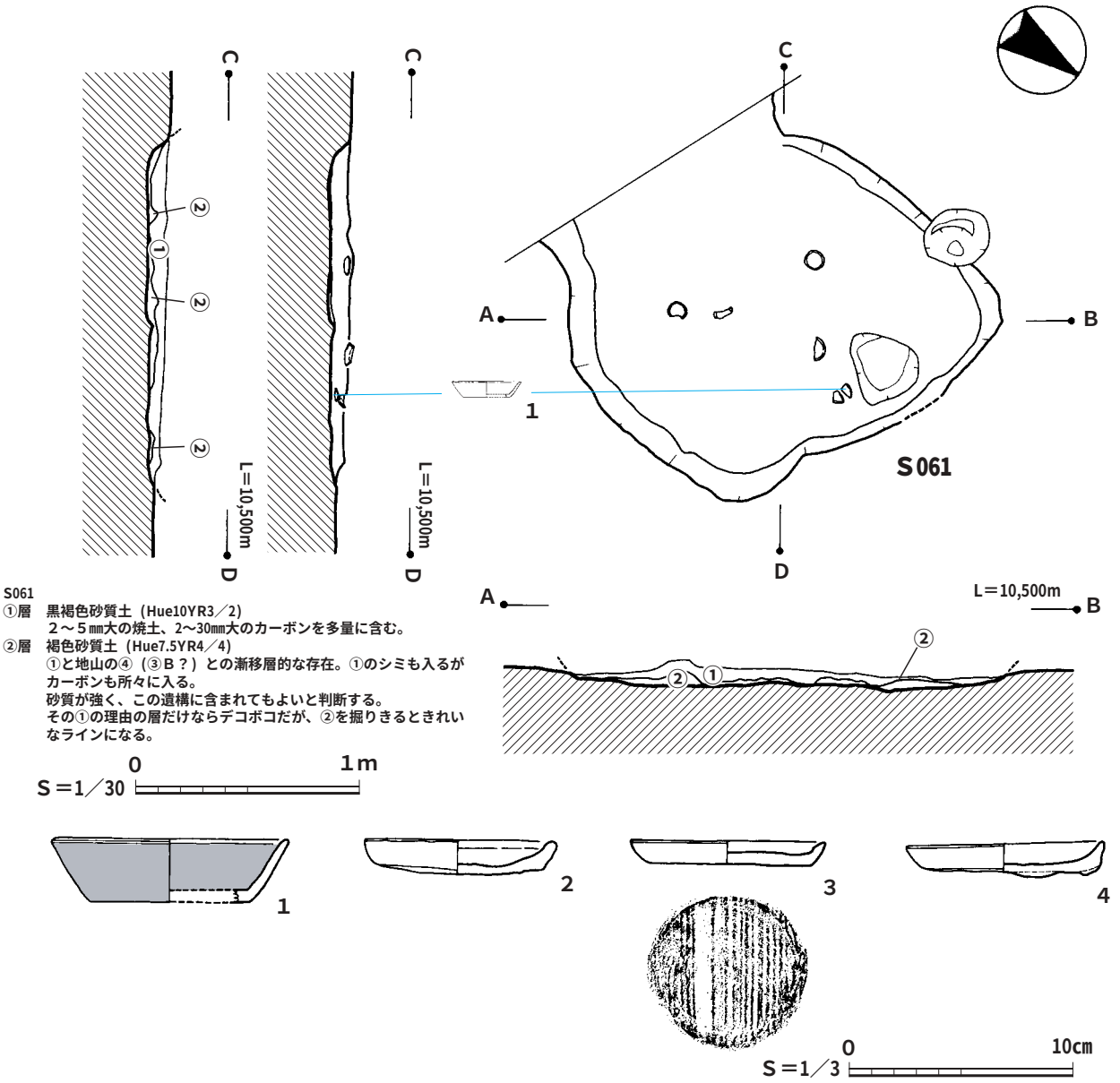
［出土遺物の観察］

ここでは土師杯２点と土師皿１点の計３点を紹介する。

１は、土師器の杯である。復元口径は13.4㎝、復元底径は10.3㎝、器高は2.8㎝。見込み部はナデ調整、底部は糸切り離しの圧痕が残る。

２は、土師器の杯でほぼ完形である。口径は12.2㎝、底径は8.4㎝、器高は2.5㎝。見込み部はナデ調整、底部は糸切り離し後、板状圧痕が残る。

３は、土師器の小皿である。復元口径は9.0㎝、



図(Fig)218　土坑（S061）実測図及び出土遺物実測図

復元底径は7.2㎝、器高は1.2㎝。見込み部はナデ調整、底部は不明である。

【S061】（図218参照）

［確認位置］調査１区、Ｂ－２グリッド。

標高約10.20m。

［形状］不定形

［大きさ］長軸：190㎝、短軸：160㎝～、深さ：７～11㎝。

［覆土］２層。

［切り合い関係］無し。

［遺構の性格・年代］土壙墓の可能性も考えられるが、詳細は不明である。

出土した白磁がＦ期（13世紀後半～14世紀前半）であるため、出土土師皿は、美濃口氏の編年案による10期（13世紀後半）～11期（13世紀末～14世紀前半）にあたると考えられる。

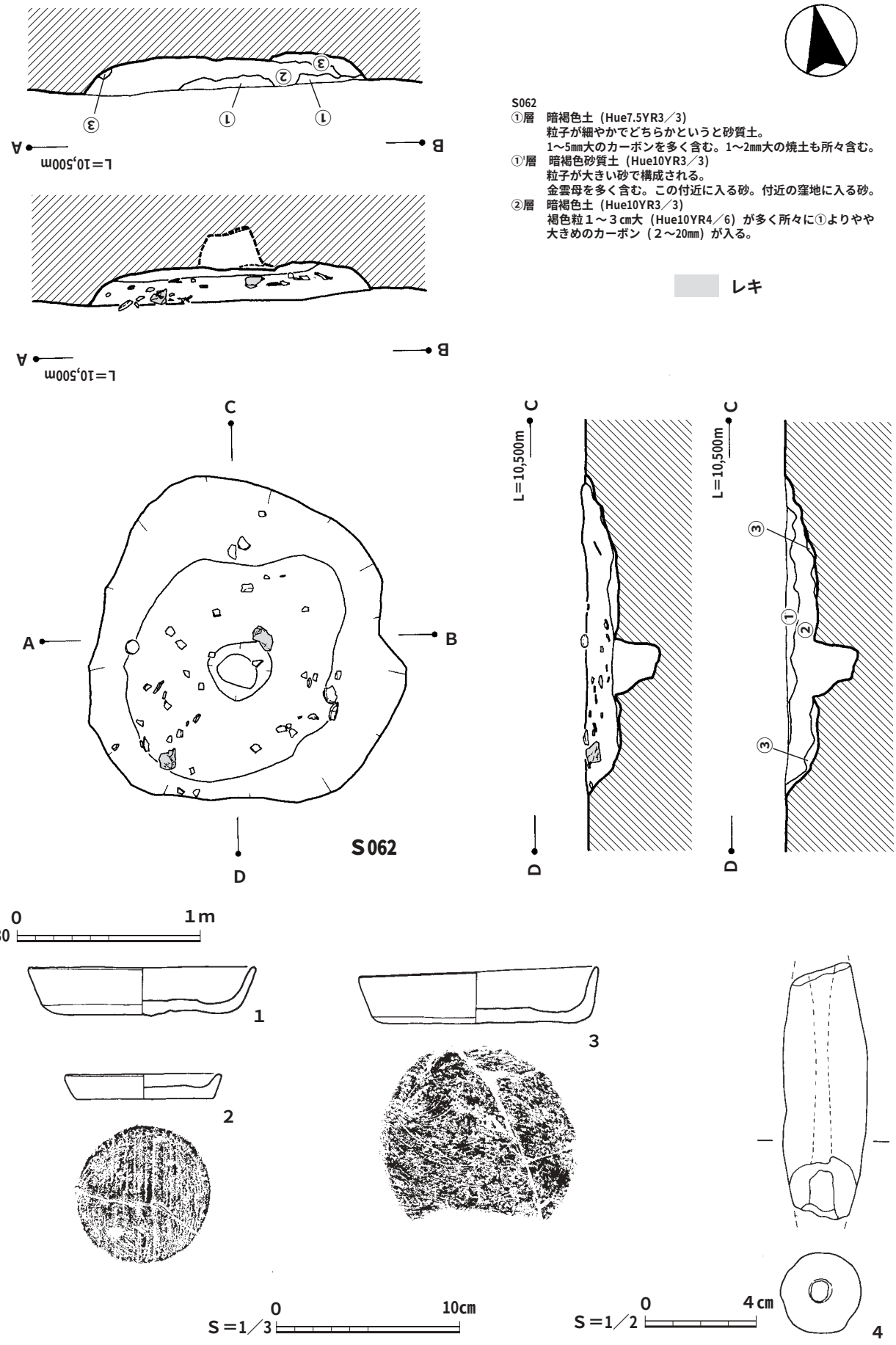
［遺物の出土状況］ほぼ完形の土師杯等がやや浮いた状態で出土。遺構に伴う遺物と考えられる。

［出土遺物量］

S061から出土した遺物は白磁１点、土師杯３点、中世須恵器15gと瓦質土器31gのほか、縄文土器36g（１点）、弥生土器709g（内丹塗り土器は９ｇ）が混入した状態で出土した。

［出土遺物の観察］

ここでは白磁１点と土師皿３点の計４点を紹介する。



図(Fig)219　土坑（S062)実測図及び出土遺物実測図

１は、輸入磁器で白磁皿Ⅸ－１ｂ類である。復元口径は17.2㎝、復元底径は6.7㎝、器高は6.3㎝。口縁端部が口禿げになったものである。胎土は灰白色、硬質で、釉は粘性が強くやや厚めにかかり、空色を帯びた灰白色を呈する。山本氏の太宰府土器型式と国産陶器・貿易陶器編年による時期区分でＦ期（13世紀後半～14世紀前半）にあたる。

２は、土師器の小皿である。復元口径は8.2㎝、復元底径は7.4㎝、器高は1.4㎝。見込み部はナデ調整、底部は不明である。

３は、土師器の小皿でほぼ完形である。口径は8.5㎝、底径は7.1㎝、器高は1.1㎝。見込み部はナデ調整、底部は糸切り離し後、板状圧痕が残る。

４は、土師器の小皿でほぼ完形である。口径は8.6㎝、底径は7.3㎝、器高は1.2㎝。見込み部はナデ調整、底部は不明である。底部に粘土が張り付いている。

【S062】（図219参照）

［確認位置］調査１区、Ｂ－２グリッド。

標高約10.20m。

［形状］不定形

［大きさ］長軸：178㎝、短軸：170㎝～、深さ：16～38（ピット底面まで）㎝。

［覆土］３層。

［切り合い関係］無し。

［遺構の性格・年代］土壙墓の可能性も考えられるが、詳細は不明である。中央に径約30㎝で深さ約20～25㎝のピットを持つ。

出土した土師皿や土師杯は、その口径から、美濃口氏の編年案による９期（13世紀前半～中葉）にあたると考えられる。

［遺物の出土状況］土師杯等がやや浮いた状態で出土している。遺構廃絶後の遺物であると考えられる。

［出土遺物量］

S062から出土した遺物は、土師杯２点、土師皿１点、土錘１点、青磁135g、白磁17g、瓦質土器12g、中世須恵器６ｇのほか、縄文土器74g（５点）、弥生土器927g（内丹塗り土器は27g）が混入した状態で出土した。

［出土遺物の観察］

ここでは土師杯２点、土師皿１点と土錘１点の計４点を紹介する。

１は、土師器の杯である。復元口径は12.2㎝、復元底径は9.0㎝、器高は2.5㎝。見込み部はナデ調整、底部は不明である。

２は、土師器の杯である。復元口径は12.8㎝、復元底径は10.2㎝、器高は2.8㎝。見込み部はナデ調整、底部は糸切り離しの痕跡が残る。

３は、土師器の小皿でほぼ完形である。口径は8.3㎝、底径は7.3㎝、器高は1.1㎝。見込み部はナデ調整、底部は糸切り離し後、板状圧痕が残る。

４は、土錘である。残存長約9.2㎝、幅及び厚み約3.0㎝である。

【S063】（図220参照）

［確認位置］調査１区、Ｂ－２グリッド。

標高約10.20m。

［形状］不定形

［大きさ］長軸：143㎝、短軸：136㎝、深さ：18～19㎝。

［覆土］２層。

［切り合い関係］無し。

［遺構の性格・年代］土壙墓の可能性も考えられるが、詳細は不明である。中央に径約27～30㎝で深さ約15㎝のピットを持つ。

出土した土師皿や土師杯は、その復元口径から、美濃口氏の編年案による９期（13世紀前半～中葉）～11期（13世紀末～14世紀前半）の間で考えられよう。

［遺物の出土状況］土師杯等がやや浮いた状態で出土しているが、遺構に伴う遺物と考えられる。

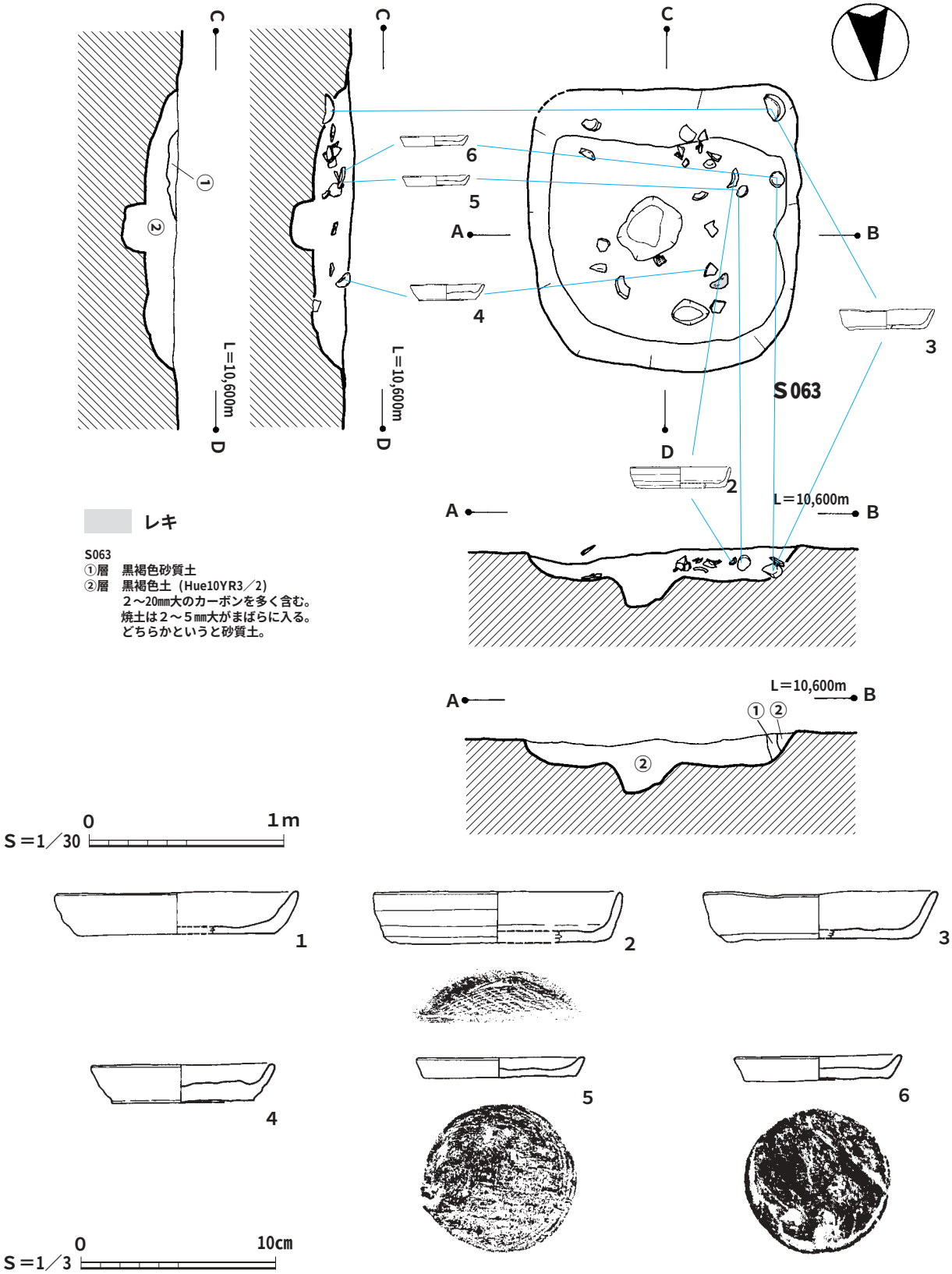
［出土遺物量］

S063から出土した遺物は、土師杯２点、土師皿１点、土錘１点、青磁135g、白磁17g、瓦質土器12g、中世須恵器６ｇのほか、縄文土器74g（５点）、弥生土器927g（内丹塗り土器は27g）が混入した状態で出土した。

［出土遺物の観察］

ここでは土師杯３点と土師皿３点の計６点を紹介する。

１は、土師器の杯である。復元口径は12.0㎝、復

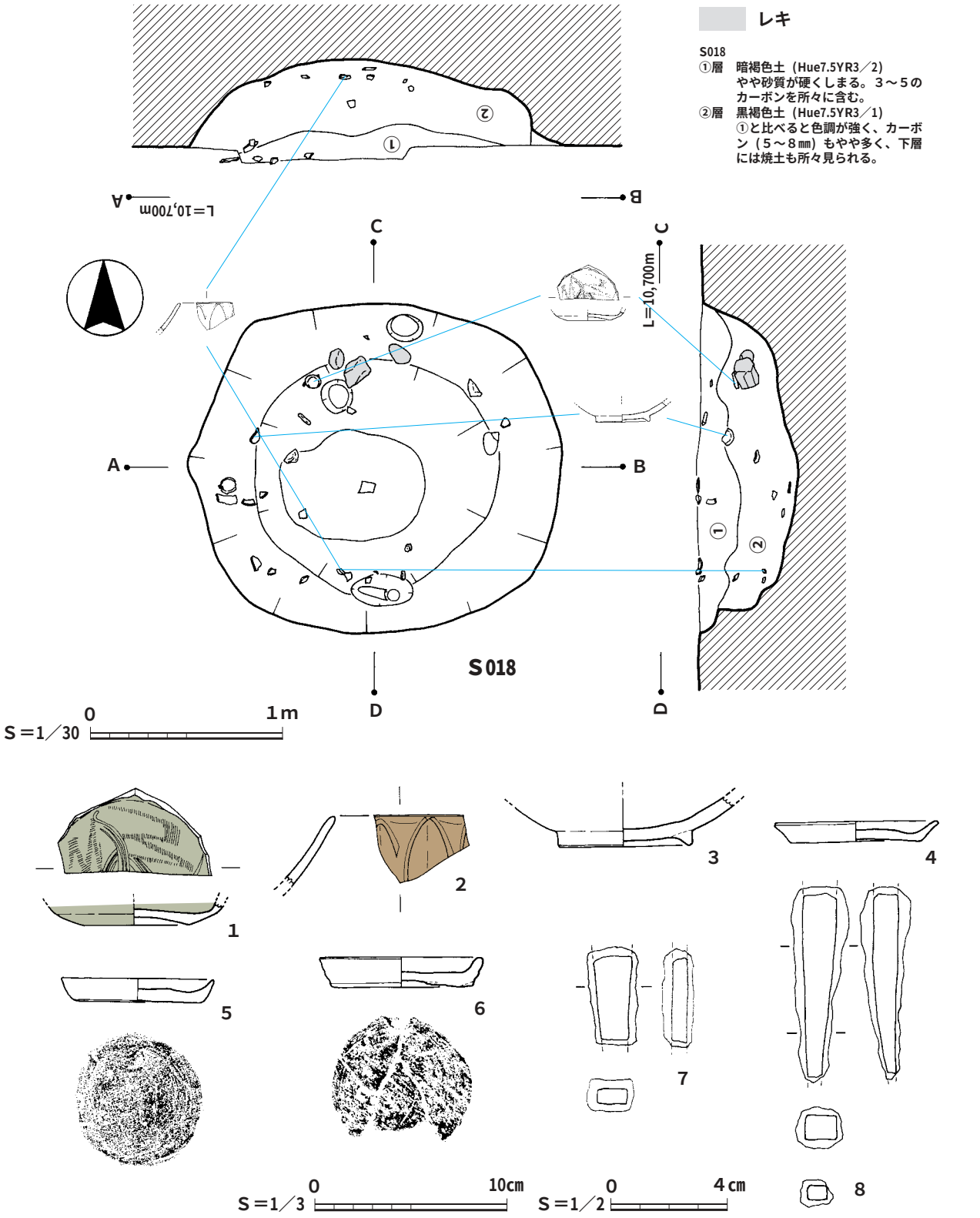


図(Fig)220　土坑（S063)実測図及び出土遺物実測図

元底径は10.0㎝、器高は2.1㎝。見込み部はナデ調整、底部は不明である。

２は、土師器の杯である。復元口径は12.5㎝、復元底径は10.4㎝、器高は2.6㎝。見込み部はナデ調整、底部は糸切り後板状圧痕が残る。

３は、土師器の杯である。復元口径は11.8㎝、復元底径は9.3㎝、器高は2.4㎝。見込み部はナデ調整、底部は不明である。



図(Fig)221　土坑（S018）実測図及び出土遺物実測図

４は、土師器の小皿である。復元口径は9.2㎝、復元底径は7.1㎝、器高は1.9㎝。見込み部はナデ調整、底部は不明である。

５は、土師器の小皿である。復元口径は8.5㎝、復元底径は7.6㎝、器高は1.0㎝。見込み部はナデ調整、底部は糸切り後簾状圧痕が残る。

６は、土師器の小皿である。復元口径は8.4㎝、復元底径は7.3㎝、器高は1.2㎝。見込み部はナデ調整、底部は切り後板状圧痕が残る。

【S018】（図221参照）

［確認位置］調査２区、Ｔ－８、９グリッド。

標高約10.50m。

［形状］楕円形

［大きさ］長軸：190㎝、短軸：168㎝、深さ：50㎝。

［覆土］２層。

［切り合い関係］S029、38を切る。

［遺構の性格・年代］詳細は不明であるが、鉄釘と考えられる鉄製品が出土していることから、木棺墓の可能性も否定できない。

出土した龍泉窯系青磁碗は、山本氏の太宰府土器型式と国産陶器・貿易陶器編年による時期区分でＥ期（13世紀前後～前半)、出土した同安窯系青磁皿がＤ期（12世紀中頃～後半）である。出土した土師皿は、美濃口氏の編年案による８期（13世紀初頭）～９期（13世紀前半～中葉）にあたると考えられる。よって13世紀前半期の遺構と考えることができよう。

［遺物の出土状況］１、２層の底面付近から上面にわたり出土。遺構廃絶時から廃絶後にかけての遺物と考えられる。

［出土遺物量］

S018から出土した遺物は白磁１点、土師杯３点、中世須恵器15gと瓦質土器31gのほか、縄文土器83g（５点)、弥生土器1,747g（内丹塗り土器は47g）が混入した状態で出土した。

［出土遺物の観察］

ここでは青磁２点、土師皿３点、瓦器椀１点、鉄器２点の計８点を紹介する。

１は、輸入磁器で同安窯系青磁皿１－２ｂ類の底部である。前面施釉された後、底部外面の釉を掻き取ってあり、内面にヘラによる文様とジグザグ状の櫛点描文を有する。山本氏の太宰府土器型式と国産陶器・貿易陶器編年による時期区分でＤ期（12世紀中頃～後半）にあたる。

２は、輸入磁器で龍泉窯系青磁椀Ⅱ－ａ類の口縁部である。内外面共に釉がかかり、外面にはヘラの片彫りによる鎬蓮弁文が確認される。山本氏の太宰府土器型式と国産陶器・貿易陶器編年による時期区分でＥ期（13世紀前後～前半）にあたる。

３は、土師器の小皿である。復元口径は8.2㎝、復元底径は7.4㎝、器高は1.4㎝。見込み部はナデ調整、底部は不明である。

３は、瓦器椀の底部である。残存高は2.1㎝、底径は6.9㎝である。

４は、土師器の小皿である。復元口径は8.1㎝、復元底径は6.7㎝、器高は1.0㎝。見込み部はナデ調整、底部は不明である。

５は、土師器の小皿である。口径は7.6㎝、底径は6.3㎝、器高は1.2㎝。見込み部はナデ調整、底部は糸切り離しである。

６は、土師器の小皿である。口径は8.0㎝、底径は7.3㎝、器高は1.5㎝。見込み部はナデ調整、底部は切り後簾状圧痕が残る。

７、８は、鉄釘と考えられる。上下が欠損している。残存長は、それぞれ2.8㎝と6.8㎝である。

【S020】（図222参照）

［確認位置］調査２区、Ｕ－８グリッド。

標高約10.50m。

［形状］楕円

［大きさ］長軸：91㎝、短軸：77㎝、深さ：20㎝。

［覆土］１層。

［切り合い関係］無し。

［遺構の性格・年代］詳細は不明である。遺物は小片の為わからないが、覆土がカーボンや焼土を含む暗褐色土であり、中世の遺構覆土と同じであることから中世と判断した。

［出土遺物量］

小片が20点ほど出土したのみである。

［出土遺物の観察］

紹介する遺物はない。

【S042】（図222参照）

［確認位置］調査１区、Ｃ－３グリッド。

標高約10.23m。

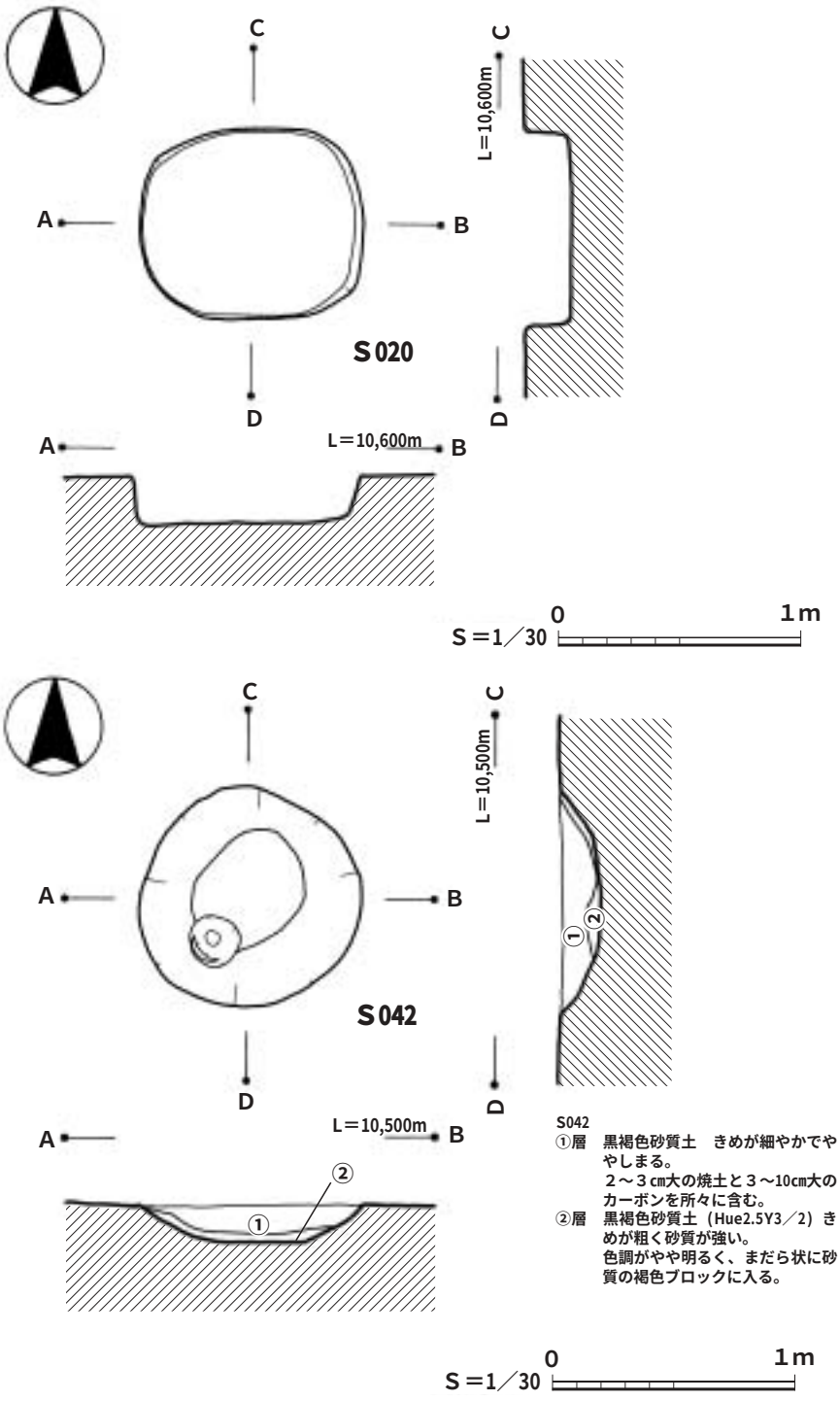
［形状］やや楕円

［大きさ］長軸：90㎝、短軸：90㎝、深さ：16㎝。

［覆土］２層。

［切り合い関係］無し。

［遺構の性格・年代］詳細は不明である。遺物は小片の為わからないが、覆土がカーボンや焼土を含む暗褐色土であり、中世の遺構覆土と同じであること



図(Fig)222　土坑（S020・S042）実測図

から中世と判断した。ピットは上から掘り込まれたものである。

［出土遺物量］

小片が20点ほど出土したのみである。

［出土遺物の観察］

紹介する遺物はない。

【S055】（図223参照）

［確認位置］調査１区、Ｆ－６グリッド。

標高約10.42m。

［形状］楕円形

［大きさ］長軸：440㎝、短軸：190㎝～、深さ：70～75㎝。

［覆土］３層。

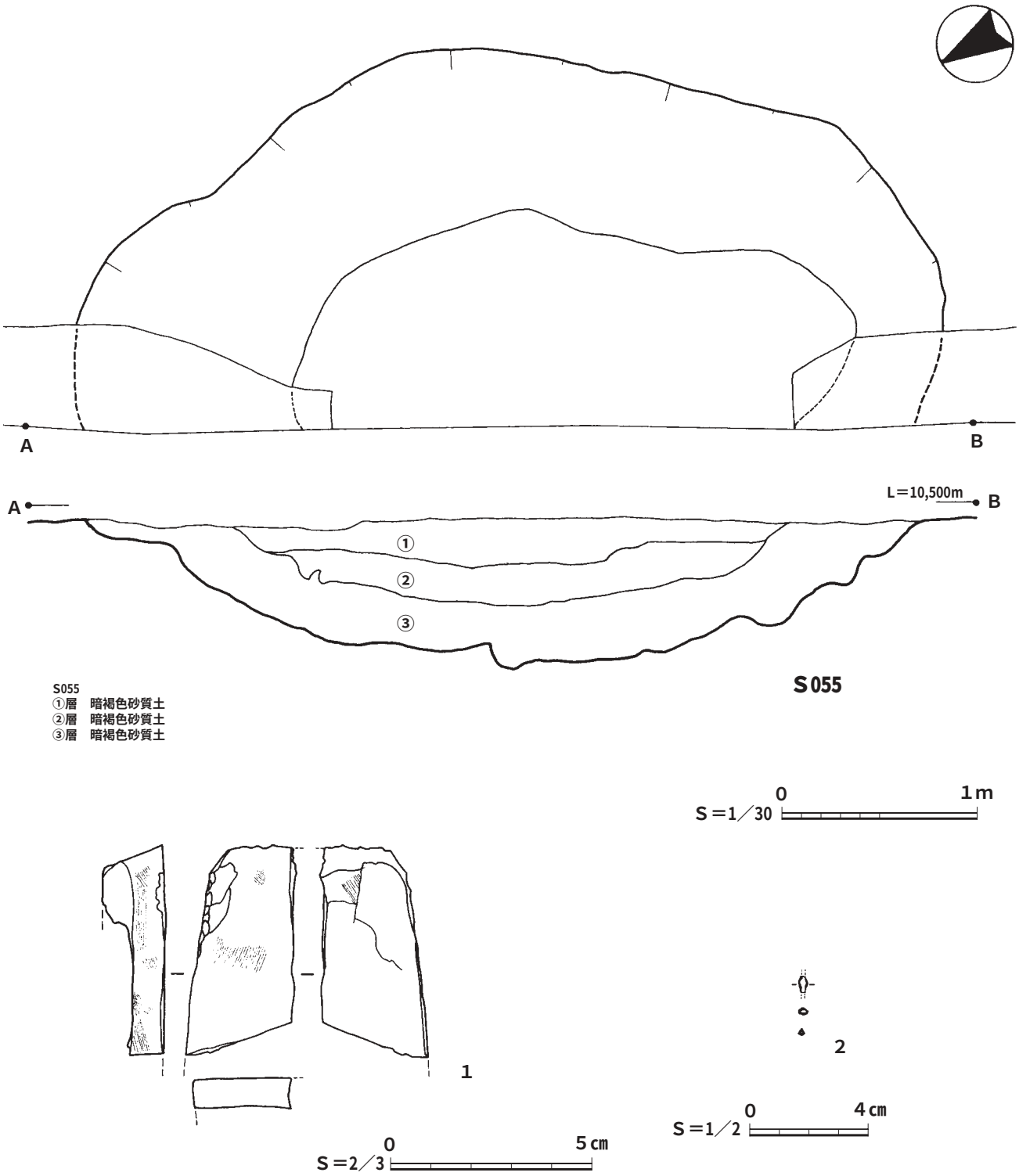
［切り合い関係］無し。

［遺構の性格・年代］詳細は不明である。

［遺物の出土状況］各層から出土。

［出土遺物量］

S055から出土した遺物は、小グレーコンテナ



図(Fig)223　土坑（S055）実測図及び出土遺物実測図

(38cm×58cm×５cm) 約２箱分であった。１箱が中世土師器片で、残りの１箱が弥生土器を中心として中世須恵器、白磁、青磁、中世瓦質土器を少量含んでいた。

［出土遺物の観察］

ここでは石器１点と鉄器１点の計２点を紹介する。

１は砥石の破片である。石材は頁岩である。２層から出土している。

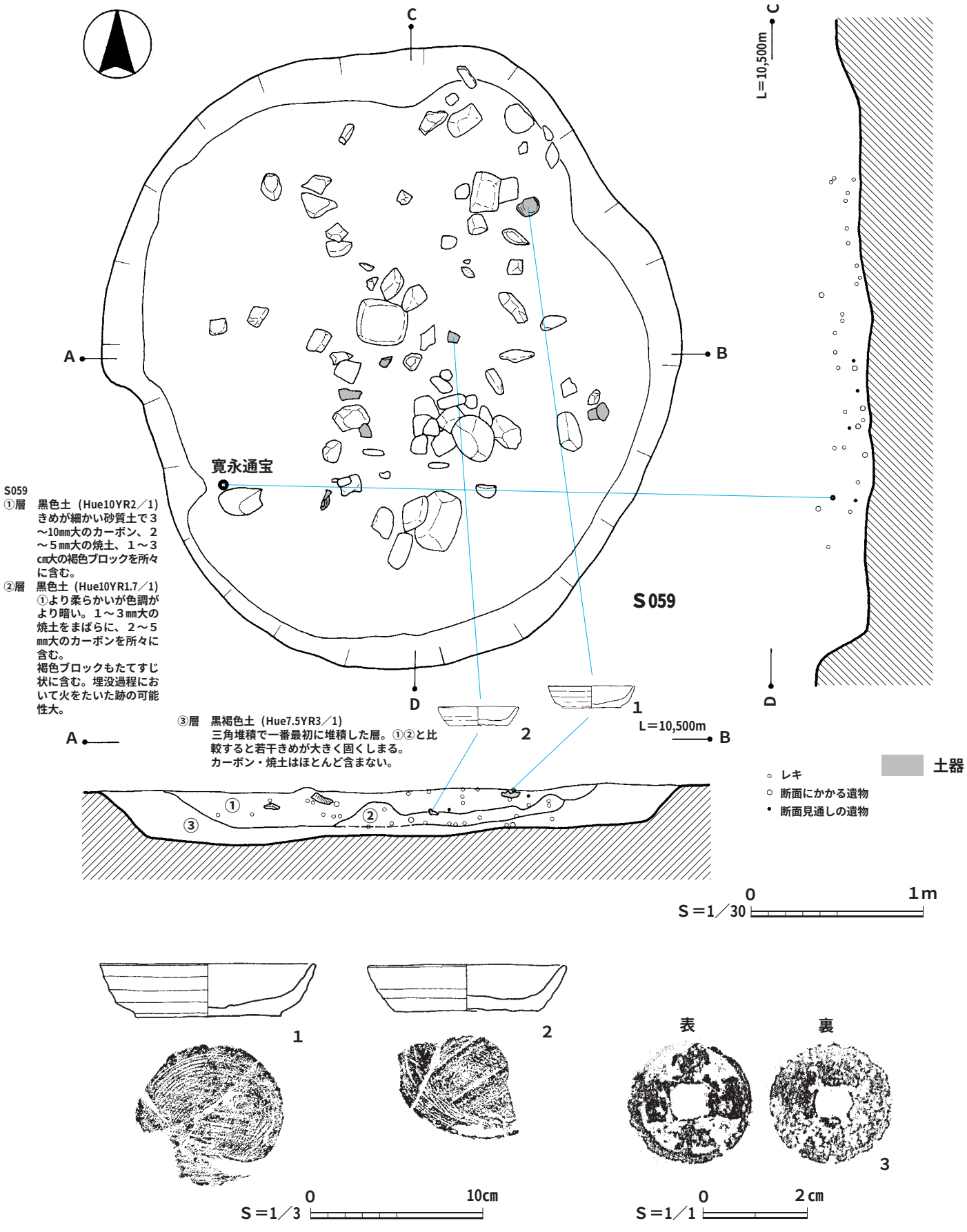
２は鉄片である。残存長５㎜、厚さ２～３㎜である。針金の類であろうか。

【S059】（図224、225参照）

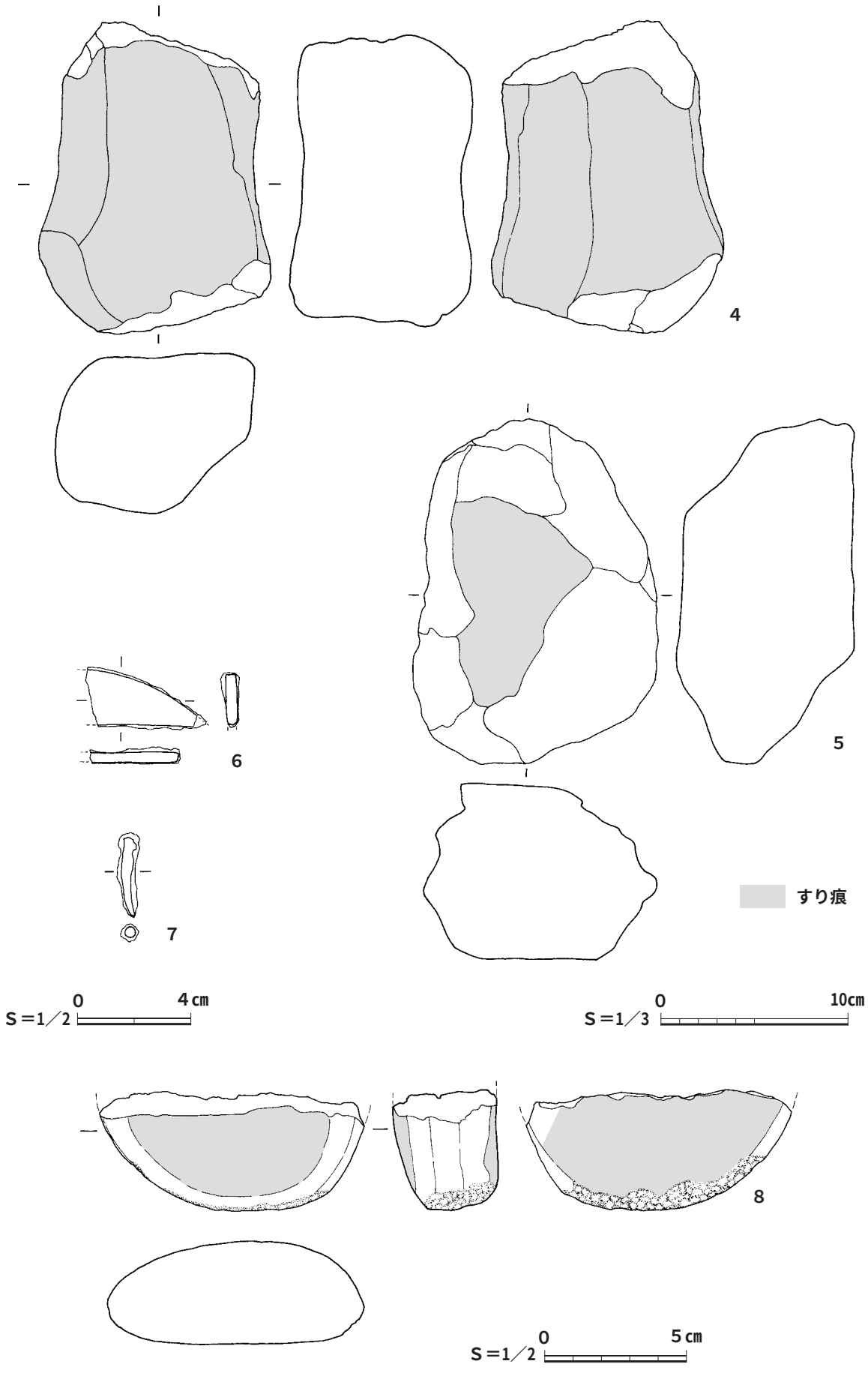
［確認位置］調査１区、A、B－４グリッド。

標高約10.20m。

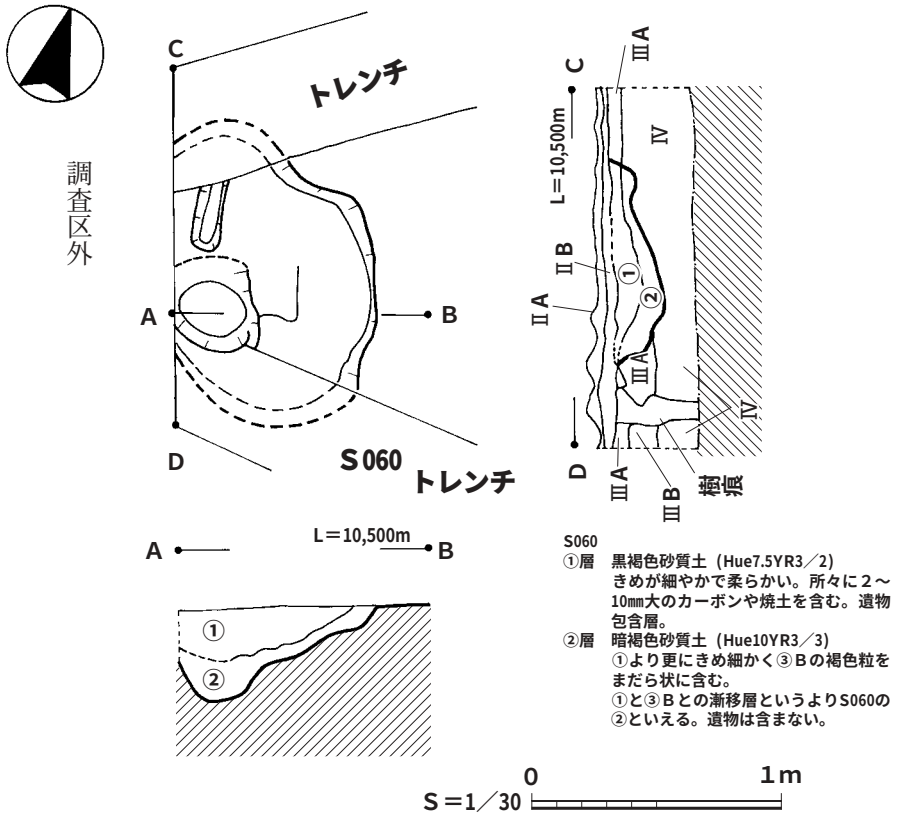
［形状］楕円形



図(Fig)224　土坑（S059)実測図及び出土遺物実測図（１）



図(Fig)225　S059出土遺物実測図（２）



図(Fig)226　土坑（S060）実測図

［大きさ］長軸：353㎝、短軸：331㎝、深さ：30㎝。

［覆土］３層。

［切り合い関係］無し。

［遺構の性格・年代］径10～34㎝大の礫が約60個ほど投げ込まれた状況であり、その中に中世の土師器片を中心に遺物が含まれていた。礫は花崗岩、凝灰岩を中心とした角礫、亜角礫、円礫であり、一部被熱による赤変がみられるものもあった。遺構の正確は不明である。

遺物は半分以上が中世の遺物であり、土師器の杯は美濃口氏の編年案による９期（13世紀前半～中葉）～11期（13世紀末～14世紀前半）にあたると考えられる。よって13世紀～14世紀前半期の間の遺構と考えることができよう。近世の遺物は上層での出土であり、流れ込みの遺物であろう。

［遺物の出土状況］礫の隙間にあり、やや浮いた状況で出土。

［出土遺物量］

S059から出土した遺物は、小グレーコンテナ(38㎝×58㎝×５㎝）約２箱分であった。１箱が中世土師器片で、残りの１箱が弥生土器を中心として中世須恵器、白磁、青磁、中世瓦質土器、砥石、近世の陶磁器片や寛永通宝を少量含んでいた。

［出土遺物の観察］

ここでは土器２点、古銭１点、石器３点と鉄器２点の計８点を紹介する。

１は、土師器の杯である。口径は12.2㎝、底径は8.3㎝、器高は3.0㎝。見込み部はナデ調整、底部は切り後簾状圧痕が残る。

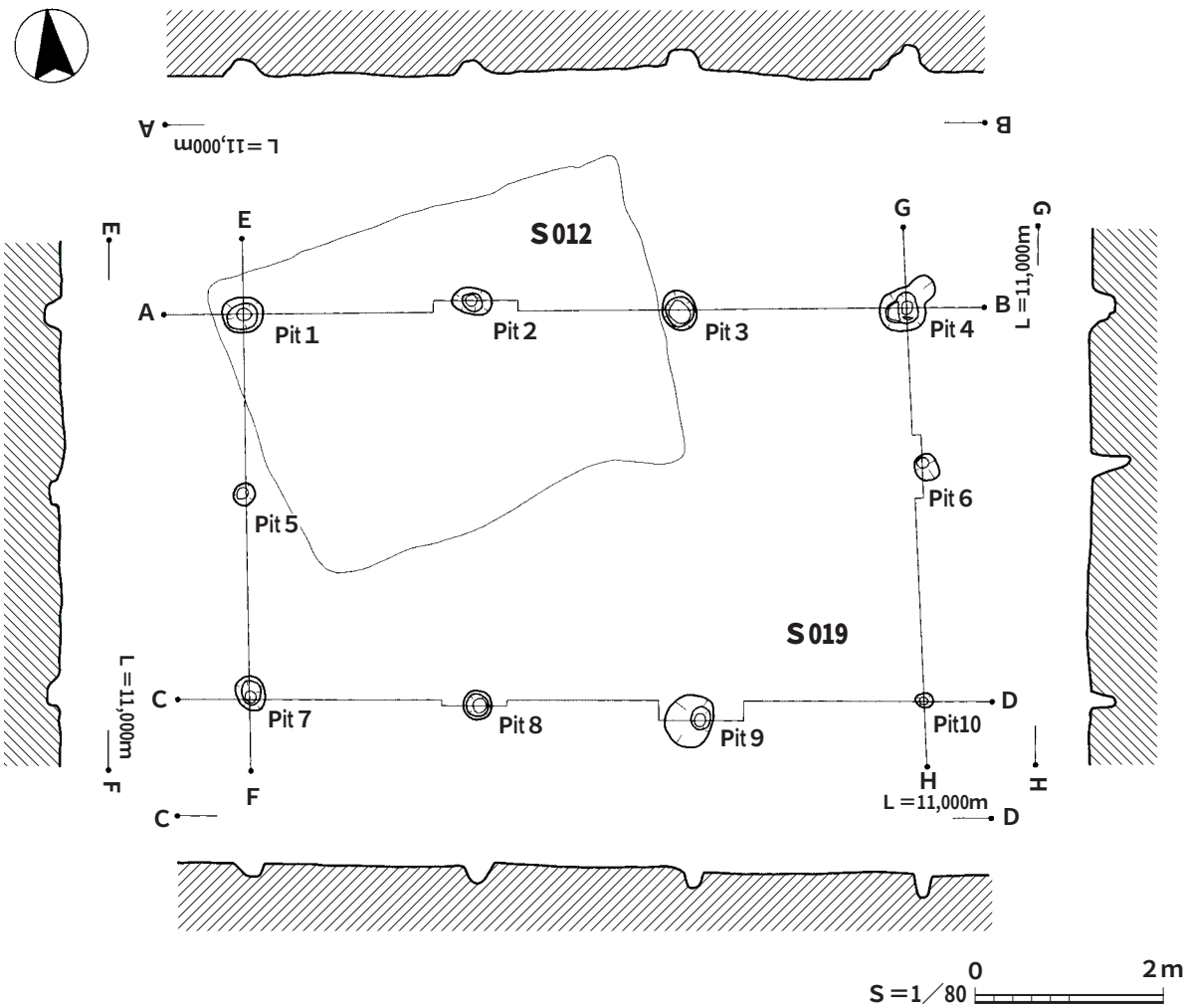
２は、土師器の杯である。復元口径は11.3㎝、復元底径は8.3㎝、器高は2.6㎝。見込み部はナデ調整、底部は切り後板状圧痕が残る。

３は、江戸時代の寛永通宝である。初鋳は、1626年であるが、一部は幕末～明治初期まで作られた。上層から出土しており、流れ込みであろう。

４は砥石である。石材は石英を多く含む火山岩である。被熱して赤変している。５面に磨り痕が見られる。

５は砥石である。石材は流紋岩であり、いわゆる天草砥石である。被熱して赤変している。角が欠けており、１面にしか磨り痕が見られない。

６は鉄片である。残存長37㎜、厚さ４㎜である。



図(Fig)227　掘立柱建物（S019）実測図

形状は手鎌に酷似するが、刃部は見られない。

７は鉄釘であると考えられる。残存長27㎜、厚さ４㎜である。

８は、磨り石である。石材は、安山岩であると考えられる。欠損しているが、表裏面に磨り痕、裏側面には敲打痕が見られる。一括遺物である。

【S060】（図226参照）

［確認位置］調査１区、Ｂ－１グリッド。

標高約10.35m。

［形状］不定形

［大きさ］長軸：100㎝～、短軸：80㎝～、深さ：24㎝。

［覆土］２層。

［切り合い関係］無し。調査区外にかかる。

［遺構の性格・年代］詳細は不明である。遺物は土師皿の小片、青磁、白磁が出土した。覆土がカーボンや焼土を含む暗褐色土であり、中世の遺構覆土と同じであること。

［出土遺物量］

土師皿の小片、青磁、白磁片が20点ほど出土したのみである。

［出土遺物の観察］

紹介する遺物はない。

③掘立柱建物（１軒）

【S019】（図227参照）

［確認位置］Ｔ－８、９グリッド内に位置する。確認面の標高は約10.5m。

［規格］２間×３間の掘立柱建物。平均桁行7.16m(23.9尺)、平均梁行4.22m（14.01尺)。

［軸の方位］桁行方向（長軸）は、ほぼ東西方向で、東より北東東に３～４°傾いているだけである。

［柱穴の掘り形径と深さ］柱穴の掘り形直径は20～45㎝で平均は34.5㎝、深さは12～42㎝で平均は21.3㎝。

［柱痕跡］10ある柱の内、全て柱痕跡が確認されなかった。

［柱間の寸法：桁］

Ｐ：ピット、（　）：平均値、単位：ｍ

Ｐ１－４：2.44＋2.23＋2.44（2.37：7.9尺）

Ｐ７－10：2.44＋2.36＋2.43（2.41：約8.0尺）

［柱間の寸法：梁］

Ｐ１－７：1.92＋2.18（2.05：6.8尺）

Ｐ４－10：1.66＋2.54（2.1：７尺）

［総面積］34.5㎡（約10.5坪）

［切り合い関係］S012、18、26、29、38を切る。

［推察される遺構の性格、時期など］規格が２間×３間の掘立柱建物である。建物の軸線はほぼ東西方向であり、桁間は約８尺、梁間は約７尺と一定の規格性を持つ。柱内の覆土が中世の遺構と同じ焼土やカーボンを含む暗褐色土であることから中世の遺構と判断した。出土遺物は土師皿片の小片であり、時期の判定が困難だが、他の遺構・遺物との比較から13世紀前半～14世紀前半と推定される。総面積は39㎡（11.8坪）であるが、この掘立柱建物の詳細な性格は不明である。

［出土遺物］柱穴内から土師皿の小片が58g出土しているだけである。紹介遺物はない。

〔④ピット〕

ここでは主要な遺物を含んでいたピットを取り上げる。覆土は、全て中世の遺構に特有なカーボンや焼土を含む暗褐色土であった。

【ピット1489】（図228参照）

［確認位置］Ｃ－３グリッド内に位置する。確認面の標高は約10.5m。

［規格］大きさ22～25㎝。深さ31.6㎝。

［出土遺物の観察］

１は、滑石の石製加工品である。用途は不明だが、中央につまみがある。また、つまみの基部に穿穴と思われる鉄サビを伴った穴がみられる。長さ8.2㎝、幅5.5㎝、最大厚1.8㎝である。

２は、鉄釘である。２本とも上下端が欠損している。残存長3.8㎝、最大厚0.5㎝と、残存長3.4㎝、最大厚0.6㎝である。

【ピット1381】（図228参照）

［確認位置］Ｂ－３グリッド内に位置する。確認面の標高は約10.5m。

［規格］大きさ33～43㎝。深さ39.8㎝。

［出土遺物の観察］

３は、鉄製品である。端部が刃部状になっていることから槍鉋の可能性も考えられる。残存長3.5㎝、残存幅2.4㎝、最大厚0.2㎝である。

【ピット1156】（図228参照）

［確認位置］Ｂ－２グリッド内に位置する。確認面の標高は約10.5m。

［規格］大きさ41～55㎝。深さ57.8㎝。

［出土遺物の観察］

４は、土師器の小皿である。口径は8.8㎝、底径は7.1㎝、器高は1.3㎝。見込み部はナデ調整、底部は糸切り離し痕が残る。

５は、土師器の小皿である。口径は8.5㎝、底径は7.2㎝、器高は1.5㎝。見込み部はナデ調整、底部は糸切り離し後簾状圧痕が残る。

６は、土師器の杯である。復元口径は13.5㎝、復元底径は11.3㎝、器高は2.7㎝。見込み部はナデ調整、底部は不明である。

【ピット1167】（図228参照）

［確認位置］Ｂ－２グリッド内に位置する。確認面の標高は約10.5m。

［規格］大きさ26～43㎝。深さ34.2㎝。

［出土遺物の観察］

７は、土師器の小皿である。口径は8.4㎝、底径は7.1㎝、器高は1.2㎝。見込み部はナデ調整、底部は糸切り離し痕が残る。

【ピット1202】（図228参照）

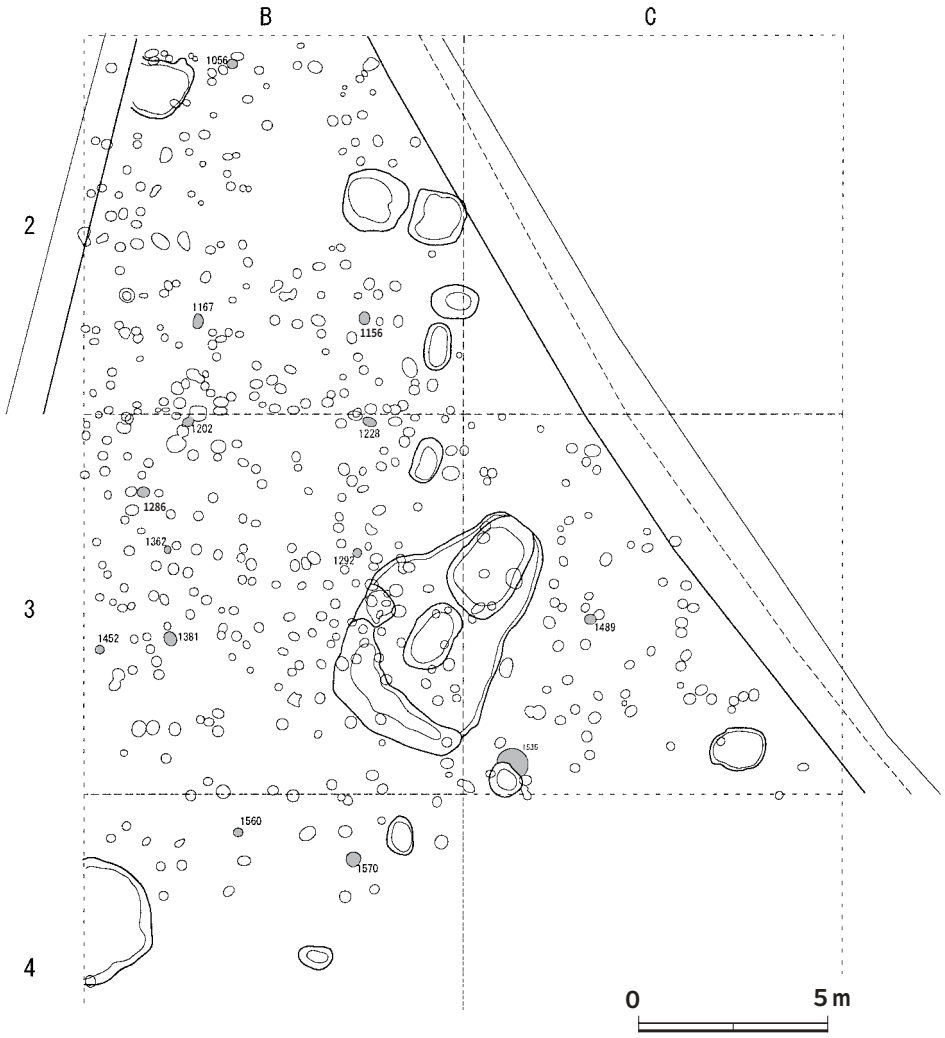
［確認位置］Ｂ－３グリッド内に位置する。確認面の標高は約10.5m。

［規格］大きさ46～75㎝。深さ51.5㎝。

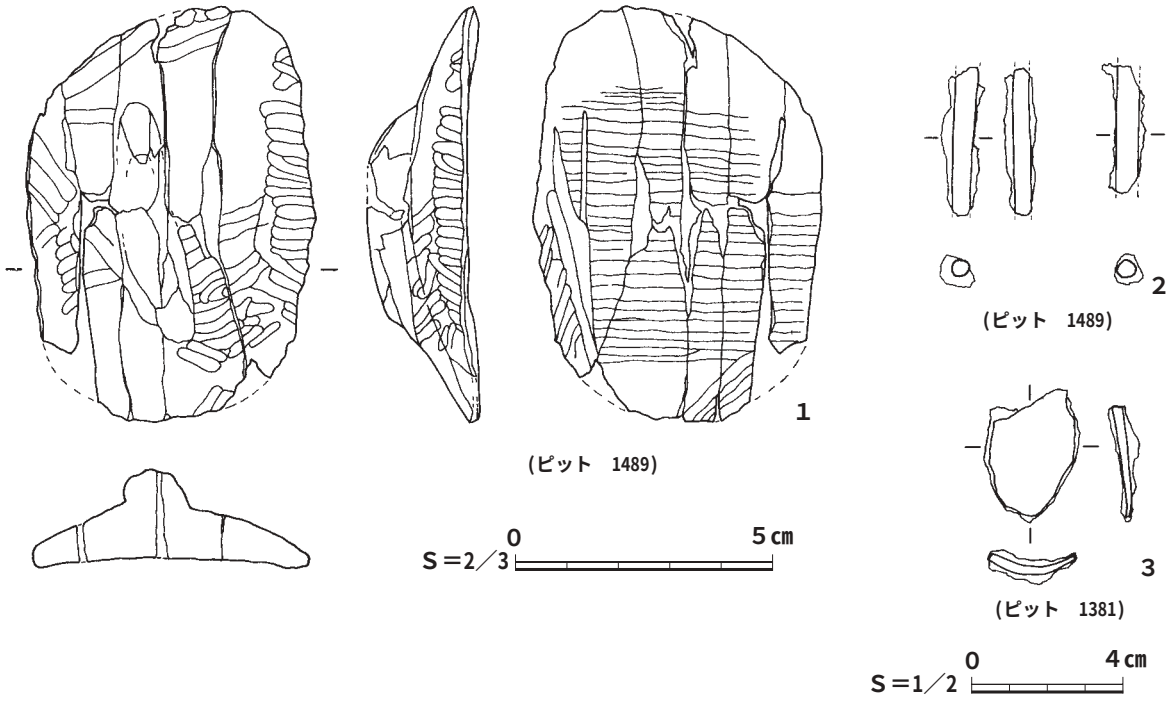
［出土遺物の観察］

８は、土師器の小皿である。口径は8.0㎝、底径は5.9㎝、器高は1.0㎝。見込み部はナデ調整、底部は糸切り離し痕が残る。

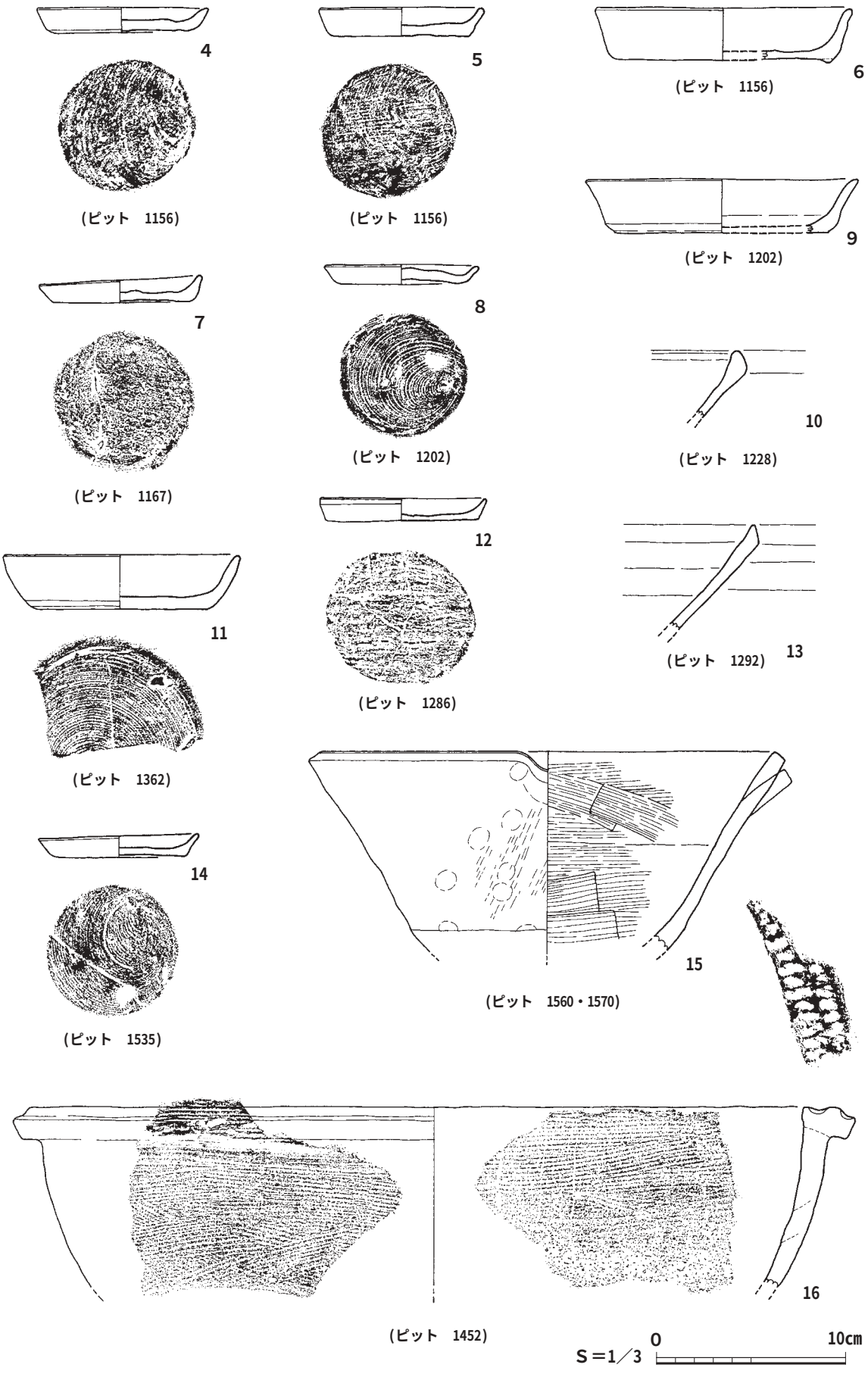
９は、土師器の杯である。復元口径は14.1㎝、復元底径は11.2㎝、器高は2.8㎝。見込み部はナデ調整、底部は不明である。



図(Fig)228　ピット実測図



図(Fig)229　ピット出土遺物実測図（１）



図(Fig)230　ピット出土遺物実測図（２）

【ピット1228】（図228参照）

［確認位置］Ｂ－３グリッド内に位置する。確認面の標高は約10.5m。

［規格］大きさ24～42㎝。深さ　㎝。

［出土遺物の観察］

10は、中世須恵器で東播系鉢の口縁部である。

【ピット1362】（図228参照）

［確認位置］Ｂ－３グリッド内に位置する。確認面の標高は約10.5m。

［規格］大きさ41～47㎝。深さ12㎝。

［出土遺物の観察］

11は、土師器の杯である。復元口径は12.2㎝、復元底径は8.7㎝、器高は2.8㎝。見込み部はナデ調整、底部は糸切り離し痕が残る。

【ピット1286】（図228参照）

［確認位置］Ｂ－３グリッド内に位置する。確認面の標高は約10.5m。

［規格］大きさ27～34㎝。深さ40.9㎝。

［出土遺物の観察］

12は、土師器の小皿である。口径は8.6㎝、底径は7.9㎝、器高は1.2㎝。見込み部はナデ調整、底部は糸切り離し後簾状圧痕が残る。

【ピット1292】（図228参照）

［確認位置］Ｂ－３グリッド内に位置する。確認面の標高は約10.5m。

［規格］大きさ22～22㎝。深さ28.2㎝。

［出土遺物の観察］

13は、中世須恵器で東播系鉢の口縁部である。

【ピット1535】（図228参照）

［確認位置］Ｃ－３グリッド内に位置する。確認面の標高は約10.5m。

［規格］大きさ31～37㎝。深さ35.6㎝。

［出土遺物の観察］

14は、土師器の小皿である。復元口径は8.4㎝、復元底径は6.9㎝、器高は1.2㎝。見込み部はナデ調整、底部は糸切り離し痕が残る。

【ピット1560】（図228参照）

［確認位置］Ｂ－４グリッド内に位置する。確認面の標高は約10.5m。

［規格］大きさ24～25㎝。深さ６㎝。

【ピット1570】（図228参照）

［確認位置］Ｂ－４グリッド内に位置する。確認面の標高は約10.5m。

［規格］大きさ38～39㎝。深さ22.2㎝。

［出土遺物の観察］

15は、瓦質土器の片口鉢である。外面にはハケ目と指頭圧痕、内面にはハケ目が残る。復元口縁24.7㎝、残存高10.5㎝。Pit1560とPit1570出土遺物が接合している。

【ピット 1452】（図228参照）

［確認位置］Ｂ－３グリッド内に位置する。確認面の標高は約10.5m。

［規格］大きさ22～24㎝。深さ16.1㎝。

［出土遺物の観察］

16は、中世の土師質土器で土鍋の口縁部及び体部上半部である。内外面にはハケ目が残り、口縁部には２条の縄目圧痕が残る。復元口縁44.0㎝、残存高9.0㎝。

５）近世以降（７基）

①溝（６条）

【S024】（図231参照）

［確認位置］調査２区、Ｒ、Ｓ－８グリッド。

標高約10.6m。

［大きさ］長さ：182㎝～、幅：40～60㎝、深さ：10～17㎝。

［覆土］1層。

［切り合い関係］S017を切る。

［遺構の年代］ⅡＢ層の下から掘り込まれており、ⅢＡ層が弥生～中世の文化層ということを考えると近世以降、もしくは近代以降の可能性も考えられる。

［出土遺物量］

S024から出土した遺物は、弥生土器168gのみであった。流れ込みの遺物である。

［出土遺物の観察］

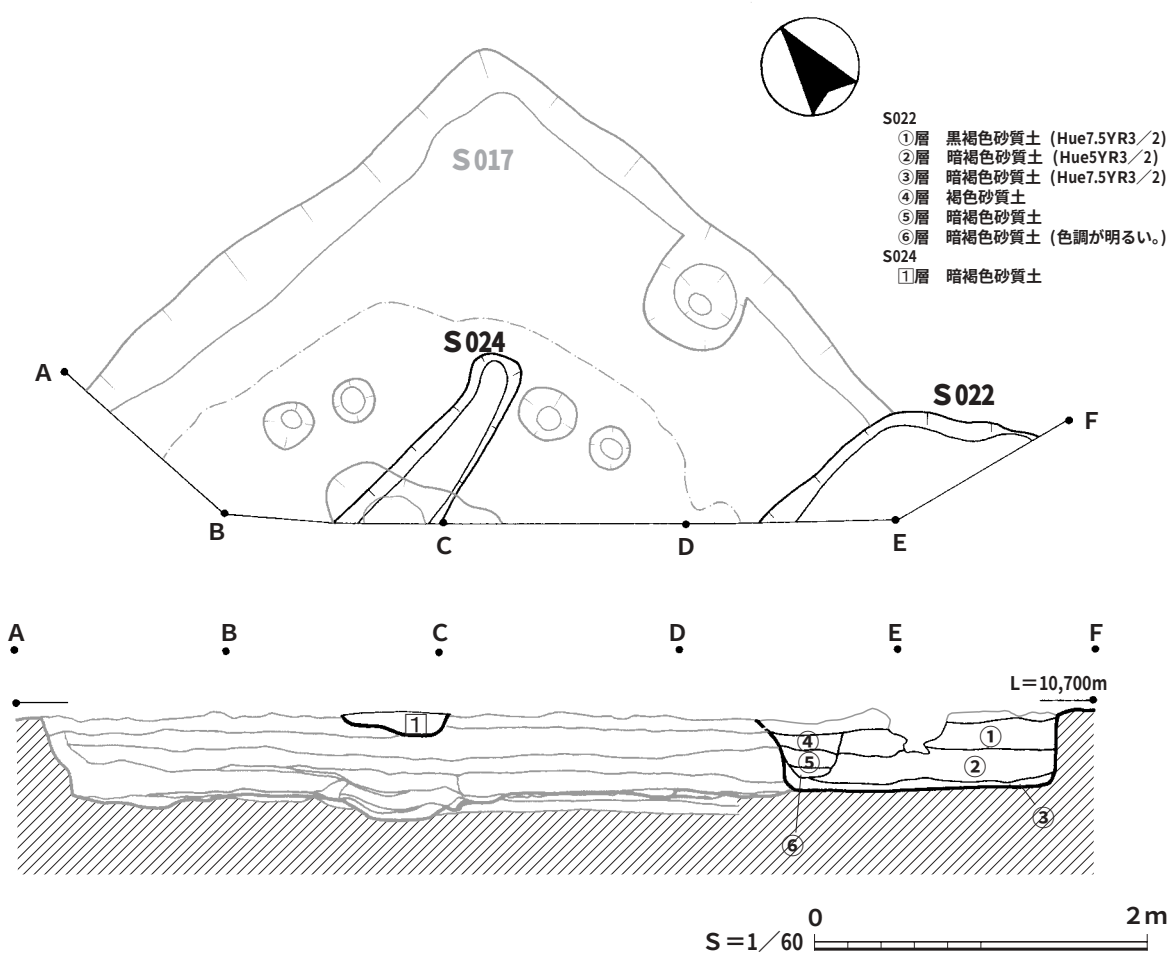
紹介遺物はない。

【S052】（図233参照）

［確認位置］調査１区、Ｆ－８グリッド。

標高約10.4m。

［大きさ］長さ：320㎝～、幅：25～31㎝、深さ：



図(Fig)231　溝状遺構（S024）土坑（S022）実測図

8㎝。

［覆土］1層。

［切り合い関係］S117を切る。

［遺構の年代］近世以降と考えられるS117を切ることからそれ以前である。近世以降、もしくは近代以降の可能性も考えられる。

［出土遺物量］無し。

【S058】（図232参照）

［確認位置］調査１区、Ｋ－９グリッド。

標高約10.35m。

［大きさ］長さ：855㎝～、幅：140～㎝、深さ：50㎝。

［覆土］７層。

［切り合い関係］S106、107を切る。

［遺構の年代］ⅡＡ層の下から掘り込まれており、ⅢＡ層が弥生～中世の文化層ということを考えると近世以降、もしくは近代以降の可能性も考えられる。

［出土遺物量］

S058から出土した遺物は、弥生土器1,200gと鉄片１点であった。弥生土器は流れ込みの遺物である。

［出土遺物の観察］

１点の鉄器を紹介する。

１は鉄製品である。長さ５㎝、幅0.8㎝、厚さ0.3㎝である。用途は不明である。

【S117】（図233参照）

［確認位置］調査１区、Ｆ、Ｇ－８、Ｇ－９グリッド。

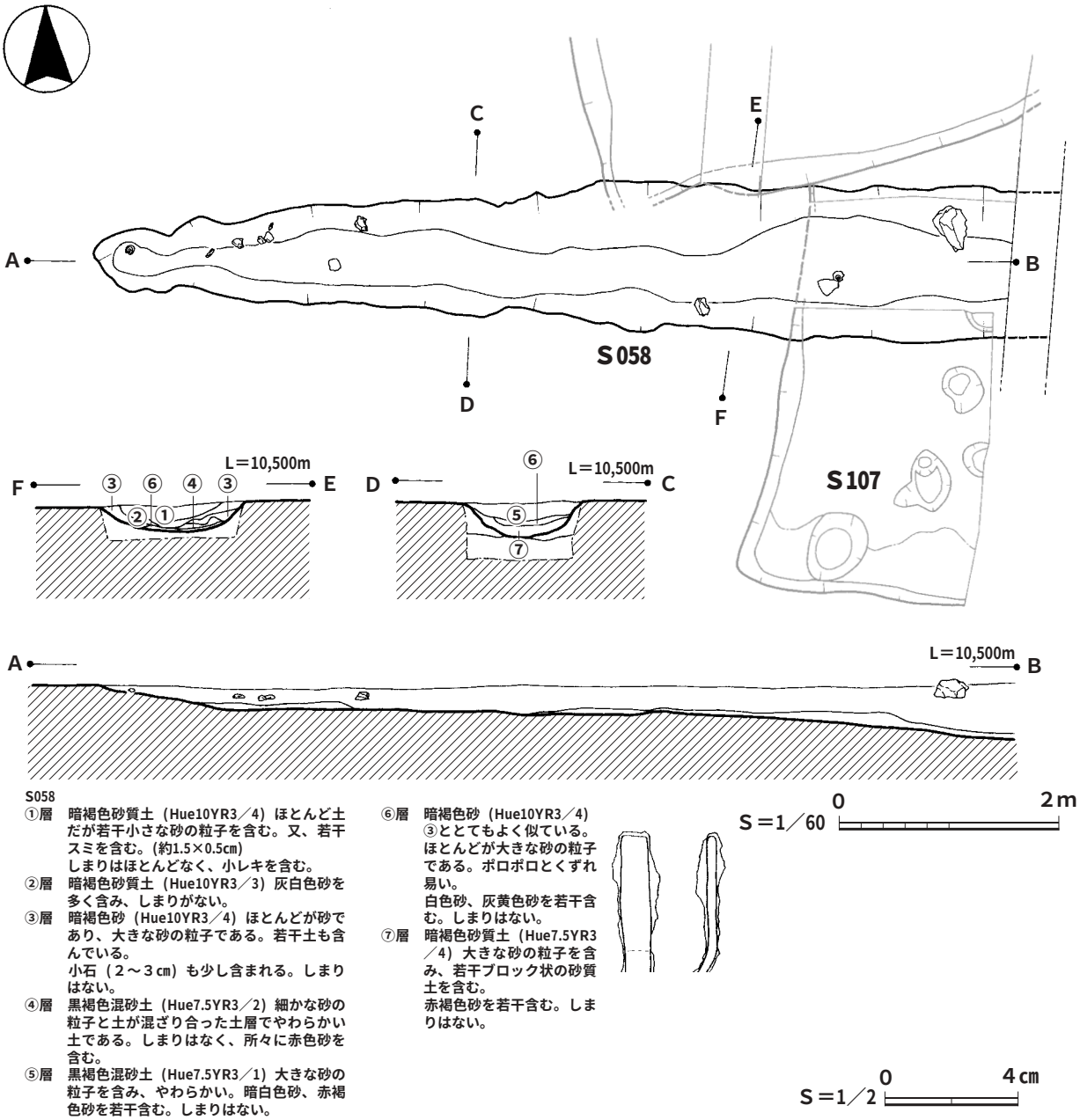
標高約10.4m。

［大きさ］長さ：1660㎝～、幅：200～㎝、深さ：64㎝。

［覆土］５層。

［切り合い関係］S052から切られる。

［遺構の性格・年代］遺構の年代は、溝内に近世の陶磁器片を含むことから近世以降、もしくは近代以降と考えられる。また、これらの凝灰岩の切石は、面取りがなされ、菊池川側に向いて並んでいること



図(Fig)232　溝状遺構（S058）実測図及び出土遺物実測図

から、対側にも向かい合って立っていると考えられる。凝灰岩の切石を備えた溝と考えられる。

［出土遺物量］

S117から出土した遺物は、弥生土器、中世の瓦質土器、近世以降の陶磁器（京焼椀片、天目片など)、鉄片であった。

［出土遺物の観察］

1点の鉄器を紹介する。

１は鉄製品の一部である。長さ1.6㎝、幅0.8㎝、厚さ0.2㎝である。用途は不明である。

【S074】（図234参照）

［確認位置］調査１区、Ｈ－７、８、９、Ｇ－９グリッド。

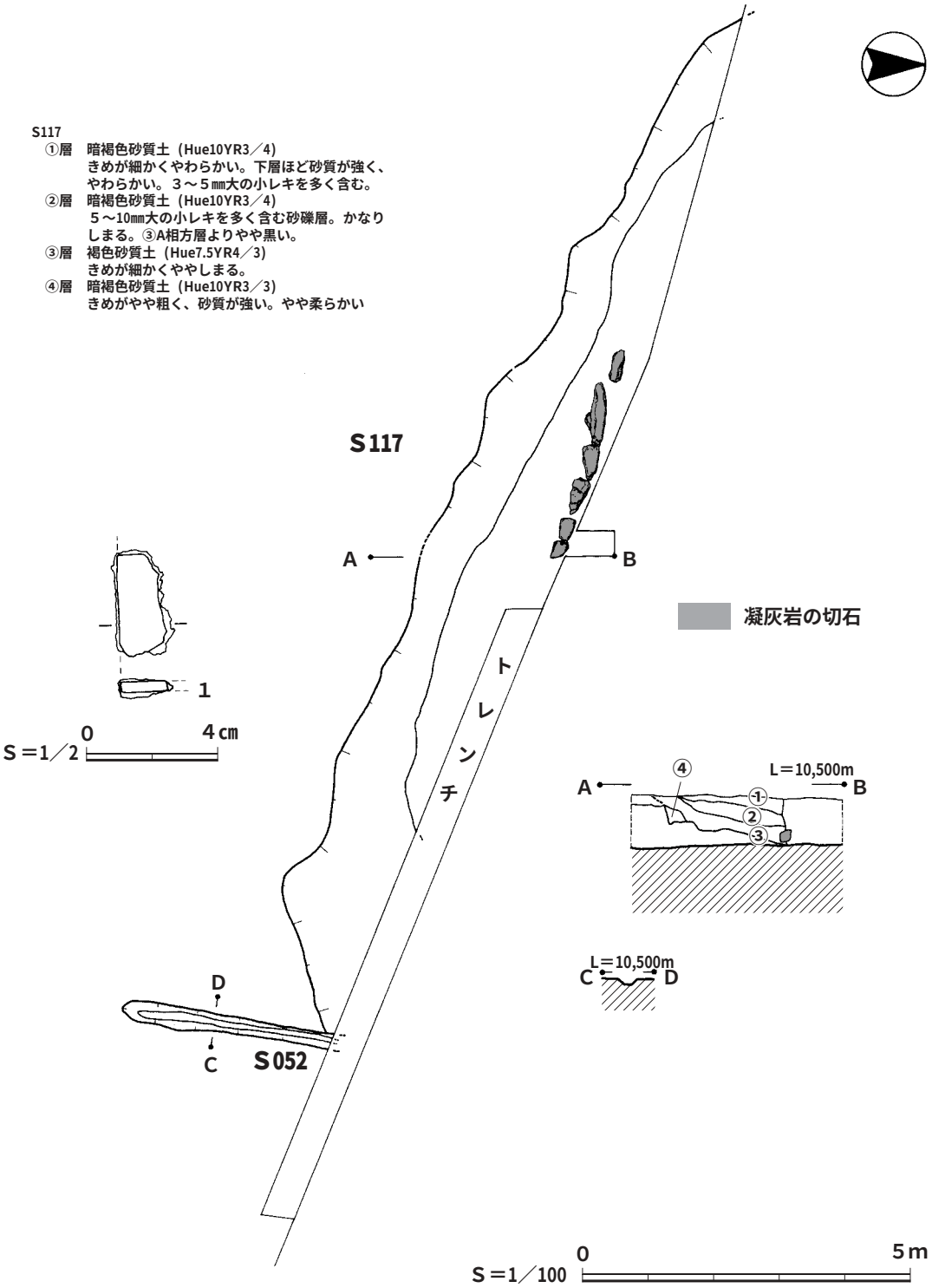
標高約10.0m。

［大きさ］長さ：1750㎝～、幅：490～590㎝、深さ：110～125㎝。

［覆土］６層。

［切り合い関係］S082、83、84、109を切る。

［遺構の性格・年代］遺構の年代は、溝内に中世～近世の陶磁器片を多く含むことから、中世から近世にかけて使用された溝と考えられる。出土遺物を考えると14世紀頃～18世紀頃までの時期幅が想定され



図(Fig)233　溝状遺構（S052・S117）実測図及び出土遺物実測図

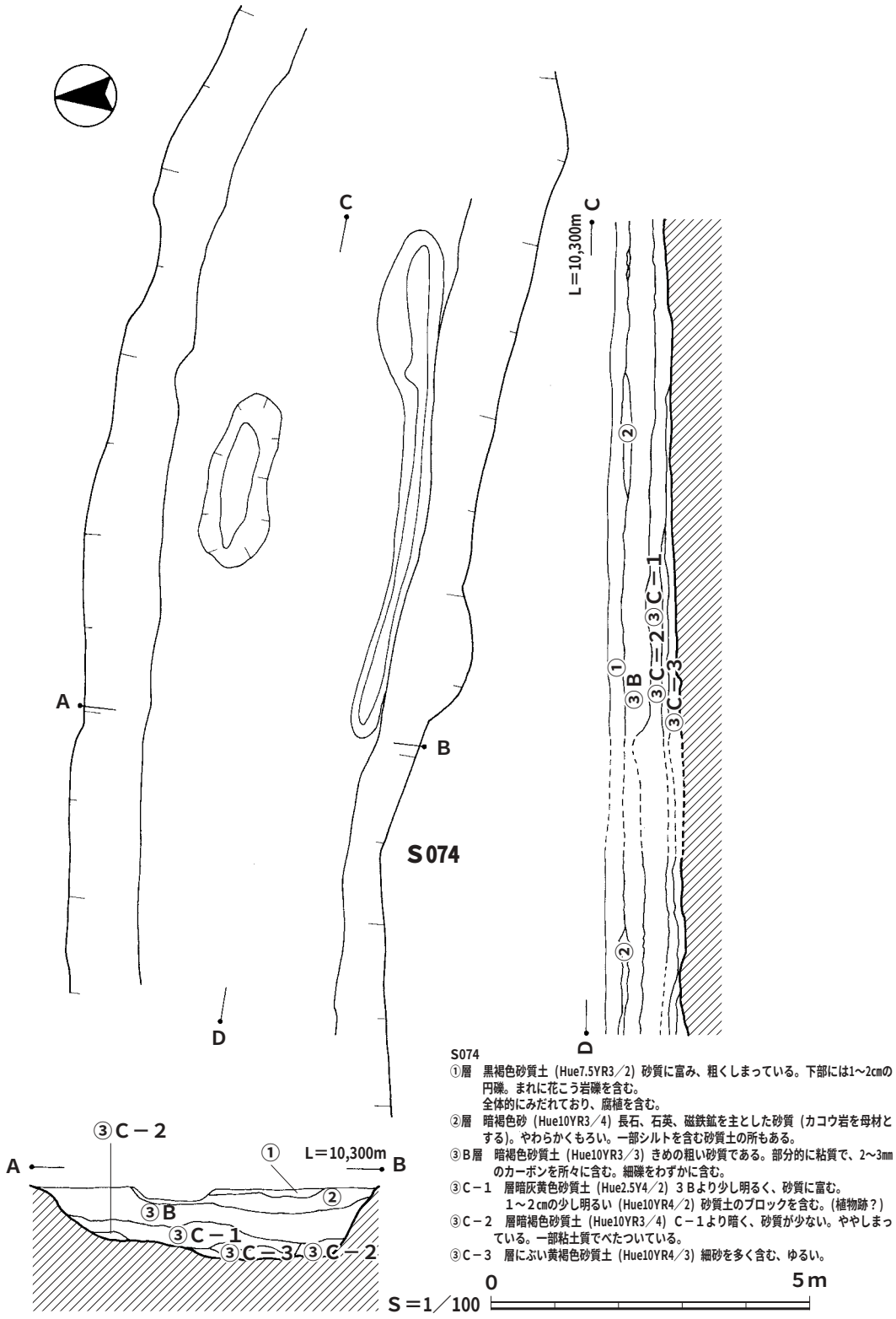
る。菊池川の流れに対してほぼ垂直に入り、内陸に続くと考えられるが、S094につながる可能性もある。そうであれば、「船入」の可能性も考えられる。

［出土遺物量］

S074から出土した遺物は、中グレーコンテナ（38㎝×58㎝×15㎝）約６箱分で、総重量18,700gであった。内訳は、縄文土器（１片：10g)、弥生土器15,919g（内丹塗り土器は219g)、中世の須恵器324g、青磁16g、瓦質土器2,097g、中世期の輸入磁器、近世以降の陶磁器334g、鉄片、古銭であった。

［出土遺物の観察］

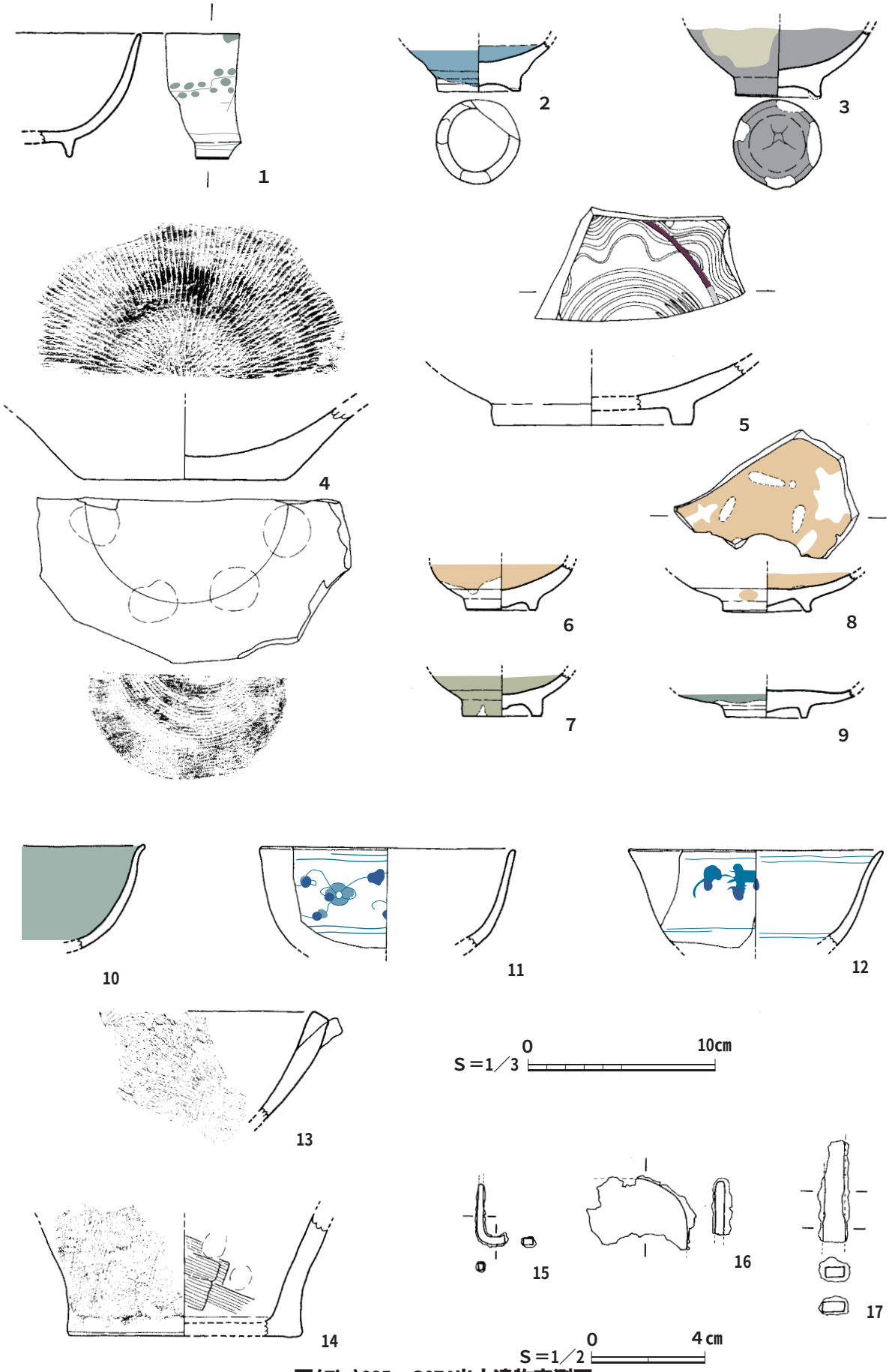
ここでは、３点の磁器、６点の陶器、２点の輸入磁器、１点の青磁、１点の瓦質土器、１点のすり鉢、３点の鉄器を紹介する。



図(Fig)234　溝状遺構（S074）実測図

１は肥前系磁器の染付け椀である。２層から出土した。外面には、小枝と梅か葉の文様が描かれており、高台部に２本、体部下部に１本の線が描かれている。九州陶磁の編年における磁器の編年（色絵以外）野上建紀氏に編年によれば、1700～1750年代頃に似た文様が見られることから、18世紀前半の可能性も考えられる。

２は、磁器の染付け椀の底部である。肥前系の可能性が高い。３Ｂ層から出土した。内外面には薄い青色の釉がかかるが、高台はほとんど釉がかかって



図(Fig)235　S074出土遺物実測図

いない。しかし、釉が新しい印象を受ける。高台は胎土目を剥いだと考えられる痕跡が残り、一部は高台自体が剥がれている。器形は、高台内から畳付にかけて曲線を描きながらゆるやかにつながっている。

３は、磁器の染付け椀の底部である。肥前系の可能性が高い。３Ｃ層から出土した。内外面には灰色をベースにしたクリーム色の釉がかかるが、一部は釉が薄い。畳付には４箇所の胎土目の跡が残り、３ヶ所には胎土自体が残っている。２と同様に器形が、高台内から畳付にかけて曲線を描きながらゆるやかにつながっている。

４は、肥前唐津系の陶器で擂鉢の底部である。内外面に釉は確認できない。底部には糸切り離しの痕跡や胎土目跡が観察される。内面の擂目はかなり磨耗しており、かなり使い込まれている。九州陶磁の編年における陶器の編年、家田淳一氏の編年によれば第Ⅱ期（1600～1650年代頃）～第Ⅲ期（1650～1690年代頃）の特徴に酷似しており、17世紀前半～後半の製品である可能性が高い。

５は、肥前唐津系の陶器で皿の底部である。白化粧土をハケで塗り文様とした刷毛目文の皿である。３Ｂ層から出土している。露胎部はこげ茶色である。内面に一部鉄釉がみられるのみである。九州陶磁の編年における陶器の編年、盛峰雄氏の編年によれば、第Ⅳ期にあたり1690～1780年代に生産されたものに近い。しかし、蛇の目釉剥ぎは見られず、砂目が１箇所に見られるだけである。17世紀後半～18世紀後半の製品である可能性が考えられる。

６は、陶器で椀の底部である。灰白色の釉は部分的にかかる。露胎部は、赤茶けており、あまり焼きは良くない。肥前唐津系であろうか？　３Ｂ層からの出土である。

７は、肥前唐津系の陶器で皿の底部である。水漉した鉄分の少ない灰白色の胎土が使用されており、灰白色の釉は部分的にかかる。盛峰雄氏の編年によれば、第Ⅲ期にあたり1650～1690年代に生産されたものに近い。17世紀後半の製品である可能性が考えられる。２層の下層の出土である。

８は、肥前唐津系陶器で椀の底部である。うすい灰緑色の釉は高台内を除いた内外面にかかる。２層からの出土である。

９は、肥前唐津系の陶器で皿の底部である。うすい灰緑色の釉は高台周辺を除いた内外面にかかる。３Ｂ層からの出土である。

10は、輸入磁器で龍泉窯系青磁椀Ⅳ類であると考えられる口縁部及び体部である。内外面共に釉がかかり、体部上半部には浅い線が３条観察される。Ⅳ類であれば、山本氏の太宰府土器型式と国産陶器・貿易陶器編年による時期区分でＧ期（14世紀初頭～後半）にあたる。２層からの出土である。

11は、輸入磁器の染付け（明時代）の椀で、口縁部及び体部である。外面には、花弁と蔓状の文様が描かれ、口縁部に２本と体部下半部に２本の線が描かれている。中世の遺物である。３Ｂ層からの出土である。

12は、輸入磁器の染付け（明時代）の椀で、口縁部及び体部である。外面には、花弁と蔓状の文様が描かれ、口縁部に１本と体部下半部に１本の線が描かれている。内面にも口縁部に２本と見込み部に２本の線が描かれている。中世の遺物である。３Ｂ層上層からの出土である。

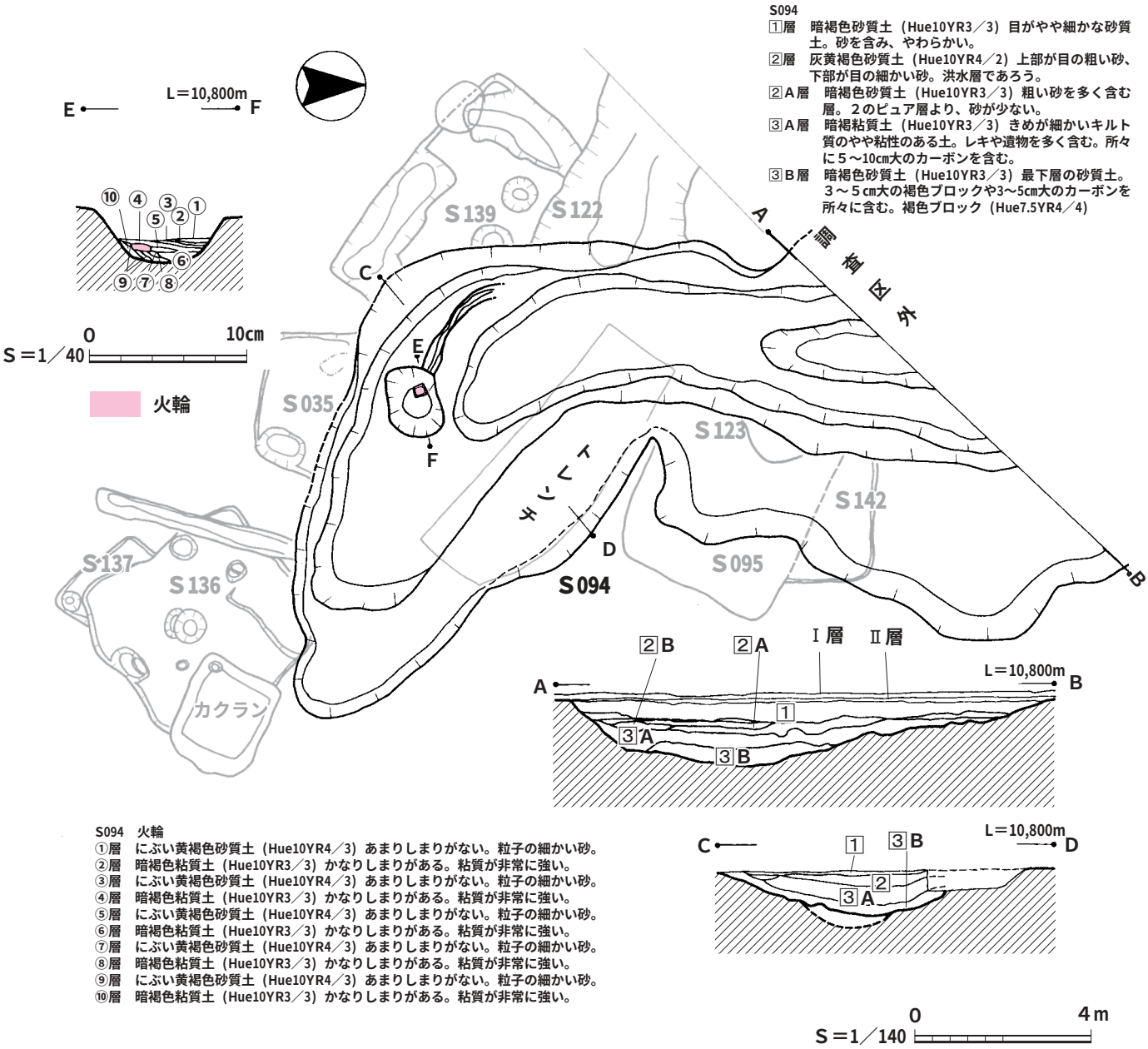
13は、瓦質土器の擂鉢の口縁部である。外面は片口状に注ぎ口が、内面は擂り目が一部観察される。中世の遺物である。１層からの出土である。

14は、瓦質土器の鉢の底部である。外面はハケ目や格子目タタキの痕跡が、内面はハケ目と指頭圧痕が観察される。中世の遺物である。３Ｃ－１層からの出土である。

15は、鉄製品の一部である。形状は釣針に酷似するが、厚みがあるので、何らかの製品のパーツと考えた方が良いであろう。残存長4.2㎝、厚みは２～３㎜である。３Ｂ層からの出土である。

16は、鉄製品の一部である。一部の形状が残っているが、全体の形状は不明である。残存長3.5㎝、厚みは約0.3㎝である。１、２層からの出土である。

17は、鉄釘であると考えられる。上下が欠損している。残存長3.5㎝、幅約0.8㎝、厚みは約0.3㎝である。３Ｂ層からの出土である。



図(Fig)236　溝状遺構（S094）実測図

【S094】（図236参照）

［確認位置］調査１区、C、D、E－５・C、D－６グリッド。標高約10.5m。

［大きさ］長さ：1800cm～、幅：400～700cm、深さ：100～150cm。

［覆土］５層。遺物は①層に多く含まれるが、②や③層にも含まれる。

［切り合い関係］S122、139、135、46、136、123、95、142を切る。

［遺構の性格・年代］遺構の年代は、溝内に中世～近世の陶磁器片を多く含み、また、溝内の土坑から五輪塔の火輪が出土したことから、中世から近世にかけて使用された溝と考えられる。出土遺物を考えると14世紀頃～18世紀頃までの時期と考えられる。この溝は、調査区外から南北に続き、D－５グリッド辺りでやや東に方向を変えると同時に徐々に浅くなり終わっている。A、B、Cグリッド周辺には中世期の遺構が多く、当時から溝としての役割があり、一部近世期までその役目を果たしていたことが出土遺物から窺うことが推定できる。S074につながる可能性もあり、「船入」の可能性が非常に高い。

［出土遺物量］

S094から出土した遺物は、中グレーコンテナ(38cm×58cm×15cm）約７箱分で、総重量22,229gで

あった。内訳は、縄文土器（19片：957g）、弥生土器16,850g（内丹塗り土器は484g）、中世の須恵器35g、白磁112g、青磁451g、瓦質土器2,969g、中世期の輸入磁器、近世以降の陶磁器228g、鉄片、古銭、青銅製品であった。

［出土遺物の観察］

ここでは、２点の陶器、１点の輸入磁器、３点の火鉢、４点のすり鉢、１点の鉄器、２点の青銅製品、１点の古銭、１点の石製品を紹介する。

１は、陶器で椀である。灰色の釉は部分的にかかる。露胎部は、赤茶けており、あまり焼きは良くない。肥前唐津系であろうか？。１層からの出土である。

２は、肥前唐津系の陶器で皿の底部である。水漉した鉄分の少ない灰白色の胎土が使用されており、灰白色の釉は部分的にかかる。胎土と釉はS074の７と酷似する。盛峰雄氏の編年によれば、第Ⅲ期にあたり1650～1690年代に生産されたものに近い。17世紀後半の製品である可能性が考えられる。１層の出土である。

３は、輸入磁器の染付け（明時代）の皿で、底部である。内面には、葉と蔓状の文様が描かれ、２本の線が描かれている。外面にも文様や２本の線、高台に２本の線と高台内に１本の線が描かれている。中世の遺物である。１層からの出土である。

４、５、６、７は瓦質土器の鉢の口縁部及び底部内面はハケ目が観察される。中世の遺物である。５は３Ｂ層、その他は１層からの出土である。

８は、瓦質土器の火鉢の口縁部である。口縁部に１重の突帯が巡り、菊花状のスタンプが施されている。そして、そのすぐ下に２重の突帯が巡る。１層からの出土である。

９は、瓦質土器の火鉢の口縁部である。２重の突帯が巡るが、２番目の突帯は剥がれ落ちており、痕跡しかない。２重の突帯の間にそれぞれ菊花状のスタンプ、波紋状の沈線、波紋状の沈線が施されている。１層からの出土である。

10は、瓦質土器の火鉢の脚部から体部下半部である。脚は３つ付くと考えられる。外面は１重の突帯が巡り、指ナデの痕跡が窺える。１層からの出土である。

11は、鉄製品の一部である。一部の形状が残り折れ曲がっているが、全体の形状は不明である。残存長5.4㎝、幅約2.6㎝、厚みは約0.3㎝である。1層からの出土である。

12は、青銅鏡の破片で、外区と内区の一部が残存するのみである。鉛同位体分析の結果、弥生時代ではなく、中世の可能性が高いことが示された（第Ⅴ章参照）。復元直径6.6㎝、厚みは約0.05㎝である。1層からの出土である。

13は、青銅製品で日本刀の笄（こうがい）の一部と考えられる。小刀を受けるための穴が見られる。残存長2.4㎝、幅約1.4㎝、厚みは約0.9㎝である。1層からの出土である。

14は、古銭であるが、文字は判読不可能である。１層からの出土である。

15は、五輪塔の火輪である。溝内の土坑から出土した。おそらくこの溝が掘られた時代か間もない時期の可能性が考えられる。凝灰岩製で空輪・風輪を差し込むための穴が見られる。１辺約25㎝、高さ約12㎝である。火輪だけで時期の特定はかなり危険だが、13世紀～15世紀と想定しておきたい。

②礎石柱建物（１棟）

【S150】（図239参照）

［確認位置］調査１区、C、Ｄ－６、７グリッド。標高約10.25m。

［切り合い関係］S071を切る。

［規格］２間×２間以上の礎石柱建物。桁行2.00m（6.67尺）、梁行2.50m（8.33尺）である。

［軸の方位］桁行方向（長軸）はほぼ東西方向である。

［柱間の寸法：梁］

礎：礎石、（　）：平均値、単位：m

礎１－５：2.50＋2.50（2.50：8.33尺）

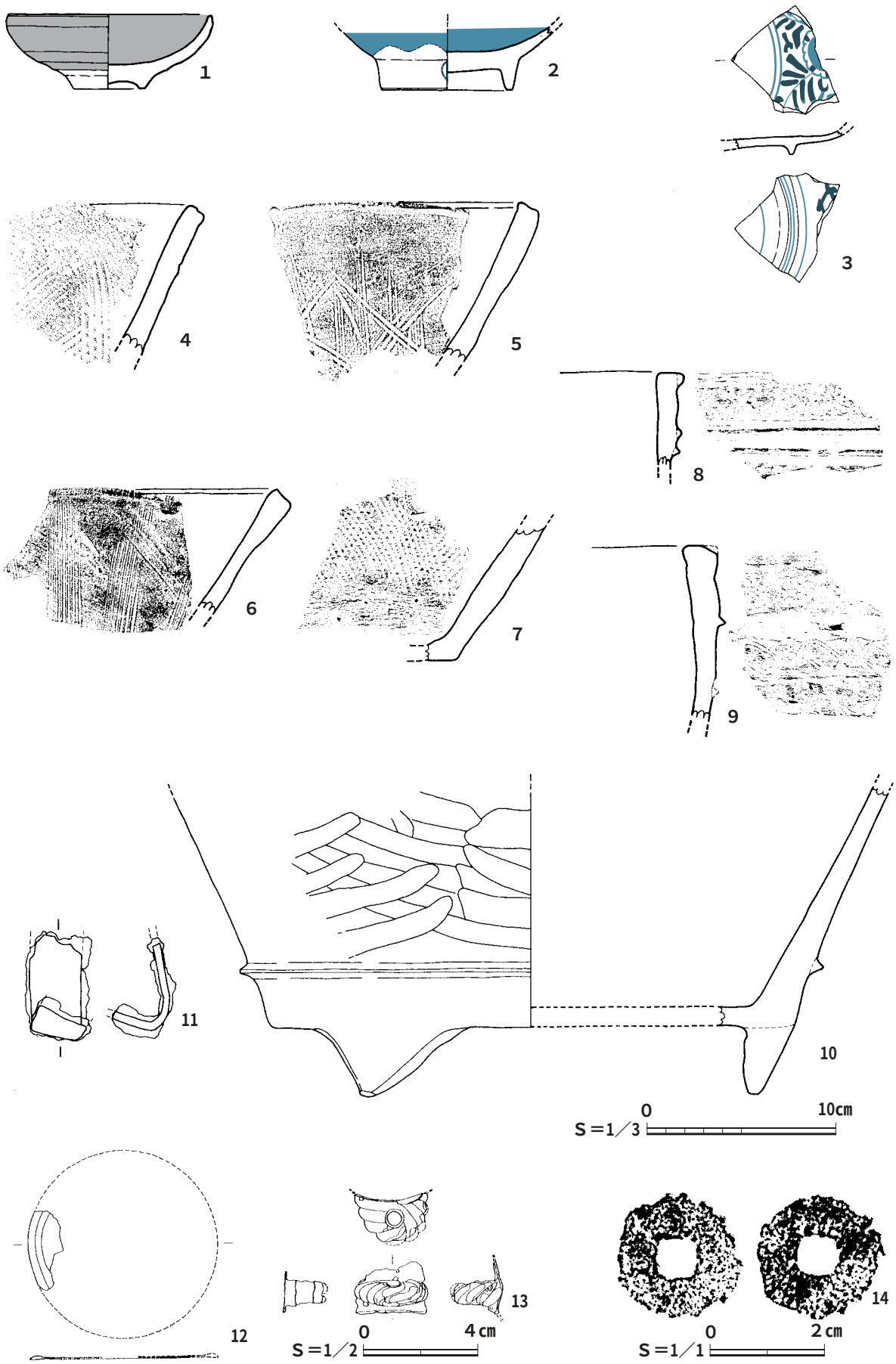
［柱間の寸法：桁］

礎１－３：2.00＋2.00（2.00：6.67尺）

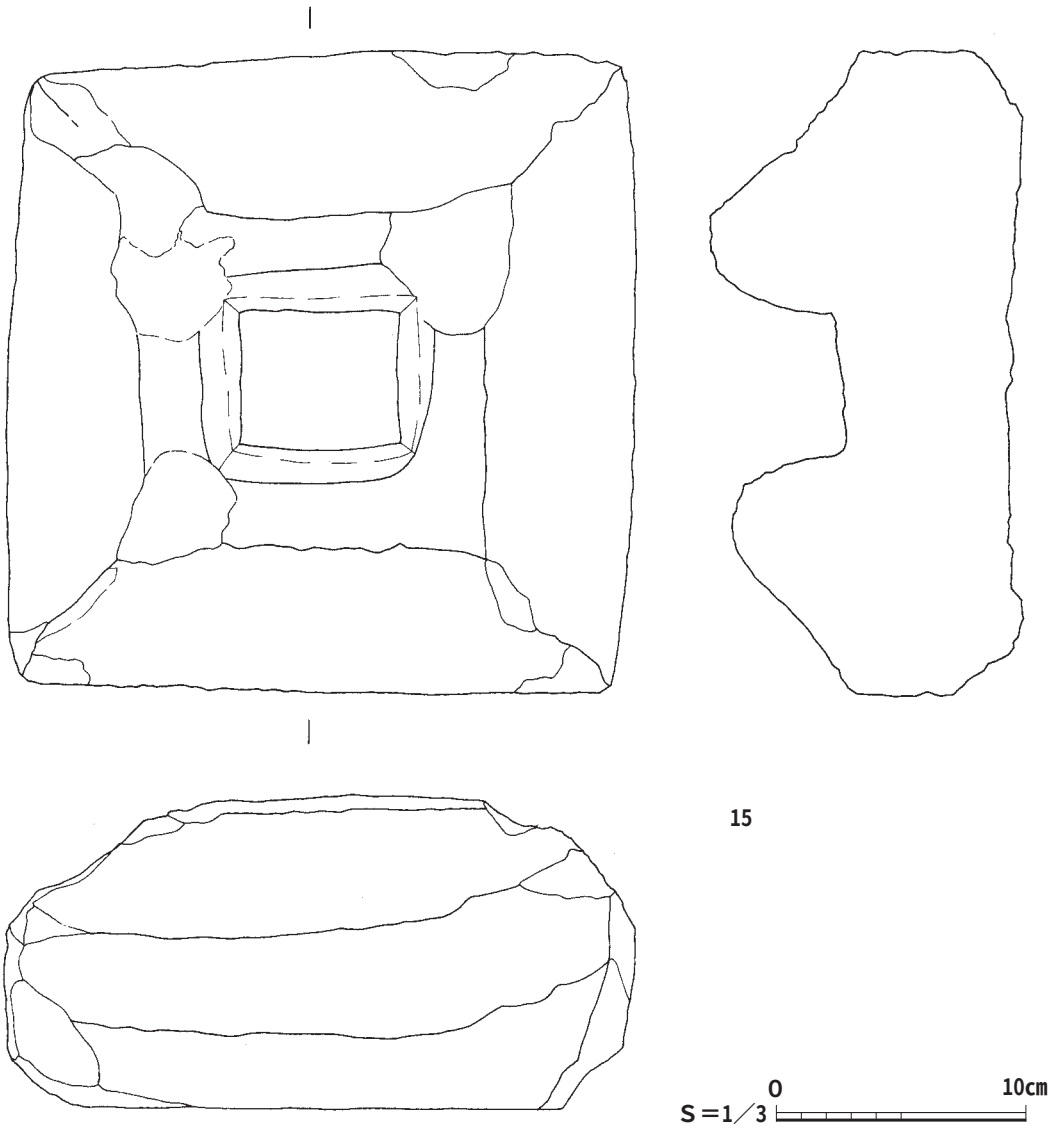
礎５－７：2.00＋2.00（2.00：6.67尺）

［総面積］20㎡以上（約6.06坪）

［推察される遺構の性格、時期など］規格が２間×２間以上の礎石柱建物である。礎５には凝灰岩があった事を表土剥ぎの際に確認している。礎６や礎７に



図(Fig)237　S094出土遺物実測図（１）



図(Fig)238　S094出土遺物実測図（２）

は凝灰岩を３段から４段に積み重ねてあることから、元々少し掘り込んでこの高さまで凝灰岩を積み重ねていたものと想定される。礎石を高くする理由として水害対策が考えられるが、詳細は不明である。また、時期も凝灰岩を使用していることから中世～近世？という想定である。

［出土遺物］出土遺物はない。

６）時期不明（18基）

①土坑（12基）

【S006】（図240参照）

［確認位置］調査２区、Ｔ－８グリッド。

標高約10.5m。

［形状］円形

［大きさ］長軸：95cm、短軸：95cm、深さ：16cm。

［覆土］1層。

［切り合い関係］無し。

［遺構の性格・年代］弥生土器の小片が出土したが、時期の同定には至れないと判断した。遺構の性格も不明である。

［遺物の出土状況］出土状況は不明。

［出土遺物量］

S006から出土した遺物は、弥生土器276g（内丹塗り土器は49g）である。

［出土遺物の観察］

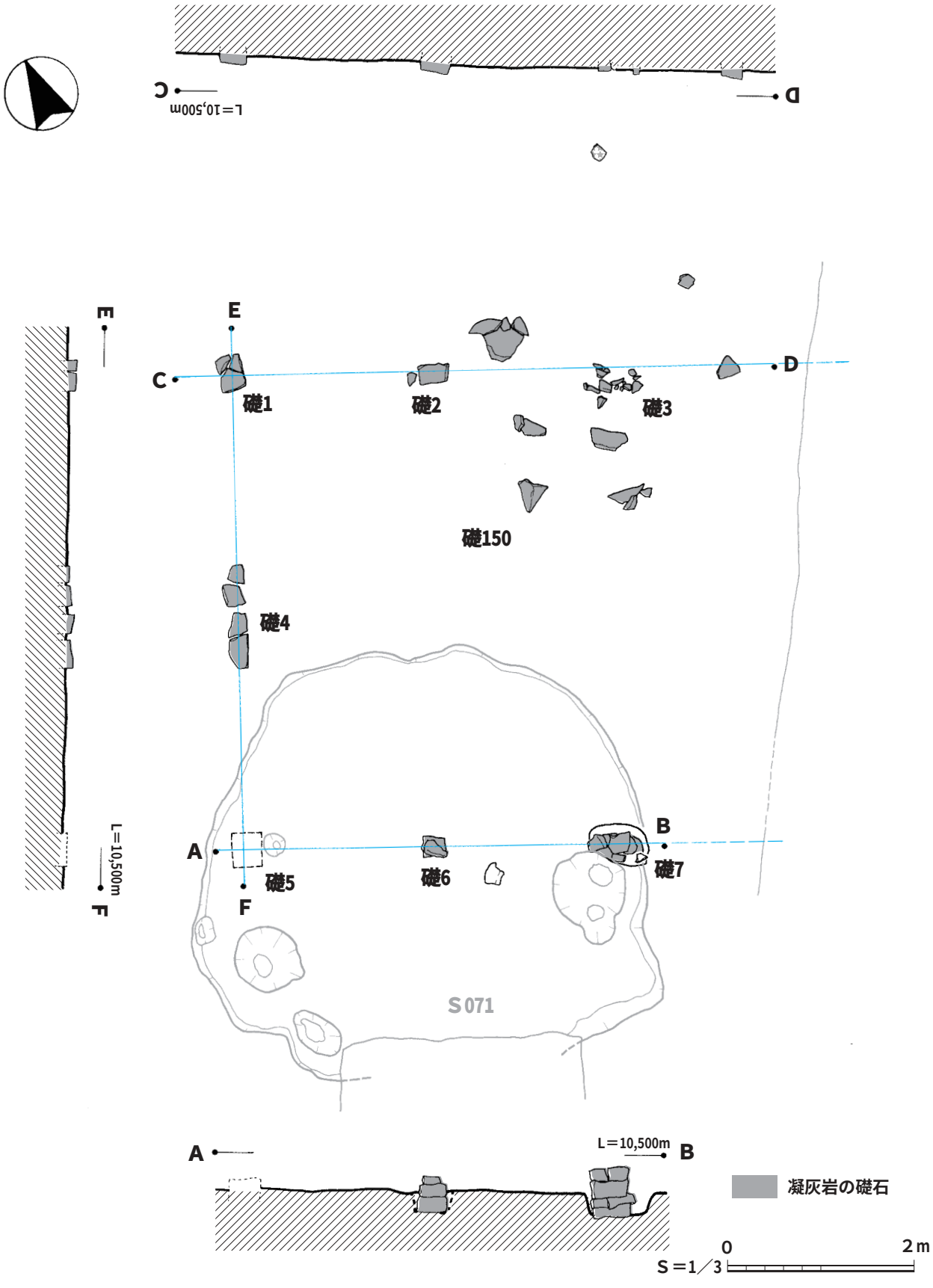
紹介遺物はない。

【S007】（図240参照）

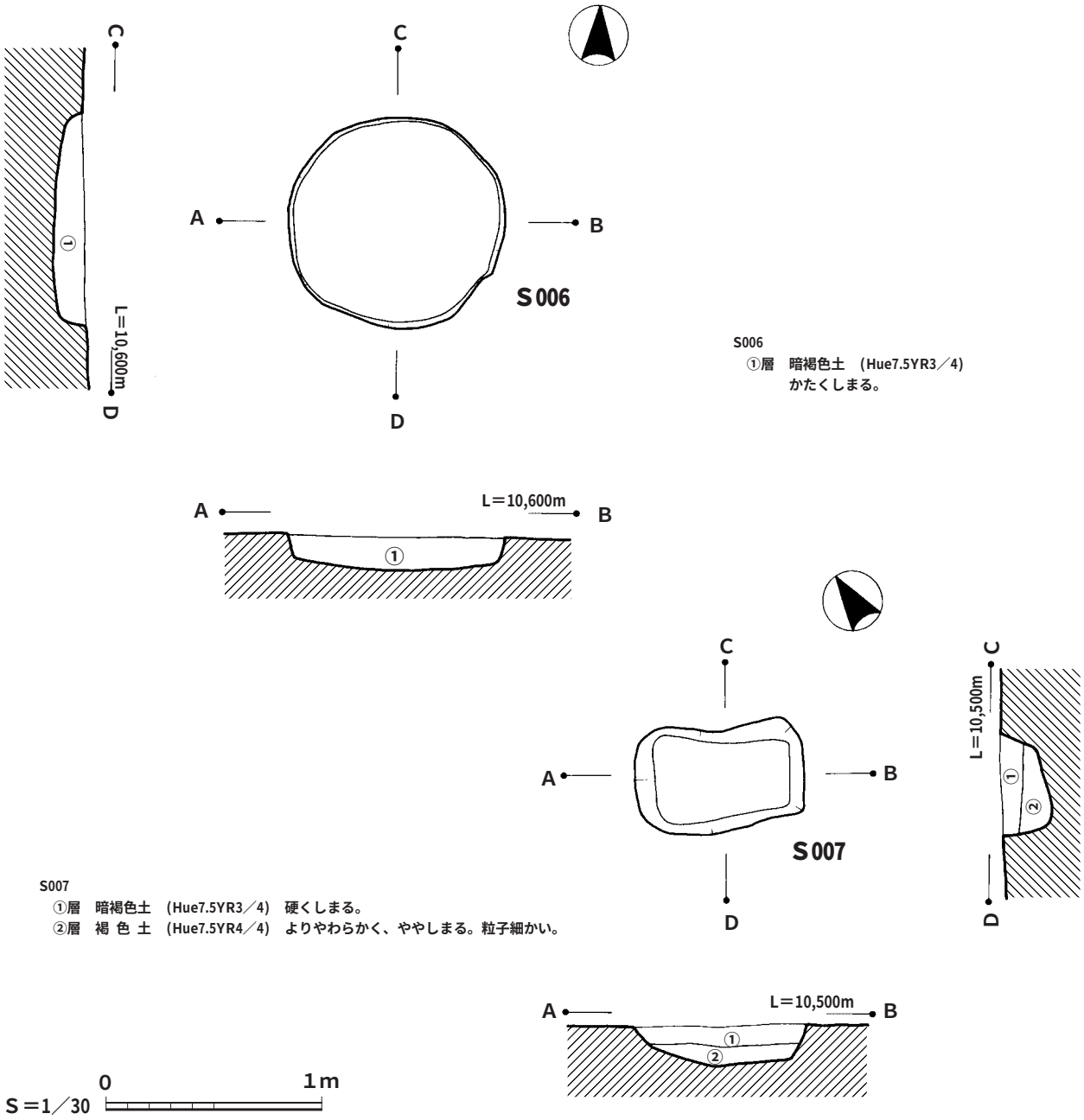
［確認位置］調査２区、Ｕ－７グリッド。

標高約10.5m。

［形状］楕円形



図(Fig)239　礎石柱建物（S150）実測図



図(Fig)240　土壙墓（S006・S007）実測図

［出土遺物量］

S007から出土した遺物は、縄文土器（１片：36g)、縄文時代の石製小玉１点、弥生土器276gである。

［出土遺物の観察］

紹介遺物はない。

【S014】（図241参照）

［確認位置］調査２区、Ｓ－９グリッド。

標高約10.4m。

［形状］円形

［大きさ］長軸：85㎝、短軸：82㎝、深さ：19㎝。

［覆土］１層。

［切り合い関係］無し。

［遺構の性格・年代］弥生土器の小片が出土したが、時期の同定には至れないと判断した。遺構の性格も不明である。

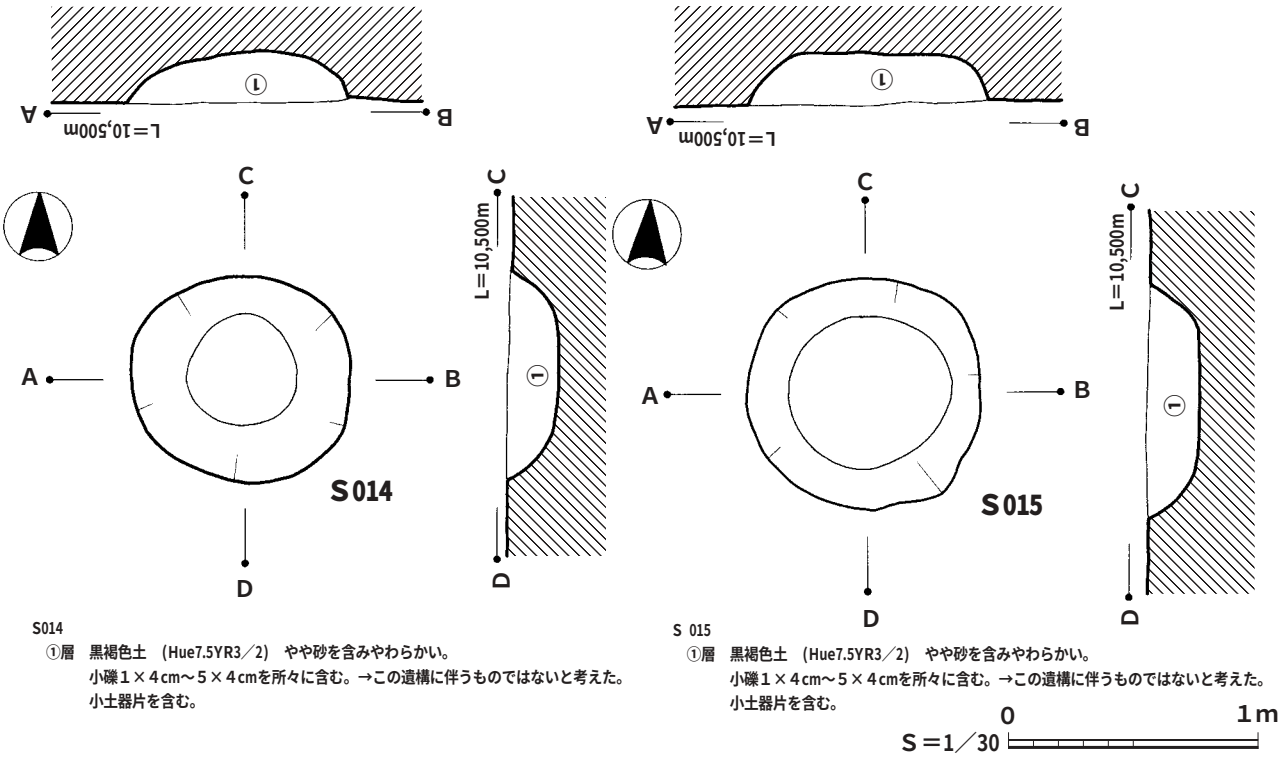
［遺物の出土状況］出土状況は不明。

［出土遺物量］

S014から出土した遺物は、弥生土器80g（内丹塗り土器は２ｇ）である。

［出土遺物の観察］

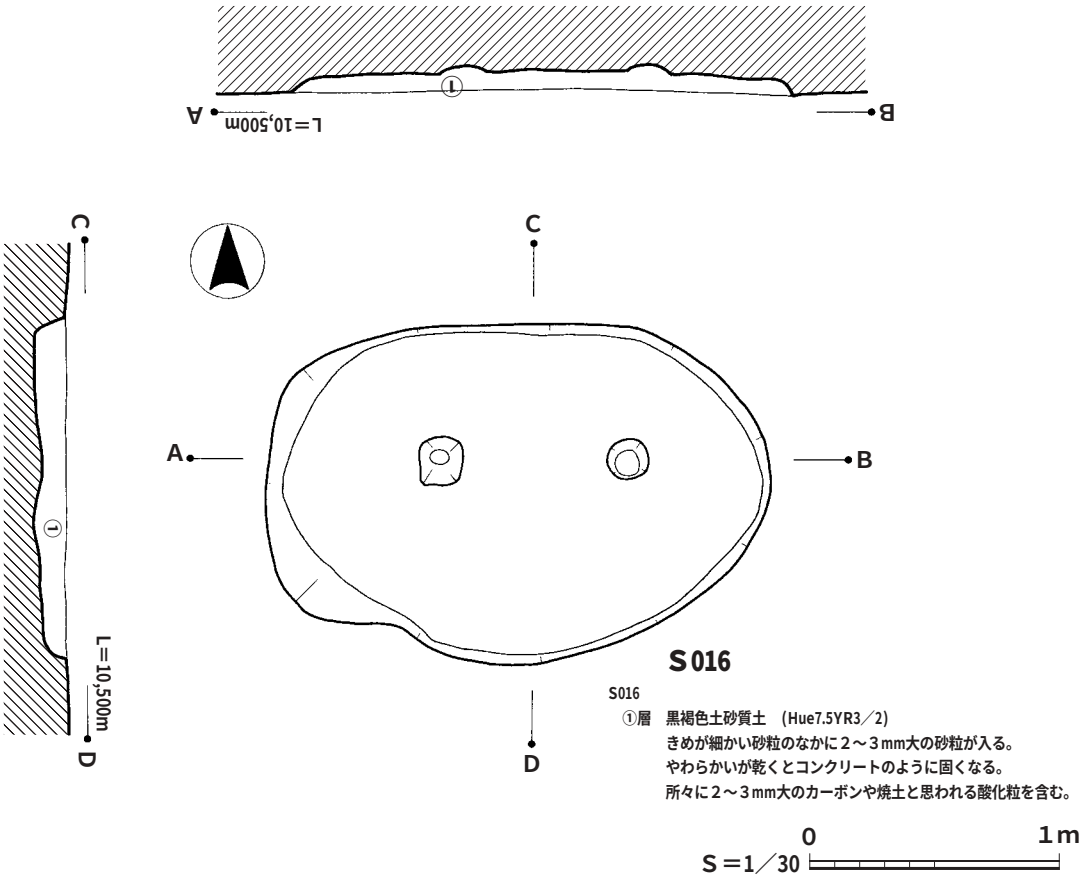
紹介遺物はない。



S014
①層　黒褐色土　(Hue7.5YR3／2)　やや砂を含みやわらかい。
小礫１×４cm～５×４cmを所々に含む。→この遺構に伴うものではないと考えた。
小土器片を含む。

S 015
①層　黒褐色土　(Hue7.5YR3／2)　やや砂を含みやわらかい。
小礫１×４cm～５×４cmを所々に含む。→この遺構に伴うものではないと考えた。
小土器片を含む。

S＝1／30　0　1m



S016
①層　黒褐色土砂質土　(Hue7.5YR3／2)
きめが細かい砂粒のなかに２～３mm大の砂粒が入る。
やわらかいが乾くとコンクリートのように固くなる。
所々に２～３mm大のカーボンや焼土と思われる酸化粒を含む。

S＝1／30　0　1m

図(Fig)241　土坑（S014・S015・S016）実測図

【S015】（図241参照）

［確認位置］調査２区、Ｓ－９グリッド。

標高約10.4m。

［形状］円形

［大きさ］長軸：88㎝、短軸：82㎝、深さ：20㎝。

［覆土］１層。

［切り合い関係］無し。

［遺構の性格・年代］縄文土器や弥生土器の小片が出土したが、時期の同定には至れないと判断した。遺構の性格も不明である。

［遺物の出土状況］出土状況は不明。

［出土遺物量］

S015から出土した遺物は、縄文土器（３片：30g）と弥生土器80gである。

［出土遺物の観察］

紹介遺物はない。

【S016】（図241参照）

［確認位置］調査２区、Ｓ－９グリッド。

標高約10.4m。

［形状］楕円形

［大きさ］長軸：200㎝、短軸：135㎝、深さ：12㎝。

［覆土］１層。

［切り合い関係］無し。

［遺構の性格・年代］縄文土器や弥生土器の小片が出土したが、時期の同定には至れないと判断した。遺構の中に２つの浅い窪みがある。土壙墓の可能性も否定できないが、詳細は不明である。

［遺物の出土状況］出土状況は不明。

［出土遺物量］

S016から出土した遺物は、縄文土器（１片：16g）と弥生土器364g（内丹塗り土器は20g）である。

［出土遺物の観察］

紹介遺物はない。

【S022】（図231参照）

［確認位置］調査２区、Ｒ－８グリッド。

標高約10.4m。

［形状］楕円形？

［大きさ］長軸：220㎝～、短軸：78㎝～、深さ：56㎝。

［覆土］３層。

［切り合い関係］S017を切る。

［遺構の性格・年代］出土遺物もなく、遺構の性格も不明である。埋没過程で掘りこみあり。

［出土遺物量］

出土遺物はない。

【S023】（図212参照）

［確認位置］調査２区、Ｓ－９グリッド。

標高約10.4m。

［形状］楕円形？

［大きさ］長軸：54㎝～、短軸：39㎝、深さ：10㎝。

［覆土］１層。

［切り合い関係］S013に切られる。

［遺構の性格・年代］出土遺物もなく、遺構の性格は不明である。

［出土遺物量］

出土遺物はない。

【S040】（図242参照）

［確認位置］調査１区、Ｂ－４グリッド。

標高約10.25m。

［形状］円形

［大きさ］長軸：68㎝、短軸：46㎝、深さ：13㎝。

［覆土］１層。

［切り合い関係］無し。

［遺構の性格・年代］弥生土器と中世の瓦質土器が出土した。また、覆土は、中世の遺構の覆土酷似する。しかし、時期の同定には至れないと判断した。遺構の性格も不明である。

［遺物の出土状況］出土状況は不明。

［出土遺物量］

S040から出土した遺物は、弥生土器61gと中世の瓦質土器２ｇである。

［出土遺物の観察］

紹介遺物はない。

【S115】（図242参照）

［確認位置］調査１区、Ｇ－７グリッド。

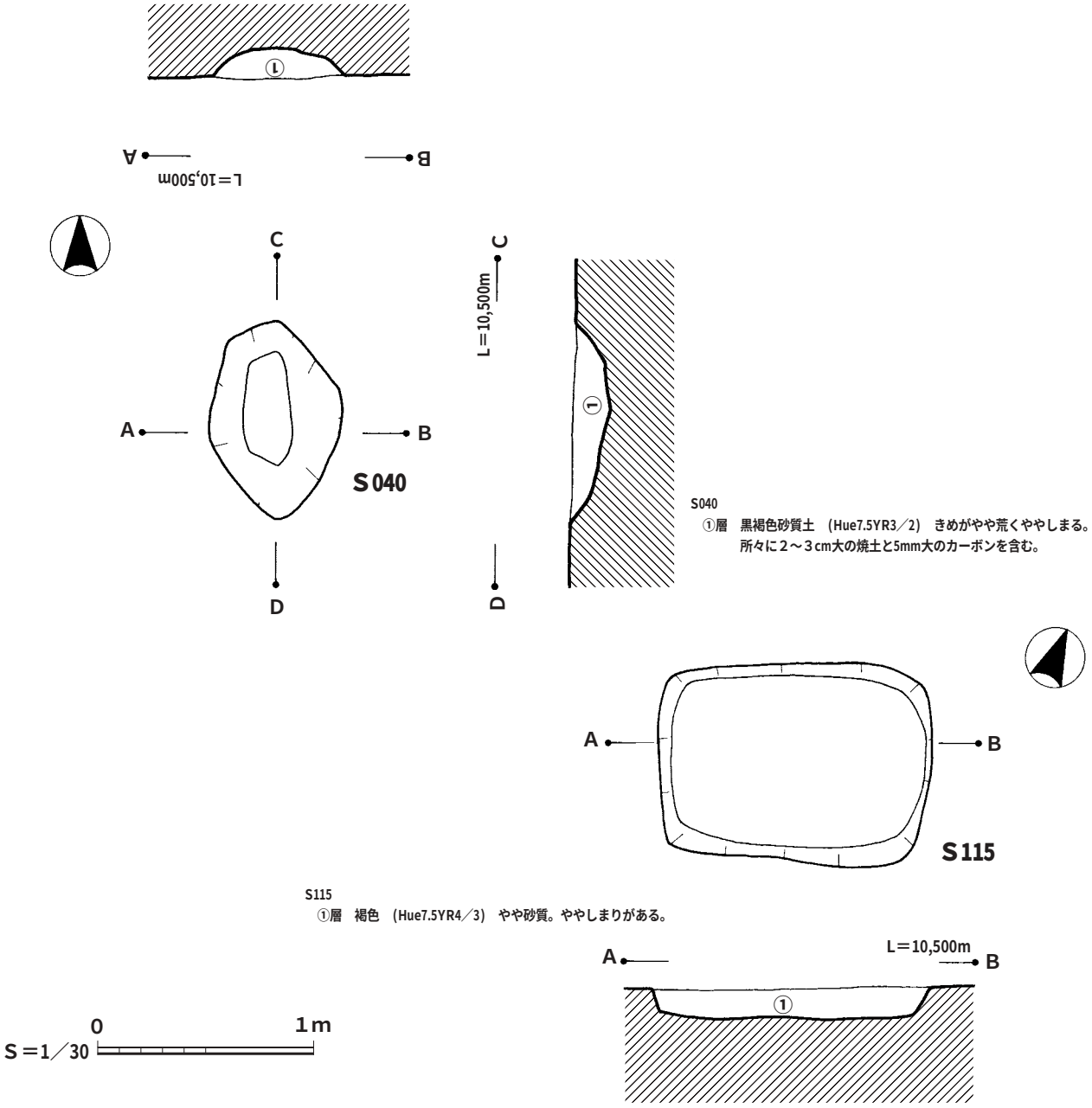
標高約10.38m。

［形状］楕円形

［大きさ］長軸：125㎝、短軸：93㎝、深さ：14㎝。

［覆土］１層。

［切り合い関係］無し。



図(Fig)242　土坑（S040・S115）実測図

［遺構の性格・年代］縄文土器と弥生土器が出土して、弥生土器が大半を占めるが、時期の同定には至れないと判断した。遺構の形状は土坑墓の可能性も考えられるが、詳細は不明である。

［遺物の出土状況］出土状況は不明。

［出土遺物量］

S115から出土した遺物は、縄文土器（１片：19g）と弥生土器1,205g（内丹塗り土器は905g）である。

［出土遺物の観察］

紹介遺物はない。

【S123】（図74参照）

［確認位置］調査１区、D、Ｅ－５グリッド。

標高約9.75m。

［形状］不明

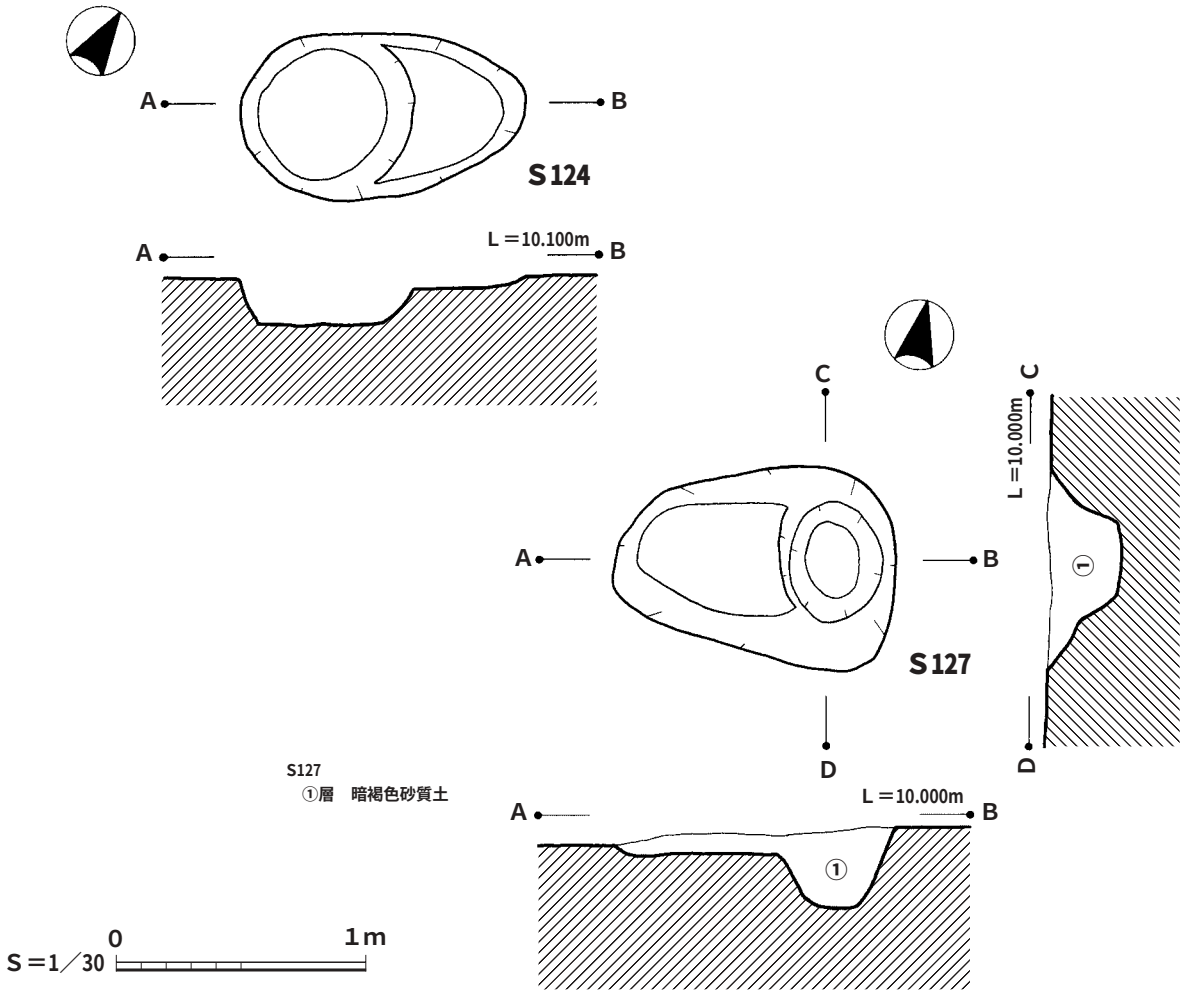
［大きさ］長軸：100㎝～、短軸：100㎝～、深さ：30㎝～。

［覆土］１層。

［切り合い関係］S095を切り、94から切られる。

［遺構の性格・年代］不明である。

［出土遺物量］無し。



図(Fig)243　土坑（S124・S127）実測図

【S124】（図243参照）

［確認位置］調査１区、M－９グリッド。

標高約10.02m。

［形状］楕円形であるが、中心は円形。

［大きさ］長軸：112㎝、短軸：67㎝、深さ：６～18㎝。

［覆土］１層。

［切り合い関係］無し。

［遺構の性格・年代］不明である。

［出土遺物量］無し。

【S127】（図243参照）

［確認位置］調査１区、P－９グリッド。

標高約9.95m。

［形状］全体形状も中心も楕円形。

［大きさ］長軸：112㎝、短軸：80㎝、深さ：８～30㎝。

［覆土］１層。

［切り合い関係］無し。

［遺構の性格・年代］不明である。

［出土遺物量］無し。

②焼土坑（２基）

【S031】（図244参照）

［確認位置］調査２区、T－８グリッド。

標高約10.38m。

［形状］不定形

［大きさ］長軸：61㎝、短軸：50㎝、深さ：12㎝。

［覆土］２層。

［切り合い関係］無し。

［遺構の性格・年代］覆土が焼土であることから、焼土坑であると考えられる。但し、その目的は不明である。S032と並んでいる。

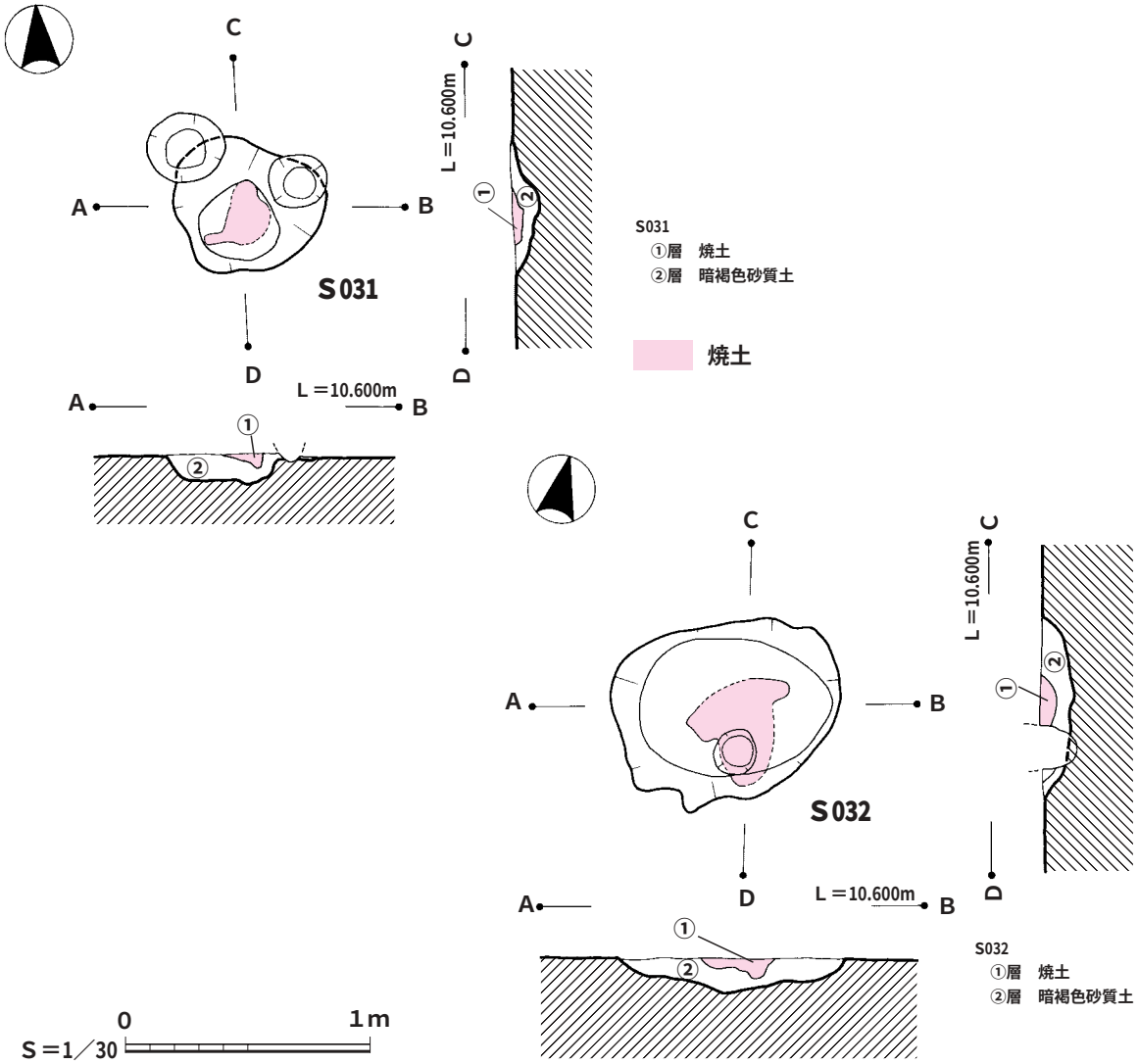
［出土遺物量］

出土遺物は無い。

【S032】（図244参照）

［確認位置］調査２区、T－８グリッド。

標高約10.38m。



図(Fig)244　土坑（S031・S032）実測図

［形状］不定形

［大きさ］長軸：91㎝、短軸：71㎝、深さ：13㎝。

［覆土］２層。

［切り合い関係］無し。

［遺構の性格・年代］覆土が焼土であることから、焼土坑であると考えられる。但し、その目的は不明である。S031と並んでいる。

［出土遺物量］

出土遺物は無し。

③掘立柱建物（１棟）

【S057】（図245参照）

［確認位置］Ⅰ－８、９グリッド内に位置する。

標高約10.3m

［規格］２間×２間の総柱建物。平均で桁行3.95m（13.2尺）、梁行3.03m（10.1尺）である。

［軸の方位］桁行方向（長軸）はほぼ東より南東に約10～13度傾いている。梁行方向（短軸）も同様に北より北東方向に約11～13度度傾いている。

［柱穴の掘り形径と深さ］柱穴の掘り形直径は17～22㎝で平均は20.3㎝、深さは18～27㎝で平均は23.1㎝。

［柱痕跡］９ある柱穴の内、柱痕跡は１つも確認されなかった。

［柱間の寸法：梁］

Ｐ：ピット、（　）：平均値、単位：ｍ

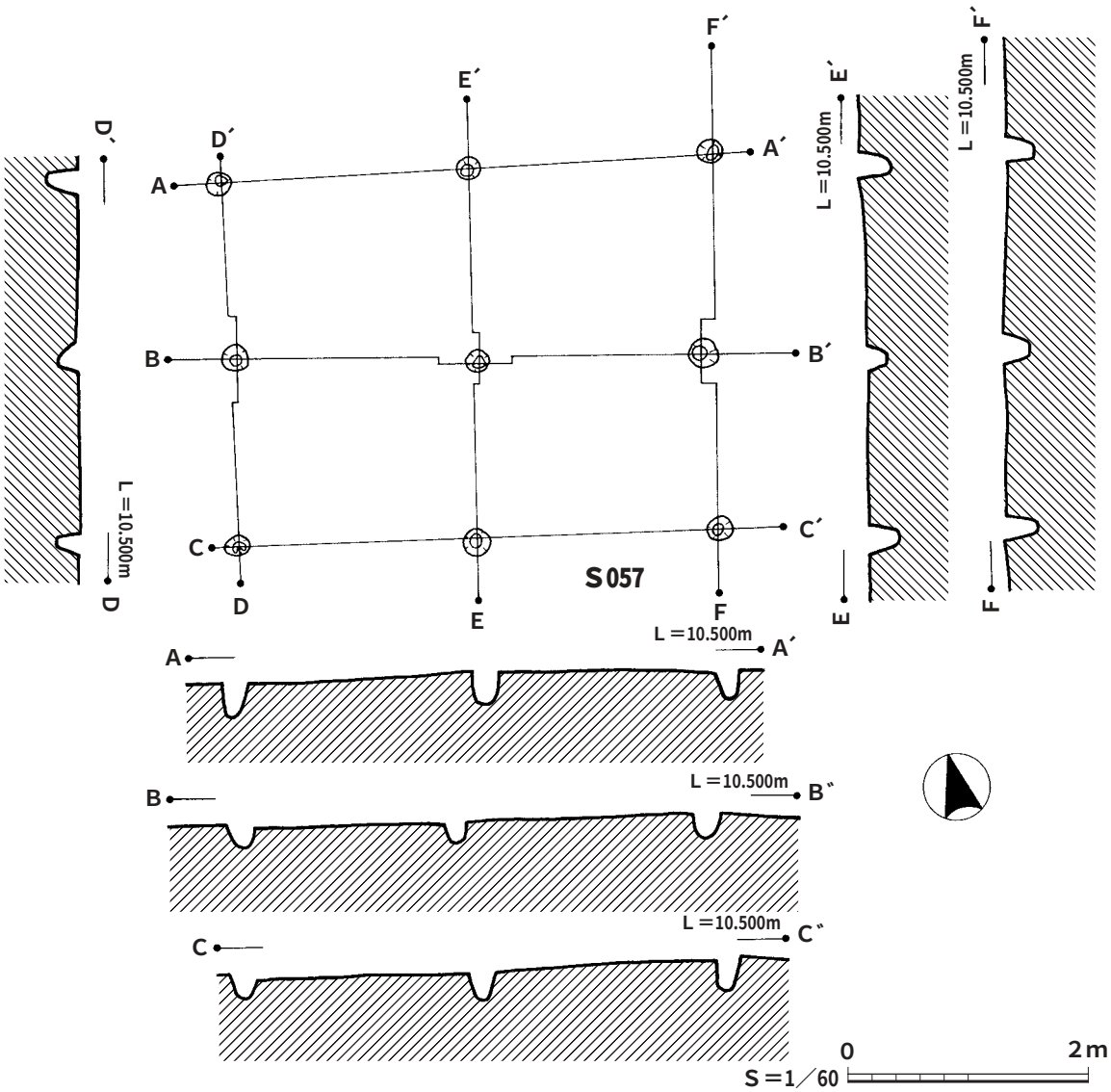
Ｐ１－３：2.05＋2.03（2.04：6.8尺）

Ｐ４－６：2.00＋1.82（1.91：約6.4尺）

Ｐ７－９：1.95＋2.00（1.975：約6.6尺）

［柱間の寸法：桁］

Ｐ３－９：1.65＋1.45（1.55：約5.2尺）



図(Fig)245　掘立柱建物（S057）実測図

Ｐ２－８：1.58＋1.46（1.52：約5.1尺）

Ｐ１－７：1.46＋1.50（1.48：約4.9尺）

［総面積］12.1㎡（約3.7坪）

［推察される遺構の性格、時期など］軸のズレなどから中世以降であろう。しかし、焼土やカーボンなどを含む中世の覆土の特徴は見られなかった。

［出土遺物量］無し。

④溝（１条）

【S122】（図246参照）

［確認位置］調査１区、Ｄ、Ｅ－４、５グリッド。

標高約10.30m。

［大きさ］長軸：420㎝～、短軸：260～300㎝、深さ：50㎝。

［覆土］１層。

［切り合い関係］S139を切り、94に切られる。

［遺構の性格・年代］溝の一部しか残存していない。時期も遺構の切りあい関係から、弥生時代後期から中世までの間であることが推定できる。

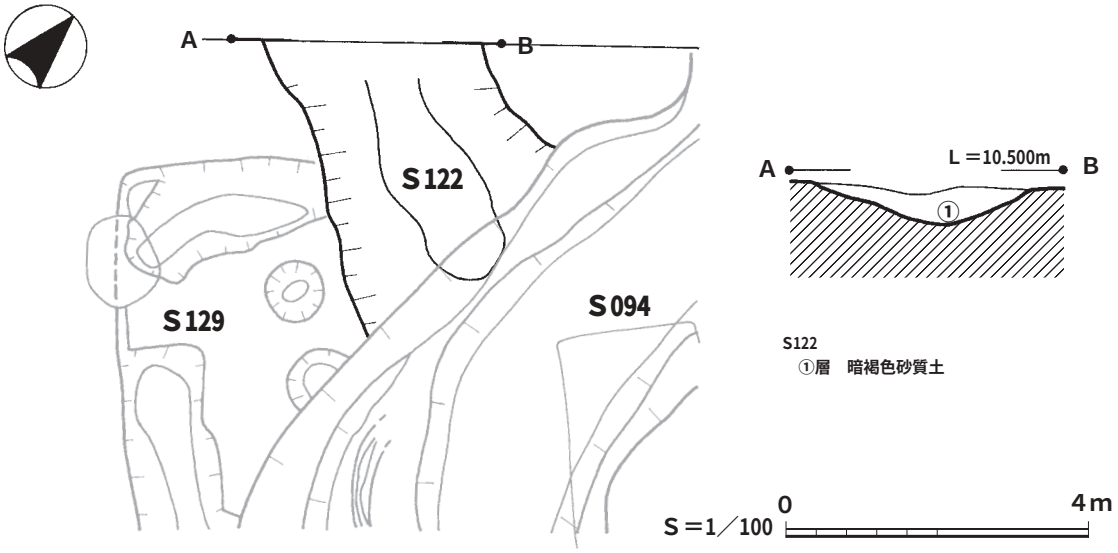
［出土遺物量］

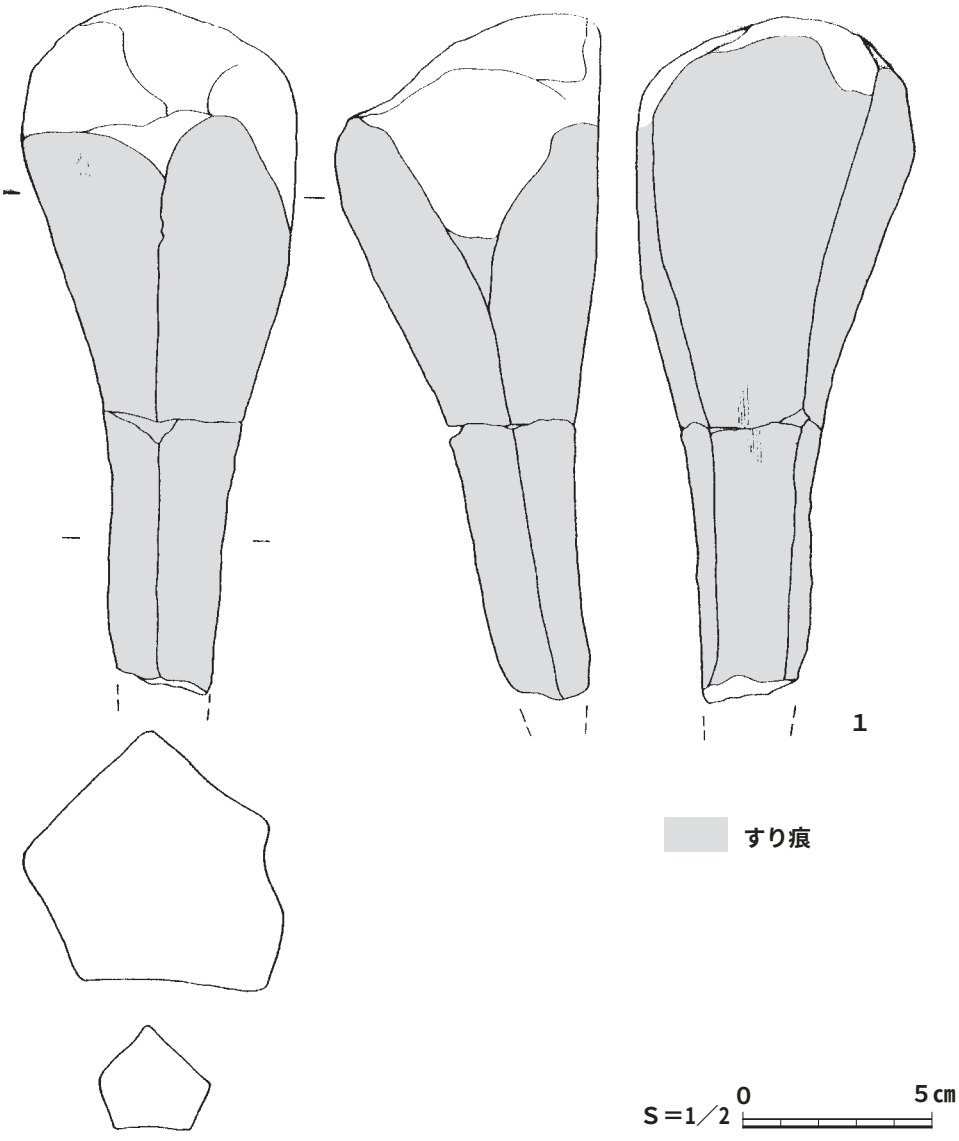
S122から出土した遺物は、小グレーコンテナ（38㎝×58㎝×５㎝）約２箱分で、総重量1,578gであった。内訳は、縄文土器（１片：14g）、弥生土器1,300g、中世の須恵器87g、青磁23g、瓦質土器145g、近世の陶器９g、砥石であった。

［出土遺物の観察］

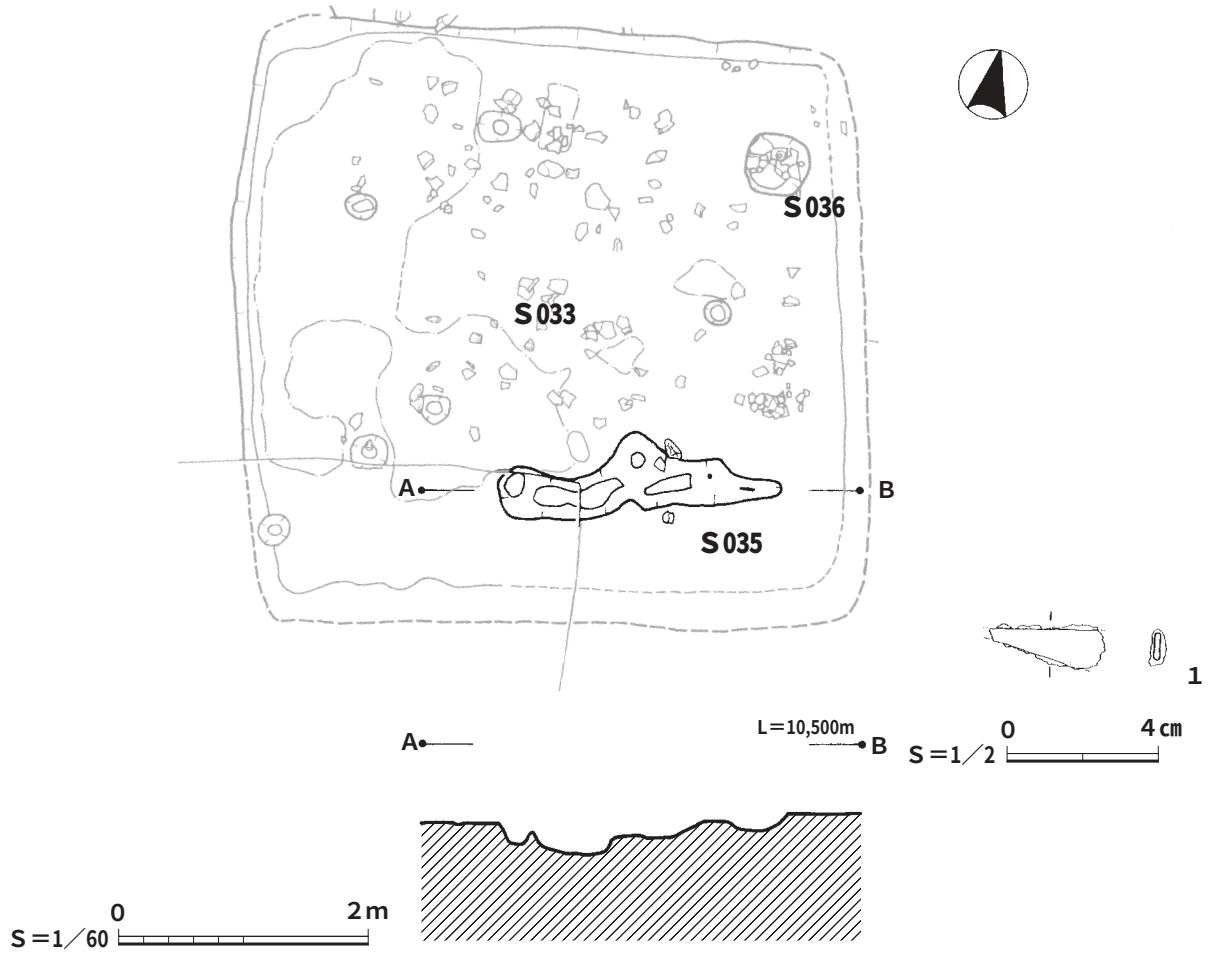
ここでは、１点の砥石を紹介する。

１は、砥石である。石材は、流紋岩で天草砥石の可能性が高い。５面に磨痕が見られる。





図(Fig)246　溝状遺構（S122)実測図及び出土遺物実測図



図(Fig)247　不明遺構（S035)実測図及び出土遺物実測図

⑤不明遺構（２基）

【S035】（図247参照）

［確認位置］調査１区、Ｓ、Ｔ－９グリッド。

標高約10.30m。

［形状］不定形

［大きさ］長軸：225cm、短軸：35～70cm、深さ：17～25cm。

［覆土］１層。

［切り合い関係］S033を切る。

［遺構の性格・年代］鉄片が２点あるだけで、詳細は不明である。切り合い関係から弥生時代後期以降ということはわかるだけである。

［出土遺物量］

S035から出土した遺物は、鉄片２点のみであった。

［出土遺物の観察］

ここでは、１点の鉄片を紹介する。

１は、鉄製品の一部である。欠損した一部であるが、イキている部分の幅がやや広くなっている。形状や用途は不明である。

【S071】（図248参照）

［確認位置］調査１区、Ｃ、Ｄ－６、７グリッド。

標高約10.20m。

［形状］不定形

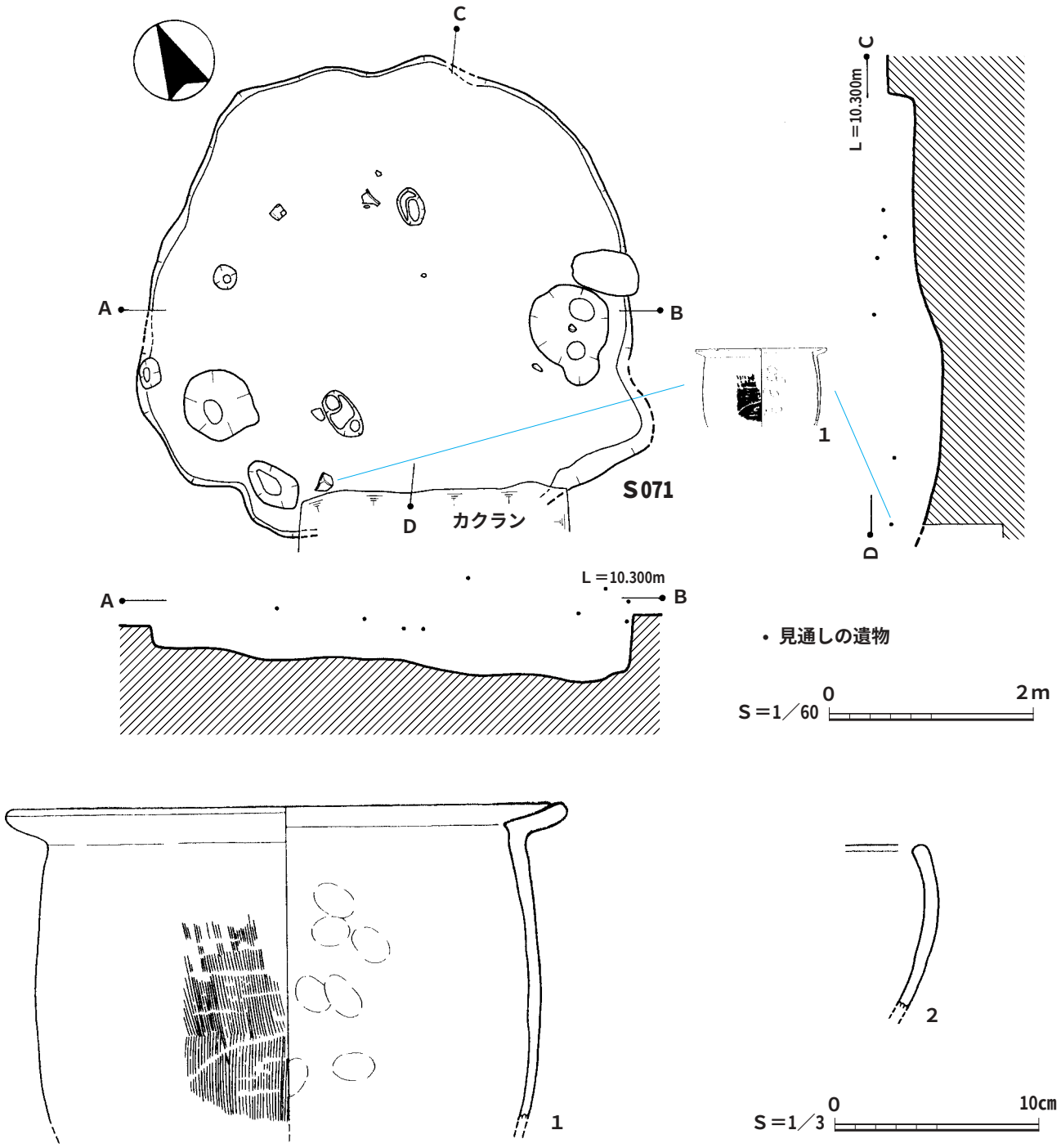
［大きさ］長軸：500cm、短軸：500cm、深さ：25～50cm。

［覆土］１層。

［切り合い関係］S150から切られる。

［遺構の性格・年代］形状は竪穴住居跡に酷似するが、硬化面が無く、高低差があることから、不明遺構とした。遺物は、弥生土器や中世の土器が混在していたが、弥生土器が多かった。

［遺物の出土状況］浮いた状態で出土。遺構廃絶後しばらく経ってからの遺物である。



図(Fig)248　土坑（S071)実測図及び出土遺物実測図

［出土遺物量］

S071から出土した遺物は、小グレーコンテナ(38㎝×58㎝×５㎝）約４箱分で、総重量3,324gであった。内訳は、弥生土器3,296g（内丹塗り土器は96g)、中世の須恵器16g、白磁６ｇ、青磁６ｇであった。

［出土遺物の観察］

ここでは、２点の弥生土器を紹介する。

１は、甕形土器の口縁部及び胴部上半分である。外面にハケ目、内面に指頭圧痕が残る。口縁部形態は弥生中期後半の黒髪式土器の範疇で捉える事が可能である。

２は、鉢形土器の口縁部である。

第３節　遺物

（１）縄文時代

前田遺跡において縄文時代の遺物は散見されるが、遺構は確認できなかった。時期は縄文時代中期～晩期であり、晩期が主体を占める。

ここでは、調査１区・２区で出土した縄文時代の遺物の中から主な遺物を紹介する。

前田遺跡では中期後半の阿高系土器、後期中葉の鐘ヶ崎式土器や北久根山式土器、後期後葉の太郎迫式土器や三万田式土器、後期末の御領式土器、晩期初頭の天城式土器、晩期前半の古閑式土器、晩期の黒川式土器が出土しているが、大半は晩期の黒川式土器の粗製土器である。土器形式の変遷については、ワクド石遺跡（古森　1994）を基本とした。

石器については主に腰岳産黒曜石（肉眼観察）と考えられる西北九州産黒曜石で作られた石鏃等や剥片類が多く出土した。これらの剥片は、縦長のいわゆる石刃といわれる剥片が多く、腰岳周辺で縄文時代後期を中心に発達した「鈴桶型石刃技法」の影響があると考えられる。小畑弘己氏が提唱されている「鈴桶型石刃技法」の定義の中には①「クレステッドフレイク」の石核調整、②「スリガラス状擦痕」などの頭部調整技術、③剥離が行き詰まると、打面を下へ移動し、剥離を行う、④製品として剥片鏃やつまみ形石器が多いなどの特徴がある。前田遺跡出土の石器がこれらの定義を全て満たしているとはいえないが、剥片鏃が散見され、石刃が多く見られることは確実である。おそらく「鈴桶型石刃技法」の影響を間接的に受けた文化が存在したのではないかと考えたい。その他の石器として、粘板岩や片岩製の打製石斧、蛇紋岩等製の磨製石斧などが出土した。

特筆すべきは石製勾玉、小玉などの装身具が出土していることである。うち１点は蛍光Ｘ線分析により糸魚川産ヒスイであることが判明している。

１）土器

それぞれの土器形式に分けて紹介する。分類については、様々な文献や助言をもとに、筆者が行った。

①阿高系土器（図249参照）

１は、深鉢形土器の底部である。内外面に指ナデ痕が残る。S106のから出土である。

２は、ボール状の鉢形土器の口縁部である。外面には渦巻き状の凹線文が見られ、口唇部には沈線がはいる。Ｋ－８グリッドⅢＡ層からの出土である。

②鐘ヶ崎式土器（図249、250参照）

３は、鉢形土器の口縁部である。口縁部には１条の沈線と５つの刺突が観察され、口唇部に１条の沈線が巡る。胴部上半部に沈線で区画された場所に磨り消し縄文が部分的に残る。一番下の沈線は「入組渦文」の一部であろう。沈線、刺突や縄文のへこみに赤彩が一部残っている。Ｌ－９グリッドⅢＡ層からの出土である。復元口径は、19.5㎝。３点が接合している。

４は、鉢形土器の口縁部である。口縁部には１条、胴部上半部に１条の沈線が残る。Ｇ－８グリッドⅢＡ層からの出土である。

５は、鉢形土器の口縁部である。口縁部には１条の沈線と５つの刺突が観察され、口唇部に１条の沈線が巡る。胴部上半部に沈線で区画された場所の２箇所に磨り消し縄文が残る。一番下の沈線は方形に区画したものか？Ｍ－10グリッドⅢＢ層からの出土である。

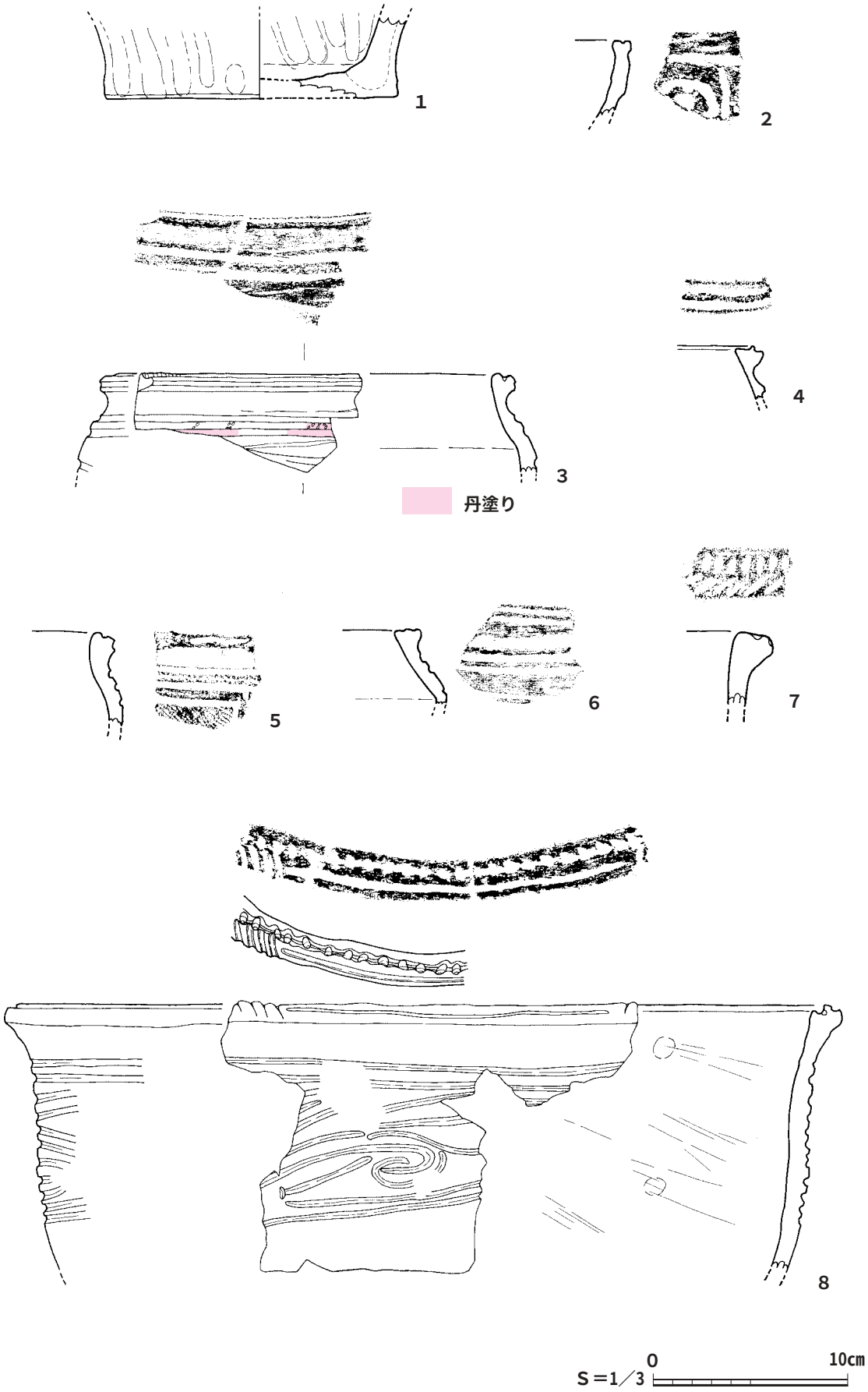
６は、鉢形土器の口縁部である。口縁部には２条、胴部上半部に５条の沈線が残る。Ｊ－８グリッドⅢＡ層からの出土である。

７は、鉢形土器の口縁部である。口縁部には、刺突が７つ、口唇部には斜めの沈線６本観察される。３～６と違い、口縁部が垂直に立ち上がる。Ｂ－２グリッドのピット1147からの出土である。

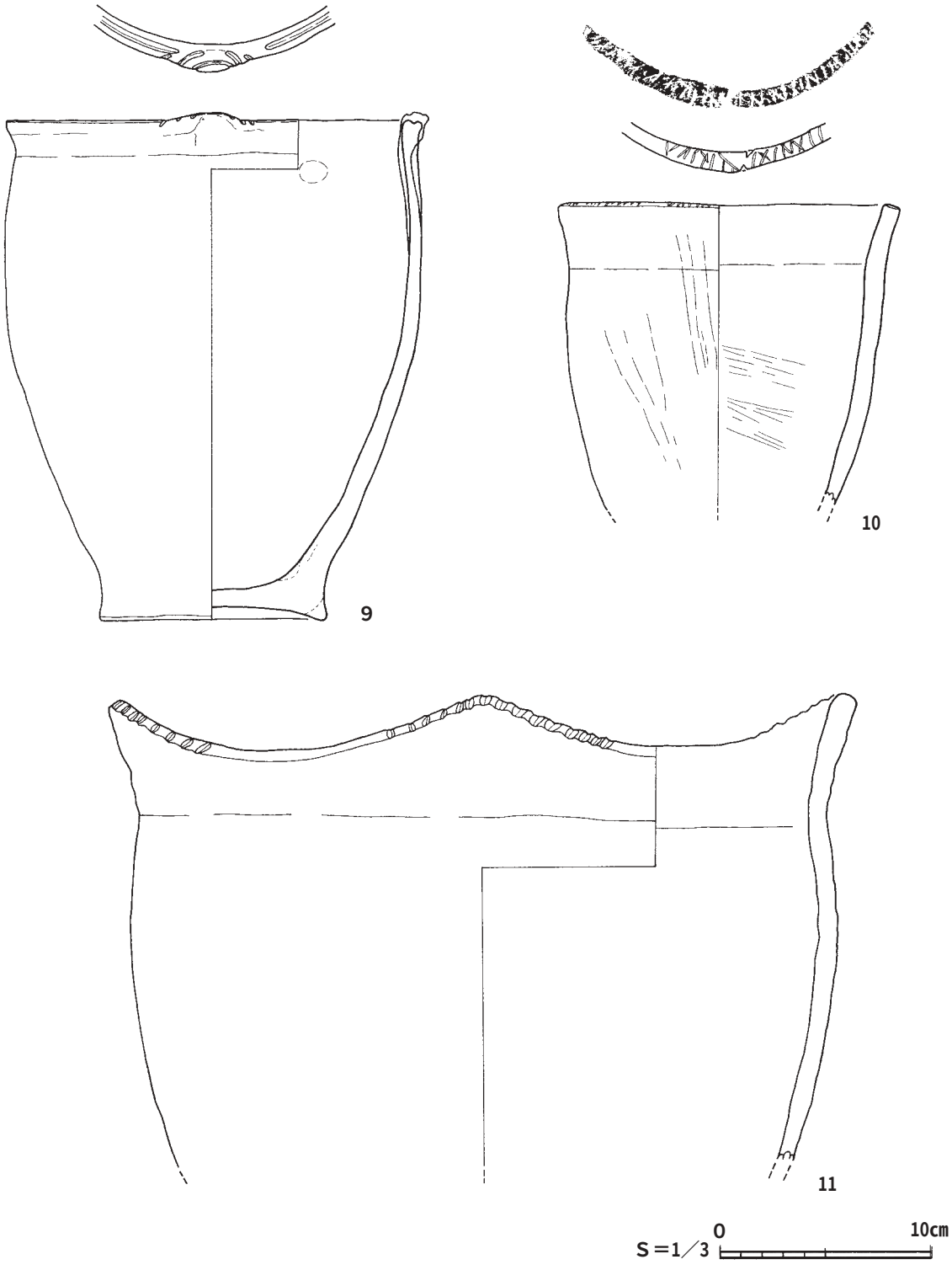
８は、鉢形土器の口縁部及び胴部上半部である。口縁部には１条の沈線と斜め沈線及び刺突が観察される。胴部には沈線の「入組渦文」が施されている。Ｌ、Ｍ－８、９グリッドⅢＡ層からの出土土器の７点が接合している。復元口径は、39.0㎝。

９は、小型の深鉢土器である。復元口径18.1㎝、復元底径10.5㎝、高さ23.6㎝、最大胴径19.5㎝である。口縁部には、１条の沈線が巡る。また、２ヶ所か４ヶ所は口縁端部が肥厚し部分的に同心円状の沈線が巡る。上げ底である。Ｌ、Ｋ、Ｍ－９グリッドとS118の遺物16点が接合している。

10は、小型の深鉢土器である。復元口径16.8㎝、



図(Fig)249　縄文土器実測図（１）



図(Fig)250　縄文土器実測図（２）

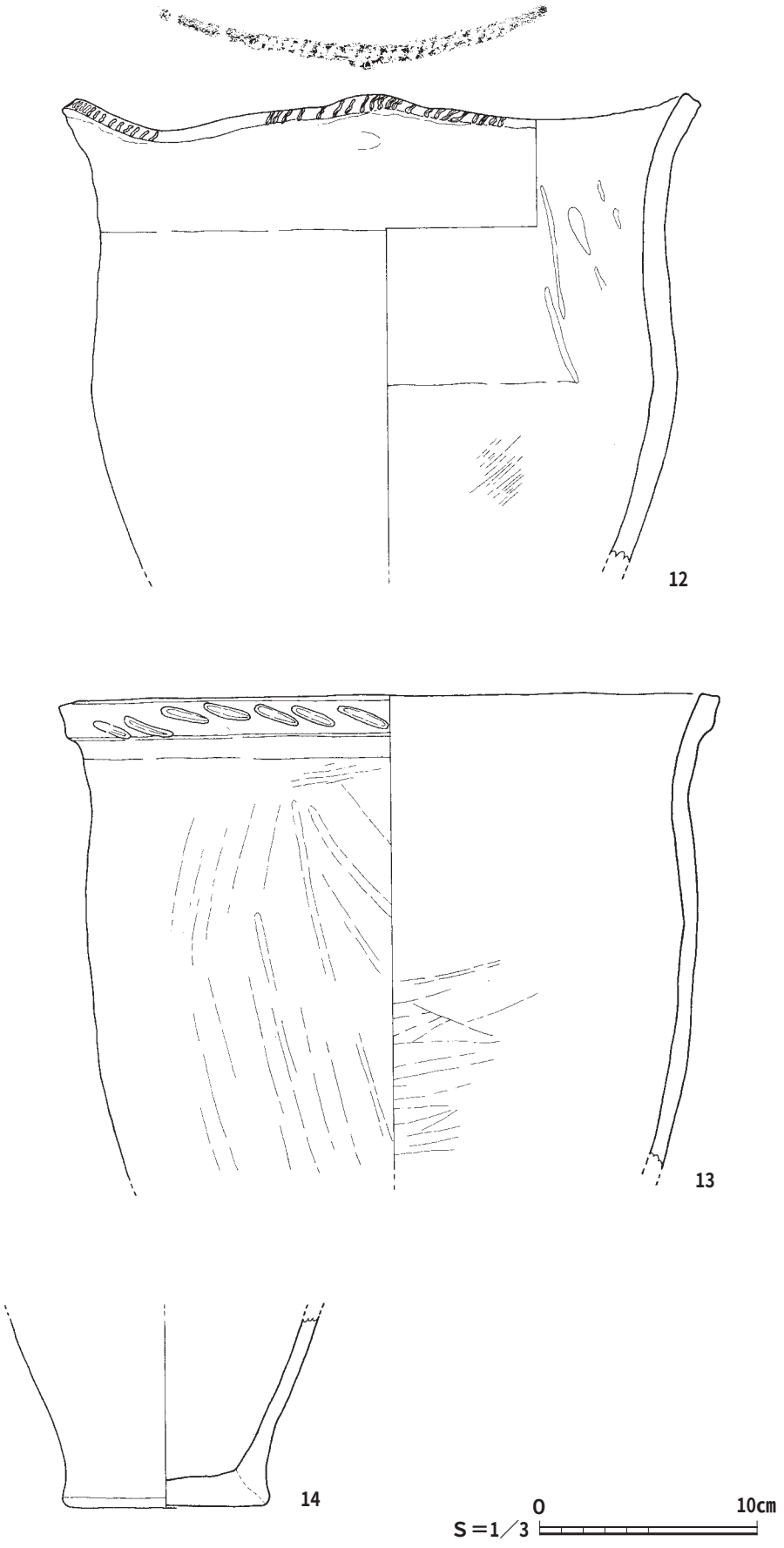
残存高15.0㎝である。口唇部には、放射状に刻み目が観察される。Ｌ、Ｍ－９グリッド出土の計11点が接合している。

③鐘ヶ崎式土器～北久根山式土器の特徴を持つ土器

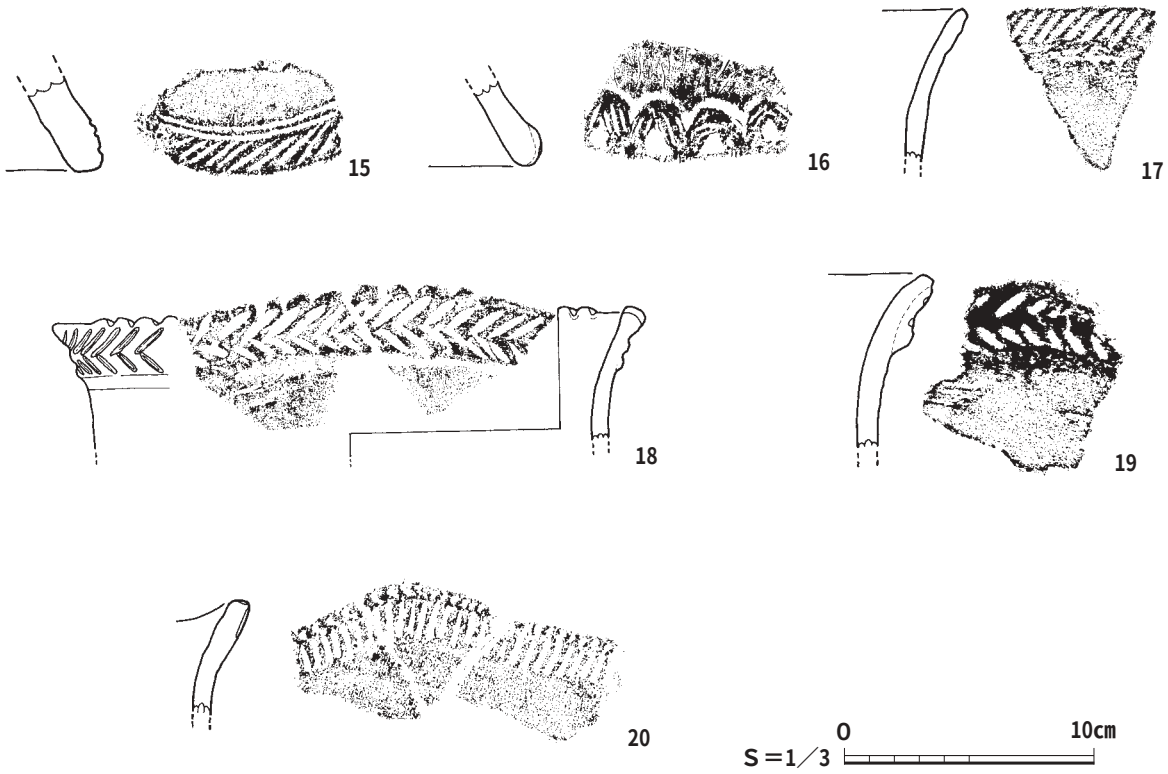
（図250、251参照）

11は、深鉢土器の口縁部と胴部上半部である。復元口径34.7㎝、残存高21.5㎝である。波状口縁で口唇部には、放射状に刻み目が観察される。器面は荒れており調整痕の確認は明確ではない。Ｌ－９グリッド出土の計10点が接合している。

12は、深鉢土器の口縁部と胴部上半部である。復元口径28.0㎝、残存高21.3㎝である。波状口縁で口



図(Fig)251　縄文土器実測図（３）



図(Fig)252　縄文土器実測図（４）

唇部には、貝殻による刻み目が観察される。器面は荒れているが、工具痕がわずかに残る。Ｌ－９グリッドとS106の遺物計13点が接合している。

13は、深鉢土器の口縁部と胴部上半部である。復元口径28.0㎝、残存高21.3㎝である。口縁端部は肥厚し、斜め沈線が観察される。器面は荒れているが、内外面に条痕の痕跡が見受けられる。Ｌ－９グリッド出土の計６点が接合している。

14は、小型の深鉢土器の底部である。復元底径19.5㎝、残存高9.0㎝である。平底である。Ｌ、Ｍ－９グリッドの遺物６点が接合している。

④北久根山式土器（図252参照）

15は、脚台付き鉢の脚台部である。外面は２条の沈線で区画され、その下部に斜め沈線が観察される。S001からの出土である。

16は、脚台付き鉢の脚台部である。外面には、北久根山式土器の特徴である「W字状の貼付文」があり、その中に２～３条の沈線が観察される。S083からの出土である。

17は、深鉢土器の口縁部である。器面がやや荒れているが、口縁部外面に斜め沈線が観察される。Ｌ－９グリッドⅢＡ層出土遺物である。

18は、深鉢土器の口縁部である。口縁部はやや肥厚し、外面には北久根山式土器の特徴である「綾杉文」、口唇部には粘土を貼り付けて波状の刻み目が施されている。S147出土遺物３点が接合している。復元口径20.6㎝、残存高5.3㎝である。

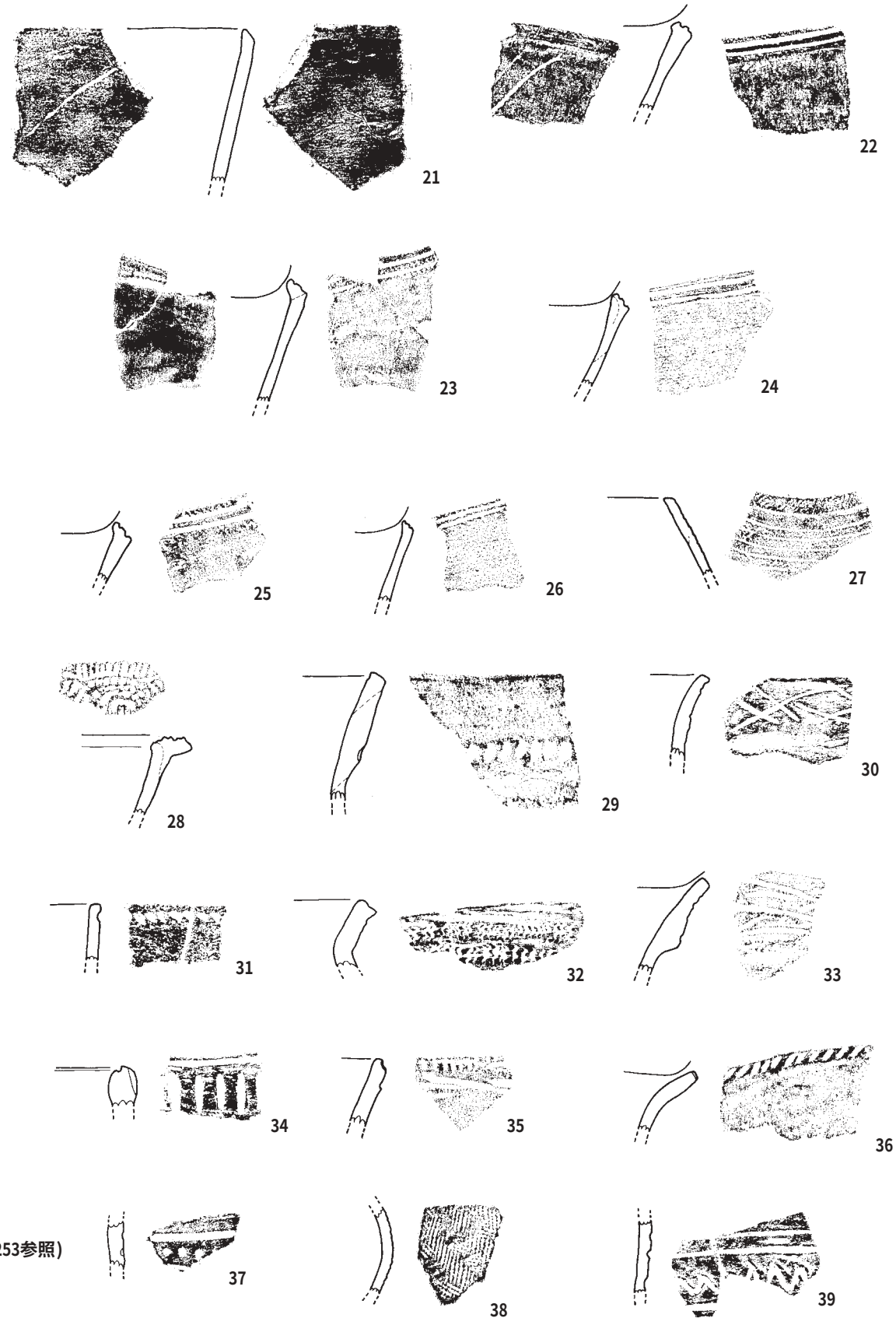
19は、深鉢土器の口縁部である。口縁部はやや肥厚し、外面には北久根山式土器の特徴である「綾杉文」が見られる。Ｆ－６グリッドの撹乱坑出土遺物である。

20は、小型の深鉢土器の口縁部である。波状口縁で口縁部外面には縦の沈線、口唇部には、工具による刺突が観察される。器面は荒れており調整痕の確認は明確ではない。Ｍ－９グリッド出土の計３点が接合している。

⑤太郎迫式土器～三万田式土器の特徴を持つ土器

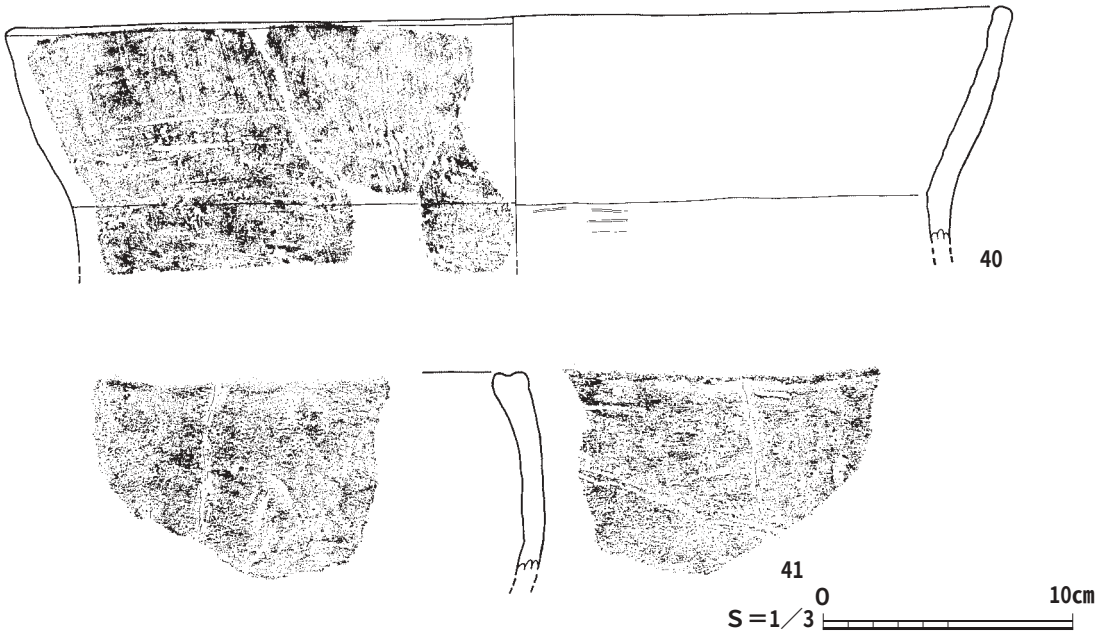
21は、深鉢土器の口縁部である。口縁端部は、やや尖底気味に先細りする。内外面はミガキが観察される。Ｂ－２グリッドⅢＡ層出土遺物である。

22は、深鉢土器の口縁部である。口縁端部は、やや肥厚し、上下平行に巡る２条の沈線で区画され、その上下の外側に磨り消し縄文が残る。Ｇ－７グリッドの調査区トレンチの一括出土遺物である。



(図253参照)

図(Fig)253　縄文土器実測図（５）



図(Fig)254　縄文土器実測図（６）

23は、深鉢土器の口縁部である。口縁端部は、やや肥厚し、上下平行に巡る２条の沈線で区画される。器面が荒れているために磨り消し縄文の有無は不明である。Ｇ－７グリッドⅢＡ層出土遺物２点が接合している。

24は、深鉢土器の口縁部である。口縁端部は、やや肥厚し、上下平行に巡る２条の沈線で区画される。磨り消し縄文の有無は不明である。内外面にはミガキが観察される。Ｇ－７グリッドⅢＡ層出土遺物である。

25は、深鉢土器の口縁部である。口縁端部は、やや肥厚し、上下平行に巡る２条の沈線で区画される。S077ⅢＡ層出土遺物である。

26は、深鉢土器の口縁部である。口縁端部は、やや肥厚し、上下平行に巡る２条の沈線で区画され、その上下の外側に磨り消し縄文が残る。S133出土遺物である。

27は、注口土器の口縁部と考えられる。口縁部には、上下平行に巡る６条の浅い沈線で区画され、その間に磨り消し縄文が残る。Ｔ－８グリッドⅢＡ層出土遺物である。

⑥後期の土器（その他の後期と考えられる土器）

（図253、254参照）

28は、浅鉢土器の口縁部と考えられる。口縁部は、やや肥厚して凸状に出っ張る。刺突と沈線で複雑な文様が作り出されている。Ｌ、Ｍ－８、９グリッド周辺のⅢＡ層出土遺物である。

29は、深鉢土器の口縁部である。口縁部はやや肥厚し、工具による刺突文が一列観察される。S106出土遺物である。

30は、深鉢土器の口縁部である。口縁部はやや肥厚し、Ｘ状の沈線が観察される。口唇部は波状にやや凹凸が見られる。胎土に多量の金雲母を含み、滑石も含む。S106出土遺物である。

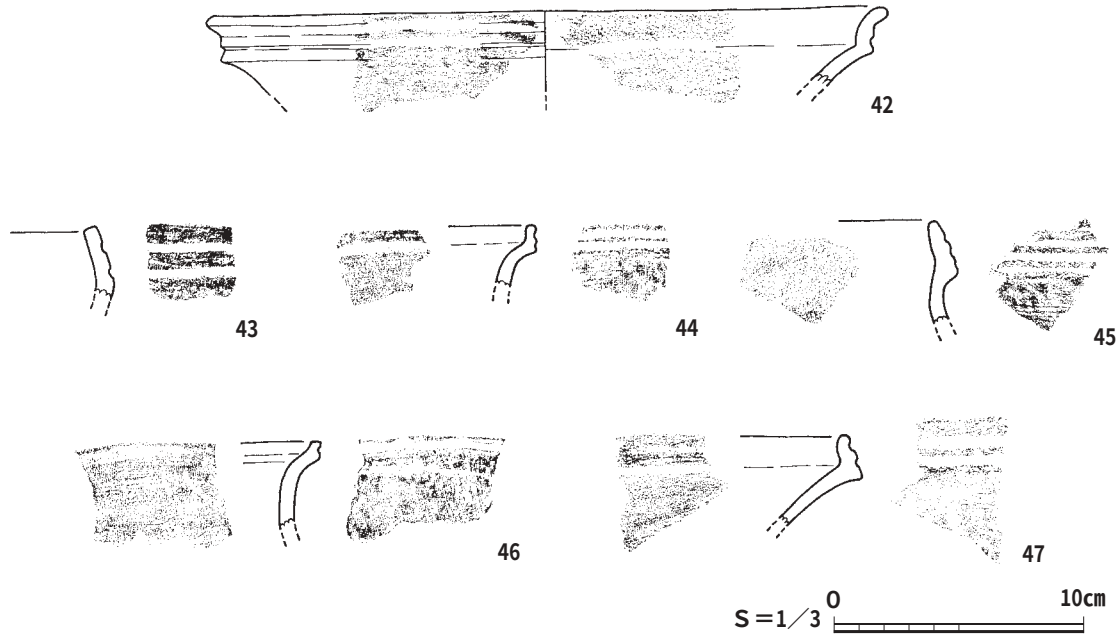
31は、鉢形土器の口縁部である。口縁部は工具による刺突文が一列観察される。Ｔ－８グリッドⅢＡ層出土遺物である。

32は、深鉢土器の口縁部である。口縁はやや外反し、端部は突帯状にややふくらむ。貝殻腹縁による刺突文が２列、口唇部には浅い沈線が１条巡る。Ｆ－７グリッドⅢＡ層出土遺物３点が接合している。

33は、深鉢土器の口縁部である。口縁は肥厚し、断面形状が三角形を呈する。また、沈線による横線文が観察され、波状口縁である。市来式土器の範疇で捉える事ができよう。Ｍ－８グリッドⅢＡ層出土遺物である。

34は、深鉢土器の口縁部である。口縁部に縦の短くて深い沈線が５本、口唇部には１条の沈線が見られる。S074の１層出土遺物である。

35は、深鉢土器の口縁部である。口縁部には、貝



図(Fig)255　縄文土器実測図（７）

殻腹縁による刺突文と沈線による横線文が見られる。Ｋ－８グリッドⅢＡ層出土遺物である。

36は、深鉢土器の口縁部である。口縁部は外反する。波状口縁である。口唇部は斜めの刻み目が入る。調査区の一括資料である。

37は、鉢形土器の胴部である。沈線の横線文と棒状の工具での刺突文が見られる。S106出土遺物である。

38は、鉢形土器で胴部の屈曲部である。外面に撚糸文が施されている。Ｋ－８グリッドⅢＡ層出土遺物である。

39は、鉢形土器の胴部である。２本の沈線による横線文の間にジグザグ状の沈線が観察される。と棒状の工具での刺突文が見られる。Ｌ－９グリッドⅢＡ層出土遺物とS118出土遺物の２点が接合している。

40は、深鉢土器の口縁部である。口縁部はやや外反し、内外面に貝殻条痕後ナデが施されている。復元口径19.7㎝、残存高9.0㎝である。Ｓ－８グリッドの縄文時代の遺物を含む砂層の２層から出土した遺物２点が接合している。

41は、鉢形土器の口縁部である。口縁部はやや内傾し、内外面に貝殻条痕後ナデが施されている。Ｅ－７グリッドの自然流路２から出土した遺物２点が接合している。

⑦御領式土器～天城式土器（精製土器）（図255参照）

42は、浅鉢土器の口縁部である。口縁部はやや外反し、２条の凹線文が巡る。復元口径26.8㎝、残存高3.3㎝である。Ｄ－６グリッドのⅢＡ層出土遺物である。

43は、深鉢土器の口縁部である。口縁部はやや内傾し、２条の沈線文が巡る。Ｂ－２グリッドのⅢＡ・Ｂ層出土遺物である。

44は、深鉢土器の口縁部である。口縁部はやや外反し、直立する。２条の沈線文が巡る。S106の床面出土遺物である。

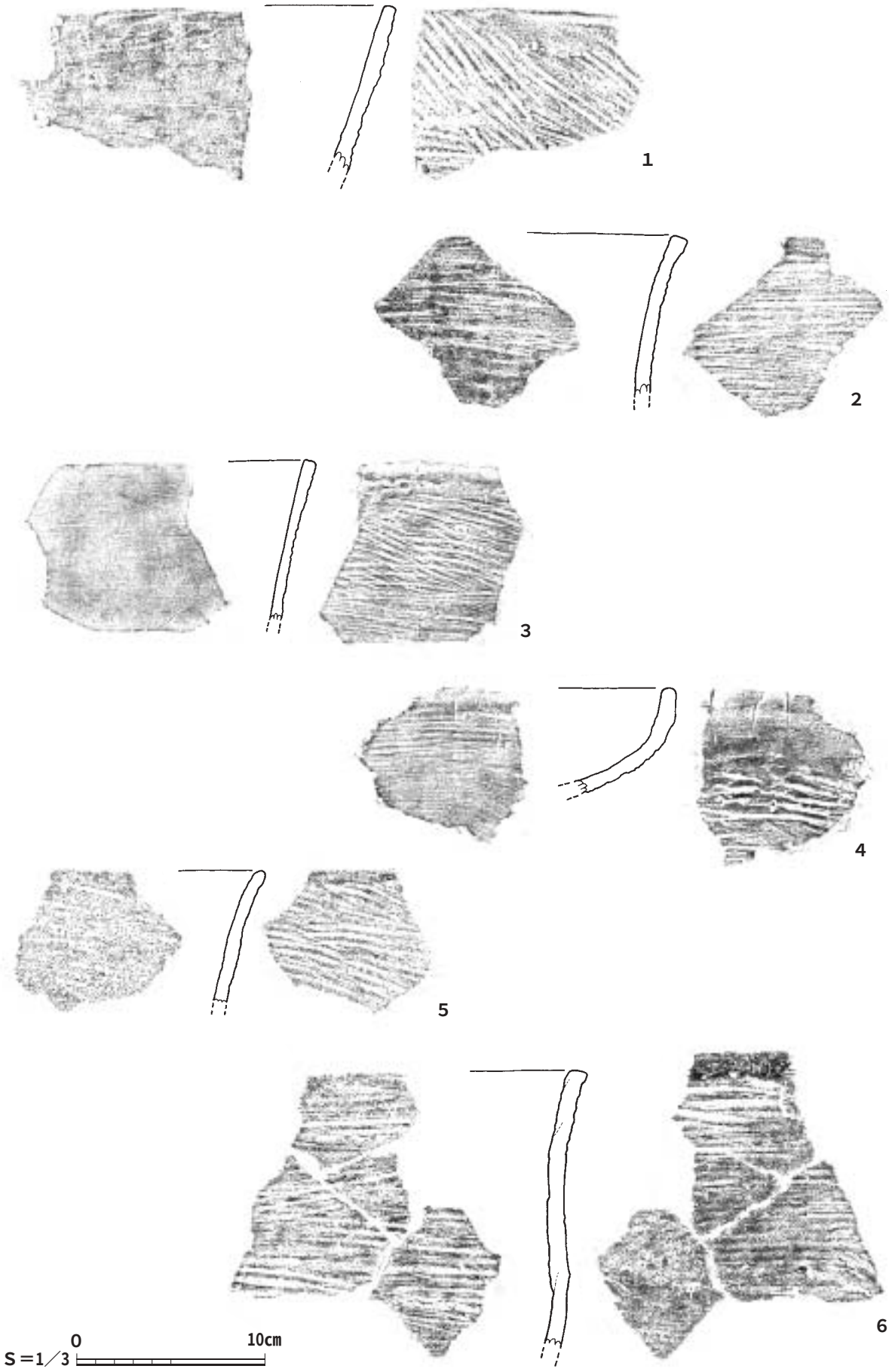
45は、深鉢土器の口縁部である。口縁部はやや内傾し、３条の沈線文が巡る。調査区一括遺物である。

46は、深鉢土器の口縁部である。口縁部はやや外反し、直立する。１条の沈線文が巡る。Ａ－４グリッドのⅢＢ層出土遺物である。

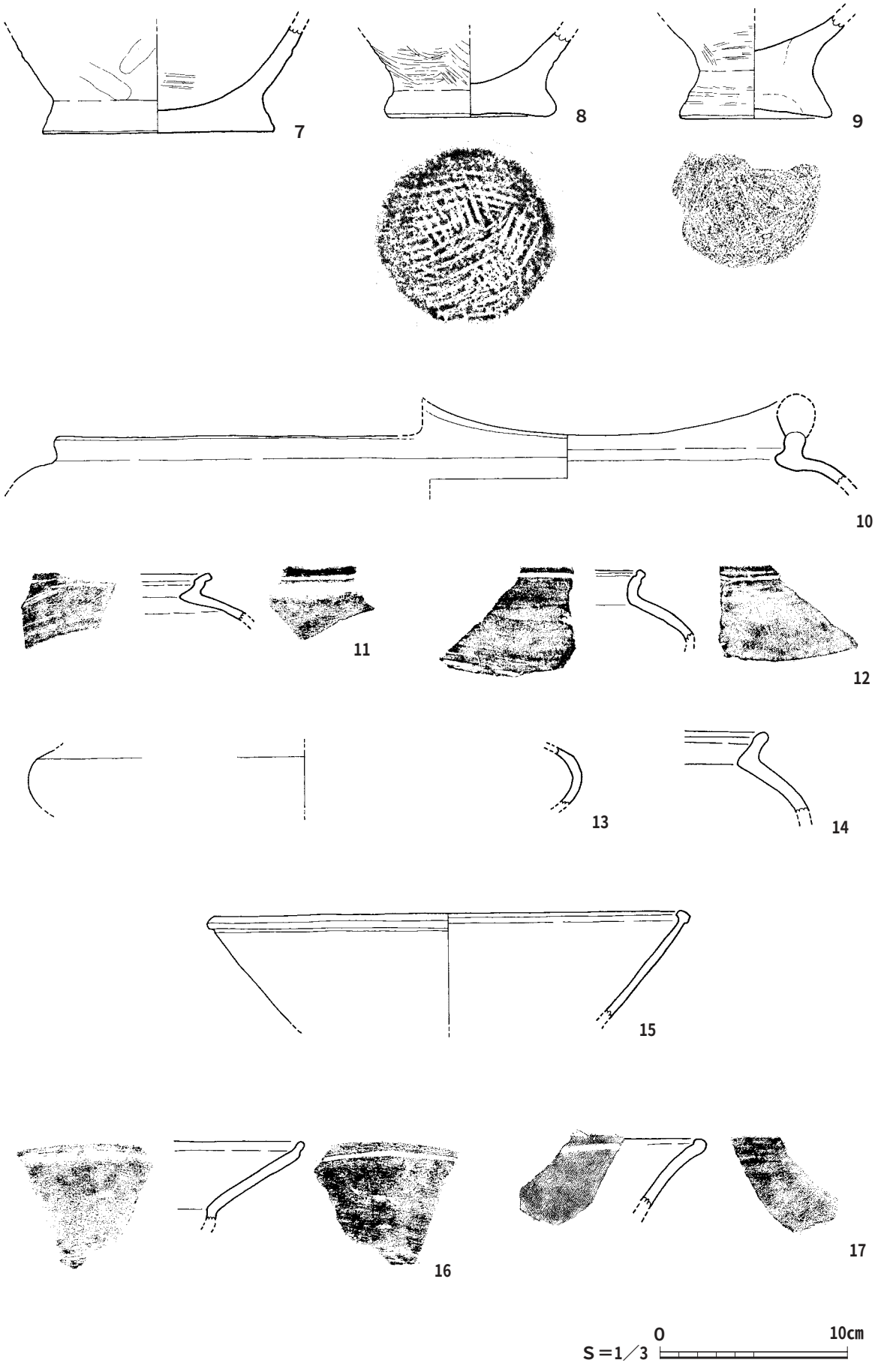
47は、浅鉢土器の口縁部である。口縁部はやや内傾し、２条の凹線文が巡る。Ｅ－７グリッドのⅢＢ層出土遺物である。

⑧天城式土器～黒川式土器（粗製土器）（図256、257参照）

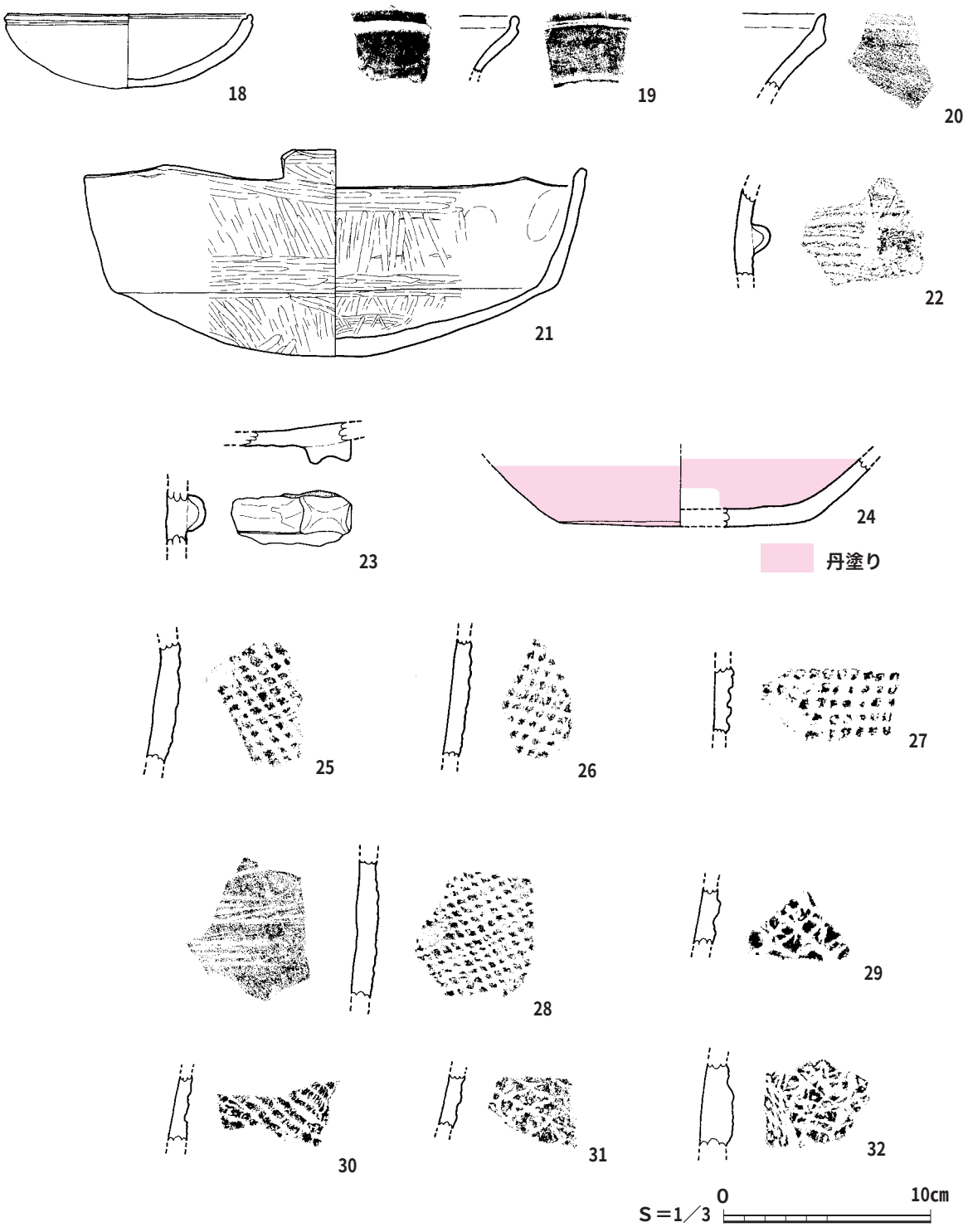
１、２、３、５、６は、深鉢土器の口縁部である。内外面には貝殻条痕の調整痕が残る。１、３の内面は条痕後、ナデ調整が観察される。１はＢ－５グリッドのⅢＡ層、２はＢ－３グリッドのⅢＡ層、３はＣ－



図(Fig)256　縄文土器実測図（８）



図(Fig)257　縄文土器実測図（９）



図(Fig)258　縄文土器実測図（10）

３グリッドのⅢＡ層、５と６はＡ－３グリッドのⅢＡ層からの出土遺物である。

４は、浅鉢土器の口縁部である。内外面には貝殻条痕の調整痕が残る。Ｂ－５グリッドのⅢＡ層出土遺物である。

７、８、９は深鉢土器の底部である。外面には貝殻条痕やナデの調整痕が残る。７、８の底部は平底であり、Ｓ－８グリッド縄文時代の遺物を含む砂層出土遺物である。９の底部は上げ底であり、Ｂ－３グリッドのⅢＡ層出土遺物である。

⑨黒川式土器（精製土器）（図257、258参照）

10は、胴部が丸く張り出す浅鉢土器の口縁部である。口縁部には黒川式土器に特徴的な「鰭状の突起」がある。内外面は、丁寧な磨研が見られる。復元口

径39.5㎝、残存高3.8㎝である。Ｓ－８グリッド縄文時代の遺物を含む砂層出土遺物である。

11、12、14は、胴部が丸く張り出す浅鉢土器の口縁部である。内外面は、丁寧な磨研が見られる。11は、Ｌ－９グリッドⅡＢ層、12は、Ｃ－３グリッドⅢＡ層、14は、調査区一括出土遺物である。

13は、胴部が丸く張り出す浅鉢土器の胴部である。内外面は、丁寧な磨研が見られる。復元胴径29.0㎝である。Ｇ－７グリッドⅡ層出土遺物とＪ－９グリッド表土層出土遺物の２点が接合している。

15は、胴部が擂鉢状になる浅鉢土器の口縁部と胴部である。内外面は、丁寧な磨研が見られ、口縁端部が丸く肥厚する。復元口径24.0㎝、残存高5.7㎝である。Ｇ－７グリッドⅡ層出土遺物とＪ－９グリッド表土層出土遺物の２点が接合している。

16は、浅鉢土器の口縁部である。胴部は丸く立ち上がり、口縁部は斜めに真っ直ぐ立ち上がる。口縁外面に１条の沈線の横線文が巡る。内外面は、丁寧な磨研が見られる。Ｃ－３グリッドⅢ層出土遺物である。

17は、胴部が擂鉢状になる浅鉢土器の口縁部である。内外面は、丁寧な磨研が見られ、口縁端部が丸く肥厚する。Ｂ－４グリッドⅢＡ層出土遺物である。

18は、小型の浅鉢土器である。復元口径11.5㎝、残存高3.5㎝である。内外面は、丁寧な磨研が見られる。Ｓ－８グリッド縄文時代の遺物を含む砂層出土遺物２点が接合している。

19、20は、浅鉢土器の口縁部である。いずれも口縁部外面に１条の沈線の横線文が巡る。口縁外面に１条の沈線の横線文が巡る。内外面は、丁寧な磨研が見られる。19は、Ｃ－３グリッドⅢＢ層、20は、Ｂ－２グリッドⅢＡ層出土遺物である。

21は、浅鉢土器のほぼ完形品である。口縁部には黒川式土器に特徴的な「鰭状の突起」がある。内外面は、丁寧な磨研が見られる。S129出土遺物12点とＯ－９グリッドⅢＡ層出土遺物６点の計18点が接合している。

⑩黒川式土器（粗製土器）（図258参照）

22、23は、鉢形土器の胴部である。内外面に条痕文が縁部には鰭状の突起がある。内面はナデ、外面は条痕文の調整痕が残る。また、いずれにも黒川式土器に特徴的な「リボン状の突起」が見られる。いずれもＳ－８グリッド縄文時代の遺物を含む砂層出土遺物である。

⑪晩期の土器（赤彩土器・組織痕土器）（図258参照）

24は、深鉢土器の底部である。復元底径11.6㎝、残存高3.4㎝である。内外面は、ナデ後赤色顔料が塗られている。Ｇ－７グリッドⅢＡ層出土遺物２点が接合している。

25～32は、鉢形土器の胴部下半部である。いずれも網目や織物の文様がついている組織痕土器である。25、26、27、28は目の小さい網目、29、31、32は目の大きな網目、30は織物の圧痕と考えられる。25、26はＳ－８、９グリッド縄文時代の遺物を含む砂層、27、28はＣ－４グリッドⅢＡ層出土遺物である。29、32はS017の上層、30はＳ－９グリッド縄文時代の遺物を含む砂層出土遺物である。31はＢ－４グリッドⅢＡ層出土遺物である。

２）石器

①打製石鏃（図259、260参照）

調査区内で出土した打製石鏃は、24点（調査１区：９点、調査２区：15点）である。調査２区に集中しており、特にＳ－８グリッド縄文時代の遺物を含む砂層出土遺物が多い。

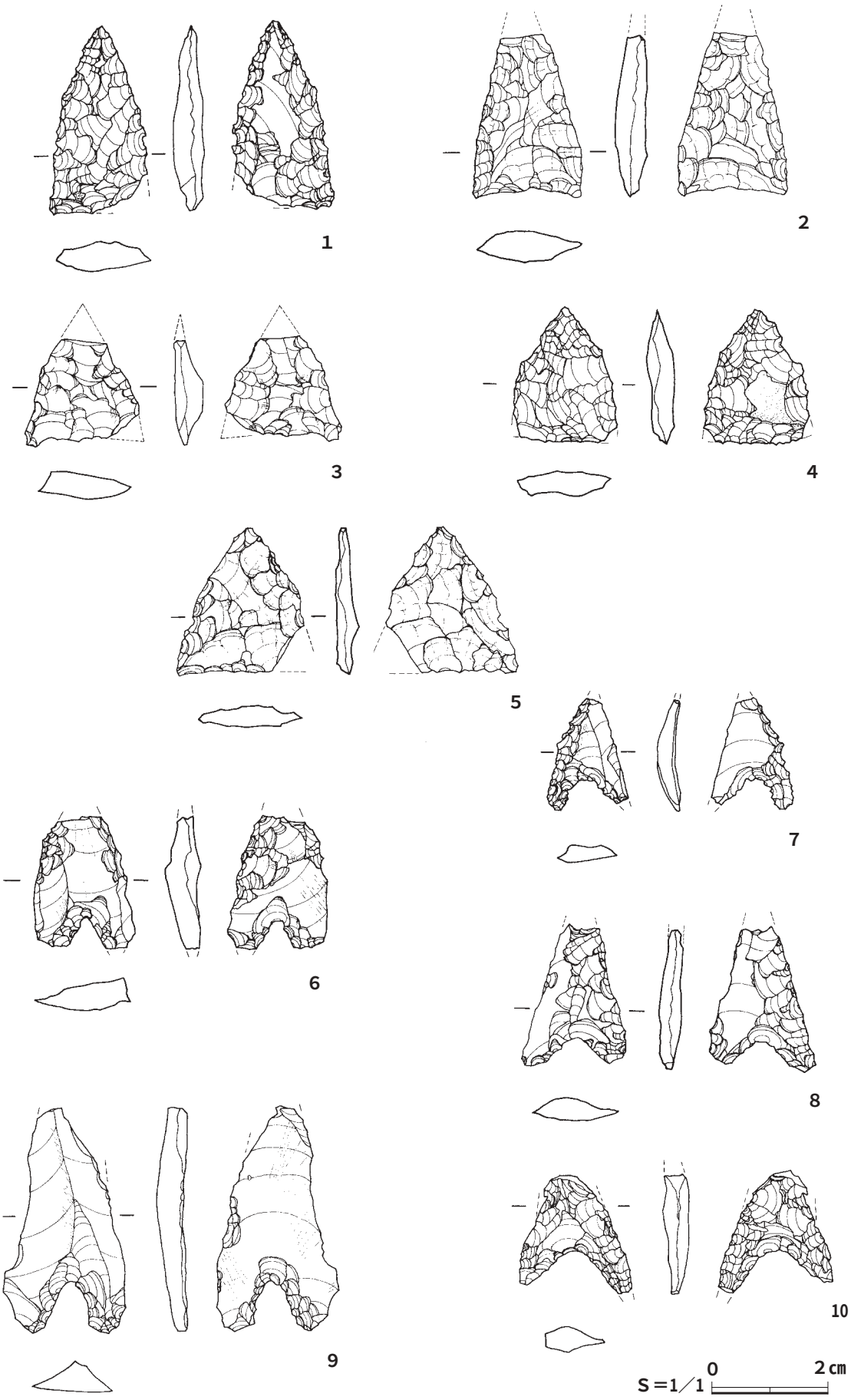
これらの中には弥生時代の打製石鏃も含まれる可能性が高いが、筆者には分類する能力を持ち合わせていないので、一括して縄文時代の打製石鏃として取り扱いたい。これらの中には従来弥生時代の打製石鏃ではないかといわれていた五角鏃や弥生時代の遺構の中から出土した打製石鏃も含まれる。使用石材は、ほとんどが西北九州産黒曜石（主に腰岳産黒曜石）で、わずかに安山岩が入る。

石鏃の形態で大まかに４分類、細分して７分類の分類を試みた。

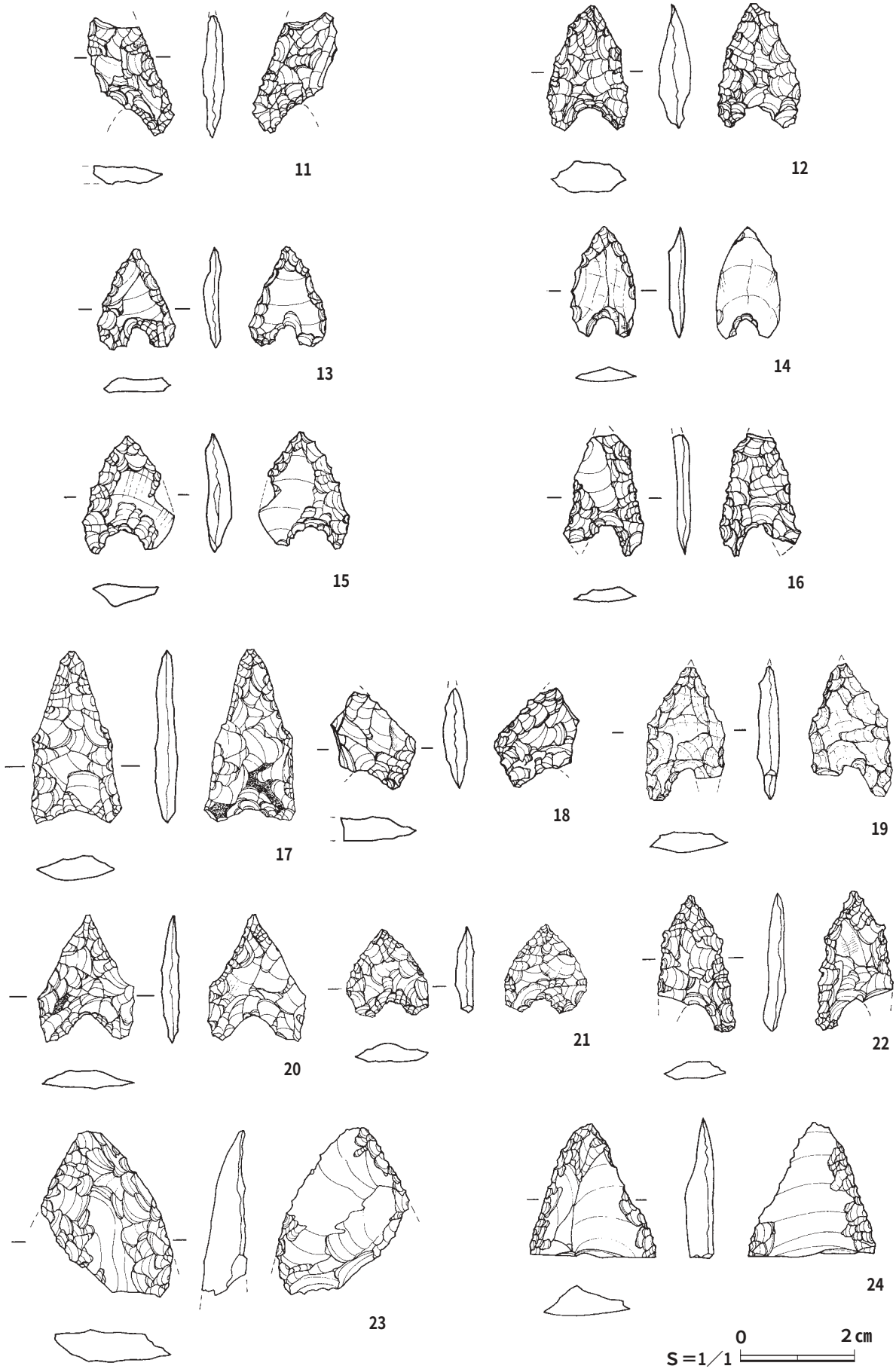
【Ⅰ－Ａ類】全体形が二等辺三角形で平基式の打製石鏃（１、２）

１の石材は、西北九州産黒曜石、出土地点・層位は、Ｇ－６グリッド調査区トレンチ内である。

２の石材は、安山岩、出土地点・層位は、S017内の床直上である。



図(Fig)259　縄文石器実測図（１）



図(Fig)260　縄文石器実測図（２）

【Ⅰ－B類】全体形が正三角形に近い平基式の打製石鏃（3、4、5）

3の石材は、黒曜石、出土地点・層位は、S106内である。

4の石材は、西北九州産黒曜石、出土地点・層位は、S－8グリッド縄文時代の遺物を含む砂層内である。

5の石材は、安山岩、出土地点・層位は、S003内の2層である。

【Ⅱ－A類】全体形が二等辺三角形に近い凹基式の打製石鏃、両側縁の形状がほぼ直線的（6～9）

6の石材は、西北九州産黒曜石、出土地点・層位は、S118周辺である。

7の石材は、西北九州産黒曜石、出土地点・層位は、T－8グリッドⅢA層出土遺物である。

8の石材は、西北九州産黒曜石、出土地点・層位は、S003の下層である。

9の石材は、西北九州産黒曜石、出土地点・層位は、調査1区南側排土である。

【Ⅱ－B類】全体形が二等辺三角形に近い凹基式の打製石鏃、形状が左右非対称（10）

10の石材は、西北九州産黒曜石、出土地点・層位は、S－8グリッド縄文時代の遺物を含む砂層である。

【Ⅱ－C類】全体形が二等辺三角形に近い凹基式の打製石鏃、両側縁の形状がほぼ直線的だが基部で「くの字」状に内湾する（11～16）

11の石材は、西北九州産黒曜石、出土地点・層位は、S－8グリッド縄文時代の遺物を含む砂層である。

12の石材は、西北九州産黒曜石、出土地点・層位は、DグリッドⅢA層出土遺物である。

13の石材は、西北九州産黒曜石、出土地点・層位は、S003内である。

14の石材は、西北九州産黒曜石、出土地点・層位は、S053の2層である。

15の石材は、西北九州産黒曜石、出土地点・層位は、S046の土坑内である。

16の石材は、西北九州産黒曜石、出土地点・層位は、S－9グリッド縄文時代の遺物を含む砂層の2層である。

【Ⅲ類】全体形が五角形の形状を呈する打製石鏃（17～22）

17の石材は、西北九州産黒曜石、出土地点・層位は、S029内である。

18の石材は、西北九州産黒曜石、出土地点・層位は、S－8グリッド縄文時代の遺物を含む砂層である。

19の石材は、安山岩、出土地点・層位は、S072内である。

20の石材は、西北九州産黒曜石、出土地点・層位は、S017上層である。

21の石材は、西北九州産黒曜石、出土地点・層位は、S073内である。

22の石材は、西北九州産黒曜石、出土地点・層位は、B－2グリッドⅣ層上層である。

【Ⅳ類】先端部のみの形状だが、元々大きな打製石鏃と考えられるもの（23、24）

23の石材は、西北九州産黒曜石、出土地点・層位は、S－8グリッド縄文時代の遺物を含む砂層の2層である

24の石材は、西北九州産黒曜石、出土地点・層位は、B－6グリッドⅢ層上層である。

※【剥片鏃】Ⅰ～Ⅳ類の中で素材剥片が縦長剥片、いわゆる石刃を用いた剥片鏃であるものは、6、7、8、9、13、15の6点と考えられる。

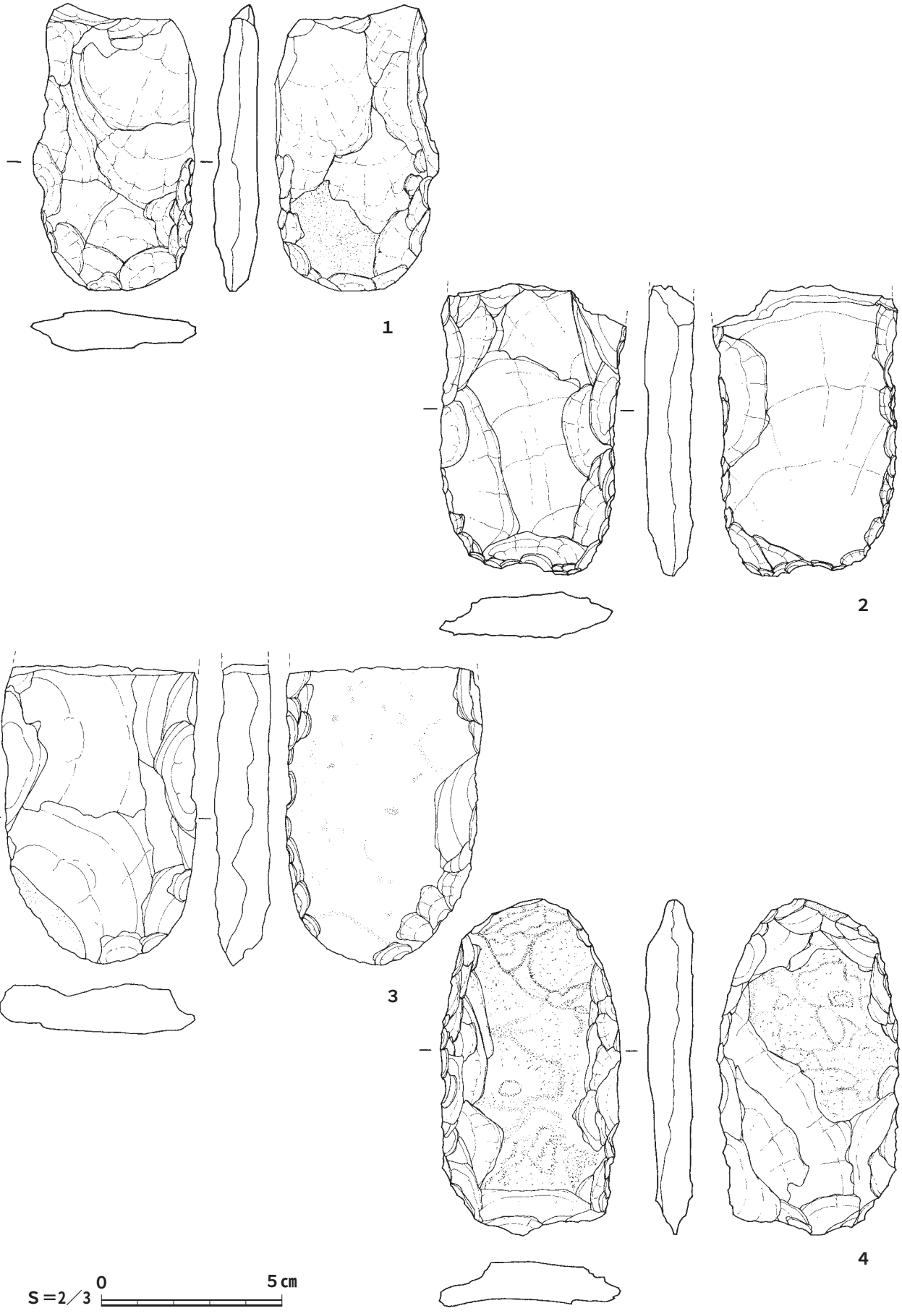
②打製石斧（図261～265参照）

調査区内で出土した打製石鏃は、15点（調査1区：7点、調査2区：8点）である。調査2区に集中しており、特にS－8グリッド縄文時代の遺物を含む砂層出土遺物が多い。

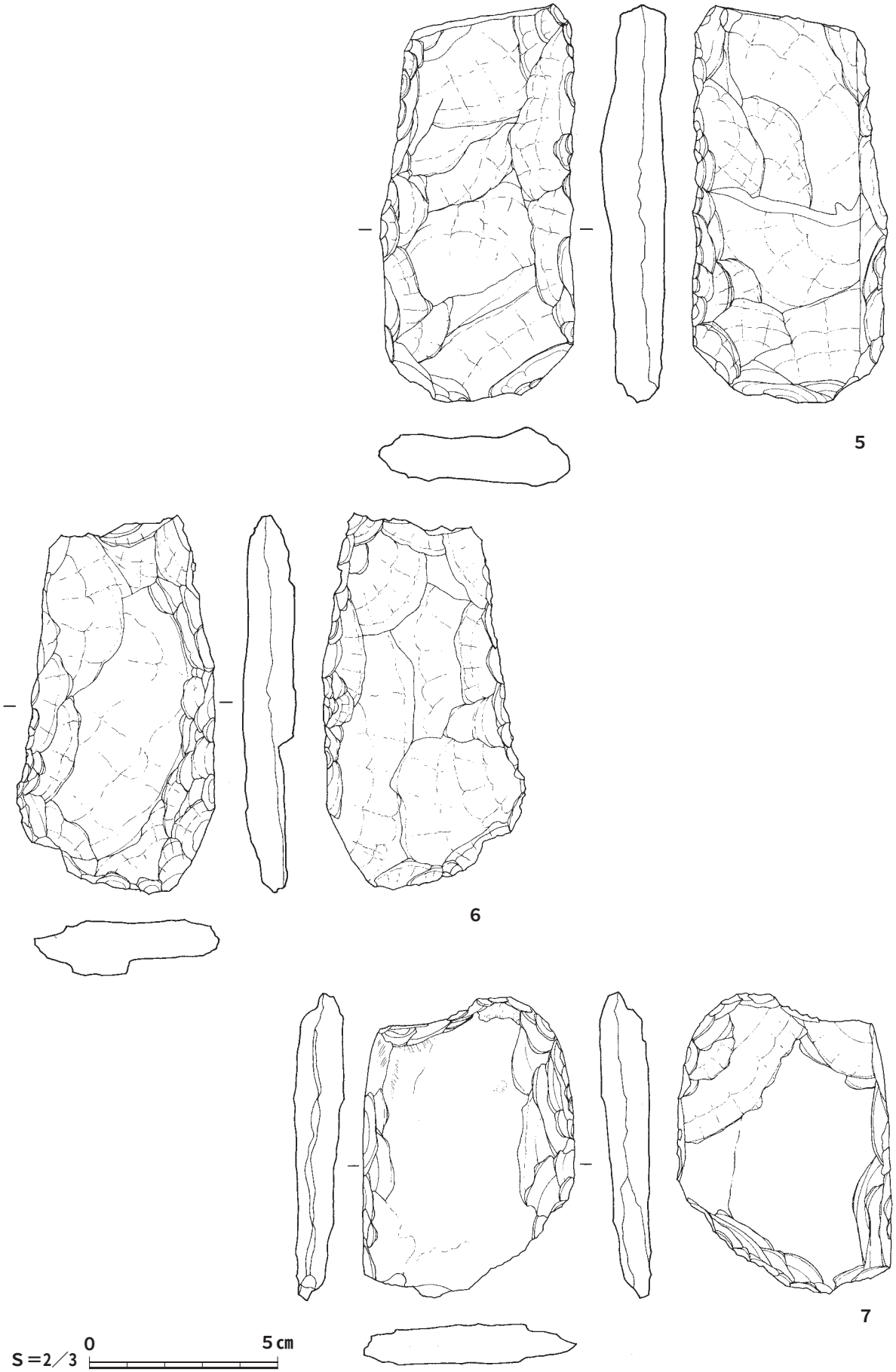
打製石斧は、一括して縄文時代の遺物として考える。使用石材は、ほとんどが粘板岩で、蛇紋岩、片岩、安山岩も入る。

石斧の形態で大まかに2分類、細分して4分類の分類を試みた。

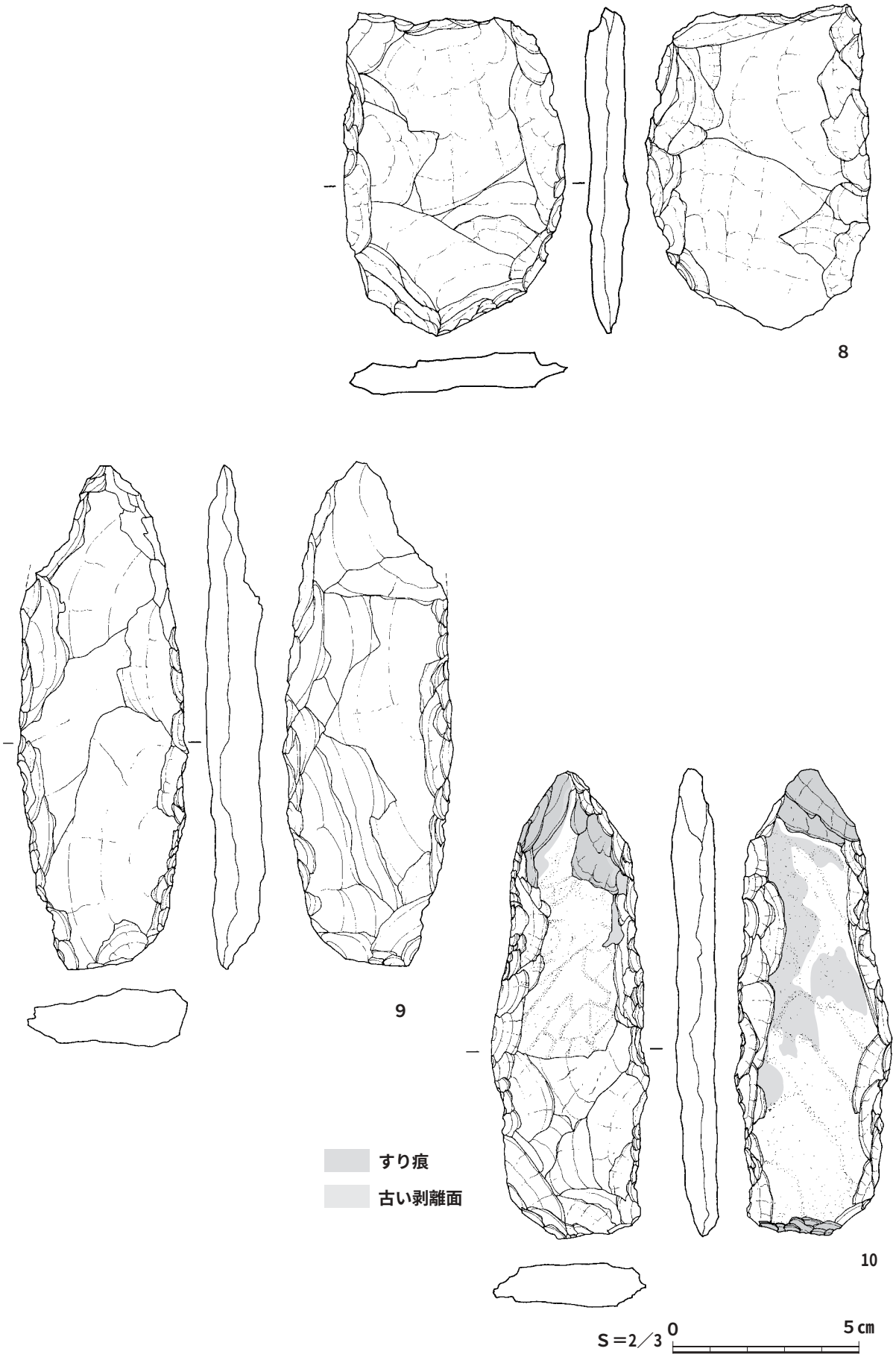
【Ⅰ－A類】従来から「短冊形」と呼ばれてきた打製石斧。全体的な形状は長方形に近い。刃部の形状は一定ではないが、円刃のものが多い。A類として全体形状が楕円形で縦横比がほぼ1～2：1の石斧



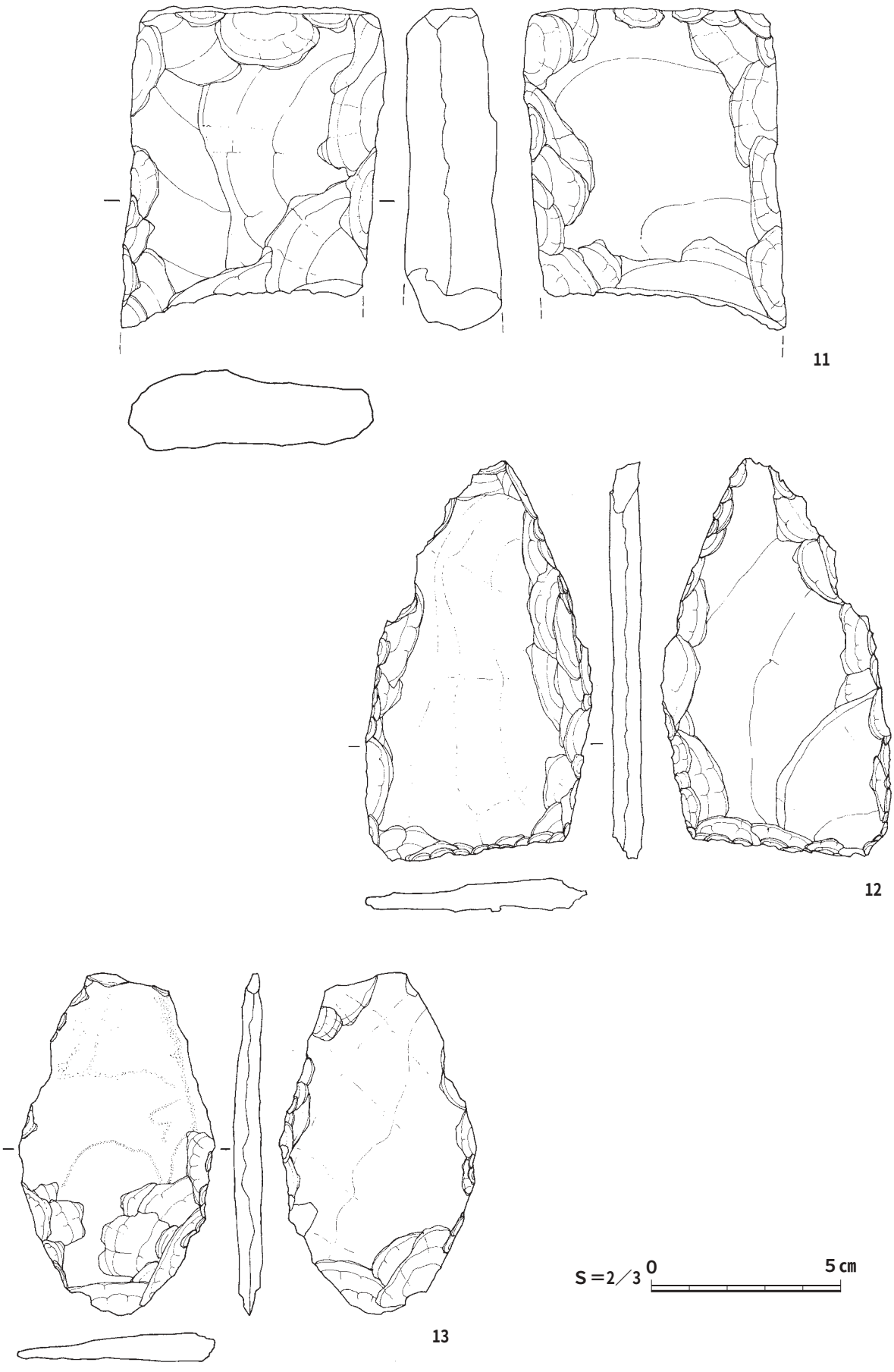
図(Fig)261　縄文石器実測図（３）



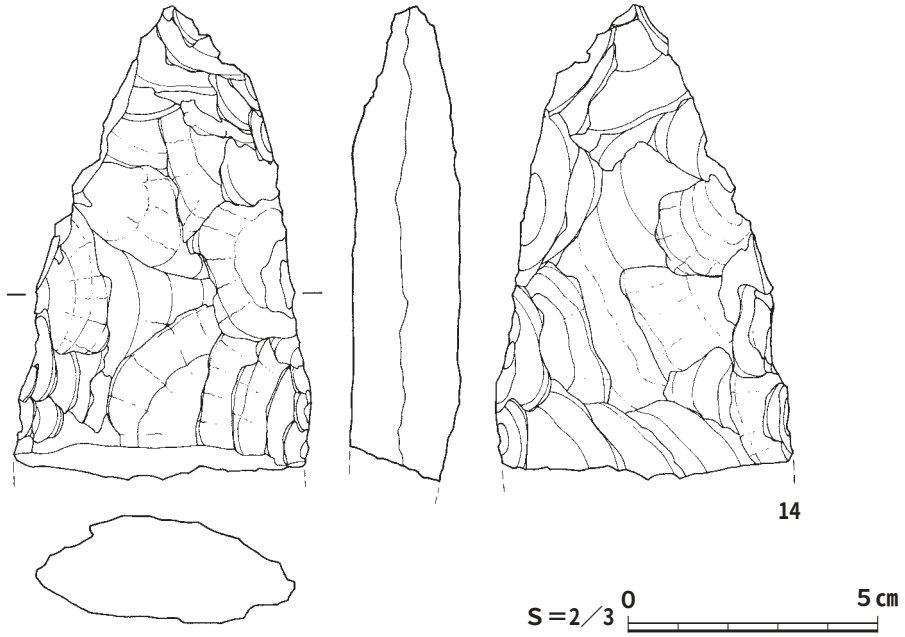
図(Fig)262　縄文石器実測図（４）



図(Fig)263　縄文石器実測図（５）



図(Fig)264　縄文石器実測図（６）



図(Fig)265　縄文石器実測図（７）

を示した。(１～８、11)

１の石材は、片岩系、出土地点・層位は、S004内である。

２の石材は、粘板岩、出土地点・層位は、Ｅ－５グリッドⅢＡ層である。

３の石材は、輝石安山岩、出土地点・層位は、Ｓ－８グリッド縄文時代の遺物を含む砂層である。

４の石材は、粘板岩と考えられる。出土地点・層位は、S082内である。

５の石材は、粘板岩と考えられる。出土地点・層位は、Ｓ－８グリッド縄文時代の遺物を含む砂層である。

６の石材は、粘板岩、出土地点・層位は、Ｖ－８グリッドⅢＡ層である。

７の石材は、粘板岩と考えられる。出土地点・層位は、S106上層である。

８の石材は、蛇紋岩、出土地点・層位は、S075上層である。

11の石材は、安山岩、出土地点・層位は、Ｓ－８の土層確認トレンチ一括である。

【Ⅰ－Ｂ類】従来から「短冊形」と呼ばれてきた打製石斧。全体的な形状は長方形に近い。刃部の形状は一定ではないが、円刃のものが多い。Ｂ類として全体形状が細長くで縦横比がほぼ３～：１の石斧を示した。(９～10)

９の石材は、粘板岩、出土地点・層位は、Ｓ－８グリッド縄文時代の遺物を含む砂層である。

10の石材は、粘板岩、出土地点・層位は、S118下層である。

【Ⅱ類－Ａ】従来から「バチ形」と呼ばれてきた打製石斧。刃部が直線に近い石斧を示した。(12)

12の石材は、粘板岩、出土地点・層位は、Ｔ－８グリッドⅢＡ層である。

【Ⅱ類－Ｂ】従来から「バチ形」と呼ばれてきた打製石斧。刃部が円形に近い石斧を示した。(13～14)

13の石材は、粘板岩、出土地点・層位は、Ｂ－２グリッドⅢＡ～Ｂ層である。

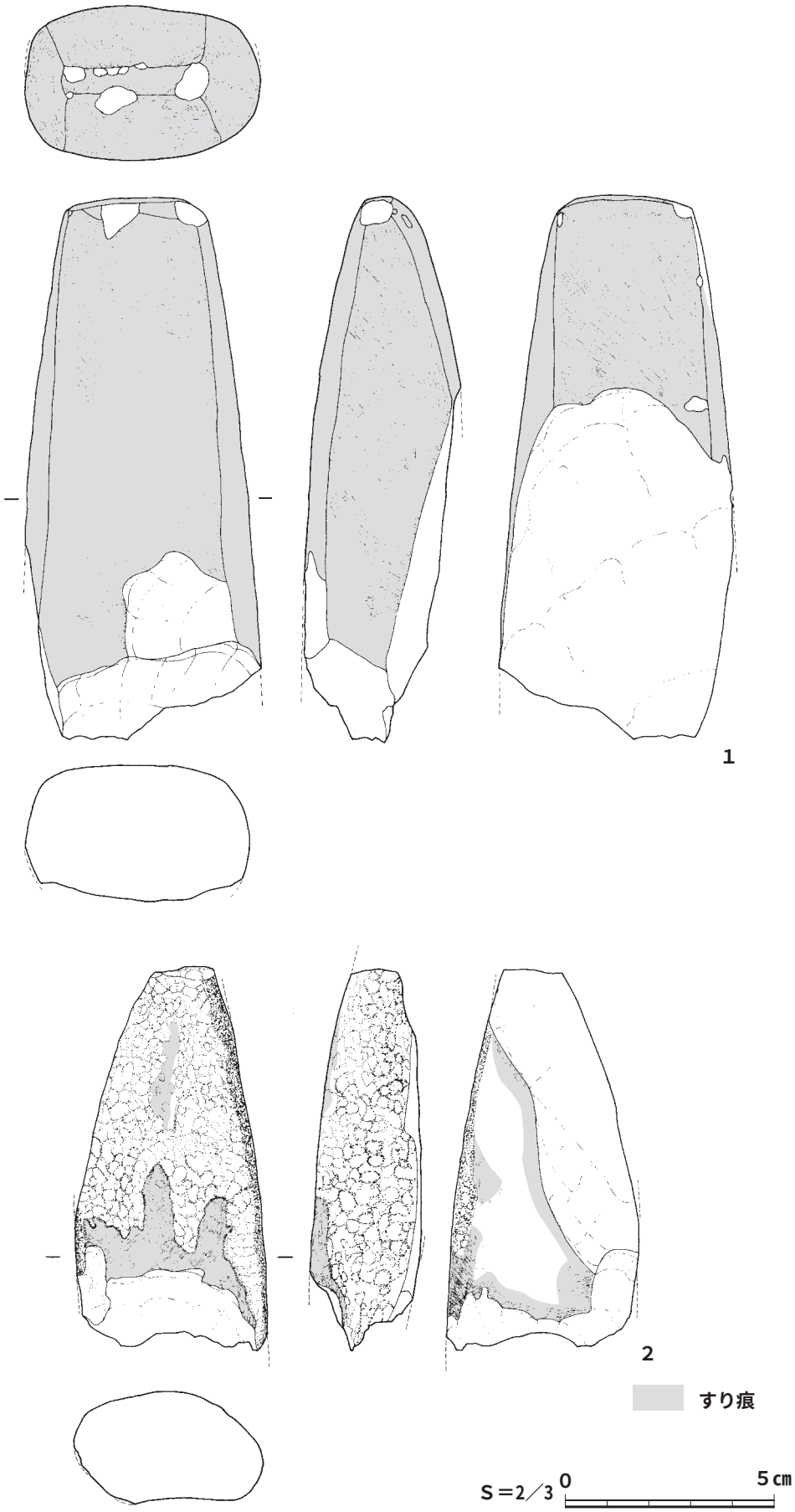
14の石材は、安山岩、S106の２層から出土である。

③磨製石斧（図266～269参照）

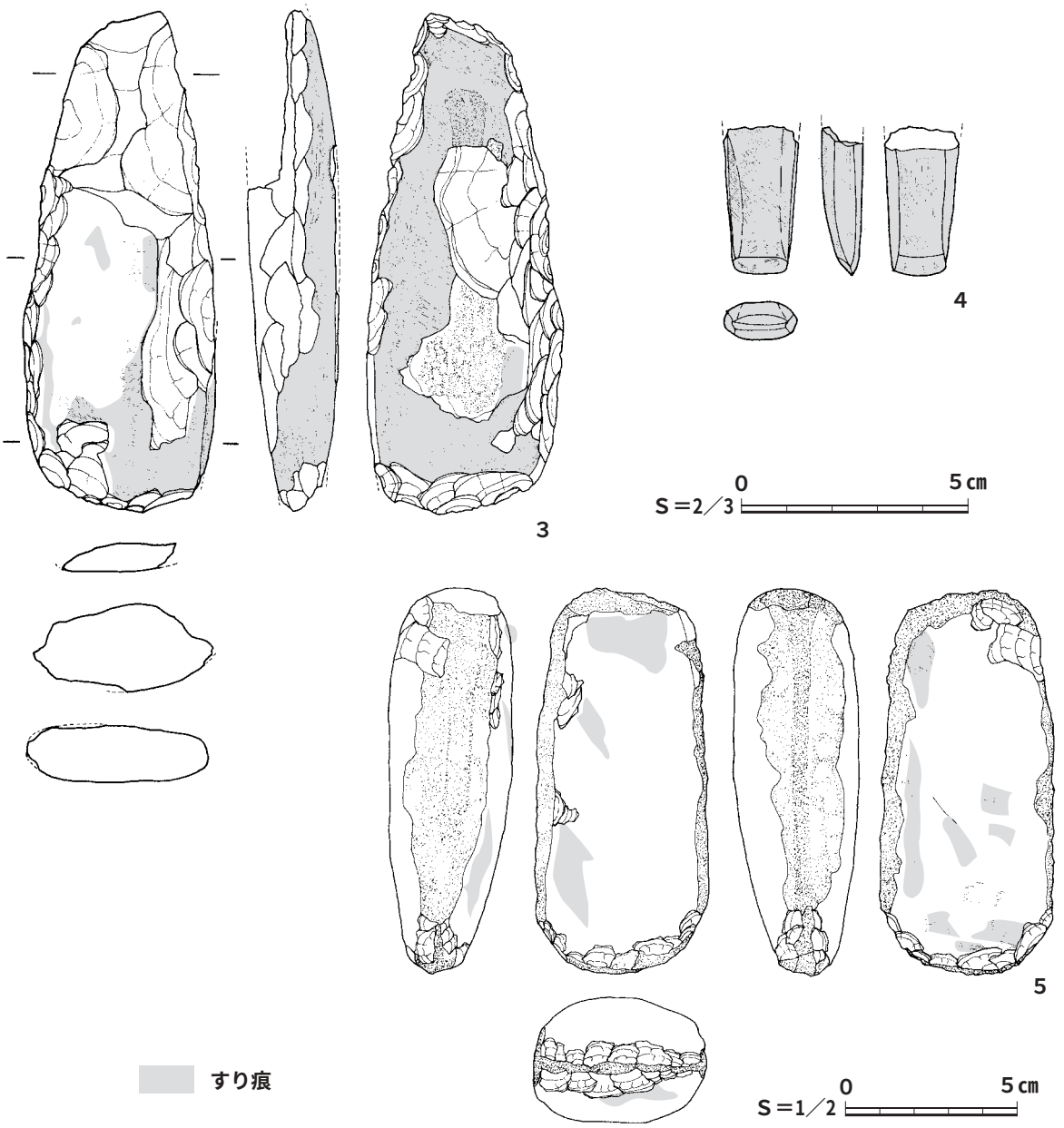
調査区内で出土した打製石鏃は、11点（調査１区：７点、調査２区：３点、不明：１点）である。調査２区、調査１区の南側と中央部で出土している。磨製石斧は、一括して縄文時代の遺物として考える。使用石材は、蛇紋岩、安山岩が多く、粘板岩も入る。

石斧の形態で大まかに５つに分類を試みた。

【Ⅰ類】全体的に細長い二等辺三角形をしており、側縁は直線状をし、最大幅は刃部に近いところにある。断面形は楕円～円形状の磨製石斧を示した。(１～３)



図(Fig)266　縄文石器実測図（８）



図(Fig)267　縄文石器実測図（９）

１の石材は、安山岩質と考えられる。出土地点・層位は、S003内である。

２の石材は、安山岩質と考えられる。出土地点・層位は、S005内である。

３の石材は、蛇紋岩、出土地点・層位は、S026内である。

【Ⅱ類】全体的に小型で細長いノミ形の形状をしている。断面形は楕円形の磨製石斧を示した。（４）

４の石材は、蛇紋岩、出土地点・層位は、Ａ－２グリッドのPit1399内である。

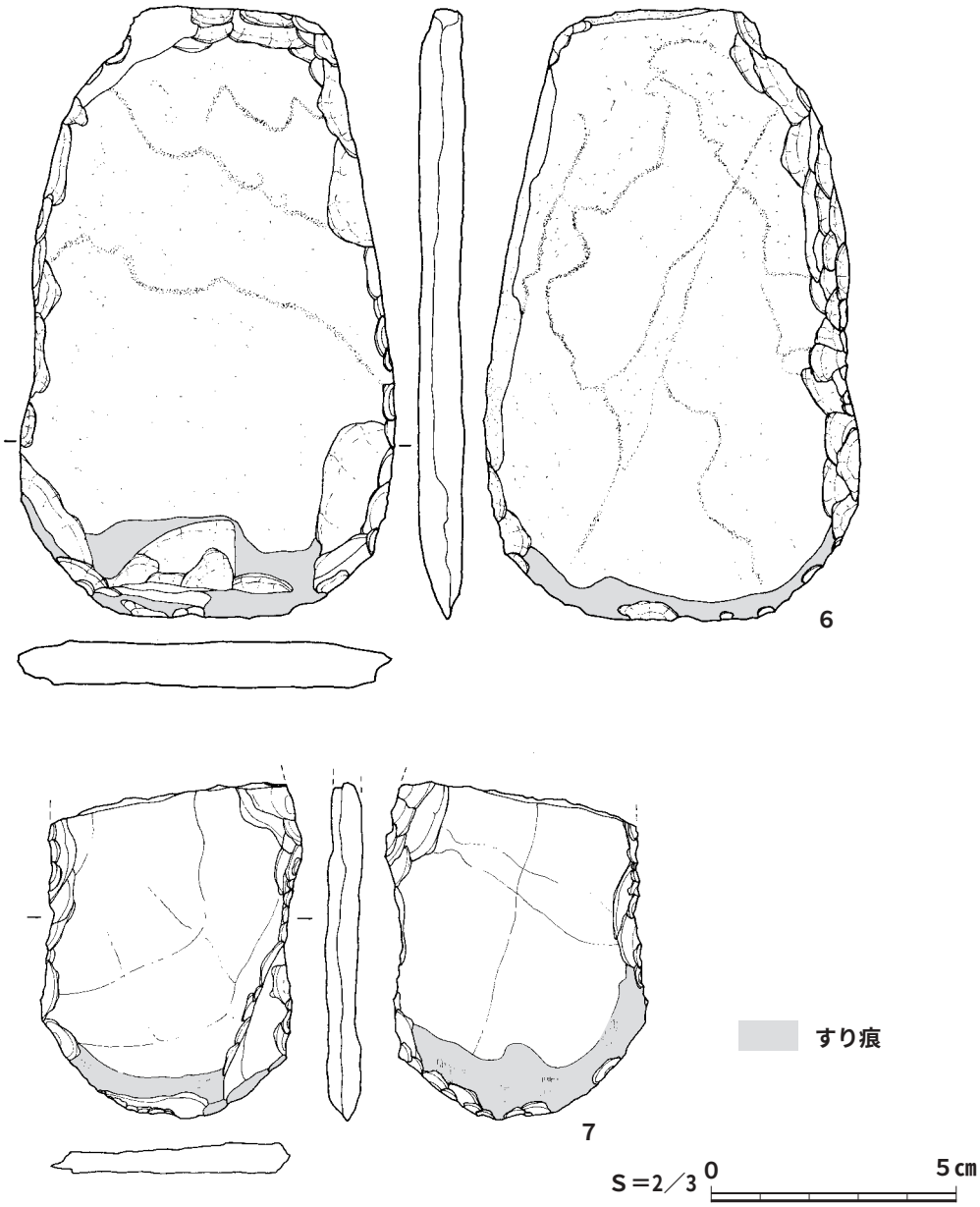
【Ⅲ類】全体的に長方形を呈しており、側縁は直線状をなす。断面形は楕円形の磨製石斧を示した。（５）

５の石材は、蛇紋岩質の変成岩、出土地点・層位は、Ｓ－８グリッド縄文時代の遺物を含む砂層である。ややローリングを受けているが、周辺に敲打痕が残ることから敲石として転用されたと考えられる。

【Ⅳ類】全体的に長方形を呈しており、刃部にのみ研磨が施されている局部磨製石斧。断面形は扁平である。（６～７）

６の石材は、粘板岩、出土地点・層位は、S077内である。

７の石材は、粘板岩、出土地点・層位は、Ｔ－９グリッドⅢＢ層である。



図(Fig)268　縄文石器実測図（10)

【Ⅳ類】欠損しており全体的な形状は不明だが、刃部周辺に研磨が残る磨製石斧。断面形は楕円形である。(８～12)

８の石材は、蛇紋岩、出土地点・層位は、S089内である。

９の石材は、蛇紋岩、出土地点・層位は、Ｂ－４グリッドⅢＡ層である。である。

10の石材は、安山岩質と考えられる。出土地点・層位は、不明である。

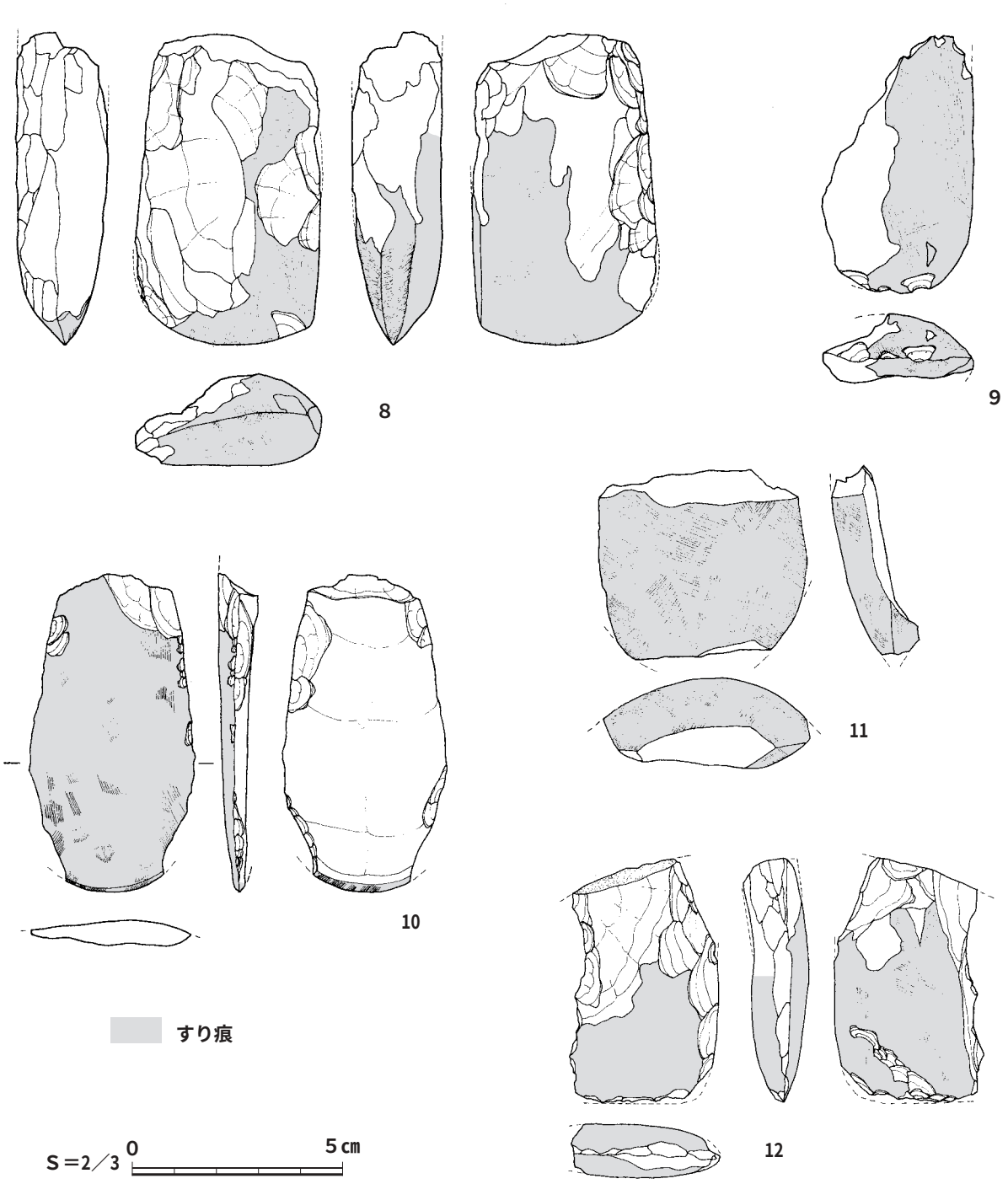
11の石材は、安山岩質と考えられる。出土地点・層位は、Ｋ－８グリッドⅢＡ層である。

12の石材は、安山岩質と考えられる。出土地点・層位は、Ｋ－９グリッドⅢＡ層である。

④楔形石器（図270参照）

調査区内で出土した楔形石器は、８点で、全て調査２区からの出土である。使用石材は全て西北九州産黒曜石と考えられ、２㎝未満の小振りのもの（１～６)、2.5㎝以上のやや大振りのもの（７、８）がある。

１はS003、２はＴ－８ベルト、３はS012、４はS003、５はS026、６はＳ－８グリッド縄文時代の遺物を含む砂層の２層、７はS003、８はS017からの出土である。



図(Fig)269　縄文石器実測図（11）

⑤スクレイパー（図271、272参照）

調査区内で出土したスクレイパーは、12点（調査１区：８点、調査２区：４点）である。使用石材は安山岩が多い。

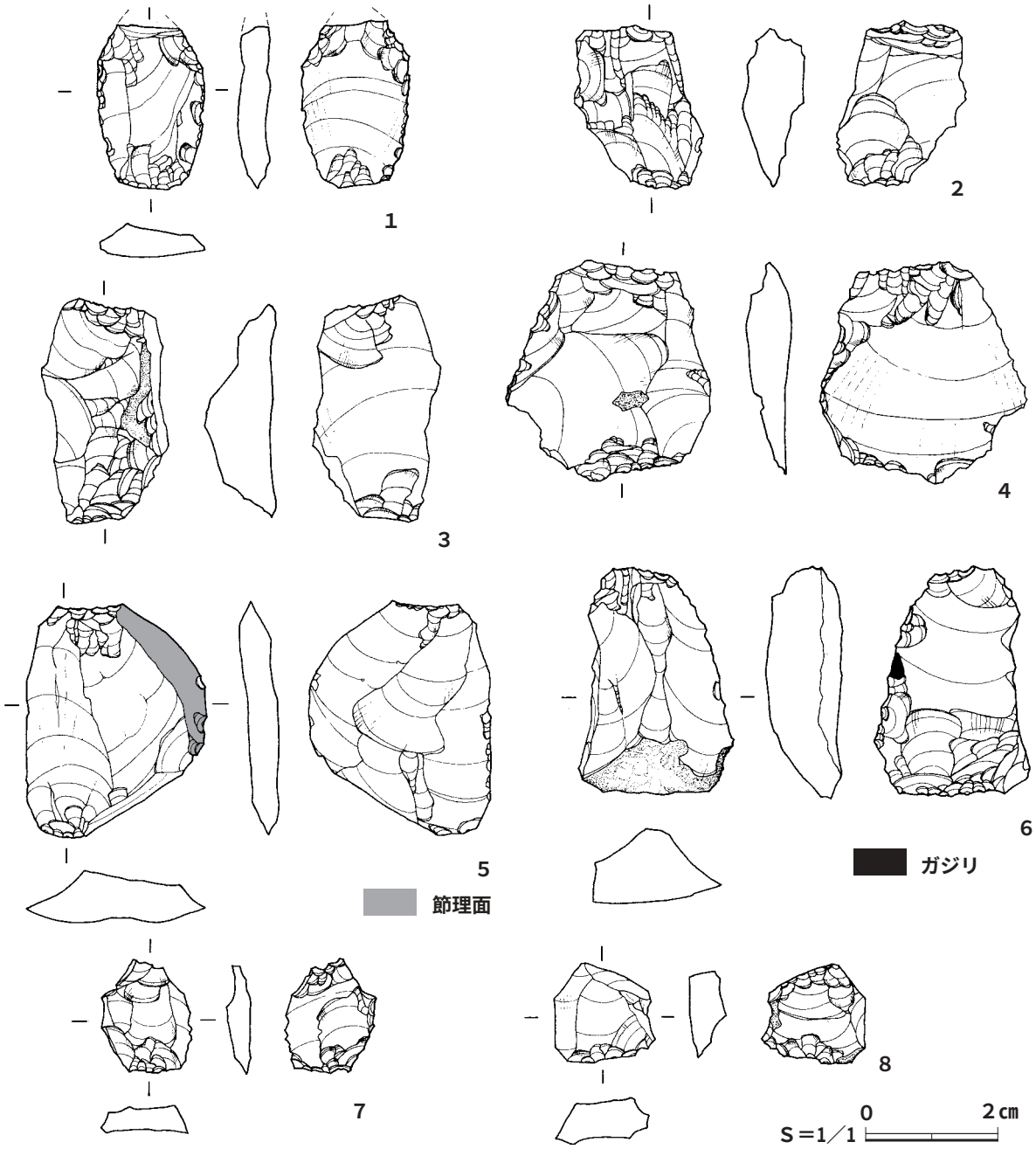
１は横型の石匙である。石材は安山岩であるが、ローリングを受けている。全ての側縁で使用が可能である。出土地点・層位は、調査１区であるが出土地点・層位は不明である。

２の石材は安山岩で、出土地点・層位は、S017の３層である。全ての側縁で使用が可能である。

３の石材は西北九州産黒曜石で、出土地点・層位は、S017の３層である。全ての側縁で使用が可能である。

４の石材は西北九州産黒曜石で、出土地点・層位は、S003の床面である。全ての側縁で使用が可能である。

５の石材は西北九州産黒曜石で、出土地点・層位は、B、C－４、５グリッドⅢA層である。両側縁



図(Fig)270　縄文石器実測図（12）

での使用が可能である。

６の石材は安山岩で、出土地点・層位は、S129である。両側縁と先端部での使用が可能である。

７の石材は安山岩で、出土地点・層位は、Ｋ－８グリッドⅢＡ層である。両側縁と先端部での使用が可能である。

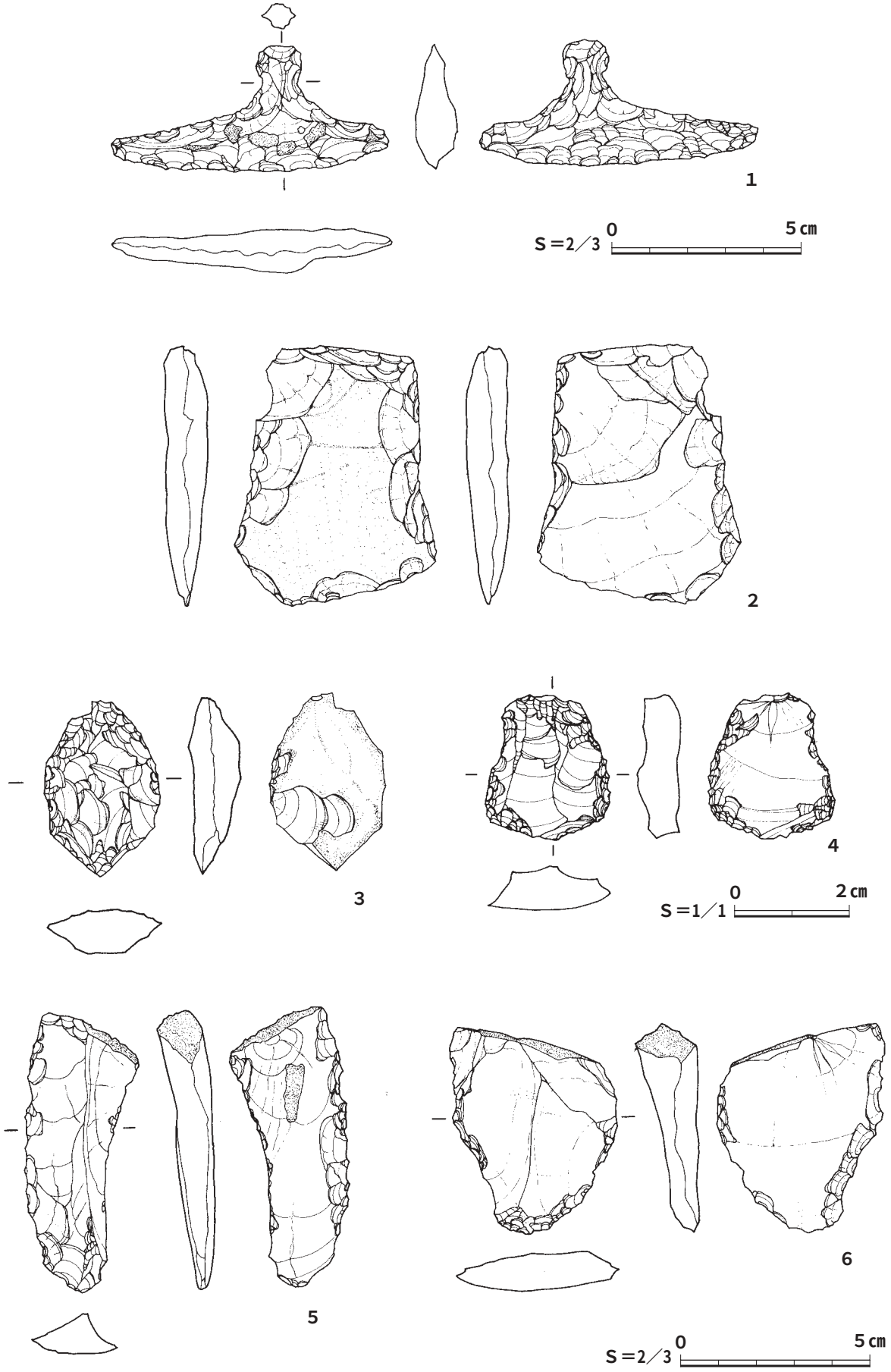
８の石材は安山岩で、出土地点・層位は、Ｃ－４グリッドⅢＡ層である。両側縁と先端部での使用が可能である。

９の石材は西北九州産黒曜石で、出土地点・層位は、S053内である。両側縁での使用が可能である。先端部が欠損している。

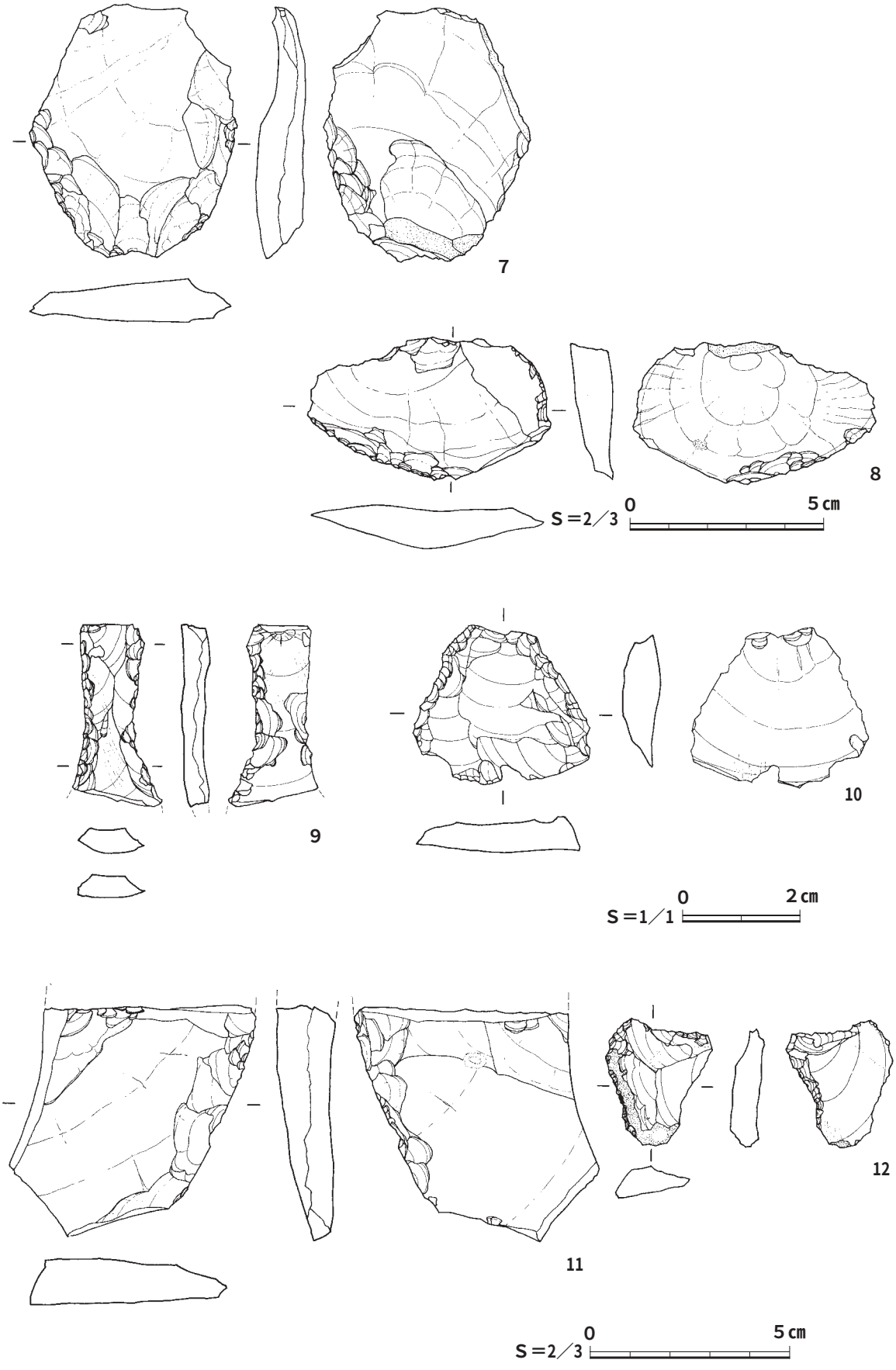
10の石材は西北九州産黒曜石で、出土地点・層位は、Ｓ－９グリッドⅢＡ層である。両側縁と先端部での使用が可能である。

11の石材は良質なガラス質安山岩で、出土地点・層位は、S091内である。左側縁での使用が可能である。上端部が欠損している。

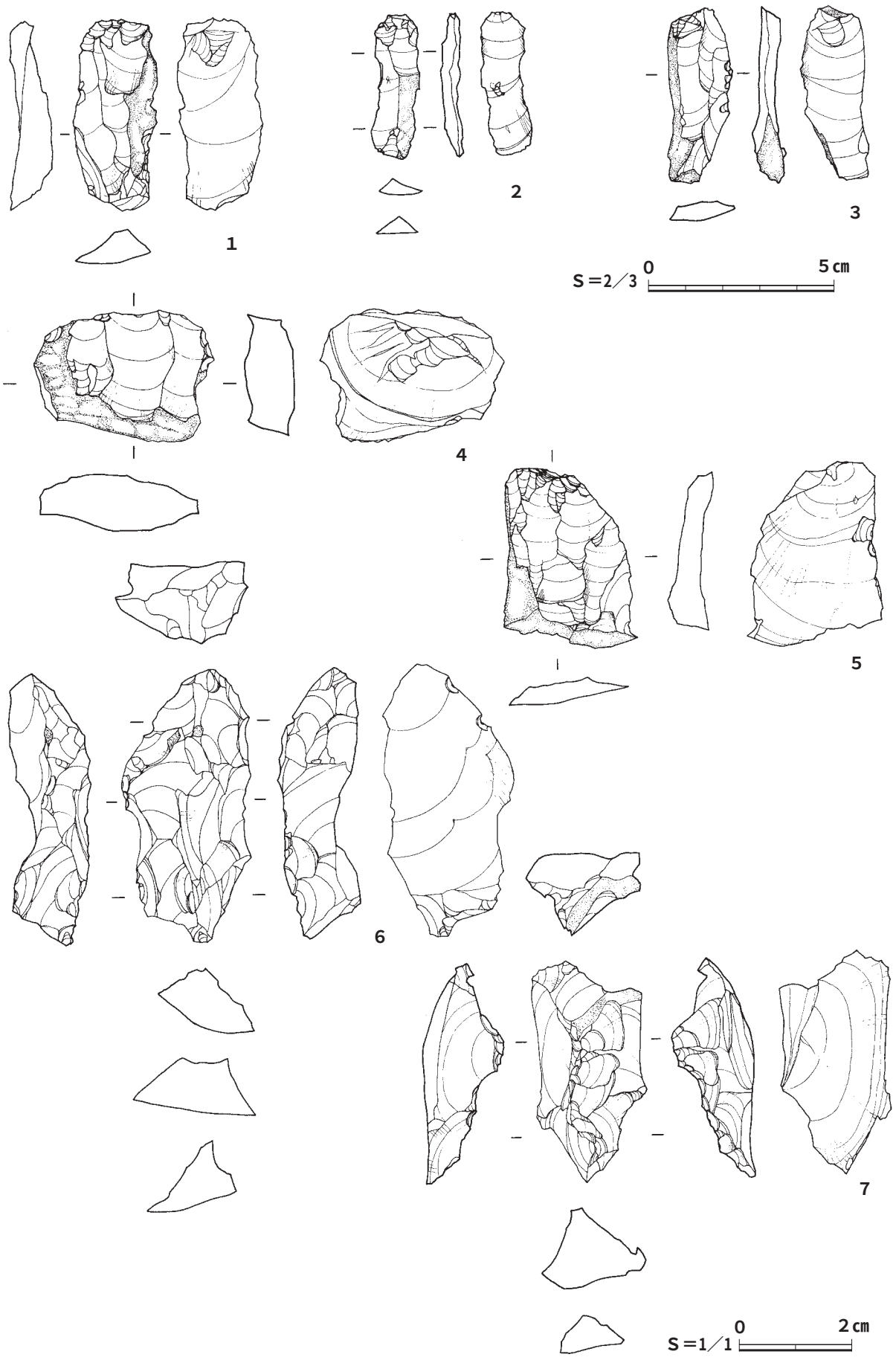
12の石材は西北九州産黒曜石で、出土地点・層位は、Ｂ－５グリッドⅢＡ層である。右側縁と上端部



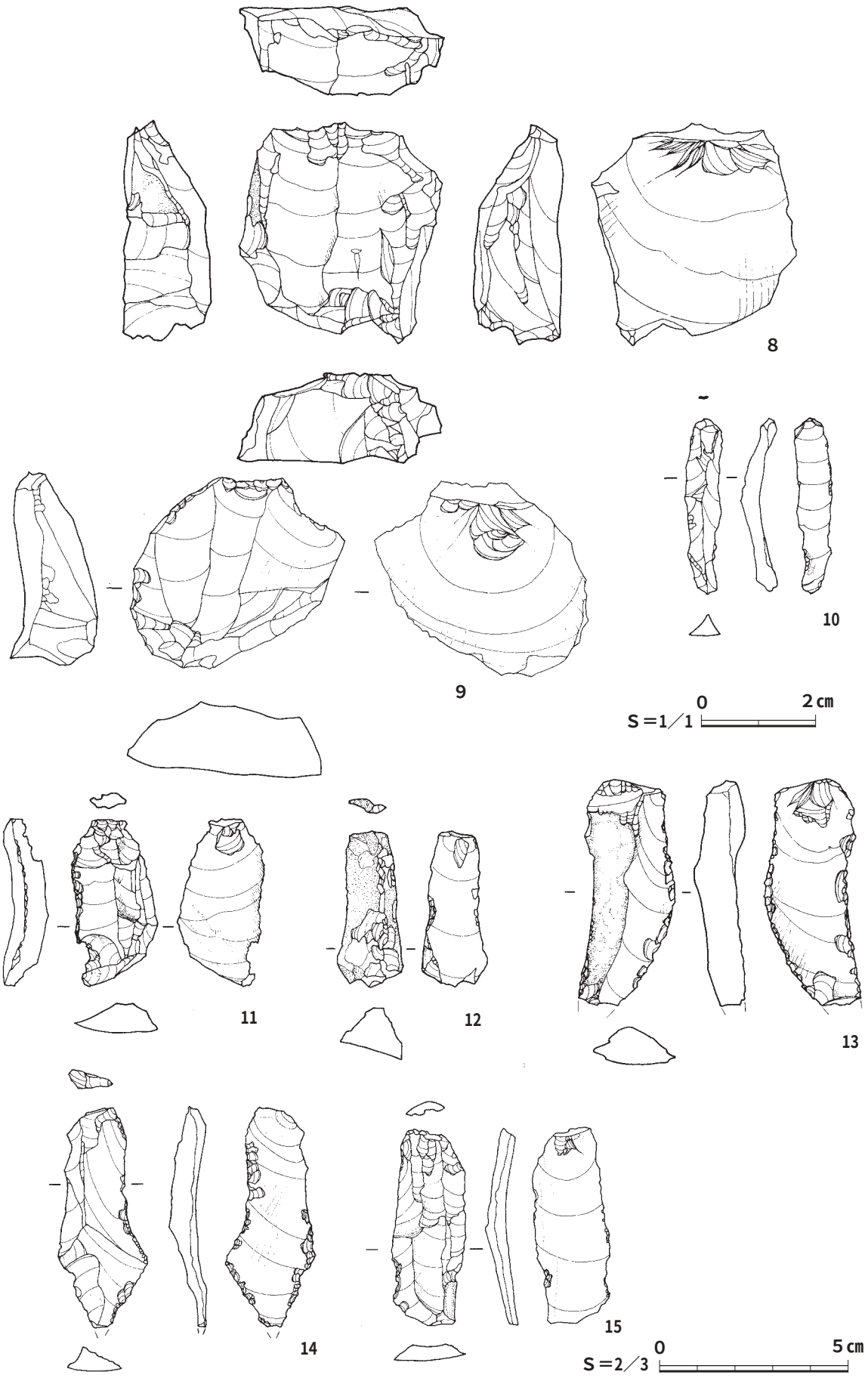
図(Fig)271　縄文石器実測図（13）



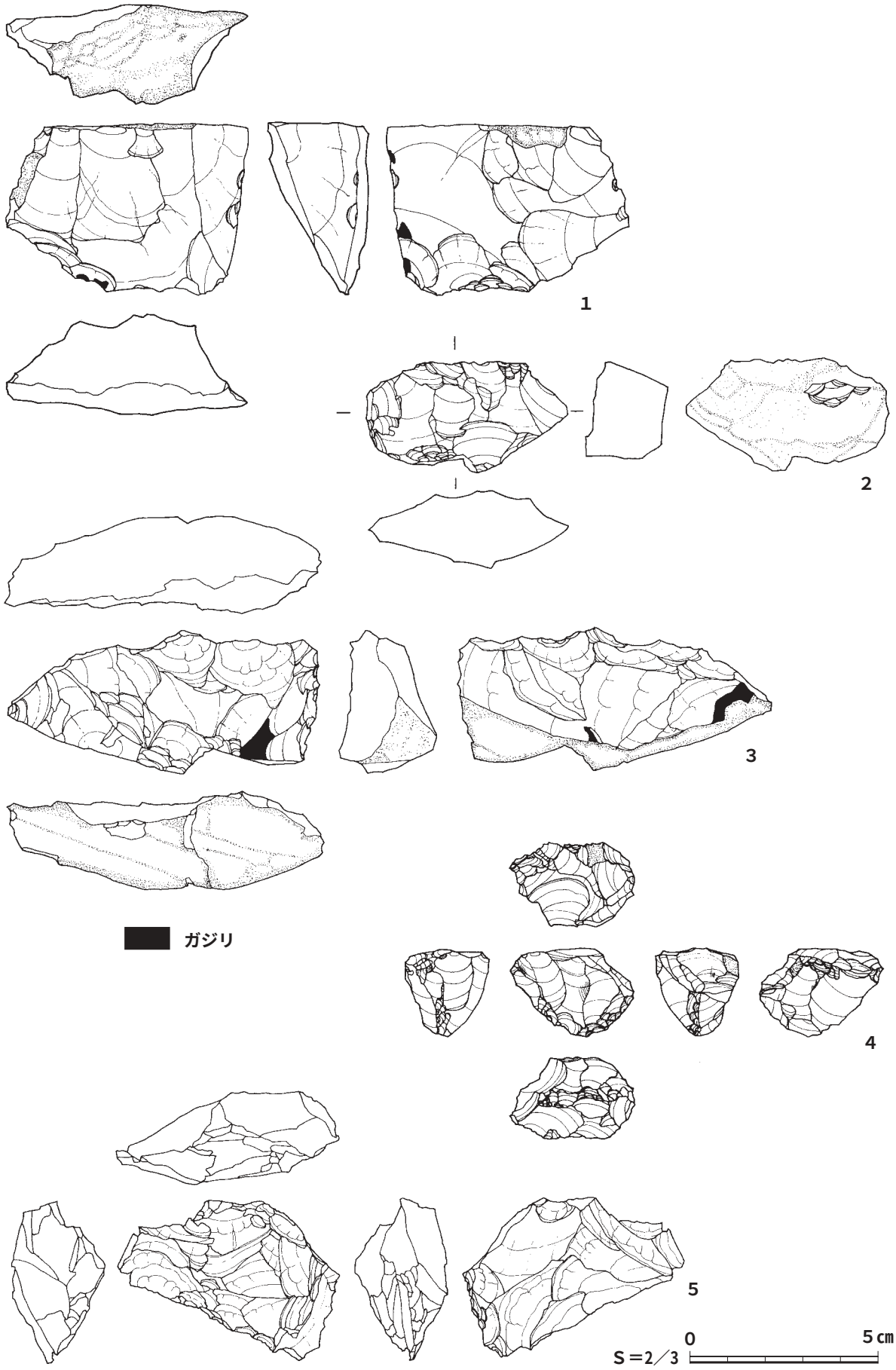
図(Fig)272　縄文石器実測図（14）



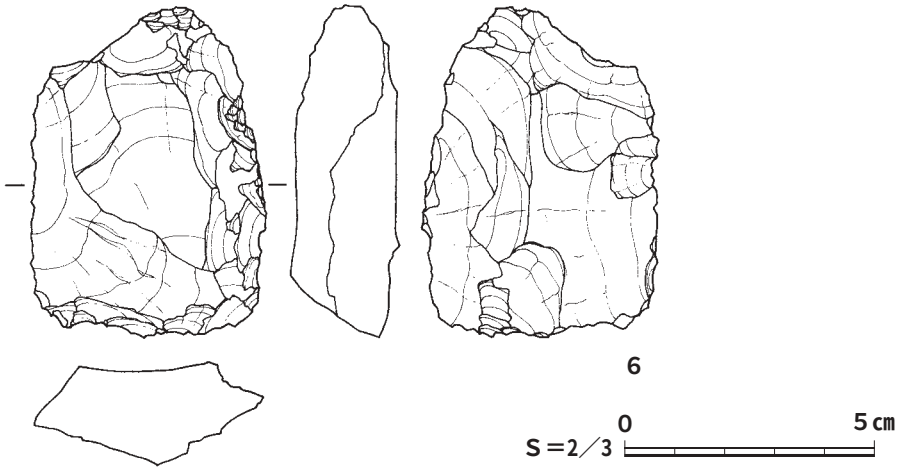
図(Fig)273　縄文石器実測図（15)



図(Fig)274　縄文石器実測図（16)



図(Fig)275　縄文石器実測図（17）



図(Fig)276　縄文石器実測図（18）

での使用が可能である。

⑥剥片類（図273、274参照）

調査区内で出土したスクレイパーは、12点（調査１区：８点、調査２区：４点）である。使用石材は安山岩が多い。

１は剥片である。石材は黒曜石であるが、漆黒ではなく、やや霞がかかったような濁りのある黒曜石である。佐賀県の椎葉川周辺で採集される黒曜石に酷似するが、断定はできない。背面には打面を上にして石刃を剥出した痕跡が残る。一部礫面が残る。出土地点・層位は、S001内である。

２は剥片である。石材は西北九州産黒曜石である。背面には打面を上にして石刃を剥出した痕跡が残る。一部礫面が残る。出土地点・層位は、不明である。

３は剥片である。石材は西北九州産黒曜石である。背面には打面を上にして石刃を剥出した痕跡が残る。打面及び側面に礫面が残る。出土地点・層位は、Ｂ－５グリッドⅢＡ層である。

４は作業面再生剥片である。石材は西北九州産黒曜石である。背面には打面を上にして３本の石刃を剥出した痕跡が残る。側面に一部礫面が残る。出土地点・層位は、S017の３層である。

５は作業面再生剥片である。石材は西北九州産黒曜石である。背面には打面を上にして石刃を剥出した痕跡が残る。側面に一部礫面が残る。出土地点・層位は、調査１区北側である。

６は剥片である。石材は西北九州産黒曜石である。背面にはあらゆる方向からの剥離が観察される。断面の形状が三角形～台形を呈するが、石刃を剥出するためのクレスティドフレイクではない。出土地点・層位は、S003の１層である。

７は剥片である。石材は西北九州産黒曜石である。背面には中央から両側への剥離が観察されるが、縦からの剥離ではないために石刃を剥出するためのクレスティドフレイクとは言えない。出土地点・層位は、S130内である。

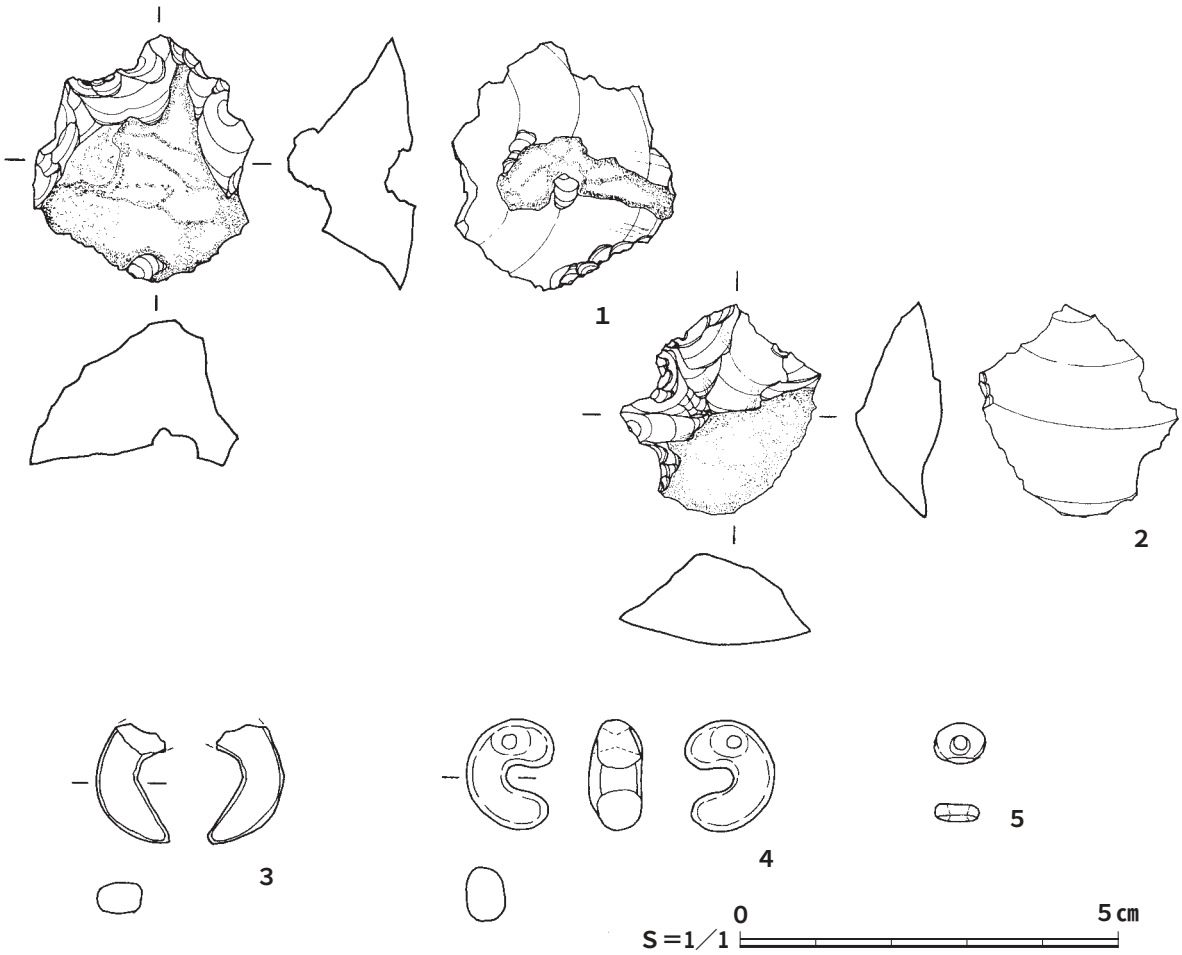
８は作業面再生剥片である。石材は西北九州産黒曜石である。背面には主に打面を上にして石刃を剥出した痕跡が残る。出土地点・層位は、S130内である。

９は微細剥離のある作業面再生剥片と考えられる。作業面再生を行おうとしたが失敗したものかもしれない。石材は西北九州産黒曜石である。背面には主に打面を上にして石刃を剥出した痕跡が残る。出土地点・層位は、S033の２層である。

10は微細剥離のある剥片である。石材は西北九州産黒曜石である。背面には打面を上にして石刃を剥出した痕跡が残る。出土地点・層位は、Ｌ－９グリッドⅢＡ層である。

11は使用痕跡のある剥片である。石材は西北九州産黒曜石である。左側縁に使用痕跡が残る。出土地点・層位は、Ｅ－６グリッドⅢＡ層である。

12は微細剥離のある剥片である。石材は西北九州産黒曜石である。石材の角を利用したファーストフレイクである。打面も礫面がである。出土地点・層位は、廃土一括のため不明である。



図（Fig)277　縄文石器実測図（19)

13は使用痕跡のある剥片である。石材は西北九州産黒曜石である。両側縁に使用痕跡が残る。出土地点・層位は、Ｔ－９グリッドⅢＡ層である。

14は使用痕跡のある剥片である。石材は西北九州産黒曜石である。両側縁に使用痕跡が残る。出土地点・層位は、Ｓ－８グリッド縄文時代の遺物を含む砂層の２層である。

15は微細剥離のある剥片である。石材は西北九州産黒曜石である。背面には打面を上にして石刃を剥出した痕跡が残る。出土地点・層位は、Ｊ－８グリッドⅢＡ層である。

⑦石核（図275、276参照）

１の石材はサヌカイト質安山岩である。礫面の様子から佐賀県多久市周辺に産出するサヌカイト質安山岩に酷似するが、断定はできない。礫面を打面にしてやや縦長の剥片を剥出し、左に90°打面（礫面）を転換して、同様にやや縦長の剥片を剥出している。最後に大きく２つに分割されている。その後、刃部に背腹両面から小さな二次加工が加えられた可能性も考えられる。出土地点・層位は、S012内である。

２の石材は西北九州産黒曜石である。礫面の様子から腰岳産と考えられる。打面を上下に設定して、やや幅広い剥片を剥出しようとした痕跡が窺える。出土地点・層位は、Ｃ－３グリッドⅢＡ層である。

３の石材はハリ質安山岩である。剥片を素材にして上面を固定、そして、やや幅広い剥片を交互剥離を行いながら剥出しようとした痕跡が窺える。礫面を大きく残している。出土地点・層位は、Ｃ－３グリッドⅢＡ層である。

４の石材は西北九州産黒曜石である。打面はほぼ上部に固定して、やや幅広い剥片を剥出しようとした痕跡が窺える。しかし、約90°打面を転移して同様な剥片剥離を行っている。打面調整も観察される。ながらも、。出土地点・層位は、Pit1020内である。

５の石材はハリ質安山岩である。打面を上下しながら、不定形な剥片を剥出しようとした痕跡が窺え

る。出土地点・層位は、Ｌ－９グリッドS106の東側トレンチ内である。

６の石材はハリ質安山岩である。求心状の剥離を行い、不定形な剥片を剥出しようとした痕跡が窺える。その後、周辺に背腹両面から小さな二次加工が加えられており、トールに転用しようとした可能性も考えられる。出土地点・層位は、Ｃ－３グリッドⅢＢ層である。

⑧鋸歯縁石器（図277参照）

１の石材は西北九州産黒曜石である。残る礫面から腰岳産黒曜石と考えられる。おおよそピンポン玉程度の原礫を分割して素材にして、求心状の剥離を行い、約半面に鋸歯状の凹凸を作り出している。用途は不明である。出土地点・層位は、S073の１層である。

２の石材は西北九州産黒曜石である。残る礫面から腰岳産黒曜石と考えられる。原礫を残した剥片を素材にして、求心状の剥離を行い、約半面に鋸歯状の凹凸を作り出している。用途は不明である。出土地点・層位は、S001内である。

⑨石製品装身具（図277参照）

３は、結晶片岩様緑色岩製の勾玉である。頭部が欠損している。蛍光Ｘ線分析の結果、鹿児島県加世田市周辺で多く使用されている石材と同じ可能性が示された。出土地点・層位は、S034内である。縄文時代の石製勾玉が弥生時代中期後半期の土坑の中に紛れ込んでいたと考えられる。(第Ⅴ章P393～408参照)

４は、ヒスイ製の勾玉である。完形品である。蛍光Ｘ線分析の結果、新潟県糸魚川産硬玉（ヒスイ）であることが示された。出土地点・層位は、S126の床面である。S126は弥生時代後期の住居跡であるので、紛れ込みもしくは弥生人が縄文時代のヒスイ製の勾玉を何らかの理由で所持していた可能性が考えられる。(P393～408参照)

５は、蛇紋岩製の小玉である。蛍光Ｘ線分析の結果、蛇紋岩に該当する可能性が示された。出土地点・層位は、S007の１層である。S007は時期不明の遺構であることで、紛れ込みの可能性が高い。

（２）弥生時代

ここでは、調査１区・２区の包含層及び他の時代の遺構の中に混入していた遺物の中から紹介する。

土器及び土製品37点、石器及び石製品19点、鉄器２点の計58点である。

１）土器及び土製品

①土器（図278から280参照）

１は、丹塗りの甕形土器の口縁部である。口唇部には刻み目、胴部にはM字状の突帯が一条巡る。外面にはミガキ痕、内面にはハケ目が残る。須玖Ⅱ式土器の範疇で捉える事ができよう。調査１区の北側トレンチ一括遺物である。

２は、丹塗りの筒形器台の環部である。須玖Ⅱ式土器の範疇で捉える事ができよう。出土地点・層位不明である。

４は、丹塗り高杯の杯部である。口縁部には放射状の暗文が見られる。須玖Ⅱ式土器の範疇で捉える事ができよう。出土地点・層位は、Ｋ－８グリッドⅢＡ層である。

３、５、６は丹塗り壺の蓋である。３には壺とを結びつける穴が見られる。３はS094（中近世の溝）３Ａ層、５はＢ－５グリッドⅢＡ層、６はＢ－４グリッドⅢＡ層から出土している。

７は、丹塗り袋状口縁壺の口縁部と頸部である。出土地点・層位は、Ｇ－７グリッドⅡ層である。

８は、丹塗り甕形土器の底部及び胴部下半部である。須玖Ⅱ式土器の範疇で捉える事ができよう。出土地点・層位は、Ｅ－６グリッド樹根状の穴内である。

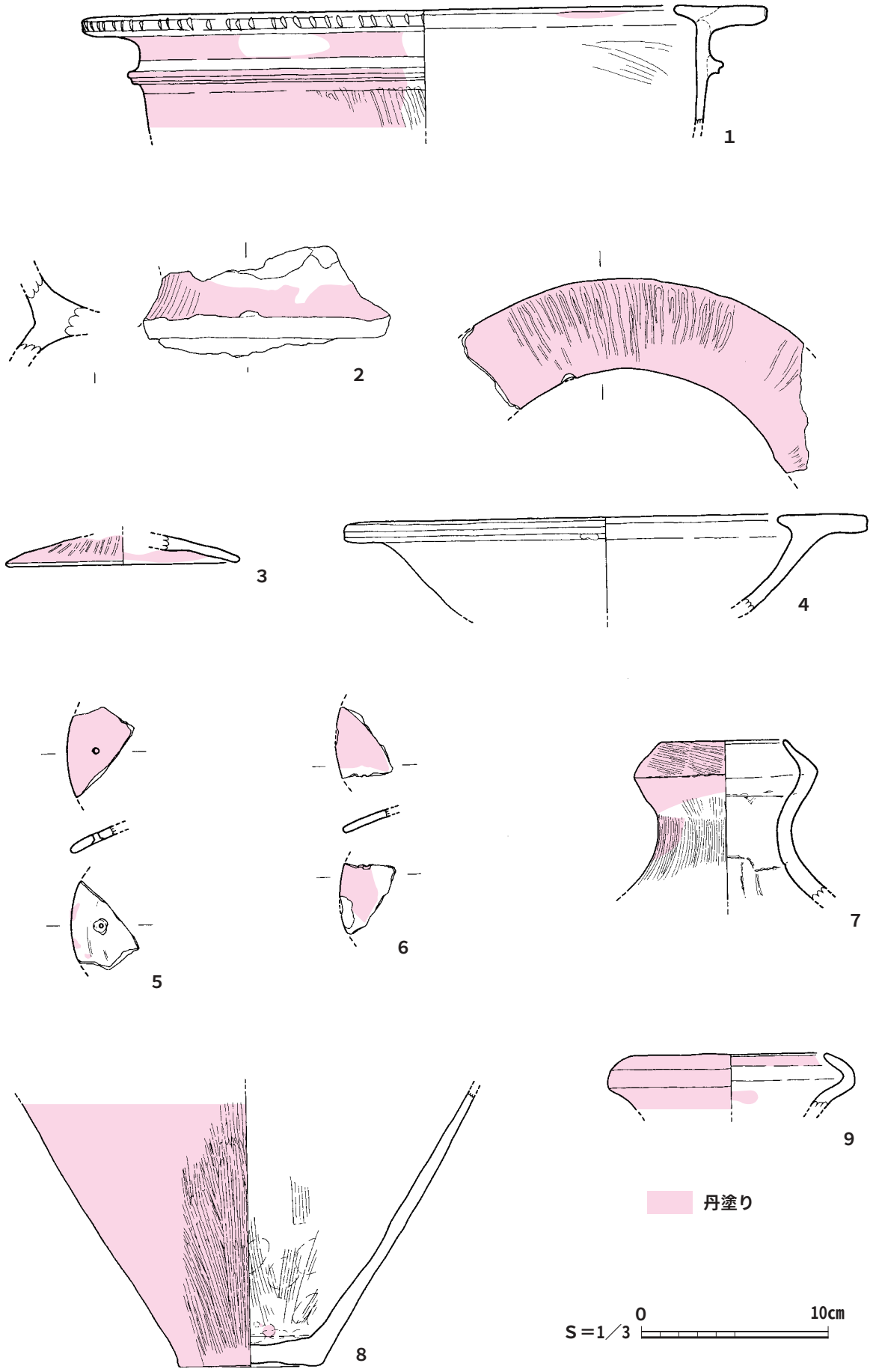
９は、丹塗り袋状口縁壺の口縁部である。出土地点・層位は、Ｂ－３グリッド層不明である。

10は、壺形土器である。内外にハケ目が残る。口縁部に蓋をつなぐための穴が見られる。10点が接合している。出土地点・層位は、Ｐ－９グリッドⅢＡ層である。

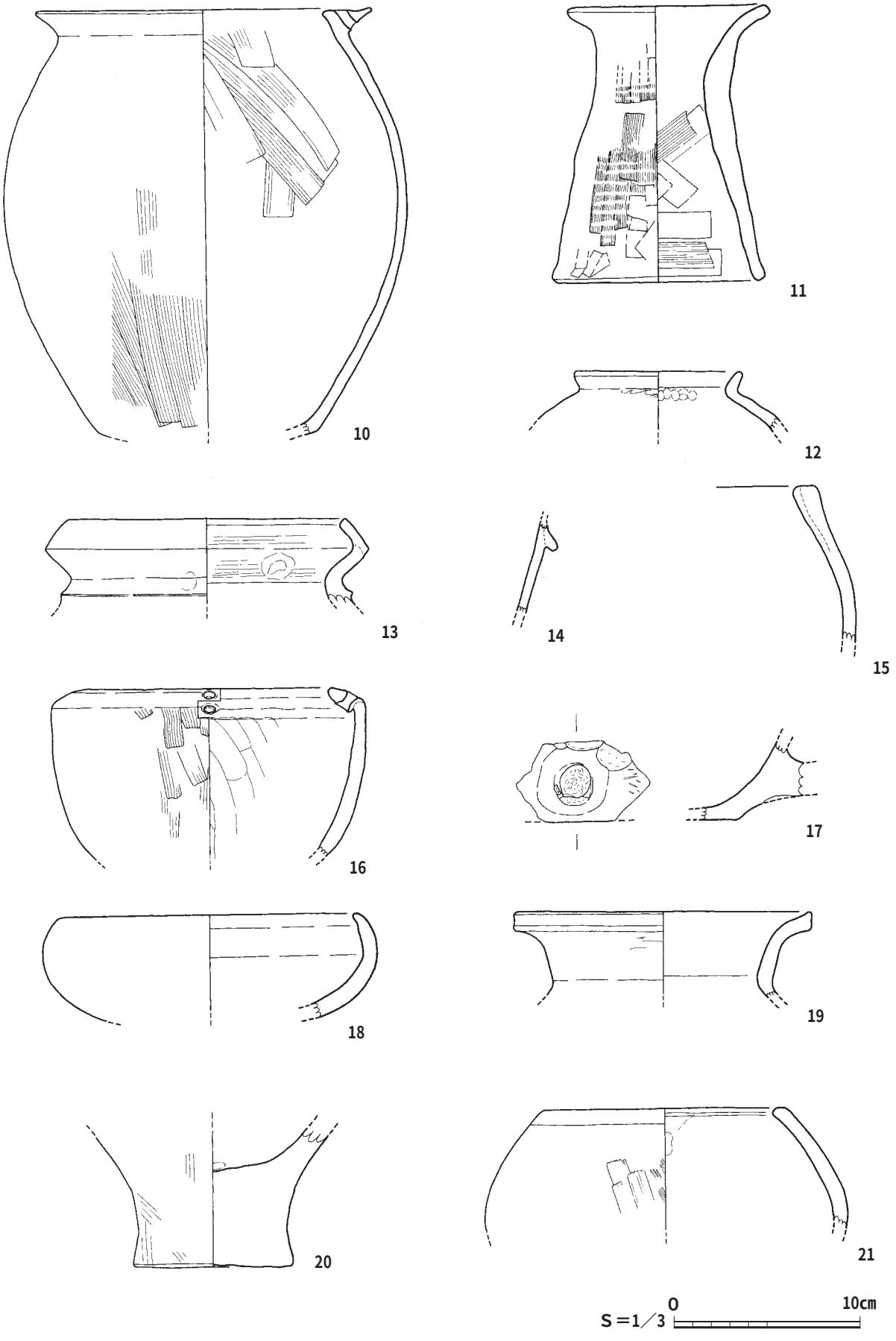
11は、器台である。内外にハケ目が残る。４点が接合している。出土地点・層位は、不明である。

12は、短頸壺の口縁部である。出土地点・層位は、Ｂ－３グリッドⅢＡ層である。

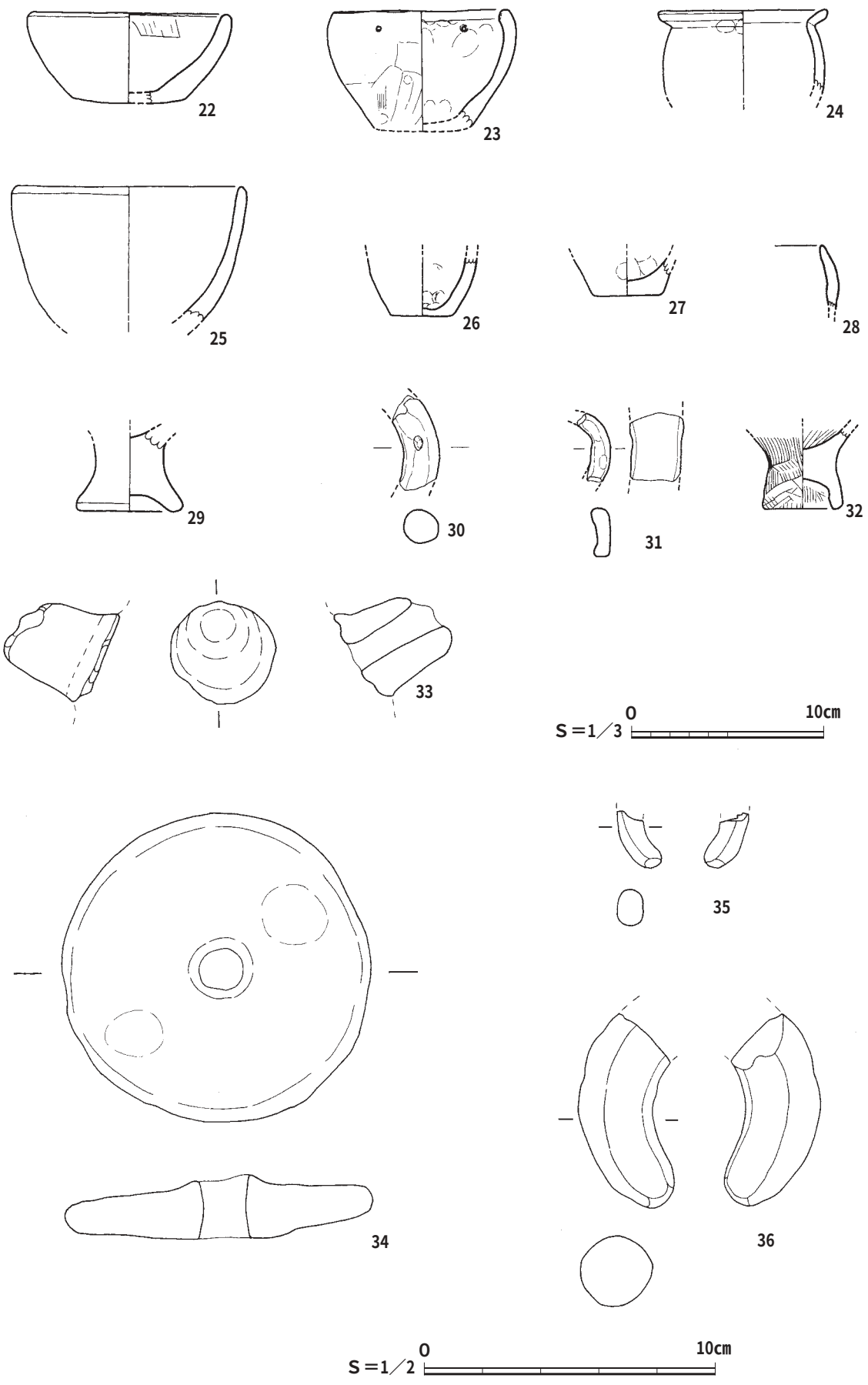
13は、袋状口縁壺の口縁部である。出土地点・層



図(Fig)278　包含層出土遺物実測図（弥生）（１）



図(Fig)279　包含層出土遺物実測図（弥生）（２）



図(Fig)280　包含層出土遺物実測図（弥生）（３）

位は、Ｄ－６グリッドⅢ層である。

14は、長頸壺の頸部だと考えられる。１条の突帯が巡る。出土地点・層位は、Ｕ－８グリッドⅢ層である。

15は、樽形土器の口縁部である。出土地点・層位は、Ｃ－５グリッドⅢＡ層である。

16は、壺形土器の口縁部及び胴部である。内外面にはハケ目がの残り、蓋を固定するための穴が見られる。出土地点・層位は、Ｋ－９グリッドトレンチ内である。

17は、一部把手が残る。ジョッキ形土器の底部であると考えられる。出土地点・層位は、Ｋ－９グリッドⅢＡ層である。

18は、鉢形土器である。出土地点・層位は、Ｃ－５グリッドⅢＡ層である。

19は、壺形土器の口縁部である。出土地点・層位は、Ｂ－３グリッド層不明である。

20は、甕形土器の底部である。平底で古相を示す。出土地点・層位は、S094（中近世の溝）ⅢＢ層である。

21は、無頸壺の口縁部及び胴部上半部である。出土地点・層位は、Ｋ－８グリッドⅢＡ層である。

22は、ミニチュア土器の杯である。出土地点・層位は、Ｃ－４グリッドⅢＡ層下層である。

23は、ミニチュア土器の壺である。蓋を固定するための穴が見られる。出土地点・層位は、Ｇ－７グリッド層不明である。

24は、ミニチュア土器の甕である。出土地点・層位は、Ｋ－９グリッドⅢＡ層である。

25は、ミニチュア土器の鉢である。出土地点・層位は、S041（中世の土坑）内である。

26は、ミニチュア土器の甕の底部であると考えられる。出土地点・層位は、Ｃ－５グリッドⅢＡ層である。

27は、ミニチュア土器の甕の底部であると考えられる。出土地点・層位は、不明である。

28は、ミニチュア土器の鉢の口縁部であると考えられる。出土地点・層位は、Ｋ－８グリッドⅢＡ層である。

29は、ミニチュア土器の甕の脚台部である。出土地点・層位は、Ｂ－３グリッドⅢＡ層である。

30は、ミニチュア土器のジョッキ形土器の把手部であると考えられる。把手は円形である。出土地点・層位は、Ｃ－４グリッドⅢＡ層である。

31は、ミニチュア土器のジョッキ形土器の把手部であると考えられる。把手は板形である。出土地点・層位は、Ｃ－６グリッドⅢＡ層である。

32は、ミニチュア土器の甕の脚台部である。内外面にハケ目が残る。出土地点・層位は、Ｅ－６グリッド樹根状の穴内である。

33は、脚台付き注口壺の注口部であると考えられる。出土地点・層位は、Ａ－３グリッドⅢＡ層である。

②土製紡錘車（図280参照）

34は土製紡錘車である。出土地点・層位は、Ｆ－７グリッドⅢＡ層である。

③土製勾玉（図280参照）

35、36は土製勾玉である。35はS094廃土内内出土、36はＪ－８グリッドⅢＡ層出土である。

２）石器及び石製品

①磨製石鏃（図281参照）

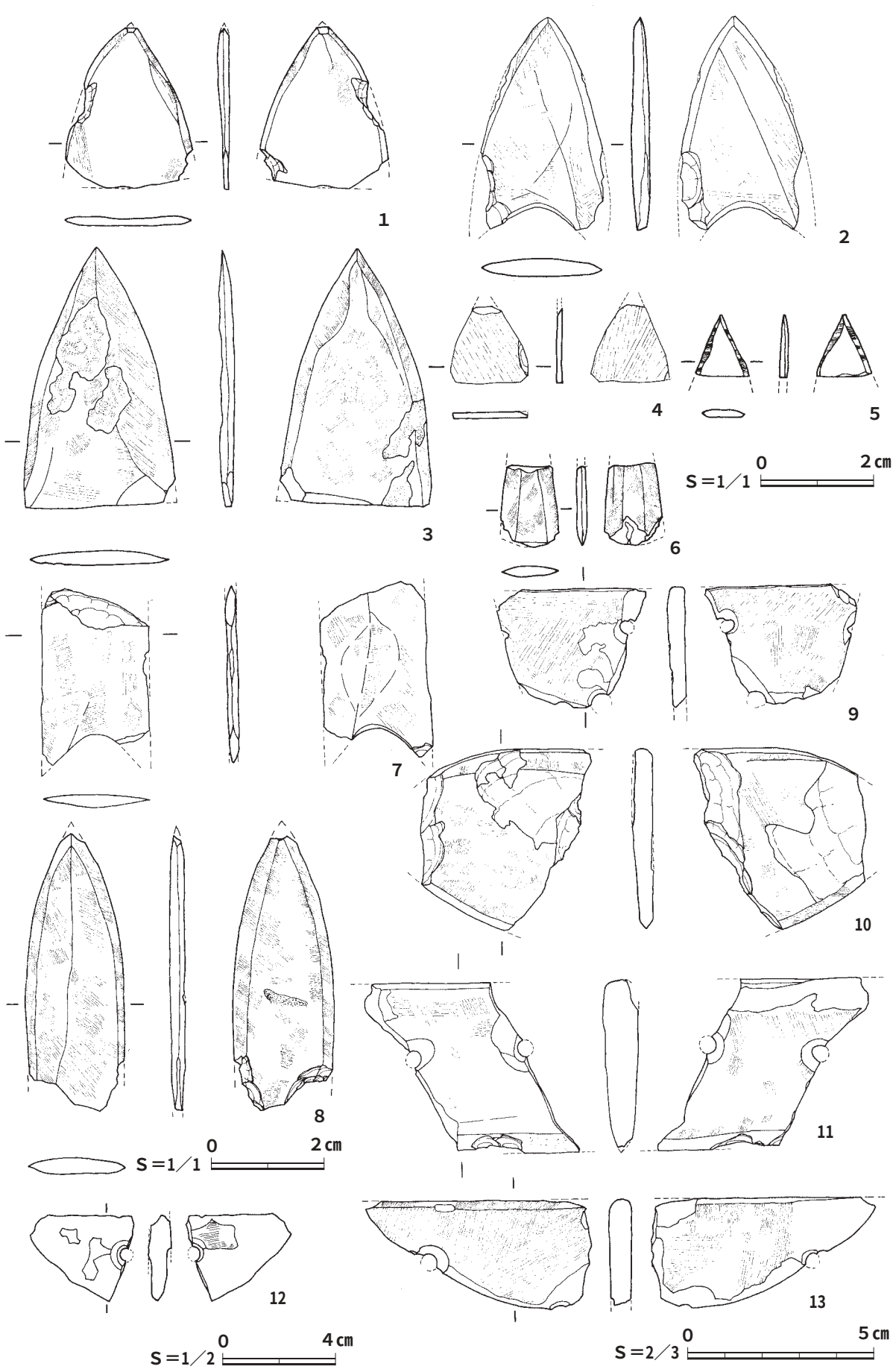
１～８は、磨製石鏃である。形状はさまざまであるが、全て欠損している。１は粘板岩でＩ－８グリッドⅢＡ層出土、２は粘板岩でＴ－９グリッドⅢＡ層出土、３は結晶片岩でＪ－９グリッドⅢＡ層出土、４は緑泥片岩でＴ－９グリッドⅢＡ層出土、５は緑泥片岩でＪ－９グリッドⅢＡ層出土、６は片岩系でPit1609内出土、７はチャートでＫ－９グリッドⅢＡ層出土、８は粘板岩でＪ－９グリッドトレンチ内出土である。

②石包丁（図281参照）

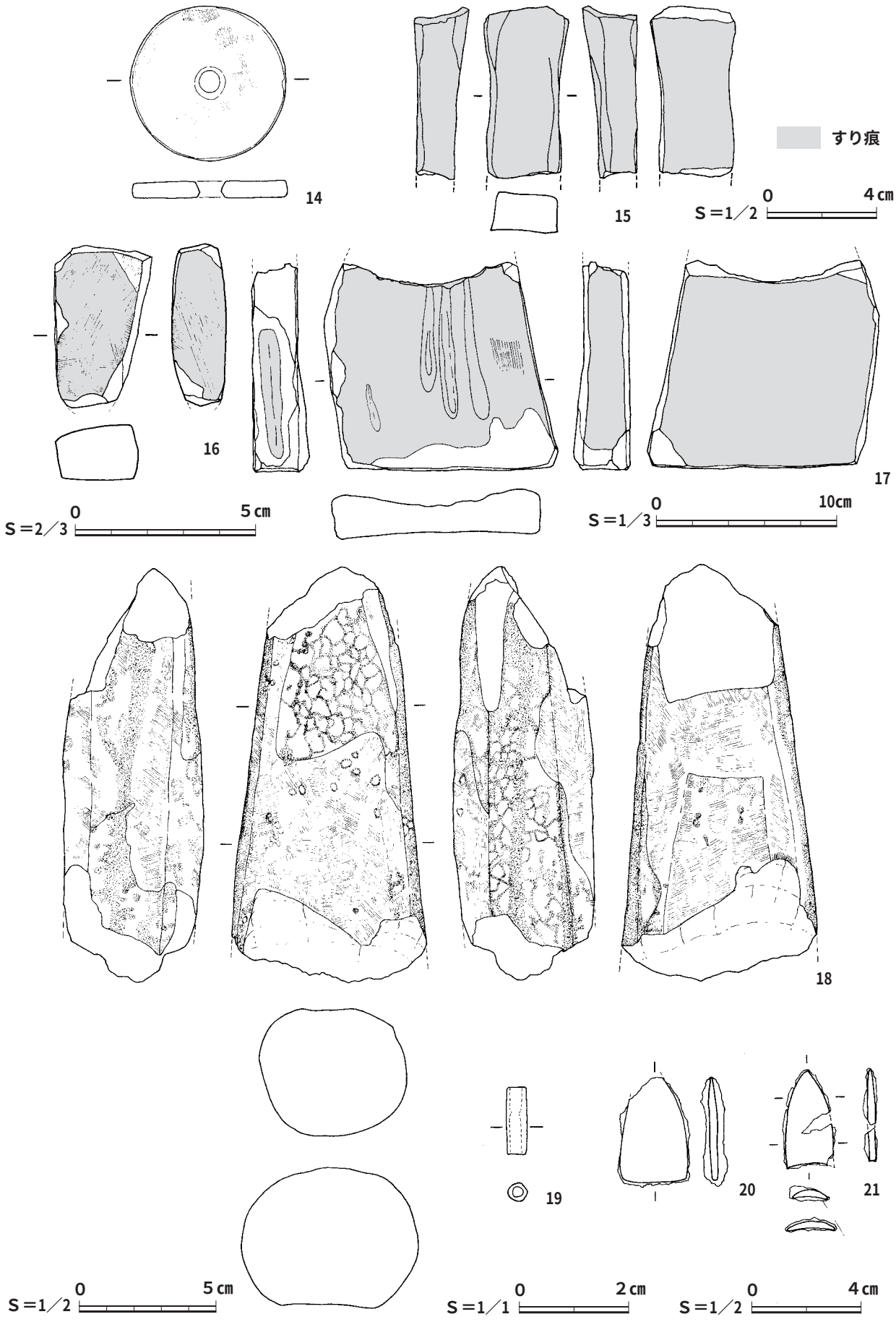
９～13は、石包丁である。全て欠損しているが、10以外は紐穴が確認できる。９は粘板岩でＣ－４グリッドⅢＡ層出土、10は立岩産の輝緑凝灰岩（紫色）でＬ－９グリッドⅢＡ層出土、11は粘板岩でＬ－９グリッドトレンチ内出土、12は流紋岩でＳ－９グリッドⅢ層下層出土、13は立岩産の輝緑凝灰岩（紫色）でＢ－２グリッドⅢＡ層出土である。

③石製紡錘車（図282参照）

14は、石製紡錘車である。石材は、結晶片岩だと



図(Fig)281　包含層出土遺物実測図（弥生）（4）



図(Fig)282　包含層出土遺物実測図（弥生）（５）

考えられる。Ｈ－８グリッドⅢＡ層出土である。

④砥石（図282参照）

15～17は、砥石である。15は砂岩でＢ、Ｃ－４、５グリッドⅢ層出土、16は流紋岩でＳ－９グリッド西トレンチ内出土、17は砂岩でＴ－８グリッドⅢＡ層出土である。

⑤太型蛤刃石斧（図282参照）

18は、太型蛤刃石斧である。刃部と基部が欠損している。石材は、安山岩～玄武岩だと考えられるが、福岡県今山産の玄武岩ではなさそうである。Ｃ－４グリッドⅢＡ層出土である。

⑥石製管玉（図282参照）

19は、石製管玉である。石材は、硬玉である。Ｌ－９グリッドⅢＡ層出土である。

３）鉄製品（図282参照）

20、21は鉄鏃である。20はＢ－２グリッドピット内出土、21はＳ－９グリッドトレンチ内出土である。

（３）古代（図283参照）

ここでは、調査１区・２区の包含層及び他の時代の遺構の中に混入していた遺物の中から紹介する。

須恵器１点、布目瓦１点、移動式竈片１点の計３点である。

１は、須恵器の大甕の胴部と考えられる。外面は格子目叩き痕、内面は同心円状の当て具痕跡が残る。S055（中世の土坑）内出土である。

２は、移動式竈の庇部の破片と考えられる。内外面には籾の圧痕が多数残る。S094（中近世の溝）上層出土である。

３は、布目瓦片である。内面には布目、外面には叩き痕跡が残る。Ｇ－７グリッドⅢＡ層出土である。

（４）中世

ここでは、調査１区・２区の包含層及び他の時代の遺構の中に混入していた遺物の中から紹介する。

輸入陶磁器７点、中世須恵器１点、備前陶器１点、瓦質土器８点、中世土師器１点、石製品４点、渡来銭１点の計23点である。

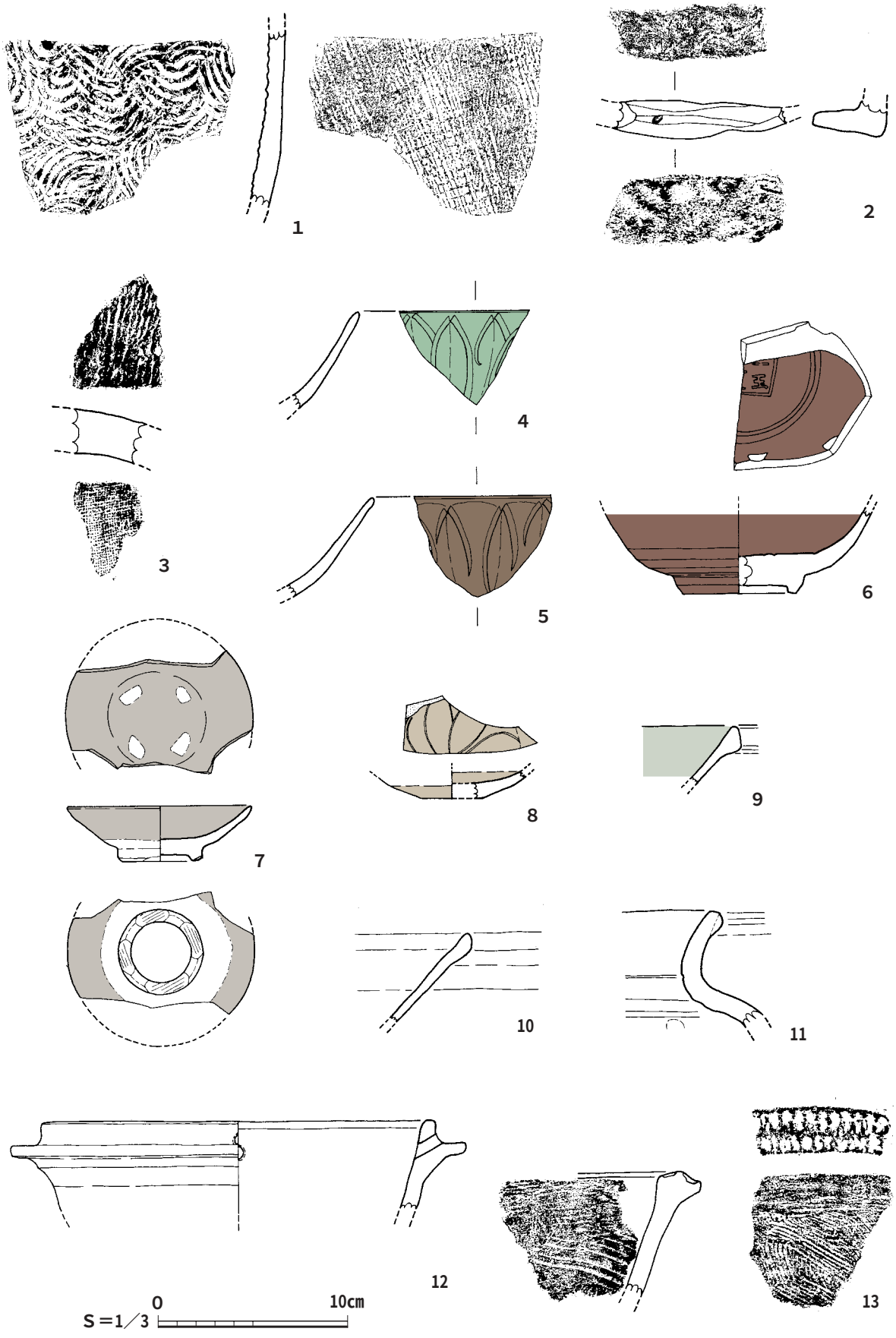
①輸入陶磁器（図283参照）

４、５は龍泉窯系青磁椀Ⅱ－ａ類の口縁部である。内外面共に釉がかかり、外面にはヘラの片彫りによる鎬蓮弁文が確認される。山本氏の太宰府土器型式と国産陶器・貿易陶器編年による時期区分でＥ期(13世紀前後～前半）にあたる。１はＢ－４グリッドⅢＡ層出土、２はＢ－２グリッドⅢＢ層上層出土である。

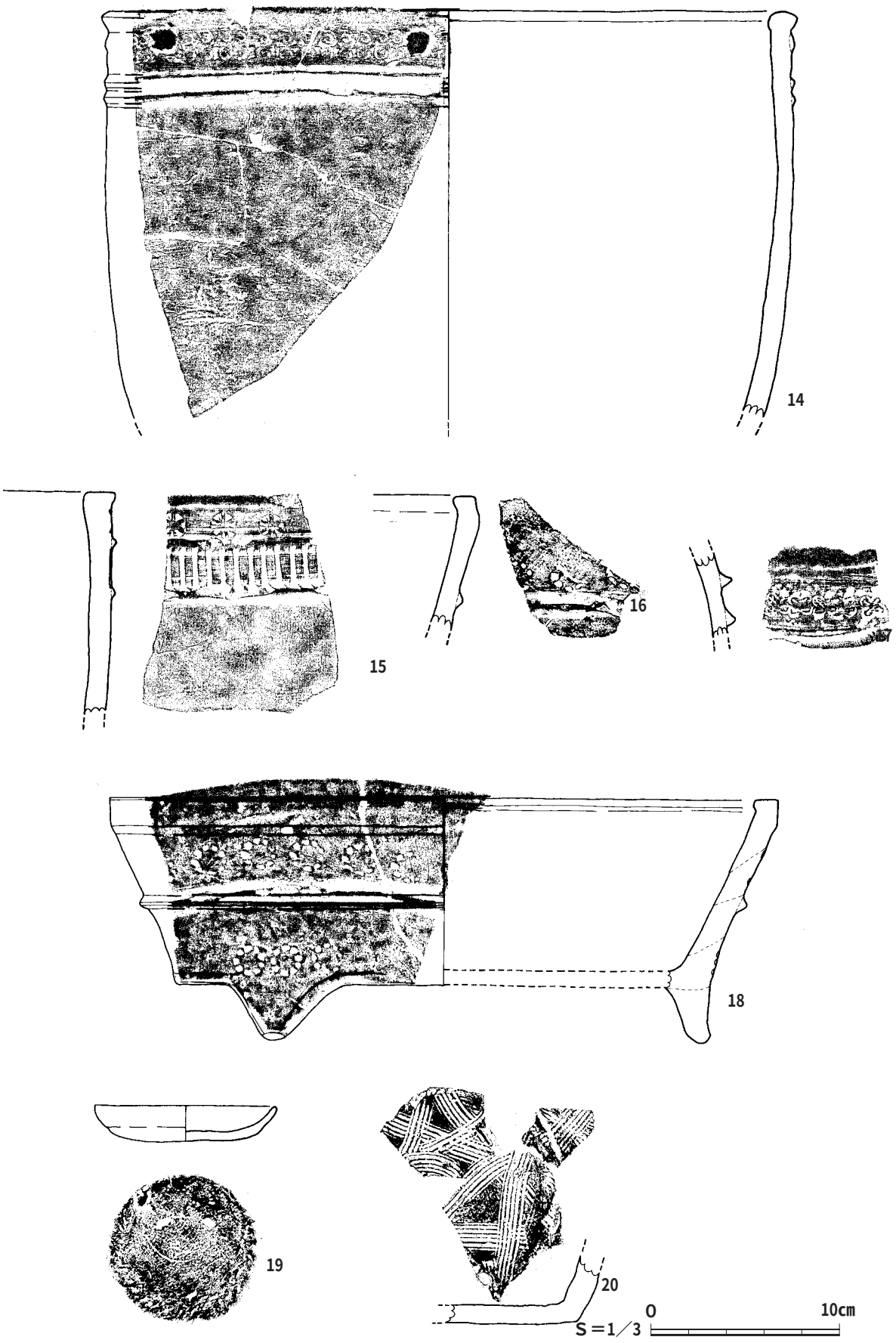
６は、龍泉窯系青磁椀Ⅱ類の底部である。内外面共に釉がかかり、見込み部には「金玉満堂」と考えられる文字の一部が確認される。山本氏の太宰府土器型式と国産陶器・貿易陶器編年による時期区分でＥ期（13世紀前後～前半）にあたる。Ｓ－９グリッドⅢＡ層出土である。

７は、15世紀前半期の白磁の皿である。森田勉氏の分類ではＤ類にあたる。白色の陶器質の胎土に乳白色の釉をもち、体部下半部を露胎にしている。また、見込みに重ね焼き痕である胎土目状の痕跡が残り、高台裏には４箇所の抉りを持つ。出土地不明の遺物である。

８は、邢窯・定窯系白磁Ⅲ類Ⅷ－１類の底部である。



図(Fig)283　包含層出土遺物実測図（古代、中世）（1）



図(Fig)284　包含層出土遺物実測図（中世）（２）

胎土、釉は、灰白色を呈し、底部の釉は施釉した後に削り取ってある。見込み部に劃花文が描かれている。山本氏の太宰府土器型式と国産陶器・貿易陶器編年による時期区分でD期（12世紀中頃～12世紀後半）にあたる。出土地不明の遺物である。

９は、邢窯・定窯系白磁椀Ⅳ類の口縁部である。胎土、釉は、乳白色を呈し、緻密で精良である。玉縁口縁に特徴がある。山本氏の太宰府土器型式と国産陶器・貿易陶器編年による時期区分でC期（11世紀後半～12世紀前半）にあたる。Ｂ－２グリッドⅢＡ層出土である。

②中世須恵器（図283参照）

10は、東播系の鉢の口縁部である。重ね焼きを行ったために口縁外面のみ焼きが濃い。Ⅴ－８グリッドⅢＡ層出土である。

③備前陶器（図283参照）

11は、備前焼（陶器）の壺の口縁部である。出土地不明の遺物である。

④中世土師器（図283参照）

13は土鍋の口縁部である。口縁部に２列の繊維圧痕（藁？）が見られる。出土地不明の遺物である。

⑤瓦質土器（図284参照）

14は、深鉢状の火鉢である。口縁端部はややふくらみ、3.5㎝と4.5㎝下に２条の突帯が巡っている。口縁と突帯の間にボタン状の貼り付けや同心円状のスタンプが押されている。S046（弥生時代後期の溝）から出土した６点が接合している。

12は、羽釜の口縁部であると考えられる。斜めの穴が確認される。Ｂ－６グリッドⅢ層出土である。

15～18は火鉢である。それぞれ突帯が巡り、菊花文や格子文などのスタンプが押されている。15はC－６グリッドⅢ層出土、16はD－５グリッドⅢＡ層出土、17はC－５グリッドⅢＡ層出土、18は出土地不明である。

19は、小皿の完形品である。底部は糸切り離しが確認される。Ｔ－８グリッドⅢＡ層出土である。

20は、擂鉢の底部である。内面には磨り目が観察される。S091（弥生時代の不明遺構）とD－５グリッドⅢＡ層出土遺物３点が接合している。

⑥石製品（図285参照）

21は、滑石の製品である。くびれがあることから紐でつるして分銅もしくは温じゃく石として使用した可能性があると考えられる。Ｂ－３グリッドⅢＡ層出土である。

22は、硯の破片である。石材は紫色の火成岩と考えられる。赤間石の可能性が高い。Ｂ－５グリッドⅢＡ層出土である。

23、24は、滑石製の石鍋片である。23は、底部でＢ－４グリッドⅢＡ層出土、24は、口縁部でS095（弥生時代の住居跡）内出土である。

⑦渡来銭（図285参照）

25は、中国の北宋銭である。「大観通寶」は、西暦1107年の製造である。Ｃ－３グリッドⅢＡ層出土である。

（５）近世（図285参照）

ここでは、調査１区・２区の包含層及び他の時代の遺構の中に混入していた遺物の中から紹介する。

磁器２点、古銭１点の計３点である。

26は、肥前系磁器で椀の高台部と体部下半部であると考えられる。時期は不明だが、18世紀以降であろう。Ｂ－２グリッドⅢＡ層出土である。

27は、肥前系磁器で仏飯具の体部上半部である。九州陶磁の編年における磁器の編年：仏飯具（色絵以外）、川副麻理子氏の編年によれば、第Ⅳ期にあたり1690～1780年代に生産されたものに近い。Ａ－５グリッドⅢＡ層出土である。

28は、古銭で江戸時代の「寛永通寶」である。初鋳は、西暦1626であるが、明治２年（1869年）まで製造された。Ｆ－８グリッドⅢＡ層出土である。

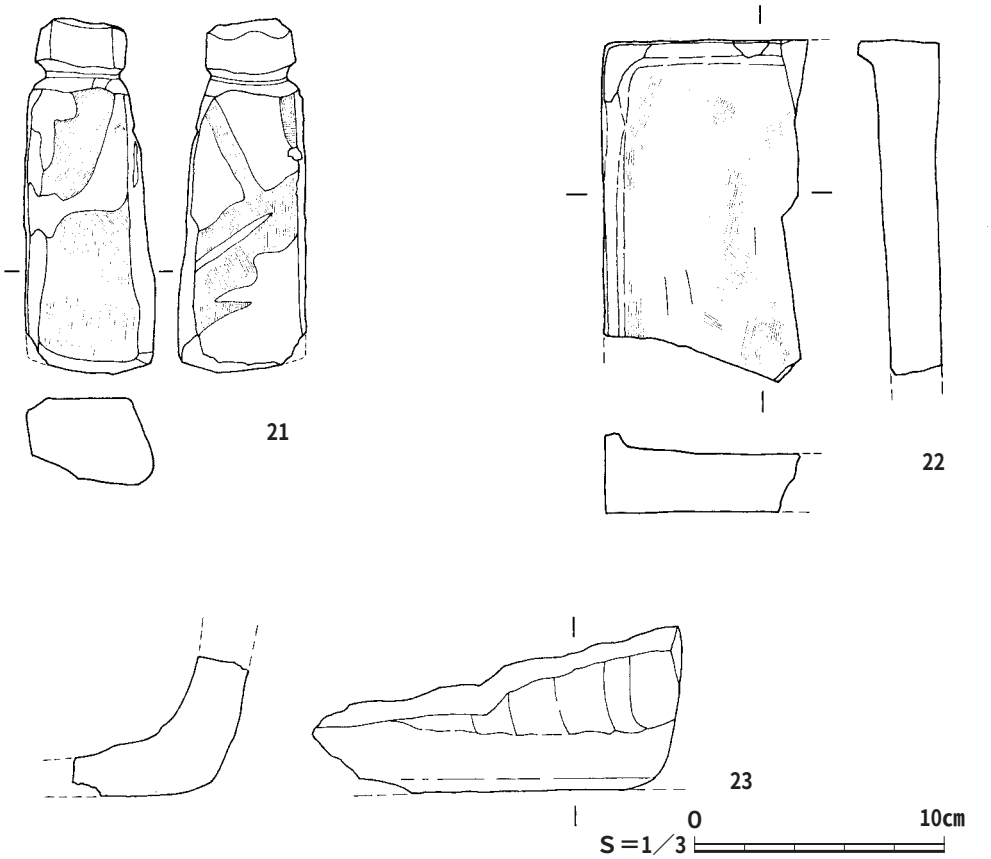
（６）時期不明

ここでは、調査１区・２区の包含層及び他の時代の遺構の中に混入していた遺物の中から紹介する。

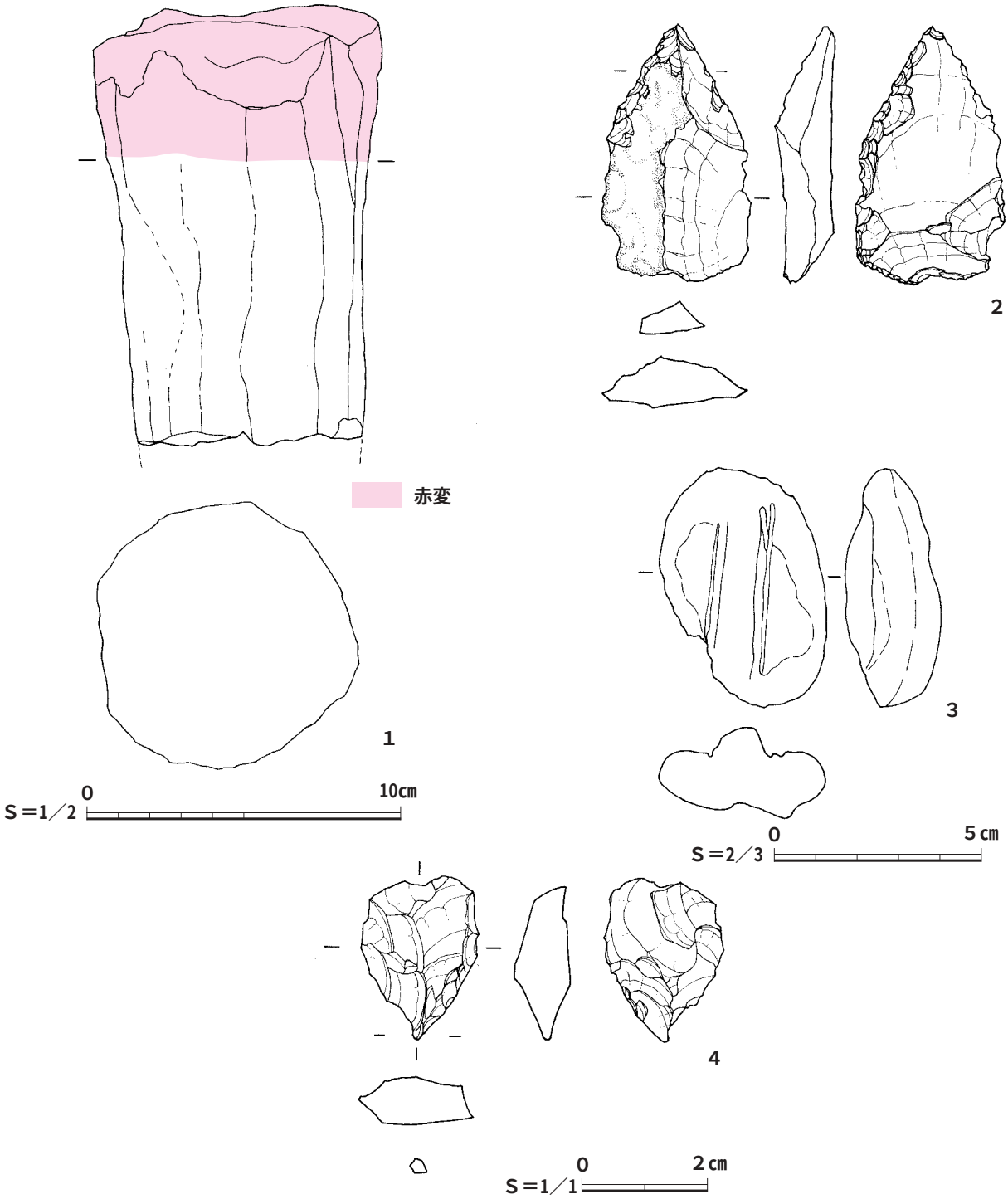
①石器及び石製品（図286～288参照）

１は、竈などで使用する支脚石と考えられる。凝灰岩製で、先端が被熱により赤変している。甕などを支えるために埋めて使用した可能性が高い。中世以降のものであろうか？Ｂ－４グリッドⅢＡ層出土である。

２は、尖頭状石器である。石材は安山岩である。やや幅広で縦長の剥片を素材にして先端部を意識し



図(Fig)285　包含層出土遺物実測図（中世・近世）（３）



図(Fig)286　包含層出土遺物実測図（時期不明）（１）

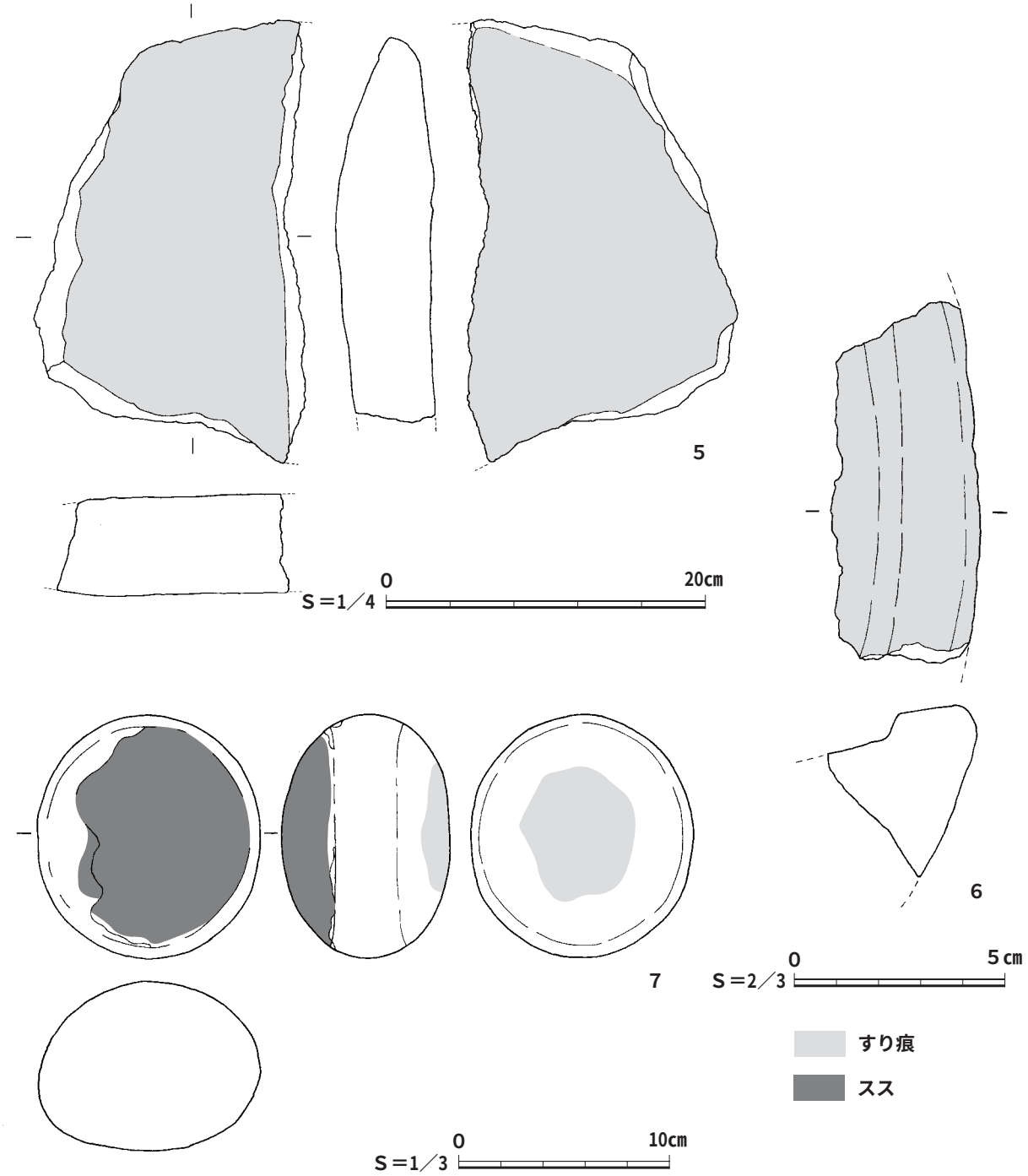
ながら二次加工を施している。Ｂ－４グリッドⅢＡ層出土である。

３は、軽石製の加工石である。ツマミ状の把手を作り出しているが、用途は不明である。Ｊ－９グリッドⅢＡ層出土である。

４は、安山岩製の錐（ドリル）である。先端部には使用痕が観察される。Ｒ－８グリッドⅢＡ層出土である。

５は、板状の石皿である。石材は安山岩質と考えられる。約半分が欠損しているが、上下面に磨り痕が見られる。出土地点・層位は、Ｃ－４グリッドⅢＡ層である。

６は、淵の有る石皿である。石材は安山岩質と考えられる。ほとんどが欠損しており、淵の部分しか



図(Fig)287　包含層出土遺物実測図（時期不明）（２）

残存していないが、上面に磨り痕が見られる。出土地点・層位は、Ｃ－４グリッドⅢＡ層である。

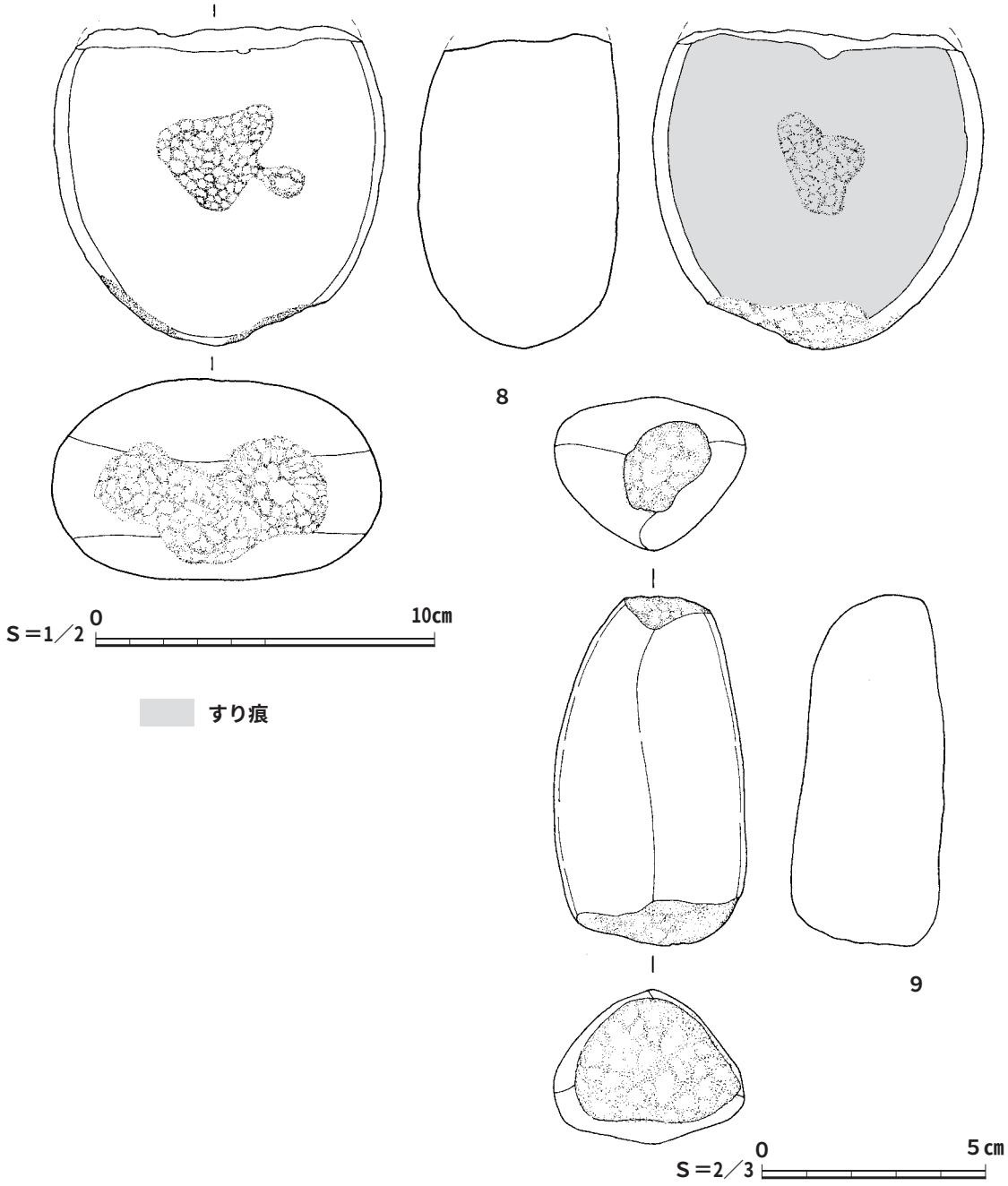
７は、磨り石である。石材は火成岩と考えられる。上面には、ススが付着しており、上下面に磨り痕が見られる。出土地点・層位は、Ｃ－３グリッド調査区深掘りトレンチ一括遺物である。

８は、磨り石である。石材は安山岩質と考えられる。一部欠損しているが、下面に磨り痕が見られる。また、上下面の中央部と下面には敲打痕が見られる。出土地点・層位は、Ｖ－８グリッド調査区深掘りトレンチⅣ層上層である。

９は、棒状の敲石である。石材は、火成岩である。上下側面に敲打痕が見られる。形状は民俗例で挙げられるトチを割るための石器に酷似する。堅果類の加工具に利用されたものかもしれない。調査１区の出土地点・層位不明遺物である。

②鉄器（図289参照）

10、11、12、13、17、18は、鉄釘と考えられる。



図(Fig)288　包含層出土遺物実測図（時期不明）（３）

全て欠損している。10はＡ－３グリッドⅢＡ層出土、11はＣ－４グリッドⅢＡ層出土、12はＡ－３グリッドⅢＡ層出土、13はＣ－４グリッドⅢＡ層出土、17は出土地・層位不明、18は出土地・層位不明である。

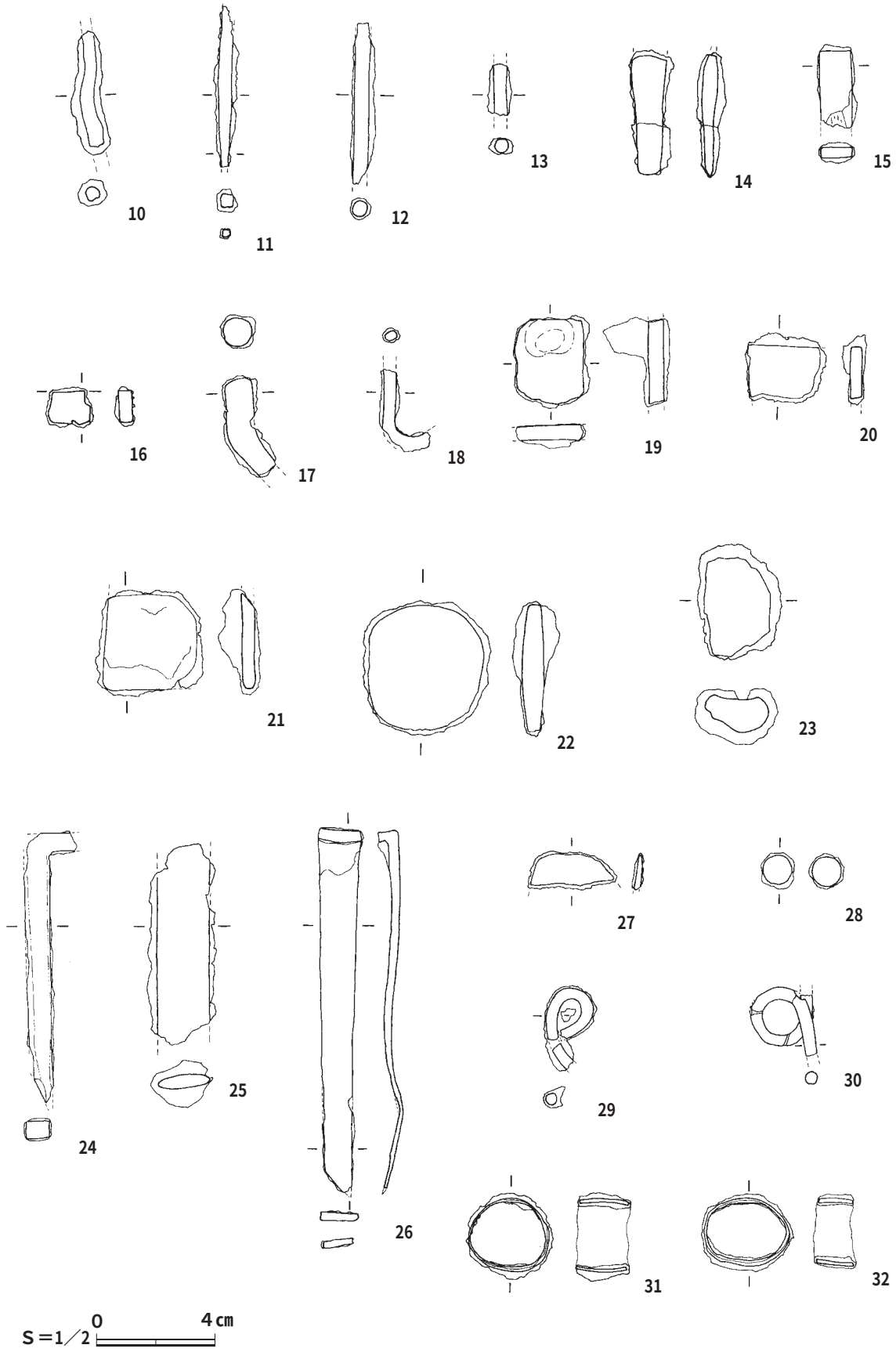
14、15、16、19、20、21、22、25は、鉄片である。14はＢ－３グリッドⅢＡ層出土、15はＣ－３グリッドⅢＡ層出土、16はＫ－８グリッドⅢＡ層出土、19はＬ－９グリッドトレンチ出土、20はＫ－９グリッドⅢＡ層出土、21はＫ－９グリッドⅢＡ層出土、22はＣ－１グリッドⅢＡ層出土、25はＵ－９グリッドⅢＡ層出土である。

23は、鉄塊と考えられる。Ｃ－４グリッドⅢＡ層出土である。

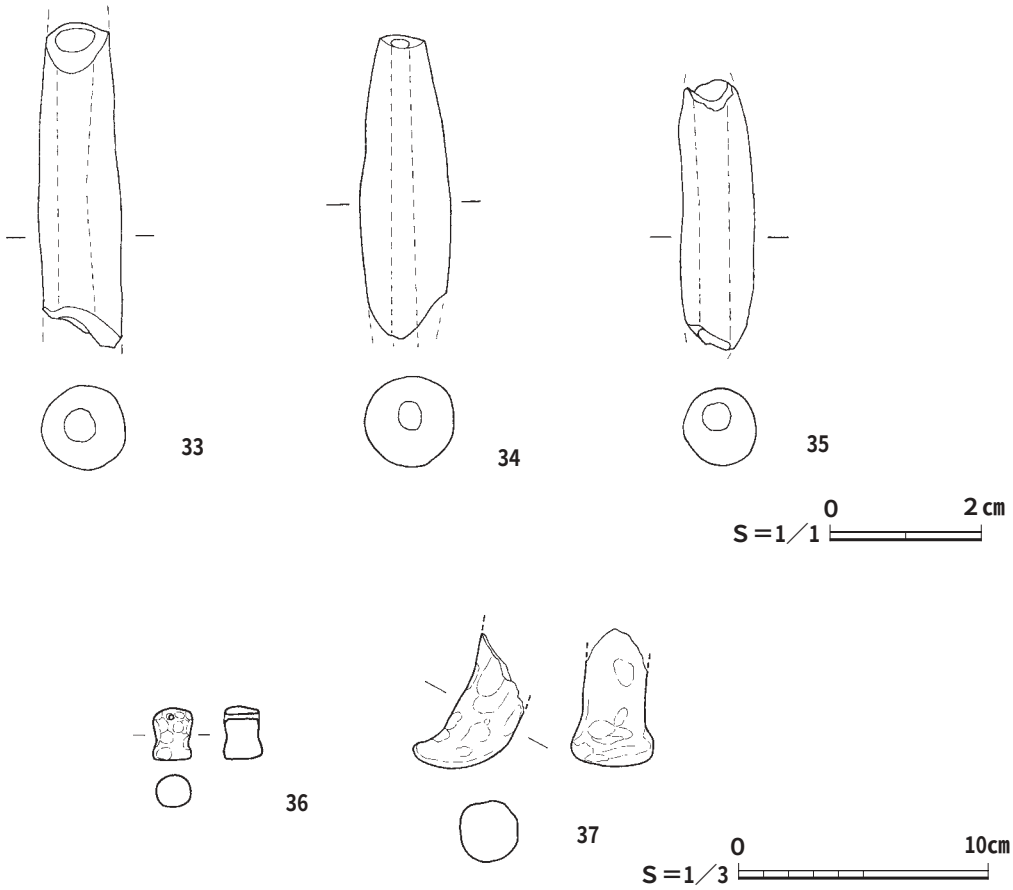
24は、鉄釘である。新しいものかもしれない。Ｂ－３グリッドⅢＡ層出土である。

26は、船釘と考えられる。出土地・層位不明である。

27は、銀製品の一部分である。欠損しているため形状や用途は不明である。Ｈ－９グリッド東トレンチ砂層からの出土である。



図(Fig)289　包含層出土遺物実測図（時期不明）（４）



図(Fig)290　包含層出土遺物実測図（時期不明）（５）

28は、鉄砲の玉であると考えられる。Ｃ－３グリッドⅢＡ層出土である。

29、30は、鉄製品の一部である。いずれも曲がる形状である。新しいものかもしれない。いずれもＣ－３グリッドⅢＡ層出土である。

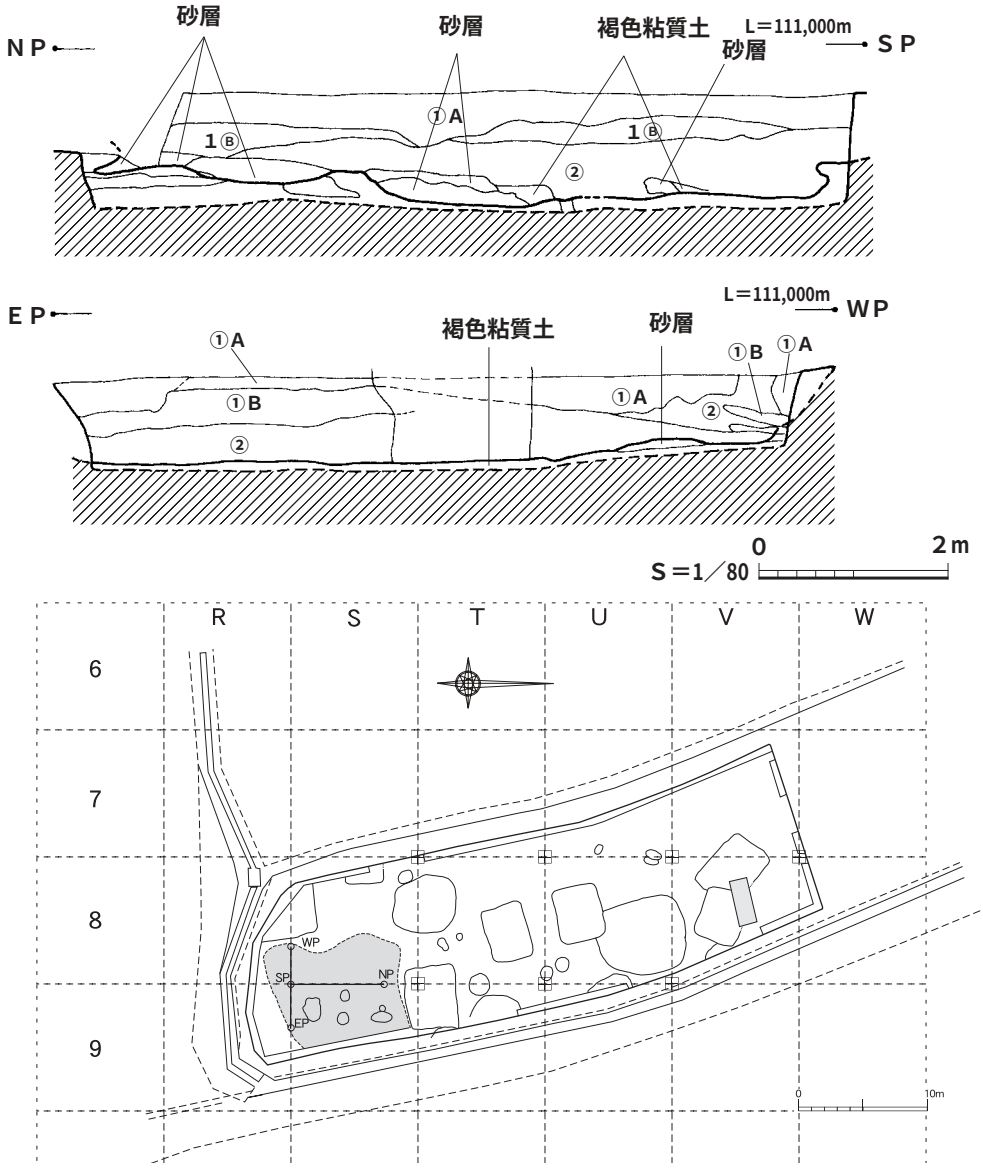
31、32は、リング状の鉄製品である。何らかの製品のパーツであろう。新しいものかもしれない。いずれもＨ－７グリッドⅢＡ層出土である。

③土製品（図290参照）

33～35は、土錘である。いずれも一部が欠損している。33はＧ－８グリッドⅢＡ層出土、34はＢ－２グリッドⅢＡ層出土、35は出土地・層位不明である。

36は、土製品である。紐を通すための穴があることから、装身具の可能性も考えられる。Ｂ－５グリッドⅢＡ層出土である。

37は、土製品の一部であると考えられる。何らかの容器の脚部であろうか？出土地・層位不明である。



縄文砂層
①A層　黒褐色砂質土　きめの粗い砂層がベースとなり、5～10大の小石が多く含まれる。主に縄文の遺物を多く含む。1cm大のカーボン粒も所々に入る。乾燥するとかわりやわらかい。
①B層　暗褐色砂質土　A層と比較するとベースの砂粒が細かく小石などの混入物が少ない層。この層に入る異物は、縄文土器のみである。
②層　砂層　クロスラミナ構造を持つ砂層。基本的に下層の方が目が粗い。

図(Fig)291　縄文砂層断面図及び位置図

第４節　その他（遺構ではないもの）

１）縄文時代の遺物を含む砂層（図291参照）

［確認位置］調査２区、R、Ｓ－８、９グリッド。標高約10.50m。

［形状］不定形

［大きさ］長軸：810㎝～、短軸：790㎝～、深さ：90～115㎝。

［土層］３層。

［切り合い関係］S013、14、15、16、23が切る。

［砂層の性格・年代］この砂層から出土する遺物は全て縄文時代の後期～晩期にかけての土器や石器である。これらの遺物はローリングは受けていなかった。また、２層下面に流されてきたような薄い焼土が確認された。

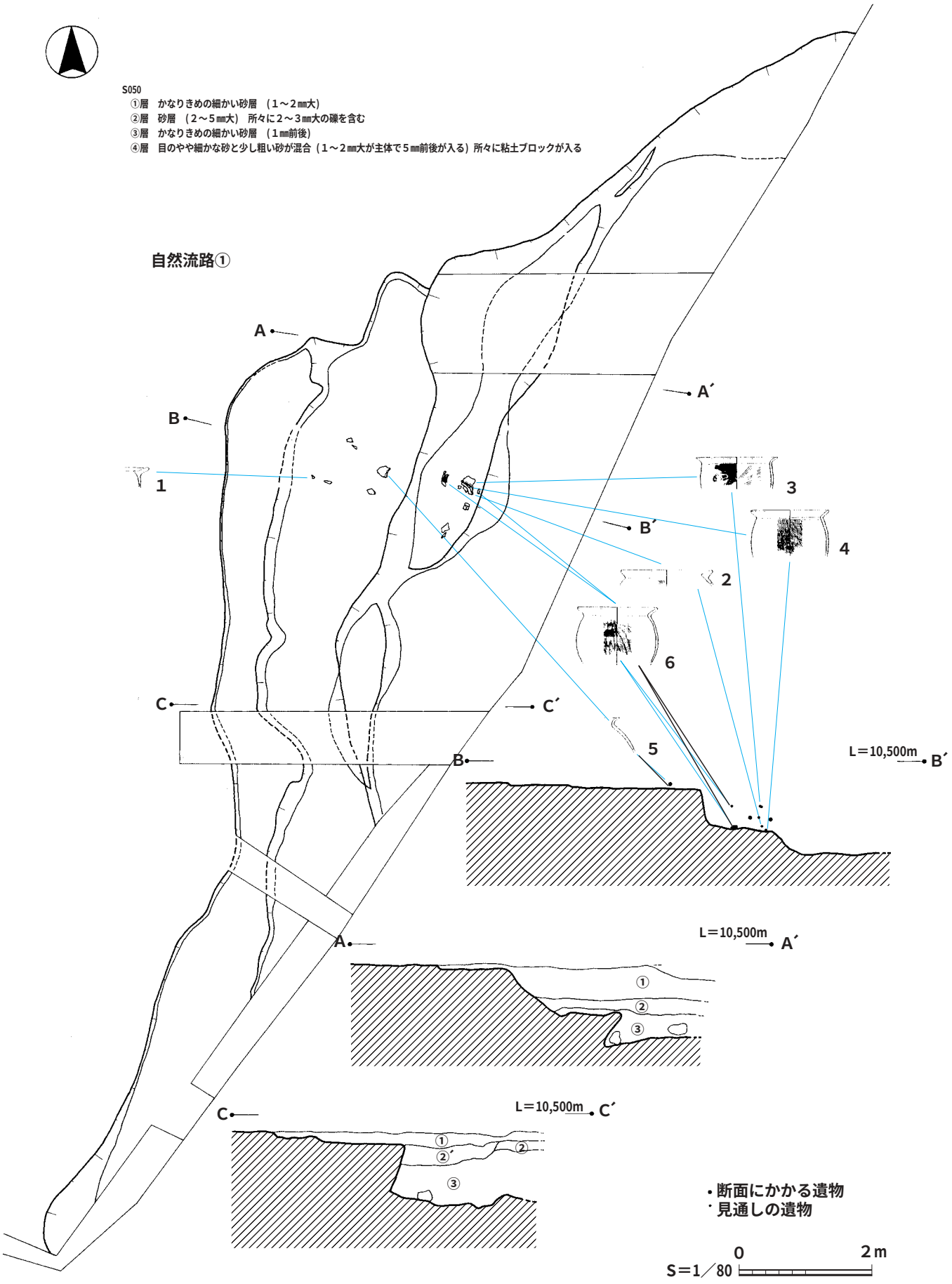
しかし、ほとんどが砂層～砂質土層であり、断面ではオーバーハング状態での不自然な立ち上がりが観察されたことから、遺構ではないと判断した。おそらく水害などですぐ上流にあった縄文時代後期～晩期の遺構が流されてきて堆積したものと考えられる。

［出土遺物量］

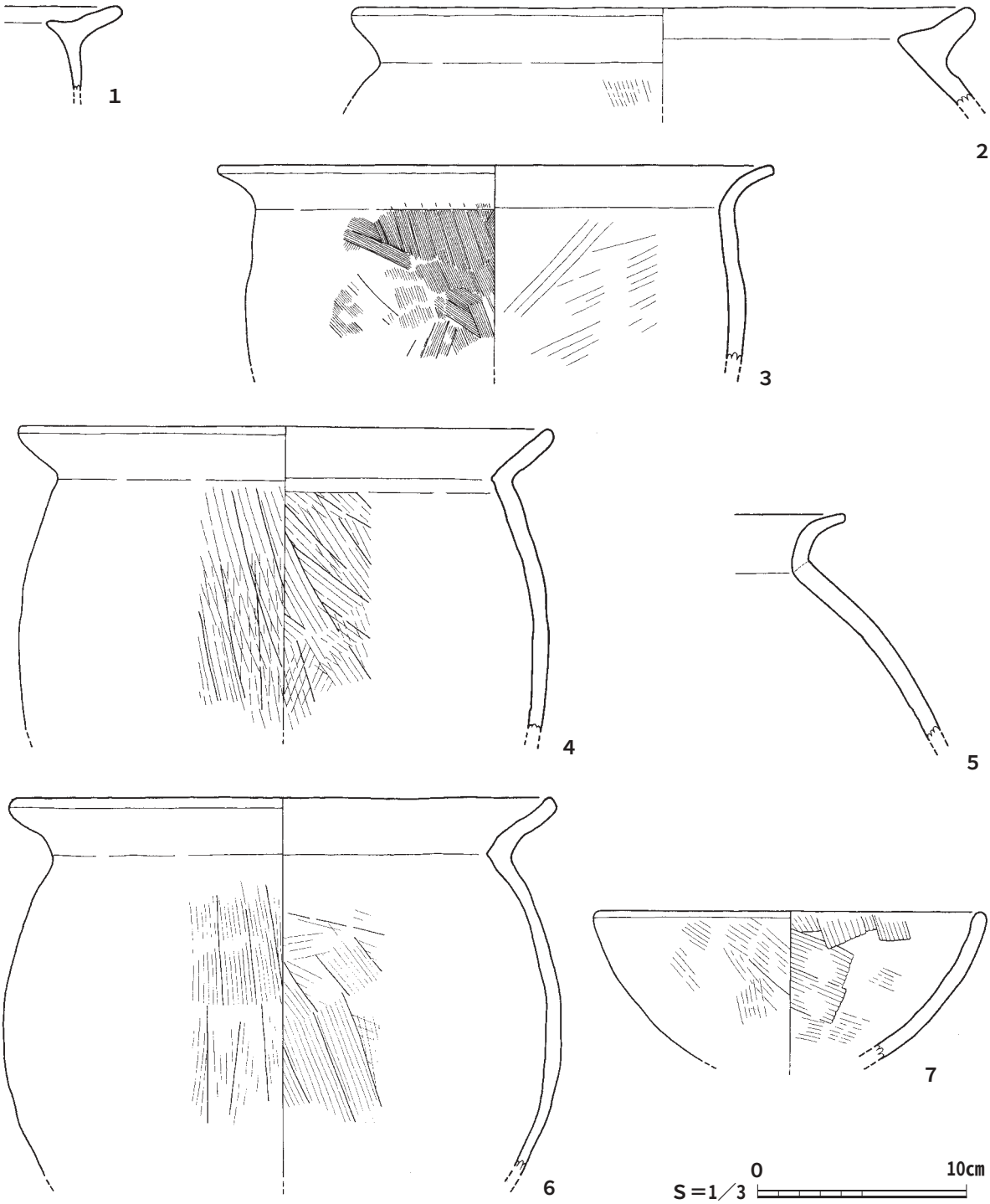
多量の縄文時代の後期～晩期にかけての土器と石器が出土した。

［出土遺物の観察］

第３章の遺物で紹介した。



図(Fig)292　自然流路①実測図



図(Fig)293　自然流路①出土遺物実測図

２）自然流路①（図292、293参照）

［確認位置］調査２区、Ａ－５、６、Ｂ、Ｃ－６グリッド。標高約10.20m。

［形状］溝状

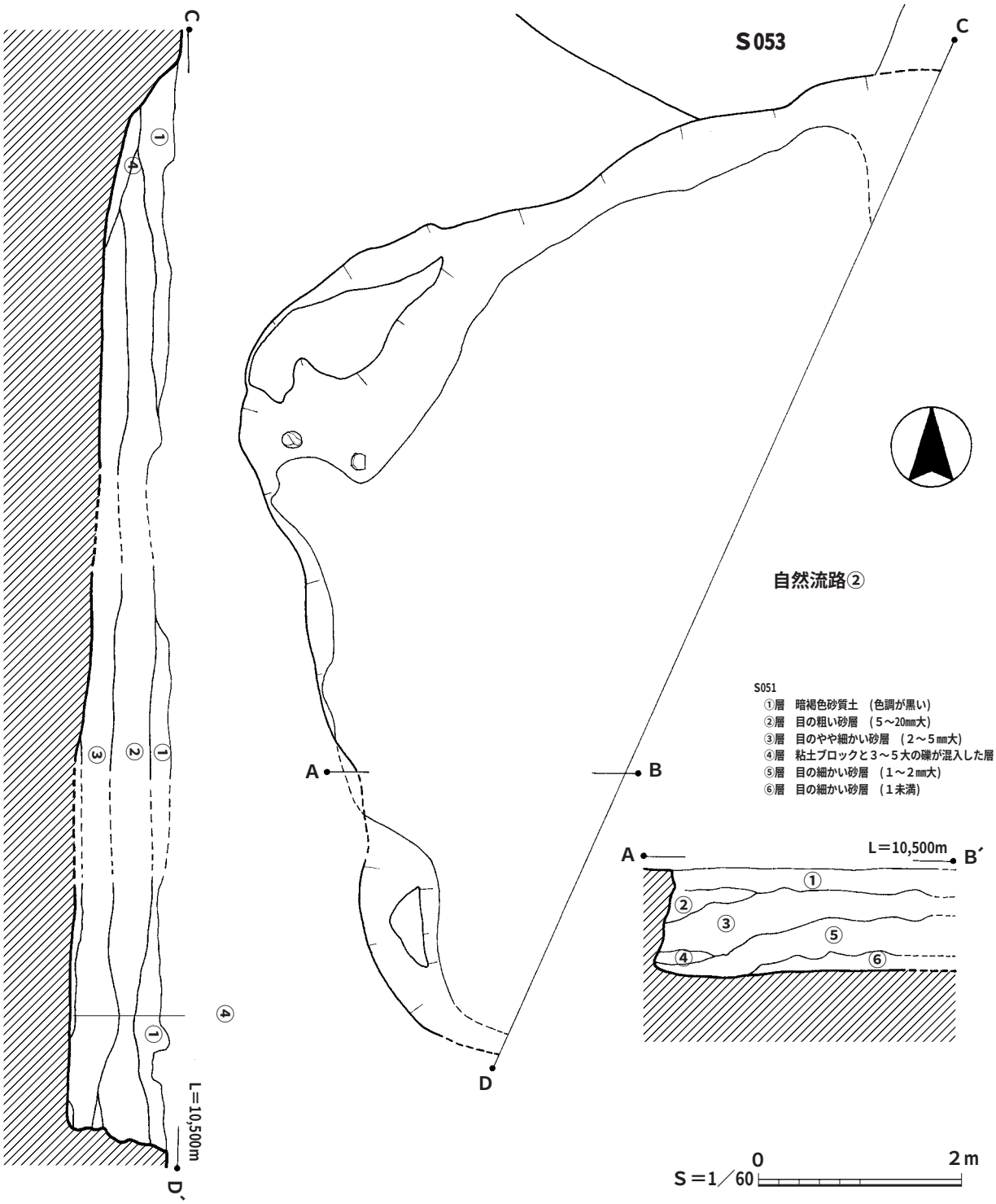
［大きさ］長軸：2200㎝～、短軸：320㎝～、深さ：８～118㎝。

［土層］３層。

［切り合い関係］無し。

［性格・年代］菊池川にほぼ並行に流れていること、砂層が主でラミナ構造が見られること、断面ではオーバーハング状態での不自然な立ち上がりが観察されたことなどから自然流路と判断した。おそらく洪水時に水が流れた跡と推定される。

一部がステップ状になって弥生時代中～後期の遺物が多く見られることから、洪水により弥生時代の遺構が破壊されているものと考えられる。遺物の中



図(Fig)294　自然流路②実測図

に近世の陶器が含まれていることから、近世以降に起こった洪水による自然流路跡と推定される。

［出土遺物量］

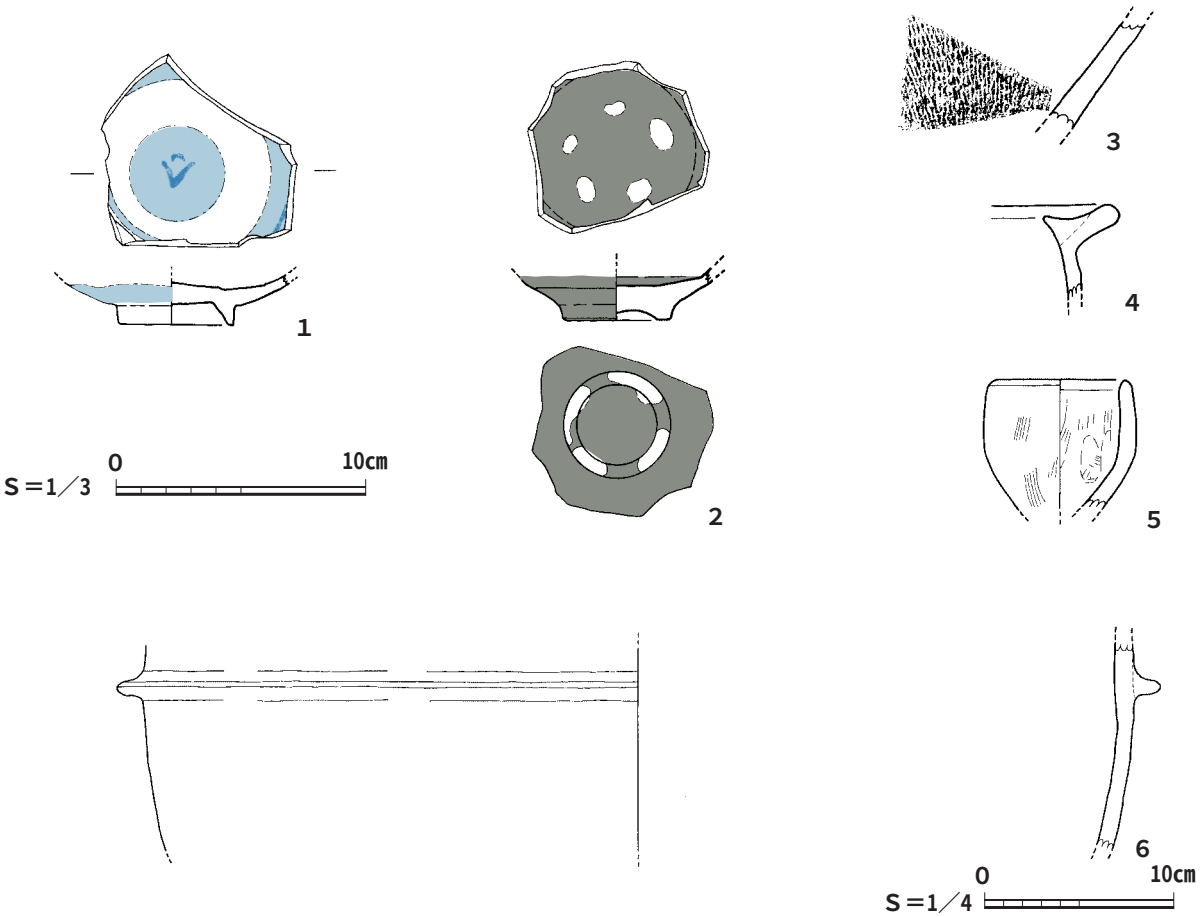
自然流路①から出土した遺物は、小グレーコンテナ（38㎝×58㎝×５㎝）約２箱分で、総重量3,475gであった。内訳は、弥生土器3,429g（内丹塗り土器は229g)、近世以降の陶器46gであった。

［出土遺物の観察］

７点の弥生土器を紹介する。

１、２は、甕形土器の口縁部である。黒髪式土器の特徴を呈している。

３、４、６は、甕形土器の口縁部及び胴部上半部である。口縁形態は「くの字」状に曲がり、後期の様相を呈している。内外面にハケ目が残る。



図(Fig)295　自然流路②出土遺物実測図

５は、壺形土器の口縁部及び胴部上半部である。

７は、鉢形土器である。内外面にハケ目が残る。

３）自然流路②（図294、295参照）

［確認位置］調査２区、Ｄ－７、Ｅ－７、８グリッド。標高約10.20m。

［形状］溝状

［大きさ］長軸：1045㎝～、短軸：490㎝～、深さ：80㎝。

［土層］６層。

［切り合い関係］無し。

［性格・年代］菊池川に沿って流れていること、砂層が主でラミナ構造が見られること、断面ではオーバーハング状態での不自然な立ち上がりが観察されたことなどから自然流路と判断した。おそらく洪水時に水が流れた跡と推定される。

遺物の中に近世の磁器が含まれていることから、近世以降に起こった洪水による自然流路跡と推定される。自然流路①とつながる可能性は高い。

［出土遺物量］

自然流路②から出土した遺物は、小グレーコンテナ（38㎝×58㎝×５㎝）約１箱分で、総重量1,007gであった。内訳は、弥生土器1,003g（内丹塗り土器は53g)、近世以降の磁器４ｇであった。

［出土遺物の観察］

１点の磁器、２点の陶器と、３点の弥生土器を紹介する。

１は、肥前系磁器で、椀の高台部である。見込みには湯はぎがあり、呉須の文様が部分的に残る。

２は、陶器で、椀の高台部である。見込みには５つの胎土目の跡が残る。釉は全体にかかっている。

３は、磨り鉢の胴部である。釉はかかっていない。

４は、甕形土器の口縁部である。黒髪式土器の特徴を呈している。

５は、ミニチュア土器でるある。底部は欠損している。外面にハケ目、内面にはハケ目と指頭圧痕が残る。

６は、甕棺の胴部である。１重の突帯が巡る。

第Ⅴ章　諸分析

自 然 科 学 分 析

【㈱古環境研究所】
1．植物珪酸体分析　Ｐ.345～Ｐ.355
2．種実同定（炭化種子）　Ｐ.356～Ｐ.359

【㈱パレオ・ラボ】
1．種実同定（炭化種子）　Ｐ.360～Ｐ.365
2．放射性炭素年代測定（ＡＭＳ法）　Ｐ.366～Ｐ.368
3．ガラス小玉の蛍光Ｘ線分析　Ｐ.369～Ｐ.372
4．管玉、石製小玉の蛍光Ｘ線分析　Ｐ.373～Ｐ.376

【パリノ・サーヴェイ㈱】
1．弥生土器の胎土分析　Ｐ.377～Ｐ.382
2．ガラス小玉、管玉の蛍光Ｘ線分析　Ｐ.382～Ｐ.385
3．種実同定（炭化種子）　Ｐ.385～Ｐ.392

【京都大学原子炉実験所　藁科　哲男氏】
1．石製勾玉の原材産地分析　Ｐ.393～Ｐ.408

【別府大学文学部　平尾良光氏、淀川奈緒子氏】
【高知大学海洋コア総合研究所センター　谷川雅冶氏】
1．青銅製品の鉛同位体比法による青銅材料の産地推定　Ｐ.409～Ｐ.414

【福岡市教育委員会　文化財部長　山崎　純男氏】
1．熊本県前田遺跡出土弥生式土器の籾圧痕について　Ｐ.415～Ｐ.416

【東京文化財研究所　朽津　信明氏】
1．熊本県彩色文化財調査結果報告　Ｐ.417～Ｐ.418

熊本県、前田遺跡における自然科学分析

株式会社　古環境研究所

Ⅰ．前田遺跡における植物珪酸体分析

１．はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内に珪酸（SiO_2）が蓄積したものであり、植物が枯れたあともガラス質の微化石（プラント・オパール）となって土壌中に半永久的に残っている。植物珪酸体分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出して同定・定量する方法であり、イネをはじめとするイネ科栽培植物の同定および古植生・古環境の推定などに応用されている（杉山，2000)。また、イネの消長を検討することで埋蔵水田跡の検証や探査も可能である（藤原・杉山，1984)。

２．試料

分析試料は、１区Ａ４地点、１区Ｊ８地点、２区Ｕ９地点の３地点から採取された計25点である。試料採取箇所を分析結果の模式柱状図に示す。

３．分析法

植物珪酸体の抽出と定量は、ガラスビーズ法（藤原，1976）を用いて、次の手順で行った（杉山，2000)。

１）試料を105℃で24時間乾燥（絶乾)、２）試料約１ｇに対し直径約40μｍのガラスビーズを約0.02ｇ添加（電子分析天秤により0.1㎎の精度で秤量)、３）電気炉灰化法（550℃・６時間）による脱有機物処理、４）超音波水中照射（300W・42KHz・10分間）による分散、５）沈底法による20μｍ以下の微粒子除去、６）封入剤（オイキット）中に分散してプレパラート作成、７）検鏡・計数

同定は、400倍の偏光顕微鏡下で、おもにイネ科植物の機動細胞に由来する植物珪酸体を対象として行った。計数は、ガラスビーズ個数が400以上になるまで行った。これはほぼプレパラート１枚分の精査に相当する。試料１ｇあたりのガラスビーズ個数に、計数された植物珪酸体とガラスビーズ個数の比率をかけて、試料１ｇ中の植物珪酸体個数を求めた。

また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重と各植物の換算係数（機動細胞珪酸体１個あたりの植物体乾重、単位：10^{-5}ｇ）をかけて、単位面積で層厚１㎝あたりの植物体生産量を算出した。イネ（赤米）の換算係数は2.94（種実重は1.03)、ヒエ属（ヒエ）は8.40、ヨシ属（ヨシ）は6.31、ススキ属（ススキ）は1.24、メダケ節は1.16、ネザサ節は0.48、クマザサ属（チシマザサ節・チマキザサ節）は0.75、ミヤコザサ節は0.30である。タケ亜科については、植物体生産量の推定値から各分類群の比率を求めた。

４．分析結果

分析試料から検出された植物珪酸体の分類群は以下のとおりである。これらの分類群について定量を行い、その結果を表１～表３および図１～図３に示した。主要な分類群について顕微鏡写真を示す。

［イネ科］

イネ、オオムギ族（ムギ類、穎の表皮細胞由来)、ヒエ属型、キビ族型、ヨシ属、ススキ属型（おもにススキ属)、ウシクサ族Ａ（チガヤ属など)、ウシクサ族Ｂ（大型)、シバ属、Ｂタイプ

[イネ科－タケ亜科]

メダケ節型（メダケ属メダケ節・リュウキュウチク節、ヤダケ属）、ネザサ節型（おもにメダケ属ネザサ節）、クマザサ属型（チシマザサ節やチマキザサ節など）、ミヤコザサ節型（おもにクマザサ属ミヤコザサ節）、マダケ属型（マダケ属、ホウライチク属）、未分類等

[イネ科－その他]

表皮毛起源、棒状珪酸体（おもに結合組織細胞由来）、未分類等

[樹木]

ブナ科（シイ属）、クスノキ科、マンサク科（イスノキ属）、アワブキ科、その他

５．考察

⑴　稲作跡の検討

水田跡（稲作跡）の検証や探査を行う場合、一般にイネの植物珪酸体（プラント・オパール）が試料１ｇあたり5,000個以上と高い密度で検出された場合に、そこで稲作が行われていた可能性が高いと判断している（杉山，2000）。ただし、密度が3,000個／ｇ程度でも水田遺構が検出される事例があることから、ここでは判断の基準を3,000個／ｇとして検討を行った。

１）１区Ａ４地点（図１）

Ⅰ層（試料１）からⅦ層（試料14）までの層準について分析を行った。その結果、Ⅰ層（試料１）からⅢＡ層（試料５）までの各層からイネが検出された。このうち、Ⅰ層（試料１）とⅢＡ層（試料３、４）では密度が6,300～8,200個／ｇと高い値であり、ⅡＡ層（試料２）でも3,300個／ｇと比較的高い値である。したがって、これらの層準では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。ⅢＡ層下部（試料５）では密度が700個／ｇと低い値である。イネの密度が低い原因としては、稲作が行われていた期間が短かったこと、土層の堆積速度が速かったこと、洪水などによって耕作土が流出したこと、採取地点が畦畔など耕作面以外であったこと、および上層や他所からの混入などが考えられる。

２）１区Ｊ８地点（図２）

ⅢＡ層（試料１）からⅥ層（試料11）までの層準について分析を行った。その結果、ⅢＡ層（試料１、２）とⅢＢ層（試料３、４）からイネが検出された。密度は1,500～2,800個／ｇと比較的低い値である。イネの密度が低い原因としては、前述のようなことが考えられる。

３）２区Ｕ９地点（図３）

ⅢＡ層（試料２）からⅤ層（試料８）までの層準について分析を行った。その結果、ⅢＡ層（試料２、３）からイネが検出された。密度は4,000個／ｇと比較的高い値である。したがって、同層では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。

⑵　イネ科栽培植物の検討

植物珪酸体分析で同定される分類群のうち栽培植物が含まれるものには、イネ以外にもオオムギ族（ムギ類が含まれる）、ヒエ属型（ヒエが含まれる）、エノコログサ属型（アワが含まれる）、キビ属型（キビが含まれる）、ジュズダマ属（ハトムギが含まれる）、オヒシバ属型（シコクビエが含まれる）、モロコシ属型、トウモロコシ属型などがある。このうち、本遺跡の試料からはオオムギ族とヒエ属型が検出された。以下に

各分類群ごとに栽培の可能性について考察する。

１）オオムギ族

オオムギ族（穎の表皮細胞）は、１区Ａ４のⅢＡ層（試料３）から検出された。ここで検出されたのは、ムギ類（コムギやオオムギ）と見られる形態のものである（杉山・石井，1989)。密度は700個／ｇと低い値であるが、穎（籾殻）は栽培地に残されることがまれであることから、少量が検出された場合でもかなり過大に評価する必要がある。したがって、同層準の時期に調査地点もしくはその近辺でムギ類が栽培されていた可能性が考えられる。

２）ヒエ属型

ヒエ属型は、１区Ａ４のⅢＡ層（試料４）から検出された。ヒエ属型には栽培種のヒエの他にイヌビエなどの野生種が含まれるが、現時点では植物珪酸体の形態からこれらを識別することは困難である（杉山ほか，1988)。また、密度も700個／ｇと低い値であることから、ここでヒエが栽培されていた可能性は考えられるものの、イヌビエなどの野・雑草である可能性も否定できない。

３）その他

イネ科栽培植物の中には未検討のものもあるため、その他の分類群の中にも栽培種に由来するものが含まれている可能性が考えられる。また、キビ族型にはヒエ属やエノコログサ属に近似したものも含まれている。これらの分類群の給源植物の究明については今後の課題としたい。なお、植物珪酸体分析で同定される分類群は主にイネ科植物に限定されるため、根菜類などの畑作物は分析の対象外となっている。

⑶　植物珪酸体分析から推定される植生と環境

上記以外の分類群の検出状況と、そこから推定される植生・環境について検討を行った。

１）植物珪酸体の検出状況

Ⅳ層より下位層では、メダケ節型やミヤコザサ節型が検出され、部分的にヨシ属やクマザサ属型なども検出されたが、いずれも少量である。また、樹木（照葉樹）のブナ科（シイ属）やクスノキ科なども少量検出された。樹木は一般に植物珪酸体の生産量が低いことから、少量が検出された場合でもかなり過大に評価する必要がある。ⅢＢ層でもおおむね同様の結果であるが、１区Ｊ８地点では前述のようにイネが出現している。ⅢＡ層ではイネが出現・増加しており、ススキ属型やウシクサ族Ａも検出された。ⅡＡ層ではマダケ属型が出現している。

２）植生と環境の推定

Ⅳ層より下位の堆積当時は、メダケ節やミヤコザサ節などの竹笹類を主体としたイネ科植生であったと考えられ、部分的にヨシ属などが生育する湿地的なところも見られたと推定される。また、遺跡周辺にはシイ属やクスノキ科などの照葉樹林が分布していたと推定される。縄文時代後晩期とされるⅢＢ層の堆積当時も、おおむね同様の状況であったと考えられるが、調査区の一部（１区Ｊ８地点）では稲作が開始されていた可能性も認められた。

弥生時代中期～中世とされるⅢＡ層の堆積当時は、おもに稲作が行われていたと考えられ、部分的にムギ類やヒエ属（ヒエが含まれる）が栽培されていた可能性も認められた。当時の調査区周辺は、ススキ属やチ

ガヤ属などが生育する比較的開かれた環境であったと考えられ、遺跡周辺にはシイ属、クスノキ科、イスノキ属などの照葉樹林が分布していたと推定される。

ⅡＡ層からⅠ層にかけても、おおむね同様の状況であったと考えられる。タケ亜科植物のうち、マダケ属にはマダケやモウソウチクなど有用なものが多く、建築材や生活用具、食用などとしての利用価値が高いが、これらの植物が出現するのはⅡＡ層以降の比較的最近のことと考えられる。

６．まとめ

縄文時代後晩期とされるⅢＢ層より下位層の堆積当時は、おもにメダケ節やミヤコザサ節などの竹笹類を主体として部分的にヨシ属なども見られるイネ科植生であったと考えられ、ⅢＢ層の時期には調査区の一部で稲作が開始されていた可能性も認められた。当時の遺跡周辺にはシイ属やクスノキ科などの照葉樹林が分布していたと推定される。

弥生時代中期～中世とされるⅢＡ層の堆積当時は、おもに稲作が行われていたと考えられ、部分的にムギ類やヒエ属（ヒエが含まれる）が栽培されていた可能性も認められた。当時の調査区周辺は、ススキ属やチガヤ属などが生育する比較的開かれた環境であったと考えられ、遺跡周辺にはシイ属、クスノキ科、イスノキ属などの照葉樹林が分布していたと推定される。

文献

杉山真二（1987）タケ亜科植物の機動細胞珪酸体．富士竹類植物園報告，第31号，p.70－83．

杉山真二・松田隆二・藤原宏志（1988）機動細胞珪酸体の形態によるキビ族植物の同定とその応用―古代農耕追究のための基礎資料として―．考古学と自然科学，20，p.81－92．

杉山真二・石井克己（1989）群馬県子持村、ＦＰ直下から検出された灰化物の植物珪酸体（プラント・オパール）分析．日本第四紀学会要旨集，19，p.94－95．

杉山真二（1999）植物珪酸体分析からみた九州南部の照葉樹林発達史．第四紀研究．38⑵，p.109－123．

杉山真二（2000）植物珪酸体（プラント・オパール）．考古学と植物学．同成社，p.189－213．

藤原宏志（1976）プラント・オパール分析法の基礎的研究⑴―数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法―．考古学と自然科学，９，p.15－29．

藤原宏志・杉山真二（1984）プラント・オパール分析法の基礎的研究⑸―プラント・オパール分析による水田址の探査―．考古学と自然科学，17，p.73－85．

表１　熊本県、前田遺跡における植物珪酸体分析結果

検出密度（単位：×100個／ｇ）

地点・試料		1区A４										
分類群	学名	1	2	3	4	5	6	7	8	10	12	14
イネ科	Gramineae（Grasses）											
イネ	*Oryza sativa*（domestic rice）	82	33	76	63	7						
オオムギ族（穎の表皮細胞）	Wheat husk Phytolith			7								
ヒエ属型	*Echinochloa* type				7							
キビ族型	*Paniceae* type				7							
ヨシ属	*Phragmites*（reed）	7		7	7	7				8	7	
ススキ属型	*Miscanthus* type	27	13	21	35	14			7			
ウシクサ族A	*Andropogoneae* A type	14	13	76	7	36						
ウシクサ族B	*Andropogoneae* B type											
シバ属	*Zoisia*	7										
Bタイプ	B type											8
タケ亜科	Bambusoideae（Bamboo）											
メダケ節型	*Pleioblastus sect.Medake*	14	93	7	7	21	20		14	8	7	8
ネザサ節型	*Pleioblastus sect.Nezasa*	41	46	21	14	36	34	7				
クマザサ属型	*Sasa*（*except Miyakozasa*）		7	7		36	7	7	14			23
ミヤコザサ節型	*Sasa sect.Miyakozasa*		7				13	7	22	30	22	8
マダケ属型	*Phyllostachys*	14	7									
未分類等	Others	96	20	69	21	7	34	22	22	8	7	
その他のイネ科	Others											
表皮毛起源	Husk hair origin	62	33	14	7		7					
棒状珪酸体	Rod-shaped	69	40	131	90	57	20	7			7	15
未分類等	Others	315	219	385	195	207	162	109	101	30	45	38
樹木起源	Arboreal											
ブナ科（シイ属）	*Castanopsis*	7		14			7	7		8		
クスノキ科	Lauraceae		7		7	29	13			15	15	8
マンサク科（イスノキ属）	*Distylium*	14	20		7			7				
アワブキ科	Sabiaceae				7							
その他	Others	7	7	34	7	14	13	15	14	15	22	8
植物珪酸体総数	Total	775	563	867	487	471	330	190	195	120	135	113

おもな分類群の推定生産量（単位：kg／㎡・cm）

イネ	*Oryza sativa*（domestic rice）	2.42	0.97	2.23	1.84	0.21						
ヒエ属型	*Echinochloa* type				0.58							
ヨシ属	*Phragmites*（reed）	0.43		0.43	0.44	0.45				0.47	0.47	
ススキ属型	*Miscanthus* type	0.34	0.16	0.26	0.43	0.18			0.09			
メダケ節型	*Pleioblastus* sect. *Medake*	0.16	1.08	0.08	0.08	0.25	0.23		0.17	0.09	0.09	0.09
ネザサ節型	*Pleioblastus* sect. *Nezasa*	0.20	0.22	0.10	0.07	0.17	0.16	0.04				
クマザサ属型	*Sasa*（*except Miyakozasa*）		0.05	0.05		0.27	0.05	0.05	0.11			0.17
ミヤコザサ節型	*Sasa sect.Miyakozasa*		0.02				0.04	0.02	0.06	0.09	0.07	0.02

タケ亜科の比率（%）

メダケ節型	*Pleioblastus* sect. *Medake*	45	79	35	55	36	48		49	49	56	31
ネザサ節型	*Pleioblastus* sect. *Nezasa*	55	16	43	45	25	33	31				
クマザサ属型	*Sasa*（except *Miyakozasa*）		4	22		39	10	49	32			61
ミヤコザサ節型	*Sasa* sect. *Miyakozasa*		1				8	20	19	51	44	8

検出密度（単位：×100個／g）

分類群	学名	地点・試料	1区J8							
			1	2	3	4	5	7	9	11
イネ科	Gramineae (Grasses)									
イネ	*Oryza sativa* (domestic rice)		27	28	15	23				
オオムギ族（穎の表皮細胞）	Wheat husk Phytolith									
ヒエ属型	*Echinochloa* type									
キビ族型	*Paniceae* type									
ヨシ属	*Phragmites* (reed)			7		8			8	
ススキ属型	*Miscanthus* type		20	7	8	8				
ウシクサ族A	*Andropogoneae* A type		48	7	8	30	7	7		
ウシクサ族B	*Andropogoneae* B type			7						
シバ属	*Zoisia*									
Bタイプ	B type							7		8
タケ亜科	Bambusoideae (Bamboo)									
メダケ節型	*Pleioblastus sect.Medake*		14		8			7		
ネザサ節型	*Pleioblastus sect.Nezasa*		14	7	8			7	8	
クマザサ属型	*Sasa* (*except Miyakozasa*)		7	7	15				15	
ミヤコザサ節型	*Sasa sect.Miyakozasa*		7	7	15	15	15		8	8
マダケ属型	*Phyllostachys*									
未分類等	Others					8	7		8	8
その他のイネ科	Others									
表皮毛起源	Husk hair origin		14		8					
棒状珪酸体	Rod-shaped		41	35	8	23				
未分類等	Others		184	111	45	53	30	30	30	
樹木起源	Arboreal									
ブナ科（シイ属）	*Castanopsis*				8		7		8	
クスノキ科	Lauraceae		14	28	8	8			53	8
マンサク科（イスノキ属）	*Distylium*									
アワブキ科	Sabiaceae		7							
その他	Others		7	28	15	15	22	7	45	15
植物珪酸体総数	Total		402	277	167	188	90	67	181	45

おもな分類群の推定生産量（単位：kg／m²・cm）

イネ	*Oryza sativa* (domestic rice)		0.80	0.81	0.45	0.66				
ヒエ属型	*Echinochloa* type									
ヨシ属	*Phragmites* (reed)			0.44		0.47			0.48	
ススキ属型	*Miscanthus* type		0.25	0.09	0.09	0.09				
メダケ節型	*Pleioblastus* sect. *Medake*		0.16		0.09			0.09		
ネザサ節型	*Pleioblastus* sect. *Nezasa*		0.07	0.03	0.04			0.04	0.04	
クマザサ属型	*Sasa* (*except Miyakozasa*)		0.05	0.05	0.11				0.11	
ミヤコザサ節型	*Sasa sect.Miyakozasa*		0.02	0.02	0.05	0.05	0.04		0.02	0.02

タケ亜科の比率（%）

メダケ節型	*Pleioblastus* sect. *Medake*		54		31			71		
ネザサ節型	*Pleioblastus* sect. *Nezasa*		22	31	13			29	21	
クマザサ属型	*Sasa* (except *Miyakozasa*)		17	49	40				66	
ミヤコザサ節型	*Sasa* sect. *Miyakozasa*		7	20	16	100	100		13	100

検出密度（単位：×100個／g）

地点・試料		2区U9					
分類群	学名	2	3	4	5	6	8
イネ科	Gramineae (Grasses)						
イネ	*Oryza sativa* (domestic rice)	40	22				
オオムギ族（穎の表皮細胞）	Wheat husk Phytolith						
ヒエ属型	*Echinochloa* type						
キビ族型	*Paniceae* type		7				
ヨシ属	*Phragmites* (reed)		7	7	15	15	
ススキ属型	*Miscanthus* type	33	15				
ウシクサ族A	*Andropogoneae* A type	40	7	7	7	7	
ウシクサ族B	*Andropogoneae* B type		7				
シバ属	*Zoisia*						
Bタイプ	B type						
タケ亜科	Bambusoideae (Bamboo)						
メダケ節型	*Pleioblastus sect.Medake*	7	36	20	7	7	
ネザサ節型	*Pleioblastus sect.Nezasa*	13	29	14	7	15	
クマザサ属型	*Sasa* (*except Miyakozasa*)	7		7	15		
ミヤコザサ節型	*Sasa sect.Miyakozasa*	33	22	7		7	8
マダケ属型	*Phyllostachys*						
未分類等	Others	27	36	7	7	7	
その他のイネ科	Others						
表皮毛起源	Husk hair origin				7		
棒状珪酸体	Rod-shaped	13	15	20	7		
未分類等	Others	187	190	81	30	30	30
樹木起源	Arboreal						
ブナ科（シイ属）	*Castanopsis*			7		7	
クスノキ科	Lauraceae	20	7	20	45	7	30
マンサク科（イスノキ属）	*Distylium*	7	15	7		15	
アワブキ科	Sabiaceae						
その他	Others	7		7	30	22	8
植物珪酸体総数	Total	435	416	210	180	142	76

おもな分類群の推定生産量（単位：kg／㎡・cm）

イネ	*Oryza sativa* (domestic rice)	1.18	0.64				
ヒエ属型	*Echinochloa* type						
ヨシ属	*Phragmites* (reed)		0.46	0.43	0.94	0.95	
ススキ属型	*Miscanthus* type	0.41	0.18				
メダケ節型	*Pleioblastus* sect. *Medake*	0.08	0.42	0.24	0.09	0.09	
ネザサ節型	*Pleioblastus* sect. *Nezasa*	0.06	0.14	0.06	0.04	0.07	
クマザサ属型	*Sasa* (*except Miyakozasa*)	0.05		0.05	0.11		
ミヤコザサ節型	*Sasa sect.Miyakozasa*	0.10	0.07	0.02		0.02	0.02

タケ亜科の比率（%）

メダケ節型	*Pleioblastus* sect. *Medake*	27	67	63	37	48	
ネザサ節型	*Pleioblastus* sect. *Nezasa*	22	22	17	15	40	
クマザサ属型	*Sasa* (except *Miyakozasa*)	17		14	48		
ミヤコザサ節型	*Sasa* sect. *Miyakozasa*	34	10	5		12	100

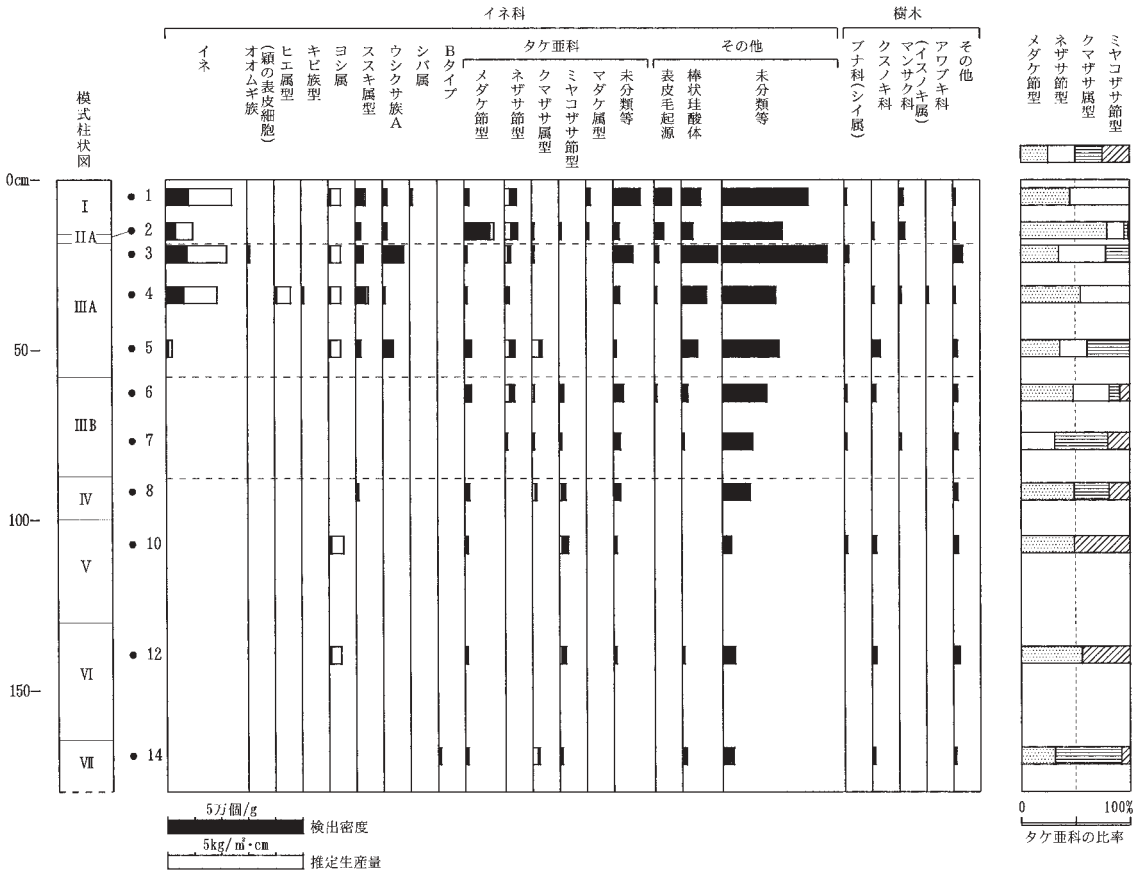


図１　前田遺跡、１区Ａ４における植物珪酸体分析結果

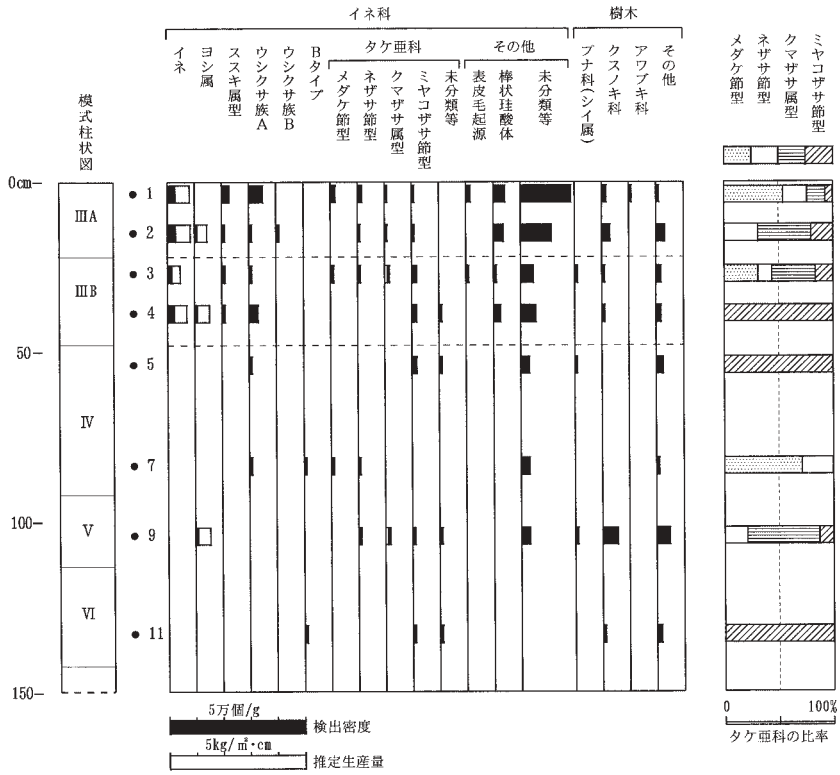


図２　前田遺跡、１区Ｊ８における植物珪酸体分析結果

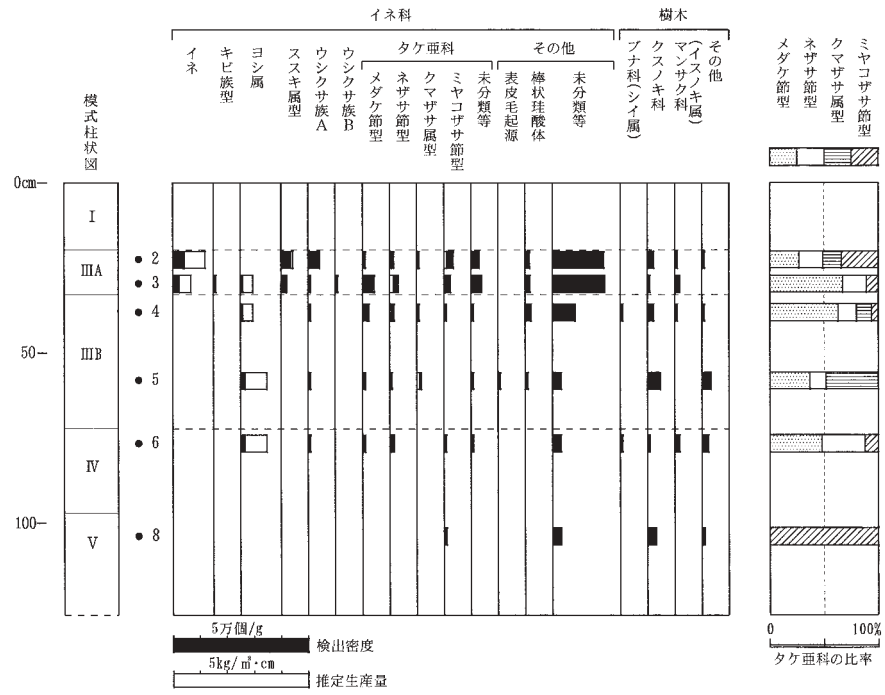
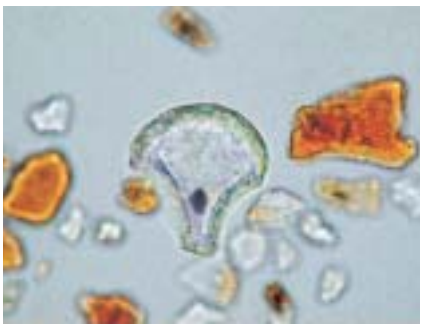
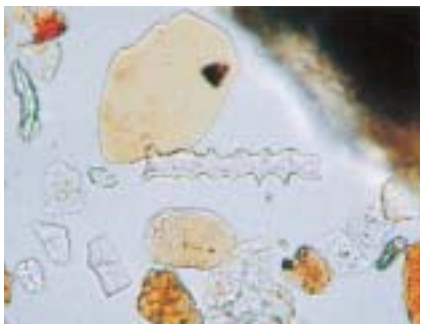


図3　前田遺跡、２区Ｕ９における植物珪酸体分析結果

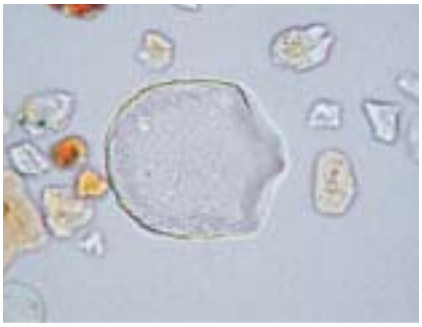
イネ
１区Ａ４　２



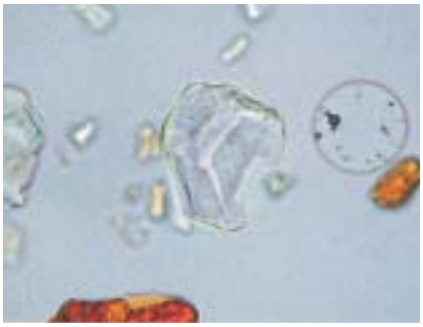
イネ
１区Ａ４　５



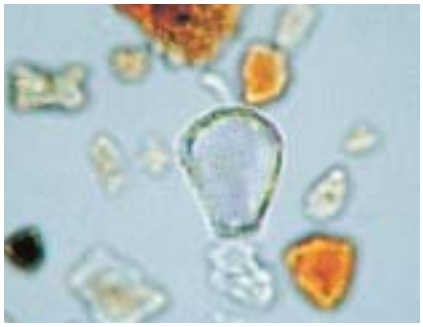
オオムギ族（ムギ類，穎の表皮細胞）
１区Ａ４　３



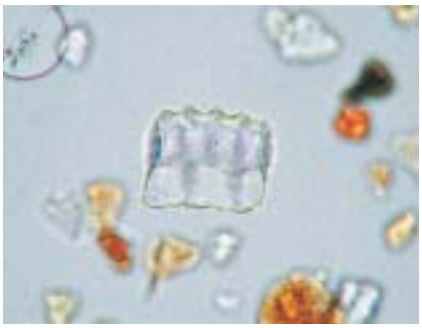
ヨシ属
１区Ａ４　１



ススキ属型
２区Ｕ９　３

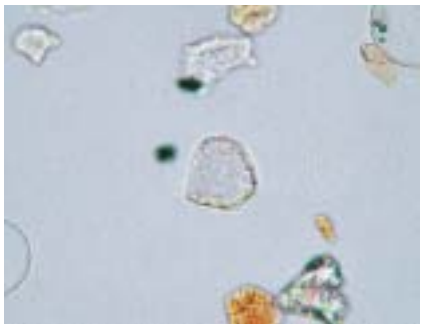


メダケ節型
２区Ｕ９　３

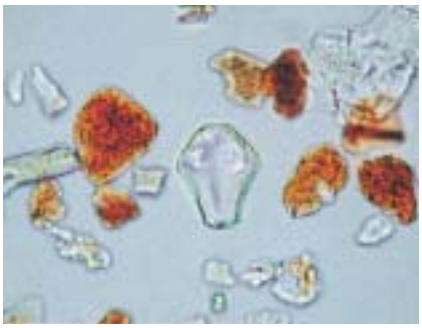


ネザサ節型
１区Ａ４　３

クマザサ属型
１区Ａ４　５



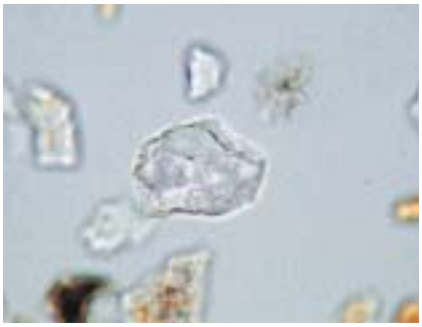
ミヤコザサ節型
１区Ａ４　７



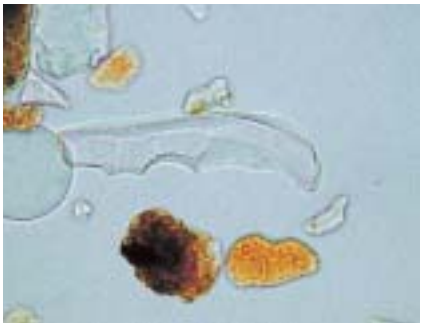
マダケ属型
１区Ａ４　３

表皮毛起源
１区Ａ４　１

棒状珪酸体
１区Ａ４　４



ブナ科（シイ属）
２区Ｕ９　４



クスノキ科
１区Ａ４　５

マンサク科（イスノキ属）
２区Ｕ９　２

植物珪酸体（プラント・オパール）の顕微鏡写真　　50μm

Ⅱ．前田遺跡における種実同定

１．はじめに

植物の種子や果実は比較的強靱なものが多く、堆積物や遺構内に残存している場合がある。堆積物などから種実を検出し、その種類や構成を調べることで、過去の植生や栽培植物を明らかにすることができる。

２．試料

試料は、弥生時代中期とされる竪穴住居跡から採取された堆積物試料７点および選別済み試料45点である。

３．方法

以下の方法で、種実の抽出と同定を行った。

１）試料200ccに水を加えて泥化

２）攪拌した後、0.25㎜の篩で水洗選別

３）双眼実体顕微鏡下で検鏡・計数

同定は形態的特徴および現生標本との対比で行い、結果は同定レベルによって科、属、種の階級で示した。

４．結果

樹木２、草本７および不明の計10が同定された。学名、和名および粒数を表１（堆積物試料)、表２（選別済み試料）に示し、主要な分類群を写真に示す。以下に形態的特徴を記す。

[樹木]

ブナ科　Fagaceae　堅果

黒褐色で表面は平滑である。細片であるため、科レベルの同定にとどめる。

モモ　*Prunus persica* Batsch　核　バラ科

黄褐色・黒褐色で楕円形を呈し、側面に縫合線が発達する。表面にはモモ特有の隆起がある。破片であり詳細な同定は困難である。

[草本]

イネ　*Oryza sativa* L.　果実　イネ科

炭化しているため黒色である。長楕円形を呈し、胚の部分がくぼむ。表面には数本の筋が走る。

コムギ　*Triticum aestivum.* L　果実　イネ科

炭化しているため黒色で、楕円形を呈する。腹部の端には胚がある。背面には縦に一本の溝がある。比較的四角い形を呈し、短い。

オオムギ　*Hordeum vulgare* L.　果実　イネ科

炭化しているため黒色で、楕円形を呈す。腹部の端には胚がある。背面には縦に一本の溝がある。側面の形は曲率が大きく、胚と胚乳との接する輪郭線は山形である。

ムギ類　*Hordeum-Triticum*　果実　イネ科

楕円形を呈し胚があるが、発泡または摩滅や破損が著しく、細分できない。ここではムギ類とみられるが明らかな同定には至らなかった。

穀類（イネ－オオムギ－コムギ）*Oryza-Hordeum-Triticum*　果実　イネ科

　イネもしくはオオムギと思われるが、発泡しているため穀類とした。

ササゲ属　*Viguna*　種子　マメ科

　黒色で楕円形を呈し、縦に一本の溝状の筋が走る。小型でありササゲ属と同定される。

マメ類　Leguminosae　種子　マメ科

　黒色で楕円形を呈し、縦に一本の溝状の筋が走る。発泡し原型を留めていないことから科レベルの同定となった。ササゲ属の可能性がある。ここではマメ類と明らかに同定できないものも多かった。

不明　Unknown

　発泡または摩滅や破損が激しく、同定が困難である。

５．考察

　弥生時代中期とされる竪穴住居跡から出土した種実は、ササゲ属の可能性の高いマメ類が多く、イネ、コムギ？、オオムギなど作物がほとんどである。なお、発泡が著しいため詳細な同定が困難なものが多かった。

文献

笠原安夫（1988）作物および田畑雑草種類．弥生文化の研究第２巻生業，雄山閣　出版，p.131－139．

南木睦彦（1993）葉・果実・種子．日本第四紀学会編，第四紀試料分析法，東京大学出版会，p.276－283．

吉崎昌一（1992）古代雑穀の検出．月刊考古学ジャーナル№355，ニューサイエンス社，p.２－14．

金原正明（1996）古代モモの形態と品種．月刊考古学ジャーナル№409，ニューサイエンス社，p.15－19．

表１　前田遺跡における種実同定結果

分類群		S002	S003	S004	S005	S012	S017	S026
学名	和名	部位 中央炉	Ａ－Ｃ床面焼土	炉内埋土Ｄ	中央炉埋土	中央炉焼土・粘土	020315③	020315②
Arbor	樹木							
Fagaceae	ブナ科	堅果					破片＋	
Total	合計	(－)	(－)	(－)	(－)	(－)		(－)
	不明炭化物						2	

(200㎤中0.25㎜篩)

表２　前田遺跡における選別種実同定結果

試料		分類群（和名／学名）		部位	個数
S001	床面	不明	Uuknown		1
S001	床面　13．11／２	ササゲ属	Viguna	種子	1
		不明	Uuknown		1
S001	フルイ土　11／５	イネ	*Oryza sativa* L.	果実	2
		不明	Uuknown		2
S002	Ａ－２層	不明	Uuknown		1
S002	Ｂ	不明	Uuknown		1
S002	Ａ＋Ｃ　２層　11／29	不明	Uuknown		1
S002	Ａ上層	不明	Uuknown		1
S002	Ｄ－２層	オオムギ	*Hordeum vulgare* L.	果実	1
S002	Ｂ－２－３層　11／７　コメ	イネ	*Oryza sativa* L.	果実	1
S003	Ａ－６	マメ類	Leguminosae	種子	1
S003	Ａ－６　１層	不明	Uuknown		1
S003	北tr中心部　３Ａ．３Ｂ	不明	Uuknown		1
S003	Ａ－上層　11／13	ササゲ層	Viguna	種子	1
S003	１－Ａ区	ササゲ属	Viguna	種子	1
S003	Ａ－上	不明	Uuknown		2
S003	Ａ－52層	ササゲ属	Viguna	種子	1
S003	Ａかべ	モモ？	*Prunus persica* Batsch?	核片	1
S003	Ａ－１層	不明	Uuknown		1
S003	Ｂ－上層	ササゲ属	Viguna	種子	2
		不明	Uuknown	堅果片	1
		不明	Uuknown		1
S003	Ｂ－Ⅰ層	不明	Uuknown		1
S003	Ｂ－Ⅰ層　堅果類の皮？	不明	Uuknown	堅果片	1
S003	Ｂ上層	ササゲ属	Viguna	種子	1
		不明	Uuknown		4
S003	Ｂ－１　１層	ササゲ属	Viguna	種子	2
S003	Ｂ－１層	種実なし			1
S003	Ｂ上層　11／13	マメ類	Leguminosae	種子	2
		不明穀類？	*Oryza-Hordeum-Triticum?*	果実	2
		不明	Uuknown		2
S003	Ｃ－１層	マメ類	Leguminosae	種子	3
S003	Ｃ－上層　11／28	マメ類	Leguminosae	種子	6
S003	Ｃ区　12／４	不明	Uuknown		1
S003	Ｃ－１　Ⅱ層　12／18	ササゲ属	Viguna	種子	2
S003	Ｃ－上層　11／29	ササゲ属	Viguna	種子	1
		コナラ属？	*Quercus?*	種子	2
S003	Ｄ　Ⅰ層	ササゲ属	Viguna	種子	1
S003	13	ササゲ属	Viguna	種子	1
S003	ムギ？	ササゲ属	Viguna	種子	1
		コムギ？	*Triticum aestivum* L.?	果実	1
		不明	Uuknown		2
S012	Ｄ－ミゾ　堅果類？12／５	不明	Uuknown		2
		不明	Uuknown	堅果片	1
S012	Ｂ－３　Ⅰ層　12／３	ムギ類？	Hordeum-Triticum?	果実	1
S017	Ａ　Ⅱ層　11／15	不明	Uuknown		1
S017	Ａ－Ⅲ層	不明	Uuknown		1
S017	炉内出土	不明	Uuknown		2
S025	Ｃ－上層　12／20	ササゲ属	Viguna	種子	3
S026	Ｃ１層　12／27	イネ	*Oryza sativa* L.	果実	1
S026	Ｃ－２層　12／26	イネ	*Oryza sativa* L.	果実	1
		ササゲ属	Viguna	種子	5
S026	Ｃ２層　12／27	ササゲ属	Viguna	種子	2
S026	住居床面	マメ類	Leguminosae	種子	1
S033	２層　２／５	ササゲ属	Viguna	種子	1
	前田１区　廃土一括	イネ	*Oryza sativa* L.	果実	2
		オオムギ	*Hordeum vulgare* L.	果実	9

前田遺跡の種実Ⅰ

1　イネ果実　—— 1.0㎜

2　イネ果実　—— 1.0㎜

3　オオムギ果実　—— 1.0㎜

4　オオムギ果実　—— 1.0㎜

5　オオムギ果実　—— 1.0㎜

6　ササゲ属種子　—— 1.0㎜

7　ササゲ属種子　—— 1.0㎜

8　ササゲ属種子　—— 1.0㎜

9　ササゲ属種子　—— 1.0㎜

前田遺跡から出土した炭化種実

新山雅広（パレオ・ラボ）

１．試料と方法

炭化種実の検討は、取上げ済みのものと堆積物試料について行った。取上げ済みのものは、合計102試料あり、乾燥状態で袋に保存されたものである。堆積物試料は、Ｓ－106（中心炉、３層）の１試料であり、0.25㎜目の篩を用いて水洗篩い分けを行い、肉眼および実体顕微鏡下で残渣から炭化種実の採集・同定を行った。

２．出土した炭化種実

取上げ済みの試料から出土した炭化種実の一覧を表１に示した。なお、炭化種実として同定し得るものを全く含んでいなかった試料（炭化材、礫などのみを含む試料）については、個数の欄は空欄になっている。以下に、出土した炭化種実について記載する。

⑴　取り上げ済みの試料

同定されたのは、木本１分類群、草本４分類群である。木本はコナラ属炭化子葉が１区ピット（№1460）から２個体出土した。草本は、イネ炭化胚乳（18試料；21個体）、オオムギ炭化胚乳（５試料；12個体）、コムギ炭化胚乳（３試料；８個体）、ササゲ属炭化種子（51試料；完形25個体、半分ないし破片57個体）が出土した。ササゲ属は、検討した試料数の半数から得られ、出土個数も最も多かった。次いで、イネが比較的多産した。

⑵　堆積物試料

得られたのは、炭化子葉かと思われる破片が５個体とイネ炭化胚乳かと思われる破片が１個体であった。前者は、１㎝に満たないような小さな破片であり、同定には至らなかった。後者は、表面が磨耗した破片であり、保存状態が悪く同定には至らなかったが、イネ炭化胚乳かと思われた。取上げ済み試料では、イネは比較的多産していることから、イネの可能性が高いと思われる。

３．考察

出土したのは、コナラ属、イネ、オオムギ、コムギ、ササゲ属（アズキ、リョクトウの類）であり、ササゲ属、イネは比較的多産した。コナラ属を除く分類群は、いずれも栽培植物と考えられ、食料源として利用されていたと考えられる。コナラ属は、炭化子葉の完形２個体が１区ピット（№1460）から出土したが、貯蔵されていたものかもしれない。

４．主な炭化種実の形態記載

オオムギ　*Hordeum vulgare* Linn.　炭化胚乳

コムギに比べて細長く、長卵形～狭卵形で下端が尖り気味となる。一方の面には、基部から頂部にかけて１本の溝が走る。

コムギ　*Triticum aestivum* Linn.　炭化胚乳

丸こく、楕円形ないしほぼ円形。断面も楕円形ないしほぼ円形。一方の面には、基部から頂部にかけて１本の溝が走る。

表１　炭化種実出土一覧表（その１）　　数字は個数、() 内は半分ないし破片の数を示す

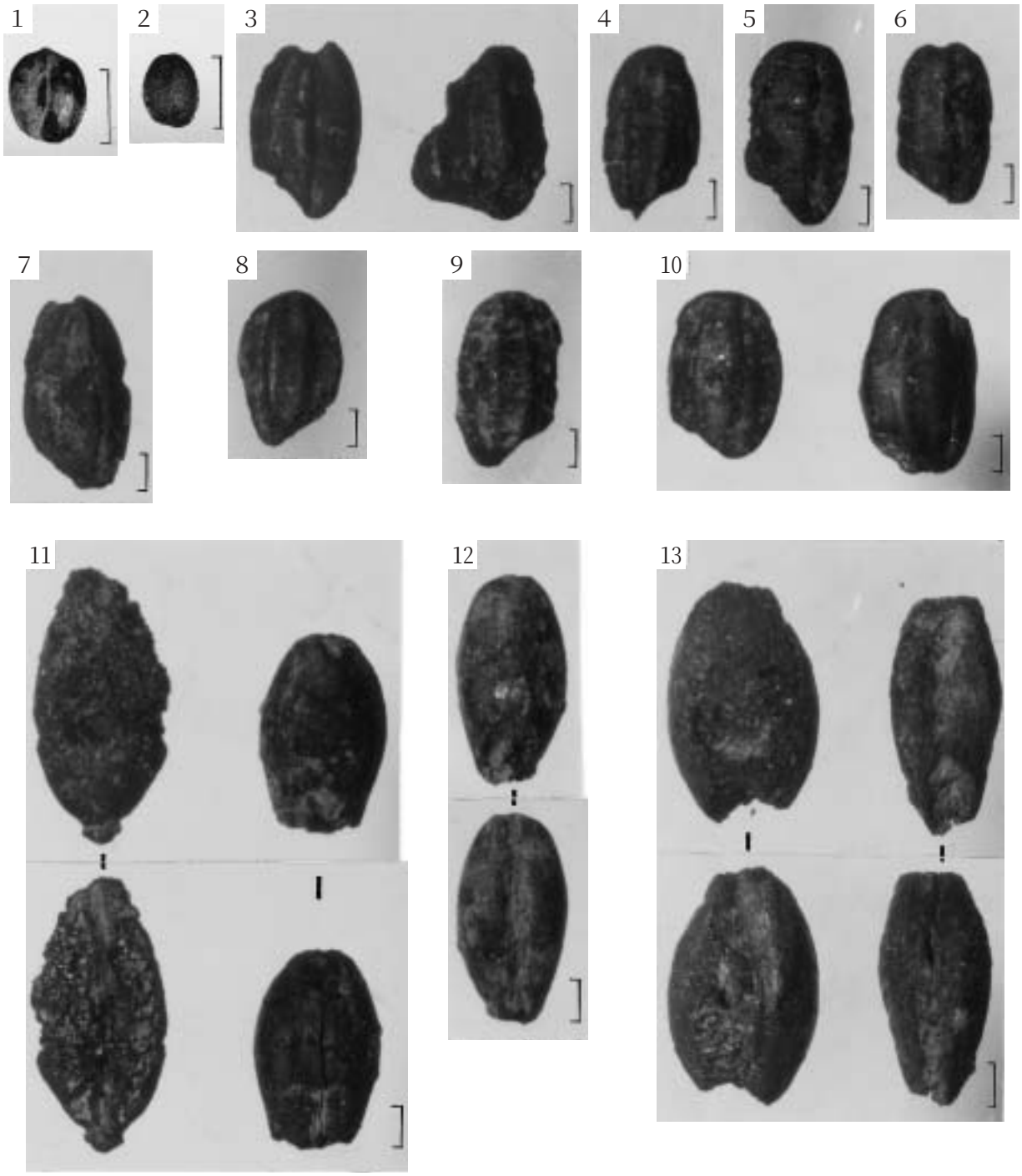
試料番号	採取地点	コナラ属	イネ	オオムギ	コムギ	ササゲ属
		炭化子葉	炭化胚乳	炭化胚乳	炭化胚乳	炭化種子
S001	Ｂ－１層		1			
S001	Ｄ　１層					
S001	ワク外土					
S001	床面					
S001	床面					(1)
S001	フルイ土		2			
S002	Ａ　上層					1
S002	Ａ－２層					
S002	Ａ＋Ｃ　２層					1
S002	Ｂ					
S002	Ｂ－２－３層		1			
S002	Ｄ－２層			1		
S003	Ａ－上					
S003	Ａ－上層					
S003	Ａ－上層					(1)
S003	Ａ－１層					
S003	Ａ－２　３Ａ層					1
S003	Ａ－４　２Ａ層					(1)
S003	Ａ－５　２層					1
S003	Ａ－⑥　１層					(1)
S003	Ａ－６　２Ａ層					1(5)
S003	Ａ－６　２層					(1)
S003	Ａ－６					(1)
S003	Ａ　カベ					
S003	１－Ａ区					1
S003	Ｂ　上層		1			(2)
S003	Ｂ　上層		1			(2)
S003	Ｂ－上層					(2)
S003	Ｂ－Ⅰ層					
S003	Ｂ－Ⅰ層					
S003	Ｂ－１　①層		1			
S003	Ｂ－１　１層					(2)
S003	Ｂ－①層					
S003	Ｂ－２					(3)
S003	Ｂ－３Ｂ					
S003	Ｂ－６　２Ａ層					1
S003	Ｂ－９　２Ａ層					(1)
S003	Ｂ－下					1
S003	Ｂ－床面					
S003	Ｂ					(1)
S003	Ｃ－上層					1(5)
S003	Ｃ－上層					1
S003	Ｃ－１層					(2)
S003	Ｃ－１　Ⅱ層					(2)
S003	Ｄ－３　２Ａ層					
S003	Ｃ区					1
S003	Ｄ　Ⅰ層					1
S003	Ｄ－４　２Ａ層					
S003	Ｄ－８　２Ａ層					(1)
S003	Ｄ－９　２Ａ層					(1)
S003	13					(1)

表１　炭化種実出土一覧表（その２）　　数字は個数、() 内は半分ないし破片の数を示す

試料番号	採取地点	コナラ属	イネ	オオムギ	コムギ	ササゲ属
		炭化子葉	炭化胚乳	炭化胚乳	炭化胚乳	炭化種子
S003	北Tr中心部　３Ａ・３Ｂ					
S003					1	1
S005	Ａ　床面					
S005	床面遺物		1			
S009	カメ棺内					
S012	Ｂ－３　Ⅰ層				1	
S012	Ｂ－７　Ⅱ層					(1)
S012	Ｃ－３　Ⅱ層		1			
S012	Ｄ－ミゾ					
S012	ミゾベルト					(1)
S012	中心炉					
S014	Ｃ－４　Ⅱ層					
S017	Ａ　Ⅱ層					1
S017	Ａ　Ⅲ層					
S017	Ｄ　取上№２					
S017	Ｄ　取上№３					
S017	Ｄ－床					
S017	Ｄ　Ⅲ層以下					
S017	炉内出土					
S025	Ｃ－上層					(3)
S026	Ａ　上層		1			1
S026	Ａカベ　１層					1
S026	Ａ－２層		1			
S026	Ａ－３層					1(1)
S026	Ｃ－上層					
S026	Ｃ　カベ　１層		2			1(2)
S026	Ｃ①層		1			
S026	Ｃ②層					1
S026	Ｃ－②層		1			1(4)
S026	Ｃ－３層					1
S026	住居床面					1
S026	住居床面					(1)
S033	Ａ－１層					
S033	２層					(1)
S044	Ｃ－２					1
S061	埋土内					
S065				2		
S065						
S073	Ｄ－２層					(3)
S073	北トレンチ					1
S075	Ａ－１層					(1)
S075	Ｂ－１層			1		
S075	Ｂ－１層					
S076	ミゾ		1			
S085	Ｂ－１		1			
S085	Ｃ－１		1			
S085	Ｄ－１			2		
S090	Ｂ－１層		1			(3)
S090	Ｃ－２					
—	１区　ピット№1460	2				
—	１区　廃土一括		2	6	6	1

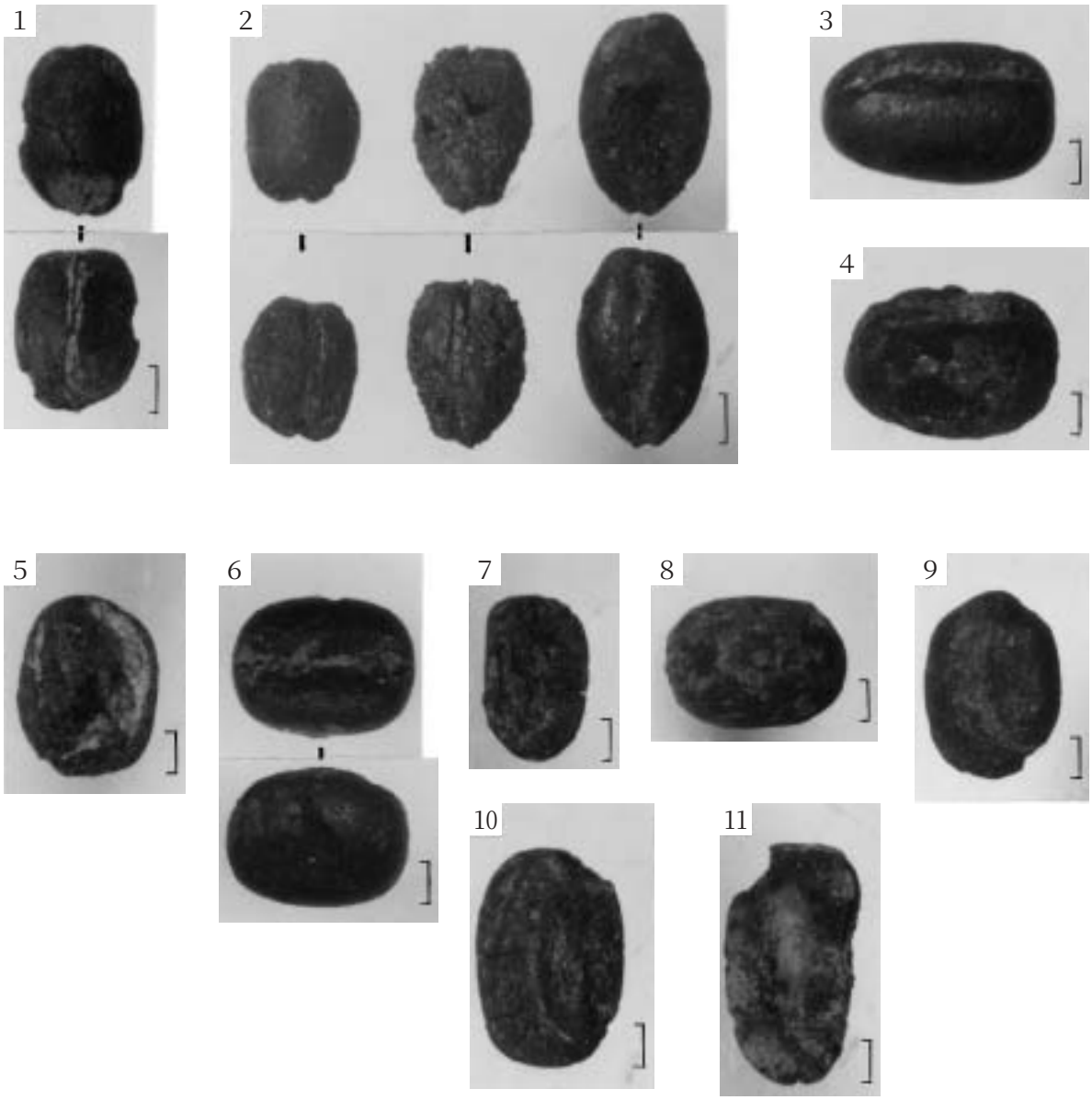
ササゲ属　*Vigna*　炭化種子

およその大きさは、長さ2.5～5.5㎜、幅2.1～4.1㎜、厚さ2.0～3.7㎜。ごく稀に長さ2.5㎜の小さなもの（１個体）や5.0㎜を越える大きなもの（３個体）が混じるが、残りは３～４㎜台であり、4.1～4.2㎜程度のものもが多い。幅・厚さは、３㎜前後のものが多く、完形で状態の良好なものをみると、幅と厚さは同程度である。



図版１　出土した炭化種実（スケールは１、２が１㎝、３～13が１㎜）

１、２．コナラ属、炭化子葉、１区ピット№1460
３．イネ、炭化胚乳、S001（フルイ土）
４．イネ、炭化胚乳、S002（Ｂ－２－３層）
５．イネ、炭化胚乳、Ｓ026（Ｃ①層）
６．イネ、炭化胚乳、S026（Ｃ、カベ、１層）
７．イネ、炭化胚乳、S026（Ｃ－②層）
８．イネ、炭化胚乳、S076（ミゾ）
９．イネ、炭化胚乳、S085（Ｃ－１）
10．イネ、炭化胚乳、１区廃土一括
11．オオムギ、炭化胚乳、S065
12．オオムギ、炭化胚乳、S085（Ｄ－１）
13．オオムギ、炭化胚乳、１区廃土一括



図版２　出土した炭化種実（スケールは１㎜）

１．コムギ、炭化胚乳、S003
２．コムギ、炭化胚乳、１区廃土一括
３．ササゲ属、炭化種子、S003（Ａ－５、２層）
４．ササゲ属、炭化種子、S003（Ａ－６、２Ａ層）
５．ササゲ属、炭化種子、S003（Ｂ－２）
６．ササゲ属、炭化種子、S003
７．ササゲ属、炭化種子、S025（Ｃ－上層）
８．ササゲ属、炭化種子、S026（Ｃ、カベ、１層）
９．ササゲ属、炭化種子、S026（Ｃ－②層）
10．ササゲ属、炭化種子、S033（２層）
11．ササゲ属、炭化種子、S090（Ｂ－１層）

放射性炭素年代測定

山形秀樹（パレオ・ラボ）

１．はじめに

前田遺跡より検出された貝殻および炭化物の加速器質量分析法（ＡＭＳ法）による放射性炭素年代測定を実施した。

２．試料と方法

試料は、S093②層から採取した貝殻（カキ）１点、Ｓ－106中心炉３層から採取した不明炭化子葉１点、Ｓ075床面から採取した炭化材１点の併せて３点である。

貝殻試料は、酸処理を施して表面部分を洗浄した。炭化物試料は、酸・アルカリ・酸洗浄を施して不純物を除去した。これら前処理された試料を石墨（グラファイト）に調整した後、加速器質量分析計（ＡＭＳ）にて測定した。測定された^{14}Ｃ濃度について同位体分別効果の補正を行なった後、補正した^{14}Ｃ濃度を用いて^{14}Ｃ年代を算出した。

３．結果

表１に、各試料の同位体分別効果の補正値（基準値－25.0‰）、同位体分別効果による測定誤差を補正した^{14}Ｃ年代、^{14}Ｃ年代を暦年代に較正した年代を示す。

^{14}Ｃ年代値（yrBP）の算出は、^{14}Ｃの半減期としてLibbyの半減期5,568年を使用した。また、付記した^{14}Ｃ年代誤差（±１σ）は、計数値の標準偏差σに基づいて算出し、標準偏差（One sigma）に相当する年代である。これは、試料の^{14}Ｃ年代が、その^{14}Ｃ年代誤差範囲内に入る確率が68%であることを意味する。

なお、暦年代較正の詳細は、以下の通りである。

暦年代較正

暦年代較正とは、大気中の^{14}Ｃ濃度が一定で半減期が5,568年として算出された^{14}Ｃ年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の^{14}Ｃ濃度の変動、および半減期の違い（^{14}Ｃの半減期5,730±40年）を較正し、より正確な年代を求めるために、^{14}Ｃ年代を暦年代に変換することである。具体的には、年代既知の樹木年輪の詳細な測定値を用い、さらに珊瑚のU-Ｔｈ年代と^{14}Ｃ年代の比較、および海成堆積物中の縞状の堆積構造を用いて^{14}Ｃ年代と暦年代の関係を調べたデータにより、較正曲線を作成し、これを用いて^{14}Ｃ年代を暦年代に較正した年代を算出する。

^{14}Ｃ年代を暦年代に較正した年代の算出にCALIB 4.3（CALIB 3.0のバージョンアップ版）を使用した。なお、暦年代較正値は^{14}Ｃ年代値に対応する較正曲線上の暦年代値であり、１σ暦年代範囲はプログラム中の確率法を使用して算出された^{14}Ｃ年代誤差に相当する暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値はその１σ暦年代範囲の確からしさを示す確率であり、10%未満についてはその表示を省略した。１σ暦年代範囲のうち、その確からしさの確率が最も高い年代範囲については、表中に下線で示した。

４．考察

各試料は、同位体分別効果の補正および暦年代較正を行なった。暦年代較正した１σ暦年代範囲のうち、その確からしさの確率が最も高い年代範囲に注目すると、それぞれより確かな年代値の範囲として示された。なお、Ｓ－106中心炉３層の不明炭化子葉についての記載は、炭化種実の報告に記述してある。

引用文献

中村俊夫（2000）放射性炭素年代測定法の基礎．日本先史時代の^{14}Ｃ年代、p.３－20．

Stuiver, M. and Reimer, P. J. (1993) Extended ^{14}C Database and Revised CALIB3.0 ^{14}C Age Calibration Program, Radiocarbon, 35, p.215-230.

Stuiver, M., Reimer, P. J., Bard, E., Beck, J.W., Burr, G.S., Hughen, K.A., Kromer, B., McCormac, F.G., v.d.Plicht, J., and Spurk, M. (1998) INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration, 24,000-0 cal BP, Radiocarbon, 40, p.1041-1083.

表１．放射性炭素年代測定および暦年代較正の結果

測定番号（測定法）	試料データ	δ^{13}C（‰）	^{14}Ｃ年代（yrBP±１σ）	^{14}Ｃ年代を暦年代に較正した年代	
				暦年代較正値	１σ暦年代範囲
PLD-2061（AMS）	貝殻（カキ）S093 ②層	-4.4	2355±45	cal BC 20	cal BC 75-cal AD 35（100%）
PLD-2062（AMS）	不明炭化子葉 S-106 中心炉 ３層	-23.2	2135±40	cal BC 170	cal BC 345-325（14.4%） cal BC 205-95（85.0%）
PLD-2063（AMS）	炭化材 S075 床面	-27.2	2085±45	cal BC 90 cal BC 70 cal BC 65	cal BC 165-130（30.6%）

図版．放射性炭素年代測定を行った試料

１．カキ殻（S039、②層）

２．不明炭化子葉（S-106、中心炉、３層）

前田遺跡出土ガラス小玉の蛍光X線分析

小村美代子（パレオ・ラボ）

１．はじめに

ここでは、前田遺跡より出土したガラス小玉について完全非破壊の蛍光Ｘ線分析を行い、ガラス小玉の成分について検討した。

２．試料と方法

試料はガラス小玉９点である（写真１）。試料の詳細については表１に示す。ガラス小玉の色調は№１～４、№６～８は濃い青色、№５と№９は淡い青色を呈している。№９は大小のガラス小玉２点が連結した状態である。試料は全て蒸留水で超音波洗浄を行い表面に付着する土壌等を極力除去した後、土壌汚染の少ない平面的な部位を選んで測定箇所とした。

測定装置は㈱堀場製作所製のＸ線顕微鏡XGT-5000typeⅡで、標準試料を用いないＦＰ法による半定量分析を行った。半定量分析は、ナトリウム（Na）とマグネシウム（Mg）については今回使用する測定装置では検出感度が悪く測定誤差が大きいので計算は行わず、アルミニウム（Al）以降に検出された元素の中でTOTAL100％になるよう規格化した。装置の仕様はＸ線発生部の管球のターゲットはロジウム（Rh）、蛍光Ｘ線検出器は高純度Si検出器である。測定条件は、測定時間100秒、Ｘ線導管径100μm、電流0.52～1.00mA、電圧50kV、試料室内は大気である。また、マイクロスコープによる試料の観察・記載も行った。

３．分析結果

№１～９のＦＰ法による半定量分析結果を表２に示す。SiO_2の平均値は80.03％、K_2Oの平均値は9.22％、Al_2O_3の平均値は5.66％で、№１～９は主にこれら３種類の酸化物で構成されていることが確認された。淡い青色のガラス小玉（№５と№９）は濃い青色のガラス小玉（№１～４、№６～８）に比べて、CaO・TiO_2・MnO・Fe_2O_3・CoOの分析値が低く、Al_2O_3・CuO・PbOの分析値が高いことが確認された。

また、マイクロスコープによるガラス小玉の記載を表３に示す。ガラス小玉の「断面」は孔のある面、「側面」は孔のない面を指す。試料は全体に表面に微細なキズが多いため、内部の気泡の観察が困難であった。№１以外のガラス小玉は全て側面に孔部と平行に走るうっすらとしたスジが確認された。№６の側面で観察されたスジの状態を写真２に示す。また全試料で両断面は丸みを帯びていることが確認された。

４．考察

古代のガラスは、融剤の種類から鉛珪酸塩ガラスの鉛バリウムガラス（PbO-BaO-SiO_2系）と、アルカリ珪酸塩ガラスのカリガラス（K_2O-（Al_2O_3）-SiO_2系）、２種類のソーダ石灰ガラス（Na_2O-CaO-SiO_2系とNa_2O-Al_2O_3-CaO-SiO_2系）、鉛ガラス（PbO-SiO_2系）などに分類される（肥塚、1995）。

なお、今回分析したガラス小玉の表面は少なからず風化しており完全非破壊で分析しているため製作当時の化学組成を示していないと考えられる。ガラス小玉は風化すると特にNa_2OやK_2O等が顕著に減少するとされる（肥塚、前出）。表２のガラス小玉の分析結果でK_2Oの平均値は約10％であるが、本来はもっと多く含まれていたものと推定される。しかし、このことを考慮しても№１～９のガラス小玉全てにはK_2Oが特徴的に多く含まれていることから、これらは全てカリガラスに該当すると考えられる。

また、ガラスの青色にはコバルト（Co）や銅（Cu）や鉄（Fe）等が起因するとされる（肥塚、前出）。コバルトは一般土壌では検出されない元素で、銅は一般土壌に微量に含まれる元素ではあるが%単位で含まれるものではない。鉄については一般土壌に数%は普遍的に含まれる元素である。濃い青色のガラス小玉（№１～４、№６～８）にはCoOが0.06～0.18%、CuOが0.03～0.05%、Fe_2O_3が約２%含まれている。これに対し、淡い青色のガラス小玉（№５と№９）はCoOが０%、CuOが約1.5%、Fe_2O_3が約0.6%で明らかに含有量が異なる。このことから、濃い青色のガラス小玉（№１～４、№６～８）にはコバルトが、淡い青色のガラス小玉（№５と№９）には銅が青色の着色材料として意図的に使用されたと推測される。濃い青色のガラス小玉（№１～４、№６～８）には青色着色にコバルトの他に鉄も使用された可能性はあるが、鉄は土壌や岩石等に普遍的に含まれるものなので意図的な使用であるかは定かではない。濃い青色のガラス小玉（№１～４、№６～８）はCoO以外にCaO・TiO_2・MnO・Fe_2O_3の分析値が淡い青色のガラス小玉（№５と№９）より特徴的に高いが、これが着色材料のコバルト鉱石によるものか着色料以外の原材料によるものかは不明である。淡い青色のガラス小玉（№５と№９）についてもPbOが特徴的に検出されているが、これが着色材料のコバルト鉱石に伴ったものであるかは定かではない。

以上より、ここで分析したガラス小玉は全てカリガラスで、青色の着色にコバルトと銅（鉄も使用か）が用いられていたものと考えられる。

引用文献

肥塚隆保（1995）「古代ガラスの材質」古代に挑戦する自然科学、第９回「大学と科学」公開シンポジウム組織委員会編、クバプロ、P.94～108

表１　試料の詳細

№	遺物	色調	注記	備考
1	ガラス小玉	濃青	前田　S001　11／１　住居址　篩土中　中層下	図20-16
2	ガラス小玉	濃青	前田　S001　11／８　埋土一括	図20-19
3	ガラス小玉	濃青	前田　S001　住居跡　篩土中	図20-17
4	ガラス小玉	濃青		図20-18
5	ガラス小玉	淡青	前田　S003　Ａ－５　１層	図26-16
6	ガラス小玉	濃青	前田　S003　Ａ⑥　１層　12／12	図26-17
7	ガラス小玉	濃青	前田　S003　西Tr　12／18	図26-19
8	ガラス小玉	濃青	前田　S003　Ｄ上層　11／８	図26-18
9	ガラス小玉（大）	淡青	前田　S026　12／14　住居床面、Trの中？	２個のガラス小玉が連結している。図36-９
	ガラス小玉（小）	淡青		

表２　ガラス小玉の化学組成（単位：%）

№	遺物	色調	Al_2O_3	SiO_2	K_2O	CaO	TiO_2	MnO	Fe_2O_3	CoO	CuO	PbO	合計	ガラスの種類
1	ガラス小玉	濃青	4.66	76.79	11.44	1.22	0.27	3.31	2.10	0.18	0.05	0.00	100.02	カリガラス
2	ガラス小玉	濃青	3.66	81.39	9.21	1.34	0.24	2.02	2.03	0.08	0.03	0.00	100.00	カリガラス
3	ガラス小玉	濃青	4.85	79.64	9.86	1.37	0.27	1.89	2.01	0.07	0.02	0.00	99.98	カリガラス
4	ガラス小玉	濃青	5.76	78.76	9.79	1.16	0.32	2.00	2.12	0.06	0.03	0.00	100.00	カリガラス
5	ガラス小玉	淡青	8.07	83.15	5.70	0.37	0.17	0.02	0.66	0.00	1.38	0.48	100.00	カリガラス
6	ガラス小玉	濃青	4.72	80.17	9.61	1.31	0.27	1.84	1.98	0.07	0.03	0.00	100.00	カリガラス
7	ガラス小玉	濃青	5.04	80.04	9.18	1.38	0.24	1.89	2.13	0.07	0.03	0.00	100.00	カリガラス
8	ガラス小玉	濃青	4.07	79.04	10.57	1.38	0.23	2.25	2.32	0.10	0.04	0.00	100.00	カリガラス
9	ガラス小玉（大）	淡青	7.78	81.10	8.12	0.41	0.16	0.02	0.48	0.00	1.47	0.46	100.00	カリガラス
	ガラス小玉（小）	淡青	7.96	80.21	8.69	0.38	0.16	0.01	0.62	0.00	1.55	0.41	99.99	カリガラス
平均値			5.66	80.03	9.22	1.03	0.23	1.53	1.65	0.06	0.46	0.14		

表３　試料のマイクロスコープ観察「断面」はガラス小玉の孔のある面、「側面」は孔のない面を指す。

№	遺物	マイクロスコープ観察
1	ガラス小玉	断面・側面共にスジ確認できず。両断面は丸みを帯びている。
2	ガラス小玉	断面ではスジ確認できず。側面で孔部と平行に走るスジ確認。両断面は丸みを帯びている。
3	ガラス小玉	断面ではスジ確認できず。側面で孔部と平行に走るスジ確認。両断面は丸みを帯びている。
4	ガラス小玉	断面ではスジ確認できず。側面で孔部と平行に走るスジ確認。両断面は丸みを帯びている。
5	ガラス小玉	断面ではスジ確認できず。側面で孔部と平行に走るスジ確認。両断面に丸みを帯びている。孔の径１㎜以下。一部発泡している。
6	ガラス小玉	断面ではスジ確認できず。側面で孔部と平行に走るスジ確認。両断面は丸みを帯びている。
7	ガラス小玉	断面ではスジ確認できず。側面で孔部と平行に走るスジ確認。両断面は丸みを帯びている。
8	ガラス小玉	断面ではスジ確認できず。側面で孔部と平行に走るスジ確認。両断面は丸みを帯びている。
9	ガラス小玉（大）	断面ではスジ確認できず。側面で孔部と平行に走るスジ確認。両断面は丸みを帯びている。
	ガラス小玉（小）	断面ではスジ確認できず。側面で孔部と平行に走るスジ確認。両断面は丸みを帯びている。

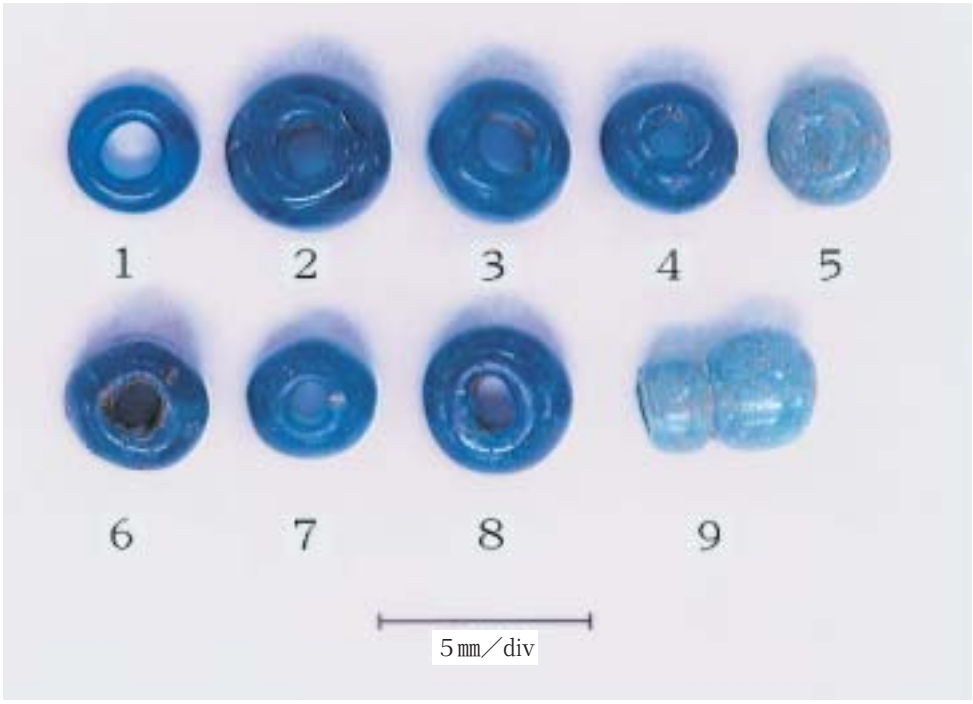


写真１　ガラス小玉（１～９：試料№）

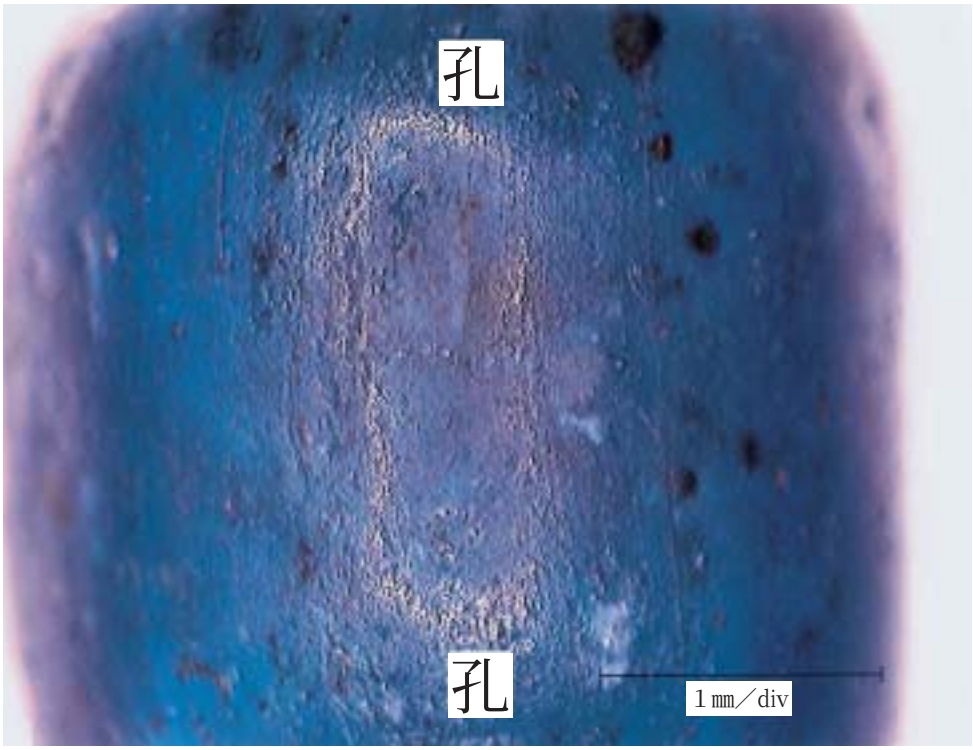


写真２　ガラス小玉（№６）の拡大写真

孔と平行に走るスジが観察される

管玉、小玉の蛍光X線分析

小村美代子（パレオ・ラボ）

１．はじめに

ここでは、前田遺跡より出土した管玉・小玉について非破壊の蛍光X線分析を行い、管玉・小玉の成分について検討した。

２．試料と方法

試料は管玉10点・小玉１点の計11点である（写真１）。試料の詳細については表１に示す。管玉・小玉は不透明で暗オリーブ色～緑色を呈する。試料は全て蒸留水で超音波洗浄を行い表面に付着する土壌等を極力除去した後、土壌汚染の少ない平面的な部位を選んで測定箇所とした。

測定は㈱堀場製作所製のX線顕微鏡XGT-5000typeⅡを用いてポイント分析を行い、標準試料を用いないＦＰ法による半定量分析を行った。半定量分析は、ナトリウム（Na）とマグネシウム（Mg）については今回使用する測定装置では検出感度が悪く測定誤差が大きいので計算は行わず、アルミニウム（Al）以降に検出された元素の中でTOTAL100％になるように規格化した。装置の仕様はX線発生部の管球のターゲットはロジウム（Rh)、蛍光X線検出器は高純度Si検出器である。測定条件は、測定時間100秒、X線導管径100μm、電流0.90～1.00mA、電圧50kV、試料室内は大気である。

３．分析結果

№１～11のＦＰ法による半定量分析結果を表２に示す。№１～10のSiO_2の平均値は83.46％、Al_2O_3の平均値は10.49％、K_2Oの平均値は4.19％で、Fe_2O_3の平均値は1.10％で、№１～10は主にこれら４種類の酸化物で構成されている。№11の小玉はAl_2O_3が42.45％、K_2Oが7.08％、Cr_2O_3が1.27％で明らかに№１～10の化学組成とは異なる。№11の小玉は単一の緑色ではなく、緑色部に混じって黄色部、白色部が点在する（写真２）。測定は緑色部で行ったが、念のため緑色部の測定箇所を２回変更して再測定を行ったが、同様の定量結果を示していた。各試料の化学組成の割合を視覚的に分かりやすくするために図１にグラフを作成した。№１～10の管玉はおおよそ類似した化学組成を示す。

４．考察

碧玉とは石英の一変種で不純物を含んでおり不透明である。化学成分として特に酸化鉄を含むため緑色や褐色などの色を帯び（斎藤、1998)、おもに酸化鉄からなる不純物を20％程度まで含むとされる（地団研地学事典編集委員会、1976)。№１～10の管玉は、SiO_2以外ではAl_2O_3やK_2Oを主体としており、Fe_2O_3は低い分析値を示すので「鉱物学的な碧玉」の化学組成の特徴を示していない。№11の小玉についても同様である。参考に碧玉の産地として知られる島根県花仙山の碧玉の化学組成を表２に示す。この化学組成を№１～11と比較すると、№11の小玉よりは№１～10の管玉と化学組成は類似している。№11は顕微鏡観察より蛇紋岩と思われる。考古学では緑色凝灰岩・鉄石英・珪質頁岩・蛇紋岩などで不透明ないし青緑色の美しい石材を碧玉と呼ぶことが多いとされるが（田中・佐原編、2002)、№11は緑色の中に黄色部、白色部など点在する不均質な石材で「美しい石材」かどうかについては疑問がある。№１～10の石材についてはよく分からなかった。

以上より、№１～10の管玉は「考古学で言われるいわゆる碧玉」、№11の小玉は「蛇紋岩」に該当するのではないかと思われる。

引用文献

斎藤　忠（1998）、日本考古学用語辞典、学生社、568p.
地団研地学事典編集委員会（1976）、地学事典、平凡社、1540p.
田中　琢・佐原　真（2002）、日本考古学事典、三省堂、930p.

表１　試料の詳細

№	遺物	色　調	注　記
1	管玉	オリーブ黒	前田　S003　Ｂ－Ⅰ層　検査出土　12／17（図26-20）
2	管玉	オリーブ黒	前田　S003　Ｄ－Ⅰ層　12／17　検出（図26-21）
3	管玉	オリーブ黒	前田　S003　Ｄ　上層　11／７（図26-22）
4	管玉	暗緑灰	前田　S017　Ａ　３層　2001.11.16（図32-６）
5	管玉	暗緑灰	前田　S017　埋土　中～下層　10／25（図32-７）
6	管玉	黒	前田　S026　Ａ　２／12（図36-10）
7	管玉	オリーブ灰	前田　S073　Ｄ－Ⅰ層　３／７（図150-16）
8	管玉	暗オリーブ灰	前田　S081　Ⅰ・Ｊ－９　ベルト土層　３／７（図58-10）
9	管玉	緑	前田　Ｌ－９　グリッド　2002　２／４　M8L9杭からL8L9南は3m07西へ42㎝（図282-19）
10	管玉	暗緑灰	前田　S026　ベルト上のトレンチ壁西　上層・中央くらい　2002.02.01（図36-11）
11	小玉	緑	前田　S-007　2001.10.10（図277-５）

表２　管玉・小玉の化学組成（単位：%）

№	遺物	Al_2O_3	SiO_2	SO_3	K_2O	CaO	TiO_2	Cr_2O_3	MnO	Fe_2O_3	TOTAL
1	管玉	11.47	82.12	0.39	4.33	0.15	0.22	0.00	0.01	1.31	100.00
2	管玉	9.40	84.71	0.35	4.15	0.09	0.16	0.01	0.00	1.15	100.02
3	管玉	11.39	82.23	0.43	4.71	0.17	0.17	0.00	0.01	0.90	100.01
4	管玉	9.52	84.85	0.44	3.89	0.10	0.16	0.00	0.00	1.03	99.99
5	管玉	11.41	82.32	0.45	4.37	0.26	0.16	0.01	0.01	1.02	100.01
6	管玉	10.49	83.44	0.48	4.42	0.14	0.17	0.00	0.00	0.87	100.01
7	管玉	10.25	84.35	0.43	3.89	0.18	0.17	0.00	0.00	0.73	100.00
8	管玉	10.37	82.77	0.48	4.20	0.13	0.24	0.00	0.01	1.80	100.00
9	管玉	10.18	84.17	0.51	3.82	0.11	0.16	0.01	0.00	1.03	99.99
10	管玉	10.38	83.59	0.50	4.08	0.12	0.18	0.00	0.01	1.14	100.00
11	小玉	42.45	47.52	0.53	7.08	0.10	0.42	1.27	0.01	0.62	100.00
№１～10の平均値		10.49	83.46	0.45	4.19	0.15	0.18	0.00	0.01	1.10	

（参考）島根県花仙山　碧玉

—	Al_2O_3	SiO_2	SO_3	K_2O	CaO	TiO_2	Cr_2O_3	MnO	Fe_2O_3	TOTAL
—	7.42	87.66	0.53	2.33	0.12	0.09	0.00	0.00	1.83	99.98

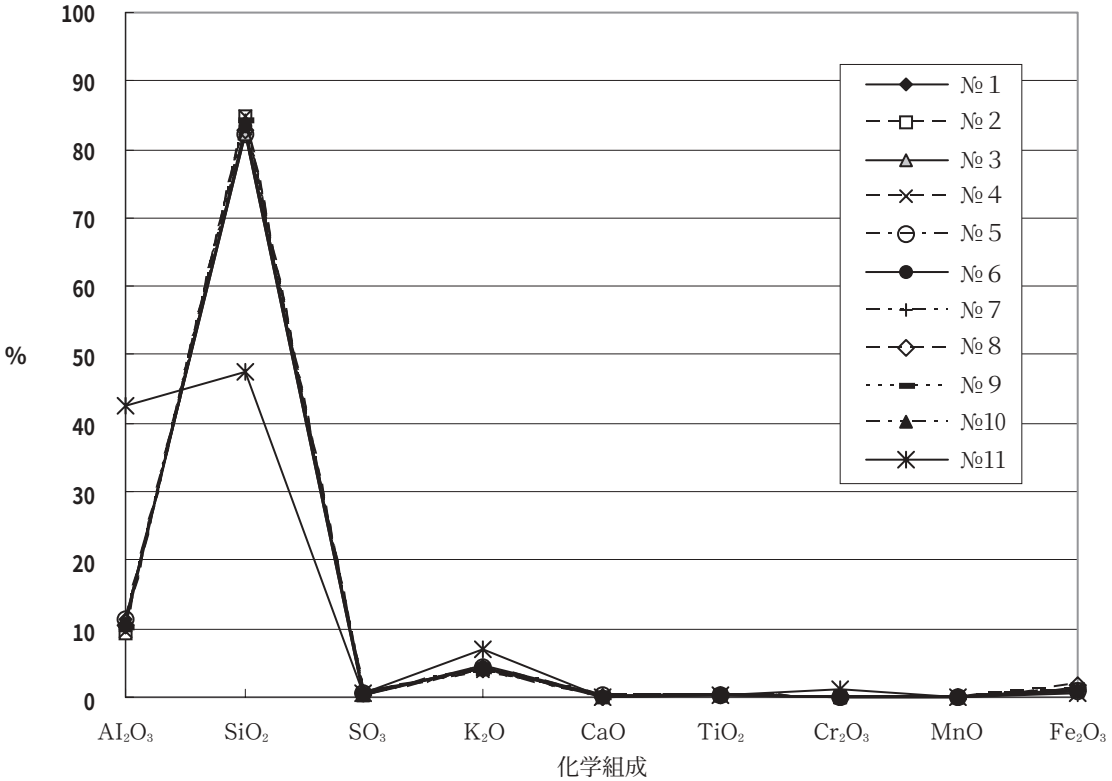


図１　管玉・小玉各元素の割合（単位：%）

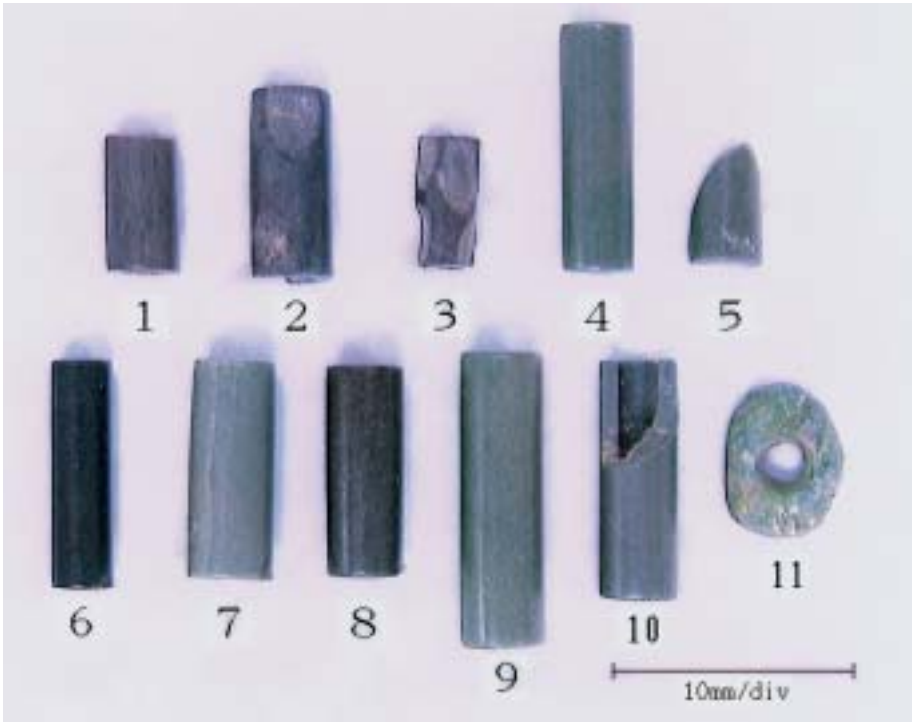


写真１　管玉、小玉（１～11：試料№）

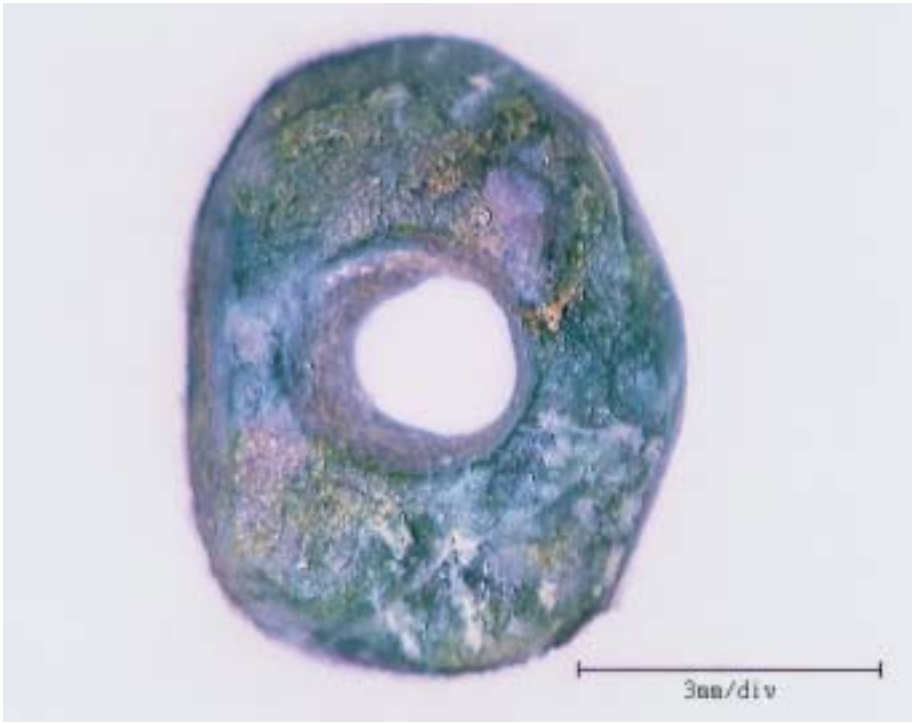


写真２　小玉（№11）の拡大写真

緑色の中に白色部・黄色部が点在して不均質

前田遺跡出土遺物の自然科学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

熊本県玉名市に所在する前田遺跡は、熊本県北部を流れ島原湾に注ぐ菊池川の中流域右岸に形成された自然堤防上に位置する。今回の発掘調査により、弥生時代中期後半～後期前半を中心とする遺構(特に住居跡)が多数検出され、それらに伴う土器をはじめとする遺物も多数出土している。

今回の分析調査では、これらの弥生時代とされる遺物のうち、弥生土器、玉類および種実遺体の３種類の遺物を対象とした自然科学分析を行い、当時の資源活用に関わる資料を作成する。まず、弥生土器については、土器の材質である胎土の特性を、岩石学的手法である薄片作製観察と蛍光Ｘ線分析により明らかにして、土器型式や器種等との関係を検討し、その由来となる地質についても考察を行う。玉類については、非破壊の蛍光Ｘ線分析により化学組成を調べ、その特徴を記載することにより、今後の周辺地域における類例との比較資料とする。種実遺体については、その種類構成を把握することにより、当時の周辺植生や食糧等への植物利用について検討する。

Ⅰ．弥生土器の胎土分析

１．試料

試料は、前田遺跡から出土した弥生土器片７点である。試料名は、図83-９、図93-29、図92-93、図94-35、図117-１、図69-２、S106の未掲載分とされている。これらのうち、前３者は筒形器台であり、他は甕形土器とされている。甕形土器のうち、注12は甕棺の上甕として使用されたものとされている。土器型式は、前４者が弥生時代中期後半の須玖Ⅱ式であり、後３者が同時期の黒髪式である。また、須玖Ⅱ式の４点は、いずれも赤色顔料が塗布されている。なお、図117-１を除く６点は、いずれも住居内から出土したものであり、図117-１は小児用甕棺の上甕である。

各試料の部位や出土遺構名などは、分析結果を呈示した表１に併記する。

２．分析方法

ここでは、薄片作製観察および蛍光Ｘ線分析を用いて、試料間のデータを比較検討する。薄片作製観察は、胎土の特徴を地質と関連づけて捉えることができ、また、素地の状態についても観察することができる。一方、蛍光Ｘ線分析による化学組成は、客観性および再現性の高いデータが得られる。これら両者を併用することにより、胎土の特性を詳細に捉えることが可能となる。以下に各分析の処理過程を述べる。

⑴　薄片作製観察

薄片は、試料の一部（粘土試料は樹脂による固化の後）をダイアモンドカッターで切断、正確に0.03㎜の厚さに研磨して作製した。薄片は岩石学的な手法を用いて観察し、胎土中に含まれる砂粒を構成する鉱物片および岩石片の種類構成を明らかにし、また胎土の基質については、孔隙の分布する程度と砂の配列や孔隙などに方向性が認められるかどうか、および基質を構成する粘土が焼成によりどの程度ガラス化してどの程度粘土鉱物として残存しているかということと酸化鉄などの鉄分の含まれる程度について定性的に記載した。

⑵　蛍光Ｘ線分析

波長分散型蛍光X線装置を用いたガラスビード法による定量分析を行う。

ａ）測定元素

測定元素はSiO_2、TiO_2、Al_2O_3、Fe_2O_3、MnO、MgO、CaO、Na_2O、K_2O、P_2O_5の10元素およびLOIである。

ｂ）装置

理学電機工業社製RIX1000（FP法のグループ定量プログラム）

ｃ）試料調製

試料を振動ミル（平工製作所製TI100；10ml容タングステンカーバイト容器）で微粉砕し、105℃で４時間乾燥させた。この微粉砕試料について、ガラスビートを以下の条件で作成した。

溶融装置；自動剥離機構付理学電機工業社製高周波ビートサンプラー（3491A1）

溶剤及び希釈率；融剤（ホウ酸リチウム）5.000ｇ：試料0.500ｇ

剥離剤；LiI（溶融中１回投入）

溶融温度；1200℃　約７分

ｄ）測定条件

Ｘ線管；Cr（50Kv－50mA）

スペクトル；全元素Ｋα

分光結晶；LiF，PET，TAP，Ge

検出器；F-PC，SC

計数時間；PeaK40sec，Back20sec

３．結果

⑴　薄片作製観察

各試料の観察結果を表１に示す。胎土中の砂粒の状況は、７点の試料間では、大きく異なるものはなく、以下に述べるようにほぼ類似した様相を示す。

砂粒の全体量は中量、砂粒の最大径は１～２㎜程度であり、粒径の揃っている程度を表す淘汰度は、不良なものが多く、中程度のものが２点認められる。砂粒の種類構成は、鉱物片では石英が主体であり、他に微量のカリ長石、斜長石、黒雲母、角閃石、緑廉石、不透明鉱物などを伴う。なお、図92-23、図117-１、図69-２、S106の未掲載分の４点は他の試料に比べて斜長石がやや多く、図92-23は黒雲母も比較的多く含まれる。また、図94-35と図117-１を除く５点の試料には、斜方輝石または単斜輝石の輝石類が、微量認められる。岩石片では、いずれの試料にも花崗岩と火山ガラスが認められる。花崗岩は図117-１、図69-２、S106の未掲載分の３点に少量含まれ、他の試料は微量である。また、火山ガラスは、図83-９に少量含まれるほかは、微量である。さらに、図94-35と図117-１を除く５点の試料には、凝灰岩（鏡下の観察では溶結凝灰岩に由来すると考えられる）やガラス質安山岩、デイサイトおよび安山岩などの火山岩類が微量認められる。

微化石類では、珪藻化石が図92-23と図117-１に少量、図83-９、図93-29、図69-２、S106の未掲載分の各試料に微量認められ、図94-35には認められない。植物珪酸体は、図83-９、図93-29、図117-１に少量、他の試料には微量認められた。また、検出された珪藻化石は、全て淡水種である。図92-23では*Pinnularia viridis*、*Diploneis ovalis*などの湿地に生息する種類が多く認められ、図117-１では*Aulacoscira ambigua*、*Fragilaria construens*などの池沼に生息する種類が多く認められるなど、試料による種類構成の違いが認められた。

素地の状態は、いずれも孔隙の少ない目の詰まった素地であり、砂粒に弱い方向性が認められる。また、素地を構成している粘土は、ほとんどガラス化が認められず、比較的低温焼成であったことがわかる。素地

表１．胎土薄片観察結果

試料名	器種	部位	型式	出土遺構	備考	胎土分類	砂粒			砂粒の種類構成																								孔隙度	方向性	粘土残存量	含鉄量	備考
										鉱物片													岩石片									微化石						
							全体量	淘汰度	最大径	石英	カリ長石	斜長石	斜方輝石	単斜輝石	白雲母	黒雲母	角閃石	酸化角閃石	緑簾石	ジルコン	電気石	不透明鉱物	凝灰岩	ガラス岩	ガラス質安山岩	デイサイト	安山岩	多結晶石英	花崗岩	粘土塊	火山ガラス	珪藻	植物珪酸体					
図83-９	筒形器台	口縁部周辺	須玖Ⅱ式	S101	赤色顔料塗布	Ⅰ	○	×	1.3	○	＋	＋	＋	＋	＋	＋	＋	＋	＋			＋			＋		＋		＋		△	＋	△	△	○	◎	＋	試料表面部には水酸化鉄および黒雲母を主体とする粘土が幅0.03㎜程度で塗られている。火山ガラスはバブルウォール型主体で、褐色を呈するものが認められる。
図93-29	筒形器台	脚部	須玖Ⅱ式	S106	赤色顔料塗布	Ⅰ	○	△	1.1	○	＋	＋	＋	＋	＋	＋	＋	＋	＋			＋	＋	＋			＋	＋	＋		＋	＋	△	△	△	○	＋	試料表面部には水酸化鉄および黒雲母を主体とする粘土が幅0.05㎜程度で塗られている。火山ガラスはバブルウォール型主体で、褐色を呈するものが認められる。酸化角閃石は焼成によるものである。
図92-23	筒形器台	胴部	須玖Ⅱ式	S106	赤色顔料塗布	Ⅰ	○	×	1.5	○	＋	△		＋		○	＋		＋	＋		＋	＋					＋	＋	＋	＋	△	＋	△	○	◎	＋	試料表面部には水酸化鉄および黒雲母を主体とする粘土が幅0.05～0.1㎜程度で塗られている。火山ガラスはバブルウォール型主体。
図94-35	甕形土器	口縁部	須玖Ⅱ式	S106	赤色顔料塗布	Ⅳ	○	×	1.5	○	＋	＋			＋	＋	＋		＋		＋	＋							＋		＋		＋	△	△	◎	＋	試料表面部には水酸化鉄および黒雲母を主体とする粘土が幅0.03㎜程度で塗られている。火山ガラスはバブルウォール型主体で、褐色を呈するものが認められる。
図117-1	甕形土器		黒髪式	S009	甕棺上甕(小児用甕棺)	Ⅲ	○	△	1.1	○	＋	△			＋	＋			＋			＋							△	＋	＋	△	△	△	○	◎	＋	火山ガラスはバブルウォール型主体で、褐色を呈するものが認められる。
図69-２	甕形土器	口縁部～胴部	黒髪式	S147		Ⅱ	○	×	1.5	○	＋	△	＋			＋	＋		＋			＋	＋		＋		＋	＋	△		＋	＋	＋	△	△	◎	＋	試料表面部の素地は褐色化している。角閃石は弱酸化角閃石化の状態にある。火山ガラスはバブルウォール型主体で、褐色を呈するものが認められる。
S106の未掲載分	甕形土器	口縁部	黒髪式	S106		Ⅱ	○	×	2.3	○	＋	△	＋	＋	＋	＋	＋		＋			＋			＋	＋		＋	△		＋	＋	＋	△	△	○	＋	火山ガラスはバブルウォール型主体で、褐色を呈するものが認められる。

量比　◎：多量　○：中量　△：少量　＋：微量　×：なし
程度　◎：強い　○：中程度　△：弱い　×：なし

中に酸化鉄結核などが認められる試料はなく、全体的に含鉄量は微量である。

⑵　蛍光Ｘ線分析

各試料の分析結果を表２に示す。薄片観察では、特に大きく異なる胎土を認めることができなかったが、化学組成においても特に大きく異なる組成の試料は認められない。７点の試料は、主要な元素では、SiO_2が60%前後、Al_2O_3が20%前後、Fe_2O_3が４%前後という範囲にある。ただし、詳細にみれば、図83-９、図93-29、図92-23の３点は、他の試料に比べて、Fe_2O_3がやや多い傾向にあり、図117-１、図69-２、S106の未掲載分の３点はNa_2Oがやや多い傾向にある。さらに、図117-１は、TiO_2、MgOが他の試料に比べて少なく、逆にK_2Oが他の試料よりも多いことが指摘できる。各試料におけるこれらの元素の含有量を取り出して、折れ線グラフに表現し、図１に示す。

表２．蛍光Ｘ線分析結果（化学組成）

試料名	胎土分類	SiO_2	TiO_2	Al_2O_3	Fe_2O_3	MnO	MgO	CaO	Na_2O	K_2O	P_2O_5	Ig.loss	合計
図83-９	Ⅰ	66.74	0.96	20.96	4.29	0.03	0.60	1.06	1.20	1.84	1.32	1.00	100.00
図93-29	Ⅰ	64.95	0.90	19.48	4.18	0.03	0.58	1.07	1.18	1.82	0.79	5.02	100.00
図92-23	Ⅰ	59.90	0.84	20.69	4.79	0.03	0.68	0.83	0.81	1.51	0.54	9.38	100.00
図94-35	Ⅳ	57.45	1.02	22.77	3.61	0.01	0.29	0.67	0.89	1.70	0.89	10.70	100.00
図117-１	Ⅲ	60.91	0.71	20.62	3.46	0.01	0.16	0.64	1.48	2.22	1.06	8.73	100.00
図69-２	Ⅱ	58.77	1.01	23.44	2.76	0.03	0.48	1.13	1.41	1.35	0.87	8.75	100.00
S106の未掲載分	Ⅱ	57.92	0.97	22.84	3.59	0.03	0.55	1.59	1.64	1.48	1.26	8.13	100.00

＊単位は重量%

４．考察

⑴　胎土の分類と土器の分類について

今回の試料では、岩石片の産状において、凝灰岩や安山岩などの火山岩類を含む試料（図94-35と図117-１以外の５点）とそれらを含まない試料（図94-35と図117-１）とが認められるが、薄片観察における「微量」と「なし」の違いは、土器の１個体における岩石片の偏在に起因する可能性もあるため、胎土の違いとするかどうかは評価が難しい。しかし、今回の分析調査では、同時に化学組成も求めていることにより、図94-35と図117-１の２点が、MgO、CaO、Na_2O、K_2Oの量比において、他の５点とは異なるパターンを示していることが図１より読み取れる。すなわち、薄片観察で認められた火山岩を含まない図94-35と図117-１の岩石片の産状は、これら２点の胎土の特徴として捉えることができる。なお、

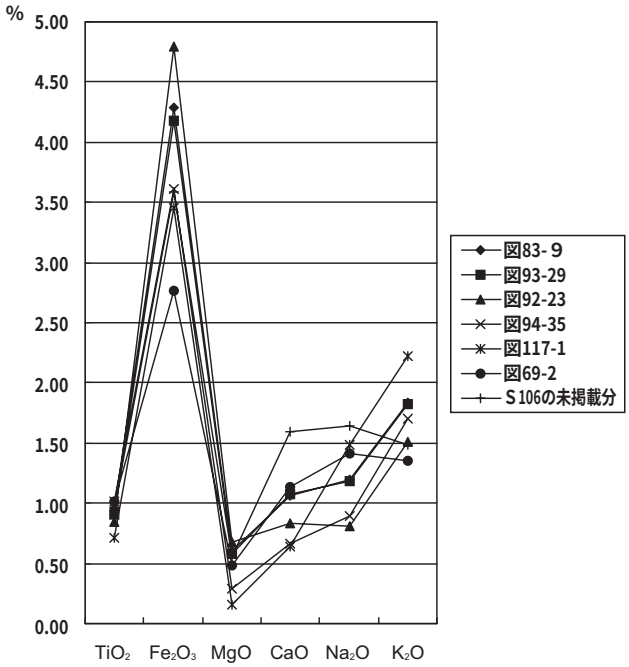


図１．胎土における特徴的な元素の割合

これら２点間でも、花崗岩片の量比とNa_2O、K_2Oの量比において違いが認められる。一方、火山岩類を含む５点の試料では、花崗岩片を少量含む図69-２、S106の未掲載分２点と微量含む図83-９、図93-29、図92-23の３点という区別ができるが、化学組成では、MgO、CaO、Na_2O、K_2Oの量比において、前２者は上に凸な折れ線を描くが、後３者は下に凸な折れ線を描く。したがって、薄片観察で認められた花崗岩の量比の違いも、胎土の違いとして捉えることができる。ここでは、７点間における以上の違いを下記のように分類整理しておきたい。

Ⅰ類：花崗岩類を微量含み、凝灰岩、安山岩など火山岩類を微量伴う。MgO、CaO、Na_2O、K_2Oの量比をつないだ折れ線グラフでは、下に凸な折れ線を示す。図83-９、図93-29、図92-23の３点がこれに分類される。

Ⅱ類：花崗岩類を少量含み、凝灰岩、安山岩など火山岩類を微量伴う。MgO、CaO、Na_2O、K_2Oの量比をつないだ折れ線グラフでは、上に凸な折れ線を示す。図69-２、S106の未掲載分の２点がこれに分類される。

Ⅲ類：花崗岩類を少量含み、火山岩類を伴わない。MgO、CaO、Na_2O、K_2Oの量比をつないだ折れ線グラフでは、直線に近い折れ線を示す。図117-１の１点がこれに分類される。

Ⅳ類：花崗岩類を微量含み、火山岩類を伴わない。MgO、CaO、Na_2O、K_2Oの量比をつないだ折れ線グラフでは、直線に近い折れ線を示すが、Ｃ類に比べて傾きが緩やかである。図94-35の１点がこれに分類される。

ここで、上記の胎土分類に各試料の器種と型式を対応させると以下の通りである。

Ⅰ類：筒形器台、須玖Ⅱ式

Ⅱ類：甕形土器、黒髪式

Ⅲ類：甕形土器、黒髪式、甕棺上甕

Ⅳ類：甕形土器、須玖Ⅱ式

上記のように今回の胎土の分類は、器種および型式によく一致している。ただし、今回の分析調査対象は、前田遺跡から出土した多量の弥生土器における点の試料のみであることから、今後より多くの分析調査事例を蓄積し、上記の関係比較的多数の個体でも成立するかどうか検討する必要がある。仮に、上記の関係が、前田遺跡の弥生土器全体に認められるとすれば、前田遺跡出土の弥生土器に関わる製作・使用状況を考える際の重要な資料となる。また、本遺跡周辺域における同時期の土器について、上記各類の胎土を見出すことができれば、地域間の関係を考える際の指標にもなる可能性がある。

なお、熊本県内に所在する地蔵原遺跡から出土した弥生土器の胎土分析例では、本分析と同様に薄片観察において微化石や岩石片および鉱物片の産状を調べ、蛍光Ｘ線分析による化学組成を求めている。個々の同定基準および分類基準は、本分析と完全に同様であるとは言えないが、胎土の特徴は捉えることができる。特に岩石片の産状を胎土の分類基準としていることは、本分析と共通する。地蔵原遺跡の報告例では、堆積岩類、深成岩類（本分析の多結晶石英および花崗岩類に相当)、火山岩類、片岩類、テフラ（本分析の火山ガラスに相当）などの名称で分類しており、これら各岩石類にアルファベットの記号を付けて胎土分類名としている（詳細は地蔵原遺跡報告書に譲る)。例えば、地蔵原遺跡では、片岩類が多く、火山岩類を伴うAd類、深成岩類が多く火山岩類を伴うBd類、堆積岩類が多く、深成岩類を伴うCb類、火山ガラスが多く、堆積岩類を伴うGc類、そして火山ガラスが多く、他の岩石片が極めて微量のG類という分類がされている。本分析結果をこの分類法で表すとすれば、Ⅰ類はDb類、Ⅱ類はBd類、Ⅲ類およびⅣ類はBg類となる。地蔵原遺跡と共通する胎土はBd類のみであることから、前田遺跡の弥生土器と地蔵原遺跡の弥生土器とでは、胎土の様相が大きく異なっていることが推測される。

こうした遺跡間の比較も含めて、今後とも継続的な分析調査の実施が望まれる。

⑵　土と周辺の地質について

胎土Ⅰ類およびⅡ類の鉱物片・岩石片の種類構成からは、土器製作地の背景として、黒雲母や角閃石を含む花崗岩または花崗閃緑岩の分布と、輝石安山岩質の溶岩や溶結凝灰岩からなる火山岩類の分布が推定される。前田遺跡の位置する菊池川流域には、三郡帯に属する白亜紀の深成岩類である玉名花崗閃緑岩や菊池花崗岩、筒ヶ岳花崗岩などからなる丘陵が広がり、またそれら丘陵の縁辺には、阿蘇火山から噴出した火砕流

堆積物からなる溶結凝灰岩が台地を形成している（九州地方土木地質図編纂委員会，1985；日本の地質「九州地方」編集委員会，1992)。このような地質は、上述のⅠ類およびⅡ類から推定される地質学的背景と非常に調和的である。このことから、Ⅰ類およびⅡ類に分類される土器の材料となった砂あるいは粘土は、菊池川流域の堆積物に由来する可能性がある。一方、Ⅲ類とⅣ類の由来する地域についても、推定される地質は、花崗岩類の分布地域であることから、菊池川流域の可能性がある。ただし、阿蘇火山の噴出物に由来する砕屑物が混在しないような場所（例えば上記花崗岩からなる丘陵内の谷内など）が想定される。いずれの胎土も、現時点では菊池川流域におけるさらに詳細な地域を限定するものではないが、今後、流域の自然堆積物も含めた分析例が蓄積されれば、胎土から推定される地域性をより具体的に考えることができる可能性がある。

Ⅱ．ガラス小玉・管玉の分析

１．試料

試料は、弥生時代の住居跡から出土したガラス小玉２点、管玉１点の合計３点である。

S075下層（図154-17）から出土したガラス小玉は、外径3.3㎜、内径約1.0㎜、厚さ1.9㎜の青色を呈するガラス小玉であり、透過型実体鏡下での観察では、両小口面、胴部は丸みを帯び、表面全体に気泡が露出したような穴が多数見られるが、両小口面および胴部に擦痕は確認されない。透明度が高いガラスであり、内部に気泡が散在する状態がはっきりと見られるが、気泡に明瞭な方向性は認められない。S106上層（図94-34）グリッドから出土したガラス小玉については、外径2.8㎜、内径約0.8㎜、厚さ2.2㎜の青色を呈するガラス小玉であり、透過型実体鏡下での観察では、S075下層（図154-17）から出土したガラス小玉と同様に両小口面、胴部は丸みを帯び、表面全体に気泡が露出したような穴が多数見られるが、両小口面および胴部に擦痕は確認されない。ただし、内部に散在する気泡の中に、孔と平行する方向に配列した列点状の小泡がはっきりと見られることから、製作加工に引き延ばし技法が用いられたことが想定される。

S076A-1層（図54-14）から出土した管玉は、外径3.4㎜、内径2.0㎜、長さ5.9㎜の緑灰色を呈する。実体顕微鏡下での観察では、表面組織は緻密であり、端部は丸みを帯びている。

２．分析方法

蛍光Ｘ線分析はサンプリングが困難な文化財の材質調査に広く用いられている手法であるが、ごく表面層を測定対象としているため、出土遺物表面が風化の影響を受けている場合、遺物本来の化学組成を導くことは難しく、本来の化学組成を知るためには風化層を除去しなければならない。ただし、遺物保存の観点から考えれば、外観上の変化を伴わない本分析法は、概略の化学組成を知るためには極めて有効な手法となる。

今回は、非破壊を前提とした材質調査を前提とすることから、試料はクリーニング処理や風化層の除去を行わずに用いる。材質調査に用いた装置は、セイコーインスツルメンツ株式会社製エネルギー分散型蛍光Ｘ線分析装置（SEA2120L）である。なお、ガラス小玉と管玉は、いずれも小さい遺物であることからマイラー膜（2.5μm）（ケンプレックス製CatNo106）で固定し、測定を実施する。

各試料について得られた特性Ｘ線スペクトルは元素定性を実施した後、マイラー膜による吸収補正を施し、ノンスタンダードによるFP法（ファンダメンタルパラメーター法）により、酸化物として定量演算を行い、相対含有率（質量％）を算出する。なお、本装置による定量可能元素は11Naから92Ｕの範囲にある元素であり、これら範囲外の元素についてはFP法による定量演算に利用することが出来ないこと、また半定量的に相対含有率を算出しているが、実際にはどの程度の深さまでＸ線が進入しているのか不確実な部分もあり(例えば表面の風化層のみから発生した特性Ｘ線を検出しているのか、あるいは風化層より内部の新鮮部分

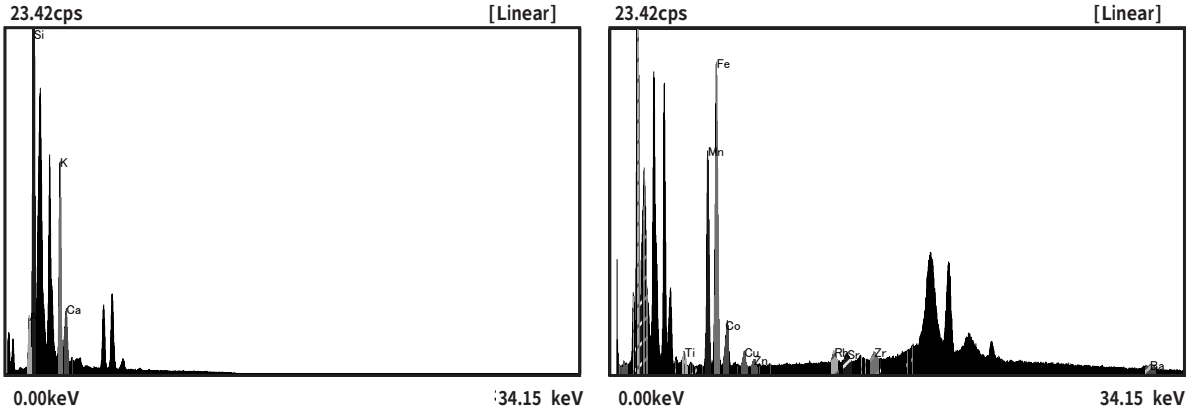


図２．ガラス小玉（図154-17）の蛍光Ｘ線スペクトル（左：励起電圧15kV、右：50kV)

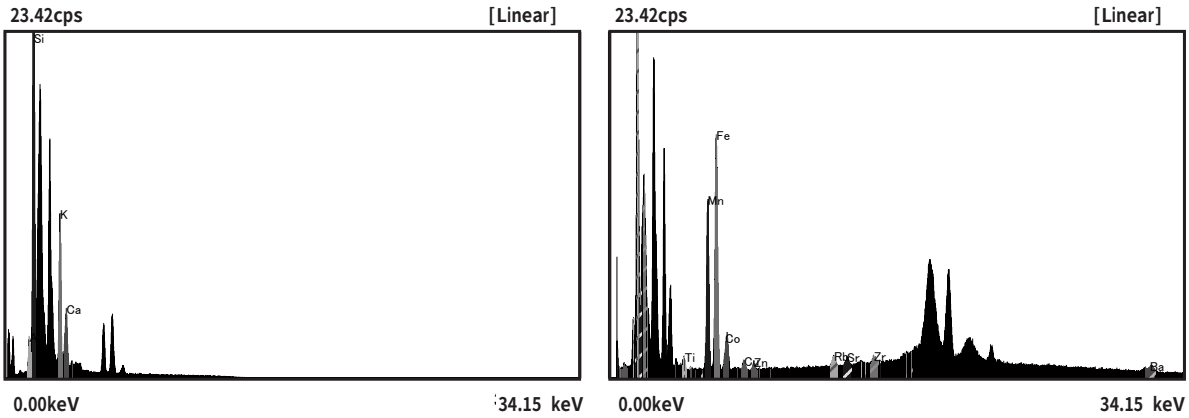


図３．ガラス小玉（図94-34）の蛍光Ｘ線スペクトル（左：励起電圧15kV、右：50kV)

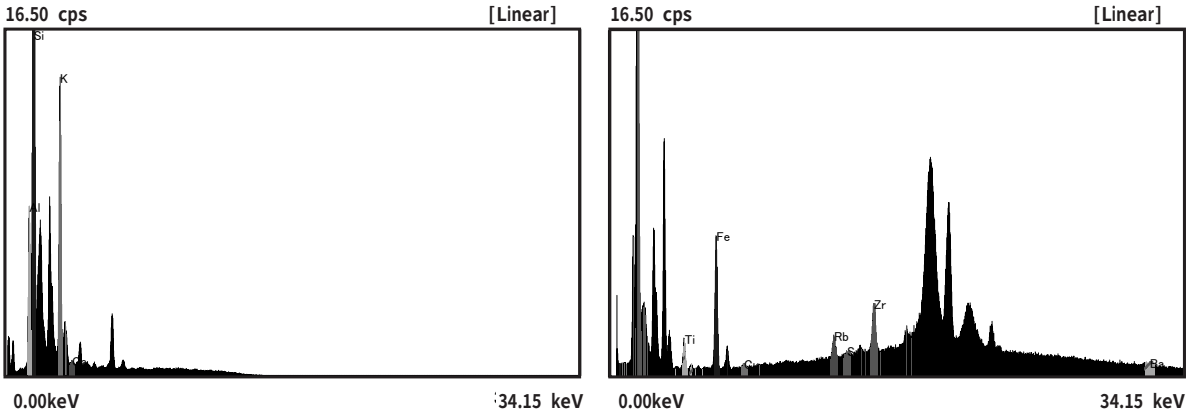


図４．管玉（図54-14）の蛍光Ｘ線スペクトル（左：励起電圧15kV、右：50kV)

表３．玉類の蛍光Ｘ線分析結果（化学組成）

試料名	SiO_2	Al_2O_3	TiO_2	Fe_2O_3	MnO	CaO	K_2O	Co_2O_3	CuO	ZnO	Rb_2O	SrO	ZrO_2	BaO
図154-17	73.47	10.19	0.31	2.29	1.98	2.21	9.19	0.10	0.07	0.03	0.02	0.01	0.01	0.11
図94-34	74.30	8.64	0.29	2.40	2.08	3.20	8.69	0.11	0.06	0.03	0.02	0.01	0.01	0.15
図54-14	79.55	12.98	0.46	0.67	—	0.27	5.96	—	0.01	—	0.02	0.01	0.03	0.06

(単位：wt%)

の材質も含めた特性X線を検出しているのか)、結果の評価には注意する必要がある。本分析における測定条件の詳細については以下に示す。

〈測定条件〉

測定装置：SEA2120L

管球ターゲット元素：Rh

コリメータ：φ10.0㎜

フィルター：なし

マイラー：ON

雰囲気：真空

励起電圧（kV）：15,50

管電流（μA）：自動設定

測定時間（秒）300

定性元素：Na～Ca（15kV)、Sc～U（50kV）

３．結果

⑴　ガラス小玉

調査対象としたガラス小玉の蛍光X線定性スペクトルを図２、３に示し、FP法により求めた化学組成を表２に掲げる。S075下層（図154-17）およびS106上層（図94-34）から出土したガラス小玉の化学組成は類似し、SiO_2が約74%、Al_2O_3が８～10%、K_2Oが約９％含まれる特徴を有す。これらの酸化物が試料としたガラスの主要な構成酸化物と考えられるが、網目形成酸化物であるSiO_2や、網目修飾酸化物であるK_2O・CaO、また、中間酸化物となるAl_2O_3について一応の定量を行ってはいるものの、表面風化層の除去を行っていないことから、本来の材質を反映した結果とは成り得ていないことに注意しておく必要がある。そのほか、Fe_2O_3およびMnOが２%程度含まれており、これらの遺物を特徴付けていることが指摘される。

⑵　管玉

調査対象とした管玉（図54-14）の蛍光X線定性スペクトルを図４に示し、FP法により求めた化学組成を表２に掲げた。管玉の化学組成は、SiO_2は79.55%、Al_2O_3が12.98%、K_2Oが5.96%であり、Fe_2O_3が0.67%と僅かに含まれる。K_2Oが多く、Fe_2O_3が少ない点に特徴が見られる。

４．考察

⑴　ガラス小玉

ガラスは珪酸原料に融剤および着色剤を調合し、溶融・冷却という過程を経て製品となる。ガラス製品における化学組成の違いは、原材料や製作技術あるいは製作時期の違いを反映し、当時の交易や流通の解明につながる情報の一つと考えられる。古代ガラスの遺物は大陸と地理的に近い九州地方を中心とした西日本の遺跡に多く見られ、これまでのところ国内においては弥生時代以降の遺跡においてのみ見いだされている。古代ガラスの化学組成に関する分類基準は、まだ体系的な基準は設けられていないが、山崎（1990）によれば古代のガラス製品は融剤に主として鉛を用いた鉛ガラスとナトリウム・カリウム等アルカリ元素を用いたアルカリ石灰ガラスに大別される。時代別にみると、弥生時代に出土するガラス製品は鉛ガラス、アルカリ石灰ガラス、またバリウムを多く含む特殊な鉛ガラスである。古墳時代に入ると鉛ガラスの出土が認められず、アルカリ石灰ガラスが主体となる。古墳時代中期後葉になるとアルカリ石灰ガラスの色が多様化し、古墳時代後期からは再び鉛ガラスも出土するようになると報告している。また、近年では肥塚（1995、1999、

2001)によって詳細な検討がなされており、融剤の種類によってアルカリ珪酸塩ガラス、鉛珪酸塩ガラス、アルカリ鉛珪酸塩ガラスのグループに分類しており、さらにこれらを構成酸化物の種類と量から、アルカリ珪酸塩ガラスをK_2O-SiO_2系・Na_2O-CaO-SiO_2系・K_2O-CaO-SiO_2系・Na_2O-Al_2O_3-CaO-SiO_2系・(Na_2O/K_2O)-CaO-SiO_2系に、鉛珪酸塩ガラスをPbO-SiO_2系・PbO-BaO-SiO_2系に、アルカリ鉛珪酸塩ガラスをK_2O-PbO-SiO_2系としている。

S075下層（図154-17）およびS106上層（図94-34）から出土したガラス小玉は共に、材質的にはアルカリ珪酸塩ガラスと考えられ、修飾酸化物であるK_2Oが多く、Na_2Oが検出されていないことからカリガラス(K_2O-SiO_2）である可能性が高いと思われる。なお、中間酸化物であるAl_2O_3がやや多い傾向にあることから、他のアルカリ珪酸塩ガラス（いわゆるアルカリ石灰ガラス）の可能性も否定できないが、肥塚（1999）はガラスの風化表面と内部新鮮面を調査し、風化による成分変動を検討し、カリガラスでは風化表面でK_2Oが減少し、Al_2O_3が増加する傾向にあることを指摘している。アルカリ珪酸塩ガラスは、鉛を含有するガラスと異なり、表面が風化の影響を受けている際に、外観上の変化をあまり伴わないことから、遺物表面が風化による侵食をどの程度受けているのか推し量ることは難しく、正確にはやはり内部新鮮面での確認が必要である。

一方、着色剤としては微量検出されたコバルト（Co）イオンが主たる要因と考えられるが、酸化物として２％程度含まれる鉄（Fe）やマンガン（Mn）イオンも関与していると推定される。なお、ガラス中のマンガン含有量が多いのは、着色剤であるコバルト鉱石に起因するとの見解が有力であり、マンガン含有量の多い中国産のコバルト鉱石がその起源と考えられている。

⑵　管玉

今回の管玉試料（図54-14）は、その外観的な特徴と分析により得られた化学組成から、碧玉製であると考えられる。碧玉は玉髄の一種であり、鉱物学的には赤、黄、褐、緑、黒色などのものも含むが、考古学では不純物が多く緑色を呈するものを碧玉と称する。また、慣用的には良質な緑色凝灰岩も含めて、碧玉と呼ぶことが多い。碧玉は、玉類の材料の一つとして弥生時代から利用され始め、代表的な石材産地としては島根県玉造の出雲石が挙げられるが、そのほかには新潟県佐渡、兵庫県玉谷、石川県二俣、富山県細入村、愛知県土岐、北海道興部、兵庫県石戸、北海道空知川、北海道茂辺地川などに碧玉もしくは碧玉様緑色岩の原産地がある（藁科，1999)。

碧玉の化学組成における主要成分は、玉髄を主な鉱物とすることから、SiO_2が多いことは勿論であるが、Al_2O_3、Fe_2O_3、K_2Oなどが不純物として多く含まれており、特に本遺物に関してはK_2Oが多く、Fe_2O_3が少ない特徴がある。碧玉の原産地は、この不純物として含まれる成分の量比よって可能と考えられるが、碧玉の原材産地を推定するにあたって、藁科（1999）は蛍光X線分析法により元素の種類と含有量を求め、特定の元素比をもって原産地を区別する指紋とし、産地推定を行う手法の一つとしている。ただし、化学組成の類似した原材産地が複数存在することも指摘しており、ESR（電子スピン共鳴吸収）分析による識別法を併用する必要性を述べている。したがって、化学組成が類似する碧玉については、同一原産地である可能性は指摘できるが、実際にはESR法などの他の識別法を併用した調査が必要となってくる。

今回の分析調査では、原産地資料を比較試料として供試していないことから、原産地に関して論議することはできないが、今後、同様な手法により、原産地データを蓄積し、管玉の製作に関する知見を得たい。

Ⅲ．種実遺体の同定

１．試料

試料は、各遺構から採取された土壌の洗い出しによって検出された種実遺体48点で、乾燥した状態で袋に

収められている。試料の詳細は、結果と共に表４に示す。

２．分析方法

試料を双眼実体顕微鏡下で観察し、同定可能な果実、種子などを抽出した。種実の形態的特徴を所有の現生標本および原色日本植物種子写真図鑑（石川，1994)、日本植物種子図鑑（中山ほか，2000）等と比較して種類を同定し、個数を求めた。分析後の植物遺体等は、種類毎にビンに詰め、乾燥剤を入れ保存する。

３．結果

種実遺体同定の結果、木本４種類（コナラ属、コナラ属－シイ属、アンズ－スモモ、モモ)、草本５種類(イネ、オオムギ、コムギ、サナエタデ近似種、マメ類）の種実と、種類不明の果実が同定された（表４)。種実の遺存状態は悪く、アンズ－スモモとサナエタデ近似種を除く全試料が炭化している。

種実の他には、５㎜角以下の炭化材や、不明炭化物（種類、部位の特定が困難な炭化物を示す)、昆虫遺骸、鉄片(黒色、径３－4.5㎜の球体で重量感があり磁着する。湯玉に似る)、礫などが検出された。

以下に、同定された種実の形態的特徴を、木本、草本、不明果実の順に記す。

〈木本〉

・コナラ属（*Quercus*）　ブナ科

S076の７試料と、B-3pit 1460と、MED1から、子葉が検出された。炭化し黒色を呈す。狭卵体で長さ10－13㎜、径７－９㎜程度。子葉は硬く緻密で、表面は縦方向に走る維管束の圧痕がみられる。２枚からなる子葉の合わせ目の線に沿って半分に割れている個体がみられる。合わせ目の表面は平滑で、正中線上は僅かに窪み、頂部には小さな孔（主根）がある。なお、大きさ７㎜程度と小型でシイ属（*Castanopsis*）の子葉との区別が困難である個体について、属名を「－（ハイフォン)」で結び表示した。

・アンズ－スモモ（*Prunus Armeniaca* L.－*Prunus salicina* Lindley）　バラ科サクラ属

S106 SNTr 上層（Ⅱ層？）から、核（内果皮）が検出された。灰褐色、レンズ状の広楕円形。長さ17㎜、幅13㎜、厚さ８㎜程度。頂部は円形、基部は切形で中央部に湾入した臍がある。一方の側面に幅広の縫合線が発達する。内果皮は厚く硬く、表面には浅く微細な凹点が網目模様をなし、ざらつく。本個体は他試料に比べて炭化していない点から、後代からの混入の可能性が考えられ、出土地点や層位等の検討を要する。幅広の縫合線がアンズに似る点と、後代のスモモの品種にも似る点から、両者を「－（ハイフォン)」で結び表示した。

・モモ（*Prunus parsica* Batsch）　バラ科サクラ属

S012 D－５ カベと、S055 ２層から、核（内果皮）の破片が検出された。炭化し黒色を呈す。破片の大きさ10㎜程度。内果皮は厚く硬く、表面は縦に流れる不規則な線状の深い窪みがあり、全体として粗いしわ状に見える。完形ならば、広楕円形でやや偏平、先端部はやや尖る。基部は切形で中央部に湾入した臍がある。一方の側面に縫合線が発達する。

〈草本〉

・イネ（*Oryza sativa* L.）　イネ科イネ属

S004の４試料と、S012 C－４ Ⅱ層と、S075 A－３層と、S076の３試料と、前田不明から、胚乳が検出された。炭化し黒色を呈す。胚乳は長楕円形でやや偏平。長さ4-5mm、幅2.5mm、厚さ1.5mm程度。基部には胚が脱落した凹部がある。表面はやや平滑で、2-3本の縦溝がある。

・オオムギ（*Hordeum valgale* L.）　イネ科オオムギ属

S004？ 種子と、S033 C－１層と、S044 B－２と、S053 D－１層と、S073 D－１層から、胚乳が検出された。炭化し黒色を呈す。紡錘状長楕円体で両端はやや尖る。長さ５－７㎜、径３－４㎜程度。腹面は１

表４．種実遺体同定結果

種類名	木本				草本						不明果実	炭化材	不明炭化物	昆虫遺骸	鉄片	礫	
	コナラ属	コナラ属―シイ属	アンズ―スモモ	モモ	イネ	オオムギ	コムギ	ムギ類	サナエタデ近似種	マメ類							
部位	子葉	子葉	核	核	胚乳	胚乳	胚乳	胚乳	果実	種子							
状態	炭化	炭化		炭化	炭化	炭化	炭化	炭化		炭化	炭化	炭化	炭化				備考
S003 Ａ－２ ３A層 カーボン	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	1	－	－	－	
S003 Ａ５ １層	－	－	－	－	－	－	－	－	－	2	－	－	－	－	－	－	
S003 Ａ－12 ２A層	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	
S003 Ｂ－２ ２層	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	
S003 Ｂ－８ ２A層	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	
S003 Ｃ 床面（炭化種子）	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	
S003 Ｃ－２層	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	
S004 Ｉ層	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
S004 ２層 種子？	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	
S004 南ベルトⅢ層 種子	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	
S004 Ｂ－23	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
S004	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
S004 床面	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	
S004？ 種子	－	－	－	－	1	2	－	－	－	1	－	1	－	－	－	1	
S005 A区 ピット	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	2	－	3	－	－	
S005 A	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	
S005 床面 種子	－	－	－	－	－	－	－	－	4	－	－	2	1	－	－	－	
S012 Aカベ	－	－	－	－	－	－	－	－	－	2	－	－	－	－	－	－	
S012 Ｃ－４ Ⅱ層	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
S012 Ｄ－５ カベ	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
S027 上層	－	－	－	－	－	－	－	－	－	4	－	－	－	－	－	1	
S033 Ｃ－1層	－	－	－	－	－	1	－	4	－	－	－	1	－	－	－	－	
S044 Ｂ－2	－	－	－	－	－	1	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	
S044 Ｃ－２層	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	1	
S053 Ｄ－１層	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
S055 ２層	－	－	－	2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
S073 Ｃ－２層	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	
S073 Ｄ－１層	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
S073 中層	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	
S073 中層	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	
S075 Ａ－３層	－	－	－	－	4	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
S076 Ａ－１層	－	－	－	－	2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
S076 Ａ－２	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
S076 Ａ－２層 ベルト	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
S076 Ｂ－２層	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
S076 Ｂ－２層	11	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	1	10	－	－	－	不明炭化物はコナラ属？
S076 Ｃ－１層	4	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
S076 Ｄ－１層	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
S076 Ｄ－１層	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	
S076 ミゾ	2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
S076 SE一括 １区	19	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	20	－	－	－	不明炭化物はコナラ属？
S077 住居ベルト 上層	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－	
S090 Ｃ－２層	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	7	－	－	－	－	－	
S138 22	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	1	
B－3pit 1460	2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
前田不明	－	1	－	－	1	－	1	1	－	－	－	1	1	－	－	－	
MED1	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
S106 SNTr 上層（Ⅱ層？）	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
合計	41	2	1	3	14	6	1	6	5	18	7	10	36	3	2	5	

本のやや太く深い縦溝があり、背面基部には胚の痕跡があり丸く窪む。表面はやや平滑。

・コムギ（*Triticum aestivum* L.）　イネ科コムギ属

前田不明から、胚乳が検出された。炭化し黒色を呈す。楕円体で全体的に丸みを帯びている。長さ４㎜、径３㎜程度。腹面には１本のやや太く深い縦溝がある。背面基部には胚の痕跡があり丸く窪む。表面はやや平滑。なお、S033 Ｃ－１層と、S076 Ｄ－１層と、前田不明から検出された、遺存状態が悪くオオムギとの判別が難しい破損個体を、ムギ類とした。

・サナエタデ近似種（*Polygonum* cf. *lapathifolium* L.）　タデ科タデ属

S005 Ａ区 ピットと、S005 床面 種子から、果実が検出された。黒褐色、円形で偏平な二面体。径２㎜程度。両面中央はやや凹む。先端部は尖り、基部から花被の脈が伸びる。花被の先は２つに分かれ反りかえる。

・マメ類（Leguminosae）　マメ科

S003の３試料と、S004の４試料と、S005 Ａと、S012 Ａカベと、S027 上層と、S044 Ｂ－２と、S073 中層から、種子が検出された。炭化し黒色を呈す。長楕円体で長さ３－５㎜、径３㎜程度。焼け膨れ、表面が崩れている等遺存状態は悪いが、腹面中央の子葉の合わせ目上に長楕円形状で隆起する臍がある、ササゲ属（*Vigna*）と思われる個体もみられる。子葉の合わせ目から半分に割れた1片もみられるが、合わせ目の表面は不明瞭。種皮表面はやや平滑で光沢がある。ササゲ属にはササゲ、アズキ、リョクトウなどが含まれ、遺跡出土の炭化マメ類をその形態からを同定する試みが行われている（吉崎，1992）。一方で、野生種との雑種も多いため、形態のみから現在の特定の種類に比定することは難しいと考えられている（南木，1991；南木・中川，2000など）。

〈不明果実〉

S090 Ｃ－２層から、種類不明の果実の破片が検出された。炭化し黒色を呈す。破片の大きさ14㎜程度。長さ６㎜、幅２㎜の長楕円形で偏平の種子が入る５個程度の室がみられる。

４．考察

モモ、イネ、オオムギ、コムギ、マメ類は、古くから栽培のために渡来した植物である（南木，1991）。モモは観賞用の他、果実や核の中にある仁（種子）などが食用、薬用等に広く利用される。イネ、オオムギ、コムギ、マメ類は、胚乳や子葉が食用される。自生していたと考えられる種類では、高木のコナラ属、コナラ属－シイ属の果実は、コナラ属の一部はあく抜きを要するが食用可能である。これらの栽培植物を含む有用植物が、住居跡などの各遺構から他の遺物と共に検出された状況を考慮すると、本遺跡近辺で栽培もしくは採取され、集落内で植物質食糧として利用されていたことが推定される。また、全て炭化していることから、火熱を受けたものと思われる。

本遺跡では、弥生時代中期後半～後期前半の住居跡から石包丁が出土し、土壌からイネのプラントオパールが多量検出されている（熊本県教育庁文化課，2002）。また、コナラ属、イネ、オオムギ、コムギ、ササゲ属の種実が全て炭化した状態で検出されており（新山，参考資料）、今回の分析結果とも一致する。

なお、アンズ－スモモや、サナエタデ近似種の２種類は炭化していない。渡来種のアンズまたはスモモは、果実や核の中にある仁（種子）などが食用、薬用等に広く利用される。サナエタデ近似種は人里近い林縁や明るく開けた草地に生育する種類であることから、本遺跡周辺に生育していたものに由来すると思われる。ただし、これらは炭化していないことから、住居等が廃絶後に混入した後代のものである可能性が考えられる。この点について、吉崎（1992）は、低湿地遺跡以外から出土する炭化していない種実は、後代からの混入の可能性があるとして、炭化種実と同様に扱わないように警告している。よって、今回は非炭化種実を除

外して検討したが、今後は、これら２種類の出土地点や層位等の確認を行い、当該期の植物利用について検討したいと考える。

引用文献

石川茂雄，1994，原色日本植物種子写真図鑑.石川茂雄図鑑刊行委員会，328ｐ．

肥塚隆保，1995，古代ガラスの材質，古代に挑戦する自然科学．クバプロ，94―108．

肥塚隆保，1999，出土遺物の材質調査―日本で出土した古代ガラスの研究―，理学電気ジャーナル，30，１．理学電気工業，33―40．

肥塚隆保，2001，古代ガラスの材質と鉛同位体比，同位体・質量分析法を用いた歴史資料の研究．国立歴史民族博物館研究報告，第86集，財団法人歴史民族博物館振興会，233―268．

熊本県教育庁文化課，2002，発掘調査でわかった前田遺跡の様子．前田遺跡発掘調査 説明会資料，４ｐ．

九州地方土木地質図編纂委員会，1985，20万分の１九州地方土木地質図.国土開発技術研究センター．

南木睦彦，1991，栽培植物，古墳時代の研究４　生産と流通Ⅰ，石野博信・岩崎卓也・河上邦彦・白石太一郎編，雄山閣，165―174．

南木睦彦・中川　治美，2000，大型植物遺体．琵琶湖開発事業関連埋蔵文化財発掘調査報告書３－２　粟津湖底遺跡　自然流路（粟津湖底遺跡Ⅲ），滋賀県教育委員会・財団法人滋賀県文化財保護協会，49―112．

中山至大・井之口希秀・南谷忠志，2000，日本植物種子図鑑.東北大学出版会，642ｐ．

日本の地質「九州地方」編集委員会，1992，日本の地質９　九州地方，共立出版，371ｐ．

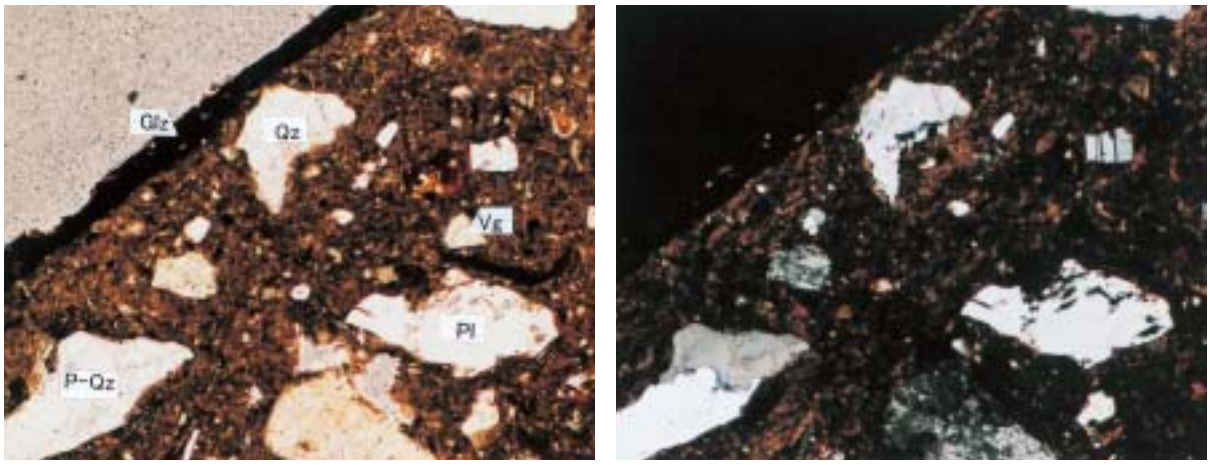
新山雅広，2003，前田遺跡から出土した炭化種実．６ｐ．(依頼者から参考資料として提供された冊子)

藁科哲男，1999，石器および玉類原材料の産地分析．考古学と年代測定学・地球化学．同成社，259―293．

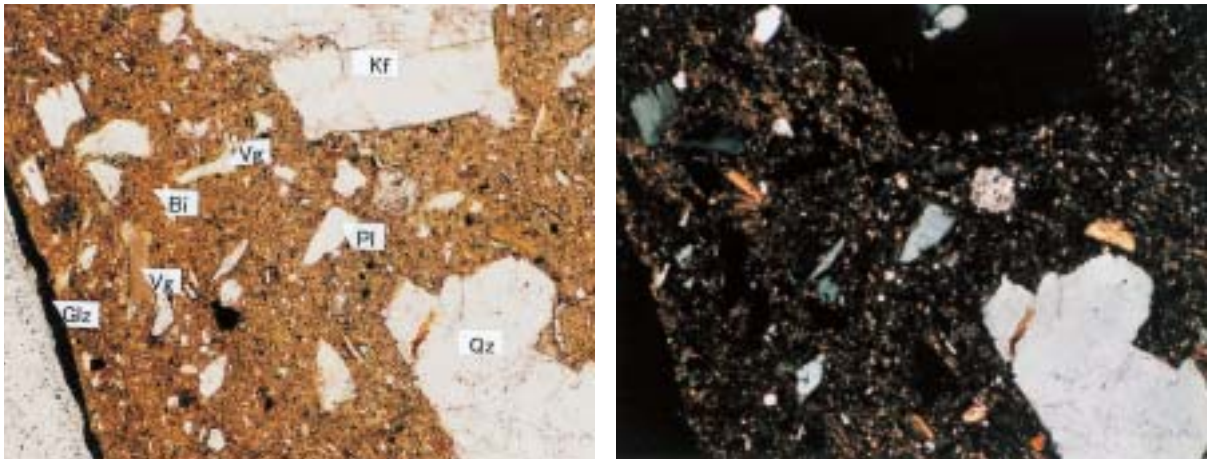
山崎一雄，1990，日本出土のガラスの化学的研究，古文化財の科学．思文閣出版，274―300．

吉崎昌一，1992，古代雑穀の検出．月刊考古学ジャーナル，№355，２―14．

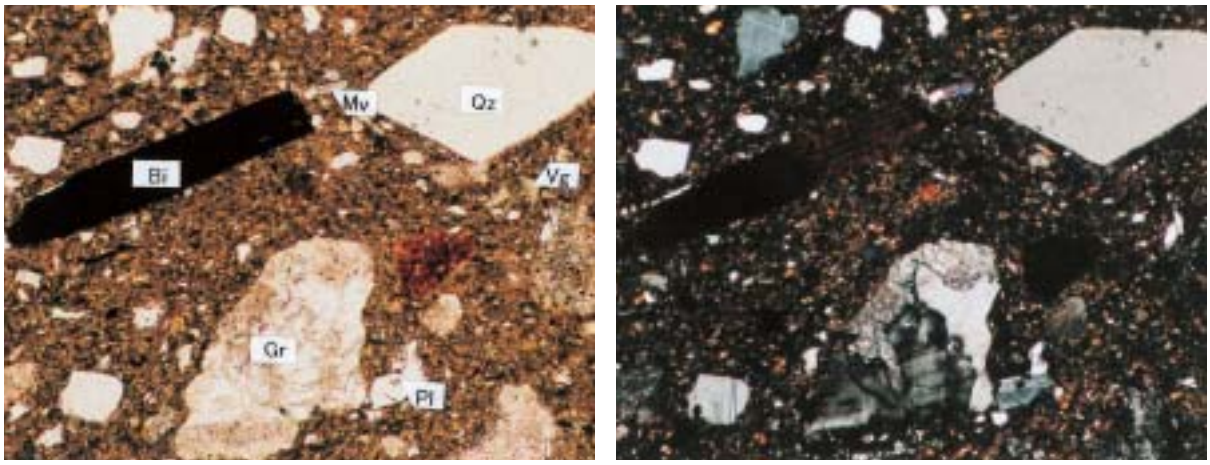
図版１　胎土薄片



１．図92-23　筒型器台　胴部　須玖Ⅱ式　S106



２．図94-35　甕型土器　口縁部　須玖Ⅱ式　S106

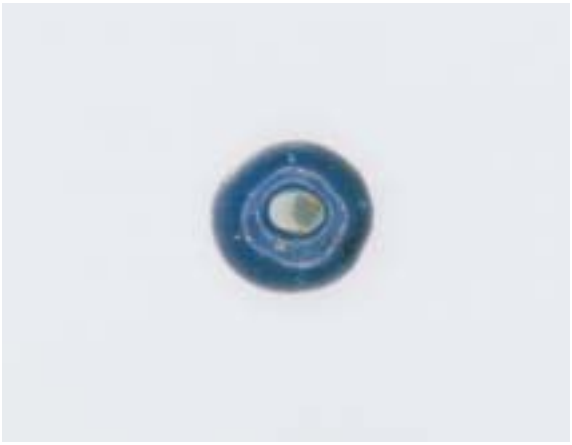


３．S106の未掲載分　甕型土器　口縁部　黒髪式　S106

Qz：石英．Kf：カリ長石．Pl：斜長石．Bi：黒雲母．Mv：白雲母
P-Qz：多結晶石英．Gr：花崗岩．Vg：火山ガラス．Glz：赤色顔料．
写真左列は下方ポーラー、写真右列は直交ポーラー下。

0.5㎜

図版２　ガラス小玉・管玉



１．S075　下層出土（図154-17）

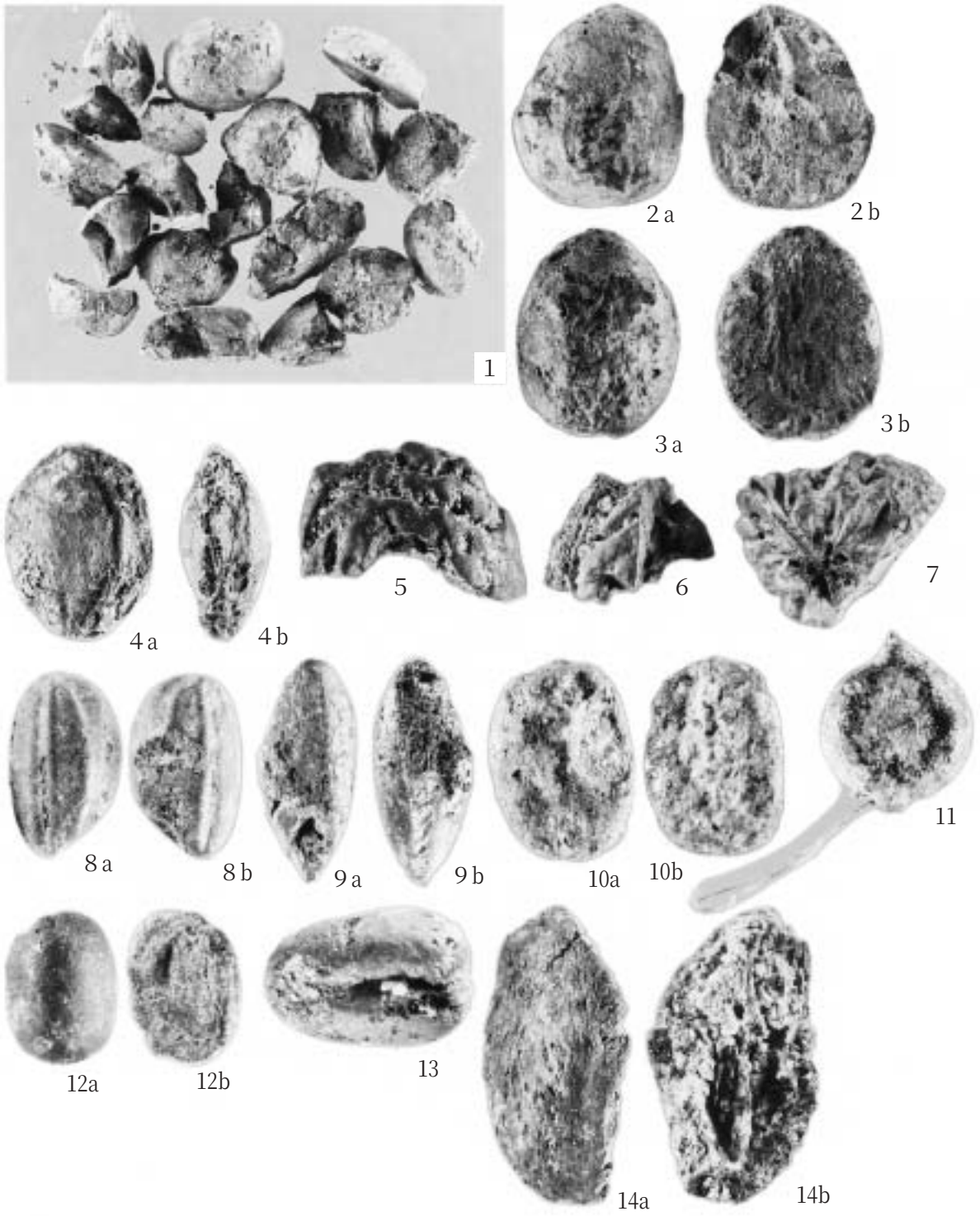
２．S106　上層（図94-34）

３．S076　A-１層出土（図54-14）

4㎜

（１，２，３）

図版３　種実遺体



1．コナラ属 子葉（S076 B-２層）
2．コナラ属 子葉（B-３pit 1460）
3．コナラ属 子葉（B-３pit 1460）
4．アンズ－スモモ 核（S106 SNTr 上層(Ⅱ層？)）
5．モモ 核（S012 D-５ カベ）
6．モモ 核（S055 ２層）
7．モモ 核（S055 ２層）
8．イネ 胚乳（S075 A-３層）
9．オオムギ 胚乳（S073 D-１層）
10．コムギ 胚乳（前田不明）
11．サナエタデ近似種 果実（S005 床面種子）
12．マメ類 種子（S027 上層 種子）
13．マメ類 種子（S027 上層 種子）
14．不明炭素果実（S090 C-２層）

前田遺跡出土勾玉の原材産地分析

藁科哲男（京都大学原子炉実験所）

１．はじめに

勾玉、玉、垂玉、管玉などの岩石名の推定は、一般的には肉眼観察で岩石の種類を決定し、それが真実のよう思われているのが実態である。玉類の原材料としては滑石、軟玉（角閃石)、硬玉、蛇紋岩、結晶片岩、碧玉、緑色凝灰岩（グリーンタフ）などが推測される。　それぞれの岩石の命名定義に従って岩石名を決定するが、非破壊で命名定義を求めるには限度があり、若干の傷を覚悟して硬度を求める、色、光沢感、比重、介在物の有無、定性的な成分組成を求めるなどで、岩石名を決める重要な結晶構造、屈折率など鉱物組成を明らかにする情報は得られない。また、肉眼観察で求めた岩石名が岩石・鉱物学界で通用するとは思えない。原石名が決定されたのみでは考古学の資料としては不完全で、例えば緑色凝灰岩の管玉と言う岩石名が決められても産地は沢山あり何れの産地か不明である。また、軟らかく加工が容易だと想像できても、実際の硬度、打撃亀裂性などを測定した上で考察しなければ、古代の管玉製作技術に関する資料として無意味である。地学の専門家でも、肉眼観察では、岩石名を間違うことは避けられないと指摘している。岩石名を決定することよりも、どこの産地の原石が使用されているか、産地分析が行われて初めて、考古学に寄与できる資料となり、また産地分析の過程で岩石名決定に関係する情報の一部が得られるが岩石名を特定するには至らない場合が多い。糸魚川市でヒスイが発見されるまでは、中国、雲南、ビルマ説、発見後は、専ら国内説で、岩石学的方法[1]および貴重な考古遺物を非破壊で産地分析を行った蛍光Ｘ線分析で行う元素比法[2, 3), 4)]が報告されている。また、碧玉製管玉の産地分析で系統的に行った研究は蛍光Ｘ線分析法と電子スピン共鳴法を併用し産地分析より正確に行った例[5)]が報告されている。石鏃など石器と玉類の製品はそれぞれ使用目的が異なるため、それぞれの産地分析で得られた結果の意味も異なる。⑴石器の原材産地推定で明らかになる、遺跡から石材原産地までの移動、活動範囲は、石器は生活必需品であるため、生活上必要な生活圏と考えられる。⑵玉類は古代人が生きるために必ずしもいるものではない。勾玉、管玉は権力の象徴、お祭、御守り、占いの道具、アクセサリーとして、精神的な面に重要な作用を与えると考えられる。従って、玉類の産地分析で、明らかになるヒスイ製玉類の原石の分布範囲は、権力の象徴としての玉類であれば、権力圏を現わしているかもしれない、お祭、御守り、占いの道具であれば、同じような習慣を持つ文化圏が考えられる。石器の原材産地分析で得られない貴重な資料を考古学の分野に提供することができる。産地分析で遺物の原材産地が特定出来なくても得られた分析値と同じ組成の遺物を使用した遺跡の広がりを求めることにより、遺跡間相互になんらかの関係があったと推測できる情報が得られ、将来、原材産地の所在地が明らかになれば原石伝播に関する情報も得られる。今回分析を行った遺物は熊本県玉名市大字月田字前田に位置する前田遺跡出土の勾玉２個で、ヒスイ、結晶片岩様緑色岩の順番に報告する。

非破壊での産地分析の方法と手段

原産地推定の第一歩は、原産地間を区別する人間で言えば指紋のような、その原産地だけにしかないという指標を見つけなければならない。その区別するための指紋は鉱物組成の組合わせ、比重の違い、原石に含有されている元素組成の違いなどにより、原産地同士を区別できなければ産地分析はできない。成功するかどうかは、とにかく行ってみなければわからない。原産地同士が指紋でもって区別できたならば、次に遺跡から出土する遺物の指紋と原産地の指紋を比較して、一致しない原産地を消去して一致する原産地の原石が

使用されていると判定する。また、原石産地が不明の玉材を使用した遺物についても、遺物同士の指紋を比較することにより、同質の玉材が使用されているか否か判定できる。

ヒスイ、碧玉製勾玉、大珠、玉などは、国宝、重要文化財級のものが多くて、非破壊で産地分析が行なえる方法でなければ発展しない。石器の原材産地分析で成功している[4]非破壊で分析を行なう蛍光X線法を用いて玉類に含有されている元素を分析する。

遺跡から出土した大珠、勾玉、管玉などを水洗いして、試料ホルダーに置くだけの、完全な非破壊で産地分析を行った。ヒスイ製玉類は蛍光X線分析法で元素の種類と含有量を求め、試料の形や大きさの違いの影響を打ち消すために分析された元素同士で含有量の比をり、この元素比の値を原産地を区別する指紋とした。結晶片岩様緑色玉類はＥＳＲ法を併用するが試料を全く破壊することなく、玉に含有されている常磁性種を分析し、その信号から玉材産地間を区別する指標を見つけて、産地分析に利用した[5]。

前田遺跡出土のヒスイ製勾玉（図277-４）の原材産地分析

ヒスイの原産地

分析したヒスイ原石は、日本国内産では⑴新潟県糸魚川市と、それに隣接する同県西頚城郡青海町から産出する糸魚川産、⑵軟玉ヒスイと言われる北海道沙流郡日高町千栄の日高産[6]、⑶鳥取県八頭郡若桜町角谷の若桜産、⑷岡山県阿哲郡大佐町の大佐産、⑸長崎県長崎市三重町の長崎産であり、さらに⑹西黒田ヒスイと呼ばれている静岡県引佐郡引佐町の引佐産の原石、⑺兵庫県養父郡大屋町からの原石、⑻海道旭川市神居町の神居コタン産、⑼岐阜県大野郡丹生川村の飛騨産原石、また、肉眼的にヒスイに類似した原石で玉類等の原材になったのではないかと考えられる⑽長崎県西彼杵郡大瀬戸町雪浦からの原石である。国内産のヒスイ原産地は、これでほぼつくされていると思われる。これら原石の原産地を図１に示す。これに加えて外国産として、ミャンマー産の硬玉と台湾産軟玉および韓国、春川産軟玉などのヒスイの分析も行われている。

ヒスイ試料の蛍光X線分析

ヒスイの主成分元素はナトリュウム（Na）、アルミニュム（Al）、珪素（Si）などの軽元素[7]で、次いで比較的含有量の多いカルシウム（Ca）、鉄（Fe）、ストロンチウム（Sr）である。また、ヒスイに微量含有されている、カリウム（K）、チタニウム（Ti）、クロム（Cr）、マンガン（Mn）、ルビジウム（Rb）、イットリウム（Y）、ジルコニウム（Zr）、ニオビウム（Nb）、バリウム（Ba）、ランタニウム（La）、セリウム（Ce）の各元素を分析した。主成分の珪素など軽元素の分析を行わないときには、励起線源のX線が試料によって散乱されたピークを観測し、そのピークの大きさが主に試料の分析面積に比例することに注目し、そのピークを含有元素と同じく産地分析の指標として利用できる。ナトリュウム元素はヒスイ岩を構成するヒスイ輝石に含有される重要な元素で、出土した遺物が硬玉か否かを判定するには直接ヒスイ輝石を観測すればよい、しかし、ヒスイ輝石を非破壊で検出きる方法が確立されるまでは、蛍光X線分析でNa元素を分析し間接的にヒスイ輝石の存在を推測する方法にたよる他ないのではなかろか。各原産地の原石のなかで、確実にNa元素の含有が確認されるヒスイ産地は糸魚川、大屋、若桜、大佐、神居コタン、長崎の各原産地の原石でこれらは硬玉に属すると思われる。Na元素の含有量が分析誤差範囲の産地は日高、引佐、飛騨の各産地の原石である。糸魚川産原石のうち緑色系の硬玉に、肉眼的に最も似た原石を産出する産地は、他の硬玉産地よりも後述した日高、飛騨、引佐の原石に見られる。各原産地の原石の他の特徴を以下に記述する。若桜産のヒスイ原石はSrのピークがFeのピークに比べて相当大きく、またZrの隣に非常に小さなNbのピークが見られ、Baのピークも大きく、糸魚川産では見られないLa、Ceのピークが観測されている。このCeのピークは大佐産と長崎産ヒスイ原石のスペクトルにも見られ、これらCeを含有する原石の産地は、糸魚川

の産地と区別するときに有効な判定基準になる。長崎産ヒスイは、Tiの含有量が多く、Yのピークが見られるのが特徴的である。日高産、引佐産、飛騨産ヒスイ原石は、CaピークにくべてTiとかK、またFeピークに比べてSrなどのピークが小さいのが特徴で糸魚川産のものと区別するときの判断基準になる。

春川軟玉原石は、優白色の工芸加工性に優れた原石で、軟玉であるが、古代では勾玉などの原材料となった可能性も考えられることから分析を行った。この原石には、Sr、Zrのピークが全く見られないため、糸魚川産などのSr、Zrを含有する原石と容易に区別できる。また、長崎県雪浦のヒスイ類似岩をヒスイの代替品として勾玉、大珠などの原材料に使用している可能性が考えられ、分析を行った。この岩石は比重が2.91と小さく、比重でもって他の産地のものと区別できる。また 砒素（As）のピークが見られる個体が多いのも特徴である。

これら各原産地の原石は同じ産地の原石であっても、原石ごとに元素の含有量には異同がある。したがって、一つの原産地について多数の原石を分析し、各元素の含有量の変動の範囲を求めて、その産地の原石の特徴としなければならない。

糸魚川産のヒスイは、白色系が多いが、緑色系の半透明の良質のもの、青色系、コバルト系、およびこれらの色が白地に縞となって入っているものなど様々である。分析した糸魚川産原石の比重を調べると、硬玉の3.2～3.4の範囲のものと、3.2に達しない軟玉に分類される原石もある。若桜産、大佐産の分析した原石には、半透明の緑色のものはないが、全体が淡青緑かかった乳白色のような原石、また大屋産は乳白色が多い。このうち大佐産、大屋産の原石では比重が3.20に達したものはなく、これらの原石は比重からは軟玉に分類される。しかし、ヒスイ輝石の含有量が少ない硬玉とも考えられる。長崎産のヒスイ原石は３個しか分析できなかったが良質である。このうち１個は濃い緑色で、他の２個は淡い緑色で、少しガラス質である。日高産ヒスイの原石は肉眼観察では比較的糸魚川産のヒスイに似ている。ミャンマー産のヒスイ原石は、質、種類とも糸魚川産のヒスイ原石と同じものが見られ肉眼で両産地の原石を区別することは不可能と考えられる。分析した台湾産のヒスイは軟玉に属するもので、暗緑色のガラス質な原石である。これら各原産地の原石の分析結果から各産地を区別する判断基準を引き出し産地分析の指標とする。

ヒスイ原産地の判別基準

原石産地の判定を行なうときの判断基準を原石の分析データーから引き出すが、分析個数が少ないため、必ずしもその原産地の特徴を十分に反映したと言えない産地もある。表１－１、２に各原産地ごとの原石の比重と元素比量をまとめた。元素比量の数値は、その原産地の分析した原石の中での最小値と最大値の範囲を示し、判定基準⑴とした。ヒスイで比重が3.19未満の軽い原石は、硬玉ヒスイではない可能性があるが、糸魚川産の原石で比重が3.19未満のものも分析を行った。大佐産のヒスイは比重が3.17未満であった。したがって、遺物の比重が3.3 以上を示す場合は判定基準⑴により大佐産のヒスイでないと言える。日高産、引佐産の両ヒスイではSr/Feの比の値が小さくて、糸魚川産と区別する判定基準⑴になる。表１－２の判定基準⑵にはCr、Mn、Rb、Y、Nb、Ba、La、Ceの各元素の蛍光Ｘ線ピークが観測できた個体数を％で示した表である。例えば遺物を分析してBaのピークが観測されれなかったとき、その遺物は、若桜、大佐、長崎産のヒスイでないといえる。

図２はヒスイ原石のSr/Feの比の値とSr/Zrの比の値の分布を各原産地ごとにまとめて分布範囲を示したものである。●は糸魚川産のヒスイで、分布の範囲を実線で囲み、この枠内に遺物の測定点が入れば糸魚川産の原石である可能性が高いと判断する。□はミャンマー産のヒスイの分布で、その範囲を短い破線で囲む。糸魚川の実線の範囲とミャンマーの破線の範囲の大部分は重なり両者は区別できないが、ミャンマーと糸魚川が区別される部分がSr/Fe の値（横軸）2.5以上の範囲で見られる。この範囲の中に、遺物の測定点が入

ればミャンマー産と考えるより、糸魚川産である可能性の方が高いと考えられる。▲は大佐産の、△は若桜産の、▽は大屋産のヒスイの分布を示している。

糸魚川と大佐、若桜、大屋のヒスイが重なる部分に遺物の測定点が入った場合、これら複数の原産地を考えなければならない。しかし、この遺物にBaの蛍光X線スペクトルのピークが見られなかった場合、表１－２の判定基準⑵に従えば糸魚川産または大屋産のヒスイであると判定でき、その遺物の比重が3.2以上あれば大屋産でなくて、糸魚川産と推定される。■は長崎産ヒスイの分布で、独立した分布の範囲を持っていて他の産地のヒスイと容易に区別できる。台湾産の軟玉はグラフの左下に外れる。★印の日高産および＊印の引佐産ヒスイの分布の一部分が、糸魚川産と重なり区別されない範囲がみられる。しかし、Ca/Si比とSr/Fe比を指標とすることにより（図３)、糸魚川産ヒスイは日高産および引佐産の両ヒスイと区別することができる。Na/Si比とMg/Si比を各原産地の原石について分布を示すことにより（図４)、遺物がどこの原産地の分布内に帰属するかにより、硬玉か軟玉かの判別の手段の一つになると考えられる。

前田遺跡出土のヒスイ製勾玉（図277-４）の分析結果

出土玉の比重が3.2以上（アルキメデス法）あり良質硬玉の可能性の範囲に入る。蛍光X線スペクトル(図５－１）には硬玉の主成分の一つのNa元素が観測されることから、この玉を硬玉製と判定した。また、分析できた含有元素の結果を表２に示した。

この硬玉製玉の原産地を明にするために、これら分析値を各原産地の原石の元素比量Sr/Fe対Zr/Srの分布範囲と比較しすると、玉は糸魚川産の範囲にのみ入り、糸魚川産地のヒスイの可能性を示す（図２)。また、Sr/Fe対Ca/Siでも、玉は糸魚川、大佐、若桜の重なった範囲に入り、これら何れかの産地のヒスイの可能性を示示した（図３)。またNa/Si対Mg/Siの図４では、玉は糸魚川、若桜、神居コタンの重なる範囲に入っている。これら判定に使用した図と判定基準表１の比重の範囲およびBa元素が無く、大佐、若桜、長崎の可能性は低いなどの条件を考慮して、全ての条件を満たした玉の産地として、糸魚川・青海産硬玉を使用した玉と同定し、結果を表３に示した。

前田遺跡出土の結晶片岩様緑色勾玉片（図277-３）の原材産地分析

原石産地不明の結晶片岩様緑色玉類の蛍光X線分析

原石産地不明の結晶片岩様緑色製の玉材および玉類は九州南部の遺跡から出土するが、原石産地は不明で、肉眼的に均一な石質ばかりではなく、中には不均一で緑色の部分に石英脈状岩石が貫入しているもの、緑色部分に黄色の微小斑点が見られる物、結晶並びが明確なもの、またヒスイ様に見える部分など様々である。従って、これら玉類はヒスイ製、軟玉製、滑石製、蛇紋岩製など様々推測されてきた経緯がある。この玉類の岩石名を決定するには、岩石を構成する鉱物の種類を求める必要があり、X線回折など結晶定数から同定する必要がある。蛍光X線分析でこれら玉類から硬玉の主成分組成であるNa元素が検出限界以下であることと、硬玉の比重の3.1以上に達しないとの理由から硬玉の可能性はないと考えられる。また、玉類の比重が2.7以上であることから石材が碧玉の可能性も否定できる。これら玉類の割れ面は平面のものが多く、肉眼観察で結晶に平行な劈開面がみられることから、結晶片岩様緑色岩と仮称する。結晶が一定方向に並んだ岩石は広域変成帯で生成されることから玉材の起源が変成帯の可能性が推測される。広域変成帯ではMgが主成分の蛇紋岩、Mg、Caが主成分の透角閃石とかMg、Ca、Feが主成分の陽起石の軟玉が産出する。玉類に含有されるMg/Siが1.0前後でMgが主成分の蛇紋岩とは言えない。また、Ca/Kの値が1.0以下ではCaが主成分の軟玉とは言えない。滑石鉱床はしばしば蛇紋岩中の小レンズ鉱床となっている場合が多く、滑石は玉類の原材料に使用される、出土玉類の中には硬度は約2.5も見られ、比重なども滑石、蛇紋石に近が一致し

ない。緑色であることを考慮すると緑泥石の比重、硬度に一致する。しかし緑泥石の主成分組成のMg、Feの量が少ない。また、緑泥石の可能性が低い理由としてKの含有量が非常に高いことがあげられる。これら玉類の硬度、比重、Al、K元素の含有量が多いことなどを考え合わせると雲母系と一致すると考えられるが結晶構造による判断が必要である。遺物にCrの含有量が比較的多く含有されている。このクロムがCr^{3+}として存在していると、緑色になることが知られているため、Crが緑色の原因元素になっている可能性は考えられ、岩石名の決定には様々な鉱物学的分析にもとずいた結果から求める必要がある。今回分析した細身小型エンタシス形の玉に限定して考察すると、本報告書のX線回折の結果によれば、細粒の白雲母の微結晶集合体であると同定している。鹿児島県加世田市川畑2627－１に位置する上加世田遺跡の縄文時代後期出土の玉材は、これら結晶片岩様の緑色岩を使用した玉造遺跡で、平成８年度出土の管玉46個、勾玉６個、小玉６個、未製品12個、玉材39個、平成７年以前の調査で出土した玉類40個の合計150個の蛍光X線分析の元素分析の結果を分類して上加世田第１群、上加世田第２群、上加世田第３群、上加世田第４群の４個の遺物群を作った（表４）。また、上加世田諸群に一致しない遺物が、的場遺跡、川平遺跡、大坪遺跡で見つかり、それぞれ遺物群を作り、他の遺跡で使用されている否か判定できるように表４に登録した。このように各遺物群に分類されるのは結晶片岩様緑色岩の原石産地が分類群ごとに数カ所存在するのではなく、肉眼観察とＥＳＲ分析結果から推測して、含有される鉱物の種類が多く、分布が不均一なために玉ごとの元素組成の変動が大きくなったと推測される。各遺跡で出土する結晶片岩様緑色岩製玉類の蛍光X線分析値と上加世田遺跡などの遺物群に比較し多変量統計のマハラノビスの距離からＴ２検定することにより上加世田遺跡の玉に一致するか否か同定できる。

前田遺跡出土の結晶片岩様緑色勾玉片（図277-３）の蛍光X線分析結果と判定

遺跡から出土した玉類は表面の泥を超音波洗浄器で水洗するだけの完全な非破壊分析で蛍光X線分析を行った。分析番号88457（11）番の結晶片岩様緑色岩製と推測される平丸玉で観測された元素は、マグネシウム(Mg)、主成分と推測されるアルミニュム（Al)、珪素（Si）および比較的含有量の多い元素はカリウム（K)、チタニウム（Ti)、クロム（Cr)、鉄（Fe)、バリウム（Ba）で、他にカルシウム（Ca)、ルビジウム（Rb)、ストロンチウム（Sr)、イットリウム（Y)、ジルコニウム（Zr)、ニオビウム（Nb)、マンガン（Mn）の15元素で、蛍光X線スペクトルを図５－２に示した。また、分析番号88452（６)、88458（12）番の平丸玉(黄土色）は緑色ではないが、分析される元素の種類が88457（11）と同じであることから、同種の岩石の可能性を推測し同定した。この３個の平丸玉の原石産地を明らかにするためにAl/Si、K/Si、Ca/K、Ti/K、K/Fe、Rb/Fe、Fe/Zr、Rb/Zr、Sr/Zr、Y/Zr、Mn/Fe、Ti/Fe、Nb/Zr、Na/Si、Mg/Si、Cr/Fe、Ba/Zrなどの各元素比値を求め、 表５に示した。これら分析結果を結晶片岩様緑色岩の遺物群と数理統計のマハラノビスの距離を求めて行うホテリングＴ２乗検定[6]により同定を行った。また、玉の比重は岩石の種類を同定するときに重要な指標になり、遺物の汚染をさけるために蒸留水を用いたアルキメデス法で測定した結果、玉類のかさ比重は2.887になり、上加世田諸群、的場遺跡、川平遺跡、大坪遺跡の遺物群の結晶片岩様緑色岩の2.6～3.0の範囲にはいる。またかさ比重が2.679より軽い遺物原石は上加世田群の中に１個見られるにすぎない。これら玉類の元素分析の結果について、上加世田諸群、的場遺物群、川平Ⅰ遺物群、大坪14遺物群と比較した結果は、分析番号89706の勾玉では信頼限界の0.1％を越えて上加世田第４群遺物群に一致した。また、88452（６)、88458（12）番の黄土色平丸玉は、表４の結晶片岩様緑色岩の何処の遺物群にも一致しなかった。88452番の平丸玉を上加世田第４群遺物群に同定のための比較は『平丸玉は上加世田第４群に属さない』と仮定して、この仮定が間違っている危険度を求めると３％の確率となり、上加世田第４群に属さないとは『言えない』との定量的な結果が得られる。何故『言えない』のかは、言い換えるとこの平丸玉の

元素比組成が上加世田遺物群の元素比組成の平均値より離れる物が、上加世田遺物群の原石でも100個中に３個もあると考えられる（表６）。しかし、上加世田第４群に属すると言う結果ではない。即ち、未発見の、この玉の原材産地があり、未発見の原石産地の可能性を否定した結果でないことに注意しなければならない。蛍光Ｘ線分析で含有元素が一致することが明らかになったが、さらに、玉に含有されている鉱物に関する信号を分析するＥＳＲ分析結果も一致すればさらに正確な同定結果が得られる。

ＥＳＲ法による産地分析

ＥＳＲ分析は玉類石材に含有されているイオンとか、玉材が自然界からの放射線を受けてできた色中心などの常磁性種を分析し、その信号から玉材産地間を区別する指標を見つけて、産地分析に利用した。ＥＳＲの測定は、完全な非破壊分析で、直径が11㎜以下の管玉なら分析は可能で、小さい物は胡麻粒大で分析ができる場合がある。ＥＳＲ信号を出す常磁性種が一種類ではなく４種類以上あるため、ＥＳＲ信号は複雑なスペクトルになっている。上加世田遺跡では各玉とか玉材毎に４種類以上の常磁性種の混合比が玉ごとに不均一に含有されている。したがって、ＥＳＲ信号はこれら常磁性種の合成した形で観測されるためにＥＳＲ信号のスペクトルの形は玉毎に異なる。ここで大切はことは、上加世田遺跡の玉の信号と分析した管玉の信号を重ね合わせて一致すれば言うことないが、一致しなくても同じ常磁性種が管玉に含有されているか否かが重要である。ＥＳＲ信号を出す常磁性種の個数の同定を鹿児島県加世田市上加世田遺跡出土の緑色片岩様玉類の分析結果を用いて試み図６に示した。図６－⑴のバックグラウンド信号と名付けた信号Ⅱは玉によっては信号形が異なることから複数の鉄イオンの信号で構成されている可能性が推測されるが幅広い信号である。図６－⑵は幅の広いバックグラウンド信号と上加世田遺跡出土玉類に特徴的なＹ、Ｘ、Ｗ、Ｚ、Ⅲの一組になったピーク信号を出す常磁性種とで構成される。信号ⅢにはSiO２に関係した信号が含まれている可能性が推測される。Ｗ→Ⅲ、Ⅲ→Ｗ、Ｗ→Ｘのピーク間に見られる小さな常磁性種は玉によっては非常に大きな信号になり、Ｗ、Ｙ、Ⅲのピークと重なった部分は相互に変形する。また、一組になったピーク信号は、例えばＹが測定されれば、残りのピークも他の信号と合成されて変形して確認が困難な場合もあるが必ず存在する。図６－⑶は幅の広いバックグラウンド信号に、マンガンイオンによると思われるＰ、Ｑ、Ｒ、Ｓ、Ｔ、Ｕの同じ信号強度の６本が一組の信号が合成されてできたＥＳＲスペクトルである。Mnイオン濃度が低い状態で、⑵の信号と合成されるとＰとかＰ、Ｑ（Ｗと重なり変形）のピークのみ確認されＲ、Ｓ、Ｔ、Ｕが変形したために確認できないと推測される場合が多い。図６－⑷は幅の広いバックグラウンド信号に、少量の⑵が重なっている状態が確認でき、また、信号を出す常磁性種は同定出来ていないが、Ｏ、Ｖのピーク信号は２：１の比で1000ガウス（Ｇ）間隔で対になって構成されている。以上最低４種類の常磁性種の存在が確認できた。また、Ｗ→Ⅲ、Ⅲ→Ｗ、Ｗ→Ｘのピーク間に見られる信号が何種類の常磁性種で構成されているか不明で、まだ上加世田遺跡出土玉類のＥＳＲ信号を完全に説明できない部分が残っている。分光学的に説明ができなくても、Ｙ、Ｘ、Ｗ、Ｚ、Ⅲのピークを出す常磁性種が上加世田遺跡出土玉類に共通して存在することを利用すれば玉類石材の産地分析に応用できる。分析した勾玉の分析番号89706番の図７に示したＥＳＲスペクトルは、幅の広いバックグラウンド信号と上加世田遺跡出土玉類に特徴的なＹ、Ｘ、Ｗ、Ｚ、Ⅲの一組になったピーク信号を出す常磁性種とで構成されることから、上加世田遺跡出土玉類と一致すると判定した。産地分析では玉類の蛍光Ｘ線分析結果とＥＳＲ信号結果が同じ石材群に同定されたとき総合的に判定し（表６）、玉類がそこの群の原石と同じものが使用されていると推定した。

前田遺跡出土のヒスイ製勾玉（図277-４）の考察

今回分析した前田遺跡出土のヒスイ製勾玉にはBa元素のピークが観測されず、比重も3.3以上あり、良質

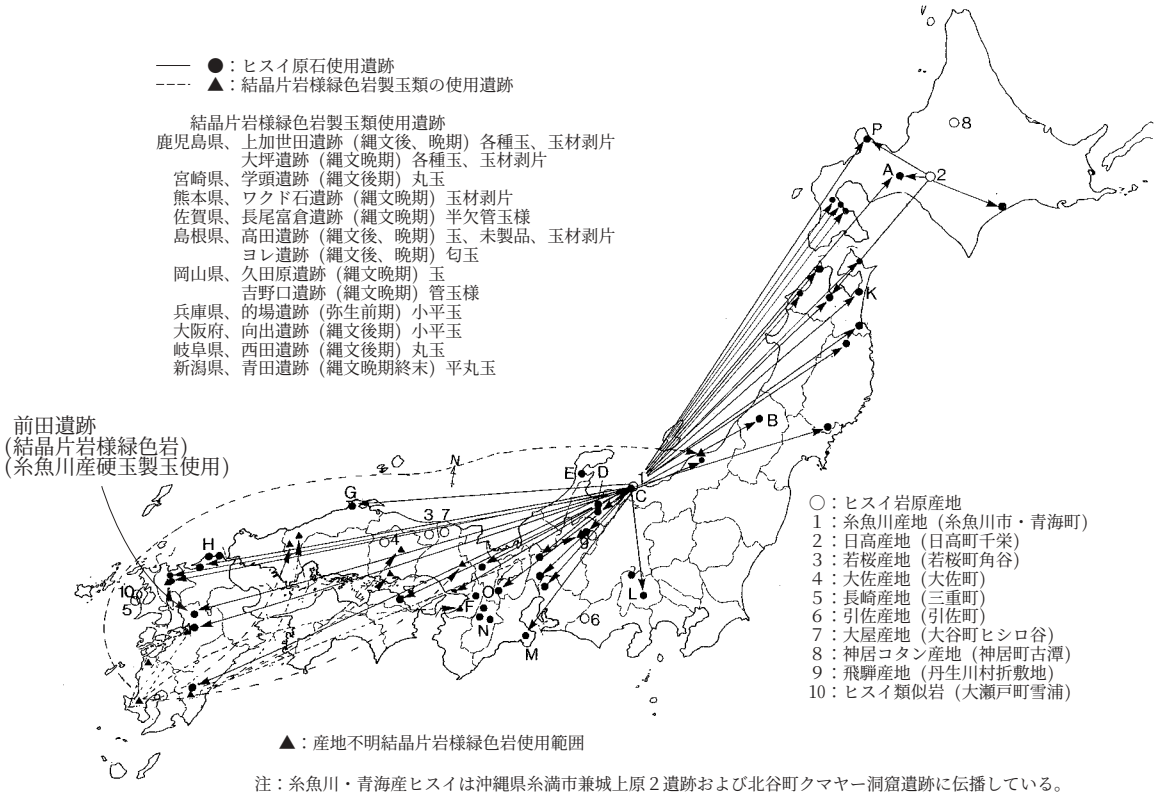
の硬玉のようである。糸魚川・青海産硬玉の使用遺跡を抜粋して示すと例えば北海道千歳市美々遺跡から青森県大石平遺跡、岩手県大日Ⅱ遺跡、山梨県石堂遺跡、岐阜県西田遺跡、愛知県白石遺跡、三重県森添遺跡、大分県ニ反田遺跡、熊本県ワクド石遺跡、宮崎県学頭遺跡まで日本全国におよんび、これら遺跡では糸魚川産ヒスイが尊重される共通の基盤を持っていたと思われ、糸魚川産地から遠くなるにしたがって、希少価値が増すと推測され本遺跡がヒスイの玉類を入手できる力（経済力）が大きかったことが推測される（図１）。

前田遺跡出土の結晶片岩様緑色勾玉片（図277-３）の考察

分析を行った結晶片岩様緑色岩製勾玉片は上加世田遺跡出土玉類と蛍光Ｘ線分析結果、ＥＳＲ分析の両方法で一致することから、九州南部で多用されている結晶片岩様緑色岩が使用されていると判定した。また、この結晶片岩様緑色岩と呼んでいる原材と大瀬戸町の原石の異なる点は、バリュウム元素の含有量が結晶片岩様緑色岩の方が桁違いに多いことで、両者は容易に区別できる。　結晶片岩様緑色岩製玉類、剥片、加工途中の未製品が出土する遺跡は上加世田遺跡で、ワクド遺跡では剥片が確認されている。また、製品のみ使用では、縄文時代後期、晩期または後期～晩期に関係する遺跡で、宮崎県学頭遺跡の丸玉、岐阜県の西田遺跡、新潟県の青田遺跡の玉類に、島根県匹見町のヨレ遺跡の管玉、勾玉、岡山県吉野□遺跡管玉に、向出遺跡出土小玉にそれぞれ使用されていることから、結晶片岩様緑色岩も糸魚川地域産硬玉製玉類に匹敵する伝播距離を示す可能性があり、古代人にとって非常に重要な玉類原材であったことが推測される（図１）。本遺跡出土管玉が九州南部産の玉が伝播した可能性が推測され、本遺跡が九州南部の情報・文化を入手していたと推測できる。

参考文献

１）茅原一也（1964)、長者が原遺跡産のヒスイ（翡翠）について（概報)。長者ケ原、新潟県糸魚川市教育委員会：63－73
２）藁科哲男・東村武信（1987)、ヒスイの産地分析。富山市考古資料館紀要６：１－18
３）藁科哲男・東村武信（1990)、奈良県内遺跡出土のヒスイ製玉類の産地分析。橿原考古学研究所紀要『考古学論攷』，14：95－109
４）藁科哲男･東村武信（1983)、石器原材の産地分析。考古学と自然科学，16：59－89
５）Tetsuo Warashina（1992)、Alloction of Jasper Archeological Implements By Means of ESR and XRF. Journal of Archaeological Science 19：357－373
６）東村武信（1976)、産地推定における統計的手法。考古学と自然科学，９：77－90
７）河野義礼（1939)、本邦における翡翠の新産出及び其化学的性質。岩石砿物鉱床学雑誌22：195－201
８）番場猛夫（1967)、北海道日高産軟玉ヒスイ。調査研究報告会講演要旨録　№18：11－15



注：糸魚川・青海産ヒスイは沖縄県糸満市兼城上原２遺跡および北谷町クマヤー洞窟遺跡に伝播している。

図１　ヒスイ製玉類、結晶片岩様緑色玉類使用遺跡分布図

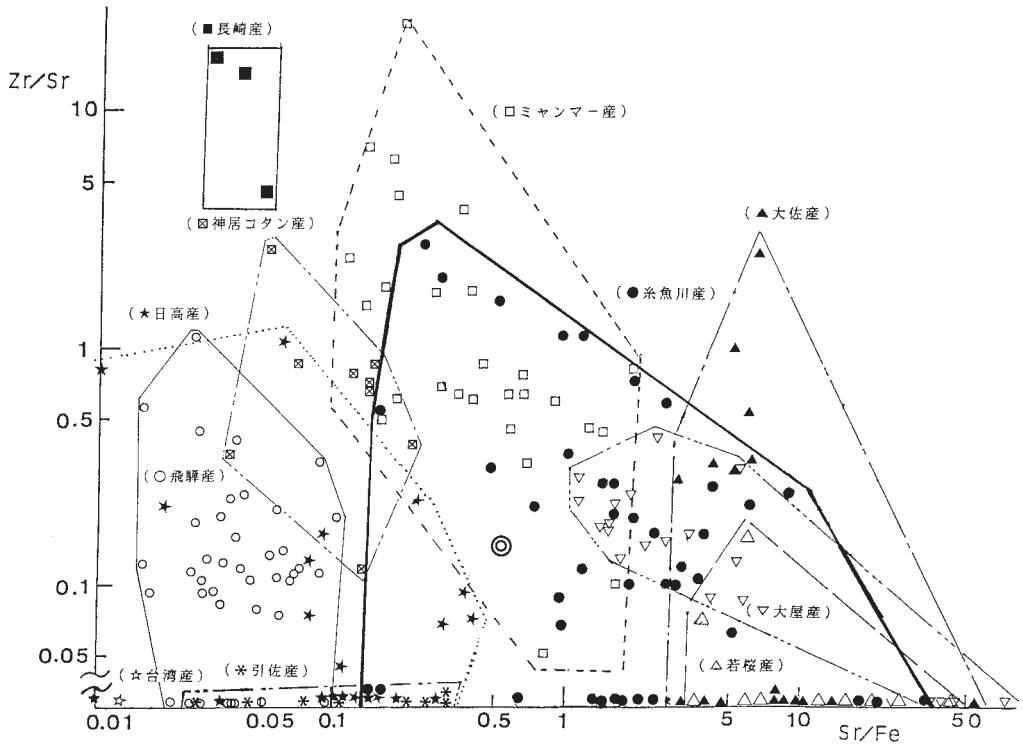


図２　ヒスイ原石の元素比値Zr／Sr対Sr／Feの分布および分布圏

◎：前田遺跡出土ヒスイ製玉

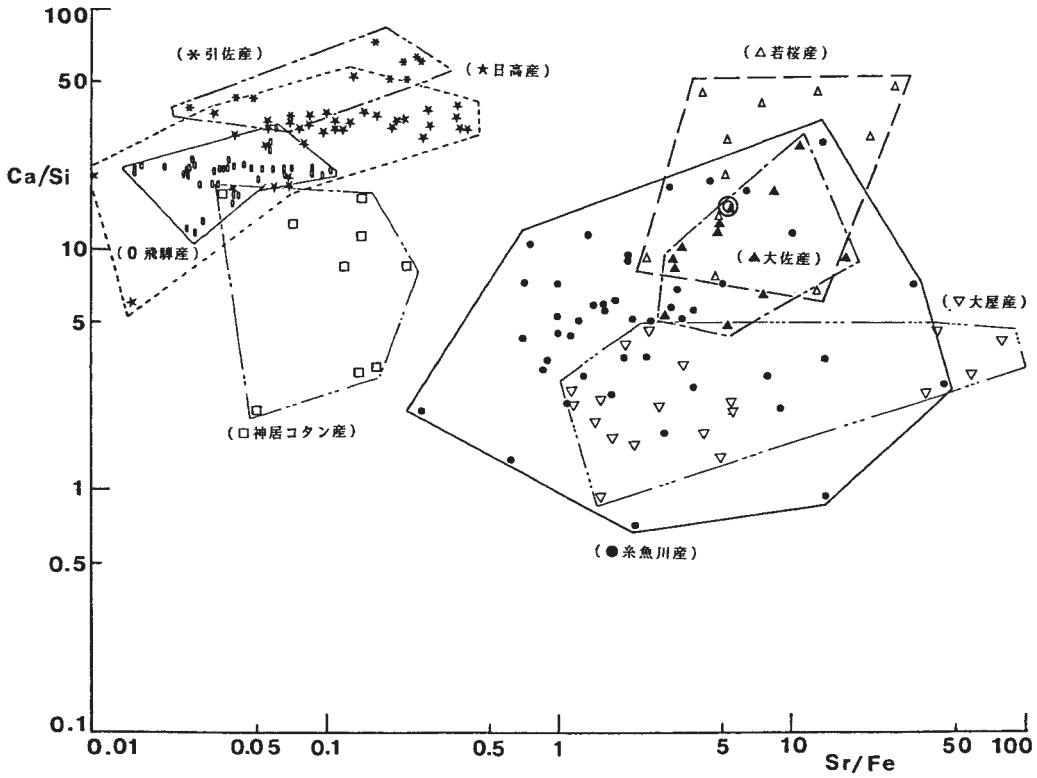


図３　ヒスイ原石の元素比値Ca／Si対Sr／Feの分布および分布圏

◎：前田遺跡出土ヒスイ製玉

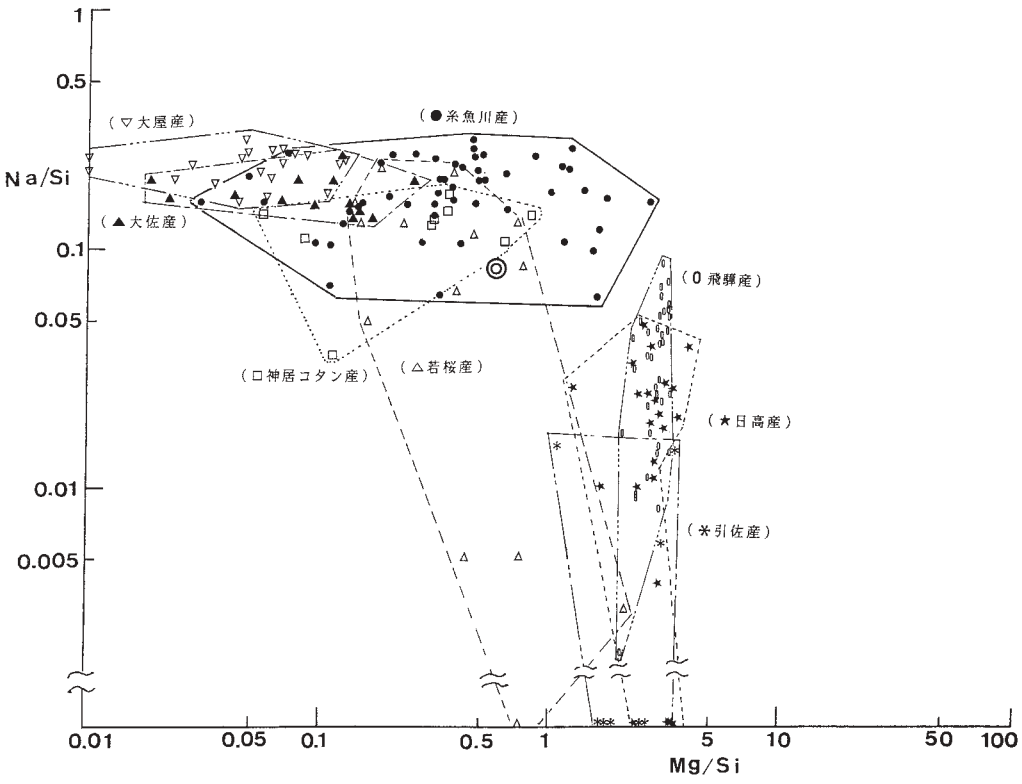


図４　ヒスイ原石の元素比値Na／Si対Mg／Siの分布および分布圏

◎：前田遺跡出土ヒスイ製玉

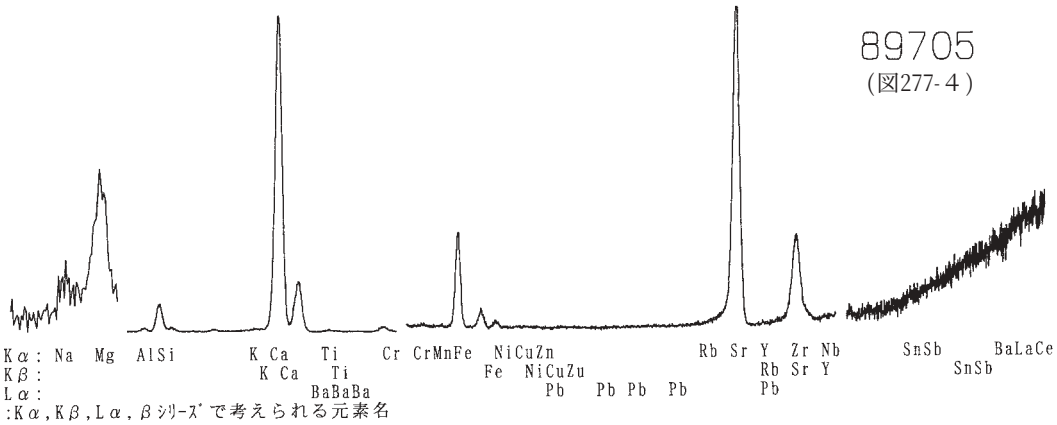


図５－１　前田遺跡出土硬玉勾玉（89705 図277-４）の蛍光Ｘ線スペクトル

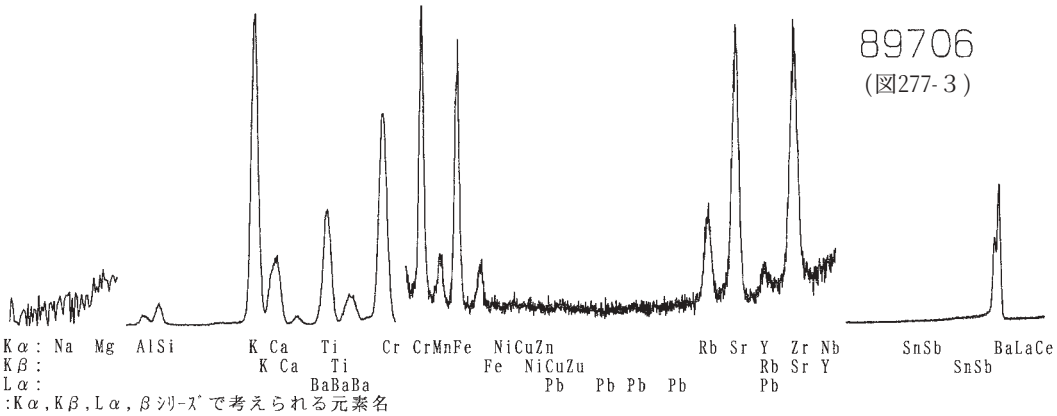
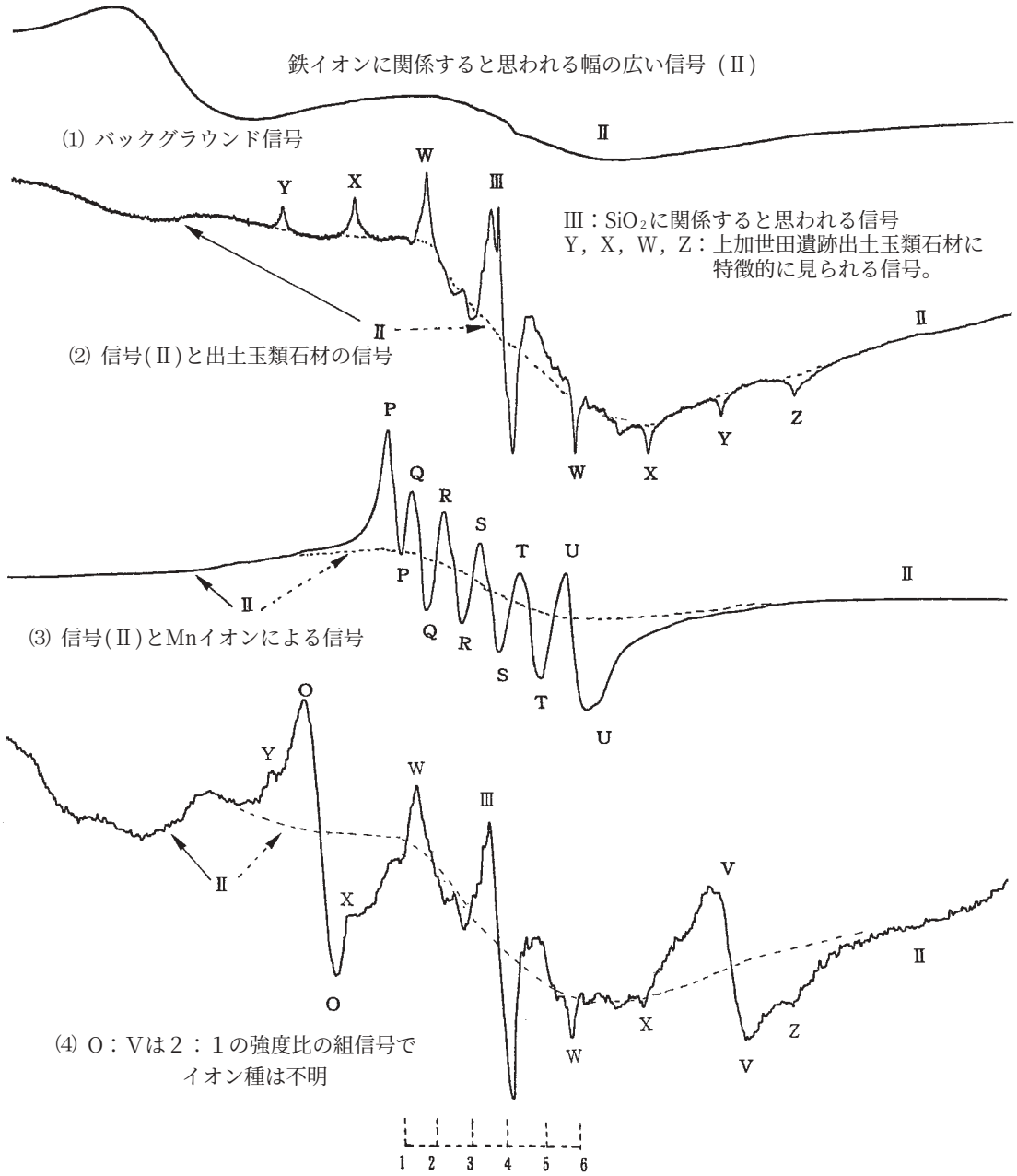


図５－２　前田遺跡出土結晶片岩様緑色岩製勾玉片（89706 図277-３）の蛍光Ｘ線スペクトル



Mn^{2+}イオン：標準試料（3：g_2＝2.034，←86.9G→4：g_1＝1.981）

図６　上加世田遺跡出土結晶片岩様緑色岩製玉材のＥＳＲ信号スペクトル

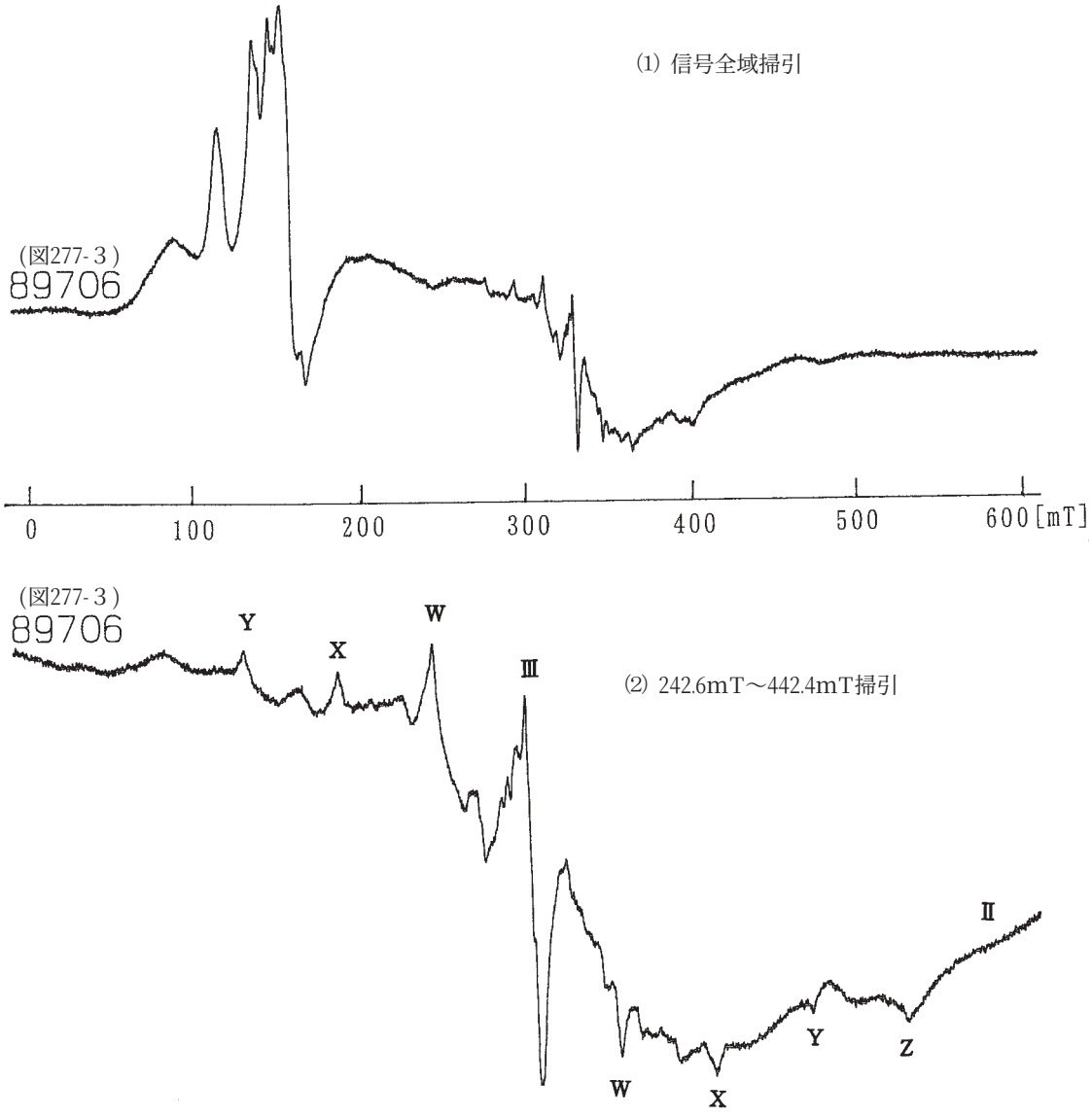


図７　前田遺跡出土結晶片岩様緑色岩製勾玉片のＥＳＲ信号スペクトル

表１－１　ヒスイ製遺物の原石産地の判定基準(1)

原産地名	分析個数	蛍光X線法による元素比の範囲					
		比重	K/Ca	Ti/Ca	Sr/Fe	Zr/Sr	Ca/Si
糸魚川産	41	3.00～3.35	0.01～0.17	0.01～0.56	0.15～30	0.00～2.94	0.72～27.6
若桜産	12	3.12～3.29	0.01～0.91	0.03～0.59	3.45～47	0.00～0.25	4.33～48.4
大佐産	20	2.85～3.17	0.01～0.07	0.00～1.01	3.18～61	0.00～12.4	3.47～28.6
長崎産	3	3.16～3.23	0.01～0.14	0.17～0.33	0.02～0.06	4.30～16.0	
日高産	22	2.98～3.29	0.00～0.01	0.00～0.02	0.00～0.37	0.00～0.063	5.92～51.6
引佐産	8	3.15～3.36	0.04～0.04	0.00～0.03	0.03～0.33	0.00～0.018	36.3～65.9
大屋産	18	2.96～3.19	0.03～0.08	0.04～0.16	1.08～79	0.02～0.48	0.95～4.81
神居コタン産	9	2.95～3.19	0.02～0.49	0.09～0.17	0.04～0.22	0.12～0.85	2.22～17.3
飛騨産	40	2.85～3.15	0.01～0.04	0.00～0.00	0.02～0.10	0.00～1.24	12.7～28.5
ミャンマ産	26	3.15～3.36	0.02～0.14	0.01～0.26	0.09～2.5	0.01～23	
台湾産	1	3.00	0.003	ND	ND	ND	

ND：検出限界以下の濃度

表１－２　ヒスイ製遺物の原石産地の判定基準☆２

原産地名	蛍光X線法による分析元素 (各元素が確認できた個体数の百分率)							
	Cr	Mn	Rb	Y	Nb	Ba	La	Ce
糸魚川産	26%	6%	20%	ND	13%	33%	ND	ND
若桜産	ND	ND	16%	ND	100%	100%	67%	67%
大佐産	ND	ND	44%	ND	33%	100%	67%	67%
長崎産	ND	ND	ND	100%	100%	100%	100%	100%
日高産	tr	tr	ND	ND	ND	Tr	ND	ND
引佐産	88%	75%	ND	ND	ND	ND	ND	ND
大屋産	tr	ND	31%	ND	6%	90%	100%	100%
神居コタン産	ND	100%	22%	100%	ND	55%	ND	ND
飛騨産	100%	100%	ND	ND	ND	ND	ND	ND
ミャンマ産	13%	4%	ND	ND	ND	35%	ND	ND
台湾産	tr	tr	ND	ND	ND	ND	ND	ND

ND：検出限界以下　tr：検出確認

表２　前田遺跡出土のヒスイ製勾玉の元素分析値と比量の結果

遺物	分析番号	元素分析値の比量									
		Na/Si	Mg/Si	Al/Si	K/Ca	Ca/Si	Ti/Ca	Cr/Fe	Mn/Fe	Ni/Fe	Sr/Fe
勾玉	89705 (図277-４)	0.085	0.575	0.09	0.01	15.939	0.00	0.013	0.011	0.051	5.568
JG-1		0.024	0.086	0.06	1.25	3.354	0.30	0.001	0.024	0.001	0.426

遺物	分析番号	元素分析値の比量							試料比重	試料重量
		Zr/Sr	Nb/Sr	Ba/Sr	La/Sr	Ce/Sr	Rb/Sr	Y/Sr		
勾玉	89705 (図277-４)	0.149	0.00	0.02	0.03	0.02	0.01	0.00	3.326	1.80273
JG-1[a)]		0.719	0.10	5.77	0.23	0.29	0.72	0.18		

a)：標準試料、Ando,A., Kurasawa,H.,Ohmori,T. & Takeda,E.(1974). 1974 compilation of data on the GJS geochemical reference samples JG-1 granodiorite and JB-1 basalt.

表３　前田遺跡出土のヒスイ製勾玉の原材産地分析結果

遺物	分析番号	各分類基準による判定					総合判定
		図２判定	図３判定	図４判定	比重＆基準⑵	Ni/Fe判定[a)]	
勾玉	89705 (図277-４)	IT	IT,OS,WK	IT,WK,KM	IT,IN		糸魚川産

IT：糸魚川 WK：若桜 OS：大佐 NG：長崎 HK：日高 IN：引佐 OY：大屋
KM：神居コタン HD：飛騨
ａ)：Ni/Fe比は日高産地および飛騨産地に同時に帰属された遺物の分類指標
(飛騨産原石、42個の平均値±標準偏差) Ni/Fe=0.091±0.030
(日高産原石、14個の平均値±標準偏差) Ni/Fe=0.065±0.028

表４　結晶片岩様緑色岩の遺物群

⑴　上加世田、的場遺跡出土遺物による遺物群の元素比の平均値と標準偏差値

遺物群名	分析個数	元素比				
		Mg/Si	Al/Si	K/Si	Ca/K	Ti/K
上加世田第１群	25	0.359±0.704	0.373±0.062	18.521±1.779	0.287±0.208	0.625±0.202
上加世田第２群	19	0.395±0.346	0.357±0.064	18.508±2.093	0.354±0.312	0.442±0.128
上加世田第３群	59	0.716±0.375	0.260±0.045	17.898±1.578	0.221±0.136	0.422±0.158
上加世田第４群	34	0.662±0.882	0.308±0.294	18.054±1.992	0.228±0.169	0.411±0.252
的場遺物群	45	0.095±0.023	0.339±0.015	20.676±0.540	0.059±0.021	0.237±0.090

遺物群名	分析個数	元素比				
		K/Fe	Ti/Fe	Cr/Fe	Mn/Fe	Fe/Zr
上加世田第１群	25	1.649±0.886	0.913±0.510	0.910±0.555	0.033±0.020	0.787±0.536
上加世田第２群	19	1.097±0.599	0.452±0.294	0.374±0.369	0.020±0.012	2.842±3.064
上加世田第３群	59	0.820±0.535	0.302±0.213	0.318±0.244	0.015±0.009	3.144±2.437
上加世田第４群	34	0.899±0.590	0.314±0.265	0.324±0.245	0.014±0.009	6.272±13.60
的場遺物群	45	1.966±0.093	0.454±0.154	0.324±0.047	0.010±0.007	4.318±1.337

遺物群名	分析個数	元素比			
		Rb/Zr	Sr/Zr	Y/Zr	Ba/Zr
上加世田第１群	25	0.273±0.104	0.634±0.157	0.033±0.028	63.338±25.035
上加世田第２群	19	0.717±0.653	3.157±3.513	0.049±0.061	161.605±211.1
上加世田第３群	59	0.984±0.439	0.181±0.162	0.097±0.082	57.082±22.78
上加世田第４群	34	1.886±5.936	1.174±2.862	0.255±0.591	121.500±156.3
的場遺物群	45	2.977±0.995	8.079±2.772	0.118±0.117	304.053±224.9

平均値±標準偏差値
但し：的場遺跡小玉は上加世田第２群に45回分析中１回のみ0.2%で一致

⑵　川平Ⅰ、大坪14遺跡出土遺物による遺物群の元素比の平均値と標準偏差値

遺物群名	分析個数	元素比				
		Al/Si	K/Si	Ca/K	Ti/K	K/Fe
川平Ⅰ遺物群	36	0.232±0.035	10.129±1.777	0.158±0.031	0.094±0.037	0.314±0.199
大坪14遺物群	47	0.332±0.015	19.767±0.718	0.055±0.030	0.101±0.013	0.485±0.132

遺物群名	分析個数	元素比				
		Ti/Fe	Cr/Fe	Mn/Fe	Rb/Fe	Sr/Rb
川平Ⅰ遺物群	36	0.022±0.007	0.091±0.032	0.014±0.002	1.010±0.642	0.275±0.016
大坪14遺物群	47	0.041±0.009	0.016±0.009	0.005±0.001	0.212±0.071	3.251±0.797

遺物群名	分析個数	元素比	
		Y/Rb	Ba/Sr
川平Ⅰ遺物群	36	0.032±0.014	28.803±4.726
大坪14遺物群	47	0.049±0.038	64.876±11.80

表５　前田遺跡出土結晶片岩様緑色勾玉片の元素比組成

分析番号	元素比										
	Al/Si	K/Si	Ca/K	Ti/K	K/Fe	Rb/Fe	Fe/Zr	Rb/Zr	Sr/Zr	Y/Zr	Mn/Fe
89706 (図277-３)	0.339	18.724	0.171	0.418	1.550	0.546	0.691	0.377	1.156	0.020	0.040
JG－１	0.067	3.392	0.774	0.237	0.111	0.263	3.795	0.998	1.345	0.281	0.024

分析番号	元素比							重量	比重
	Ti/Fe	Sr/Rb	Y/Rb	Mg/Si	Cr/Fe	Ba/Zr	Ba/Sr		
89706 (図277-３)	0.671	3.064	0.052	0.161	1.256	131.216	114.459	0.78528	2.887
JG－１	0.024	1.347	0.282	0.000	0.001	7.002	5.990		

JG－１：標準試料-Ando,A.,Kurasawa,H.,Ohmori,T.& Takeda,E. 1974 compilation of data on the GJS geochemical reference samples JG-1 granodiorite and JB-1 basalt. *Geochemical Journal,* Vol.8 175-192 (1974)

表６　前田遺跡出土結晶片岩様緑色岩製勾玉の原材産地分析

分析番号	出土区	器種	原石産地（確率）	ＥＳＲ信号形	総合判定
89706 (図277-３)	１区S034	勾玉片	上加世田第１群（25%）	上加世田（２）形	上加世田

〈報告書〉

熊本県玉名市で出土した青銅製品の自然科学的研究

2004年３月

別府大学 文学部
淀川奈緒子
谷水　雅治（高知大学 海洋コア総合研究センター）
平尾　良光

1　はじめに

熊本県教育庁文化課から、玉名市で出土した銅鏡２面と銅鏃１点の鉛同位体比測定の依頼があった。本調査は当研究室における「弥生時代青銅器の産地推定」という研究の一環として、研究協力する価値が充分あった。そこで、鉛同位体比法で遺物の材料となった青銅に含まれる鉛の産地推定を行った。

2　資料

資料は熊本県玉名市大字月田字前田所在の前田遺跡から出土した銅鏡片１点と同地域出土の銅鏃１点、および玉名市大字河崎所在の柳町遺跡から出土した小型彷製鏡１点である。

１）前田遺跡出土銅鏡（図277-12）は近世の大溝（2001年Ｓ－094）上層部（グリッドＥ？５）から鏡の外区一部が発見された。鏡片の一部であるため鏡式がそれほどはっきりせず、弥生時代の彷製鏡か、中世の鏡であるかどうかはっきりしていない。大溝からの出土遺物は弥生中期後半期と中世遺物を中心に縄文後期?近世までの資料が出土しているという。

２）前田遺跡銅鏃（図165-１）は弥生時代中期?後期（後期の可能性が強いかも）のＳ－110（住居跡）の貯蔵穴かピットから出土した。それ故、銅鏃の年代も弥生時代中？後期と推定される。

３）柳町遺跡の銅鏡は柳町遺跡ＳＤ－49のＤ層において、古墳時代初頭の溝の底面に裏側に張り付いた状態で出土した小型彷製鏡（内行花文鏡）である。古墳時代初頭、４世紀頃と推定される。

なお、各資料の写真を写真１で示す。

3　鉛同位体比法

３－１　鉛同位体比法による青銅材料の産地推定

産地推定のために鉛同位体比法を利用した（*１）。一般的に、鉛の同位体比は鉛鉱山の岩体が違えばそれぞれの鉱山毎に異なった値となることが知られており、産地によって特徴ある同位体比を示すことが今までの研究でわかっている。そこで、鉛の産地の違いが鉛同位体比に現れるならば、文化財資料に含まれる鉛の同位体比の違いは材料の産地を示すと推定される。古代の青銅には鉛が微量成分として0.01%程度、あるいは主成分の一つとして５～20%含まれている。鉛同位体比の測定に用いられる鉛量は測定器（質量分析計）の感度が非常に良いため、１マイクログラムの鉛があれば十分である。また試料は青銅の金属部分でも錆部分でも、同位体比は変わらないと示されている。しかしながら、今回の資料からは金属部分が採取できたので、前回の測定値と比較するためにも十分価値がある測定である。

そこでこの方法を本資料の材料産地の推定に利用することを試みた。今回は銹試料を採取したので、この銹試料から鉛を化学的に分離し、同位体比測定に供した。同位体比測定のために、ＩＣＰ質量分析計を利用した。

３－２　鉛分離と鉛同位体比測定

金属試料を石英製のビーカーに入れ、硝酸を加えて溶解した。この溶液を白金電極を用いて２Ｖで電気分解し、鉛を二酸化鉛として陽極に集めた。析出した鉛を硝酸と過酸化水素水で溶解し、試料溶液として保存した。

ＩＣＰ質量分析計による測定では、測定機器の安定性のために鉛濃度が「0.2μg鉛／１ｇ」である溶液が必要なので、まず電気分解して鉛を集めた源試料溶液濃度を測定した。その後、源溶液を希釈し、同位体比測定用の溶液を用意した。同位体比測定にはこの0.2μg鉛／１ｇの溶液が２ml以上必要なので、３～10mlの溶液が得られるように適宜希釈した。利用したＩＣＰ質量分析計は高知大学海洋コア総合研究センターに

所属しているサーモクエスト社製２重収斂ＩＣＰ質量分析計（通称名、フィニガンーネプチューン）である。なおこの機器の精度や再現性に関する詳細な記載は省略する。実験に先立ち、鉛同位体比を測定するに足るだけの充分安定した状態であることを確認した。また随時、NBS-981 標準鉛溶液を測定し、機器の安定性を確かめた。

３－３　鉛同位体比の結果と考察

⑴　鉛同位体比測定値

測定した鉛同位体比を表１で示した。この値を今までに得られている資料と比較するために鉛同位体比の図で示した（図１，２）。

縦軸が208Pb/206Pbの値、横軸が207Pb/206Pbの値とした図を仮にＡ式図と呼ぶこととする。この図で鉛同位体比に関して今までに得られている結果を模式的に表わし、今回の結果をこのなかにプロットした(*２～５)。日本の弥生時代に相当する頃の東アジア地域において、Ａは中国前漢鏡が主として分布する領域で、後の結果からすると中国華北産の鉛である。Ｂは中国後漢鏡および三国時代の銅鏡が分布する領域で、華南産の鉛である。Ｃは現代の日本産の大部分の主要鉛鉱石が入る領域、Ｄは朝鮮半島産の多鈕細文鏡が分布する領域の中央線として示されることが判っている。またａは弥生時代の後期銅鐸や広形銅矛が分布する画一的な鉛を意味する領域である。

縦軸が207Pb/204Pbの値、横軸が206Pb/204Pbの値とした図をＢ式図と呼ぶこととする。この図の中でＡ’、Ｂ’、Ｃ’、Ｄ’は中国華北、華南、日本、朝鮮半島産の鉛領域を表わす。これらの図の中に、全測定値を(○□△）で示した。

⑵　結果と考察

表１、図１、図２から理解できることを試料毎にまとめる。

１）前田遺跡出土銅鏡（図237-12)

前田遺跡から出土した銅鏡の鉛同位体比値はＡ式図ではＢ領域に含まれた。またＢ式図ではＢ’領域に含まれた。それ故、この材料は華南産である可能性が高いことを示唆する。それ故、後漢・三国時代の鏡、あるいは古墳時代以降に日本へ導入された材料である可能性が高い。弥生時代の材料であれば今までの測定から、Ａ式図でＡ領域範囲の材料が利用されているはずである。それ故、本鏡は中世鏡である可能性が高い。

２）前田遺跡出土銅鏃（図165-１）

本銅鏃の鉛同位体比値はＡ式図で、“ａ”領域に含まれた。Ｂ式図では“ａ'”領域に含まれた。このことから本資料は弥生時代後期に広形銅矛や広形銅戈を製作していた材料と類似している可能性が高い。それ故、本資料は弥生時代後期の銅鏃であろう。

３）柳町遺跡出土銅鏡

本資料の鉛同位体比値はＡ式図でＢ領域に含まれた。またＢ式図ではＢ’領域に含まれた。それ故、華南産の材料が利用されている可能性が高い。

出土層からは古墳時代初頭という判断であることから、この材料は華南産であり、日本で鋳造した製品は、弥生時代にはA、Ａ’領域の華北産の材料が利用されており、古墳時代になってB、Ｂ’領域の華南産の材料が利用されるようになった。それ故、本資料は古墳時代の製品である可能性が高い（６)。

4　引用文献

⑴　馬淵久夫,平尾良光：福岡県出土青銅器の鉛同位体比；考古学雑誌75，385-404（1990）

⑴　尾良光編：古代青銅の流通と鋳造；鶴山堂（1999）

⑵　馬淵久夫，平尾良光：鉛同位体比法による漢式鏡の研究；MUSEUM №370，４－10（1982ａ）

⑶　馬淵久夫,平尾良光：鉛同位体比から見た銅鐸の原料；考古学雑誌68，42－62（1982ｂ）

⑷　馬淵久夫,平尾良光：鉛同位体比法による漢式鏡の研究（二）；MUSEUM №382，16－26（1983）

⑸　馬淵久夫,平尾良光：東アジア鉛鉱石の鉛同位体比－青銅器との関連を中心に－：考古学雑誌 73，199－210（1987）

⑹　平尾良光：鉛同位体比の測定と分析，『考古資料大観』，森田稔・井上洋一編，小学館（東京），ｐ345－368（2003）

表　熊本県玉名市前田遺跡・柳町遺跡出土青銅製品の鉛同位体比値

番号	遺跡名	遺物名	試料名	$^{206}Pb/^{204}Pb$	$^{207}Pb/^{204}Pb$	$^{208}Pb/^{204}Pb$	$^{207}Pb/^{206}Pb$	$^{208}Pb/^{206}Pb$
1	前田遺跡	鏡（破片）(図237-12)	KP－001	18.354	15.690	38.868	0.8549	2.1177
2	柳町遺跡	小型仿製鏡（内行花文鏡）	KP－002	18.078	15.624	38.643	0.8642	2.1375
3	前田遺跡	銅鏃（図165-１）	KP－003	17.751	15.551	38.438	0.8760	2.1654

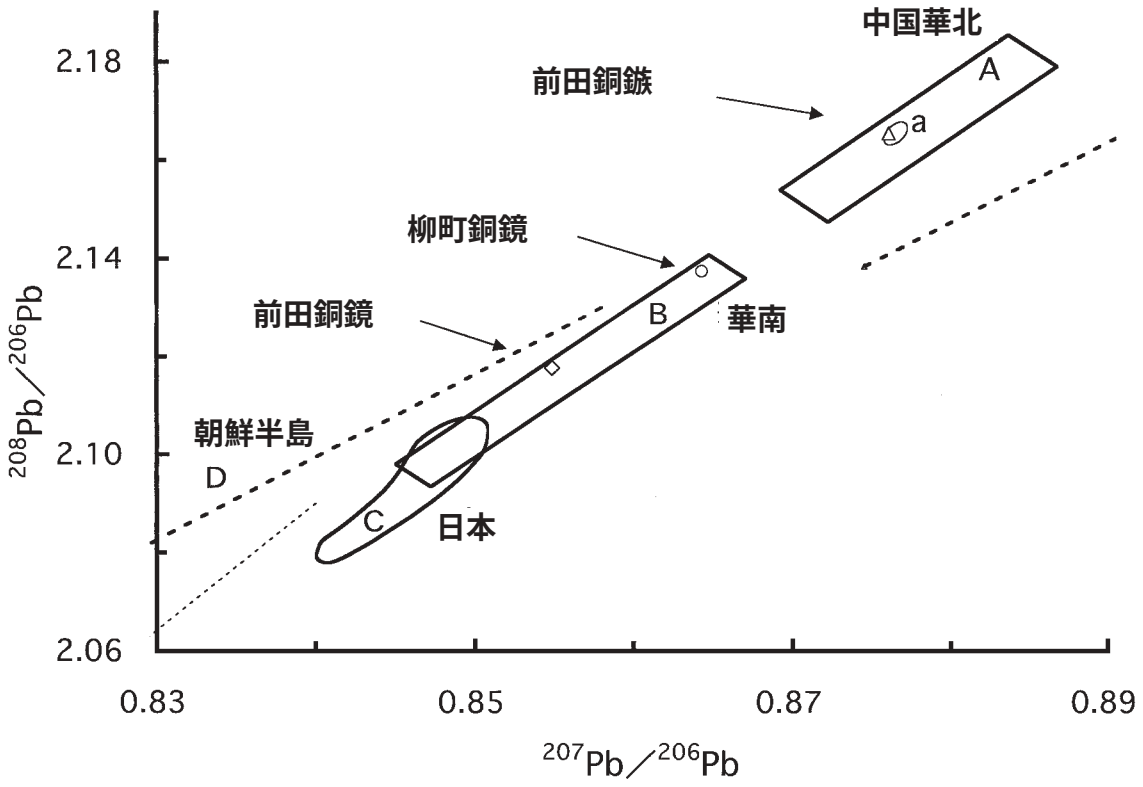

中国華北
前田銅鏃
A
a
柳町銅鏡
前田銅鏡
B
華南
朝鮮半島
D
C
日本
2.18
2.14
2.10
2.06
$^{208}Pb/^{206}Pb$
0.83
0.85
0.87
0.89
$^{207}Pb/^{206}Pb$

図1　A式図

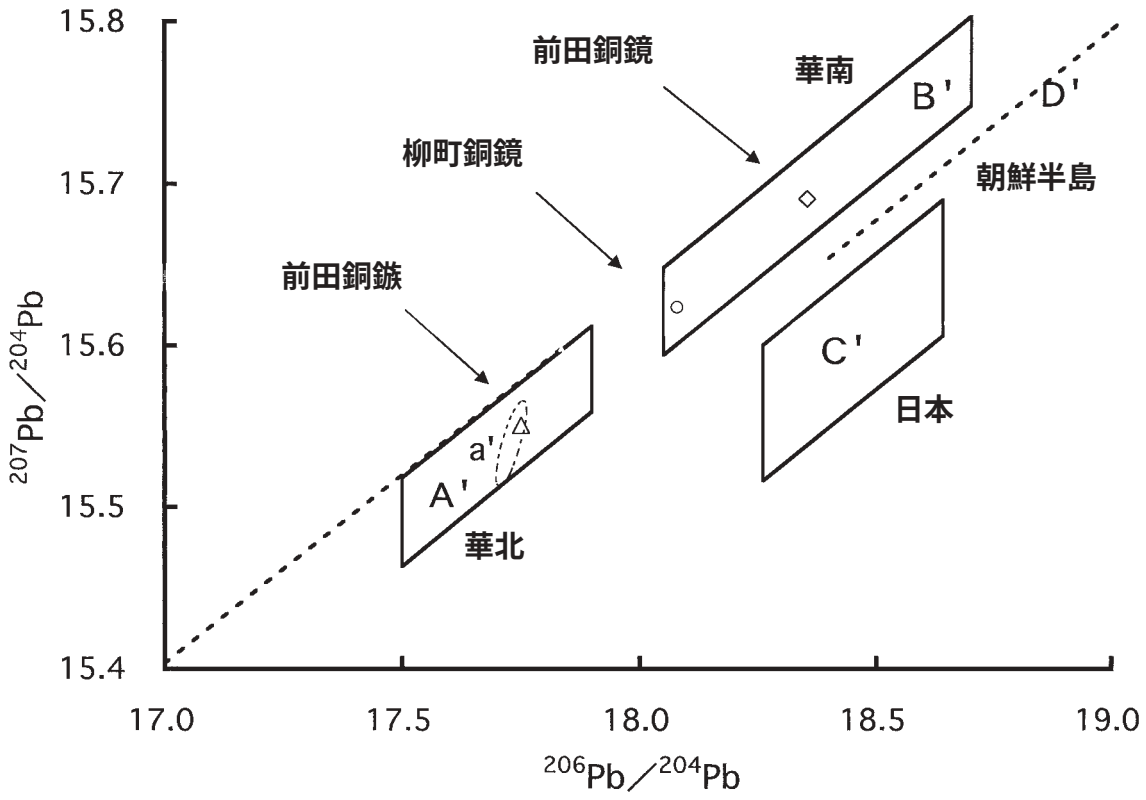

前田銅鏡
華南
B'
D'
柳町銅鏡
朝鮮半島
前田銅鏃
C'
日本
a'
A'
華北
15.8
15.7
15.6
15.5
15.4
$^{207}Pb/^{204}Pb$
17.0
17.5
18.0
18.5
19.0
$^{206}Pb/^{204}Pb$

図2　B式図

熊本試料　試料採取箇所

前田遺跡出土鏡片　時代：弥生時代～中世（図237-12）

試料採取箇所

柳町遺跡出土鏡片　弥生時代～古墳時代

試料採取箇所

前田遺跡出土銅鏃　Ｓ－110　弥生時代（図165-11）

試料採取箇所

熊本県前田遺跡出土弥生式土器の籾圧痕について

山崎　純男（福岡市教育委員会）

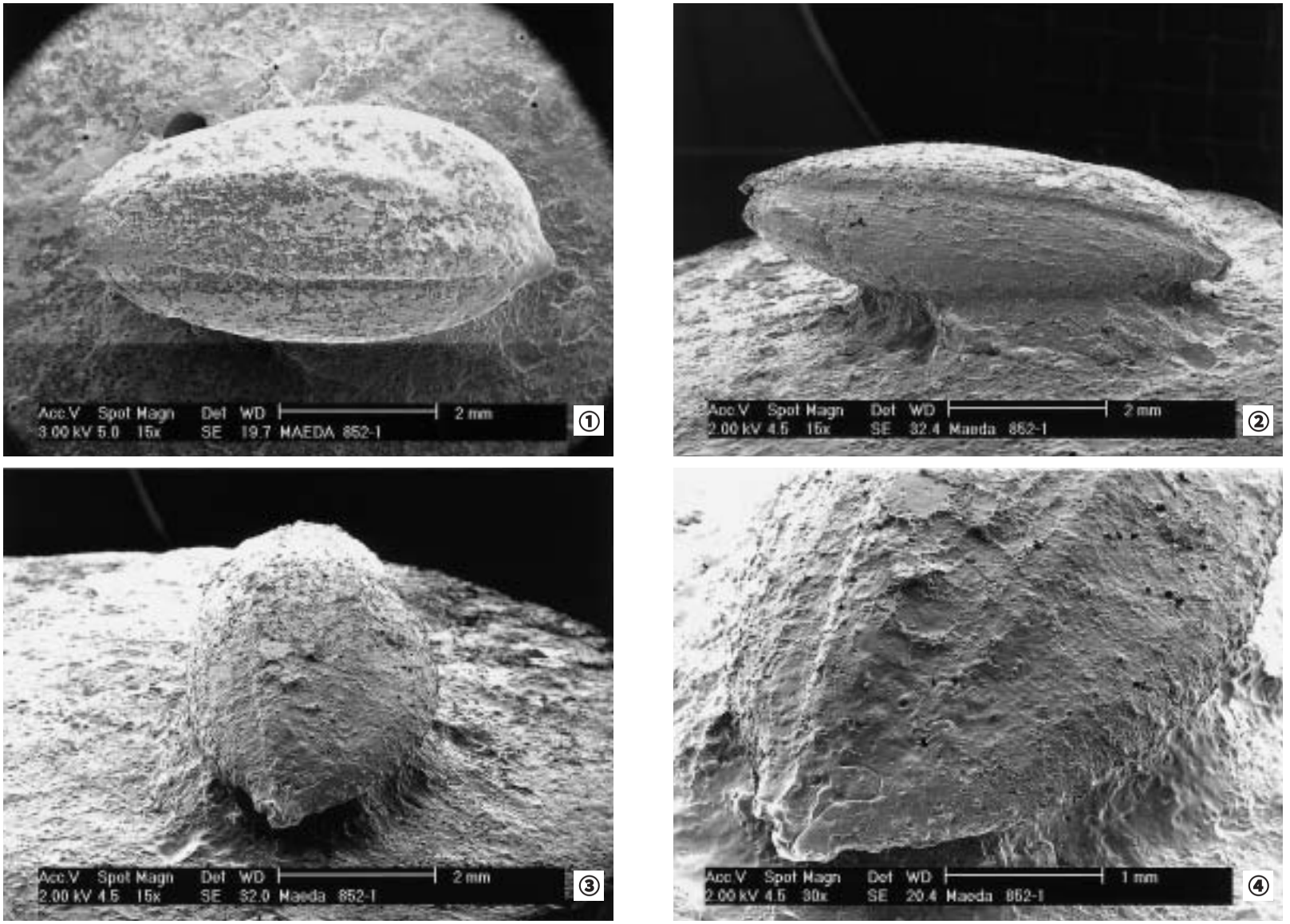
熊本県前田遺跡出土の弥生中期土器（図182-７）の内面に籾圧痕１ヶ所を確認することができた。圧痕は肉眼的にも稲籾と判断できる程度に保存状態は良好である。実体顕微鏡で観察すると稲籾の表面の顆粒状の粒も良好な状態で依存していることが判明したが、圧痕の約３分の１が胎土中にはいり込み全形を把握することができない。形状等を明らかにして、圧痕の種の同定をより明確にするために、圧痕に印象材を充填してレプリカを作製し、そのレプリカを走査型電子顕微鏡で観察するレプリカ法(1)を採用した。なお、レプリカ作製にあたって、離型剤としてアクリル樹脂：パラロイドＢ－72（米国ローム　ハース社製)、印象剤には東芝シリコーンＴＳＥ－250を主材とし、硬化剤に同社製ＣＥ－621を使用している。観察で使用した走査型電子顕微鏡は福岡市埋蔵文化財センターに設置されているPhilips・XL30CP走査電子顕微鏡である。

第１図１～４にレプリカの走査電子顕微鏡写真を示した。１は平面の全形、右が小穂軸側、左が芒側であるが、芒の部分は欠損している。芒部分を除いて全体に残存状態は良好で、写真の上側が外穎、下側が内穎である。顆粒状の配列が全体に残り、芒側半分に片寄って稃毛が観察できる。２は内穎側からみた横からの写真である。内穎、外穎の関係が良くわかる。内穎の表面には顆粒状の突起列が明瞭に遺存し、稃毛を観察できる。小穂軸の状態が明瞭に残るが、上、下の護穎は存在しない。４は同部分の拡大写真である。表面の顆粒状の突起列が明瞭に残っている。以上の所見から、本圧痕は稲籾の圧痕であることが明らかである。レプリカから稲籾の計測値は、長さ6.13㎜、幅3.20㎜、厚さ2.0㎜となる。極めて成育状態が良好な稲籾である。

レプリカ作製、走査電子顕微鏡の観察には福岡市埋蔵文化財センター、比佐陽一郎、片多雅樹氏の協力を得た。記して謝意を表する。

注(1)丑野　毅、田川裕美　1991「レプリカ法による土器圧痕の観察」『考古学と自然科学』第24号
日本文化財科学会

熊 本 県 前 田 遺 跡



第１図　熊本県前田遺跡出土弥生式土器の籾圧痕

熊本県彩色文化財調査結果報告

東京文化財研究所　朽津信明

１．調査対象

資料室・前田遺跡、出土土器（図100-66、図92-23、図83-９）付着顔料（本文参照）

玉名市・ナギノ８号横穴墓使用彩色顔料

熊本市・富ノ尾１号墳使用顔料

２．方法

分光光度計による可視光反射スペクトル分析[1)]

低レベル放射線源を用いた簡易元素分析[1)]

可搬型実体顕微鏡による顔料粒子の形状観察[2)]

３．結果

結果は表１に示す。

資料室における土器試料について、図100-66、図92-23、図83-９などの表面には、赤色物質が存在しており、その部分はベンガラのスペクトルと類似し、成分的に生地の部分に比べて鉄が豊富に検出された。また、図100-66については、赤色物質より上に、黒色物質が認められたが、領域が狭く、現地では分析が困難だった。

ナギノ８号横穴墓では、従来から確認されている赤を覆って、複数の鉱物の集合体が存在する灰色の層が確認された。この層は土壌物質に覆われており、表面付着物質とも明確に識別可能である。その他、白色顔料らしき部分も認められたが、今回の観察だけでは生物や析出物との識別が容易ではなく、現状では断定できる状況にはなかった。

富ノ尾１号墳では、石室の積み石で赤色顔料が確認された。これはスペクトルからベンガラと同定され、顕微鏡観察ではパイプ状の組織は認められなかった。なお、文様の存在が指摘されていた石障部分には、顔料粒子のようなものは見あたらなかった。

４．考察

まず、ナギノ８号横穴墓で見られる灰色層は、赤色顔料を覆って存在する部分が認められたことから、塗り残しではあり得ず、塗布された顔料層と判断される。実体顕微鏡観察と、過去に行った色の測定結果[3)]から考えて、大坊古墳や弁慶が穴古墳などで認められる、灰色顔料と同種の顔料が使用されていると判断される。また、白色顔料も存在する可能性が高いと判断されるが、これに関しては別の機会に再調査を試みる。

富ノ尾１号墳では、ベンガラの使用が確認されたが、これはパイプ状ベンガラ[2)]ではない、しかし純粋なベンガラと思われる。

この装飾古墳におけるベンガラと、調査室において観察した土器に塗布された赤色顔料とには、何らかの概念上の区別が必要と思われる。すなわち、今回調査した土器の表面に認められた赤色物質は、いずれも定義上はベンガラと呼ばれるべきものと思われるが、色的に赤みが乏しく、成分的にも不純物が多いように思われる。また、用途的にも、文様が表現されている装飾古墳の顔料としてのベンガラに比べ、全面に塗布さ

れた状況の土器付着赤色物質は、表現の意味として同じ概念と捉えるのは難しいのではないかと考えられる。このあたりの問題について、今後さらに検討を進めることにする。

引用文献

1）朽津信明（2003）　臼杵磨崖仏で観察される彩色表現について(２)―屋外彩色文化財の現地分析法の展開―，保存科学，41，19-27

2）朽津信明（2004）　装飾古墳に用いられた赤色顔料について、日本文化財科学会　第21回大会研究発表要旨集，106-107

3）朽津信明・下山進・川野邊歩（2000）　熊本県下の装飾古墳の緑と青の顔料について，熊本県立装飾古墳館研究紀要，４，21-34

古 墳 等	色	元　素	スペクトル	組　織	解　釈
図100-66	赤	―	ベンガラ	不詳	ベンガラ
	黒	―	不詳	不詳	不詳
図92-33	赤	―	ベンガラ	不詳	ベンガラ
図83-９	赤	Fe	ベンガラ	不詳	ベンガラ
	生地	(Fe)	生地	不詳	生地
ナギノ８号	赤	―	ベンガラ*	赤色粒子	ベンガラ
	灰色	―	灰色*	複数鉱物	灰色顔料
	白	―	白*	顔料状	白色顔料か？
富ノ尾１号	赤	―	ベンガラ	赤色粒子	ベンガラ

表１．分析結果一覧
―は、未測定

第VI章　総　　括

第１節　はじめに

前田遺跡の発掘調査により135基の遺構が確認された。(図16参照）その内訳は弥生時代中期後半期58基（竪穴住居跡：41軒、甕棺：２基、ポケット貝塚：１基、土坑：14基)、弥生時代後期前半期27基(竪穴住居跡：16軒、土坑：９基、溝：１条、不明：１基)、弥生時代時期不明10基（竪穴住居跡：２軒、土坑：７基、不明遺構：１基)、中世16基（土壙墓：４基、土坑：11基、掘立柱建物：１軒)、中世～近世、近世以降７基（溝：６条、礎石柱建物：１基)、時期不明18基（土坑：12基、焼土坑：２基、掘立柱建物：１軒、溝：１条、不明遺構：２基）である。

この他に縄文時代中期～晩期の遺物、古代の遺物が混在する。

ここでは確認された遺構や遺物を基に時代別に考察を試みたい。

第２節　各時代の考察

１　縄文時代

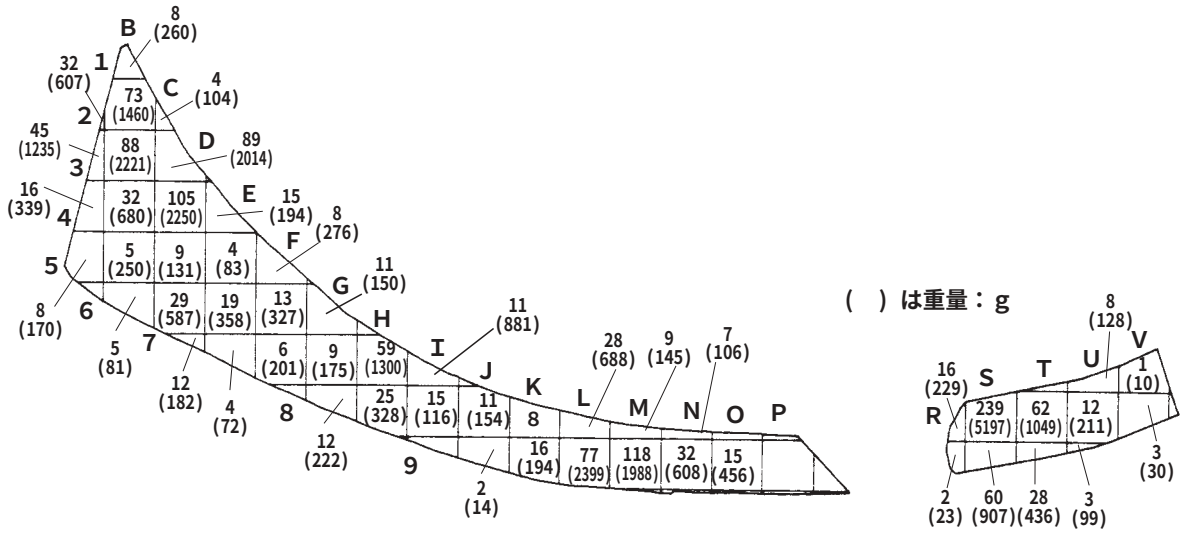
１）土器

前田遺跡の調査区内から出土した縄文土器は2,005点（43,416ｇ）に上る。内訳は包含層内出土土器は、1,530点（32,358ｇ）【調査１区：1,096点（24,039ｇ)、調査２区：434点（8,319ｇ)】、弥生時代以降の遺構に混入していた土器は、475点（11,058ｇ）【調査１区：337点（8,829ｇ)、調査２区：138点（2,229ｇ)】であった。

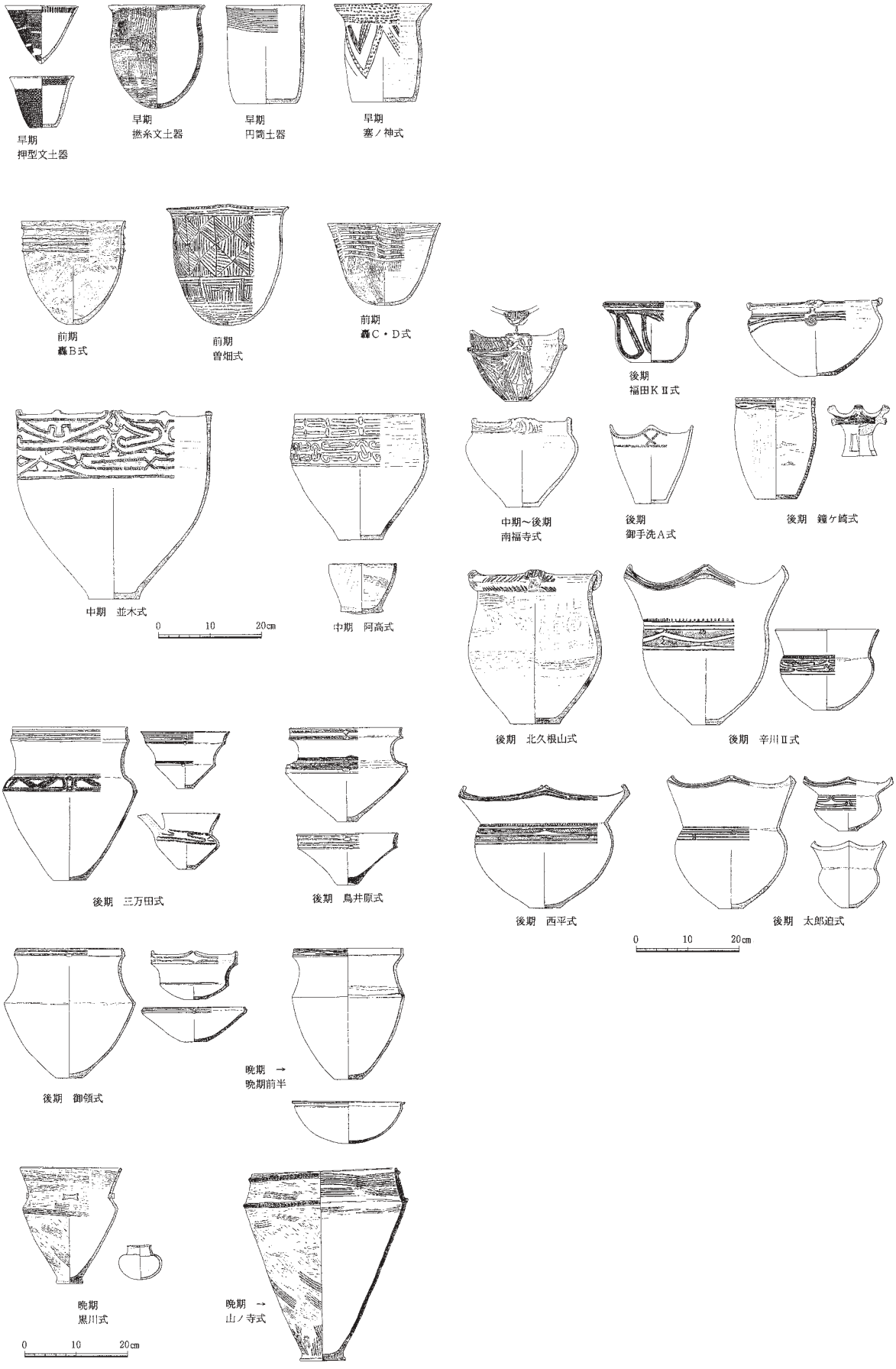
中期の阿高系土器、後期中葉の鐘崎式土器や北久根山式土器、後期後葉の太郎迫式土器や三万田式土器、後期末の御領式土器、晩期初頭の天城式土器、晩期前半の古閑式土器、晩期の黒川式土器が出土しているが、大半は晩期の古閑式土器～黒川式土器の粗製土器である。縄文時代後期の土器は対岸の菊水町の若園貝塚からも出土しており、当遺跡が同時期の生活域であったことが推定される。

菊池川の氾濫原であることを考慮すれば、遺物は原位置を留めているとは考えにくいが、ローリングを受けた遺物はほとんど少ない。この事から近くに当時の生活域があったことが推定できよう。土器の集中部は縄文時代の遺物を含む砂層を中心とした調査２区のＲ，Ｓ，Ｔ－８，９グリッドや、調査１区Ｂ，Ｃ，Ｄ－２，３，４グリッド周辺とＫ，Ｌ－８，９グリッド周辺に集中する傾向が見られる。

晩期の土器の中に組織痕土器及び赤色顔料を塗布した土器が出土した。特に組織痕土器の原体は網が主体を占めている。漁網として推定が可能であり、当該期の漁具として非常に興味深い。赤色顔料を塗布した土器は祭祀の際に使用した土器であろうか？



図(Fig)296　グリッド別縄文土器出土点数と重量



図(Fig)297　熊本地方の縄文土器　模式実測図（富田 1996)

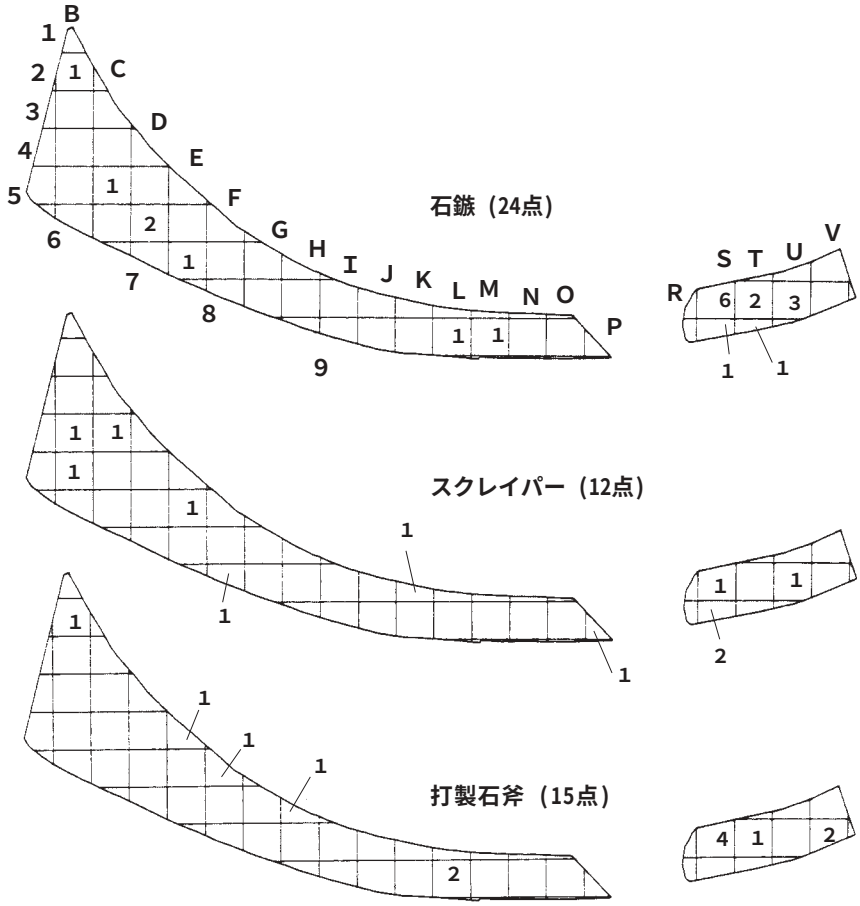
２）石器類

石器については主に腰岳産黒曜石（肉眼観察）と考えられる西北九州産黒曜石で作られた剥片石器が多く出土した。わずかに安山岩製の石器が含まれるが、そのほとんどが在地産安山岩であろう。但し数点、良質な安山岩が見られ、佐賀県多久市周辺で産出するサヌカイト質安山岩（肉眼観察）の可能性も考えられる。

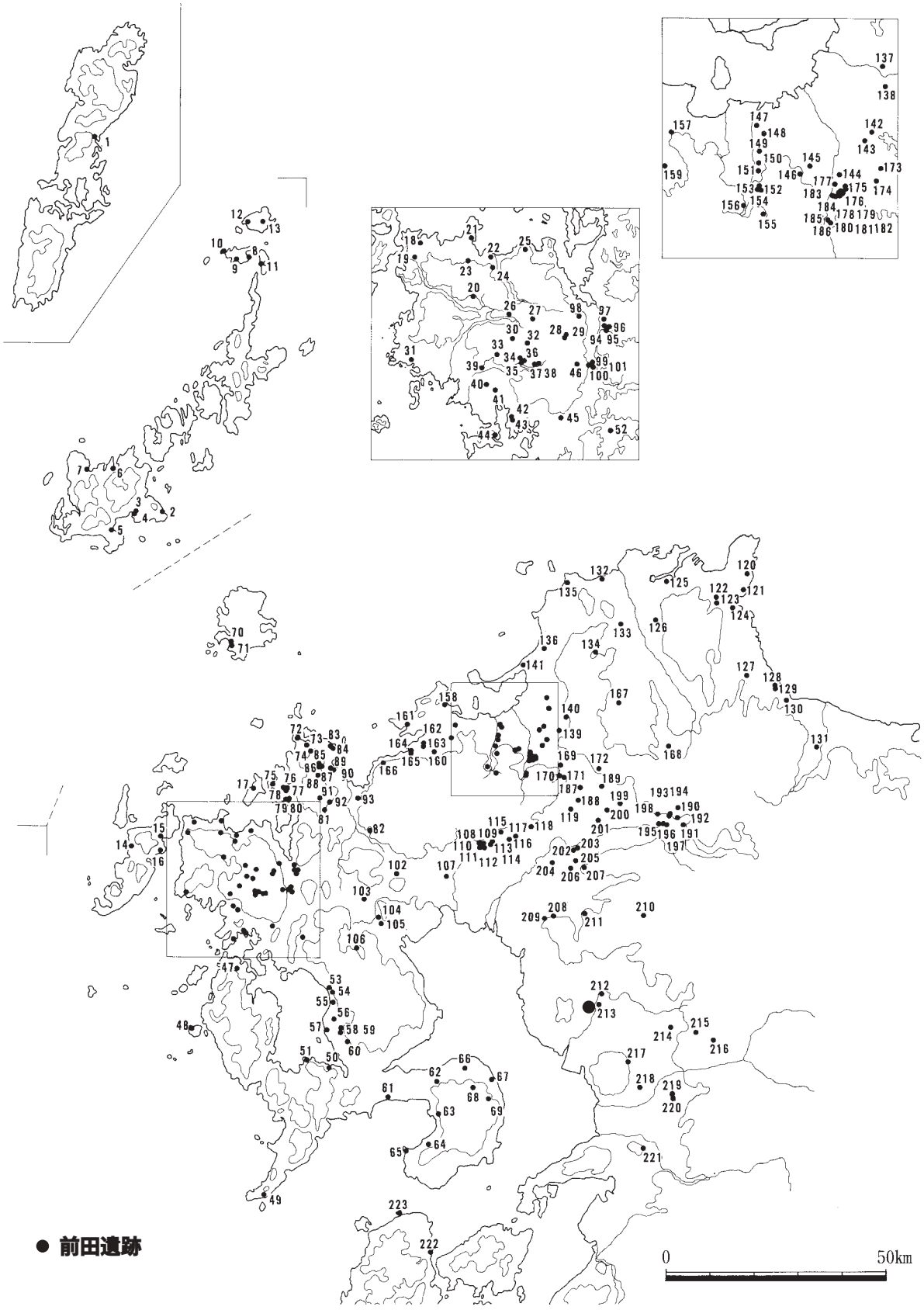
西北九州産黒曜石を使用した剥片石器類は、縦長のいわゆる石刃といわれる剥片が多く、腰岳周辺で縄文時代後期を中心に発達した「鈴桶型石刃技法」の影響があると考えられる。小畑弘己氏が提唱されている「鈴桶型石刃技法」の定義の中には①「クレステッドフレイク」の石核調整、②「スリガラス状擦痕」などの頭部調整技術、③剥離が行き詰まると、打面を下へ移動し、剥離を行う、④製品として剥片鏃やつまみ形石器が多いなどがある。(小畑　2003)前田遺跡出土石器がこれらの定義を全て満たしているとはいえないが、剥片鏃が散見され、石刃が多く見られることは確実である。おそらく「鈴桶型石刃技法」の影響を間接的に受けた文化が存在したのではないかと考える。剥片鏃の広がりも熊本県中部まで見られ、菊水町の竈門寺原遺跡や古閑原遺跡でも出土している。(冨永　2001)

その他の石器として、粘板岩や片岩製の打製石斧、磨製石斧や蛇紋岩製の小型ノミ状の石斧が多数出土した。これらの石器は、伐採具、土堀具、木製品の加工具として捉える事ができ、石鏃などの狩猟具などとともに当時の生活の一端を窺い知ることのできる遺物である。

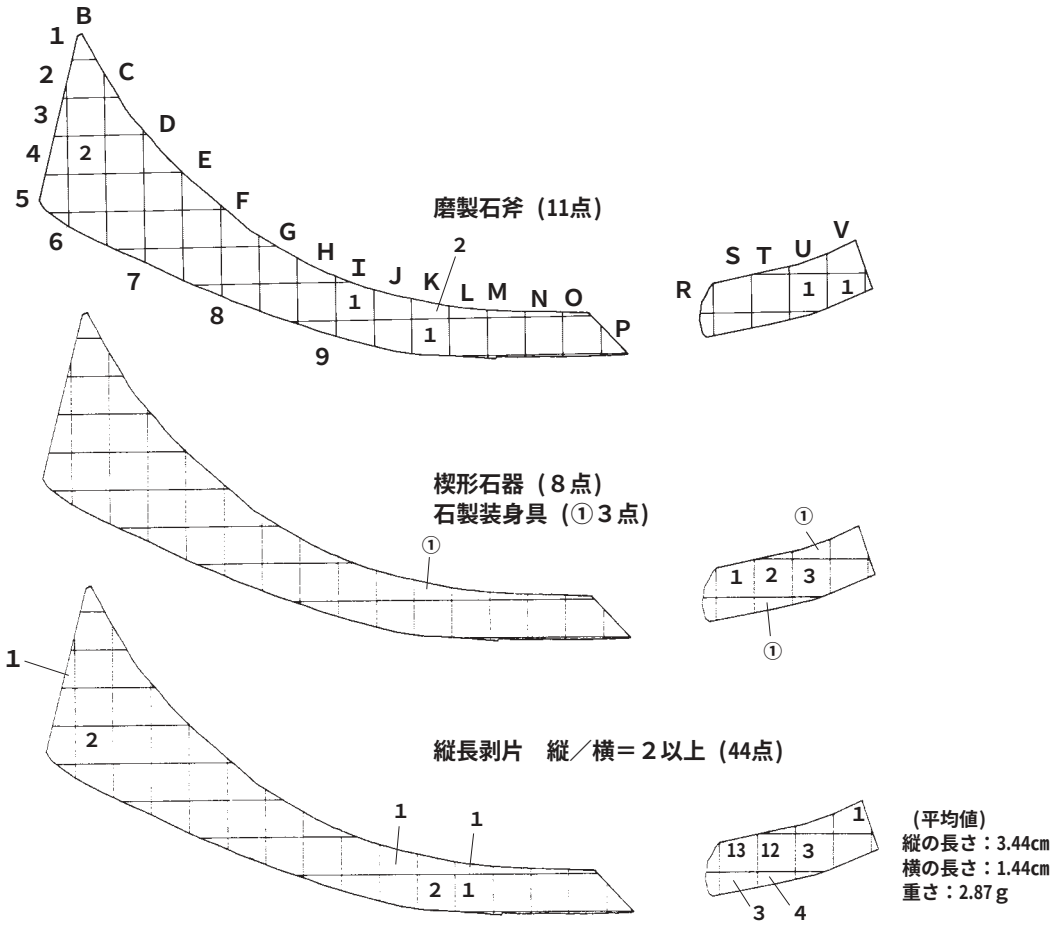
特筆すべきは石製勾玉、蛇紋岩製小玉の装身具が出土していることである。石製勾玉のうち１点は、蛍光Ｘ線分析により富山県～新潟県の糸魚川産ヒスイ、１点は鹿児島県加世田周辺に産出が想定されている結晶片岩様緑色岩であることが証明された。この状況は大津町ワクド石遺跡の様相と同じである。特に糸魚川産ヒスイについては、磨り消し縄文技法が北方から九州島に伝播した時期に同じ文化の流れに乗って伝播した可能性が高い。(古森　1994)



図(Fig)298　グリッド別石器出土点数（１）



図(Fig)299　剥片鏃出土遺跡分布図（冨永 2001を改変）



図(Fig)300　グリッド別石器出土数（２）

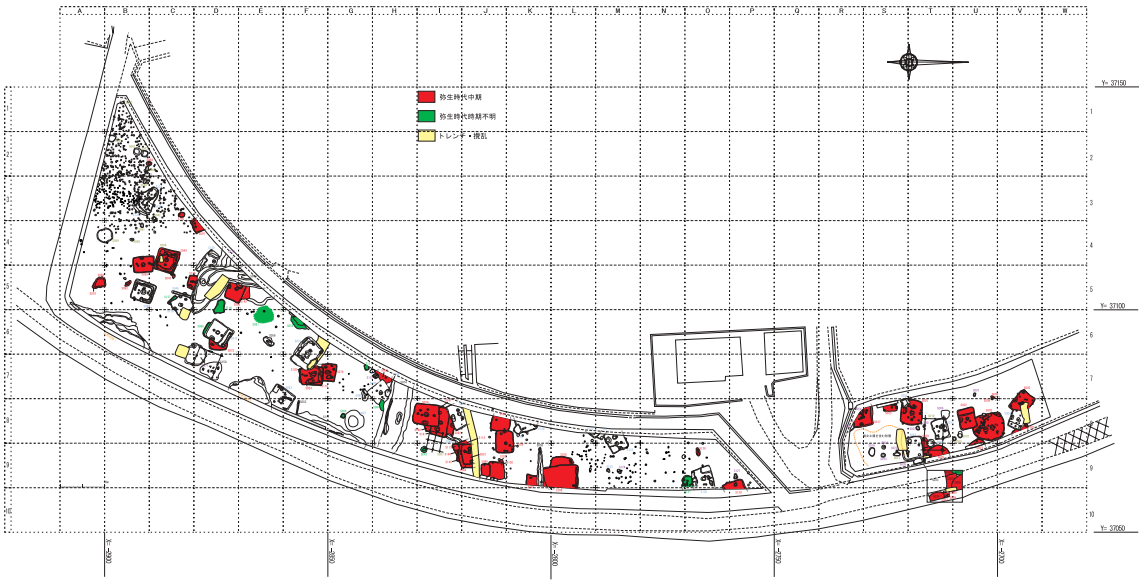
２　弥生時代

１）遺構の時期とグルーピング

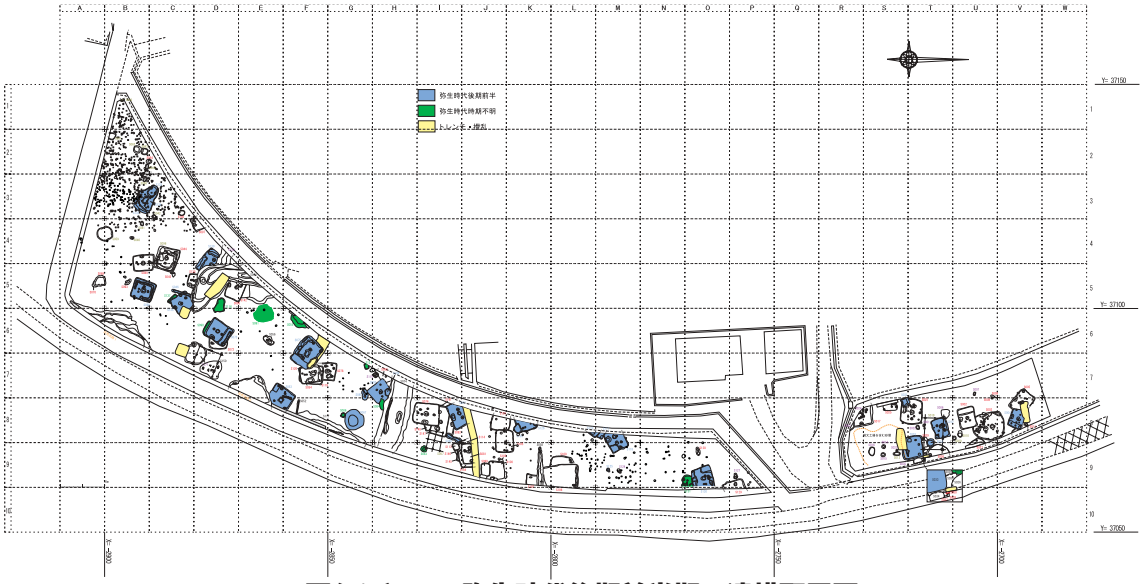
弥生時代は、不備な点を承知で、自分なりに中期後半期と後期前半期の２時期に分別を試みた。また、２つの時期の中間的な過渡期的様相を示す土器もあるが、いずれかの時期に組み入れることにした。

遺構数は、弥生時代中期後半期58基（竪穴住居跡：41軒、甕棺：２基、ポケット貝塚：１基、土坑：14基)、弥生時代後期前半期27基（竪穴住居跡：16軒、土坑：９基、溝：１条、不明：１基)、弥生時代時期不明10基（竪穴住居跡：２軒、土坑：７基、不明遺構：１基）である。

当地の弥生時代中期後半期は、在地の黒髪式土器を中心とする文化圏の中に北部九州の須玖Ⅱ式土器の影響が及んでいる。また、同時に甕棺としての立岩式土器の影響も見受けられる。中期後半期に熊本地方を中心として広がる在地の黒髪式土器は、口縁部形態で中期前葉から中期後葉まで５分類される西健一郎氏の編年が有名である。北部九州の中期前半期を代表する城ノ越式土器の影響を受けた口縁形態で、口縁部の内側への突起がなく、口縁基部が肥厚して短く外反するのが黒髪式土器の古段階と理解される。それが新段階になると口縁部は内側に細長く突起がのび、外側にほぼ同じ厚さで細長くのびて、口縁部の内傾する度合いが強くなるために、口縁部上部が明瞭に凹み、くの字形口縁に近い器形になる(西　1983)。いずれも中期後半期に位置付けたＳ106とＳ108の切り合い関係は、Ｓ106がＳ108を切っている。すなわちＳ106が新しく、Ｓ108が古いことは断面の状況からも明らかである。(図86・写真146参照）しかし、土器の様相は切り合い関係とは逆を示し、Ｓ108が新しく（図114の１～４参照)、Ｓ106の方が古層（図103の80、81参照）を示す土器が含まれていた。いずれの遺構の土器も完全に伴うものではなく、遺構廃絶後どれくらい後に混入したのかという大きな問題はあるが、ここでは中期後半期をいくつかに分けるのではなく、１つの時期でまとめて提示することにした。



図(Fig)301　弥生時代中期後半期の遺構配置図



図(Fig)302　弥生時代後期前半期の遺構配置図

①弥生時代中期後半期（図301参照）

弥生時代中期後半期の遺構は、58基（竪穴住居跡：41軒、甕棺：２基、ポケット貝塚：１基、土坑：14基）である。図301を見ると菊池川の自然堤防上に当時の集落が形成されていたことがわかる。

調査２区のU，Vグリッドより北西側は旧地形よりやや高くなっており、ほとんど削平されている可能性が高い。S008とS009の甕棺墓が存在することから、調査区外に墓域が広がることが想定される。

東側の菊池川は自然の環濠になっていることから西側には水田や環濠があった可能性が考えられる。

注目したいのはL～Oグリッドの間に空間があることである。約25m以上にわたり当該期の遺構が存在しない理由は何であろうか？調査２区にはガラス小玉や碧玉製管玉を持つ住居群が多いことや調査１区の北側にあるS106が筒形器台など多量の丹塗り土器を持った特殊な住居跡であることを考慮すれば、小集落同士の境であった可能性も否定できない。

②弥生時代後期前半期（図302参照）

弥生時代後期前半期の遺構は、27基（竪穴住居跡：16軒、土坑：９基、溝：１条、不明：１基）である。図302を見ると菊池川の自然堤防上に当時の集落が形成されていたことがわかる。

ここで注目したいのは、10～15mの間隔を空けて等間隔に住居跡が並んでいることである。ある一定の時期の間に営まれた集落跡の可能性が考えられる。

しかし、H、Ⅰグリッド周辺で家の軸線がやや異なる。これを時期差とみるか集団差とみるか、あるいは家の軸線がやや異なっても何ら関係のないこととして考えるべきなのか良くわからないが、非常に興味深い配置をしている。

２）住居跡の形態と時期差

弥生時代中期後半期の竪穴住居跡は41軒、弥生時代後期前半期の竪穴住居跡は16軒、そのほとんどが部分的にしか残存しておらず、完全な形で復元できた住居跡は少ない。これらのうち図303の様に住居跡の形態を４つの傾向に分類を試みた。

①楕円または円形の住居プランで、柱穴が円形に回るもの。(Ｓ003，26､108)

②方形または隅丸方形の住居プランで、中央に炉、その両側に柱穴、そして中央隅に貯蔵穴を持つもの。(Ｓ001、５､17､76､77､81､89、135)

③方形または隅丸方形の住居プランで、中央に炉、その両側に柱穴、中央隅に貯蔵穴、そして周囲に溝を持つもの。(Ｓ044、90､139)

④方形または隅丸方形の住居プランで、中央に炉、その両側に柱穴、中央隅に貯蔵穴、そして隅にベッド状の高まりを持つもの。(Ｓ002、４､53､73､75､118､130)

①は、中期後半期でしか見ることができず、後期前半期に続くかは不明である。②は、主に中期後半期で見られる。後期前半期にも１軒だけ見られるが、主体は中期後半期であろう。③は、中期後半期で１軒、後期前半期に２軒見られる。主体は後期前半期の可能性が考えられる。④は、中期後半期で１軒、後期前半期に６軒見られる。主体は後期前半期であろう。

また、貼り床を行う住居が多く見られた。おそらく付近に産出する花崗岩が崩れた山砂（肉眼観察）を敷いたものと考えられる。調査の結果から、竪穴式住居の作り方を推定すると、①竪穴を掘る、②山砂を敷く（３～５㎝程)、③炉や柱穴を掘り込む、④柱をたてる……という順序で復元が可能である。山砂を敷き、はり床をした後に、柱穴や炉をほったことが復元できる。

３）遺物

①土器（図304～311参照）

中期後半期の土器は、黒髪式土器が主体を占める。この土器の特徴は先述したとおり、内側に細長く突起がのび、外側にもほぼ同じ厚さで細長くのびるという口縁部の形態にある。図304～306に黒髪式土器に特徴的な甕形土器、壺形土器、鉢形土器、器台の一部を示した。器台は胴部の中央部がくびれることが当該期の特徴であると考えたい。また、少量ではあるが丹塗り土器と特殊な土器も提示した。しかし、これらの土器は搬入された可能性が考えられる。

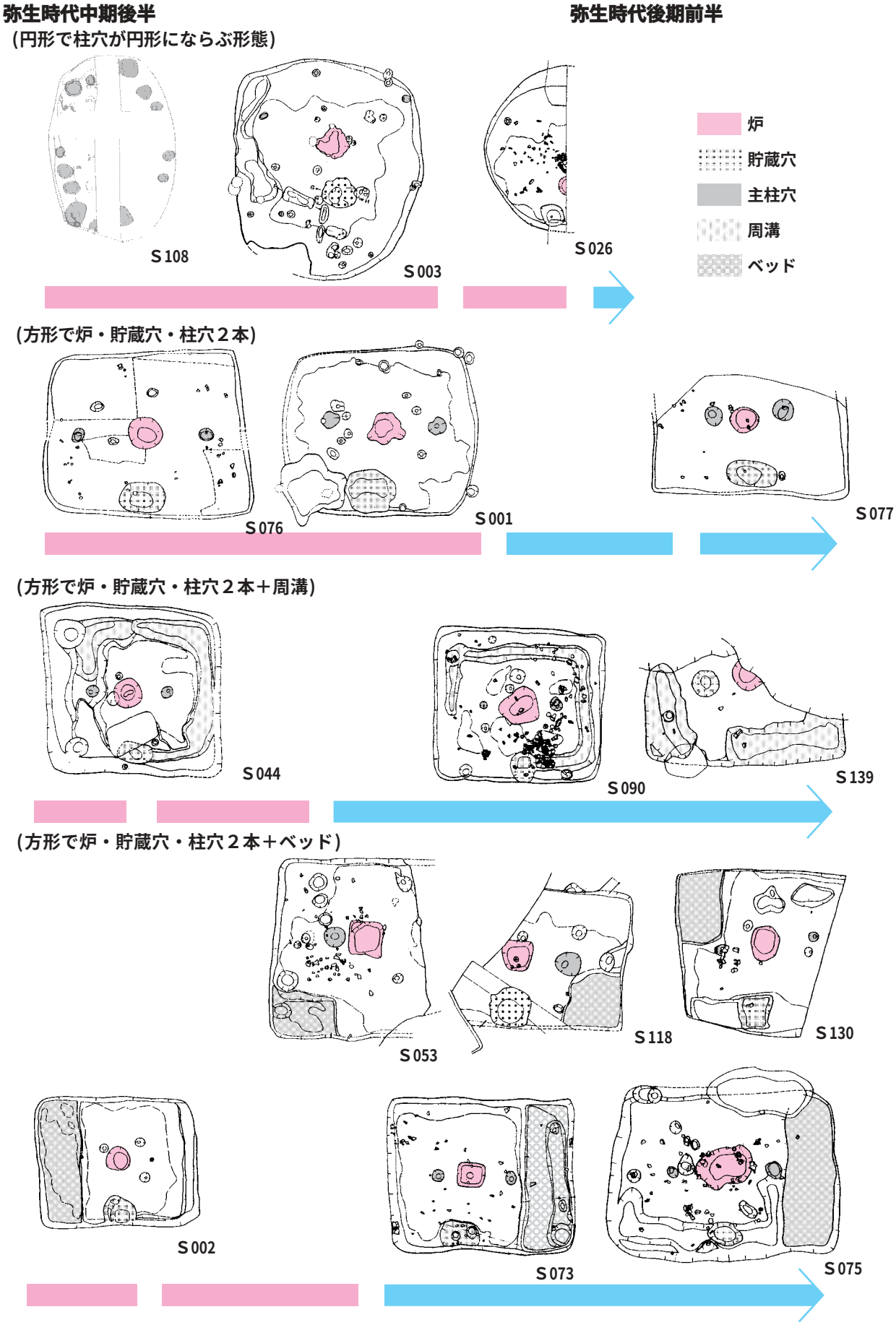
この他に須玖Ⅱ式土器の範疇で捉える事が可能な土器の一部を図307に示した。その特徴として、丹塗り、鋤先形口縁、M字状の口縁端部、三角状の突帯、暗文、筒形器台などが挙げられる。また、甕棺としての立岩式土器の一部を図306に示した。

黒髪式土器、須玖Ⅱ式土器、立岩式土器が共伴している可能性が考えられる遺構はＳ089、101であり、黒髪式土器、須玖Ⅱ式土器が共伴している可能性が考えられる遺構は、Ｓ106、129､140であると考える。

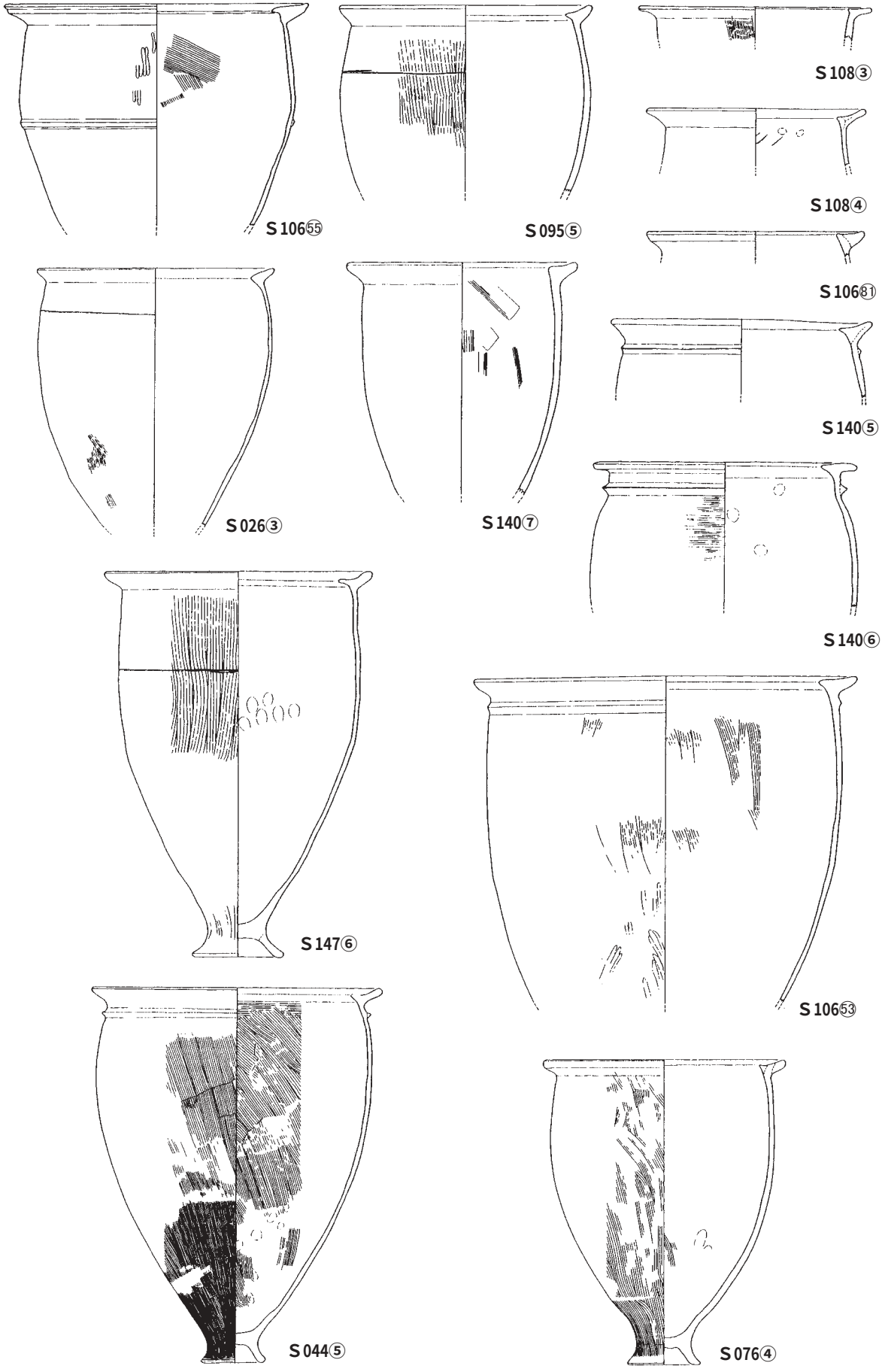
中期後半期の土器が遺構に共伴する例としてＳ026(壺形土器)、Ｓ081（ミニチュア土器)、Ｓ095（甕形土器)、Ｓ106（最下層の土器)、Ｓ140（ほとんどの土器）が考えられる。

丹塗りの須玖Ⅱ式土器の中には胎土が白っぽく搬入品ではないかと思われる土器が数点あったが、胎土分析の結果、菊池川流域の堆積物に由来する可能性が高いことが判明した。(第Ⅴ章P377～382参照)粘土を何度も濾過して精製したためであろうか？

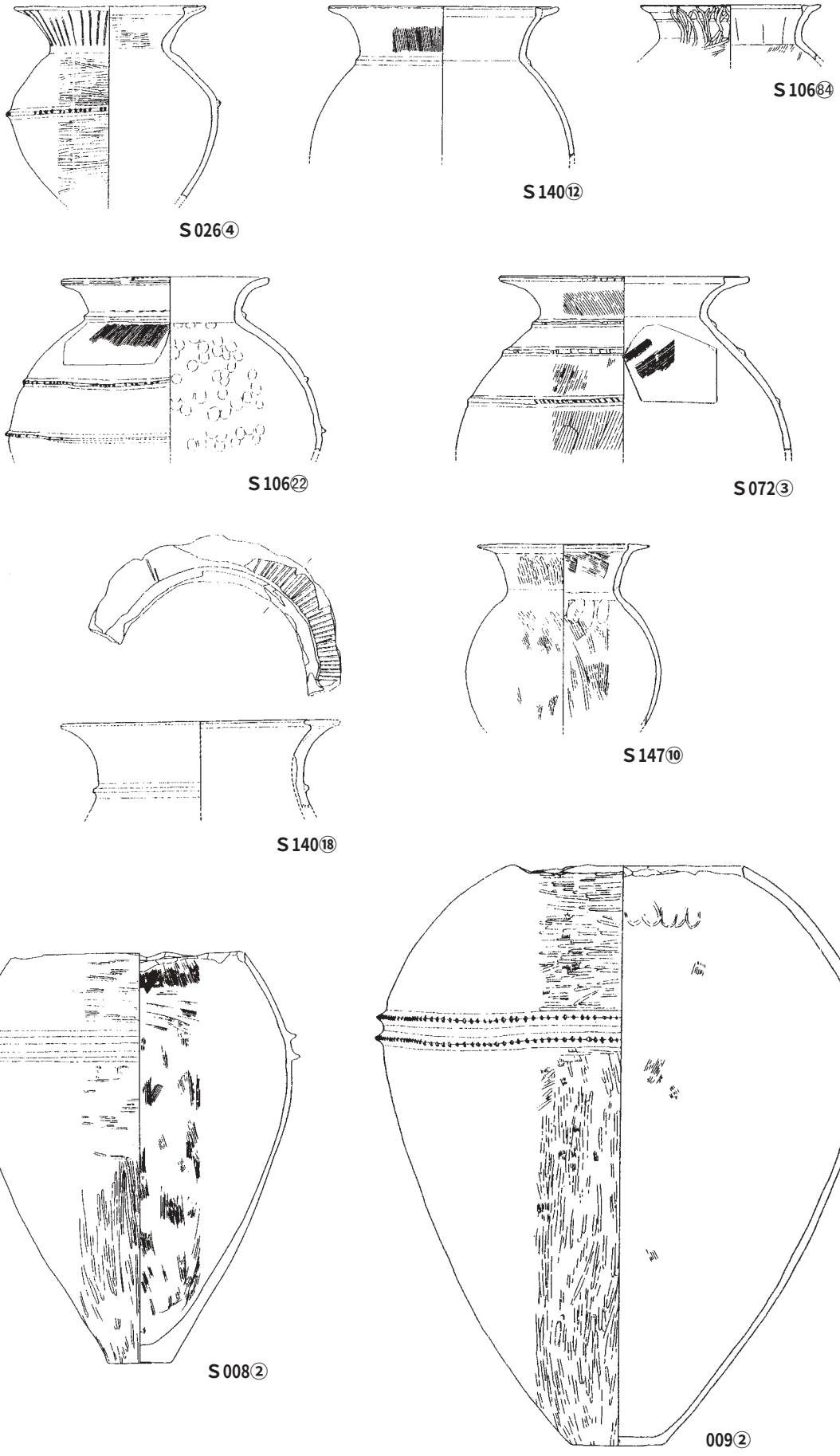
中期後半期と後期前半期の過渡期的様相を示す土器は、口縁形態が黒髪式土器と後期の特徴である「くの字」口縁との中間的な様相を示し、「くの字」までは口縁が立ち上がらず、突起はないが内側への張り出しが見られることを過渡期的な様相として個人的には捉えたい。壺形土器は、底部は後期の様相である「レンズ状のふくらみ」が見られるが、口縁の内側にはわずかな突起が見られ、黒髪式土器の名残を残しているものと考えられる。器台は胴部のくびれがやや胴部上半部になりつつあることをその根拠とした。



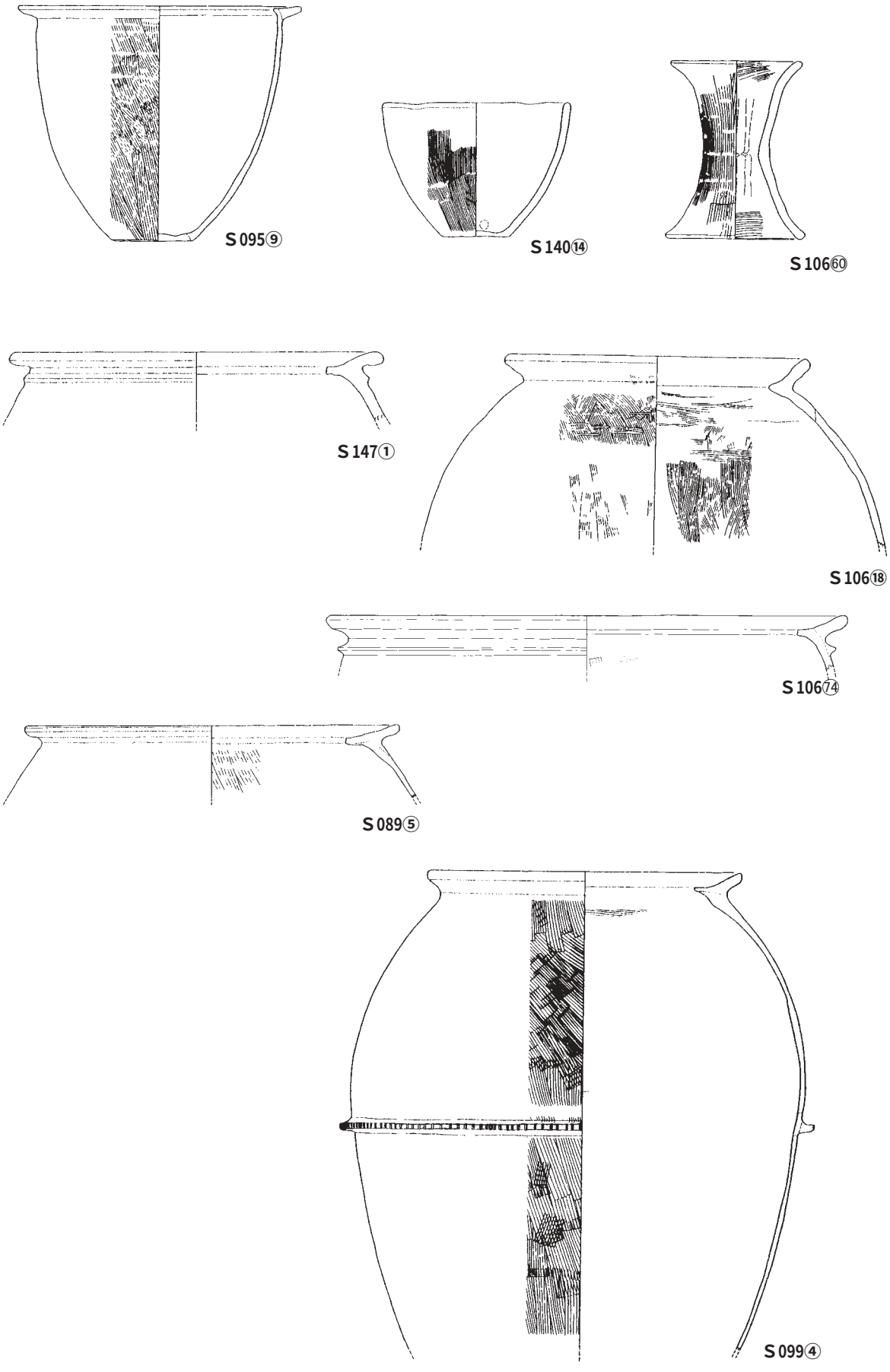
図(Fig)303　前田遺跡における弥生時代中期後半～後期前半期の住居形態の分類



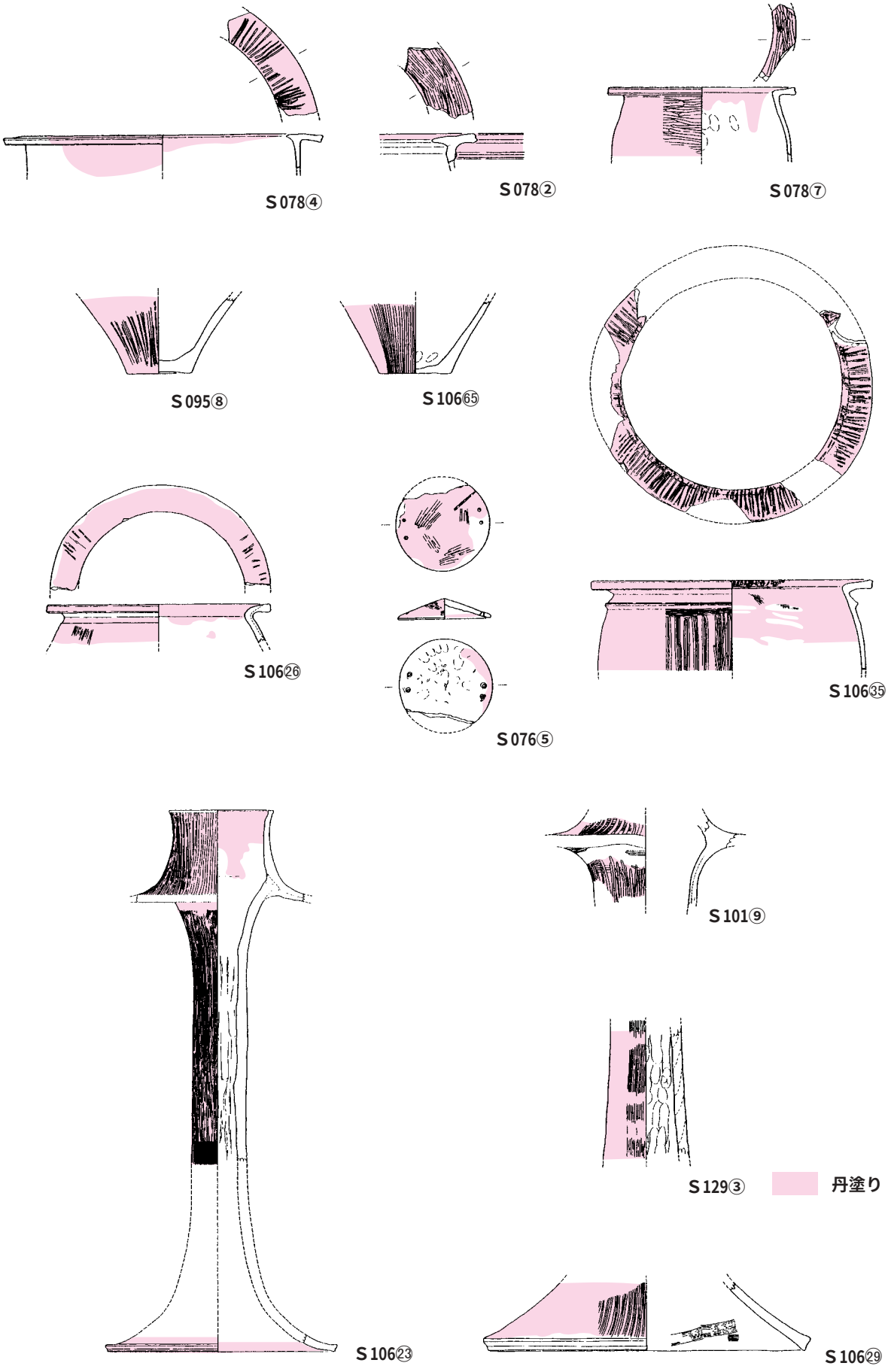
図(Fig)304　前田遺跡における弥生中期後半期の土器（１）：甕形土器



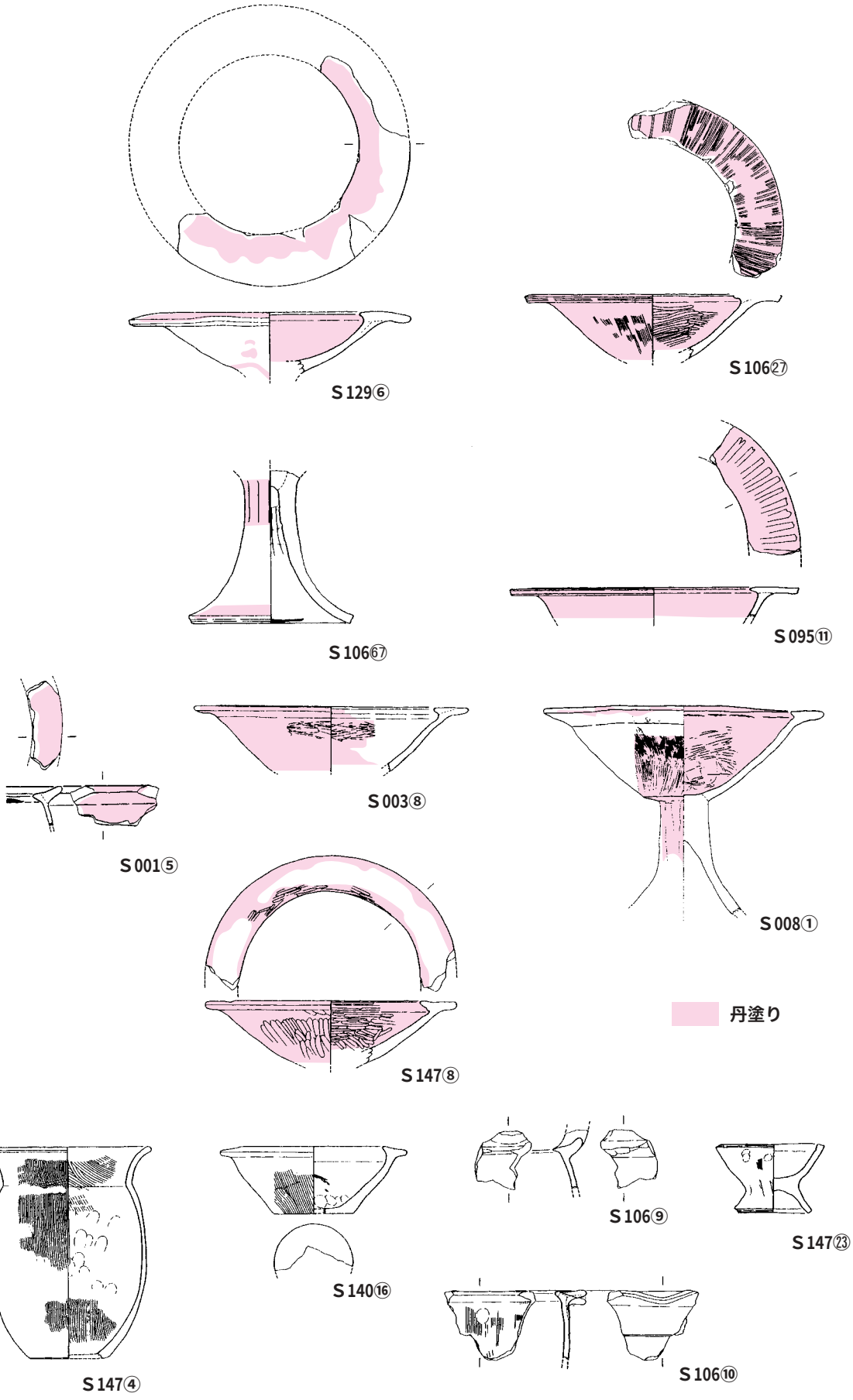
図(Fig)305　前田遺跡における弥生中期後半期の土器（２）：壺形土器



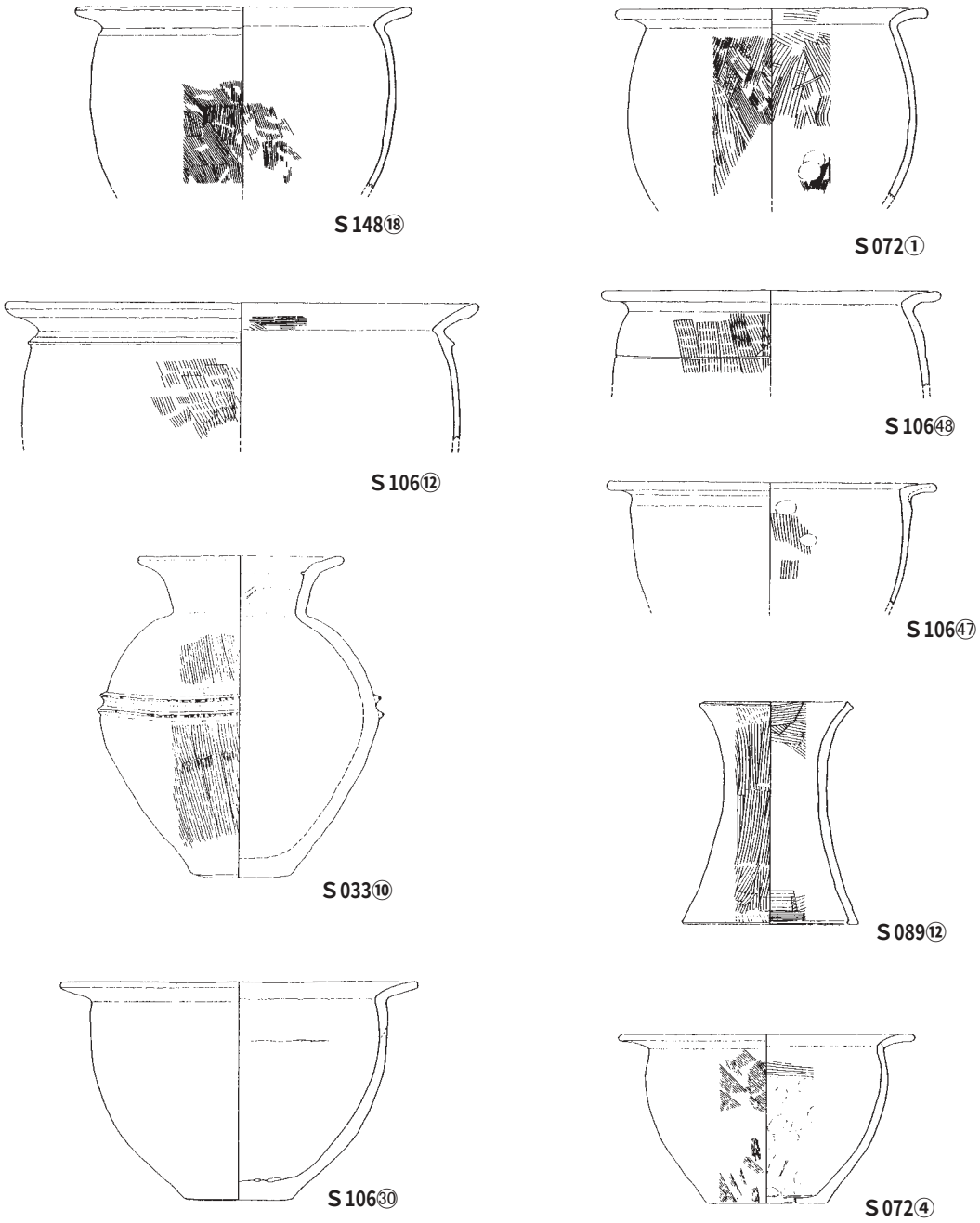
図(Fig)306　前田遺跡における弥生中期後半期の土器（３）：鉢形土器、器台、甕棺



図（Fig）307　前田遺跡における弥生中期後半期の土器（４）：須玖Ⅱ式土器



図(Fig)308　前田遺跡における弥生中期後半期の土器（５）：須玖Ⅱ式土器、黒髪式土器、その他



図(Fig)309　前田遺跡における弥生中期後半期と後期前半期の過渡期的な様相を示す土器

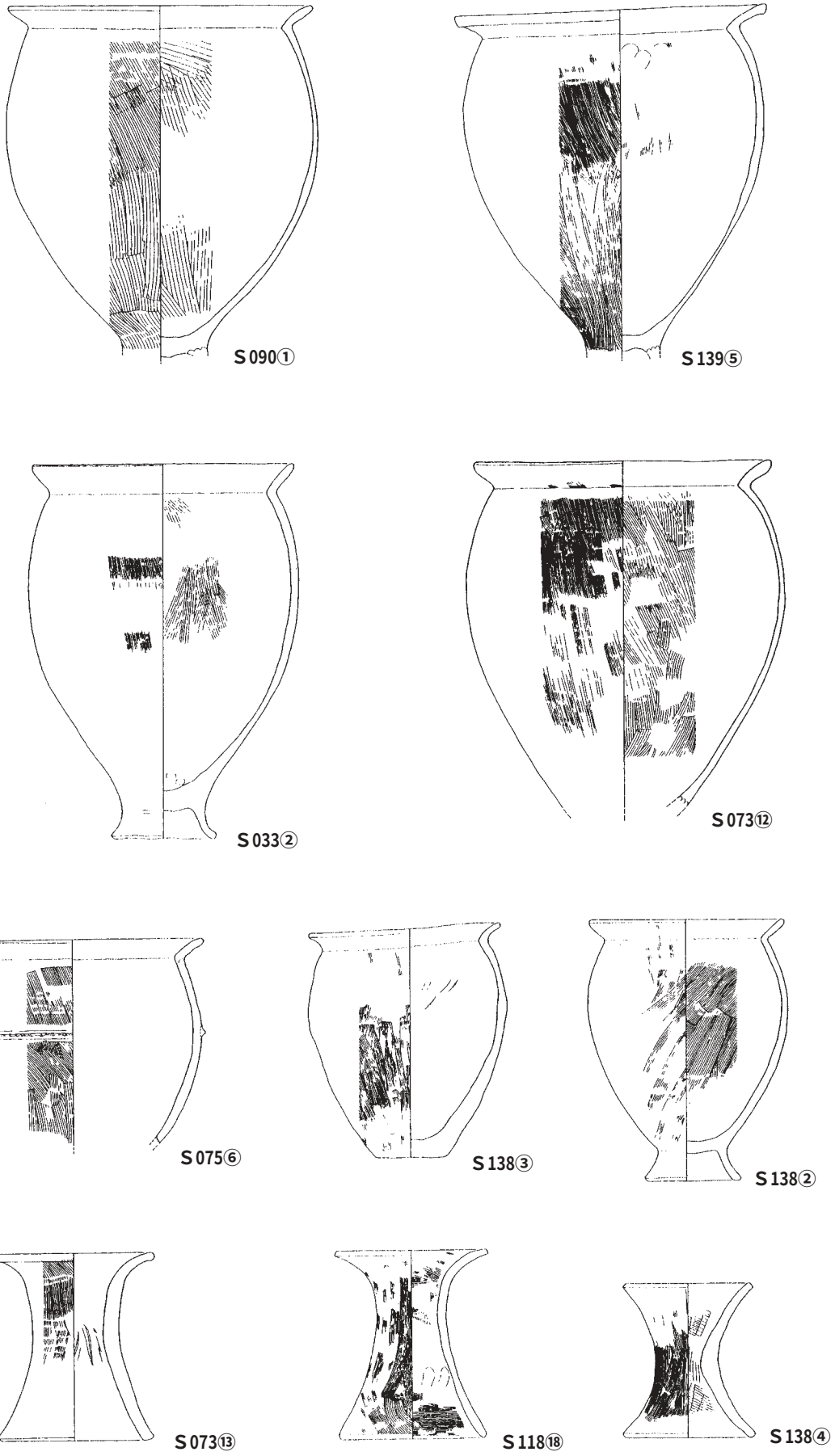
後期前半期の土器は、「くの字」口縁、「レンズ状」のふくらみを持つ底部を当該期の特徴とする。図310～311に特徴的な甕形土器、壺形土器、鉢形土器、器台、高杯形土器の一部を示した。器台の特徴はくびれが口縁部近くにあると考えたいがS138で一括出土した器台は中期後半的な様相を示す。(図310の最下段右)

後期前半期の土器が遺構に共伴する例としてS118(最下層の土器)、S138（ほぼ完形の土器セット)、S139（甕形土器や鉢形土器）が考えられる。

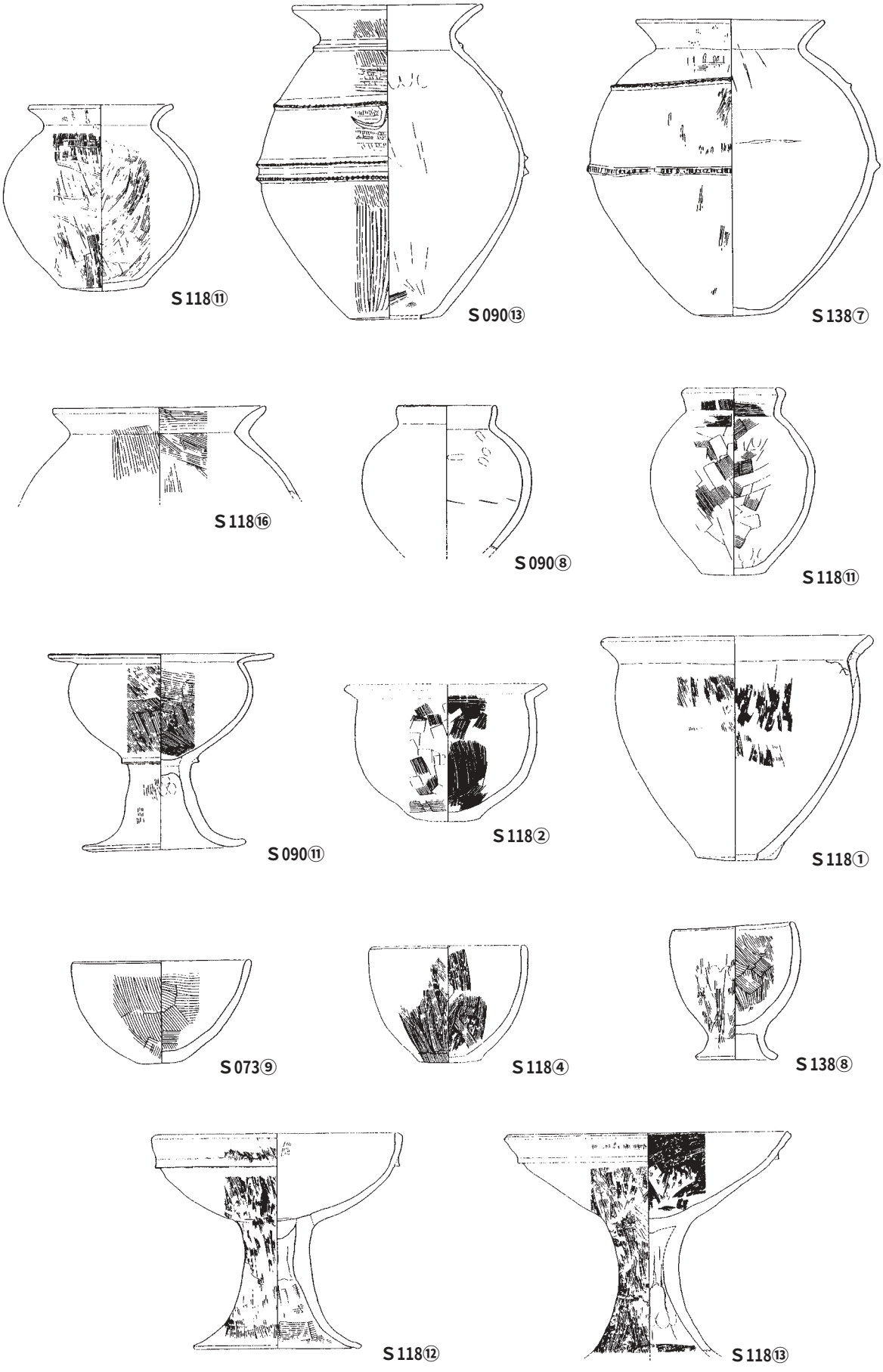
②石器

出土した石器は、磨製石鏃（26点)、石包丁（15点)、石製紡錘車（１点)、石剣（１点)、石戈（１点)、太形蛤刃石斧（１点)、砥石（28点）である。その他、弥生時代の打製石鏃もあったかもしれないが、先述したとおり、全て縄文時代の打製石鏃として取り扱った。特に五角鏃は弥生時代の打製石鏃である可能性が残る。

これらの中で特筆すべきは石剣と石戈の出土である。石剣は基部が欠損しており、石戈は転用品だと



図(fig)310　弥生時代後期前半期の土器（１）：甕、器台



図(Fig)311　弥生時代後期前半期の土器（２）：壺、鉢、台付鉢、高杯

推定されるが、いずれも出土例は少なく、石戈は県内５例目である。

石包丁の中には肉眼観察ではあるが、福岡県宮田町周辺で産出される色調が薄い紫色である輝緑凝灰岩製の立岩産石包丁が数点含まれていると考えられる。立岩産石包丁は当時の北九州を中心に流通していたことは有名であるが、玉名周辺もその流通圏内に含まれていたことが言えそうである。

砥石はほぼ砂岩と流紋岩（天草砥石）に大別される。主に鉄器や磨製石器を磨くために使用されたものと考えられる。重要なのは、砥石に流紋岩（天草砥石）が使用されていることである。当時、立岩産石包丁や今山産石斧が流通した様に、砥石として流紋岩（天草砥石）が流通していた可能性も否定できない。

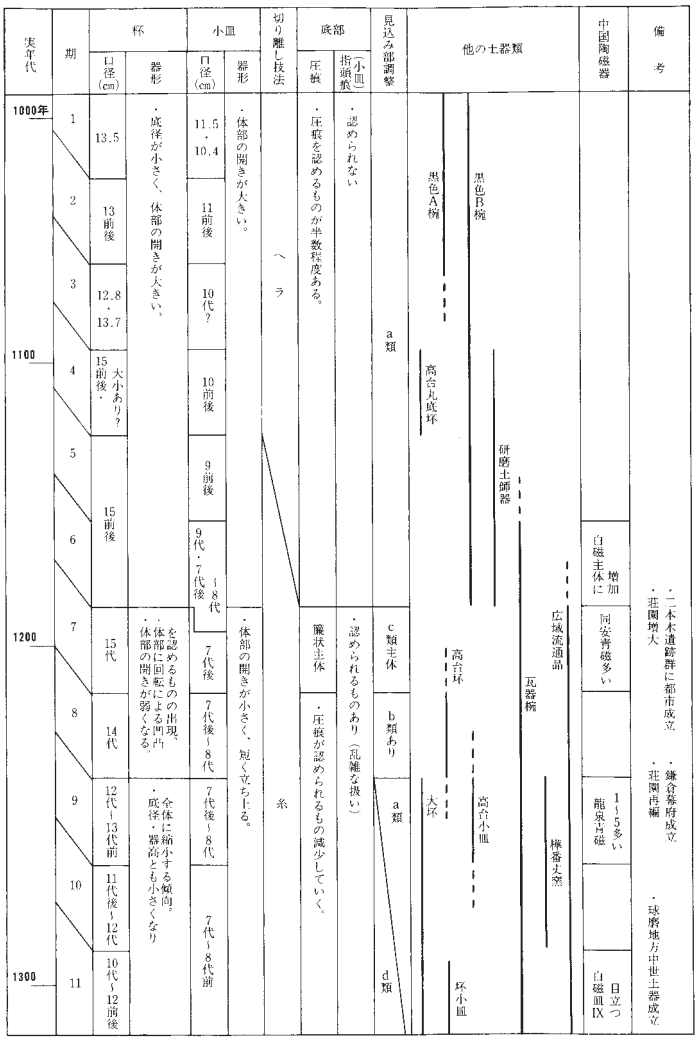
③その他の遺物

その他の遺物として、土製品（勾玉、紡錘車）、鉄器（鉄鏃、板状鉄斧、袋状鉄斧、槍鉋）、ガラス小玉（12点）、石製管玉（11点）、銅鏃(１点)、炭化種子などが挙げられる。

後期前半期の住居跡（Ｓ075）から出土した板状鉄斧は当時の朝鮮半島産であることが村上恭通氏の指導で明らかになっている。

ガラス小玉、石製管玉、銅鏃は、それぞれ化学分析を経ており、ガラス小玉は全てカリガラス、石製管玉は全て碧玉製、銅鏃は鉛同位体の分析から弥生後期に属することが判明している。

遺構内覆土を水洗した際に出土した炭化種子は、分析によりイネ、モモ、オオムギ、マメ科、ムギ類、コナラの子葉などと判明した。覆土は上層～下層、床面、炉内など様々であり、遺構に伴うか否かの問題も残るが、炭化しているということを考慮すれば当時、食されていた可能性は高いと考えたい。ちなみにS106の最下層中心炉から出土した炭化子葉で



表(Tab)16　熊本県北部～中央部編年概略（美濃口 1994）

の^{14}C年代測定ではcal BC170という暦年代較正値がでている。

3　古代

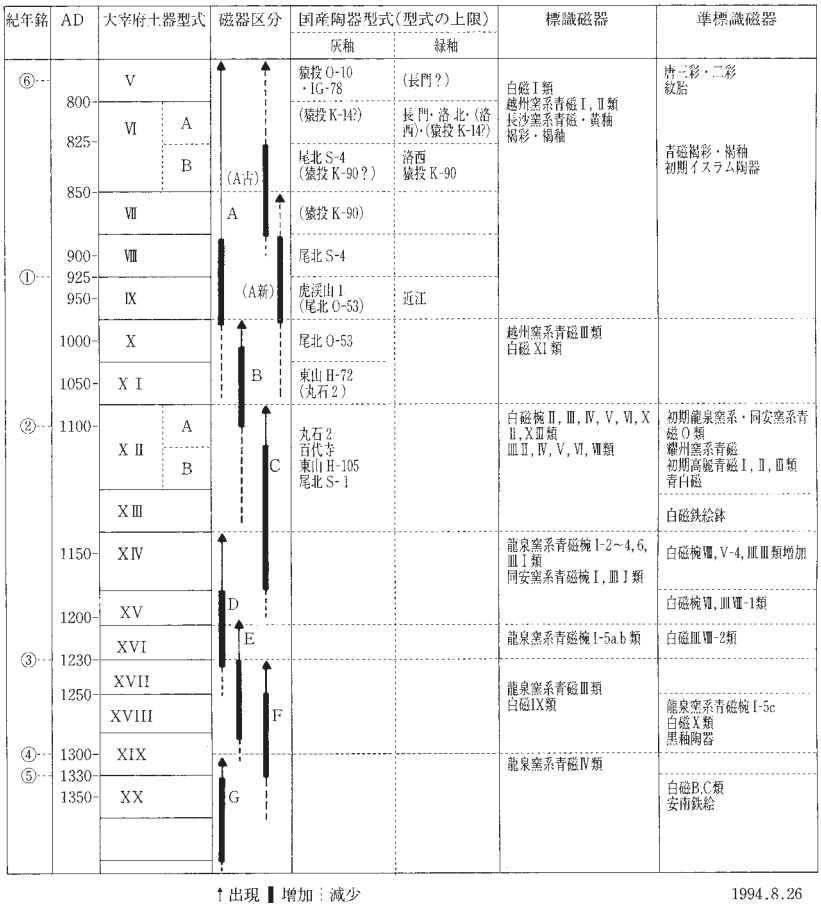
古代の遺物は3点出土しているだけである。布目瓦、須恵期の甕、移動式竈と考えられる破片である。遺構は確認されていない。いずれもローリングは受けていないことから近く位集落や寺院の想定が考えられるが、詳細は不明である。

4　中世

1）歴史的背景

図316によれば前田遺跡は中世期には仁和寺領玉名荘に位置している。また、最も近い中世城は、菊池川の対岸に位置する江田城（365-100）である。城主は江田又太郎秀家といわれている。(村上　1978)

肥後の武士団の発生は、11世紀中葉期から12世紀にかけてといわれている。なかでも菊池氏では藤原蔵規の子則孫や孫の政隆が大宰府の高官であると同時に、中央貴族から肥後国住人といわれる在地領主となった。おそらく肥後の菊池郡の郡司家、ないしは鞠智城の軍団長の家長と大宰府高官とを背景に、11世紀後半から12世紀にかけて中世武士団菊池氏の基礎を築き、菊池川本流右岸の深川の菊の池城を中心に軍事力を形成するとともに、一族は菊池・合志・山鹿・玉名の菊池川流域をはじめ託麻・益城や球磨・天草にまで拡大化されていったと考えられている。(森山　1987)

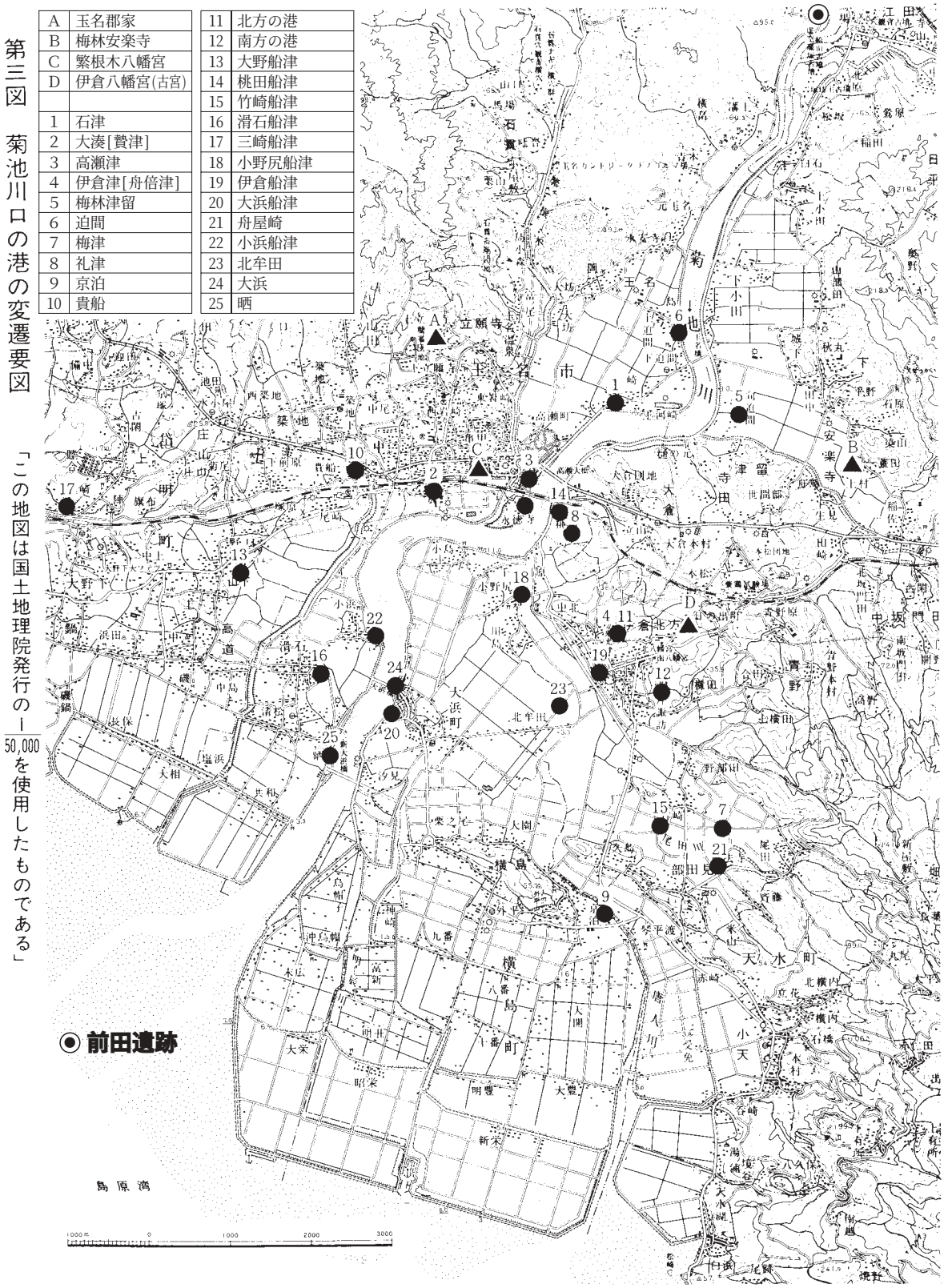


紀年銘資料　① AD. 927　延長 5 年，大宰府74次 SD205A 溝
② AD. 1091 寛治 5 年，平安京左京 4 条 1 坊 SE 8 井戸
③ AD. 1224 貞応 3 年，大宰府33次 SD605溝
④ AD. 1304 嘉元 2 年，大宰府109，111次 SD3200溝
⑤ AD. 1330 元徳 2 年，大宰府45次 SX1200池
⑥ AD. 784　延暦 2 年，長岡京102次 SD10201溝

①九州歴史資料館『大宰府史跡昭和56年度発掘調査概報』1982
②田辺昭三・古川義彦『平安京跡発掘調査報告左京四条一坊』1975　平安京調査会
③九州歴史資料館『大宰府史跡昭和49年度発掘調査概報』1975
④九州歴史資料館『大宰府史跡昭和63年度発掘調査概報』1989
⑤九州歴史資料館『大宰府史跡昭和52年度発掘調査概報』1978
⑥長岡京市埋蔵文化財センター『長岡京市埋蔵文化財調査報告書第 1 集』1988

表(Tab)17　太宰府土器型式と国産陶器・貿易陶器編年（山本 1995）

鎌倉幕府下にあって肥後の武士団への最大課題は、文永11年（1274年）から始まる文永・弘安の役の蒙古襲来であったとされる。この時出軍した肥後武士団を竹崎季長の『蒙古襲来絵詞』でみると、文永の役では竹崎季長をはじめとして、菊池武房・西郷隆政・城隆経・赤星有隆・菊池隆泰・同康成・城隆頼・江田秀家・託麻頼秀・焼米五郎、弘安の役（1281）では、城盛宗・詫磨時秀・大野国隆・合志太郎・相良頼俊・大矢野種保・同種政、また異国出兵用に注進させた請文には、井芹秀重、菊池西郷の菊池導空、



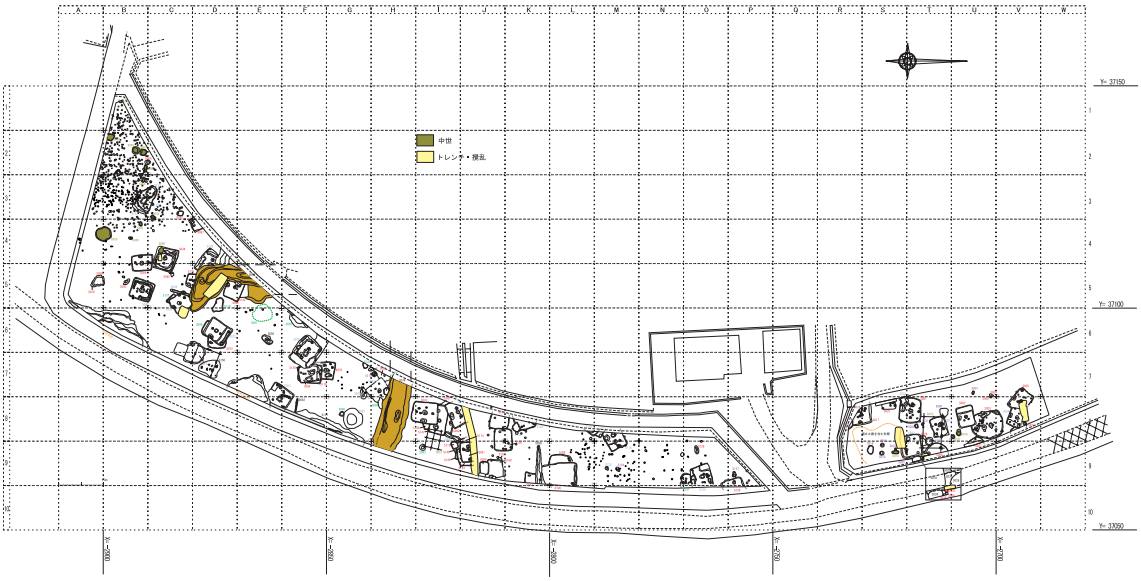
A	玉名郡家
B	梅林安楽寺
C	繁根木八幡宮
D	伊倉八幡宮(古宮)
1	石津
2	大湊[贄津]
3	高瀬津
4	伊倉津[舟倍津]
5	梅林津留
6	迫間
7	梅津
8	礼津
9	京泊
10	貴船

11	北方の港
12	南方の港
13	大野船津
14	桃田船津
15	竹崎船津
16	滑石船津
17	三崎船津
18	小野尻船津
19	伊倉船津
20	大浜船津
21	舟屋崎
22	小浜船津
23	北牟田
24	大浜
25	晒

第三図　菊池川口の港の変遷要図

「この地図は国土地理院発行の1/50,000を使用したものである」

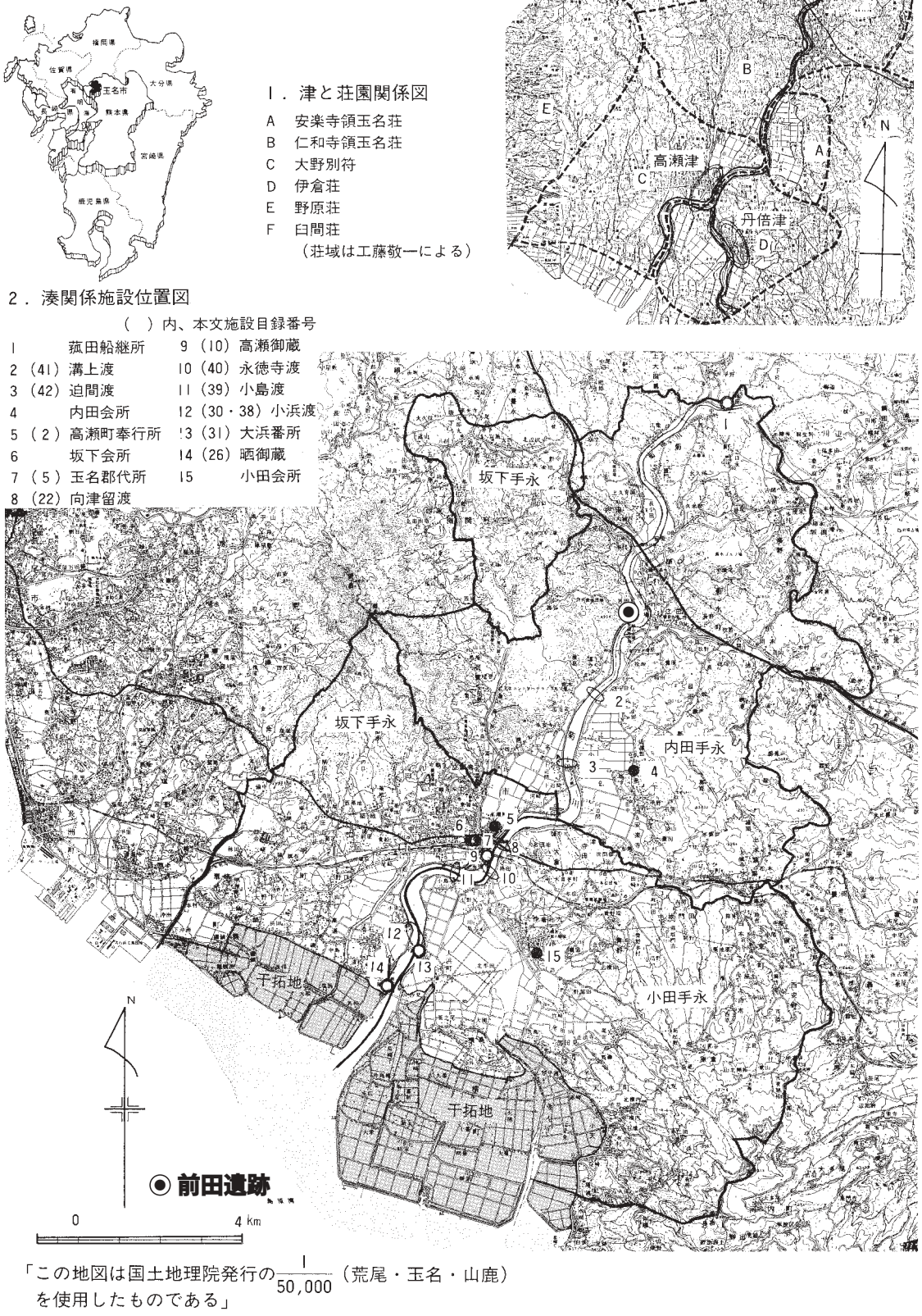
図(Fig)312　菊池川口の港の変遷要図（田辺 1988）



図(Fig)313　中世の遺構配置図

図(Fig)314　時期不明の遺構配置図

図(Fig)315　自然流路及び縄文土器を含む砂層の遺構配置図



図(Fig)316　湊関係施設位置図（田辺 1988に加筆）

北山室の地頭真阿尼、窪田庄預所僧定愉、久米預所藤原重行・同頼房等が注進・証文を出し、当時の肥後の武士であることを示している。

この『蒙古襲来絵詞』に江田秀家と焼米五郎がみられる。江田秀家は、元玉名郡菊水町江田の江田城を中心とする鎌倉武士で、薩摩国高城郡得吉名二町を所領した肥後国住人江田又太郎実秀も一族であろうといわれている。江田城は菊池川支流の江田川沿

いである。江田は周知の様に、古墳時代には船山古墳等の肥後の古墳を代表する古墳を擁し、ついで律令期には三宝寺跡地から玉名郡司日置氏の墓誌銘が発掘され、また、古代の官道が通るように、玉名郡における玉名郡衙の立願寺（現玉名市）付近と並ぶ、玉名郡の中心の一つの政治文化地域であった。それが、日置氏が衰滅するとともに菊池氏が菊池川沿いに進出してきたのであろうが、それに対するかのよう、江田氏が在地領主として成長してきたのであろうか、江田氏の氏祖については今日不明であろうが、前時代の政治・文化等を継承して領主基盤を確立していったものであろう。いま江田周辺の菊池川本流をみると、菊池川左岸の字前原に「下津留」、字藤田に「内津留」「中津留」「下津留」「上津留」「津留」と六ヶ所の津留めが存在し、右岸には字長小田に「中津留」、字古閑に「沖津留」「上津留」「津留」と四ヶ所の津留めがみられ、さらにやや下流の字白石には「津留」「上津留」の二ヶ所がみられるように、江田を中心として12ヶ所の津留めが存在することは、この津留めを根拠に菊池川と支流の内田川・江田川の津料等を含む水運権を把握して領主権を強化して武士軍事力団を形成し、菊池川・有明海を通じて薩摩高城郡（現川内市高城）に進出していったのではないかと考えられる。(森山　1987)

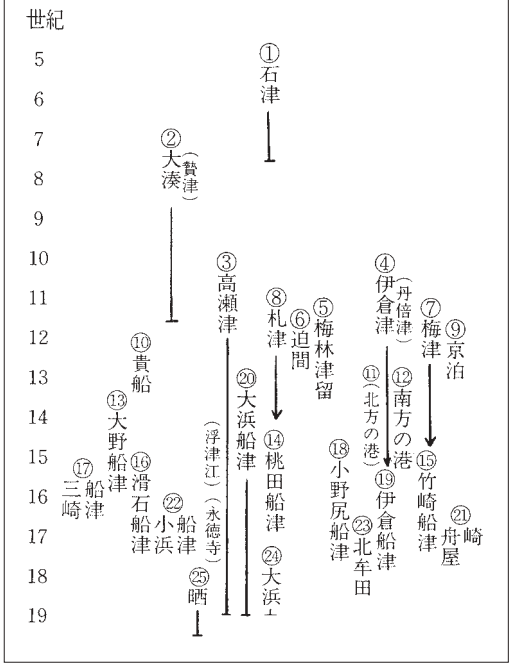
２）遺跡の性格

中世の遺構は、16基（土壙墓：４基、土坑：11基、掘立柱建物：１軒）であり、出土遺物から中世～近世にかけて使用されたと推定される溝が２条（S074、94）確認される。

調査区全体をみると２区のS，T，Uグリッド周辺と１区のA、B、Cグリッド周辺に集中している。そのほとんどが土壙墓及び土坑である。また、A、B、Cグリッド周辺には多数のピットがあり、やや時代が混在しているものの、元々掘立柱建物が建っていたものと考えられる。

これらの遺構の中で注目すべきは、S096の土壙墓である。副葬品として、鎬入り蓮弁文の龍泉窯青磁椀の完形品と土師皿が４点出土している。おそらく屋敷墓であり、当時、居を構えていた一族の初代の墓の可能性が高い。時期は出土した土師皿は、美濃

第一表　菊池川口の諸港推定年代



表(Tab)18　菊池川口の諸港の推定年代
(田辺 1988)

口氏の編年案による８期（13世紀初頭）～９期（12世紀前半～中葉）にあたると考えられる。一方、出土龍泉窯系青磁碗は、山本氏の太宰府土器型式と国産陶器・貿易陶器編年による時期区分でＥ期（13世紀前後～前半）にあたる。よって13世紀初頭～前半の時期と推定される。

その他の遺構は、出土遺物から12世紀後半期（S013)、13世紀前半期（S010，18，62，65，96)、13世紀後半期（S059，61，63）と推定される。

出土遺物から中世～近世にかけて使用されたと考えられる溝が２条（S074とS094）あるが、これは元々菊池川に直結していたと推定され、船入の可能性も考えられる（青木勝士氏のご教示による)。しかし、S074は用水路の可能性も考えられる。そこで、問題になるのがS094の溝内土坑で出土した火輪の時期である。火輪単独では時期の同定は難しいが、火輪の側面形が同じ幅でせり上がることやホゾ穴の形状が四角であることを考慮すれば、13世紀代で捉えることが可能かもしれない。ここでは13～15世紀の時間幅を考えておきたい。菊池川から引き込んだ船入りと仮定すれば、その先端部周辺に遺構が集中していることから、この遺跡の位置付けは非常

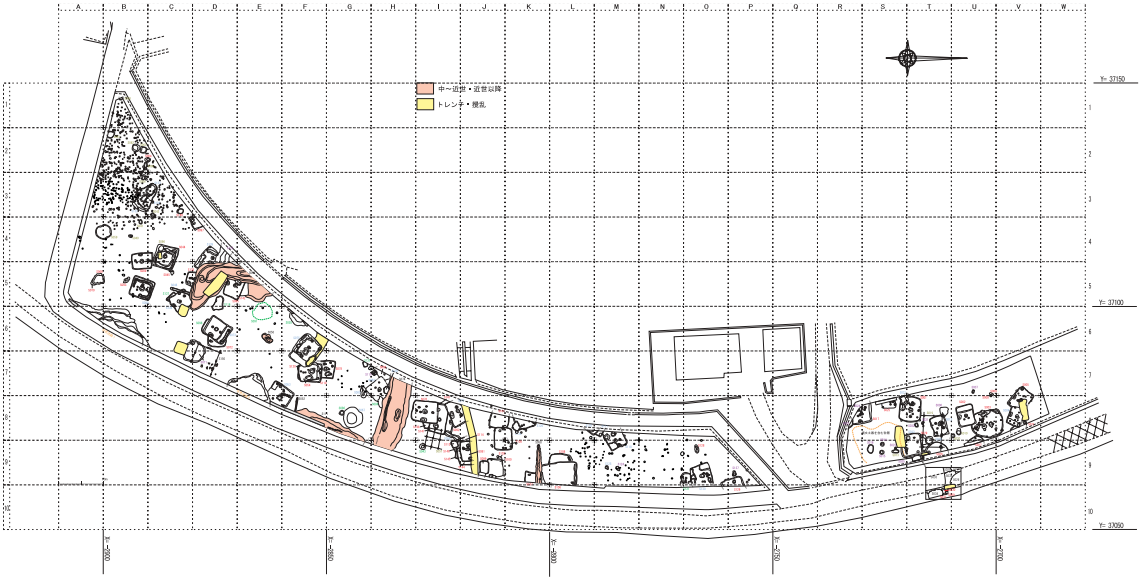
に興味深くなる。そうなれば、先述した江田氏の影響下における水運関連武士団の集落と考えることも否定できないであろう。

はっきり言える事は13世紀前半期を中心として、12世紀後半期から13世紀後半期まで営まれた集落が存在したといえることである。

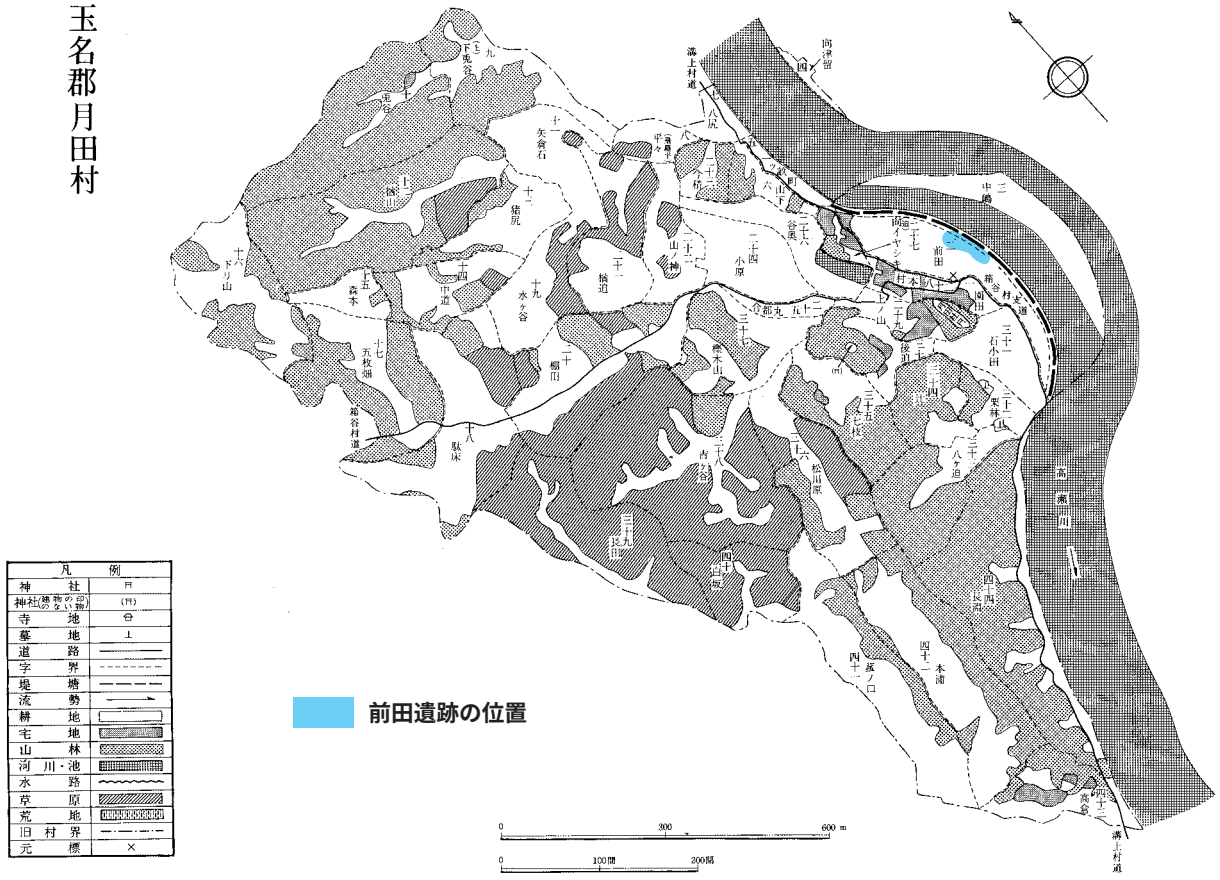
5　近世

1）歴史的背景

天正15年（1587）豊臣秀吉の九州仕置後、当市域は佐々成政、翌年には加藤清正の支配に属した。清正は菊池川の流路を変更し、大干拓事業を行い、新地を開いた。当時の千田川原一帯は、菊池川の三角



図(Fig)317　近世の遺構配置図



図(Fig)318　前田遺跡周辺字図（玉名郡村図　月田村『玉名市史 資料篇１ 絵図・地図』に加筆）

州とした川が分流し、長年にわたる土砂の堆積が進行していた。清正は現在の伊倉船津へ流れていた菊池川本流を、大浜方面へ付け替えるため東塘・西塘を造り、さらに上流左岸の桃田・千田・小島に堤防を築き、旧本流を締め切り、菊池川の流路を変えたと伝えられる。この事業は天正17年に着工され、完成までに17年を要し、慶長10年（1605）に完成したと言われるが（藤公偉業記)、なお検討が必要とされる。この大改修工事ならびに干拓事業により、伊倉への船の交通は絶たれ、伊倉は港としての機能を失った。その代償として、当市域では小野尻・千田川原・小島・川島・北牟田・大浜の６か村にわたって広大な牟田新田が生まれ、後世の村の成立の基礎となった。横島・大園（現横島町）両村を加えれば、合計870町９反歩、石高5,976石の小田牟田新地が出現したといわれる。

寛政９年（1632）加藤氏に代わって細川氏が入封し、当市域も同氏の支配に属した。同12年には郡と村の中間に手永という肥後藩特有の行政区を設けた。玉名郡内には坂下、小田、伊倉、内田など14の手永が入り組む形で成立し、それぞれ伊倉孫左衛門手永のように、手永名を姓とした惣庄屋が支配した。しかし、寛文年間（1661〜1673）頃には整理され、６手永となり、当市域は小田、内田、坂下、南関の４手永に文属し、高瀬だけは高瀬町として独立した行政単位であった。同町は加藤清正の菊池川改修により、地位が向上し、城北地方の一大中心地となった。菊鹿盆地や玉名平野の産地を控え、寛政12年（1800)ころには12にも及ぶ手永の年貢米が舟で菊池川を下り、高瀬に集約された。荷は舟から直接に町家の倉へ運び入れられた。現在でもその遺構の一部は残っている。また、同町は高瀬町奉行の支配下に置かれ、同町の隆盛に伴い商工業は活気を呈し、幕末期には菓物商、豆腐商、大工、舟乗、穀物商、桶屋、仕立屋、左官、畳職、鍛冶職、風呂職、薬店などの職業が見られたといわれる。(村上1987)

前田遺跡は、内田手永に属している。(図316参照)

２）遺跡の性格

近世及び近世以降の遺構と考えられるのは図317の中にある溝状遺構（Ｓ024、52、58、74、94、117)と礎石建物（Ｓ150）である。Ｓ074、94の溝状遺構は、中世期から使用された船入り又は用水路と考えられるが、近世期にも用水路として使用された可能性が高いと考えられる。この２つの溝状遺構から出土した陶磁器の年代は、17世紀後半〜18世紀後半の年代を示している。少なくとも18世紀後半までは使用された遺構であると考えられる。凝灰岩の切石を溝の端に並べて使用してあるＳ117は、用水路としての性格が強いと考えられる。

凝灰岩の切石を礎石として使用してある礎石建物(Ｓ150）は礎石を少なくとも３段に積み重ねてあることから、水位を意識した建物かもしれないが、詳細は不明である。

図318の玉名郡村図【明治12年（1879）〜明治15年（1882）に作成】は近世の地名や土地利用が色濃く残されていると考えられる。前田遺跡は周辺を菊池川左岸の自然堤防上にあり、宅地の側に位置する耕地となっている。確認された遺構も耕作に関連する溝状遺構が主体であることから、近世期は耕地として利用されていた可能性が高いことを裏付けてくれる。

第３節　今後の課題

以下に反省を踏まえてこの報告書で解明できなかったことを記載して今後の課題としたい。

①縄文時代の「鈴桶技法」の影響を受けた石器が後期〜晩期のいずれの時期に属するのかという突き詰めができなかったこと。

②弥生時代の時期の細分ができなかったこと。

③中世、近世の歴史解明のためには文献資料や金石文ばかりではなく、考古学の成果も合わせて考察することは言うまでもないが、もっと文献資料を読み込んで、他方向から検討すべきであったこと。

④Ａ・Ｂ・Ｃグリッド周辺では中世を中心とした堀立柱建物群が多数あったと推定されるが、筆者の力量不足で遺構の特定ができなかったこと。

⑤今後付近の発掘調査が進む中でまた新たな事実関係が解明されるであろう。そのような積み重ねの中でこの遺跡の性格をもう一度問い直すべきであること。

図版番号	遺物番号	種別	器種	部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	高台高 (cm)	高台径 (cm)	残存高 (cm)	最大胴径 (cm)	調整 (内面)	調整 (外面)	調整 (その他)	色調 (外面)	色調 (内面)	胎土	焼成	黒斑	赤色顔料	出土地点	層位	備考
249	1	縄文土器	深鉢	底部	-	(15.0)	-	-	-	4.2	-	指ナデ	指ナデ		にぶい黄橙 (10YR1/3)	灰黄褐 (10YR4/2)	石英、角閃石、長石、金雲母	不良	-	-	106	Nカベ	縄文後期、残存率1/10、阿高式系？内底部はデコボコ
249	2	縄文土器	浅鉢	口縁部	-	-	-	-	-	3.5	-	横ナデ、指頭圧痕	横ナデ、沈線、凹線		灰黄褐 (10YR4/2)	灰黄褐 (10YR4/2)	石英、長石、角閃石	良好	-	-	K8 Gr.		縄文中～後期、阿高式系
249	3	縄文土器	浅鉢	口縁部	(19.5)	-	-	-	-	5.0	-	ナデ後ミガキ	沈線、すり消し縄文、刺突、赤色顔料塗布	磨消縄文	明黄褐 (10YR6/6)	明黄褐 (10YR6/6)	石英、角閃石、金雲母、輝石	良好	-	○	L9 Gr.	No25	縄文後期、残存率1/10、鐘ヶ崎式土器、沈線内に赤色顔料残る
249	4	縄文土器	浅鉢	口縁部	-	-	-	-	-	3.0	-	ナデ、沈線	ナデ		灰黄褐 (10YR4/2)	灰黄褐 (10YR4/2)	石英、角閃石	不良	-	-	G-8 Gr.		縄文後期、鐘ヶ崎式
249	5	縄文土器	鉢	口縁部	-	-	-	-	-	4.5	-	横ナデ	縄文、沈線、ミガキ、ナデ		明赤褐 (5YR5/6)	明赤褐 (5YR5/6)	石英、長石、角閃石	良好	-	-	M-10 Gr.	Ⅲ B 一 括東･北Tr	縄文後期、鐘ヶ崎式
249	6	縄文土器	浅鉢	胴部	-	-	-	-	-	3.9	-	ナデ	沈線、ミガキ		にぶい黄橙 (10YR5/4)	にぶい黄橙 (10YR5/4)	石英、角閃石	良好	-	-	J8 Gr.	ⅢA･B層	縄文後期、鐘ヶ崎式
249	7	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	-	-	-	3.8	-	ナデ	ナデ、口唇部に刻み、刺突		黒褐 (10YR3/1)	黒褐 (10YR3/1)	長石、角閃石	不良	-	-	B-2 Gr. pit1742		縄文後期、北久根山式？
249	8	縄文土器	深鉢	口縁部～胴部	(33.7)	-	-	-	-	21.5	30.4	貝殻条痕？	不明、刻み目		橙 (5YR6/8)	にぶい赤褐 (5YR5/3)	石英、長石、角閃石	不良	-	-	L9 Gr.	No26、その他	増文後期、残存率1/5、鐘ヶ崎～北久根山式
250	9	縄文土器	深鉢	口縁部～底部	(18.1)	(10.5)	23.6	-	-	-	(19.5)	横ナデ、指頭圧痕	不明、沈線（口唇部）		にぶい黄橙 (10YR7/4)	黒褐 (10YR3/2)	石英、角閃石、長石	不良	○	-	L9 Gr.	No29	縄文後期、残存率2/5、北久根山式
250	10	縄文土器	深鉢	口縁部～胴部	16.8	-	-	-	-	15.0	14.7	横方向に貝殻条痕後ナデ	縦方向の工具痕、刻み目		橙 (7.5Yr6/6)	褐灰 (10YR4/1)	長石、角閃石	良好	-	-	L9 Gr.	No15	縄文後期、残存率1/3、～北久根山式？
250	11	縄文土器	深鉢	口縁部～胴部	(33.7)	-	-	-	-	21.5	30.4	貝殻条痕？	不明、刻み目		橙 (5YR6/8)	にぶい赤褐 (5YR5/3)	石英、長石、角閃石	不良	-	-	L9 Gr.	No２６、その他	増文後期、残存率1/5、鐘ヶ崎～北久根山式
251	12	縄文土器	深鉢	口縁部～胴部	(27.3)	-	-	-	-	20.0	22.0	不明	貝殻条痕後ナデ、工具痕あり		明黄褐 (10YR7/6)	灰黄褐 (10YR6/2)	石英、角閃石	良好	-	-	L-9		縄文後期、残存率1/5、鐘ヶ崎～北久根山式？
251	13	縄文土器	深鉢	口縁部～胴部	(28.0)	-	-	-	-	21.3	-	斜方向の貝殻条痕後ナデ	縦方向の貝殻条痕後ナデ、斜方向の刻み目		明褐 (10YR3/3)	にぶい黄橙 (10YR7/3)	石英、長石、角閃石	不良	-	-	L9 Gr.	No5	縄文後期、残存率1/6、北久根山式、口縁部に斜方向の刻み　口縁部に斜め方向の刻目
251	14	縄文土器	深鉢	胴部～底部	-	(9.0)	-	-	-	8.6	-	不明	不明		にぶい黄褐 (10YR3/5)	にぶい黄褐 (10YR3/5)	石英、輝石、角閃石、金雲母	不良	-	-	L9 Gr.	No34	縄文後期、残存率1/5、粗製
252	15	縄文土器	脚台付鉢	脚台部	-	-	-	-	-	3.9	-	ナデ	ナデ、沈線、斜め沈線		にぶい褐色 (7.5YR5/3)	黒褐 (7.5YR3/1)	石英、長石、角閃石、雲母	不良	-	-	001	Cカベ	縄文後期
252	16	縄文土器	高杯	脚台部	-	-	-	-	-	3.0	-	貝殻条痕後ナデ	W字状の粘土紐貼り付け、沈線、ナデ		にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英、長石、角閃石、輝石、赤色酸化粒	良好	-	-	083	No72	縄文後期、北久根山式 波状突帯に櫛目文
252	17	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	-	-	-	6.0	-	ナデ	斜めに沈線施文		にぶい黄褐 (10YR5/4)	にぶい黄褐 (10YR7/4)	石英、長石、角閃石	不良	-	-	L9 Gr.	ⅢA.・B	縄文後期、北久根山式
252	18	縄文土器	深鉢	口縁部	(23.0)	-	-	-	-	5.3	-	横ナデ	横ナデ、綾杉状の刻み、口唇部は部分に粘土を貼り付けて刻み		褐 (10YR4/4)	明黄褐 (10YR6/8)	石英、長石、角閃石	良好	-	-	147		残存率1/10、北久根山式？
252	19	縄文土器	深鉢	口縁部～胴部	-	-	-	-	-	7.0	-	ナデ	綾杉文、貝殻条痕、ナデ		明赤褐 (5YR5/6)	明赤褐 (5YR5/6)	石英、長石、角閃石、輝石、雲母	不良	-	-	Ⅰ区F-6-7 Gr.	カクラン坑ⅢA	縄文後期、北久根山式 口縁部下に突帯１
252	20	縄文土器	鉢	口縁部	-	-	-	-	-	4.6	-	ナデ	ナデ、刻み目、縦方向の沈線施文		明赤褐 (5YR5/8)	にぶい明赤褐 (5YR5/6)	石英、角閃石、金雲母	不良	-	-	M9 Gr.	No5	縄文後期
253	21	縄文土器	浅鉢	口縁部～胴部	-	-	-	-	-	6.5	-	ミガキ	ミガキ		にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英、角閃石、雲母	良好	-	-	B-2 Gr.	ⅢA層	縄文晩期、古閑式
253	22	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	-	-	-	4.8	-	横ミガキ	横ミガキ、口縁部は縄文		にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英、長石、角閃石	良好	-	-	G-7 Gr.	西Tr一層	縄文後期、三万田式？
253	23	縄文土器	鉢	口縁部	-	-	-	-	-	6.0	-	ミガキ	不明、口唇部は縄文、沈線	口唇部に磨消縄文、沈線	灰黄褐 (10YR4/2)	灰黄褐 (10YR4/2)	長石、角閃石	良好	-	-	G7 Gr.	ⅢA層、A層	縄文後期、太郎迫～三万田式
253	24	縄文土器	浅鉢	口縁部	-	-	-	-	-	3.8	-	横ナデ	ミガキ、口唇部に沈線		にぶい黄褐 (10Yr5/3)	にぶい黄橙 (10YR7/3)	石英、角閃石、雲母	良好	-	-	G7 Gr.	Ⅲ上層	縄文後期～晩期 口唇部に沈線１
253	25	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	-	-	-	2.5	-	ミガキ	ミガキ、口唇部に沈線、刻目		明黄褐 (10YR7/6)	明黄褐 (10YR7/6)	石英、角閃石、雲母	良好	-	-	133、134		縄文後期、波状？太郎迫～三万田式口縁部に沈線、刻目
253	26	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	-	-	-	3.8	-	条痕後ナデ	沈線、不明		灰黄褐 (10YR4/2)	黒褐 (10YR2/2)	石英、角閃石、金雲母	良好	-	-	077	3A層	縄文後期、波状、太郎迫～三万田式？

表(Tab)19　土器観察表（１）

図版番号	遺物番号	種別	器種	部位	口径	底径	器高	高台高	高台径	残存高	最大胴径	調整			色調		胎土	焼成	黒斑	赤色顔料	出土地点	層位	備考
					(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(内面)	(外面)	(その他)	(外面)	(内面)							
253	27	縄文土器	壺形土器	口縁部	-	-	-	-	-	3.7	-	ナデ、粘土継ぎ目痕	ナデ？縄文？沈線		にぶい黄褐(10Yr5/4)	黒褐 (10YR3/1)	石英、角閃石、雲母	不良	-	-	T8 Gr.	ⅢA層	縄文後期
253	28	縄文土器	鉢	口縁部	-	-	-	-	-	4.0	-	横ミガキ	横ミガキ、口唇部に刻目、沈線刺突		褐 (10YR4/4)	褐 (10YR4/4)	石英、長石、角閃石	不良	-	-	LM8-9 Gr.		縄文後期、赤色顔料塗布の可能性あり 口唇部に刻目、沈線
253	29	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	-	-	-	6.5	-	横ナデ、貝殻条痕	横ナデ、刺突文		明赤褐 (5YR5/8)	明赤褐 (5YR5/8)	石英、角閃石、輝石、長石、金雲母	良好	-	-	106	Nカベ	縄文後期？
253	30	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	-	-	-	4.4	-	横ナデ	横ナデ、クロス状の沈線		にぶい赤褐(5YR4/4)	にぶい赤褐(5YR4/4)	石英、輝石、金雲母	良好	-	-	106		縄文後期？波状？
253	31	縄文土器	鉢	口縁部	-	-	-	-	-	3.0	-	ナデ、指頭圧痕	不明、刺突文		黄褐 (10YR5/6)	黄褐 (10YR5/6)	長石、角閃石、雲母	やや不良	-	-	T8 Gr.	ⅢA層	
253	32	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	-	-	-	3.5	-	ナデ	貝殻腹縁刺突、ナデ、口唇部は沈線		灰黄褐(10YR4/2)	にぶい黄橙(10YR6/4)	石英、角閃石、雲母	良好	-	-	F-7 Gr.	Ⅲ層	
253	33	縄文土器	鉢	口縁部	-	-	-	-	-	5.8	-	不明	横ナデ、沈線		にぶい黄褐(10YR4/3)	にぶい黄褐(10YR4/3)	石英	良好	-	-	M8 Gr.		やや波状？
253	34	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	-	-	-	2.0	-	ナデ	ナデ、沈線、刻目		にぶい黄橙(10YR6/4)	にぶい黄橙(10YR6/4)	石英、長石、角閃石	良好	-	-	H-8 Gr. 074	一層	縄文後期、出水式
253	35	縄文土器	鉢	口縁部	-	-	-	-	-	3.5	-	横ナデ	横ナデ、沈線、刻目		にぶい褐(7.5YR5/4)	にぶい褐(7.5YR5/4)	石英、角閃石、長石、雲母	良好	-	-	K8 Gr.	ⅢA	
253	36	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	-	-	-	3.6	-	横ナデ、刻目(口唇部)	横ナデ		にぶい黄褐(10YR5/4)	にぶい黄褐(10YR5/4)	石英、長石、角閃石、雲母	良好	-	-			
253	37	縄文土器	鉢	胴部	-	-	-	-	-	2.5	-	不明	沈線、刺突文、ナデ		にぶい黄褐(10YR4/3)	にぶい黄褐(10YR4/3)	長石、角閃石	良好	-	-	106	Nカベ	
253	38	縄文土器	浅鉢？	胴部	-	-	-	-	-	4.4	-	ナデ	撚糸文		黒褐 (10YR3/2)	灰黄褐(10YR4/2)	石英、長石	良好	-	-	K8 Gr.		
253	39	縄文土器	深鉢	胴部	-	-	-	-	-	3.6	-	ナデ	沈線、沈線波状文		褐灰 (7.5YR4/1)	橙 (7.5YR7/6)	石英、金雲母	良好	-	-	118、L9, ⅢA･B		
254	40	縄文土器	深鉢	口縁部～胴部	(19.7)	-	-	-	-	9.0	-	横方向貝殻条痕	横方向工具痕		にぶい褐(7.5YR5/4)	褐灰 (7.5YR4/1)	石英、長石、雲母	不良	-	-	S-8 Gr.	2層	縄文後期？
254	41	縄文土器	鉢	口縁部～胴部	-	-	-	-	-	8.0	-	ナデ	ナデ、沈線（口縁部）		にぶい黄褐(10YR5/4)	にぶい黄褐(10YR5/4)	石英、長石、角閃石、雲母	良好	-	-	E-7 Gr.	砂層一括	口唇頂部に沈線
255	42	縄文土器	浅鉢	口縁部	-	-	-	-	-	3.3	-	不明	ナデ		にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	石英、角閃石	不良	-	-	D-6 Gr.	N半Ⅲ層	縄文後期、御領式
255	43	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	-	-	-	2.8	-	横ナデ	横ナデ、沈線		浅黄橙(10YR8/4)	浅黄橙(10YR8/4)	角閃石、雲母	良好	-	-	B-2 Gr.	ⅢA～ⅢB一括	縄文晩期？天城式？
255	45	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	-	-	-	3.6	-	横ナデ	横ナデ、沈線		褐灰 (10YR4/2)	褐灰 (10YR4/2)	石英、長石、角閃石	不良	-	-			縄文後期、御領式
255	46	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	-	-	-	3.5	-	横ナデ	ミガキ、沈線(口唇部)		黒褐 (10YR3/1)	黒褐 (10YR3/1)	石英、長石、角閃石、金雲母	良好	-	-	A-4 Gr.	南TrⅢB	縄文後期、御領式 口唇部に沈線１
255	47	縄文土器	浅鉢	口縁部	-	-	-	-	-	3.5	-	横ナデ	横ナデ、沈線（口唇部）		灰褐 (10YR4/2)	灰褐 (10YR4/2)	石英、角閃石、雲母	良好	-	-	E7 Gr.	Ⅱ層下	縄文後期 口唇部に沈線１
256	1	縄文土器	深鉢	口縁部～胴部	-	-	-	-	-	9.0	-	横ナデ	不定方向貝殻条痕		にぶい黄橙(10YR6/4)	褐灰 (10YR4/1)	石英、長石、角閃石、雲母	良好	-	-	B-5 Gr.	Ⅲ層上	縄文晩期、古閑式
256	2	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	-	-	-	8.5	-	横貝殻条痕	横貝殻条痕後部分的にミガキ、ナデ（口唇部）		明黄褐(10YR6/6)	明黄褐(10YR6/6)	石英、角閃石、金雲母	良好	-	-	B-3 Gr.	ⅢA	縄文晩期、古閑式
256	3	縄文土器	深鉢	口縁部～胴部	-	-	-	-	-	8.5	-	横ナデ、工具痕残存	貝殻条痕		にぶい黄橙(10YR7/4)	褐灰 (10YR4/1)	石英、長石	良好	-	-	C-3 Gr.	WⅢA層	縄文晩期、古閑式
256	4	縄文土器	浅鉢	口縁部	-	-	-	-	-	5.5	-	貝殻条痕、ナデ	貝殻条痕、ナデ（口唇部）		褐灰 (10YR4/1)	褐灰 (10YR4/1)	石英、長石、角閃石、雲母	良好	-	-	B5 Gr.	ⅢA	縄文晩期、古閑式
256	5	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	-	-	-	7.3	-	貝殻条痕	貝殻条痕、横ナデ(口唇部)		にぶい黄橙(10YR6/4)	灰黄褐(10YR6/2)	石英、長石、角閃石	良好	-	-	A3 Gr.	ⅢA	縄文晩期、古閑式
256	6	縄文土器	深鉢	口縁部～胴部	-	-	-	-	-	15.5	-	横方向貝殻条痕	横方向貝殻条痕、横ナデ（口唇部）		明黄褐(10YR6/6)	明黄褐(10YR6/6)	石英、輝石	不良	-	-	A3 Gr.	ⅢA	縄文晩期、古閑式

表(Tab)20　土器観察表（２）

図番号	版番号	遺物番号	種別	器種	部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	高台高 (cm)	高台径 (cm)	残存高 (cm)	最大胴径 (cm)	調整 (内面)	調整 (外面)	調整 (その他)	色調 (外面)	色調 (内面)	胎土	焼成	黒斑	赤色顔料	出土地点	層位	備考
257	7		縄文土器	深鉢	底部	-	12.2	-	-	-	5.5	-	条痕後ナデ	ナデ		にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英、角閃石、雲母	良好	-	-	S-8 Gr.	②上層	縄文晩期、古閑式？
257	8		縄文土器	深鉢	底部	-	9.0	-	-	-	4.2	-	ナデ	貝殻条痕、横ナデ		黄橙 (7.5YR7/8)	黄橙 (7.5YR7/8)	石英、角閃石、雲母	不良	-	-	S-8 Gr.	Ⅲ A 相 当層	縄文晩期、古閑式
257	9		縄文土器	深鉢	底部	-	(8.0)	-	-	-	5.5	-	工具痕？	貝殻条痕		黄橙 (7.5YR7/8)	黄橙 (7.5YR7/8)	石英、長石、角閃石	不良	-	-	B-3 Gr.		縄文晩期、古閑式、上げ底
257	10		縄文土器	浅鉢	口縁部	-	-	-	-	-	4.3	-	横ミガキ	横ナデ		黒褐 (10YR3/8)	灰黄褐 (10YR5/2)	石英、角閃石、雲母	良好	-	-	S-8 Gr.	Ⅲ A 相 当層	鰭状の突起あり
257	11		縄文土器	浅鉢	口縁部	-	-	-	-	-	3.0	-	ミガキ、沈線	ミガキ、沈線		灰黄褐 (10YR5/2)	黒褐 (10YR3/1)	石英、長石、角閃石	良好	-	-		Ⅱ b	縄文晩期、黒川式
257	12		縄文土器	浅鉢	口縁部	-	-	-	-	-	4.0	-	ミガキ、沈線	ミガキ、沈線		にぶい橙 (10YR6/4)	褐灰 (10YR4/1)	石英、雲母	良好	-	-	C-3 Gr.	WⅢA層	縄文晩期、黒川式
257	13		縄文土器	浅鉢	胴部	-	-	-	-	-	3.3	-	横ミガキ	横ミガキ		にぶい黄褐 (10YR4/3)	にぶい黄褐 (10YR6/4)	微細砂粒、金雲母	良好	-	-	G7 Gr.Ⅱ層、J-9 Gr.表土		縄文晩期、黒川式
257	14		縄文土器	浅鉢	口縁部	-	-	-	-	-	4.7	-	横ナデ、ミガキ	横ナデ、ミガキ		にぶい黄橙 (10YR7/4)	褐灰 (10YR4/1)	石英、微細砂粒	良好	-	-			縄文晩期、黒川式
257	15		縄文土器	浅鉢	口縁部	24.0	-	-	-	-	5.7	-	横方向のミガキ痕	条痕後縦と横方向のミガキ痕		褐灰 (5YR6/1)	褐灰 (5YR6/1)	石英	良好	-	-	J9 Gr.表土 G7 Gr.Ⅱ層		縄文晩期
257	16		縄文土器	鉢	口縁部	-	-	-	-	-	4.3	-	横ナデ	横ナデ、口唇部はナデ、沈線		灰黄褐 (10YR4/2)	灰黄褐 (10YR4/2)	石英、長石、角閃石	良好	-	-	S-8 Gr.	ⅢA一括	縄文晩期、黒川式　口縁部に沈線
257	17		縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	-	-	-	3.8	-	ミガキ	ミガキ		褐灰 (10YR5/1)	褐灰 (10YR5/1)	角閃石、雲母	良好	-	-	B-4 Gr.	ⅢA下	縄文晩期、黒川式
258	18		縄文土器	浅鉢	口縁部～底部	(11.5)	-	3.5	-	-		-	ミガキ	ミガキ		褐灰 (10YR4/1)	褐灰 (10YR4/1)	長石、角閃石	良好	-	-	S8 Gr.	Ⅲ下層	縄文晩期、黒川式、何らかの種子の圧痕あり(胴部)
258	19		縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	-	-	-	2.8	-	ナデ、ミガキ	ミガキ、沈線		灰黄褐 (10YR6/2)	灰黄褐 (10YR6/2)	石英、角閃石	良好	-	-	C3 Gr.	ⅢB層	縄文晩期
258	20		縄文土器	浅鉢	口縁部	-	-	-	-	-	3.7	-	横ナデ	横ナデ		にぶい黄橙 (10YR6/3)	にぶい黄橙 (10YR6/3)	石英、長石、角閃石	良好	-	-	B2 Gr.	ⅢA層	縄文晩期、黒川式？
258	21		縄文土器	浅鉢	口縁部～底部	23.8	-	9.8	-	-	-	-	多方向のミガキ、指頭圧痕	多方向のミガキ		にぶい黄褐(10YR5/4)、明赤褐(5YR5/8)	浅黄 (2.5Y7/4)、にぶい黄褐(10YR5/4)	石英、長石、角閃石	良好	-	-	129	No7、2層、ベルト2層	残存率1/2以上
258	22		縄文土器	深鉢	胴部	-	-	-	-	-	4.0	-	横ナデ	横貝殻条痕、リボン状突起貼り付け		黒褐 (10YR3/1)	明黄褐 (10YR6/6)	石英、長石、角閃石、雲母	不良	-	-	S-8 Gr.	ⅢA	縄文晩期、黒川式
258	23		縄文土器	鉢	口縁部	-	-	-	-	-	5.5	-	不明	貼り付け、貝殻条痕文		灰黄褐 (10YR4/2)	にぶい黄褐 (10YR4/3)	石英、長石、角閃石、雲母	不良	-	-	S-8 Gr.	ⅢA層	縄文晩期、黒川式、リボン状突帯
258	24		縄文土器	壺	底部	(11.6)	-	-	-	-	3,4～	-	ナデ	ナデ		赤褐 (5YR4/6)	にぶい赤褐色 (2.5YR5/4)	石英、長石、角閃石	良好	-	○	G7 Gr.	ⅢA	
258	25		縄文土器	深鉢	胴部	-	-	-	-	-	3.7	-	横ナデ	組織痕		黄褐 (10YR5/6)	黄褐 (10YR5/6)	石英	良好	-	-	S-8 Gr.	南Tr	縄文晩期、古閑式？
258	26		縄文土器	深鉢	胴部	-	-	-	-	-	3.5	-	不明	組織痕		黄褐 (10YR5/6)	黄褐 (10YR5/6)	石英、角閃石	良好	-	-	S-9 Gr.	ⅢA	縄文晩期、古閑式？
258	27		縄文土器	深鉢	胴部	-	-	-	-	-	3.5	-	不明	組織痕		赤褐 (2.5YR4/6)	赤褐 (2.5YR4/6)	石英	不良	-	-	C-4 Gr.		縄文晩期、古閑式？
258	28		縄文土器	深鉢	胴部	-	-	-	-	-	6.5	-	貝殻条痕後ナデ	組織痕		橙 (7.5YR7/4)	褐灰 (7.5YR4/1)	石英、長石、角閃石、雲母	良好	-	-	C-4 Gr.	ⅢA層	縄文晩期、古閑式？
258	29		縄文土器	深鉢	胴部	-	-	-	-	-	2.7	-	不明	組織痕（網）		にぶい黄橙 (10YR6/4)	灰黄褐 (10YR6/2)	石英、長石、角閃石、金雲母	不良	-	-	017	上層一括	縄文晩期、古閑式、31と同一個体の可能性大
258	30		縄文土器	深鉢	胴部	-	-	-	-	-	3.2	-	横ナデ	組織痕		にぶい黄褐 (10YR4/3)	黒褐 (10YR3/1)	石英、長石、角閃石	良好	-	-	B-4 Gr.	ⅢA	縄文晩期、古閑式？
258	31		縄文土器	深鉢	胴部	-	-	-	-	-	3.0	-	ナデ	組織痕（網）		にぶい黄褐 (10YR5/4)	にぶい黄褐 (10YR5/4)	石英、長石、金雲母	不良	-	-	S-9 Gr.	1・2層一括	縄文晩期、29と同一個体の可能性大
258	32		縄文土器	深鉢	胴部	-	-	-	-	-	5.0	-	ナデ	組織痕		にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英、長石、角閃石、雲母、金雲母	不良	-	-	017	B-1層 ベルト	縄文晩期、古閑式

表(Tab)21　土器観察表（３）

図番号	版号	遺物番号	種別	器種	部位	口径	底径	器高	高台高	高台径	残存高	最大胴径	調整			色調		胎土	焼成	黒斑	赤色顔料	出土地点	層位	備考
						(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(内面)	(外面)	(その他)	(外面)	(内面)							
19	1	弥生土器	甕	(黒髪式)	口縁部	(36.6)	-	-	-	-	5.3～	-	風化のため不明	横ナデ		にぶい黄橙 (10YR7/4)	浅黄橙 (10YR8/4)	石英・長石・角閃石	良好	-	-	001	No101	残存率1/4、弥生中期後半 口縁下につまみ出し突帯１
19	2	弥生土器	甕	(黒髪式)	口縁部	(24.4)	-	-	-	-	7.8～	21.0	指オサエ、ナデ	横ナデ、指オサエ、ナデ		にぶい黄橙 (10YR6/3)	にぶい黄橙 (10YR7/3)	石英・長石・輝石	良好	-	-	001	No48	残存率1/4、弥生中期後半
19	3	弥生土器	壺		口頸部	(14.4)	-	-	-	-	4.2～	-	風化のため不明	風化のため不明		浅黄橙 (10YR8/4)	浅黄橙 (10YR8/4)	石英・長石・角閃石・褐色砂粒	良好	-	○	001	No63	残存率1/4、弥生中期、丹塗り
19	4	弥生土器	甕		口縁部	-	-	-	-	-	5.8～	-	雑な横ナデ	横ナデ		にぶい黄橙 (10YR7/3)	にぶい黄橙 (10YR7/2)	石英・長石・輝石・金雲母	良好	○	-	001	No105	残存率1/6、弥生中期　頸部に突帯１
19	5	弥生土器	甕	(黒髪式)	口縁部	-	-	-	-	-	4.0～	-	横ナデ	横ナデ		にぶい橙 (7.5YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石・金雲母	良好	-	○	001	A-1層上	小片、弥生中期後半、丹塗り
19	6	弥生土器	甕		脚台部	-	6.2	-	-	-	4.4～	-	ナデ	縦ハケ	脚台内面頂部横ハケ、内面横ナデ	橙 (7.5YR7/6)	浅黄橙 (7.5YR8/6)	石英・長石・角閃石	良好	-	-	001	No28	脚裾一部欠、弥生中期
19	7	弥生土器	甕	(広口式?)	口縁部	-	-	-	-	-	4.1～	-	横ナデ	横ナデ		にぶい黄橙 (10YR7/4)	褐灰 (10YR5/1)	石英・長石・角閃石・金雲母	良好	-	-	001	No99	残存率1/8、弥生中期後半
19	8	弥生土器	甕		口縁部	-	-	-	-	-	6.0～	-	横ナデ、ナデ、ミガキ	縦ハケ		にぶい黄橙 (10YR7/4)	浅黄橙 (10YR8/3)	長石・褐色砂・黒色砂・金雲母	良好	-	-	001	No85	残存率1/6、弥生中期末～後期初
19	9	弥生土器	甕		脚台部	-	7.6	-	-	-	5.1～	-	風化のため不明	縦ナデ	脚台内面横ナデ	橙 (7.5YR7/6)	褐灰 (7.5YR5/1)	石英・長石・角閃石・金雲母	良好	-	-	001	No109	脚台部完存、弥生中期
19	10	弥生土器	甕	(溯ロ式)	胴部下半～底部	-	7.6	-	-	-	12.0～	-	指オサエ、ナデ	粗い縦ミガキ		浅黄橙 (10YR8/3)	浅黄橙 (10YR8/4)	石英・長石・角閃石	良好	-	-	001	No29	底部完存、弥生中期後半
20	11	弥生土器	鉢		口縁部～底部	16.1	8.2	-	-	-	11.3	-	ナデ	調整不明（ナデ？）		橙 (7.5YR7/6)	橙 (7.5YR7/6)	長石、石英、雲母	不良	○	-	001	No23，B5	一部反転復元　外面に黒斑、弥生中期後半、残存率1/2
20	12	弥生土器	壺		口縁部～底部	(12.6)	6.4	-	-	-	5.3	-	調整不明	調整不明		橙 (5YR6/6)、にぶい橙 (7.5YR7/4)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	砂粒、小石粒、長石、石英、赤褐色粒	やや不良	-	-	001	No30	推定による復元、径傾き(口縁部)不確実、*胎土が違う、残存率;底部完形、口縁破損
20	13	弥生土器	器台		体部	-	(13.8)	-	-	-	10.9	-	ハケ目後ナデ、工具によるナデ指頭圧痕	調整不明		浅黄橙 (10YR8/4)、橙 (5YR6/6)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	砂粒、長石、石英、角閃石	良好	-	-	001	B，D 区 一括	反転復元、径傾き不確実、残存率2/5
20	14	弥生土器	高杯		脚部	-	-	-	-	-	14.4	-	調整不明　絞り痕、ハケメ、ナデ	調整不明　一部ミガキ、ハケメ、ナデ		にぶい橙 (10YR7/2)	にぶい橙 (10YR6/3)	砂粒、小石粒、長石、石英、雲母	良好	-	-	001	No15	一部反転復元　故意に打ち欠いた可能性有り、残存率;脚の1/2
20	15	弥生土器	高杯	(器台？)	脚部	-	(12.9)	-	-	-	5.4～	-	横ナデ	縦ハケの後横ナデ		橙 (2.5YR6/8)	橙 (5YR6/6)	石英・長石・金雲母	良好	-	-	001	No36	残存率1/4、弥生中期
22	1	弥生土器	甕		口縁部	-	-	-	-	-	5.4～	-	風化のため不明	風化のため不明		浅黄橙 (10YR8/4)	黒褐 (10YR3/1)	石英・長石・角閃石・金雲母・褐色砂粒・輝石	良好	○	-	002	C 区 Ⅱ 層上	残存率1/8、弥生中期
22	2	弥生土器	甕		口縁部	(29.8)	-	-	-	-	2.8～	-	横ナデ	横ナデ		にぶい黄褐 (10YR5/3)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石・金雲母・輝石	良好	-	-	002	No1	残存率1/6、弥生中期
25	1	弥生土器	甕	(黒髪式)	口縁部	(24.6)	-	-	-	-	3.9～	-	横ナデ	横ナデ		浅黄褐 (10YR8/4)	浅黄褐 (10YR8/4)	石英・長石・金雲母	良好	-	-	003	No3	残存率1/4　表面風化、弥生中期　粘土塊
25	2	弥生土器	甕		口縁部	-	-	-	-	-	6.5～	-	風化のため不明	風化のため不明		にぶい黄橙 (10YR7/3)	橙 (10YR7/6)	石英・長石・金雲母	良好	-	-	003	B No22	残存率1/8、弥生中期
25	3	弥生土器	甕	(黒髪式)	口縁部	-	-	-	-	-	10.0～	-	ハケ後ナデ	縦ハケ後横ナデ、縦ハケ		浅黄橙 (7.5YR8/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石・金雲母・輝石	良好	-	-	003	D No3	残存率1/8、弥生中期後半
25	4	弥生土器	甕	(黒髪式)	脚部	-	6.4	-	-	-	6.0～	-	ナデ	ハケ		浅黄橙 (10YR8/4)	灰黄褐 (10YR6/2)	石英・長石・金雲母	やや不良	-	-	003	D No7	脚部完存、弥生中期後半
25	5	弥生土器	短頸壺		口縁部～胴部上半	-	-	-	-	-	4.6～	-	横ナデ	横ナデ		浅黄橙 (10YR8/3)	浅黄橙(10YR8/6)	石英・長石・金雲母	良好	-	-	003	A No1	残存率1/4、弥生中期　口唇部に穿孔
25	6	弥生土器	壺	(黒髪式古相)	口縁部	(27.4)	-	-	-	-	2.8～	-	ナデ	ナデ		にぶい黄橙 (10YR7/3)	浅黄橙(10YR8/3)	石英・長石・角閃石・輝石	良好	-	-	003	C No12	残存率1/8、弥生中期中葉
25	7	弥生土器	甕		胴部～底部	(8.4)	-	-	-	-	12.2	-	調整不明、指頭圧痕	ハケ目	脚台部　横ナデ	にぶい橙 (7.5YR7/4)、灰黄褐 (10YR6/2)	にぶい褐 (7.5YR5/4)	砂粒、長石、石英、角閃石、金雲母	良好	○	-	003	No13、A2層、No15	反転復元　底部内面に黒斑、弥生中～後期、残存率3/5
25	8	弥生土器	高杯		杯部	(28.0)	-	-	-	-	6.6	-	ヨコナデ、ミガキ？磨耗の為調整不明	ヨコナデ、ミガキ？磨耗の為調整不明		赤 (10R4/6)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	砂粒、長石、石英、角閃石、輝石	良好	-	○	003	B-1層	一部反転復元　内外面に赤色顔料、器種;黒髪式に伴うもの、暗文なし、弥生中期後半、残存率2/5
25	9	弥生土器	高杯		脚部	-	-	-	-	-	13.6	-	絞り痕	調整不明　ハケ目		橙 (2.5YR6/8)	橙 (2.5YR6/8)	砂粒、長石、石英、赤褐色粒、雲母	やや不良	-	-	003	D No19	一部反転復元、傾き不確実、胎土が赤い(焼きの関係？)、弥生中～後期、残存率;上のみ

表(Tab)22　土器観察表（４）

図番号	版番号	遺物番号	種別	器種	部位	口径	底径	器高	高台高	高台径	残存高	最大胴径	調整			色調		胎土	焼成	黒斑	赤色顔料	出土地点	層位	備考
						(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(内面)	(外面)	(その他)	(外面)	(内面)							
25	10	弥生土器	器台	体部	(10.9)	(12.5)	10.2	-	-	-	-	調整具明（工具痕、ナデ、ハケ目）指頭圧痕	調整不明		にぶい黄（10YR7/4）、にぶい橙（7.5YR7/4）	にぶい橙（7.5YR7/4）	砂粒、小石粒、長石、石英	良好	-	-	003	A-39	一部反転復元、器種;黒髪式に伴うもの、弥生中期後半、残存率;2/3
25	11	弥生土器	器台	体部上半	11.7	-	-	-	-	13.3	-	調整不明	調整不明		浅黄橙（10YR8/3）	浅黄橙（10YR8/3）	砂粒、長石、石英	やや不良	-	-	003	No38	一部反転復元、残存率1/2
25	12	弥生土器	高杯	脚部	-	-	-	-	-	14.0	-	調整不明 絞り痕	調整不明　ハケ目		橙（7.5YR7/6、5YR6/6）	橙（2.5YR6/8）	砂粒、長石、石英、雲母	良好	-	-	003	B No33、No44、D 上層	一部反転復元、弥生中～後期、残存率;脚の1/2
26	13	弥生土器	ミニチュア土器（甕）	底部	-	2.6	-	-	-	2.6～	-	ナデ（絞り痕のようなスジあり）		底部に指頭圧痕	浅黄橙(10YR8/3)	浅黄橙(10YR8/3)	石英・長石・角閃石・輝石・赤色砂粒	良好	-	-	003	Nトレ	脚裾一部欠
26	14	弥生土器	甕	口縁部	-	-	-	-	-	4.7～	-	ナデ	ナデ、斜めに工具痕		灰黄褐(10YR5/2)	にぶい黄褐（10YR7/4）	石英・長石・角閃石・金雲母・輝石	良好	-	-	003	C No14	弥生後期
26	15	弥生土器	ジョッキ型土器	体部	-	(13.6)	-	-	-	9.1	-	ハケ目後ナデ、指頭圧痕	器面摩擦のため(おそらくハケ目後ナデ)、ナデ		浅黄橙（10YR8/4）	浅黄橙（10YR8/4）	砂粒、長石、石英、角閃石	良好	-	-	003	B-上層	反転復元、径傾き不確実、弥生後期、残存率;把手完存
28	1	弥生土器	甕（黒髪式）	口縁部	(24.4)	-	-	-	-	8.6～	-	ナデ、ハケ目	ナデ		灰黄褐(10YR6/2)	にぶい黄褐（10YR7/3）	石英・長石・角閃石・輝石	やや不良	-	-	005	C No64、No65	口縁部～胴部上半完存、内外面とも器面やや風化、弥生中期後半
28	2	弥生土器	甕（黒髪式）	口縁部	(51.0)	-	-	-	-	4.0～	-	横ナデ	横ナデ		浅黄橙(10YR8/4)	浅黄橙（10YR8/4）	石英・長石・角閃石・金雲母	やや不良	-	-	005	B No10	残存率1/8、弥生中期後半 頸部に突帯１
28	3	弥生土器	甕	底部	-	6.8	-	-	-	4.6～	-	ナデ	ナデ		橙（5YR6/8）	褐（7.5YR4/3）	石英、長石、角閃石、雲母、輝石	良好	-	-	005	C No84	
28	4	弥生土器	甕	口縁部～胴部	22.1	-	-	-	-	18.7	-	ハケ目後ナデ、指頭圧痕	ハケ目後ナデ	口縁部横ナデ	灰黄褐（10YR6/2）	灰黄褐（10YR6/2）	長石、石英、輝石	良好	-	-	005	No25、No47、No49	一部反転復元、器面がやや荒れている、器種;黒髪式、弥生中期後半、残存率1/4弱
30	1	弥生土器	甕	口縁部	-	-	-	-	-	7.0～	-	ハケ目後ナデ、横ナデ	横ナデ		にぶい橙（7.5YR7/4）	橙（7.5YR7/6）	石英、長石、角閃石	良好	-	-	011	床直、Eカベ、床上	
30	2	弥生土器	甕	口縁部～胴部上半	-	-	-	-	-	8.3～	-	不明、横ナデ	不明、横ナデ		灰黄褐(10YR4/2)	褐灰（10YR4/1）	石英、長石、角閃石、輝石	良好	-	-	011	No13	
30	3	弥生土器	甕（黒髪式）	口縁部	(21.4)	-	-	-	-	7.0～	-	指頭圧痕、ナデ、工具痕	横ナデ、縦ハケ後ナデ		浅黄橙(10YR8/3)	浅黄橙（10YR8/4）	石英、長石、角閃石、金雲母	良好	-	-	011	No13	弥生中期後半 頸部に突帯１
30	4	弥生土器	甕	口縁部	(28.8)	-	-	-	-	11.0～	-	不明	不明		にぶい橙（7.5YR6/4）	明黄褐（10YR6/6）	石英、長石、雲母	良好	-	-	011	貯蔵穴No1	
30	5	弥生土器	甕（須玖Ⅱ式）	胴部	-	-	-	-	-	7.9～	-	ナデ	ハケ後ナデ、赤色顔料塗布		浅黄橙（7.5YR8/4）赤（10R4/6）	浅黄橙（10YR8/4）	石英・長石・角閃石	良好	-	○	011	No25	残存率1/4、弥生中期後半 丹塗り甕
30	6	弥生土器	壺	口縁部～胴部上半	-	-	-	-	-	11.4	-	ハケ目（調整不明）、横ナデ	ハケ目（調整不明）、横ナデ		にぶい黄（10YR6/4）、浅黄橙（7.5YR8/6）	にぶい黄橙（10YR7/3、7/4）	砂粒、角閃石、長石、石英、雲母	良好	○	○	011	No15、No23、Eカベ	反転復元　外面に黒斑　内外面に赤色顔料、弥生中期後半、残存率1/6
30	7	弥生土器	甕	底部	-	8.5	-	-	-	5.3～	-	不明	ハケ、横ナデ	脚部内指オサエ、横ナデ	浅黄橙（7.5YR8/6）	浅黄橙7.5YR8/6(底部内)黒褐7.5YR3/1(内側)	石英	良好	-	-	011	No3	
30	8	弥生土器	壺	胴部	-	-	-	-	-	6.2	-	調整不明	ハケ目、横ナデ		にぶい黄橙（10YR7/3）	浅黄橙（10YR8/3）	砂粒、小石粒、角閃石、雲母、長石、石英、輝石	良好	-	○	011	床上	反転復元、外面に赤色顔料、赤彩(にぶい赤褐色2.5YR4/4、径傾き不確実、器種;須玖Ⅱ式、弥生中期後半、残存率1/4 胴部に突帯１
30	9	弥生土器	壺	胴部～底部	-	8.3	-	-	-	11.2	-	ナデ　指頭圧痕	ハケ目	底部　ハケ目後ナデ	にぶい黄橙（10YR6/4）	橙（7.5YR7/6）	砂粒、角閃石、長石、石英、金雲母	良好	○	-	011	貯蔵穴	一部反転復元 内外面に黒斑、弥生中期後半、残存率;底部完存
30	10	弥生土器	器台	体部	-	(14.7)	-	-	-	7.05	-	ハケ目＿ハケ目後ナデ	ハケ目		赤橙（10YR6/8）、にぶい橙（7.5YR7/4）	赤橙（10YR6/8）、にぶい橙(7.5YR7/4)	砂粒、角閃石、長石、石英、雲母、輝石	良好	-	-	011	-	反転復元
32	1	弥生土器	甕	口縁部	-	-	-	-	-	5.5～	-	横ナデ	ナデ		にぶい黄橙（10YR7/3）	褐灰（10YR6/1）	石英、長石、角閃石、金雲母、輝石	良好	-	-	017	-	
32	2	弥生土器	甕	口縁部	-	-	-	-	-	2.5～	-	ナデ	ナデ		橙（7.5YR6/6）	橙（7.5YR7/6）	石英、長石、雲母、輝石	良好	-	-	017	-	
32	3	弥生土器	壺	口縁部	-	-	-	-	-	5.0	-	ナデ	ナデ		浅黄橙(10YR8/4)	浅黄橙(10YR8/3)	石英、長石、角閃石、輝石	良好	-	-	017	-	
32	4	弥生土器	甕	口縁部	-	-	-	-	-	6.5～	-	不明	不明		浅黄橙(10YR8/4)	浅黄橙(10YR8/4)	石英、長石、角閃石、赤褐色砂粒	良好	-	-	017	-	
32	5	弥生土器	ミニチュア土器	底部	-	4.2	-	-	-	2.9～	-	指ナデ	指ナデ		にぶい黄橙（10YR7/4）	にぶい黄橙（10YR7/4）	石英、長石、角閃石、赤褐色砂粒	良好	-	-	017	-	
33	1	弥生土器	甕	口縁部	(23.3)	-	-	-	-	4.8～	-	横ナデ	横ナデ		にぶい黄橙（10YR7/4）	にぶい黄橙（10YR7/4）	石英、角閃石、雲母	不良	-	-	025	-	

表(Tab)23　土器観察表（５）

図版番号	遺物番号	種別	器種	部位	口径	底径	器高	高台高	高台径	残存高	最大胴径	調整			色調		胎土	焼成	黒斑	赤色顔料	出土地点	層位	備考
					(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(内面)	(外面)	(その他)	(外面)	(内面)							
35	1	弥生土器	袋状口縁壺	口縁部	-	-	-	-	-	3.5～	-	横ナデ、指頭圧痕	横ナデ、指頭圧痕		にぶい黄橙(10YR7/3)	にぶい黄橙(10YR7/3)	石英、雲母、角閃石、砂粒	良好	○	-	026	No18	残存率1/8以下、弥生後期？
35	2	弥生土器	甕	口縁部～胴部	25	-	-	-	-	20.4	-	ナデ	ハケ目後ナデ	口縁部横ナデ	褐灰（10YR4/1)	にぶい黄橙(10YR7/3)	長石、石英	やや不良	-	-	026	ベルト1層、A2層、C1層、No3	反転復元　外面に煤、弥生中期後半～後期初、残存率1/2以上　胴部上半に沈線１（何らかの工具による）
35	3	弥生土器	甕	口縁部～胴部	24.8	-	-	-	-	27	-	ナデ	ハケ目後ナデ消し、沈線	口縁部横ナデ	にぶい黄橙(10YR7/3)	褐灰（10YR5/1)	長石、石英、金雲母	やや不良	-	-	026	No3６、No47、2層	一部反転復元、弥生中期後半、残存率;底部以外ほぼ完存　胴部上半に沈線１
35	4	弥生土器	壺	口縁部～胴部	18.8	-	-	-	-	19.1	-	ナデ	ミガキ後ナデ、ミガキ、刻目文	頸部　ミガキ後横ナデ	褐灰（10YR4/1)	にぶい黄橙(10YR7/3)	長石、石英、赤石、石粒、金雲母、角閃石	良好	-	-	026	床2	一部反転復元、頸部　暗文、ミガキは棒状の単位、弥生中期後半、残存率;全体の1/2以上　胴部に突帯１
35	5	弥生土器	甕	胴部～底部	-	6.2	-	-	-	12.8	-	ハケ目後ナデ指頭圧痕	ハケ目（調整不明）		にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/3)	砂粒、小石粒、角閃石、長石、石英、金雲母	良好	-	-	026	No42、床上	反転復元　外面にスス、受熱の為表面の剥落が激しい、器種;黒髪式、弥生中期後半、残存率;脚台完存
35	6	弥生土器	甕	底部	-	10.4	-	-	-	12.6～	-	ナデ	縦ミガキ		にぶい黄橙(10YR6/3)	にぶい黄橙(10YR7/3)	石英、長石、角閃石	良好	-	-	026	床上	
35	7	弥生土器	壺	胴部	-	-	-	-	-	21.4	(26.6)	調整不明　指頭圧痕、ナデ？	ミガキ（調整不明）		にぶい黄橙(10YR7/3)	浅黄橙(10YR8/4)	砂粒、小石粒、雲母、長石、石英、角閃石、輝石	良好	-	-	026	2層、No10	反転復元、弥生中期後半、残存率1/5　胴部に突帯１
36	7	弥生土器	壺	胴部	-	-	-	-	-	21.4	(26.6)	調整不明　指頭圧痕、ナデ？	ミガキ（調整不明）	胴部に突帯１	にぶい黄橙(10YR7/3)	浅黄橙(10YR8/4)	砂粒、小石粒、雲母、長石、石英、角閃石、輝石	良好	-	-	026	2層、No10	反転復元、弥生中期後半、残存率1/5
37	1	弥生土器	甕	口縁部	(23.5)	-	-	-	-	4.5～	-	横ナデ	不明	頸部横ナデ	橙（7.5YR7/6)	浅黄橙(7.5YR8/6)	石英、角閃石	不良	-	-	027	-	
37	2	弥生土器	甕	口縁部	(27.5)	-	-	-	-	7.0～	-	不明	不明		浅黄橙(10YR8/6)	浅黄橙(10YR8/6)	石英、長石、角閃石	不良	-	-	027		
39	1	弥生土器	甕	口縁部	-	-	-	-	-	9.6～	-	ナデ	ナデ		にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	石英、長石、角閃石	やや良	-	-	029	No1	
39	2	弥生土器	甕	口縁部	(30.0)	-	-	-	-	8.0～	-	不明	横ナデ		にぶい黄褐(10YR5/4)	浅黄橙(10YR8/6)	石英	不良	-	-	029	No2	
39	3	弥生土器	甕	胴部～底部	-	9.3	-	-	-	11.9	-	調整不明　ナデ、ハケ目	調整不明　ナデ、ハケ目	脚部　ナデ	明黄褐(10YR7/6)	浅黄橙(2.5Y7/4)	砂粒、小石粒、石英、長石、雲母、輝石	やや不良	-	-	029	No3	一部反転復元、弥生中～後期、残存率;脚台完存
39	4	弥生土器	甕	口縁部	(24.0)	-	-	-	-	2.8～	-	ナデ	ナデ		にぶい黄褐(10YR5/4)	浅黄橙(7.5YR8/6)	石英、角閃石、雲母	不良	-	-	029	W床上	
39	5	弥生土器	甕	口縁部～胴部	(28.2)	-	-	-	-	11.9	(28.1)	調整不明　部分的にハケ目残存	調整不明	口縁部　内面にハケ目	にぶい黄橙(10YR7/3)	にぶい黄橙(10YR7/3)	砂粒、石英、長石、角閃石	やや不良	-	-	029		反転復元、弥生後期、残存率;口縁の1/4
39	6	弥生土器	甕	口縁部	-	-	-	-	-	4.6～	-	横ナデ	横ナデ		にぶい黄橙(10YR6/3)	橙（7.5YR7/6)	石英、長石、角閃石、赤褐色砂粒	良好	-	-	038	-	
39	7	弥生土器	甕	口縁部	-	-	-	-	-	-	-	横ナデ	横ナデ		灰黄褐(10YR6/2)	にぶい橙(7.5YR7/4)	石英、長石、角閃石、金雲母	良好	-	-	038	-	
39	8	弥生土器	甕	口縁部	-	-	-	-	-	4.8～	-	斜め方向のハケ目	不明		浅黄橙(10YR8/4)	にぶい黄橙(10YR6/3)	石英、長石、角閃石、雲母、赤褐色砂粒	良好	-	-	038	-	
42	1	弥生土器	高杯？	口縁部	-	-	-	-	-	2.6～	-	横ナデ	横ナデ		にぶい黄橙(10YR7/3)	浅黄橙(10YR8/4)	石英、長石、角閃石、金雲母	良好	-	-	044	No6	
42	2	弥生土器	甕	口縁部～胴部	(22.8)	-	-	-	-	7.1～	-	横ナデ、指頭圧痕	横ナデ		にぶい黄橙(10YR6/3)	にぶい黄橙(10YR7/3)	石英、長石、角閃石、輝石、金雲母、赤褐色粒	良好	○	-	044	No46	内面に黒斑
42	3	弥生土器	甕？	底部	-	-	-	-	-	2.6～	-	ハケ目後ナデ　一部磨滅	ハケ目、ハケ目痕ナデ　一部器面磨滅		にぶい橙(5YR7/4)	浅黄橙(7.5YR8/4)	石英、長石、輝石、黒色粒	良好	-	-	044	No42	籾の圧痕あり(底部)
42	4	弥生土器	甕	口縁部～胴部	(37.4)	-	-	-	-	9.1～	-	ハケ目後横ナデ、ハケ目後ナデ、横ナデ	横ナデ、ハケ目痕ナデ　器面風化		にぶい橙(7.5YR7/3)	にぶい橙(7.5YR7/4)	石英、長石、金雲母、黒色粒	良好	○	○	044	No7	反転復元　内外に黒斑　内外に赤色顔料
42	5	弥生土器	甕	ほぼ完形	41.1	9.1	52.8	-	-	38.9	-	縦ハケ、ナデ	横ナデ、縦ハケ	脚台内横ナデ	褐灰（10YR4/1)	にぶい黄橙(10YR7/3)	石英、長石、角閃石、金雲母	良好	○	-	044	A2層、ベルトW、A1層、No42、C-4ⅢA	上部は平行、下部は斜めにする為,外面は上下にハケ目の疎密の違いが出るのは使い方による,器種;黒髪式,弥生中期後半　口縁部下に突帯１
43	6	弥生土器	甕	口縁部～胴部	28.6	-	-	-	-	26.0	-	縦ハケ後ナデ、縦ハケ後ナデ消し	横ナデ、縦ハケ後ナデ、縦ハケ後ナデ消し(ナデ荒い)		褐灰（7.5YR4/1)	黄灰（2.5Y4/1)	石英、長石、雲母	良好	-	-	044	No30、No36、No28、No31、BベルトE層、D1層、C2層、B1層	ススあり、弥生中期後半、残存率3/4
43	7	弥生土器	甕	完形	39.5	9.5	50.8	-	-	-	(37.9)	ハケ目、ナデ、タタキ、横ナデ	横ナデ、ハケ目後横ナデ、ハケ目、タタキ、ナデ	脚台内横ナデ	にぶい黄橙(10YR7/3)	灰白（10YR8/2)	石英、長石、雲母	良好	○	-	044	No1、No3、No4、No14、No20、No21、No24、No25、No26、No29、No39、A1層、C2層、Bベルト、D1層	残存率2/3　口縁部下に突帯１
44	8	弥生土器	高杯	杯部	23.1	-	-	-	-	9.2	-	ナデ、指頭圧痕、工具によるナデ	横ナデ、ヘラミガキ	脚内ハケ後ナデ	にぶい橙(10YR6/4)	にぶい橙(10YR6/4)	長石、雲母	良好	○	○	044	D-1層、2層、No37、No34	器種;黒髪式系？須玖Ⅱ式？赤色顔料(部分的にあり)、円盤充填技法、弥生中期後半

表(Tab)24　土器観察表（６）

図版番号	遺物番号	種別	器種	部位	口径	底径	器高	高台高	高台径	残存高	最大胴径	調整			色調		胎土	焼成	黒斑	赤色顔料	出土地点	層位	備考
					(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(内面)	(外面)	(その他)	(外面)	(内面)							
46	1	弥生土器	甕	口縁部	(35.0)	-	-	-	-	5.5～	-	横ナデ	横ナデ		橙（7.5YR7/6）	橙（5YR7/6）	石英、長石、雲母、角閃石、輝石	良好	-	-	054	No2	
46	2	弥生土器	甕	口縁部～胴部	(32.0)	-	-	-	-	15.3～	(30.8)	横ナデ、ハケ目痕、ナデ	磨滅により不明		浅黄橙（10YR8/4）	浅黄橙(10YR8/4)	石英、長石、角閃石、赤褐色粒、黒色粒	良好	-	-	054	SE、No7、No8、No10	反転復元
46	3	弥生土器	甕	口縁部	(30.2)	-	-	-	-	5.4～	-	横ナデ	横ナデ		にぶい橙（7.5YR7/4）	にぶい黄橙（10YR7/4）	石英、長石、角閃石、金雲母	良好	-	-	054	No36	反転復元　外面にスス付着
46	4	弥生土器	甕	口縁部～胴部	27.8	-	-	-	-	26.7	26.6	横ナデ、縦ハケ後ナデ、磨耗	横ナデ、縦ハケ後ナデ、縦ハケ、磨耗		にぶい黄橙(10YR7/4)、にぶい橙(7.5YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)、灰黄褐(10YR7/4)	石英、長石、角閃石、赤褐色砂粒	良好	○	-	054	No13～17、No23～25、No27、No28、No31、炉①、3層、NE、NW、SE	一部反転復元、スス付着(口縁・端部)
47	5	弥生土器	壺	胴部	-	-	-	-	-	7.8	(31.9)	ハケ目後ナデ、指頭圧痕、横ナデ	ハケ目、ナデ、刻み目突帯		にぶい黄橙色（10YR7/2）	褐灰（10YR4/1）	石英、長石、角閃石	良好	-	-	054	No1	ススあり、径傾き不確実、弥生中期後半、残存率　1/8　胴部に刻目突帯１
47	6	弥生土器	高杯	口縁部	(25.6)	-	-	-	-	2.7	-	横ナデ、刻目	横ナデ、刻目		にぶい橙(7.5YR7/4)、浅黄橙(10YR8/4)	浅黄橙(10YR8/4)、にぶい橙(7.5YR7/4)	石英、長石、雲母	良好	-	-	054	No1	赤彩ではない、弥生中期後半、残存率1/3
47	7	弥生土器	甕？	底部	-	9.5	-	-	-	8.8～	-	ナデ後ハケ目、ナデ、指頭圧痕	縦ハケ目、ハケ目一部磨滅		にぶい黄橙(10YR7/4)橙(5YR7/6)	にぶい黄橙（10YR6/4）	石英、長石、角閃石、黒曜石	良好	-	-	054	NW、No32、No34、No36	一部反転復元
49	1	弥生土器	甕	口縁部～胴部	25.7	-	-	-	-	19.8	-	ハケ後ナデ	ハケ	49	橙（7.5YR6/6）	橙（7.5YR6/6）	長石、黒雲母	良好	○	-	072	No3	残存率;口縁の1/4
49	2	弥生土器	甕	底部	-	8.4	-	-	-	3.8～	-	ナデ	ハケ目後ナデ、ナデ		橙（2.5YR6/6）	橙（2.5YR6/6）	石英、長石、角閃石、黒褐色粒	良好	○	-	072	No13	内面に黒斑
49	3	弥生土器	壺	口縁部～体部	(24.4)	-	-	-	-	17.3	-	斜めハケ（ナデ消しが多い）	縦ハケ、凸帯に刻み目がある		にぶい黄橙（10YR6/4）	にぶい褐（7.5YR5/4）	石英、長石、角閃石、金雲母、輝石	良好	-	-	072	No1	刻み目は磨滅の為深さは殆どない、器種;黒髪式系、弥生中期後半、残存率1/2未満　頸部・口縁部下・胴部に刻目突帯各１
49	4	弥生土器	鉢	口縁部～底部	(25.2)	(10.2)	14.4	-	-	-	-	ハケ目、ナデ	ハケ目		橙（2.5YR6/8）	にぶい橙（7.5YR6/4）	石英、長石、角閃石、雲母	良好	-	-	072		残存率1/3
49	5	弥生土器	鉢	口縁部～胴部	(13.0)	-	-	-	-	12.5～	-	ナデ、ハケ目	ハケ目痕後ナデ器面磨滅		明赤褐（2.5YR5/8）	橙（2.5YR6/8）	石英、長石、角閃石、金雲母、黒色粒、石	良好	-	-	072	089	反転復元
52	1	弥生土器	甕	口縁部	-	-	-	-	-	4.2～	-	ハケ目、ナデ	横ナデ		にぶい褐（7.5YR5/4）	にぶい褐（7.5YR5/4）	石英、赤褐色粒	良好	-	-	076	-	
52	2	弥生土器	甕	口縁部	(31.2)	-	-	-	-	5.9～	-	ハケ目後ナデ	ハケ目後ナデ口縁部横ナデ		にぶい橙（5YR7/4）	にぶい橙（5YR7/4）	石英、長石、角閃石、黒色粒	良好	○	-	076	貯穴	反転復元、残存率1/4以下　口縁一部に黒斑
52	3	弥生土器	小型壺	口縁部～底部	(11.3)	(5.2)	12.5	-	-	-	(10.8)	横ナデ、ハケ目後ナデ、ナデ、指頭圧痕	横ナデ、縦方向ハケ目(一部磨滅)、ハケ目後ナデ		にぶい黄橙（10YR7/4）	橙（7.5YR6/6）	石英、長石、赤褐色粒	良好	○	-	076	貯穴、2層ベルト	反転復元　外面底部に黒斑
52	4	弥生土器	甕	口縁部～底部	25.5	7.6	32.2	-	-	-	24.0	横ナデ、縦ハケ	縦ハケ、横ナデ		黄橙(10YR7/8)、明黄褐(10YR6/6)	浅黄（2.5Y7/4）	石英、長石、角閃石	良好	○	-	076	No16、No18、No19、No20、No21、No27、B-2層、貯穴、一括貯穴、下層	底部外面に砂付着、残存率3/4
52	5	弥生土器	小壺の蓋	蓋部	9.6	-	2.2	-	-	-	-	ナデ後爪痕、指頭圧痕	ナデ後ミガキ、横ナデ		赤褐(2.5YR4/6)にぶい黄橙(10YR7/4)	明黄褐(10YR7/4)	石英、長石、黒色粒	良好	-	○	076	2層ベルト	残存率1/2以上　内外に赤色顔料　4箇所に穿孔
52	6	弥生土器	甕	胴部～底部	-	8.2	-	-	-	10.5～	-	縦方向指ナデ脚部内横ナデ	縦方向ハケ目		橙（7.5YR6/6）	灰黄褐(10YR5/2)	石英、角閃石、金雲母、砂粒	良好	○	-	076	一括、貯穴	一部反転復元　内外一部に黒斑
52	7	弥生土器	器台	裾部	-	(14.0)	-	-	-	11.2～	-	縦方向ハケ目、横方向ハケ目	縦方向ハケ目後横方向指ナデ、ナデ		浅黄橙(10YR8/4)	浅黄橙(10YR8/4)	石英、角閃石、赤褐色粒	良好		-	076	NE、No28	
52	8	弥生土器	器台	裾部	-	(20.7)	-	-	-	3.7～	-	横方向ハケ目	縦方向ハケ目、横ナデ		にぶい黄橙（10YR7/4）	にぶい黄橙（10YR7/4）	石英、角閃石、金雲母	良好	-	-	076	貯穴	反転復元　外面に赤色顔料に近い色調がある
56	1	弥生土器	甕	口縁部～胴部	(28.5)	-	-	-	-	8.4～	-	丁寧なナデ	横ナデ、丁寧なナデ		橙（5YR6/6）	橙（5YR6/6）	石英、長石、角閃石	良好	○	-	078	NE、No27	反転復元　内外面に黒斑　内外面にスス付着
56	2	弥生土器	甕	口縁部	-	-	-	-	-	3.2～	-	横ナデ	横ナデ、ミガキ、突帯		赤褐（2.5YR4/8）	浅黄橙(10YR8/3)	石英、長石、角閃石、金雲母	良好	-	○	078	A層	外面に赤色顔料
56	3	弥生土器	甕	口縁部～胴部	(27.0)	-	-	-	-	7.1～	-	縦・横ナデ、縦・横ハケ目後ナデ	縦・横ナデ、ハケ目痕後ナデ		にぶい黄橙（10YR7/4）	明黄褐(10YR7/6)	石英、長石、金雲母、黒色粒	良好	○	-	078	No7	反転復元　内外面に黒斑　頸部に突帯１
56	4	弥生土器	甕	口縁部	(29.3)	-	-	-	-	3.7～	-	磨滅により不明口縁部横ナデ	横ナデ後暗文		赤褐（2.5YR4/8）	浅黄橙(10YR8/4)	石英、角閃石、金雲母	良好	-	○	078	A層	反転復元　外面に赤色顔料
56	5	弥生土器	甕	口縁部～胴部	24.0	-	-	-	-	14.0～	-	横ナデ、斜め方向ハケ目、ナデ	横ナデ、ハケ目後ナデ		にぶい褐（7.5YR5/4）	にぶい黄橙(10YR6/4)灰褐(7.5YR5/1)	石英、長石、角閃石、黒褐色粒、赤褐色粒	良好	○	-	078	No26、No6	反転復元　内外に黒斑　外面にスス付着
56	6	弥生土器	甕	底部	-	7.0	-	-	-	6.0～	-	ナデ、横ナデ	縦方向ハケ目		にぶい橙（7.5YR6/4）	黒褐（10YR3/1）	石英、長石、角閃石、金雲母	良好	○	-	078	No24、No14	一部反転復元　内面にスス付着

表(Tab)25　土器観察表（７）

図版番号	遺物番号	種別	器種	部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	高台高 (cm)	高台径 (cm)	残存高 (cm)	最大胴径 (cm)	調整 (内面)	調整 (外面)	調整 (その他)	色調 (外面)	色調 (内面)	胎土	焼成	黒斑	赤色顔料	出土地点	層位	備考
56	7	弥生土器	甕	口縁部～胴部	(19.6)	-	-	-	-	7.3～	-	横ナデ、指頭圧痕	横ナデ、横ミガキ		赤褐 (2.5YR4/6)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英、角閃石	良好	-	○	078	-	反転復元　内外に赤色顔料
58	1	弥生土器	甕	口縁部	(32.3)	-	-	-	-	3.6～	-	横ナデ	横ナデ　口縁部横ナデ		浅黄橙(10YR8/3)	浅黄橙(10YR8/3)	石英、角閃石、赤褐色粒	良好	-	-	081	-	反転復元
58	2	弥生土器	甕	口縁部	(30.0)	-	-	-	-	(2.9)～	-	横ナデ	横ナデ		浅黄橙 (7.5YR8/4)	浅黄橙 (7.5YR8/4)	石英、長石、黒色粒、赤褐色粒	良好	○	-	081	2層	残存率1/4以下　反転復元　口縁部に黒斑
58	3	弥生土器	甕	口縁部	-	-	-	-	-	6.6～	-	ハケ目後ナデ 一部器面剥落	ハケ目後横ナデ、ハケ目後ナデ 一部器面剥落		浅黄橙 (7.5YR8/6)	浅黄橙 (7.5YR8/6)	石英、長石、赤褐色粒	良好	-	-	081	-	器面剥落
58	4	弥生土器	甕	口縁部	-	-	-	-	-	(4.5)～	-	横ナデ　一部器面剥落	ハケ目後ナデ　一部器面剥落		浅黄橙(10YR8/4)	浅黄橙(10YR8/4)	石英、長石、赤褐色粒	良好	-	-	081	ベルト2層	残存率1/4以下、内面から外面にかけて器面が剥落している
58	5	弥生土器	甕	口縁部	-	-	-	-	-	2.7～	-	横ナデ	横ナデ		橙 (7.5YR6/6)	橙 (7.5YR6/6)	石英、黒色粒、赤褐色粒	良好	-	-	081	2層	
58	6	弥生土器	甕	口縁部	-	-	-	-	-	4.3～	-	横ナデ、ナデ	横ナデ、ナデ		にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英、角閃石、赤褐色粒	良好	-	-	081	2層	外面にスス付着
58	7	弥生土器	壺	口縁部	-	-	-	-	-	4.3～	-	横ナデ、ハケ目後横ナデ	ハケ目後横ナデ、ハケ目後ナデ		橙 (7.5YR6/6)	橙 (7.5YR6/6)	石英、長石、角閃石、金雲母、赤褐色粒	良好	-	-	081	下層	
58	8	弥生土器	ミニチュア土器(椀)	完形	5.2	2.0	4.3	-	-	-	-	粗いナデ、指頭圧痕	粗いナデ、指頭圧痕		にぶい褐 (7.5YR6/3)	にぶい褐 (7.5YR6/3)	長石、角閃石、黒色粒、砂粒	良好	○	-	081	No18	内外一部に黒斑
58	9	弥生土器	鉢	口縁部～底部	(13.4)	(4.6)	5.7	-	-	-	-	ハケ目	縦方向ナデ、横方向ナデ　底部ナデ		にぶい橙 (7.5YR7/4)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	石英	良好	-	-	081	-	
58	11	弥生土器	甕	口縁部	-	-	-	-	-	3.2～	-	横方向ハケ目	横ナデ、ハケ目		橙 (5YR7/6)	橙 (7.5YR7/6)	石英、角閃石	良好	-	-	114	-	
58	12	弥生土器	甕	口縁部	-	-	-	-	-	3.4～	-	横ナデ	横ナデ		灰白 (10YR8/2)	灰白 (10YR8/2)	石英、角閃石、褐色粒	良好	-	-	114	-	
58	13	弥生土器	甕	口縁部	-	-	-	-	-	2.0～	-	横ナデ	横ナデ		灰黄 (2.5Y7/2) 暗灰黄 (2.5Y4/2)	灰黄 (2.5Y7/2)	石英、角閃石、金雲母	良好	-	-	114	-	
58	14	弥生土器	甕	口縁部	-	-	-	-	-	3.3～	-	横ナデ	横ナデ		にぶい黄橙 (10YR7/3)	にぶい黄橙 (10YR7/3)	石英、角閃石	良好	○	-	114	-	
58	15	弥生土器	甕	口縁部	-	-	-	-	-	3.5～	-	横ナデ	横ナデ		灰白 (10YR8/2)	灰白 (10YR8/2)	石英、角閃石、金雲母、赤褐色粒	良好	-	-	144	-	
58	16	弥生土器	甕	口縁部	-	-	-	-	-	3.7～	-	磨滅により不明	横ナデ痕、縦方向ハケ目痕　全体磨滅		灰白 (10YR8/2)	灰白 (10YR8/2)	石英、長石、角閃石、金雲母、赤褐色粒	良好	-	-	145	-	
58	17	弥生土器	甕	口縁部	-	-	-	-	-	2.7～	-	横ナデ	横ナデ		にぶい褐 (7.5YR5/3)	橙 (7.5YR7/6)	石英、長石、角閃石、赤褐色粒	良好	-	-	145	-	外面にスス付着
62	1	弥生土器	甕	口縁部	(25.0)	-	-	-	-	3.4～	-	ナデ	横ナデ		にぶい橙 (7.5YR6/4)	橙 (7.5YR6/6)	石英、長石、輝石、金雲母	良好	○	-	082	No30	反転復元　口縁部一部に黒斑
62	2	弥生土器	甕	口縁部	-	-	-	-	-	6.8～	-	横ナデ	風化のため不明　口縁部横ナデ		にぶい橙 (7.5YR7/3)	浅黄橙 (7.5YR8/3)	石英、長石、角閃石、雲母、砂粒	良好	-	○	082	No7	内外に黒斑
62	3	弥生土器	甕	口縁部～胴部	(19.4)	-	-	-	-	4.7～	(16.7)	斜め方向ハケ目	斜め方向ハケ目、横ナデ		橙 (5YR6/6)	橙 (5YR7/6)	石英、金雲母	やや良	-	-	082	No11、No28	反転復元
62	4	弥生土器	甕	口縁部～胴部	(21.5)	-	-	-	-	7.2～	-	横ナデ、工具痕？指頭圧痕	風化により不明　口縁部横ナデ		灰黄褐(10YR5/2)	にぶい黄橙 (10YR7/3)	石英、長石、角閃石、金雲母、黒褐色粒	良好	-	-	082	No41	反転復元　外面一部にスス付着
62	5	弥生土器	高杯	脚部	-	-	-	-	-	16.5～	-	粘土しぼり痕	縦方向ヘラケズリ後縦ミガキ		明赤褐 (2.5YR5/6)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英、角閃石、金雲母	良好	○	○	082	No21	外面に黒斑　外面に赤色顔料
62	6	弥生土器	甕？	底部	-	9.0	-	-	-	9.7～	-	ハケ目後ナデ、ナデ	縦方向ハケ目、ハケ目		にぶい黄橙 (10YR7/4)	橙 (7.5YR7/6)	石英、長石、金雲母、黒色粒	良好	○	-	082	No14、No15、No24	一部反転復元　外面一部に黒斑
62	7	弥生土器	甕(黒髪式)	口縁部～胴部	(22.6)	-	-	-	-	15.4	-	ハケ後ナデ(ハケの工具残る)、指頭圧痕	縦ハケ後ナデ、ハケ後ナデ消し	口縁部　横ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	長石、石英、金雲母、角閃石、輝石	良	-	-	082	No51	反転復元　弥生中期後半、残存率1/4弱
65	1	弥生土器	高杯	口縁部	(19.0)	-	-	-	-	5.7～	-	ナデ、多方向のハケ目	ナデ、縦ハケ		赤褐 (2.5YR4/8)	赤褐 (2.5YR4/8)	石英、長石、雲母	良好	-	○	089	-	内面・外面に丹塗り　D-1-2,089
65	2	弥生土器	甕	口縁部	(25.9)	-	-	-	-	4.2～	-	横ナデ	横ナデ		にぶい黄橙 (10YR6/3)	にぶい黄橙 (10YR6/3)	石英、長石、角閃石	良好	○	-	089	No9	反転復元

表(Tab)26　土器観察表（8）

図番号	版号	遺物番号	種別	器種	部位	口径	底径	器高	高台高	高台径	残存高	最大胴径	調整			色調		胎土	焼成	黒斑	赤色顔料	出土地点	層位	備考
						(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(内面)	(外面)	(その他)	(外面)	(内面)							
65	3	弥生土器	甕	口縁部		(30.0)	-	-	-	-	7.9～	-	ナデ	ナデ		橙 (7.5YR7/6)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	石英、長石、角閃石、雲母、輝石	良好	-	-	089	No12	
65	4	弥生土器	甕	口縁部～底部		(36.8)	-	-	-	-	23.8	(37.8)	ハケ目後ナデ	ハケ目	口縁部 横ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/3)	浅黄橙(10YR8/3)、褐灰色(10YR6/1)	砂粒、長石、石英、角閃石	良好	○	-	089		反転復元　外面に黒斑　口縁部に赤色顔料？外面にスス付着、器種;黒髪式、弥生中期後半、残存率1/3　頸部に突帯１
65	5	弥生土器	甕	口縁部～胴部		(38.8)	-	-	-	-	7.7	-	ハケ目後横ナデ	横ナデ		浅黄橙(10YR8/4)	浅黄橙(10YR8/3)	長石、石英、角閃石、金雲母	良好	-	-	089	No３０、No３３、トレ	ススあり、器種;立岩式、一部反転復元　弥生中期後半、残存率2/5
65	6	弥生土器	甕	口縁部		-	-	-	-	-	4.2～	-	横ナデ	横ナデ		にぶい黄橙 (10YR7/3)	にぶい黄橙 (10YR7/3)	石英、長石、角閃石、金雲母	良好	-	○	089	トレ	口縁端部に刻目　口縁上面に暗文　外面に赤色顔料　内面は部分的に赤色顔料　口縁下に突帯
65	7	弥生土器	甕	底部		-	(7.2)	-	-	-	5.3～	-	ナデ	ナデ　右下がりハケ目		橙 (5YR7/8)	橙 (7.5YR6/6)	石英、長石、角閃石、雲母	良好	-	-	089	No40	
66	8	弥生土器	甕	胴部		-	-	-	-	-	9.2	-	斜めハケ後ナデ、斜めハケ後ナデ消し	縦ハケ　横ナデ		にぶい黄橙 (10YR6/3)	にぶい褐 (7.5YR6/3)	長石、石英、金雲母、黒雲母、輝石	良好	○	-	089	No45	内外面に黒斑、凸帯の部分の径は小片で計れないので反転復元はしなかった、残存率;体部一片　「コ」の字形突帯１
66	9	弥生土器	壺 (黒髪式)	口縁部		(23.8)	-	-	-	-	7.2	-	ナデ	ナデ		にぶい黄橙 (10YR7/3)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	砂粒、長石、石英、金雲母、角閃石	良好	-	-	089	No６、No44、Cベルト	反転復元、弥生中期後半、残存率;約1/2　頸部に突帯１
66	10	弥生土器	甕	口縁部		-	-	-	-	-	7.8～	-	横ナデ、指頭圧痕	横ナデ		灰褐 (7.5YR4/2)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	石英、長石、角閃石	良好	○	-	089	No38	内面の所々に黒斑あり
66	11	弥生土器	鉢	底部		(9.6)	-	-	-	-	5.2～	-	横ナデ　指頭圧痕	ハケ目後ナデ	底部　糸切り	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	石英、長石、角閃石、金雲母	良好	○	-	089	No１０、①下-②上	
66	12	弥生土器	器台	体部		13.1	15	19	-	-	-	-	ハケ目、ナデ、横ナデ	ハケ目、ナデ、横ナデ		にぶい橙 (7.5YR7/4)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	砂粒、長石、石英、金雲母	良好	○	-	089		一部反転復元　外面に黒斑、器種;黒髪式に伴うもの、弥生中期後半、残存率4/5
66	13	弥生土器	高杯	杯部		(26.2)	-	-	-	-	8	-	ナデ	縦ハケ		にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	長石、石英、雲母、輝石	良好	-	○	089	B-2	内外面に赤色顔料、弥生中期後半、残存率1/4弱
69	1	弥生土器	甕	口縁部		(37.0)	-	-	-	-	7.3～	-	横ナデ	横ナデ、突帯		にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英、長石、角閃石、赤褐色粒	良好	-	-	147	No２２、上層	反転復元　頸部に突帯１
69	2	弥生土器	甕	口縁部～胴部		(30.2)	-	-	-	-	27.4～	(29.8)	横ナデ、ハケ目後横ナデ	横ナデ、ハケ目後横ナデ、(口縁部)横ナデ、ハケ目後横ナデ		にぶい黄 (2.5Y6/3)	にぶい黄橙 (10YR6/3)	石英、角閃石、金雲母	良好	○	-	147	No２６、No２７	反転復元　外面に黒斑？
69	3	弥生土器	甕	口縁部～胴部		27.4	-	-	-	-	25.2	25	調整不明、指頭圧痕	縦ハケ後横ナデ、縦、斜めハケ、沈線	口縁部 横ナデ	暗灰黄 (2.5YR5/2)、橙 (5YR7/6)、浅黄 (2.5YR8/4)	にぶい黄橙 (10YR7/2)、褐灰(10YR4/1)	石英、長石、角閃石	良好	-	-	147	No23、No24、No30、床上	一部反転復元　胴部に沈線１
69	4	弥生土器	甕	口縁部～底部		(17.0)	(8.0)	21.6	21.6	-	(15.9)	-	縦ハケ、縦ハケ後ナデ 指頭圧痕、横ナデ	縦ハケ、後一部ナデ、ナデ	口縁部 横ナデ	浅黄 (2.5Y7/4)、黄橙 (7.5YR7/8)	浅黄 (2.5Y7/4)、黄橙 (7.5YR7/8)	石英、長石、角閃石、雲母	良好	○	-	147	No１６、No１７、床上	反転復元　外面に黒斑、残存率1/2
70	5	弥生土器	ミニチュア土器(壺)	口縁部～底部		(9.5)	(3.9)	6.7	-	-	-	-	ハケ目後ナデ、ナデ、指頭圧痕	ハケ目後ナデ、指頭圧痕、縦方向ハケ目後ナデ、ナデ		橙 (5YR6/6)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英、長石、角閃石、金雲母	良好	○	-	147	-	反転復元　内外一部に黒斑
70	6	弥生土器	甕	口縁部～底部		28.0	9.6	-	-	-	-	25.5	調整不明、指頭圧痕	縦ハケ、横ナデ、沈線	口縁部 横ナデ、底部 横ナデ	暗灰黄 (2.5YR4/2)、黄橙 (7.5YR8/8)	褐灰(7.5YR4/1)、浅黄(2.5Y7/4)	石英、長石、角閃石	良好	-	-	147	No10、No49、No50、No52	一部反転復元　胴部に沈線１
70	7	弥生土器	甕	口縁部～底部		24.6	8.8	34.6	-	-	-	(22.2)	調整不明	調整不明		淡黄橙(10YR8/3)	淡黄橙(10YR8/3)	長石、石英、角閃石	良好	○	-	092	No12～14、No56	反転復元　外面に黒斑　内外面にスス付着、残存率5/4　胴部に沈線１
70	8	弥生土器	高杯	杯部		(25.0)	-	-	-	-	6.4～	-	横方向ミガキ	横方向ミガキ、縦方向ミガキ		赤褐 (2.5YR4/6)	赤褐 (2.5YR4/6)	石英、長石、角閃石、金雲母	良好	-	○	147	No５８、Ⅰ８Ⅲ層、J８ⅢAB層	反転復元　内外に赤色顔料　分析用土器
71	9	弥生土器	甕棺	胴部		-	-	-	-	-	49.9	-	ハケ目	ハケ目後ミガキ		淡黄橙(10YR8/4)	にぶい橙(7.5YR6/4)、にぶい黄橙(10YR7/4)	砂粒、角閃石、石英、赤褐色粒	良好	○	-	092	No１５、土坑	反転復元　外面に黒斑　径傾き不確実、残存率;胴部1/4　胴部に刻目突帯・突帯各１、胴部下半に突帯１
71	10	弥生土器	壺	口縁部～胴部		(17)	-	-	-	-	18	(19.4)	横ナデ、斜めハケ、縦ハケ　指頭圧痕	横ナデ、多方向のハケ目、ハケ後ミガキ	頸部 内側 横・斜め方向のハケ目、外面 縦方向のヘラミガキ	黄橙 (7.5YR7/8)	浅黄 (2.5Y8/4)	石英、長石、角閃石、雲母	良好	○	-	147	No４３、No４６～４８	反転復元　外面に黒斑　口縁部は一次口縁部のみの残存　疑似口縁か？残存率1/2以上
71	11	弥生土器	壺	胴部～底部		-	6.4	-	-	-	15.5～	(16.95)	指頭圧痕、ナデ	縦方向ミガキ、横方向ミガキ		赤 (10R4/6)	橙 (7.5YR6/6)	石英、金雲母	良好	○	○	147	No３５、No５７	一部反転復元　外面底部に黒斑　外面に赤色顔料
71	12	弥生土器	壺	口縁部		-	-	-	-	-	4.7～	-	横ナデ、縦方向ハケ目後ナデ	横ナデ、指頭圧痕、縦方向ハケ目後ナデ		にぶい黄橙 (10YR7/3・6/3)	褐灰 (10YR4/1)	石英、長石、角閃石	良好	○	-	141	-	内外に黒斑
71	13	弥生土器	甕	口縁部		-	-	-	-	-	2.7～	-	横ナデ	横ナデ		にぶい黄橙 (10YR7/3)	にぶい黄橙 (10YR7/3)	石英、長石、角閃石、金雲母	良好	-	-	141	-	口縁上面にスス付着
72	14	弥生土器	甕	口縁部～胴部		(26.5)	-	-	-	-	(4.7)～	-	ハケ目後ナデ痕、横ナデ痕　磨滅が著しい	ハケ目後ナデ痕、横ナデ痕　磨滅が著しい		にぶい橙 (5YR7/3)	明褐灰(7.5YR7/2)にぶい橙(5YR7/3)	石英、長石、黒褐色粒	良好	○	-	148	床面	反転復元　口縁部に黒斑
72	15	弥生土器	甕	口縁部		-	-	-	-	-	(2.35)～	-	横ナデ	横ナデ、ハケ目？		浅黄橙(10YR8/3)	浅黄橙(10YR8/3)	石英、黒色粒、黒褐色粒、赤褐色粒	良好	-	-	148	床面	

表(Tab)27　土器観察表（９）

図番号	版号	遺物番号	種別	器種	部位	口径	底径	器高	高台高	高台径	残存高	最大胴径	調整			色調		胎土	焼成	黒斑	赤色顔料	出土地点	層位	備考
						(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(内面)	(外面)	(その他)	(外面)	(内面)							
72	16	弥生土器	甕	口縁部		-	-	-	-	-	(4.4)～	-	横ナデ	横ナデ		灰褐 (7.5YR4/2)	にぶい黄橙(10YR7/4)黒褐(10YR3/2)	石英、長石、黒色粒、黒褐色粒	良好	○	-	148	-	
72	17	弥生土器	甕	底部		-	7.0	-	-	-	4.8～	-	ハケ目後ナデ 脚部内ナデ,横ナデ	縦方向ハケ目、横ナデ		橙(5YR6/6) にぶい橙(7.5YR7/4)	褐灰(7.5YR4/1) にぶい橙(7.5YR7/4)	石英、長石、角閃石、金雲母	良好	-	-	148	床面	内面にスス付着
72	18	弥生土器	甕	口縁部～胴部		(28.4)	-	-	-	-	15.4～	-	横ナデ、ハケ目	縦・斜め方向ハケ目、横ナデ		黒褐 (10YR3/2)	浅黄橙(10YR8/4)	石英、角閃石、金雲母、褐色粒	良好	-	-	148	床面	反転復元　外面にスス付着
72	19	弥生土器	甕	口縁部～胴部		-	-	-	-	-	5.5～	-	横ナデ、ナデ	横ナデ		にぶい橙 (7.5YR7/3)	にぶい黄橙 (10YR7/3)	石英、長石、角閃石、金雲母、赤褐色粒	良好	○	-	147	-	内外面に黒斑有り
72	20	弥生土器	甕	口縁部		-	-	-	-	-	4.4～	-	横ナデ、指頭圧痕、ナデ	横ナデ		浅黄橙(10YR8/3)	浅黄橙(10YR8/3)	石英、長石、角閃石、金雲母	良好	-	-	147	-	
72	21	弥生土器	甕	口縁部		-	-	-	-	-	5.0～	-	横ナデ	横ナデ		浅黄橙(10YR8/3)	浅黄橙(10YR8/3)	石英、長石、角閃石、金雲母	良好	-	-	147	-	頸部に突帯１
72	22	弥生土器	甕	口縁部		(31.2)	-	-	-	-	5.4～	-	横ナデ、横方向ハケ目	横ナデ、突帯		にぶい黄橙 (10YR7/3)	にぶい黄橙 (10YR7/3)	石英、長石、角閃石、金雲母、黒曜石？	良好	○	-	147	-	反転復元　外部に黒斑　頸部に突帯１
72	23	弥生土器	台付鉢	ほぼ完形		9.8	-	7.0	-	-	-	-	ナデ、横ナデ	強い横ナデ、指頭圧痕、縦方向ハケ目、縦方向ハケ目後ヘラナデ 器面一部磨耗		にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英、長石、角閃石、金雲母	良好	-	-	147	-	口縁1/5欠損
72	24	弥生土器	高杯	杯部		(21.0)	-	-	-	-	6.6～	-	横方向ミガキ	横ナデ、縦ミガキ、粗い横ミガキ		にぶい黄橙 (10YR7/3)	にぶい黄橙 (10YR7/3)	石英、長石、角閃石、金雲母	良好	-	-	147	-	残存率1/4　反転復元
72	25	弥生土器	器台	口縁部～底部		(12.7)	-	(16.0)	-	-	-	-	横ナデ、ナデ	横ナデ、ナデ		灰白 (10YR8/2)	灰白 (10YR8/2)	石英、長石、角閃石、金雲母、赤褐色粒	良好	○	-	147	-	一部反転復元外面に黒斑裾部に沈線１
75	1	弥生土器	甕	口縁部		(32.6)	-	-	-	-	4.3～	-	横ナデ	横ナデ、横ナデの後縦ミガキ		赤褐 (2.5YR4/6)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英、長石、角閃石、金雲母	良好	-	○	095	-	反転復元、内外面とも丹塗り
75	2	弥生土器	甕	口縁部		(33.6)	-	-	-	-	5.2～	-	横ナデ	縦、斜め方向のハケ目、(口縁部)ハケ目		橙 (5YR6/6)	橙 (5YR6/6)	石英	良好	-	-	095	-	反転復元
75	3	弥生土器	甕	口縁部		(29.4)	-	-	-	-	6.2～	-	ナデ、横ナデ	横ナデ、縦ハケ後横ナデ		黒褐 (7.5YR3/1)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	石英、金雲母	良好	-	-	095	-	反転復元口縁下に突帯１
75	4	弥生土器	甕	底部		-	7.0	-	-	-	6.1～	-	丁寧なナデ	ハケ		橙 (5YR7/6)	灰黄褐 (10YR5/2)	石英、角閃石	不良	-	-	095	-	残存率1/20
75	5	弥生土器	甕	口縁部～胴部		(25.8)	-	-	-	-	19.5	-	ハケ後ナデ	縦ハケ	口縁部横ナデ	灰黄褐(10YR5/2)	灰黄褐(10YR5/2)	長石、石英、角閃石、雲母	良好	○	-	095	No1	反転復元外面にスス付着、器種;黒髪式、弥生中期前～中、残存率1/3弱、
75	6	弥生土器	壺	口縁部		-	-	-	-	-	5.7～	-	横ナデ、板状工具による横ナデ	横ナデ、工具によるナデ、板状工具による縦ナデ		橙 (7.5YR7/6)	橙 (7.5YR7/6)	石英、長石、角閃石	良好	-	-	095	-	
75	7	弥生土器	甕	口縁部～胴部		(26.4)	-	-	-	-	15.3	-	ハケ後ナデ	ナデ	口縁部横ナデ	灰黄褐(10YR4/2)	灰黄褐(10YR6/2)	長石、石英、金雲母	良好	-	-	095	貯穴	反転復元ススト付着、器種;黒髪式、弥生中期後半、残存率1/2弱
75	8	弥生土器	甕	胴部～底部		-	6.6	-	-	-	7.9～	-	ハケ目後ナデ、指頭圧痕	ミガキ後赤色顔料		赤褐 (2.5YR4/8)	橙 (5YR7/6)	石英、長石、金雲母、黒褐色砂粒	良好	-	-	095	-	反転復元
76	9	弥生土器	甕	口縁部～底部		29.4	8.6	24.4	-	-	-	-	ナデ	ハケ目後ナデ、ハケ目	口縁部横ナデ	淡黄橙(10YR8/3)、にぶい黄橙(10YR7/3)	淡黄橙(10YR8/4)、にぶい黄橙(10YR7/4)	長石、雲母、角閃石、石英	良好	○	○	095		一部反転復元内外面に赤色顔料、残存率1/2
76	10	弥生土器	鉢	口縁部～胴部下半		(13.5)	-	-	-	-	4.6～	(14.2)	横ナデ	斜め方向のハケ目後ナデ		明赤褐 (2.5YR5/6)	橙 (5YR7/6)	石英、長石、角閃石	良好	○	○	095	-	反転復元、外面に赤色顔料
76	11	弥生土器	高杯	口縁部		(29.2)	-	-	-	-	3.1～	-	横ナデ	横ナデ、(口縁部)暗文	口縁部に暗文	明赤褐 (2.5YR5/6)	明赤褐 (2.5YR5/6)	石英、長石、角閃石	良好	○	○	095	-	反転復元、内外面とも丹塗り
76	12	弥生土器	高杯	脚部～裾部		-	10.2	-	-	-	18.5	-	横ハケ、ナデ絞り痕	ナデ、縦ハケ後ナデ消し	裾部横ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/2)	にぶい黄橙 (10YR7/2)	長石、石英、金雲母、角閃石、輝石	良好	○	-	095	No1	外面に黒斑、弥生中～後期、残存率;脚部ほぼ完存
78	1	弥生土器	甕	口縁部		20.2	-	-	-	-	8.1～	-	ナデ	ナデ		にぶい褐 (7.5YR5/4)	橙 (7.5YR6/6)	石英、長石、角閃石	良好	-	-	097	-	
78	2	弥生土器	甕	口縁部		27.2	-	-	-	-	2.9～	-	横ナデ	横ナデ		褐 (7.5YR4/3)	褐 (7.5YR4/3)	石英、長石、角閃石	良好	-	-	097	-	
78	3	弥生土器	甕	口縁部		29.6	-	-	-	-	4.6～	-	ナデ	ナデ		にぶい褐 (7.5YR5/3)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	石英、長石、角閃石、雲母	良好	-	-	097	-	
78	4	弥生土器	壺	底部		-	(10.0)	-	-	-	4.3～	-	斜め方向のハケ目後ナデ	ハケ目後ナデ、ナデ		にぶい黄橙 (10YR6/4)	橙 (7.5YR7/6)	石英、長石、角閃石、金雲母、赤褐色砂粒	良好	○	-	097	A1層	反転復元

表(Tab)28　土器観察表（10）

図版番号	遺物番号	種別	器種	部位	口径	底径	器高	高台高	高台径	残存高	最大胴径	調整			色調		胎土	焼成	黒斑	赤色顔料	出土地点	層位	備考
					(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(内面)	(外面)	(その他)	(外面)	(内面)							
78	5	弥生土器	壺	胴部～底部	-	(10.0)	-	-	-	10.0～	-	指による整形後ナデ	指による整形後ナデ		にぶい褐(7.5YR5/3)	にぶい黄橙(10YR6/4)	石英、長石、赤褐色砂粒	良好	○	-	097	1層	反転復元
80	1	弥生土器	甕	口縁部～胴部	27.8	-	-	-	-	20.1	24.8	縦・横ハケ、横ナデ	縦ハケ、横ナデ		赤橙(10R6/8)	浅黄(2.5Y7/3)	石英、長石、角閃石	良好	-	-	100	100	残存率3/4
80	2	弥生土器	甕？	胴部～底部	-	6.3	-	-	-	19.9～	-	ナデ、指頭圧痕	縦方向ミガキ、ナデ		にぶい黄橙(10YR7/4)赤(10R4/6)	浅黄橙(7.5YR8/4)	石英、角閃石、金雲母、赤褐色粒	良好	-	○	100	No7	一部反転復元外面胴部に赤色顔料
80	3	弥生土器	甕	胴部	-	-	-	-	-	7.0～	-	ナデ	縦方向ハケ目、突帯		にぶい黄橙(10YR6/4)	にぶい黄橙(10YR6/4)	石英、角閃石、金雲母	良好	-	-	100	No37	胴部に突帯１
80	4	弥生土器	壺	口縁部～胴部	(34.2)	-	-	-	-	9.0～	-	口縁部横ナデ器面剥落により不明	横ナデ、縦方向ハケ目後横ナデ、縦方向ハケ目		明黄褐(10YR7/6)	明黄褐(10YR7/6)	石英、長石、角閃石、金雲母	良好	-	-	100	No2	反転復元
80	5	弥生土器	器台or高杯	脚部	-	-	-	-	-	4.1～	-	ナデ、横ナデ	ナデ、横ナデ		赤褐(5YR4/8)	にぶい黄橙(10YR7/4)	石英、長石、角閃石、金雲母	良好	○	○	100	No2	内外面一部に黒斑外面一部に赤色顔料
80	6	弥生土器	高杯	口縁部	-	-	-	-	-	2.4～	-	横ナデ	ミガキ口唇部横ナデ後に暗文		赤褐(5YR4/6)(口縁部)赤褐(5YR4/6)	暗赤褐(5YR3/6)	石英、角閃石	良好	-	○	100	No4	内外面に赤色顔料
81	7	弥生土器	甕	口縁部～底部	27.3	9.0	35.5	-	-	-	(26.4)	横ナデ、縦・斜めハケ、ナデ、指頭圧痕	横ナデ、縦・斜めハケ、沈線		赤橙(10R6/8)、灰黄(2.5Y6/2)	浅黄橙(10YR8/4)	石英、長石、角閃石	良好	-	-	100		残存率3/4胴部に沈線１
83	1	弥生土器	甕	口縁部	(25.4)	-	-	-	-	(6.5)～	-	横ナデ？磨滅により不明瞭	ナデ？磨滅により不明瞭口縁部横ナデ		にぶい橙(7.5YR6/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	石英、長石、角閃石、黒褐色粒、石	良好	○	-	101	No141	残存率1/4以下反転復元、内外面は殆ど器面が磨滅
83	2	弥生土器	ミニチュア土器(甕?)	胴部	-	-	-	-	-	3.1～	-	ナデ、指頭圧痕	ナデ、指頭圧痕		浅黄橙(7.5YR8/6)	褐灰(7.5YR5/1)にぶい橙(7.5YR7/4)	石英、長石、黒色粒	良好	○	-	101	上層	内面に黒斑
83	3	弥生土器	甕	口縁部～胴部	(20.2)	-	-	-	-	(7.75)～	-	ハケ目後ナデ	ミガキ後ナデ、横ナデ、(口縁部)横ナデ		灰褐(7.5YR5/2)	にぶい褐(7.5YR6/3)	石英、長石、角閃石、金雲母、赤褐色粒、石	良好	○	-	101	No54、No57、No96、No164	残存率1/2以下、反転復元 内外に黒斑
83	4	弥生土器	甕	口縁部	20.8	-	-	-	-	3.4～	-	横ナデ、横方向ハケ目	横ナデ		にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	石英、角閃石、金雲母、赤褐色粒	良好	○	-	101	No43、No49、No98	内外に黒斑、外部スス付着
83	5	弥生土器	壺	口縁部	(20.9)	-	-	-	-	(5.15)～	-	ハケ目後ナデ、横ナデ	横ナデ、横ナデ後ミガキ、(口縁部)横ナデ		浅黄橙(7.5YR8/3)褐灰(7.5YR5/1)	にぶい黄橙(10YR5/3)	石英、長石、角閃石、黒色粒、赤褐色粒	やや良	○	-	101	No167	残存率1/2、反転復元 内外に黒斑頸部に突帯１
83	6	弥生土器	壺	底部	-	8.4	-	-	-	3.2～	-	縦及び斜め方向ハケ目、横ナデ、ナデ	ハケ目、ミガキ磨耗により一部不明		にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR6/4)	石英、長石、角閃石、赤褐色粒	良好	○	-	101	No46	一部反転復元 内外に黒斑
83	7	弥生土器	壺	口縁部～頚部	(23.5)	-	-	-	-	9.9～	-	磨滅により不明口縁部横ナデ	縦方向ハケ目後横ナデ、横ミガキ		にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	石英、角閃石、金雲母、赤褐色粒	良好	○	-	101	No2、No3、No6、No13～17、No142、上層	反転復元 口縁一部に黒斑
83	8	弥生土器	器台	脚部	-	13.7	-	-	-	(7.6)～	-	斜め方向ハケ目、縦方向ハケ目、横ナデ	ハケ目後ナデ、横ナデ器面一部磨耗		橙(7.5YR7/6)	にぶい橙(7.5YR7/4)	石英、長石、黒色粒	良好	-	-	101	No29	
83	9	弥生土器	筒形器台	口縁部突帯	-	-	-	-	-	9.7～	-	横ナデ、指頭圧痕、ナデ	横ミガキ後縦方向暗文、横ミガキ後縦ミガキ		赤(10R4/6)	にぶい橙(7.5YR7/4)	石英、長石、角閃石、金雲母	良好	-	○	101	No119	反転復元 外面に赤色顔料
85	1	弥生土器	甕	口縁部	-	-	-	-	-	3.2～	-	横ナデ	横ナデ		灰褐(7.5YR4/2)	にぶい橙(7.5YR7/4)	石英、赤褐色粒	良好	-	-	105	-	黒髪式
85	2	弥生土器	壺	口縁部	-	-	-	-	-	3.8～	-	横ナデ	横ナデ、縦方向ハケ目後ナデ		にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	石英	良好	-	-	105	-	黒髪式
85	3	弥生土器	甕	口縁部	-	-	-	-	-	5.8～	-	横ナデ	横ナデ		にぶい黄橙(10YR7/3)	にぶい黄橙(10YR7/3)	石英、金雲母	良好	-	-	105	-	黒髪式
85	4	弥生土器	甕	口縁部	-	-	-	-	-	3.1～	-	横ナデ	横ナデ		にぶい橙(7.5YR7/3)	にぶい橙(7.5YR7/3)	石英、長石、角閃石、赤褐色粒	良好	-	-	105	-	黒髪式
85	5	弥生土器	甕	口縁部	-	-	-	-	-	3.0～	-	横ナデ	横ナデ		灰黄褐(10YR6/2)	にぶい黄橙(10YR7/3)	石英、赤褐色粒	良好	-	-	105	-	黒髪式
88	1	弥生土器	甕(黒髪式)	口縁部～胴部	(30.5)	-	-	-	-	11.1～	-	ナデ、横方向のハケ目、ハケ目後ナデ	ナデ、ハケ目後粗いナデ		明褐灰(5YR7/2)	にぶい橙(5YR7/4)	石英、長石、角閃石、輝石、金雲母	良好	-	-	106	上層	反転復元 内外全体にスス付着
88	2	弥生土器	甕(黒髪式)	口縁部	(30.0)	-	-	-	-	4.9～	-	横ナデ、ナデ	横ナデ、ナデ		にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	石英、長石、角閃石、金雲母、赤褐色粒	良好	-	-	106	上層	反転復元 口縁部が薄く珍しい
88	3	弥生土器	甕(椀(立石式?))	口縁部	(42.0)	-	-	-	-	7.0～	-	横ナデ、ハケ目	横ナデ、ハケ目痕	口縁端部に凹線	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	石英、長石、角閃石、雲母、輝石	良好	○	-	106	上層	反転復元 内外面に黒斑口縁下に突帯１
88	4	弥生土器	甕(黒髪式)	口縁部～胴部	27.8	-	-	-	-	21.6～	(25.5)	横ナデ、ハケ目後横ナデ、ハケ目後ナデ	横ナデ、縦方向のハケ目後ナデ、一部磨滅		にぶい橙(7.5YR6/4)	にぶい橙(7.5YR7/4)	石英、長石、角閃石、金雲母	良好	○	-	106	上層	一部反転復元 外面にスス有り 丹塗りの可能性あり

表(Tab)29　土器観察表（11）

図番号	版番号	遺物番号	種別	器種	部位	口径	底径	器高	高台高	高台径	残存高	最大胴径	調整			色調		胎土	焼成	黒斑	赤色顔料	出土地点	層位	備考
						(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(内面)	(外面)	(その他)	(外面)	(内面)							
88	5	弥生土器	甕	底部		-	8.8	-	-	-	6.9～	-	ハケ目	ハケ目	脚部内面指頭圧痕、ナデ	にぶい黄褐(10YR5/3)	灰黄褐(10YR5/2)	石英、長石、角閃石、金雲母	良好	-	-	106	上層	脚部外面横ナデ、ハケ目
88	6	弥生土器	甕	底部		-	7.3	-	-	-	8.0～	-	ナデ、指頭圧痕底部内面ナデ、指頭圧痕	縦方向のハケ目後ナデ、横方向のハケ目後ナデ		にぶい黄褐(10YR5/3)	にぶい黄橙(10YR7/4)	石英、長石、角閃石、金雲母、赤褐色粒	良好	-	-	106	上層	外面および底部内面にスス付着
88	7	弥生土器	甕	口縁部		-	-	-	-	-	8.5～	-	横ナデ、斜め方向のナデ	横ナデ、ハケ目		にぶい橙(7.5YR7/4)	淡橙 (5YR8/4)	石英、長石、角閃石、黒褐色粒	良好	-	-	106	上層	
89	8	弥生土器	甕(黒髪式)	口縁部～胴部		(27.2)	-	-	-	-	16.8～	(24.2)	横ナデ、ユビナデ、指頭圧痕	横ナデ、縦方向のハケ目	口縁部横ナデ	明赤褐 (5YR5/6)	橙 (7.5YR7/6)	石英、長石、砂粒、雲母	良好	○	-	106	上層	
89	9	弥生土器	把手付き特殊甕	口縁部把手付近		-	-	-	-	-	6.0	-	ナデ	ナデ		灰黄褐(10YR5/2)	灰黄褐(10YR5/2)	石英、黒雲母	良好	○	-	106	SWW1層	地蔵原と同じ把手付き特殊甕、スス付着、器種;黒髪式、弥生中期後半
89	10	弥生土器	甕	口縁部		-	-	-	-	-	7.1～	-	横ナデ、ハケ目	横ナデ、沈線		黄褐 (2.5Y5/3)	にぶい黄橙(10YR7/3)	石英、角閃石、金雲母	良好	-	-	106	上層	
89	11	弥生土器	甕(黒髪式)	口縁部		-	-	-	-	-	6.4～	-	磨滅により不明	横ナデ		にぶい黄橙(10YR6/4)	にぶい黄橙(10YR6/4)	石英、長石	良好	-	-	106	２層	口縁下に突帯１
89	12	弥生土器	甕	口縁部		(39.4)	-	-	-	-	11.6～	-	ハケ目のち横ナデ、ナデ	横ナデ、　縦方向のハケ目のち横ナデ		橙 (7.5YR7/6)	橙 (7.5YR7/6)	石英、長石、角閃石、金雲母、赤褐色粒	良好	○	-	106	２層	反転復元　口縁下に突帯１
90	13	弥生土器	壺(黒髪式)	口縁部		(29.0)	-	-	-	-	9.0～	-	横ナデ、横方向のハケ目、一部磨滅のため不明	横ナデ		赤褐 (2.5YR4/8)	にぶい黄橙(10YR7/4)	石英、長石	良好	-	-	106	上層	肩部に突帯１
90	14	弥生土器	丹塗り壺	胴部～底部		-	(9.4)	-	-	-	22.1～	(30.0)	指頭圧後にナデ	ミガキ後にナデ、縦ハケ		橙 (7.5YR6/6)	橙 (5YR6/6)	石英、長石、角閃石、雲母	良好	○	○	106	No8	底部は巻き紐成型、弥生中期後半、残存率;40%　胴部に突帯１
90	15	弥生土器	甕	底部		-	11.5	-	-	-	14.8～	-	ナデ　磨滅が著しい	縦方向のハケ目後ナデ、ナデ		にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	石英、長石、角閃石、金雲母、黒色粒	やや不良	-	-	106	上層	一部反転復元　一部合成
90	16	弥生土器	甕？	底部		-	7.8	-	-	-	7.5～	-	ハケ目後ナデ、ナデ	縦方向のハケ目後ナデ、ハケ目後ナデ		にぶい赤褐(5YR5/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	石英、長石、角閃石、金雲母	良好	-	○	106	上層	一部反転復元　外面底部にスス付着　外面に赤色顔料
90	17	弥生土器	無頸壺	口縁部～胴部		9.9	-	-	-	-	8.0～	14.6	横ナデ、縦方向のハケ目後ナデ、指頭圧痕後横ナデ、ナデ	横ナデ後穿孔、斜め方向のハケ目、縦方向のミガキ		明赤褐 (2.5YR5/8)	にぶい黄橙(10YR7/4)	石英、長石、赤褐色粒	良好	○	-	106	上層	一部反転復元
91	18	弥生土器	壺	口縁部～胴部		31.7	-	-	-	-	19.5	-	横ナデ、横・縦ハケ後横ナデ、縦ハケ	横ナデ、斜めハケ後横ヘラミガキ、縦ハケ		にぶい黄橙 (10YR7/4)、赤 (10R5/8)	橙 (7.5YR7/6)	石英、長石、角閃石	良好	-	-	106	NE、Nトレ、ベルト上層	外面胴部はハケ目後横ヘラミガキを行っている可能性あり
91	19	弥生土器	壺	口縁部～胴部		22.7	-	-	-	-	13.4～	-	横ナデ、横方向のハケ目後横ナデ、斜めハケ目、縦方向のハケ目後ナデ	横ナデ、斜め方向のハケ目、斜め方向のハケ目後横ナデ、縦方向と斜め方向のハケ目		赤 (10 R 5/8)	にぶい黄橙(10YR7/4)	石英、長石、角閃石、雲母、砂粒	良好	○	○	106	上層	一部反転復元　黒斑　頸部、胴部一部分、赤色顔料　胴部一部
91	20	弥生土器	壺	口縁部		(27.0)	-	-	-	-	5.9～	-	横方向のハケ目	斜め方向のハケ目		赤褐 (2.5YR4/6)	赤褐 (2.5YR4/6)	石英、長石、角閃石、金雲母	良好	-	-	106	２層	
91	21	弥生土器	甕(立石式?)	口縁部		-	-	-	-	-	8.7～	-	横ナデ	横ナデ	横ナデ、縦方向のミガキナデ	明赤褐 (5YR5/8)	にぶい橙(7.5YR7/4)	石英、角閃石、金雲母、輝石、赤褐色粒	良好	-	○	106	上層	外面に赤色顔料 口縁下に突帯１
91	22	弥生土器	壺(須玖Ⅱ併行?)	口縁部～胴部		(20.2)	-	-	-	-	17.4～	-	横ナデ、ナデ、指頭圧痕	工具による横ナデ、縦方向のハケ目後ナデ、横ナデ		橙 (7.5YR7/6)	橙 (7.5YR7/6)	石英、長石、角閃石、輝石、赤褐色粒	良好	○	○	106	-	反転復元　口唇部に刻目、頸部に爪形、胴部に刻目突帯２
92	23	弥生土器	筒形器台	体部		14.7	-	-	-	-	49.7	8.1(筒部)	横ナデ、ナデ、絞り痕、工具痕	横ナデ、縦ヘラミガキ、縦ハケ		にぶい黄(2.5Y6/3)	黄灰 (2.5Y5/1)	石英、長石、角閃石、金雲母	良好	-	○	106	K Gr.	口縁部に突帯１
92	24	弥生土器	ミニチュア土器	胴部～底部		-	3.6	-	-	-	3.2～	-	粗いナデ　工具痕有り	ナデ		浅黄橙(10YR8/3)	浅黄橙(10YR8/3)	石英、長石、角閃石、輝石、砂粒	良好	-	-	106	一括	
92	25	弥生土器	ミニチュア土器	完形		6.8	3.4	3.9	-	-	-	-	ヘラ状工具によるナデ後横ナデ、指頭圧痕	ヘラ状工具によるナデ後ナデ		にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/3)	石英、長石、角閃石	良好	○	-	106	一括	底部はほとんど黒斑
93	26	弥生土器	甕	口縁部		23.0	-	-	-	-	4.1～	-	ナデ	横ナデ後暗文		にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	石英、長石、雲母	良好	-	○	106	中、砂、上層	内外に赤色顔料　内面は口唇部付近のみ塗布
93	27	弥生土器	高杯(須玖Ⅱ式?)	杯部		(26.0)	-	-	-	-	6.5～	-	ミガキ、ナデ	ナデ、ハケ目後ナデ	口唇部　ナデ後暗文	赤褐 (5YR4/8)	赤褐 (5YR4/8)	石英、長石、角閃石、金雲母、輝石	良好	-	○	106	中、砂、上層	口縁より杯部にかけて赤色顔料
93	28	弥生土器	高杯(黒髪式)	杯部		(21.4)	-	-	-	-	7.2～	-	磨滅のため調整不明	横ナデ、ミガキ	口唇部　横ナデ	暗赤褐(2.5YR3/6)	暗赤褐 (5YR3/6)	石英、長石、角閃石、輝石、砂粒	良好	-	○	106	中、砂、上層	反転復元　全面に赤色顔料を塗布するが磨滅が著しい
93	29	弥生土器	器台(須玖Ⅱ式?)	底部、裾部		-	(32.8)	7.1	-	-	-	-	ハケ目	縦方向の暗文、横ナデ		明赤褐(2.5YR5/6)	橙 (5YR7/6)	石英、長石、角閃石、輝石、金雲母、赤褐色粒	良好	-	○	106	上層	外面に赤色顔料　分析用土器
93	30	弥生土器	鉢	口縁部～胴部		(30.0)	9.0	18.5	-	-	-	(25.1)	不明、指頭圧痕	横ナデ、工具痕		黄 (2.5Y8/6)	浅黄 (2.5Y8/4)	石英、長石、角閃石	良好	○	-	106	L9、SW上黒	一部反転復元

表(Tab)30　土器観察表 (12)

図番号	版遺物番号	種別	器種	部位	口径	底径	器高	高台高	高台径	残存高	最大胴径	調整			色調		胎土	焼成	黒斑	赤色顔料	出土地点	層位	備考
					(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(内面)	(外面)	(その他)	(外面)	(内面)							
94	31	弥生土器	台付鉢	脚部	-	(15.2)	-	-	-	8.8～	-	ハケ目後ナデ	ハケ目後ナデ		橙 (2.5R6/6)	にぶい黄橙 (7.5YR7/4)	石英、長石、角閃石、輝石、赤褐色粒	良好	○	-	106	上層	一部反転復元　内外面とも全体的に磨滅が見られる
94	32	弥生土器	?	口縁部～胴部	-	-	-	-	-	3.0～	-	ナデ	横ナデ、ナデ		にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英、長石、角閃石、金雲母	やや良	-	-	106	-	
94	33	弥生土器	鉢	口縁部～底部	(13.3)	6.0	7.0	-	-	-	14.5	ナデ	ハケ目後ナデ、ナデ	櫛目　6本単位	にぶい黄橙 (10YR7/3)	にぶい黄橙 (10YR7/3)	石英、長石、黒色粒	良好	-	-	106	上層	
94	35	弥生土器	甕	口縁部～胴部	(29.4)	-	-	-	-	9.5	(28.0)	横ヘラミガキ、横ナデ、横・斜めハケ	横ナデ、横ヘラ、縦方向の暗文状ヘラミガキ	口縁部横方向の暗文状ヘラミガキ	浅黄橙 (7.5YR8/6)	橙 (7.5YR7/6)	石英、長石、角閃石	良好	-	○	106	SEカドEカベ、砂下黒上、上層、K-9Eカベトレ、LK9、上層一括	赤色顔料全面、器種;須玖Ⅱ式、弥生中期後半、残存率;70%　口縁部下に突帯１
94	36	弥生土器	高杯(黒髪式?)	杯部	(24.5)	-	-	-	-	6.5～	-	横ナデ、ミガキ	横ナデ、縦方向ハケ目後縦方向のミガキ	口縁部に暗文	橙 (2.5YR6/8)	橙 (2.5YR6/8)	石英、長石、角閃石、金雲母、赤褐色粒	良好	○	-	106	２層	反転復元
97	47	弥生土器	甕	口縁部	27.4	-	-	-	-	10.3～	-	横ナデ、縦方向のハケ目のち部分的にナデ、指頭圧痕	横ナデ、強い横ナデ、ハケ目痕磨滅		橙 (2.5YR6/8)	橙 (2.5YR6/8)	石英、長石、角閃石、金雲母、砂粒	良好	-	-	106	下層	反転復元
97	48	弥生土器	甕	口縁部	(28.0)	-	-	-	-	8.3～	-	横ナデ、ナデ	横ナデ、工具痕		にぶい橙 (10YR7/4)	橙 (7.5YR7/6)	石英、長石、角閃石、金雲母、黒曜破片	良好	-	-	106	下層	外面にスス付着　反転復元　口縁下に突帯１
97	49	弥生土器	甕(黒髪式)	口縁部～胴部	28.5	-	12.5	-	-	-	-	横ナデ、指頭圧痕	縦方向のハケ目、横ナデ		暗灰黄 (2.5Y4/2)	にぶい黄橙 (10YR7/3)	石英、長石、金雲母、角閃石、砂粒	良好	-	-	106	下層	
97	50	弥生土器	甕(黒髪式)	口縁部	(38.2)	-	-	-	-	8.3～	-	ナナメ方向のハケ目後ナデ、指頭圧痕	横ナデ		にぶい黄褐 (10YR5/3)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	金雲母、石英、長石、砂粒、角閃石	良好	-	-	106	下層	口縁下に突帯１
97	51	弥生土器	甕	底部	-	10.7	4.9	-	-	-	-	ハケ後ユビナデ、指頭圧痕	縦方向のハケ目		にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英、長石、角閃石、金雲母、赤褐色粒	良好	-	-	106	下層	
97	52	弥生土器	甕	口縁部	(53.2)	-	-	-	-	5.2～	-	横ナデ、ナデ	横ナデ、工具痕		にぶい橙 (7.5YR6/4)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	石英、長石、角閃石、金雲母、赤褐色粒、輝石	良好	-	-	106	下層	口縁下に突帯１
98	53	弥生土器	甕	口縁部～胴部	40.2	-	-	-	-	34.2	(37.2)	横ナデ、縦ハケ	横ナデ、縦ハケ、縦ヘラミガキ、突帯		赤橙 (10R6/8)、浅黄橙(10YR8/3)	灰 (5Y4/1)	石英、長石、角閃石	良好	○	-	106	SNトレ上層、SNベルト5、No12、No21、No22、No23、No24、No31、No32、No35、No38	一部反転復元、器種;黒髪式、弥生中期後半、残存率2/3　頸部に突帯１
98	54	弥生土器	甕	脚部	-	7.4	-	-	-	4.7～	-	ナデ、指頭圧痕	ナデ、縦方向のハケ目痕	脚内　横ナデ	浅黄橙(10YR8/3)	浅黄橙 (10ＹR8/3)	石英、長石、角閃石、赤褐色粒	良好	○	-	106	下層	脚内に黒斑
98	55	弥生土器	甕（黒髪式より少し前?）	口縁部～胴部	(31.5)	-	-	-	-	23.2～	29.0	横ナデ、斜め方向のハケ目　風化	横ナデ、沈線の凹みミガキ痕		にぶい黄橙 (10YR7/3)	にぶい黄橙(10YR7/3)、明赤褐(5YR5/8)	石英、長石、角閃石、金雲母、赤褐色粒	良好	○	-	106	５・６層	反転復元　胴部に突帯１
98	56	弥生土器	甕	脚部	-	7.5	-	-	-	9.4～	-	ナデ、指頭圧痕	縦方向のハケ目のちナデ、横ナデ	脚内　横方向（左→右）のナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英、長石、角閃石、金雲母、赤褐色粒	良好	○	-	106	下層	脚部内に黒斑
99	57	弥生土器	甕	胴部	-	-	-	-	-	13.9～	33.4	横方向のユビナデ　指頭圧痕	横ナデ		黒褐 (2.5Y3/2)	にぶい黄褐 (10YR4/3)	石英、長石、金雲母、砂粒	良好	○	-	106	下層	火を受けて磨滅がひどい。使用後に破棄　胴部に突帯
99	58	弥生土器	壺	口縁部	22.8	-	-	-	-	5.7～	-	ハケ目後ナデ	ハケ目後ナデ　口縁上部ナデ		にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英、長石、黒褐色粒、赤褐色粒、角閃石、金雲母	良好	-	○	106	下層	丹塗りの壺（丹の残存は少ない）
99	59	弥生土器	器台	脚部～裾部	(12.5)	(14.2)	18.6	-	-	-	-	横ナデ	縦方向のハケ目後横ナデ、縦方向のハケ目後ナデ、横ナデ		橙 (5YR7/6)	橙 (5YR7/6)	石英、長石、角閃石、赤褐色粒	良好	-	-	106	下層	一部反転復元
99	60	弥生土器	器台	脚部～裾部	12.9	18.7	18.5	-	-	-	-	ハケ目、ナデ	ナデ、ハケ目		にぶい橙 (7.5YR7/4)	橙 (7.5YR7/6)	石英、長石、角閃石、黒色粒	良好	-	-	106	下層	一部反転復元
99	61	弥生土器	手捏土器（ミニチュア土器）	完形	2.8	2.3	3.2	-	-	-	-	ナデ	ナデ　つめ痕？ただのキズ？　赤色顔料塗布		浅黄 (2.5Y7/3)	浅黄 (2.5Ｙ7/3)	石英、長石、輝石、砂粒	良好	-	-	106	下層	
100	62	弥生土器	甕	口縁部	(29.8)	-	-	-	-	4.6～	-	横ナデのち赤色顔料塗布、一部表面摩滅のため顔料が剥がれる	横ナデのち赤色顔料塗布、一部表面摩滅のため顔料が剥がれる。工具痕、縦方向の暗文、口縁部上面に放射状の暗文		赤褐 (2.5YR4/8)	赤褐 (2.5YR4/8)	石英、長石、角閃石、砂粒	良好	-	○	106	下層	丹塗りの土器　反転復元
100	63	弥生土器	甕(須玖Ⅱ式)	口縁部	-	-	-	-	-	5.2～	-	横ナデのち赤色顔料塗布、磨滅により顔料が剥がれる	口縁部横ナデのち赤色顔料塗布、胴部は縦方向のハケ目のち赤色顔料塗布、磨滅により顔料が剥がれる		赤 (10YR4/6)	赤 (10YR4/6)	石英、長石、角閃石、金雲母、赤色粒、砂粒	良好	-	○	106	下層	丹塗りの土器
100	64	弥生土器	高杯	杯部	(27.4)	-	-	-	-	12.9～	-	横ヘラミガキ、縦ハケのち横・斜めヘラミガキ	横ナデ、横ヘラミガキ、縦ハケ後横ヘラミガキ、横ハケ後ヘラミガキ、横ハケ後縦ヘラミガキ(口縁部)	口縁部横ハケ後縦ヘラミガキ	浅黄 (2.5Y7/3)	浅黄 (2.5Y7/3)	石英、長石、角閃石	良好	-	○	106	SW砂層、SE砂層、SE下黒	赤色顔料全面、器種;須玖Ⅱ式、弥生中期後半、残存率;35%
100	65	弥生土器	甕(須玖Ⅱ式)	胴部～底部	-	7.4	-	-	-	7.7～	-	ナデ、指頭圧痕？	縦方向ミガキ、部分的に黒斑あり		橙 (5YR5/6)	浅黄橙 (7.5ＹR8/4)	石英、長石、角閃石、赤褐色粒、輝石	良好	○	○	106	下層	外面赤色顔料　残存率　1/2
100	66	弥生土器	高杯(須玖Ⅱ式)	杯部	22.7	-	-	-	-	7.8～	-	横方向のミガキ	器面剥離		赤褐 (2.5YR4/8)	赤褐 (2.5YR4/8)	石英、長石、角閃石、金雲母	良好	○	○	106	５・６層	丹塗りの土器　口縁部に黒色顔料
100	67	弥生土器	高杯(須玖Ⅱ式)	脚部	-	(16.0)	-	-	-	14.7～	-	粘土しぼり痕、ハケ目	工具によるナデ後、ミガキ一部ミガキ後横ナデ		橙 (7.5YR6/6)	赤褐 (5YR4/6)	石英、長石、角閃石、金雲母、砂粒、輝石	良好	-	○	106	下層	外面に赤色顔料を施してあるが磨滅が著しい。中央部は剥落

表(Tab)31　土器観察表（13）

図版番号	遺物番号	種別	器種	部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	高台高 (cm)	高台径 (cm)	残存高 (cm)	最大胴径 (cm)	調整 (内面)	調整 (外面)	調整 (その他)	色調 (外面)	色調 (内面)	胎土	焼成	黒斑	赤色顔料	出土地点	層位	備考
103	74	弥生土器	甕(黒髪式)	口縁部	(53.0)	-	-	-	-	6.0～	-	横ナデ	横ナデ		にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	長石、角閃石	良好	-	-	106	最下層	反転復元　口縁下に突帯１
103	75	弥生土器	甕(黒髪式)	口縁部	-	-	-	-	-	2.3～	-	横ナデ	横ナデ、穿孔		にぶい黄橙(10YR6/3)	にぶい黄橙(10YR6/3)	石英、長石、角閃石、金雲母、赤褐色粒	良好	-	-	106	最下層	
103	76	弥生土器	高杯	口縁部	-	-	-	-	-	1.9～	-	横ナデ	横ナデ		橙 (7.5YR7/6)	橙 (7.5YR7/6)	石英、角閃石、赤褐色粒、雲母、長石、輝石	良好	-	-	106	最下層	口縁端部にスス付着
103	77	弥生土器	甕(黒髪式)	口縁部	-	-	-	-	-	4.0～	-	横ナデ	横ナデ		灰黄褐(10YR5/2)	橙 (5YR6/6)	長石、金雲母、輝石、石英、砂粒	良好	-	-	106	最下層	
103	78	弥生土器	甕(黒髪式)	口縁部	-	-	-	-	-	4.8～	-	横ナデ	横ナデ		灰黄褐(10YR4/2)	灰黄褐(10YR4/2)	長石、輝石、角閃石、石英、砂粒	良好	-	-	106	最下層	
103	79	弥生土器	高杯(黒髪式)	口縁部	-	-	-	-	-	4.5～	-	横ナデ、ナデ	横ナデ、ハケ目のち横ナデ		にぶい黄橙(10YR7/3)	にぶい黄橙(10YR7/3)	石英、長石、角閃石、輝石、金雲母、赤褐色粒	良好	-	-	106	最下層	
103	80	弥生土器	甕(黒髪式)	口縁部	(25.3)	-	-	-	-	2.5～	-	横ナデ	横ナデ、　一部表面磨滅		にぶい橙(7.5YR6/4)	にぶい橙(5YR6/4)	石英、長石、角閃石、金雲母、赤褐色粒	良好	-	-	106	最下層	
103	81	弥生土器	甕(黒髪式)	口縁部	(22.4)	-	-	-	-	2.6～	-	横ナデ	横ナデ		にぶい黄橙(10YR7/3)	浅黄橙(10YR8/3)	石英、長石、角閃石	良好	-	-	106	最下層	反転復元
103	82	弥生土器	甕形土器	底部	-	7.1	-	-	-	6.7～	-	ナデ	縦方向のハケ目		橙 (7.5YR7/6)	にぶい橙(10YR7/4)	長石、石英、角閃石	良好	○	-	106	最下層	
103	83	弥生土器	甕(黒髪式)	口縁部	-	-	-	-	-	6.0～	-	横ナデ	ナデ、ハケ目後ナデ		にぶい黄橙(10YR7/4)	浅黄橙(10YR8/3)	石英、長石、角閃石、金雲母	良好	○	-	106	-	分析用土器
103	84	弥生土器	壺形土器	口縁部	(17.7)	-	-	-	-	5.6～	-	横ナデ；ハケ目のち横ナデ；頸部に工具によるケズリ痕あり	横ナデ、横方向の磨き		にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	石英、長石、角閃石	良好	-	-	106	最下層	反転復元　口縁端部から頸部肩部にかけて縦方向の暗文
105	1	弥生土器	甕	口縁部	-	-	-	-	-	3.7～	-	横ナデ	横ナデ？　磨滅により不明瞭		にぶい橙(5YR7/4)	にぶい橙(7.5YR7/4)	石英、長石、角閃石、赤褐色粒	良好	-	-	107	-	
105	2	弥生土器	甕	口縁部	-	-	-	-	-	2.2～	-	横ナデ	横ナデ		橙 (5YR7/6)	橙 (7.5YR7/6)	石英、長石、黒色粒	良好	-	-	107	-	
105	3	弥生土器	甕	口縁部	-	-	-	-	-	2.9～	-	横ナデ	横ナデ		にぶい黄橙(10YR7/2)	にぶい黄橙(10YR6/4)	石英、長石、黒色粒	良好	○	-	107	-	
105	4	弥生土器	壺？	底部	-	7.1	-	-	-	3.4～	-	縦及び斜め方向ハケ目後粗いナデ	ハケ目？ 2次焼成後の器面剥落により不明　底部ナデ		褐灰(10YR4/1)、にぶい黄橙(10YR7/4)	褐灰 (7.5YR4/1)	石英、長石、角閃石、金雲母、黒褐色粒	良好	○	-	107	-	内外に黒斑
105	5	弥生土器	ジョッキ形土器	把手	-	-	-	-	-	3.8～	-	縦ナデ	縦ナデ？		にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR6/4)	石英、長石、角閃石	良好	-	○	107	-	外面は赤色顔料らしき付着物有り　K-9 Gr.
110	1	弥生土器	甕(黒髪式)	口縁部	(30.6)	-	-	-	-	(5.3)～	-	ハケ目後ナデ	縦方向ハケ目後ナデ　口縁部横ナデ		浅黄橙(10YR8/3)	にぶい黄橙(7.5YR7/4)	石英、長石、金雲母、赤褐色粒、黒褐色粒、輝石	良好	-	○	129	-	反転復元　口縁部に赤色顔料わずかに残存、弥生中期後半、残存率1/4以下
110	2	弥生土器	甕(黒髪式)	口縁部	(28.0)	-	-	-	-	(7.85)～	-	ハケ目後横ナデ	ハケ目痕　磨滅によりやや不明瞭　口縁部横ナデ		灰白 (7.5YR8/1)	にぶい橙(7.5YR7/4)	石英、長石、角閃石、金雲母	良好	-	-	129	2層	反転復元、弥生中期
110	3	弥生土器	筒形器台	胴部	-	-	-	-	-	14.0～	-	ナデ、指頭圧痕	ナデ		赤 (10R4/6)	暗灰黄 (2.5Y5/2)	石英、角閃石	良好	-	○	129		反転復元　外面全面に赤色顔料塗布、器種;須玖式？弥生中期後半
110	4	弥生土器	壺	口縁部	(26.6)	-	-	-	-	(5.2)～	-	横ナデ、ハケ目後横ナデ	ハケ目後ナデ　口縁部横ナデ		浅黄橙(7.5YR8/6)	にぶい橙(10YR7/2)	石英、長石、角閃石、輝石、雲母	良好	○	-	129	-	反転復元　内面に黒斑、弥生中期後半、残存率1/4以下
110	5	弥生土器	甕	脚部	-	7.2	-	-	-	(7.7)～	-	ナデ、指頭圧痕 底部削り出し、ナデ	ハケ目　一部磨滅		橙 (2.5YR7/6)	にぶい橙(7.5YR7/4)	石英、長石、黒色粒、赤褐色粒	良好	-	○	129	No１５、下層	一部反転復元　内面一部にスス付着　底部一部に黒斑　外面一部に赤色顔料、残存率1/4以上
110	6	弥生土器	高杯(須玖式)	杯部	(28.3)	-	-	-	-	6.3～	-	ナデ　口縁部横ナデ	ナデ		赤 (10R4/6)	赤 (10R4/6)	石英、長石、角閃石	良好	○	○	129	No11、O-9 ⅢA	一部反転復元　口縁部一部に黒斑　内面全面外面一部に赤色顔料、弥生中期後半
112	1	弥生土器	甕	口縁部	-	-	-	-	-	6.3～	-	横ナデ、ハケ目後ナデ	横ナデ、ハケ目		橙 (5YR7/6)	にぶい橙(5YR7/4)	石英、長石、角閃石、金雲母、黒褐色砂粒	やや良	-	○	135	No2	外面は殆ど磨滅
112	2	弥生土器	甕	口縁部	-	-	-	-	-	3.6～	-	横ナデ	横ナデ		にぶい黄橙(10YR7/4)	明黄褐(10YR6/4)	石英、角閃石、金雲母	良好	-	-	135	No3	D-5
112	3	弥生土器	ミニチュア土器	底部	-	4.0	-	-	-	4.0～	-	ハケ目後ナデ、指頭圧痕	ハケ目後ナデ		にぶい橙(5YR7/4)	にぶい褐(7.5YR6/3)	長石、角閃石、雲母、赤褐色砂粒	良好	-	-	135	2層	外面は風化　D-5
112	4	弥生土器	甕	口縁部	(28.8)	-	-	-	-	7.2～	-	ハケ目後ナデ	横ナデ、縦ハケ後横ナデ		にぶい橙(7.5YR7/4)	にぶい橙(7.5YR7/4)	石英・角閃石	良好	-	-	135	No3	反転復元　D-5

表(Tab)32　土器観察表（14）

図版番号	遺物番号	種別	器種	部位	口径	底径	器高	高台高	高台径	残存高	最大胴径	調整			色調		胎土	焼成	黒斑	赤色顔料	出土地点	層位	備考
					(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(内面)	(外面)	(その他)	(外面)	(内面)							
112	5	弥生土器	甕	口縁部～胴部	(25.2)	-	-	-	-	7.7～	-	ハケ目、斜め方向ハケ目後ナデ	横ナデ、指頭圧痕、斜め方向ハケ目		にぶい橙(7.5YR7/4)	にぶい橙(7.5YR7/4)	角閃石、金雲母、赤褐色砂粒	良好	-	-	135	No1	反転復元　D-5
114	1	弥生土器	甕	口縁部	-	-	-	-	-	6.5～	-	ハケ目後ナデ、指頭圧痕？	ハケ目後ナデ　口唇部横ナデ		にぶい橙(7.5YR7/4)	浅黄橙(10YR8/4)	石英、長石、黒色粒	良好	-	-	108	-	
114	2	弥生土器	甕	口縁部	-	-	-	-	-	2.6～	-	ナデ	ハケ目後ナデ		にぶい黄橙(10YR7/4)	橙 (5YR6/6)	石英、長石、角閃石、金雲母、黒色粒	良好	-	-	108	-	
114	3	弥生土器	甕	口縁部	(24.4)	-	-	-	-	3.5～	-	横ナデ、ナデ	ハケ目後ナデ、横ナデ		にぶい橙(7.5YR7/4)	橙 (7.5YR7/6)	石英、長石、砂粒	良好	-	-	108	-	反転復元
114	4	弥生土器	甕	口縁部	(22.7)	-	-	-	-	6.0～	-	ハケ目？後ナデ、横ナデ	ナデ（一部磨滅）、横ナデ		にぶい橙(7.5YR7/3)	にぶい橙(7.5YR7/4)	石英、長石、雲母、黒色粒	良好	-	-	108	-	反転復元
116	1	弥生土器	高杯	杯部～脚部	28.5	-	-	-	-	21.1	-	ヘラミガキ、横ナデ	縦ハケ、縦ヘラミガキ、横ナデ	口縁部　横ナデ	黄橙(7.5YR8/8)	黄橙(7.5YR8/8)	石英、長石、角閃石	良好	○	○	008	-	口縁部付近に黒斑
116	2	弥生土器	下甕	胴部～底部	-	6.5	40.6	-	-	-	32.8	斜めハケ、縦ハケ、ヘラミガキ	縦ハケ後横ヘラミガキ、縦ヘラミガキ	底部外面ミガキ調整？	明黄褐(2.5YR7/6)	黄褐 (2.5YR5/6)	石英、長石、角閃石	良好	○	-	008	No15	底部外面に黒斑　胴部に突帯２
117	1	弥生土器	甕	ほぼ完形	36.1	(7.1)	53.7	-	-	-	35.3	多方面のハケ目後ナデ	縦ハケ、横ナデ、突帯	底部　ナデ	明黄褐(2.5YR7/6)	にぶい黄(2.5YR6/4)、浅黄 (2.5Y7/3)	石英、長石、角閃石	良好	○	-	009	-	一部反転復元　胴部内面、底部外面に黒斑　口縁下に突帯１
117	2	弥生土器	壺	胴部～底部	-	9.3	53.4	-	-	-	50.8	縦ハケ後ナデ　下半部調整不明　指頭圧痕	縦ハケ後横ヘラミガキ、縦ハケ後多方向のヘラミガキ、刺突帯	底部　ナデ	浅黄 (2.5YR7/3)	浅黄 (2.5YR7/3)	石英、長石、角閃石	良好	○	-	009	-	外面に黒斑、内面の胴下半部から底部にかけて表面が磨擦の為調整不明　胴部に突帯２
119	1	弥生土器	甕	口縁部	-	-	-	-	-	3.5～	-	不明	不明		浅黄橙(7.5YR8/6)	褐灰 (7.5YR6/1)	石英、長石	良好	○	-	034	-	残存率1/8
119	2	弥生土器	甕	口縁部	-	-	-	-	-	3.8～	-	横ナデ	横ナデ		にぶい黄橙(10YR7/3)	にぶい橙(7.5YR7/4)	石英、長石、角閃石	良好	-	-	034	-	残存率1/10以下
119	3	弥生土器	甕	口縁部	-	-	-	-	-	3.7～	-	横ナデ	ハケ後横ナデ		にぶい黄橙(10YR6/3)	浅黄橙(10YR8/4)	石英	良好	-	-	034	-	残存率1/10以下
120	1	弥生土器	甕	口縁部	-	-	-	-	-	7.7～	-	横ナデ	横ナデ		橙 (5YR6/6)	浅黄橙(7.5YR8/4)	石英、角閃石、輝石、金雲母、赤褐色粒	良好	-	-	045	No4	
120	2	弥生土器	甕	底部	-	7.2	-	-	-	6.0～	-	ナデ、指頭圧痕	縦ハケ目		橙 (7.5YR7/6)	灰黄褐(10YR5/2)	石英、角閃石、輝石	良好	-	-	045	No1	一部反転復元
120	3	弥生土器	甕(黒髪式)	口縁部～胴部上半	(29.6)	-	-	-	-	10.8	-	ハケ目後ナデ	横ナデ		にぶい黄橙(10YR7/3)	浅黄橙(10YR8/3)	石英、長石、角閃石、雲母	良好	-	-	045	No3、No7、No10、No12、2層	器種;黒髪式、弥生中期後半、残存率;径の2/5
121	1	弥生土器	甕	口縁部	-	-	-	-	-	3.4～	-	横ナデ	横ナデ		にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	石英、長石、角閃石、雲母	やや良	-	-	056	-	
121	2	弥生土器	高杯	口縁部	-	-	-	-	-	3.2～	-	横ナデ	横ナデ		にぶい黄橙(10YR6/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	石英、長石、角閃石、輝石、金雲母、赤褐色粒	良好	-	-	056	-	
121	3	弥生土器	甕	口縁部	-	-	-	-	-	3.0～	-	横ナデ	横ナデ		にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	石英、長石、角閃石、雲母	良好	-	-	056	-	
121	4	弥生土器	甕	口縁部	(29.8)	-	-	-	-	4.1～	-	横ナデ	横ナデ		橙 (5YR6/6)	橙 (5YR7/6)	石英、長石、角閃石、雲母	良好	-	-	056	-	
121	5	弥生土器	甕	底部	-	(9.8)	-	-	-	3.8～	-	ナデ	ナデ		にぶい黄橙(10YR6/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	石英、金雲母	良好	-	-	056	-	反転復元
121	6	弥生土器	高杯	脚部	-	8.1	-	-	-	4.2～	-	横ナデ	縦ナデ		にぶい黄橙(10YR7/4)	橙 (7.5YR7/6)	石英、長石、角閃石、輝石	良好	-	-	056	-	
122	1	弥生土器	甕	口縁部	-	-	-	-	-	3.0～	-	横ナデ	横ナデ		にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	石英、長石、角閃石、金雲母	良好	-	-	064	-	
122	2	弥生土器	壺	口縁部	(21.5)	-	-	-	-	5.3～	-	風化のため不明	横ナデ、爪形、暗文痕、ナデ		橙 (7.5YR7/6)	橙 (7.5YR7/6)	石英、長石、赤褐色粒	良好	-	-	064	No4、No8、No9	反転復元
122	3	弥生土器	甕？	底部	-	(10.0)	-	-	-	6.1～	-	ナデ	縦ハケ目後ナデ、ハケ目後ナデ		にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	石英、長石、角閃石、金雲母、赤褐色粒	良好	○	-	064	No3	反転復元　外面に黒斑
124	1	弥生土器	甕	口縁部	-	-	-	-	-	4.4～	-	横ナデ	横ナデ		にぶい黄橙(10YR7/3)	にぶい黄橙(10YR7/3)	石英、角閃石	良好	-	-	069	No5	
124	2	弥生土器	甕	口縁部	-	-	-	-	-	2.4～	-	ナデ	ナデ　口縁部暗文		赤 (10Y5/6)	赤 (10Y5/6)	石英、長石	良好	-	○	069	-	外面にミガキの棒で押えた跡がある

表(Tab)33　土器観察表（15）

図番号	版番号	遺物番号	種別	器種	部位	口径	底径	器高	高台高	高台径	残存高	最大胴径	調整			色調		胎土	焼成	黒斑	赤色顔料	出土地点	層位	備考
						(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(内面)	(外面)	(その他)	(外面)	(内面)							
124	3	弥生土器	壺	口縁部	-	-	-	-	-	5.3～	-	横ナデ	横ナデ		にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/3)	石英、長石、角閃石、輝石、金雲母	やや良	-	-	069	No25	頸部に貼付け突帯１
124	4	弥生土器	甕	口縁部	(19.2)	-	-	-	-	8.4～	-	ナデ、ハケ目	ナデ、右下がりハケ目、左下がりハケ目		にぶい褐 (7.5YR5/4)	褐 (7.5YR4/3)	石英、長石、角閃石、雲母	良好	-	-	069	No1	
124	5	弥生土器	甕	口縁部～胴部	(24.0)	-	-	-	-	8.1～	-	横ナデ、ハケ目後ナデ	横ナデ、ハケ目後ナデ		にぶい褐 (7.5YR6/3)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	石英、長石、金雲母、黒色粒	良好	-	-	069	No20	反転復元
124	6	弥生土器	甕	口縁部～胴部	(27.2)	-	-	-	-	10.0～	(25.3)	斜めハケ目後ナデ、指頭圧痕	ハケ目後ナデ		灰褐 (7.5YR4/2)	にぶい黄橙 (10YR6/3)	石英、長石、角閃石、輝石、金雲母、赤褐色粒	良好	-	-	069	No2	反転復元
124	7	弥生土器	甕	口縁部～胴部	-	-	-	-	-	6.8～	-	ハケ目後ナデ、指頭圧痕	磨滅のため不明		にぶい黄橙 (10YR7/3)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英、長石、角閃石、金雲母、赤褐色粒	やや不良	-	-	070	-	
124	8	弥生土器	鉢	口縁部～胴部	-	-	-	-	-	6.7～	-	横ナデ、指頭圧痕	横ナデ、横ハケ目		にぶい橙 (7.5YR6/4)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	石英、長石、金雲母、赤褐色粒	良好	-	-	070	No1	
124	9	弥生土器	甕	口縁部	(36.8)	-	-	-	-	4.1～	-	横ナデ	横ナデ		にぶい黄橙 (10YR6/3)	浅黄橙 (10YR8/3)	石英、長石、角閃石、金雲母	良好	-	-	070	-	反転復元　096
126	1	弥生土器	甕	口縁部	(25.7)	-	-	-	-	3.8～	-	ハケ目後横ナデ、横ナデ	ハケ目後横ナデ、(口縁部)横ナデ		にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	石英、角閃石、赤褐色粒	良好	-	-	099	No3	
126	2	弥生土器	甕	底部	-	7.2	-	-	-	5.4～	-	ハケ目後ナデ 脚部内横方向ハケ目	縦方向ハケ目後横ナデ		橙 (7.5YR7/6)	黒褐(2.5YR3/1)脚部にぶい橙(7.5YR7/4)	石英、角閃石	良好	○	-	099	No16、No23	内面に黒斑
126	3	弥生土器	甕	口縁部	(46.0)	-	-	-	-	4.7～	-	横ナデ、ハケ目後ナデ、指頭圧痕	横ナデ		にぶい橙 (5YR7/3)	浅黄橙 (7.5YR8/3)	石英、長石、金雲母、黒色粒	良好	-	-	099	No24	残存率1/4以下　反転復元　頸部に突帯１
126	4	弥生土器	甕	口縁部～胴部	(31.5)	-	-	-	-	48.7	48.3	横・斜めハケ、ナデ	横ナデ、縦・斜めハケ、縦ハケ後横ナデ、刻み目突帯、		にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	石英、長石、角閃石	良好	-	○	099	No６、No14、No27	一部反転復元、外面にスス、赤色顔料塗布(内外面　赤褐色2.5YR4/6)
128	1	弥生土器	壺	口縁部～胴部	(16.8)	-	-	-	-	21.5～	-	横方向のハケ目、横方向のハケ目後ナデ、縦方向のハケ目後ナデ、指頭圧痕	横ナデ、縦方向のハケ目後横ナデ、縦方向のハケ目　磨滅が著しい		橙 (5YR7/6) 赤褐 (2.5YR4/6)	橙 (5YR7/6)	石英、長石、角閃石、金雲母、赤褐色粒	良好	○	-	128	-	反転復元　外面一部に黒斑
128	2	弥生土器	甕	口縁部	-	-	-	-	-	7.2～	-	ハケ目	ハケ目　口唇部横ナデ		灰黄褐(10YR4/2)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英、金雲母、砂粒	良好	-	-	128	-	
128	3	弥生土器	甕	口縁部	-	-	-	-	-	4.6～	-	横ナデ、ナデ	ナデ　磨滅が著しい		橙 (5YR7/8)	明黄褐(10YR7/6)	石英、長石	良好	-	-	128	-	内面にスス付着
130	1	弥生土器	甕	口縁部	(19.5)	-	-	-	-	5.7～	-	横ナデ	横ナデ		浅黄橙 (7.5YR8/4)	浅黄橙 (7.5YR8/4)	石英・角閃石	不良	-	-	140	No66	
130	2	弥生土器	甕	口縁部	(21.0)	-	-	-	-	5.8～	-	不明	横ナデ		橙 (7.5YR7/6)	橙 (7.5YR7/6)	石英、角閃石	不良	-	-	140	No27	
130	3	弥生土器	甕(黒髪式)	口縁部	22.0	-	-	-	-	9.1	-	ハケ目後ナデ	縦ハケ後ナデ、縦ハケ後ナデ消し、沈線		にぶい黄 (2.5Y6/3)	にぶい黄橙 (10YR6/3)	石英、長石、角閃石、金雲母	良好	○	-	140	No25	口縁部に4～10mm幅で板状工具の様なもので磨いた痕跡あり、弥生中期後半、残存率;口縁の1/4　胴部に沈線１
130	4	弥生土器	甕	底部	-	8.0	-	-	-	6.6～	-	ナデ	ハケ目		にぶい橙 (7.5YR6/4)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	石英、長石、角閃石	良好	-	-	140	No2	
130	5	弥生土器	甕	口縁部	(20.5)	-	-	-	-	8.0～	-	横ナデ	横ナデ		灰黄褐(10YR4/2)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英、角閃石	不良	-	-	140	No26	口縁下に突帯１
130	6	弥生土器	甕	口縁部～胴部	(20.0)	-	-	-	-	15.0～	-	横ナデ	横ナデ、横ハケ		にぶい黄橙 (10YR7/4)	明赤褐 (2.5YR5/6)	石英、角閃石、雲母	良好	○	○	140	No16、No59	内面に赤色顔料塗布、(裏面)指頭圧痕有り　口縁下に突帯１
131	7	弥生土器	甕(黒髪式)	口縁部～胴部	(23.4)	-	-	-	-	24.3	-	ハケ後ナデ	ナデ		橙 (2.5YR6/6)	灰黄褐(10YR5/2)	石英、長石、角閃石、金雲母	良好	-	-	140	No37、No50、No51、3層	ススあり、器種;黒髪式？弥生中期前～中？残存率1/4以下
131	8	弥生土器	壺	底部	-	7.1	-	-	-	6.7～	-	ハケ目後ナデ	ナデ		にぶい赤褐 (2.5YR4/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英、長石、角閃石、輝石、赤褐色粒	良好	-	○	140	No1、No6	外面に赤色顔料
131	9	弥生土器	小型甕	口縁部	(22.4)	-	-	-	-	4.5～	-	ナデ、指頭圧痕	横ナデ		にぶい黄橙 (10YR7/3)	にぶい黄橙 (10YR7/3)	石英、長石、角閃石、砂粒	良好	-	-	140	-	反転復元、残存率1/4以下　胴部に刻目突帯１
131	10	弥生土器	壺	口縁部～胴部	20.6	-	-	-	-	17.8	-	ナデ	横ナデ、縦ハケ後ナデ、縦ハケ後ナデ消し		にぶい黄橙 (10YR7/3)	にぶい黄橙 (10YR6/3)	石英、長石、角閃石、金雲母	良好	-	-	140		弥生中期、残存率;口頸部の1/4
131	11	弥生土器	壺	口縁部	(14.0)	-	-	-	-	5.0～	-	不明	不明		橙 (7.5YR7/6)	橙 (7.5YR7/6)	石英、角閃石	不良	-	-	140	No36	
131	12	弥生土器	壺(黒髪式)	口縁部～胴部	22.4	-	-	-	-	14.8	26.1	ナデ	縦ハケ(頸部)、ナデ(体部・外部)		灰黄 (2.5Y6/2)	黄灰 (2.5Y4/1)	石英、長石、角閃石、雲母	良好	○	-	140	No5、No42、No43、No57、No58	内面はスス？黒斑？弥生中期後半、残存率;頸部～肩部の1/2　頸部に突帯１

表(Tab)34　土器観察表（16）

図番号	版番号	遺物番号	種別	器種	部位	口径	底径	器高	高台高	高台径	残存高	最大胴径	調整			色調		胎土	焼成	黒斑	赤色顔料	出土地点	層位	備考
						(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(内面)	(外面)	(その他)	(外面)	(内面)							
131	13	弥生土器	壺	底部		-	10.6	-	-	-	10.1	-	ナデ	縦ハケ後ナデ、縦ハケ後ナデ		にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	石英、長石、角閃石、金雲母、赤褐色砂粒	良好	○	-	140	No60、No103、No129、山くずし	弥生中～後期、残存率;底部完存
132	14	弥生土器	鉢	口縁部～底部		19.1	6.9	13.9	-	-	-	-	ナデ、指頭圧痕	縦ハケ		灰褐 (7.5YR4/2)	にぶい黄橙(10YR7/3)	石英、長石、角閃石、雲母、輝石	やや良	○	-	140	No10、No28、No67	やや口縁が波打つ、弥生中期後半、残存率1/2弱
132	15	弥生土器	高杯	杯部		(31.4)	-	-	-	-	6.9～	-	横ナデ、横ミガキ	横ナデ、横ミガキ		にぶい褐(7.5YR5/4)	にぶい赤褐(5YR4/4)	石英、角閃石	良好	-	○	140	-	
132	16	弥生土器	鉢(黒髪式)	全体		19.0	8.0	6.9	-	-	-	-	ナデ、工具痕	縦ハケ、ハケ、(底部)ハケ		にぶい黄橙(10YR6/3)	にぶい黄橙(10YR6/3)	石英、長石、角閃石、雲母、輝石、赤褐色砂粒	良好	○	-	140	No39	底部に黒斑あり、底部にスス付着、弥生中期後半、残存率1/3
132	17	弥生土器	台付き壺	底部		-	11.3	-	-	-	10.5	-	ナデ	縦ハケ後ナデ		灰黄褐(10YR6/2)	灰黄褐(10YR6/2)	石英、長石、角閃石	良好	-	-	140	No46、3層	ススあり、残存率;台部分の1/2強
132	18	弥生土器	甕(須恵Ⅱ式)	口縁部		26.0	-	-	-	-	8.9	-	ナデ	ナデ、ナデ後暗文(ナデ)(口縁部)	口縁部ナデ後暗文	灰黄褐(10YR5/2)	明赤褐 (5YR5/6)	石英、長石、金雲母	良好	-	○	140	No60	赤色顔料塗布、弥生中期後半、残存率;口縁の1/2弱　口縁部下に突帯１
134	1	弥生土器	甕	口縁部		(22.9)	-	-	-	-	(6.8)～	-	横ナデ、指頭圧後に縦ナデ	ナデ、横ナデ、ケズリ後ナデ		にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/3)	石英、長石、角閃石、雲母	良好	○	-	Pit1757	-	反転復元
134	2	弥生土器	甕	胴部～脚部		-	7.3	-	-	-	14.2～	-	ナデ、横ナデ	ナデ		にぶい褐(7.5YR6/3)	灰褐 (7.5YR5/2)	石英、長石、角閃石、輝石、金雲母、砂粒	良好	-	-	Pit1757	-	
134	3	弥生土器	壺	底部		-	9.2	-	-	-	3.4～	-	横ナデ、指頭圧痕	縦ナデ、横ナデ、指頭圧痕		にぶい黄橙(10YR6/3)	暗灰黄 (2.5Y5/2)	石英、長石、雲母、輝石	良好	○	-	Pit1757	-	内面に爪痕
136	1	弥生土器	甕	口縁部		-	-	-	-	-	4.4～	-	横ナデ	横ナデ、ハケ目ナデ		オリーブ黒(7.5YR3/1)	にぶい橙(7.5YR6/4)	石英・長石・金雲母・輝石	良好	-	-	004	No1	残存率1/8、弥生中期後半
136	2	弥生土器	甕	口縁部		-	-	-	-	-	4.0～	-	横ナデ、斜め方向のハケ目	横ナデ、縦ハケ		灰黄褐(10YR6/2)	褐灰 (10YR4/1)	石英・長石・角閃石	良好	-	-	004	1層No13	残存率1/8、弥生後期
136	3	弥生土器	壺	底部		-	(11.0)	-	-	-	2.5～	-	ナデ、指頭圧痕	ナデ		浅黄橙(10YR8/3)	浅黄橙(10YR8/3)	石英・長石・角閃石・金雲母	良好	-	-	004	AC区　No8	残存率1/4、弥生中～、内外面と土器面がやや風化
138	1	弥生土器	甕	口縁部		(27.2)	-	-	-	-	6.3～	-	横ナデ	横ナデ		にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	石英、長石、角閃石、金雲母、輝石、赤褐色砂粒	良好	-	-	012	No82	反転復元
138	2	弥生土器	甕	口縁部		-	-	-	-	-	3.3～	-	不明	不明		にぶい黄橙(10YR7/4)	灰黄褐(10YR6/2)	石英、長石、角閃石、赤褐色砂粒	良好	-	-	012	No104	
138	3	弥生土器	甕	底部		-	7.3	-	-	-	5.4～	-	工具痕	ハケ		黄橙(10YR8/6)	黄橙 (10YR8/6)	石英	良好	-	-	012	D　No2	
138	4	弥生土器	甕	口縁部～胴部		(30.8)	-	-	-	-	17.8	-	調整不明	ハケ目	口縁部　横ナデ	にぶい黄 (10YR7/3)、橙 (5YR7/6)	橙 (7.5YR7/6)	砂粒、小石粒、石英、角閃石、長石	良好	-	-	012	B　No102	反転復元　外面にスス、弥生後期、残存率1/3
138	5	弥生土器	鉢or甕	口縁部～胴部上半		(25.4)	-	-	-	-	8.6	-	ハケ目（調整不明）	ハケ目（調整不明）	口縁部　横ナデ	にぶい黄橙(10YR7/4、7/3)、浅黄(10YR8/4)	にぶい黄橙(10YR7/4、6/4)、橙(7.5YR7/6)	砂粒、小石粒、角閃石、長石、石英、赤褐色粒	良好	-	○	012	B No95、No99、No62、No60 BカベメンⅡ B5-2層	反転復元、外面に赤色顔料、残存率1/2
138	6	弥生土器	壺	底部		-	(8.8)	-	-	-	5.2～	-	指オサエ、ハケ	ハケ		黄橙 (10YR8/6)	にぶい黄褐(10YR5/4)	石英、角閃石	良好	-	-	012	-	
138	7	弥生土器	甕	口縁部		(25.4)	-	-	-	-	2.1～	-	ナデ	ナデ		赤褐 (2.5YR4/8)	赤褐 (2.5YR4/8)	石英、長石、雲母	良好	-	○	012	D5	両面に丹塗り有り
138	8	弥生土器	ミニチュア土器	ほぼ完形		6.6	-	5.9	-	-	-	-	ナデ	不明圧痕		にぶい橙(7.5YR7/3)	灰黄褐 (10YR6/2)、にぶい橙(7.5YR6/4)	砂粒、雲母、角閃石、石英	良好	-	-	012	No14	元々完形だったが取り上げの際欠損、弥生中～後期
140	1	弥生土器	甕	口縁部～胴部		(32.4)	-	-	-	-	25.6	(31.4)	ナデ（調整不明）	ハケ目後ナデ（調整不明）	口縁部　横ナデ	淡黄橙(10YR8/3)、にぶい黄橙(10YR7/4)	灰黄(2.5Y6/2)、褐灰(10YR5/1)	砂粒、小石粒、長石、石英、雲母	良好	○	-	033	-	反転復元　外面に黒斑、弥生後期、残存率1/8　胴部に突帯１
140	2	弥生土器	甕	口縁部～底部		(25.4)	9.8	36.5	-	-	-	-	ハケの後ナデ、指頭圧痕	横ナデ、ハケの後ナデ、ナデ、ハケ後ナデ消し	脚内部横ナデ	褐灰 (10YR6/1)	浅黄橙(10YR8/3)	石英、長石、角閃石、金雲母	良好	○	○	033		弥生後期、残存率1/2弱
141	3	弥生土器	甕	口縁部～胴部		21.4	-	-	-	-	21.9	-	斜めハケ後ナデ	斜めハケ後ナデ	口縁部　横ナデ	にぶい黄橙(10YR6/3)	にぶい黄橙(10YR6/3)	長石、石英、輝石、金雲母、赤色粒	良好	○	-	033		一部反転復元　外面に黒斑、弥生後期、残存率1/2
141	4	弥生土器	甕	口縁部		-	-	-	-	-	4.1～	-	横ナデ	横ナデ		にぶい黄橙(10YR7/3)	にぶい黄橙(10YR6/3)	石英、長石、角閃石	良好	-	-	033	-	
141	5	弥生土器	甕	口縁部		-	-	-	-	-	3.6～	-	横ナデ	横ナデ		浅黄橙(10YR8/4)	浅黄橙(10YR8/4)	石英、長石、角閃石	良好	-	-	033	-	
141	6	弥生土器	甕	口縁部		-	-	-	-	-	4.9～	-	横ナデ	横ナデ		灰黄褐(10YR5/2)	にぶい黄橙(10YR7/4)	石英、長石、角閃石、金雲母	良好	-	-	033	-	

表(Tab)35　土器観察表（17）

図版番号	遺物番号	種別	器種	部位	口径	底径	器高	高台高	高台径	残存高	最大胴径	調整			色調		胎土	焼成	黒斑	赤色顔料	出土地点	層位	備考
					(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(内面)	(外面)	(その他)	(外面)	(内面)							
141	7	弥生土器	壺	胴部～底部	-	(8.6)	-	-	-	15.6	-	ハケ後ナデ	ナデ		浅黄橙(10YR8/4)	浅黄橙(10YR8/4)	石英、長石	良好	○	-	033		弥生後期？残存率;底部1/2
142	8	弥生土器	袋状口縁壺	口縁部～頸部	-	-	-	-	-	5.1	-	ナデ（調整不明）	ナデ（調整不明）		赤褐(2.5Y4/6)、にぶい黄橙（10YR7/3）	橙（7.5YR7/6)、赤褐（2.5Y4/6）	砂粒、石英、角閃石、長石	良好	-	-	033	C2層、D2層	反転復元、傾き不確実、弥生後期(前葉)、残存率1/2
142	9	弥生土器	壺(鼸瓶?)	胴部	-	-	-	-	-	8.8	(19.1)	調整不明　指頭圧痕	調整不明　ハケ目		にぶい赤褐（2.5YR4/4）	にぶい黄橙(10YR7/3)、にぶい赤褐(2.5YR4/4)	砂粒、角閃石、長石、石英	良好	○	-	033	No50　Fwベルト2層	反転復元　外面に黒斑、弥生後期、残存率1/3
142	10	弥生土器	壺	ほぼ完形	17.4	8.3	27.3	-	-	-	-	ナデ	縦ハケ、ナデ	口縁部　横ナデ、頸部　内面斜めハケ	にぶい褐（7.5YR6/3）	にぶい黄橙（10YR6/3）	長石、石英、角閃石、輝石	良好	○	○	033		赤彩ではない、弥生中期後半　胴部に突帯２
142	11	弥生土器	壺	口縁部～胴部	12.9	-	-	-	-	4.9～	-	横ナデ、ハケ目後横ナデ、ハケ目、指頭圧痕	横ナデ、ハケ目	内外ともに赤色顔料塗布	明赤褐（5YR5/6）	明赤褐（5YR5/6）	石英、長石、角閃石、輝石	良好	-	○	033	2C-2層､2ca､2cb､D1層	口縁部完存、内面に赤色顔料と考えられるが酸化鉄の可能性もあり
142	12	弥生土器	甕	胴部	-	-	-	-	-	6.7～	-	指ナデ	横ナデ、ハケ後横ナデ		橙（7.5YR7/6）	橙（7.5YR7/6）	石英、長石、角閃石	良好	-	-	033	-	胴部に刻目突帯１
142	13	弥生土器	壺	口縁部～頸部	(24.1)	-	-	-	-	10.3	-	調整不明　指頭圧痕	ハケ目、横ナデ	口縁部　横ナデ、ハケ目	にぶい黄橙（10YR7/3）	にぶい黄橙（10YR7/3）	砂粒、小石粒、石英、長石、角閃石、雲母	良好	-	○	033	No14	反転復元、外面に赤色顔料、弥生中期､残存率1/4
142	14	弥生土器	鉢	口縁部～胴部	15.4	-	-	-	-	9.3	-	横ナデ、縦ハケ後工具によるナデ、ハケ目残る	ハケ後ナデ、ハケ(底部付近)、体部はハケ後工具等によるナデ消し(体部)		淡黄（2.5Y8/3）	浅黄橙(10YR8/4)	石英、長石、雲母	良好	○	-	033	No4、A、No28	弥生後期？残存率1/2
142	15	弥生土器	鉢	完形	10.6	5.8	9.7	-	-	-	-	縦ハケ後ナデ、指頭圧痕	横ナデ、ナデ		にぶい黄橙（10YR7/4）	にぶい黄橙（10YR7/4）	石英、長石、角閃石、雲母	良好	○	-	033	No3、T8ベルトⅢA	口縁やや波状、弥生後期？残存率3/4
143	16	弥生土器	高杯	杯部	30.6	-	-	-	-	10.9	-	ハケ後ナデ	横ナデ、ナデ、ハケの後ナデ		にぶい黄橙（10YR7/3）	にぶい黄橙（10YR7/3）	石英、長石、角閃石、雲母	良好	○	-	033	-	口縁部下に突帯１
143	17	弥生土器	甕(高杯?)	口縁部	-	-	-	-	-	4.6～	-	横ナデ	横ナデ		橙（7.5YR7/6）	浅黄橙（7.5YR8/6）	石英、長石、輝石	良好	-	○	033	-	赤色顔料(一片)
146	1	弥生土器	甕	口縁部	27.4	-	-	-	-	5.2～	-	ナデ	ナデ		橙（5YR6/8）	橙（2.5YR6/8）	石英、長石、角閃石、雲母、赤色酸化粒	良好	-	-	053	No13	
146	2	弥生土器	甕	口縁部	(22.8)	-	-	-	-	5.1～	-	横ナデ、ハケ目痕後ナデ　器面風化	横ナデ、ハケ目痕器面風化		浅黄橙（7.5YR8/4）	浅黄橙（7.5YR8/4）	角閃石、黒褐色粒、砂粒	良好	-	-	053	No20	反転復元、内外の器面が風化している
146	3	弥生土器	甕	口縁部	(33.8)	-	-	-	-	8.7～	-	横ナデ、ハケ目後横ナデ	横ナデ、ハケ目痕後ナデ　一部磨滅		にぶい褐（7.5YR6/3）	橙（7.5YR7/6）	石英、長石、角閃石、輝石、金雲母、黒色粒	良好	-	-	053	No21	反転復元
146	4	弥生土器	甕	口縁部	-	-	-	-	-	5.8～	-	横ナデ、ハケ目	横ナデ、ハケ目		灰黄褐(10YR5/2)	にぶい黄橙（10YR7/3）	石英、長石、角閃石	良好	-	-	053	No17	
146	5	弥生土器	甕	口縁部	(20.8)	-	-	-	-	4.8～	-	ナデ、左下がりハケ目	ナデ、指頭圧痕		明褐（7.5YR5/6）	橙（5YR6/6）	石英、長石、雲母、赤色酸化粒	良好	○	-	053	No15	外面に黒斑
146	6	弥生土器	器台	裾部	-	(15.6)	-	-	-	8.2～	-	ナデ、横ハケ目	縦ハケ目、ナデ		にぶい橙（7.5YR6/4）	褐灰（7.5YR5/1）	石英、長石、角閃石、輝石、金雲母、赤褐色粒	良好	-	-	053	No6	反転復元
146	7	弥生土器	甕	底部	-	8.4	-	-	-	4.3～	-	ナデ、指頭圧痕　脚内風化のため不明	風化のため不明　工具痕有り		橙(2.5YR6/67.5YR7/6)	橙(2.5YR6/67.5YR7/6)	石英、長石	良好	-	-	053	No5	
146	8	弥生土器	甕	底部	-	(6.6)	-	-	-	3.4～	-	ナデ	粗いナデ		にぶい橙（7.5YR7/6）	にぶい橙（7.5YR7/6）	石英、長石、黒褐色粒、砂粒	良好	-	-	053	No10	反転復元
146	9	弥生土器	甕？	底部	-	(8.8)	-	-	-	5.5～	-	ナデ、指頭圧痕	縦ハケ目、ナデ		にぶい黄橙（10YR6/4）	にぶい黄橙（10YR6/4）	石英、長石、角閃石	良好	○	-	053	No9	反転復元
146	10	弥生土器	高杯	脚部	-	17.9	-	-	-	16.6	-	ナデ、横ハケ(端部)	ナデ、縦ハケ、ナデ消し(上部)	脚内ナデ、絞り痕、ナデ	にぶい黄橙（10YR7/4）	にぶい黄橙（10YR7/4）	石英、長石、角閃石、雲母、輝石	良好	○	-	053	No1	全体的に磨滅している、弥生後期、残存率;脚部､端部3/4欠　杯部下に突帯１
148	1	弥生土器	甕	口縁部	(16.0)	-	-	-	-	3.7～	-	横ナデ	横ナデ		明赤褐（5YR5/6）	橙（7.5YR6/6）	石英、長石、雲母	良好	○	-	073	C-2層上	口縁部に刺突痕が見られるが貫通していない　口縁部に穿孔
148	2	弥生土器	甕	口縁部	-	-	-	-	-	3.6～	-	横ナデ、ハケ目	横ナデ		橙（5YR6/6）	にぶい橙（7.5YR6/4）	石英、長石、角閃石、金雲母	良好	-	-	073	No23	
148	3	弥生土器	甕	口縁部	-	-	-	-	-	3.8～	-	横ナデ	横ナデ		にぶい橙（7.5YR7/4）	にぶい橙（7.5YR7/4）	石英、長石、角閃石、黒曜石？	良好	-	-	073	No15	
148	4	弥生土器	甕	口縁部	(31.1)	-	-	-	-	6.2～	-	横ナデ？　指頭圧痕器面が荒れていて不明瞭	横ナデ、ハケ目後ナデ		にぶい黄橙（10YR7/3）	灰黄褐(10YR5/2)	石英、長石、角閃石、金雲母	良好	-	-	073	2層､炉上	反転復元
148	5	弥生土器	甕	口縁部	(32.0)	-	-	-	-	-	-	横ナデ、ナデ	ハケ目の後ナデ		明赤褐（2.5YR5/6）	にぶい赤橙（2.5YR5/4）	石英、長石、角閃石、赤褐色粒	良好	-	○	073	No24	口縁部に暗文、内外とも赤色顔料

表(Tab)36　土器観察表（18）

図番号	版遺物番号	種別	器種	部位	口径	底径	器高	高台高	高台径	残存高	最大胴径	調整			色調		胎土	焼成	黒斑	赤色顔料	出土地点	層位	備考
					(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(内面)	(外面)	(その他)	(外面)	(内面)							
148	6	弥生土器	甕	口縁部～胴部	(35.3)	-	-	-	-	18.4～	-	指頭圧痕　器面が荒れていて不明瞭	横ナデ		にぶい黄橙(10YR6/4)	橙 (7.5YR6/6)	石英、長石、角閃石、金雲母、赤褐色粒	良好	○	-	073	D-2層、ベルト	反転復元　内外に黒斑　頸部に突帯１
148	7	弥生土器	高杯	口縁部	-	-	-	-	-	3.6～	-	磨滅のため不明	磨滅のため不明		明赤褐 (5YR5/6)	明赤褐 (5YR5/6)	石英、角閃石	良好	-	-	073	No27	
148	8	弥生土器	鉢	口縁部～胴部	-	-	-	-	-	7.0～	-	横ナデ	横ナデ、縦方向のハケ目調整		にぶい黄橙(10YR7/4)	浅黄橙(10YR8/4)	石英、角閃石、金雲母、赤褐色粒	良好	-	-	073	-	
148	9	弥生土器	鉢	口縁部～底部	18.3	4.6	17.5	-	-	-	-	ハケの後横ナデ、横ハケ	横ナデ、縦ハケ		にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	石英、長石、角閃石、金雲母	良好	○	○	073	B-1層、B-2層、D-2層	赤色顔料あり、弥生後期、残存率1/2強
148	10	弥生土器	高杯	口縁部	(26.4)	-	-	-	-	11.6	-	縦ハケ(一部ナデ消し)	横ナデ、ハケ目後ナデ、貼り付けナデ、ハケ後ナデ消し		にぶい橙(7.5YR7/4)	橙 (5YR7/6)	石英、雲母	良好	○	-	073		残存率1/4以下
149	11	弥生土器	甕	口縁部～胴部	(34.4)	-	-	-	-	33.5	-	横ナデ、ハケ後ナデ	横ナデ、縦ハケ後ナデ、縦ハケ後ナデ消し		橙 (5YR6/6)	褐灰 (10YR4/1)	石英、長石、角閃石、雲母	良好	○	-	073	No48	表面が劣化している、ススあり、弥生中～後期、残存率1/3弱
149	12	弥生土器	甕	口縁部～胴部	29.1	-	-	-	-	33.9	-	縦ハケ、ナデ	横ナデ、縦ハケ		褐灰 (7.5YR4/2)	にぶい褐(7.5YR5/3)	石英、長石、角閃石、雲母、輝石	良好	-	-	073	No34、No37、No41、No43、No45、C-1層、C-2層、Sカベ	内より外のハケの方が細かい、ススあり、弥生後期
149	13	弥生土器	器台	体部	15.1	13.9	18.3	-	-	-	-	ナデ、絞り痕	横ナデ、縦ハケ(単位不明)、縦ハケ後ナデ、ナデ(底部付近)ナデの為か弟とハケ目は見られない、		橙 (7.5YR7/6)	橙 (7.5YR7/6)	石英、長石、金雲母	良好	-	-	073	No7、B-2層、Nベルトカベ	弥生中期後半、残存率1/2以上
152	1	弥生土器	甕	口縁部	-	-	-	-	-	3.8～	-	横ナデ	横ナデ		明黄褐(10YR7/6)	明黄褐(10YR7/6)	石英、角閃石	良好	-	-	075	No2	頸部に突帯１
152	2	弥生土器	甕	口縁部	-	-	-	-	-	4.6～	-	横ナデ	横ナデ、ハケ目痕		にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	石英、長石、角閃石	良好	-	○	075	床面	外面に赤色顔料、顔料(明赤褐　2.5YR5/8)頸部に突帯１
152	3	弥生土器	甕	口縁部	(23.8)	-	-	-	-	26.3～	-	横ナデ、ハケ目後ナデ	横ナデ痕　風化により不明瞭		にぶい橙(7.5YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	石英、長石、角閃石、黒色粒、赤褐色粒	良好	○	-	075	No33	反転復元　内面頸部に黒斑　頸部に刻目突帯１
152	4	弥生土器	甕	口縁部	(25.4)	-	-	-	-	4.7～	-	横ナデ、ハケ目後横ナデ	横ナデ痕　風化により不明瞭		にぶい橙(7.5YR7/3)	浅黄橙(7.5YR8/4)	石英、長石、角閃石、黒色粒	良好	○	○	075	下層	反転復元　内外面にスス付着　内外面に赤色顔料　頸部に突帯１
152	5	弥生土器	甕	口縁部～胴部	(31.2)	-	-	-	-	12.1～	-	指頭圧痕	横ナデ、ハケ目後横ナデ		灰黄褐(10YR4/2)	明黄褐(10YR6/6)	石英、角閃石、金雲母	良好	-	-	075	No39	反転復元
152	6	弥生土器	甕	口縁部～胴部	(25.8)	-	-	-	-	20.1	26.0	不明	ハケ目後横ナデ、ハケ目		浅黄橙(10YR8/3)	橙 (5YR7/6)、黄橙 (7.5YR8/8)	長石、角閃石、赤褐色砂粒	やや不良	-	-	075	No１、No34	受熱痕あり、外器面赤彩？　胴部に刻目突帯１
152	7	弥生土器	壺	頸部～胴部	-	-	-	-	-	12.4～	-	磨滅のため不明	横ナデ		にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/3)	石英、角閃石、金雲母	良好	-	-	075	No40	胴部に貼付突帯あり　外面に突帯
152	8	弥生土器	甕	底部	-	9.9	-	-	-	5.5～	-	横ナデ、指頭圧痕	ハケ目、横ナデ、指頭圧痕		橙 (2.5YR7/6)	橙 (5YR7/6)	石英、長石、黒褐色粒	良好	○	-	075	No４３、下層	外面一部に黒斑
153	9	弥生土器	甕	口縁部～胴部	26.9	-	-	-	-	22.2	27.8	ナデ	横ナデ、ナデ		橙 (7.5YR6/6)	橙 (7.5YR6/6)	石英、長石、角閃石、雲母	良好	○	-	075	No9、No12、No13、No43、No45	弥生後期、残存率1/2以上
153	10	弥生土器	甕	胴部～底部	-	8.0	-	-	-	15.9～	-	工具痕(ハケ目後ナデ？)	ハケ目後ナデ、ナデ風化により一部不明		にぶい黄橙(10YR6/3)	灰黄褐(10YR5/2)	石英、角閃石、黒色粒、石	良好	○	-	075	No36、C-2層上	反転復元　外面に黒斑
153	11	弥生土器	甕	口縁部～胴部	29.9	-	-	-	-	29.8	31.8	ナデ	横ナデ、ナデ、縦ハケ後ナデ、縦ハケ		にぶい黄褐(10YR5/4)	にぶい黄(2.5Y6/4)	石英、長石、角閃石、輝石、金雲母	良好	-	-	075	No6、No22、No30、Wトレ、A-1層	ススあり、弥生後期、残存率1/2以上
154	12	弥生土器	高杯?	口縁部～脚部	(19.4)	-	-	-	-	9.1～	-	ナデ　脚内にしぼり痕有り	ハケ目痕、横ナデ　器面は風化している		にぶい黄橙(10YR6/4)	にぶい黄橙(10YR6/4)	石英、角閃石	良好	○	-	075	No40、No43、A2層下	反転復元　内外に黒斑　円盤充填技法
154	13	弥生土器	短頸壺	胴部上半～胴部下半～底部	(7.0)	(5.6～6.6)	(8.8)	-	-	5.5～	(12.4)	上方向ナデ、横ナデ、指頭圧痕後ナデ	横ナデ、ハケ目後ナデ		にぶい橙(10YR7/3)	にぶい黄橙(10YR7/3)	石英、長石、角閃石、赤色粒	良好	○	-	075	C-1層、C-2層、No18、一括、F-1Ⅲ層	反転復元　外面一部に黒斑、残存率2/5、弥生後期　胴部に突帯１
154	14	弥生土器	ミニチュア土器(鉢?)	完形	3.0	1.4？	3.8	-	-	-	-	ナデ	ナデ		にぶい橙(7.5YR6/4)	にぶい橙(7.5YR6/4)	石英、金雲母	良好	○	-	075	-	外面に黒斑
154	15	弥生土器	高杯	杯部	21.7	-	-	-	-	7.6	-	ナデ	ナデ、横ナデ、縦ハケ		黒褐 (2.5Y3/1)	黄灰 (2.5Y5/1)	石英、長石、角閃石、黒雲母	良好	○	-	075	No35	弥生中期後半？残存率1/4弱
154	16	弥生土器	器台	体部	10.8	-	-	-	-	10.7	-	横ナデ、縦ハケ後ナデ	横ナデ、縦ハケ後ナデ		にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい橙(7.5YR7/4)	石英、長石、角閃石	良好	-	-	075	No２０、No38、Wトレ	弥生後期、残存率;口縁部3/4弱
157	1	弥生土器	甕	口縁部	-	-	-	-	-	2.6～	-	横ナデ	横ナデ		にぶい橙(7.5YR7/3)	にぶい橙(7.5YR7/3)	石英、長石、角閃石、赤褐色粒	良好	-	-	077	3層	
157	2	弥生土器	壺	口縁部	-	-	-	-	-	5.2～	-	横ナデ	横ナデ		橙 (7.5YR6/6)	橙 (7.5YR7/6)	石英、角閃石、赤褐色粒	良好	-	-	077	3層	頸部につまみ出し突帯１

表(Tab)37　土器観察表 (19)

図番号	版番号	遺物番号	種別	器種	部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	高台高 (cm)	高台径 (cm)	残存高 (cm)	最大胴径 (cm)	調整 (内面)	調整 (外面)	調整 (その他)	色調 (外面)	色調 (内面)	胎土	焼成	黒斑	赤色顔料	出土地点	層位	備考
157	3		弥生土器	甕	口縁部	-	-	-	-	-	(7.8)～	-	ハケ目後ナデ	ハケ目後ナデ　口縁部横ナデ		橙 (5YR7/4) にぶい橙(5YR6/4)	にぶい橙 (5YR6/4)	石英、長石、赤褐色粒、黒色粒	良好	-	-	077	No24	残存率1/4以下
157	4		弥生土器	甕	口縁部	(33.0)	-	-	-	-	7.8～	-	横ナデ、ハケ目後ナデ	ハケ目後横ナデ、横ナデ、ハケ目後ナデ		にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英、長石、角閃石	良好	○	-	077	No 6 、No 11、No15	反転復元　口縁部付近に黒斑　頸部に突帯１
157	5		弥生土器	甕	口縁部～胴部	(18.3)	-	-	-	-	6.9～	(15.6)	ハケ目後横ナデ、ハケ目後ナデ	ハケ目後横ナデ、ハケ目後ナデ 磨滅が著しい		橙 (2.5YR6/6)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	石英、長石、角閃石、金雲母、赤褐色粒、黒色粒	良好	-	-	077	A2層	反転復元､外部胴部表面磨滅
157	6		弥生土器	甕	底部	-	9.6	-	-	-	7.5～	-	ハケ目後ナデ 脚部内横ナデ	ハケ目後ナデ		橙 (5YR6/6)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英、角閃石、雲母	良好	○	-	077	No22	一部反転復元　内外一部に黒斑
157	7		弥生土器	甕	底部	-	9.9	-	-	-	5.9～	-	ハケ目　脚部内横ナデ	横ナデ、縦方向ハケ目		橙 (7.5YR6/6)	黒褐 (2.5Y3/1)	石英、角閃石、金雲母	良好	○	-	077	No21	一部反転復元　内面に黒斑
157	8		弥生土器	甕	口縁部	(39.2)	-	-	-	-	(7.5)～	-	ハケ目後ナデ、指頭圧痕 口縁部横ナデ	ハケ目後横ナデ 口縁部ハケ目後横ナデ		橙 (7.5YR7/6)	橙 (7.5YR7/6)	石英、長石、金雲母、黒色粒、赤褐色粒	良好	-	-	077	No4	残存率1/4以下　反転復元
157	9		弥生土器	甕or壺	底部	-	(11.2)	-	-	-	8.3～	-	ハケ目後ナデ	ハケ目後ナデ、ナデ		橙 (5YR7/6)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	石英、長石、角閃石、金雲母、赤褐色粒	良好	-	-	077	No３、Ｎトレ1層	反転復元
157	10		弥生土器	壺	口縁部～胴部	(5.8)	-	-	-	-	8.9～	(12.4)～	ハケ目後ナデ、指頭圧痕	ハケ目後粗いナデ 口縁部横ナデ		浅黄橙 (7.5YR8/4)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	石英、長石、黒色粒、砂粒	良好	○	-	077	C1層、C2層、3層、Wベルト1層	残存率1/2以上　反転復元　外面一部に黒斑
157	11		弥生土器	甕	底部	-	(18.8)	-	-	-	(8.1)～	-	ナデ、脚部内ハケ目後ナデ、指頭圧痕	ハケ目後ナデ　口縁部ナデ		明赤褐(2.5YR5/6) 赤灰(2.5YR5/1)	赤灰(2.5YR5/2)口縁部赤褐(2.5YR4/6)	石英、長石、金雲母	やや良	-	○	077	No１4、No 16、No23	残存率1/4以下、反転復元　外面一部に赤色顔料
157	12		弥生土器	短頸壺	口縁部	-	-	-	-	-	3.7～	-	ナデ	ナデ		明赤褐 (2.5YR5/6)	明赤褐(2.5YR5/6) 浅黄橙(10YR8/3)	石英、角閃石、赤褐色粒	良好	-	-	077	1層	口唇部に刻目　頸部に突帯１
158	13		弥生土器	鉢	口縁部～底部	11.4	3.8	5.7	-	-	-	-	ナデ	ナデ		橙 (5YR6/8)	橙 (5YR6/6)	石英、長石、角閃石、雲母	良好	-	-	077	1層、Ｉ8、Nトレ、ⅡA	残存率1/2
158	14		弥生土器	小壺	口縁部～胴部	12.0	-	-	-	-	(7.6)～	(13.0)	ハケ目後ナデ、指頭圧痕、横ナデ	ハケ目後ナデ		にぶい橙 (7.5YR7/4)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	石英、長石、角閃石、黒色粒	良好	○	-	077	Nベルト1層	残存率1/2以上　反転復元　外面一部に黒斑
158	15		弥生土器	ミニチュア土器(甕?)	底部	-	(3.2)	-	-	-	2.2～	-	指頭圧痕、爪痕、ナデ	指頭圧痕、爪痕、ナデ		にぶい黄橙 (10YR6/3)	にぶい黄橙 (10YR6/3)	石英、金雲母	良好	-	-	077	3A層	反転復元
158	16		弥生土器	器台	体部	-	(11.6)	-	-	-	12.1	-	ナデ	ナデ、指頭圧痕		にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英、長石、金雲母、輝石、赤褐色砂粒	良好	-	-	077	A2層	接点はないが胴部上半部と下半部は図面上で接合可能、弥生中～後期、残存率;脚部の1/2以下
160	1		弥生土器	甕	口縁部	-	-	-	-	-	5.2～	-	横ナデ、ナデ	横ナデ、ナデ		黄橙 (10YR8/6)	黄橙 (10YR8/6)	石英、長石、角閃石、金雲母	良好	-	○	083	-	口縁部上面に赤色顔料？
160	2		弥生土器	甕	口縁部	-	-	-	-	-	4.5～	-	横ナデ、ナデ	横ナデ		にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英、長石、金雲母、黒色粒、赤褐色粒	良好	-	-	083	-	
160	3		弥生土器	甕	口縁部	(30.5)	-	-	-	-	6.9～	-	横ナデ、横ハケ目後横･縦ナデ	横ナデ、ハケ目後ナデ		にぶい褐 (7.5YR6/3)	にぶい橙 (7.5YR7/3)	石英、長石、黒褐色粒、赤褐色粒	良好	○	-	083	No３3、 T層	反転復元　外面一部に黒斑・スス付着
160	4		弥生土器	甕	口縁部～胴部	26.7	-	-	-	-	20.7	27.1	横ナデ、横ハケ後横ナデ、横･縦ハケ	横ナデ、斜めハケ後横ナデ、斜めハケ		にぶい黄橙 (10YR5/3)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英、角閃石、金雲母	良	-	-	083	083	一部SO084の上層出土土器　一部反転復元　内外面にスス付着
160	5		弥生土器	？	底部	-	3.3	-	-	-	1.8～	-	指ナデ	指ナデ		にぶい橙 (7.5YR7/4)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	石英、長石、角閃石	良好	-	-	083	NW	一部反転復元、手づくね
160	6		弥生土器	甕	底部	8.3	-	-	-	-	6.2～	-	ナデ、指頭圧痕	ハケ目		にぶい橙 (7.5YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英、長石、黒褐色粒	良好	○	-	083	No24	脚内面に一部に黒斑
162	1		弥生土器	甕	口縁部～胴部	29.8	-	-	-	-	34.4	30.3	調整不明、ハケ目後ナデ、ハケ目後横ナデ	ハケ目、ハケ目後横ナデ、ナデ、横ナデ	口縁部　横ナデ	にぶい黄橙(10YR6/4)、にぶい橙(7.5YR6/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)、暗褐色(10YR3/3)	砂粒、角閃石、石英、長石、小石粒	良好	-	-	090	No42、No52、No121、B-1層	内外面にスス付着、残存率2/3
162	2		弥生土器	甕	口縁部～胴部	24.8	-	-	-	-	17.8	26.3	ナデ	縦ハケ　所々ナデ	口縁部　横ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	浅黄 (2.5Y7/4)	長石、石英、雲母、角閃石、輝石	良好	-	-	090	No48	一部反転復元、弥生後半、残存率1/2以上
162	3		弥生土器	甕	口縁部	(34.0)	-	-	-	-	5.7～	-	ナデ、横方向のハケ目	ナデ　磨滅により調整不明		橙 (5YR6/6)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英、長石、角閃石、輝石	良好	-	-	090	No11	
162	4		弥生土器	甕	口縁部	-	-	-	-	-	4.7～	-	横ナデ	横ナデ		にぶい橙 (7.5YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/3)	石英、長石、砂粒、黒褐色粒	良好	-	-	090	-	口縁下に突帯
162	5		弥生土器	甕	口縁部～胴部	29.6	-	-	-	-	13.9	-	斜め方向のナデ、横ハケ、斜めハケ	斜め方向のナデ、縦ハケ、斜めハケ(下部に何らかの工具痕らしきものあり)	口縁部　横ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/3)	にぶい黄橙 (10YR6/3)	長石、石英、金雲母	良好	○	-	090	No8	反転復元　外面に黒斑、弥生後期、残存率1/4以下
163	6		弥生土器	甕棺	胴部突帯部	-	-	-	-	-	16.9	-	ナデ、ハケ後ナデ	縦ハケ、突帯二重刻目文		にぶい黄橙 (10YR7/3)	褐灰 (10YR4/1)	長石、石英、金雲母、角閃石	良好	○	-	090		弥生中期後半　胴部に刻目突帯･突帯各１

表(Tab)38　土器観察表（20）

図番号	版番号	遺物番号	種別	器種	部位	口径	底径	器高	高台高	高台径	残存高	最大胴径	調整			色調		胎土	焼成	黒斑	赤色顔料	出土地点	層位	備考
						(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(内面)	(外面)	(その他)	(外面)	(内面)							
163	7	弥生土器	甕	口縁部		(37.7)	-	-	-	-	6.5～	-	横ナデ	横ナデ　ハケ目後ナデ		灰褐 (7.5YR6/2)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英、長石、角閃石、砂粒、黒色粒	良好	○	-	090	No14	反転復元　外面に黒斑
163	8	弥生土器	壺	口縁部～胴部		10.0	-	-	-	-	15.1	17.7	ハケ後ナデ（ハケの工具残る）	ナデ		にぶい黄橙 (10YR7/2)	にぶい黄橙 (10YR7/2)	長石、石英、角閃石、金黒雲母	良好	-	-	090		反転復元、弥生中～後期、残存率1/2弱
163	9	弥生土器	樽形土器	口縁部		-	-	-	-	-	5.8～	-	横ナデ	ナデ		にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	石英、長石、角閃石、金雲母、赤褐色粒	良好	-	-	090	-	
163	10	弥生土器	高杯	脚部		-	19.1	-	-	-	17.3	-	ナデ、絞り痕	縦ハケ、横ナデ(頸部)	杯部内面、工具によるナデ 外面横ナデ	明黄褐(10YR7/6)	明黄褐(10YR7/6)	長石、石英、雲母、輝石、角閃石	良好	-	-	090	No60、No103、No128、山くずし	円盤充填技法、弥生後期、残存率1/2未満 杯部下に突帯１
163	11	弥生土器	脚付鉢	鉢部～脚部		(23.6)	(17.1)	(20.6)	-	-	-	-	ハケ目、横ナデ、指頭圧痕、ナデ	ハケ目後横ナデ、ハケ目、横ナデ、ナデ		浅黄橙(10YR8/3)	浅黄橙(10YR8/4)	砂粒、小石粒、石英、長石、角閃石、雲母	良好	○	○	090	No６４、No104	一部反転復元　外面に黒斑　外面に赤色顔料、弥生中期後半～後期、残存率3/4
164	12	弥生土器	壺	口縁部～底部		20.0	(9.7)	-	-	-	32.9	28.5	ナデ、指頭圧痕、ナデ後指、横ナデ、ハケ目、ミガキ	ミガキ、横ナデ、ハケ目	口縁部　横ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	明黄褐(10YR6/6)	砂粒、角閃石、石英、長石	良好	○	○	090	No71、No74、No78、B2層下	貼付文、残存率2/3　胴部に刻目突帯３、鉤状突帯１
167	1	弥生土器	甕	口縁部～底部		(28.5)	8.2	23.4	-	-	-	(26.1)	横ナデ、縦ハケ、ナデ	横ナデ、縦ハケ		赤橙 (10R6/8)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英、長石、角閃石	良好	○	-	118	上層、1層、M-8WNカド	一部反転復元、底部の穿孔は焼成後に施された可能性がある、残存率;65%
167	2	弥生土器	鉢	口縁部～底部		(20.3)	(6.9)	14.3	-	-	-	(18.8)	ハケ目後ナデ	横ナデ、ハケ目後ナデ、ナデ		橙 (5YR6/6)	橙 (5YR6/6)	石英、長石、角閃石、輝石、雲母	良好	○	-	118	-	一部反転復元　外面底部に黒斑
167	3	弥生土器	ミニチュア土器(鉢)	口縁部～底部		(10.5)	-	7.95	-	-	-	(11.1)	ナデ、指頭圧痕	ハケ目後ナデ　底部ナデ		にぶい橙 (5YR7/4)	橙 (5YR7/6)	石英、長石、角閃石、黒色粒、黒褐色粒、砂粒	良好	○	-	118	-	反転復元　残存率1/4以上　内外面底部に黒斑
167	4	弥生土器	鉢	口縁部～底部		15.7	6.2	12.2	-	-	-	16.6	ハケ目後ナデ	指頭圧痕、ハケ目　部分的に磨滅 底部ハケ目		にぶい橙 (5YR7/4)	橙 (5YR7/6)	石英、長石、黒褐色粒、砂粒	良好	-	-	118	-	内部にスス付着
167	5	弥生土器	鉢	口縁部～底部		(18.0)	(7.2)	13.6	-	-	-	(18.6)	ハケ目後ナデ、ナデ	ハケ目後ナデ、ナデ 底部ナデ		にぶい褐 (7.5YR5/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英、角閃石、輝石、雲母	良好	○	-	118	-	外面底部付近に黒斑
168	6	弥生土器	甕	口縁部～胴部		(25.7)	-	-	-	-	18.0～	-	横方向のハケ目後ナデ、縦方向のハケ目後ナデ	ナデ、縦方向のハケ目後ナデ		橙 (5YR7/6)	橙 (5YR7/6)	石英、長石、雲母、赤褐色粒	良好	-	-	118	-	反転復元　外面にスス付着　胴部に刻目突帯１
168	7	弥生土器	甕	口縁部～胴部		(20.7)	-	-	-	-	14.8～	-	ハケ目、ナデ	ハケ目　口唇部ナデ		橙 (7.5YR6/6)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	石英、長石、角閃石、金雲母	良好	○	-	118	上層、上層W	反転復元　外面胴部に黒斑、カギの手貼付　頸部にカギの手状貼付け文様
169	8	弥生土器	甕	口縁部～胴部		27.1	-	-	-	-	24.1	26.1	横ナデ、縦ハケ	横ナデ、縦ハケ		褐灰 (5YR4/1)、赤橙 (10R6/8)、にぶい赤褐(10R6/8)	黄橙(7.5YR8/8)、にぶい橙(7.5YR6/4)	石英、長石、角閃石	良好	-	-	118	No12、No033、上層、上層W、2層	残存率1/2
169	9	弥生土器	甕	口縁部～胴部		(29.4)	-	16.6	-	-	-	(30.0)	横ナデ、ナデ	横ナデ、縦ハケ、縦、斜めハケ		にぶい黄橙10YR6(3)、灰黄褐(10YR5/2)、黒(10YR2/1)	浅黄 (2.5Y7/4)	石英、長石、角閃石	良好	-	-	118	上層、下層	残存率1/3
169	10	弥生土器	壺	ほぼ完形		(15.2)	(8.4)	19.5	-	-	-	20.4	横ナデ、縦ハケ、指頭圧痕	横ナデ、縦ハケ後ヘラミガキ、縦ハケ、ナデ、縦・斜めハケ目後斜めヘラミガキ		明黄褐(10YR7/6)	明黄褐(10YR7/6)	石英、長石、角閃石	良好	○	-	118	上層、下層、カードナシ	一部反転復元
169	11	弥生土器	壺	口縁部～底部		(9.1)	6.7	19.5	-	-	-	17.1	横ナデ、ハケ目後ナデ、指頭圧痕	横ナデ、ハケ目後ナデ		橙 (5YR6/6)	橙 (5YR6/6)	石英、長石、角閃石、輝石、雲母	やや良	○	○	118	-	外面一部に黒斑　外面口縁?胴部に赤色顔料
170	12	弥生土器	高杯	杯部～脚部		(26.3)	(17.6)	22.5	-	-	-	-	横ナデ、縦ハケ、(脚内)横ハケ、絞り、ナデ	横ナデ、斜めハケ、縦ハケ	脚部内横ハケ、絞り痕、ナデ	黄橙 (10YR8/6)	橙 (2.5YR6/8)	石英、長石、角閃石	良好	○	-	118	上層	一部反転復元、残存率;3/4　杯部口縁下に突帯１
170	13	弥生土器	高杯	杯部～脚部		(30.0)	-	-	-	-	23.0	-	斜めハケ、時計回りのハケ目	横ナデ、斜めミガキ、縦ハケ、突帯	脚部内ナデ、横ハケ、絞り痕、指頭圧痕	赤橙 (10R6/8)、橙 (7.5YR7/6)	橙 (7.5YR7/6)	石英、長石、角閃石	良好	○	-	118	上層、下層、2層ベルト	反転復元(口縁～杯部)、残存率3/5　杯部口縁下に突帯１
171	14	弥生土器	甕	口縁部		(33.8)	-	-	-	-	5.7～	-	左上り方向のハケ目後ナデ 口縁部ハケ目?磨滅により不明	横ナデ、縦方向のハケ目痕　口縁部磨滅		橙 (7.5YR6/6)	橙 (7.5YR6/6)	石英、長石、角閃石、赤褐色粒	やや良	-	-	118	-	反転復元　頸部に突帯１
171	15	弥生土器	甕	口縁部～胴部		26.8	-	-	-	-	22.9	27.2	横ナデ、横ハケ、斜めハケ、縦ハケ	横ナデ、縦ハケ、ナデ		褐灰 (10YR4/1)、黄橙 (7.5YR7/8)	にぶい褐(7.5YR6/3)、橙 (7.5YR7/6)	石英、長石、角閃石	良好	-	-	118	No11～13、1層、2層、上層、下層	反転復元
171	16	弥生土器	甕	口縁部～胴部		(22.0)	-	-	-	-	9.6～	-	ハケ目後ナデ	ハケ目後ナデ　口縁部横方向のハケ目		にぶい橙 (7.5YR7/4)	橙 (7.5YR7/6)	石英、長石、角閃石、金雲母、黒色粒、黒褐色粒、赤褐色粒	良好	-	-	118	-	反転復元
171	17	弥生土器	高杯	杯部～脚部		-	-	-	-	-	9.5～	-	ハケ目後ナデ、指頭圧痕	ハケ目後ナデ		橙 (5YR7/8)	橙 (5YR7/8)	石英、長石、角閃石、金雲母	良好	○	-	118	-	残存部1/2　外面一部に黒斑
171	18	弥生土器	器台	体部		(15.0)	(14.4)	18.5	-	-	-	-	横ナデ、斜め・横ハケ、指頭圧痕、縦・横ハケ後ナデ、縦ナデ	横ナデ、ナデ、縦・斜めハケ		浅黄 (2.5Y8/4)	橙 (5Y7/8)	石英、長石、角閃石	良好	-	-	118	1層、No26	一部反転復元、磨滅が著しい、残存率2/3
171	19	弥生土器	器台	口縁部～胴部		14.0	-	-	-	-	16.7～	-	ハケ目、指頭圧痕	縦方向のハケ目、指頭圧痕、横ナデ		橙 (7.5YR6/6)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英、長石、角閃石、金雲母、赤茶褐色粒	良好	○	-	118	-	一部反転復元　外面一部に黒斑

表(Tab)39　土器観察表（21）

図番号	版号	遺物番号	種別	器種	部位	口径	底径	器高	高台高	高台径	残存高	最大胴径	調整			色調		胎土	焼成	黒斑	赤色顔料	出土地点	層位	備考
						(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(内面)	(外面)	(その他)	(外面)	(内面)							
174	1	弥生土器	甕	口縁部～胴部		(30.0)	-	-	-	-	6.5～	-	横ナデ、縦方向ハケ目後横ナデ	横ナデ、縦方向ハケ目後横ナデ		赤褐 (5YR4/6)	明赤褐(5YR5/6)にぶい黄橙(10YR7/4)	石英、長石、角閃石、雲母、赤褐色粒	良好	-	○	126	トレ	反転復元 内外に赤色顔料 頸部に突帯１
174	2	弥生土器	甕	口縁部～胴部		-	-	-	-	-	5.1～	-	横ナデ、横方向ハケ目後横ナデ、横方向ハケ目後ナデ	横ナデ、ナデ		にぶい橙 (7.5YR7/4)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	石英、長石、角閃石、赤褐色粒	良好	-	-	126	SE	
174	3	弥生土器	甕	口縁部～胴部		(26.2)	-	-	-	-	(8.1)～	-	横ナデ、横及び斜め方向ハケ目	横ナデ、ハケ目後ナデ磨滅により一部不明瞭		にぶい褐(7.5YR5/3)にぶい橙(7.5YR7/4)	浅黄橙 (7.5YR8/6)	石英、長石、角閃石、砂粒	良好	○	-	126	No7	反転復元 口縁部に黒斑
174	4	弥生土器	器台	脚部		-	(9.6)	-	-	-	(4.8)～	-	ナデ、指頭圧痕脚部内ナデ痕器面磨滅	ハケ目、ナデ		にぶい橙 (2.5YR6/4)	橙 (5YR6/6)	石英、長石、角閃石、金雲母、黒色粒	良好	○	-	126	トレ	反転復元
174	5	弥生土器	甕	口縁部～胴部		(25.2)	-	-	-	-	8.0～	-	横ナデ、横方向ハケ目後ナデ、横方向ハケ目後斜め方向ハケ目後ナデ	横ナデ、ナデ、ハケ目？(磨滅により不明瞭)		にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英、長石、金雲母、黒色粒	良好	-	-	126	No8	反転復元 内外にスス付着
174	6	弥生土器	壺	口縁部		(9.0)	-	-	-	-	6.4～	-	横ナデ、横方向ハケ目	横ミガキ、横ナデ、縦方向ハケ目磨滅のため一部不明		赤褐 (2.5YR4/6)	赤褐 (2.5YR4/6)	石英、黒色粒	良好	-	○	126	トレ	反転復元 内外に赤色顔料
174	7	弥生土器	甕	口縁部		(21.0)	-	-	-	-	(5.95)～	-	横ナデ、ハケ目、ナデ	横ナデ、縦及び斜めハケ目		浅黄橙 (7.5YR8/4)	にぶい橙(5YR7/3)橙 (5YR7/6)	石英、長石、金雲母、黒色粒、砂粒	良好	○	-	126	No2	内外に黒斑
176	1	弥生土器	鉢	口縁部～胴部		(20.0)	-	-	-	-	18.7～	-	横ナデ、縦方向ハケ目後ナデ	横ナデ、縦方向ハケ目		にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英、長石、角閃石、赤褐色粒	良好	○	○	130	上2層	反転復元 外面一部に黒斑 外面に赤色顔料、弥生後期
176	2	弥生土器	台付鉢	口縁部～胴部		16.0	-	-	-	-	10.0～	-	ハケ目	ハケ目後ナデ		にぶい黄橙 (10YR6/4)	オリーブ黒 (7.5Y2/2)	石英、長石、角閃石、金雲母、赤褐色粒	良好	○	-	130	No7、No13、ベルト、上2層	一部反転復元 内面全面外面一部に黒斑、弥生後期？
176	3	弥生土器	ミニチュア土器(高杯)	脚部		-	-	-	-	-	3.0～	-	ナデ	工具による縦方向ナデ、指頭圧痕		橙 (7.5YR7/6)	橙 (7.5YR7/6)	石英、長石、角閃石、雲母、赤褐色粒	良好	-	-	130	上1層	一部反転復元、弥生中～後期？
176	4	弥生土器	高杯	脚部		-	(20.5)	-	-	-	8.3～	-	ハケ目後ナデ、横ナデ	縦方向ハケ目後ナデ、工具による沈線、横ナデ		橙 (7.5YR7/6)	橙 (7.5YR7/6)	石英、長石、角閃石、赤褐色粒	良好	○	-	130		一部反転復元 裾部に黒斑、弥生中～後期
176	5	弥生土器	甕	口縁部～底部		(34.6)	8.8	40.3	-	-	-	(37.8)	横ナデ	縦ハケ、横ナデ、ナデ(底部)		灰黄褐(10YR5/2)、黄橙(7.5YR8/8)、にぶい黄褐(10YR5/3)	灰黄褐(10YR5/2)、明黄褐(10YR7/6)	石英、長石、角閃石	良好	-	-	130		残存率1/3
179	1	弥生土器	壺	口縁部～胴部		(15.3)	-	-	-	-	8.3～	-	ナデ	横ナデ、ハケ		にぶい橙 (7.5YR6/4)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	石英、角閃石	良好	-	-	136	-	残存率1/6
179	2	弥生土器	甕	口縁部～胴部		(4.6)	-	-	-	-	2.2～	-	ナデ、指オサエ	ナデ、指オサエ		にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英、角閃石	やや不良	-	-	136	-	
179	3	弥生土器	甕	口縁部		-	-	-	-	-	-	-	横ナデ	ハケ、ナデ		橙 (7.5YR7/6)	橙 (7.5YR7/6)	石英、雲母	不良	-	-	136	一括	
179	4	弥生土器	甕	胴部～底部		-	9.6	-	-	-	18.6	-	ナデ(上部に一部斜めハケ薄く残る)	縦ハケ後ナデ、縦ハケ後ナデ消し	脚台内指頭圧痕、ナデ	橙 (2.5YR6/8)	橙 (2.5YR6/6)	石英、長石、角閃石、金雲母、輝石	やや不良	-	-	136		弥生中～後期、残存率;大部分完存
179	5	弥生土器	鉢	口縁部～底部		(15.0)	(7.0)	-	-	-	7.5～	-	不明	不明		にぶい黄橙 (10YR7/2)	にぶい黄橙 (10YR7/2)	石英、角閃石	不良	○	-	136	-	残存率1/4
181	1	弥生土器	甕	口縁部		-	-	-	-	-	3.8～	-	横ナデ	横ナデ		にぶい橙 (7.5YR7/4)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	石英、長石、角閃石	良好	-	-	139	-	
181	2	弥生土器	甕	口縁部		(29.0)	-	-	-	-	2.7～	-	横ナデ	横ナデ		にぶい橙 (7.5YR6/4)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	石英、長石、角閃石	良好	-	-	139	No1	
181	3	弥生土器	甕	口縁部～胴部		(24.2)	-	-	-	-	8.1～	-	ハケ目後横ナデ、斜め方向のハケ目	ハケ目後横ナデ、ハケ目後ナデ		にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英、長石、角閃石	良好	-	-	139	-	反転復元
181	4	弥生土器	甕	口縁部～胴部		32.2	-	-	-	-	11.8	-	横ハケ、縦ハケ	縦ハケ後ナデ、縦ハケ後ナデ消し		黒褐 (10YR3/1)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英、長石、角閃石、金雲母、輝石	良好	○	-	139	No5～7	ススあり、弥生後期、残存率;口縁の1/2弱頸部に突帯１
181	5	弥生土器	甕	口縁部～底部		(30.5)	-	33.6	-	-	-	29.4	横ナデ、ナデ、縦ハケ後ナデ	横ナデ、縦ハケ		明黄褐(5YR5/8)、オリーブ黒(5Y3/1)	浅黄 (2.5Y7/4)	石英、長石、角閃石	良好	-	-	139	No1	残存率3/5
182	6	弥生土器	ミニチュア土器(鉢)	口縁部		(4.0)	-	-	-	-	3.0～	-	横ナデ	横ナデ		浅黄橙 (7.5YR8/4)	浅黄橙 (7.5YR8/4)	石英、長石	良好	-	-	139	-	
182	7	弥生土器	鉢	口縁部～底部		12.6	5.6	7.2	-	-	-	-	ナデ	ナデ		にぶい橙 (7.5YR7/4)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	石英、長石、角閃石、黒・金雲母、輝石、赤褐色砂粒	良好	○	-	139	No3、No4	刻目痕、部分的に赤色顔料残存、弥生中～後期、残存率1/2強
182	8	弥生土器	高杯	杯底部～脚上部		-	-	-	-	-	8.4	-	(杯)ナデ、指頭圧痕、(脚)ナデ、絞り痕	ハケ後ナデ	脚部内ナデ、絞り痕	にぶい黄橙 (10YR7/3)	褐灰 (10YR6/1)	石英、長石、角閃石、黒・金雲母、赤褐色砂粒	良好	-	-	139	No5	弥生中～後期、残存率;頸部の1/2強

表(Tab)40　土器観察表 (22)

図番号	版遺物番号	種別	器種	部位	口径	底径	器高	高台高	高台径	残存高	最大胴径	調整			色調		胎土	焼成	黒斑	赤色顔料	出土地点	層位	備考
					(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(内面)	(外面)	(その他)	(外面)	(内面)							
183	1	弥生土器	甕	口縁部～胴部	(28.2)	-	-	-	-	18.5	(30.2)	ハケ目後ナデ	ハケ目、ナデ、横ナデ		にぶい黄橙(10YR8/2)	浅黄橙(10YR8/3)	石英、長石、角閃石	良好	-	-	036	No1、No2、No3、No4	赤彩か？残存率1/4
184	1	弥生土器	甕	底部	-	9.6	-	-	-	6.3～	-	ハケ目、横ナデ	ハケ目、横ナデ		橙 (7.5YR6/6)	にぶい黄(2.5Y6/3)	石英、角閃石、褐色粒	良好	-	-	067	黒色ⅢA	一部反転復元　高台内面にスリップらしき跡有り
184	2	弥生土器	鉢	口縁部～底部	(11.2)	-	-	-	-	4.8～	-	ナデ、指頭圧痕	ナデ、指頭圧痕		にぶい橙(7.5YR7/4)	にぶい橙(7.5YR7/4)	石英、角閃石、金雲母	良好	-	-	067	上層、2層	
184	3	弥生土器	台付鉢(注口有り)	口縁部～底部	(6.8)	-	-	-	-	8.7～	-	横ナデ、指押さえナデ　磨滅が著しい	横ナデ、縦方向ハケ目　磨滅が著しい		にぶい黄橙(10YR7/3)	にぶい黄橙(10YR7/3)	石英、長石、角閃石、黒色粒	良好	-	-	067	3層、G-8黒色ⅢA	反転復元　胴部に穿孔(おそらく注口がつく)
184	4	弥生土器	甕	口縁部～胴部	(29.4)	-	-	-	-	25.7	(31.3)	横ナデ、ナデ	横ナデ、縦ハケ後横ナデ、斜めハケ、タタキ後斜めハケ		にぶい黄橙(10YR6/3)、にぶい橙(5YR6/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)、浅黄橙(7.5YR8/4)	石英、長石、角閃石、雲母、輝石赤褐色砂粒	良好	-	-	067		反転復元　頸部に突帯１
186	1	弥生土器	甕	口縁部～胴部	(28.6)	-	-	-	-	19.3～	(26.7)	横・斜め方向ハケ目、横ナデ、指頭圧痕	横・斜め方向ハケ目後横ナデ消し		にぶい黄橙(10YR6/3)	にぶい黄橙(10YR7/4)	石英、長石、角閃石、輝石、金雲母	良好	-	-	085	No１０、No11	反転復元
186	2	弥生土器	壺	口縁部～胴部	(19.8)	-	-	-	-	10.3～	-	横ナデ、ナデ、ハケ目痕	刻目、横ナデ、ハケ目、横ハケ後ナデ、鉤状突帯、顔料痕		にぶい黄橙(10YR7/4)明赤褐(5YR5/6)	にぶい黄橙(10YR7/4)明赤褐(5YR5/6)	石英、長石、角閃石、雲母	良好	-	-	085		反転復元　胴部に鉤状突帯１
187	1	弥生土器	甕	口縁部～胴部	(28.1)	-	-	-	-	10.2～	-	横ナデ、ハケ目	横ナデ、ハケ目		にぶい黄橙(10YR6/3)	にぶい黄橙(10YR6/3)	石英、角閃石、金雲母、赤褐色粒	良好	○	-	109	No41～43	一部反転復元　内外に黒斑
187	2	弥生土器	甕	口縁部	(28.0)	-	-	-	-	9.2～	-	横ナデ、縦ハケ目	ナデ		にぶい黄(10YR5/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	石英、長石、角閃石、輝石、金雲母	良好	-	-	109	No４１、No57	反転復元
187	3	弥生土器	甕	底部	-	9.2	6.9	-	-	-	-	ナデ	ナデ、縦ハケ目		明黄褐(10YR7/6)	橙 (7.5YR7/6)	石英、長石、角閃石、輝石	良好	○	-	109	No44	内面に黒斑
187	4	弥生土器	甕	口縁部	(33.4)	-	-	-	-	7.9～	-	横ナデ、ナデ	横ナデ、横ハケ目後暗文		赤 (10YR4/6)	赤 (10YR4/6)	石英、長石、角閃石、金雲母	良好	-	○	109	No47	反転復元　内外に赤色顔料　口縁端部に刻目　頸部にM字型突帯１
187	5	弥生土器	壺	口縁部～胴部	(21.4)	-	-	-	-	12.0～	-	横ナデ、横ハケ目、指頭圧痕	横ナデ、ハケ目痕　磨滅のため一部不明瞭		橙 (7.5YR7/6)	橙 (7.5YR6/6)	石英、長石、角閃石、赤褐色粒	良好	-	-	109	No４３、No46	反転復元
189	1	弥生土器	甕	ほぼ完形	23.6	7.8	29.3	-	-	-	27.4	縦ハケ、ハケ目後ナデ、ナデ、指頭圧痕	縦ハケ後ミガキ、横ナデ、貼付突帯		浅黄橙(10YR8/4)	橙 (5YR7/8)	石英、長石、角閃石	良好	-	-	125	土坑、No１、No4、No9、No11～14、No16	胴部に突帯１
189	2	弥生土器	甕	胴部～底部	-	7.4	-	-	-	26.1～	29.2	横方向のハケ目、縦方向のハケ目後ナデ、縦方向のハケ目、指頭圧痕	左上り方向のハケ目、横ナデ　縦方向のハケ目、ナデ		浅黄橙(10YR8/4)	にぶい黄橙(10YR7/3)	石英、長石、角閃石、金雲母、黒色粒、赤褐色粒	良好	○	-	125	No2、No3、No6～8、No10、No15、土坑、下層	一部反転復元　外面にススor黒斑あり、弥生中期後半　胴部に刻目突帯１
191	1	弥生土器	甕	口縁部	-	-	-	-	-	8.5～	-	不明	不明		浅黄橙(10YR8/4)	浅黄橙(10YR8/4)	石英、角閃石	やや不良	-	-	133	-	風化により調整不明
191	2	弥生土器	甕	口縁部	-	-	-	-	-	3.4～	-	横ナデ	横ナデ		浅黄橙(10YR8/4)	浅黄橙(10YR8/4)	石英、長石、角閃石	良好	-	-	133	-	
191	3	弥生土器	鉢	口縁部～胴部	-	-	-	-	-	4.5～	-	横ナデ、ナデ	横ナデ、縦ハケ		橙 (5YR7/6)	橙 (5YR7/6)	石英、長石、角閃石	良好	-	-	133	-	
191	4	弥生土器	甕	口縁部	(31.0)	-	-	-	-	10.0～	-	横ナデ	横ナデ		明黄褐(10YR7/6)	明黄褐(10YR7/6)	石英	不良	-	-	133	-	
191	5	弥生土器	甕	口縁部	(33.5)	-	-	-	-	8.0～	-	横ナデ	横ナデ		にぶい橙(10YR6/4)	明黄褐(10YR7/6)	石英、長石、角閃石	良好	-	-	133	Eカリ2層、W1･2層	硬質
191	6	弥生土器	甕	口縁部	(28.0)	-	-	-	-	2.4～	-	横ナデ	横ナデ		にぶい橙(7.5YR7/4)	にぶい橙(7.5YR7/4)	石英、長石、角閃石	良好	-	-	133	W-1･2層	
191	7	弥生土器	甕	口縁部～胴部	(29.4)	-	-	-	-	5.7～	-	不明	不明		橙 (2.5YR6/8)	赤褐 (2.5YR4/6)	石英、長石、雲母、黒色砂粒	良好	-	-	133	W-1･2層	反転復元
191	8	弥生土器	甕	口縁部	(33.0)	-	-	-	-	8.1～	-	ハケ目後ナデ	ナデ、ハケ目後横ナデ		浅黄橙(10YR8/3)	浅黄橙(10YR8/3)	石英、長石、角閃石、輝石	良好	-	-	133	W-1･2層	反転復元
191	9	弥生土器	壺	底部	-	7.6	-	-	-	4.2～	-	ハケ	ハケ		にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	石英・長石・角閃石	良好	-	-	133	W-1･2層	
192	10	弥生土器	鉢	口縁部～胴部	19.2	-	-	-	-	8.7	22.2	ハケ後ナデ	ハケ後縦ナデ、(口縁部付近)斜めハケ、穿孔、(体部)ナデ消し		にぶい黄橙(10YR6/3)	浅黄 (2.5Y7/3)	石英、長石、金雲母	良好	○	-	133	W1･2層	焼成前に穿孔(蓋とのからみ)、弥生中～後期、残存率;約1/8　口縁部に穿孔
192	11	弥生土器	高杯	杯底部～脚上部	-	-	-	-	-	6.0	-	絞り痕	ナデ		明赤褐 (2.5YR5/6)	橙 (5YR6/6)	石英、長石、角閃石、雲母、輝石	良好	-	○	133	3-4層	赤色顔料塗布、弥生中後？器種;須玖Ⅱ式？残存率;頸部付近のみ
192	12	弥生土器	甕	口縁部	-	-	-	-	-	5.9～	-	ハケ目	不明		明黄褐(10YR7/6)	明黄褐(10YR7/6)	石英、長石、角閃石、赤褐色砂粒	良好	-	-	134	-	

表(Tab)41　土器観察表（23）

図版番号	遺物番号	種別	器種	部位	口径	底径	器高	高台高	高台径	残存高	最大胴径	調整			色調		胎土	焼成	黒斑	赤色顔料	出土地点	層位	備考
					(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(内面)	(外面)	(その他)	(外面)	(内面)							
192	13	弥生土器	甕	口縁部	-	-	-	-	-	5.4～	-	横ナデ、ナデ	不明		にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英、長石、角閃石、赤褐色砂粒	良好	-	-	134	-	
193	1	弥生土器	甕	口縁部～底部	20.3	-	27.1	-	-	-	21.0	斜めハケ後ナデ、縦ハケ後ナデ	横ナデ、縦ハケ後横タタキ、縦ハケ後ナデ		浅黄橙(10YR8/4)、浅黄 (2.5Y7/3)	にぶい黄(2.5Y6/4)、浅黄 (2.5Y7/4)	石英、長石、角閃石	良好	○	-	138	No16	外面の胴部に黒斑、内面の胴部にスス付着、残存率4/5
193	2	弥生土器	甕	完形	18.7	9.3	25.5	-	-	-	19.4	横ナデ、縦ハケ、縦ハケ後ナデ	横ナデ、縦ハケ後ナデ		淡黄 (2.5Y8/3)	淡黄 (2.5Y8/3)	石英、長石、角閃石	良好	○	-	138	No13	胴部に黒斑、脚内に砂粒付着
193	3	弥生土器	甕	口縁部～底部	(18.8)	7.0	22.8	-	-	-	19.5	不明、工具のあたり痕？	横ナデ、縦ハケ、ナデ		明黄褐 (2.5Y7/6)、黄褐 (2.5Y6/2)	灰黄 (2.5Y6/2)	石英、長石、角閃石	良好	-	-	138	No7	内面の胴部上位に穿孔がみられる、残存率3/5
193	4	弥生土器	器台	口縁～底部	11.9	12.2	15.1	-	-	-	6.0	横ナデ、ナデ、斜めハケ	横ナデ、縦ハケ		黄橙 (7.5YR7/8)	黄橙 (7.5YR7/8)	石英、長石、角閃石	良好	-	-	138	No19	残存率3/5
193	5	弥生土器	甕	胴部～底部	-	6.3	12.3	-	-	-	-	縦ハケ後ナデ	不明		黄灰 (2.5Y4/1)、浅黄 (2.5Y7/3)	黒 (7.5Y2/1)	石英、長石、角閃石	やや軟	-	-	138	No25	残存率;底部付近のみ
193	6	弥生土器	器台	体部	14.3	-	-	-	-	(14.8)	-	横ナデ、斜めハケ後横ナデ、縦ハケ	横ナデ、縦ハケ		明黄褐(10YR7/6)	橙 (5YR6/8)	石英、長石、角閃石	良好	-	-	138	No18	口縁部(にぶい黄橙 10YR7/4)、残存率3/5
194	7	弥生土器	壺	ほぼ完形	19.7	8.5	31.0	-	-	-	30.5	工具痕	横ナデ、縦ハケ後縦・横ヘラミガキ、突帯(上部・下部)		浅黄 (2.5Y7/4)	黄灰 (2.5Y5/1)	石英、長石、角閃石	良好	○	-	138	No22	口縁部の一部が対角線上か互いに抉り状に割れており意図的か？ 胴部に突帯２
194	8	弥生土器	台付き鉢	完形	12.2	8.0	14.4	-	-	-	13.6	斜めハケ、縦ハケ	横ナデ、縦ハケ後ナデ		浅黄 (2.5Y7/4)、暗灰黄(2.5Y5/2)	灰黄 (2.5Y6/2)	石英、長石、角閃石	良好	○	-	138	No17	外面の体部に黒斑、内面の体部～底部にスス付着
194	9	弥生土器	甕	口縁部～胴部	29.8	-	-	-	-	(7.4)～	-	ハケ目痕、横ナデ、器面の大部分が磨滅	横ナデ、ハケ目後ナデ		にぶい褐(7.5YR5/3)にぶい橙(7.5YR6/4)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	石英、角閃石、雲母、砂粒	良好	○	-	138	No15、下層	反転復元　外面一部に黒斑
194	10	弥生土器	甕	口縁部	(36.8)	-	-	-	-	6.4～	-	横ナデ、右斜めハケ目	ナデ		橙 (5YR7/8)	橙 (5YR7/6)	石英、長石、雲母、輝石	良好	-	-	138	No6	
194	11	弥生土器	壺	口縁部	(11.5)	-	-	-	-	5.3～	-	横ナデ、ヘラナデ、しぼり痕	横ナデ、縦方向ハケ目		赤褐 (2.5YR4/6)	赤褐 (2.5YR4/6)	石英、長石、角閃石、金雲母	良好	○	○	138	No28	反転復元　内外に黒斑　内外に赤色顔料
194	12	弥生土器	壺	底部	-	7.2	-	-	-	2.6～	-	縦・斜め方向ハケ目、爪痕	縦・斜め方向ハケ目底面多方向ハケ目		明黄褐(10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR6/3)	石英、角閃石	良好	-	-	138	No3	
194	13	弥生土器	甕	底部	-	9.2	-	-	-	4.6～	-	磨滅により不明脚部内横ナデ	縦方向ハケ目、横ナデ		にぶい橙 (7.5YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英、角閃石、黒色粒	良好	-	-	138	No21	一部反転復元
196	1	弥生土器	甕	口縁部	29.8	-	-	-	-	4.2～	-	横ナデ	横ナデ		明黄褐 (5YR5/6)	橙 (5YR6/6)	石英、長石、雲母	良好	-	-	046	C-5	
196	2	弥生土器	甕	口縁部	-	-	-	-	-	6.3～	-	不明	不明		にぶい黄橙 (10YR7/3)	浅黄橙(10YR8/4)	石英、長石、角閃石、赤褐色粒	不良	-	-	046	C-5	
196	3	弥生土器	甕	底部	-	9.1	-	-	-	5.9～	-	ナデ、指頭圧痕	ハケ目後横ナデ	脚内部ナデ	橙 (5YR6/6)	にぶい黄褐 (10YR5/3)	石英、長石、角閃石、金雲母	良好	-	-	046	C-5	
196	4	弥生土器	甕	口縁部～胴部	28.3	-	-	-	-	15.1	27.8	縦ハケ	縦ハケ、ヘラナデ(下部)		にぶい黄褐 (10YR5/4)	にぶい黄褐 (10YR5/4)	石英、長石、角閃石、雲母	良好	-	-	046	-	内外面スス付着、弥生後期、残存率1/2未満
196	5	弥生土器	甕	口縁部～胴部	(32.0)	-	-	-	-	20.8	31.4	ハケ目後ナデ	ハケ目後ナデ、横ナデ		にぶい黄橙 (10YR6/3)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英、長石、角閃石、雲母	良好	-	-	046	-	弥生後期、残存率;口縁1/3
196	6	弥生土器	器台	体部	13.8	-	-	-	-	13.7	-	ハケ目後ナデ、ナデ、指頭圧痕	横ナデ、ハケ目、ハケ目後ナデ		橙 (7.5YR7/6)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	石英、長石、雲母、茶褐色砂粒	良好	-	-	046	-	籾の圧痕あり、弥生後期、残存率1/3
196	7	弥生土器	高杯	口縁部	-	-	-	-	-	4.0～	-	縦ハケ目後横ナデ、横ナデ	縦ハケ目、横ナデ		明赤褐 (2.5YR5/6)	明赤褐 (2.5YR5/6)	石英、長石、角閃石	良好	-	○	046	C-5	内外に赤色顔料
197	8	弥生土器	鉢	口縁部～胴部	(16.8)	-	-	-	-	12.0	-	ナデ、横ナデ、工具ナデ	横ナデ、ナデ、工具ナデ		橙 (5YR7/6)	橙 (5YR7/6)	石英、長石、角閃石	良好	○	-	046	-	弥生中～後期
197	9	弥生土器	壺	胴部～底部	-	(9.1)	-	-	-	22.6	-	ナデ、指頭圧痕、工具痕	ハケ目、ナデ		にぶい橙(7.5YR7/4)、橙 (7.5YR6/6)	橙 (7.5YR7/6)	石英、長石、角閃石、雲母、輝石	良好	○	-	046	-	丹塗りの可能性あり、弥生後期？残存率1/2
199	1	弥生土器	甕	口縁部～胴部	(16.0)	-	-	-	-	8.2～	-	ハケ目後ナデ	ハケ目後横ナデ、ハケ目後ナデ		にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英、角閃石、金雲母	良好	-	-	088	No10	反転復元　内外面にスス付着
199	2	弥生土器	壺	胴部	-	-	-	-	-	16.9～	(17.8)	指頭圧痕、指圧後ナデ、ハケ目	ハケ目、ハケ目後ナデ		赤褐 (5YR4/6)	黒褐 (10YR3/1)	石英、角閃石、金雲母	良好	○	○	088		内全面及び外面一部に黒斑　外面一部に赤色顔料
199	3	弥生土器	壺	口縁部～胴部	26.4	-	-	-	-	18.7	27.4	ナデ、横ナデ	縦、斜めハケ、横ナデ	口縁部　横ナデ	橙 (2.5YR7/8)	浅黄 (2.5Y7/4)	石英、長石、角閃石	良好	○	-	088		一部反転復元　外面に黒斑、残存率3/4

表(Tab)42　土器観察表 (24)

図版番号	遺物番号	種別	器種	部位	口径	底径	器高	高台高	高台径	残存高	最大胴径	調整			色調		胎土	焼成	黒斑	赤色顔料	出土地点	層位	備考
					(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(内面)	(外面)	(その他)	(外面)	(内面)							
199	4	弥生土器	甕	口縁部～底部	(27.3)	9.8	31.6	-	-	-	(25.9)	工具によるナデ後ナデ、指頭圧痕	横ナデ、縦ハケ	底部内面 指による調整	明赤褐(5YR5/8)、浅黄(2.5Y8/3)、暗灰黄(2.5Y7/3)	浅黄 (2.5Y7/3)	石英、長石、角閃石、雲母	良好	○	-	088	No3、No5、No6、No7、No8、No9、No11～13、No15、No16、No17、No19、No20、No21、No23、No25～29、上層	一部反転復元　内面に指頭圧痕　外面に黒斑、残存率3/4
200	5	弥生土器	甕？	胴部	-	-	-	-	-	21.0～	(32.5)	ハケ目後ナデ	ハケ目後ナデ		にぶい橙 (7.5YR7/3)	暗褐灰 (7.5YR7/2)	石英、長石、角閃石、黒色粒、黒褐色粒、赤褐色粒	良好	-	-	088	No2、No7、No32～35	残存率1/2　反転復元　内外一部にスス付着　胴部に刻目突帯１
200	6	弥生土器	甕	胴部	-	(13.6)	-	-	-	31.7	(30.3)	工具によるナデ後ナデ	横ナデ、ハケ目後横ナデ		浅黄橙(10YR8/4)	灰 (N4/)、暗灰(N3/)	石英、長石、角閃石	良好	○	-	088	No2、No3、No5、No6、No7、No8、No9、No11、No12、No13、No14、No15、No16、No17、No18、No19、No20、No21、No22、No23、No24、No25、No26、No27、No28、No29、No30、No31、No32、No33、No34、No35、No36、No37、No38、No39、No40、No41、No42、No43、No44、No45、No46、No47、No48、No49、No50、No51、No52、No53、No54、No55、No56、No57、No58、No59、No60、No61、No62、No63、No64、No65、No66、No67、No68、No69、No70、No71、No72、No73、No74、No75、No76、No77、No78、No79、No80、No81、No82、No83、No84、No85、No86、No87、No88、No89、No90、No91、No92、No93、No94、No95、No96、No97、No98、No99、No100、No101、No102、No103、No104、No105、No106、No107、No108、No109、No110、No111、No112、No113、No114、No115、No116、No117、No118、No119、No120、No121、No122、No123、No124、No125、No126、No127、No128、No129、No130、No131、No132、No133、No134、No135、No136、No137、No138、No139、No140、No141、No142、No143、No144、No145、No146、No147、No148、No149、No150、No151、No152、No153、No154、No155、No156、No157、No158、No159、No160、No161、No162、No163、No164、No165、No166、No167、No168、No169、No170、No171、No172、No173、No174、No175、No176、No177、No178、No179、No180、No181、No182、No183、No184、No185、No186、No187、No188、No189、No190、No191、No192、No193、No194、No195、No196、No197、No198、No199、No200、No201、No202、No203、No204、No205、No206、No207、No208、No209、No210、No211、No212、No213、No214、No215、No216、No217、No218、No219、No220、No221、No222、No223、No224、No225、No226、No227、No228、No229、No230、No231、No232、No233、No234、No235、No236、No237、No238、No239、No240、No241、No242、No243、No244、No245、No246、No247、No248、No249、No250、No251、No252、No253、No254、No255、No256、No257、No258、No259、No260、No261、No262、No263、No264、No265、No266、No267、No268、No269、No270、No271、No272、No273、No274、No275、No276、No277、No278、No279、No280、No281、No282、No283、No284、No285、No286、No287、No288、No289、No290、No291、No292、No293、No294、No295、No296、No297、No298、No299、No300、No301、No302、No303、No304、No305、No306、No307、No308、No309、No310、No311、No312、No313、No314、No315、No316、No317、No318、No319、No320、No321、No322、No323、No324、No325、No326、No327、No328、No329、No330、No331、No332、No333、No334、No335、No336、No337、No338、No339、No340、No341、No342、No343、No344、No345、No346、No347、No348、No349、No350、No351、No352、No353、No354、No355、No356、No357、No358、No359、No360、No361、No362、No363、No364、No365、No366、No367、No368、No369、No370、No371、No372、No373、No374、No375、No376、No377、No378、No379、No380、No381、No382、No383、No384、No385、No386、No387、No388、No389、No390、No391、No392、No393、No394、No395、No396、No397、No398、No399、No400、No401、No402、No403、No404、No405、No406、No407、No408、No409、No410、No411、No412、No413、No414、No415、No416、No417、No418、No419、No420、No421、No422、No423、No424、No425、No426、No427、No428、No429、No430、No431、No432、No433、No434、No435、No436、No437、No438、No439、No440、No441、No442、No443、No444、No445、No446、No447、No448、No449、No450、No451、No452、No453、No454、No455、No456、No457、No458、No459、No460、No461、No462、No463、No464、No465、No466、No467、No468、No469、No470、No471、No472、No473、No474、No475、No476、No477、No478、No479、No480、No481、No482、No483、No484、No485、No486、No487、No488、No489、No490、No491、No492、No493、No494、No495、No496、No497、No498、No499、No500、No501、No502、No503、No504、No505、No506、No507、No508、No509、No510、No511、No512、No513、No514、No515、No516、No517、No518、No519、No520、No521、No522、No523、No524、No525、No526、No527、No528、No529、No530、No531、No532、No533、No534、No535、No536、No537、No538、No539、No540、No541、No542、No543、No544、No545、No546、No547、No548、No549、No550、No551、No552、No553、No554、No555、No556、No557、No558、No559、No560、No561、No562、No563、No564、No565、No566、No567、No568、No569、No570、No571、No572、No573、No574、No575、No576、No577、No578、No579、No580、No581、No582、No583、No584、No585、No586、No587、No588、No589、No590、No591、No592、No593、No594、No595、No596、No597、No598、No599、No600、No601、No602、No603、No604、No605、No606、No607、No608、No609、No610、No611、No612、No613、No614、No615、No616、No617、No618、No619、No620、No621、No622、No623、No624、No625、No626、No627、No628、No629、No630、No631、No632、No633、No634、No635、No636、No637、No638、No639、No640、No641、No642、No643、No644、No645、No646、No647、No648、No649、No650、No651、No652、No653、No654、No655、No656、No657、No658、No659、No660、No661、No662、No663、No664、No665、No666、No667、No668、No669、No670、No671、No672、No673、No674、No675、No676、No677、No678、No679、No680、No681、No682、No683、No684、No685、No686、No687、No688、No689、No690、No691、No692、No693、No694、No695、No696、No697、No698、No699、No700、No701、No702、No703、No704、No705、No706、No707、No708、No709、No710、No711、No712、No713、No714、No715、No716、No717、No718、No719、No720、No721、No722、No723、No724、No725、No726、No727、No728、No729、No730、No731、No732、No733、No734、No735、No736、No737、No738、No739、No740、No741、No742、No743、No744、No745、No746、No747、No748、No749、No750、No751、No752、No753、No754、No755、No756、No757、No758、No759、No760、No761、No762、No763、No764、No765、No766、No767、No768、No769、No770、No771、No772、No773、No774、No775、No776、No777、No778、No779、No780、No781、No782、No783、No784、No785、No786、No787、No788、No789、No790、No791、No792、No793、No794、No795、No796、No797、No798、No799、No800、No801、No802、No803、No804、No805、No806、No807、No808、No809、No810、No811、No812、No813、No814、No815、No816、No817、No818、No819、No820、No821、No822、No823、No824、No825、No826、No827、No828、No829、No830、No831、No832、No833、No834、No835、No836、No837、No838、No839、No840、No841、No842、No843、No844、No845、No846、No847、No848、No849、No850、No851、No852、No853、No854、No855、No856、No857、No858、No859、No860、No861、No862、No863、No864、No865、No866、No867、No868、No869、No870、No871、No872、No873、No874、No875、No876、No877、No878、No879、No880、No881、No882、No883、No884、No885、No886、No887、No888、No889、No890、No891、No892、No893、No894、No895、No896、No897、No898、No899、No900、No901、No902、No903、No904、No905、No906、No907、No908、No909、No910、No911、No912、No913、No914、No915、No916、No917、No918、No919、No920、No921、No922、No923、No924、No925、No926、No927、No928、No929、No930、No931、No932、No933、No934、No935、No936、No937、No938、No939、No940、No941、No942、No943、No944、No945、No946、No947、No948、No949、No950、No951、No952、No953、No954、No955、No956、No957、No958、No959、No960、No961、No962、No963、No964、No965、No966、No967、No968、No969、No970、No971、No972、No973、No974、No975、No976、No977、No978、No979、No980、No981、No982、No983、No984、No985、No986、No987、No988、No989、No990、No991、No992、No993、No994、No995、No996、No997、No998、No999、No1000、No1001、No1002、No1003、No1004、No1005、No1006、No1007、No1008、No1009、No1010、No1011、No1012、No1013、No1014、No1015、No1016、No1017、No1018、No1019、No1020、No1021、No1022、No1023、No1024、No1025、No1026、No1027、No1028、No1029、No1030、No1031、No1032、No1033、No1034、No1035、No1036、No1037、No1038、No1039、No1040、No1041、No1042、No1043、No1044、No1045、No1046、No1047、No1048、No1049、No1050、No1051、No1052、No1053、No1054、No1055、No1056、No1057、No1058、No1059、No1060、No1061、No1062、No1063、No1064、No1065、No1066、No1067、No1068、No1069、No1070、No1071、No1072、No1073、No1074、No1075、No1076、No1077、No1078、No1079、No1080、No1081、No1082、No1083、No1084、No1085、No1086、No1087、No1088、No1089、No1090、No1091、No1092、No1093、No1094、No1095、No1096、No1097、No1098、No1099、No1100、No1101、No1102、No1103、No1104、No1105、No1106、No1107、No1108、No1109、No1110、No1111、No1112、No1113、No1114、No1115、No1116、No1117、No1118、No1119、No1120、No1121、No1122、No1123、No1124、No1125、No1126、No1127、No1128、No1129、No1130、No1131、No1132、No1133、No1134、No1135、No1136、No1137、No1138、No1139、No1140、No1141、No1142、No1143、No1144、No1145、No1146、No1147、No1148、No1149、No1150、No1151、No1152、No1153、No1154、No1155、No1156、No1157、No1158、No1159、No1160、No1161、No1162、No1163、No1164、No1165、No1166、No1167、No1168、No1169、No1170、No1171、No1172、No1173、No1174、No1175、No1176、No1177、No1178、No1179、No1180、No1181、No1182、No1183、No1184、No1185、No1186、No1187、No1188、No1189、No1190、No1191、No1192、No1193、No1194、No1195、No1196、No1197、No1198、No1199、No1200、No1201、No1202、No1203、No1204、No1205、No1206、No1207、No1208、No1209、No1210、No1211、No1212、No1213、No1214、No1215、No1216、No1217、No1218、No1219、No1220、No1221、No1222、No1223、No1224、No1225、No1226、No1227、No1228、No1229、No1230、No1231、No1232、No1233、No1234、No1235、No1236、No1237、No1238、No1239、No1240、No1241、No1242、No1243、No1244、No1245、No1246、No1247、No1248、No1249、No1250、No1251、No1252、No1253、No1254、No1255、No1256、No1257、No1258、No1259、No1260、No1261、No1262、No1263、No1264、No1265、No1266、No1267、No1268、No1269、No1270、No1271、No1272、No1273、No1274、No1275、No1276、No1277、No1278、No1279、No1280、No1281、No1282、No1283、No1284、No1285、No1286、No1287、No1288、No1289、No1290、No1291、No1292、No1293、No1294、No1295、No1296、No1297、No1298、No1299、No1300、No1301、No1302、No1303、No1304、No1305、No1306、No1307、No1308、No1309、No1310、No1311、No1312、No1313、No1314、No1315、No1316、No1317、No1318、No1319、No1320、No1321、No1322、No1323、No1324、No1325、No1326、No1327、No1328、No1329、No1330、No1331、No1332、No1333、No1334、No1335、No1336、No1337、No1338、No1339、No1340、No1341、No1342、No1343、No1344、No1345、No1346、No1347、No1348、No1349、No1350、No1351、No1352、No1353、No1354、No1355、No1356、No1357、No1358、No1359、No1360、No1361、No1362、No1363、No1364、No1365、No1366、No1367、No1368、No1369、No1370、No1371、No1372、No1373、No1374、No1375、No1376、No1377、No1378、No1379、No1380、No1381、No1382、No1383、No1384、No1385、No1386、No1387、No1388、No1389、No1390、No1391、No1392、No1393、No1394、No1395、No1396、No1397、No1398、No1399、No1400、No1401、No1402、No1403、No1404、No1405、No1406、No1407、No1408、No1409、No1410、No1411、No1412、No1413、No1414、No1415、No1416、No1417、No1418、No1419、No1420、No1421、No1422、No1423、No1424、No1425、No1426、No1427、No1428、No1429、No1430、No1431、No1432、No1433、No1434、No1435、No1436、No1437、No1438、No1439、No1440、No1441、No1442、No1443、No1444、No1445、No1446、No1447、No1448、No1449、No1450、No1451、No1452、No1453、No1454、No1455、No1456、No1457、No1458、No1459、No1460、No1461、No1462、No1463、No1464、No1465、No1466、No1467、No1468、No1469、No1470、No1471、No1472、No1473、No1474、No1475、No1476、No1477、No1478、No1479、No1480、No1481、No1482、No1483、No1484、No1485、No1486、No1487、No1488、No1489、No1490、No1491、No1492、No1493、No1494、No1495、No1496、No1497、No1498、No1499、No1500、No1501、No1502、No1503、No1504、No1505、No1506、No1507、No1508、No1509、No1510、No1511、No1512、No1513、No1514、No1515、No1516、No1517、No1518、No1519、No1520、No1521、No1522、No1523、No1524、No1525、No1526、No1527、No1528、No1529、No1530、No1531、No1532、No1533、No1534、No1535、No1536、No1537、No1538、No1539、No1540、No1541、No1542、No1543、No1544、No1545、No1546、No1547、No1548、No1549、No1550、No1551、No1552、No1553、No1554、No1555、No1556、No1557、No1558、No1559、No1560、No1561、No1562、No1563、No1564、No1565、No1566、No1567、No1568、No1569、No1570、No1571、No1572、No1573、No1574、No1575、No1576、No1577、No1578、No1579、No1580、No1581、No1582、No1583、No1584、No1585、No1586、No1587、No1588、No1589、No1590、No1591、No1592、No1593、No1594、No1595、No1596、No1597、No1598、No1599、No1600、No1601、No1602、No1603、No1604、No1605、No1606、No1607、No1608、No1609、No1610、No1611、No1612、No1613、No1614、No1615、No1616、No1617、No1618、No1619、No1620、No1621、No1622、No1623、No1624、No1625、No1626、No1627、No1628、No1629、No1630、No1631、No1632、No1633、No1634、No1635、No1636、No1637、No1638、No1639、No1640、No1641、No1642、No1643、No1644、No1645、No1646、No1647、No1648、No1649、No1650、No1651、No1652、No1653、No1654、No1655、No1656、No1657、No1658、No1659、No1660、No1661、No1662、No1663、No1664、No1665、No1666、No1667、No1668、No1669、No1670、No1671、No1672、No1673、No1674、No1675、No1676、No1677、No1678、No1679、No1680、No1681、No1682、No1683、No1684、No1685、No1686、No1687、No1688、No1689、No1690、No1691、No1692、No1693、No1694、No1695、No1696、No1697、No1698、No1699、No1700、No1701、No1702、No1703、No1704、No1705、No1706、No1707、No1708、No1709、No1710、No1711、No1712、No1713、No1714、No1715、No1716、No1717、No1718、No1719、No1720、No1721、No1722、No1723、No1724、No1725、No1726、No1727、No1728、No1729、No1730、No1731、No1732、No1733、No1734、No1735、No1736、No1737、No1738、No1739、No1740、No1741、No1742、No1743、No1744、No1745、No1746、No1747、No1748、No1749、No1750、No1751、No1752、No1753、No1754、No1755、No1756、No1757、No1758、No1759、No1760、No1761、No1762、No1763、No1764、No1765、No1766、No1767、No1768、No1769、No1770、No1771、No1772、No1773、No1774、No1775、No1776、No1777、No1778、No1779、No1780、No1781、No1782、No1783、No1784、No1785、No1786、No1787、No1788、No1789、No1790、No1791、No1792、No1793、No1794、No1795、No1796、No1797、No1798、No1799、No1800、No1801、No1802、No1803、No1804、No1805、No1806、No1807、No1808、No1809、No1810、No1811、No1812、No1813、No1814、No1815、No1816、No1817、No1818、No1819、No1820、No1821、No1822、No1823、No1824、No1825、No1826、No1827、No1828、No1829、No1830、No1831、No1832、No1833、No1834、No1835、No1836、No1837、No1838、No1839、No1840、No1841、No1842、No1843、No1844、No1845、No1846、No1847、No1848、No1849、No1850、No1851、No1852、No1853、No1854、No1855、No1856、No1857、No1858、No1859、No1860、No1861、No1862、No1863、No1864、No1865、No1866、No1867、No1868、No1869、No1870、No1871、No1872、No1873、No1874、No1875、No1876、No1877、No1878、No1879、No1880、No1881、No1882、No1883、No1884、No1885、No1886、No1887、No1888、No1889、No1890、No1891、No1892、No1893、No1894、No1895、No1896、No1897、No1898、No1899、No1900、No1901、No1902、No1903、No1904、No1905、No1906、No1907、No1908、No1909、No1910、No1911、No1912、No1913、No1914、No1915、No1916、No1917、No1918、No1919、No1920、No1921、No1922、No1923、No1924、No1925、No1926、No1927、No1928、No1929、No1930、No1931、No1932、No1933、No1934、No1935、No1936、No1937、No1938、No1939、No1940、No1941、No1942、No1943、No1944、No1945、No1946、No1947、No1948、No1949、No1950、No1951、No1952、No1953、No1954、No1955、No1956、No1957、No1958、No1959、No1960、No1961、No1962、No1963、No1964、No1965、No1966、No1967、No1968、No1969、No1970、No1971、No1972、No1973、No1974、No1975、No1976、No1977、No1978、No1979、No1980、No1981、No1982、No1983、No1984、No1985、No1986、No1987、No1988、No1989、No1990、No1991、No1992、No1993、No1994、No1995、No1996、No1997、No1998、No1999、No2000、No2001、No2002、No2003、No2004、No2005、No2006、No2007、No2008、No2009、No2010、No2011、No2012、No2013、No2014、No2015、No2016、No2017、No2018、No2019、No2020、No2021、No2022、No2023、No2024、No2025、No2026、No2027、No2028、No2029、No2030、No2031、No2032、No2033、No2034、No2035、No2036、No2037、No2038、No2039、No2040、No2041、No2042、No2043、No2044、No2045、No2046、No2047、No2048、No2049、No2050、No2051、No2052、No2053、No2054、No2055、No2056、No2057、No2058、No2059、No2060、No2061、No2062、No2063、No2064、No2065、No2066、No2067、No2068、No2069、No2070、No2071、No2072、No2073、No2074、No2075、No2076、No2077、No2078、No2079、No2080、No2081、No2082、No2083、No2084、No2085、No2086、No2087、No2088、No2089、No2090、No2091、No2092、No2093、No2094、No2095、No2096、No2097、No2098、No2099、No2100、No2101、No2102、No2103、No2104、No2105、No2106、No2107、No2108、No2109、No2110、No2111、No2112、No2113、No2114、No2115、No2116、No2117、No2118、No2119、No2120、No2121、No2122、No2123、No2124、No2125、No2126、No2127、No2128、No2129、No2130、No2131、No2132、No2133、No2134、No2135、No2136、No2137、No2138、No2139、No2140、No2141、No2142、No2143、No2144、No2145、No2146、No2147、No2148、No2149、No2150、No2151、No2152、No2153、No2154、No2155、No2156、No2157、No2158、No2159、No2160、No2161、No2162、No2163、No2164、No2165、No2166、No2167、No2168、No2169、No2170、No2171、No2172、No2173、No2174、No2175、No2176、No2177、No2178、No2179、No2180、No2181、No2182、No2183、No2184、No2185、No2186、No2187、No2188、No2189、No2190、No2191、No2192、No2193、No2194、No2195、No2196、No2197、No2198、No2199、No2200、No2201、No2202、No2203、No2204、No2205、No2206、No2207、No2208、No2209、No2210、No2211、No2212、No2213、No2214、No2215、No2216、No2217、No2218、No2219、No2220、No2221、No2222、No2223、No2224、No2225、No2226、No2227、No2228、No2229、No2230、No2231、No2232、No2233、No2234、No2235、No2236、No2237、No2238、No2239、No2240、No2241、No2242、No2243、No2244、No2245、No2246、No2247、No2248、No2249、No2250、No2251、No2252、No2253、No2254、No2255、No2256、No2257、No2258、No2259、No2260、No2261、No2262、No2263、No2264、No2265、No2266、No2267、No2268、No2269、No2270、No2271、No2272、No2273、No2274、No2275、No2276、No2277、No2278、No2279、No2280、No2281、No2282、No2283、No2284、No2285、No2286、No2287、No2288、No2289、No2290、No2291、No2292、No2293、No2294、No2295、No2296、No2297、No2298、No2299、No2300、No2301、No2302、No2303、No2304、No2305、No2306、No2307、No2308、No2309、No2310、No2311、No2312、No2313、No2314、No2315、No2316、No2317、No2318、No2319、No2320、No2321、No2322、No2323、No2324、No2325、No2326、No2327、No2328、No2329、No2330、No2331、No2332、No2333、No2334、No2335、No2336、No2337、No2338、No2339、No2340、No2341、No2342、No2343、No2344、No2345、No2346、No2347、No2348、No2349、No2350、No2351、No2352、No2353、No2354、No2355、No2356、No2357、No2358、No2359、No2360、No2361、No2362、No2363、No2364、No2365、No2366、No2367、No2368、No2369、No2370、No2371、No2372、No2373、No2374、No2375、No2376、No2377、No2378、No2379、No2380、No2381、No2382、No2383、No2384、No2385、No2386、No2387、No2388、No2389、No2390、No2391、No2392、No2393、No2394、No2395、No2396、No2397、No2398、No2399、No2400、No2401、No2402、No2403、No2404、No2405、No2406、No2407、No2408、No2409、No2410、No2411、No2412、No2413、No2414、No2415、No2416、No2417、No2418、No2419、No2420、No2421、No2422、No2423、No2424、No2425、No2426、No2427、No2428、No2429、No2430、No2431、No2432、No2433、No2434、No2435、No2436、No2437、No2438、No2439、No2440、No2441、No2442、No2443、No2444、No2445、No2446、No2447、No2448、No2449、No2450、No2451、No2452、No2453、No2454、No2455、No2456、No2457、No2458、No2459、No2460、No2461、No2462、No2463、No2464、No2465、No2466、No2467、No2468、No2469、No2470、No2471、No2472、No2473、No2474、No2475、No2476、No2477、No2478、No2479、No2480、No2481、No2482、No2483、No2484、No2485、No2486、No2487、No2488、No2489、No2490、No2491、No2492、No2493、No2494、No2495、No2496、No2497、No2498、No2499、No2500、No2501、No2502、No2503、No2504、No2505、No2506、No2507、No2508、No2509、No2510、No2511、No2512、No2513、No2514、No2515、No2516、No2517、No2518、No2519、No2520、No2521、No2522、No2523、No2524、No2525、No2526、No2527、No2528、No2529、No2530、No2531、No2532、No2533、No2534、No2535、No2536、No2537、No2538、No2539、No2540、No2541、No2542、No2543、No2544、No2545、No2546、No2547、No2548、No2549、No2550、No2551、No2552、No2553、No2554、No2555、No2556、No2557、No2558、No2559、No2560、No2561、No2562、No2563、No2564、No2565、No2566、No2567、No2568、No2569、No2570、No2571、No2572、No2573、No2574、No2575、No2576、No2577、No2578、No2579、No2580、No2581、No2582、No2583、No2584、No2585、No2586、No2587、No2588、No2589、No2590、No2591、No2592、No2593、No2594、No2595、No2596、No2597、No2598、No2599、No2600、No2601、No2602、No2603、No2604、No2605、No2606、No2607、No2608、No2609、No2610、No2611、No2612、No2613、No2614、No2615、No2616、No2617、No2618、No2619、No2620、No2621、No2622、No2623、No2624、No2625、No2626、No2627、No2628、No2629、No2630、No2631、No2632、No2633、No2634、No2635、No2636、No2637、No2638、No2639、No2640、No2641、No2642、No2643、No2644、No2645、No2646、No2647、No2648、No2649、No2650、No2651、No2652、No2653、No2654、No2655、No2656、No2657、No2658、No2659、No2660、No2661、No2662、No2663、No2664、No2665、No2666、No2667、No2668、No2669、No2670、No2671、No2672、No2673、No2674、No2675、No2676、No2677、No2678、No2679、No2680、No2681、No2682、No2683、No2684、No2685、No2686、No2687、No2688、No2689、No2690、No2691、No2692、No2693、No2694、No2695、No2696、No2697、No2698、No2699、No2700、No2701、No2702、No2703、No2704、No2705、No2706、No2707、No2708、No2709、No2710、No2711、No2712、No2713、No2714、No2715、No2716、No2717、No2718、No2719、No2720、No2721、No2722、No2723、No2724、No2725、No2726、No2727、No2728、No2729、No2730、No2731、No2732、No2733、No2734、No2735、No2736、No2737、No2738、No2739、No2740、No2741、No2742、No2743、No2744、No2745、No2746、No2747、No2748、No2749、No2750、No2751、No2752、No2753、No2754、No2755、No2756、No2757、No2758、No2759、No2760、No2761、No2762、No2763、No2764、No2765、No2766、No2767、No2768、No2769、No2770、No2771、No2772、No2773、No2774、No2775、No2776、No2777、No2778、No2779、No2780、No2781、No2782、No2783、No2784、No2785、No2786、No2787、No2788、No2789、No2790、No2791、No2792、No2793、No2794、No2795、No2796、No2797、No2798、No2799、No2800、No2801、No2802、No2803、No2804、No2805、No2806、No2807、No2808、No2809、No2810、No2811、No2812、No2813、No2814、No2815、No2816、No2817、No2818、No2819、No2820、No2821、No2822、No2823、No2824、No2825、No2826、No2827、No2828、No2829、No2830、No2831、No2832、No2833、No2834、No2835、No2836、No2837、No2838、No2839、No2840、No2841、No2842、No2843、No2844、No2845、No2846、No2847、No2848、No2849、No2850、No2851、No2852、No2853、No2854、No2855、No2856、No2857、No2858、No2859、No2860、No2861、No2862、No2863、No2864、No2865、No2866、No2867、No2868、No2869、No2870、No2871、No2872、No2873、No2874、No2875、No2876、No2877、No2878、No2879、No2880、No2881、No2882、No2883、No2884、No2885、No2886、No2887、No2888、No2889、No2890、No2891、No2892、No2893、No2894、No2895、No2896、No2897、No2898、No2899、No2900、No2901、No2902、No2903、No2904、No2905、No2906、No2907、No2908、No2909、No2910、No2911、No2912、No2913、No2914、No2915、No2916、No2917、No2918、No2919、No2920、No2921、No2922、No2923、No2924、No2925、No2926、No2927、No2928、No2929、No2930、No2931、No2932、No2933、No2934、No2935、No2936、No2937、No2938、No2939、No2940、No2941、No2942、No2943、No2944、No2945、No2946、No2947、No2948、No2949、No2950、No2951、No2952、No2953、No2954、No2955、No2956、No2957、No2958、No2959、No2960、No2961、No2962、No2963、No2964、No2965、No2966、No2967、No2968、No2969、No2970、No2971、No2972、No2973、No2974、No2975、No2976、No2977、No2978、No2979、No2980、No2981、No2982、No2983、No2984、No2985、No2986、No2987、No2988、No2989、No2990、No2991、No2992、No2993、No2994、No2995、No2996、No2997、No2998、No2999、No3000、No3001、No3002、No3003、No3004、No3005、No3006、No3007、No3008、No3009、No3010、No3011、No3012、No3013、No3014、No3015、No3016、No3017、No3018、No3019、No3020、No3021、No3022、No3023、No3024、No3025、No3026、No3027、No3028、No3029、No3030、No3031、No3032、No3033、No3034、No3035、No3036、No3037、No3038、No3039、No3040、No3041、No3042、No3043、No3044、No3045、No3046、No3047、No3048、No3049、No3050、No3051、No3052、No3053、No3054、No3055、No3056、No3057、No3058、No3059、No3060、No3061、No3062、No3063、No3064、No3065、No3066、No3067、No3068、No3069、No3070、No3071、No3072、No3073、No3074、No3075、No3076、No3077、No3078、No3079、No3080、No3081、No3082、No3083、No3084、No3085、No3086、No3087、No3088、No3089、No3090、No3091、No3092、No3093、No3094、No3095、No3096、No3097、No3098、No3099、No3100、No3101、No3102、No3103、No3104、No3105、No3106、No3107、No3108、No3109、No3110、No3111、No3112、No3113、No3114、No3115、No3116、No3117、No3118、No3119、No3120、No3121、No3122、No3123、No3124、No3125、No3126、No3127、No3128、No3129、No3130、No3131、No3132、No3133、No3134、No3135、No3136、No3137、No3138、No3139、No3140、No3141、No3142、No3143、No3144、No3145、No3146、No3147、No3148、No3149、No3150、No3151、No3152、No3153、No3154、No3155、No3156、No3157、No3158、No3159、No3160、No3161、No3162、No3163、No3164、No3165、No3166、No3167、No3168、No3169、No3170、No3171、No3172、No3173、No3174、No3175、No3176、No3177、No3178、No3179、No3180、No3181、No3182、No3183、No3184、No3185、No3186、No3187、No3188、No3189、No3190、No3191、No3192、No3193、No3194、No3195、No3196、No3197、No3198、No3199、No3200、No3201、No3202、No3203、No3204、No3205、No3206、No3207、No3208、No3209、No3210、No3211、No3212、No3213、No3214、No3215、No3216、No3217、No3218、No3219、No3220、No3221、No3222、No3223、No3224、No3225、No3226、No3227、No3228、No3229、No3230、No3231、No3232、No3233、No3234、No3235、No3236、No3237、No3238、No3239、No3240、No3241、No3242、No3243、No3244、No3245、No3246、No3247、No3248、No3249、No3250、No3251、No3252、No3253、No3254、No3255、No3256、No3257、No3258、No3259、No3260、No3261、No3262、No3263、No3264、No3265、No3266、No3267、No3268、No3269、No3270、No3271、No3272、No3273、No3274、No3275、No3276、No3277、No3278、No3279、No3280、No3281、No3282、No3283、No3284、No3285、No3286、No3287、No3288、No3289、No3290、No3291、No3292、No3293、No3294、No3295、No3296、No3297、No3298、No3299、No3300、No3301、No3302、No3303、No3304、No3305、No3306、No3307、No3308、No3309、No3310、No3311、No3312、No3313、No3314、No3315、No3316、No3317、No3318、No3319、No3320、No3321、No3322、No3323、No3324、No3325、No3326、No3327、No3328、No3329、No3330、No3331、No3332、No3333、No3334、No3335、No3336、No3337、No3338、No3339、No3340、No3341、No3342、No3343、No3344、No3345、No3346、No3347、No3348、No3349、No3350、No3351、No3352、No3353、No3354、No3355、No3356、No3357、No3358、No3359、No3360、No3361、No3362、No3363、No3364、No3365、No3366、No3367、No3368、No3369、No3370、No3371、No3372、No3373、No3374、No3375、No3376、No3377、No3378、No3379、No3380、No3381、No3382、No3383、No3384、No3385、No3386、No3387、No3388、No3389、No3390、No3391、No3392、No3393、No3394、No3395、No3396、No3397、No3398、No3399、No3400、No3401、No3402、No3403、No3404、No3405、No3406、No3407、No3408、No3409、No3410、No3411、No3412、No3413、No3414、No3415、No3416、No3417、No3418、No3419、No3420、No3421、No3422、No3423、No3424、No3425、No3426、No3427、No3428、No3429、No3430、No3431、No3432、No3433、No3434、No3435、No3436、No3437、No3438、No3439、No3440、No3441、No3442、No3443、No3444、No3445、No3446、No3447、No3448、No3449、No3450、No3451、No3452、No3453、No3454、No3455、No3456、No3457、No3458、No3459、No3460、No3461、No3462、No3463、No3464、No3465、No3466、No3467、No3468、No3469、No3470、No3471、No3472、No3473、No3474、No3475、No3476、No3477、No3478、No3479、No3480、No3481、No3482、No3483、No3484、No3485、No3486、No3487、No3488、No3489、No3490、No3491、No3492、No3493、No3494、No3495、No3496、No3497、No3498、No3499、No3500、No3501、No3502、No3503、No3504、No3505、No3506、No3507、No3508、No3509、No3510、No3511、No3512、No3513、No3514、No3515、No3516、No3517、No3518、No3519、No3520、No3521、No3522、No3523、No3524、No3525、No3526、No3527、No3528、No3529、No3530、No3531、No3532、No3533、No3534、No3535、No3536、No3537、No3538、No3539、No3540、No3541、No3542、No3543、No3544、No3545、No3546、No3547、No3548、No3549、No3550、No3551、No3552、No3553、No3554、No3555、No3556、No3557、No3558、No3559、No3560、No3561、No3562、No3563、No3564、No3565、No3566、No3567、No3568、No3569、No3570、No3571、No3572、No3573、No3574、No3575、No3576、No3577、No3578、No3579、No3580、No3581、No3582、No3583、No3584、No3585、No3586、No3587、No3588、No3589、No3590、No3591、No3592、No3593、No3594、No3595、No3596、No3597、No3598、No3599、No3600、No3601、No3602、No3603、No3604、No3605、No3606、No3607、No3608、No3609、No3610、No3611、No3612、No3613、No3614、No3615、No3616、No3617、No3618、No3619、No3620、No3621、No3622、No3623、No3624、No3625、No3626、No3627、No3628、No3629、No3630、No3631、No3632、No3633、No3634、No3635、No3636、No3637、No3638、No3639、No3640、No3641、No3642、No3643、No3644、No3645、No3646、No3647、No3648、No3649、No3650、No3651、No3652、No3653、No3654、No3655、No3656、No3657、No3658、No3659、No3660、No3661、No3662、No3663、No3664、No3665、No3666、No3667、No3668、No3669、No3670、No3671、No3672、No3673、No3674、No3675、No3676、No3677、No3678、No3679、No3680、No3681、No3682、No3683、No3684、No3685、No3686、No3687、No3688、No3689、No3690、No3691、No3692、No3693、No3694、No3695、No3696、No3697、No3698、No3699、No3700、No3701、No3702、No3703、No3704、No3705、No3706、No3707、No3708、No3709、No3710、No3711、No3712、No3713、No3714、No3715、No3716、No3717、No3718、No3719、No3720、No3721、No3722、No3723、No3724、No3725、No3726、No3727、No3728、No3729、No3730、No3731、No3732、No3733、No3734、No3735、No3736、No3737、No3738、No3739、No3740、No3741、No3742、No3743、No3744、No3745、No3746、No3747、No3748、No3749、No3750、No3751、No3752、No3753、No3754、No3755、No3756、No3757、No3758、No3759、No3760、No3761、No3762、No3763、No3764、No3765、No3766、No3767、No3768、No3769、No3770、No3771、No3772、No3773、No3774、No3775、No3776、No3777、No3778、No3779、No3780、No3781、No3782、No3783、No3784、No3785、No3786、No3787、No3788、No3789、No3790、No3791、No3792、No3793、No3794、No3795、No3796、No3797、No3798、No3799、No3800、No3801、No3802、No3803、No3804、No3805、No3806、No3807、No3808、No3809、No3810、No3811、No3812、No3813、No3814、No3815、No3816、No3817、No3818、No3819、No3820、No3821、No3822、No3823、No3824、No3825、No3826、No3827、No3828、No3829、No3830、No3831、No3832、No3833、No3834、No3835、No3836、No3837、No3838、No3839、No3840、No3841、No3842、No3843、No3844、No3845、No3846、No3847、No3848、No3849、No3850、No3851、No3852、No3853、No3854、No3855、No3856、No3857、No3858、No3859、No3860、No3861、No3862、No3863、No3864、No3865、No3866、No3867、No3868、No3869、No3870、No3871、No3872、No3873、No3874、No3875、No3876、No3877、No3878、No3879、No3880、No3881、No3882、No3883、No3884、No3885、No3886、No3887、No3888、No3889、No3890、No3891、No3892、No3893、No3894、No3895、No3896、No3897、No3898、No3899、No3900、No3901、No3902、No3903、No3904、No3905、No3906、No3907、No3908、No3909、No3910、No3911、No3912、No3913、No3914、No3915、No3916、No3917、No3918、No3919、No3920、No3921、No3922、No3923、No3924、No3925、No3926、No3927、No3928、No3929、No3930、No3931、No3932、No3933、No3934、No3935、No3936、No3937、No3938、No3939、No3940、No3941、No3942、No3943、No3944、No3945、No3946、No3947、No3948、No3949、No3950、No3951、No3952、No3953、No3954、No3955、No3956、No3957、No3958、No3959、No3960、No3961、No3962、No3963、No3964、No3965、No3966、No3967、No3968、No3969、No3970、No3971、No3972、No3973、No3974、No3975、No3976、No3977、No3978、No3979、No3980、No3981、No3982、No3983、No3984、No3985、No3986、No3987、No3988、No3989、No3990、No3991、No3992、No3993、No3994、No3995、No3996、No3997、No3998、No3999、No4000、No4001、No4002、No4003、No4004、No4005、No4006、No4007、No4008、No4009、No4010、No4011、No4012、No4013、No4014、No4015、No4016、No4017、No4018、No4019、No4020、No4021、

図版番号	遺物番号	種別	器種	部位	口径	底径	器高	高台高	高台径	残存高	最大胴径	調整			色調		胎土	焼成	黒斑	赤色顔料	出土地点	層位	備考
					(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(内面)	(外面)	(その他)	(外面)	(内面)							
208	22	弥生土器	器台	底部	-	(9.5)	-	-	-	7.0～	-	横ナデ、ナデ、工具痕？	ナデ、指頭圧痕、工具痕？		にぶい黄橙(10YR6/3)	にぶい黄橙(10YR6/3)	石英、長石、角閃石、輝石	良好	-	-	091	b-1	反転復元
211	1	弥生土器	甕	口縁部	(18.4)	-	-	-	-	(7.2)～	-	指オサエ	指オサエ後横ナデ、(口唇部)刻み目、突帯		浅黄橙(10YR8/4)	浅黄橙(10YR8/3)	石英、角閃石、雲母	良好	○	-	Pit1668	Ⅲ A 、 No 2	残存率1/6弱　口唇部・口縁下部に刻目突帯各１
211	2	弥生土器	壺	胴部～底部	-	(7.4)	-	-	-	18.1	-	ハケ目後ナデ	ハケ目、工具ナデ		にぶい黄橙(10YR7/3)	にぶい黄橙(10YR7/3)	石英、長石、角閃石、輝石	良好	○	-	Pit1668	B-3ⅢApit1668 pit1668No2	弥生中期後半、残存率1/2
248	1	弥生土器	甕	口縁部～胴部	(26.4)	-	-	-	-	15.1～	-	指ナデ、指頭圧痕	横ナデ、ハケ目		にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい橙(7.5YR7/4)	石英、角閃石、金雲母	良好	-	-	071	No1	反転復元
248	2	弥生土器	鉢	口縁部～胴部	-	-	-	-	-	7.9～	-	ナデ、ハケ目後ナデ	ハケ目後ナデ、ハケ目		橙 (5YR7/6)	淡赤橙(2.5YR7/4)	石英、長石、輝石、黒色粒	やや良	-	-	71		
278	1	弥生土器	甕	口縁部	(26.2)	-	-	-	-	6.2～	-	ナデ？、横ハケ？	突帯はナデ(中央部ミガキ)、ナデ、ミガキ後暗文	口唇部に刻目	にぶい黄橙(10YR7/4)	黄橙(10YR8/6)	石英、長石、角閃石	良好	-	○	I区 Gr.	N延トレ	反転復元、丹塗り
278	2	弥生土器	筒形器台	頭部	-	-	-	-	-	-	(5.8)	横ナデ	ミガキ後に横ナデ、横ナデ		にぶい黄橙(10YR7/4)	灰黄褐(10YR6/2)	石英、長石、角閃石、雲母	良好	-	○	U Gr.	-	外面に赤色顔料、丹塗り
278	3	弥生土器	蓋	縁辺部	-	-	-	-	-	1.5～	-	横ナデ	縦方向のミガキ		赤褐(2.5YR4/8)	にぶい橙(7.5YR6/4)	石英	良好	-	○	(094)	その他(3A層)	反転復元、外面に赤色顔料
278	4	弥生土器	高坏	口縁部	(18.0)	-	-	-	-	5.1～	-	ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	口縁部縦ミガキ後に暗文	にぶい橙(7.5YR7/4)	にぶい橙(7.5YR7/4)	石英、長石	良好	-	○	K-8 Gr.	Ⅲ･A･B	反転復元
278	5	弥生土器	器台	脚部	-	-	-	-	-	-	-	横ナデ？	縦ミガキ？		赤褐(2.5YR4/6)	にぶい橙(7.5YR6/4)	石英、長石	良好	-	○	B-5 Gr.	ⅢA	
278	6	弥生土器	器台	脚部	-	-	-	-	-	-	-	横ハケ？	ミガキ後にナデ？ナデ		赤褐(2.5YR4/8)	にぶい橙(7.5YR7/4)	石英、長石	良好	-	○	B-4 Gr.	ⅢA上	
278	7	弥生土器	袋状口縁壺	口縁部	6.5	-	-	-	-	8.4～	-	横ナデ、指押さえ、指押さえ後ナデorヘラナデ、しぼり痕	雑な横ハケ、雑な横ナデ、縦ハケ		赤褐(2.5YR4/6)	にぶい黄橙(10YR6/4)	石英、角閃石、金雲母	良好	○	○	G-7 Gr.	Ⅱ層	一部反転復元　内外面に黒斑　外面口縁部に赤色顔料
278	8	弥生土器	壺(須恵Ⅱ式?)	胴部～底部		7.6	-	-	-	14.3	-	ハケ目後ナデ、指頭圧痕	ハケ目後ミガキ、底部)ナデ、指頭圧痕		浅黄橙(10YR8/4)、赤(10R4/6)	浅黄橙(10YR8/4)	石英、長石、角閃石、赤褐色砂粒	良好	-	○	068	No14	赤色顔料塗布、胎土は白っぽい(肌色)、弥生中期後半、残存率;底完存
278	9	弥生土器	袋状口縁壺	口縁部	(9.7)	-	-	-	-	(2.9)～	-	ナデ、強いナデ	ミガキ		赤(10YR4/6)	橙(5YR6/6)	長石、角閃石、雲母、輝石	良好	-	○	B-3 Gr.	-	反転復元
279	10	弥生土器	壺	口縁部～底部	(17.8)	(11.6)	-	-	-	22.5～	-	ハケ目後ナデ	ハケ目後ナデ(口縁部)横ナデ、穿孔	口唇部に穿孔	橙(7.5YR6/6)	にぶい黄橙(10YR7/4)	石英、金雲母、砂粒	良好	○	-	P-9 Gr. (129～131?)	ⅢA	
279	11	弥生土器	器台	口縁部～底部	(10.0)	(10.6)	14.6	-	-	-	-	横ナデ、横方向のハケ目後ナデ	横ナデ、縦方向のハケ目後横ナデ、縦方向のハケ目後ナデ		浅黄橙(10YR8/4)	浅黄橙(10YR8/4)	石英、角閃石、金雲母、赤褐色粒	良好	-	-	108	住、包含層	一部反転復元　外面一部にスス付着、残存率3/4
279	12	弥生土器	無頸壺	口縁部	(8.4)	-	-	-	-	3.2～	-	ミガキ、指頭圧痕、指頭圧後にナデ	ナデ、ミガキ、指頭圧後にミガキ		橙(2.5YR6/6)	にぶい黄橙(10YR6/3)	石英、長石、雲母	良好	-	-	B-3 Gr.	ⅢA	反転復元
279	13	弥生土器	短頸複合口縁壺	口縁部	(17.0)	-	-	-	-	4.6～	-	横ナデ、ハケ目	ハケ目後横ナデ		にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/3)	石英、長石、金雲母	良好	○	-	D-6 Gr. N半	Ⅲ層	反転復元、残存率;口縁径の1/6程度
279	14	弥生土器	長頸壺	口縁部～胴部?	-	-	-	-	-	4.8～	-	横ナデ	横ナデ		浅黄橙(7.5YR8/4)	浅黄橙(7.5YR8/4)	石英、長石、角閃石、金雲母	良好	-	-	U-8 Gr.	Ⅱ区、遺構確認面	
279	15	弥生土器	樽形土器	口縁部	-	-	-	-	-	8.4～	-	ナデ	横ナデ		にぶい黄橙(10YR6/3)	にぶい橙(7.5YR6/4)	石英、長石、角閃石、赤色砂粒	良好	○	-	C-5 Gr.	ⅢA層	
279	16	弥生土器	無頸壺	口縁部	(10.6)	-	-	-	-	8.8～	(16.4)	ナデ、縦ナデ	ナデ、ハケ、(口唇部)横ナデ	口縁部に穿孔	にぶい黄橙(10YR6/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	石英、長石、角閃石、雲母	良好	○	-	K-9 Gr.	Eトレ	反転復元
279	17	弥生土器	ジョッキ形土器?	底部	-	-	-	-	-	4.1～	-	縦ナデ、指頭圧痕	指頭圧痕、ナデ		にぶい黄橙(10YR7/4)	褐灰(10YR6/1)	石英、長石、雲母	良好	-	-	K-9 Gr.	ⅢA層	
279	18	弥生土器	鉢	口縁部～胴部下半	(15.3)	-	-	-	-	5.5～	(17.6)	不明	不明		浅黄橙(10YR8/4)	にぶい黄橙(10YR6/3)	石英、長石、角閃石、赤褐砂粒	やや良	○	-	C-5 Gr.	ⅢA上	反転復元
279	19	弥生土器	壺	口縁部	(15.2)	-	-	-	-	4.5～	-	横ナデ？	ナデ、強いナデ		にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR6/4)	石英、長石、角閃石	良好	-	-	B-3 Gr.	-	反転復元
279	20	弥生土器	甕	底部	-	8.2	-	-	-	(7.3)～	-	ナデ、指頭圧痕	ハケ目痕		明黄褐(10YR7/6)	灰黄(2.5Y7/2)	石英、長石、角閃石、黒褐色粒	良好	○	-	074	3･B層	反転復元　外面一部に黒斑

表(Tab)44　土器観察表（26）

図版番号	遺物番号	種別	器種	部位	口径	底径	器高	高台高	高台径	残存高	最大胴径	調整			色調		胎土	焼成	黒斑	赤色顔料	出土地点	層位	備考
					(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(内面)	(外面)	(その他)	(外面)	(内面)							
279	21	弥生土器	無頸壺	口縁部	(11.4)	-	-	-	-	6.5～	(18.1)	ナデ、指頭圧後にナデ	ナデ、ハケ後にナデ、ハケ		にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	石英、長石、雲母	良好	-	-	K-8 Gr.	ⅢA層	反転復元
280	22	弥生土器	鉢	口縁部～底部	(10.0)	(5.8)	4.7	-	-	-	-	ハケ目後ナデ、ナデ	ナデ		にぶい黄橙(10YR7/3)	にぶい黄橙(10YR7/3)	石英、長石、角閃石、金雲母	良好	○	-	C-4 Gr.	ⅢA下	反転復元
280	23	弥生土器	碗(小型)	口縁部～底部	(9.0)	(4.7)	(6.2)	-	-	6.0	9.2	指オサエ後横ナデ	横ナデ、ミガキ	口縁部に穿孔	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	石英、長石	良好	○	-	G-7 Gr.	-	反転復元、底部内外に黒斑、残存率1/4弱
280	24	弥生土器	ミニチュア土器(甕)	口縁部	(6.5)	-	-	-	-	4.3～	(8.3)	口縁部ナデ、指頭圧痕	ナデ、指頭圧後ナデ、ナデ		にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい橙(7.5YR7/4)	石英、長石	良好	○	-	K-9 Gr.	ⅢA･B	反転復元
280	25	弥生土器	鉢	口縁部～胴部	(11.4)	-	-	-	-	7.0～	-	ナデ	ナデ		灰褐(7.5YR5/3)	灰褐(7.5YR5/2)	石英、長石、金雲母	良好	○	-	041	-	
280	26	弥生土器	ミニチュア土器(鉢?)	底部	(3.2)	-	-	-	-	3.0～	-	指頭圧後にナデ、指頭圧痕	縦ナデ、ナデ		浅黄橙(10YR8/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	石英、長石、輝石	良好	-	-	C-5 Gr.	ⅢA層	反転復元
280	27	弥生土器	ミニチュア土器(壺)	底部	-	3.4	-	-	-	1.9～	-	指頭圧痕	指頭圧後にナデ、ナデ		にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	石英、長石、雲母	良好	-	-	U Gr.	-	
280	28	弥生土器	ミニチュア土器(鉢)	口縁部	-	-	-	-	-	3.3～	-	指頭圧痕、(口唇部)指頭圧後ナデ	指頭圧後ナデ、ナデ、指頭圧痕		黄灰(2.5Y5/7)	暗黄灰(2.5Y5/2)	石英、長石	良好	-	-	K-8 Gr.	ⅢA	
280	29	弥生土器	甕	脚部	(5.4)	-	-	-	-	3.8～	-	不明	不明		灰黄褐(10YR5/2)	にぶい褐(7.5YR5/3)	石英、長石	良好	-	-	B-3 Gr.	ⅢA	反転復元､二次焼成を受ける？
280	30	弥生土器	ジョッキ形土器？	把手？	-	-	-	-	-	-	-	ナデ？	ナデ？		にぶい黄橙(10YR6/4)	にぶい黄橙(10YR6/4)	石英、長石、角閃石	良好	-	-	C-4 Gr.	ⅢA	
280	31	弥生土器	ミニチュア土器(ジョッキ形土器)？	把手	-	-	-	-	-	-	-	指頭圧痕	ナデ？		にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	石英、長石	良好	-	-	C-6 Gr.	ⅢA	
280	32	弥生土器	ミニチュア土器(甕)？	底部	-	3.7	-	-	-	4.1～	-	ハケ目　脚部内ナデ､ハケ目	縦ハケ目、ナデ		にぶい黄橙(10YR6/4)	にぶい黄橙(10YR6/4)	石英、長石、角閃石、赤褐色粒	良好	○	-	068	-	外面に黒斑
290	36	弥生土器	不明土製品	-	-	-	2.1	-	-	-	-	-	指頭圧痕	上部に穿孔	橙(7.5YR6/6)	-	石英、長石	良好	-	-	B-5 Gr.	ⅢA	残存率100%
290	37	弥生土器	脚付土器	脚部	-	-	-	-	-	4.3～	-	-	指頭圧痕、ナデ		淡黄(2.5Y8/3)	-	石英、長石、角閃石、輝石	良好	○	-	U Gr.	-	
293	1	弥生土器	甕	口縁部	-	-	-	-	-	3.9～	-	横ナデ	横ナデ		にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	石英、長石、角閃石、赤褐色粒	良好	-	-	050	No6	
293	2	弥生土器	甕	口縁部	(28.6)	-	-	-	-	4.6～	-	横ナデ、ハケ目後ナデ	横ハケ、ハケ目後横ナデ		にぶい黄橙(10YR6/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	石英、角閃石、金雲母	良好	-	-	050	No17	反転復元
293	3	弥生土器	甕	口縁部～胴部	(26.2)	-	-	-	-	9.5～	-	横ナデ、斜めハケ後ナデ	横ナデ、ハケ目後ナデ		にぶい橙(5YR6/4)	にぶい橙(5YR6/4)	石英、雲母、角閃石、長石	良好	○	-	050	No18	口縁部に黒斑、胎土が緻密、残存率1/4以下、弥生後期
293	4	弥生土器	甕	口縁部～胴部	(24.8)	-	-	-	-	14.3	(15.0)	ハケ目、横ナデ	ハケ目、横ナデ		にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	石英、長石、角閃石、赤褐色粒	良好	○	-	050	No20	弥生後期、残存率1/4
293	5	弥生土器	甕	口縁部～胴部	-	-	-	-	-	10.7～	-	横ナデ、ハケ目後粗いナデ	横ナデ、ハケ目後ナデ		にぶい橙(7.5YR7/3)	にぶい橙(7.5YR7/3)、褐灰(7.5YR5/1)	石英､長石､黒褐色粒､赤褐色粒､砂粒	良好	-	-	050	No3	
293	6	弥生土器	甕	口縁部～胴部	(25.8)	-	-	-	-	17.8	(26.2)	横ナデ、ハケ目、ハケ目後横ナデ	横ナデ、ハケ目、ハケ目後横ナデ		にぶい橙(5YR7/4)、浅黄橙(10YR8/4)	浅黄橙(10YR7/4)、にぶい黄橙(10YR7/4)	石英、長石、角閃石、砂粒	良好	-	-	050	No11、No13、No19	残存率1/4
293	7	弥生土器	鉢	口縁部～胴部	(17.8)	-	-	-	-	7.1～	-	横ナデ、ハケ目後ナデ	横ナデ、ハケ目後ナデ		にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(7.5YR6/4)	石英	良好	-	-	050	砂層	反転復元
295	4	弥生土器	甕	口縁部	(25.6)	-	-	-	-	3.8～	-	横ナデ	横ナデ		灰黄褐(10YR4/2)	にぶい黄橙(10YR7/3)	石英､長石､角閃石､金雲母､赤褐色粒	良好	○	-	051	2層	外面一部に黒斑およびスス
295	5	弥生土器	ミニチュア土器(甕)	口縁部～胴部	(5.1)	-	-	-	-	5.1～	6.0	ハケ目、指頭圧痕	縦ハケ目後ナデ		灰白(10YR8/2)	オリーブ黒(5Y3/1)	石英、長石、角閃石、金雲母	良好	○	-	051	E-6	反転復元、内外に黒斑
295	6	弥生土器	壺？	胴部	-	-	-	-	-	10.7～	(52.0)	磨滅のため不明	横ナデ、ナデ	外面に突帯1	浅黄橙(7.5YR8/4)	浅黄橙(10YR8/4)	石英､長石､角閃石､金雲母､赤褐色粒	やや良	-	-	051	底面	反転復元

表(Tab)45　土器観察表（27）

図番号	版号	遺物番号	種別	器種	部　位	口径	底径	器高	高台高	高台径	残存高	最大胴径	調　整			色　調		胎　土	焼成	黒斑	赤色顔料	出土地点	層　位	備　考
						(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(内面)	(外面)	(その他)	(外面)	(内面)							
212	1		中世土師器	灯明皿	完形	8.5	5.8	1.2	-	-	-	-	回転ナデ	回転ナデ、ヘラ切り離し		にぶい橙 (7.5YR6/4)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	角閃石、雲母、微細砂粒、石英	良好	-	-	013	No11	美濃口編年6期？
212	2		中世土師器	灯明皿	ほぼ完形	8.8	6.3	1.6	-	-	-	-	ナデ	ヘラ切り離し後、板状圧痕、回転ナデ		にぶい橙 (7.5YR6/4)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	雲母、角閃石、赤褐色砂粒、微細砂粒	良好	-	-	013	No5	美濃口編年6期？
212	3		中世土師器	鉢	口縁部～底部	14.9	8.8	3.5	-	-	-	-	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、ヘラ切り離し		にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	角閃石、雲母、微細砂粒、石英	良好	-	-	013	No3	美濃口編年5,6？残存率一部欠損
212	4		中世土師器	灯明皿	口縁部～底部	(15)	(9.7)	2.7	-	-	-	-	回転横ナデ	回転横ナデ、ヘラ切り離し		にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	角閃石、雲母、微細砂粒、石英	良好	-	-	013	No8	美濃口編年6期？残存率1/4
212	5		中世土師器	灯明皿	口縁部～底部	8.3	6	1.2	-	-	-	-	回転ナデ	不明、回転ナデ、指頭圧痕		にぶい橙 (7.5YR7/4)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	角閃石、雲母、微細砂粒、石英	良好	-	-	013	No7	美濃口編年6期？12(後半)、残存率一部欠損
214	1		土師器	灯明皿	口縁部～底部	7.5	6.3	1.1	-	-	-	-	ナデ、不明	不明		橙 (5YR6/6)	橙 (5YR6/6)	石英、雲母、輝石、赤褐色砂粒	良好	-	-	065	No19	美濃口編年7～11,杯の9期と符号、残存率一部欠損
214	2		土師器	灯明皿	ほぼ完形	8.1	7	1.3	-	-	-	-	ナデ	回転ナデ、糸切り離し後板目痕		にぶい橙 (7.5YR7/4)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	長石、角閃石、雲母、赤褐色砂粒	良好	-	-	065	No4	美濃口編年9期？
214	3		土師器	灯明皿	完形	8.2	7.5	1.4	-	-	-	-	ナデ	回転ナデ、糸切り離し後板目痕		にぶい橙 (7.5YR7/4)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	石英、雲母、赤褐色砂粒	良好	-	-	B Gr.	No6	美濃口編年9期
214	4		瓦器	椀	胴部～底部	-	-5.6	-	-	-	5	-	回転ナデ	回転ナデ？回転ヘラ削り		灰白 (2.5Y8/1) 黄灰 (2.5Y6/1)	灰白 (2.5Y8/1) 黄灰 (2.5Y6/1)	石英、長石、雲母、輝石	良好	-	-	065	No8	残存率1/4以下
214	5		龍泉窯系青磁	椀	胴部～底部	-	5.4	-	-	-	3.4	-	回転ナデ後施釉	回転ナデ後、施釉、露胎		オリーブ灰 (5GY6/1)	オリーブ灰 (5GY6/1)		良好	-	-	065	No11	Ⅱ-b類、貫入、蓮弁(E期)、残存率1/4
214	6		龍泉窯系青磁	椀	口縁部～胴部	-	-	-	-	-	5.2	-	回転ナデ後施釉	回転ナデ後、施釉、縞蓮弁文		オリーブ灰 (2.5GY6/1)	オリーブ灰 (2.5GY6/1)		良好	-	-	065	No12	Ⅱ-b類、鎬あり蓮弁、龍泉、13C初～前(E期)、残存率1/4以下
214	7		須恵器	鉢	底部	-	(13.4)	-	-	-	3.3	-	不明	ケズリ、指頭圧痕		褐灰 (10YR6/1)	灰白 (10YR8/1)	雲母、長石、角閃石	良好	-	-	065	No10	残存率1/4以下
214	8		土師器	杯	ほぼ完形	12.4	11	3	-	-	-	-	ナデ	回転ナデ、糸切り離し？		橙 (5YR7/6)	橙 (5YR7/6)	雲母、輝石、赤褐色砂粒	良好	-	-	065	No18	美濃口編年9期
214	9		土師器	杯	口縁部～底部	13	11.1	2.4	-	-	-	-	ナデ	回転ナデ、糸切り離し後板目痕	板目痕	にぶい橙 (7.5YR7/4)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	輝石、雲母、赤褐色砂粒	良好	-	-	065	No15	美濃口編年9期(13C前～中)、残存率一部欠損
214	10		土師器	杯	口縁部～底部	(12.2)	(10.3)	2.4	-	-	-	-	ナデ	回転ナデ、糸切り離し後板目痕		にぶい橙 (7.5YR7/4)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	石英、角閃石、雲母、長石、赤褐色砂粒	良好	-	-	065	No2	美濃口編年9期、残存率1/2
214	11		土師器	杯	口縁部～底部	(14.3)	(11.7)	2.5	-	-	-	-	ナデ	回転ナデ、板目痕	板目痕	にぶい橙 (7.5YR7/4)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	石英、雲母、長石、赤褐色砂粒	良好	-	-	066	No20	美濃口編年8期(13C初)、残存率1/3
214	12		土師器	杯	口縁部～底部	(12.9)	(10.9)	3.2	-	-	-	-	ナデ	回転ナデ、糸切り離し後板目痕	板目痕	にぶい橙 (7.5YR7/4)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	石英、雲母、赤褐色砂粒	良好	-	-	B-2、065	No３、ⅢA～Ⅳ	美濃口編年9期(13C前～中)、残存率2/3
214	14		土師器	杯	口縁部～底部	15	10	3	-	-	-	-	回転ナデ	回転ナデ、糸切り離し		にぶい橙 (7.5YR6/4)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	石英、角閃石、雲母、赤褐色砂粒	良好	-	-	066,No3～5、B-2,ⅡA層 B-3		美濃口編年7期(12C末)、残存率3/4
215	1		土師器	灯明皿	完形	8.3	6.8	1.3	-	-	-	-	ナデ、横ナデ	糸切り後板目痕、口縁部不明	糸切り後板目痕	にぶい橙 (7.5YR7/4)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	雲母、赤褐色砂粒	良好	-	-	096	No1	美濃口編年8～10期？
215	2		土師器	灯明皿	口縁部～底部	8.5	7.3	1.5	-	-	-	-	回転ナデ	回転ナデ、糸切り離し？		にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英、雲母、角閃石、赤褐色砂粒	良好	-	-	096	No3	美濃口編年8,9期、残存率1/3
215	3		土師器	灯明皿	完形	8.5	6	1.2	-	-	-	-	回転ナデ、不明	回転ナデ、糸切り離し		にぶい橙 (7.5YR7/4)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	長石、角閃石、雲母、赤褐色砂粒	良好	-	-	096	No2	美濃口編年8,9期
215	4		土師器	灯明皿	完形	8.4	7.3	1.4	-	-	-	-	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、糸切り離し、板目痕	板目痕	にぶい橙 (7.5YR7/4)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	石英、角閃石、雲母、赤褐色砂粒	良好	-	-	096	No5	美濃口編年8,9期
215	5		龍泉窯系青磁	椀	完形	16.8	5.0	7.7	-	-	-	-	ヘラ削り後釉	ヘラ削り後釉、回転ヘラ削り後鎬蓮弁、削り出し,(底部)ヘラ削り露胎		灰オリーブ (7.5Y5/2)	オリーブ灰 (10Y5/2)		良好	-	-		1区C-4ⅢA層、096,No4	12～13C、森田・横田編年Ⅰ-5b類、貫入がみられる
216	1		龍泉窯系青磁	椀	口縁部～底部	(17.2)	6.3	6.7	-	-	-	-	回転ナデ後施釉	回転ナデ後、施釉、低部は露胎、縞無し蓮弁文		オリーブ灰 (5Y5/3)	オリーブ灰 (5Y5/3)		良好	-	-	010	No9	Ⅱ-a類、鎬無し蓮弁、龍泉、13C前後～前半(E期)、残存率1/4以下

表(Tab)46　土器観察表（28）

図版番号	遺物番号	種別	器種	部位	口径	底径	器高	高台高	高台径	残存高	最大胴径	調整			色調		胎土	焼成	黒斑	赤色顔料	出土地点	層位	備考
					(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(内面)	(外面)	(その他)	(外面)	(内面)							
216	2	中世土師器	杯	完形	14	9.7	3.1	-	-	-	-	回転ナデ	回転ナデ、不明(底部)		黄橙 (7.5YR7/8)	黄橙 (7.5YR7/8)	石英、雲母、赤褐色粒子、微細砂粒	やや不良	-	-	010	No1	美濃口編年8？
217	1	土師器	杯	口縁部～底部	(13.4)	(10.3)	2.8	-	-	-	-	回転ナデ	糸切り離し		橙 (5YR6/6)	橙 (5YR6/6)	石英、角閃石、雲母、赤褐色砂粒	良好	-	-	041		美濃口編年9期、残存率1/4以下
217	2	土師器	杯	完形	12.2	8.4	2.5	-	-	-	-	回転ナデ	板目痕		橙 (7.5YR6/6)	橙 (7.5YR6/6)	石英、角閃石、雲母、赤褐色砂粒	良好	-	-	041	No1、No2	美濃口編年9期
217	3	土師器	灯明皿	口縁部～底部	(9)	(7.2)	1.2	-	-	-	-	不明	不明		にぶい橙 (7.5YR7/4)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	石英、雲母	良好	-	-	041	No2	美濃口編年5,6？残存率1/3
218	1	白磁?	椀	口縁部～底部	(10)	(7.1)	2.8	-	-	-	-	回転ナデ後施釉	回転ナデ後施釉、露胎、口唇部露胎(口禿げ)、底部露胎		灰白 (7.5Y7/2)	灰白 (7.5Y7/2)		良好	-	-	061	No5	皿Ⅸ-1b類、口禿げ(13C後半～14C前半、F期)、残存率1/4以下
218	2	土師器	灯明皿	口縁部～底部	(8.2)	(7.4)	1.4	-	-	-	-	回転ナデ	回転ナデ、不明(底部)		にぶい橙 (7.5YR7/4)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	石英、雲母、赤褐色砂粒	良好	-	-	061	No1	美濃口編年
218	3	土師器	灯明皿	完形	8.5	7.1	1.1	-	-	-	-	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、糸切り後板目痕	板目痕	にぶい黄橙 (10YR6/4)	橙 (5YR6/6)	石英、角閃石、雲母、赤褐色砂粒	良好	-	-	061	No3	美濃口編年8,9？
218	4	土師器	灯明皿	口縁部～底部	(8.6)	(7.3)	1.2	-	-	-	-	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、粘土付着		にぶい橙 (7.5YR6/4)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	石英、雲母、赤褐色砂粒	良好	-	-	061	埋土、No4	残存率3/4以上　粘土付着
219	1	土師器	杯	口縁部～底部	(12.2)	(9)	2.5	-	-	-	-	回転ナデ	不明		にぶい橙 (7.5YR7/4)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	石英、赤褐色砂粒	良好	-	-	062	No１０、No25	残存率1/4
219	2	土師器	灯明皿	完形	8.3	7.3	1.1	-	-	-	-	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、糸切り後板目痕	板目痕	にぶい橙 (7.5YR6/4)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	石英、雲母、赤褐色砂粒	良好	-	-	062	No35	美濃口編年8～10？
219	3	土師器	杯	口縁部～底部	(12.8)	(10.2)	2.8	-	-	-	-	回転ナデ、ナデ	糸切り離し		にぶい橙 (7.5YR7/4)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	石英、雲母、輝石、赤褐色砂粒	良好	-	-	062	No9～11	残存率2/3
220	1	土師器	杯	口縁部～底部	(12)	(10)	2.1	-	-	-	-	回転ナデ	回転ナデ		にぶい橙 (7.5YR7/4)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	石英、雲母、赤褐色砂粒	良好	-	-	063	No1	美濃口編年9期？残存率1/3
220	2	土師器	杯	口縁部～底部	(12.5)	(10.4)	2.6	-	-	-	-	回転ナデ	回転ナデ、板目痕	板目痕	にぶい橙 (7.5YR7/4)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	石英、微細砂粒	良好	-	-	063	No17	美濃口編年9期？残存率1/4以下
220	3	土師器	杯	口縁部～底部	(11.8)	(9.3)	2.4	-	-	-	-	ナデ	不明		にぶい橙 (7.5YR7/4)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	石英、角閃石、雲母、赤褐色砂粒	良好	-	-	063	No20	美濃口編年9～12？ひずみあり、残存率1/2
220	4	土師器	灯明皿	口縁部～底部	(9.2)	(7.1)	1.9	-	-	-	-	不明	不明		にぶい橙 (7.5YR7/4)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	石英、雲母、赤褐色砂粒	良好	-	-	063	No4、No5	残存率1/3
220	5	土師器	灯明皿	口縁部～底部	8.5	7.6	1	-	-	-	-	回転ナデ	回転ナデ、糸切り後板目痕	板目痕	にぶい橙 (7.5YR7/4)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	石英、雲母、赤褐色砂粒	良好	-	-	063	No18	美濃口編年8,9期？残存率1/2
220	6	土師器	灯明皿	完形	8.4	7.3	1.2	-	-	-	-	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、板目痕、指頭圧痕	板目痕	にぶい橙 (7.5YR6/4)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	石英、雲母、赤褐色砂粒	良好	-	-	063	No19	美濃口編年8,9期？
221	1	同安窯系青磁	皿	底部	-	(5.2)	-	-	-	1	-	ヘラによる文様とシンクサク状の櫛点状文後施釉	回転ヘラ削り後施釉、底部は無釉	底部掻き取り	灰白 (10YR7/1)	灰白 (10YR7/1)		良好	-	-	018	No8	皿Ⅰ-2b類、同安(12C中頃～後半、D期)、残存率1/4以下
221	2	龍泉窯系青磁	椀	口縁部	-	-	-	-	-	3.4	-	回転ナデ後施釉	回転ナデ後、施釉		にぶい黄 (2.5Y6/4)	にぶい黄 (2.5Y6/4)		良好	-	-	018	No22	Ⅱ-b類、鎬無し、蓮弁、龍泉(E期)、残存率1/4以下
221	3	瓦器	椀	底部	-	(6.9)	-	-	-	2.1	-	不明	回転ナデ、高台をナデつけ		にぶい黄橙 (10YR7/2)	褐灰 (10YR5/1)	雲母、赤褐色砂粒	良好	-	-	018	ベルト	美濃口編年8～11、残存率1/4
221	4	中世土師器	灯明皿	口縁部～底部	(8.1)	(6.7)	1	-	-	-	-	ナデ	不明		橙 (7.5YR6/6)	橙 (7.5YR6/6)	石英、雲母、微細砂粒、赤褐色砂粒、角閃石	良好	-	-	018	No7	美濃口編年8,9期？8(13初)9(13前～中)残存率1/3
221	5	中世土師器	灯明皿	口縁部～底部	7.6	6.3	1.2	-	-	-	-	指ナデ	不明		黒褐 (7.5YR3/2)	にぶい褐 (7.5YR5/4)	石英、雲母、微細砂粒	良好	-	-	018	No4	美濃口編年8,9？残存率一部欠損
221	6	中世土師器	灯明皿	口縁部～底部	8	7.3	1.5	-	-	-	-	ナデ	板目痕		にぶい橙 (7.5YR7/4)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	石英、赤褐色砂粒、微細砂粒	良好	-	-	018	No5、No21、ベルト、1.2層	美濃口編年8,9?残存率一部欠損
224	1	土師器	杯	口縁部～底部	(12.2)	(8.3)	3	-	-	-	-	回転ナデ	ヘラ切り？		橙 (5YR6/8)	橙 (5YR6/8)	石英、長石、雲母	良好	-	-	059	No1、1層	美濃口編年２，３期？（11C？10C後？13C後？）、残存率1/2

表(Tab)47　土器観察表（29）

図版番号	遺物番号	種別	器種	部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	高台高 (cm)	高台径 (cm)	残存高 (cm)	最大胴径 (cm)	調整 (内面)	調整 (外面)	調整 (その他)	色調 (外面)	色調 (内面)	胎土	焼成	黒斑	赤色顔料	出土地点	層位	備考
224	2	土師器	杯	口縁部～底部	(11.3)	(8.3)	2.6	-	-	-	-	回転ナデ	ヘラ切り離し後板目痕	板目痕	にぶい橙 (5YR7/4)	にぶい橙 (5YR7/4)	石英、雲母、赤褐色砂粒	良好	-	-	059	No4	美濃口編年2期？(10C後)、残存率1/4以下
230	4	土師器	灯明皿	ほぼ完形	8.8	7.1	1.3	-	-	-	-	ナデ	ヘラ切り、不明、口縁部不明	ヘラ切り	にぶい橙 (7.5YR7/4)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	雲母、赤褐色砂粒	良好	-	-	B-2、Gr. pit1156	No9	美濃口編年5期？(12C前)
230	5	土師器	灯明皿	口縁部～底部	8.5	7.2	1.5	-	-	-	-	ナデ	ナデ、ヘラ切り、板目痕	板目痕、ヘラ切り	にぶい褐 (7.5YR6/3)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	石英、角閃石、雲母、赤褐色砂粒	良好	-	-	B-2、Gr. pit1156	No3	美濃口編年8～9期？残存率一部欠損
230	6	土師器	杯	口縁部～底部	(13.5)	(11.3)	2.7	-	-	-	-	回転ナデ	回転ナデ、糸切り離し		にぶい橙 (7.5YR7/4)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	雲母、赤褐色砂粒	良好	-	-	B-2、Gr. pit1156		美濃口編年9期？残存率1/4以下
230	7	土師器	灯明皿	完形	8.4	7.1	1.2	-	-	-	-	回転ナデ	糸切り離し		にぶい橙 (7.5YR6/4)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	雲母、輝石、赤褐色砂粒	良好	-	-	B-2、Gr. pit1167		美濃口編年8～9期？
230	8	土師器	灯明皿	口縁部～底部	(8)	(5.9)	1	-	-	-	-	回転ナデ	糸切り離し	糸切り	にぶい橙 (5YR6/4)	にぶい橙 (5YR6/4)	長石、雲母、角閃石、赤褐色砂粒	良好	-	-	B-3、Gr. pit1202		美濃口編年8～9期？残存率一部欠損
230	9	土師器	皿	口縁部～底部	(14.1)	(11.2)	2.8	-	-	-	-	回転ナデ	回転ナデ、糸切り離し		にぶい橙 (7.5YR7/4)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	雲母、角閃石、赤褐色砂粒、微細砂粒	良好	-	-	B-3、Gr. pit1202		美濃口編年8期？残存率1/4以下
230	10	須恵器	鉢	口縁部	-	-	-	-	-	3.5	-	回転ナデ	回転ナデ		灰 (N6/)	灰 (N6/)	長石	良好	-	-	B-2、Gr. pit1228		東播系　☆第Ⅱ期第２段階12末～13初
230	11	土師器	杯	口縁部～底部	(12.2)	(8.7)	2.8	-	-	-	-	回転ナデ	回転ナデ、糸切り離し後板目痕	板目痕	橙 (5YR6/6)	橙 (5YR6/6)	石英、雲母	良好	-	-	B-3、Gr. pit1362		美濃口編年9期(13C中？)、残存率1/3
230	12	土師器	灯明皿	完形	8.6	7.9	1.2	-	-	-	-	回転ナデ	板目痕	板目痕	にぶい橙 (7.5YR7/4)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	石英、雲母、角閃石、赤褐色砂粒	良好	-	-	B-3、Gr. pit1286		美濃口編年8～9期？
230	13	須恵器	鉢	口縁部	-	-	-	-	-	5.6	-	回転ナデ後指ナデ	回転ナデ		にぶい黄橙 (10YR7/2)	灰白 (10YR7/1)	石英、輝石	良好	-	-	B-3、Gr. pit1292		東播系須恵器(片口)鉢　☆第Ⅱ期第２段階12末～13初？
230	14	土師器	灯明皿	口縁部～底部	(8.4)	(6.9)	1.2	-	-	-	-	回転ナデ、指頭圧痕	糸切り		橙 (7.5YR6/6)	橙 (7.5YR6/6)	石英、角閃石、雲母、輝石、赤褐色砂粒	良好	-	-	C-3、gr. pit1535		美濃口編年8～9期？残存率2/3
230	15	瓦質土器	片口鉢	口縁部～胴部	(24.7)	-	-	-	-	10.5	-	ハケ	ハケ後指オサエ、ナデ、ケズリ		褐灰 (10YR5/1)	褐灰 (10YR5/1)	雲母	良好	-	-	B-4, Gr.pit1560、pit01570、B-5,ⅢA		残存率1/4以下
230	16	瓦質土器	土鍋(肥前系近似)	口縁部～胴部	(44)	-	-	-	-	9	-	横ハケ	横ハケ、スス付着、網目の圧痕(口唇部)	口縁部に刺突	褐 (7.5YR4/4)	褐 (7.5YR4/4)	石英、雲母	良好	-	-	B-3、Gr. pit1452		口縁部刺とう(2ヶ所)図面参照,スス付着,美濃口編年9期(13C前～中)、残存率1/4以下
235	1	磁器	椀	口縁部～底部	-	-	6.6	-	-	6.6～	-	ロクロ成形		施釉　染め付け	明緑灰 (7.5GY8/1)	灰白色(7.5Y8/1)		良好	-	-	H-7、074	2層	残存率　1/6
235	2	青磁	碗？	底部	-	4.4	-	-	-	2.6～	-	ロクロ成形		施釉　染め付け	明緑灰 (10G7/1)	明青灰 (5BG7/1)		良好	-	-	074	3B層	残存率　1/5
235	3	磁器	椀	底部	-	4.5	-	-	-	3.6～	-	ロクロ成形		全面施釉	灰白 (7.5Y7/1)	灰白 (7.5Y7/1、2.5GY8/1)		良好	-	-	H-7、074	3C層	残存率　1/5、砂目アト有り
235	4	瓦器	擂り鉢(陶器)	胴部～底部	(10.7)	-	-	-	-	3.4	-	スリ目	ロクロ成形、不定形横ナデ、糸切り、胎土目痕	糸切り	灰赤 (2.5YR4/2)	褐灰 (5YR4/1)		良好	-	-	H-7、Gr. 074	砂層	残存率1/4以下　*内部のすり目は使用されてかなり擦りへっている！
235	5	肥前唐津系陶器	鉢	底部	-	(10.5)	-	-	-	2.7	-	白泥鉄釉	鉄釉		極暗赤褐 (2.5YR2/3)	極暗赤褐 (2.5YR2/3)		良好	-	-	N-8 074	砂層	近世18C前半～(1750年)二彩ハケ目模様、残存率1/4以下
235	6	陶器	椀	底部	-	3.7	-	-	-	2.5～	-	ロクロ成形		施釉	明オリーブ灰 (2.5GY7/1)	橙 (5YR6/6)		良好	-	-	074	-	残存率　1/5
235	7	青磁	椀	底部	-	4.2	-	-	-	2.2～	-	ロクロ成形		全面施釉	オリーブ灰 (2.5GY6/1)	オリーブ灰 (2.5GY6/1)		良好	-	-	074	-	残存率　1/5
235	8	陶器	椀	底部	-	4.7	-	-	-	2	-	ロクロ成形		施釉　染め付け	にぶい黄橙 (10YR7/3)	淡黄 (2.5Y8/3)		良好	-	-	074	2砂下層	残存率　1/5
235	9	陶器	筒形椀？	底部	-	4.3	-	-	-	1.9～	-	ロクロ成形		施釉　染め付け	灰オリーブ (7.5Y6/2)	灰黄 (2.5Y6/2)		良好	-	-	074	3B層	残存率　1/5
235	10	青磁	椀	口縁部	-	-	-	-	-	6.2～	-	ロクロ成形			明オリーブ灰 (5GY7/1)	明オリーブ灰 (5GY7/1)		良好	-	-	074	2砂層	残存率　1/6

表(Tab)48　土器観察表（30）

図版番号	遺物番号	種別	器種	部位	口径	底径	器高	高台高	高台径	残存高	最大胴径	調整			色調		胎土	焼成	黒斑	赤色顔料	出土地点	層位	備考
					(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(内面)	(外面)	(その他)	(外面)	(内面)							
235	11	磁器	椀	口縁部	-	-	-	-	-	5.3～	-	ロクロ成形		施釉　染め付け	明緑灰 (7.5GY8/1)	明緑灰 (7.5GY8/1)		良好	-	-	074	3B層	残存率　1/6
235	12	磁器	椀	口縁部	-	-	-	-	-	5.2～	-	ロクロ成形		施釉　染め付け	明緑灰 (7.5GY8/1)	明緑灰 (7.5GY8/1)		良好	-	-	074	3B上層	残存率　1/7
235	13	須恵器	擂り鉢	口縁部	-	-	-	-	-	5.8	-	ハケ後スリ目	ナデ		黄灰 (2.5Y5/1)	黄灰 (2.5Y5/1)	石英、輝石	良好	-	-	074、E-5	1層	残存率1/4以下
235	14	須恵器	鉢	底部	-	(12.1)	-	-	-	5.6	-	ハケ後ナデオサエ	ハケ後タタキ		灰 (5Y5/1)	灰 (5Y5/1)	石英、角閃石、雲母	良好	-	-	074	3下層	残存率1/4以下
237	1	肥前陶器(唐津系)	皿(陶器)	口縁部～底部	10.5	3.7	3.9	-	-	-	-	施釉	施釉、露胎、ロクロ形成		(釉)褐灰10YR6/1、(地肌)橙7.5YR7/6	褐灰 (10YR6/1)		良好	-	-	094		縮んで萎縮したような釉,カキモチのような肌、残存率一部欠損
237	2	輸入陶磁	椀	底部	-	6.8	-	-	-	3.3	-	回転ナデ後施釉	回転ナデ後裸胎		灰白(釉)2.5Y8/2	灰白(釉) (2.5Y8/2)		良好	-	-	094		釉のかかって鋳ないところ７.５YR8/3浅黄橙、残存率1/4以下
237	3	肥前焼染付	皿	底部	-	-	-	-	-	1.2	-	施釉	施釉、釉剥ぎ、ロクロ形成		明緑灰 (7.5GY7/1)	明緑灰 (7.5GY7/1)		良好	-	-	094		近世、肥前磁器皿1690～1740年代？残存率1/4以下
237	4	瓦器	擂り鉢	口縁部	-	-	-	-	-	7.9	-	スリ目、回転ナデ(口縁部)	回転ナデ	口縁部回転ナデ	明赤褐(5YR5/6)	にぶい褐 (7.5YR5/4)	石英、雲母	良好	-	-	094、E-5		赤焼け,須恵器の焼き戻りか？、残存率1/4以下
237	5	須恵器	擂り鉢	口縁部	-	-	-	-	-	8.7	-	回転ナデ、スリ目	回転ナデ、ナデ		黄灰 (2.5Y5/1)	黄灰 (2.5Y5/1)	石英、雲母	良好	-	-	094	3B層	残存率1/4以下
237	6	須恵器	擂り鉢	口縁部	-	-	-	-	-	6.5	-	スリ目、回転ナデ(口縁部)	回転ナデ、ナデ	口縁部回転ナデ	黄灰 (2.5Y4/1)	黄灰 (2.5Y4/1)	石英、雲母	良好	-	-	094		質の良い中世須恵器、残存率1/4以下
237	7	瓦器	擂り鉢	胴部～底部	-	-	-	-	-	7.1	-	横ナデ、スリ目	ナデ		黄灰 (2.5Y6/2)	明赤褐 (5YR5/6)	石英、雲母、長石	良好	-	-	094		
237	8	瓦質土器	火鉢	口縁部	-	-	-	-	-	5	-	横ナデ	花弁状スタンプ、二条突帯		橙 (5YR6/8)	橙 (5YR6/8)	石英、角閃石、雲母、赤褐色砂粒	良好	-	-	094		残存率1/4以下
237	9	瓦質土器	火鉢	口縁部	-	-	-	-	-	9.1	-	ナデ	突帯貼り付けナデ、花弁状スタンプ、波状の文様		黄灰 (2.5Y5/1)	黄灰 (2.5Y5/1)	石英、雲母	良好	-	-	094、E-5		残存率1/4以下
237	10	瓦質土器	火鉢	胴部～底部	-	(23.5)	-	-	-	15.7	-	ナデ消し	木製工具でナデ、突帯貼り付け		褐灰 (10YR5/1)	褐灰 (10YR5/1)	石英、角閃石、雲母、長石	良好	-	-	094	3A層	脚は３本と想定,図面参照、残存率1/4以下
283	1	須恵器	大甕	胴部	-	-	-	-	-	9.2	-	同心円文タタキ	格子目タタキ、自然釉		褐灰 (10YR4/1)	褐灰 (10YR5/1)		良好	-	-	055	Tr一括	残存率1/4以下
283	2		手捏土器	口縁部～底部	-	-	-	-	-	3.9	-	ナデオサエ	ナデオサエ		にぶい赤褐 (5YR5/4)	にぶい赤褐 (5YR5/4)	石英、角閃石、雲母、赤褐色砂粒	良好	-	-	094	上層	籾殻痕、藁等の植物痕多数、残存率1/4以下
283	3	瓦	布目瓦		-	-	-	-	-	-	-	布目痕	タタキ痕		褐灰 (10YR5/1)	褐灰 (10YR5/1)	砂粒	良好	-	-	G-7、Gr.		残存率1/4以下
283	4	龍泉窯系青磁	椀	口縁～胴部	-	-	-	-	-	4.8	-	回転ナデ後施釉	回転ナデ後、施釉、縞蓮弁文		オリーブ灰 (2.5GY6/1)	オリーブ灰 (2.5GY6/1)		良好	-	-	B-4 Gr.	ⅢA層	Ⅱ-b類、鎬あり蓮弁、龍泉窯系、13C初後～前半(E期)、残存率1/4以下
283	5	龍泉窯系青磁	椀	口縁部～胴部	-	-	-	-	-	5.2	-	回転ナデ後施釉	回転ナデ後、施釉、縞蓮弁文		オリーブ灰 (5Y5/2)	オリーブ灰 (5Y5/2)		良好	-	-	B-2 Gr.	ⅢB層	Ⅱ-b類、鎬あり蓮弁、龍泉窯系、13C初後～前半(E期)、残存率1/4以下
283	6	龍泉窯系青磁	椀	胴部～底部	-	5.8	-	-	-	4.5	-			見込み部に文字印文	オリーブ黒 (5Y6/3)	オリーブ黒 (5Y6/3)		良好	-	-	009	3層表土ハギ一括	D期(12C中～後)全玉満堂の玉の文字が入っている、残存率1/4以下
283	7	白磁	杯	胴部～底部	(9.5)	(4.5)	2.9	-	-	-	-	回転ナデ後施釉、目アト	回転ナデ後施釉、露胎、抉り		灰白 (7.5Y8/1)	灰白 (7.5Y8/1)		良好	-	-	不明		森田D類(15C前半、D期)、残存率1/3
283	8	白磁	皿	胴部～底部	-	(3.3)	-	-	-	1.1	-	ヘラ描き後施釉	施釉、露胎		にぶい黄 (2.5Y6/3)	浅黄 (2.5Y7/3)		良好	-	-	不明		白磁(Ⅵ・Ⅷ類)？残存率1/4以下
283	9	白磁	椀	口縁部	-	-	-	-	-	3	-	施釉	施釉		灰白 (5Y7/2)	灰白 (5Y7/2)		良好	-	-	B-2 Gr.	ⅢA	碗Ⅳ類、肉厚な玉縁の椀(11C後～12C前半、C期)、残存率1/4以下
283	10	須恵器	鉢	口縁部	-	-	-	-	-	4.65	-	回転ナデ	回転ナデ		灰 (N6/)	灰 (N6/)	石英、長石、輝石	良好	-	-	011	付近	東播系　☆第Ⅱ期第２段階

表(Tab)49　土器観察表（31）

図版番号	遺物番号	種別	器種	部位	口径	底径	器高	高台高	高台径	残存高	最大胴径	調整			色調		胎土	焼成	黒斑	赤色顔料	出土地点	層位	備考
					(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(内面)	(外面)	(その他)	(外面)	(内面)							
283	11	古備前	甕	口縁部	-	-	-	-	-	6	-	回転ナデ、指頭圧痕	回転ナデ		褐灰 (5YR4/1)	褐灰 (5YR4/1)	雲母、長石	良好	-	-	不明		古備前,Ⅰ～Ⅱ期？P413参,13～14C、残存率1/4以下
283	12	瓦質土器	釜	口縁部	(20.4)			-	-	4.6	-	不明	不明、焼成前穿穴	口縁部下に穿孔	灰黄褐(10YR5/2)	灰黄褐(10YR5/2)	石英、雲母、赤褐色砂粒	良好	-	-	B-6、Gr.	Ⅲ層上	煮炊具(釜),穿孔あり　残存率1/4以下
283	13	土師質土器	土鍋	口縁部	-	-	-	-	-	6.4	-	ハケ	ハケ、横ナデ	口縁部に刺突	灰褐 (7.5YR4/2)	灰褐 (7.5YR4/2)	石英、角閃石、雲母	良好	-	-	不明		美濃口編年9期,13C初口唇部に圧痕、残存率1/4以下
284	14	瓦質土器	火鉢	口縁部～胴部	36.4	-	-	-	-	20.9	-	不定方向ナデ	貼り付け、スタンプ、不定方向ナデ		灰黄褐(10YR5/2)	にぶい黄橙 (10YR6/3)	雲母、微細砂粒、角閃石、石英	良好	-	-	C-5、046		(断面)10YRにぶい黄橙6/3、残存率1/4以下
284	15	瓦質土器	火鉢	口縁部～胴部	-	-	-	-	-	11.4	-	不定方向ナデ	スタンプ、刻目、横ナデ		褐灰 (10YR6/1)	褐灰 (10YR6/1)	金雲母、輝石	良好	-	-	C-6区、gr.	Ⅲ層	残存率1/4以下
284	16	瓦質土器	火鉢	口縁部	-	-	-	-	-	7	-	ナデ	ナデ、小円のスタンプ		黄灰 (2.5Y5/1)	黄灰 (2.5Y5/1)	石英、角閃石、雲母、輝石、長石	良好	-	-	D-5、Gr.	ⅢA層	須恵質っぽい、残存率1/4以下
284	17	瓦質土器	火鉢	胴部	-	-	-	-	-	4.4	-	横ハケ	横ナデ、花弁状スタンプ		にぶい橙 (7.5YR6/4)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	石英、角閃石、雲母、赤褐色砂粒	良好	-	-	C-5、gr.	ⅢA	残存率1/4以下
284	18	瓦質土器	火鉢	口縁部～底部	(34.8)	(28)	12.7	-	-	-	-	突帯貼り付け横ナデ、菊花文スタンプ	横ナデ		褐灰 (10YR5/1)	褐灰 (10YR5/1)	石英、雲母、輝石	良好	-	-	不明		脚は３本が多いので３本で想定、残存率1/4以下
284	19	瓦質土器	小皿	完形	9.4	6.6	1.9	-	-	-	-	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り離し		灰白 (10YR8/1)	灰白 (10YR8/1)	雲母	良好	-	-	T-8、Gr.	Ⅲ層上面	炭素吸着,美濃口編年5,6期(12C中～後半？)
284	20	瓦器	鉢	底部	-	-	-	-	-	3.5	-	スリ目	ナデ		灰 (N5/)	灰 (N5/)		良好	-	-	091、D-5	ⅢA層	残存率1/4以下
285	26	肥前焼染付	椀	胴部～底部	-	(3.9)	-	-	-	3	-	施釉	施釉、釉剥ぎ、ロクロ形成		灰白 (10Y7/1)	灰白 (10Y7/1)		良好	-	-	B-2 Gr.	Ⅲ A～Ⅳ層	近世、肥前1690～1740年代？コンニャク印判桐文？残存率1/4以下
285	27	染付	仏飯器	口縁部～底部	-	-	-	-	-	3.1	-	施釉	施釉、ロクロ形成、タコ唐草文様		灰白 (5GY8/1)	灰白 (5GY8/1)		良好	-	-	A-5 Gr.	ⅢA	仏飯具タコ唐草文、18C後半～19C中頃？残存率1/4以下
295	1	染付	染付皿	底部	-	4.5	-	-	-	1.7	-	施釉、蛇の目釉剥ぎ	施釉、露胎、ロクロ形成、染付		(釉)明緑灰7.5GY8/1 (胎)灰白5Y7/2	(釉)明緑灰7.5GY8/1 (胎)灰白5Y7/2		良好	-	-	E-7･8 S051	砂層②層	近世18C後半、残存率1/4以下
295	2	青磁	椀(陶器)	底部	-	4.2	-	-	-	1.5	-	施釉、胎土目痕	施釉、胎土目痕、ロクロ形成		灰 (7.5Y6/1)	灰 (7.5Y6/1)	肥前陶器(唐津系)	良好	-	-	E-7、Gr. S051	砂層一括	残存率1/4以下
295	3	瓦器	擂り鉢(陶器)	胴部	-	-	-	-	-	3.9	-	スリ目	回転横ナデ		明赤褐 (2.5YR3/3)	にぶい赤褐 (2.5YR4/4)		良好	-	-	E7,8、S051		近世以降、残存率1/4以下

表(Tab)50　土器観察表（32)

図版番号	遺物番号	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	石材・石質	出土地点	層位	備考
20	20	磨製石鏃	2.9	1.85	0.3	1.95	粘板岩	S001	B区一括	
20	21	磨製石鏃	3.2	1.75	0.2	2.09	チャート	S001	埋土一括	
21	22	磨石	10.1	8.8	3.8	-	安山岩	S001	S-14	両面に磨痕あり
21	23	石皿	(16.90)	(11.70)	-	-	安山岩系	S001	S-11	接合、スス付着
21	24	石皿	(18.30)	(15.50)	9.2	-	安山岩	S001	B-3ピット内	被熱による赤変、スス付着
26	23	磨製石鏃	3.3	2.2	0.2	-	粘板岩	S003	A-8ピット内	擦痕不明瞭 裏面欠損か?刃部幅0,25cm、抉部の深さ0,1cm
26	24	磨製石鏃	3.2	2.4	0.3	2.45	粘板岩	S003	A-中層	先端部欠損
26	25	石槍	6.60	3.65	2.10	-	安山岩	S003	上層	打製石剣か
28	5	砥石	(4.45)	(3.50)	1.55	-	砂岩	S005	№19	
32	9	石包丁	3.55	10.85	0.75	-	粘板岩	S017	№1	紐ズレ痕あり 外形/内径/孔開/孔端/背孔 0.80/0.50/2.70/4.10/1.00
36	12	石皿	(12.95)	(11.50)	4.40	-	安山岩質	S026	A-Ⅰ層	磨痕あり
36	13	磨石	5.7	5.65	3.5	-	安山岩質	S026	A-2	磨石・凹石・敲石を兼ねる
39	9	玉砥石？	(5.35)	(5.30)	(2.80)	-	軽石（凝灰岩？）	S038	Ⅰ層上	
40	10	石皿	(14.90)	(11.70)	4.40	-	安山岩質	S038	Ⅰ層上	
44	9	磨製石鏃	2.65	(2.15)	0.3	-	粘板岩?	S044	D- 床面	両面に擦痕あり
47	8	磨製石鏃	(2.70)	2.5	0.2	2.08	緑泥変岩?	S054	-	両面に擦痕あり（磨滅により不明瞭)、先端部欠損
47	9	石包丁	3.2	(11.20)	0.75	-	輝緑凝灰岩（立岩産）	S054	-	擦痕あり（磨滅により不明瞭)、 孔に紐擦れ痕あり
50	6	砥石	(8.20)	9.2	3.9	-	流紋岩（天草砥石?）	S072	№57	磨面は4面
53	9	磨製石鏃	(3.45)	(2.55)	0.3	-	蛇紋岩	S076	B-Ⅱ層	擦痕あり 形状がいびつ、刃部幅0,25cm
53	10	磨製石器	2.1	2.6	0.2	-	粘板岩	S076	D-層	両面に擦痕あり、頭部欠損
53	11	石包丁	(2.80)	(5.00)	0.40	7.89	粘板岩?	S076	A-Ⅰ層	大部分を欠損
53	12	石戈転用品	11.5	(6.70)	1.1	84.73	変成岩	S076	Ⅱ層	両面に擦痕・使用痕あり
54	13	石皿	(16.30)	(12.00)	8.56	-	花崗岩の一種?	S076	№37	
54	15	砥石	6.45	4.90	1.60	-	流紋岩	S076	一括NE	全体に磨痕あり
59	18	敲石	8.40	3.70	2.10	115.42	安山岩質？(白)	S081	TrⅠ層	
59	19	敲石	6.65	3.05	-	56.33	安山岩質？(白)	S081	TrⅠ層	
59	20	凹石(一部磨石)	9.8	10.5	4.85	752.50	安山岩質	S145	№4	両面に敲打痕、一部に磨痕あり
59	21	凹石・磨石	8.5	8.4	5.6	650.0	火成岩	S145	№3	表面敲打痕、裏面磨痕あり
63	8	凹石	7.15	7.5	4.5	344.72	安山岩質？(白)	S082	№1	両面に敲打痕あり
63	9	凹石	9.6	6.7	5.1	409.57	安山岩質？(白)	S082	№10	両面に敲打痕あり
63	10	磨石	(4.90)	6.90	5.30	194.96	安山岩質?	S082	№2	
67	14	敲石	12.90	4.90	4.50	412.82	安山岩質	S089	D-1.2	敲打痕あり
72	26	磨製石鏃	(2.70)	2.0	0.2	1.79	緑泥変岩（?）	S147	-	両面に擦痕あり（磨滅により不明瞭)、先端部欠損、抉部深さ0.3cm
73	27	磨石	11.4	8.6	4.0	691.00	安山岩質	S147	-	全面に敲打痕あり、表裏に磨痕あり
76	13	砥石	(6.35)	2.60	1.85	-	変岩	S095	-	
76	14	石包丁	(3.60)	(2.65)	0.55	7.34	頁岩	S095	-	擦痕あり 少しローリングを受けている
77	15	石皿	(7.90)	(5.90)	(5.60)	400.63	流紋岩質?	S095	-	表面に磨痕あり
77	16	石皿	(10.90)	(4.00)	(4.20)	143.87	凝灰岩質?	S095	-	表面に磨痕あり
81	8	凹石・敲石	9.15	8.35	5.0	473.21	安山岩系?	S100	№5	全体に敲打痕あり

表(Tab)51　石器観察表（１）

図版番号	遺物番号	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	石材・石質	出土地点	層位	備考
84	10	磨石	9.70	8.90	4.40	511.42	安山岩質	S101	№11	磨石・凹石・敲石を兼ねる
85	6	磨製石鏃	3.55	(1.60)	0.2	1.56	蛇紋岩	S105	中層	擦痕あり（磨滅により不明瞭)。側縁部欠損
95	37	磨製石鏃	3.5	2.5	0.2	2.45	蛇紋岩	S106	S 上層	擦痕あり（磨滅により不明瞭)
95	38	砥石	10.50	3.50	3.30	148.95	流紋岩	S106	L-9	受熱、スス付着、割面に磨痕
95	39	磨製石鏃（未製品）	(4.15)	3.40	0.60	6.80	ガラスorサヌカイト質安山岩	S106	NW 砂層	スクレイパーの転用品か、擦痕あり
95	40	砥石	7.5	4.0	4.0	160.55	砂岩	S106	N上層	全面に磨痕あり
95	41	砥石	3.8	4.7	2.1	49.61	流紋岩（天草砥石?)	S106	SW砂層	全面に磨痕あり
96	42	石皿片	22.90	24.80	10.00	6850	火山岩（安山岩)	S106	-	磨痕あり
96	43	磨石	5.2	5.0	-	94.38	火山岩（安山岩質?)	S106	SWW上層砂層	磨痕、敲打痕あり
96	44	敲石	(8.00)	2.6	-	64.10	安山岩質	S106	SW砂層	使用痕、短径2.0、長径2.0、剥離によって尖端部を作出し利用した痕跡あり
96	45	磨石	11.80	(7.60)	6.20	492.40	安山岩	S106	№210	全体に摩痕あり
96	46	凹石	14.40	7.60	3.80	445.63	凝灰岩	S106	SWベルト 下層	敲打痕有り
101	68	柱状片刃石斧	3.3	2.3	1.0	16.16	蛇紋岩	S106	-	表面に擦痕あり
101	69	石剣	(6.35)	2.7	0.75	13.71	粘板岩?	S106	北側ベルト	基部欠損、擦痕あり、刃こぼれ無し
101	70	砥石	13.85	9.60	6.70	918.40	変成岩の一種	S106	№11	２面に磨痕有り、凸凹により磨痕がない所もある
102	72	磨石	(8.55)	(10.85)	5.7	552.70	火成岩	S106	№7	敲打による抉れあり、敲打痕、磨痕あり
102	73	磨石	(7.60)	(11.05)	5.5	753.40	火成岩	S106	L-9 南北ベルト北側下層	全体に磨痕、敲打痕あり
105	6	砥石	5.70	4.25	2.80	90.54	流紋岩	S107	K-9 №2	４面に磨痕あり
107	1	砥石	24.75	(5.00)	5.10	562.30	安山岩質	S119	№6 住居内土坑	右半欠損
110	7	磨製石鏃	(2.00)	(2.40)	0.25	1.81	粘板岩?	S129	№1	擦痕有り（磨滅により不明瞭)、頭部欠損
112	6	砥石	19.10	19.70	8.10	3507.10	砂岩	S135	D-4 №4	５面に磨痕あり
136	4	玉砥石	7.8	6.45	4.6	-	軽石（凝灰岩)	S004	貯蔵穴№8	表面にくぼみあり
138	11	磨製石鏃	1.90	2.20	1.25	-	粘板岩か結晶片岩	S012	B-5、Ⅰ層	両面に擦痕あり、リダクションの可能性あり
143	18	磨製石鏃	4.6	2.40	0.2	-	チャート	S033	A-Ⅰ層 中間	擦痕あり、刃部幅0.2cm
144	19	浮子	3.7	1.65	1.2	-	軽石	S033	Wベルト2層	
144	20	砥石	8.7	7.15	(3.00)	-	赤色軽石	S033	№57	
146	11	磨製石鏃	2.3	1.90	0.15	-	緑泥変岩?	S053	下層Tr.	脚端部欠損、刃部幅0.3cm
150	14	砥石	(11.40)	5.50	-	-	流紋岩（天草砥石?)	S073	39	
150	15	石包丁	(4.20)	(4.65)	0.8	-	輝緑凝灰岩（立岩産)	S073	Eトレ、上層	
150	17	磨製石鏃	(2.50)	1.45	0.3		粘板岩	S073	Bカベ	頭部・下側縁部欠損
155	22	磨石	15.90	10.90	7.40	-	安山岩質	S075	-	磨痕あり
155	23	磨石	(8.70)	9.5	1.5	-	安山岩質	S075	一括	磨痕あり
155	24	磨石	20.0	8.4	5.3	-	安山岩質	S075	一括	両面に磨痕あり
158	17	砥石	(4.10)	1.8	1.55	-	流紋岩	S077	-	５面に擦痕あり
158	20	磨製石鏃	(3.90)	(2.40)	0.25	-	粘板岩?	S077	北TrⅡ層	擦痕あり（磨滅により不明瞭)
160	7	砥石	(6.90)	4.75	3.10	146.88	砂岩	S083	№31	
172	20	石包丁	4.7	(8.50)	0.8	44.22	輝緑凝灰岩（立岩産)	S118	№34	磨痕あり（不明瞭)
174	8	砥石	15.75	8.70	3.70	425.20	砂岩	S126	№9	磨痕あり
174	9	砥石	(9.40)	8.65	(1.70)	136.10	砂岩?	S126	NE	部分的に赤い　被熱か

表(Tab)52　石器観察表（２）

図版番号	遺物番号	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	石材・石質	出土地点	層位	備考
177	6	砥石	22.15	13.50	4.10	1514.0	砂岩	S130	-	３面に磨痕あり
177	7	砥石	(24.10)	(13.20)	(5.60)	1758.30	安山岩質	S130	№12	表面に磨痕あり
179	6	石包丁	5.4	(11.10)	0.7	64.07	変成岩の一種	S136	C-5 №1	両面に擦痕あり（磨滅により不明瞭)、穿孔は途中まで
179	7	砥石	7.60	6.50	1.10	96.70	細粒砂岩	S136	C-5	３面利用、割れ面も利用
195	14	石包丁	(4.20)	13.7	0.5	36.70	輝緑凝灰岩（立岩産）	S138	№23	緑色、両面に擦痕あり
195	15	砥石	(16.00)	(7.70)	(1.80)	299.40	砂岩	S138	№12	表面・側面の一部に磨痕あり
197	10	石包丁	3.6	(9.10)	0.7	-	輝緑凝灰岩	S046	-	両面に擦痕あり、緑の立岩産?
208	23	砥石	(8.15)	4.2	3.95	219.55	砂岩	S091	ベルト	全体に擦痕あり
209	24	敲石	6.2	3.3	2.15	63.31	安山岩質	S091	C-5	擦痕（磨滅）・ 敲打痕あり
209	25	凹石	(9.20)	5.85	-	368.27	火成岩	S091	b-4	両面に敲打痕あり 下面に風化の度合いが異なる敲打痕あり
223	1	砥石	(5.25)	2.70	0.80	-	堆積岩(頁岩?)	S055	Ⅱ層	
225	4	砥石	(16.65)	(12.40)	9.75	-	火成岩	S059	40	５面に磨痕あり
225	5	砥石	18.4	(13.10)	9.50	-	流紋岩（天草砥石?）	S059	№25	
225	8	敲石	(4.20)	(9.30)	3.60	-	(輝石)安山岩	S069	-	両面に磨痕・敲打痕あり
229	1	滑石製品	(8.20)	5.70	1.90	10.67	滑石	pit１489		両面にケズリ痕あり、棒状の工具で削っている
238	15	火輪(五輪塔)	25.75	20.00	12.05	-	凝灰岩	S094	№1	
246	1	砥石	(17.90)	7.30	6.90	632.00	流紋岩（天草砥石?）	S122	-	５面に磨痕 下端部欠損､先端部折れ二片接合
259	1	打製石鏃	2.20	1.80	0.50	2.17	黒曜石（腰岳産）	G-6 wTr		基部欠損
259	2	打製石鏃	2.80	1.90	0.55	-	安山岩	S017	№12 床直上	先端部欠損
259	3	打製石鏃	(1.80)	1.95	0.50	1.13	黒曜石	S106	SW	頭部・下側縁部欠損
259	4	打製石鏃	2.30	1.80	0.50	1.55	黒曜石（腰岳産)、腰岳ob	R-S-8	-	脚部欠損
259	5	打製石鏃	2.50	2.20	0.35	-	安山岩	S003	A5-2層	先端部欠損
259	6	打製石鏃	(2.30)	1.70	0.50	1.59	黒曜石（腰岳産）	S118周辺	-	剥片鏃、頭部欠損
259	7	打製石鏃	(1.90)	1.40	0.40	0.53	黒曜石	T-8ベルト T-9側	ⅢA層	剥片鏃、先端部欠損
259	8	打製石鏃	2.45	1.80	0.4	1.02	黒曜石（腰岳産）	S003	A-下層	剥片鏃、先端部欠損
259	9	打製石鏃	3.85	2.10	0.55	2.25	黒曜石（腰岳産)、腰岳ob	１区	南側排土一括	剥片鏃、先端部欠損
259	10	打製石鏃	(2.05)	1.95	0.45	1.03	黒曜石（腰岳産）	T-8	ⅢA層	先端部・脚部欠損
260	11	打製石鏃	(2.10)	(1.50)	0.30	0.76	黒曜石（腰岳産）	S-8	深TrⅡ層	頭部・脚部欠損
260	12	打製石鏃	2.15	1.40	5.50	1.27	黒曜石（腰岳産）	D区	ⅢA一括	
260	13	打製石鏃	1.75	1.35	0.35	0.28	黒曜石（腰岳産）	S003	上層	剥片鏃
260	14	打製石鏃	1.9	1.1	0.25	0.49	安山岩	S053	A-Ⅱ層	剥片鏃
260	15	打製石鏃	2.05	1.60	0.35	-	黒曜石（腰岳産）	S047	土坑	剥片鏃
260	16	打製石鏃	(2.10)	1.40	0.30	0.60	黒曜石	S-9	Ⅱ層	先端部・脚部欠損
260	17	打製石鏃	3.0	1.55	0.4	-	黒曜石（腰岳産）	S029	033	
260	18	打製石鏃	(1.70)	(1.45)	0.40	0.71	黒曜石（腰岳産)、腰岳ob	S-8	ⅢA層	脚部欠損
260	19	打製石鏃	2.30	1.45	0.40	-	安山岩	S072	B検出面	脚部欠損
260	20	打製石鏃	2.2	1.7	0.3	-	黒曜石（腰岳産）	S026	A上層	
260	21	打製石鏃	1.50	1.45	0.35	-	黒曜石（腰岳産）	S073	Bカベ	

表(Tab)53　石器観察表（３）

図版番号	遺物番号	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	石材・石質	出土地点	層位	備考
260	22	打製石鏃	2.40	1.35	0.30	0.77	黒曜石（腰岳産）	B-2	Ⅳ上	脚部欠損
260	23	打製石鏃	2.90	2.30	0.55	3.01	黒曜石	S-8	Ⅱ上層	脚部欠損
260	24	打製石鏃	(2.40)	2.20	0.50	1.57	黒曜石（腰岳産）	B-6	Ⅲ層上	下端部欠損
261	1	打製石斧	7.80	4.45	1.20	-	変成岩（輝緑変石）	S004	№24	
261	2	打製石斧	7.90	5.00	1.20	74.34	粘板岩	E-5	ⅢA層	上部欠損
261	3	打製石斧	(8.20)	5.30	1.40	93.32	輝石安山岩	S-8	ⅢA層	上部欠損、原礫面残存、節理面あり
261	4	打製石斧	9.15	4.85	1.10	70.85	粘板岩?	S082	№56	
262	5	打製石斧	(10.35)	5.10	1.60	133.91	粘板岩?	S-8	ⅢA層	上部欠損
262	6	打製石斧	(9.85)	5.25	1.25	89.16	粘板岩	II区	ⅢA層	上部欠損
262	7	打製石斧	(7.80)	5.50	1.30	-	粘板岩（?）	S106	SNTr.上層（Ⅱ?）	部分的に擦痕あり
263	8	打製石斧	(8.60)	5.90	-	-	蛇紋岩	S075	上層	
263	9	打製石斧	(13.30)	4.50	1.50	105.41	粘板岩	S-8	ⅢA層	頭部欠損､緑色主体で白のマダラ模様
263	10	打製石斧	12.40	4.15	1.10	80.03	粘板岩	S118	下層	パティナが違うので打製石斧を再加工したものか、擂り痕あり
264	11	打製石斧	(8.30)	6.80	2.40	198.53	安山岩質	S-8	深掘りTr上層・下層一括	上部欠損
264	12	打製石斧	10.35	5.90	0.80	66.48	粘板岩	T-8	ⅢA層?	
264	13	打製石斧	(8.85)	5.10	0.70	31.68	粘板岩	B-2	ⅢA～ⅢB一括	節理面あり
265	14	打製石斧	(9.35)	5.80	2.20	129.83	安山岩	S106	ETr.Ⅱ層	下半部欠損
266	1	磨製石斧	12.8	5.5	3.6	-	安山岩質	S003	CS-№3	
266	2	磨製石斧	(9.00)	(4.50)	(2.60)	-	安山岩質	S005	g（点あげ）	敲打痕、擦痕あり
267	3	磨製石斧	(10.60)	(4.20)	2.00	-	蛇紋岩	S026	A-Ⅱ層	
267	4	磨製片刃石斧	(3.20)	1.60	0.90	7.22	蛇紋岩	pit1399		上部欠損、基部長2,8～cm、刃部幅0,4cm、刃部長1,2cm、ノミ状、擦痕あり
267	5	磨製石斧	11.20	5.00	3.60	342.06	変成岩	K-8	ⅢA層	磨製石斧を敲石に転用
268	6	局部磨製石斧	12.3	7.5	0.9	-	粘板岩	S077	№10	刃部にのみ磨痕あり、板状に割れている粘板岩を素材として利用
268	7	局部磨製石斧	(6.65)	5.20	0.80	38.06	粘板岩	T-9	ⅢB層	擦痕あり、上部欠損
269	8	磨製石斧	(7.25)	4.30	2.10	-	蛇紋岩	S089	床面そば出土 外?	欠損なし、床面そば出土
269	9	磨製石斧	(6.00)	(3.60)	(1.60)	33.53	蛇紋岩	B-4	ⅢA上	擦痕あり、大部分を欠損
269	10	磨製石斧	(7.40)	(3.80)	(0.90)	28.19	安山岩質			表面に擦痕、大部分を欠損
269	11	磨製石斧	(4.40)	(4.85)	(2.10)	36.28	安山岩質	K-8	ⅢA層	擦痕あり、大部分を欠損
269	12	磨製石斧	5.7	(3.50)	1.5	39.47	安山岩（?）	K-9	ⅢA上	両面に擦痕あり（磨滅により不明瞭)、ソケットに装着して使用したものか?
270	1	楔形石器	(2.50)	1.65	0.50	-	黒曜石	S003	A-13 ⅡA層	かなりローリングを受けている
270	2	楔形石器	2.50	2.00	0.95	3.90	黒曜石（腰岳産）	T-8	ベルト	
270	3	楔形石器	3.40	1.90	1.10	-	黒曜石（腰岳産）	S012	-	
270	4	楔形石器	3.30	3.10	0.65	-	黒曜石（腰岳産）	S004	-	
270	5	楔形石器	3.50	2.70	-	-	黒曜石（腰岳産）	S026	B下層	節理面
270	6	楔形石器	3.45	2.35	1.10	8.07	黒曜石（腰岳産）	S-8	Ⅰ・Ⅱ層 表土はぎ	原礫面残存
270	7	楔形石器	1.70	1.35	0.40	-	黒曜石（腰岳産）	S003	-	
270	8	楔形石器	1.50	1.75	0.70	-	黒曜石（腰岳産）	S017	DⅡ区、かべ土	
271	1	石匙	3.25	7.20	1.05	12.60	安山岩	1区	一括	
271	2	スクレイパー	4.50	3.50	0.70	-	安山岩	S017	Ⅲ層	原礫面残存、河原石の礫面あり

表(Tab)54　石器観察表（4）

図版番号	遺物番号	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	石材・石質	出土地点	層位	備考
271	3	スクレイパー	(3.10)	2.00	0.80	-	黒曜石	S003	A床上	
271	4	サイドスクレイパー	3.00	2.15	0.70	3.91	黒曜石	B・C-4.5	Ⅲ層	打面部に原礫面残存
271	5	サイドスクレイパー	7.25	3.00	1.40	18.50	安山岩	S-9 西Tr.	ⅢA相当層	削器
271	6	スクレイパー	5.35	4.30	1.50	26.63	安山岩	S129	-	削器
272	7	スクレイパー	6.40	5.20	1.20	40.60	安山岩	K-8		削器、原礫面残存
272	8	スクレイパー	3.60	6.10	3.60	21.36	安山岩	C-4	N側 ⅢAベルト	削器
272	9	スクレイパー	(4.60)	2.35	0.70	5.91	黒曜石（腰岳産）	S054	SW	ガジリあり
272	10	スクレイパー	2.70	2.95	0.70	4.51	黒曜石	S-9 WTr.	ⅢA層	削器
272	11	スクレイパー	(5.75)	(6.20)	1.30	54.30	ガラス質安山岩（多久産）	S091	ベルト	ガジリあり
272	12	サイドスクレイパー	3.20	2.65	0.70	5.17	黒曜石（腰岳産）	B-5	Ⅱ層上	錯交剥離
273	1	石刃	5.05	2.25	0.90	-	黒曜石（姫島産?）	S001	B区一括	打面、打点部なし
273	2	石刃	3.80	1.30	0.45	1.55	黒曜石（腰岳産）		一括	打面狭小
273	3	石刃	(4.60)	1.80	0.50	4.14	黒曜石（腰岳産）	T-8	ⅢA層?	端部欠損、原礫面残存
273	4	作業面再生剥片	2.35	3.20	-	-	黒曜石（腰岳産）	S017	№14 3層以下 かべ土	原礫面残存
273	5	作業面再生剥片	3.10	2.20	0.50	4.09	黒曜石	Ⅰ区	ヨシダ	石刃を剥出した痕跡あり、原礫面残存
273	6	クレステッドフレイク	4.80	2.30	1.40	-	黒曜石（腰岳産）	S003	D1層	鈴樋技法に関連
273	7	クレステッドフレイク?	3.65	1.90	1.40	6.04	黒曜石（腰岳産）	S130	上Ⅱ層	
274	8	作業面再生剥片	3.85	3.55	1.50	18.30	黒曜石（腰岳産）	S-9 東Tr.	Ⅲ	石刃を剥離した痕跡あり
274	9	剥片	3.35	3.70	1.30	-	黒曜石（腰岳産）	S033-1	E2層	小石刃剥離痕のある剥片
274	10	使用痕ある剥片	4.60	0.95	0.50	1.73	黒曜石（腰岳産）	L-9		
274	11	使用痕ある剥片	4.35	2.25	0.70	6.68	黒曜石（腰岳産）	E-6	A	
274	12	二次加工のある剥片	4.10	1.80	1.35	7.98	黒曜石（腰岳産）		排土一括	角張った角から剥出したファーストフレイク
274	13	使用痕ある剥片	(6.80)	2.50	1.00	11.36	黒曜石（腰岳産）	T-9	Ⅲ8	端部欠損、原礫面残存
274	14	使用痕ある剥片	5.70	2.30	0.70	5.18	黒曜石	S-8	深TrⅡ層	端部欠損、打面あり
274	15	使用痕ある剥片	5.10	1.90	0.50	4.19	黒曜石（腰岳産）	J-8	ⅢA層	原礫面残存
275	1	石核	4.50	6.30	2.60	-	サヌカイト	S012	-	
275	2	石核	5.20	2.90	2.00	28.21	黒曜石（腰岳産）	C-3	ⅢA層	原礫面残存
275	3	石核	3.70	8.20	2.50	66.96	安山岩	C-3 wTr.	ⅢA層	原礫面残存
275	4	石核	2.30	3.30	2.20	12.55	黒曜石（腰岳産）	pit1020		
275	5	石核	5.65	3.20	3.00	81.71	安山岩	L-9溝	ⅢA E	
276	6	石核	6.50	4.55	1.60	61.72	ハリ質安山岩	C-3	ⅢB	
277	1	鋸歯縁石器	3.30	2.75	1.40	10.91	黒曜石（腰岳産）	S073	C-1	原礫面残存
277	2	鋸歯縁石器	2.80	2.65	1.20	-	黒曜石（腰岳産）	S001	B区一括	
281	1	磨製石鏃	(2.80)	(2.20)	0.20	1.82	粘板岩?	I-8	ⅢA層	両面に擦痕あり
281	2	磨製石鏃	(3.75)	(2.20)	0.3	3.04	粘板岩	T-9	ⅢA層	擦痕あり、脚部欠損、刃部幅0,15cm
281	3	磨製石鏃	4.60	2.70	0.25	4.35	変成岩	J-9	ⅢA層	両面に擦痕、剥離あり
281	4	磨製石鏃	(1.35)	1.35	0.1	-	粘板岩	S010	№2	先端部欠損、両面に擦痕あり
281	5	磨製石鏃	(1.10)	(1.00)	0.15	0.14	粘板岩	F-7	ⅢA層	下部欠損
281	6	磨製石鏃	(2.15)	1.50	0.25	1.03	蛇紋岩?	pit 1609		上部欠損、両面に擦痕

表(Tab)55　石器観察表（５）

図版番号	遺物番号	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	石材・石質	出土地点	層位	備考
281	7	磨製石鏃	(3.10)	1.9	0.2	1.88	チャート	K-9	ⅢA層一括	薄緑色、頭部、脚部欠
281	8	磨製石鏃	(4.90)	1.80	0.25	3.32	粘板岩	J-9,北Tr,用水路跡	ⅢA層	基部欠損、両面に擦痕
281	9	石包丁	3.20	3.90	0.50	8.37	粘板岩	C-4	ⅢA	大部分を欠損、両面に擦痕あり、穿孔あり
281	10	石包丁	(4.80)	(4.50)	0.55	15.18	輝緑凝灰岩（立岩産）	Ⅰ区 L-9	ⅢA土器片一括	大部分を欠損、擦痕あり、やや薄紫色
281	11	石包丁	4.5	(5.70)	0.9	21.18	粘板岩?	L-9 東Tr	ⅢA下 黒色土 一括	両面に擦痕あり、大部分を欠損
281	12	石包丁	(3.05)	(3.70)	0.75	6.67	流紋岩	S-9 Etr	Ⅲ下層	擦痕あり､大部分を欠損、表面残存僅少
281	13	石包丁	(2.90)	(5.90)	0.6	13.73	輝緑凝灰岩（立岩産）	B-3	ⅢAベルト	薄紫色、大部分を欠損
282	14	紡錘車	4.20	4.20	0.45	15.95	変成岩	H-8	ⅢA層	両面に擦痕あり
282	15	砥石	(6.25)	3.10	1.85	47.23	砂岩（細粒）	B・C-4.5	Ⅲ層	両端欠損､細粒なので仕上げ用砥石?
282	16	砥石	(4.40)	2.7	1.5	22.06	流紋岩	S-9	ⅢA層	５面に擦痕あり
282	17	砥石	(11.50)	12.8	2.65	555.90	砂岩	J-8	ⅢA，B層	全面に磨痕あり
282	18	太型蛤刃石斧	(15.00)	(7.10)	(5.10)	721.0	玄武岩	C-4	ⅢA層	彫琢痕､敲打痕､擦痕あり
285	21	分銅	7.0	2.5	1.7	53.40	滑石	B-3	ⅢA層	両面に擦痕あり、中世
285	22	硯?立岩?	(6.70)	(4.10)	1.6	63.62	輝緑凝灰岩（紫色）	B-5	Ⅲ上	全面に磨痕あり 中世か、大部分を欠損
285	23	石鍋片	(2.70)	(7.35)	-	67.43	滑石	B-4	ⅢA-ベルト	表面にケズリ痕あり
285	24	石鍋	-	-	-	153.58	滑石	S095	-	鍔の下側にスス付着 部位:口縁 残存率:1/4以下 法量(口径):22.0㎝ 調整:部分的にケズリ傷あり
286	1	支脚	(14.00)	9.2	8.4	914.90	凝灰岩	B-4	ⅢA層	不均一だが（10面以上）2～4cm幅の面取りあり※時期不明であるが中世か
286	2	先頭状石器	6.15	4.55	1.20	24.91	安山岩（在地産）	B-4	ⅢA層	原礫面残存
286	3	不明（軽石製品?）	5.60	4.00	2.30	14.35	軽石	J-9	ⅢA上層?	上面に凸部あり、擦切痕あり
286	4	石錐	2.60	1.95	0.85	3.46	安山岩	R-8	ⅢA層	
287	5	石皿	27.60	(16.90)	0.61	4061.10	安山岩質	C-4	ⅢA一括	下部欠損
287	6	石皿? 石臼片?	(8.40)	(3.50)	(4.00)	122.41	安山岩質	C-4	ⅢA層	大部分を欠損
287	7	磨石	11.5	10.55	8.0	1347.60	火山岩（?）	C-3	深掘りTr西	磨痕あり、表面にスス付着
288	8	凹石､磨り石	(9.40)	9.70	5.9	817.3	安山岩質	Ⅱ区 V-8	Ⅳ層上	両面に擦痕､敲打痕あり
288	9	敲石	7.70	4.20	3.35	144.07	火成岩	Ⅰ区	表採	敲打痕あり

表(Tab)56　石器観察表（６）

図版番号	遺物番号	銭貨名	国名	初鋳年	書体	出土地点	層位	備考
224	3	寛永通宝	日本	1626	篆書	S059	-	-
237	14	寛永通宝?	-	-	-	S094	Ⅲ層	カクラン内? 模鋳銭?
285	25	大観通宝?	-	-	-	C-3	ⅢA層	黒っぽい包含層
285	28	寛永通宝	日本	1626	篆書	F-8G逃杭より N-110 E-150	Ⅲ層	-

表(Tab)57　古銭観察表

図版番号	遺物番号	種 別	材 質	径 (㎜)	厚さ (㎜)	孔径 (㎜)	重さ (g)	色調	遺存度	出土位置	層 位	備 考
20	16	ガラス小玉	カリガラス	3.0	1.0強	1.5	計測不能	紺	完形	S001	住居址 フルイ土中 中層下	穴が大きく、全体的に丸みがある
20	17	ガラス小玉	カリガラス	4.0	3.0	1.5	0.01	紺	一部欠損	S001	中～下層 住居跡 フルイ土中	左右高さが違う
20	18	ガラス小玉	カリガラス	3.5	3.0	1.0	0.01	紺	完形	S001	中～下層	わずかに歪んでいる
20	19	ガラス小玉	カリガラス	4.0	2.5	1.5	0.01	紺	一部欠損	S001	埋土一括	ややいびつ
26	16	ガラス小玉	カリガラス	3.0	2.0	0.5	計測不能	緑	完形	S003	A-5 1層	
26	17	ガラス小玉	カリガラス	3.5	3.5	2.0	0.03	紺	完形	S003	A-6 1層	
26	18	ガラス小玉	カリガラス	3.0	2.5	1.5	計測不能	紺	完形	S003	西トレンチ	孔径が楕円形 全体的に丸みあり 歪みあり
26	19	ガラス小玉	カリガラス	4.0	2.0	2.0	0.02	紺	完形	S003	D上層	楕円形孔 全体的に丸みあり
36	9	ガラス小玉	カリガラス	上2.0、下2.5	上2.0、下2.5	1.0	0.02(2個で)	緑	完形	S026	住居床面 Trの中	連結2個組
94	34	ガラス小玉	カリガラス	3.0	2.5	2.0	0.01	紺	完形	S106	S106	L-9
154	17	ガラス小玉	カリガラス	3.3	2.0	1.5	0.02	紺	完形	S075	下層	
277	5	石製小玉	蛇紋岩	7.0	2.0	上下3.0、中2.0	0.11	緑	一部欠損	S007	-	2方向より穿穴、おそらくS034実No96と同石材か？

表(Tab)58　ガラス小玉・石製小玉観察表

図版番号	遺物番号	種 別	径 (㎜)	長さ (㎜)	孔径 (㎜)	重さ (g)	色調	遺存度	出土位置	層 位	備 考
26	20	管玉	3.5	8.0	2.0～1.5	0.10	ややくすんだ黒	一部欠損	S003	D-1層	2方向より穿穴
26	21	管玉	2.5	6.0	1.5	0.01	ややくすんだ黒	一部欠損	S003	D上層	2方向より穿穴
26	22	管玉	3.0	6.0	2.0～1.5	0.04	くすんだ黒	一部欠損	S003	B-1層 検査出土	2方向より穿穴
32	6	管玉	3.0	11.0	2.0	0.14	濃緑	完形	S017	A3層	2方向より穿穴?
32	7	管玉	(3.0)	(5.5)	(1.5)	0.01	濃緑	約1/6残存	S017	埋土・中～下層	2方向より穿穴（欠損のため詳細不明）
36	10	管玉	2.5	10.0	1.5	0.08	真っ黒	完形	S026	A	2方向より穿穴? ほぼ１本
36	11	管玉	3.5	10.0	2.0	0.12	濃緑	一部欠損	S026	ベルト上のトレンチ壁面 上層､中央ぐらい	2方向より穿穴
54	14	管玉	3.5	6.0	2.0	0.08	やや黄味かかった緑	一部欠損	S076	A-1層	2方向より穿穴
58	10	管玉	3.0	9.0	2.0～1.5	0.13	ややくすんだ黒	完形	S081	Ⅰ・J-9ベルト上層	2方向より穿穴
150	16	管玉	3.2～3.5	9.5	2.0～1.5	0.17	薄緑	完形	S073	D-1層	2方向より穿穴
282	19	管玉	3.5	12.0	2.0	0.23	濃緑（やや色調薄し）	完形	L-9	M8･M9杭からL8･L9南へ307cm西へ48cm	2方向より穿穴

表(Tab)59　管玉観察表

図版番号	遺物番号	種　別	器　種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	時期	出土地点	層　　位	備　　考
32	8	鉄製品	鉄鏃	5.4	3.4	0.2	12.66	-	S017	ⅢA層	木片付着 装着痕跡 抉部深さ0.5(cm)
36	8	鉄製品	鉄釘	(0.7)	0.35	0.2	0.15	弥生	S026		トレンチ溝
101	71	鉄製品	鉄ノミ？	7.1	3.1	0.45	39.1	弥生中期	S106		
146	12	鉄製品	鉄釘	(2.7)	0.6	0.3	1.6	中世	S053		
146	13	鉄製品	鉄鏃	4.85	3.9	0.55	13.96	-	S053	1層	（中央から南へ52cmの地点）
154	19	鉄製品	鉄釘	(3.05)	0.55	0.35	0.91	-	S075	A-1層	
154	20	鉄製品	袋状鉄斧	7.4	3.0	2.0	48.72	不明	S075	床面	
154	21	鉄製品	鉄斧	11.4	5.5	0.7	235.22	-	S075	プライマリー層	カクラン土坑下層
182	9	鉄製品	鎗鉋	(5.15)	1.7	0.25	4.3	弥生？	S139		基部幅1.7(cm)
214	13	鉄製品	鉄釘	(4.0)	0.75	0.6	6.0	中世	S063	(一括)	頭の幅1.1cm 頭の厚さ0.8cm
221	7	鉄片	不明	3.35	1.75	0.55	13.8	中世	S018		
221	8	鉄製品	釘	6.7	1.7	1.05	8.1	中世	S018	中世、No24	
223	2	鉄製品	針金状のもの?	(0.6)	(0.3)	0.15	計測不能	中世?	S055	1層	（中央の上層）
225	6	鉄片	不明	2.2	4.3	0.4	11.4	中世?	S059		
225	7	鉄製品	鉄釘	2.95	0.8	0.4	2.9	中世	S059		
229	2	鉄製品	釘	(3.6)	0.8	0.5	8.0	中世	C-3		滑石製の転用品とともにピット(№1489)内より出土
229	3	鉄片	不明	(35.5)	(25.5)	0.2	7.7	-	pit1381		ピット(№1381)
232	1	鉄製品	舟釘?	5.1	1.4	0.4	6.9	近世	S058	砂層	近世構内(S058)より出土、新しい舟釘?
233	1	鉄製品	不明	(3.3)	(1.8)	0.3	12.9	近世	S117		近世溝(S117)
235	15	鉄製品	ビス状の釘?	(2.25)	(1.2)	0.25	0.9	近世	S074	砂層	近世溝(S074)、西側深掘りトレンチS074砂層中出土
235	16	鉄片	不明	(2.75)	(3.85)	0.45	7.4	近世	S074	ⅢA層北のヘリ	近世溝
235	17	鉄製品	釘?	(3.6)	(1.1)	0.55	4.9	近世	S074	3B層	近世溝
237	11	鉄製品	不明	3.8	2.35	0.25	14.2	近世	S094	上層	近世溝
247	1	鉄片	不明	1.2	(2.8)	0.2	2.1	不明	S035		溝状遺構
282	20	鉄製品	鉄鏃	3.95	2.6	0.25	10.4	中世?弥生?	B-2		土師皿のほぼ完形とともに ピット(№1156)内より出土
282	21	鉄製品	鉄鏃	(3.6)	1.95	0.3	4.4	不明(弥生?)	S-9		トレンチより出土
289	10	鉄製品	鉄釘	(4.15)	1.3	0.5	6.3	不明(中世?)	A-3	ⅢA層	
289	11	鉄製品	釘	(5.4)	0.7	0.5	4.1	不明	D-6	Ⅲ層	北半分より出土
289	12	鉄製品	釘	(5.4)	(0.8)	(0.5)	4.5	不明	C-4	ⅢA上層	
289	13	鉄製品	鉄釘	(1.75)	0.8	0.45	1.2	-	C-4	ⅢA層	
289	14	鉄製品	舟釘先端? 釘?	(4.2)	1.2	0.5	8.1	-	B-3	ⅢA層	２つに割れている
289	15	鉄片	不明	(2.8)	(1.3)	0.35	5.1	不明	C-3	ⅢA～ⅢB層	欠損したパーツあり
289	16	鉄製品	鉄片	(1.35)	(1.6)	0.45	2.8	不明(弥生?)	K-8		
289	17	鉄製品	鉄釘	(3.5)	(1.55)	1.0	7.9	不明	不明	不明	
289	18	鉄製品	鉄釘	(2.8)	(1.7)	0.3	2.7	不明	不明	不明	
289	19	鉄片	不明	(3.1)	(2.55)	0.65	15.5	弥生	L-9	黄層 東壁	
289	20	鉄片	不明	(1.8)	(2.4)	0.4	10.0	不明	K-9	上層	
289	21	鉄製品	不明	(3.6)	(3.6)	0.9	26.6	不明	K-9	ⅢA層	
289	22	鉄片	不明	4.55	4.2	0.85	44.5	不明(中世?)	C-1	ⅢA層（一括）	
289	23	鉄製品	鉄塊	3.9	2.85	1.25	21.6	不明	C-4	ⅢA層	
289	24	鉄製品	釘	(9.2)	(1.8)	0.65	14.6	不明	B-3	ⅢA層	
289	25	鉄片	-	(5.75)	2.35	0.4	27.3	中世?	U-9	ⅢA（Ⅱba下）層東側	S010近くより出土
289	26	鉄製品	舟釘	(12.3)	1.5	0.3	26.0	-	（Ⅱ区）	表土はぎ（一括）	

表(Tab)60　鉄器観察表（１）

図版番号	遺物番号	種　別	器　種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	時期	出土地点	層　　位	備　　考
289	27	鉄製品	不明	(1.3)	(3.0)	0.15	2.49	近世	H-9	砂 層(36下)	東トレンチより出土 近世溝
289	28	鉄製品	鉄砲の弾?	1.2	1.1	1.0	1.8	不明	C-3	ⅢA～ⅢB層	
289	29	鉄製品	不明	(2.9)	(1.7)	0.4	5.8	不明	C-3	ⅢA層	何かのパーツ?
289	30	鉄製品	不明	(2.4)	(2.3)	0.4	-	不明	C-3	ⅢA層	何かのパーツ?
289	31	鉄製品	不明	2.95	2.9	0.2	9.5	不明	H-7	ⅢA上層	近世溝上?
289	32	鉄製品	不明	2.45	3.05	0.1	10.3	不明	H-7	Ⅲ上層（土器片と一括）	近世溝上? No29同様の鉄製品

表(Tab)61　鉄器観察表（2）

図版番号	遺物番号	種　別	器　種	長さ 165	幅 1	厚さ 青銅器	重さ 銅鏃	出土地点	層　　位	備　　考
165	1	青銅器	銅鏃	(3.75)	(1.10)	0.40	1.25	S110	カベ黒色土 貯蔵穴?上	欠損した銅剣先端部を再加工した可能性有り
237	12	青銅器	鏡片	2.80	1.20	1.50	-	S094	ⅢA層（包含層?）	半径3.30cm/直径6.60cm 中世
237	13	青銅器	銅製笄留具	(1.85)	(2.60)	1.70	-	S094	近世溝の上層?	S095のすぐ横S074の端 一部欠損 剥離あり、折れあり

表(Tab)62　青銅器観察表

図版番号	遺物番号	種　別	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	穿孔径 (cm)	重さ (g)	焼成	調　　整	胎　　土	色調	遺存度	出土地点	層位	備考
54	16	紡錘車	(4.10)	(2.85)	1.55	欠損	-	良	ナデ	石英、長石、角閃石、砂粒	にぶい黄橙　10YR6/4	1/2	S076	溝	スス付着、黒斑あり
54	17	土製勾玉	(1.80)	(1.15)	1.15	欠損	-	良	-	雲母、砂粒、石英、長石	にぶい黄橙　7.5YR6/4	上下欠損	S076	-	赤っぽい胎土 屈曲部のみ残存
138	9	土錘	1.50	0.85	0.8	0.3～0.25	-	良	-	石英、長石、角閃石	-	完形	S012	C-1、1層	
138	10	土製勾玉	(2.10)	(1.25)	0.8	欠損	-	良	全面ナデ	金雲母、砂粒、石英、長石、輝石	にぶい黄橙　10YR7/4	頭部欠損	S012	D-5、2層	
150	18	土製勾玉	(1.50)	(1.10)	0.90	欠損	-	良	-	石英、長石、赤褐色粒子、雲母、角閃石	にぶい黄橙　10YR7/4	一部欠損	S073	C-2層	
150	19	土製勾玉	(1.40)	(1.60)	0.85	0.25	-	良	-	石英、角閃石、長石	にぶい黄橙　10YR6/3	1/2	S073	C-カベ	
154	18	土製勾玉	(1.75)	(1.35)	1.10	欠損	-	良	-	雲母、石英、角閃石、長石	橙　7.5YR6/6	上下欠損	S075	D-3層	屈曲部のみ残存
158	18	土製勾玉	1.55	1.15	0.60	0.3～0.2	-	良	-	雲母、石英、角閃石	明赤褐　5YR5/6	ほぼ完形	S077	溝	一部欠損
158	19	土製勾玉	1.80	1.15	0.65	0.3～0.2	-	良	-	雲母、石英、角閃石	にぶい褐　7.5YR5/4	完形	S077	遺構内埋土	I-8北Tr
219	4	土錘	(4.60)	1.5	1.50	0.5～0.45	-	良	ナデ	雲母、石英、赤褐色粒子	灰黄褐　10YR5/2	一部欠損	S062	グリッドB	穴に土が詰まっている?
227	3	石製勾玉	1.6～	1.0～	0.4	-	-		-	-	-	-	S034	遺構検出面	
277	4	石製勾玉	0.55	1.45	1.1	0.2	-		-	-	-	完形	S126	-	ヒスイ
280	33	台付注口壺?	1.7	1.7	1.8	0.7～0.4	-	良	ナデ	石英、長石、角閃石、輝石、 赤色酸化粒	-	注口のみ	A-3	ⅢA上層	弥生中期後半?
280	34	紡錘車	5.30	5.25	1.10	1.0～0.7	-	良	ナデ、指頭圧痕、穿穴 (実測図の下から上へ)	雲母、角閃石、石英、長石、赤褐色粒子、砂粒、輝石	にぶい黄橙　10YR6/4	完形	F-7	ⅢA層	
280	35	土製勾玉	(1.00)	0.5	0.6	欠損	-	良		石英、金雲母	-	頭部欠損	廃土中	-	破鏡出土付近、弥生?
280	36	土製勾玉	3.30	1.60	1.20	欠損	-	良	-	雲母、石英、角閃石	にぶい橙　7.5YR6/4	上部欠損	J-8	ⅢA層	グリッド包含層、残存率1/2
290	34	土錘	(4.00)	1.20	1.20	0.3	4.55	良	-	-	黒	一部欠損	B-2	ⅢA層	両面とも黒色
290	33	土錘	(4.30)	1.10	1.10	0.5	-	良	丁寧なナデ (ミガキ?)、穿穴	雲母、角閃石、石英	明赤褐　2.5YR5/6	一部欠損	G-8	ⅢA層	外面磨きの可能性あり
290	35	土錘	3.6	1.0	1.0	0.4～0.35	-	良	-	石英、金雲母、長石	-	完形	-	包含層	

表(Tab)63　紡錘車・勾玉・土錘観察表

ピット番号	出土地点	短軸	長軸	上端	下端	中端	深さ	覆土	縄文		弥生		中世須恵		中世土師		青磁		白磁		瓦器椀		瓦質土器		不明土器		土鍋		滑石(石鍋)		黒曜石		鉄器		スラグ		陶器		その他		備　考
									個数	重量	個数	重量	個数	重量	個数	重量	個数	重量	個数	重量	個数	重量	個数	重量	個数	重量	個数	重量	個数	重量	個数	重量	個数	重量	個数	重量	個数	重量	個数	重量	
1001	B-1	29	29	10.304	9.658	-	64.6																												1	17.6					
1003	B-1	28	28	10.261	9.922		33.9				2	27			4	16							2	4	2	5														
1006	B-1	17	27	10.284	9.925	-	35.9				3	36																												
1007	B-1	27	29	10.284	9.985	-	29.9				1	7																												
1010	B-1	22	24	10.285	9.968	-	31.7						2	6																										
1011	B-1	28	42	10.284	9.804		48.0				2	15											1	7							chip	0.3								
1013	B-1	21	22	10.284	9.714	-	57.5				8	44																			1	0.7								
1014	B-1	24	24	10.291	10.073	-	21.8				1	4			3	8																								
1015	B-1	19	20	10.303					1	15.6	2	14																												
1016	B-1	21	23	10.303	9.973	-	33.0		1	4																														
1017	B-1	21	22	10.296	10.062	-	23.4								2	7																3.2								
1018	B-1	21	21	10.314	10.068	-	24.6				1	6																												
1020	B-1	17	17	10.290	9.995	-	29.5																								1	12.5								
1021											1	15																											位置を確認できず
1022	B-1	21	28	10.300	9.947	-	35.3																		1	41														
1023	B-1	23	24	10.305	10.065	-	24.0																2	5																
1033	B-1	35	40	10.296	10.115		18.1				1	36																												
1035	B-1	16	16	10.275	10.194	-	8.1																						119.5											
1040	B-1	21	25	10.249	9.944	-	30.5				1	5																												
1057	B-2	22	26	10.276	10.013	-	26.3								1	6.8							1	6.3																
1064	B-2	19	24	10.205	9.639	-	56.6				2	35																												
1072	B-2	28	32	10.224	9.971	10.121	25.3		1	8.1	1	21.9																												
1077	B-2	19	22	10.250	9.796	-	45.4				2	32																												
1094	B-2	20	21	10.260	10.033	-	22.7																									5.8								
1099	B-2	19	21	10.247	9.835	-	41.2				2	12																												
1100	B-2	18	23	10.150	10.128	-	2.2				2	7.1			1	2																								
1101	B-2	26	31	10.187	9.901	10.069	28.6				1	5			1	4							1	5																
1103	B-2	24	26	10.233	10.057	-	17.6		1	11.1	4	5			4	8																								
1104	B-2	25	25	10.227	9.964	-	26.3								7	83													24.3								1	13	土師：杯 その他：粘土塊
1106	B-2	17	17	10.220	9.823	10.105	39.7				6	44																												
1107	B-2	27	28	10.200	9.883	9.998	31.7				1	20											4	70.6																
1108	B-2	18	20	10.196	10.023	-	17.3																				3													
1112	B-2	16	18	10.226	10.101	-	12.5																		1	19.6													0.4	その他：炭化物(廃棄)
1113	B-2	15	17	10.235	10.125	-	11.0				1	2			6	20															1	1.9								黒曜石：原石サンプル
1114	B-2	24	26	10.230	9.710	-	52.0								6	20									1	1												1	20	その他：粘土塊
1115	B-2	20	26	10.216	9.874	-	34.2				5	37																												弥生：丹塗1ヶ、2ｇ
1117	B-2	21	22	10.299	9.777	-	52.2								11	33							1	10							1	3.2								
1119	B-2	14	18	10.258	9.805	-	45.3		2	78.2																						0.3								
1120	B-2	32	34	10.321	9.833	-	48.8						1	13			1	5							1	13														
1121	B-2	18	19	10.267	10.196	-	7.1								1	8																								
1122	B-2	17	18	10.230	10.001	-	22.9				2	7.5																												
1129	B-2	17	18	10.218	9.975	-	24.3								2	2	1	1.9					2	5					1	16										
1130	B-2	13	14	10.216	10.022	-	19.4				2	44																												
1142	B-2	19	22	10.212	10.111	-	10.1				5	40																				0.3								
1143	B-2	12	14	10.200	10.105	-	9.5		1	7.2	1	6.2																												
1144	B-2	18	20	10.236	9.806	-	43.0				1	8.4																												
1149	B-2	18	19	10.210	10.095	-	11.5				1	8.7																												
1156	B-2	41	55	10.408	9.830	-	57.8				8	60.1			27	283.5							2	12.9								4.2							1	462.9	その他：自然石？
1159	B-2	24	24	10.392	10.115	10.115	27.9								1	4.9																								
1162	B-2	24	25	10.295	10.125	-	17.0				1	6.3																												
1163	B-2	30	52	10.295	10.110	10.160	18.5				2	6			1	1.1																								
1166	B-2	17	27	10.227	10.070	-	15.7				2	4.8											1	2.5																
1167	B-2	26	43	10.230	9.888	10.014	34.2				7	53.6			16	80.6	1	41.8					1	4.8																
1168	B-2	39	39	10.276	9.515	10.008	76.1		3	37																														
1170	B-2	14	18	10.234	10.055	-	17.9				1	1.2			2	7.3																								
1177	B-3	23	23	10.199	10.015	-	18.4		1	16.3	1	12.1			1	2																							0.2	その他：炭化物(廃棄)
1178	B-2 B-3	14	17	10.221	10.108	-	11.3										1	19.3																						
1180	B-2	16	16	10.223	10.130	-	9.3								2	6.2																								
1182	B-2	25	31	10.185	10.004	-	18.1		1	3.3	1	9																												
1183	B-2	31	31	10.183	9.975	-	20.8								3	7.1																								

表(Tab)64　ピット集計表（１区－１）

ピット番号	出土地点	短軸	長軸	上端	下端	中端	深さ	覆土	縄文		弥生		中世須恵		中世土師		青磁		白磁		瓦器椀		瓦質土器		不明土器		土鍋		滑石(石鍋)		黒曜石		鉄器		スラグ		陶器		その他		備　考
									個数	重量	個数	重量	個数	重量	個数	重量	個数	重量	個数	重量	個数	重量	個数	重量	個数	重量	個数	重量	個数	重量	個数	重量	個数	重量	個数	重量	個数	重量	個数	重量	
1184	B-2	22	28	10.200	10.058	-	14.2				2	5																												
1185	B-2	50	53	10.189					2	36.1	19	192.8			2	47.5					2	2.3	1	18														712.4	その他：砥石、石(丸石)
1186	B-2	22	24	10.175		-			1	19	2	10																									1	5	その他：古代・須恵
1188	B-2	30	45	10.237	9.940	-	29.7								5	9																							
1191	B-2	19	23	10.182	10.042	-	1.4								3	11.8																							
1192	B-2	20	22	10.222	10.010	-	21.2				4	24			6	9							1	4					2.1										
1193	B-2	17	23	10.232	10.026	-	20.6																		1	20												不明土器：時代不明・土師器
1197	B-2	16	22	10.210	9.797	-	41.3								1	3																						
1199	B-2	12	20	10.228	9.899	-	32.9																		1	8												
1200	B-2	25	26	10.210	9.777	-	43.3		1	9.6																												18.9	その他：炭化物
1202	B-3	46	75	10.258	9.743	9.971	51.5		2	85.8	10	91.4	1	7	54	225.6			1	1.2	1	22																
1203	B-2	25	27	10.220	10.030	-	19.0		3	10.7	2	14.7																										
1207	B-2 B-3	33	34	10.272	10.141	-	13.1							1	1.4																							
1208	B-2	23	43	10.296	9.960	10.125	33.6				3	16.6			1	3.3					1	3.2																
1214	B-2	22	25	10.221	10.086	-	13.5		1	7.4																												
1215	B-2	27	33	10.210	9.815	9.950	39.5							1	5	7.9					1	1																
1217	B-2	33	47	10.291	10.170	10.204	12.1				5	19.8																										
1220	B-2	30	33	10.315	9.975	-	34.0		1	7.3					29	65.2	1	6.1					1	37.5			1	9.6										
1221	B-2	24	29	10.312	10.175	-	13.7		2	18.6																												
1223	B-2	23	28	10.308	10.096	-	21.0								2	3									1	1.2												
1225	B-2 B-3	26	50	10.320	10.092	10.271	22.8				1	11.6			4	32.8																						
1227	B-2 B-3	29	53	10.299	9.913	9.983	38.6				3	23			9	37.7	1	2.2																				
1228	B-3	24	42	10.301	10.066	10.170	23.5						1	20.4	1	14									1	0.8											1	28.5	その他：中世？・粘土塊
1229	B-3	20	38	10.284	10.013	-	27.1				3	33.8											1	1.9														
1230	B-3	24	24	10.270	10.101	-	16.9		2	32.9																												
1232	B-3	29	30	10.298	10.028	-	27.0		1	8.8			1	6.2	2	4.4	2	8.5		7																		
1235	C-2	13	17	10.281	10.085	-	19.6				2	13.3									1	2.3																
1238	C-2	12	13	10.270	10.186	-	8.4							2																								
1240	B-2	20	24	10.284	10.130	-	15.4				2	9.2																										
1242	B-3	18	20	10.302	10.008	-	29.4				1	8.2																										
1243	B-3	19	28	10.321	10.077	-	24.4				3	9.8			1	6.2					1	6.3																
1245	B-3	39	39	10.304	10.160	10.167	14.4				2	26.1																										
1248	C-3	19	23	10.285	10.202	-	8.3				1	8.6																										
1250	C-3	16	17	10.227	10.157	-	7.0								1	0.7																						
1252	C-3	27	42	10.334	10.060	-	29.4				1	4			2	4.8																						
1254	C-3	23	26	10.357	9.925	-	43.2				2	8.2			3	3.5																						
1256	C-3	23	34	10.361	10.059	10.161	30.2		1	39.8				1							1	1.1																
1257	C-3	24	27	10.371	10.051	10.163	32.0				1	6	3	23.9	7	19.6								18							0.3							弥生：丹塗
1259	C-3	19	19	10.379	10.212	-	16.7				2	9.8	1	13.2	7	25.4										23												
1261	B-3	28	35	10.291	10.116	10.174	17.5				1	3.6																										
1263	B-3	22	43	10.265	9.973	-	29.2				3	28.1									1	4.1																
1265	B-3	18	22	10.304	10.077	-	22.7																														1	0.5	その他：骨片(1ｘ1の大きさ)
1266	B-3	24	25	10.277	9.707	-	57.0				5	34.4					1	1					1	5.1														
1267	B-3	28	43	10.244	10.011	10.040	23.3				4	58.2	1	3.1	1	3.9							1	44														
1268	B-3	20	36	10.215	10.017	-	19.8				4	20.4			2	39.5																	1	0.8				
1270	B-3	18	18	10.245	10.054	-	19.1								1	16.1																						
1274	B-3	20	20	10.292	10.054	-	23.8		1	11.8	2	185.5																										
1275	B-3	23	24	10.232	9.797	-	43.5				1	6			2	4.2																						
1277	B-3	32	35	10.229	9.882	9.963	34.7				1	5.4			5	11.4																						
1279	B-3	24	29	10.268	10.104	-	16.4				9.1	2																										
1286	B-3	27	34	10.199	9.790	-	40.9				7	49.8			8	19.2	1	9.8			1	2.7	1	0.5														
1290	B-3	27	34	10.295	9.995	-	30.0		1	17.8	1	1.6			1	4																						
1291	B-3	20	21	10.290	9.992	-	29.8								1	2.8																						
1292	B-3	22	22	10.283	10.001	10.042	28.2				3	54.8	1	21.7																								須恵：中世東播系・口縁
1295	B-3	26	34	10.252	10.030	-	22.2				5	30.3											1	9.5														
1297	B-3	27	32	10.261	9.873	9.942	38.8				4	35											1	6.3														
1298	B-3	23	33	10.191	10.053	-	13.8				9	93.2			3	12.8																						弥生：丹塗1ヶ、49.9ｇ(黒髪式カメ･口縁)
1299	B-3	18	19	10.235	10.026	-	20.9				1	5			1	5.7																						
1301	B-3	21	23	10.249	9.901	-	34.8				1	21.1																										

表(Tab)65　ピット集計表（１区－２）

ピット番号	出土地点	短軸	長軸	上端	下端	中端	深さ	覆土	縄文		弥生		中世須恵		中世土師		青磁		白磁		瓦器椀		瓦質土器		不明土器		土鍋		滑石(石鍋)		黒曜石		鉄器		スラグ		陶器		その他		備　考
									個数	重量	個数	重量	個数	重量	個数	重量	個数	重量	個数	重量	個数	重量	個数	重量	個数	重量	個数	重量	個数	重量	個数	重量	個数	重量	個数	重量	個数	重量	個数	重量	
1302	B-3	15	16	10.264	10.017	-	24.7				1	10.8																											
1303	B-3	21	23	10.291	9.852	-	43.9				1	8.5																											
1304	B-3	19	20	10.290	9.880	-	41.0				2	23.7			1	1.4							1	1.5													2	51.3	その他：炭化物
1305	B-3	33	40	10.260	9.923	-	33.7				4	45.3			2	22.6																							
1306	B-3	25	26	10.301	10.024	-	27.7				5	21.4			2	5.5																						17	その他：砥石
1307	B-3	22	24	10.300	10.062	-	23.8				1	8			2	1.9																							
1308	B-3	25	26	10.291	9.907	-	38.4				2	11.3			1	22.7																							
1309	B-3	24	24	10.269	9.993	-	27.6				3	39.1																											
1310	B-3	30	44	10.267	10.025	10.113	24.2				1	7.5																											
1312	B-3	26	36	10.315	10.031	-	28.4				1	8.6																											
1313	B-3	30	33	10.316	10.125	-	19.1		1	15.1	3	56.5			3	8.3													31.1										
1314	B-3	30	32	10.320	10.111	-	20.9		1	33.6	8	73.9			2	5.2							1	23.8															
1315	B-3	19	19	10.308	10.032	10.075	27.6				3	84			1	2.4															1.4								
1316	B-3	17	19	10.260	10.025	-	23.5		1	7.2	3	17.2													2	20.4													不明土器：中世？
1318	B-3	22	69	10.270	10.029	10.095	24.1				1	3.4																											
1320	B-3	26	27	10.255	10.010	-	24.5								2	11.4																							
1321	B-3	19	21	10.264	10.071	-	19.3		1	18.6					1	2.2																							
1322	B-3	18	20	10.256	10.068	-	18.8				2	22.0																											
1326	B-3	21	21	10.282	10.179	-	10.3				1	40.7																											
1327	B-3	33	61	10.282	10.014	-	26.8		1	14.4	2	15.7			1	28.5					1	10																	
1329	B-3	21	27	10.293	10.054	10.133	23.9				2	13.1																											
1330	B-3	34	36	10.271	10.106	-	16.5				1	5.9			1	1.3																							
1331	B-3	16	16	10.275	10.145	-	13.0		1	10.6	1	5																											
1332	B-3	24	25	10.284	10.023	-	26.1								1	6.6																							
1335	B-3	23	25	10.220	9.973	-	24.7								2	2.9																							
1337	B-3	23	23	10.253	10.013	-	24.0		1	132.2	3	5.7			2	10.4																							縄文：A-3ⅢA(2ヶ)と接合
1338	B-3	24	29	10.260	9.980	-	28.0						1	8.1	1	1.6							1	1.8															
1340	A-3	19	22	10.153	9.945	-	20.8				1	3.3																			1.5								
1341	A-3	22	26	10.137	9.667	-	47.0				3	54.3																											
1343	A-3	19	20	10.135	9.844	-	29.1															6.0																
1344	A-3	22	26	10.165	9.945	-	22.0		2	17.4	1	5.3			2	5.2																							
1346	A-3	20	23	10.181	9.792	-	38.9		1	4.6	2	11.5																			2.2								
1347	A-3	28	32	10.155	9.855	-	30.0								1	2.3																						1.1	その他：炭化物
1348	A-3	32	34	10.148	9.836	-	31.2				4	11.5	1	4.2	6	18.9																							
1349	A-3	24	28	10.174	9.851	-	32.3								2	4.9							1	1.0							4.6								
1350	A-3	21	24	10.204	9.874	-	33.0				1	5.5																											
1351	A-3	18	25	10.180	9.976	10.076	20.4								1	1.6																							
1352	A-3	17	27	10.216	9.885	-	33.1								8	26					2	10.2																	
1355	B-3	23	25	10.276	10.069	-	20.7							2	3.2						1	5,8																2.3	その他：安山岩
1356	B-3	17	22	10.215	9.773	-	44.2				6	51.3			3	11.8									1	0.4	1	13.8											土鍋：中世・縄目
1357	B-3	26	32	10.184	10.016	-	16.8																														1	1.6	その他：土鐘
1359	B-3	14	19	10.181	10.009	-	17.2				1	6.4																											
1360	B-3	23	24	10.193	9.960	-	23.3				1	6.7																											弥生：丹塗
1362	B-3	41	47	10.145	10.025	-	12.0								16	154.2							2	37.2														0.4	その他：炭化物(廃棄)
1366	B-3	26	28	10.236	10.088	-	14.8																															
1367	B-3	25	27	10.250	9.957	-	29.3		1	13.4	3	11.1																										10.1	その他：炭化物(廃棄)
1368	B-3	20	23	10.236	9.983	-	25.3				5	39.9			1	1.9																					1	4.6	その他：時期不明・粘土塊
1369	B-3	24	26	10.228	9.924	-	30.4								1	18.8		2																		2	18.6			陶器：中世・陶磁器口縁（陶器片）
1370	B-3	20	35	10.224	10.015	-	20.9		1	15.8																												1.3	その他：炭化物(廃棄)
1371	B-3	20	22	10.231	10.126	-	10.5		1	4.7																					6.6								
1372	B-3	23	26	10.212	9.894	9.940	31.8				4	15.9																											
1373	B-3	21	25	10.226	9.774	-	45.2				2	20.9			3	7.7																							
1377	B-3	21	22	10.260	10.061	-	19.9				2	15.1			1	1.3																							
1379	B-3	20	22	10.272	10.098	10.120	17.4				1	3.4																			0.4						1	9	その他：時期不明・粘土塊
1380	B-3	14	14	10.279	10.082	-	19.7				3	9.3			2	8.8																							
1381	B-3	33	43	10.269	9.871	-	39.8				1	3.9	1	14.6	1	20.0																	1	7.7					須恵：中世東播系すり鉢・口縁
1384	B-3	26	28	10.277	9.884	-	39.3				14	103.2			3	13.6	1	3.9																					

表(Tab)66　ピット集計表（１区－３）

ピット番号	出土地点	短軸	長軸	上端	下端	中端	深さ	覆土	縄文		弥生		中世須恵		中世土師		青磁		白磁		瓦器椀		瓦質土器		不明土器		土鍋		滑石(石鍋)		黒曜石		鉄器		スラグ		陶器		その他		備　考
									個数	重量	個数	重量	個数	重量	個数	重量	個数	重量	個数	重量	個数	重量	個数	重量	個数	重量	個数	重量	個数	重量	個数	重量	個数	重量	個数	重量	個数	重量	個数	重量	
1385	B-3	22	27	10.260	9.971	-	28.9																	3	1	3.5	1	8.4										1	491	不明土器：時代不明・須恵器 その他：(丸石)
1386	B-3	26	29	10.264	9.713	10.027	55.1				1	1.1																												
1388	B-3	19	19	10.239	10.039	-	20.0																		4	6													不明土器：土器片
1389	B-3	25	27	10.225	9.964	-	26.1				2	16.7			3	2.3							1	3.1													1	14.9	その他：粘土塊
1390	B-3	36	52	10.221	9.751	10.061	47.0														1	4.6																
1391	B-3	40	50	10.225	9.946	-	27.9				5	22.4		10							1	1.2														1	9.8		陶器：自然釉あり
1394	B-3	17	18	10.203	9.924	-	27.9				4	35.4																												
1398	A-2 B-2	31	46	10.210	10.096	-	11.4																				1	13.6											
1399	A-2	39	71	10.206	9.670	10.071	53.6		1	6.9					1	2.1																					1	7.2	その他：未製品・石斧
1401	A-2	40	57	10.160	9.876	9.921	31.4		2	27.6	2	5.9			1	9.0															0.6							
1402	A-2	25	38	10.166	9.948	-	21.8		1	15.2	2	24.7			4	10.7							3	6.3	1	1.2												
1408	A-3 B-3	18	21	10.179	9.883	-	29.6		1	9.8																												8.6	その他：粘土塊
1412	B-3	20	22	10.188	9.887	-	30.1				1	13.3																												
1413	B-3	35	48	10.192	9.878	-	31.4		8	93.1	14	46.8			2	6.3					2	7.1																
1418	B-3	23	27	10.183	9.973	-	21.0				1	5.6																												
1420	A-3	24	24	10.179	9.975	-	20.4				1	12.5			2	4.5																								
1421	A-3	26	32	10.178	9.979	10.035	19.9		1	8.4	3	15.8			5	13.4							1	2.3															
1422	A-3	20	21	10.178	9.882	-	29.6				2	5.6																												
1425	A-3	18	20	10.230	10.015	-	21.5				1	1.4			1	1.4																								
1426	A-3	27	31	10.208	9.977	-	23.1		3	79.7																														
1427	A-3	(10)	19	10.228	9.941	-	28.7		5	8.7	2	9.1																												
1428	A-3	31	31	10.200	10.021	-	17.9		1	8.1																														
1429	A-3	23	(26)	10.209	9.851	-	35.8		2	26.7			1	7.0	4	10.5					1	6	1	5.9							1	0.3								
1430	A-3	24	24	10.175	9.861	-	31.4								4	30.4																								
1432	A-3	23	25	10.189	10.006	-	18.3		1	5.6					1	1.5																								
1433	A-3	16	18	10.193	10.026	-	16.7								1	23.2																								
1434	A-3	20	20	10.191	9.951	-	24.0																								1	0.6								
1439	A-3	19	22	10.155	9.941	-	21.4				1	4.3																												
1441	A-3	27	28	10.177	9.989	-	18.8				2	12.7																												
1442	A-3	25	25	10.157	9.965	-	19.2								3	5.1																								
1443	A-3	28	29	10.161	9.983	-	17.8				4	8.7			1	1.5																								
1444	A-3	40	(53)			-			2	20.6	7	23.3			9	26.3			1	2.2																				
1446	A-3	23	27	10.174	9.950	-	22.4										1	2.2					1	2																
1447	A-3	26	35	10.171	9.875	10.048	29.6				2	16.7				10.6																								
1452	A-3 B-3	22	24	10.186	10.025	10.075	15.0				1	2.5			1	26.2											1	267.1											土鍋：中世・縄目つき
1459	B-3	20	20	10.210	10.030	-	21.0								3	9.8							1	0.5															
1460	B-3	18	23	10.221	9.998	-	22.3				1	3.8									1	10.5																		
1462	B-3	22	26	10.280	10.008	-	27.2				3	20.6			4	16.6																							0.8	その他：炭化物
1463	B-3	28	30	10.160	9.930	-	23.0				5	48.1																												
1466	A-3	22	26	10.111	9.927	-	18.4				1	5			1	12.4																								
1467	A-3	25	28	10.116	9.861	-	25.5				3	11.5			10	43.0																								
1471	B-3	14	18	10.201	10.048	-	15.3				1	6.2			2	8.1																								
1472	B-3	34	40	10.224	10.012	-	21.2				2	13.7			1	6.3																								
1473	C-3	25	27	10.379	10.200	-	17.9				1	11.2			1	1.76																								
1476	C-3	32	36	10.361	10.024	-	33.7		2	10.0					12	38.7					1	6.7			1	3.1														不明土器：古代？・須恵器
1477	C-3	31	36	10.312	10.126	10.159	18.6								5	15.7																								
1478	C-3	27	28	10.369	10.002	-	36.7		1	11.4					5	45.8																								
1480	C-3	24	26	10.339	10.060	-	27.9				2	14.5																												
1481	C-3	22	22	10.340	9.939	-	40.1		1	8.9																														
1482	C-3	28	28	10.384	9.883	-	50.1		2	5.9	1	3.7			2	5.9																								
1483	C-3	27	29	10.360	10.173	-	18.7		1	18.9																														
1488	C-3	10	12	10.360	10.153	-	20.7												1	2.5																				
1489	C-3	22	25	10.364	10.046	-	31.8																						1	70.7										
1491	C-3	20	21	10.366	10.120	-	24.6				1	3.8			6	39.6															1	2.1							0.4	その他：炭化物(廃棄)
1493	C-3	30	36	10.388	10.140	10.216	24.8		1	6.0	12	83.9			1	6.5																								
1495	C-3	21	24	10.373	10.123	10.179	25.0								1	3.8				3	6.3																			白磁：中世
1506	C-3	28	32	10.350	10.225	-	12.5				1	8.2																												
1508	C-3	25	28	10.365	10.115	-	25.0				2	7.0																												
1513	C-3	29	31	10.354	10.144	10.208	21.0								1	4.8									1	0.8													52.9	その他：石皿：炭化物(廃棄)

表(Tab)67　ピット集計表（１区－４）

ピット番号	出土地点	短軸	長軸	上端	下端	中端	深さ	覆土	縄文		弥生		中世須恵		中世土師		青磁		白磁		瓦器椀		瓦質土器		不明土器		土鍋		滑石(石鍋)		黒曜石		鉄器		スラグ		陶器		その他		備　考
									個数	重量	個数	重量	個数	重量	個数	重量	個数	重量	個数	重量	個数	重量	個数	重量	個数	重量	個数	重量	個数	重量	個数	重量	個数	重量	個数	重量	個数	重量	個数	重量	
1514	C-3	14	16	10.240	10.090	10.093	15.0				3	27.0																												
1515	C-3	16	26	10.263	10.140	10.176	12.3				2	3.0																												
1523	C-3	22	23	10.291	10.087	-	20.4										2	86.2																					
1525	C-3	46	53	10.252	9.892	-	36.0		2	21.0	7	80.5																											弥生：丹塗2ヶ、10.2ｇ
1526	C-3	20	27	10.251	9.479	-	77.2				10	75.3																										0.1	その他：炭化物(廃棄)
1528	C-3	22	34	10.246	9.976	9.979	27.0				3	15.4																											
1531	C-3	26	29	10.306	10.142	-	16.4				1	2.0													1	17.8													不明土器：中世・土鍋？・弥生？
1535	C-3 C-4	31	37	10.223	9.867	9.975	35.6				1	9.8			3	43.6																							
1538	B-2	20	23	10.288	9.948	-	34.0				2	5.3																											
1539	B-2	25	45	10.284	10.001	10.052	28.3				2	101.7	1	28.0																									須恵：中世以降
1554	B-4	22	25	10.134	10.078	-	5.6		1	4.6																													
1556	B-4	38	42	10.227	10.008	-	21.9				2	10.8																											
1557	B-4	26	26	10.238	10.100	-	13.8								1	2.4									2	3.0													不明土器：小片の為
1558	B-4	28	28	10.225	10.044	-	18.1		1	4.4					3	6.9																							
1560	B-4	24	25	10.165	10.105	-	6.0																														1	不明	その他：ピットNo.1570と接合
1563	B-4	34	46	10.303	10.092	-	21.1				1	14.2																					1	0.2					
1564	B-4	36	36	10.215	10.102	-	11.3				2	22.3			2	10.1							1	10.6															
1565	B-4	29	34	10.253	9.965	-	28.8				1	24.3																											
1569	B-4	18	20	10.338	10.130	-	20.8								1	2.5							1	11.0															
1570	B-4	38	39	10.314	10.092	10.102	22.2		5	42.3					1	0.5																					3	261.5	その他：ピットNo.1560との総重量
1572	B-4	21	31	10.254	10.160	-	9.4				1	9.0			1	2.5																							
1574	B-4	19	19	10.170	9.971	-	19.9				2	10.3																											
1578	A-4	26	30	10.110	10.040	-	7.0				1	13.8			1	0.7																							
1582	B-4	26	30	10.151	10.049	-	10.2		1	15.1																													
1583	B-4	30	44	10.211	10.165	-	4.6				4	7.1																											
1592	B-3 B-4	27	52	10.267	10.092	-	17.5				3	10.1																											
1594	C-4	22	26	10.210	10.054	-	15.6				4	26.2																											
1595	C-4	23	32	10.228	9.938	-	29.0				1	1.9			5	10.2					1	5.0				8													弥生：丹塗
1599	C-4	26	30	10.247	9.788	-	45.9								1	4.2																							
1603	C-4	33	56	10.184	9.851	9.996	33.3		1	7.8					1	3.0							6	6.0															
1604	C-4	28	29	10.185	9.925	-	26.0				7	19.5																											
1606	C-4	16	17	10.298	10.137	-	16.1								35.1	3																							
1609	C-4	19	21	10.304	10.182	-	12.2								1	4.5																					1	1	その他：石器(磨製)
1629	B-5	17	26	10.250	10.135	10.163	11.5				8	64.9																											弥生：丹塗１ヶ、5.3ｇ
1668	B-3	27	32	10.231	10.052	-	17.9		2	43.1	116	1425.3			1	2.3																							弥生：丹塗2ヶ、4.0ｇ：1コ体25ヶ、492.5ｇ
1670	C-3	26	32	10.176	10.066	-	11.0				1	2.0			2	8.3	1	13.5			1	6.3																	
1672	B-3	22	28	10.143	9.909	-	23.4				2	17.0			4	10.3						6																	
1677	B-3	20	20	10.202	10.143	-	5.9				1	9.3																											
1679	B-3	25	28	10.282	10.057	-	22.5								3	11.0																							
1680	B-3	17	22	10.134		-					1	7.3																											
1684	B-3	24	26	10.210	10.135	-	7.5								1	1.7																							
1689	M-9	22	(25)	10.098	9.838	-	26.0				1	5.8																											
1700	M-9	35	45	10.017	9.522		49.5				4	50			1	1.2																							
1702	M-9	24	30	9.984	9.717	-	26.7				10	54.1																											
1703	M-9	14	17	9.986	9.812	-	17.4				1	5.7																											
1707	N-9	21	24	9.953	9.887	-	6.6		1	5.8																													
1714	M-9	23	28	10.049	9.671	-	37.8				3	5.8																											
1718	M-9	34	37	10.016	9.853	-	16.3																										1	0.2					
1719	N-9	43	53	9.986	9.813	-	17.3				6	20.7																											弥生：丹塗１ヶ、2.5ｇ
1721	M-9	27	33	10.095	9.895	10.073	20.0				2	25.7																											
1734	N-9	25	36	9.912	9.775	-	13.7				1	2.8																											
1735	O-9 N-9	81	98	9.986	9.895	-	9.1				3	29.3																											弥生：丹塗１ヶ、12.6ｇ
1738	O-9	28	33	9.921	9.822	-	9.7																		1	17.5													
1742	P-9	30	34	9.976	9.806	9.889	17.0																				1	41.8											土鍋：中世・縄目
1744	G-7 H-7	80	107	10.296	10.129	-	16.7				19	150.3																											
1752	G-7	19	20	10.240	10.095	-	14.5				6	47.5																											
1755	G-7	22	25	10.235	10.117	-	11.8				3	9.8																											
1756	G-7	19	22	10.210	10.065	-	14.5				10	200.1																											
1757	G-7	29	35	10.230	10.079	-	15.1				27	933.6																											弥生：1コ体8ヶ、380.0ｇ
1758	F-7	55	63	10.284	9.937	10.220	34.7				4	18.9																											
1761	E-6	31	37	10.195	9.693	-	50.2				1	12.4																											
1762	E-6	35	39	10.175	9.862	-	31.3				5	36.2																											
1763	E-6	37	41	10.200	9.975	-	22.5				2	9.9																											弥生：丹塗１ヶ、7.8ｇ

表(Tab)68　ピット集計表（１区－５）

ピット番号	出土地点	短軸	長軸	上端	下端	中端	深さ	覆土	縄文		弥生		中世須恵		中世土師		青磁		白磁		瓦器椀		瓦質土器		不明土器		土鍋		滑石(石鍋)		黒曜石		鉄器		スラグ		陶器		その他		備　考
									個数	重量	個数	重量	個数	重量	個数	重量	個数	重量	個数	重量	個数	重量	個数	重量	個数	重量	個数	重量	個数	重量	個数	重量	個数	重量	個数	重量	個数	重量	個数	重量	
4	V-8	29	34	10.555	9.881	-	67.4				3	8.5																												
7	V-8	27	29	10.565	10.284	-	28.1																																1	8.2	その他：中世・粘土塊
8	V-7	19	31	10.495	10.214	-	28.1				1	13																												
10	V-7	26	30	10.470	10.183	-	28.7				7	92.6																												
14	V-8	16	16	10.181	10.091	-	9.0				1	6.6																												
22	V-8	26	34	10.545	10.078	-	46.7				1	20.7																												
36	U-8	24	34	10.467		-					14	162.6			1	2.9																								弥生：丹塗2ヶ、51.0ｇ
37	U-8	16	28	10.446	9.983	10.093	46.3				1	5.5																												
38	U-8	31	35	10.528	10.473	-	5.5				5	41.3																												弥生：丹塗1ヶ、12.2ｇ
52	U-8	16	17	10.457	10.338	-	11.9				1	7.8													1	16.2														不明土器：中世？
58	T-8	22	24	10.454	10.336	-	11.8				3	84.6																												弥生：丹塗2ヶ、40.4ｇ
61	T-8	23	26	10.491	9.962	-	52.9				5	64.4																												弥生：丹塗1ヶ、46.8ｇ
64	T-8	20	22	10.505	10.313	-	19.2				4	17.0																												弥生：丹塗2ヶ、10.5ｇ
79	T-7	18	22	10.469	10.267	-	20.2				4	36.3																												
87	T-8	21	28	10.505	10.261	-	24.4				2	10.5			3	9.9																								
93	T-8	24	40	10.514	10.238	-	27.6																												56.7					
117	S-8	20	25	10.560	未完掘?	?					1	28.4																												
121	S-8	19	20	10.541	10.286	-	25.5						1	10.8																										
133	R-8	9	11	10.386	10.262	-	12.4		1	1.3	1	1.9																												
143	T-8	14	15	10.449	10.366	-	8.3				4	59.4																												
149	T-9	38	47	10.459	10.159	10.258	30.0				3	10.5																												
154	S-8	28	29	10.457	10.187	-	27.0				5	54.3																												弥生：丹塗2ヶ、39.1ｇ
158	S-8	28	28	10.518	未完掘？	?					5	5.8																												
193	T-8	24	25	10.493	10.177	-	31.6				2	24.3																												
222	S-8	20	20	10.481	10.189	-	29.2				2	4.2			1	0.9																			167.9					
229	V-8	30	33	10.397	10.186	-	21.1				1	4.6																												
230	U-8	18	25	10.446	10.089	-	35.7				1	2.9																												
232	U-7 U-8	24	24	10.405	9.806	-	59.9				2	21.1																												
233	U-7	20	22	10.436	9.99	-	44.6				1	6.3																												
238	W-8	15	17	10.442	10.226	-	21.6				3	5.9																												弥生：丹塗1ヶ、2.7ｇ
240	W-8	15	15	10.472	10.265	-	20.7				2	7.1																												
245	V-8	18	21	10.489	10.211	-	27.8				1	2.2																												
248	V-7	34	35	10.426	10.261	-	16.5				3	14.8																												
249	V-7	23	23	10.431	10.257	-	17.4				1	6.9																												

表(Tab)69　ピット集計表（２区）

引用・参考文献

谷頭遺跡調査団　1978　『谷頭遺跡』　―熊本県阿蘇郡西原村大字河原字谷頭所在の文化財調査報告―

高木正文　1979　『津袋大塚遺跡の土器編年』　「古文化談叢　第６集」　九州古文化研究会

九州電力株式会社日向遺跡調査団　1980　『矢護川日向遺跡調査報告』

―九州電力株式会社新熊本変電所建設に伴う熊本県菊池郡大津町所在の埋蔵文化財調査―

西健一郎　1982　『熊本県における弥生中期甕棺編年の予察』　「森貞次郎博士古希記念　古文化論集」

九州古文化研究会

西健一郎　1983　『黒髪式土器の基礎的研究』　「古文化談叢　第12集」　九州古文化研究会

佐原　真　1983　『弥生土器入門』　ニューサイエンス社

野田拓治　1985　『上の原遺跡Ⅲ』　熊本県文化財調査報告第73集　熊本県教育委員会

村上豊喜・田邊哲夫　1987　「玉名市」　『角川日本地名大辞典　43　熊本県』　角川書店

玉名市・玉名市史編集委員会　1987　『高瀬湊関係歴史調査報告書（一)』　玉名市歴史資料集成第一集

玉名市・玉名市史編集委員会　1988　『高瀬湊関係歴史調査報告書（二)』　玉名市歴史資料集成第三集

玉名市・玉名市史編集委員会　1988　『高瀬湊関係歴史調査報告書（三)』　玉名市歴史資料集成第五集

西住欣一郎　1992　『うてな遺跡』　熊本県文化財調査報告第121集　熊本県教育委員会

網田龍生　1992　『上高橋高田遺跡　第１次調査区発掘調査概報Ⅰ』　熊本市教育委員会

玉名市・玉名市史編集委員会　1992　『玉名市史　資料篇１　絵図・地図』　玉名市

玉名市・玉名市史編集委員会　1993　『玉名市史　資料篇５　古文書』　玉名市

玉名市・玉名市史編集委員会　1994　『玉名郡衛』　玉名市歴史資料集成第12集―市政40周年記念―

美濃口雅朗　1994　「熊本県における中世前期の土師器について」　『中近世土器の基礎研究Ⅹ』

日本中世土器研究会

古森政次　1994　『ワクド石遺跡』　熊本県文化財調査報告第144集　熊本県教育委員会

長谷部善一　1995　『竈門寺原遺跡』　熊本県文化財調査報告第149集　熊本県教育委員会

山本信夫　1995　「中世前期の貿易陶磁器」　『概説中世の土器・陶磁器』　中世土器研究会編　真陽社

中世土器研究会編　1995　『概説中世の土器・陶磁器』　真陽社

中園　聡　1996　『弥生時代中期土器様式の併行関係―須玖Ⅱ式期の九州・瀬戸内―』　「史淵」

冨田紘一　1996　『縄文時代』「新熊本市史」資料編　第１巻　考古資料　新熊本市史編纂委員会

丸山伸治・川俣　恵　1996　『陣山遺跡』　熊本県文化財調査報告第155集　熊本県教育委員会

福岡市教育委員会　1997　『比恵遺跡群(24)―第57次調査報告―』　福岡市埋蔵文化財調査報告書第530集

大橋康二・西田宏子監修　1998　『古伊万里』　別冊太陽　日本のこころ63　平凡社

谷一　尚　1999　『ガラスの考古学』　ものが語る歴史２　同成社

九州近世陶磁学会　2000　『九州陶磁の編年』―九州近世陶磁学会10周年記念―

水野哲郎　2000　『祇園遺跡』　熊本県文化財調査報告第188集　熊本県教育委員会

山下義満　2000　『灰塚遺跡（Ⅱ)』　熊本県文化財調査報告第197集　熊本県教育委員会

福岡市教育委員会　2000　『南八幡遺跡５―南八幡遺跡第９次調査の概要―』

福岡市埋蔵文化財調査報告書第641集

武末純一　2000　『第三章　弥生時代　―石器の生産と流通―石包丁と蛤刃石斧を中心に―』
「筑紫野市史　資料編（上）考古資料」　筑紫野市教育委員会
江戸遺跡研究会編　2001　『図説　江戸考古学研究事典』　柏書房
小野正敏　2001　『図解　日本の中世遺跡』　東京大学出版会
高谷和生　2001　『柳町遺跡Ⅰ』　熊本県文化財調査報告第200集　熊本県教育委員会
東北中世考古学会編　2001　『中世の出土模鋳銭』　高志書院
東北中世考古学会編　2001　『竪穴と掘立―中世遺構論の課題―』　高志書院
九州近世陶磁学会　2002　『国内出土の肥前陶磁』　―西日本の流通をさぐる―　第一・二分冊
第12回九州近世陶磁学会　資料
常松幹雄　2002　『九州地方の土器』「考古資料大観　弥生・古墳時代　土器Ⅱ」赤塚次郎監修　小学館
武末純一　2002　『日本史リブレット３　弥生の村』　山川出版社
網田龍生　2003　「古代荒尾産須恵器と宇城産須恵器」『先史学・考古学論究Ⅳ』
―考古学研究室創設30周年記念論文集―　龍田考古学
小畑弘己・水ノ江和同・冨永明子　2003　『鈴桶型石刃技法とその意義』「日韓新石器時代の石器」
第５回日韓新石器時代研究会発表要旨集
冨永明子　2003　『九州出土縄文時代剥片鏃集成』「考古学資料集28　環東中国海沿岸地域の先史文化」第５編　甲元眞之編
武末純一　2003　『九州地方の土器』「考古資料大観　１弥生・古墳時代　土器Ⅰ」
武末純一・石川日出志監修　小学館
池谷勝典　2003　『トチムキ石の使用痕：民俗資料の考古学的研究』「アルカ通信　№１」
考古学研究所アルカ
舟山良一　2003　『九州地方の土器』「考古資料大観　弥生・古墳時代　土器Ⅲ」亀田修一監修　小学館
岡本真也　2004　『群前遺跡』　熊本県文化財調査報告第219集　熊本県教育委員会
山下義満　2004　『地蔵原遺跡』　熊本県文化財調査報告第220集　熊本県教育委員会
中園　聡　2004　『九州弥生文化の特質』　九州大学出版会
埋蔵文化財研究会　2004　『弥生中期土器の併行関係』発表要旨集　第53回埋蔵文化財研究集会

Summary of the *Maeda* site

1. Environmental introduction of the site

The Maeda site (Maeda, *tsukida* region, *Tamana* city, *Kumamoto* Prefucture) is located on the natural embankment of right side of the lower reaches of the *Kikuchi* river. It is about 10.5 meter sea lebel.

There are many sites near the *Maeda* site. On opposite the *Seibaru* plateau (*Kikusui* town), there are famous mounded tombs which name are *Eta Funayama, Tsukabozu* and *kokunzou* in *Kofun* period between one thousand six hundreds and one thousand five hundreds years ago. On halfway up the *Seibaru* plateau, there is the *Wakazono* shell midden of Late stage in *Jomon* period between four thousands and three thousands years ago.

2. Opportunity for investigation

Embankment of the *Kikuchi* river and prerfectural road were decided to construction.

So we needed to record the statement of the *Maeda* site before construction under the Cultural Properties Protection Law, because construction would destroy the site.

Investigation was conducted from June 2001 to August 2002.

Scope of investigation was about four thousands four hundreds fifty six square meters.

3. Result of investigation

1) Outline

We could find the human trace from middle stage of *Jomon* period between five thousands and four thousands years ago to *Edo* period between four hundreds and one hundreds forty years ago through investigation.

Main periods of the *Maeda* site are the second half of a middle stage of *Yayoi* period between two thousands one hundred and one thousands nine hundreds years ago, and the early stage of *Kamakura* period between eight hundreds fifty and eight hundreds years ago.

We found one hundred thirty six archaeological features through investigation.

2) *Jomon* period

We mainly found pieces of potteries, stone artifacts between the late stage of *Jomon* period and final stage of *Jomon* period. But we could not find archaeological features.

I thought *Jomon* people usually made a living by collecting and hunting in the mountaing, the river and the sea. So we could find potteries for cooking and keeping, arrowheads for hunting, polished axes for cutting trees, and chipped stone axes for digging.

3) *Yayoi* period

We found eighty five archaeological features in *Yayoi* period .

Main periods of the *Maeda* site are the second half of a middle stage of *Yayoi* period between two thousands fifty and one thousands eighe hundreds fifty years ago, and the early stage of *Kamakura* period between eight hundreds fifty and eight hundeds years ago.

We found one hundred thirty six archaeolgical features through investigation.

The second half of a middle stage of *Yayoi* period had fifty eight archaeological features (forty one pit dwelling, two jar used for burial, one small shell midden, fourteen earthen pits). The early stage of a late stage of *Yayoi* period had twenty seven archaeological features (sixteen pit dwelling, nine earthen pits, two ditches).

As two jar used for burial were found in the northern part of the investigative area, I

thought a zone of graves had kept to the north and north-west area out of investigative area.

In many potteries, we could recognized pots, jars, bowls, pedestaled dishes for cooking and keeping, and red coloured potteries which had influence of northern *Kyuusyuu* area. It is said red coloured potteries were used inn case of varies festival.

An archealogist, Dr. *Yasuyuki Murakami* of Ehime university said iron axe in a pit dwelling (No:75 , The early stage of a late stage of *Yayoi* period) was from Korean area of the same time.

Stone artifacts were a stone sword, stone imitation of a bronze halberd, polished arrowheads for fighting, stone reaping knives for harvesting rices, spindle for spinning, large bifacially bevelled stone axe for cutting trees, whetstone for sharpenning iron and stone tools.

Stone reaping knives had some relations to cultivating rices. The impression of a rice grain left on a pot and carbon of rices in the pit dwelling showed cultivating rices in *Yayoi* period, too.

4) *Kamakura* period (Medieval period)

We could recognize there was a village in early *Kamakura* period between eight hundreds fifty and eight hundreds years ago through artifacts and archaeological features.

Sixteen archaeological features were four graves, eleven earthen pits, a embedded-pillar building. The grave (No96) had a celadon and four Haji wares. I thought this grave was the first generation of the family and this village had connection with the *Eta* family of samurai which lived near the site.

Other artifacts were braziers, a inkstone, pans and a weight made from steatite, iron, a coin from China.

5) *Edo* period (Modern times)

We found seven archaeological features in Edo period, six ditches, one building constructed on base stone.

According to the map of Tamana county and village which was made between 1879 and 1882 of Meiji period, we could see place name and the use of land in the early modern period.

So I thought these ditches were made for clutivation. In the ditch (No 74) we could find Old Imari Ware made between seventeen and eighteen century.

Figures

Fig.1 Distribution map around the Maeda site S=1/25,000
Fig.2 Location of archaeological features
Fig.3 Relics in Jomon period
Fig.4 Picture of the Maeda site in the latter half of Middle stage～the first half of Late stage in Yayoi period (imagined by Mai Anami)
Fig.5 Yayoi dwelling
Fig.6 Red iron oxide pottery in Yayoi period
Fig.7 Pottery in Yayoi period
Fig.8 Stone implements and weapon in Yayoi period
Fig.9 Pit burial and relics in Kamkura period
Fig.10 Relics in Kamakura period
Fig.11 Old Imari ware in Edo period
Fig.12 Distribution map around the Maeda site S=1/10,000
Fig.13 Topographic section S=1/10,000
Fig.14 Columnar section and location of sampling soil in the Maeda site
Fig.15 Location of investigated site around the Maeda site S=1/2,000
Fig.16 Location of archaeological features S=1/500
Fig.17 Yayoi dwelling(S001)
Fig.18 Yayoi dwelling(S001)
Fig.19 Relics(S001) (1)
Fig.20 Relics(S001) (2)
Fig.21 Relics(S001) (3)
Fig.22 Yayoi dwelling(S002)and relics
Fig.23 Yayoi dwelling(S003) (1)
Fig.24 Yayoi dwelling(S003) (2)
Fig.25 Relics(S003) (1)
Fig.26 Relics(S003) (2)
Fig.27 Yayoi dwelling(S005)
Fig.28 Relics(S005)
Fig.29 Yayoi dwelling(S011)
Fig.30 Relics(S011)
Fig.31 Yayoi dwelling(S017)
Fig.32 Relics(S017)
Fig.33 Yayoi dwelling(S025)and relics
Fig.34 Yayoi dwelling(S026)
Fig.35 Relics(S026) (1)
Fig.36 Relics(S026) (2)
Fig.37 Yayoi dwelling(S027) and relics
Fig.38 Yayoi dwelling(S029,S038)
Fig.39 Relics(S029,S038) (1)
Fig.40 Relics(S029,S038) (2)
Fig.41 Yayoi dwelling(S044)
Fig.42 Relics(S044) (1)
Fig.43 Relics(S044) (2)
Fig.44 Relics(S044) (3)
Fig.45 Yayoi dwelling(S054)
Fig.46 Relics(S054) (1)
Fig.47 Relics(S054) (2)

Fig.48 Yayoi dwelling(S072)
Fig.49 Relics(S072) (1)
Fig.50 Relics(S072) (2)
Fig.51 Yayoi dwelling(S076)
Fig.52 Relics(S076) (1)
Fig.53 Relics(S076) (2)
Fig.54 Relics(S076) (3)
Fig.55 Yayoi dwelling(S078)
Fig.56 Relics(S078)
Fig.57 Yayoi dwelling(S081,S114,S144,S145,S146)
Fig.58 Relics(S081,S114,S144,S145) (1)
Fig.59 Relics(S081,S145) (2)
Fig.60 Relics(S146)
Fig.61 Yayoi dwelling(S082)
Fig.62 Relics(S082) (1)
Fig.63 Relics(S082) (2)
Fig.64 Yayoi dwelling(S089)
Fig.65 Relics(S089) (1)
Fig.66 Relics(S089) (2)
Fig.67 Relics(S089) (3)
Fig.68 Yayoi dwelling(S092,S141,S147,S148,S149)
Fig.69 Relics(S147) (1)
Fig.70 Relics(S092,S147) (2)
Fig.71 Relics(S092,S141,S147) (3)
Fig.72 Relics(S147,S148) (4)
Fig.73 Relics(S147) (5)
Fig.74 Yayoi dwelling(S095,S142)and pit(S123)
Fig.75 Relics(S095) (1)
Fig.76 Relics(S095) (2)
Fig.77 Relics(S095) (3)
Fig.78 Yayoi dwelling(S097) and relics
Fig.79 Yayoi dwelling(S100)
Fig.80 Relics(S100) (1)
Fig.81 Relics(S100) (2)
Fig.82 Yayoi dwelling(S101)
Fig.83 Relics(S101) (1)
Fig.84 Relics(S101) (2)
Fig.85 Yayoi dwelling(S105) and relics
Fig.86 Yayoi dwelling(S106) (1)
Fig.87 Yayoi dwelling(S106) (2)
Fig.88 Relics(S106) of upper layer (1)
Fig.89 Relics(S106) of upper layer (2)
Fig.90 Relics(S106) of upper layer (3)
Fig.91 Relics(S106) of upper layer (4)
Fig.92 Relics(S106) of upper layer (5)
Fig.93 Relics(S106) of upper layer (6)
Fig.94 Relics(S106) of upper layer (7)
Fig.95 Relics(S106) of upper layer (8)
Fig.96 Relics(S106) of upper layer (9)

Fig.97 Relics(S106) of lower layer (10)
Fig.98 Relics(S106) of lower layer (11)
Fig.99 Relics(S106) of lower layer (12)
Fig.100 Relics(S106) of lower layer (13)
Fig.101 Relics(S106) of lower layer (14)
Fig.102 Relics(S106) of lower layer (15)
Fig.103 Relics(S106) of lower layer (16)
Fig.104 Yayoi dwelling(S107)
Fig.105 Relics(S107)
Fig.106 Yayoi dwelling(S119)
Fig.107 Stone implements(S119)
Fig.108 Yayoi dwelling(S120)
Fig.109 Yayoi dwelling(S129)
Fig.110 Relics(S129)
Fig.111 Yayoi dwelling(S135)
Fig.112 Relics(S135)
Fig.113 Yayoi dwelling(S108)
Fig.114 Relics(S108)
Fig.115 Cylindrical pedestal for burial(S009)
Fig.116 Relics(S108)
Fig.117 Relics(S109)
Fig.118 Pocket shell midden(S093) in Yayoi period
Fig.119 Pits and relics in Yayoi period(S030,S034,S037,S039)
Fig.120 Pits and relics in Yayoi period(S045)
Fig.121 Pits and relics in Yayoi period(S056)
Fig.122 Pits and relics in Yayoi period(S064)
Fig.123 Pits in Yayoi period(S069,070)
Fig.124 Relics(S069,070)
Fig.125 Pits in Yayoi period(S099,103)
Fig.126 Relics(S099)
Fig.127 Pits in Yayoi period(S113)
Fig.128 Pits and relics in Yayoi period(S128)
Fig.129 Pits in Yayoi period(S140)
Fig.130 Relics(S140) (1)
Fig.131 Relics(S140) (2)
Fig.132 Relics(S140) (3)
Fig.133 Location of pit1757
Fig.134 Relics in pit1757
Fig.135 Yayoi dwelling(S004)
Fig.136 Relics(004)
Fig.137 Yayoi dwelling(S012)
Fig.138 Relics(S012)
Fig.139 Yayoi dwelling(S033) and pit(S036)
Fig.140 Relics(S033) (1)
Fig.141 Relics(S033) (2)
Fig.142 Relics(S033) (3)
Fig.143 Relics(S033) (4)
Fig.144 Relics(S033) (5)
Fig.145 Yayoi dwelling(S053)

Fig.146 Relics(S053)
Fig.147 Yayoi dwelling(S073) and pit burial(S098)
Fig.148 Relics(S073) (1)
Fig.149 Relics(S073) (2)
Fig.150 Relics(S073) (3)
Fig.151 Yayoi dwelling(S075)・burnt soil around fireplace and limit of carbon
Fig.152 Relics(S075) (1)
Fig.153 Relics(S075) (2)
Fig.154 Relics(S075) (3)
Fig.155 Relics(S075) (4)
Fig.156 Yayoi dwelling(S077)
Fig.157 Relics(S077) (1)
Fig.158 Relics(S077) (2)
Fig.159 Yayoi dwelling(S083) and pit(S109)
Fig.160 Relics(S083)
Fig.161 Yayoi dwelling(S090)
Fig.162 Relics(S090) (1)
Fig.163 Relics(S090) (2)
Fig.164 Relics(S090) (3)
Fig.165 Yayoi dwelling(S110,S111) and relics
Fig.166 Yayoi dwelling(S118)
Fig.167 Relics(S118) (1)
Fig.168 Relics(S118) (2)
Fig.169 Relics(S118) (3)
Fig.170 Relics(S118) (4)
Fig.171 Relics(S118) (5)
Fig.172 Relics(S118) (6)
Fig.173 Yayoi dwelling(S126) and pit(S138)
Fig.174 Relics(S126)
Fig.175 Yayoi dwelling(S130) and pit(S131)
Fig.176 Relics(S130) (1)
Fig.177 Relics(S130) (2)
Fig.178 Yayoi dwelling(S136) and ditch(S046) and pit(S137)
Fig.179 Relics(S136)
Fig.180 Yayoi dwelling(S139)
Fig.181 Relics(S139) (1)
Fig.182 Relics(S139) (2)
Fig.183 Relics(S036)
Fig.184 Pit(S067,S086) and relics
Fig.185 Pit(S085)
Fig.186 Relics(S085)
Fig.187 Relics (S109)
Fig.188 Pit(S125)
Fig.189 Relics(S125)
Fig.190 Pits(S132,S133,S134)
Fig.191 Relics of pit(S133)
Fig.192 Relics of pits(S133,S134)
Fig.193 Relics of pit(S138) (1)
Fig.194 Relics of pit(S138) (2)

Fig.195 Relics of pit(S138) (3)
Fig.196 Ditch(S046) (1)
Fig.197 Ditch(S046) (2)
Fig.198 Indistinct archaeological feature(S088)
Fig.199 Relics(S088) (1)
Fig.200 Relics(S088) (2)
Fig.201 Pit(S021)
Fig.202 Pit(S043)
Fig.203 Pits(S084,S116)
Fig.204 Pit(S121) and relics
Fig.205 Indistinct archaeological feature(S091)
Fig.206 Relics(S091) (1)
Fig.207 Relics(S091) (2)
Fig.208 Relics(S091) (3)
Fig.209 Relics(S091) (4)
Fig.210 Location of pit1668 and relics
Fig.211 Relics of pit1668
Fig.212 Pit burial(S013) and relics
Fig.213 Pit burial(S065,S066)
Fig.214 Relics(S065,S066)
Fig.215 Pit burial(S096) and relics
Fig.216 Pit(S010) and relics
Fig.217 Pit(S041) and relics
Fig.218 Pit(S061) and relics
Fig.219 Pit(S062) and relics
Fig.220 Pit(S063) and relics
Fig.221 Pit(S018) and relics
Fig.222 Pit(S020,S042)
Fig.223 Pit(S055) and relics
Fig.224 Pit(S059) and relics (1)
Fig.225 Relics(S059) (2)
Fig.226 Pit(S060)
Fig.227 Embedded-pillar building(S019)
Fig.228 Pits
Fig.229 Relics of pits (1)
Fig.230 Relics of pits (2)
Fig.231 Archaeological feature(S024) of a part of ditch and pit(S022)
Fig.232 Archaeological feature(S058) of a part of ditch and relics
Fig.233 Archaeological feature(S052,S117) of a part of ditch and relics
Fig.234 Archaeological feature(S074) of a part of ditch
Fig.235 Relics(S074)
Fig.236 Archaeological feature(S094) of a part of ditch
Fig.237 Relics(S094) (1)
Fig.238 Relics(S094) (2)
Fig.239 Building constructed on base stones(S150)
Fig.240 Pit burial(S006,S007)
Fig.241 Pit(S014,S015,S016)
Fig.242 Pit(S040,S115)
Fig.243 Pit(S124,S127)

Fig.244 Pit(S031,S032)
Fig.245 Embedded-pillar building(S057)
Fig.246 Archaeological feature(S122) of a part of ditch and relics
Fig.247 Indistinct archaeological feature(S035) and relics
Fig.248 Pit(S071)and relics
Fig.249 Jomon pottery (1)
Fig.250 Jomon pottery (2)
Fig.251 Jomon pottery (3)
Fig.252 Jomon pottery (4)
Fig.253 Jomon pottery (5)
Fig.254 Jomon pottery (6)
Fig.255 Jomon pottery (7)
Fig.256 Jomon pottery (8)
Fig.257 Jomon pottery (9)
Fig.258 Jomon pottery (10)
Fig.259 Jomon stone implements and weapons (1)
Fig.260 Jomon stone implements and weapons (2)
Fig.261 Jomon stone implements and weapons (3)
Fig.262 Jomon stone implements and weapons (4)
Fig.263 Jomon stone implements and weapons (5)
Fig.264 Jomon stone implements and weapons (6)
Fig.265 Jomon stone implements and weapons (7)
Fig.266 Jomon stone implements and weapons (8)
Fig.267 Jomon stone implements and weapons (9)
Fig.268 Jomon stone implements and weapons (10)
Fig.269 Jomon stone implements and weapons (11)
Fig.270 Jomon stone implements and weapons (12)
Fig.271 Jomon stone implements and weapons (13)
Fig.272 Jomon stone implements and weapons (14)
Fig.273 Jomon stone implements and weapons (15)
Fig.274 Jomon stone implements and weapons (16)
Fig.275 Jomon stone implements and weapons (17)
Fig.276 Jomon stone implements and weapons (18)
Fig.277 Jomon stone implements and weapons (19)
Fig.278 Relics of layer containing cultural remains(Yayoi period) (1)
Fig.279 Relics of layer containing cultural remains(Yayoi period) (2)
Fig.280 Relics of layer containing cultural remains(Yayoi period) (3)
Fig.281 Relics of layer containing cultural remains(Yayoi period) (4)
Fig.282 Relics of layer containing cultural remains(Yayoi period) (5)
Fig.283 Relics of layer containing cultural remains(anciant,medieval period) (1)
Fig.284 Relics of layer containing cultural remains(medieval period) (2)
Fig.285 Relics of layer containing cultural remains(medieval period,early modern period) (3)
Fig.286 Relics of layer containing cultural remains(indistinct period) (1)
Fig.287 Relics of layer containing cultural remains(indistinct period) (2)
Fig.288 Relics of layer containing cultural remains(indistinct period) (3)
Fig.289 Relics of layer containing cultural remains(indistinct period) (4)
Fig.290 Relics of layer containing cultural remains(indistinct period) (5)
Fig.291 Section and location of sand layer in Jomon period
Fig.292 Natural stream①

Fig.293 Relics of natural stream①
Fig.294 Natural stream②
Fig.295 Relics of natural stream②
Fig.296 Total number and weight of Jomon pottery in every grid
Fig.297 Model scale drawing of Jomon pottery in Kumamoto district(Tomita 1996)
Fig.298 Total number of stone implements and weapons in every grid (1)
Fig.299 Distribution map of flake arrowhead(change Tomita 2001)
Fig.300 Total number of stone implements and weapons in every grid (2)
Fig.301 Location of archaeological feature in the latter half of Middle stage in Yayoi period
Fig.302 Location of archaeological feature in the first half of Late stage in Yayoi period
Fig.303 Chronology of dwelling form between in the latter half of Middle stage and the first half of Late stage in Yayoi period
Fig.304 Pottery in the latter half of Middle stage in Yayoi period (1) :pot
Fig.305 Pottery in the latter half of Middle stage in Yayoi period (2) :jar
Fig.306 Pottery in the latter half of Middle stage in Yayoi period (3) :bowl,jar stand,jar used for burial
Fig.307 Pottery in the latter half of Middle stage in Yayoi period (4) :pottery of Suku typeⅡ
Fig.308 Pottery in the latter half of Middle stage in Yayoi period (5) :pottery of Suku typeⅡ and Kurokami type and the others
Fig.309 Pottery in transition period in the latter half of Middle stage and the first half of Late stage in Yayoi period
Fig.310 Pottery in the first half of Late stage in Yayoi period (1) :pot,jar stand
Fig.311 Pottery in the first half of Late stage in Yayoi period (2) :jar,bowl,footed bowl,pedestaled dish
Fig.312 Diagram of port in the Kikuchi river(Tanabe 1988)
Fig.313 Location of archaeological feature in medieval period
Fig.314 Location of archaeological feature in indistinct period
Fig.315 Location of archaeological feature of natural stream and sand layer containing Jomon pottery
Fig.316 Location of institution of relation for Hata(retouch Tanabe 1988)
Fig.317 Location of archaeological feature in early modern period
Fig.318 Section map of a village around the Maeda site(retouch village map of Tamana county Tukida village「Histry of Tamana city Materials compilation 1 picture ・map」)
Fig.319 Location of the triumphal arch of the Sino-Japanese War and the Russo-Japanese war
Fig.320 Location of the triumphal arch of the Sino-Japanese War and the Russo-Japanese war (magnification)
Fig.321 Plan and section of the triumphal arch A
Fig.322 Plan of the triumphal arch B
Fig.323 Plan and section of the monument C to the name of soldiers going with the Sino-Japanese War and the Russo-Japanese war
Fig.324 Inscription of the monument C to the name of soldiers going with the Sino-Japanese War and the Russo-Japanese war

Tables

Tab.1 Chronological table of sites(alteration Amita 1995)
Tab.2 List of sites around the site(1)
Tab.3 List of sites around the site(2)
Tab.4 List of sites around the site(3)

Tab.5　List of sites around the site(4)
Tab.6　List of sites around the site(5)
Tab.7　List of sites around the site(6)
Tab.8　List of sites around the site(7)
Tab.9　List of sites around the site(8)
Tab.10　List of sites around the site(9)
Tab.11　List of sites around the site(10)
Tab.12　List of sites around the site(11)
Tab.13　List of sites around the site(12)
Tab.14　List of sites around the site(13)
Tab.15　List of sites around the site(14)
Tab.16　Outline of chronology from the north to the center in Kumamoto Prefecture(Minoguchi 1994)
Tab.17　Pottery type in the Administrative Headquarters for Kyusyu and chronology of domestic and trading earthenware(Yamamoto 1995)
Tab.18　Estimated period of some ports in the Kikuchi river(Tanabe 1988)
Tab.19～50　Observing list of pottery(1)～(32)
Tab.51　Observing list of stone implements and weapons (1)
Tab.52　Observing list of stone implements and weapons (2)
Tab.53　Observing list of stone implements and weapons (3)
Tab.54　Observing list of stone implements and weapons (4)
Tab.55　Observing list of stone implements and weapons (5)
Tab.56　Observing list of stone implements and weapons (6)
Tab.57　Observing list of old coins
Tab.58　Observing list of glass globular bead and stone globular bead
Tab.59　Observing list of cylindrical bead
Tab.60　Observing list of iron implements (1)
Tab.61　Observing list of iron implements (2)
Tab.62　Observing list of bronze implements
Tab.63　Observing list of spindle・curved bead・clay net sinker
Tab.64　Total list of pit(the section 1-1)
Tab.65　Total list of pit(the section 1-2)
Tab.66　Total list of pit(the section 1-3)
Tab.67　Total list of pit(the section 1-4)
Tab.68　Total list of pit(the section 1-5)
Tab.69　Total list of pit(the section 2)

Photographic　Plates

P.L.1　Aerial photograph 1 (shot Unzen from the site)
P.L.2　Aerial photograph 2 (shot Kujyu・Mt.Aso from the site)
P.L.3　Aerial photograph 3 (whole view of the site)
P.L.4　Aerial photograph 4 (shot around the site)
P.L.5　Aerial photograph 5 (whole view of the section 2)
P.L.6　Aerial photograph 6 (the section 1)
P.L.7　Aerial photograph 7(the section 1)
P.L.8　Relics(S106,108) in the section 1 under excavation
P.L.9　Cylindrical jar stand(S106) in the section 1 under excavation
P.L.10　Section of S106(fireplace remain and stuck floor) in the section 1

P.L.11 Relics(S138) in the section 1 under excavation
P.L.12 Iron arrowhead in the section 1 under excavation
P.L.13 Basic section J-8 grid
P.L.14 Stuck clay(S009) in the section 2
P.L.15 Relics and human skelton from a grave in medieval period in the section 1
P.L.16 Relics(S103) in the section 1 under excavation
P.L.17 Relics(glass globular bead,stone cylindrical bead,stone curved bead,stone globular bead)
P.L.18 Bronze and stone implements(L:Yayoi/R:medieval period)
P.L.19 Relics(clay spindle,clay curved bead,sword of ornamental bodkin,old coin)
P.L.20 Pottery(S106) in the latter half of Middle stage in Yayoi period
P.L.21 Pottery(L:S009,R:S008) in the latter half of Middle stage in Yayoi period
P.L.22 Pottery(S092)in the latter half of Middle stage in Yayoi period
P.L.23 Pottery(S138) of Late stage in Yayoi period
P.L.24 Pottery(S118) of Late stage in Yayoi period
P.L.25 Stone implements in Yayoi period(stone reaping knife,spindle)
P.L.26 Stone implements in Yayoi period(polished stone arrowhead,stone imitation of a metal halberd)
P.L.27 Pottery in Yayoi period
P.L.28 Pottery of Late stage in Jomon period
P.L.29 Stone implements and weapons in Jomon period(chipped stone tools,tanged stone scraper,stone axe, flake)
P.L.30 Pottery of Final stage in Jomon period(fiber-tempered pottery,red red-color glazed pottery)
P.L.31 Celadon and Haji ware(S096) in medieval period
P.L.32 Dish and Haji ware(S013) in medieval period
P.L.33 Whole view of the site (from the opposite)
P.L.34 View of the section 2(after removed surface)
P.L.35 Whole View 1 of the section 2(at aerial photography)
P.L.36 Whole View 2 of the section 2(at aerial photography)
P.L.37 Archaeological features(S002,003) and relics in the section 2 under investigation
P.L.38 Archaeological feature and relics in the section 2 under excavation
P.L.39 Relics (S001) in the section 2 under excavation
P.L.40 Relics (S001) in the section 2 under excavation
P.L.41 Archaeological feature(S001) in the section 2 after excavation
P.L.42 Archaeological feature(S002) in the section 2 after excavation
P.L.43 Section of archaeological feature(S002) in the section 2
P.L.44 Archaeological feature(S003) in the section 2 under excavation
P.L.45 Archaeological feature(S003) in the section 2 after excavation
P.L.46 Relics (S004,005,011) in the section 2 under excavation
P.L.47 Archaeological feature(S004) in the section 2 after excavation
P.L.48 Archaeological feature(S005) in the section 2 under excavation
P.L.49 Archaeological features(S008,009) in the section 2 under investigation(1)
P.L.50 Archaeological features(S008,009) in the section 2 under investigation(2)
P.L.51 Archaeological features(S008,009) in the section 2 under investigation(3)
P.L.52 Archaeological features(S008,009) in the section 2 after investigation
P.L.53 Stuck clay and marks to dig(S008) in the section 2
P.L.54 Relics(S012)in the section 2 under investigation
P.L.55 Hand modelling pottery(S012)in the section 2 under investigation
P.L.56 Central fireplace remains(S012) in the section 2

P.L.57 Archaeological feature(S012) in the section 2 after excavation
P.L.58 Archaeological features(S012,023) in the section 2 after excavation
P.L.59 Archaeological features(S013～016) in the section 2 after excavation
P.L.60 Section(S017) and hard surface(S017) in the section 2 under investigation
P.L.61 Relics (S018) in the section 2
P.L.62 Archaeological feature(S018) in the section 2 after excavation
P.L.63 Archaeological feature(S019) in the section 2 after excavation
P.L.64 Archaeological feature(S022) in the section 2 after excavation
P.L.65 Relics(S025) in the section 2 under excavation
P.L.66 Relics(S026) in the section 2 under excavation
P.L.67 Section(S026) in the section 2
P.L.68 Archaeological feature(S026) in the section 2 after excavation
P.L.69 Section(S027) in the section 2
P.L.70 Archaeological feature(S033) in the section 2 under investigation
P.L.71 Archaeological feature(S033) in the section 2 under excavation
P.L.72 Archaeological feature(S034) in the section 2 under excavation
P.L.73 Iron implements(S035) in the section 2 under excavation
P.L.74 Relics(S036) in the section 2 under excavation
P.L.75 Archaeological feature(S036) in the section 2 after excavation
P.L.76 Archaeological feature(S038) in the section 2 after excavation
P.L.77 Archaeological features(S026,033,038) in the section 2 after excavation
P.L.78 Relics of sand layer containing Jomon pottery
P.L.79 Pits group and archaeological feature of B-1grid in the section 1 under investigation
P.L.80 Pits group of A,B,Cgrid in the section 1 after excavation
P.L.81 Archaeological feature in the section 1 after excavation
P.L.82 Around the archaeological feature(S094) in the section 1 after excavation
P.L.83 Around the archaeological features(S076,077,092) in the section 1 after excavation
P.L.84 Around the archaeological features(S105,126,138) in the section 1 after excavation
P.L.85 Archaeological features(S054,075,078) in the section 1 after excavation
P.L.86 Archaeological feature(S040) in the section 1 after excavation
P.L.87 Relics(S041) in the section 1 under investigation
P.L.88 Archaeological feature(S041) in the section 1 after excavation
P.L.89 Archaeological feature(S042) in the section 1 after excavation
P.L.90 Archaeological feature(S044) in the section 1 under investigation
P.L.91 Relics(S044) in the section 1 under excavation
P.L.92 Archaeological feature(S044) in the section 1 after excavation
P.L.93 Relics(S045) in the section 1 under excavation
P.L.94 Section of J-8･9grid in the section 1
P.L.95 Archaeological feature(S050) in the section 1 under excavation
P.L.96 Archaeological feature(S051) in the section 1 under excavation
P.L.97 Iron arrowhead(S053) in the section 1
P.L.98 Archaeological feature(S053) in the section 1 after excavation
P.L.99 Relics(S054) in the section 1 under excavation
P.L.100 Archaeological feature(S054) in the section 1 after excavation
P.L.101 Archaeological feature(S055) in the section 1 after excavation
P.L.102 Relics(S056) in the section 1 under excavation
P.L.103 Archaeological feature(S056) in the section 1 after excavation
P.L.104 Archaeological feature(S058) in the section 1 under excavation
P.L.105 Section(S058) in the section 1

P.L.106 Archaeological feature(S059) in the section 1 after excavation
P.L.107 Archaeological feature(S060) in the section 1 under investigation
P.L.108 Section(S060) in the section 1
P.L.109 Archaeological feature(S061) in the section 1 under investigation
P.L.110 Relics(S062) in the section 1 under excavation
P.L.111 Relics(S063) in the section 1 under excavation
P.L.112 Relics(S064) in the section 1 under excavation
P.L.113 Relics(S065) in the section 1 under excavation
P.L.114 Relics(S066) in the section 1 under excavation
P.L.115 Archaeological feature(S067) in the section 1 after excavation
P.L.116 Relics(S069,070) in the section 1 under excavation
P.L.117 Archaeological feature(S071) in the section 1 under investigation
P.L.118 Relics(S071) in the section 1 under excavation
P.L.119 Archaeological feature(S071) in the section 1 after excavation
P.L.120 Relics(S072) in the section 1 under excavation
P.L.121 Archaeological features(S072,073) in the section 1 after excavation
P.L.122 Section(S074) in the section 1
P.L.123 Animal bones(S074) in the section 1 under excavation(distant view)
P.L.124 Animal bones(S074) in the section 1 under excavation(close view)
P.L.125 Archaeological features(S074,075) in the section 1 under investigation
P.L.126 Iron implements(S075) in the section 1 under excavation
P.L.127 Miniature pottery(S075) in the section 1 under excavation
P.L.128 Archaeological feature(S075) in the section 1 after excavation
P.L.129 Relics(S076) in the section 1 under excavation
P.L.130 Archaeological feature(S076) in the section 1 after excavation
P.L.131 Archaeological feature(S077) in the section 1 under excavation
P.L.132 Archaeological feature(S078) in the section 1 after excavation
P.L.133 Relics(S078) in the section 1 under excavation
P.L.134 Around the archaeological feature(S081) in the section 1 after excavation
P.L.135 Relics(S082) in the section 1 under excavation
P.L.136 Archaeological feature(S082) in the section 1 after excavation
P.L.137 Archaeological features(S083,109) in the section 1 under excavation
P.L.138 Archaeological feature(S083) in the section 1 after excavation
P.L.139 Relics(S085) in the section 1 under excavation
P.L.140 Archaeological feature(S086) in the section 1 after excavation
P.L.141 Relics(S088) in the section 1 under excavation
P.L.142 Relics(S089) in the section 1 under excavation
P.L.143 Archaeological feature(S090) in the section 1 after excavation
P.L.144 Relics (S090) in the section 1 under excavation
P.L.145 Pedestaled dish of southwest pit(S090) in the section 1 under excavation
P.L.146 Section of S106 and S108 in the section 1 under excavation
P.L.147 Stone imitation of a bronze halberd(S071) in the section 1 under excavation
P.L.148 Relics(S092,147) in the section 1 under excavation
P.L.149 Shell layer(S093) in the section 1 under investigation
P.L.150 Around the archaeological feature(S094) in the section 1 after excavation
P.L.151 Archaeological feature(S095) in the section 1 under investigation
P.L.152 Archaeological features(S095,142,146) in the section 1 after excavation
P.L.153 Relics(S095) in the section 1 under excavation
P.L.154 Archaeological feature(S097) in the section 1 under investigation

P.L.155 Archaeological feature(S097) in the section 1 after excavation
P.L.156 Archaeological feature(S098) in the section 1 under investigation
P.L.157 Relics(S099,100) in the section 1 under excavation
P.L.158 Relics(S099) in the section 1 under excavation
P.L.159 Archaeological features(S099,100) in the section 1 after excavation
P.L.160 Relics(S101) in the section 1 under excavation
P.L.161 Archaeological feature(S101) in the section 1 after excavation
P.L.162 Archaeological feature(S105) in the section 1 after excavation
P.L.163 Iron implements(S106) in the section 1 (distamt view)
P.L.164 Iron implements(S106) in the section 1 (close view)
P.L.165 Archaeological features(S106,108) in the section 1 after excavation
P.L.166 Archaeological feature(S107) in the section 1 after excavation
P.L.167 Relics(S109) in the section 1 under excavation
P.L.168 Archaeological feature(S110) in the section 1 under investigation
P.L.169 Archaeological feature(S110) in the section 1 after excavation
P.L.170 Archaeological feature(S117) in the section 1 after excavation
P.L.171 Archaeological feature(S118) in the section 1 under investigation
P.L.172 Disposed shell(S118) in the section 1
P.L.173 Disposed shell(S118) in the section 1
P.L.174 Stone reaping knife(S118) in the section 1 under excavation
P.L.175 Relics(S118) in the section 1 under excavation
P.L.176 Archaeological feature(S118) in the section 1 after excavation
P.L.177 Archaeological feature(S119) in the section 1 after excavation
P.L.178 Archaeological feature(S120) in the section 1 after excavation
P.L.179 Relics(S121) in the section 1 under excavation
P.L.180 Pits(S121) in the section 1 after excavation
P.L.181 Section(S122) in the section 1
P.L.182 Archaeological feature(S122) in the section 1 after excavation
P.L.183 Archaeological feature(S124) in the section 1 after excavation
P.L.184 Relics(S125) in the section 1 under excavation
P.L.185 Archaeological feature(S125) in the section 1 after excavation
P.L.186 Archaeological features(S126,138) in the section 1 after excavation
P.L.187 Relics(S128) in the section 1 under excavation
P.L.188 Archaeological feature(S128) in the section 1 after excavation
P.L.189 Section(S129) in the section 1
P.L.190 Relics(S129) in the section 1 under excavation
P.L.191 Archaeological features(S129,130,131) in the section 1 under investigation
P.L.192 Archaeological features(S129,130,131) in the section 1 after excavation
P.L.193 Relics(S130,131) in the section 1 under excavation
P.L.194 Archaeological feature(S131) in the section 1 after excavation
P.L.195 Archaeological features(S133,134) in the section 1 after excavation
P.L.196 Relics(S135) in the section 1 under excavation
P.L.197 Archaeological feature(S135) in the section 1 after excavation
P.L.198 Archaeological features(S136,137) in the section 1 after excavation (1)
P.L.199 Archaeological features(S136,137) in the section 1 after excavation (2)
P.L.200 Relics(S139) in the section 1 under excavation
P.L.201 Archaeological feature(S139) in the section 1 after excavation
P.L.202 Relics(S140) in the section 1 under excavation
P.L.203 Archaeological feature(S140) in the section 1 after excavation

P.L.204 Symbolizing fire tombstone of five elements Stupa(S094) in the section 1 under excavation
P.L.205 Relics(S091) in the section 1 under excavation
P.L.206 Relics of pit1156 in the section 1 under excavation
P.L.207 Relics of pit1167 in the section 1 under excavation
P.L.208 Pit1286 in the section 1 under investigation
P.L.209 Scene of excavation in the section 2
P.L.210 Scene of excavation in the section 1
P.L.211 Scene of excavation(S106)
P.L.212 Scene of excavation in the section 1
P.L.213 Scene of study through experience (by 3rd and 4th grade in Tukise elementary school, 2001.November.13th)
P.L.214 Scene of study through experience (by Tukise elementary school students,2001. November. 13th)
P.L.215 Scene of measuring archaeological features in the section 1
P.L.216 Scene of washing fill in dwelling
P.L.217 A explanatory meeting on the spot(2002. June. 8th and 9th)
P.L.218 Workers
P.L.219 Monument to the name of soldiers going with the Sino-Japanese War and the Russo-Japanese War
P.L.220 Triumphal arch (R:A,L:B)
P.L.221 Triumphal arch (from the direction 4 of B)
P.L.222 Triumphal arch (from the direction 3 of B)
P.L.223 Triumphal arch (from the direction 1 of A)
P.L.224 Triumphal arch (from the direction 2 of A)
P.L.225 Jomon Pottery (1)
P.L.226 Jomon Pottery (2)
P.L.227 Jomon Pottery (3)
P.L.228 Jomon Pottery (4)
P.L.229 Jomon Pottery (5)
P.L.230 Jomon Pottery (6)
P.L.231 Jomon Pottery (7)
P.L.232 Stone implements in Jomon period(piece esquillee,scraper,retouching stone tools)
P.L.233 Stone implements in Jomon period(back of flake)
P.L.234 Stone implements in Jomon period(front of flake)
P.L.235 Stone implements in Jomon period(flake,core tools)
P.L.236 Stone implements in Jomon period(polished stone axe 1)
P.L.237 Stone implements in Jomon period(polished stone axe 2)
P.L.238 Stone implements in Jomon period(chipped stone axe 1)
P.L.239 Stone implements in Jomon period(chipped stone axe 2)
P.L.240 Stone implements (polishing stone,paddling stone 1)
P.L.241 Stone implements (polishing stone,paddling stone 2)
P.L.242 Stone implements (polishing stone,paddling stone 3)
P.L.243 Stone implements (polishing stone,paddling stone 4)
P.L.244 Stone implements (saddlequern)
P.L.245 Pottery in Yayoi period(S001)
P.L.246 Pottery in Yayoi period(S011)
P.L.247 Pottery in Yayoi period(S002,005)
P.L.248 Pottery in Yayoi period(S003)
P.L.249 Pottery in Yayoi period(S025,026,027)

P.L.250 Pottery in Yayoi period(S029,044,069)
P.L.251 Pottery in Yayoi period(S054)
P.L.252 Pottery in Yayoi period(S076)
P.L.253 Pottery in Yayoi period(S078)
P.L.254 Pottery in Yayoi period(S081,082)
P.L.255 Pottery in Yayoi period(S089,092)
P.L.256 Pottery in Yayoi period(S101,105)
P.L.257 Pottery in Yayoi period(S099,100)
P.L.258 Pottery in Yayoi period(S095)
P.L.259 Pottery in Yayoi period(S106)
P.L.260 Pottery in Yayoi period(S106,107,108)
P.L.261 Pottery in Yayoi period(S106)
P.L.262 Pottery in Yayoi period(S129,pit1757)
P.L.263 Pottery in Yayoi period(S147,148)
P.L.264 Pottery in Yayoi period(S135,140)
P.L.265 Pottery in Yayoi period(S135,140)
P.L.266 Pottery in Yayoi period(S004,012,033)
P.L.267 Pottery in Yayoi period(S046,053)
P.L.268 Pottery in Yayoi period(S072,073,075)
P.L.269 Pottery in Yayoi period(S075,077)
P.L.270 Pottery in Yayoi period(S083,085,088)
P.L.271 Pottery in Yayoi period(S088)
P.L.272 Pottery in Yayoi period(S088,090,109)
P.L.273 Pottery in Yayoi period(S126,128)
P.L.274 Pottery in Yayoi period(S091)
P.L.275 Pottery in Yayoi period(S097,133,134)
P.L.276 Pottery in Yayoi period(S130,134,145)
P.L.277 Pottery in Yayoi period(S136,138,139)
P.L.278 Pottery in Yayoi period(S091, layer containing cultural remains)
P.L.279 Pottery in Yayoi period(layer containing cultural remains)
P.L.280 Pottery in Yayoi period(S017,091)
P.L.281 Pottery in Yayoi period(S076,096,099, layer containing cultural remains)
P.L.282 Pottery in Yayoi period(S077)
P.L.283 Pottery in Yayoi period(S090)
P.L.284 Pottery in Yayoi period(S001)
P.L.285 Pottery in Yayoi period(S003)
P.L.286 Pottery in Yayoi period(S011,020)
P.L.287 Pottery in Yayoi period(S095,100)
P.L.288 Pottery in Yayoi period(S081,082)
P.L.289 Pottery in Yayoi period(S101)
P.L.290 Pottery in Yayoi period(S147)
P.L.291 Pottery in Yayoi period(S026,029)
P.L.292 Pottery in Yayoi period(S089)
P.L.293 Pottery in Yayoi period(S076,078)
P.L.294 Pottery in Yayoi period(S044,054)
P.L.295 Pottery in Yayoi period(S092,099)
P.L.296 Pottery in Yayoi period(S092)
P.L.297 Pottery in Yayoi period(S140)
P.L.298 Pottery in Yayoi period(S090,100)

P.L.299 Pottery in Yayoi period(S095)
P.L.300 Pottery in Yayoi period(S106)
P.L.301 Pottery in Yayoi period(S106)
P.L.302 Pottery in Yayoi period(S106)
P.L.303 Pottery in Yayoi period(S106)
P.L.304 Pottery in Yayoi period(S129,130,135,140,146)
P.L.305 Pottery in Yayoi period(S033)
P.L.306 Pottery in Yayoi period(S012,033,036,053,067)
P.L.307 Pottery in Yayoi period(S046,053,067)
P.L.308 Pottery in Yayoi period(S072,073)
P.L.309 Pottery in Yayoi period(S075)
P.L.310 Pottery in Yayoi period(S075,077)
P.L.311 Pottery in Yayoi period(S083,088)
P.L.312 Pottery in Yayoi period(S090,109)
P.L.313 Pottery in Yayoi period(S118)
P.L.314 Pottery in Yayoi period(S118)
P.L.315 Pottery in Yayoi period(S118,125)
P.L.316 Pottery in Yayoi period(S136,138,139)
P.L.317 Pottery in Yayoi period(S139)
P.L.318 Pottery in Yayoi period(S091,133)
P.L.319 Pottery in Yayoi period(S091, layer containing cultural remains)
P.L.320 Pottery in Yayoi period(layer containing cultural remains)
P.L.321 Stone implements in Yayoi period(whetstone)
P.L.322 Stone implements in Yayoi period(saddlequern)
P.L.323 Stone implements in Yayoi period(large bifacially bevelled stone axe,polishing stone,float,bifacial tool)
P.L.324 Stone implements in Yayoi period(whetstone, saddlequern)
P.L.325 Stone implements (whetstone,pumice tools with groove)
P.L.326 Stone implements (pumice tools, stone weight, point tool)
P.L.327 A kind of shell and bone(S093, only photograph)
P.L.328 A kind of shell and bone(S118, only photograph)
P.L.329 Stone implements in medieval period(whetstone)
P.L.330 Stone implements in medieval period(steatite goods,steatite cooking vessel,inkslab)
P.L.331 Relics in medieval period(S065)
P.L.332 Relics in medieval period(S009,011,pit1292, layer containing cultural remains and others)
P.L.333 Relics in medieval period(S010,018,061,062)
P.L.334 Relics in medieval period(S011,pit1452,1560,1570)
P.L.335 Relics in ancient and medieval period(S046,055,094, layer containing cultural remains and others)
P.L.336 Relics in medieval period and eary modern period(S094,pit1452, layer containing cultural remains and others)
P.L.337 Relics in medieval period(S074)
P.L.338 Relics in medieval period(S094)
P.L.339 Relics in eary modern period(S051,094, layer containing cultural remains)
P.L.340 Symbolizing fire tombsone of Five Elements Stupa in medieval period (S094)
P.L.341 Clod of clay(lower layer of S106, only photograph)
P.L.342 Float(lower layer of S101, only photograph)
P.L.343 X-ray photograph of relics (iron and bronze implements, old coin)

―附　論―

【凱旋門と従軍姓名碑】

1　はじめに

路線内際に「凱旋門」と「従軍姓名碑」が建ててあった。当初、移設するという予定であったために、元位置と碑文を確認する必要性を感じていた。

結果的に移設は免れたが、現在の状況を附論として記録に残すことにしたい。

2　歴史的背景

日清戦争（1894～1895年：明治27～28年）と日露戦争（1904～1905年：明治37～38年）に勝利した日本では戦勝記念として、各地に巨大な凱旋門が建てられた。弔魂の意味よりも戦勝記念の意味合が強く、出征者も数多く刻まれている。(1)

日清戦争では、明治28年（1895）の日比谷の巨大凱旋門が有名で、樋口一葉も

【凱旋門も今日は取くつさんとすなと聞くにそは情なし　千載の一事といふ此大いわひにあひなから空しくその門さへ見過くさんや　さらばこれよりけい古終らは直にゆかん】（『水の上』1895年６月１日）

と、壊される寸前の凱旋門を慌てて見物に行っている。(2)

現存する凱旋門の１つとして鹿児島県姶良郡姶良町山田に所在する日露戦争の石造凱旋門が有名である。

日露戦争出征兵士の帰還記念碑として、明治39年３月に建立され、現存する凱旋門としては、歴史的に非常に貴重なものである。現在国の登録有形文化財に指定されている。(2)

玉名市大字月田に所在するこの凱旋門と従軍姓名碑は、日清・日露戦争出征兵士の帰還記念碑として建てられたものであろう。

3　凱旋門と碑文

【位置】

前田遺跡の調査１区の南側から約126m南西方向に位置する。菊池川に接している。旧県道玉名立花線の道路を挟む形で凱旋門が建ち、その傍らに従軍姓名碑がある。(第　図参照)

【大きさ・形状等】

凱旋門：長さ285cm～、柱最大幅50cm、頭部最大幅65cm。柱は６角柱で、各面を加工してそれぞれ２面に浮き彫り状に文字が確認できる。石材は凝灰岩である。頭頂部は直径50cm、深さ５cmの円形の掘り込みがあり、組み合わせ式で何らかの冠状の石造物が載っていた可能性も考えられる。凱旋門Ａは垂直に建っているが、Ｂはやや傾いている。Ａは県道か水路整備の際にコンクリートで固定されているものと推定される。Ｂは創建当時のままの可能性が高い。門間の距離は約720cmである。

姓名碑：凱旋門Ｂより西側に約120cm離れた場所に従軍姓名碑が建っている。縦200cm、横125cm、高さ約40cmの凝灰岩台座の上に、高さ約175cm、幅約150cm、最大厚約33cmの従軍姓名碑が建っている。石材は凝灰岩の割り石で、亀裂部や台座との接合部にはセメントで固定されている。１面に碑文が掘り込まれている。残存している赤色顔料から、当時は掘り込まれた文字全体に赤色顔料が塗られていたものと推定される。

【碑文】（新字体で表示）

凱旋門Ａ：①凱旋門、②明治三九年一月建

凱旋門Ｂ：③日（？）もう一字は削り取られていて不明

④陸軍小将従四位勲二等功四級

岡村静彦書

従軍姓名碑：　自明治二十七八年役

至明治三十七八年役

従軍姓名

陸軍　歩兵上等兵勲八等　倉田群蔵

同　騎兵上等兵勲七等　河野亀彦

同　歩兵上等兵勲七等　本田一万

同　歩兵上等兵　吉田菊蔵

同　一等卒　宮本重平

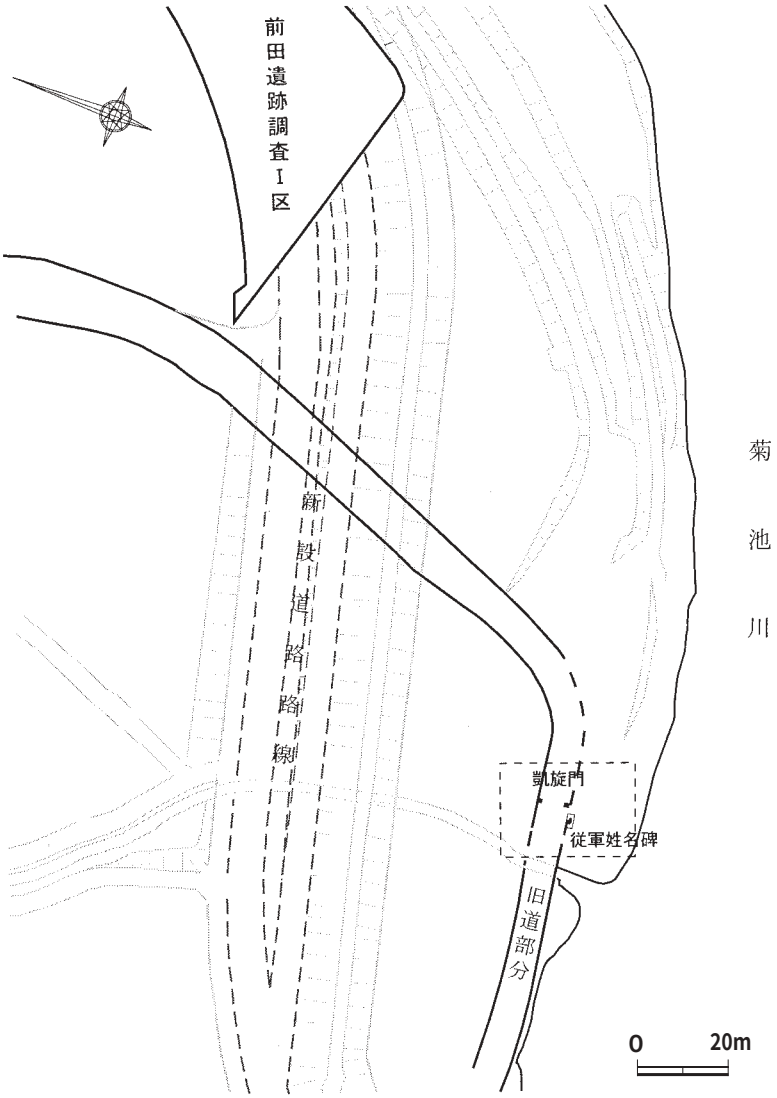
同　軍曹同七等　松井運平

同　砲兵軍曹同七等　木村庄平

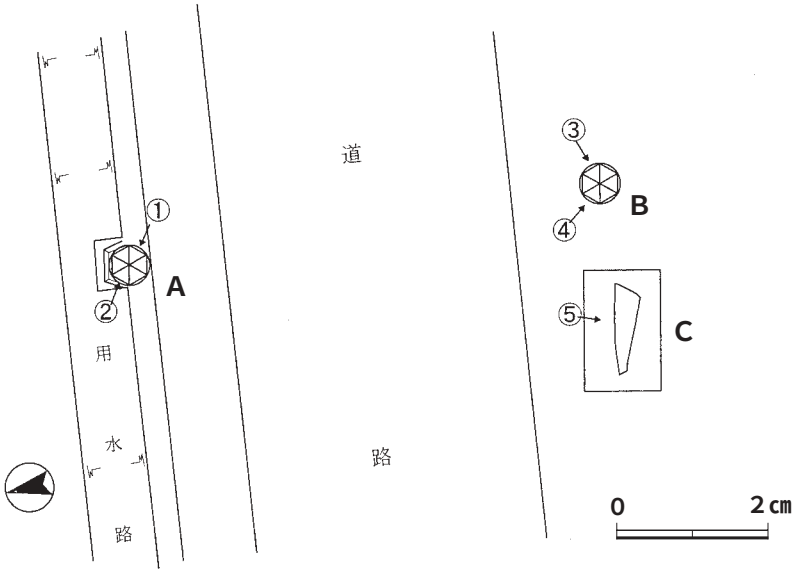
同　歩兵伍長同七等　前田初平

同　上等兵同八等　平川伍八

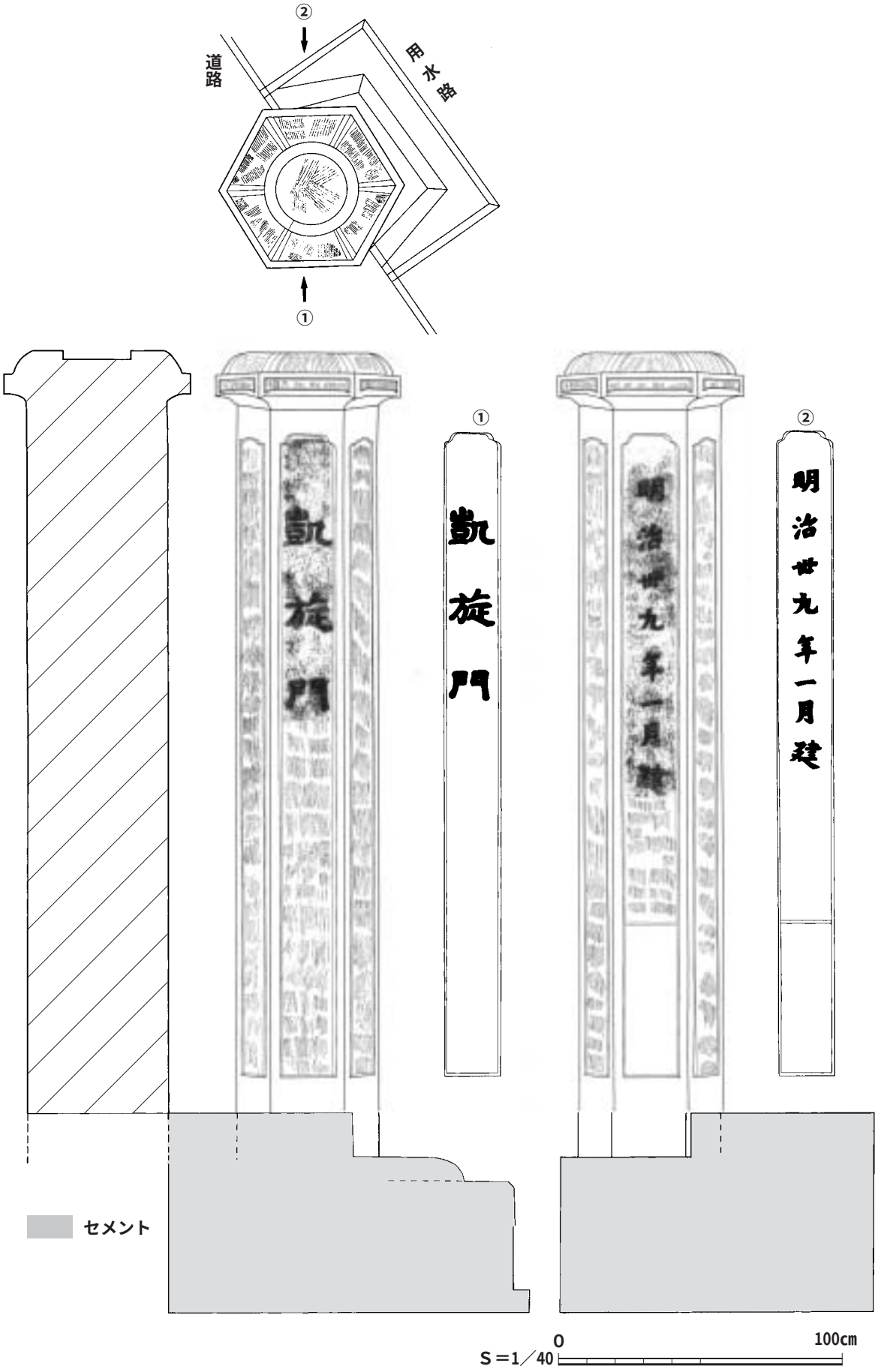
同　一等卒同八等　月山榮寿



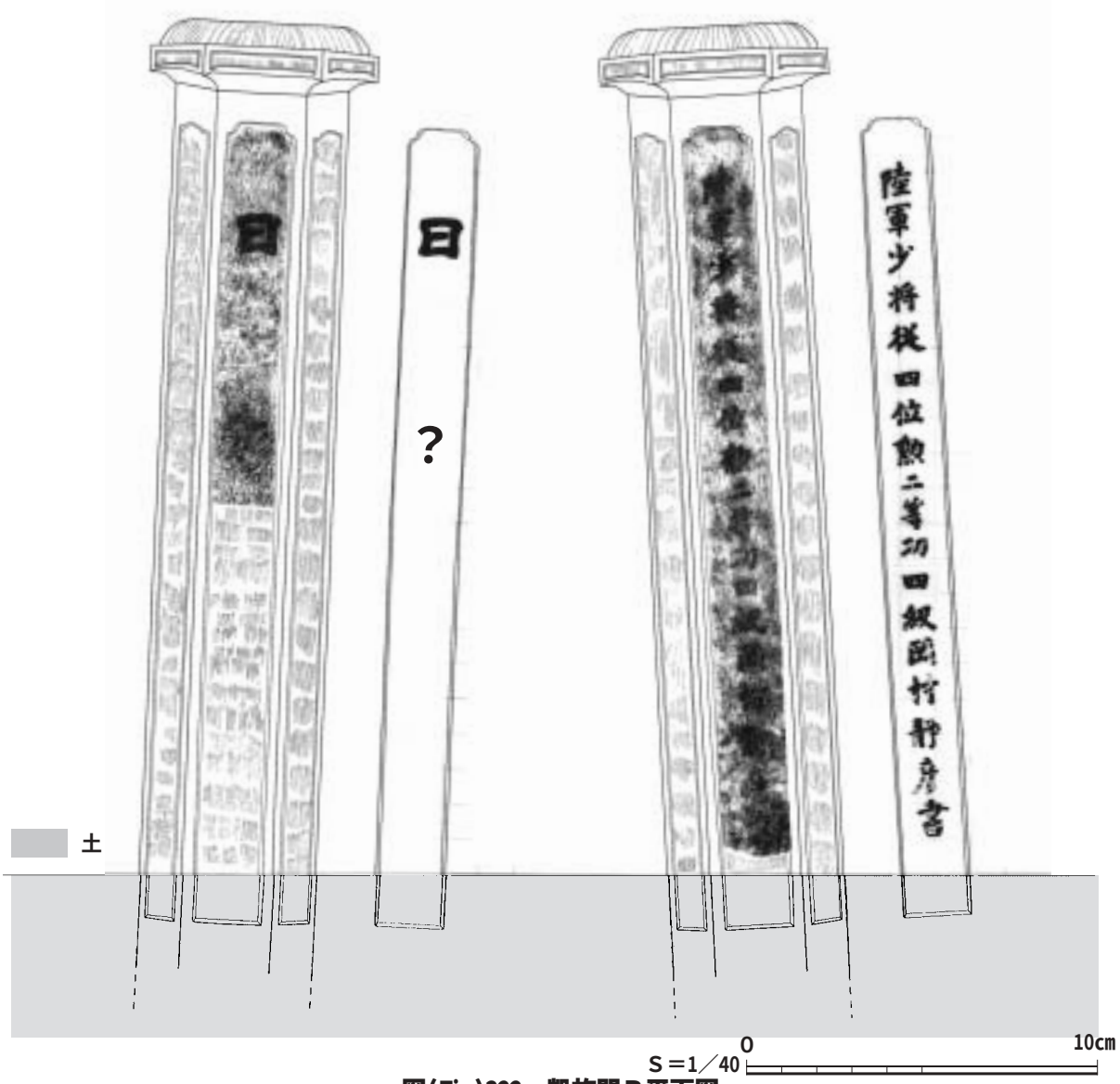
図(Fig)319　日清・日露戦争凱旋門位置図



図(Fig)320　日清・日露戦争凱旋門位置図（拡大）



図(Fig)321　凱旋門A平面　前面図



図(Fig)322　凱旋門Ｂ平面図

同 砲兵一等卒同八等　木山良平
於首山堡戦死 同歩兵一等卒同八等 高根四十吉
同　一等卒　金森長平
同　二等卒同八等　大平　繁
同　上等兵　木山子之八
海軍 二等兵曹同七等 金森一平
同　三等兵曹　平川伍一
同 一等信号兵勲八等 高根虎男
同　一等水兵同八等　木山惣平
同　二等水兵同八等　松井改平

4　最後に

従軍姓名碑にある高根四十吉の氏名は、玉名市史資料編６ 文書（近・現代）の戦死者一覧によれば、日露戦争において戦死されたと記載されている。月瀬小学校にある月瀬村殉国之碑の中にも記載されているようである。

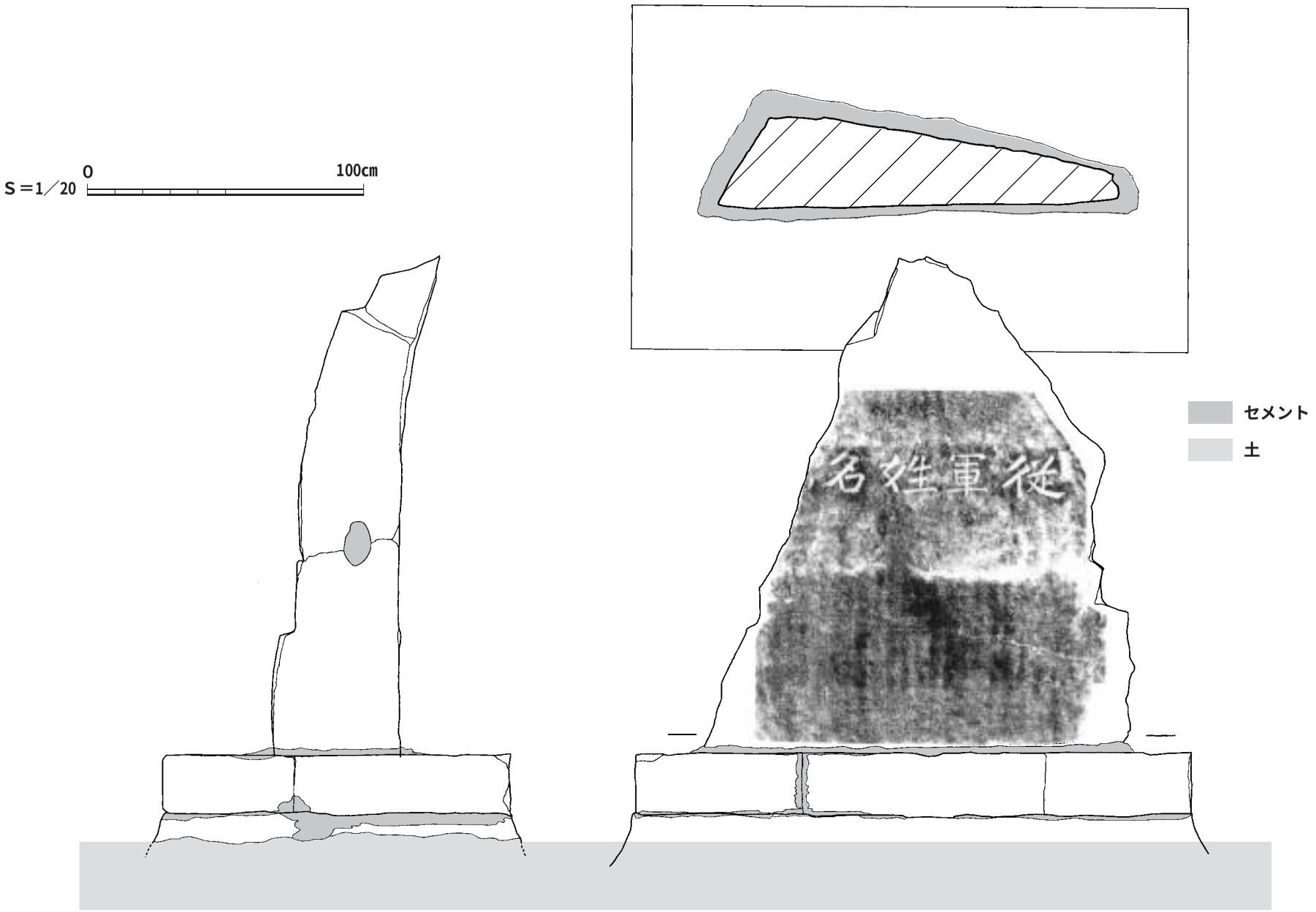
現在これらの碑は徐々に荒れ始めている。その原因は遺族の高年齢化と戦争を知らない世代の増加であると田邊哲夫氏は述べておられる。

歴史を正しく子々孫々に伝えていくことは我々の使命である。そのためには、近代以降の戦跡遺跡等の状況把握に務めなければならないと思う。そして、戦争のない平和な日本がずっと続くような世界を築いていかなければいけないと痛感する。

註

（１）田邊哲夫　1994　『第３編　軍事』「玉名市史　資料編６　文書（近・現代）」玉名市、玉名市史編纂委員会より引用

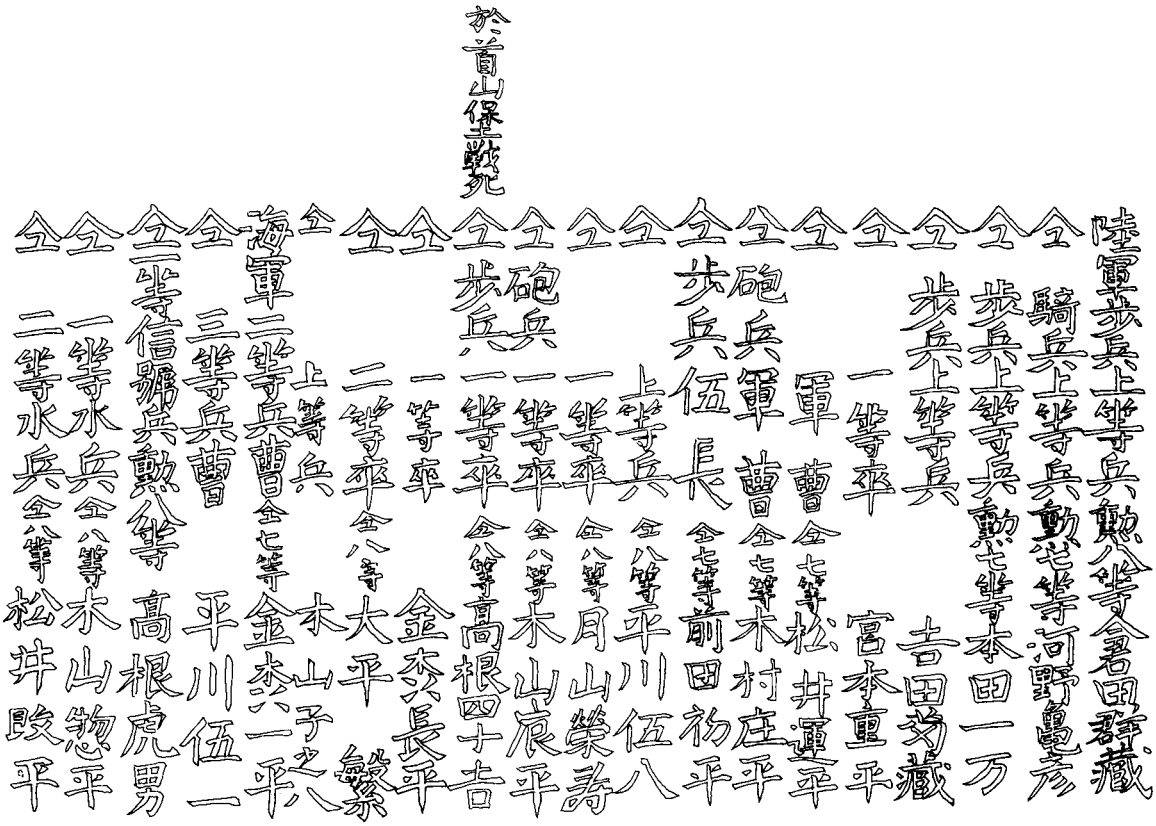
（２）JA6DHNさんのホームページより引用



図(Fig)323　従軍姓名碑Ｃ平面・断面図

自明治二十七八年役
至明治三十七八年役

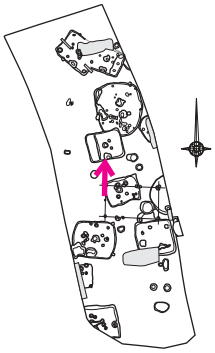
従軍姓名



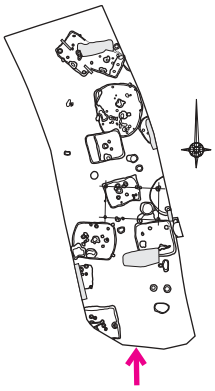
赤色顔料

図(Fig)324　従軍姓名Ｃ碑文（Ｓ＝3／20)

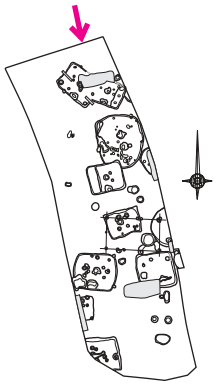
写真(PL)33
調査区全景
（対岸より）



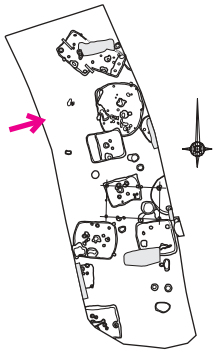
写真(PL)34
調査２区
（表土剥ぎ後）



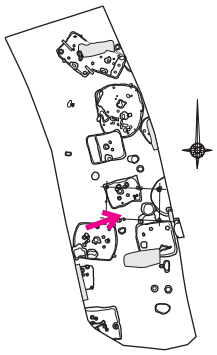
写真(PL)35
調査２区全景１
（空撮時）



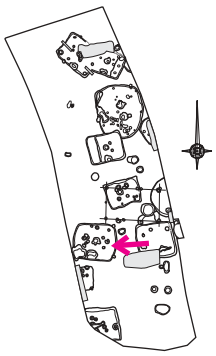
写真(PL)36
調査区全景２
（空撮時）



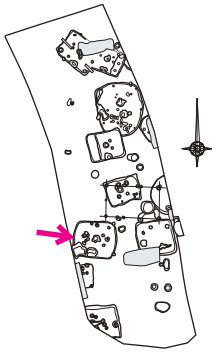
写真(PL)37
調査２区
遺構遺物出土
状況（中央がS002
とS003）



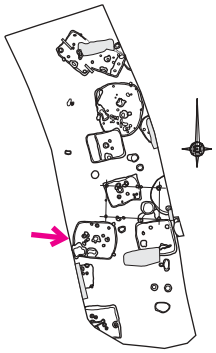
写真(PL)38
調査２区
遺構遺物出土
状況（中央手前が
S001）

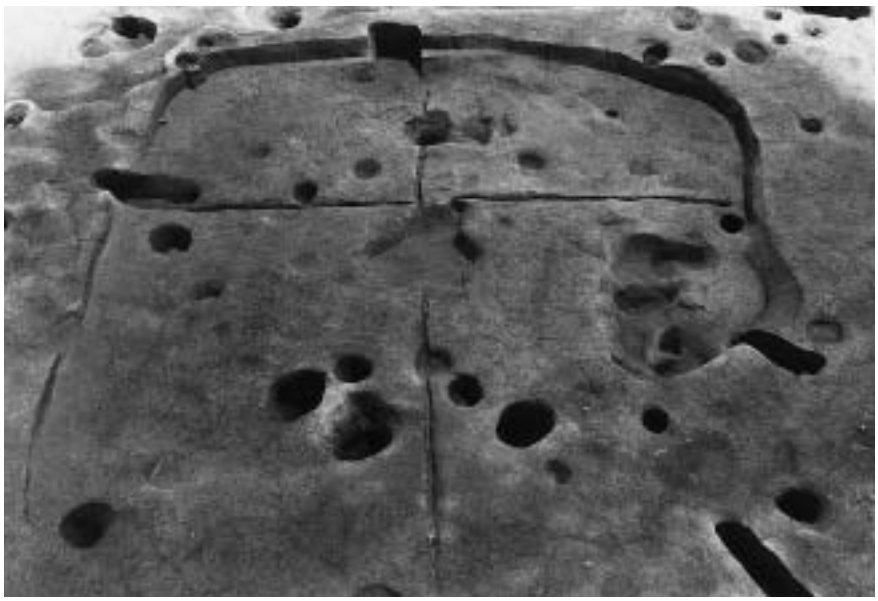


写真(PL)39
調査２区
S001遺物出土状況１

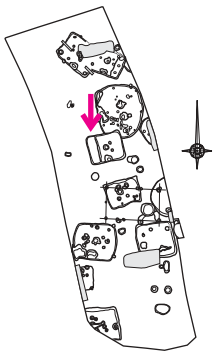


写真(PL)40
調査２区
S001遺物出土状況２

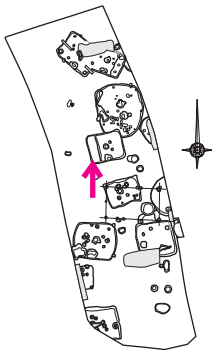




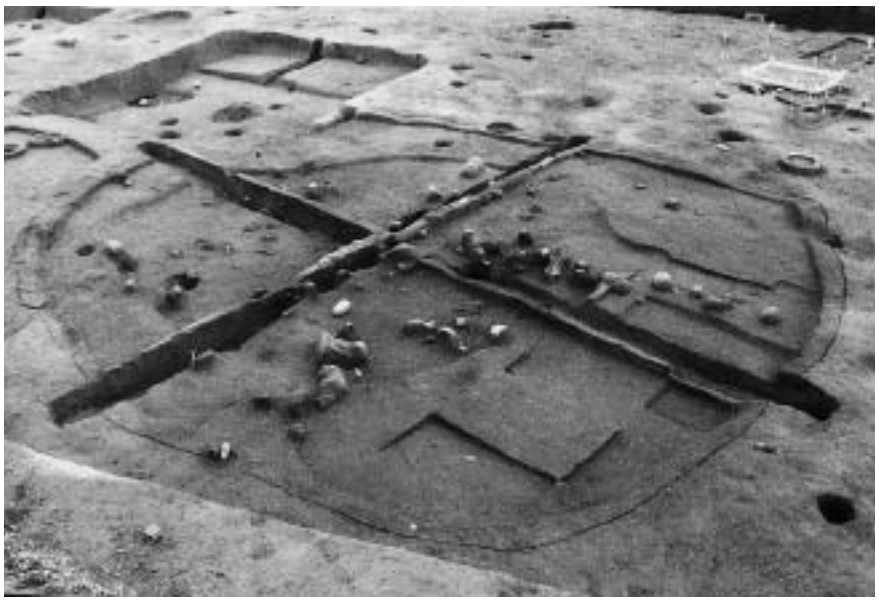
写真(PL)41
調査２区
S001完掘状況

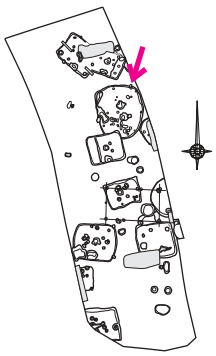


写真(PL)42
調査２区
S002完掘状況

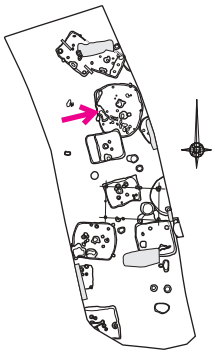


写真(PL)43
調査２区
S002ベッド状遺構
土層断面

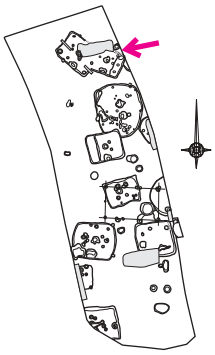




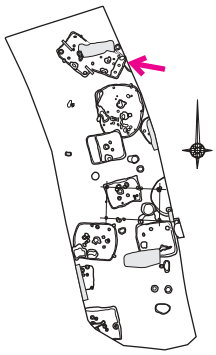
写真(PL)44
調査２区
S003掘り下げ状況



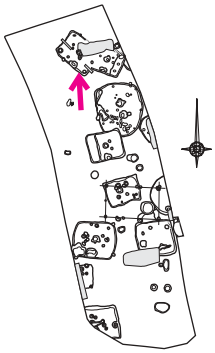
写真(PL)45
調査２区
S003完掘状況



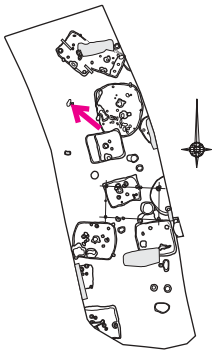
写真(PL)46
調査２区
S004, 005, 011
遺物出土状況



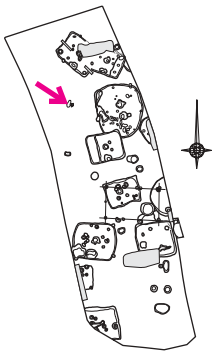
写真(PL)47
調査２区
S004完掘状況



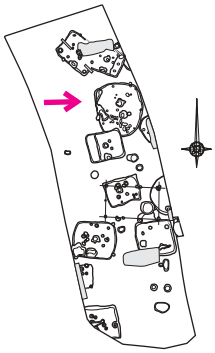
写真(PL)48
調査２区
S005遺物出土状況



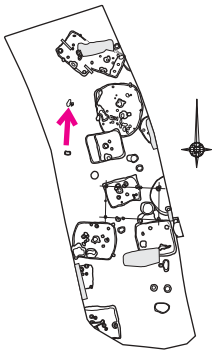
写真(PL)49
調査２区
S008, 009検出状況１



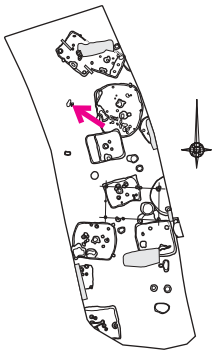
写真(PL)50
調査２区
S008, 009検出状況２



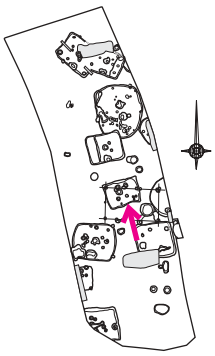
写真(PL)51
調査２区
S008, 009検出状況３



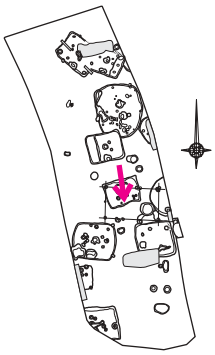
写真(PL)52
調査２区
S008, 009
切り合い状況



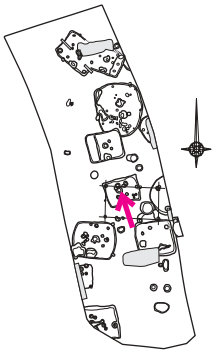
写真(PL)53
調査２区
S008粘土貼り付け
と掘り方痕跡



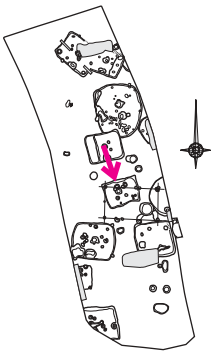
写真(PL)54
調査２区
S012遺物出土状況



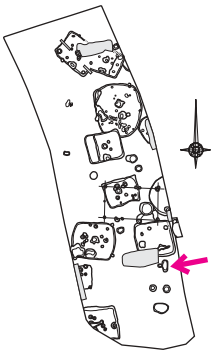
写真(PL)55
調査２区
S012手捏土器
出土状況

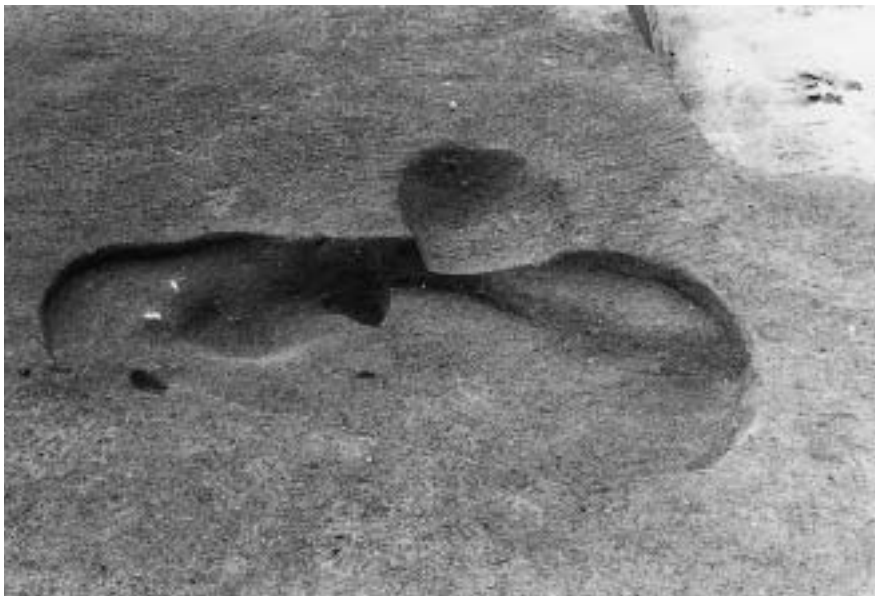


写真(PL)56
調査２区
S012中央炉
半裁状況

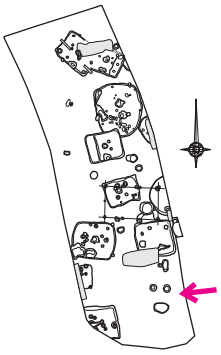


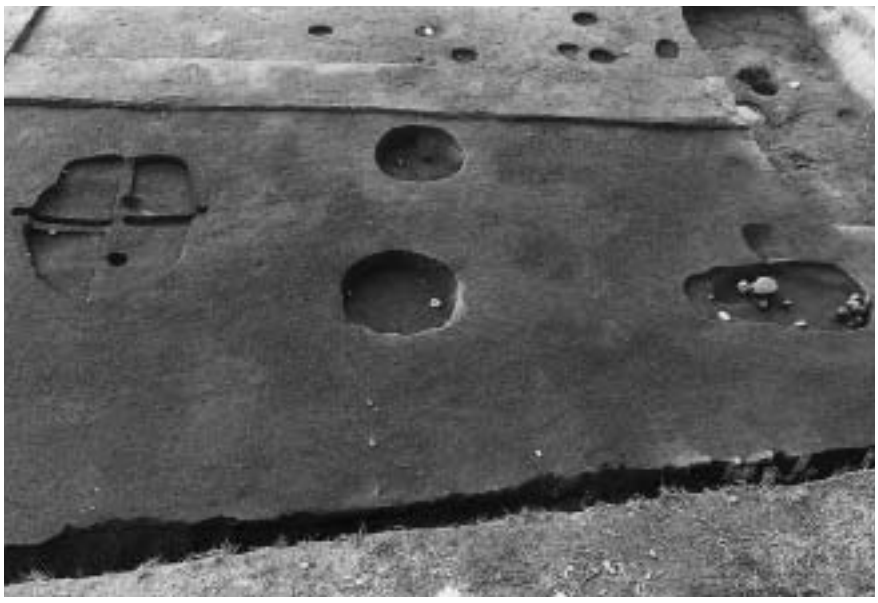
写真(PL)57
調査２区
S012完掘状況



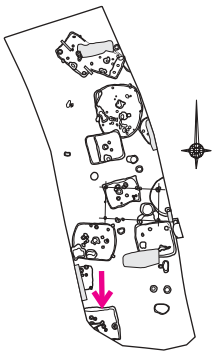


写真(PL)58
調査２区
S012, 023
完掘状況

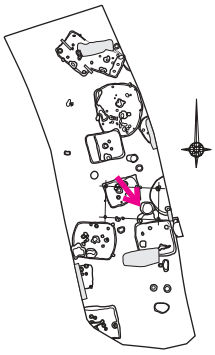




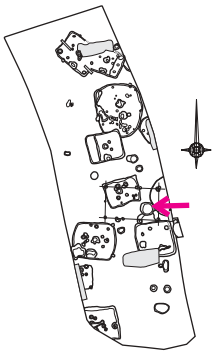
写真(PL)59
調査２区
S013, 016
完掘状況



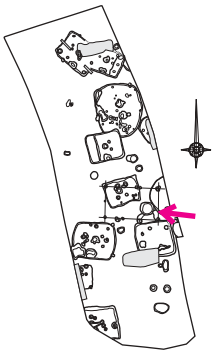
写真(PL)60
調査２区
S017土層および
硬化面の検出状況

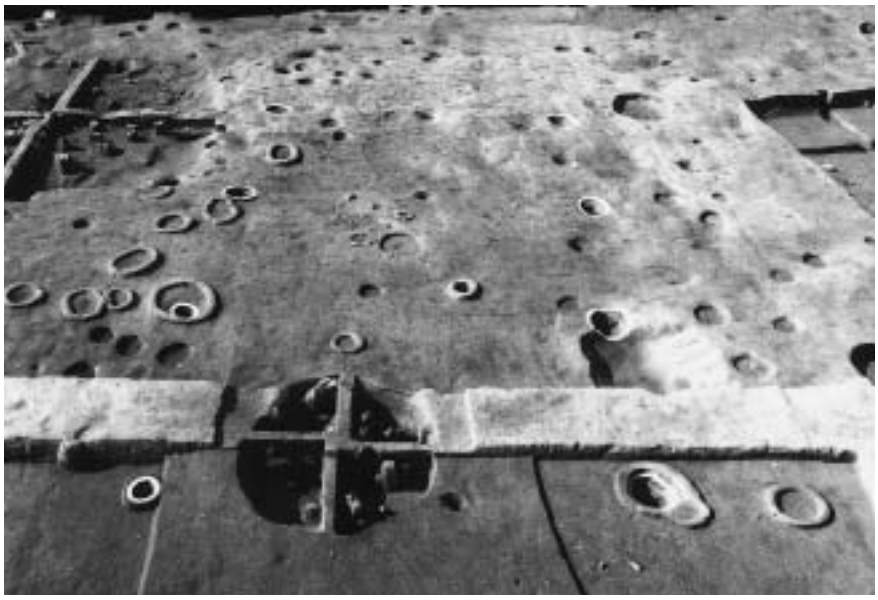


写真(PL)61
調査２区
S018遺物出土状況

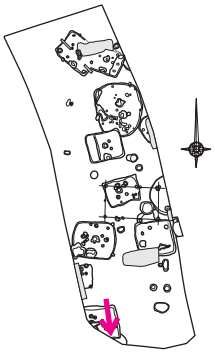


写真(PL)62
調査２区
S018完掘状況

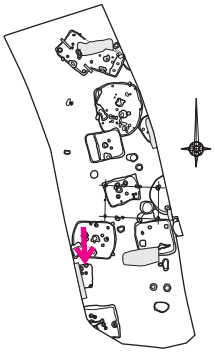




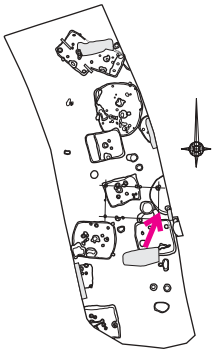
写真(PL)63
調査２区
S019完掘状況



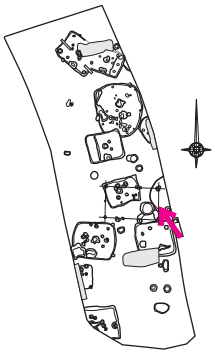
写真(PL)64
調査２区
S022完掘状況



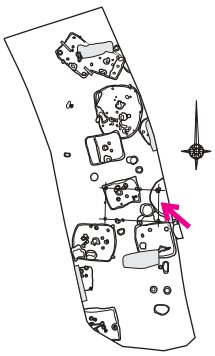
写真(PL)65
調査２区
S025遺物出土状況



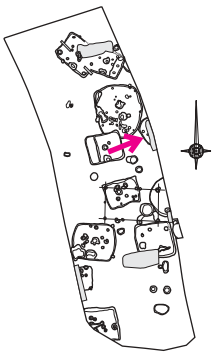
写真(PL)66
調査２区
S026遺物出土状況



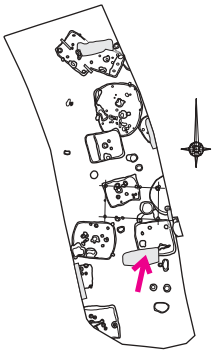
写真(PL)67
調査２区
S026土層断面状況

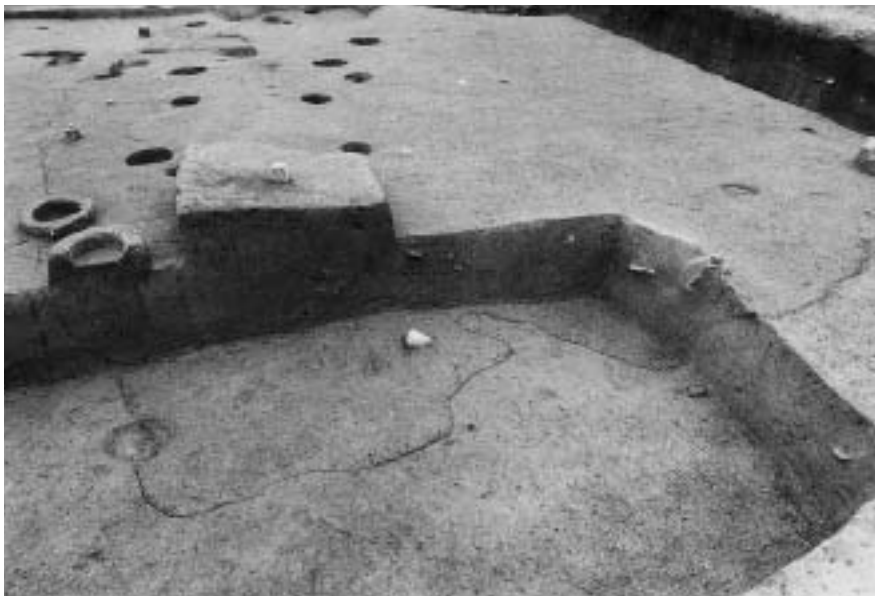


写真(PL)68
調査２区
S026完掘状況

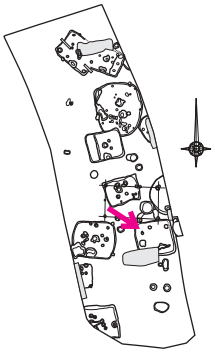


写真(PL)69
調査２区
S027土層断面状況

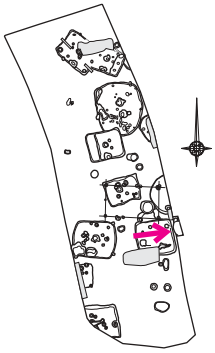




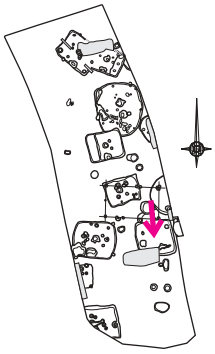
写真(PL)70
調査２区
S033遺構検出状況



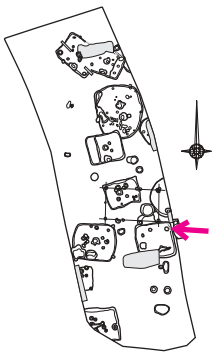
写真(PL)71
調査２区
S033遺物出土状況



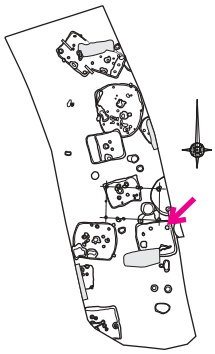
写真(PL)72
調査２区
S034遺物出土状況



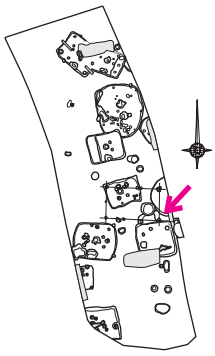
写真(PL)73
調査２区
S035鉄器出土状況



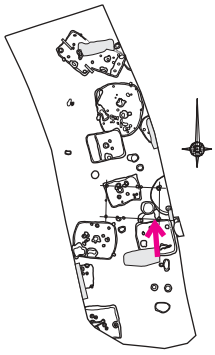
写真(PL)74
調査２区
S036遺物出土状況



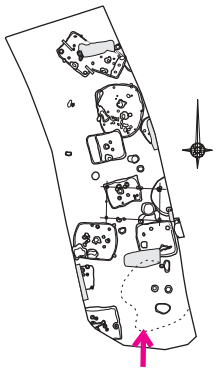
写真(PL)75
調査２区
S036完掘状況



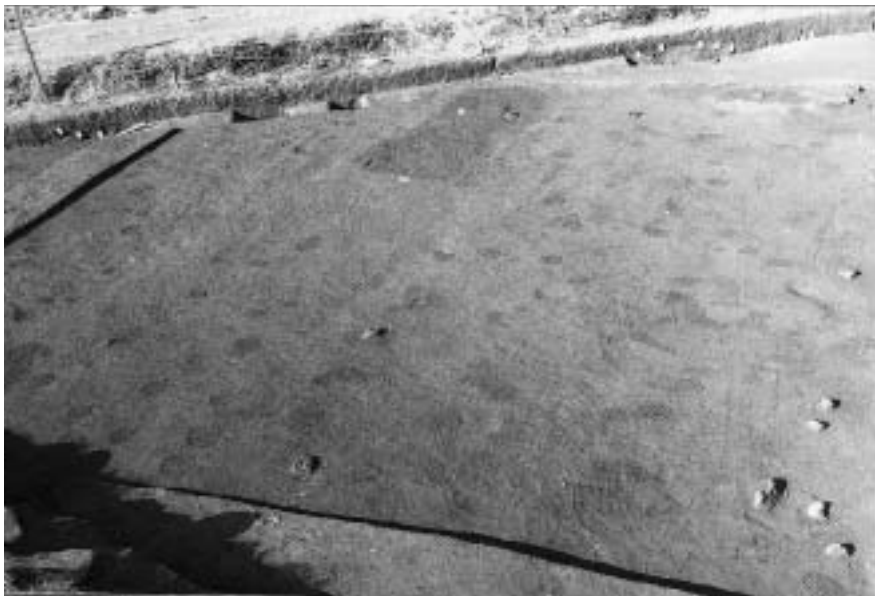
写真(PL)76
調査２区
S038完掘状況

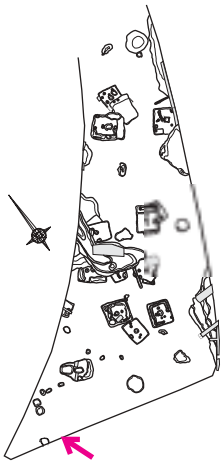


写真(PL)77
調査２区
S026, 033, 038
完掘状況

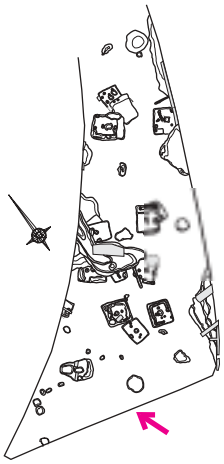


写真(PL)78
調査２区
縄文土器を包含する
砂層中の遺物出土状況



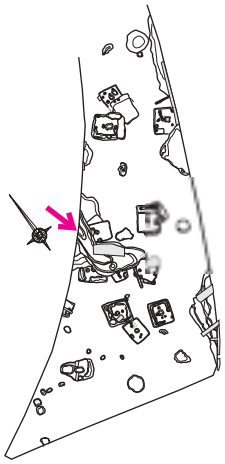


写真(PL)79
調査１区
B-1グリッド
遺構・ピット検出状況

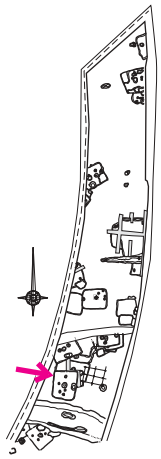


写真(PL)80
調査１区
A,B,Cグリッド
ピット群完掘状況

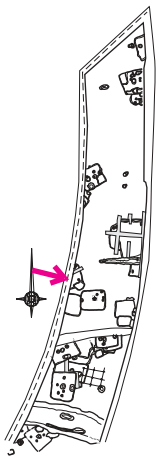
写真(PL)81
調査１区
遺構完掘状況



写真(PL)82
調査１区
S094周辺完掘状況

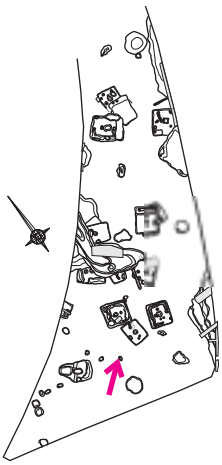


写真(PL)83
調査１区
S076, 077, 092
周辺完掘状況



写真(PL)84
調査１区
S105, 126, 138
周辺完掘状況

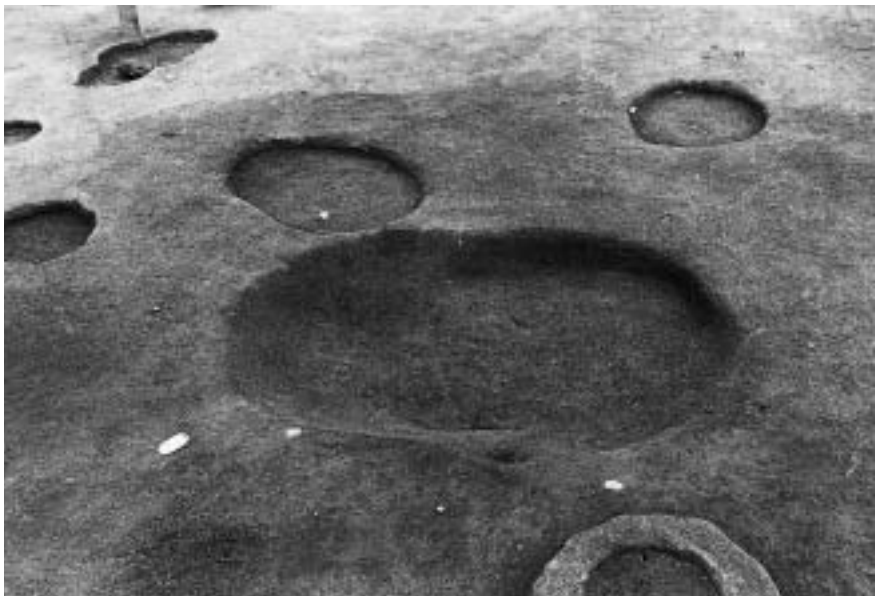
写真(PL)85
調査１区
S054, 075, 078完掘状況



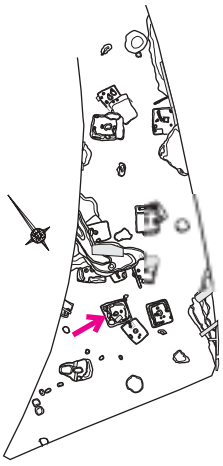
写真(PL)86
調査１区
S040完掘状況

写真(PL)87
調査１区
S041遺物検出状況

写真(PL)88
調査１区
S041完掘状況

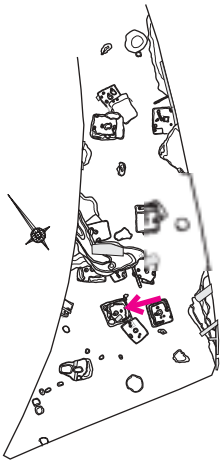


写真(PL)89
調査１区
S042完掘状況

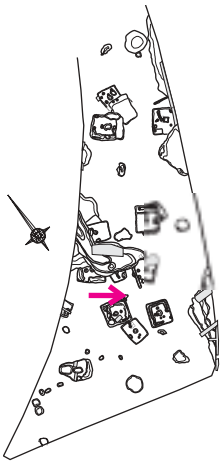


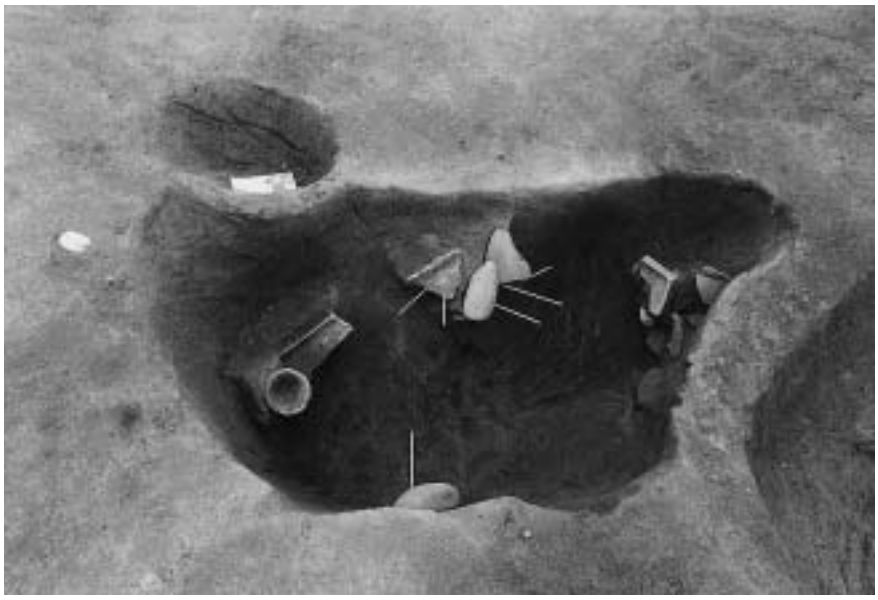
写真(PL)90
調査１区
S044検出状況

写真(PL)91
調査１区
S044遺物出土状況

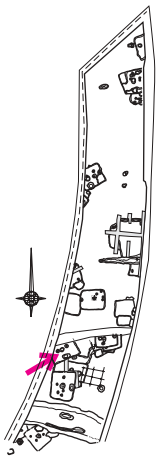


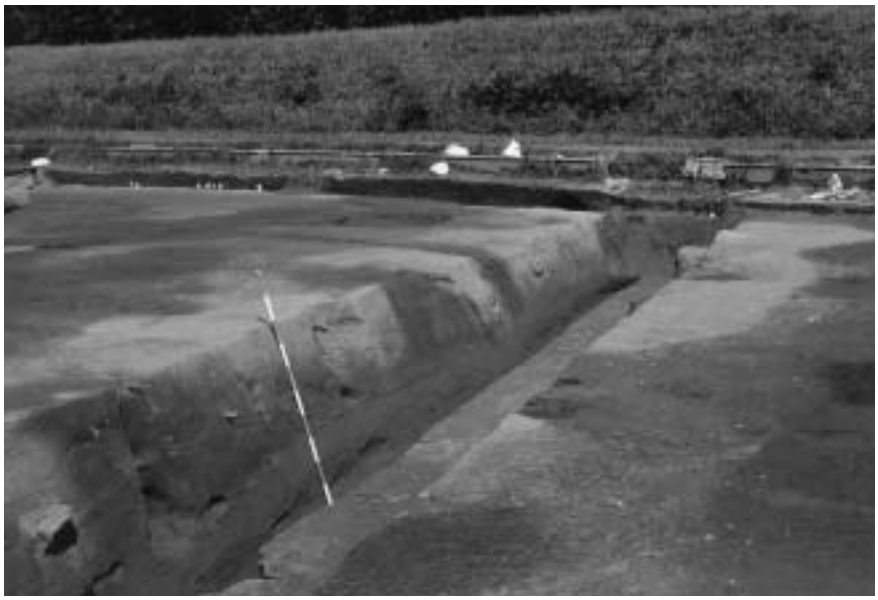
写真(PL)92
調査１区
S044完掘状況



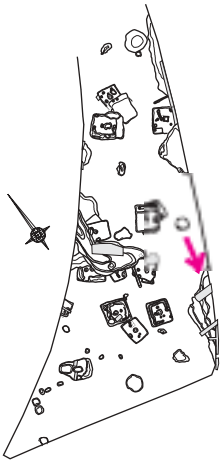


写真(PL)93
調査１区
S045遺物出土状況

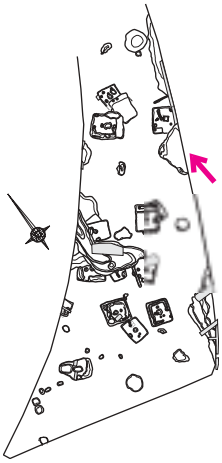




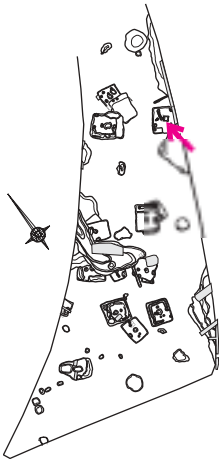
写真(PL)94
調査１区
J-8,9グリッド土層断面



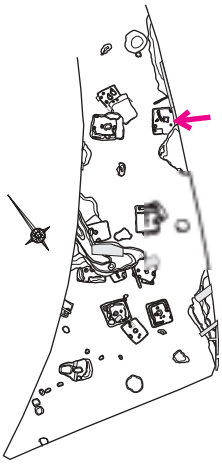
写真(PL)95
調査１区
S050半裁状況



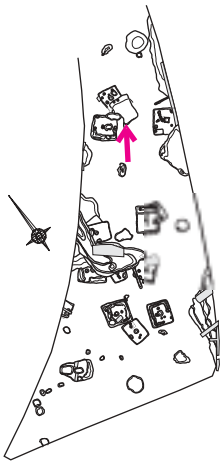
写真(PL)96
調査１区
S051半裁状況



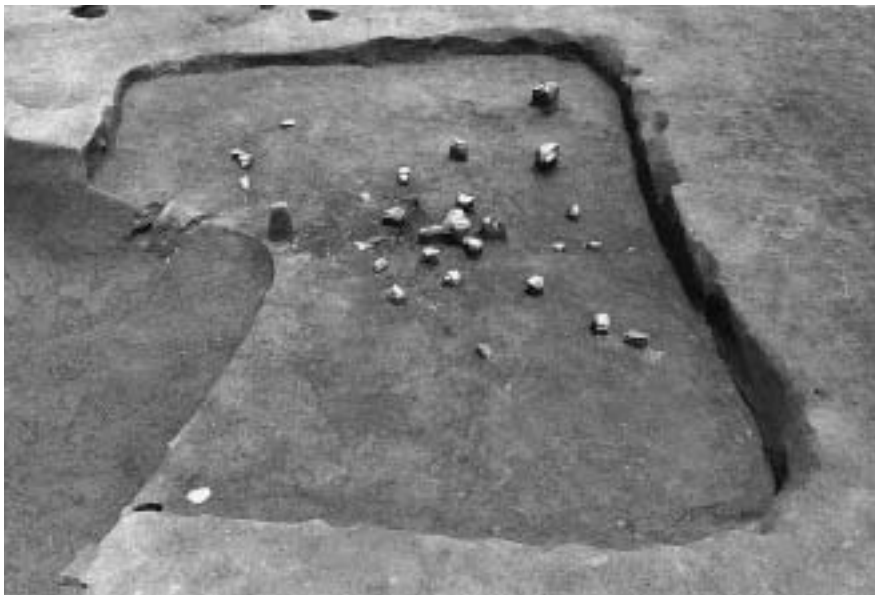
写真(PL)97
調査１区
S053鉄鏃出土状況



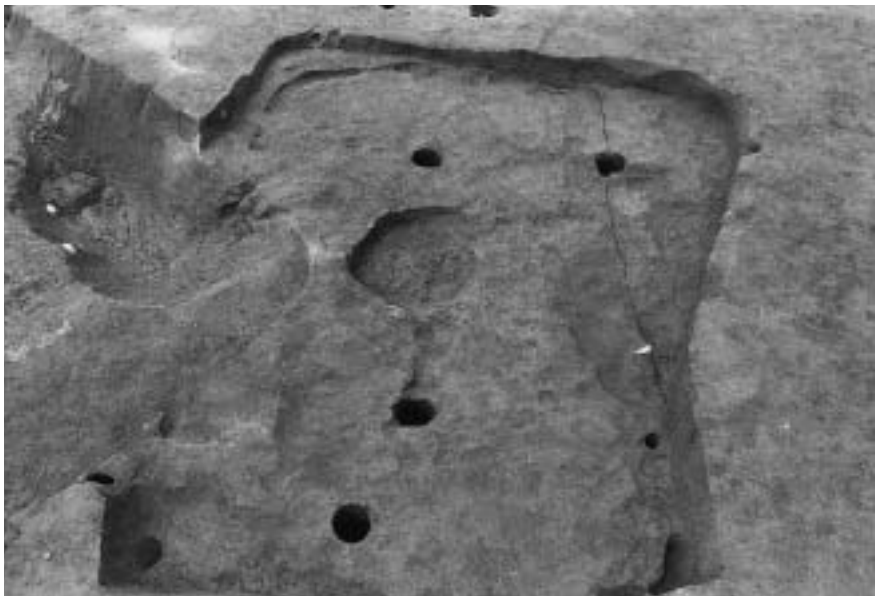
写真(PL)98
調査１区
S053完掘状況

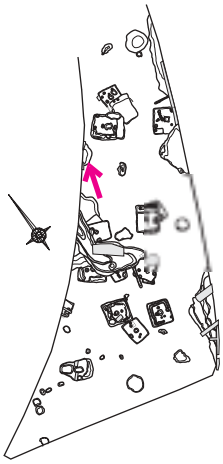


写真(PL)99
調査１区
S054遺物出土状況

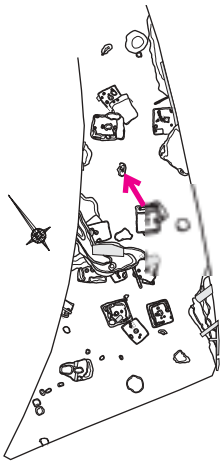


写真(PL)100
調査１区
S054完掘状況

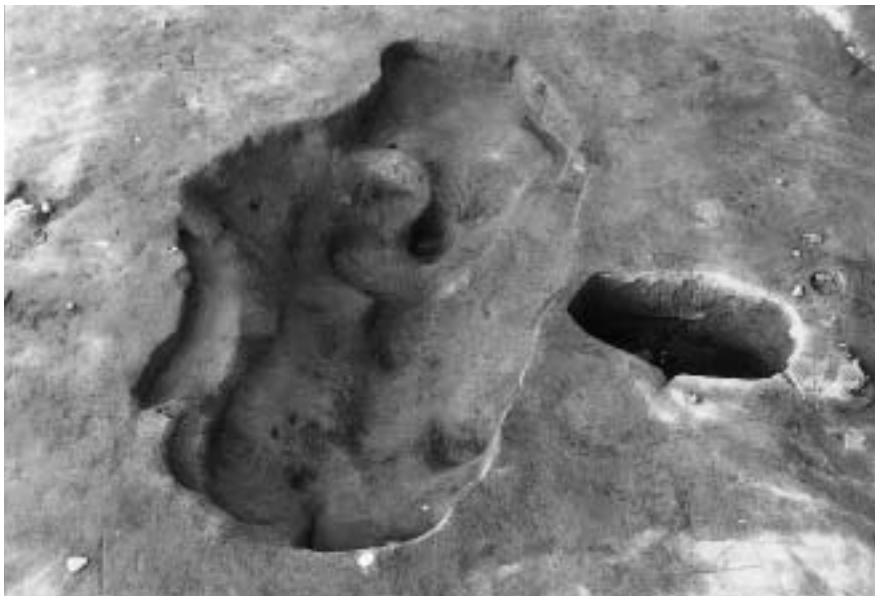


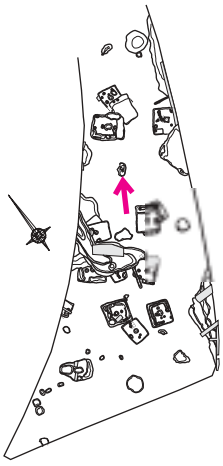


写真(PL)101
調査１区
S055完掘状況

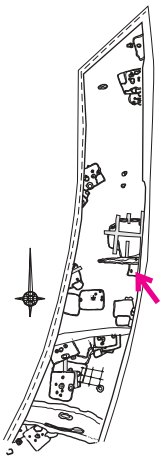


写真(PL)102
調査１区
S056遺物出土状況

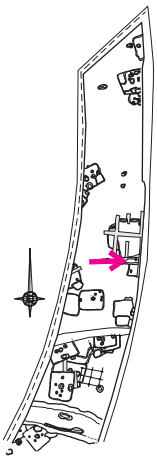




写真(PL)103
調査１区
S056完掘状況



写真(PL)104
調査１区
S058半裁状況



写真(PL)105
調査１区
S058土層断面状況

写真(PL)106
調査１区
S059完掘状況

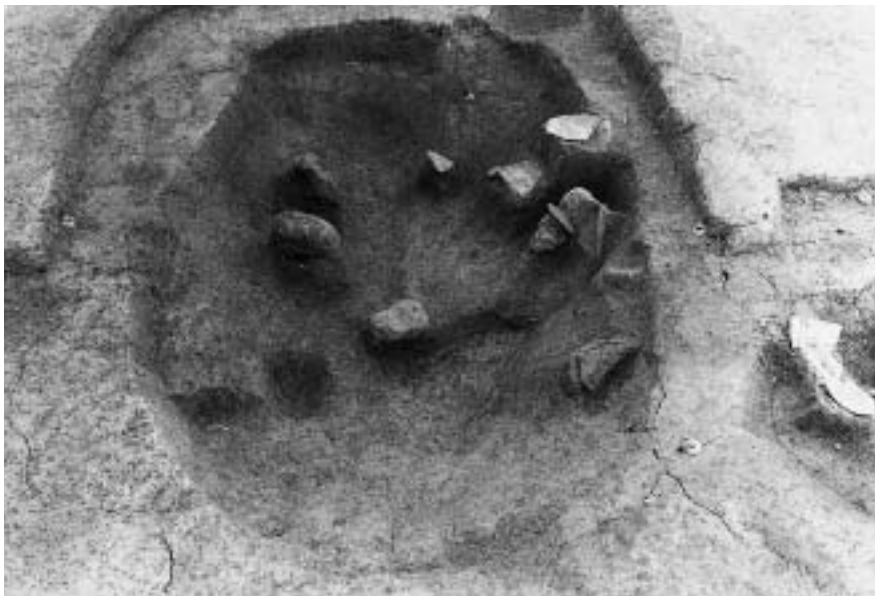
写真(PL)107
調査１区
S060検出状況

写真(PL)108
調査１区
S060土層断面
及び半裁状況

写真(PL)109
調査１区
S061検出状況

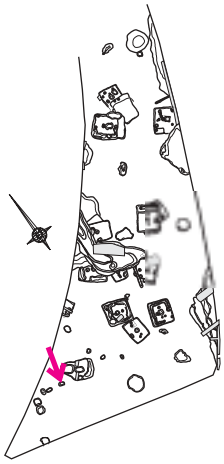
写真(PL)110
調査１区
S062遺物出土状況

写真(PL)111
調査１区
S063遺物出土状況

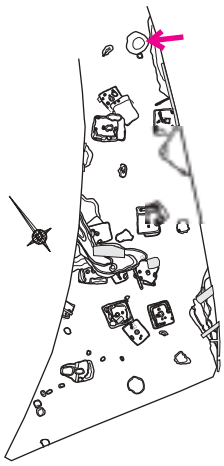


写真(PL)112
調査１区
S064遺物出土状況

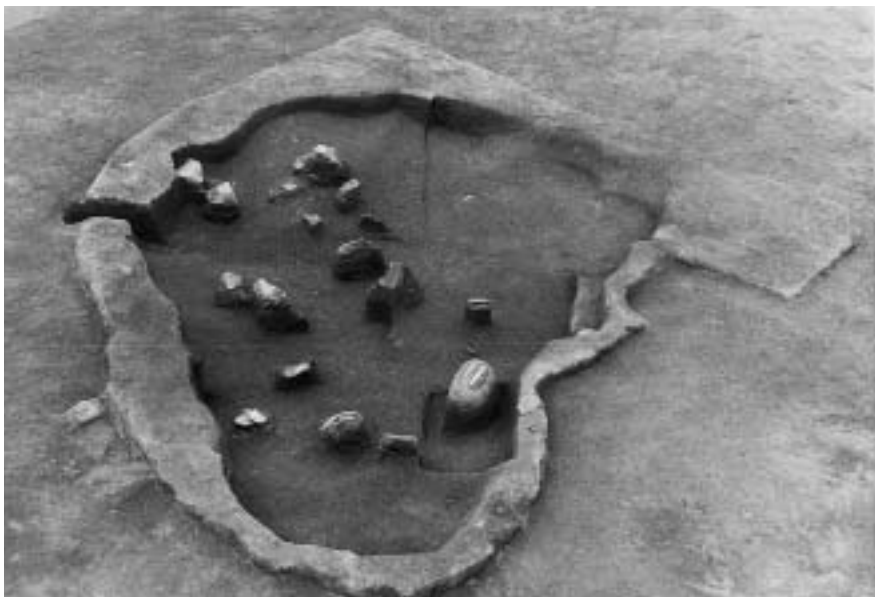
写真(PL)113
調査１区
S065遺物出土状況

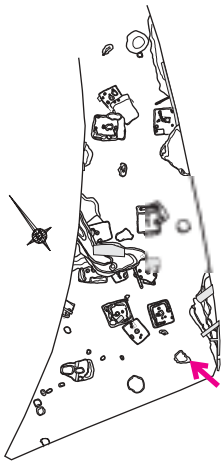


写真(PL)114
調査１区
S066遺物出土状況

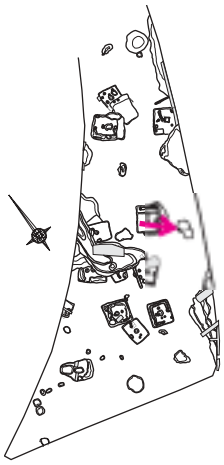


写真(PL)115
調査１区
S067完掘状況



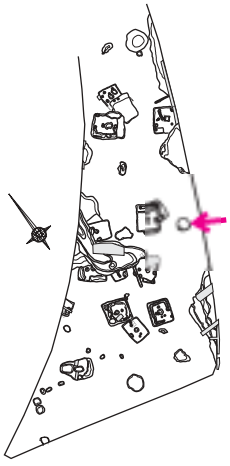


写真(PL)116
調査１区
S069,070遺物出土状況

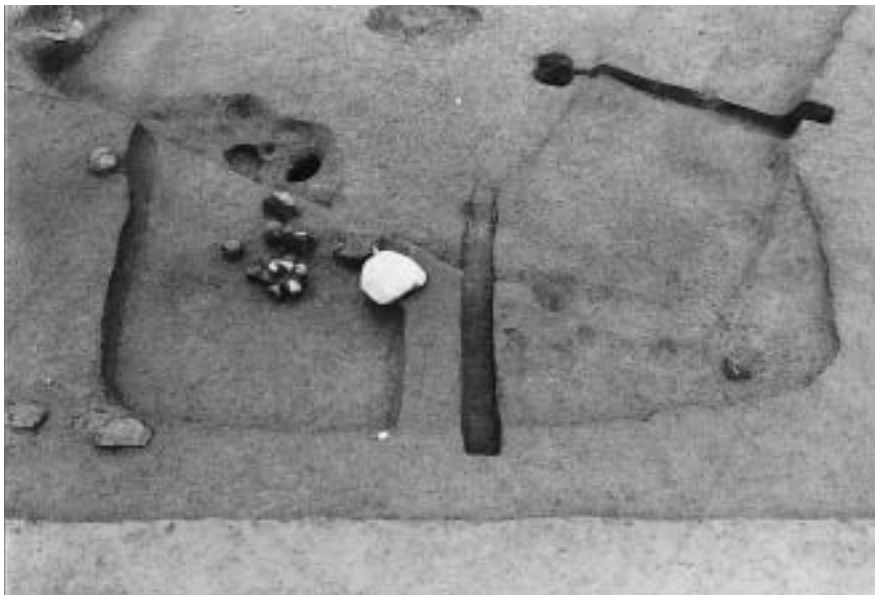


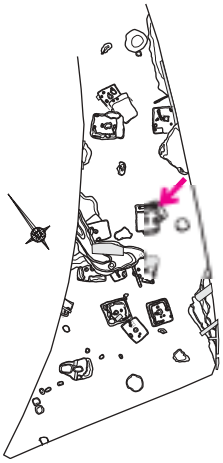
写真(PL)117
調査１区
S071検出状況

写真(PL)118
調査１区
S071遺物出土状況

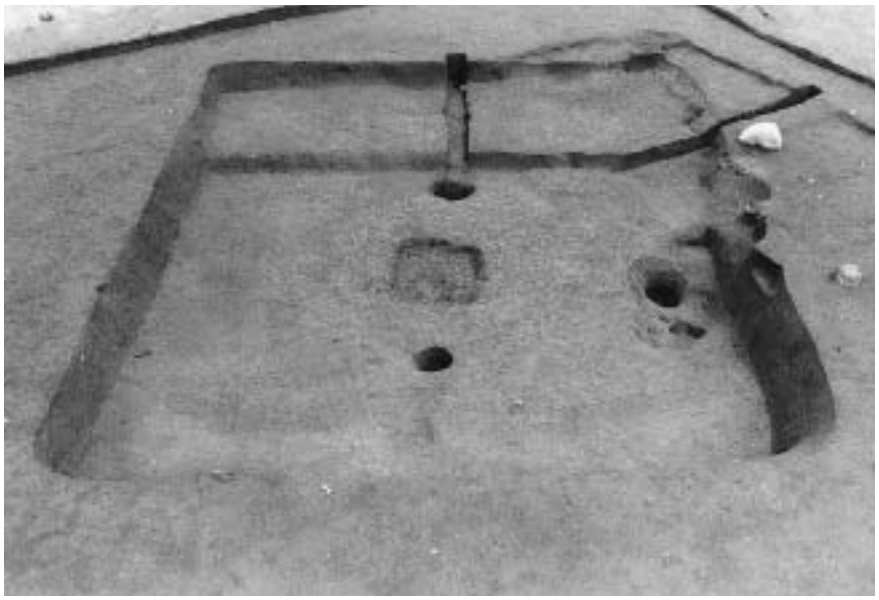


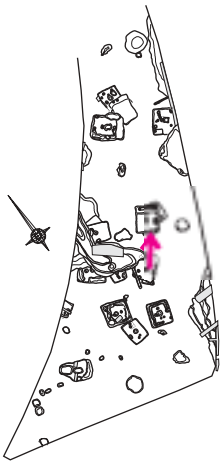
写真(PL)119
調査１区
S071完掘状況



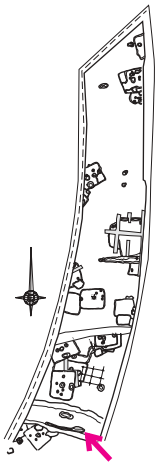


写真(PL)120
調査１区
S072遺物出土状況

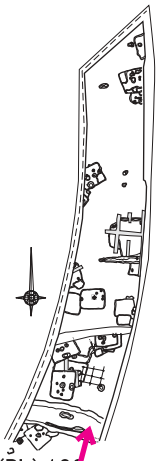




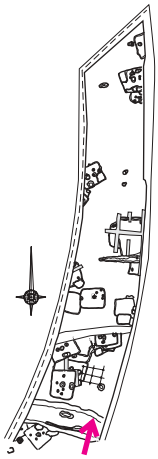
写真(PL)121
調査１区
S072,073完掘状況



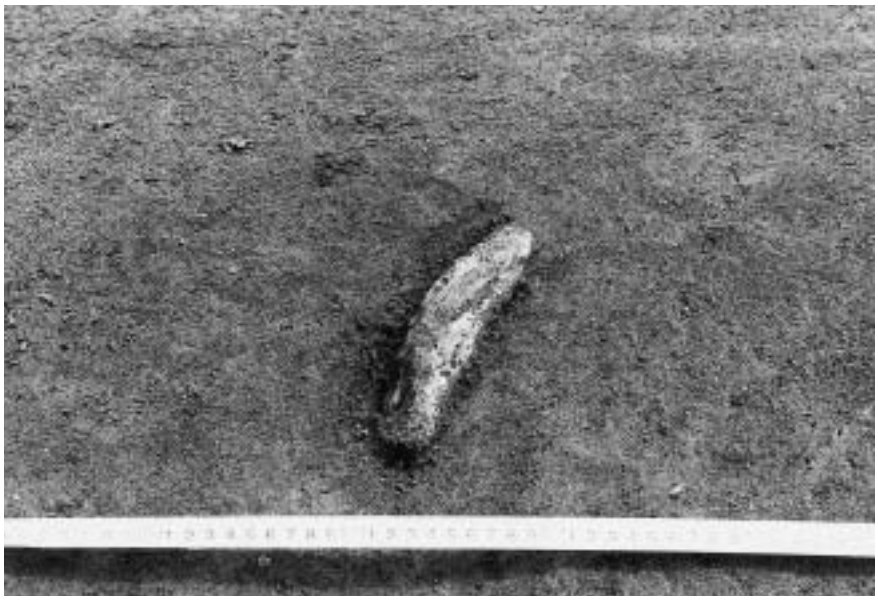
写真(PL)122
調査１区
S074土層断面状況

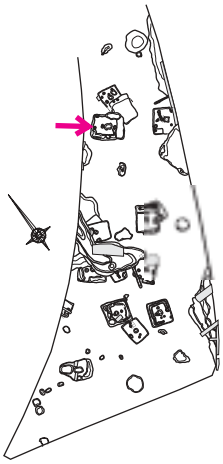


写真(PL)123
調査１区
S074獣骨
出土状況（遠景）



写真(PL)124
調査１区
S074獣骨
出土状況（近景）



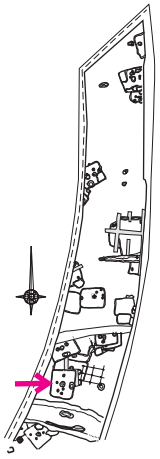


写真(PL)125
調査１区
S074,075検出状況

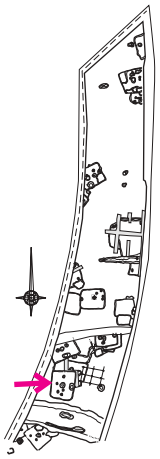
写真(PL)126
調査１区
S075鉄器出土状況

写真(PL)127
調査１区
S075ミニチュア
土器出土状況

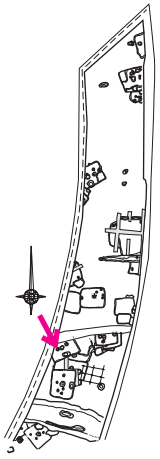
写真(PL)128
調査１区
S075完掘状況



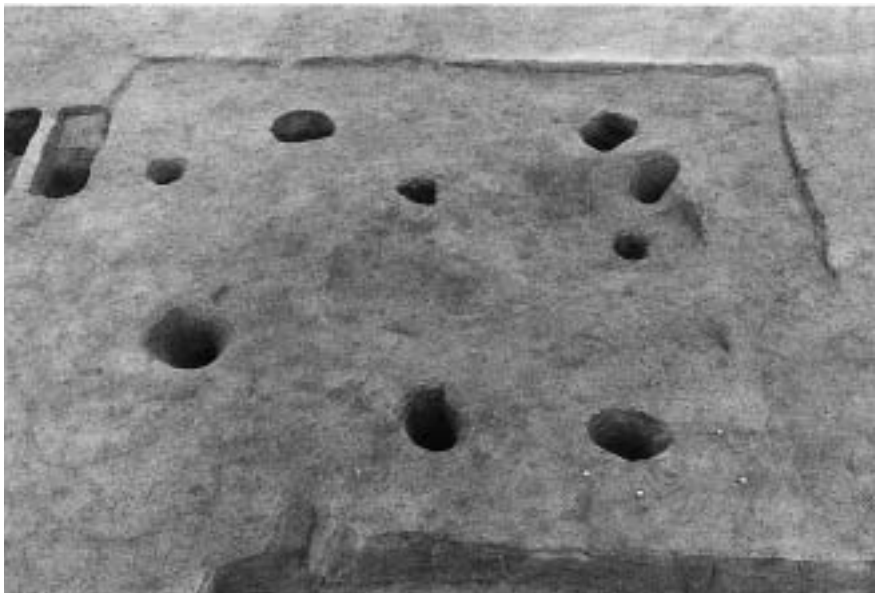
写真(PL)129
調査１区
S076遺物出土状況



写真(PL)130
調査１区
S076完掘状況

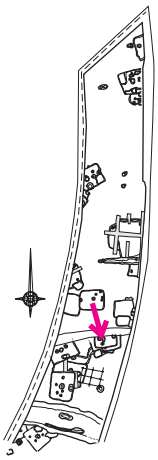


写真(PL)131
調査１区
S077掘削状況

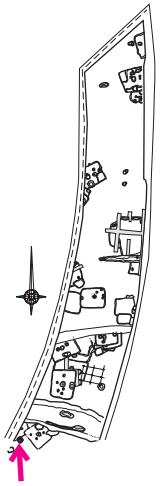


写真(PL)132
調査１区
S078完掘状況

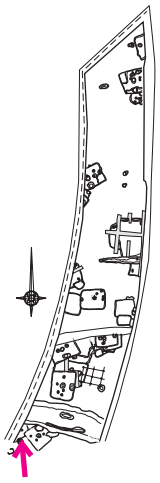
写真(PL)133
調査１区
S078遺物出土状況



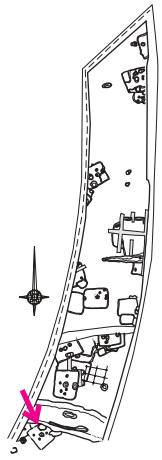
写真(PL)134
調査１区
S081周辺完掘状況



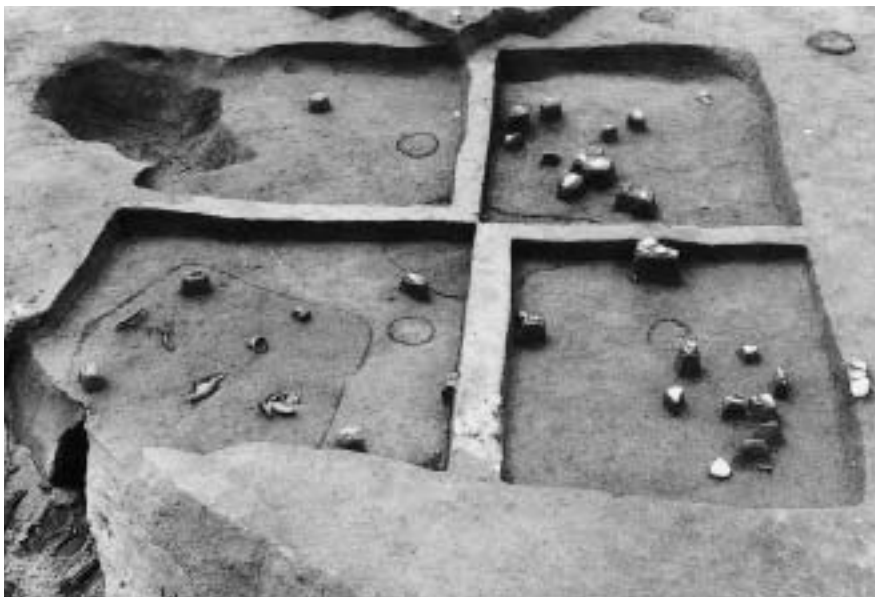
写真(PL)135
調査１区
S082遺物出土状況

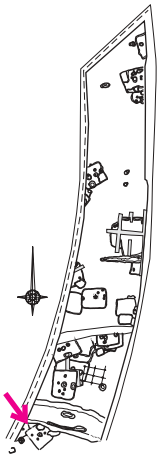


写真(PL)136
調査１区
S082完掘状況

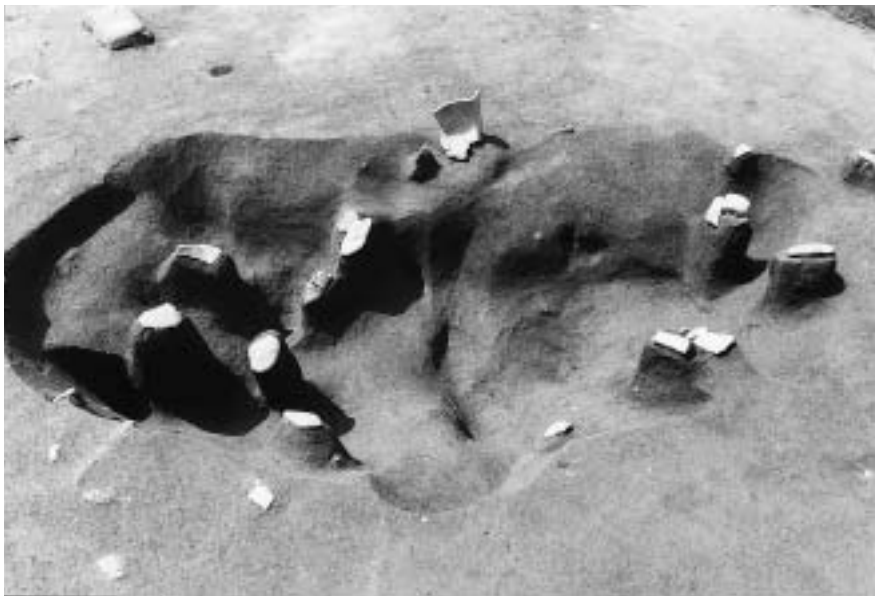


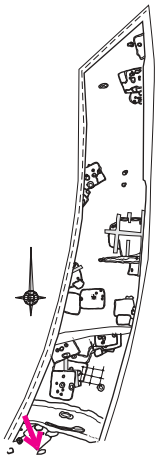
写真(PL)137
調査１区
S083, 109
遺物出土状況



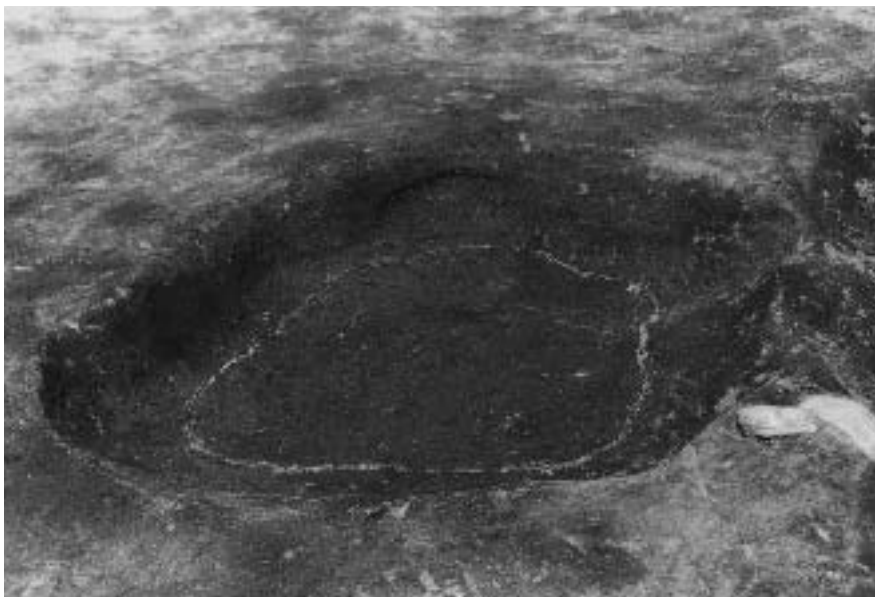


写真(PL)138
調査１区
S083完掘状況

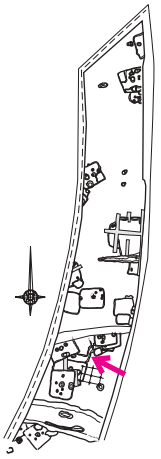




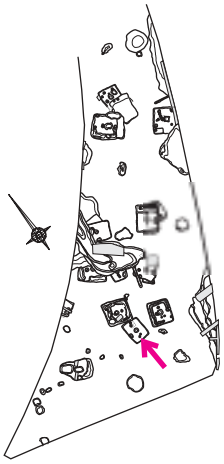
写真(PL)139
調査１区
S085遺物出土状況



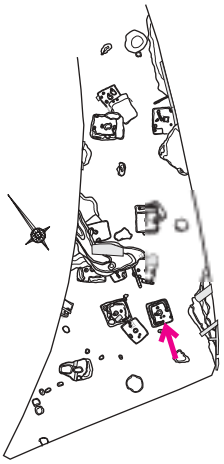
写真(PL)140
調査１区
S086完掘状況



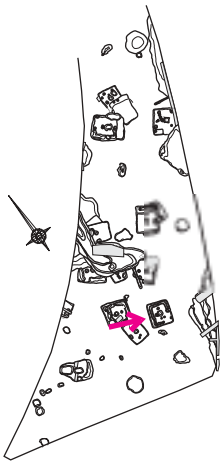
写真(PL)141
調査１区
S088遺物出土状況



写真(PL)142
調査１区
S089遺物出土状況

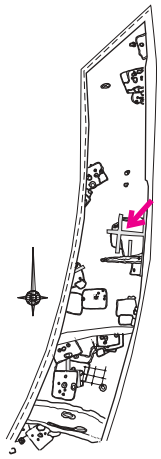


写真(PL)143
調査１区
S090完掘状況

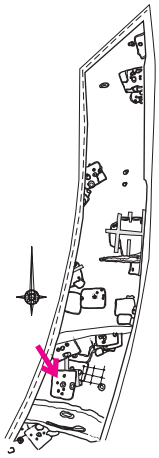


写真(PL)144
調査１区
S090遺物出土状況

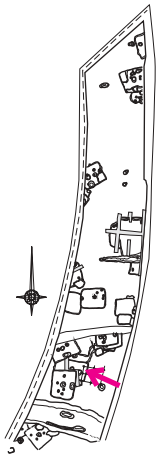
写真(PL)145
調査１区
S090南西土坑内
高杯出土状況



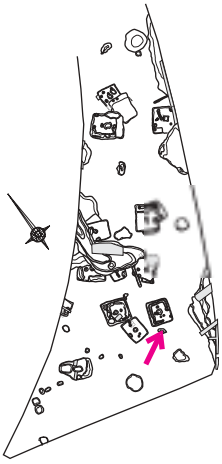
写真(PL)146
調査１区
S106,108切り合い
土層断面



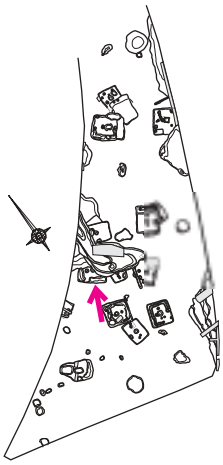
写真(PL)147
調査１区
S076石戈出土状況



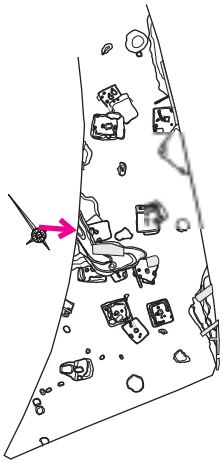
写真(PL)148
調査１区
S092・147
遺物出土状況



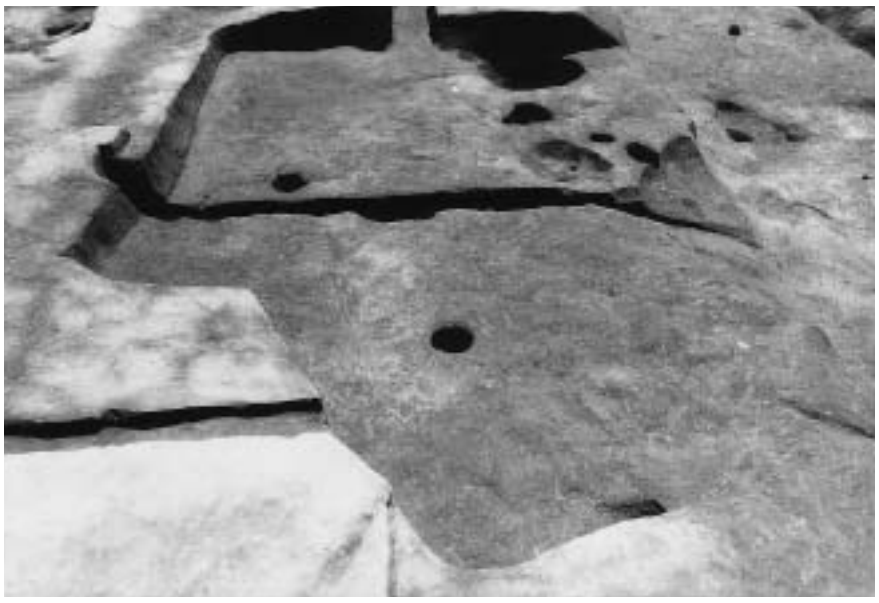
写真(PL)149
調査１区
S093貝層検出状況

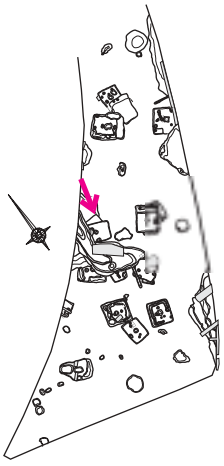


写真(PL)150
調査１区
S094周辺完掘状況

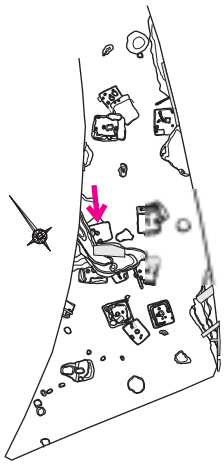


写真(PL)151
調査１区
S095検出状況

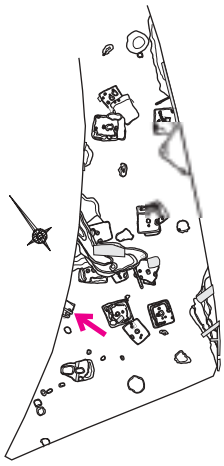




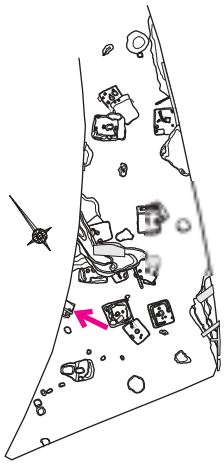
写真(PL)152
調査１区
S095, 142, 146完掘状況



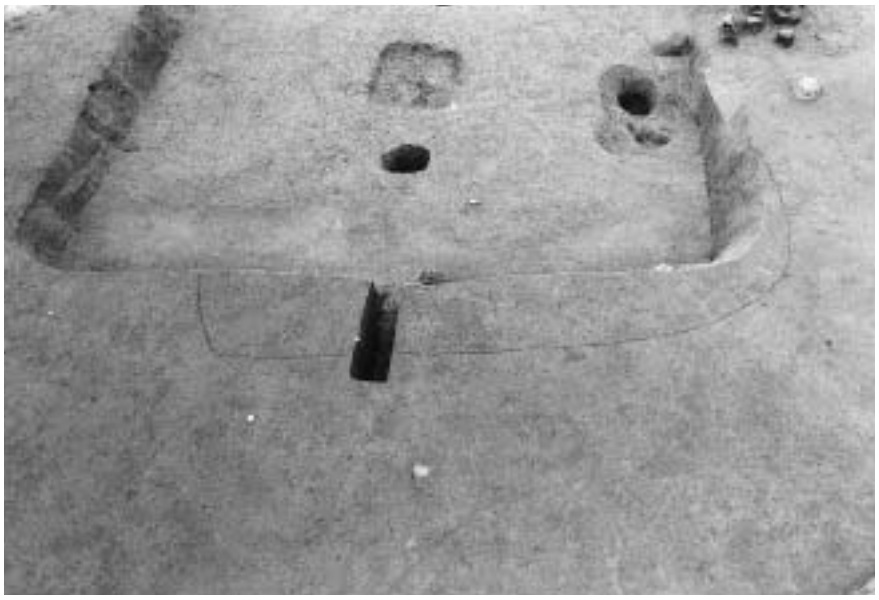
写真(PL)153
調査１区
S095遺物出土状況

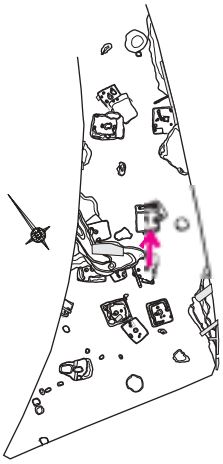


写真(PL)154
調査区１区
S097検出状況

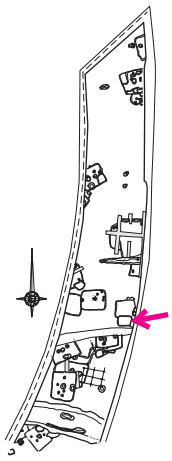


写真(PL)155
調査１区
S097完掘状況

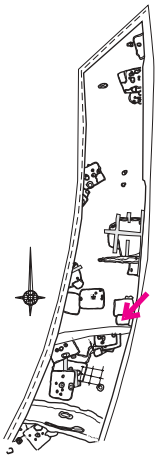




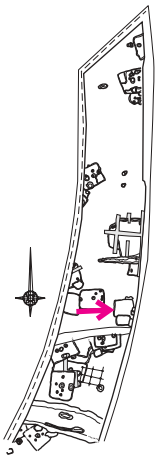
写真(PL)156
調査１区
S098検出状況



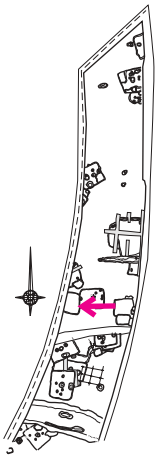
写真(PL)157
調査１区
S099,100遺物出土状況



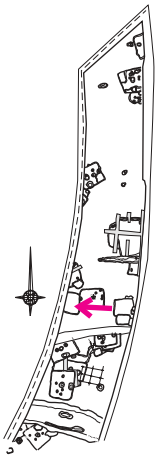
写真(PL)158
調査１区
S099遺物出土状況



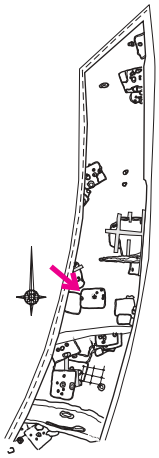
写真(PL)159
調査１区
S099,100完掘状況



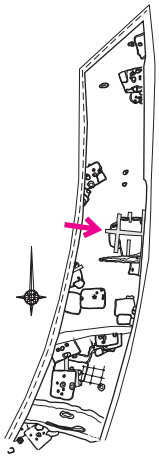
写真(PL)160
調査１区
S101遺物出土状況



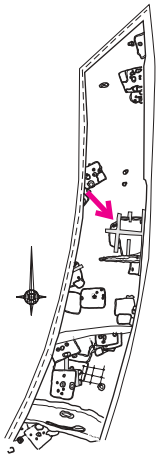
写真(PL)161
調査１区
S101完掘状況



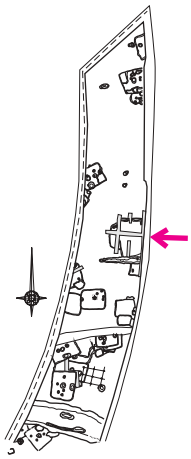
写真(PL)162
調査１区
S105完掘状況



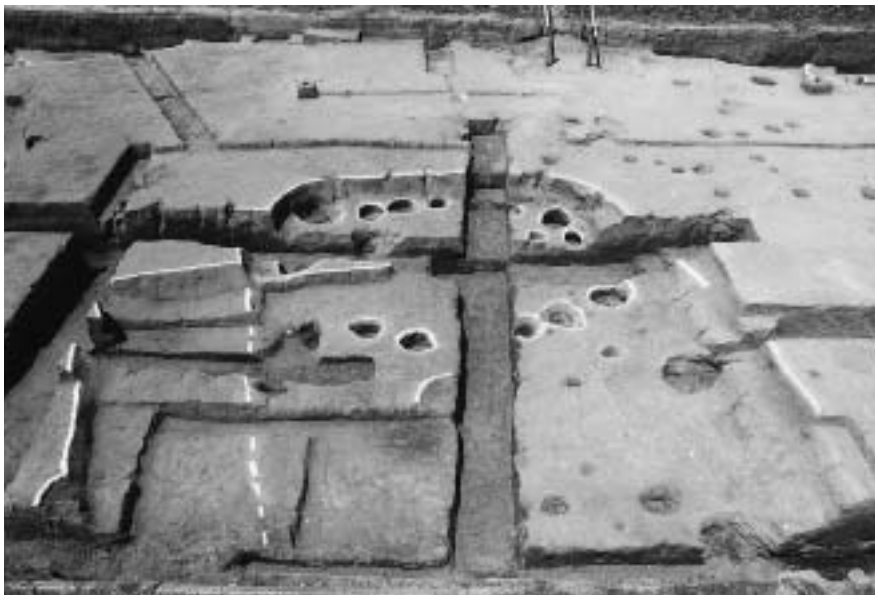
写真(PL)163
調査１区
S106鉄器出土状況
（遠景）

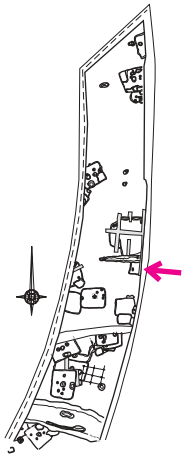


写真(PL)164
調査１区
S106鉄器出土状況
（近景）

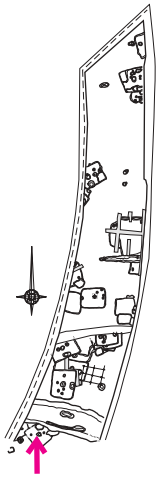


写真(PL)165
調査１区
S106,108完掘状況

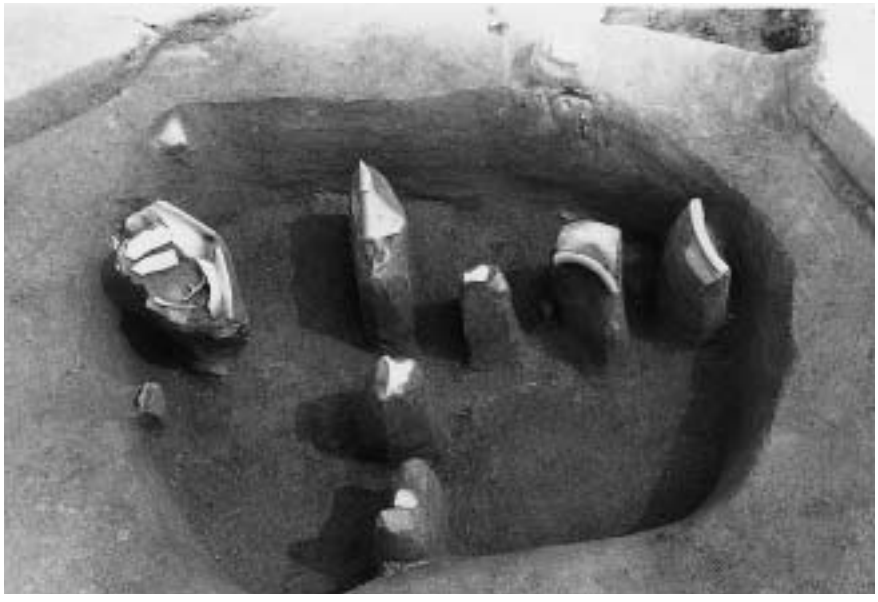


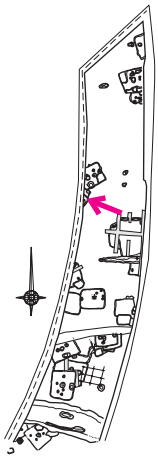


写真(PL)166
調査１区
S107完掘状況

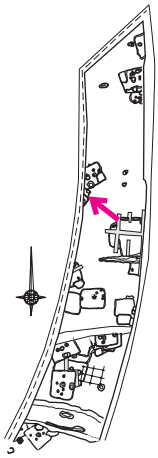


写真(PL)167
調査１区
S109遺物出土状況



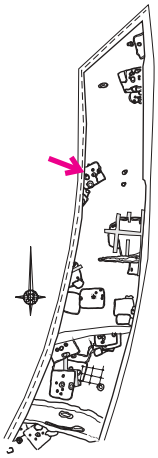


写真(PL)168
調査１区
S110検出状況

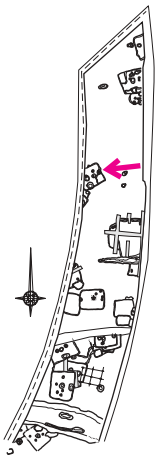


写真(PL)169
調査１区
S110完掘状況

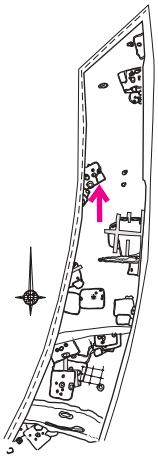
写真(PL)170
調査１区
S117完掘状況



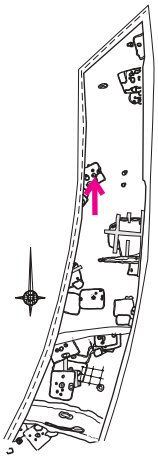
写真(PL)171
調査１区
S118検出状況



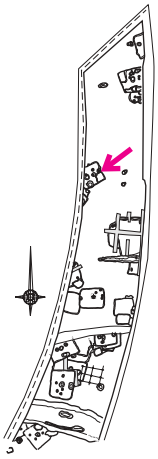
写真(PL)172
調査１区
S118貝殻廃棄状況１



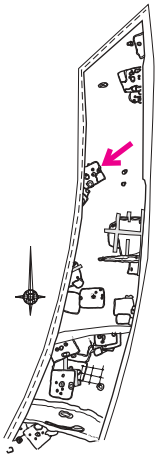
写真(PL)173
調査１区
S118貝殻廃棄状況２



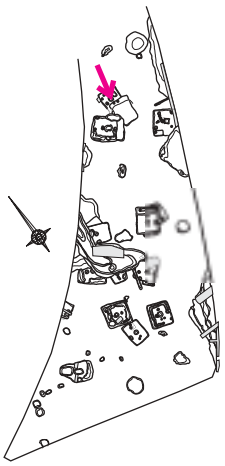
写真(PL)174
調査１区
S118石包丁出土状況



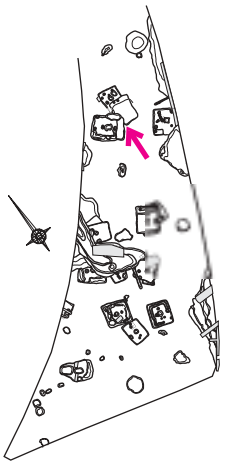
写真(PL)175
調査１区
S118遺物出土状況



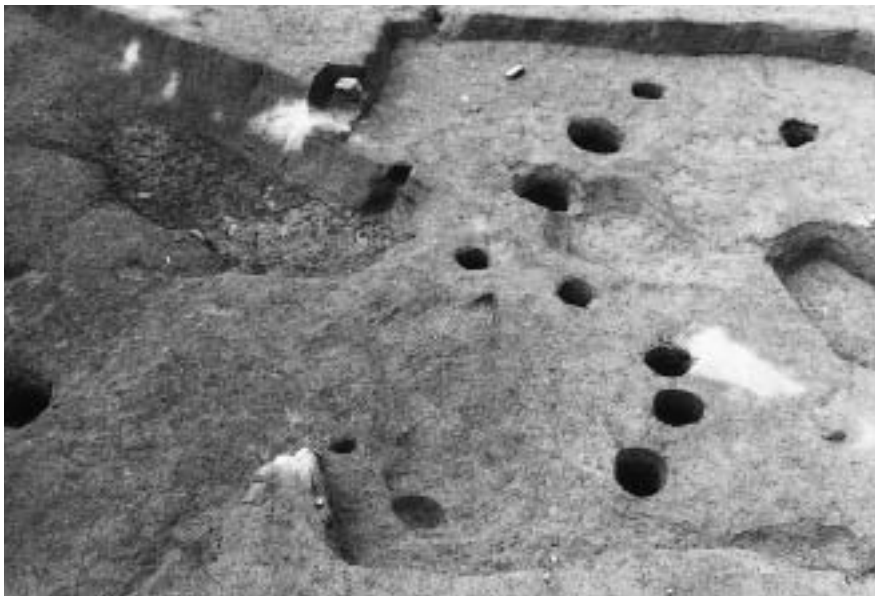
写真(PL)176
調査１区
S118完掘状況

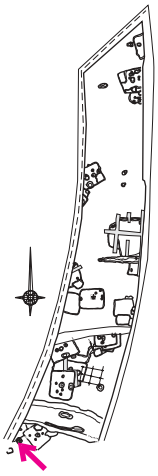


写真(PL)177
調査１区
S119完掘状況

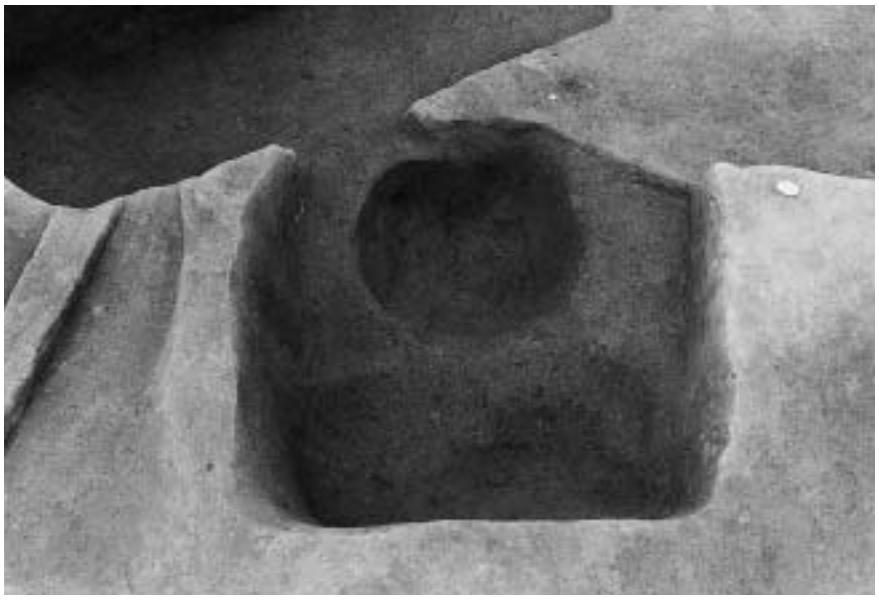


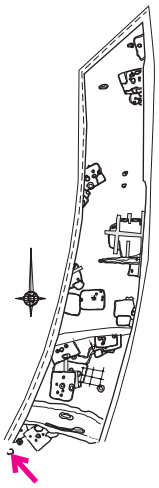
写真(PL)178
調査１区
S120完掘状況



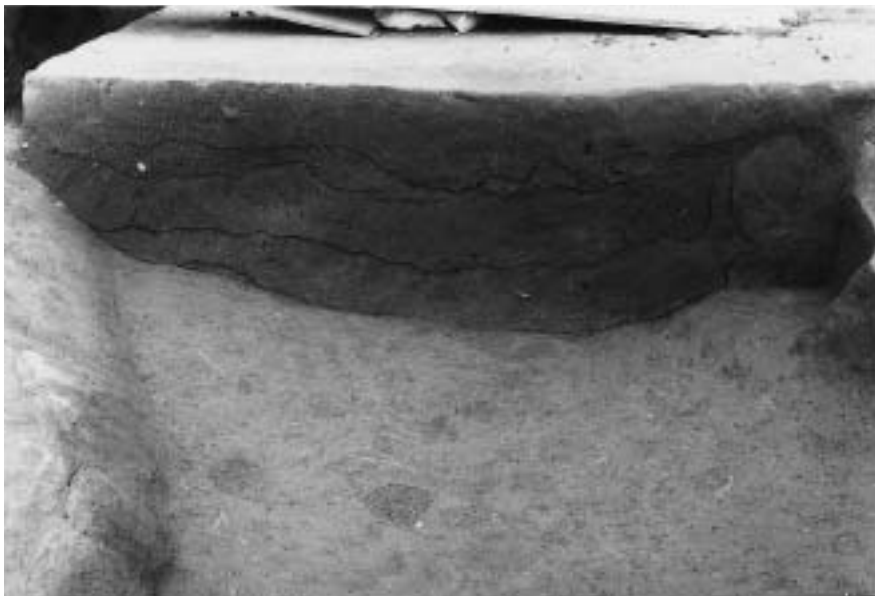


写真(PL)179
調査１区
S121遺物出土状況

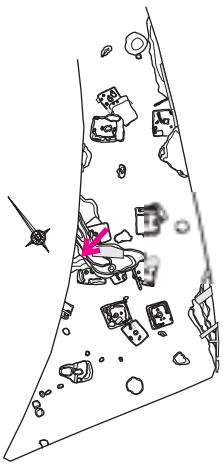




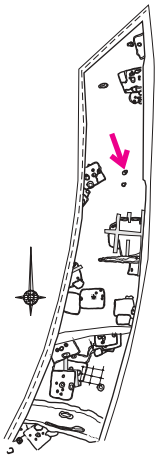
写真(PL)180
調査１区
S121土坑完掘状況



写真(PL)181
調査１区
S122土層断面状況



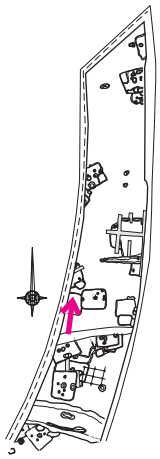
写真(PL)182
調査１区
S122完掘状況



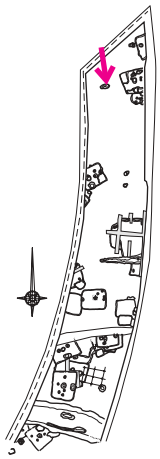
写真(PL)183
調査１区
S124完掘状況

写真(PL)184
調査１区
S125遺物出土状況

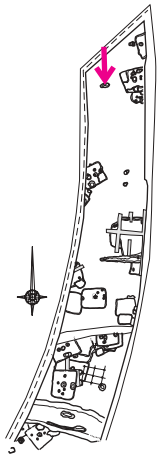
写真(PL)185
調査１区
S125完掘状況



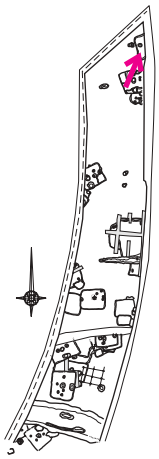
写真(PL)186
調査１区
S126,138完掘状況



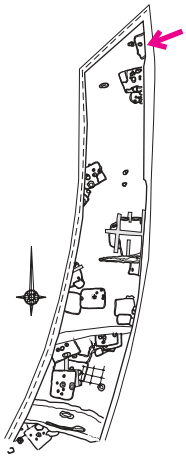
写真(PL)187
調査１区
S128遺物出土状況



写真(PL)188
調査１区
S128完掘状況

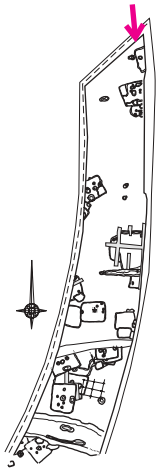


写真(PL)189
調査１区
S129土層断面状況

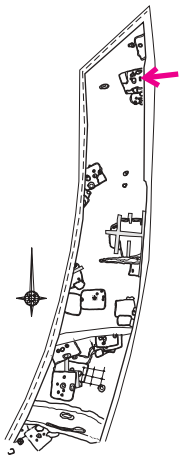


写真(PL)190
調査１区
S129遺物出土状況

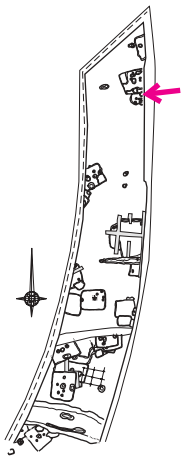
写真(PL)191
調査１区
S129, 130, 131
検出状況



写真(PL)192
調査１区
S129,130,131完掘状況



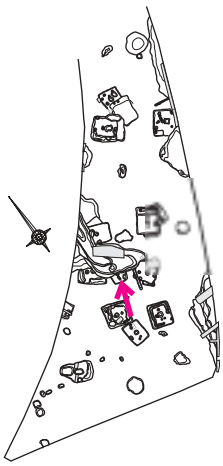
写真(PL)193
調査１区
S130,131遺物出土状況



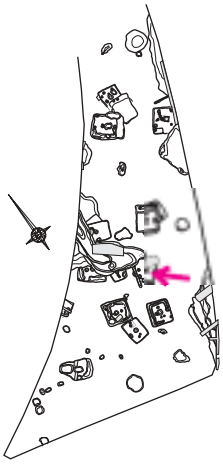
写真(PL)194
調査１区S131完掘状況

写真(PL)195
調査１区
S133,134完掘状況

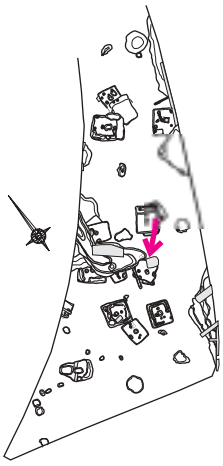
写真(PL)196
調査１区
S135遺物出土状況



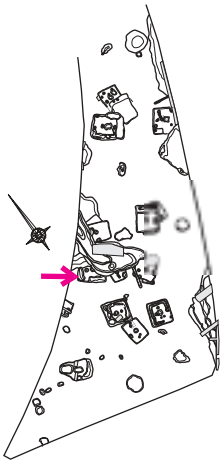
写真(PL)197
調査１区
S135完掘状況



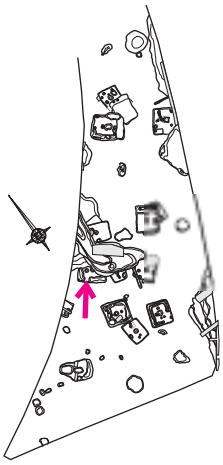
写真(PL)198
調査１区
S136,137完掘状況１



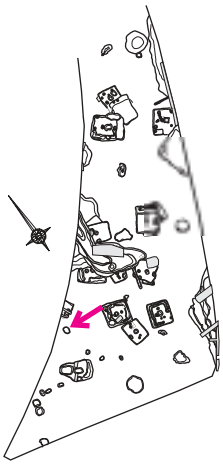
写真(PL)199
調査１区
S136,137完掘状況２



写真(PL)200
調査１区
S139遺物出土状況

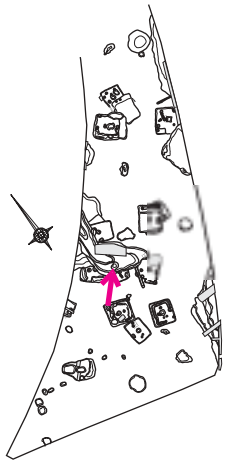


写真(PL)201
調査１区
S139完掘状況

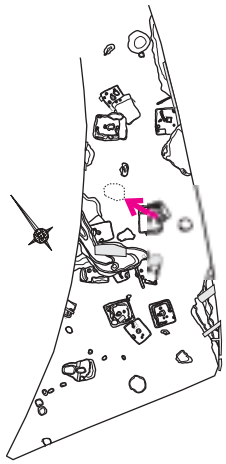


写真(PL)202
調査１区
S140遺物出土状況

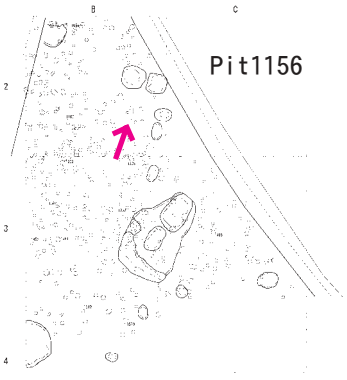
写真(PL)203
調査１区
S140完掘状況



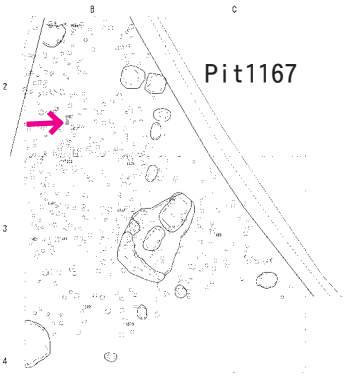
写真(PL)204
調査１区
S094火輪出土状況



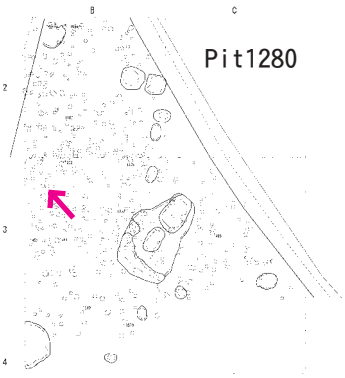
写真(PL)205
調査１区
S091遺物出土状況

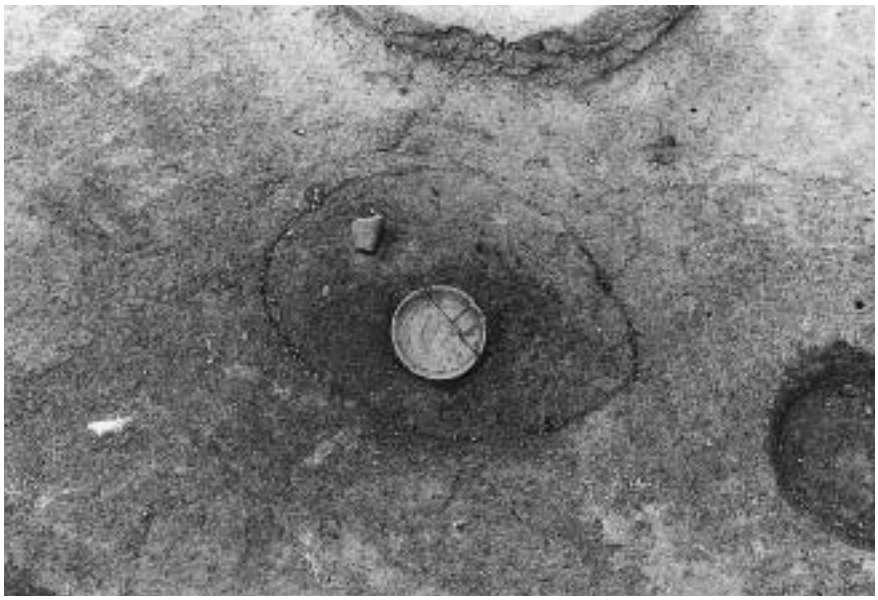


写真(PL)206
調査１区
ピット1156
遺物出土状況



写真(PL)207
調査Ⅰ区
ピット1167
遺物出土状況

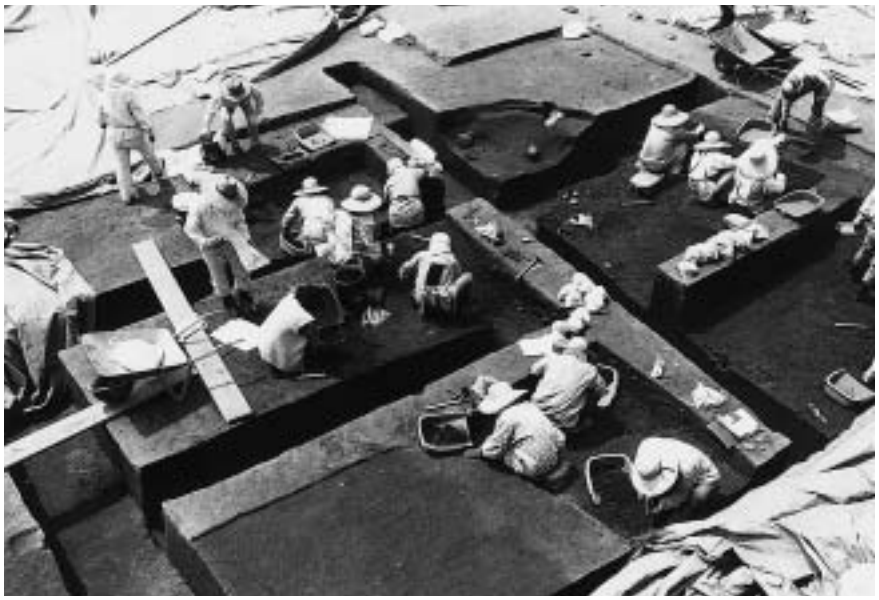




写真(PL)208
調査Ⅰ区
ピット1286検出状況

写真(PL)209
調査風景（調査Ⅱ区）

写真（PL）210
作業風景
（調査１区）



写真（PL）211
作業風景
（SI06）

写真（PL）212
作業風景
（調査１区）

写真（PL）213
月瀬小学校３，４年生
体験発掘風景
（2001年11月13日）

写真（PL）214
月瀬小学校
体験発掘参加者
（2001年11月13日）

写真（PL）215
実測風景
（調査１区）

写真（PL）216
住居内覆土
水洗状況

写真（PL）217
現地説明会の様子
（2002年６月８～９日）

写真（PL）218
作業員さん方
との集合写真

写真（PL）219
日清，日露戦争の
従軍姓名碑

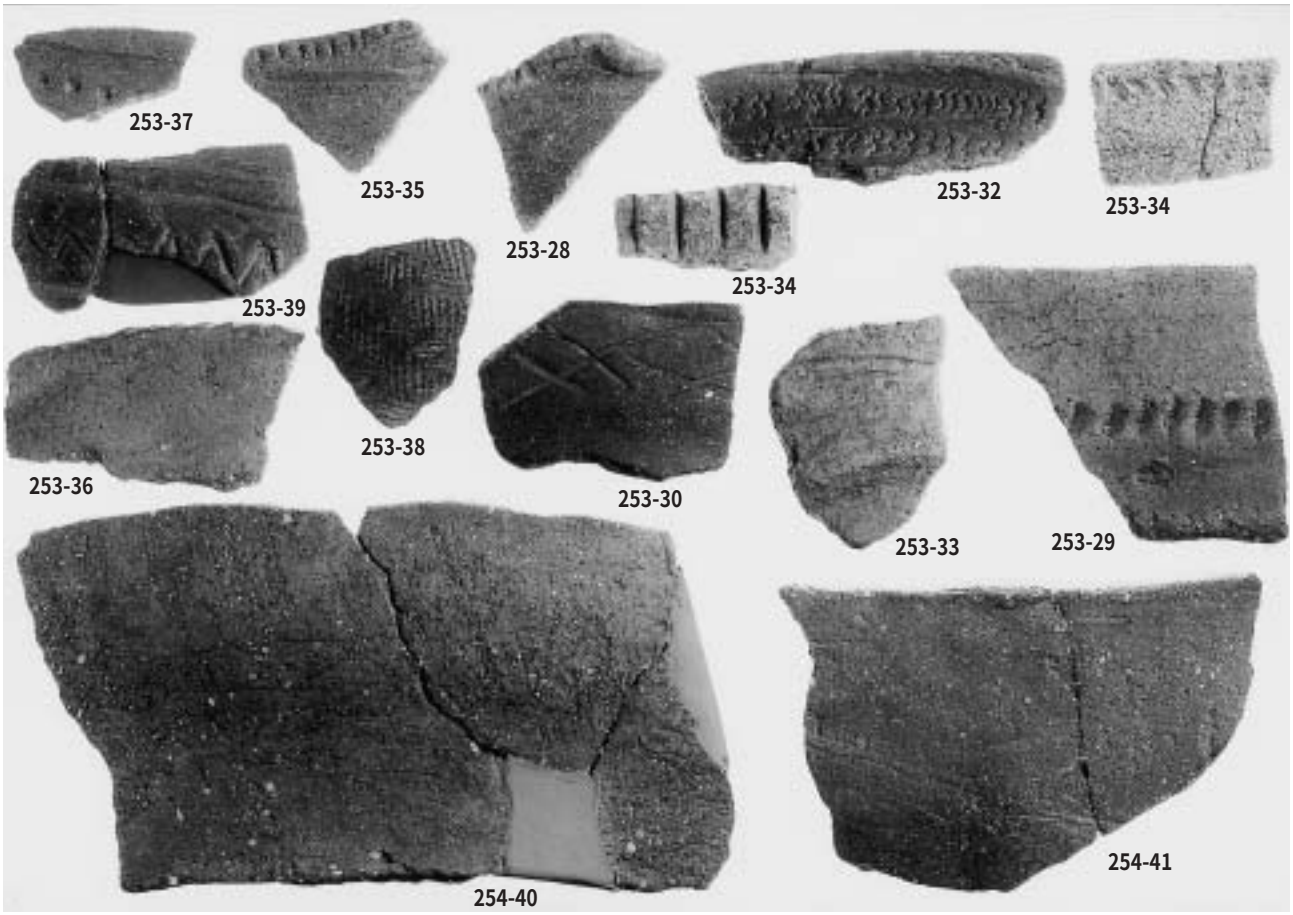
写真（PL）220
凱旋門
（右：A・左：B）

写真（PL）221
凱旋門
（Bの④方向より）

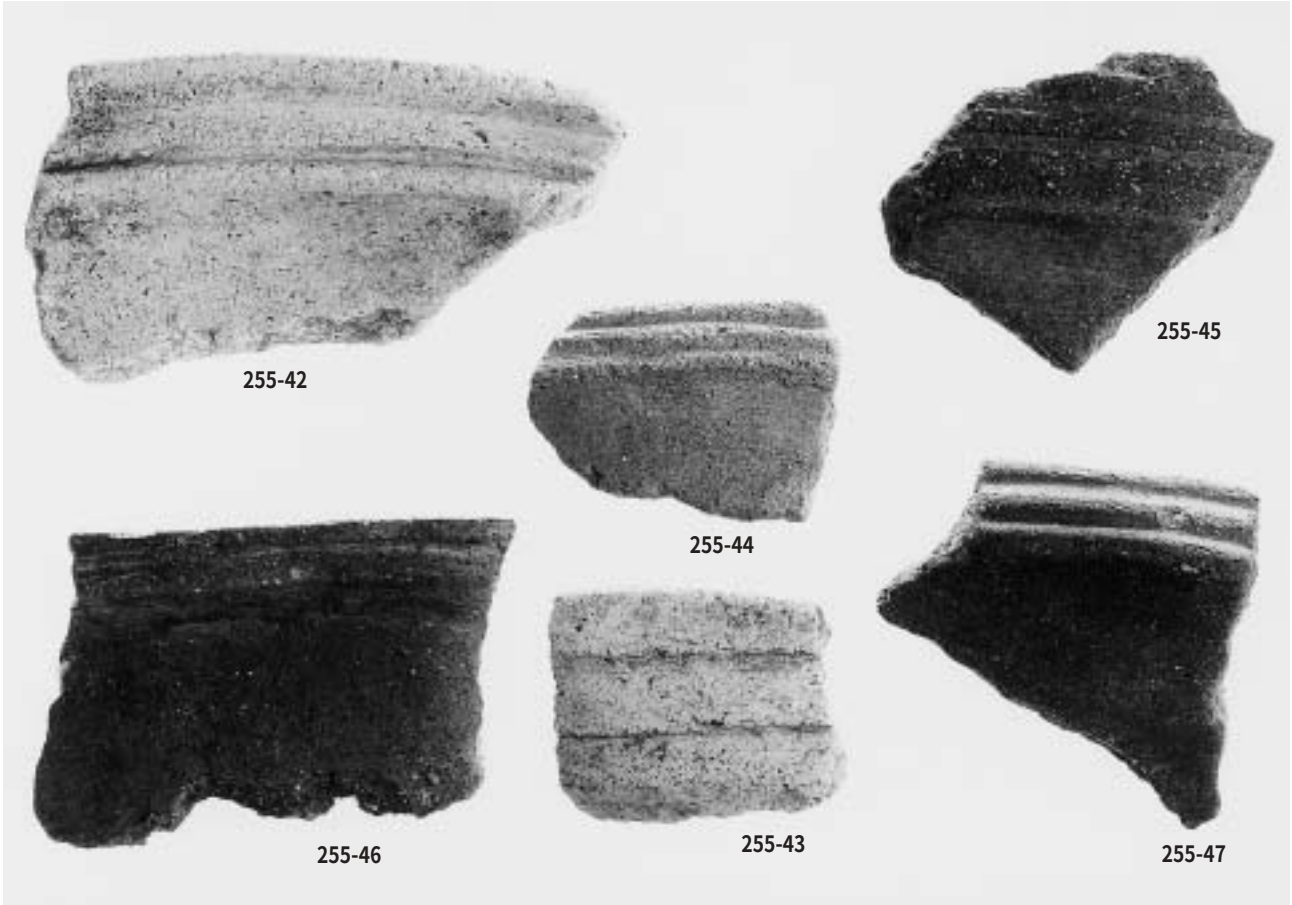
写真（PL）222
凱旋門
（Bの③方向より）

写真（PL）223
凱旋門
（Aの①方向より）

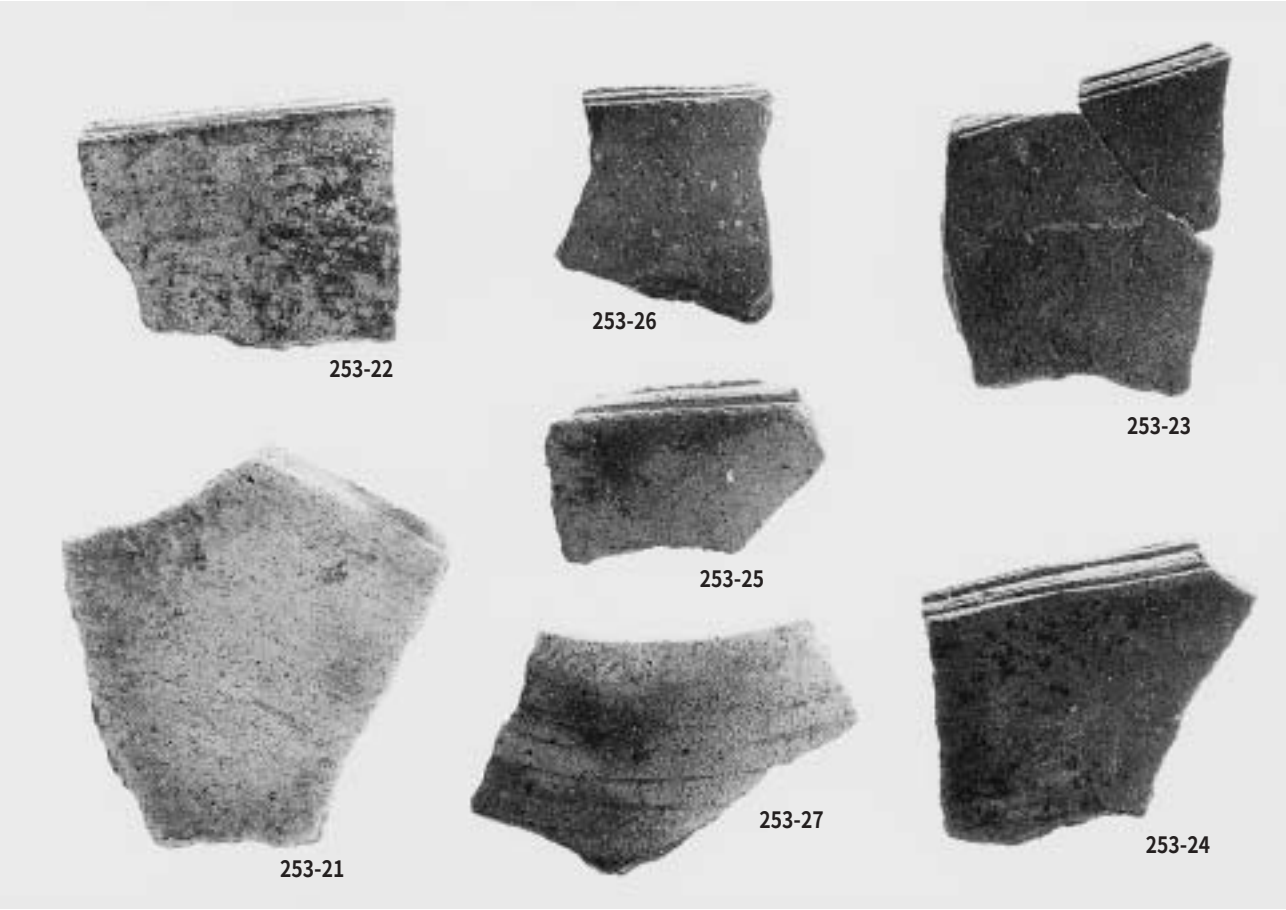
写真（PL）224
凱旋門
（Aの②方向より）



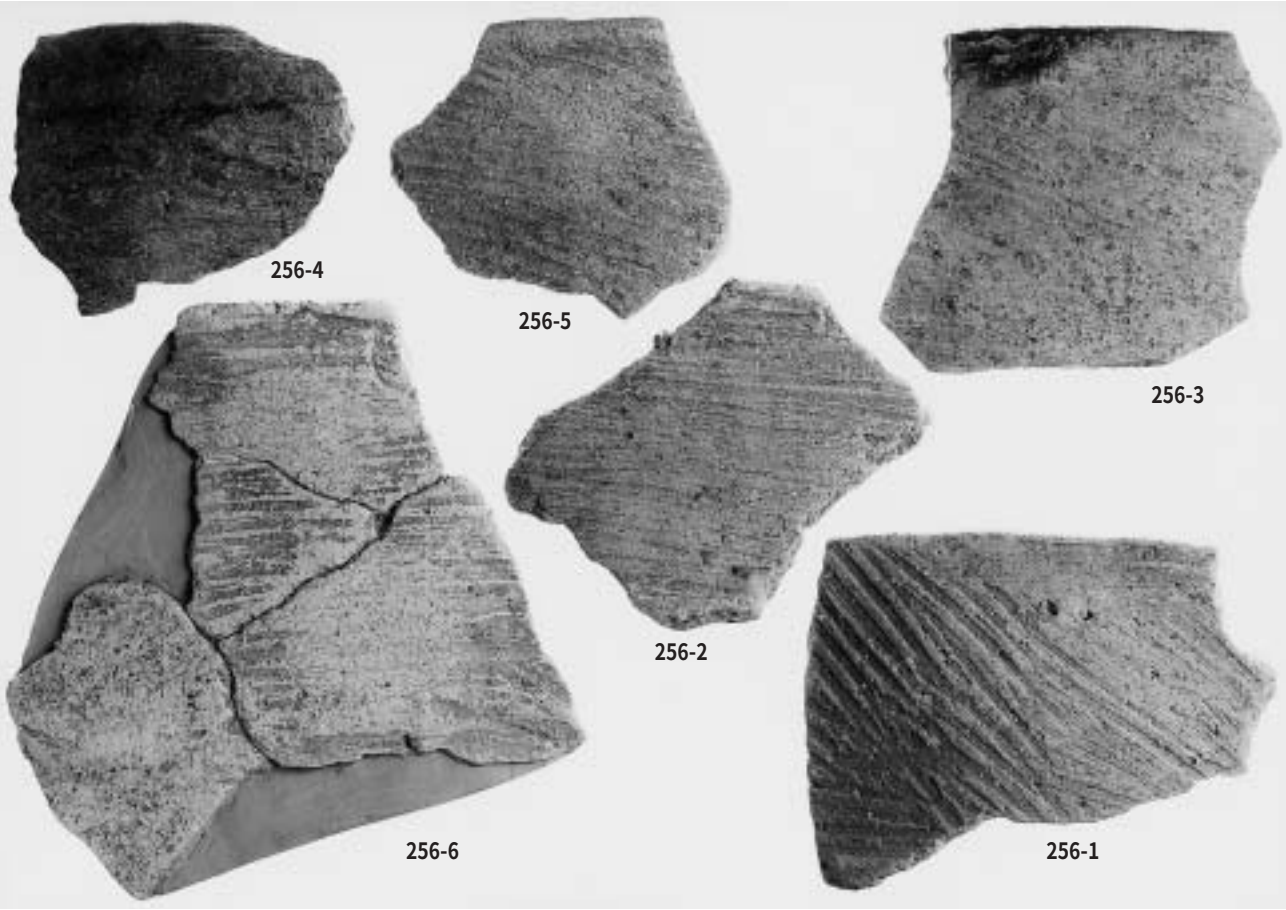
写真（PL）225　縄文土器 1



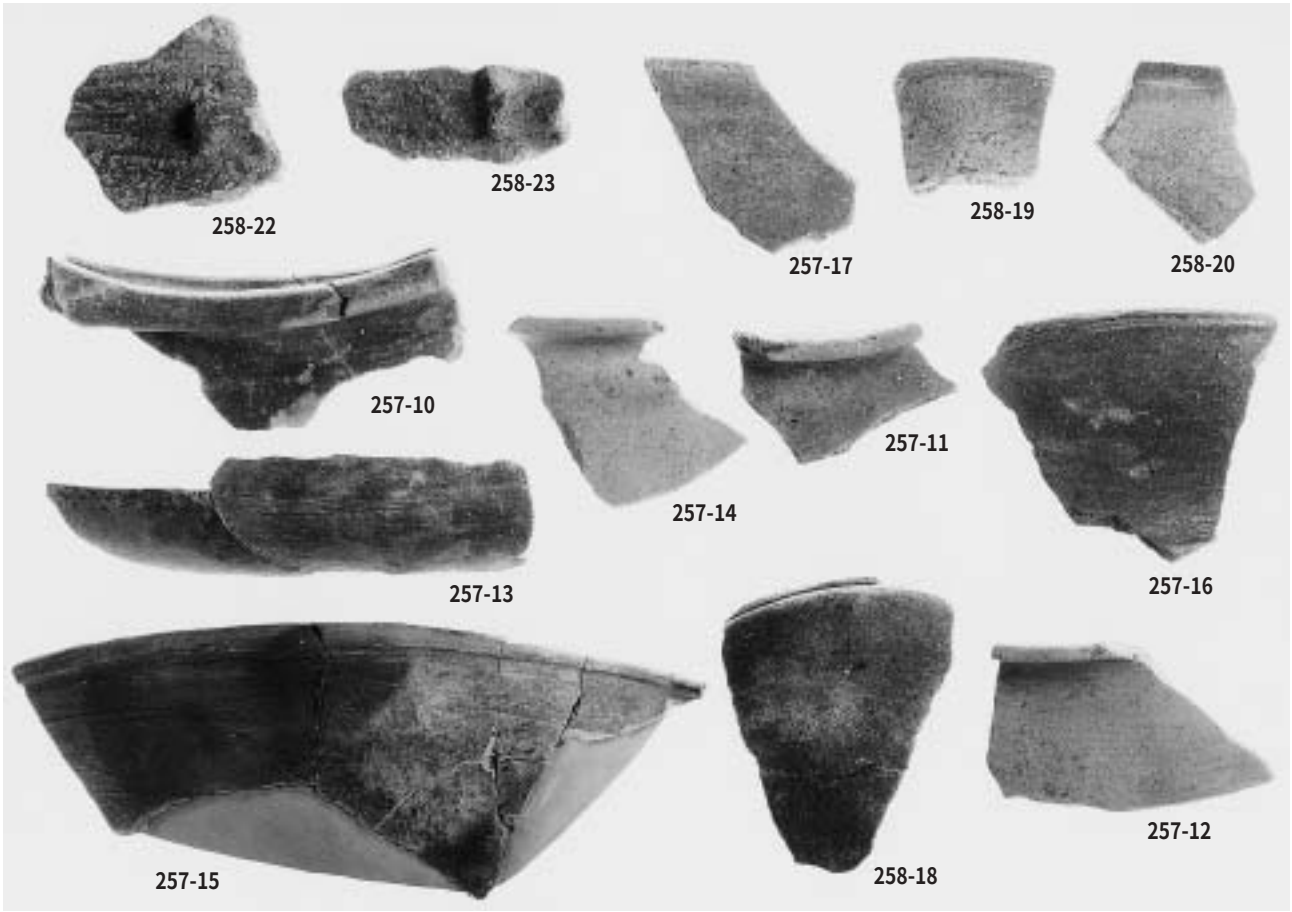
写真（PL）226　縄文土器 2



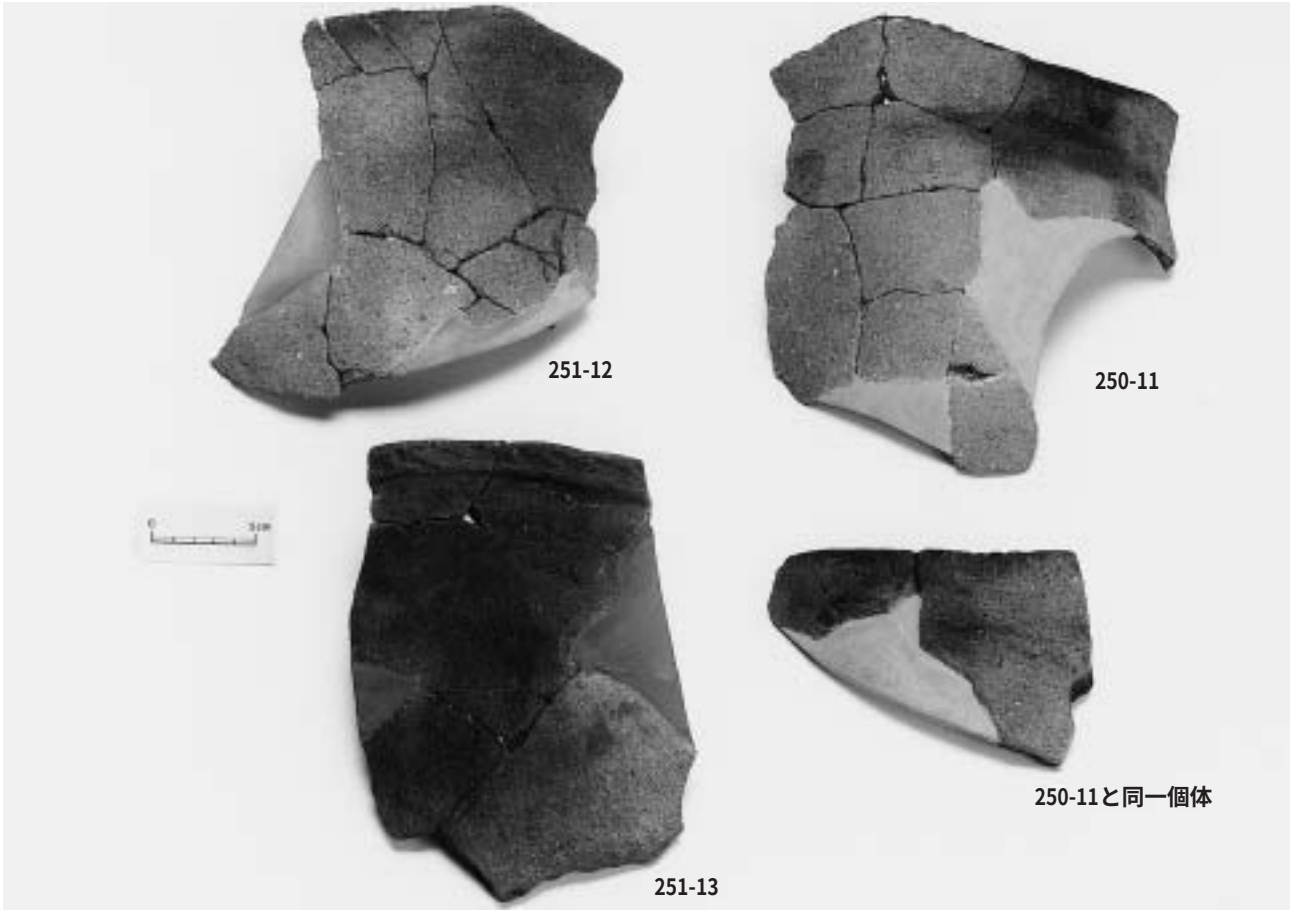
写真（PL）227　縄文土器 3



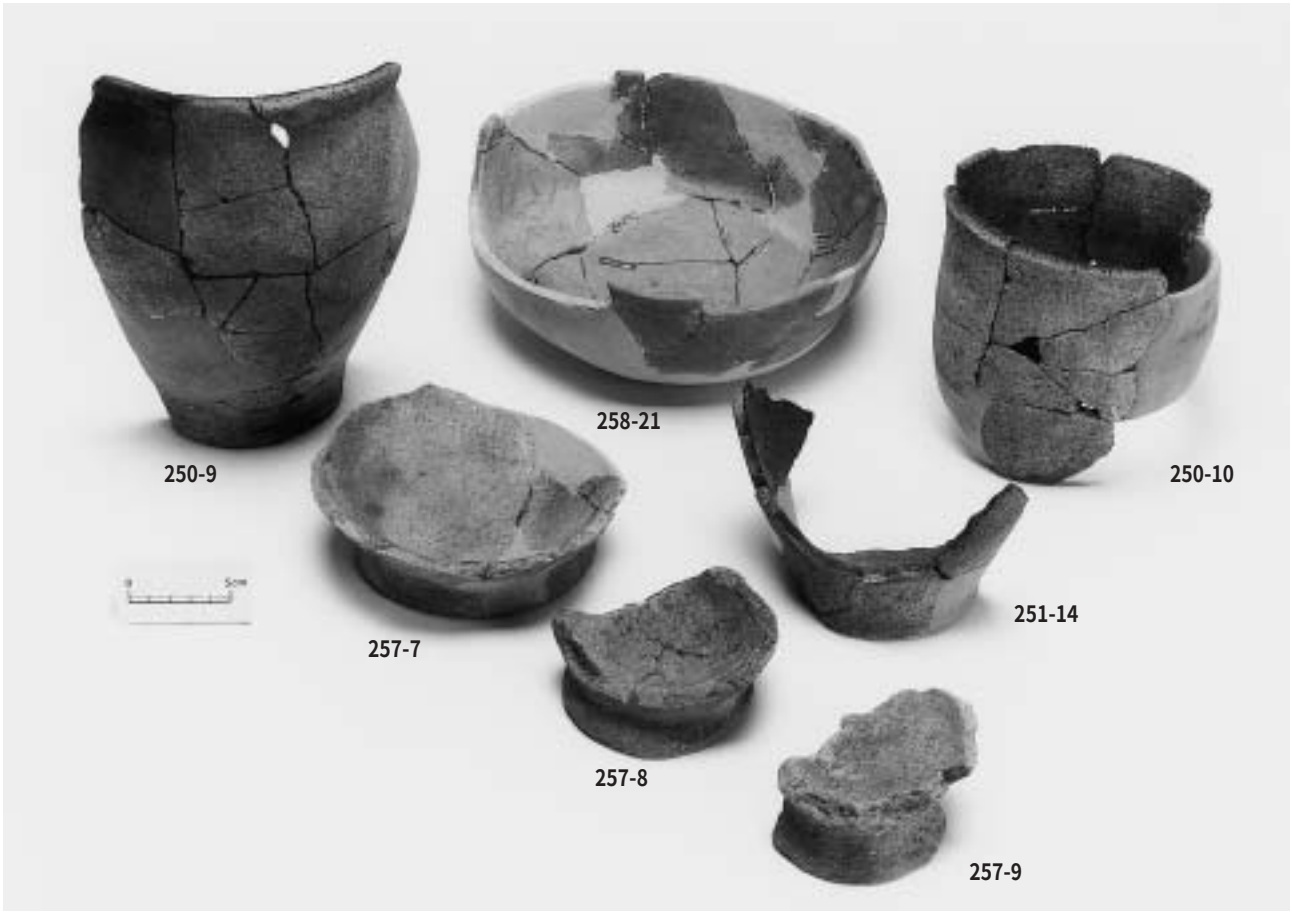
写真（PL）228　縄文土器 4



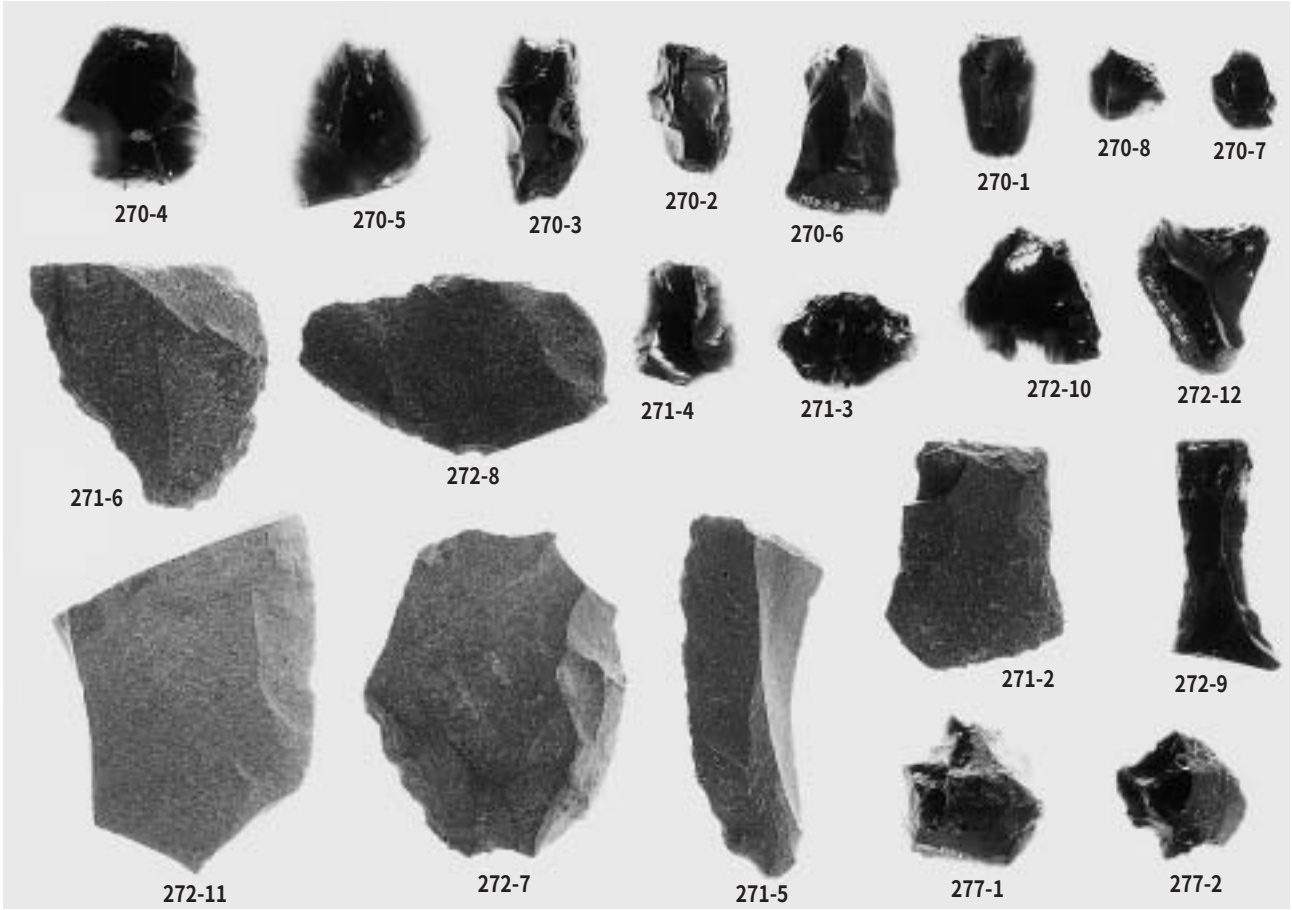
写真（PL）229　縄文土器 5



写真（PL）230　縄文土器 6



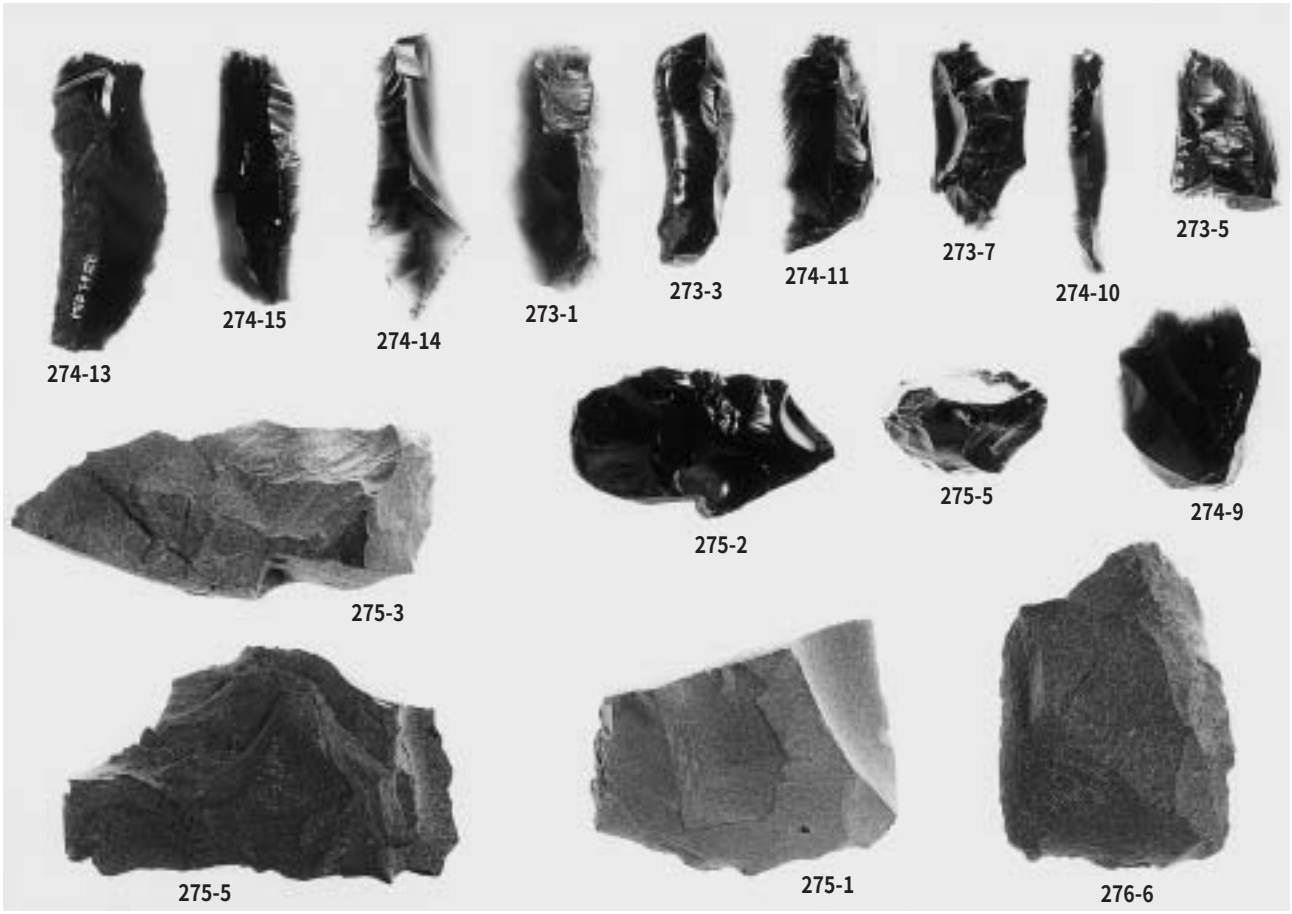
写真（PL）231　縄文土器 7



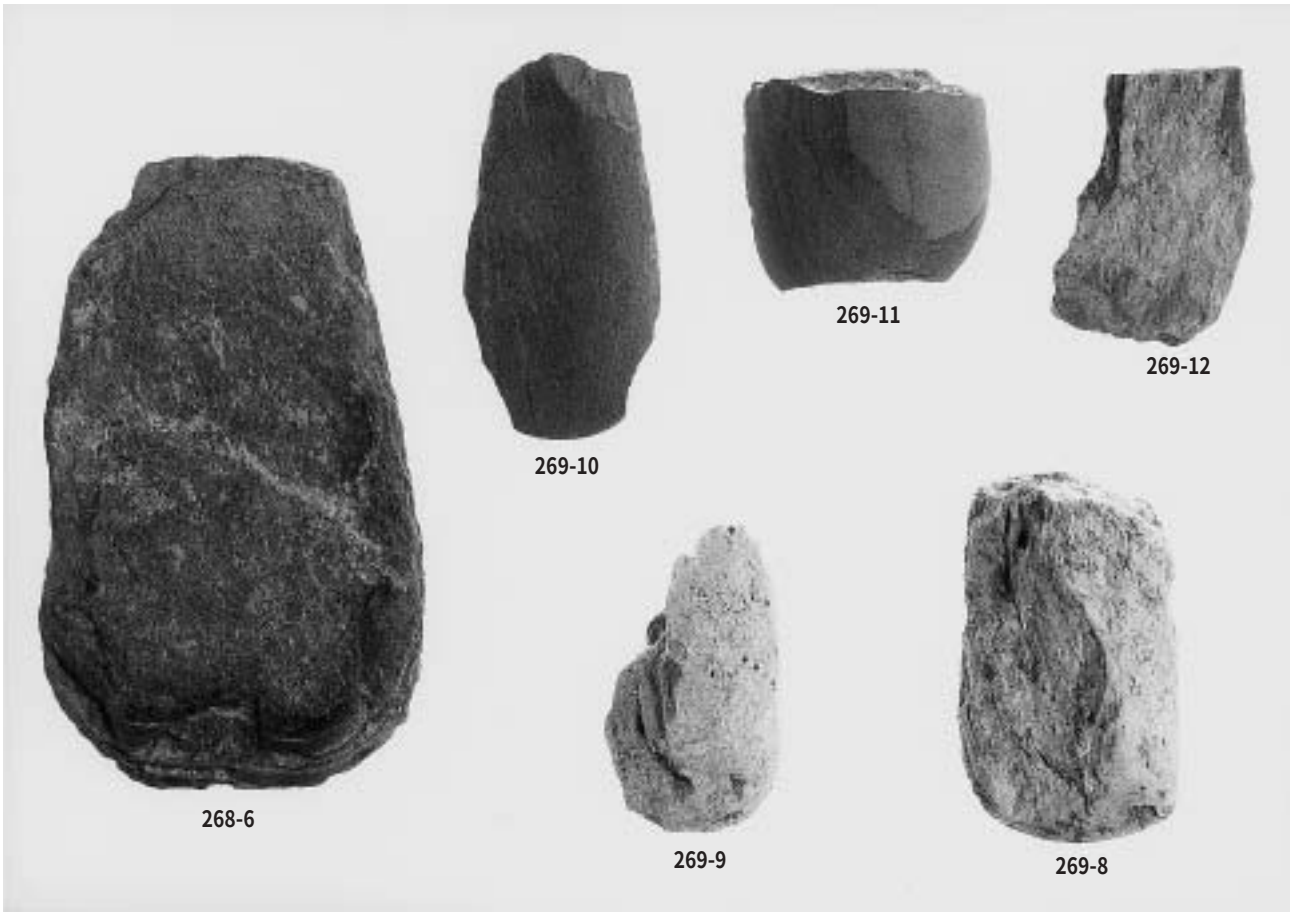
写真（PL）232　縄文時代の石器（楔形石器・スクレイパー・二次加工のある石器）

写真（PL）233　縄文時代の石器（剥片の背面）

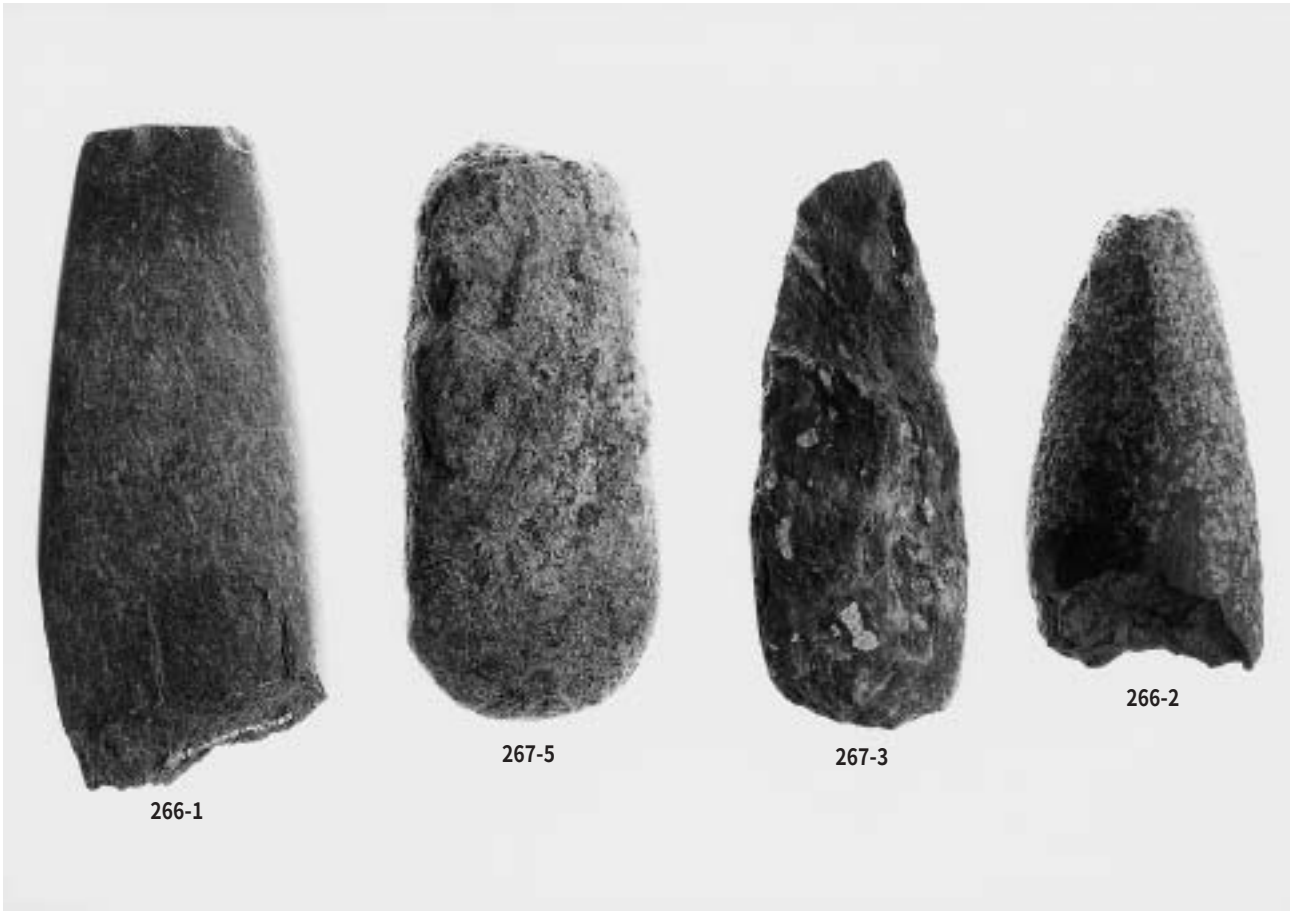
写真（PL）234　縄文時代の石器（剥片の腹面）



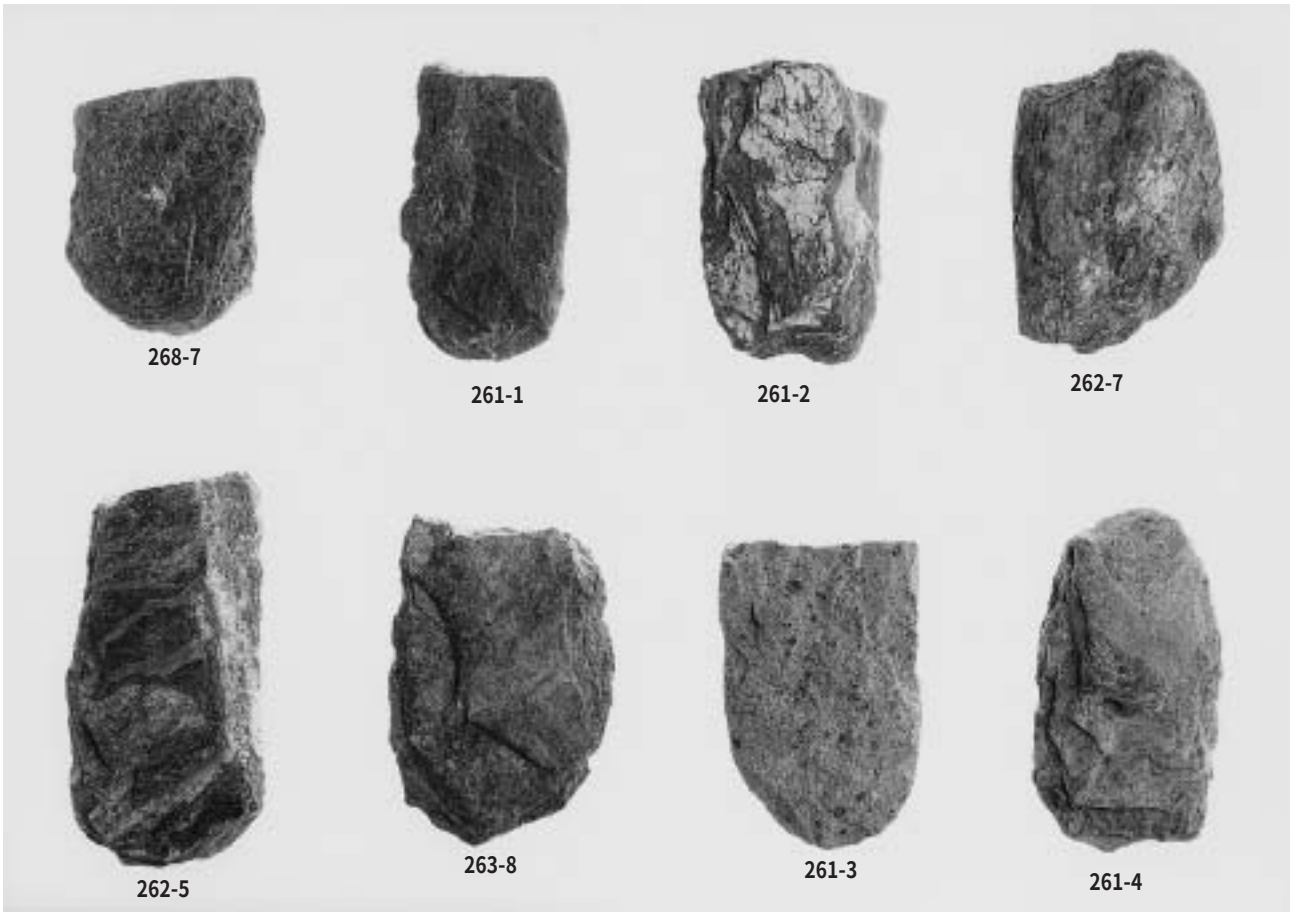
写真（PL）235　縄文時代の石器（剥片・石核）



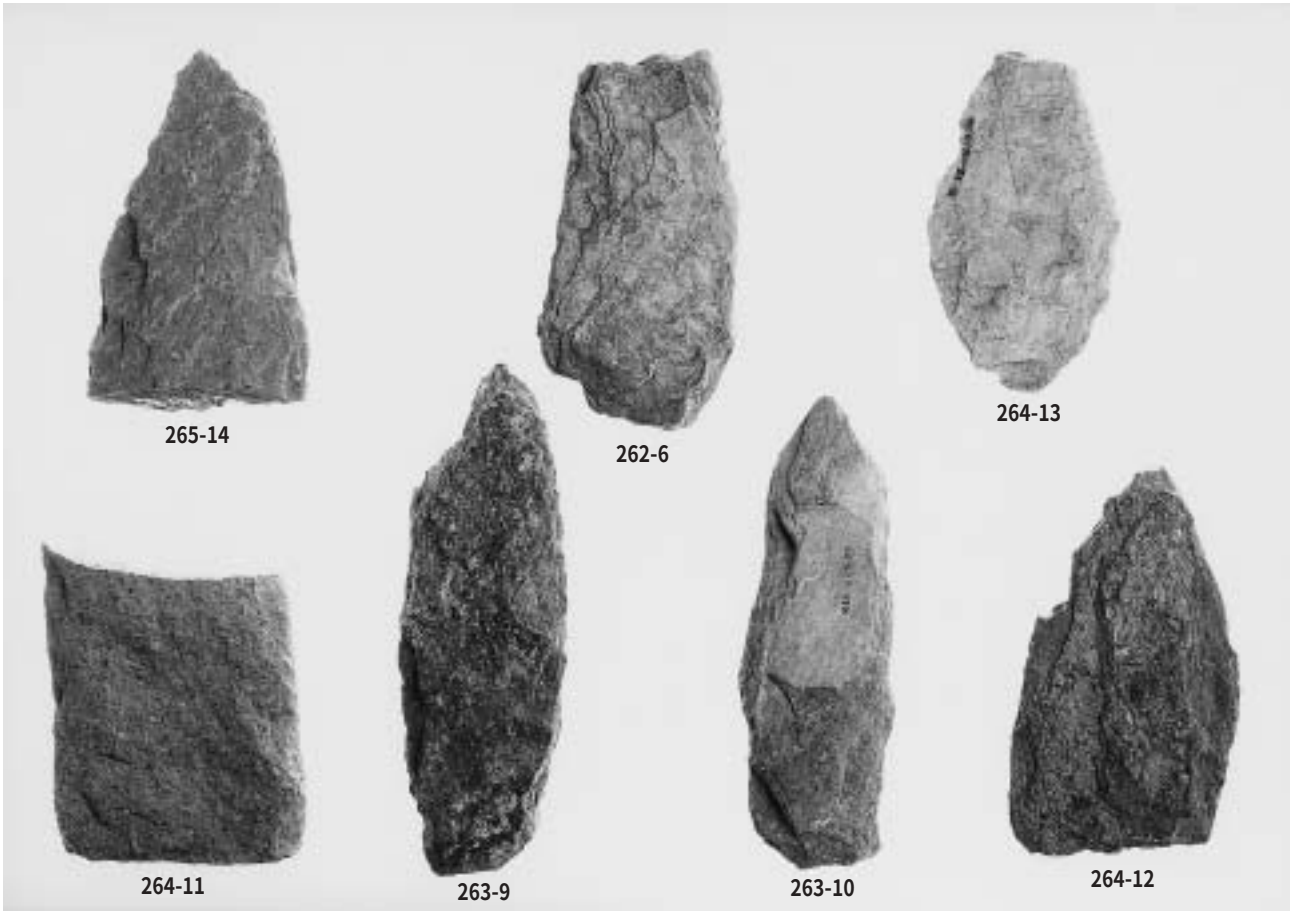
写真（PL）236　縄文時代の石器（磨製石斧１）



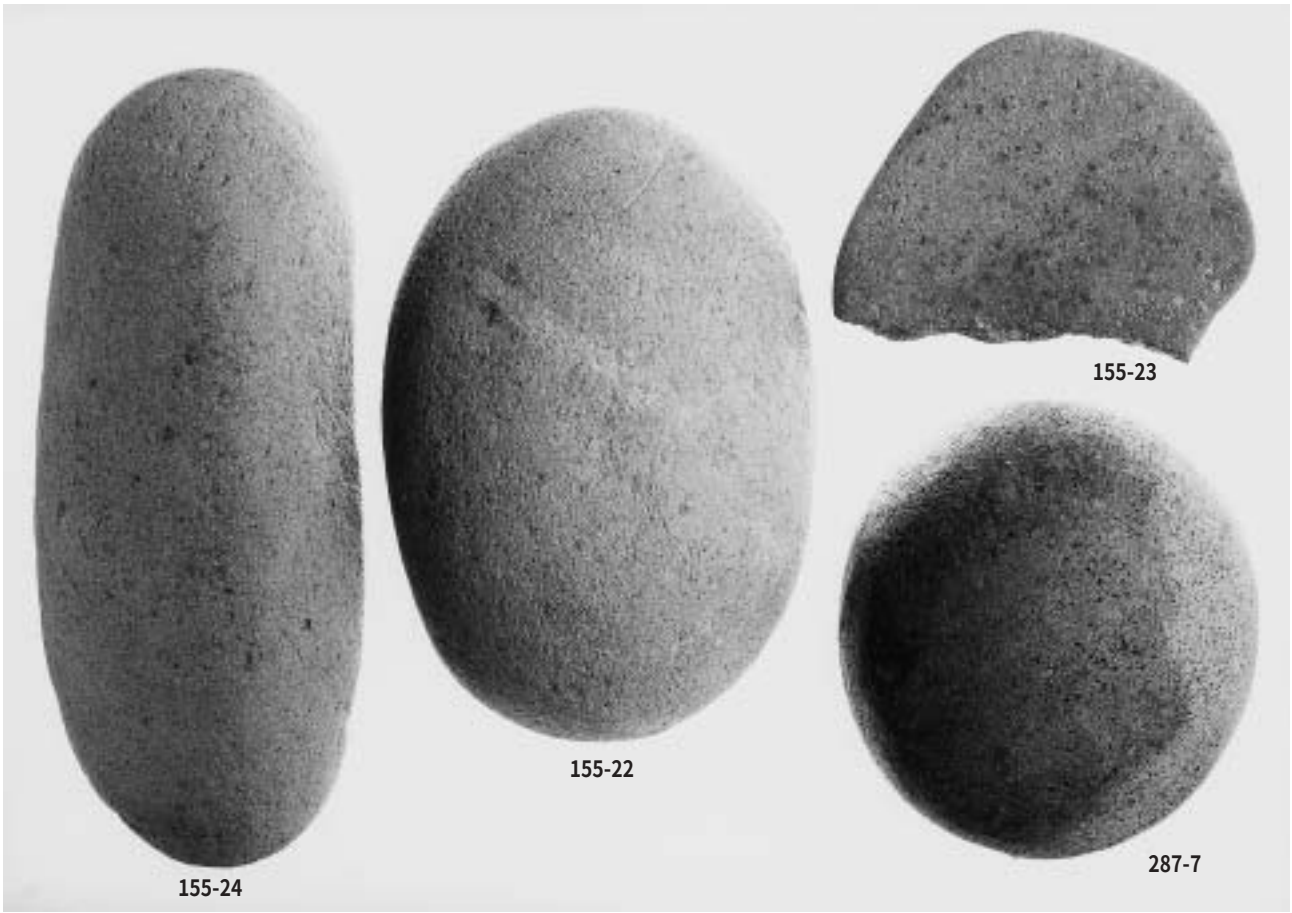
写真（PL）237　縄文時代の石器（磨製石斧２）



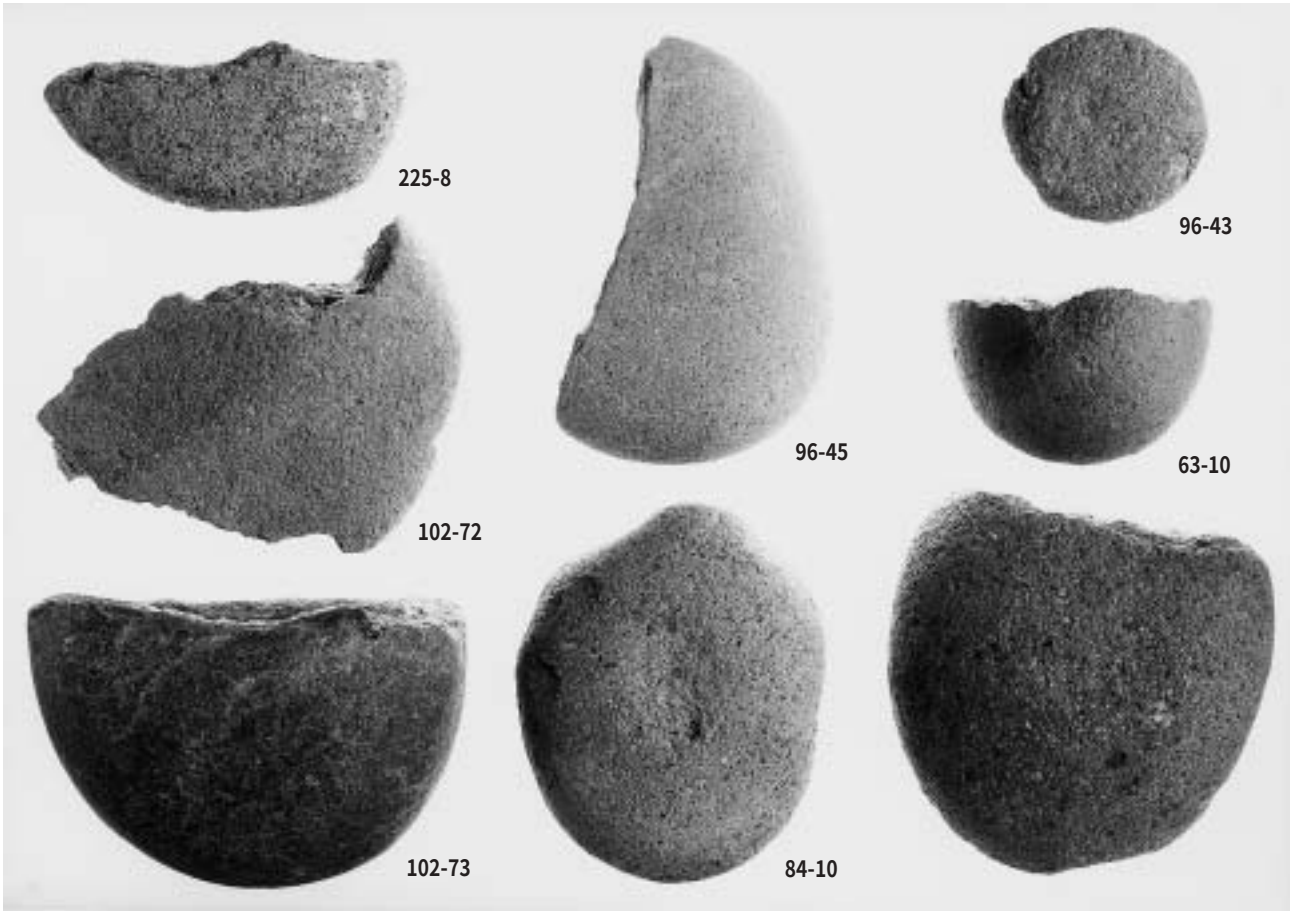
写真（PL）238　縄文時代の石器（打製石斧１）



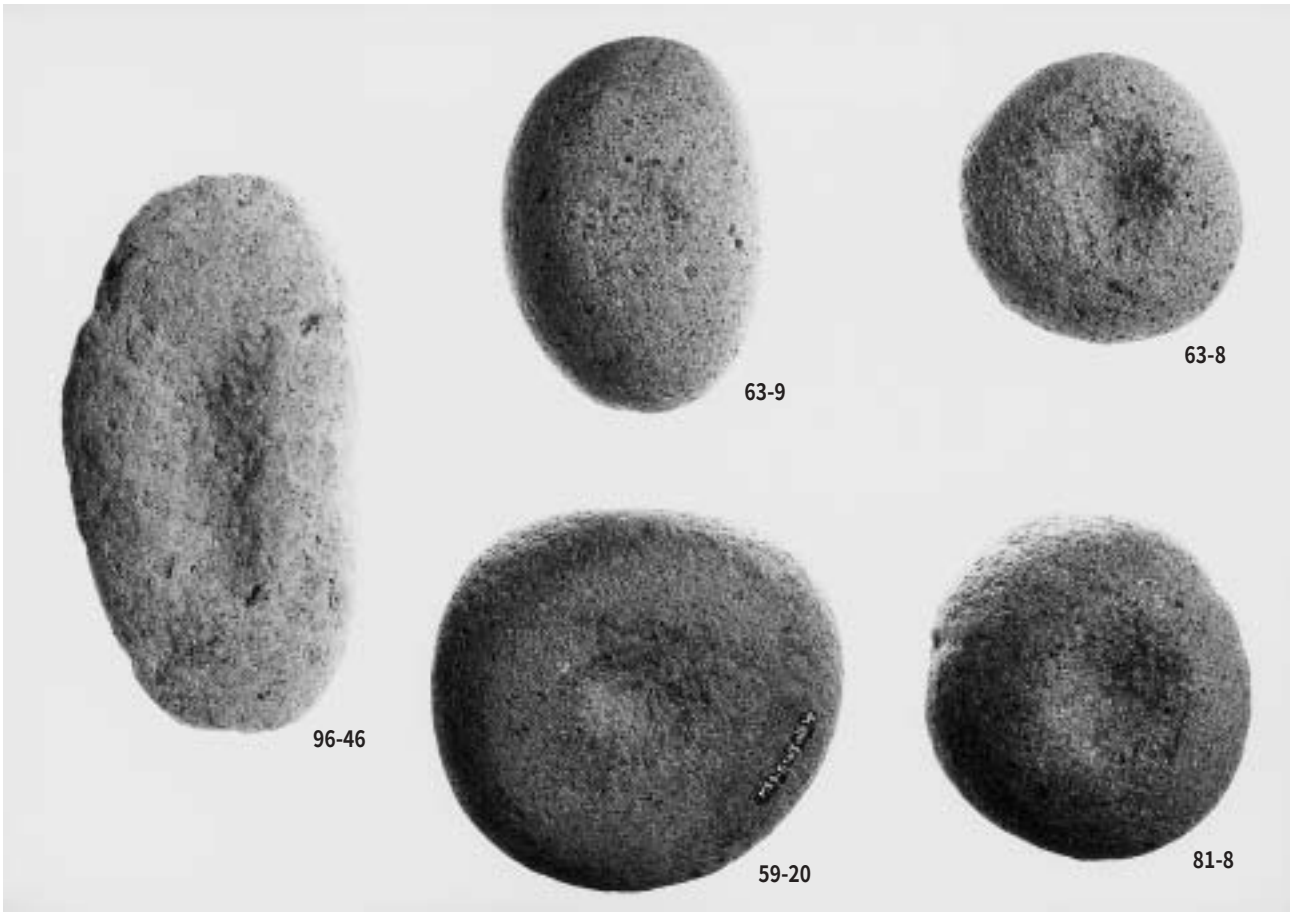
写真（PL）239　縄文時代の石器（打製石斧２）



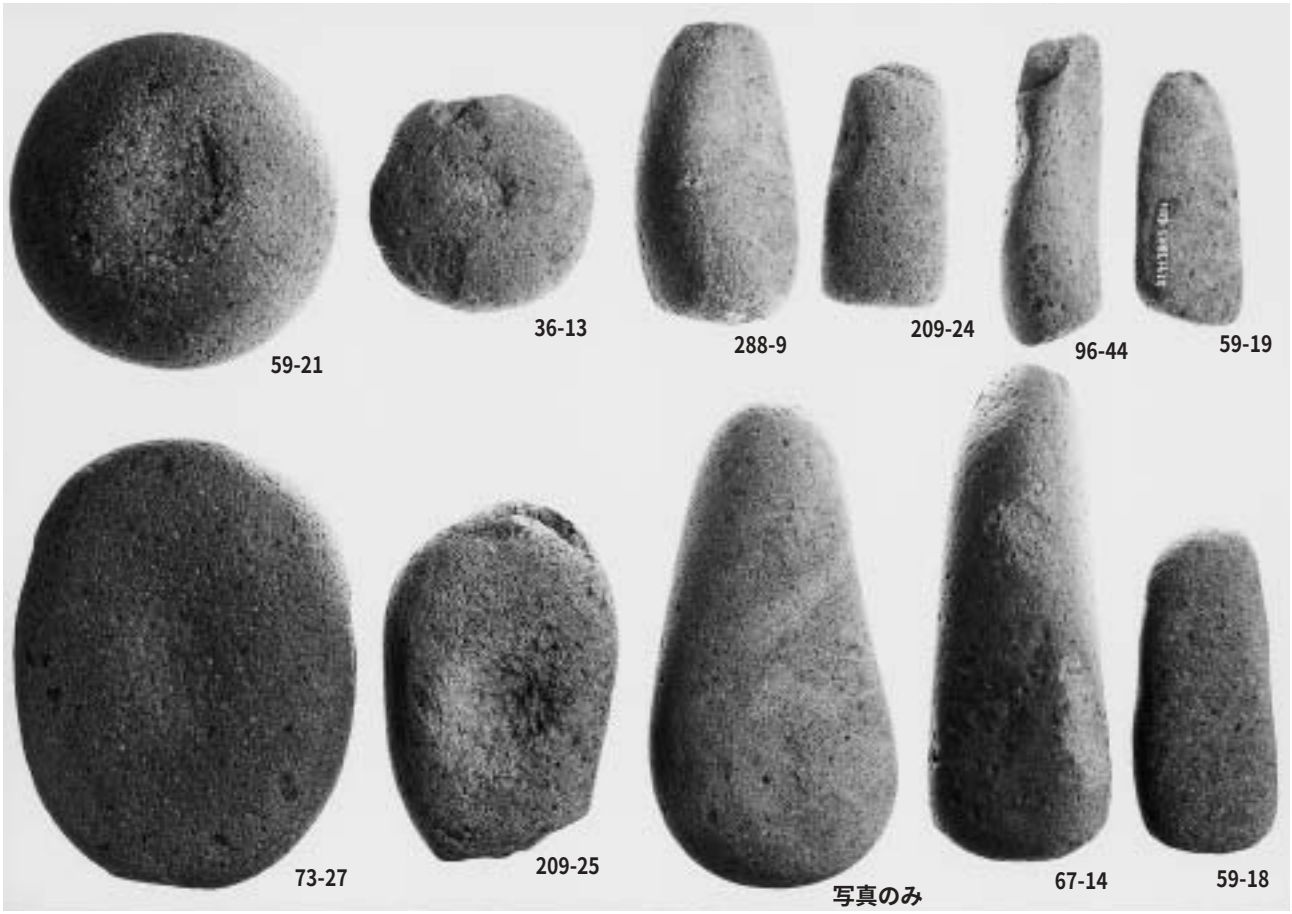
写真（PL）240　出土石器（磨石・敲石類１）



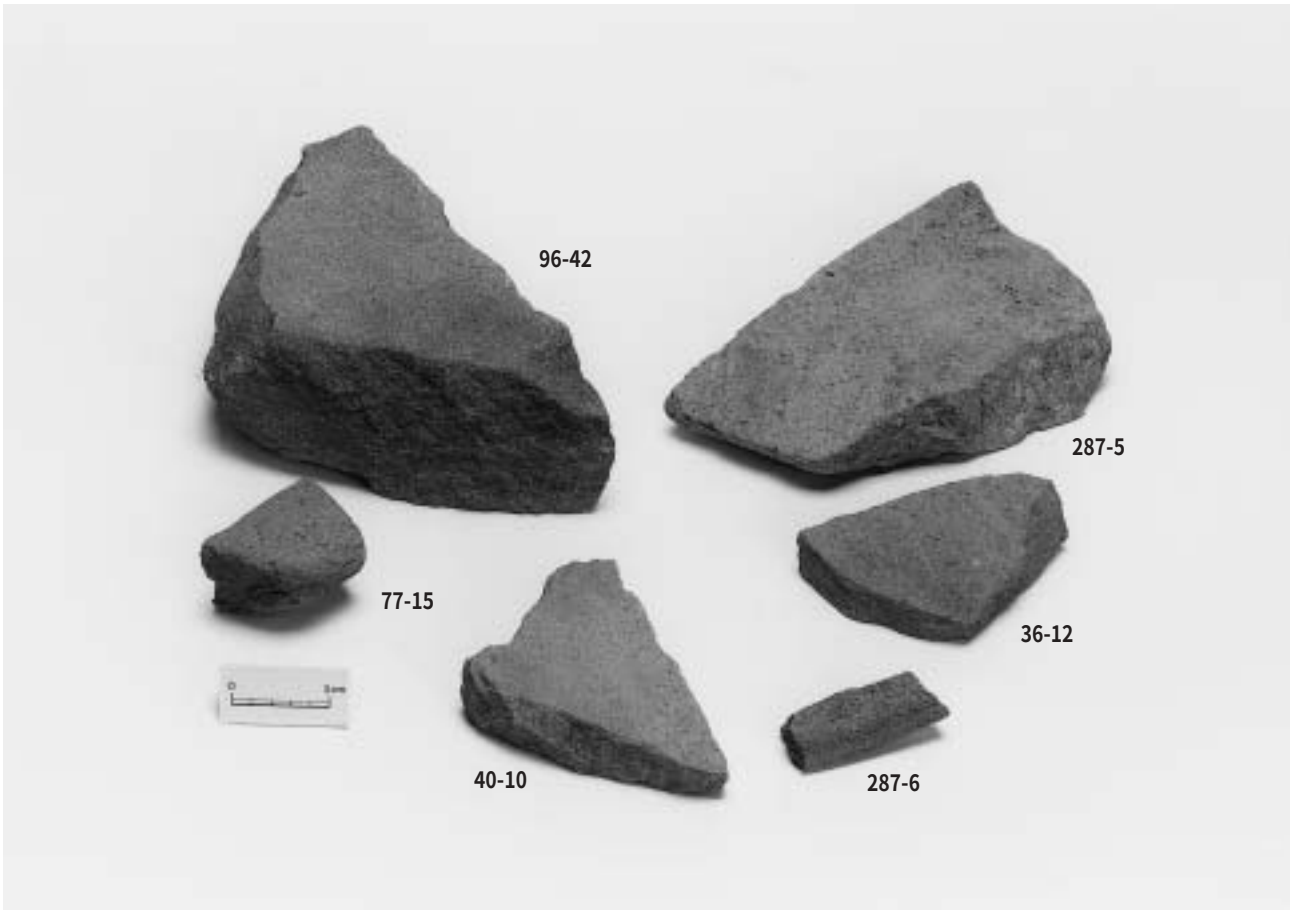
写真（PL）241　出土石器（磨石・敲石類２）



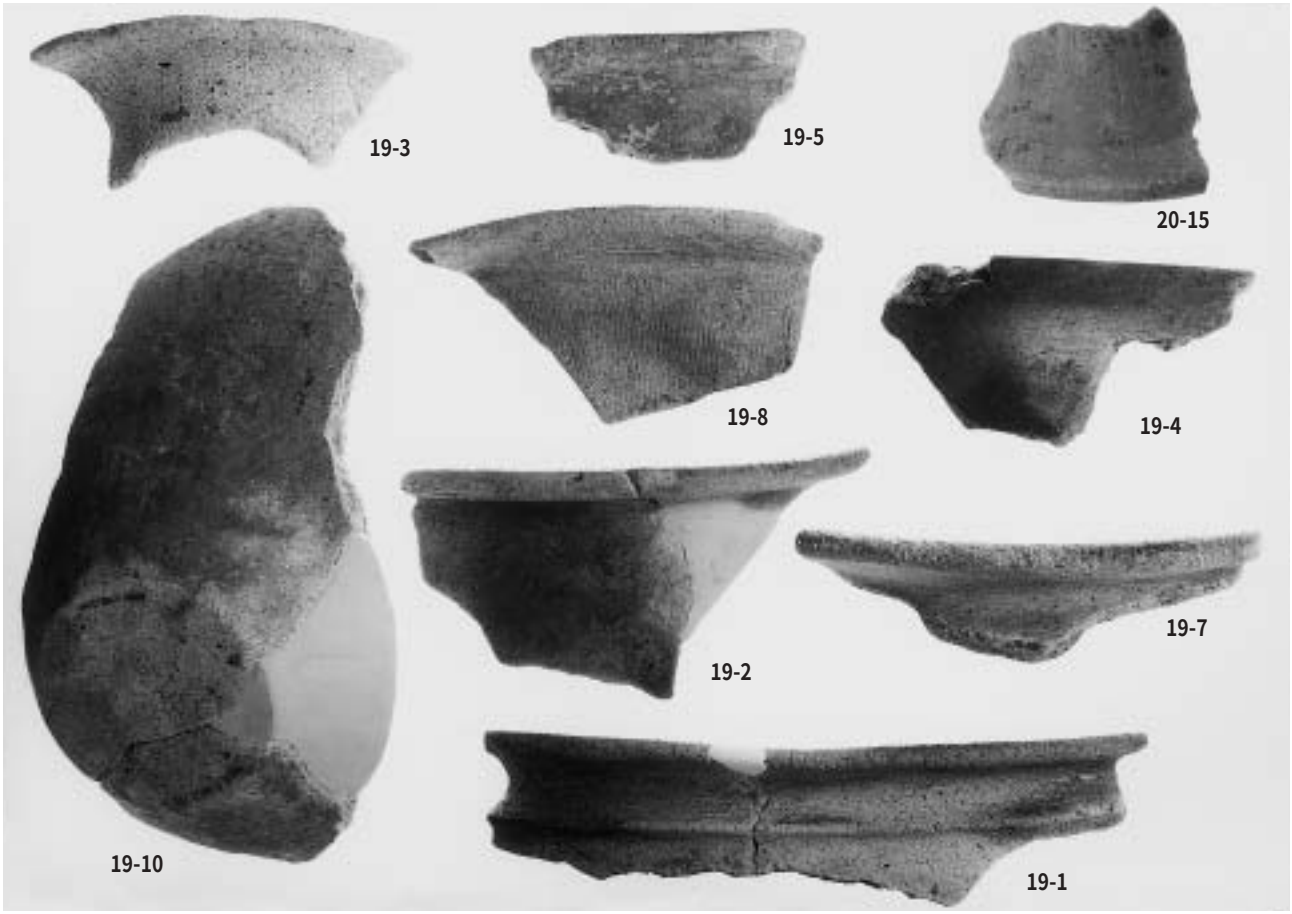
写真（PL）242　出土石器（磨石・敲石類３）



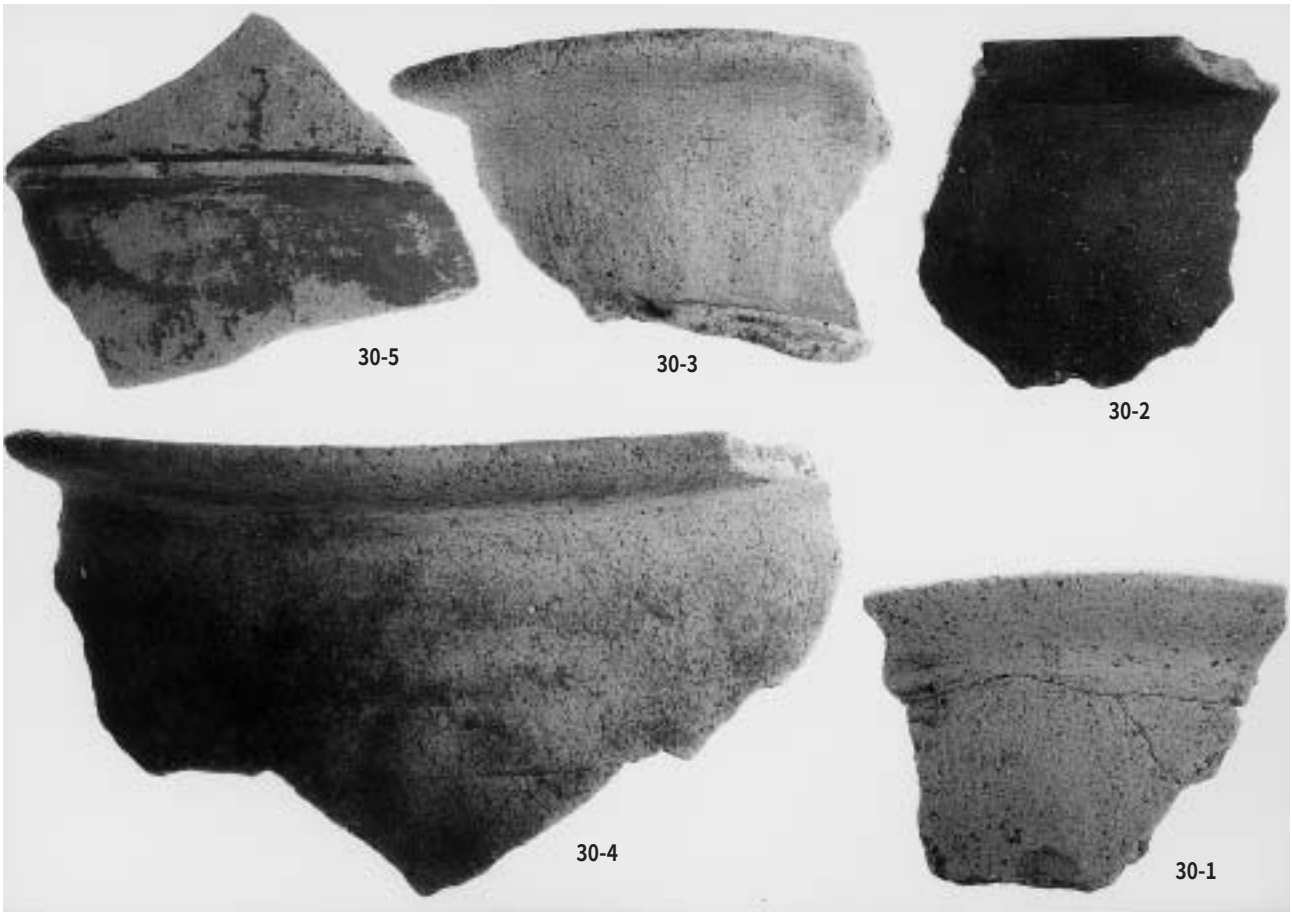
写真（PL）243　出土石器（磨石・敲石類４）



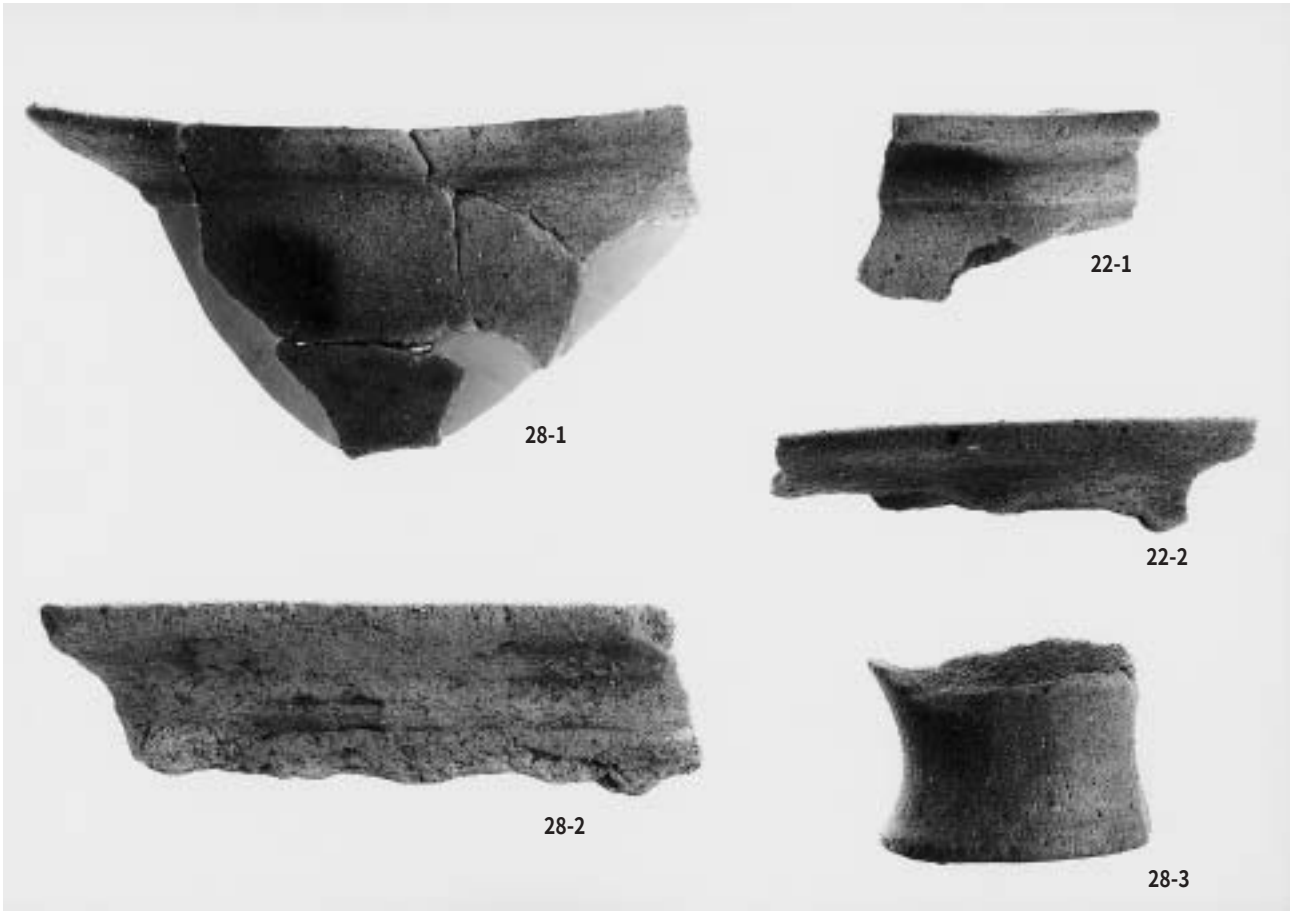
写真（PL）244　出土石器（石皿）



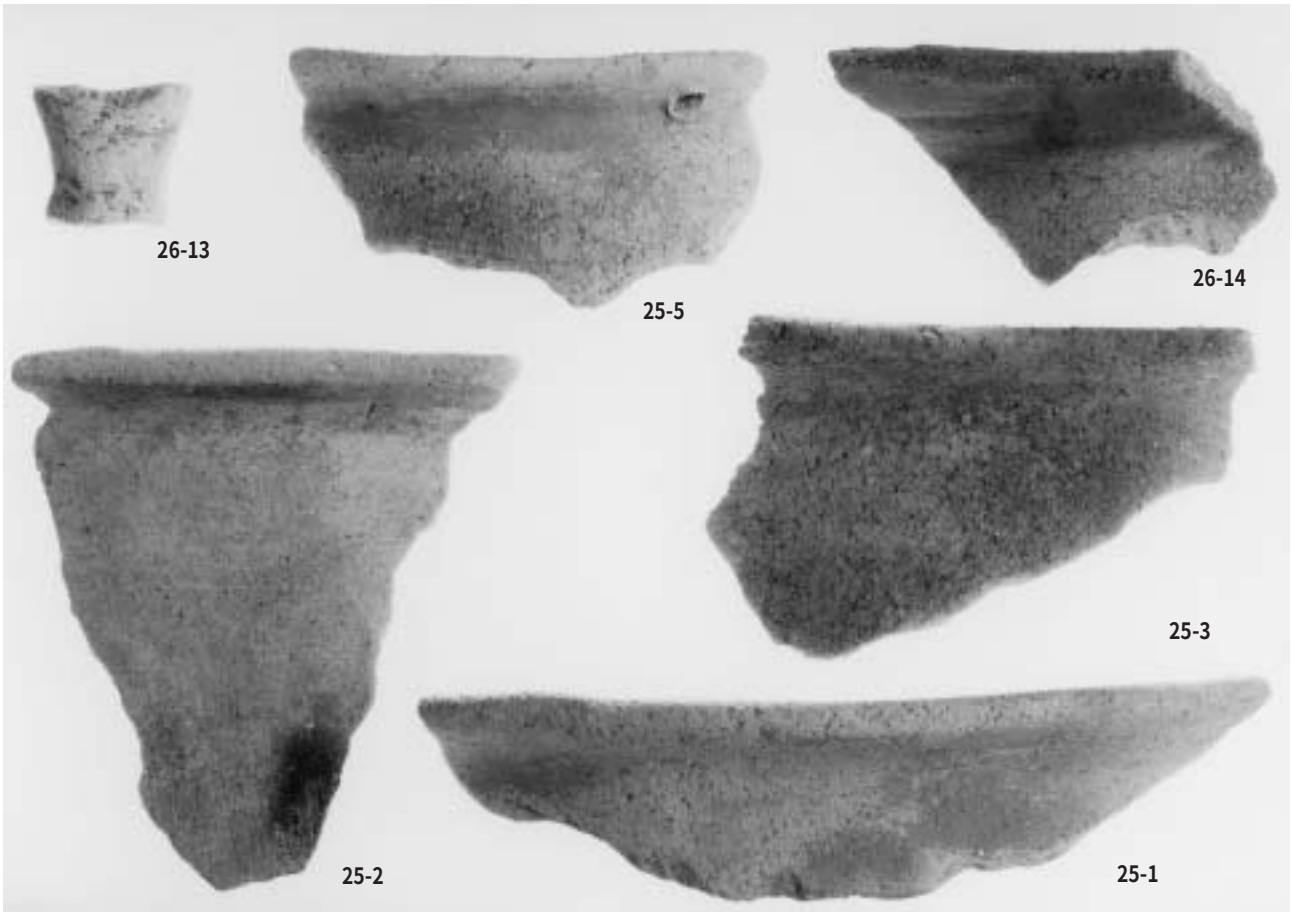
写真（PL）245　弥生時代の土器（S001）



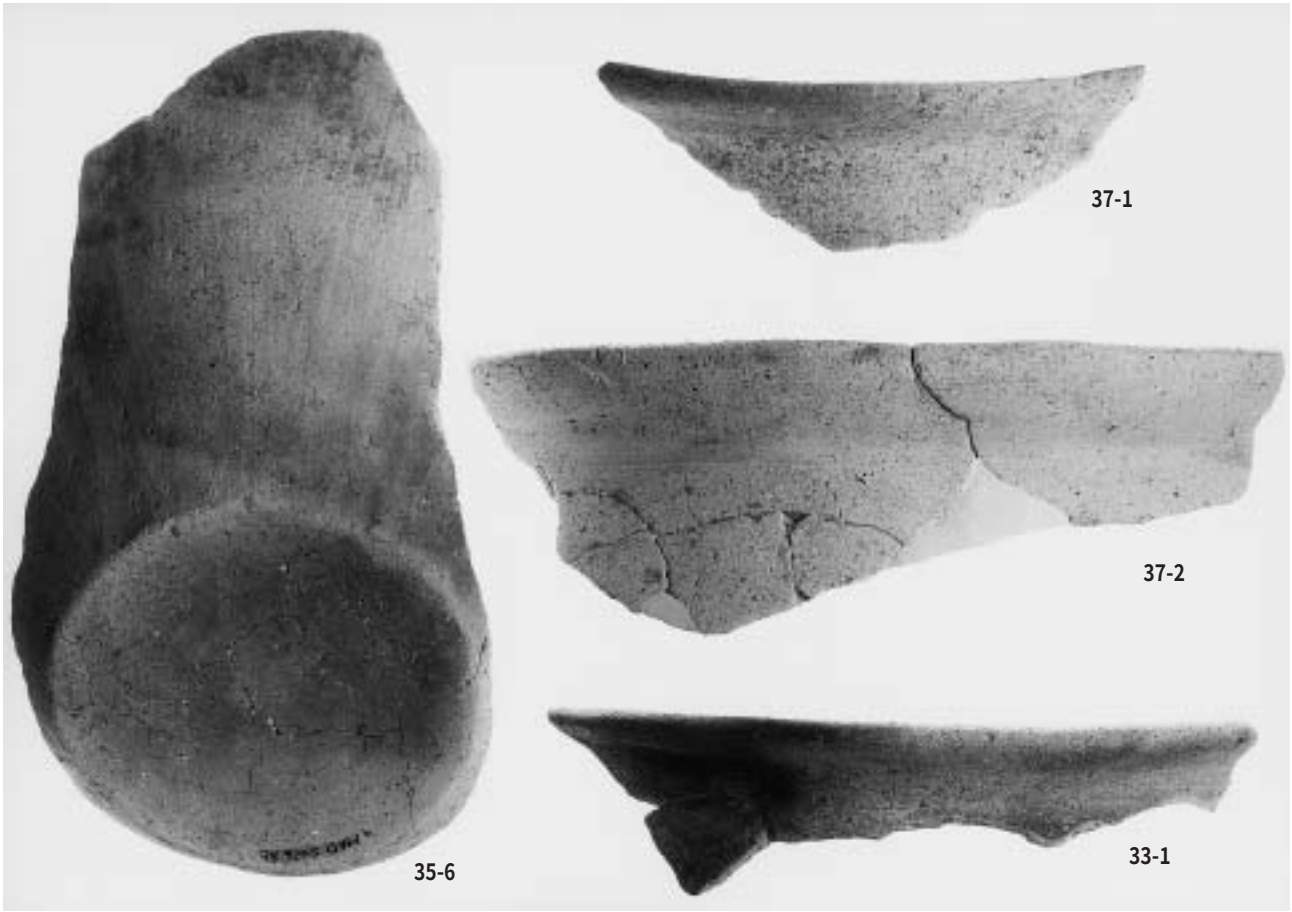
写真（PL）246　弥生時代の土器（S011）



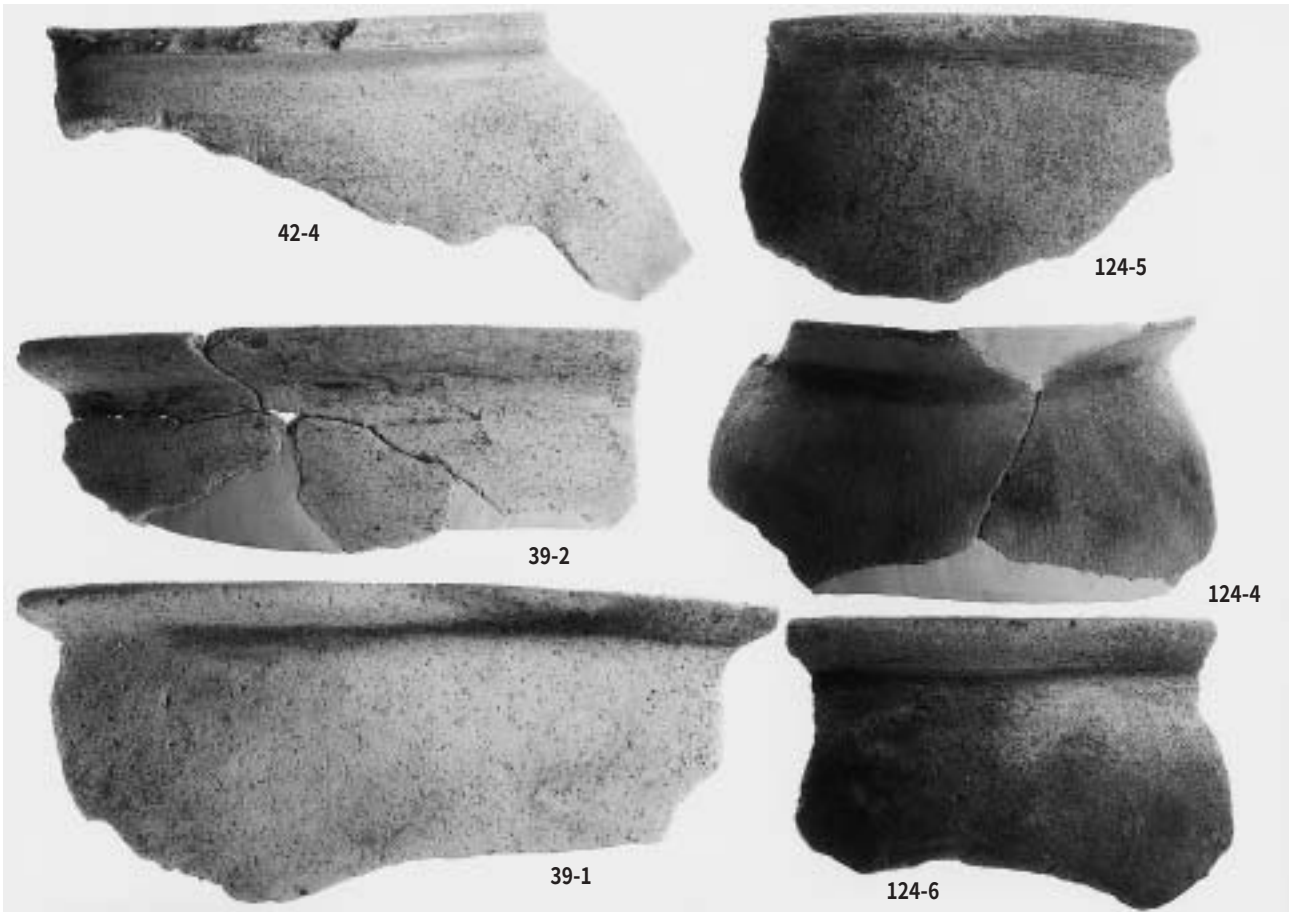
写真（PL）247　弥生時代の土器（S002、005）



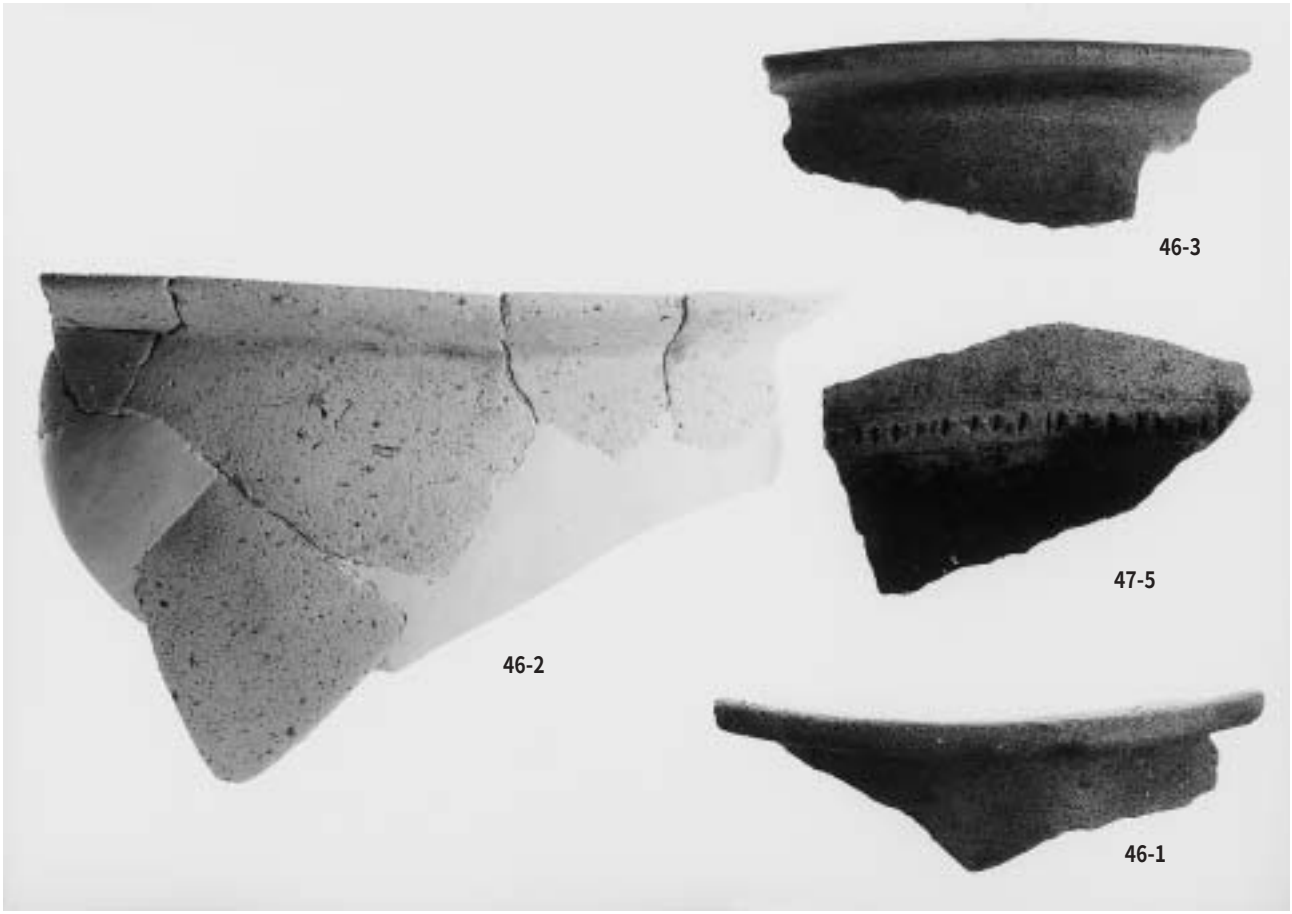
写真（PL）248　弥生時代の土器（S003）



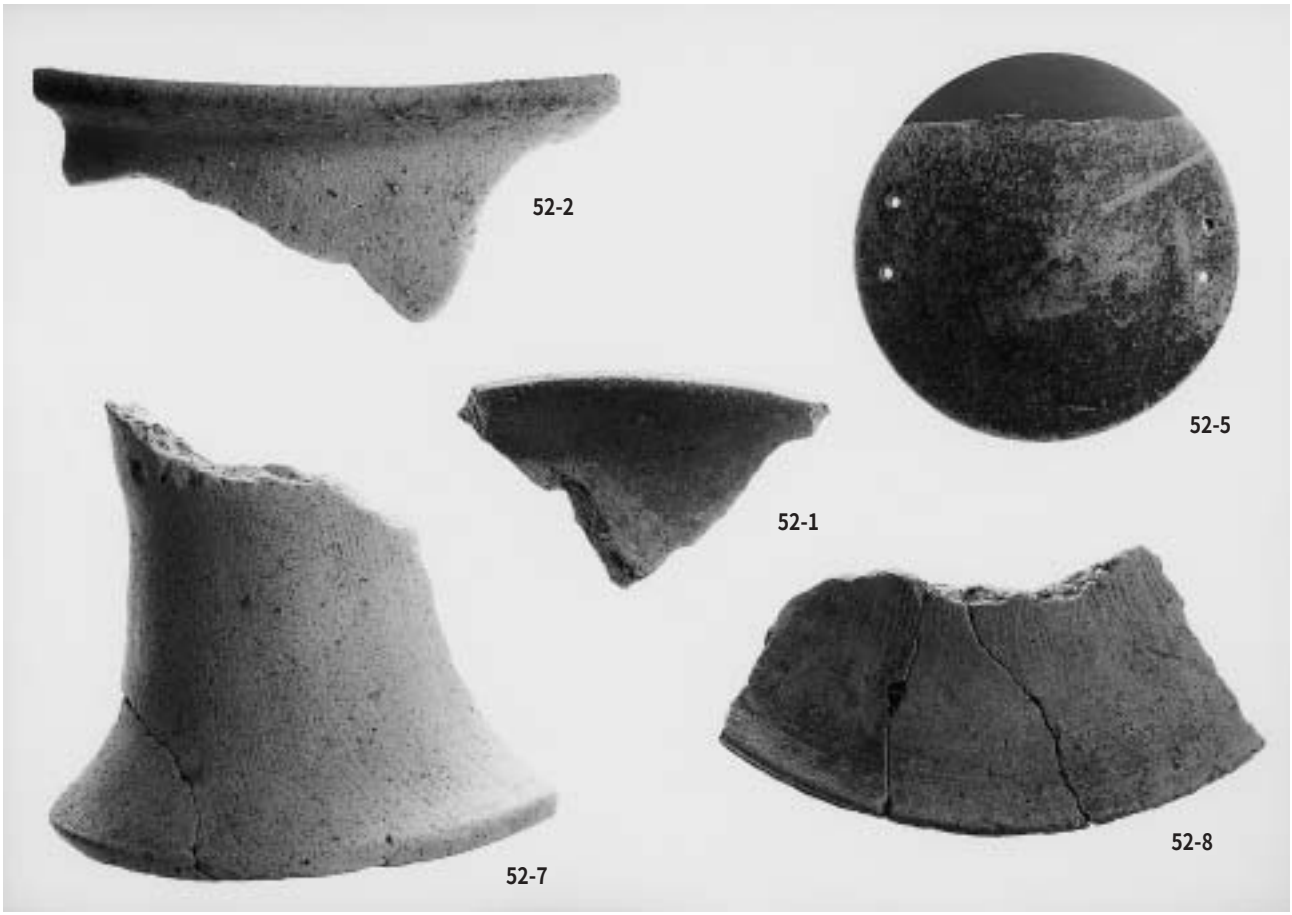
写真（PL）249　弥生時代の土器（S025、026、027）



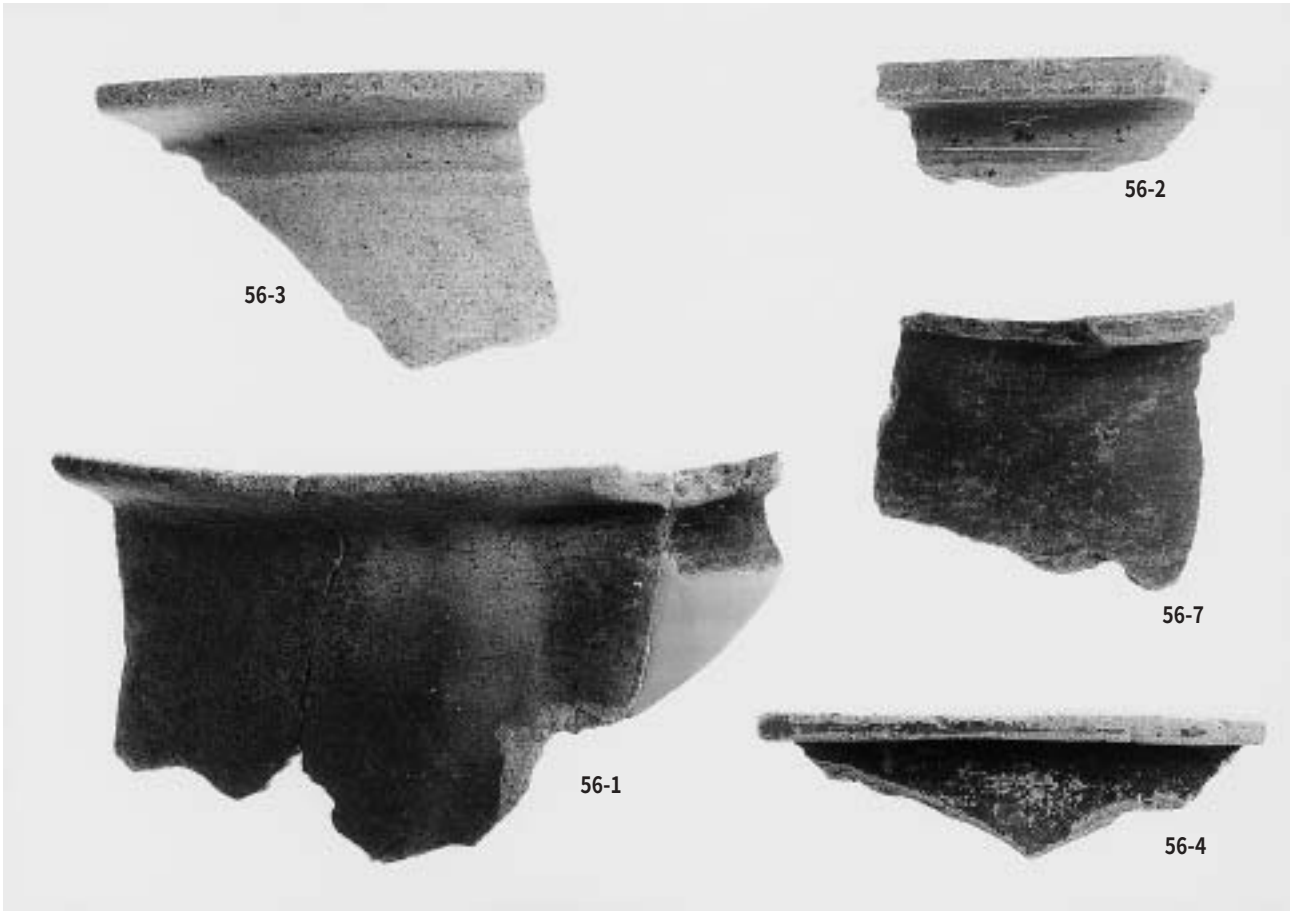
写真（PL）250　弥生時代の土器（S029、044、069）



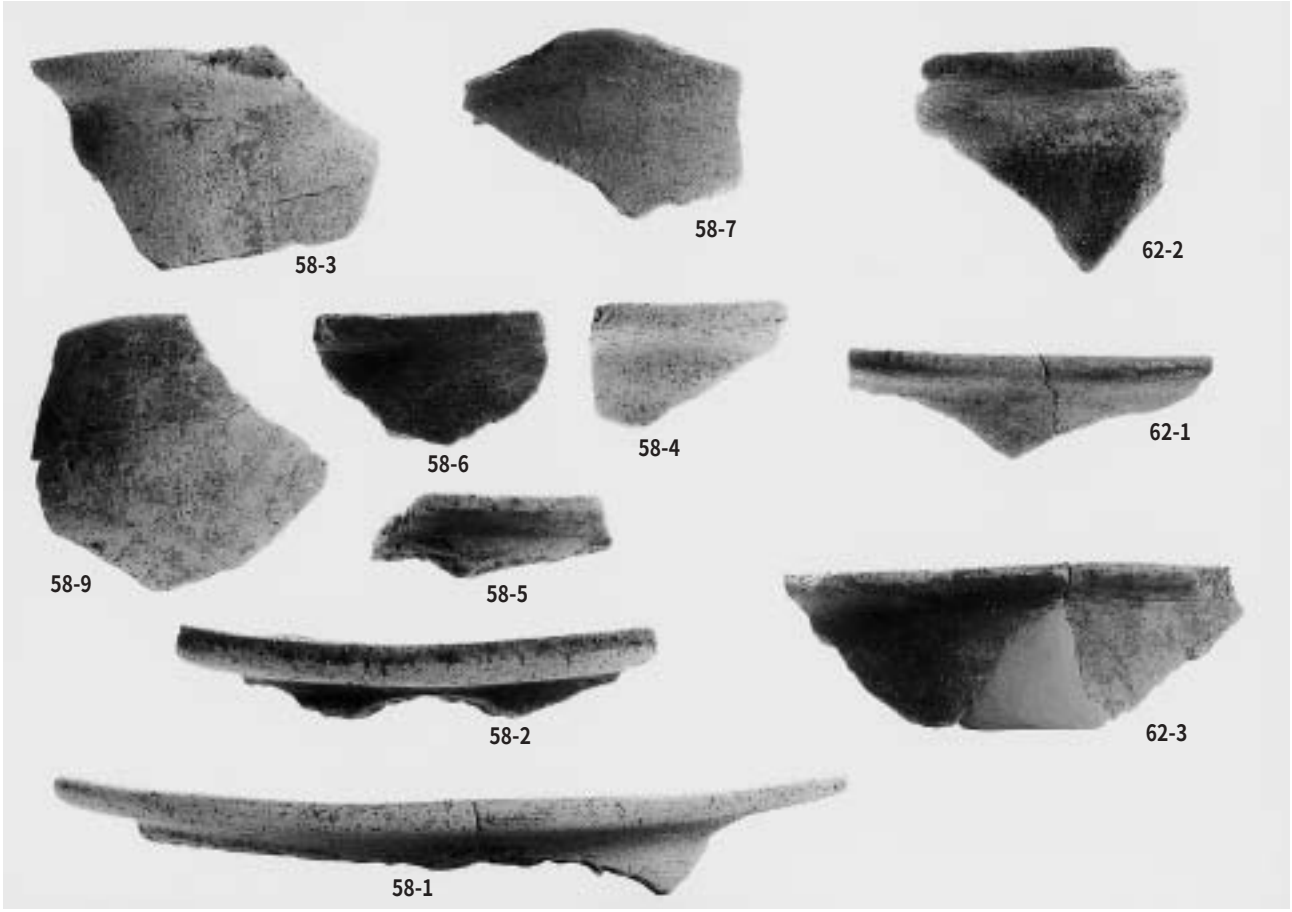
写真（PL）251　弥生時代の土器（S054）



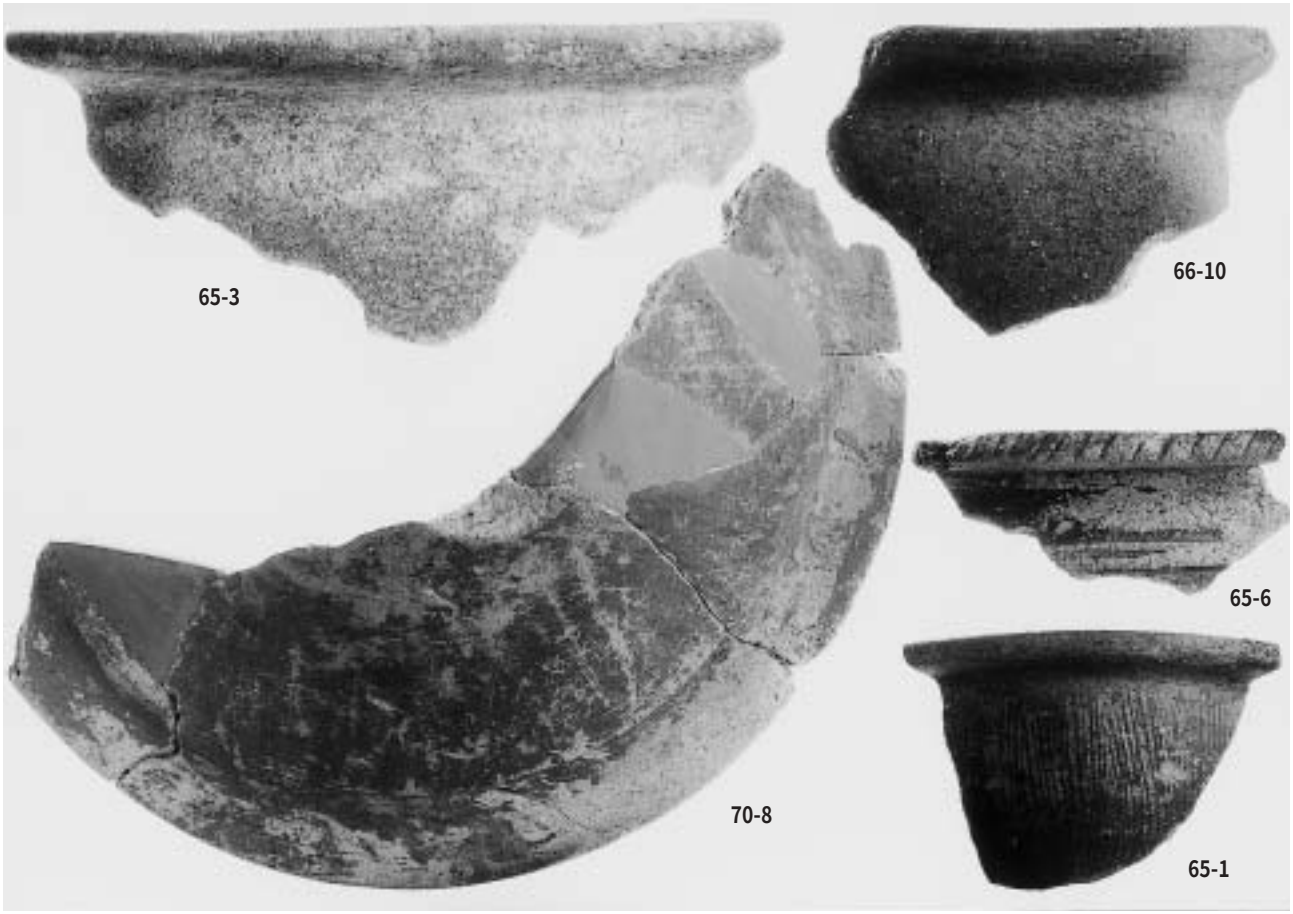
写真（PL）252　弥生時代の土器（S076）



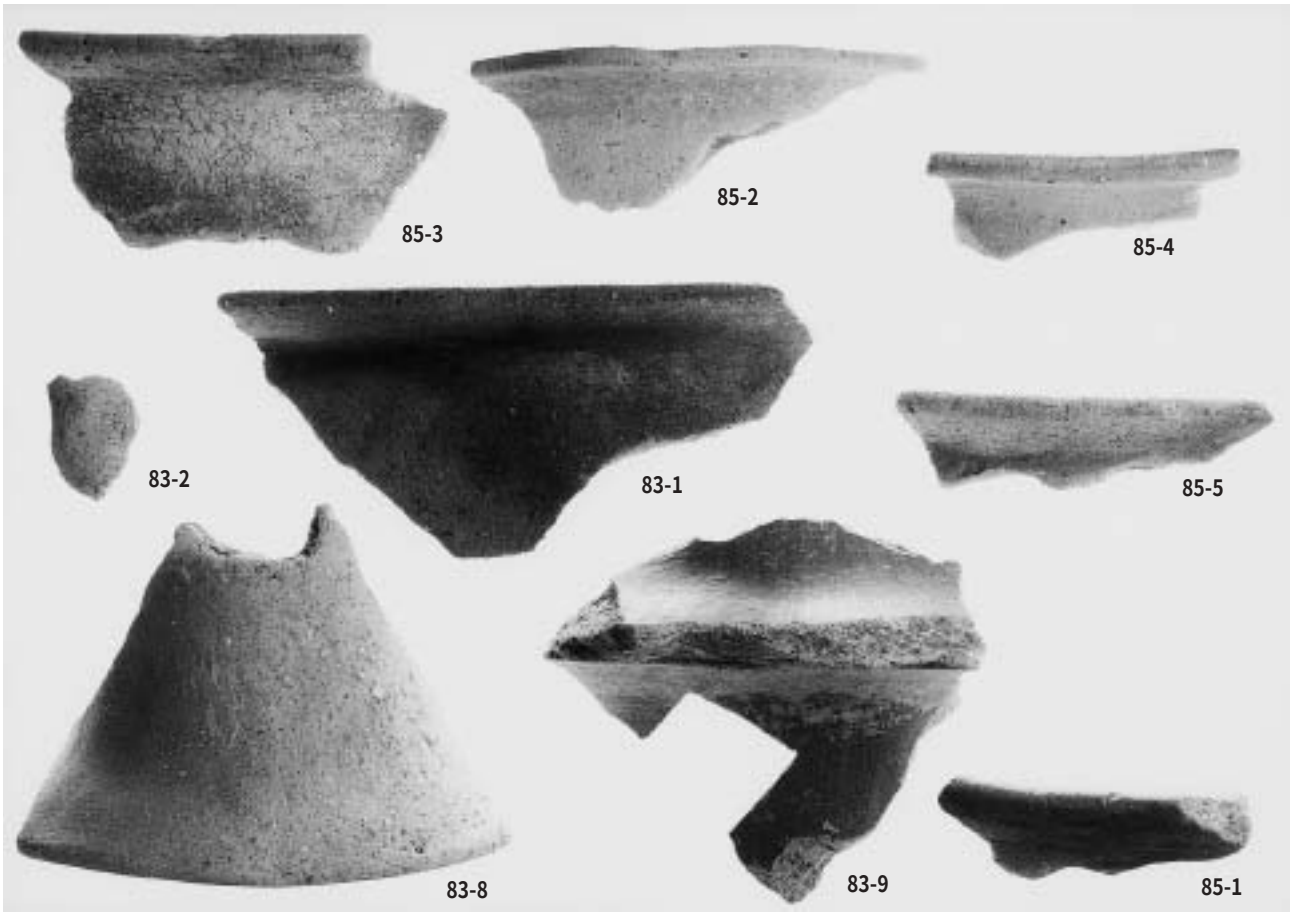
写真（PL）253　弥生時代の土器（S078）



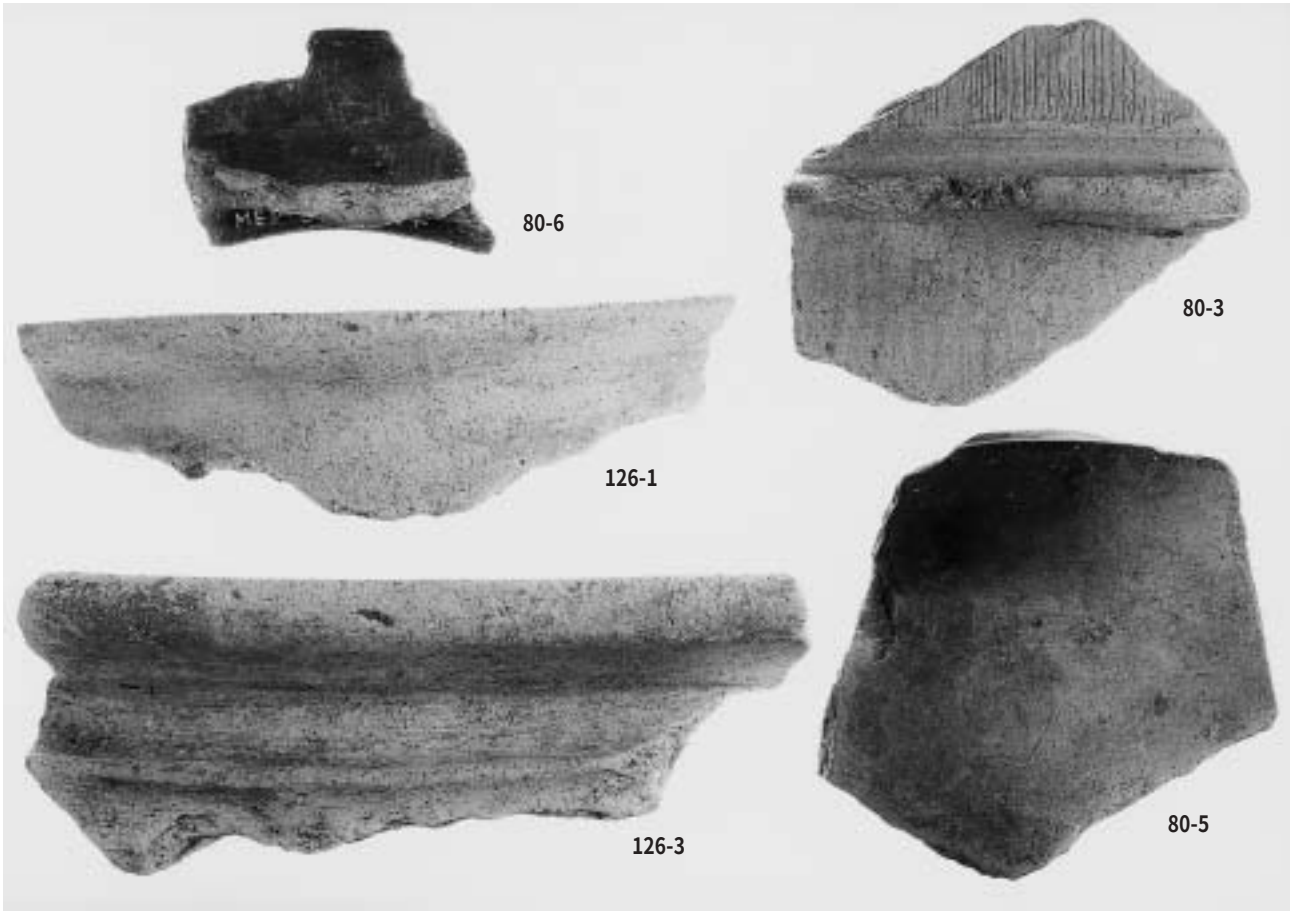
写真（PL）254　弥生時代の土器（S081、082）



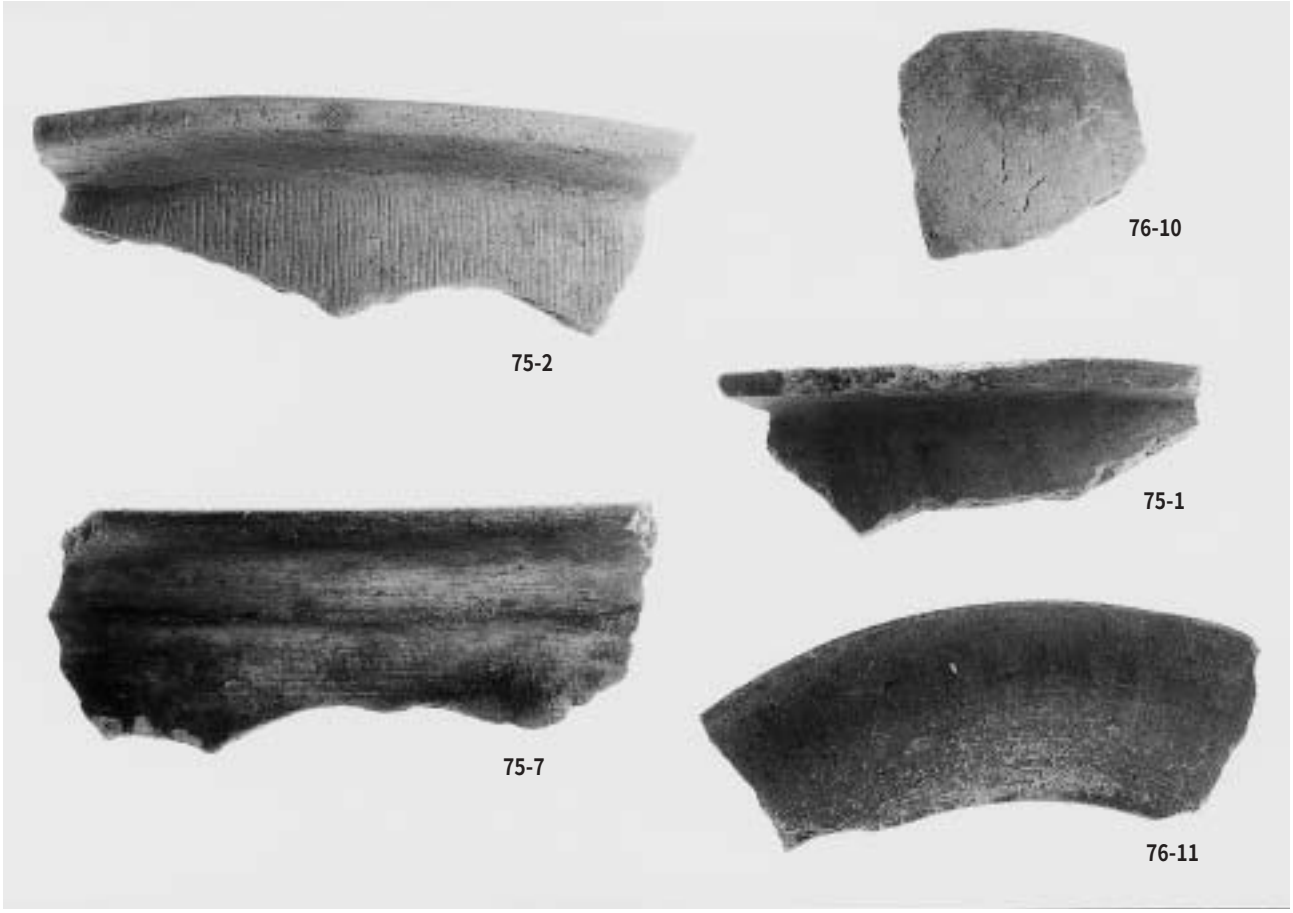
写真（PL）255　弥生時代の土器（S089、092）



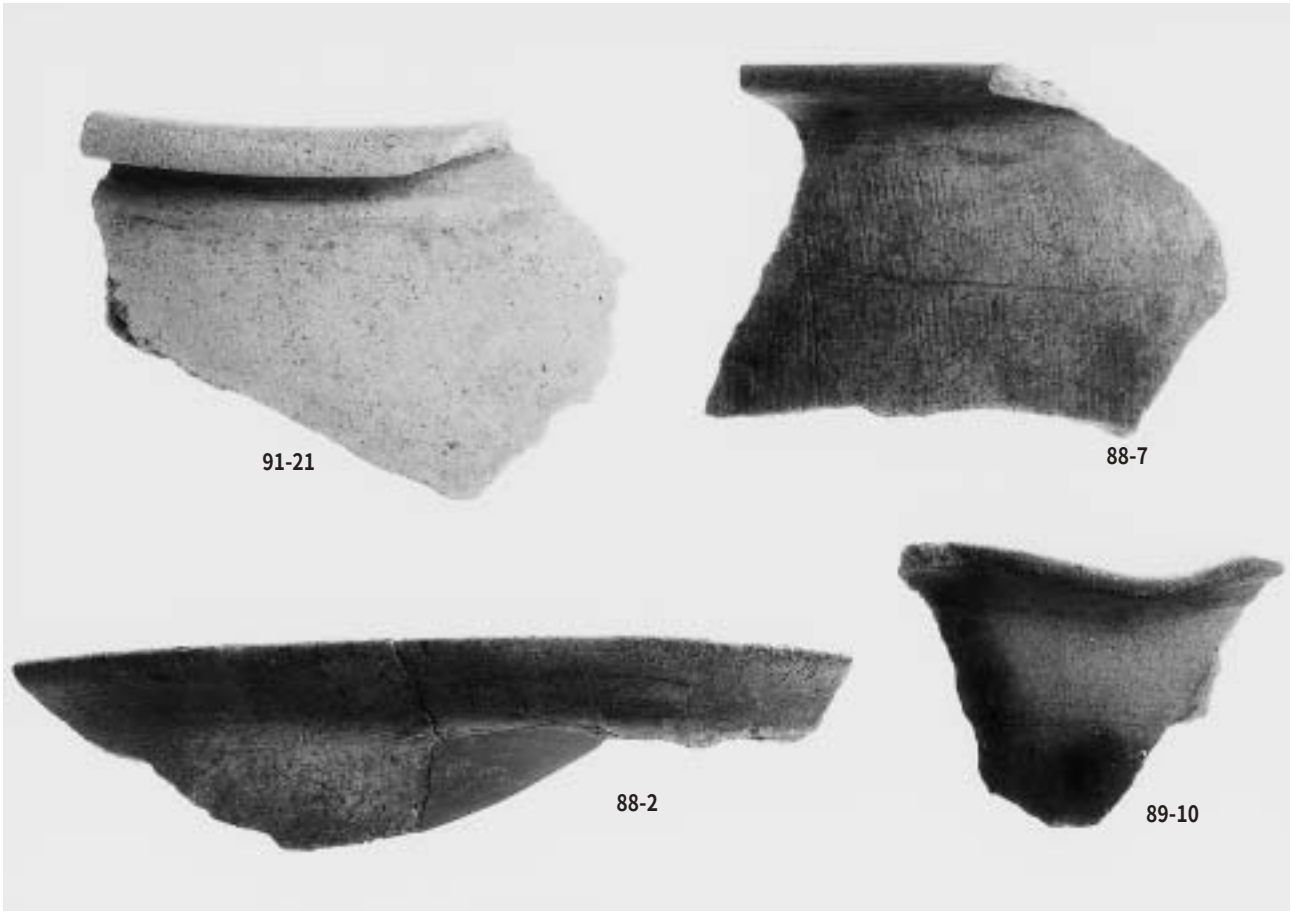
写真（PL）256　弥生時代の土器（S101、105）



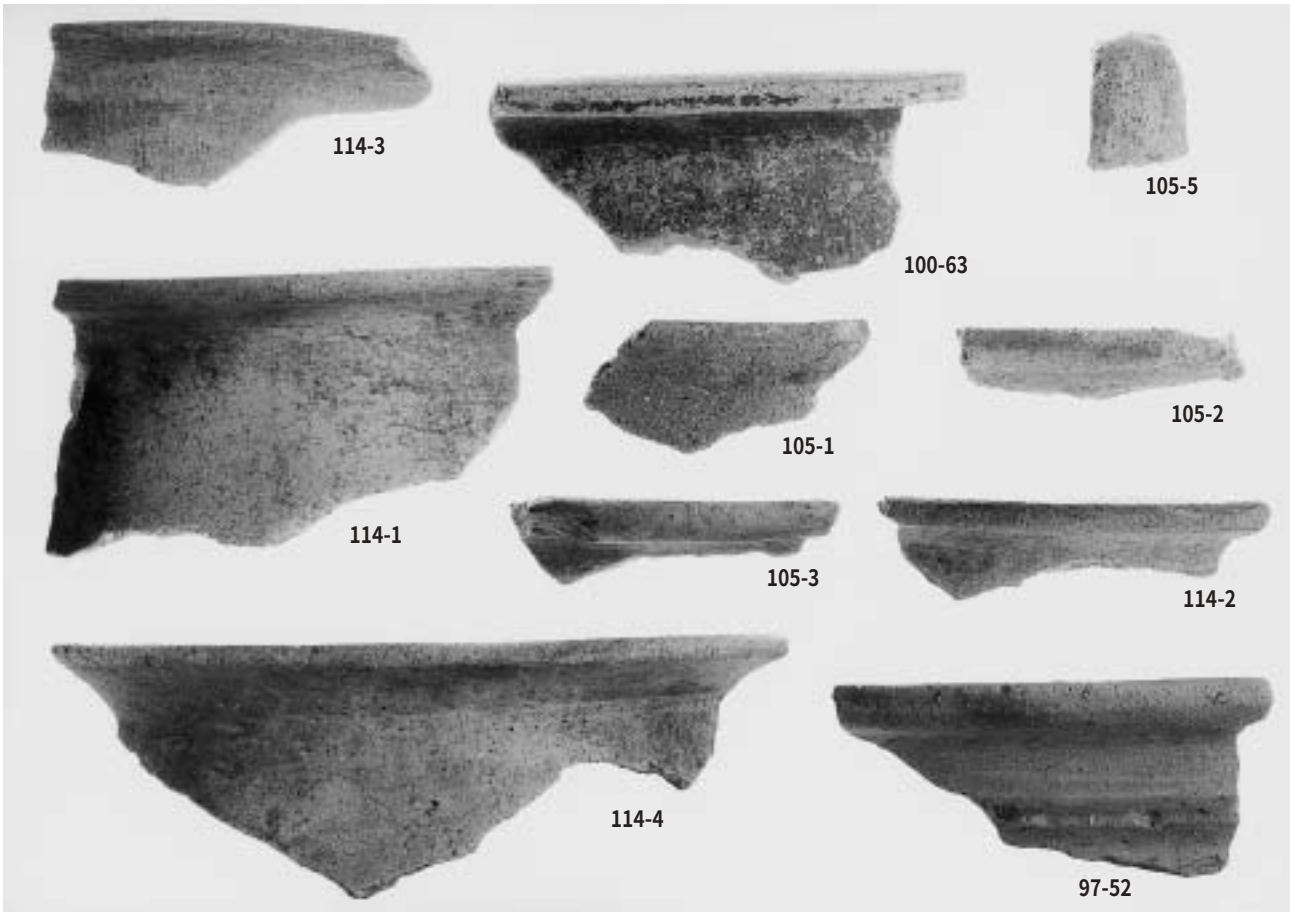
写真（PL）257　弥生時代の土器（S099、100）



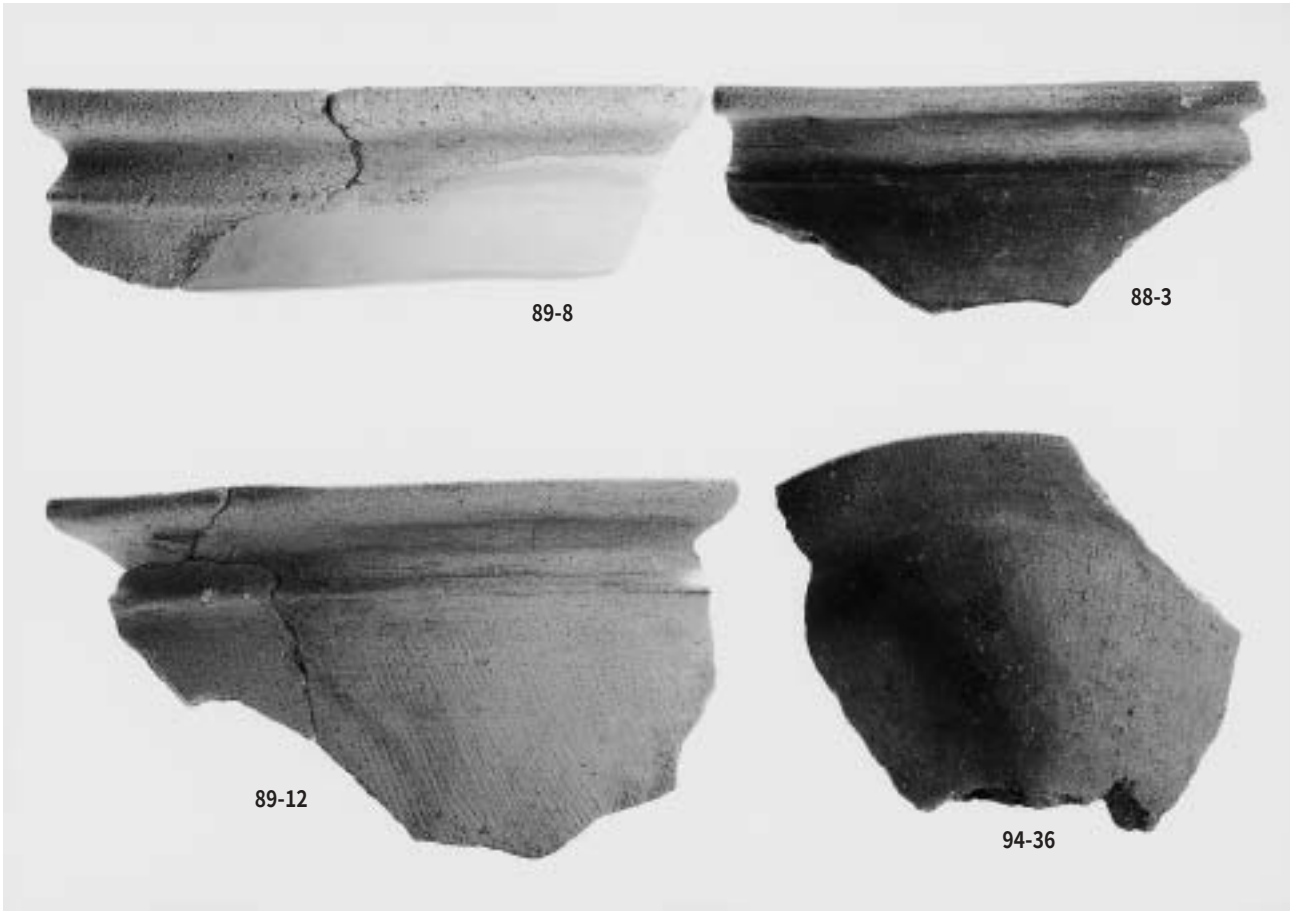
写真（PL）258　弥生時代の土器（S095）



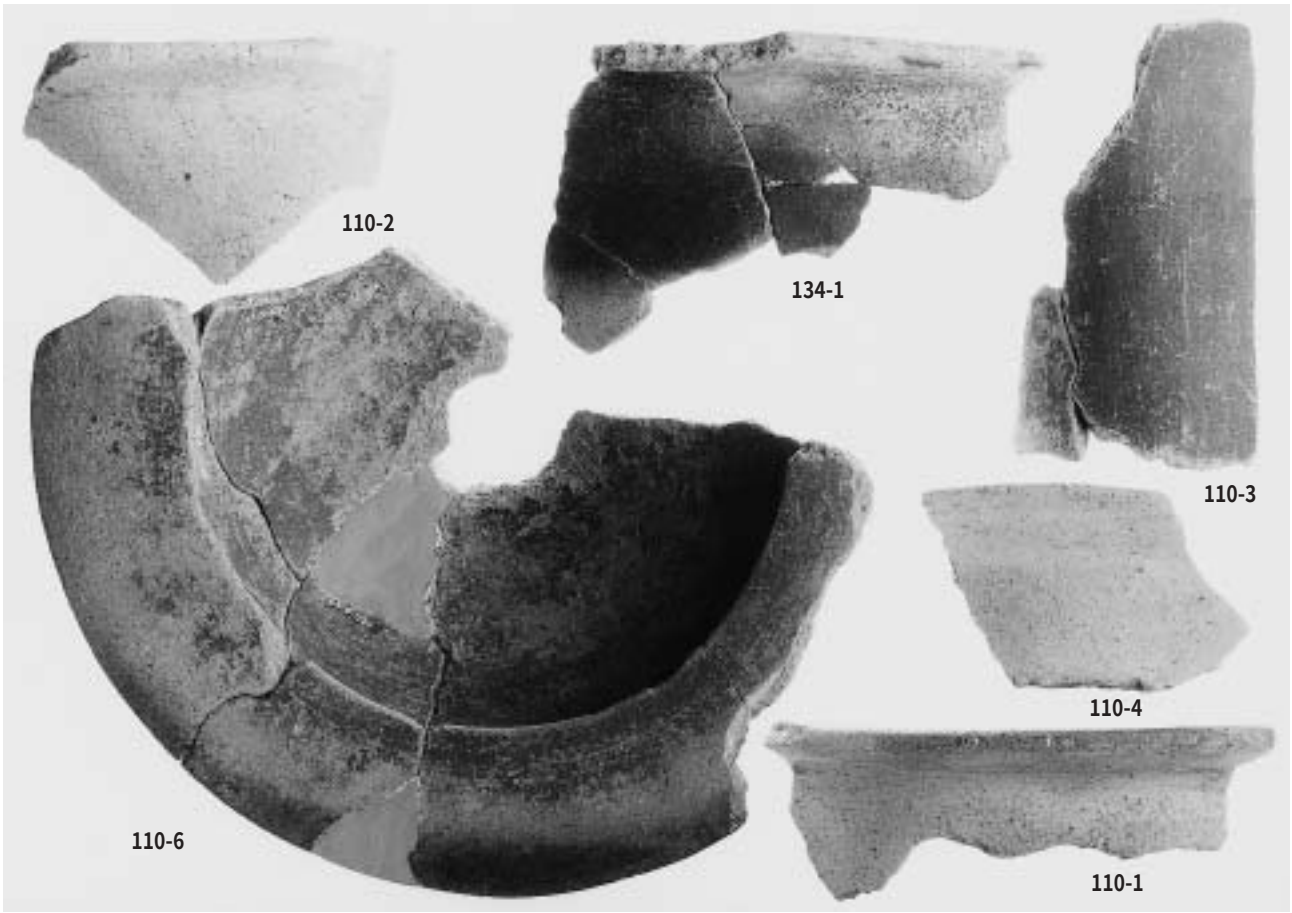
写真（PL）259　弥生時代の土器（S106）



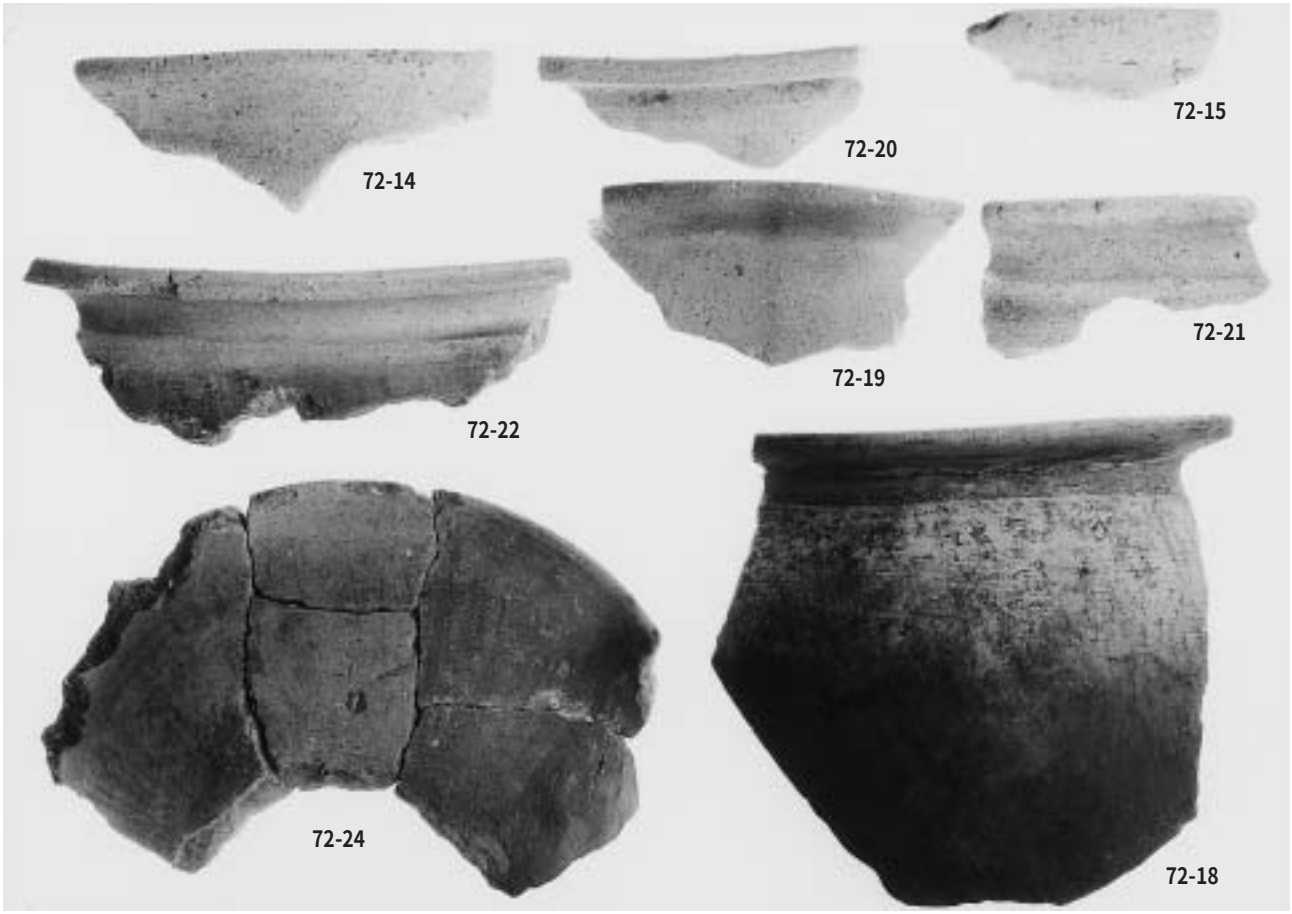
写真（PL）260　弥生時代の土器（S106、107、108）



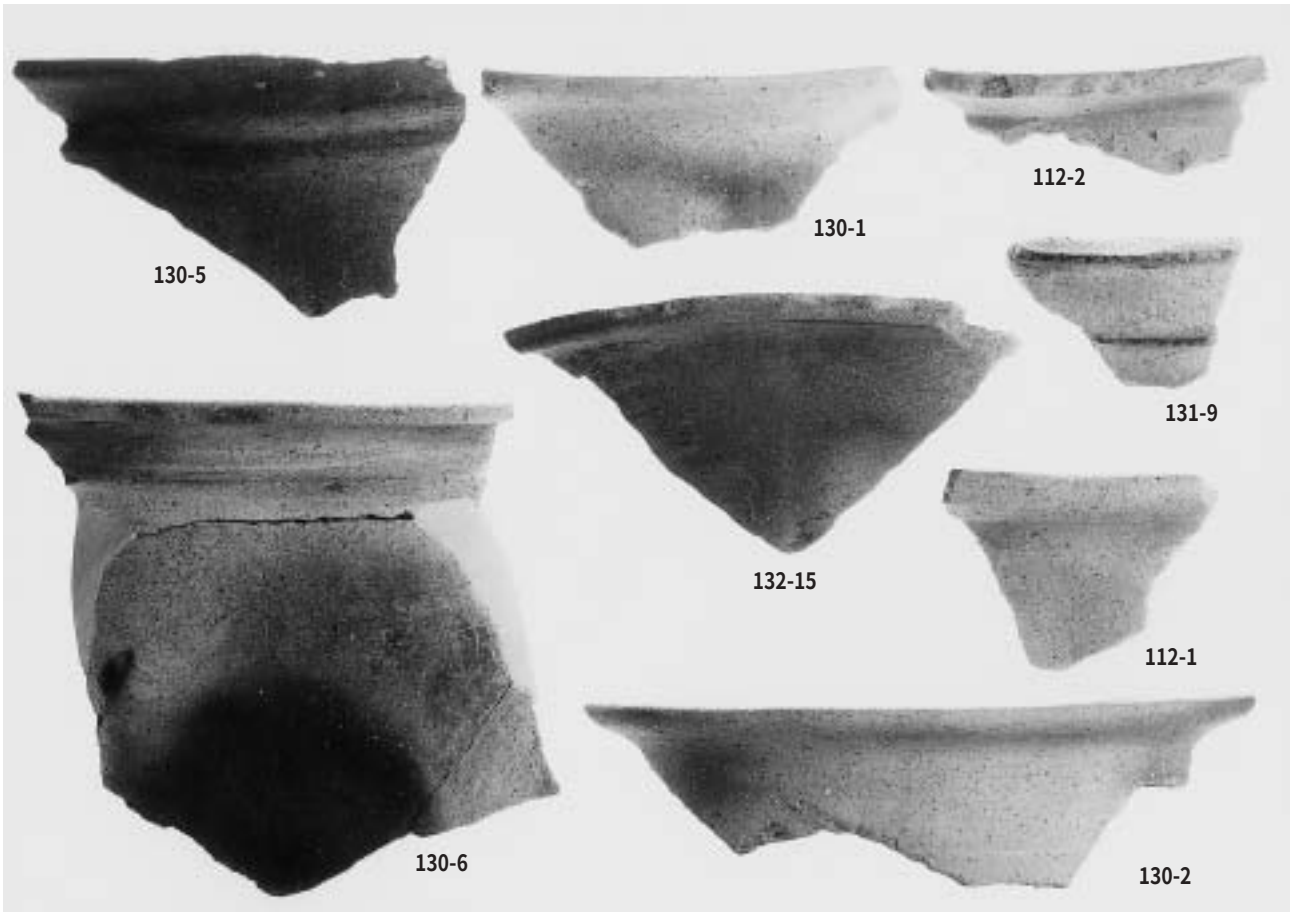
写真（PL）261　弥生時代の土器（S106）



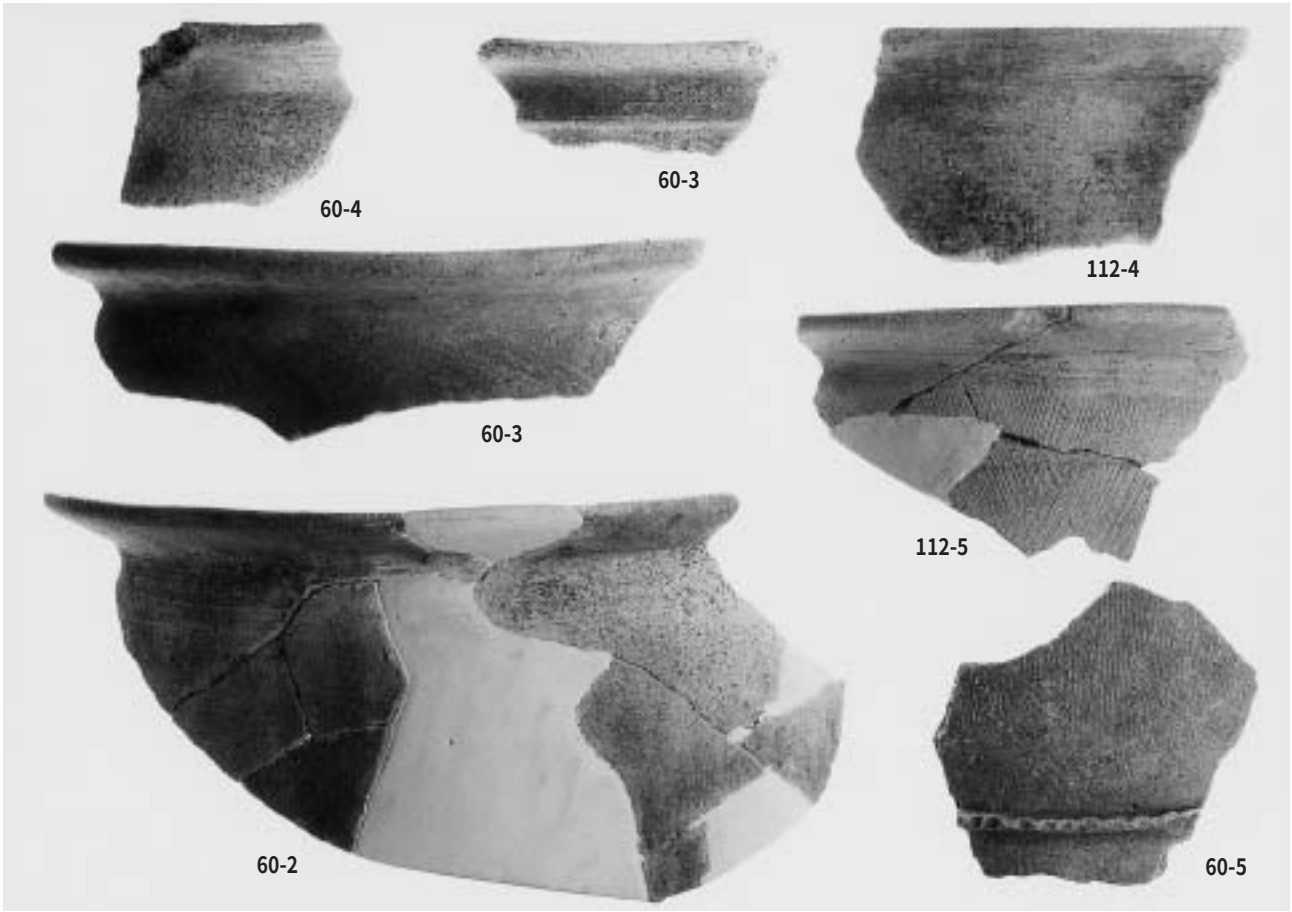
写真（PL）262　弥生時代の土器（S129、ピット1757）



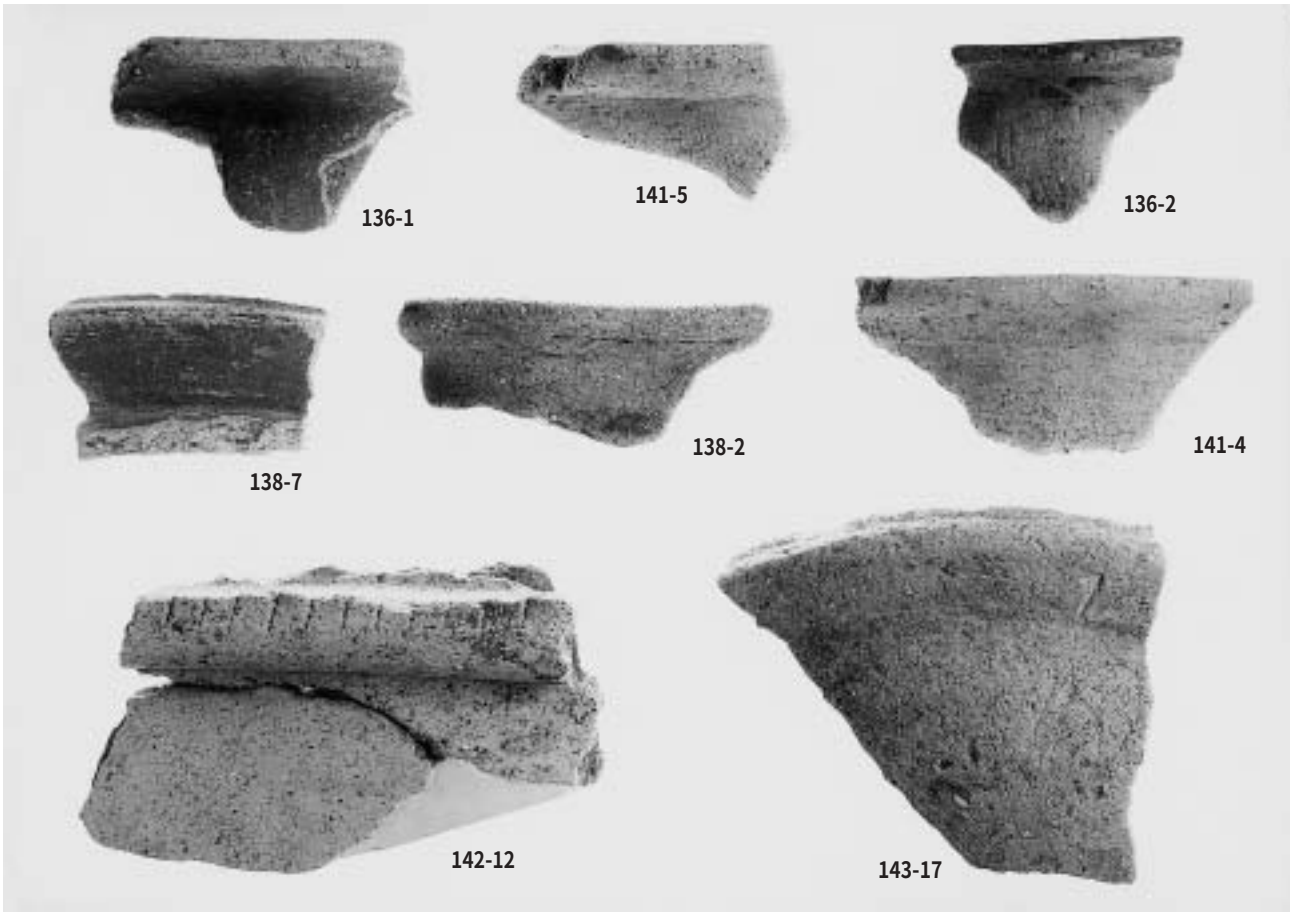
写真（PL）263　弥生時代の土器（S147、148）



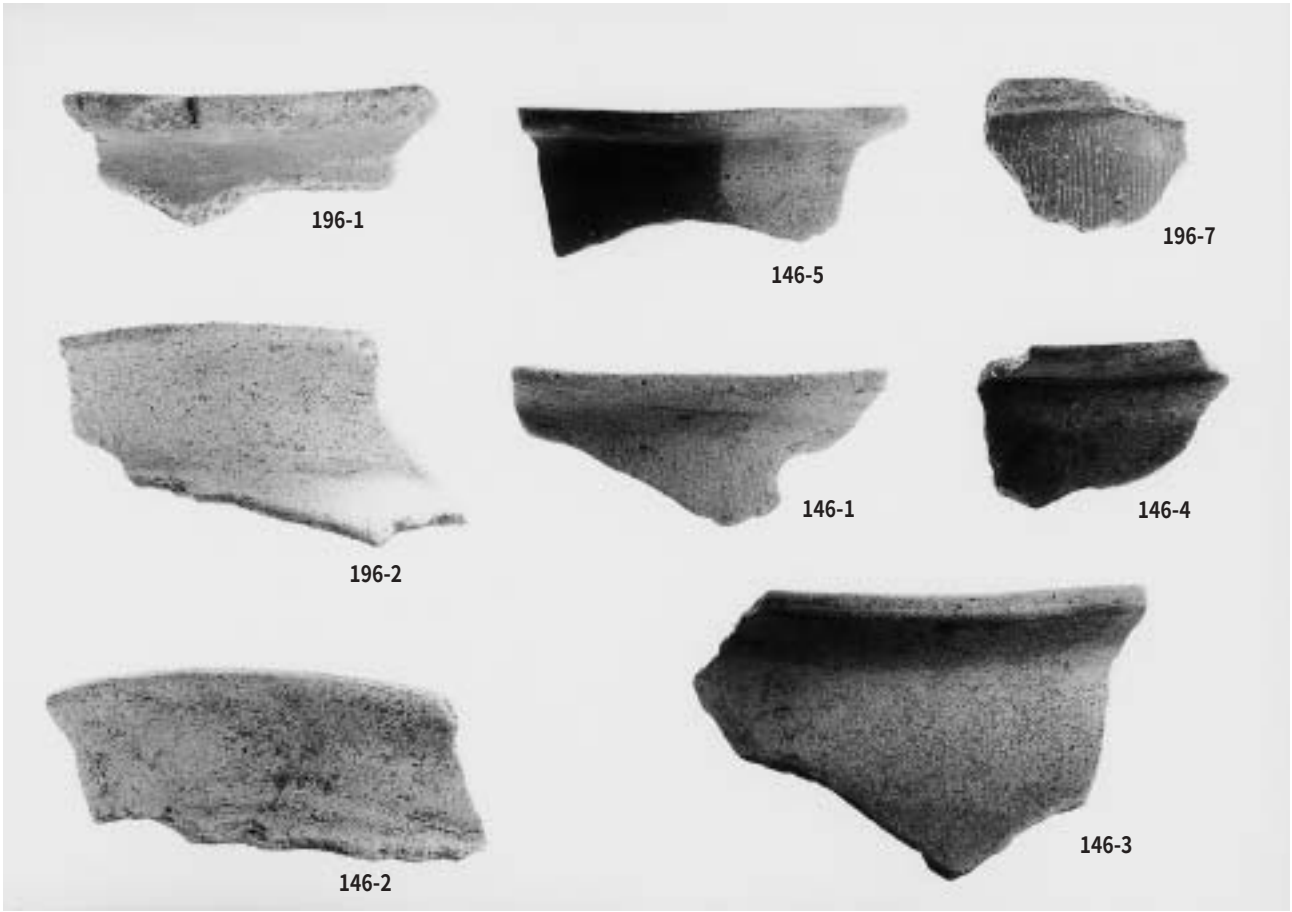
写真（PL）264　弥生時代の土器（S135、140）



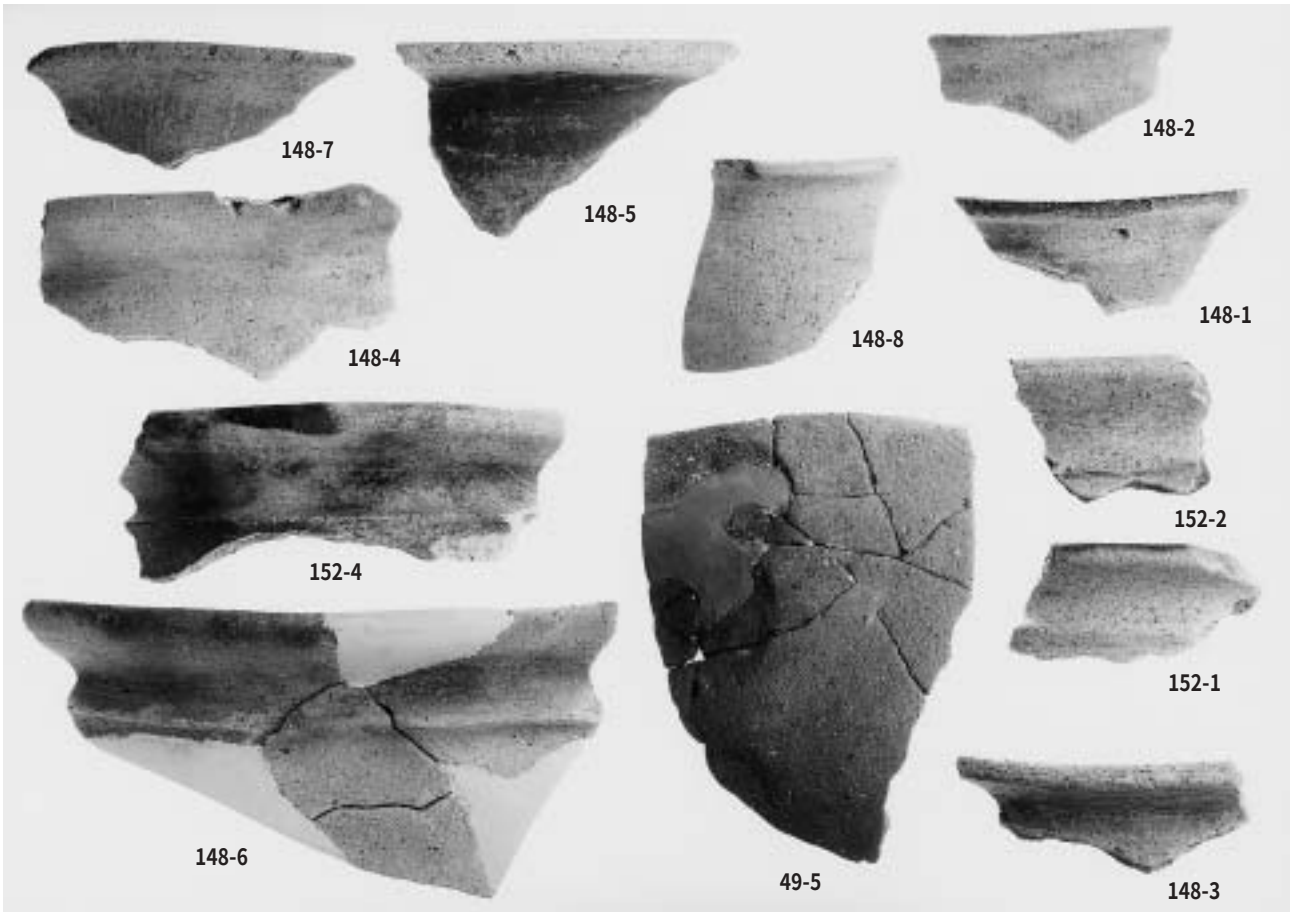
写真（PL）265　弥生時代の土器（S135、140）



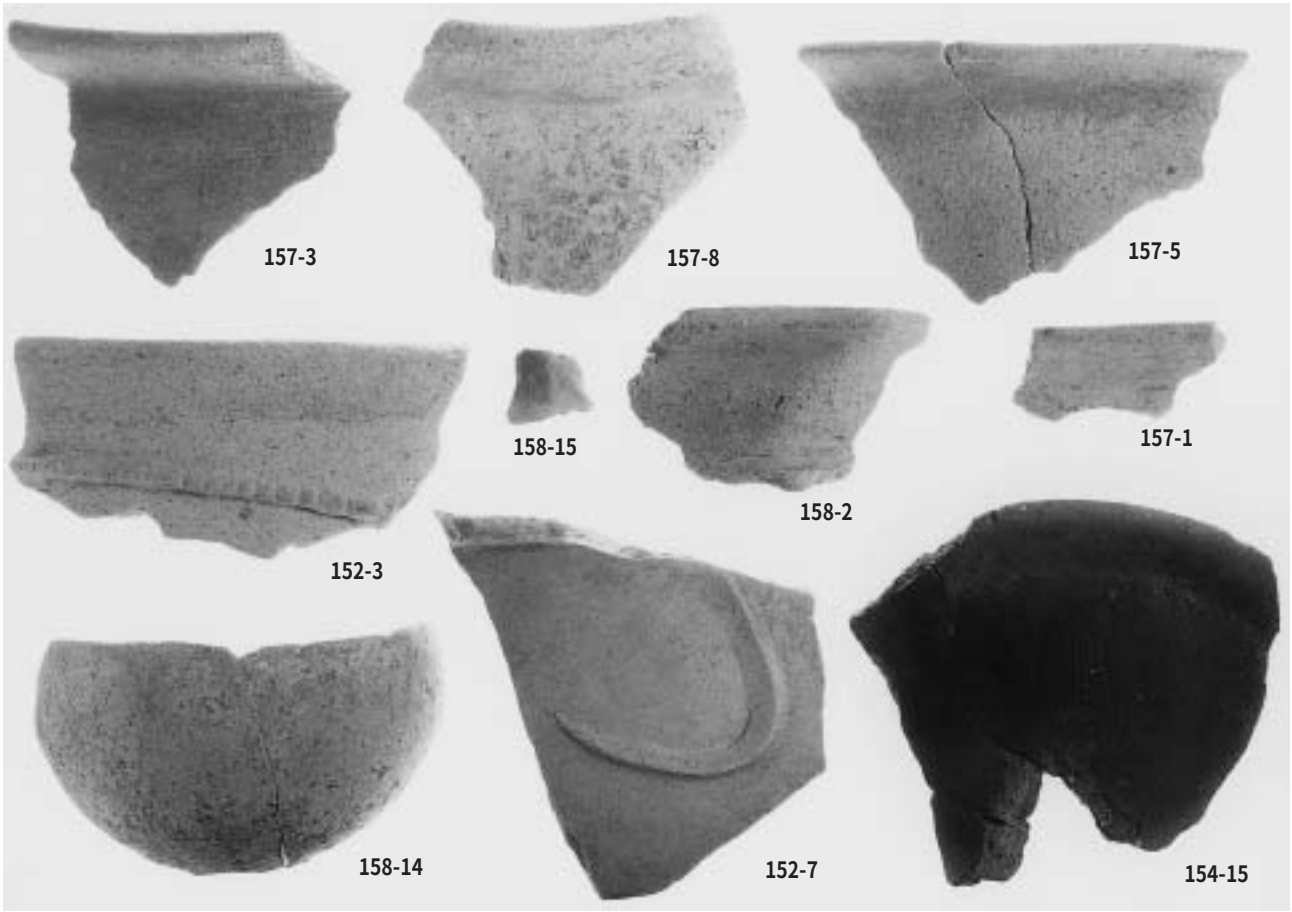
写真（PL）266　弥生時代の土器（S004、012、033）



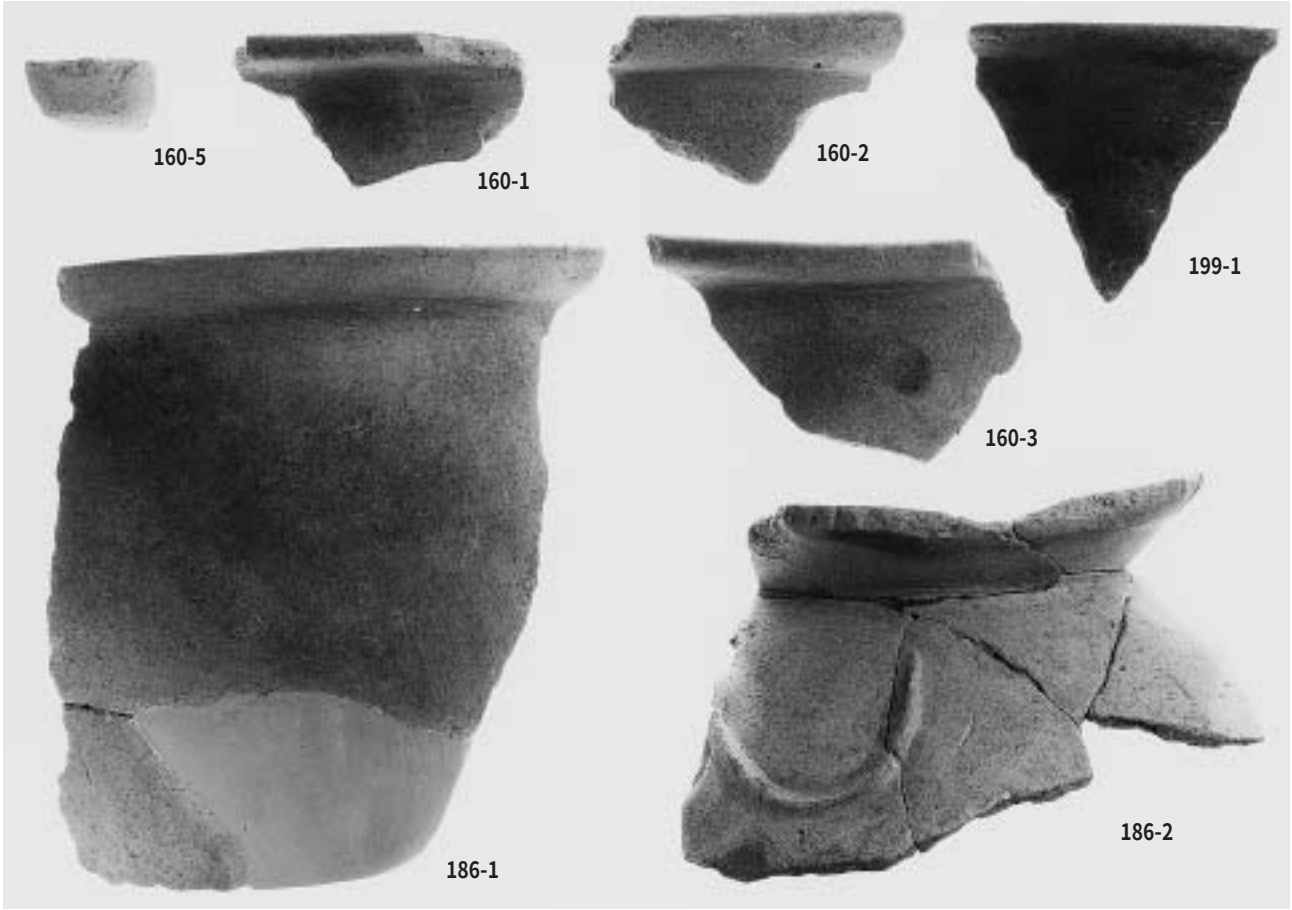
写真（PL）267　弥生時代の土器（S046、053）



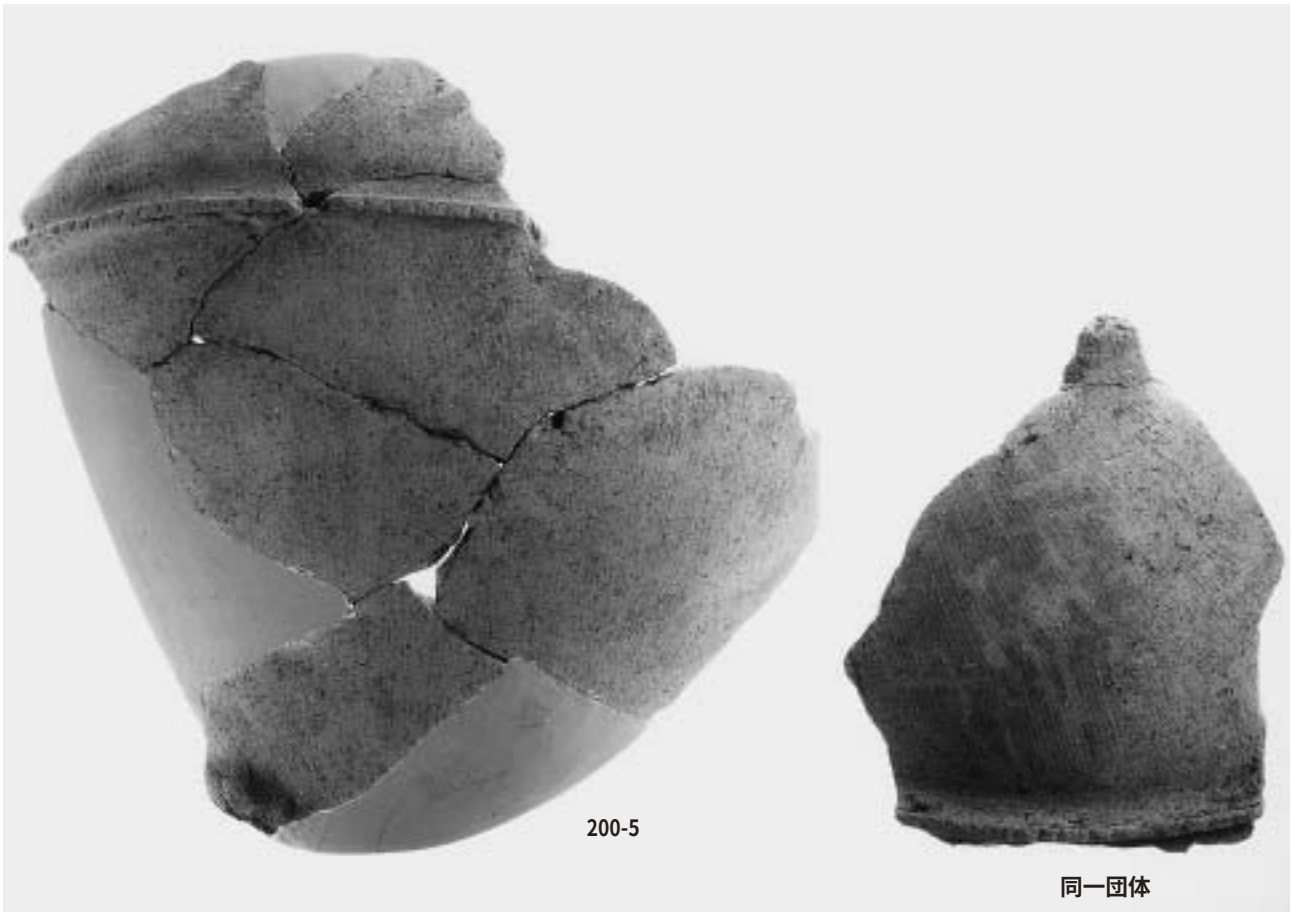
写真（PL）268　弥生時代の土器（S072、073、075）



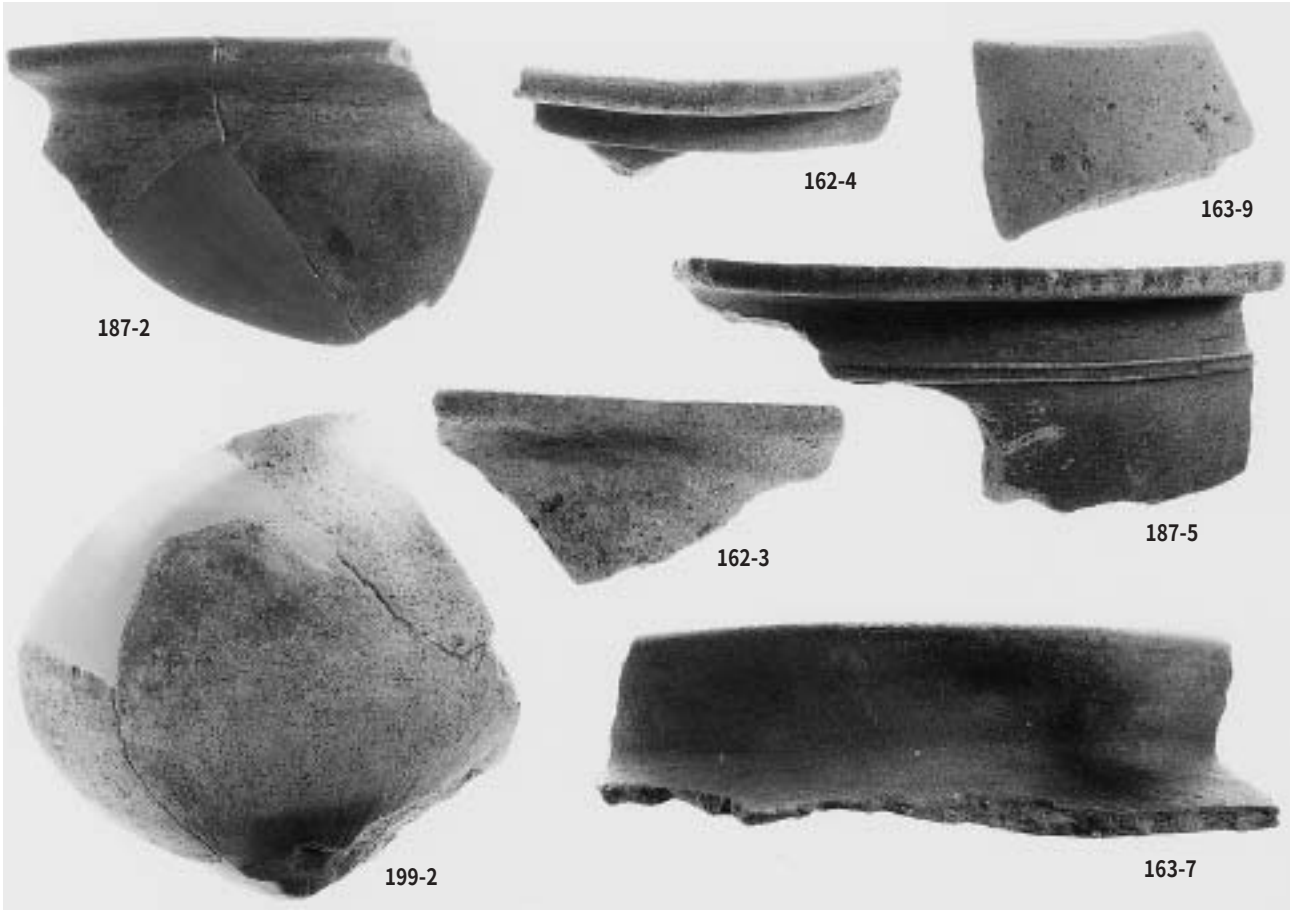
写真（PL）269　弥生時代の土器（S075、077）



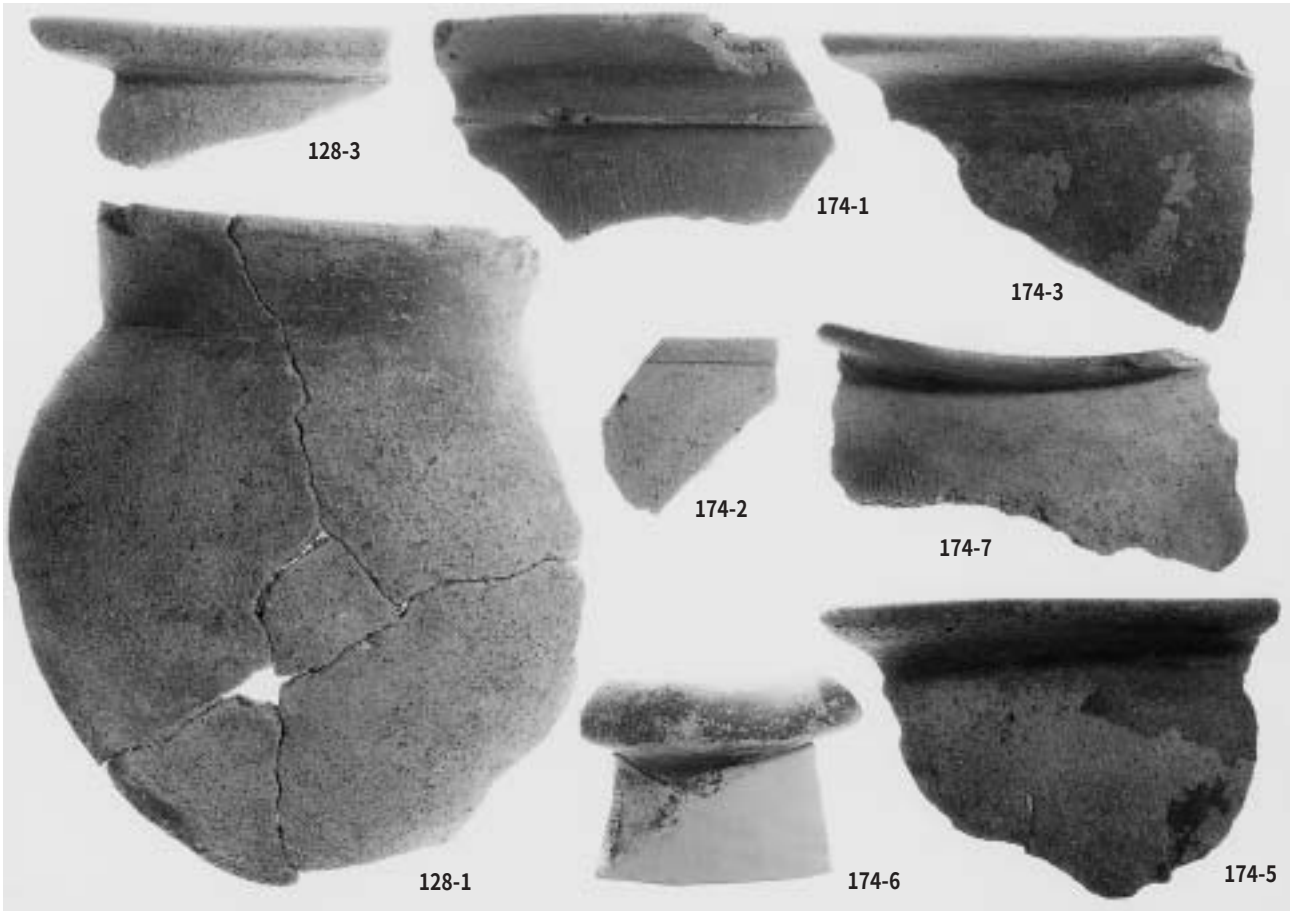
写真（PL）270　弥生時代の土器（S083、085、088）



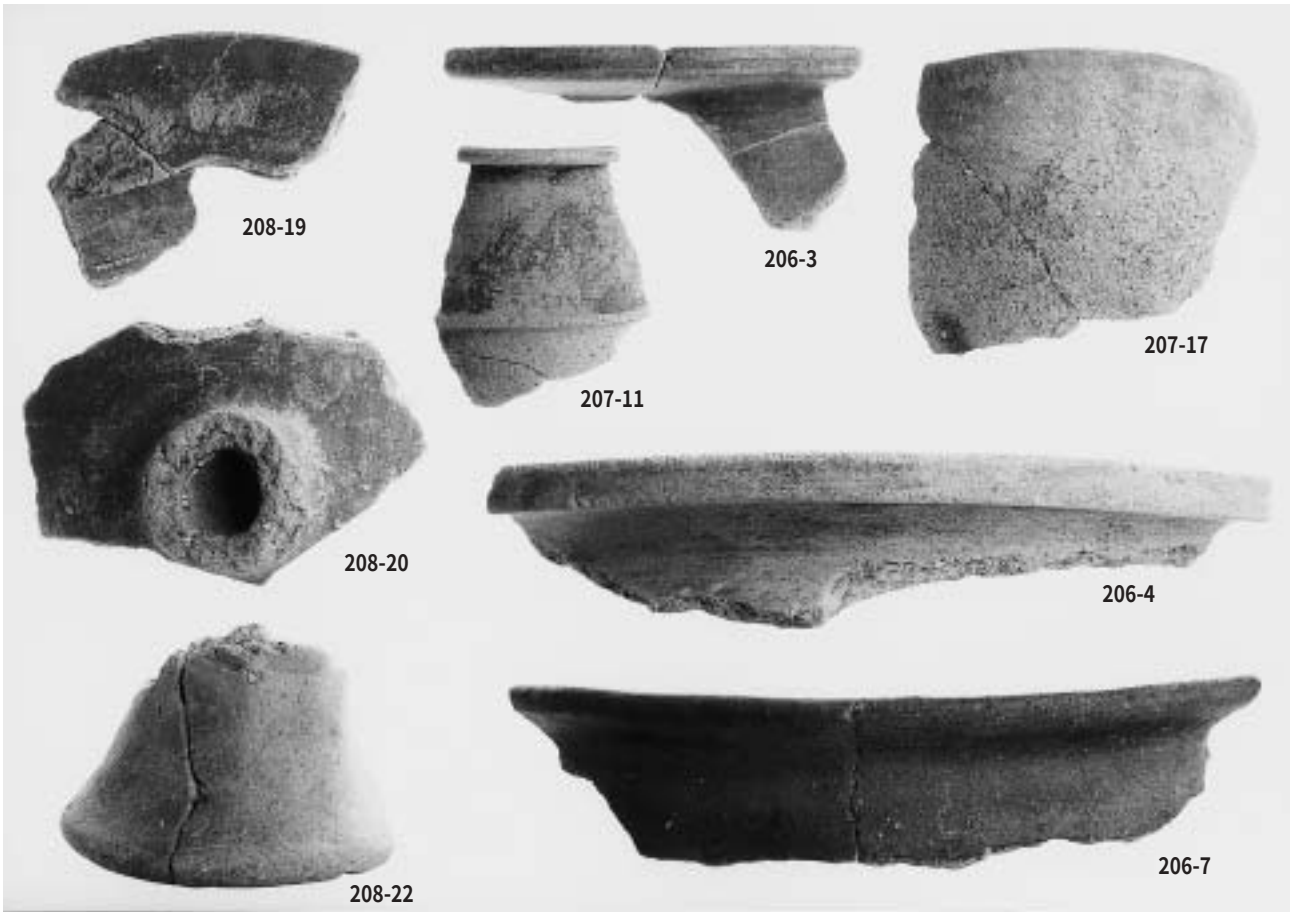
写真（PL）271　弥生時代の土器（S088）



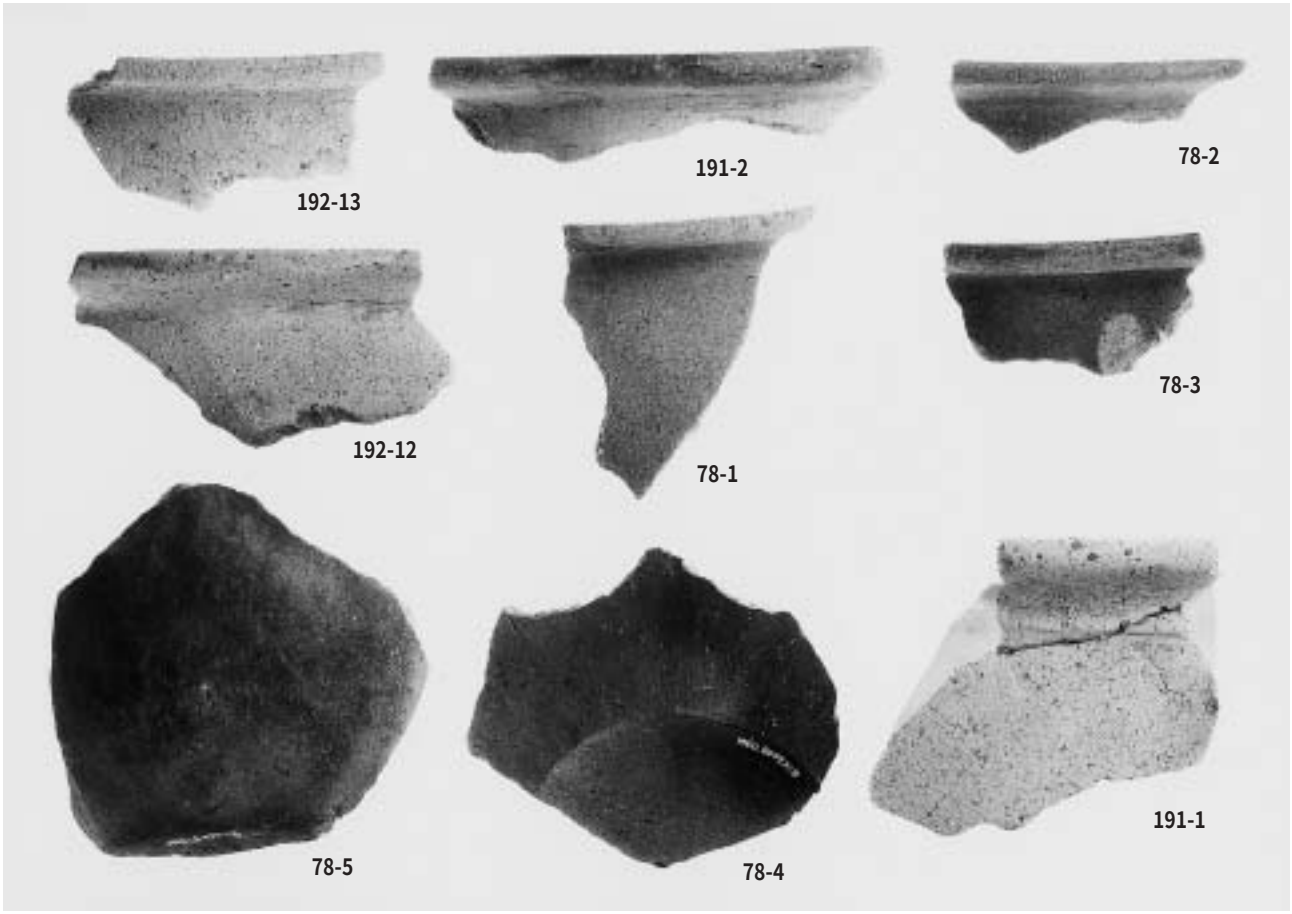
写真（PL）272　弥生時代の土器（S088、090、109）



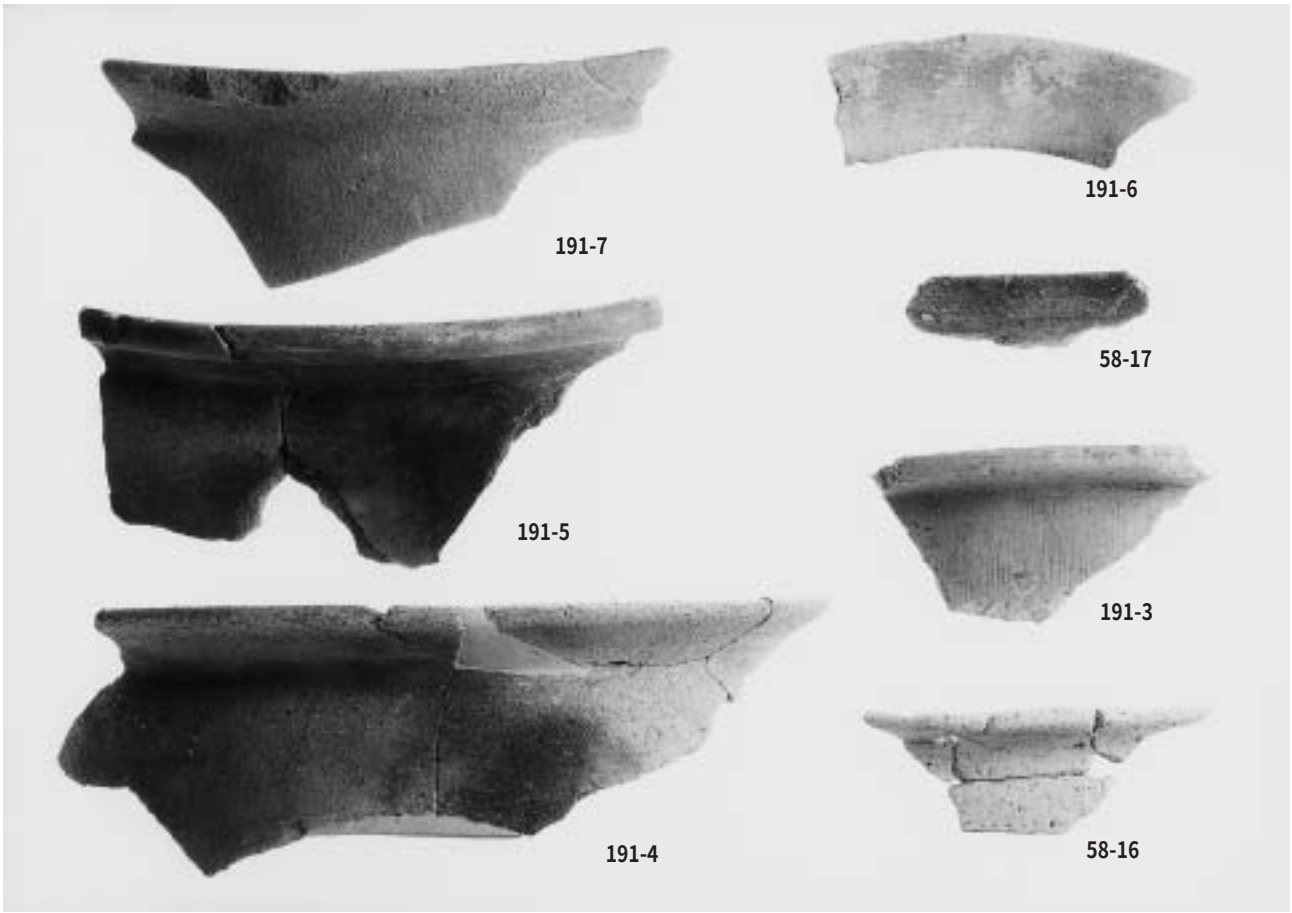
写真（PL）273　弥生時代の土器（S126、128）



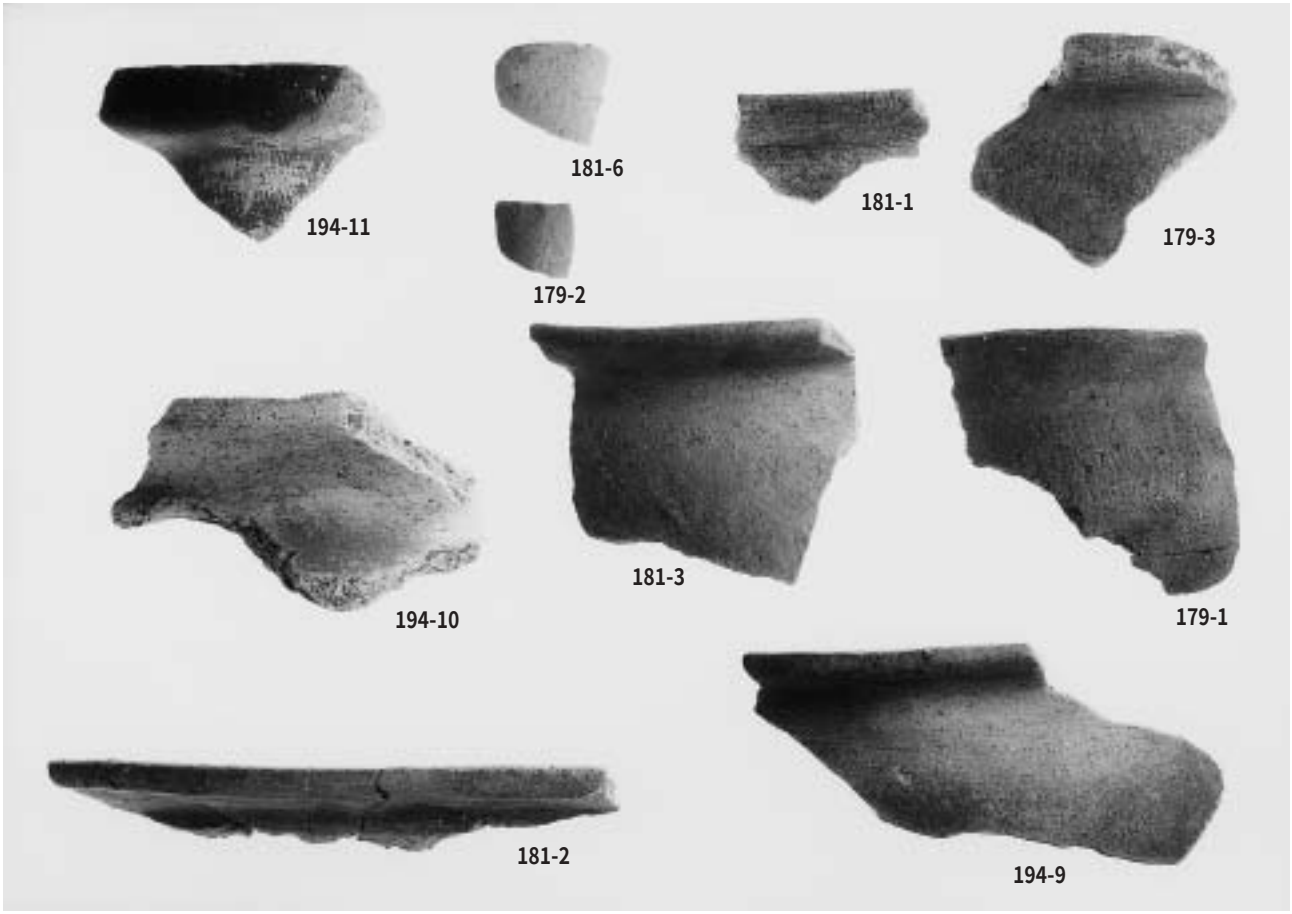
写真（PL）274　弥生時代の土器（S091）



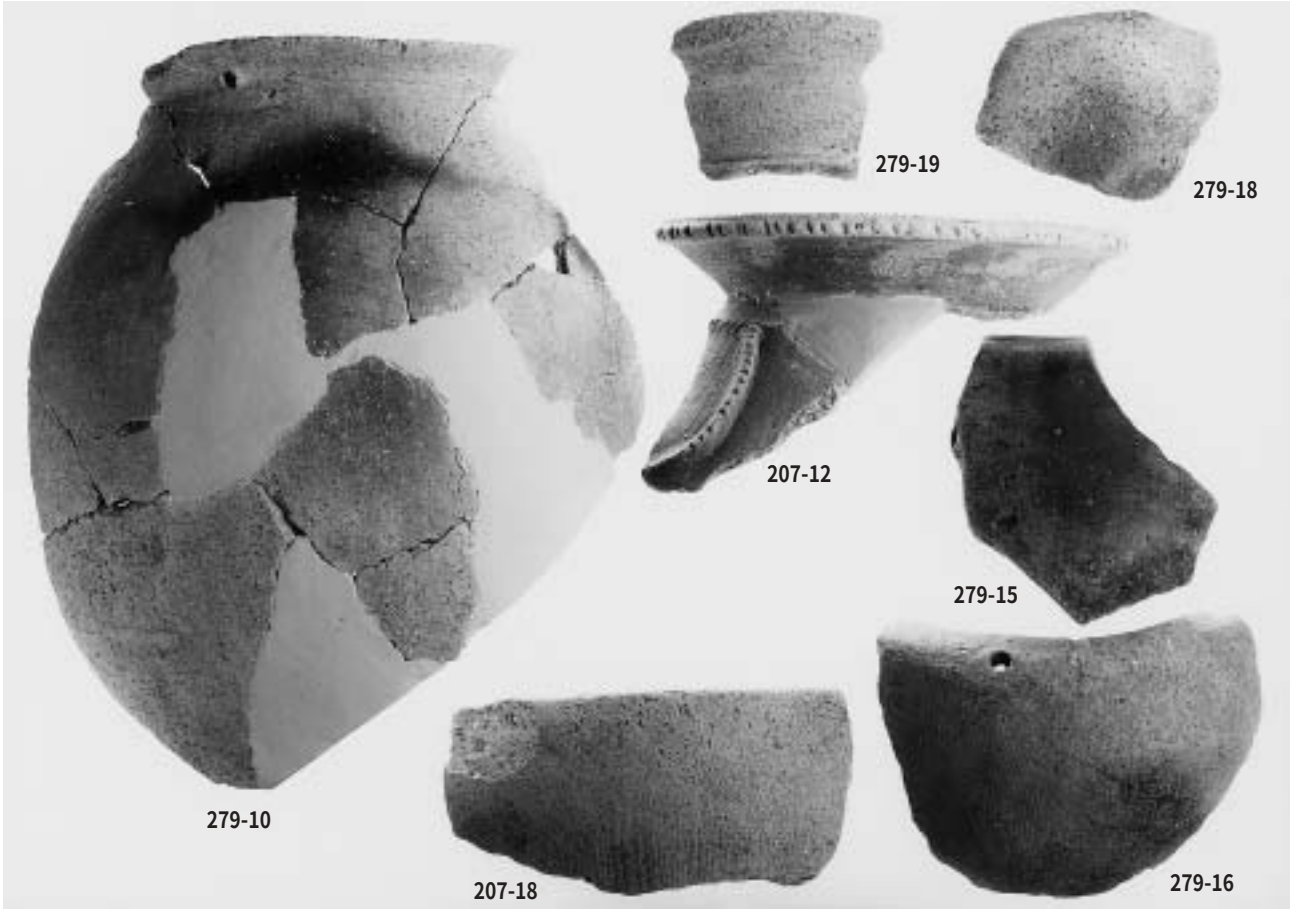
写真（PL）275　弥生時代の土器（S097、133、134）



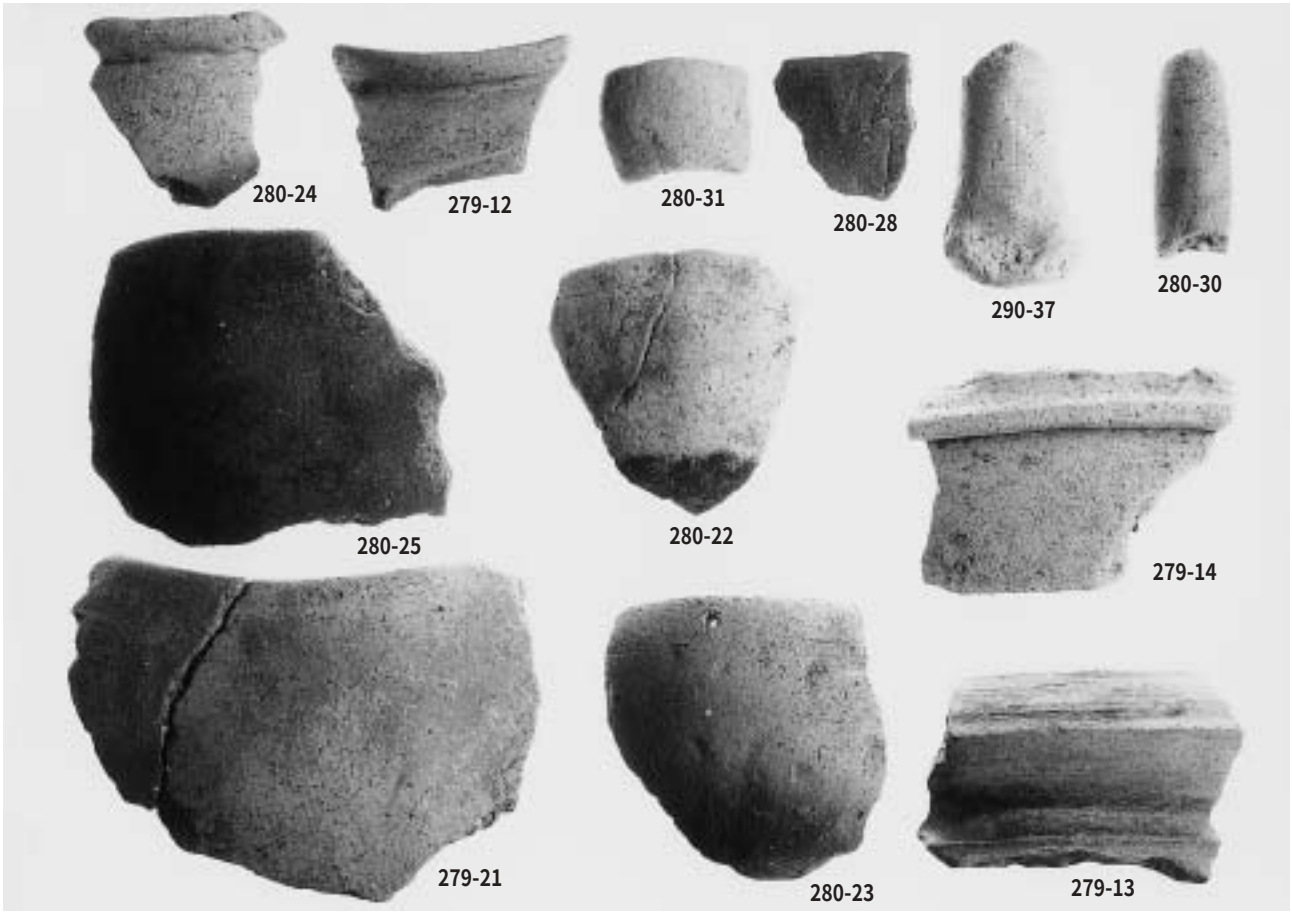
写真（PL）276　弥生時代の土器（S130、134、145）



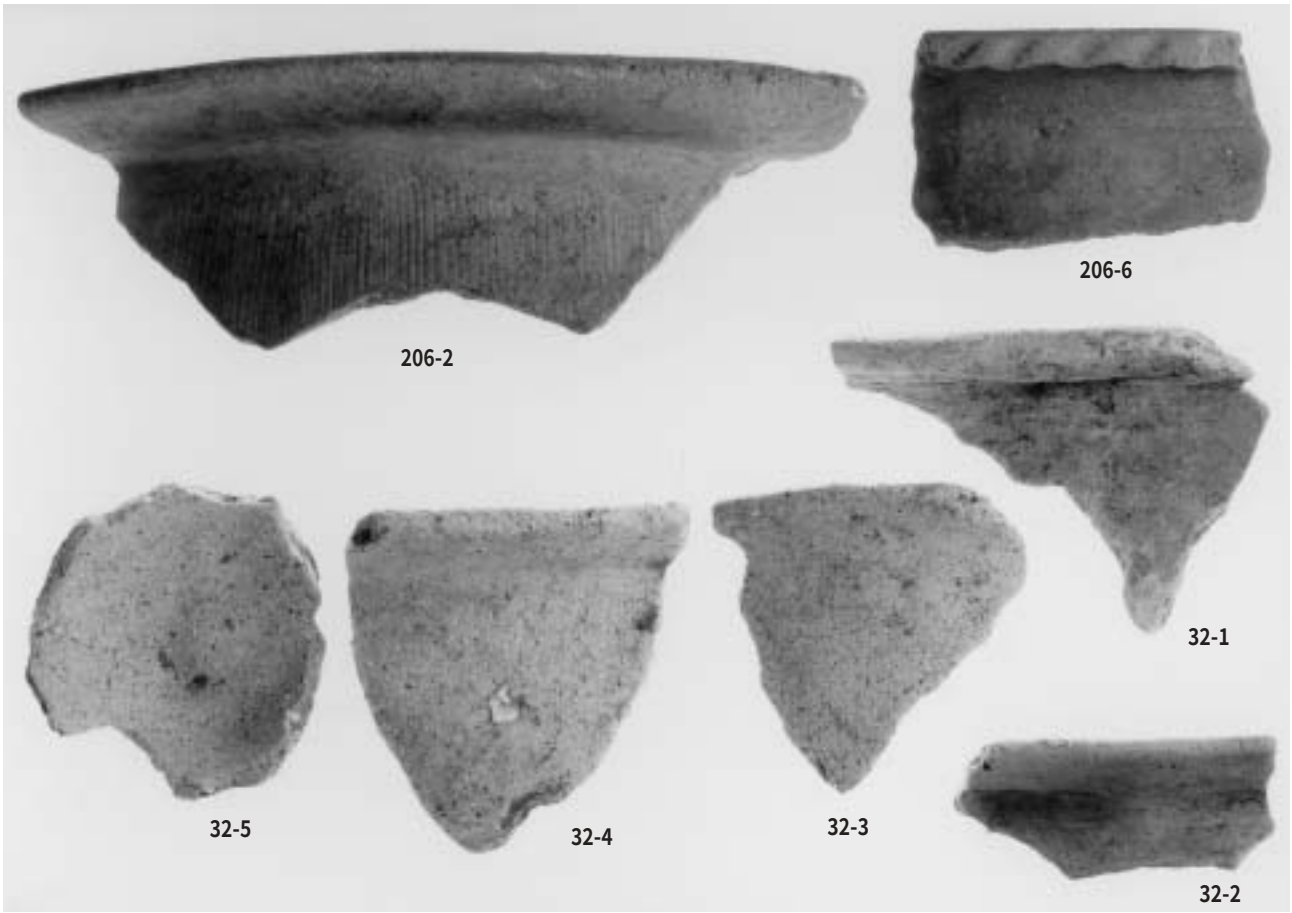
写真（PL）277　弥生時代の土器（S136、138、139）



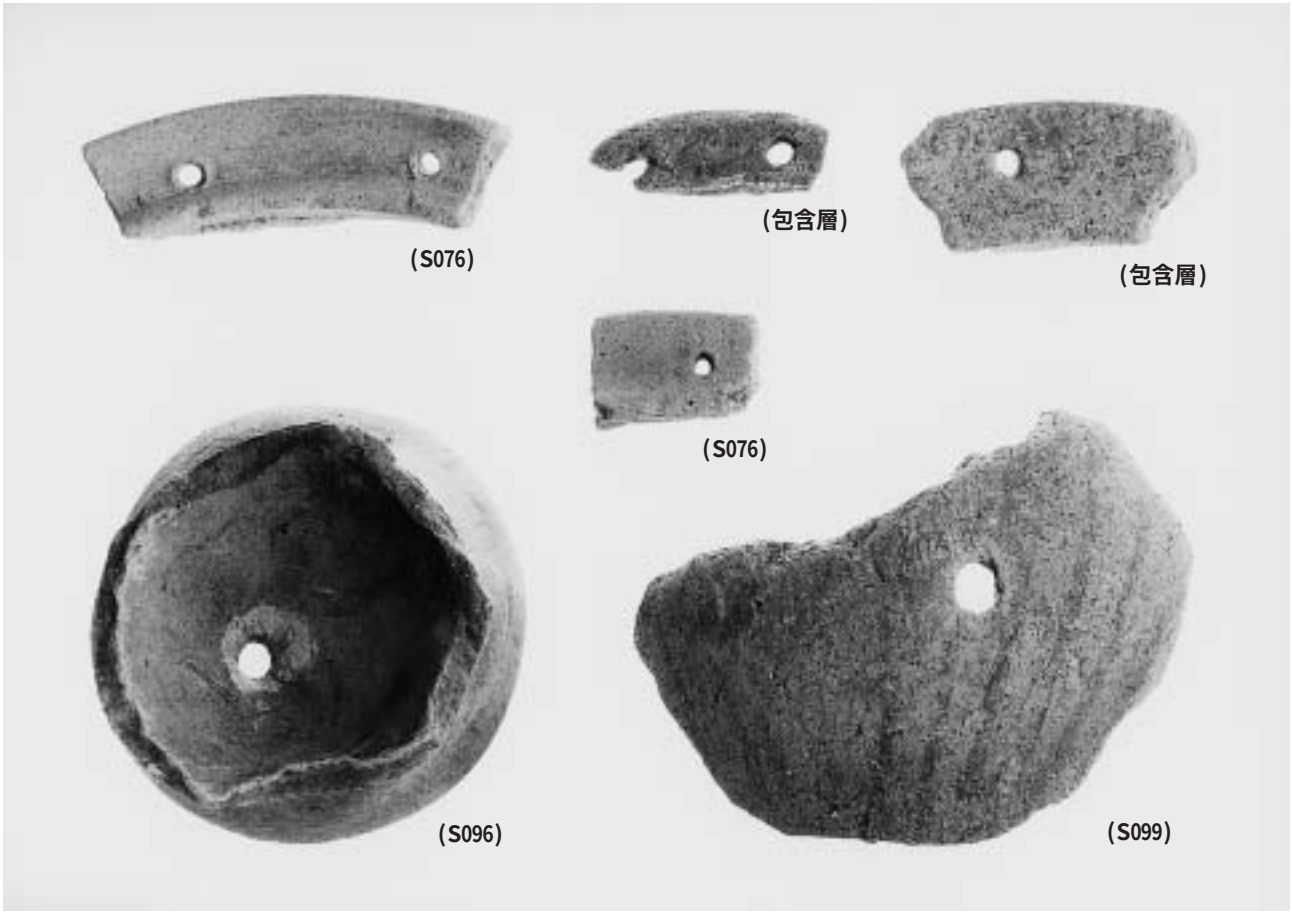
写真（PL）278　弥生時代の土器（S091、包含層）



写真（PL）279　弥生時代の土器（包含層）

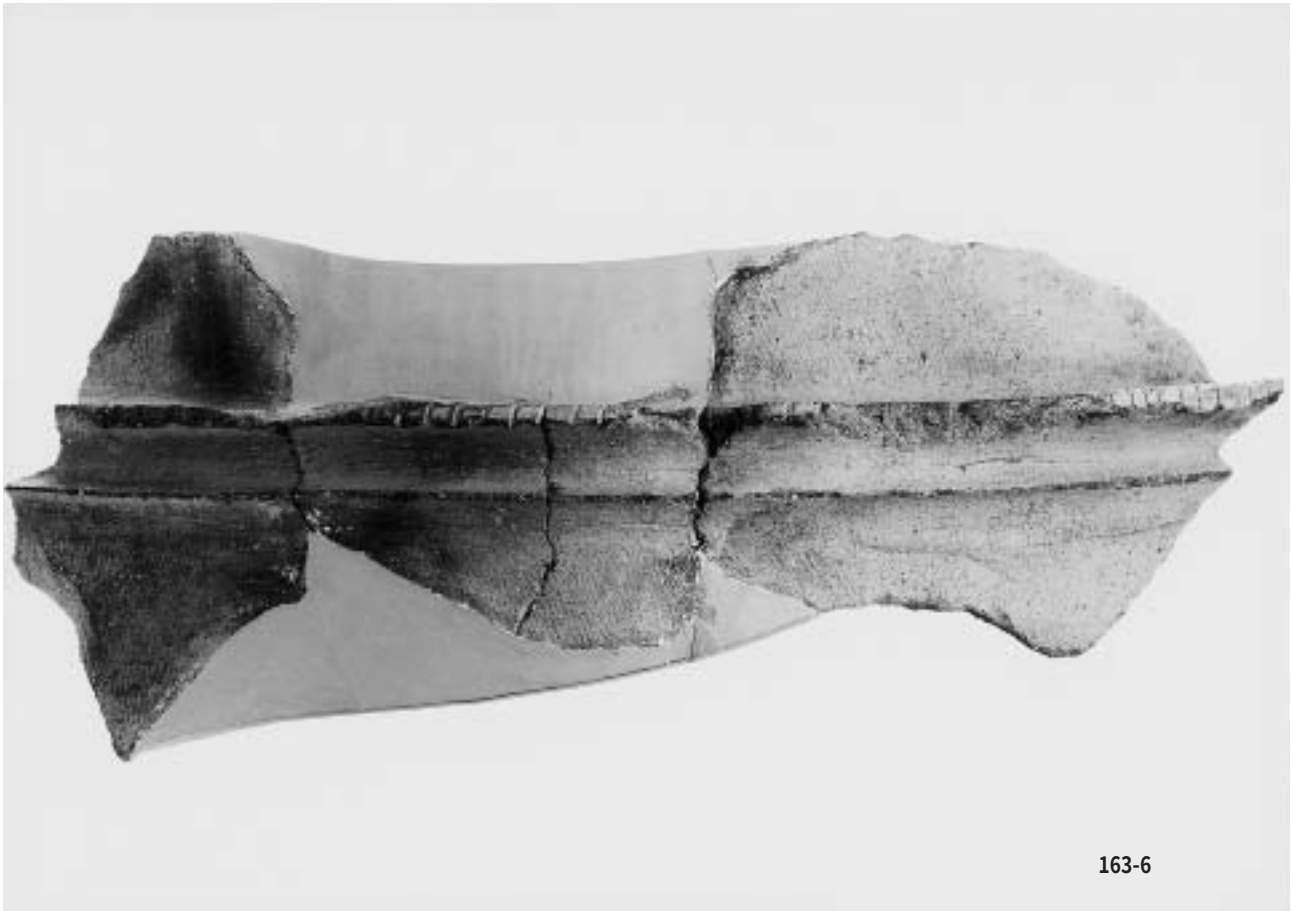


写真（PL）280　弥生時代の土器（S017、091）



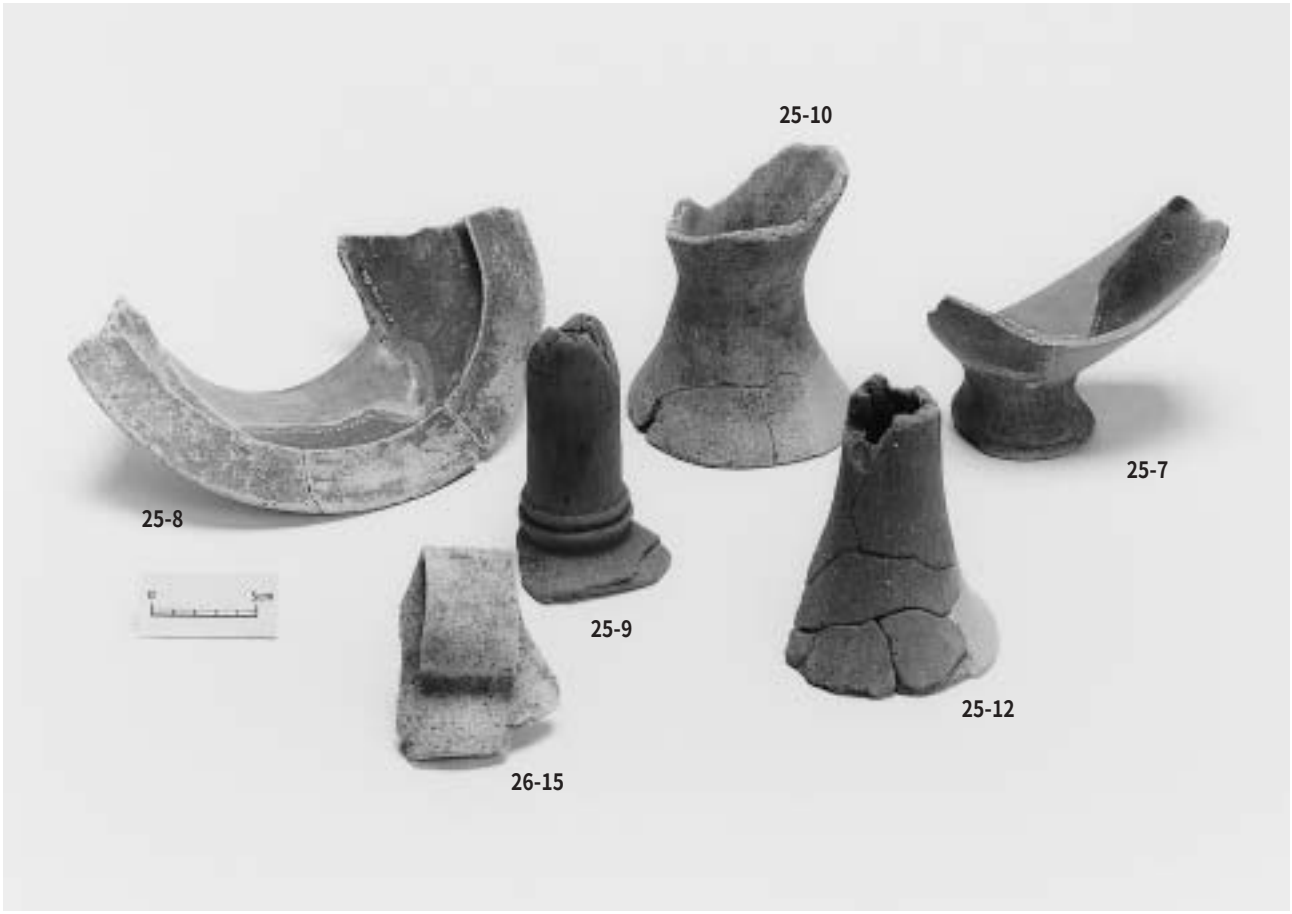
写真（PL）281　弥生時代の土器（写真のみ：S076、096、099、包含層）

写真（PL）282　弥生時代の土器（S077）



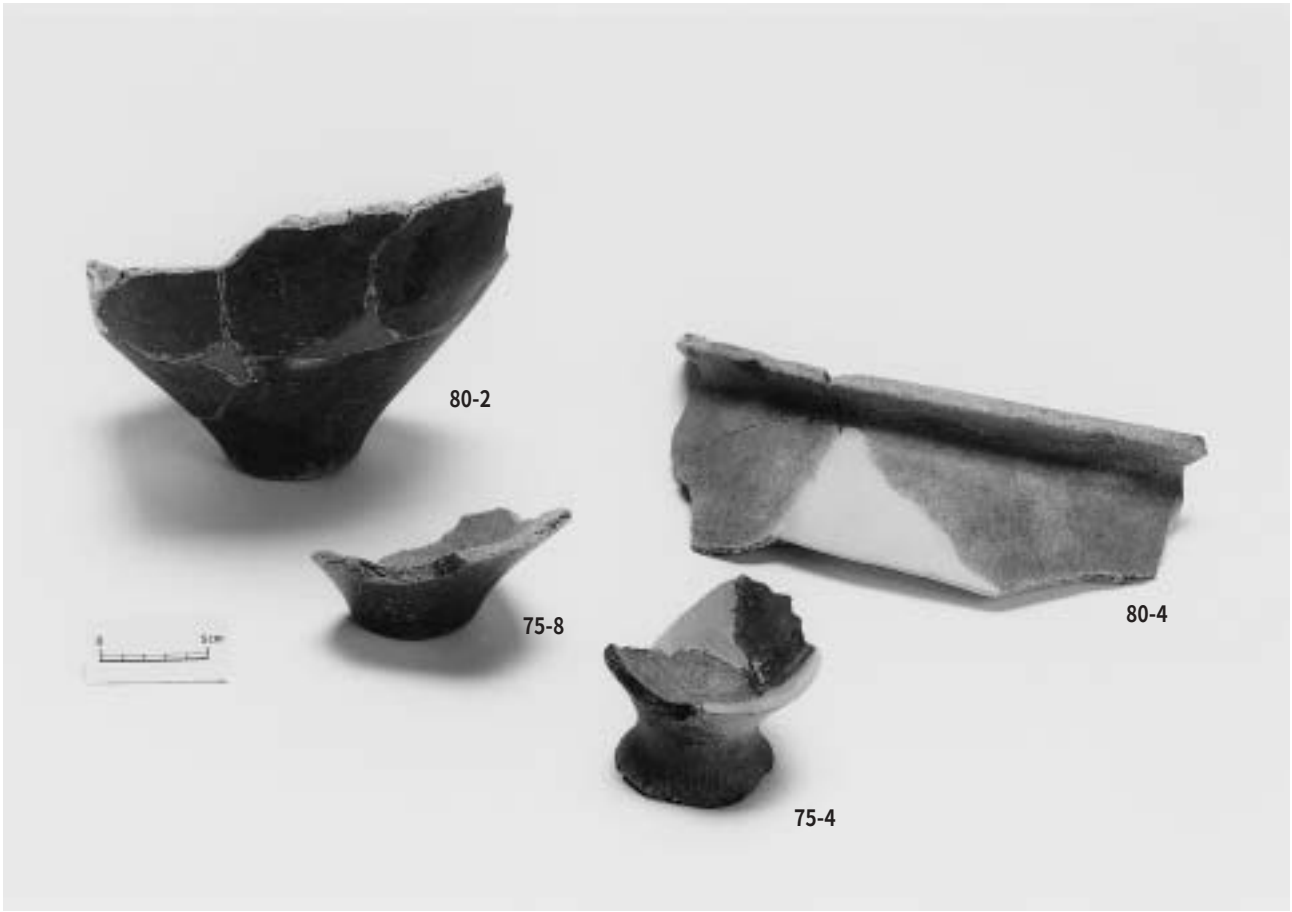
写真（PL）283　弥生時代の土器（S090）

写真（PL）284　弥生時代の土器（S001）



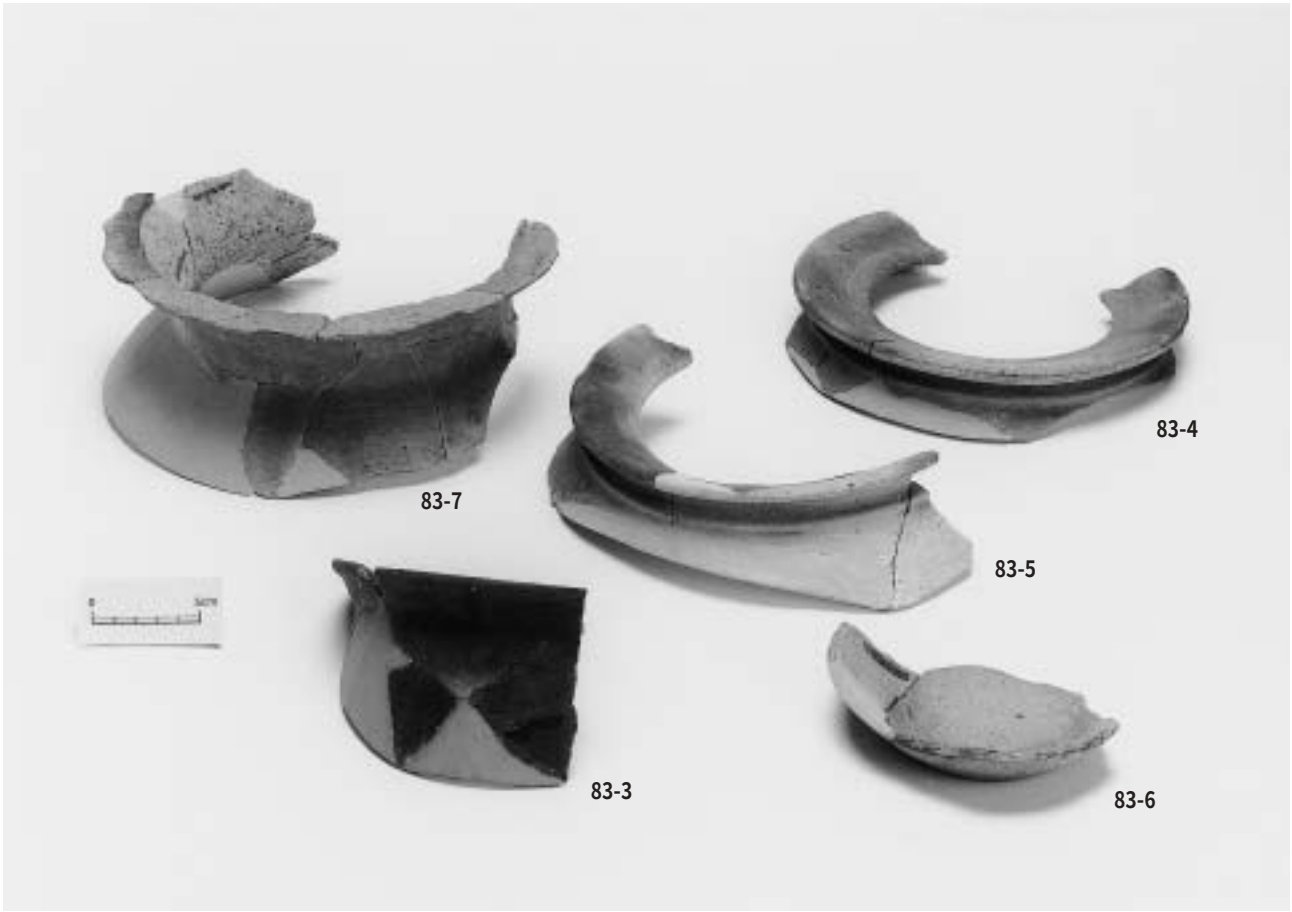
写真（PL）285　弥生時代の土器（S003）

写真（PL）286　弥生時代の土器（S011、020）



写真（PL）287　弥生時代の土器（S095、100）

写真（PL）288　弥生時代の土器（S081、082）



写真（PL）289　弥生時代の土器（S101）

写真（PL）290　弥生時代の土器（S147）

写真（PL）291　弥生時代の土器（S026、029）

写真（PL）292　弥生時代の土器（S089）

写真（PL）293　弥生時代の土器（S076、078）

写真（PL）294　弥生時代の土器（S044、054）

写真（PL）295　弥生時代の土器（S092、099）

写真（PL）296　弥生時代の土器（S092、147）

写真（PL）297　弥生時代の土器（S140）

写真（PL）298　弥生時代の土器（S090、100）

写真（PL）299　弥生時代の土器（S095）

写真（PL）300　弥生時代の土器（S106）

写真（PL）301　弥生時代の土器（S106）

写真（PL）302　弥生時代の土器（S106）

写真（PL）303　弥生時代の土器（S106）

写真（PL）304　弥生時代の土器（S129、130、135、140、146）

写真（PL）305　弥生時代の土器（S033）

写真（PL）306　弥生時代の土器（S012、033、036、053、067）

写真（PL）307　弥生時代の土器（S046、053、067）

写真（PL）308　弥生時代の土器（S072、073）

写真（PL）309　弥生時代の土器（S075）

写真（PL）310　弥生時代の土器（S075、077）

写真（PL）311　弥生時代の土器（S083、088）

写真（PL）312　弥生時代の土器（S090、109）

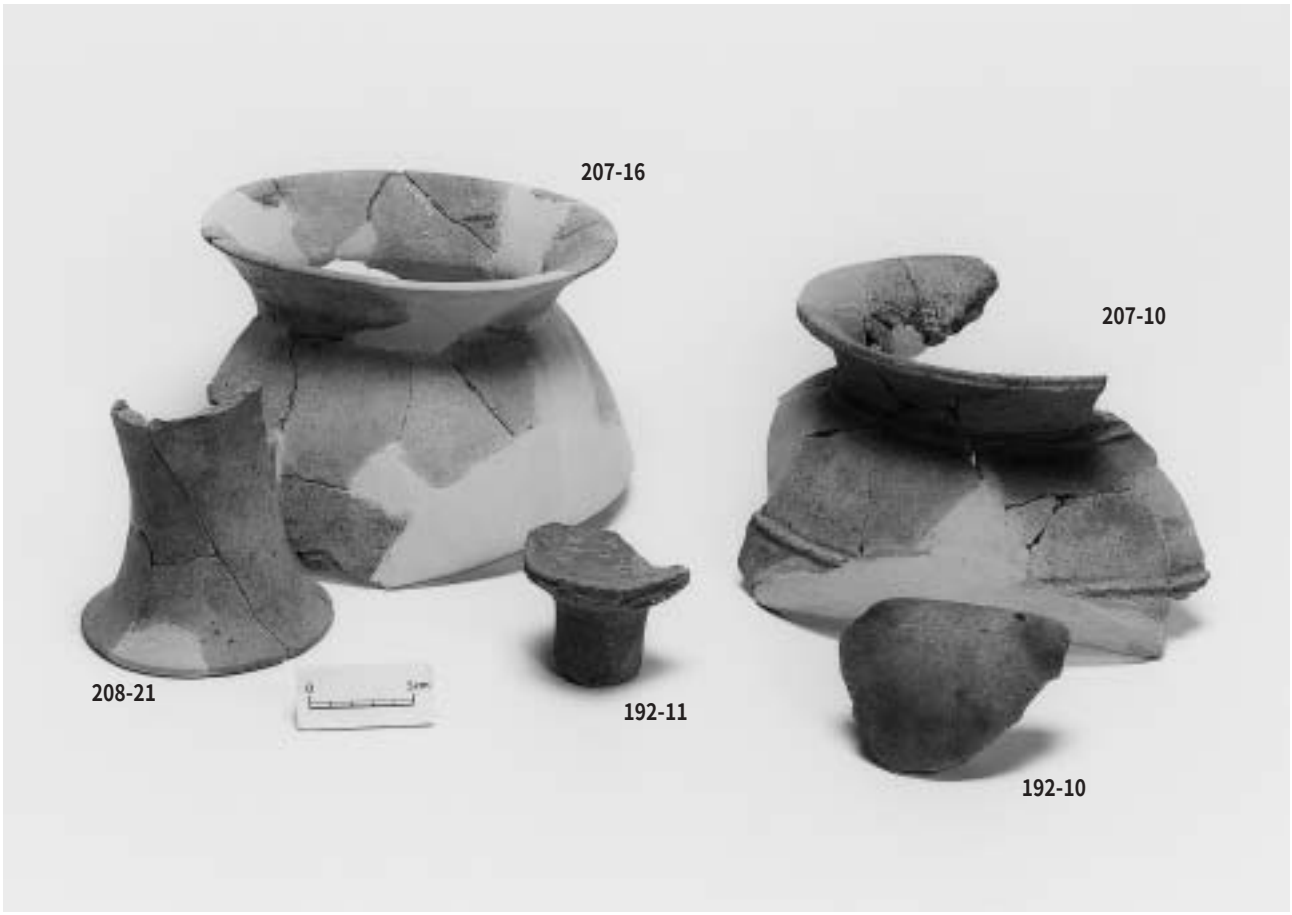
写真（PL）313　弥生時代の土器（S118）

写真（PL）314　弥生時代の土器（S118）

写真（PL）315　弥生時代の土器（S118、125）

写真（PL）316　弥生時代の土器（S136、138、139）

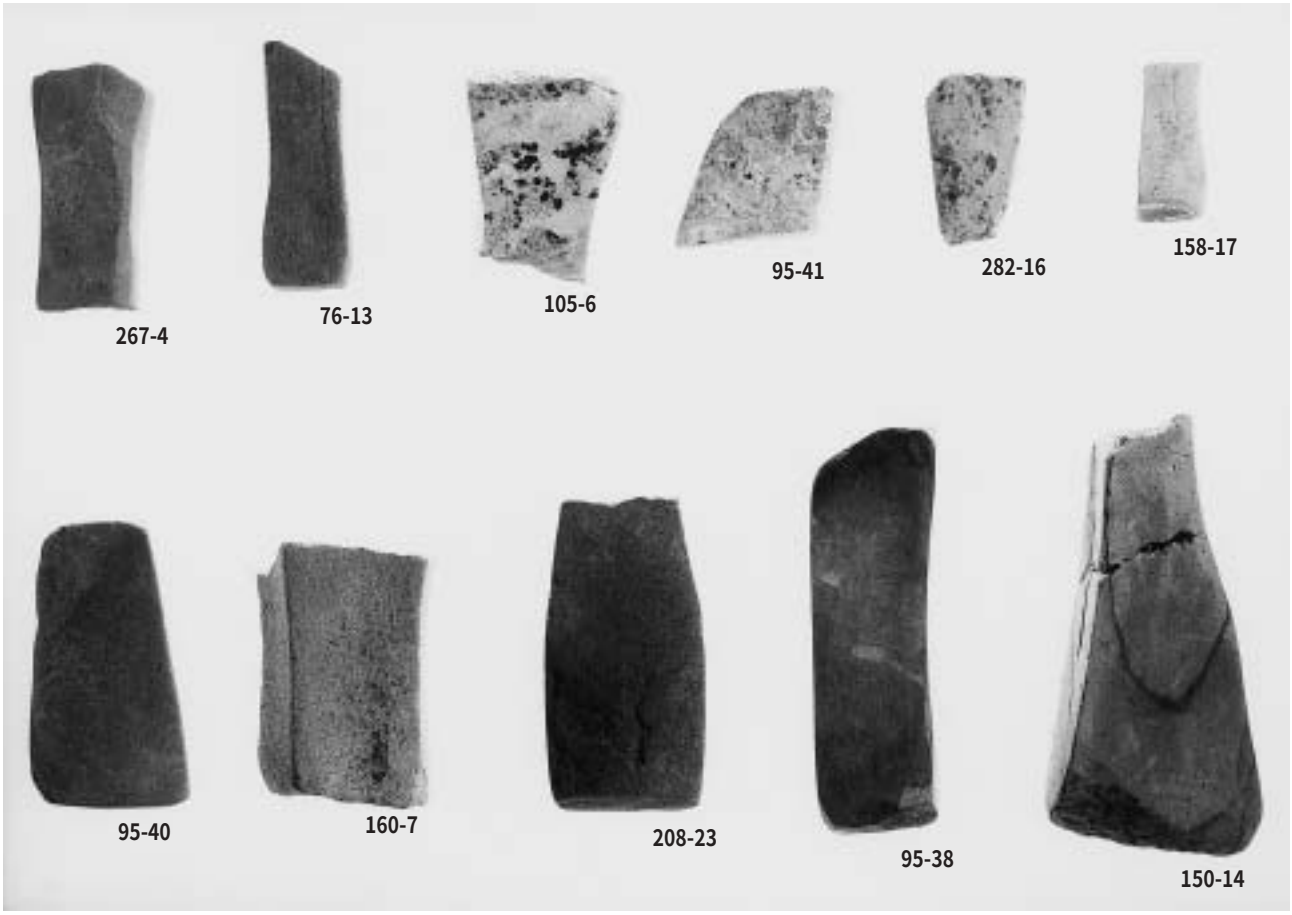
写真（PL）317　弥生時代の土器（S139）



写真（PL）318　弥生時代の土器（S091、133）

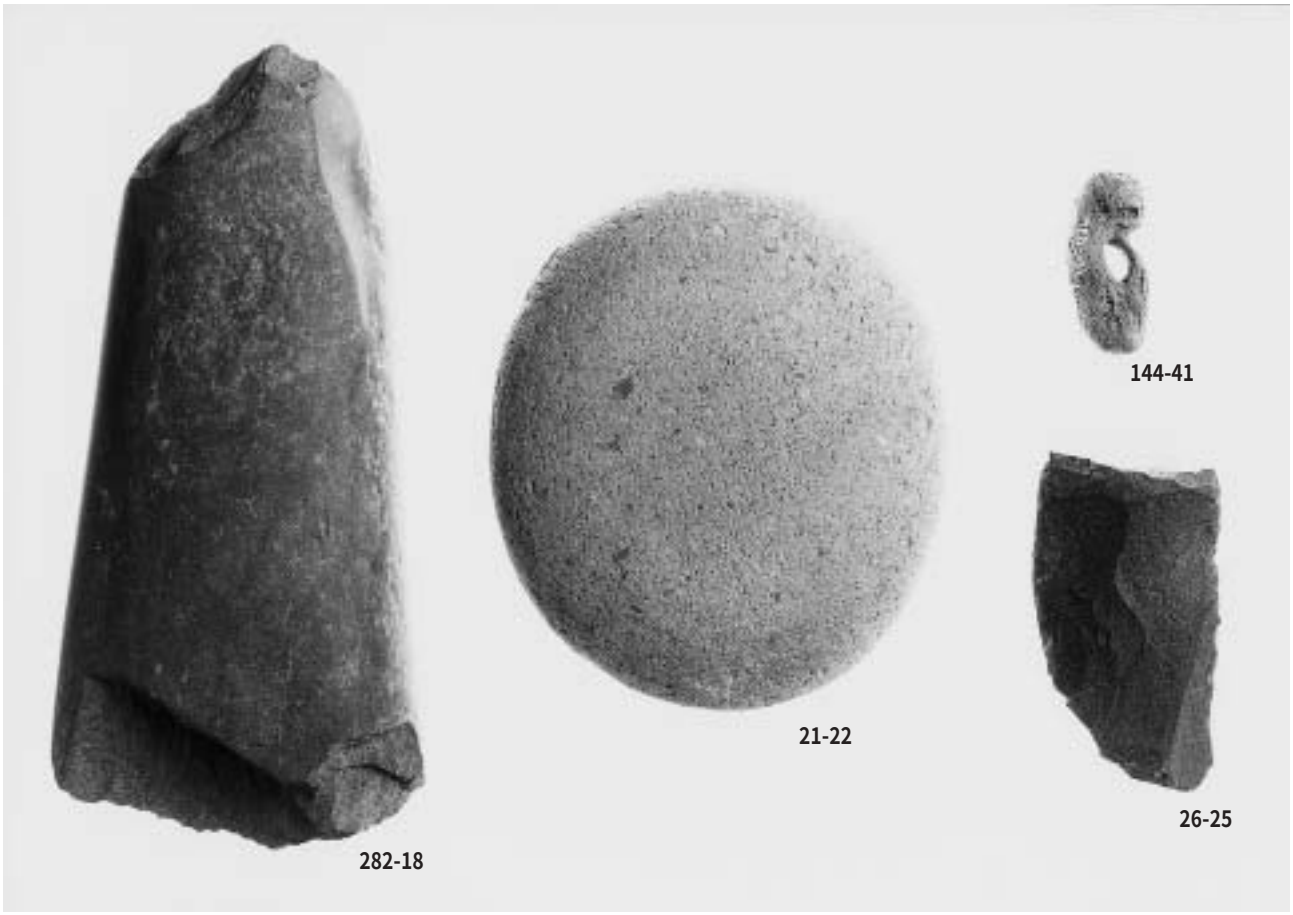
写真（PL）319　弥生時代の土器（S091、包含層）

写真（PL）320　弥生時代、時期不明の土器（包含層）

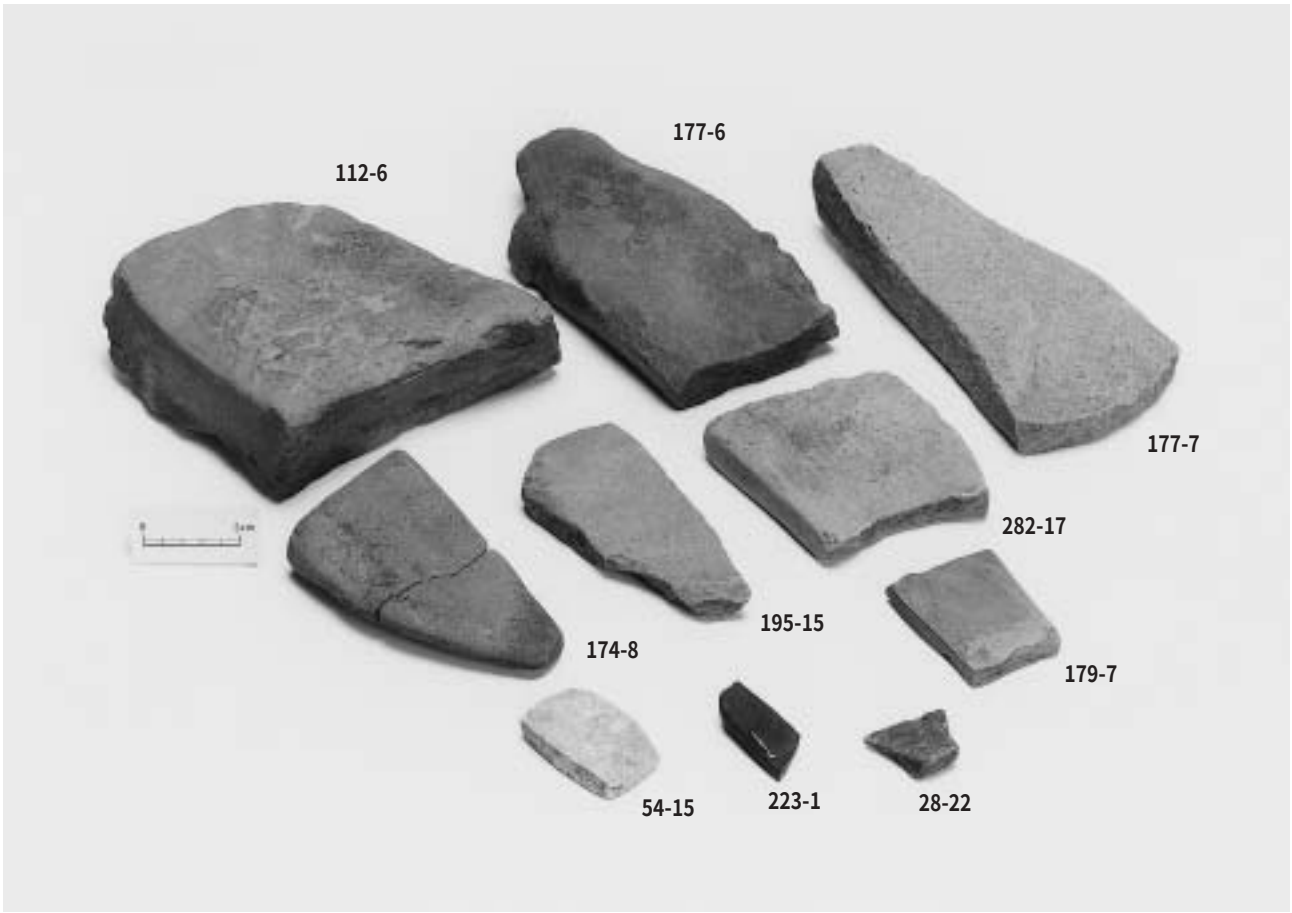


写真（PL）321　弥生時代の石器（砥石）

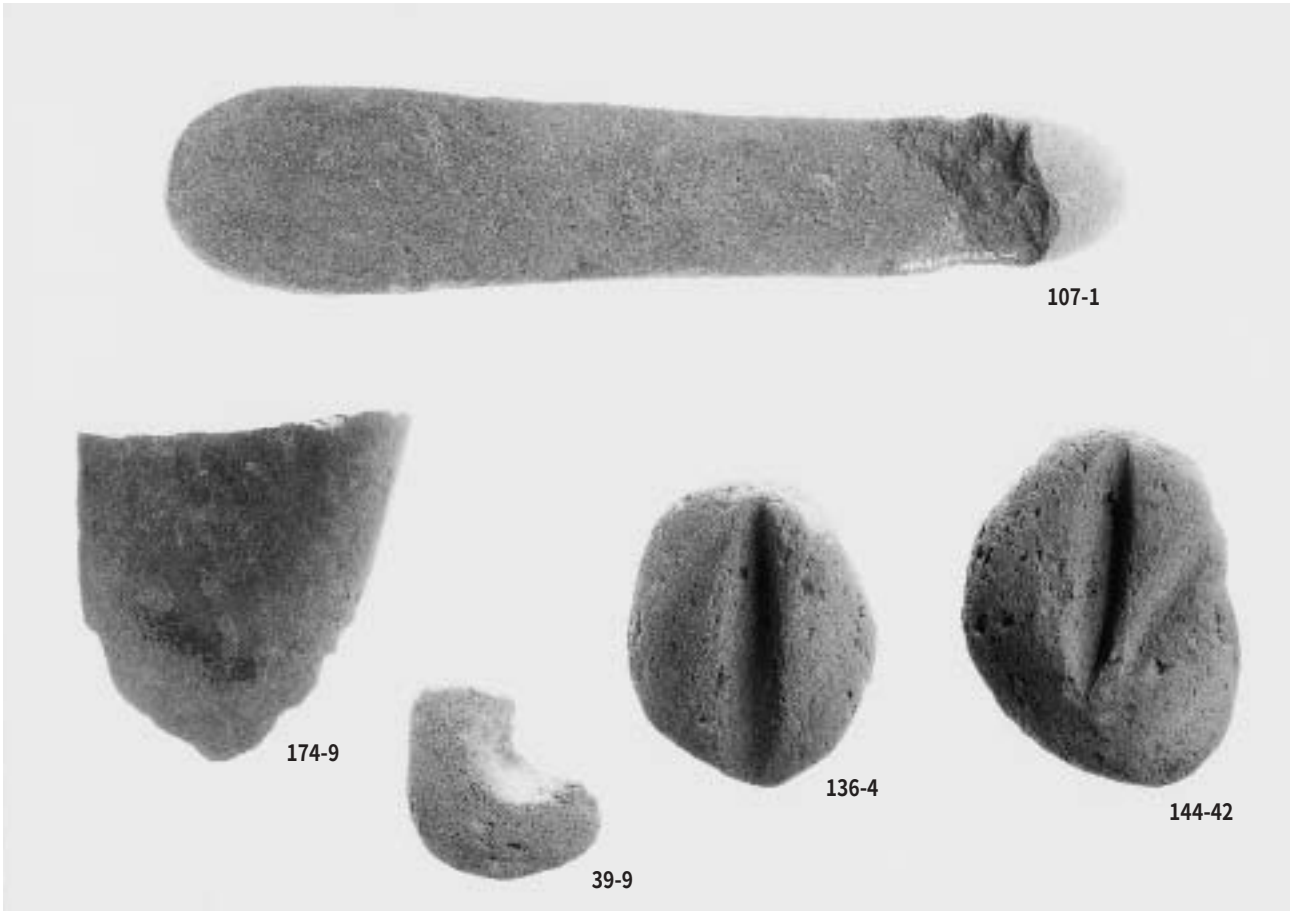
写真（PL）322　弥生時代の石器（石皿）



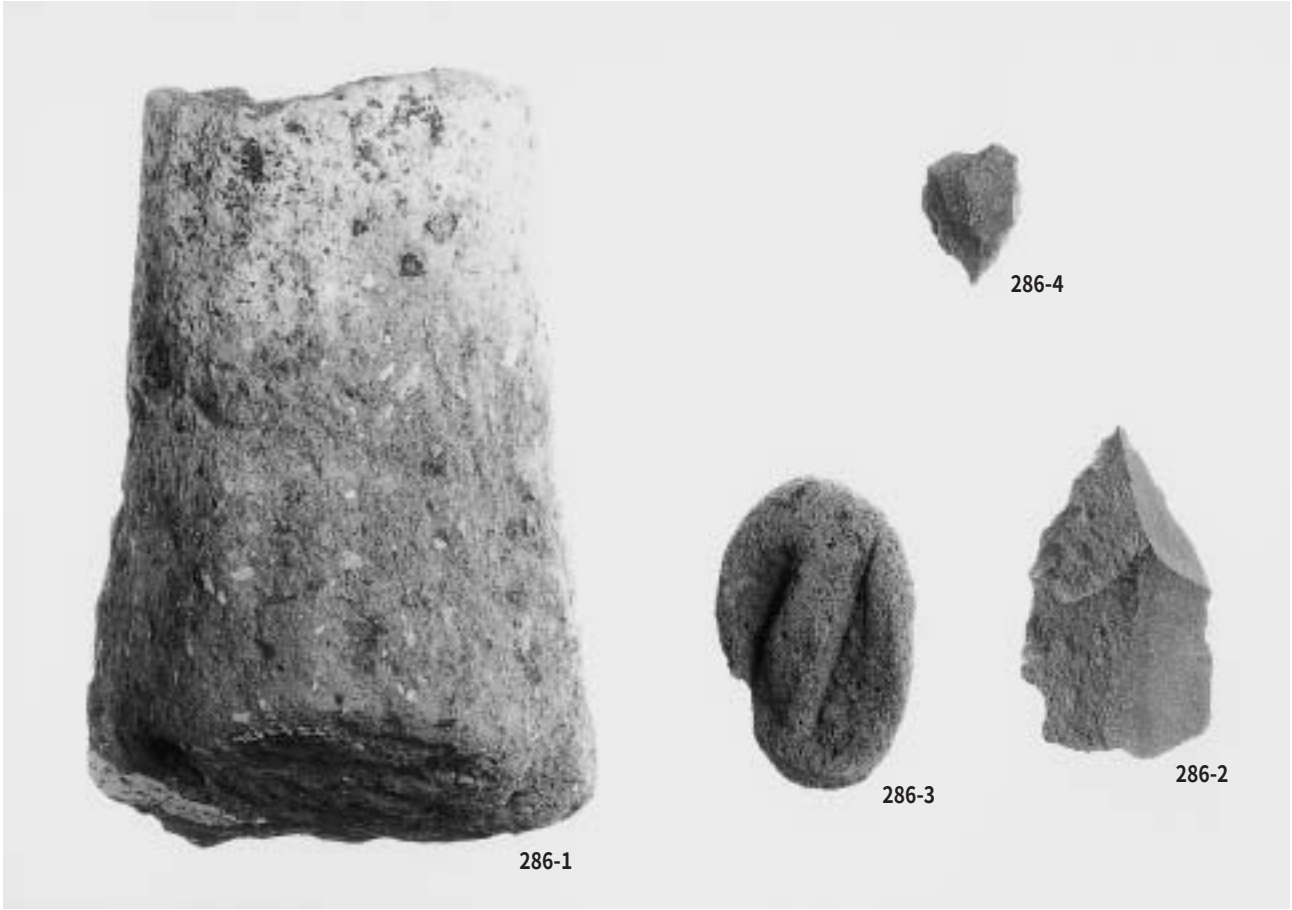
写真（PL）323　弥生時代の石器（太型蛤刃石斧、磨石、浮子、両面加工石器）



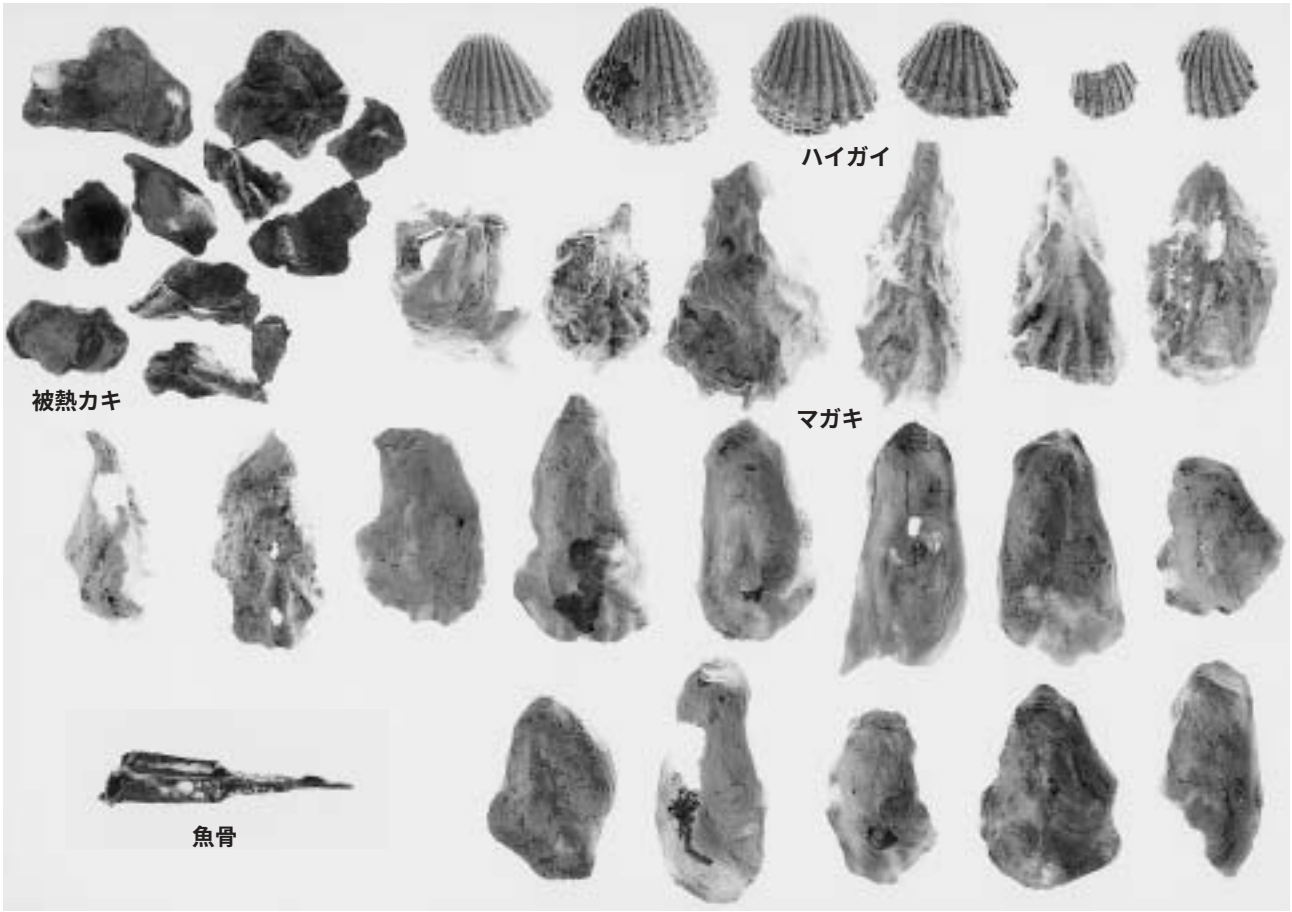
写真（PL）324　弥生時代の石器（石皿、砥石）



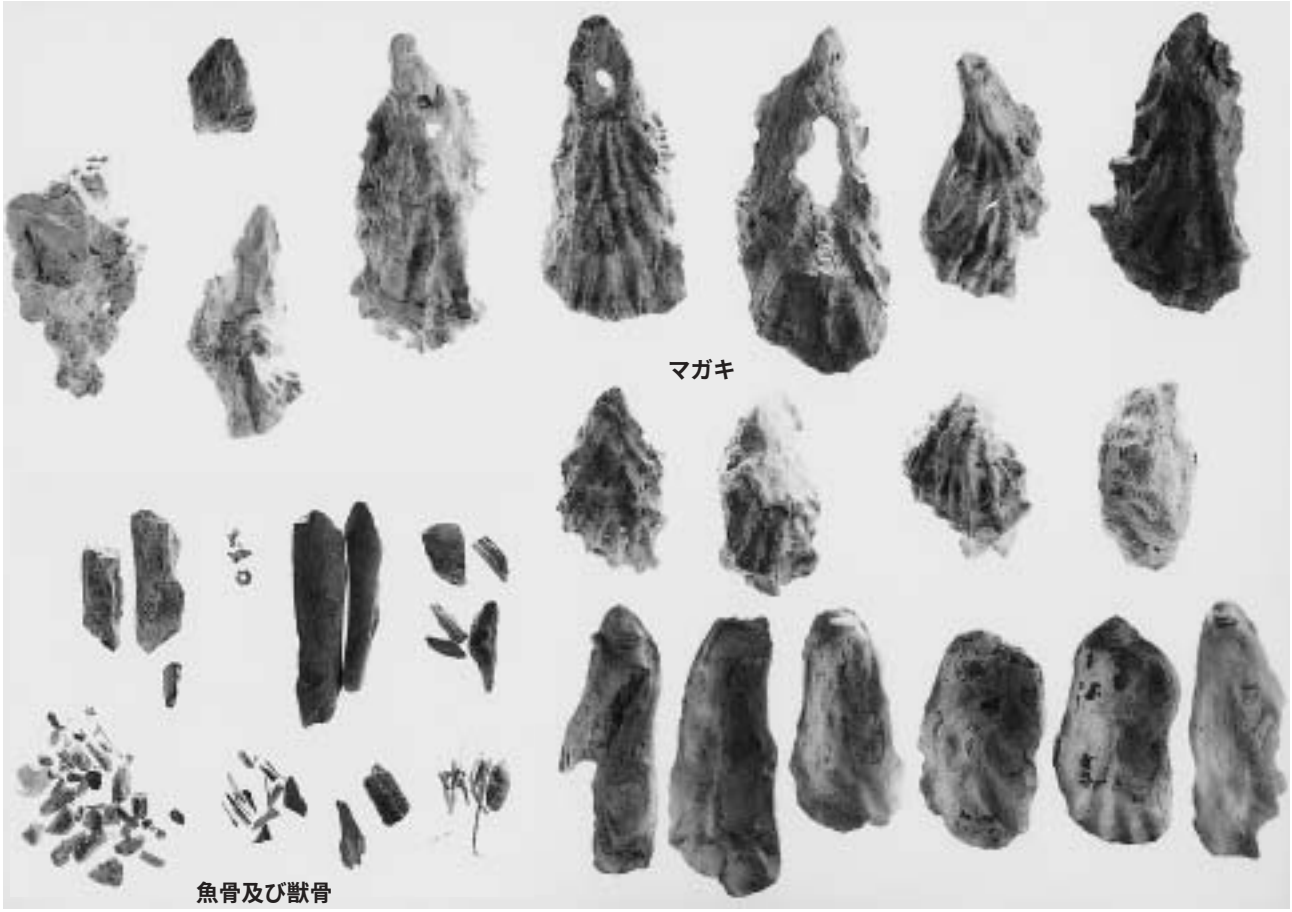
写真（PL）325　出土石器（砥石、軽石有溝製品）



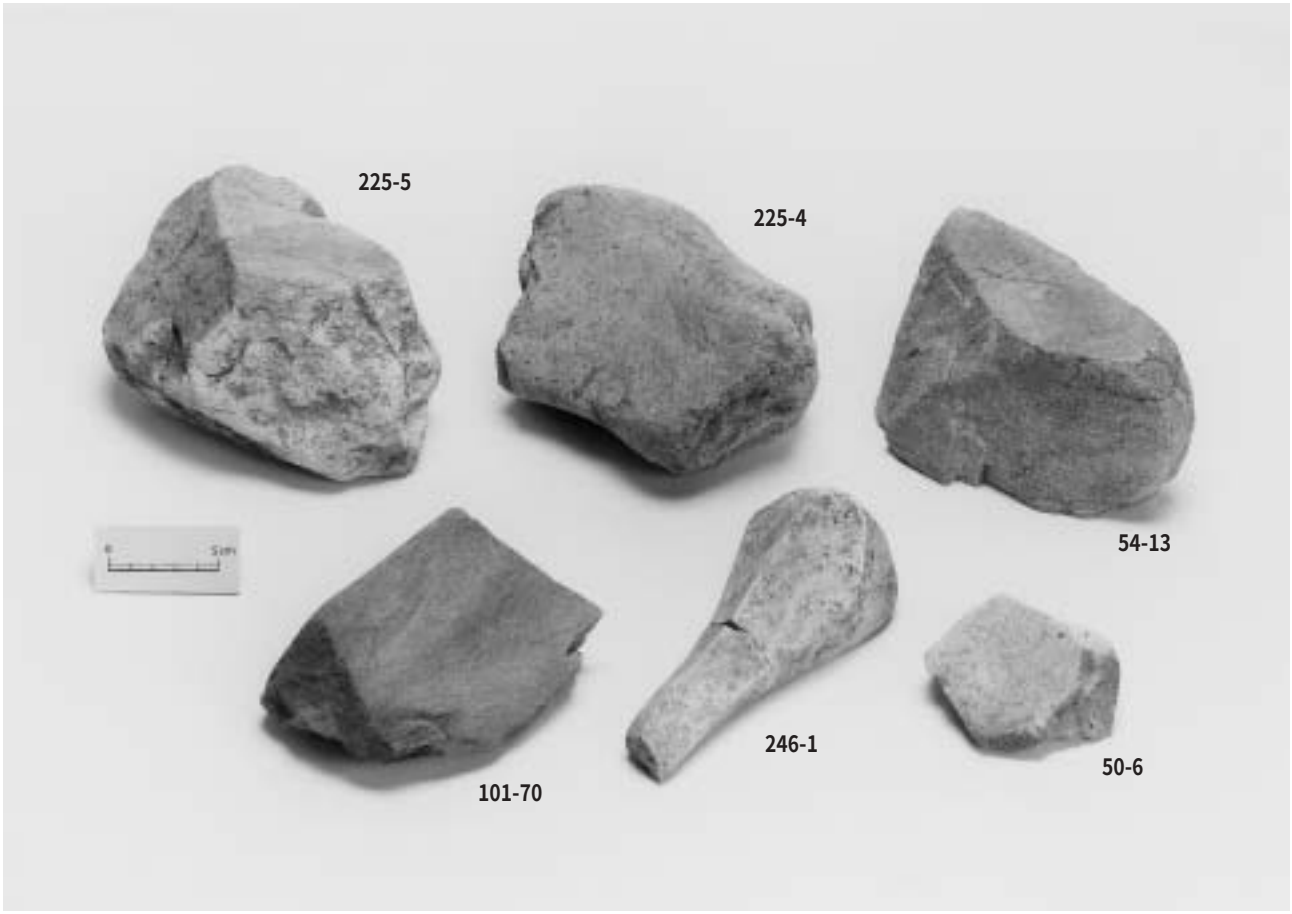
写真（PL）326　出土石器（支脚、軽石製品、石錐、尖頭状石器）



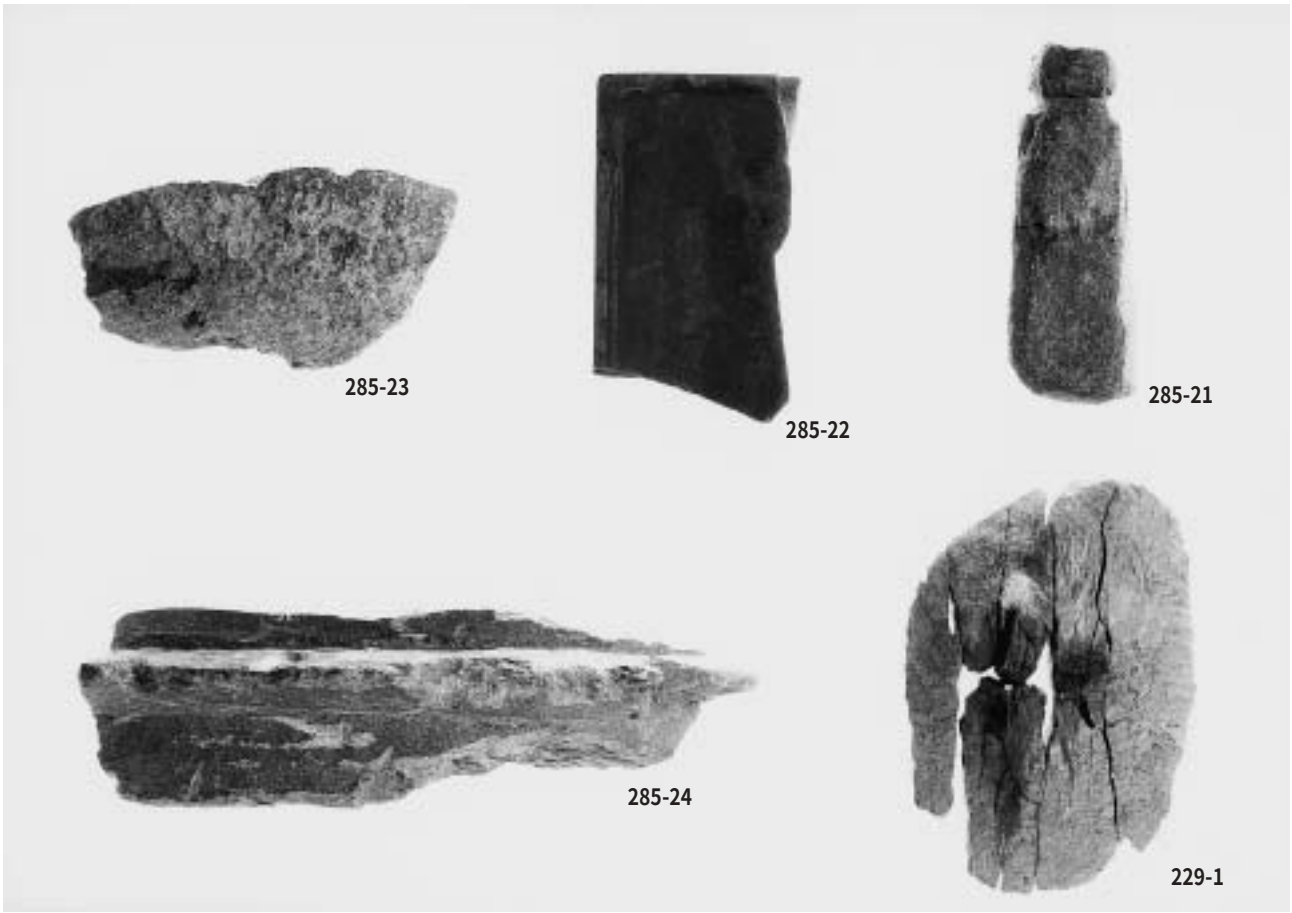
写真（PL）327　出土貝類・骨類（写真のみ：S093）



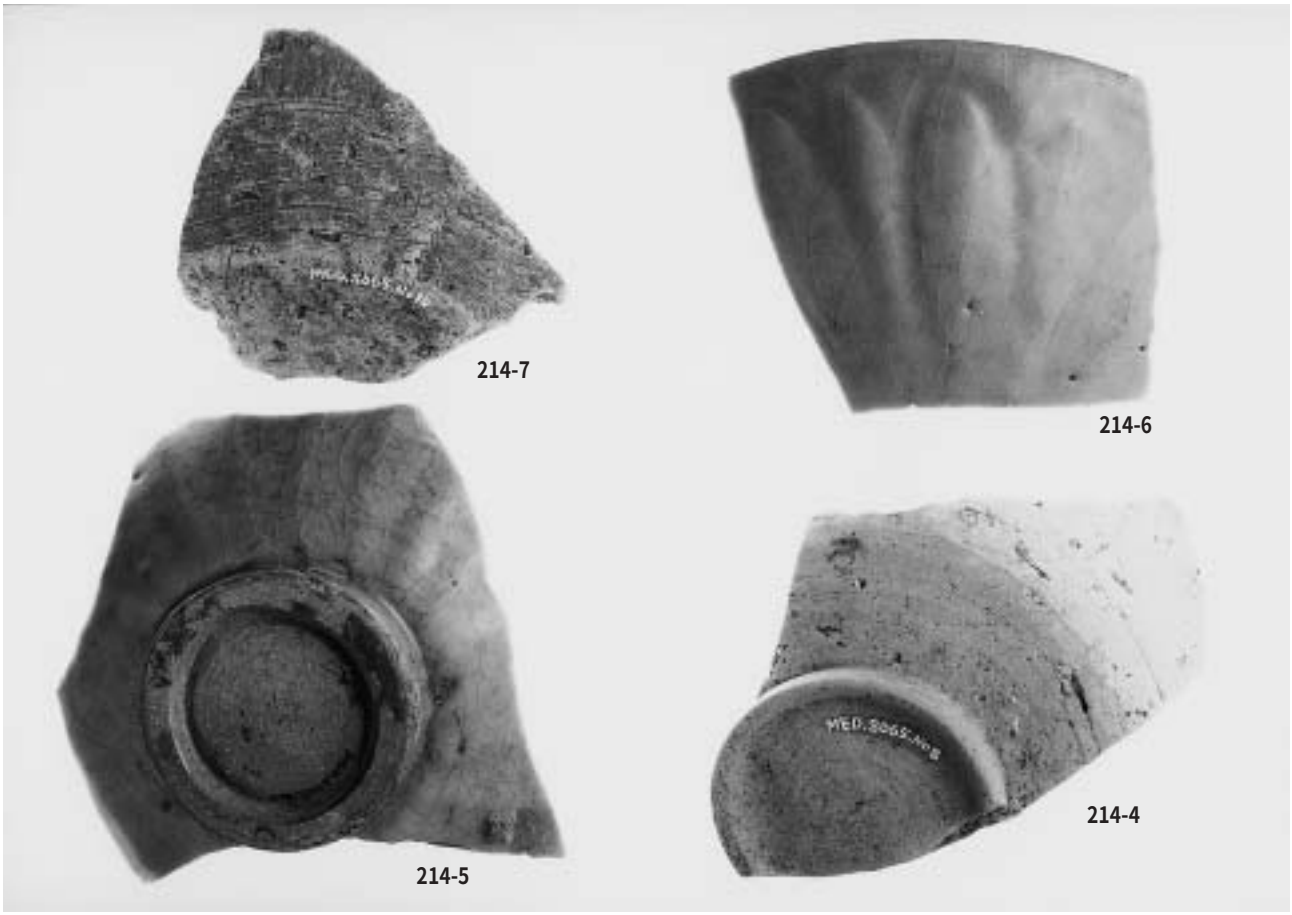
写真（PL）328　出土貝類・骨類（写真のみ：S118）



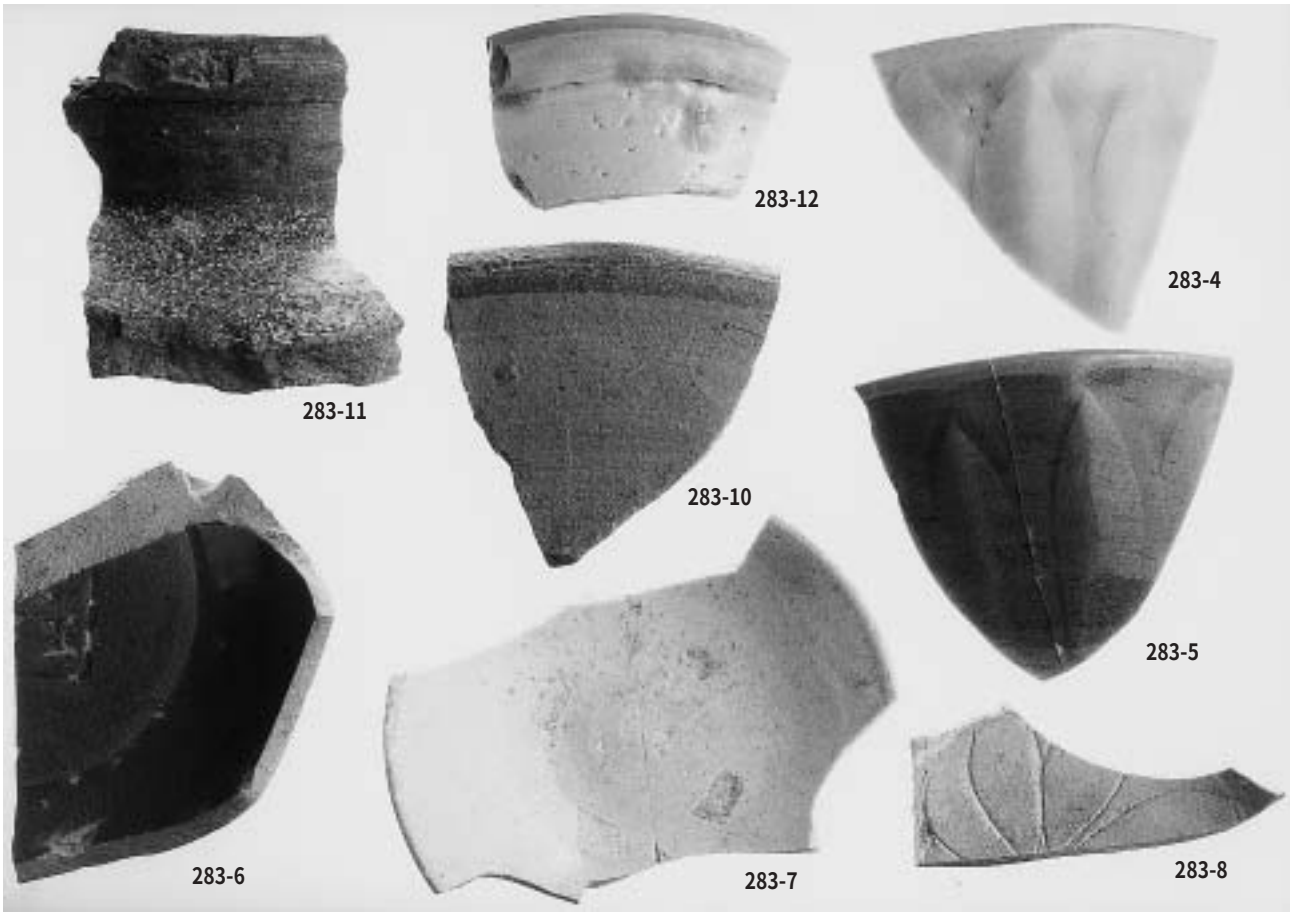
写真（PL）329　中世の石器（砥石）



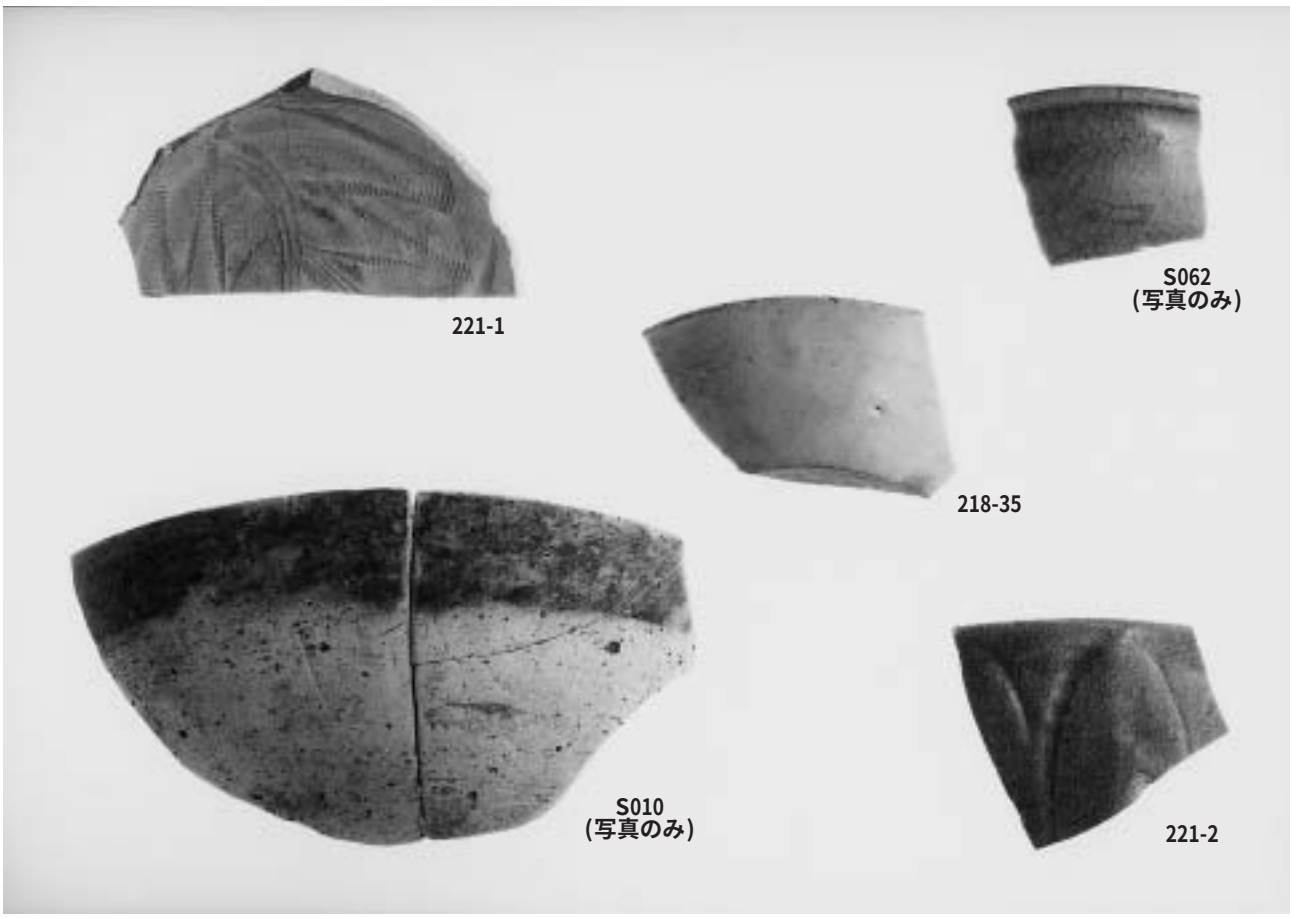
写真（PL）330　中世の石器（滑石製品、滑石石鍋、硯）



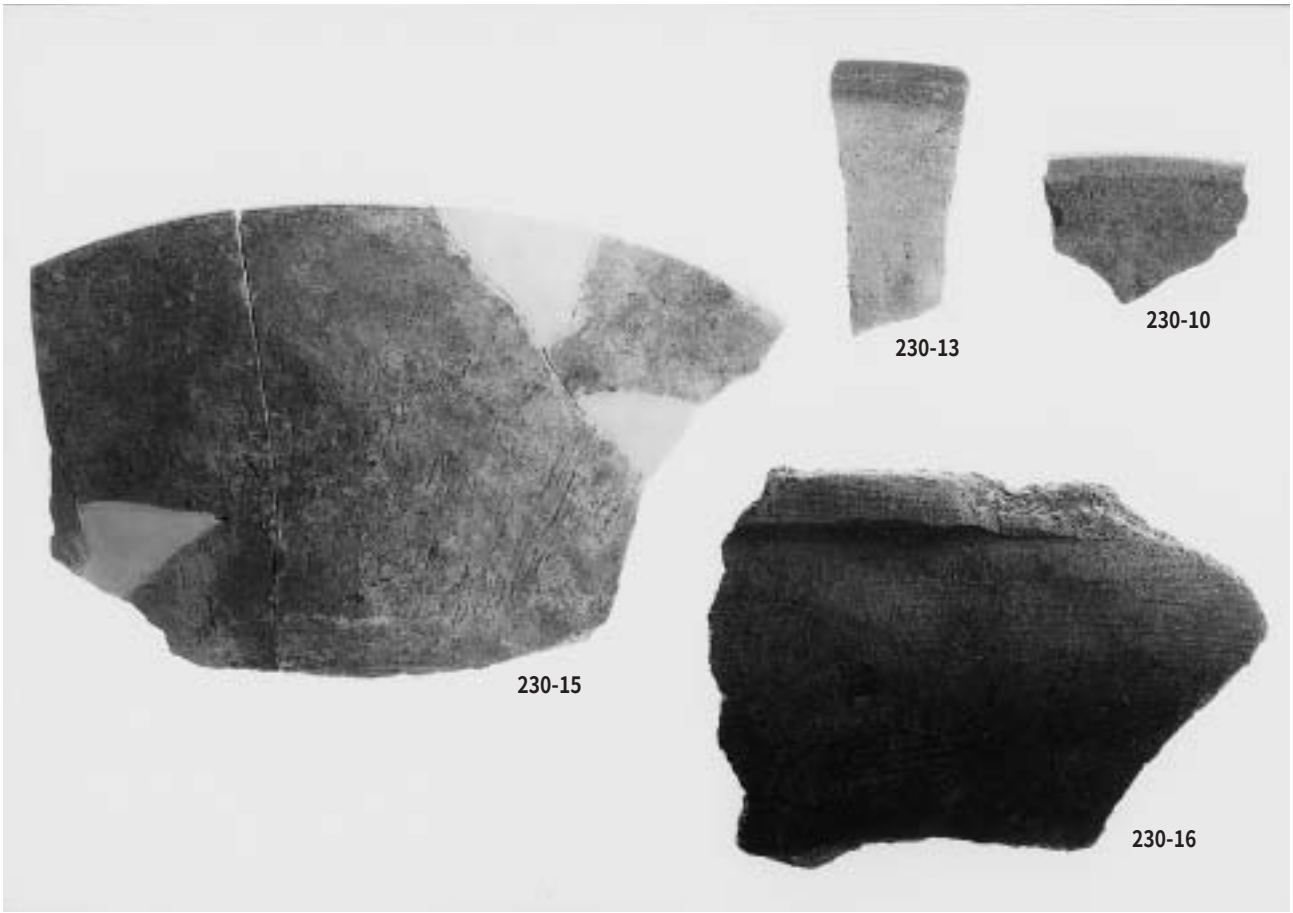
写真（PL）331　中世の出土遺物（S065）



写真（PL）332　中世の出土遺物（S009、011、ピット1292、包含層、その他）

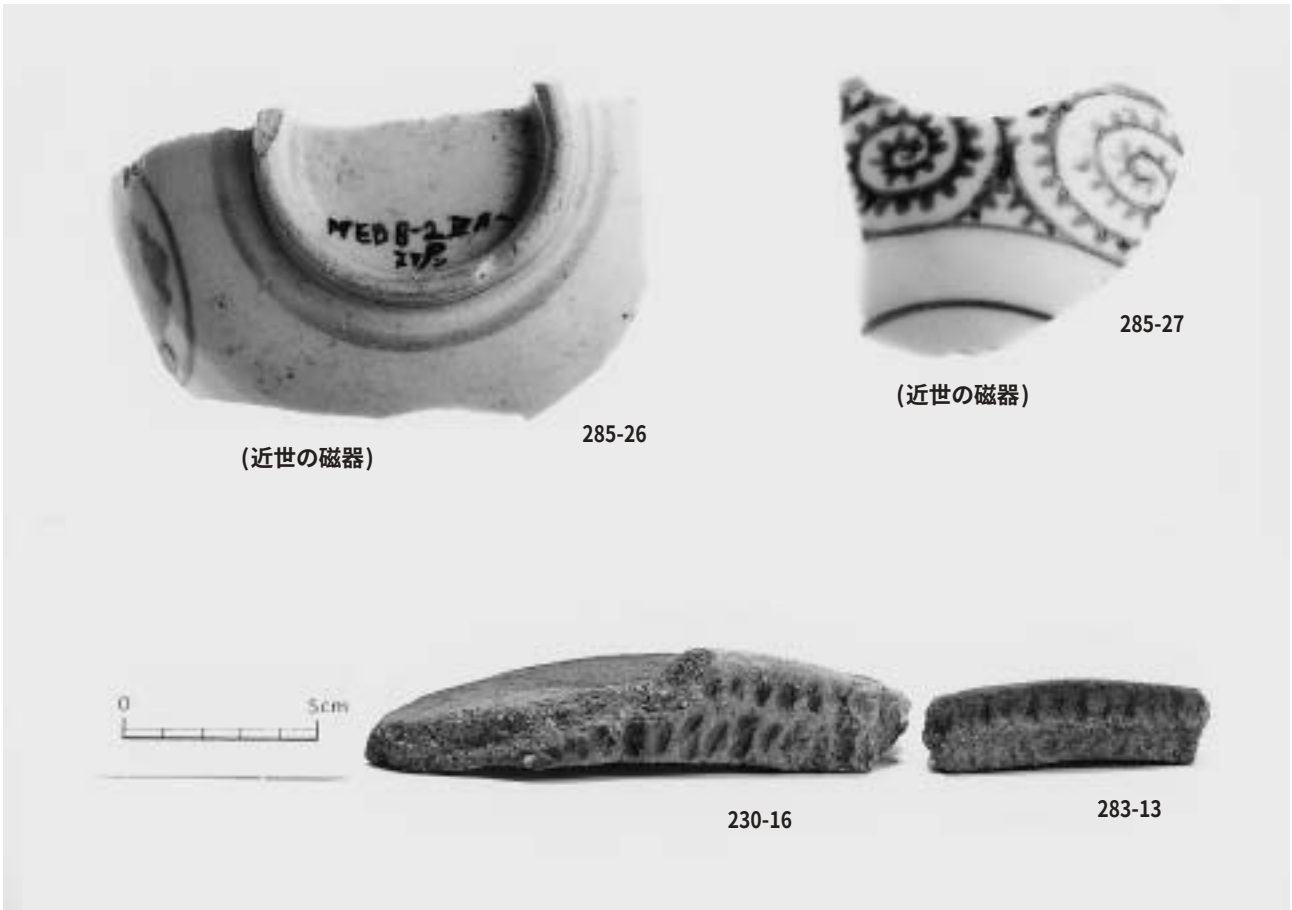


写真（PL）333　中世の出土遺物（S010、018、061、062）

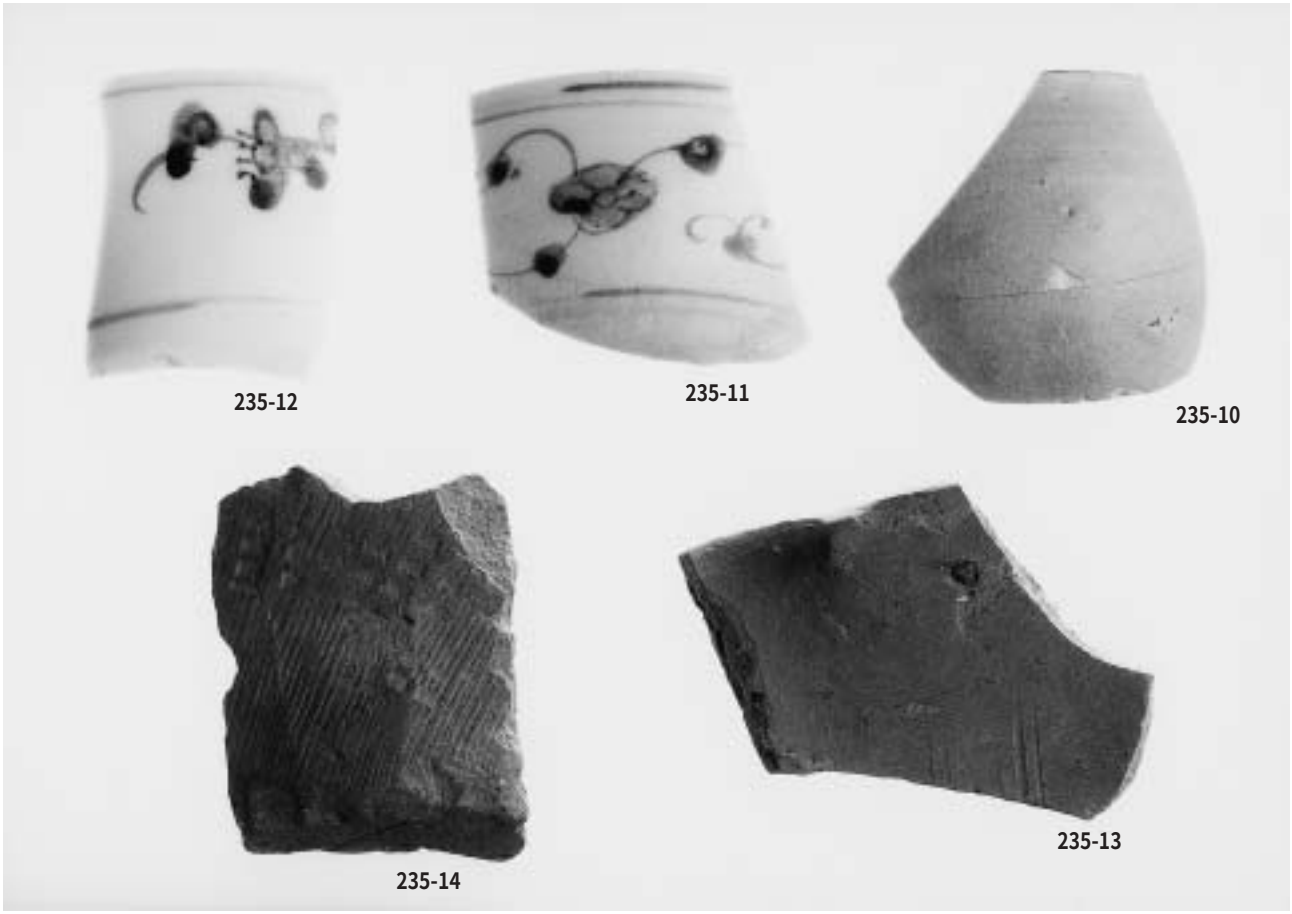


写真（PL）334　中世の出土遺物（S011付近、ピット1452、ピット1560、ピット1570）

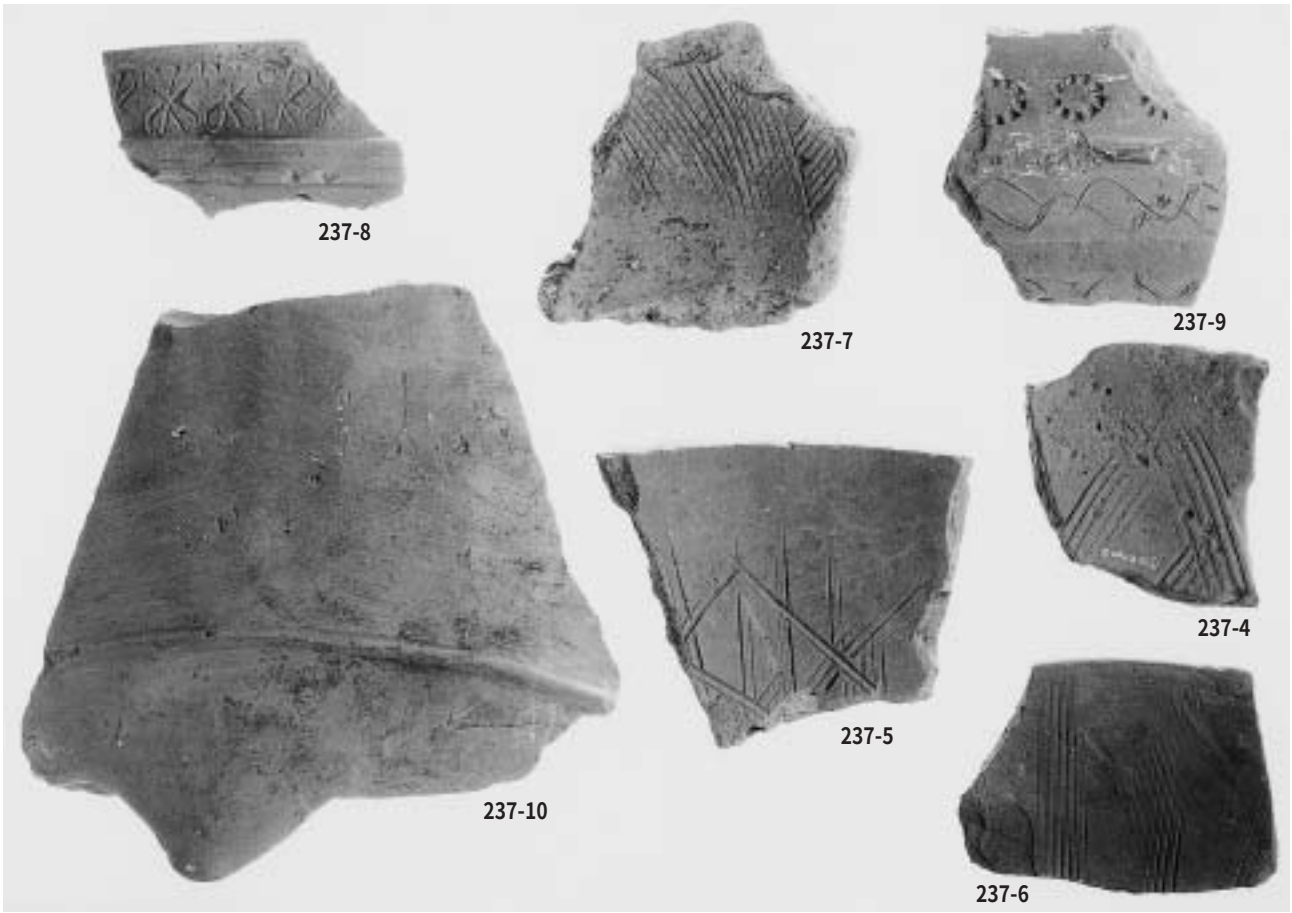
写真（PL）335　古代・中世の出土遺物（S046、055、094、包含層、その他）



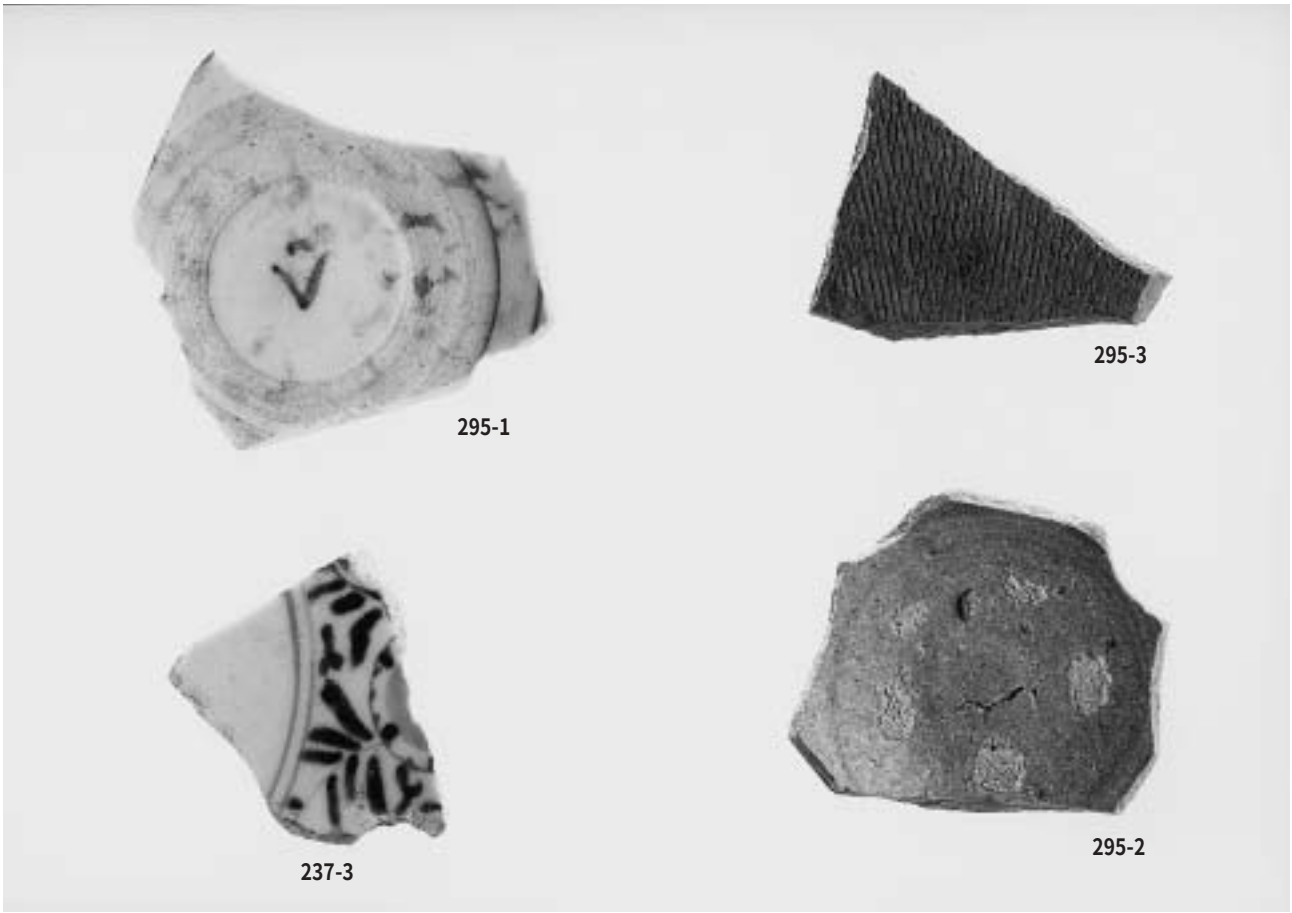
写真（PL）336　中世・近世の出土遺物（S094、ピット1452、包含層、その他）



写真（PL）337　中世の出土遺物（S074）

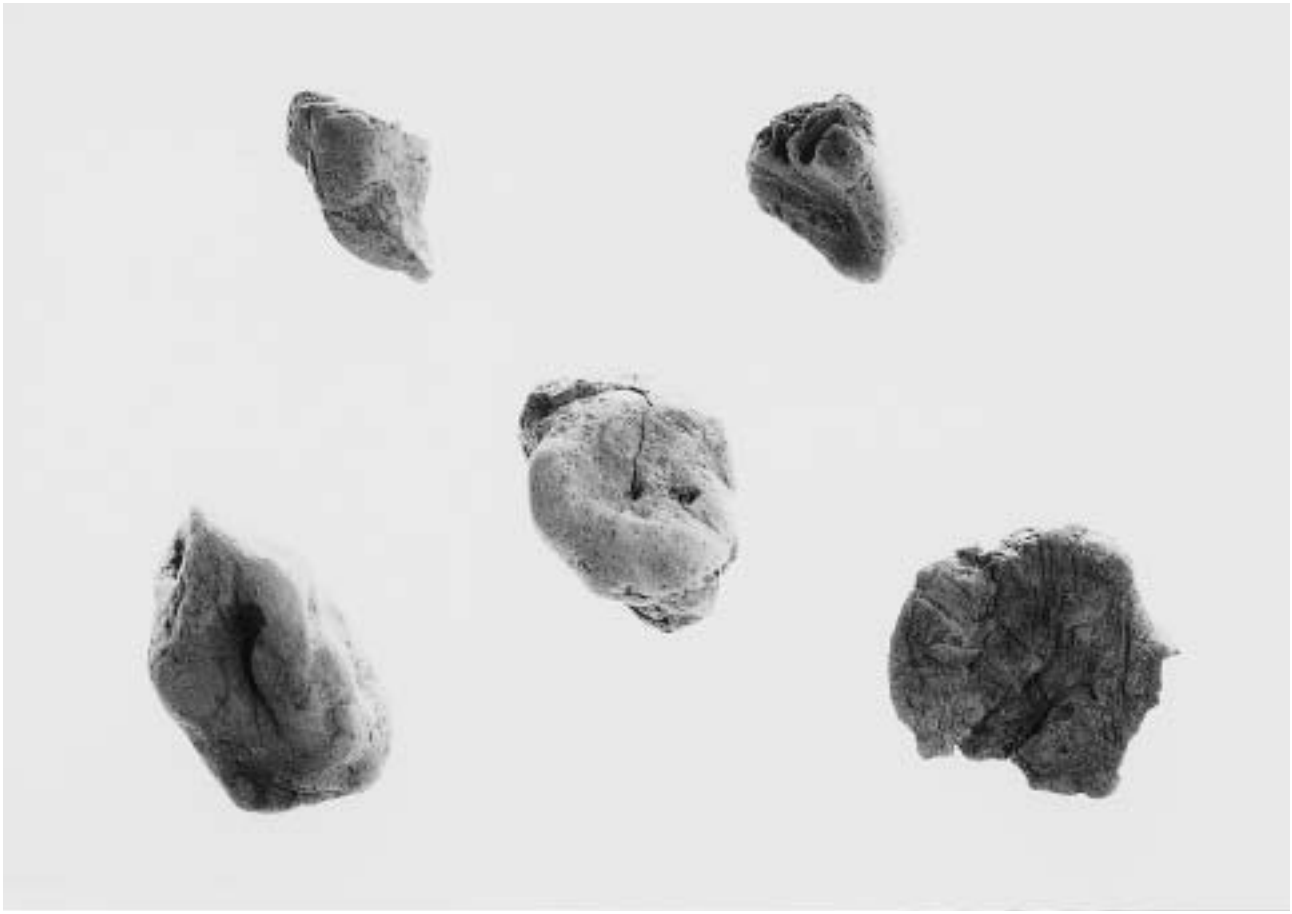


写真（PL）338　中世の出土遺物（S094）

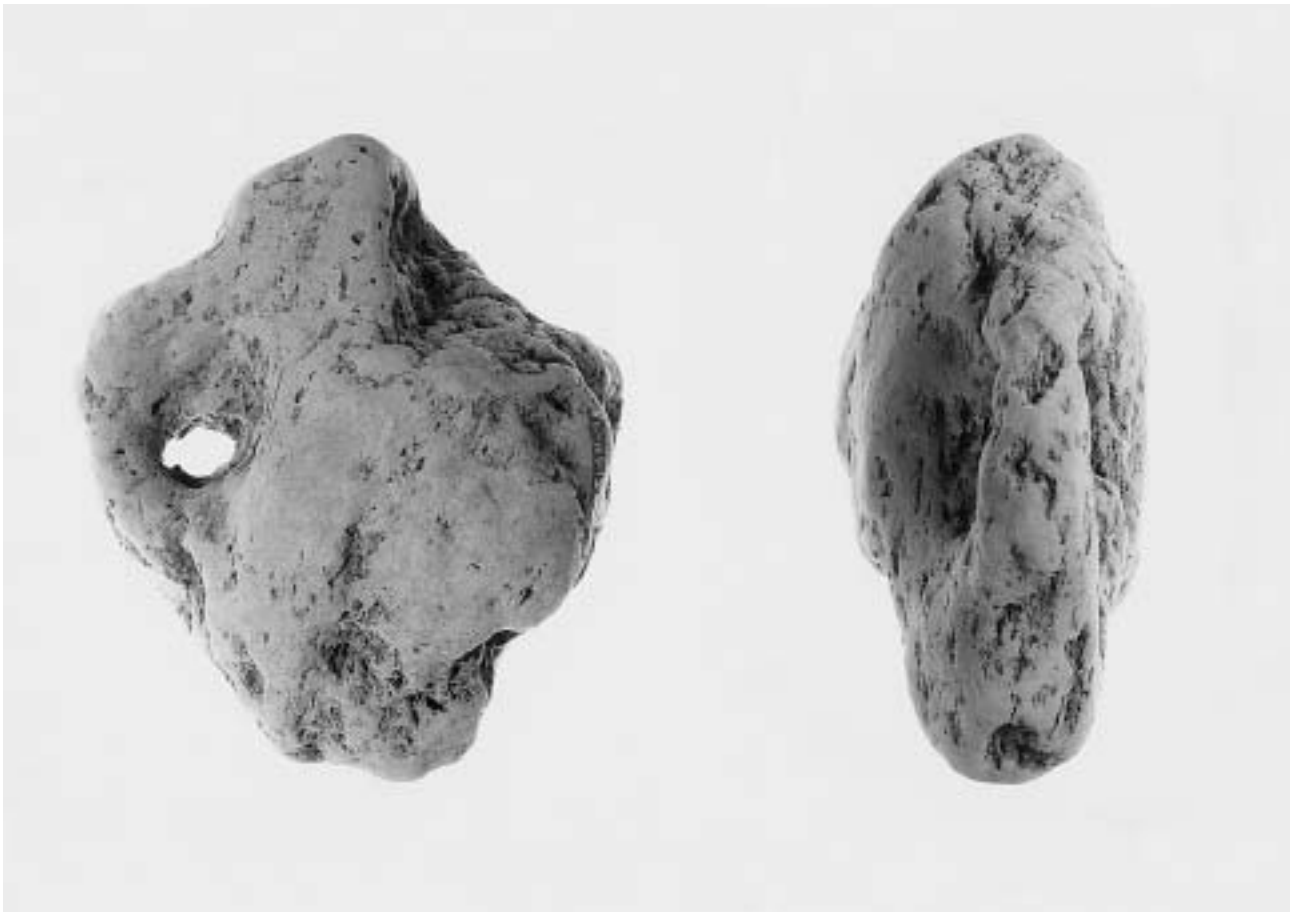


写真（PL）339　近世の出土遺物（S051、094、包含層）

写真（PL）340　中世の五輪塔の火輪（S094）

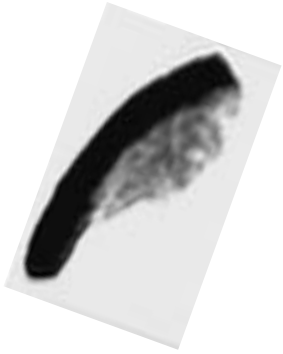


写真（PL）341　粘土塊（S106　下層：写真のみ）

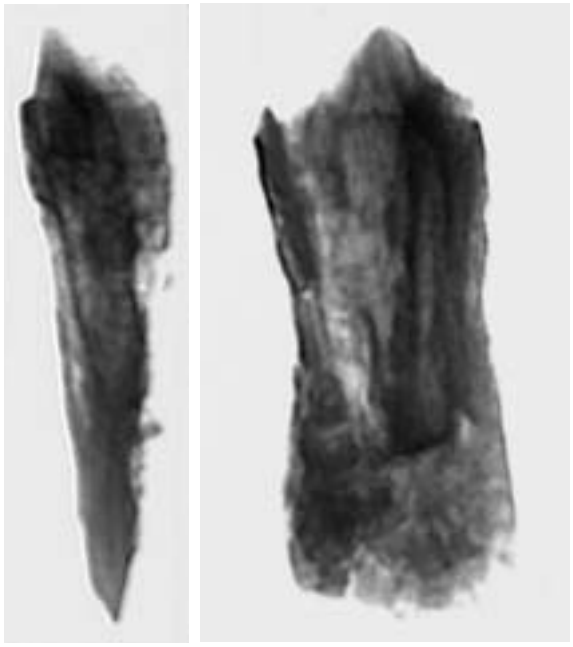


写真（PL）342　浮子（S101　下層：写真のみ）

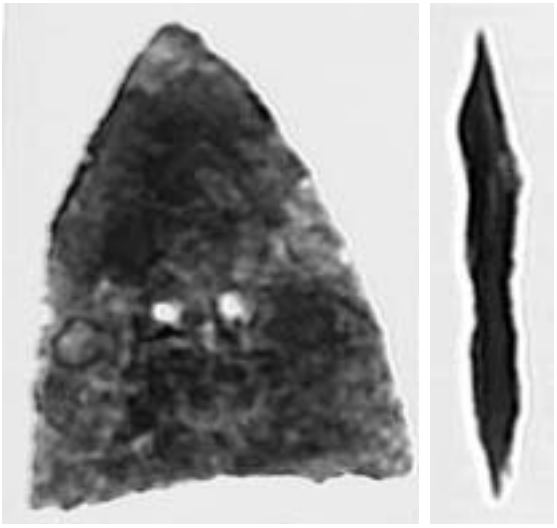
古銭（237-14）



青銅鏡片（237-12）

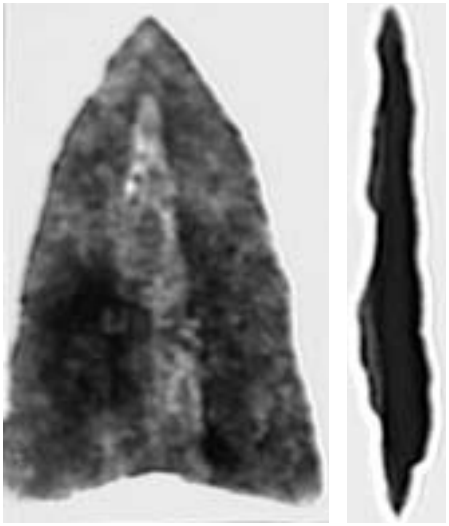


袋状鉄斧（154-20）

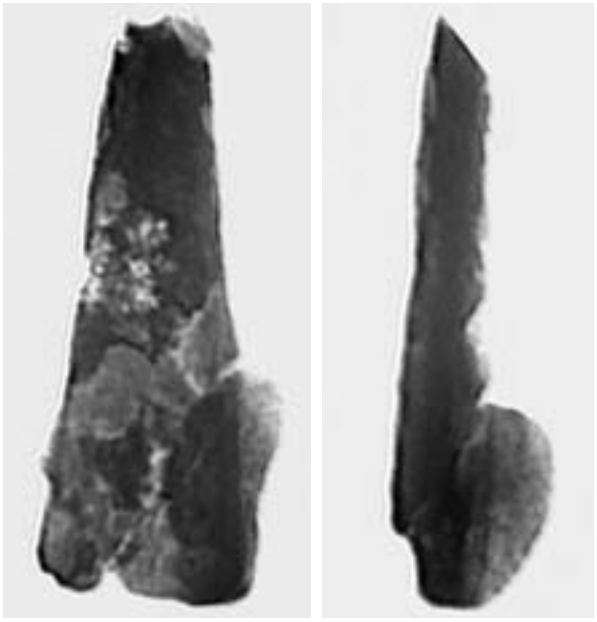


鉄鏃（146-13）

鉄鏃（165-1）



鉄鏃（32-8）



鉄ノミ（101-71）

写真（PL）343　出土遺物のＸ線写真（鉄器、青銅鏡、古銭）

あ と が き

1997年（平成９年）６月、初めて玉名市の柳町遺跡で発掘調査に携わらせていただいてから早７年の歳月が過ぎ去った。柳町遺跡は、古墳時代初頭と古代の複合遺跡であり、菊池川の氾濫源に営まれていた低湿地の遺跡であった。そこで古墳時代の井戸や溝から多量の木製品が出土する様を目の当たりにした。古墳時代の井戸の発掘では土師器の頸部に巻かれた縄や緑色の木葉が数十秒の内に黒色に変化していく様を見て感動したことをつい数日前の出来事の様に思い出す。また、満潮に近づく頃、有明海から遡ってきた潮が菊池川を逆行して下流から上流へ上っていく様を見て、自然の偉大さを感じたのもこのころであった。

そして、2001年（平成13年）６月に前田遺跡の調査に入った。遺構密度が非常に高く、私にとってはいささか荷が重過ぎる遺跡であったが、専門調査員先生方を始め、文化課職員の皆さんの協力を得て何とか調査を終了することができた。しかし、もっと大変だったのは報告書作成であった。何度書いても筆者の力量不足である。不十分な報告書ではあるが、ひとまず調査のしめくくりとしたい。

海あり、山あり、川ありの自然に囲まれた玉名は私の大好きな場所である。まずは、この場所で調査をさせていただいたここに感謝するとともに、暑い時も寒い時も一緒に汗を流して働いて下さった作業員さん方、遺物の水洗い、註記、接合をしていただいた一次整理作業員さん方、報告書作成に関わって下さった二次整理作業員さん方、そして調査から報告書作成までご指導いただいた全ての皆さん方に感謝をして、結びの言葉としたい。ありがとうございました。

（現場作業員）

金森真次、金森千恵子、田上健次郎、大山次男、石島カシ子、河野登美子、吉田由美子、松永セイ子、藤原文江、横畑孝、河部公義、平木忠盛、高崎ハル子、木崎ツタエ、高田房子、徳山　司、坂本広子、井本国光、前村国博、宮本知恵子、藤本政子、井本作知江、三宅一生、田口一美、山内恵美子、上村久子、土山富枝、田島弘子、梅原美奈子、西岡正治、西岡チズコ、松永一代、坂本亜矢子、橋口剛士、田添五雄、徳永良弘、石元孝行、虎元節子、望月大輔、眞村俊昭、伊吹富子、杉本清一、高木　亨、北田テイ子、耘野明義、中村憲一、浅田富士丸、蓮尾広志、坂木武幸、宮尾孝子、西嶋重子、森　孝明、森葵実子、和田道代、上野幸枝、石原紀久代、古本美千春、宮本敏勝、田中マリ子、米田千代美、橋口剛士、西口貴志、松永里美、下田タケ子、荒谷邦雄、桑原みどり、田中スミヨ、前村欣子、坂本佳子、村上洋子、倉田富士代、高木秋男、塚本紘一、山中榮一郎、高田国広、大岩　文　諸氏（順不同・敬称略）

（１次整理作業員）

小山正子、水本寿美子、高濱悦子、瀬口絹代、木村雅子、上野栄子、伊津野ノブ子、山下千栄子、原田美和、桑原佐和子、今村幸枝、塚本博子、吉本清子　諸氏（順不同・敬称略）

報　告　書　抄　録

フ　リ　ガ　ナ	マエダ
書　　名	前田遺跡
副　書　名	国土交通省菊池川河川事務所月田地区排水樋管築堤工事及び県道玉名立花線単県道路改良事業に伴う埋蔵文化財の調査
巻　　次	
シ　リ　ー　ズ　名	熊本県文化財調査報告
シリーズ番号	第225号
編　著　者	岡本　真也
編　集　機　関	熊本県教育委員会
所　在　地	〒860-0806　熊本県熊本市水前寺６丁目18番号
発　行　年	2005年３月31日

フリガナ 所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
マエダ 前田遺跡	ﾀﾏﾅｼｵｵｱｻﾞﾂｷﾀﾞ 玉名市大字月田 ｱｻﾞﾏｴﾀﾞ 字前田	4320.6	206-490	32 58′ 28″	13.0 36′ 15″	H.13.6.26 ～ H.14.8.10	国土交通省菊池川河川事務所月田地区排水樋管築堤工事及び県道玉名立花線単県道路改良事業	4,656㎡

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特注事項
前田		縄文時代 中期～晩期		阿高系土器・鐘ヶ崎式土器・北久根山式土器 御領式土器・天城式土器・黒川式土器など 打製石鏃・ヒスイ製勾玉・石製小玉・ブレードなど	
		弥生時代 中期	竪穴住居跡・甕棺・土抗など	黒髪式土器・須玖Ⅱ式土器・立岩式甕棺 石包丁・石戈・太型蛤刃石斧・片刃柱状石斧 磨製石鏃・ガラス小玉・管玉など	
		後期	竪穴住居跡・土抗など	弥生式土器・板状鉄斧・袋状鉄斧など	
	集落	古代		須恵器（甕）・布目瓦	
		中世	土壙墓・土坑・掘立柱建物 溝など	龍泉窯系青磁、白磁、景徳鎮窯系磁器 瓦質土器、瓦器椀、土師質土器(土鍋) 須恵器（甕)、土師器（小皿、坏） 火鉢、擂り鉢、天目椀 石鍋、滑石製品、砥石、鉄器	
		近世～	溝・礎石柱建物など	肥前系陶磁器片（椀、湯飲み、擂り鉢など) 古銭（寛永通宝)、鉄器	

（遺跡の概要）
調査の結果、次のようなことが判明。①縄文時代中期～晩期の土器や石器が出土した。②弥生時代の中期後半～後期前半にかけての集落跡が検出された。中期後半の住居跡が41軒、後期前半の住居跡が28軒あり、おおよそ２時期にわたり、集落が形成された。③中世においては13世紀～14世紀にかけての土壙墓・土抗・掘立柱建物などの遺構や遺物が多量に発見され、当該期に集落がいとなまれていた。④近世期にも溝や礎石柱建物などの遺構が検出され、遺物も発見された。以上のことから縄文時代中期～現代までのほぼ連続して人々の生活痕跡を確認することができた。この遺跡で特筆すべき事項は、弥生時代中期後半期の住居跡が41軒も確認されたことである。

熊本県文化財調査報告　第225集

前　田　遺　跡

発行年月日　平成17年３月31日

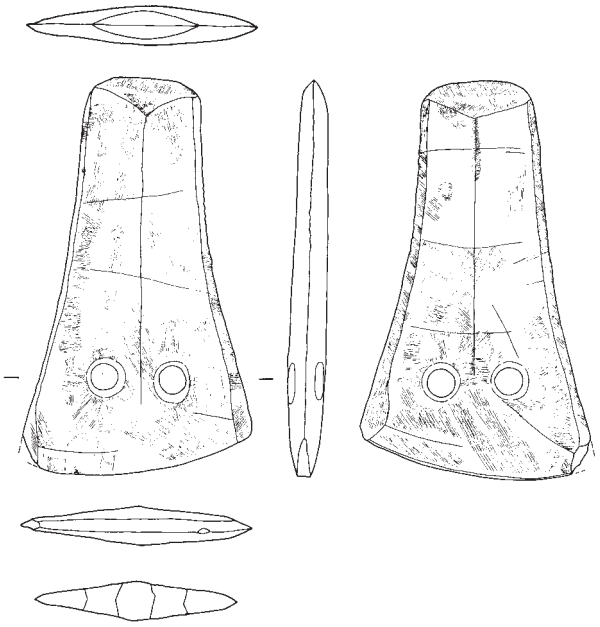
編　集
発　行　熊本県教育委員会
〒862-8609　熊本市水前寺６丁目18番1号

印　刷　コロニー印刷
〒860-0051　熊本市二本木３丁目12番37号

Cultural Series of *Kumamoto* Prefecture № 225

The *Maeda* Site

Excavation for Making Embankment and Drainage Gate of *Kikuchi* River
and Prefectural Road in *Tsukida* District, *Tamana* City
And Maintaining Prefectural Road between *Tamana Tatibana* Line



March 2005

Board of Education, *Kumamoto* Prefecture

16 教委 教文
② 004

この電子書籍は、熊本県文化財調査報告第 225 集を底本として作成しました。閲覧を目的としていますので、精確な図版などが必要な場合には底本から引用してください。

底本は、熊本県内の市町村教育委員会と図書館、都道府県の教育委員会と図書館、考古学を教える大学、国立国会図書館などにあります。所蔵状況や利用方法は、直接、各施設にお問い合わせください。

書名： 前田遺跡
発行：熊本県教育委員会
〒862-8609　熊本市中央区水前寺 6 丁目 18 番 1 号
電話： 096-383-1111
URL：http://www.pref.kumamoto.jp/
電子書籍制作日：2015 年 12 月 8 日

なお、熊本県文化財保護協会が底本を頒布している場合があります。詳しくは熊本県文化財保護協会にお問い合わせください。
熊本県文化財保護協会
URL：http://www.kumamoto-bunho.jp/